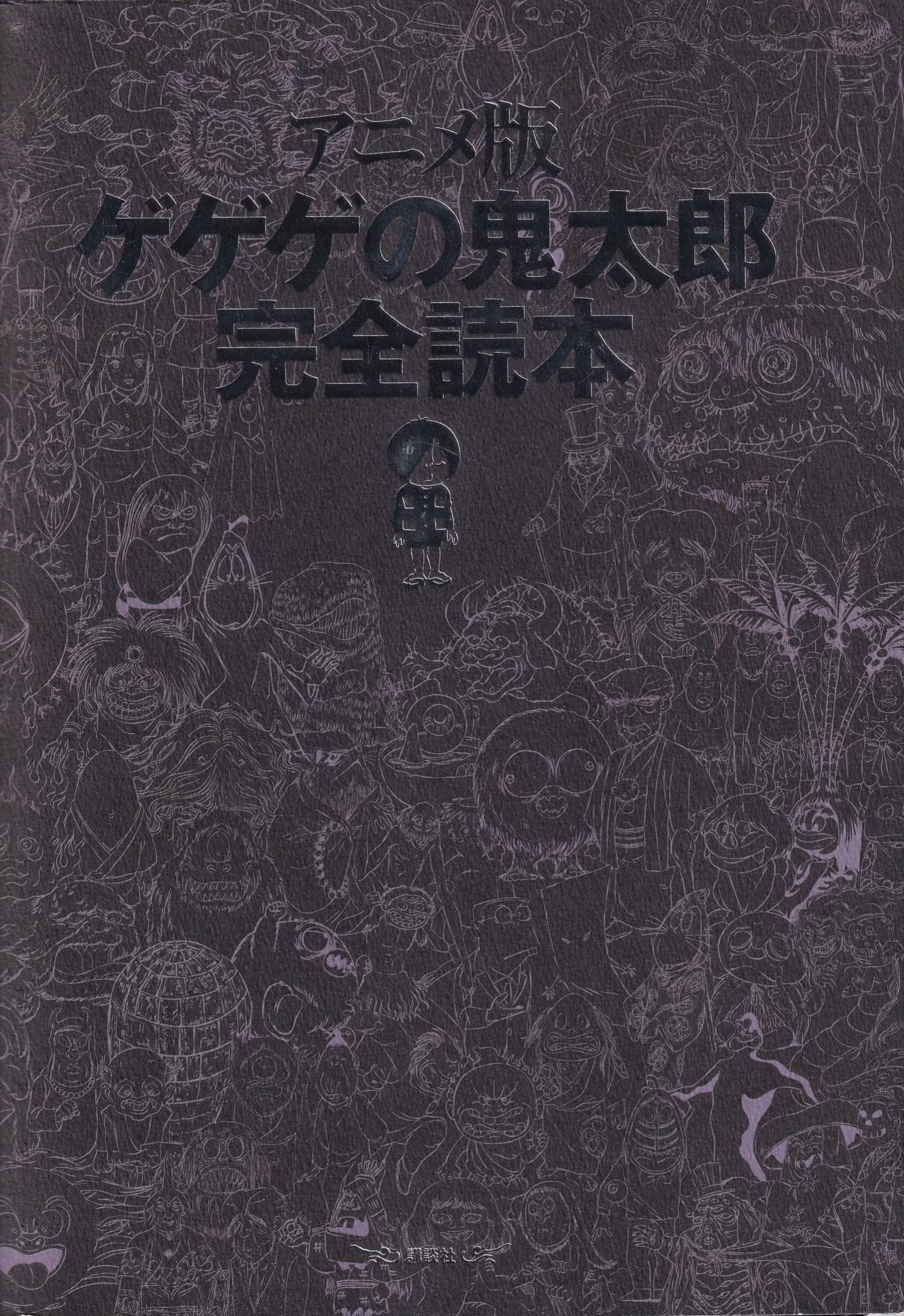
アニメ版

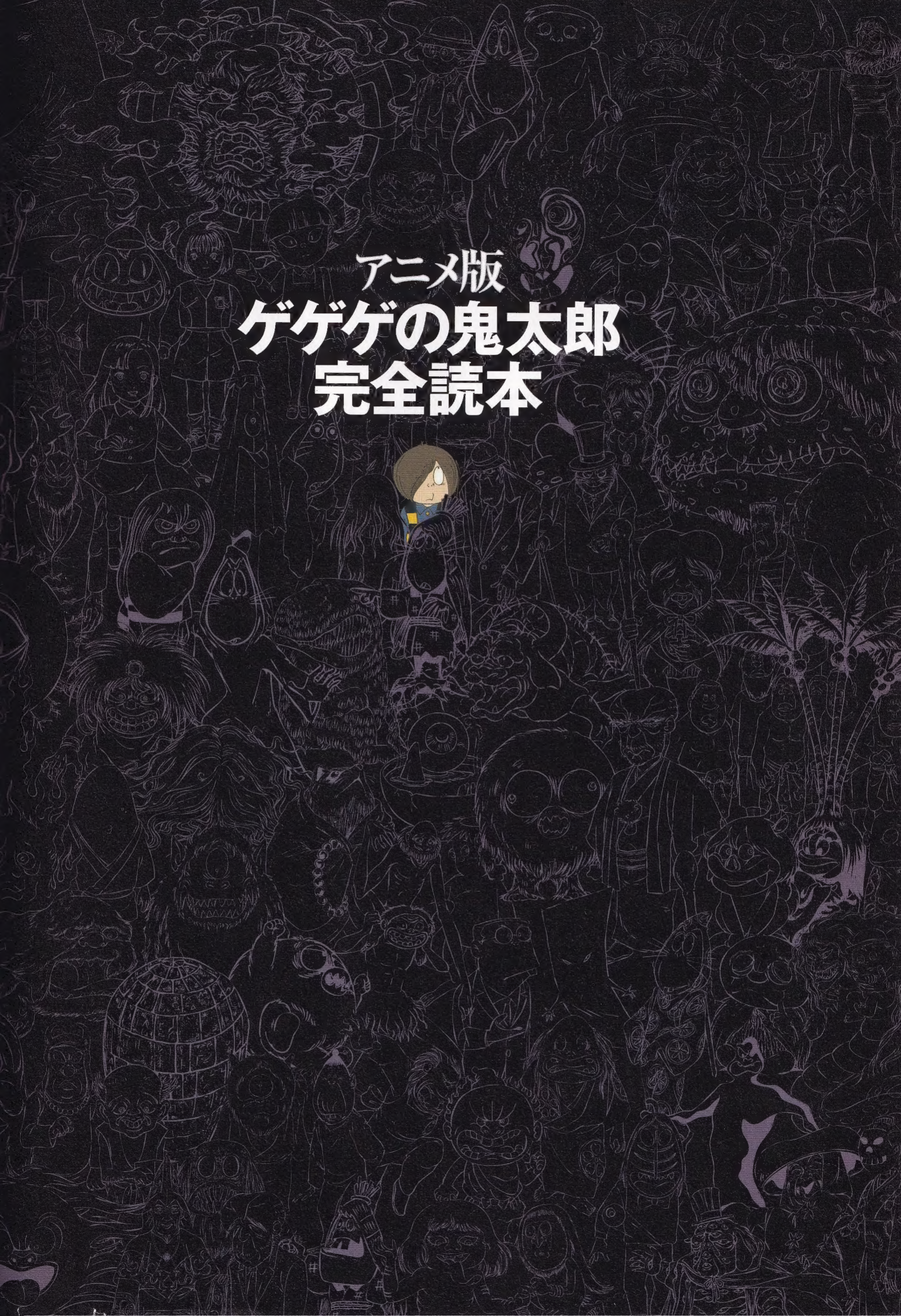
ゲゲゲの鬼太郎 完全読本



講談社



アニメ版
ゲゲゲの鬼太郎
完全読本
213742-9

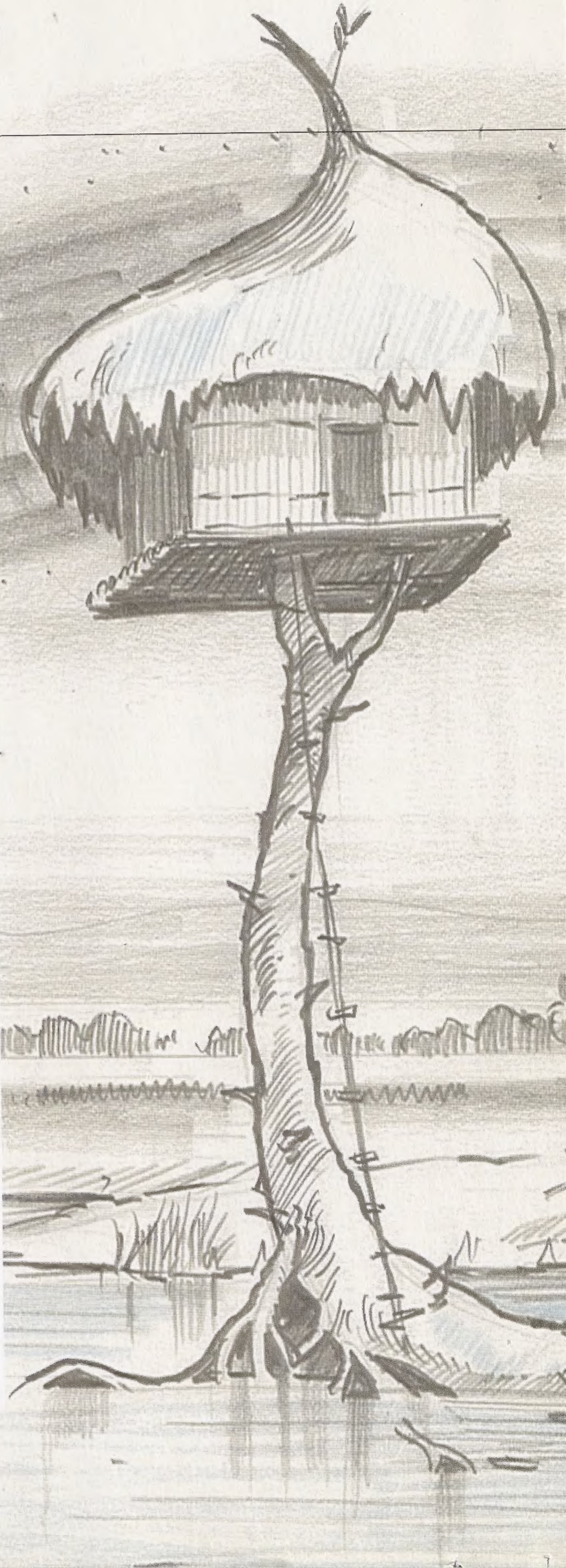


アニメ版

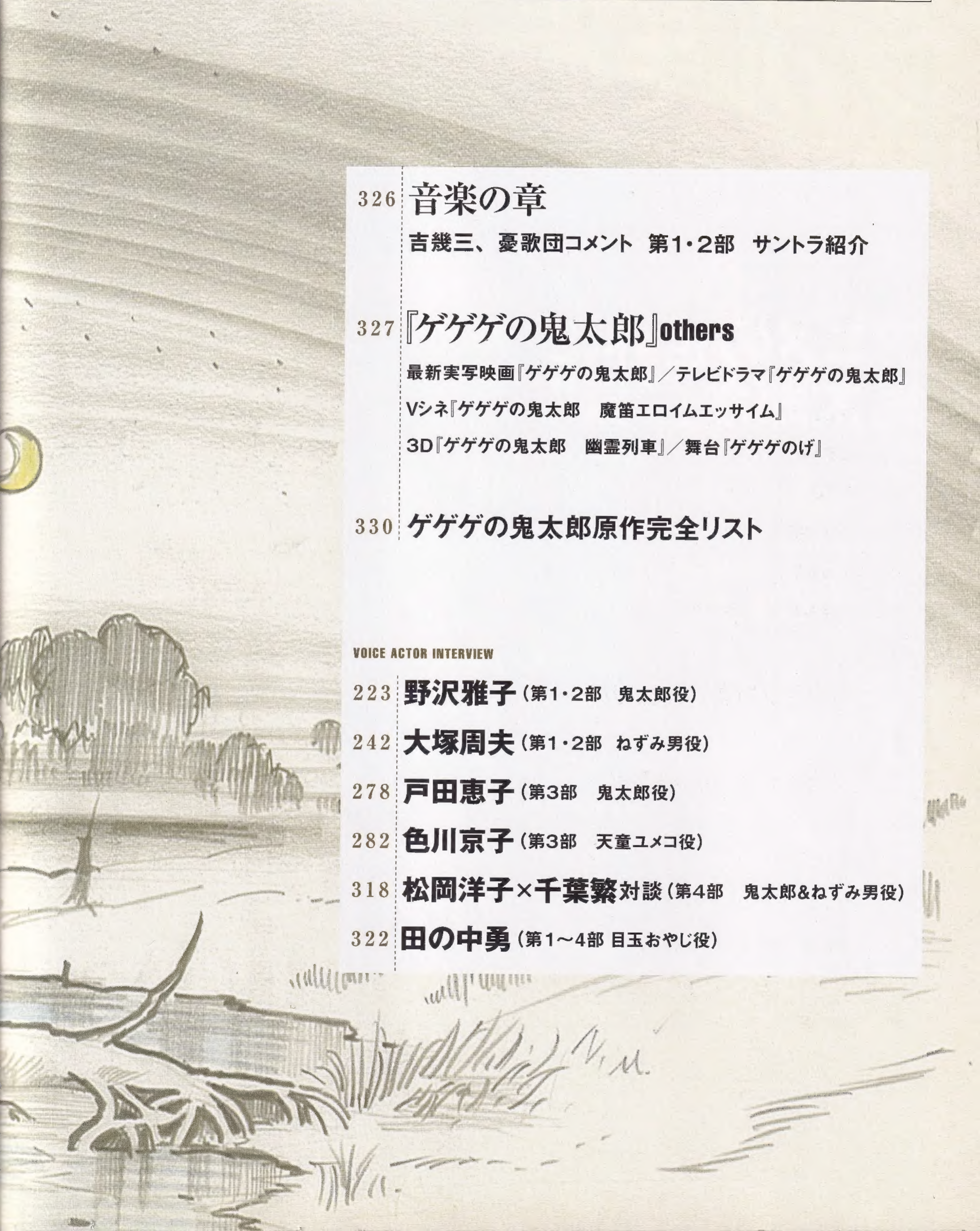
ゲゲゲの鬼太郎
完全読本

CONTENTS

gegege no kitaro perfect book



文／阿部真奈美、那覇ゆき子、沼由美子、藤掛啓子
細井由起、三浦亜希子、横前さやか



アニメ版
gegege no
kitaro filmgraphy

ゲゲゲの鬼太郎 第1部〜第4部 フィルモグラフティ

10年周期で放映されるTVアニメ『ゲゲゲの鬼太郎』は、それぞれに楽しめる要素がいっぱいだ。
鬼太郎の活躍を中心に、その魅力や見どころを名場面とともに振り返ってみよう。

第1部 アニメの世界に鬼太郎が登場!!

第1部DATA

放送期間 1968年1月3日〜1969年3月30日

話数 全65話

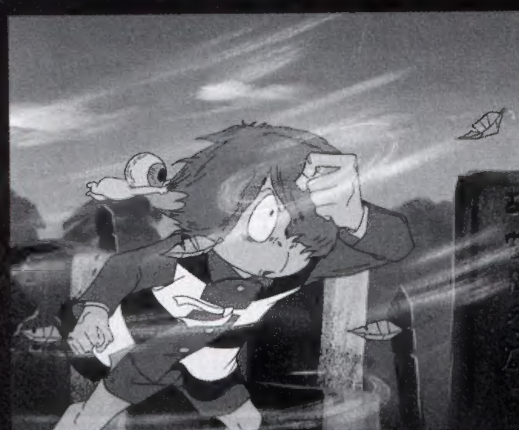
モノクロの効果で恐怖度も高し

『墓場の鬼太郎』のテイストをほどよくアレンジし、およそヒーローらしからぬ主人公の鬼太郎が登場する第1部。妖怪たちもブローアップされて、動画の特性を生かした多彩な攻撃で鬼太郎に迫る。また、ファンタスティックでどこかほのぼのとした味わいもあるが、モノクロの効果もあって、かなりおどろおどろしい雰囲気が漂っている。



妖怪はどこかコミカル

鬼太郎対邪魅の対決。この直後、鬼太郎は邪魅の妖力で悪人になってしまう。



ゲゲゲの名を辱しめるなよ!

目玉おやじの親バカぶりも見ていて微笑ましい。鬼太郎とはいつも一緒だ。

68年の主なできごと
68'S TOPICS

4月12日　東京都千代田区に霞ケ関ビル完成
オープンは、4月18日。当時は、36階に展望台があり、かなりの賑わいをみせていた。

6月26日　小笠原日本返還
4月に日米間で小笠原復帰協定が締結され、6月26日に日本に返還された。

7月1日　郵便番号制度実施
3ケタ、または5ケタの郵便番号が導入。当時中心であった鉄道郵便輸送の路線・経路の駅順が元。

7月11日　『少年ジャンプ』創刊
創刊時は月2回(第2・第4木曜日)発売、翌69年の10月から週刊化された。

12月10日　三億円事件
東京都府中市で、日本始まって以来の巨額な現金が奪われた。後に時効を迎える。



ぼくはゲゲゲの鬼太郎だ!

悪であれば、人間にだって容赦しない正義感が頼もしい、幽霊族の生き残り。

第2部
カラーになった異色の鬼太郎

第2部DATA
放送期間 1971年10月7日～1972年9月28日
話数 全45話

鬼太郎の活躍以外の楽しみも

鬼太郎の登場しない、ほかの水木しげる原作の短編を大胆にアレンジして投入。シーズンをとおしても、かなり異色な味わいの第2部。主人公であるはずの鬼太郎が傍観者に徹し、まったく活躍しない話も多い。妖怪が登場しない回や、子どもには難解なストーリー、トラウマになるようなシーンが続出するわりに、今なおファンが多いシーズンでもある。

71年の主なできごと
71'S TOPICS

4月2日 『帰ってきたウルトラマン』放映開始
72年3月31日まで、全51話　毎週金曜日19:00～19:30にTBS系。

4月3日 『仮面ライダー』放映開始
73年2月10日まで、全98話　毎週土曜日19:30～20:00に毎日放送・NET系。

7月20日 マクドナルド日本第1号店
マクドナルド銀座店が、三越銀座店内にオープン。本家のオープンは1940年である。

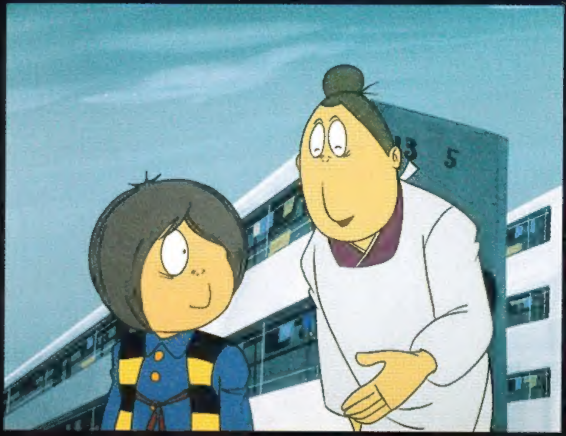
9月18日 カップヌードル発売開始
当時は、パッケージにプラスチック製フォークが添付され、価格は100円だった。

72年4月16日 川端康成がガス自殺
享年73才。三島由紀夫の割腹自殺による精神的動揺が、要因のひとつともいわれる。

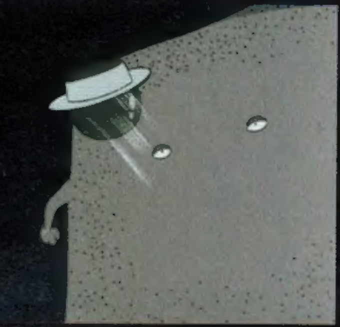
鬼太郎の仲間たちが「鬼太郎ファミリー」を形成



ネコちゃんって呼ばれちゃった～♥
新たにレギュラー陣に加わった、ネコ娘。ねずみ男はいいケンカ相手だ。



なにもできない鬼太郎?
第2部では、正義の味方ではあるものの、傍観者となってしまうストーリーも多かった。



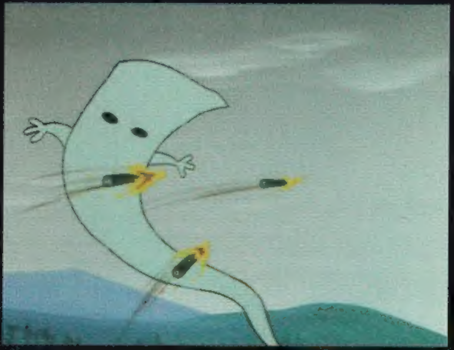
ぬりかべ～
鬼太郎のピンチに駆けつける仲間たちも増えた。ぬりかべは、鬼太郎の盾となって活躍する。



敵妖怪のデザインもシュールとインパクト重視
八俣大蛇の待つ解放石に引きずり込まれた2人。呼子の手下は原作どおりだが……。

妖怪アパート初登場!!
砂かけ婆の老後は安泰です!!
妖怪アパートが登場したのは第2部から。大家はシーズンとおして砂かけ婆。子泣き爺はもちろんアパートの住人だ。





ヘリ代わりに使われちゃかなわんよ～
第2部ではかなり無口な一反もめん。たまに話すと思えば、愚痴だったりすることも。

第3部
最高視聴率29.6%の大ヒット

第3部DATA
放送期間 1985年10月12日〜1988年3月21日
話数 全115話

鬼太郎が人間と妖怪のハーフに！ユメコちゃんら人間との関係も強調

正義のヒーロー・鬼太郎の活劇

それまでのイメージを一新し、幅広い年齢層が楽しめる第3部。娯楽性たっぷりで、正義感に溢れる熱血・鬼太郎が、ブラウン管せましと暴れまわる。オカリナを使った激しいアクション、ユメコの登場による淡いロマンス、鬼太郎ファミリーとの友情など、少年アニメの王道がつまっている。シーズン最多放映話数で、最高視聴率29.6%をマークした。

85年の主なできごと
85'S TOPICS

3月17日　科学万博つくば'85開催
9月16日まで。マスコットキャラクターは、一般公募で選ばれた「コスモ星丸」。

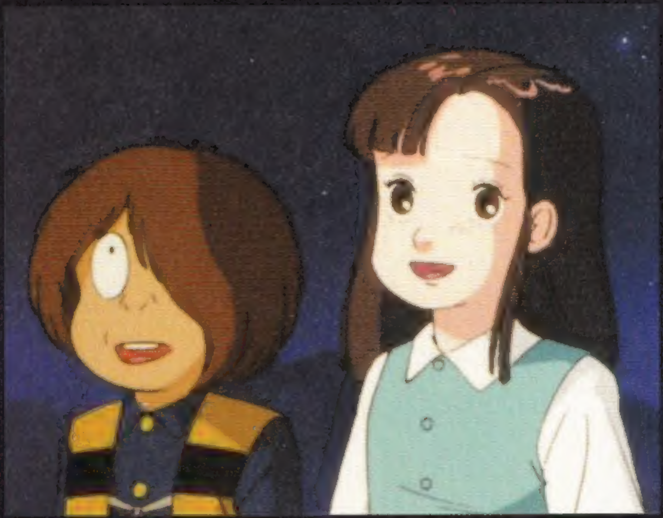
4月1日 『夕やけニャンニャン』放送開始
87年8月31日まで。当初の司会は、片岡鶴太郎と松本小雪。『さんまのまんま』もこの年から。

6月24日　松田聖子と神田正輝が結婚
世紀にかけて「聖輝の結婚」と言われる。翌年、神田沙也加が誕生。97年に離婚。

8月12日　日本航空123便墜落事故
当時の日本航空123便「ボーイング747」が、墜落。520名の死者を出すも4人が生還。

9月13日 『スーパーマリオブラザーズ』発売
ちなみに、翌5月27日には『ドラゴンクエスト』が発売された。

鬼太郎ファミリーに新顔が



鬼太郎さんを信じてるから……♥
第3部に登場した新ヒロイン・ユメコ。鬼太郎をめぐり、ネコ娘とは恋のライバル。鬼太郎の周りにいることから、事件に巻き込まれること多い。



鬼太郎さん、待ってください〜
はるばる沖縄から、鬼太郎を慕ってやってきた妖怪・シーサー。体は小さいながら鬼太郎を助けて活躍する。



地獄へ行くならワシを連れて行け
ゲゲゲの森の村長・油すまし。初期はゲスト出演だったが、「地獄編」からはレギュラーとなる。地獄の知識に関しては、目玉おやじよりも上。

地球環境問題をクローズアップ



悪質レジャー開発をつぶせ!

妖怪たちが人間を襲う理由はさまざま。磯女はレジャー開発に怒り人間を襲ったが、鬼太郎に諭されて海の妖怪たちと悪の開発業者を懲らしめる。



峠の自然破壊を止めろ!

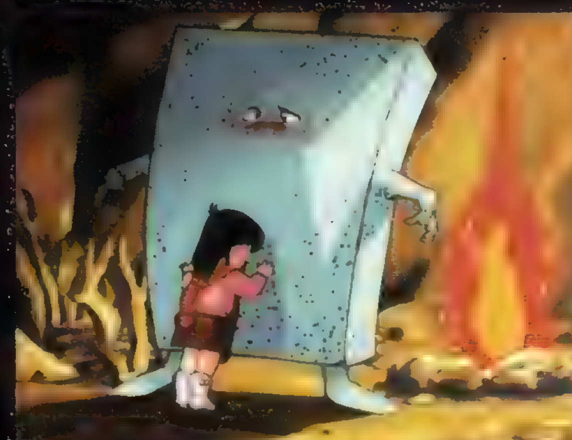
風の又三郎は道路工事を中止させるため、人間の幼い少女・風子を誘拐。しかし又三郎と風子はお互いに心通わせ、2人で工事中止を訴える。

哀切! 妖怪の恋、人間の恋



半魚人の恋

半魚人は、人間の海女・あかねに心奪われる。ねずみ男に頼んで、あかねと見合いをする半魚人だったが……。後に半魚人は女王人魚と結ばれる。



純愛ヌリカベとおしろい娘

ぬりかべは雪山で遭難していた少女・紅子を救う。紅子は一時的に目が見えなくなり、ぬりかべを祖父だと勘違い。ぬりかべもしだいに情を寄せる。

地獄編

108～115話

第3部の終了後に放映された続編。地獄を舞台に、鬼太郎の母の登場や、ぬらりひょんの最期などが描かれる。鬼太郎が人間と妖怪のハーフであることが判明、"両目の付いた"目玉おやじもチラッとだが姿を見せる。



母を求め、鬼太郎は地獄へ

鬼太郎誕生秘話も初のTVアニメ化!

鬼太郎が半妖怪というのは、第3部のオリジナル設定。鬼太郎の生まれる瞬間や目玉おやじの恋も描かれる



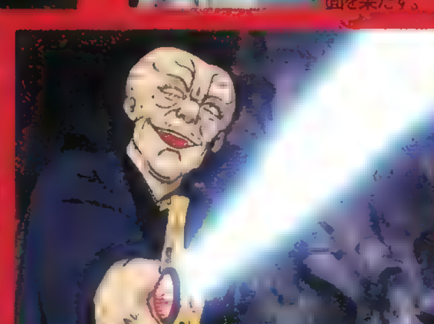
今までにせものばかりだったが、ついに本物の鬼太郎の母親が登場。親子3人が感動の対面を果たす。



鬼太郎と同じ、人間と妖怪のハーフ・地獄童子。恋人のために、マフラーを駆使して鬼太郎と戦った



ぬらりひょんに操られ、地獄を訪れた鬼太郎一行を牢屋へと入れてしまう。油すましとは、古くからの知り合い



地獄を手中に収め、鬼太郎たちを亡き者にしようと企むぬらりひょん。ついに、鬼太郎対ぬらりひょん最終決戦!

第4部
そして伝説へ!? 4度目のTVアニメ化

第4部DATA
放送期間 1996年1月7日～1998年3月29日
話数 全114話

原点回帰を図った秀作

原点に立ち返り、鬼太郎を含め妖怪たちも原作のテイストに一番近い第4部。しかし、怪奇性の高いシリアスなエピソードから、ファンタジックな青春物語まで、バラエティに富んだオリジナルのエピソードが添えられ、単なるリメイクといった感じではない。また、京極夏彦の参加や、声優以外のゲストを起用するなど、サービス精神も旺盛だ。

96年の主なできごと
90'S TOPICS

2月27日 「ポケットモンスター」発売
初めは「ポケットモンスター 赤・緑」だった。アニメは、翌4月1日より放映開始。

4月15日 「ロングバケーション」放送
6月24日まで。木村拓哉、山口智子主演で大ヒット。古畑任三郎、もこの年から。

7月13日 病原性大腸菌「O-157」
大阪で、学校給食が原因で女児が死亡した。患者は9000人を超え、死者は11人におよぶ。

11月23日 「たまごっち」発売
ブームの全盛期には、白いたまごっちが稀少だとして人気が集中した。

「Don't wanna cry」第38回レコード大賞
安室奈美恵のヒット曲が受賞。ちなみに、森且行がSMAPを脱退したのは、この年の5月。

革命的なデジタル化が推進 オリジナルストーリーも

佐野史郎 as 吸血鬼エリート



"超エリート吸血鬼"になるんです
怪優・佐野史郎が演じた吸血鬼エリート。デジタル化された画像とあいまって、第1部に比べ、幻想的な雰囲気が大幅にアップ!

鬼太郎ワールドにあの人も参戦!

京極夏彦 as 一刻堂



君たちは存在しないものだ!
作家・京極夏彦が脚本・ゲスト声優を務めた「言霊使いの罠」。"一刻堂"は、決め台詞も風貌も、自分の小説に出てくる"京極堂"そのままです!

憂歌団 as 憂歌団



酒はもうないのかなあ～
今回、さら小僧に誘拐されたバンド・憂歌団は、第4部の主題歌担当。さらわれてもどこか余裕たっぷりなのは、気のせいですか?

ネバーギブアップ! ぼくは必ず帰ってきます!
第4部の放映が終了してから、ちょうど10年が過ぎた。しかし、まだ2000年代に鬼太郎は現れていない。近い将来、私たちは新たな鬼太郎に出会えるのだろうか……



そして物語は続く?

妖怪の章

Regular編

鬼太郎を取り巻く、目玉おやじやねずみ男。そして、鬼太郎とともに悪い妖怪たちと戦う、ネコ娘、砂かけ婆、子泣き爺、一反もめん、ぬりかべら“鬼太郎ファミリー”。そんなレギュラー妖怪たちの違いをシーズンごとに解説していこう。



この妖怪カタログの使い方

このコーナーは、レギュラーとして登場する妖怪を掲載している。68年放映作品を「第1部」および「60年代版」、71年放映作品を「第2部」および「70年代版」、85年放映作品を「第3部」および「80年代版」、96年放映作品を「第4部」および「90年代版」と表記。なお、第1部と第2部は連続した作品とみなしている。劇場版は以下のように略している。「ゲゲゲの鬼太郎」=劇「ゲゲゲの鬼太郎」、「妖怪大戦争」=劇「妖怪大戦争」、「最強妖怪軍団!日本上陸!!」=劇「最強妖怪」、「激突!! 異次元妖怪の大反乱」=劇「異次元」、「大海獣」=劇「大海獣」、「おばけナイター」=劇「おばけナイター」、「妖怪特急!まぼろしの汽車」=劇「汽車」。

また、各シーズンで呼び名の違うレギュラー妖怪だが、目玉おやじ、ねずみ男、ネコ娘、砂かけ婆、子泣き爺、一反もめん、ぬりかべに統一した。

gegegenokitaro

ゲゲゲの鬼太郎

【げげげのきたろう】

時代によって変化する妖怪・鬼太郎

妖怪（霊界）ポストに手紙を出せば現れる、幽霊族最後の生き残り。先祖の霊毛で作ったちゃんちゃんことリモコン下駄を武器に、悪い妖怪を懲らしめる。そんな正義の妖怪・鬼太郎の魅力を、シリーズごとに紹介しよう。

60′ 第１部（68年度版）



さざえ鬼が化けたニセ鬼太郎が登場。人魚の子を売る。

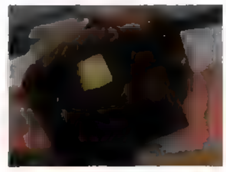


第１部、２部では意外とコスプレも多い。上は、車掌さん。



たとえ、それが人間であっても悪は許さない

人間に悪さをする妖怪を、かずかずの妖力を駆使して成敗する「ゲゲゲの鬼太郎」。口から蛇を出して手錠にしたり、指鉄砲を飛ばしたりと、このシリーズならではの技が多数登場。妖怪ポストに届く手紙だけでなく、たまたま出かけた旅先で妖怪退治をすることも多かった。また、妖怪を信じない人間に強い反感を抱き、必要とあらば、彼らにも“仕置き”を実行する。動物やムシたちと言葉を交わし、彼らに窮地を救われることも少なくない。腹が減りすぎて倒れたことも……。ちなみに２月30日生まれ。



木の上に萱葺き屋根の家を建てて暮らす。周りは池。



ポンチョに身を包んだ鬼太郎。帽子も被ってます。





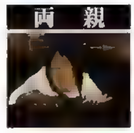
70′ 第２部（72年度版）

積極的に行動し、ぶっそうな発言も飛び出した

ねずみ男によれば、「20億人にひとりしか生存していない霊類」らしい。一時期、妖怪退治を休み漁村で暮らしていたが、悪妖怪に苦しむ人たちの声が高まり再び立ち上がる。よりアクティブさが際立ち、女装なども披露。かまぼこやトランクへと姿を変えることもあった。「とっ捕まえて地獄の責め苦を味わわせてやる!」と過激な発言も。また、「妖怪アパート」が作られ妖怪たちの結束が深まり、仲間の妖怪が集団で助っ人に現れることも増えた。

第1・2部PROFILE

両　親



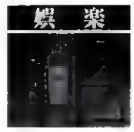
父親の目玉おやじと、いつでも一緒に行動。父の好きな茶碗風呂にお湯を入れるのは日課のようだ。母親の存在はあまり語られないが、第２部には魔女が化けたニセの母親が登場。

生　活



木の上にある家に住む鬼太郎だが、第１部では河川敷などに家を建て暮らす姿も。妖怪退治の報酬をもらわないため、ゴミを漁るのも日常茶飯事。だが、小額を持っていることもある。

娯　楽



霊界テレビを見てばかりいて、目玉おやじに怒られたり、『妖怪パンチ』というマンガを読んでいたりと、普通の少年と同じ趣味をもっている。車を運転する機会も多かった。

80′ 第3部（85年度版）

「ゲゲゲの森」で暮らす妖怪と人間のハーフ

幽霊族の生き残りとされていたが、じつは人間と妖怪のハーフ。それゆえ、誰よりも人間と妖怪の共存を願っている。ちゃんちゃんこやリモコン下駄に加えて、多彩に変形するオカリナで悪い妖怪と対決。シリーズ一の熱血漢ぶりで、何度となく人間や妖怪たちの窮地を救った。普段は、砂かけ婆や子泣き爺たち“鬼太郎ファミリー”と「ゲゲゲの森」で暮らし、そこを訪れる人間の少女・ユメコとは、妖怪と人間の枠を越えた信頼関係で結ばれている。

第3部PROFILE

両親



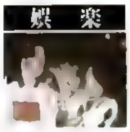
ニセ母が登場するが、鬼太郎のやさしさに心打たれ改心する。また、『地獄編』ではじつの母親が登場。目玉おやじとともに涙している。目玉の付いた父親も回想シーンにちらり。

生活

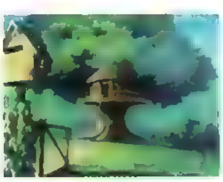


ユメコをはじめ、人間との関わりも深くなったためか、屋台のラーメン屋さんに入ったことも。ハイキングや温泉、盆踊りなど、生活スタイルもより人間に近くなった。

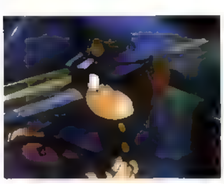
娯楽



めんこ天狗相手に、めんこの腕前を披露。あまめはぎとは、こまで対決していた。古きよき日本の遊びは、わりと得意のようだ。盆踊りには浴衣で参加する気合の入れよう。

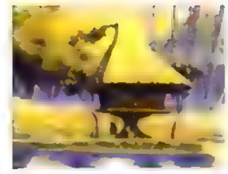


ゲゲゲの森にひっそりと立つ。家の中にはベッドが。

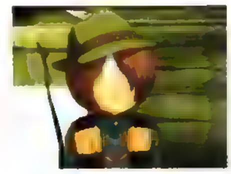


第3部では変装が少ない鬼太郎。こちらはバス運転手。





大木を支柱にした「ゲゲゲハウス」。中には竈なども。



ハンチングを被って山菜採りへ。女装も2度披露。



90′ 第4部（96年度版）

クールなスタイルを貫きつつも人間味豊か

崇高な幽霊族の血をひく少年。つねに冷静に物事を判断する、どちらかといえばドライなタイプだが、ひとたび悪い妖怪が現れれば霊力を駆使してこれと戦う。しかし単に倒してしまうのではなく、寛大に許してしまうケースもシリーズ最多。その気持ちに打たれ、鬼太郎を慕って仲間になる妖怪も多かった。買い物袋をぶら下げ、ノイローゼにかかるなど人間臭い面も強い。ちゃんちゃんこのデザインも変わり、下駄の鼻緒もオレンジに。また、空手技なども披露するようになった。

第4部PROFILE

両親



ヒー族の巫女が化けた、鬼太郎のニセ母が最終回に登場。母に会うチャンスを目玉おやじに譲る父親想いのところをみせるが、それが裏目に出て命を狙われることに。

生活



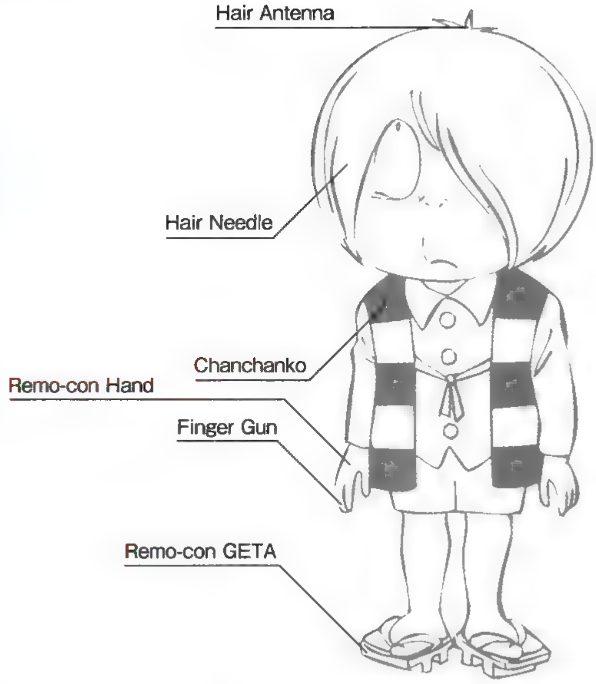
鍋で魚の骨を煮たり（ごはんとたくあん付き）、アイスキャンディーを食べたり、食生活は普通の人間と変わらない（?）ようだ。屋台のラーメンも2度ほど食べていた。

娯楽



遊園地でジェットコースターに興じるなど、子どもらしい一面も見せる。山菜採りにもネコ娘たちと出かけ、遠方の妖怪のところへ遊びに行くこともあった。

ゲゲゲの鬼太郎
特殊能力全公開

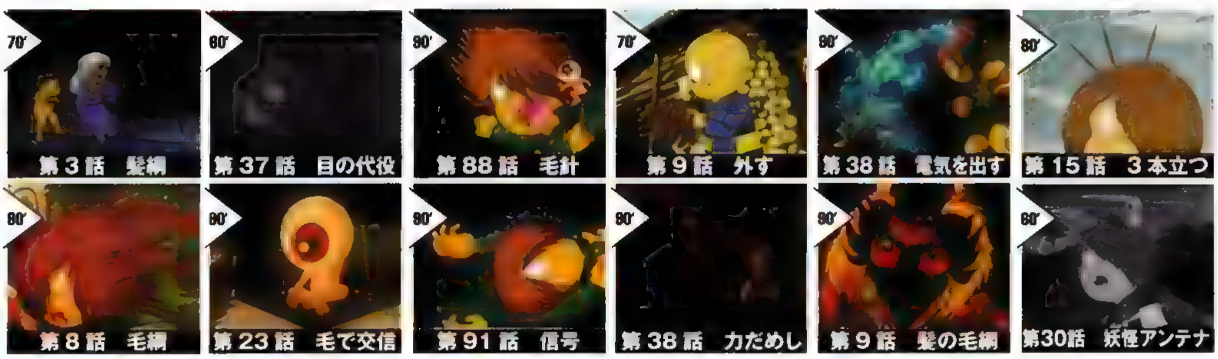


不死身の鬼太郎だから できる秘術の数々!

強力な妖怪すら恐れる並外れた妖力を持ち、そこから繰り出される術や超能力で敵をなぎ倒していく鬼太郎。じつは、おなじみの髪の毛針やちゃんちゃんこ、リモコン下駄以外にも鬼太郎の技は数多く存在しているのだ。ここでは、そんな鬼太郎の必殺技や、不思議な力の一部を紹介していこう。

髪の毛

髪の毛は、鬼太郎の霊力の源。髪の毛針で相手の視界をふさぎ、毛で捕え自由すら奪う。妖怪アンテナで妖気を察知し、いち早く危険から逃れることもできる。さらに、毛を一本抜けば、それが通信機の役割も果たす。すっぽり外すことも可能だ!



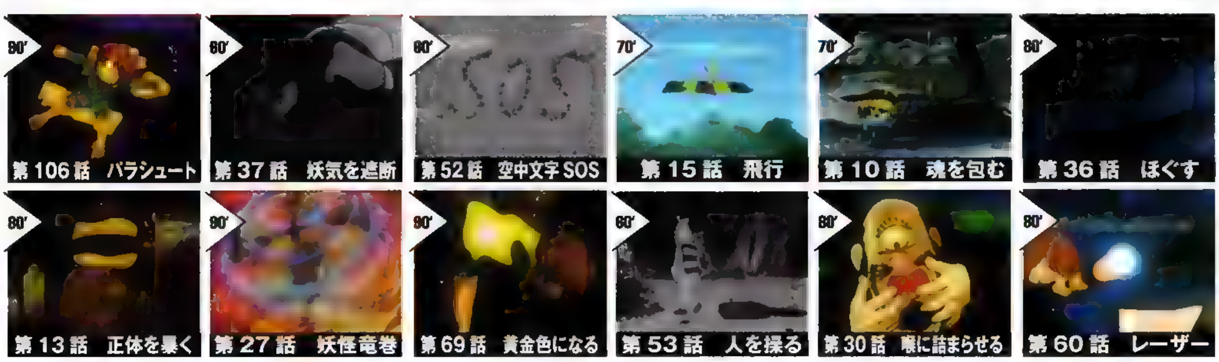
リモコン下駄

鬼太郎の脳波と繋がり、思うだけで動く万能アイテム。意思を持っているかのように、鬼太郎のピンチを何度も救う。蹴りつければ、相手に大ダメージを与える武器に。第4部では「下駄トルネード」なる大技も。



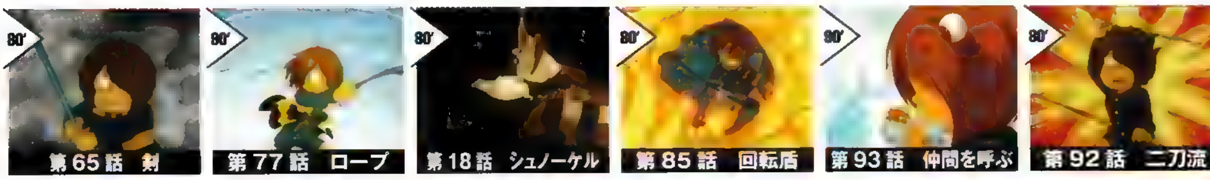
ちゃんちゃんこ

先祖の霊毛で作られたちゃんちゃんこ。避ける、包む、ほぐすとその使い方はさまざま。剣のようになったり、目玉おやじを乗せて空を飛ぶこともできる。相手を覆い、とどめを刺すのにも多く使われた。



オカリナ

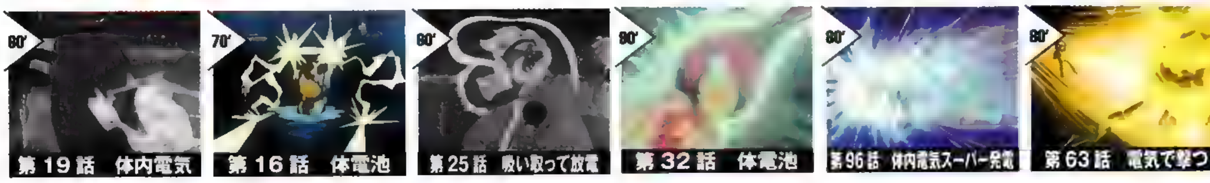
第3部から登場した、鬼太郎の手持ち武器。剣やロープに早変わりし、あらゆる状況に対応する。オカリナを吹けば、仲間の妖怪やカラスがたちどころに集まってくる。第3部と4部では、その形状が若干違うのにも注目。



第65話　剣 / 第77話　ロープ / 第18話　シュノーケル / 第85話　回転盾 / 第93話　仲間を呼ぶ / 第92話　二刀流

体電池

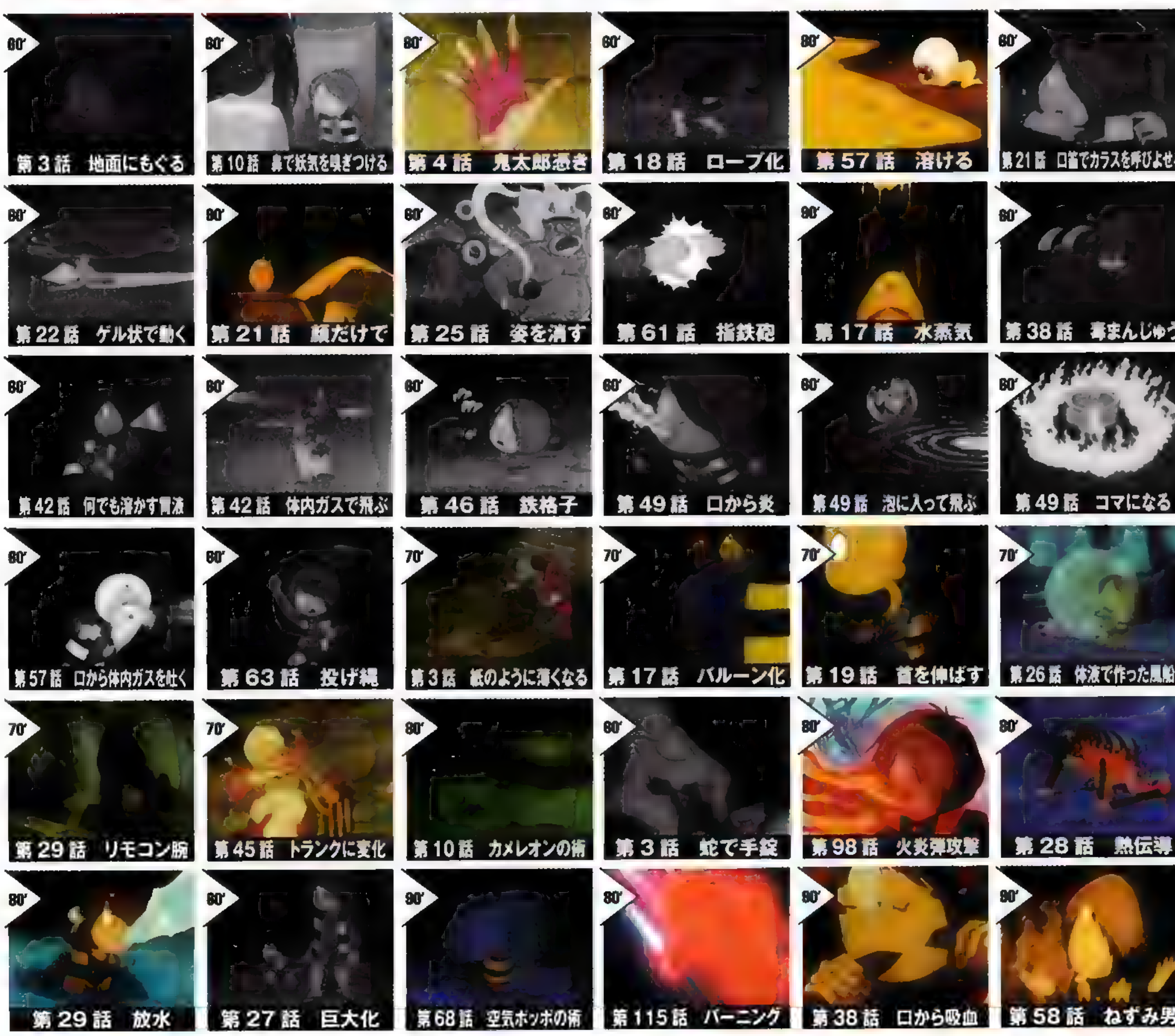
体から電気を放出し、相手を倒す鬼太郎の決め技のひとつ。電力は調節可能で、相手を気絶させるのにも使用。髪の毛や、筒状にしたちゃんちゃんこからの“コラボ放電”も放つ。体電池を使いきって、気を失ってしまったこともある。



第19話　体内電気 / 第16話　体電池 / 第25話　吸い取って放電 / 第32話　体電池 / 第96話　体内電気スーパー発電 / 第63話　電気で撃つ

身体技能

体を丸めてボールになったり、保護色になって姿を消したり、首を伸ばしたりと鬼太郎の体は、まさに変幻自在。不死身の体をもつ鬼太郎ならでは。第3部では、怒りが頂点に達し、バーニング状態でぬらりひょんを倒した。



第3話　地面にもぐる / 第10話　鼻で妖気を嗅ぎつける / 第4話　鬼太郎憑き / 第18話　ロープ化 / 第57話　溶ける / 第21話　口笛でカラスを呼びよせる

第22話　ゲル状で動く / 第21話　顔だけで / 第25話　姿を消す / 第61話　指鉄砲 / 第17話　水蒸気 / 第38話　毒まんじゅう

第42話　何でも溶かす胃液 / 第42話　体内ガスで飛ぶ / 第46話　鉄格子 / 第49話　口から炎 / 第49話　泡に入って飛ぶ / 第49話　コマになる

第57話　口から体内ガスを吐く / 第63話　投げ縄 / 第3話　紙のように薄くなる / 第17話　バルーン化 / 第19話　首を伸ばす / 第26話　体液で作った風船

第29話　リモコン腕 / 第45話　トランクに変化 / 第10話　カメレオンの術 / 第3話　蛇で手錠 / 第98話　火炎弾攻撃 / 第28話　熱伝導

第29話　放水 / 第27話　巨大化 / 第68話　空気ホッポの術 / 第115話　バーニング / 第38話　口から吸血 / 第58話　ねずみ男

術

相手の正体を見破ったり、封じ込めたりするときに使われるのが術である。いくつかの質問に回答させて相手を封じることや、鏡の中から少女を救い出すのに使用した「呼び出しの歌」など、術と一口にいってもいくつかのバリエーションが存在する。



第29話　呼び出しの歌 / 第53話　逆魔法 / 第64話　106の質問 / 第3話　74の質問 / 第35話　地獄流し / 第24話　正体あばきの秘術

ゲゲゲの鬼太郎身体変化一覧

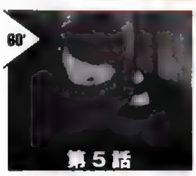


不死身の鬼太郎もピンチになる!!

不死身の鬼太郎に対して、真っ向勝負に出たら勝ち目がないことは敵も承知。だから、隙をついて力が出せないものに変化させたり、鬼太郎を操って力を自分のものにしようと企んだりすることも多い。そんな状況に陥った哀れな鬼太郎の姿。

大海獣になる!

劇場版では南方妖怪に捕まり、大海獣にされるが、第1、3部では私利私欲に駆られた人間が鬼太郎を出し抜き、大海獣にする。


第5話


第67話


劇「大海獣」

反物になる!

中国から来たチーによって、ちゃんちゃんこ柄の反物にされてしまう。井戸仙人によれば、思いのほかカンタンに元の姿にもどる。


第2話


第79話

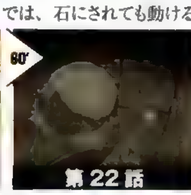

劇「最強妖怪」

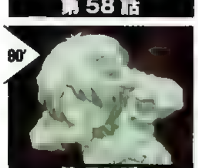
石になる!

彫刻のような形でそのまま石へと変化することが多いが、ときに、原形をとどめていない丸い石にされてしまうことも。また、第1部の「朧車」では、石にされても動けるのだ。


第58話


第31話


第22話


第70話


劇「異次元」

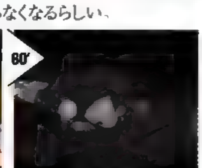

第93話

魂を抜かれる

強敵に魂を抜かれてしまうこともあるが、それでもやはり完全に死ぬことはない。ただ、長い時間放置しておくと魂が身体に戻らなくなるらしい。

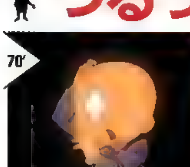

第64話


第45話

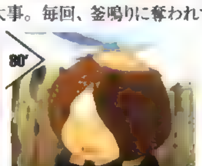

第2話

つるっぱげ

「髪を取られると人間の子供ほどの力しか出せなくなる」と、第2部で鬼太郎自身が発言しているほど大事。毎回、釜鳴りに奪われてしまう。


第19話


第95話

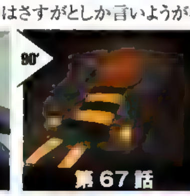

第43話

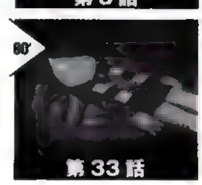
のしいか

鬼太郎にとって、つぶされるくらいのことはさほど大したことではないようだ。ぺらぺらになっても、平然としているところはさすがとしか言いようがない。

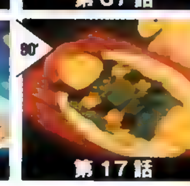

第3話


第34話


第67話


第33話


第14話


第17話

カエル

困っているふりをして、鬼太郎に助けを求め、封印された石を動かしてもらう。すると術が鬼太郎にかかってカエルに!素直で優しい鬼太郎の性格を逆手に取った作戦だ。

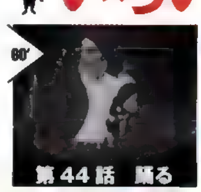

第50話

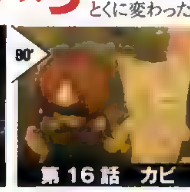

第41話


第54話

いろいろ

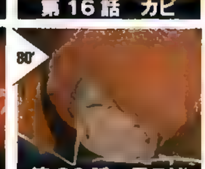
下駄に操られ踊らされることもあれば、カビだらけになることもある。項目立てするほど多くはないが、とくに変わったものを集めてみた。


第44話 踊る


第16話 カビ

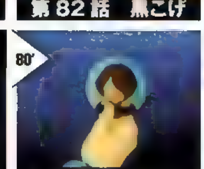

第102話 ネズミ


劇「汽車」 石炭


第82話 黒こげ


第89話 ヒノキオ?

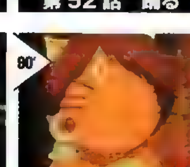

第97話 皿


第105話 めんこ


第52話 踊る

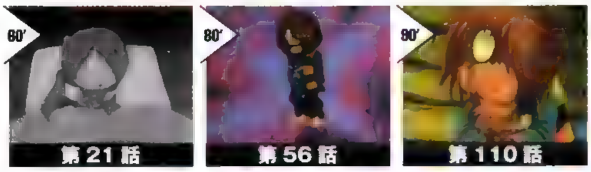

第16話 液体


第20話 真珠


第28話 ネコ

狸になる!

八百八狸との約束を破り封印をしたため、刑部狸の呪いの力が働き、徐々に狸へと変化していく。四国に戻り、封印を解くことによって呪いは解け、完全な狸にはならない。


60' 第21話　80' 第56話　90' 第110話

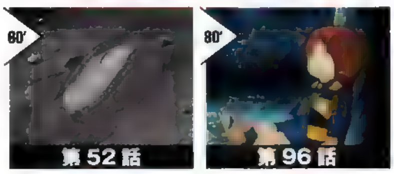
食べ物

カマボコや、薫製のように食べ物に変えられることもある。カマボコにされても、ちゃんちゃんこ柄が残り、ひとめで鬼太郎だとわかるのが特徴。


70' 第13話 カマボコ　80' 第75話 小豆　60' 第47話 薫製

ミイラ

血を吸われ、ミイラのように干からびてしまう。第1部では妖怪血液銀行にあった血をベナンガランの腹の中から取り出し、輸血することによって元に戻った。


60' 第52話　80' 第96話

吸血木になる!

寝ている間に妖怪のびあがりによって芽を植えられ吸血木へと変化するが、花を咲かせ、実をつけると、その中から復活するのがお約束。


60' 第19話　80' 第47話　90' 第109話

牛鬼になる!

牛鬼を倒したものが牛鬼になるという法則を知らずに倒してしまい、牛鬼になってしまう。インドの神・迦桜羅によって牛鬼から元に戻れるのだ。


70' 第15話　80' 第42話　90' 第6話

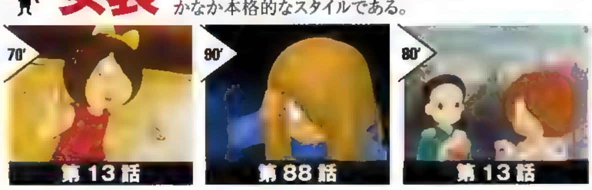
のっぺらぼう

第1部ではのっぺらぼうと同じく口だけ残っているタイプのカオナシ状態だが、第4部では口までないものになる。


60' 第45話　90' 第13話

女装

第3部では着物姿を披露。第4部は残念ながら顔は見えないがカツラを被り、第2部にいたっては化粧までしているといった、なかなか本格的なスタイルである。


70' 第13話　90' 第88話　80' 第13話

ノイローゼ

第1部では軽かったノイローゼも、第4部ではかなり重症の妖怪ノイローゼにかかってしまう。夢で攻撃されると起きてからも傷が残る。


60' 第26話　90' 第106話

凍らされる

冷凍妖怪軍団に凍らされる。凍ってしまうと動けなくなるが、みずから体電池などを放って復活できるため、さほど困っている様子もない。つるべ火などに助けられることもある。


60' 第48話　90' 第58話　80' 第15話

赤ん坊になる

第1部では、半ゲル状の鬼太郎が大ナマズを北極に連れて行ったため、凍って粉々になってしまうが、保育器に入っているだけで、赤ん坊から再生。


80' 第108話　60' 第22話

操られるSelection

ちょっとした隙をつき操られてしまうことが多い鬼太郎。みずから復活することは少なく、まわりに気づかされる確率が高い。当たり前か。


60' 第50話　70' 第17話　80' 第41話
80' 第48話　90' 第61話　70' 第27話
60' 第11話　60' 第53話　90' 第57話

幽霊になる!

幽霊になるといっても、本当に死んでしまっているわけではない。第4部では船幽霊にされそうになるも、足だけが幽霊になる程度で収まっている。


90' 第77話　80' 第58話　70' 第32話

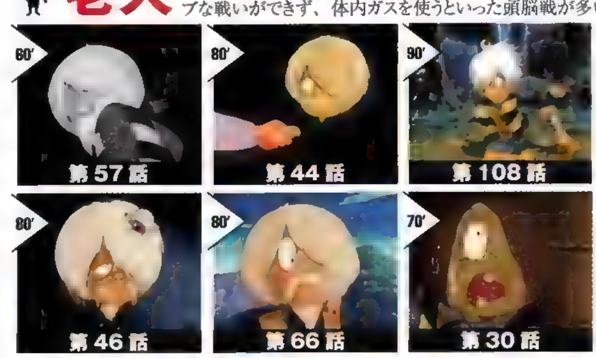
吸血鬼

第2部では吸血鬼ピーと妻モンローに陥れられ、吸血鬼にされてしまうが、目玉おやじが「まぼろしの汽車」に鬼太郎を乗せて時間を逆行し元に戻る。


70' 第25話　80' 第61話　80' 第9話

老人

外見、体力はモチロン、毛針を勢いよく飛ばそうとしても、うまく飛ばすことができなくなるというふうに妖力も衰えてしまう。アクティブな戦いができず、体内ガスを使うといった頭脳戦が多い。


60' 第57話　80' 第44話　90' 第108話
80' 第46話　80' 第66話　70' 第30話

madamaoyaji

目玉おやじ

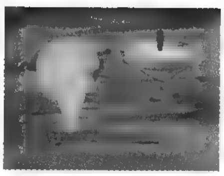
【めだまおやじ】

鬼太郎を豊富な知識でサポート

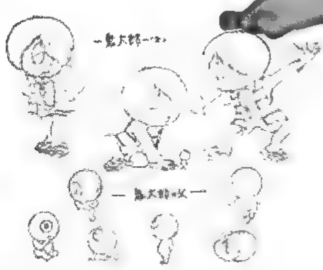
鬼太郎の父親にして、ゲゲゲの森の生き字引。妖怪や伝説、人間社会の常識に至るまで、幅広い知識がある。茶碗風呂が大好きで「宝物は自慢の息子」と親バカな一面も。小さな体全体で表す感情表現は、意外と豊か。

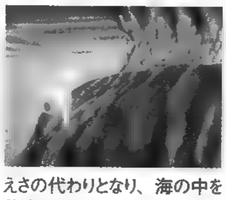
60′ 第1部（68年度版）





妖怪ごまの代わりとなり、あまめはぎとこま勝負する。





えさの代わりとなり、海の中を偵察したこともあった。

鬼太郎の名ブレーンにして、超・親バカ

その深い知識と洞察力で、鬼太郎の妖怪退治をサポートする。鬼太郎に対し「さすがわしの息子じゃ」と頻繁に褒めており、子煩悩をとおりこして親バカな面も目立つ。「ゲゲゲの名を辱めるなよ」「なりは小さくても、わしゃ一流の妖怪じゃぞ」とみずから発言するように、小さな体に誇り高さを併せ持つ。また、いざとなると鬼太郎を守るため、親なら当たり前かもしれないが、自身の寿命を減らしてまで術を使うことも厭わない。ちなみに、バスは大人料金。

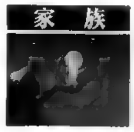
70′ 第2部（71年度版）

鬼太郎の仲間たちの精神的支柱として活躍

基本的に鬼太郎とともに行動しているが、新レギュラーのネコ娘の世話になる場面も増え、鬼太郎のピンチを2人で救うなどの活躍もみせる。敵を倒すアドバイスや、妖怪に関する説明が詳しくなり、知らないことは妖怪図書館に調べにいくといった勤勉さも際立つ。鬼太郎の仲間たちの、精神的支柱の役割も果たす。ちなみに第2部で「若いころはレンジャー部隊に憧れていた」ことが判明。時々へそがある。

第1・2部PROFILE

家族



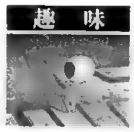
息子がなによりの自慢。ニューギニアへ探検に出かけた鬼太郎が帰るまで、大好きな茶碗風呂を断ち、西洋妖怪との戦いも危険だからと止めたりした。かなりの親バカ。

生活

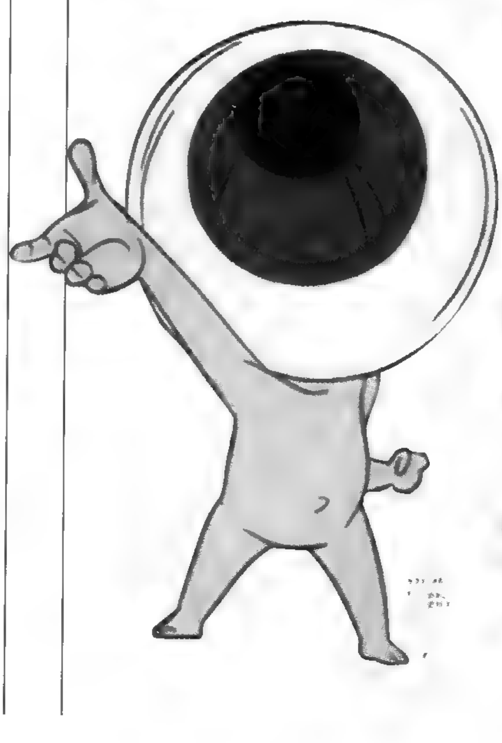


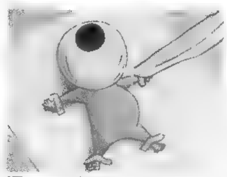
ハンモックで寝ることも。家計簿を付け「今月も赤字じゃ」と嘆き、TVの料理番組を見ようと提案したことからも、意外と家庭的? 借金して鬼太郎カマボコを買い占めたこともあった。

趣味

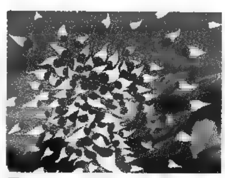


浪曲『森の石松』や『壺坂霊験記』の一節を茶碗風呂で歌い、「富士の山　高さはさんなななななろく」と俳句も嗜む。また、火事を見ることも好きなようだ。新聞も好き。





雨ふり天狗の義眼にされそうになったことも。ピンチも増加した。



目玉おやじ最大の必殺技・逆モチ殺し。



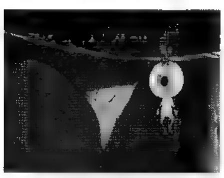
80′ 第3部（80年度版）

“ゲゲゲ世界”の名参謀かつコメディリリーフ

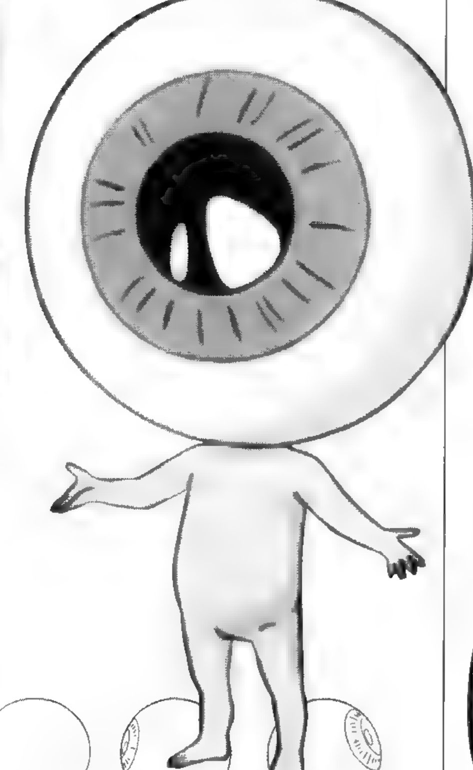
黒目部分が大きくなり、輝きを増して可愛さUP。全身における目玉（頭部）の比率も大きくなり、コミカルな印象が増している。そしてその分、胴体はややスマートに。鬼太郎をベタ褒めすることや、危険だからと妖怪退治を止めることが激減し、過保護なイメージが少なくなる。むしろ第3部では、調子に乗っている鬼太郎を戒めることもあった。また、茶碗風呂好きが高じ、〝変わった茶碗風呂〟に入るようにもなっている。

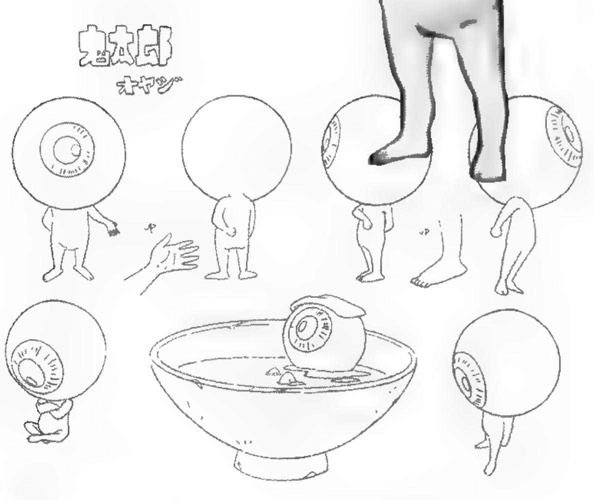


こう見えても立派な大人。タバコを吸うシーンも。

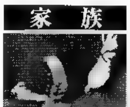


ふくろさげに妖怪エネルギーをとられてペラペラに。





第3部PROFILE

家族

第3部では人間の女性と結婚し、鬼太郎を授かった回想シーンが。そこでは、なんと体のある姿を確認することができる。鬼太郎誕生秘話が映像で語られたのは第3部が初めて。

生活

またたび餅を食べようとしたことからも、普通の食事をしているらしい。しかし、どこから食べるのかは謎だ。木の葉の布団で寝ることもある。茶碗風呂のレパートリーも増え、タバコも吸う。

趣味

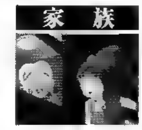
子泣き爺と将棋を、みんなと百人一首をしていた。また、マンガも読み、村の盆踊り大会では太鼓を叩く。天体望遠鏡で、月の観察をしていたことから宇宙にも興味があるらしい。

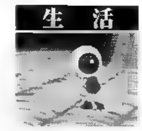
90′ 第4部（90年度版）

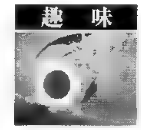
閻魔大王にも一目置かれる、“鬼太郎親子の目玉の方”

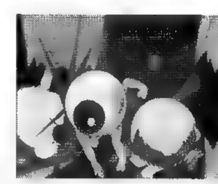
もともと顔は広かったが、第4部になると閻魔大王からも頼りにされるなど、その社交術は想像以上だ。手足のデザインはシンプルになり、表情は豊かに。〝顔〟でより感情を表すようになると同時に、転ぶ、逃げる、あせるといった行動もオーバーに表現され、アクティブに動き回る。また茶碗風呂にあきたらず、ワンカップ風呂やお猪口風呂、カキ氷風呂まで登場。第4部でクールさが増した鬼太郎を尻目に、人の家で出されたお茶に入ろうとする「お約束」など、コミカルな部分もさらにアップ。

第4部PROFILE

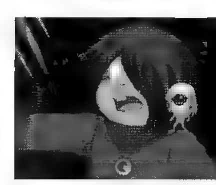
家族

死神の陰謀だと気が付かずに「妖怪天国ツアー」で鬼太郎と離れ、子泣き爺や砂かけ婆と一緒に霊界行きの汽車に乗る。やはり亡き妻のことは気になるようだ。

生活

結膜炎にかかったことがある。山菜採りに出かけ、口では文句を言っているが、わりと気にいった様子で極小のリュックを背負う。月見など風流なことは割と好きなほうだ。

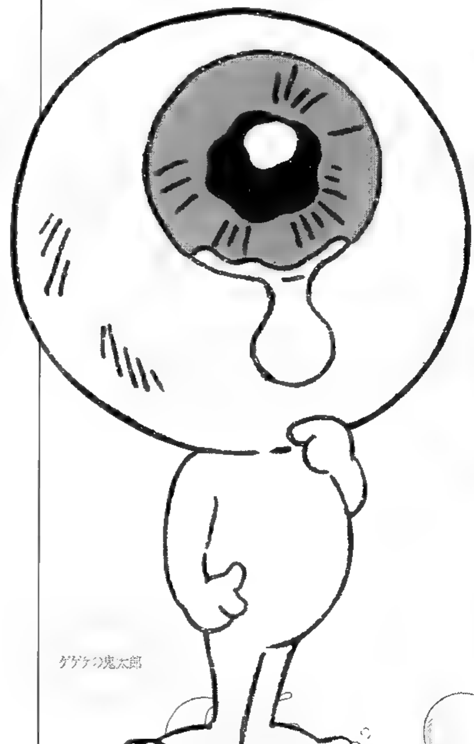
趣味

やはり新聞は読む。泳ぎも好きなようで、温泉では必ず水泳。また、鬼太郎にシャレで返したり、金髪のカツラを着けたり、夜間遊園地でジェットコースターに乗るなど子どもっぽいところも。



沖縄にてキジムナーに強烈なチョップやパンチをする。



ふくろさげをおびき出すため、初の女装を披露。





medamaoyaji

目玉おやじ入浴シーン百態



茶碗風呂好きな目玉は何回風呂に入ったか？

茶碗風呂に入るのが、なにより好きという目玉おやじ。第1～4部までの全339話で、茶碗（以外も多い）風呂に浸かっているのは、なんと合計146回!　そこで、代表的な風呂に浸かっている場面だけを抜きだしてみました。まさに圧巻な入浴シーン絵巻を、とくとご覧あれ。

茶碗風呂ノーマル

茶碗風呂とひと口に言っても、浴槽（茶碗）にもさまざまなタイプのモノを用いてそれなりのこだわりを見せる。また、入り方もいろいろあるようでシーズンごとの違いも見もの。



間違った風呂

人の家におじゃました際に、飲むようにと出してもらったお茶に浸かってしまうのは、もはやお約束。形を見れば湯のみやカップなのだが、目玉おやじにはそんなこと関係ありません。


60' 第58話


70' 第12話


90' 第4話


90' 第58話


90' 第12話


90' 第4話

温泉

茶碗風呂だけでなく、もちろん普通の温泉にも浸かるのが大好きな目玉おやじ。ときには温泉の中でありながら、茶碗風呂に浸かるというよくわからないこともしていますが……。茶碗の中身は温泉と同じものなのだろう、多分。


70' 第20話


70' 第30話


80' 第27話


90' 第56話

その他

ここでは、一般的な茶碗ではないものや、お湯ではないものに浸かった“変わり種風呂”を集めてみました。茶碗風呂もTPOや、気分に合わせてバリエーションがある。決してお湯だけにこだわっているわけではないのがわかる。


80' 第11話　ナベ風呂


80' 第41話　皿風呂


90' 第32話　カキ氷風呂


90' 第11話　酒風呂


90' 第25話　ゆず風呂

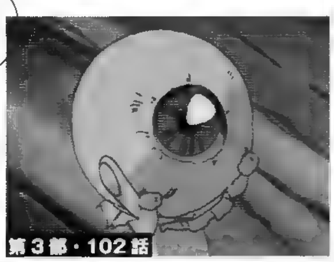

90' 第65話　ワンカップ風呂

目玉おやじ喜怒哀楽Selection

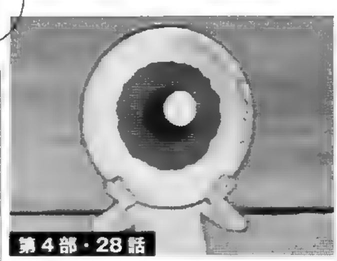
目だけといっても気持ちは出ます

ボディランゲージ以外に、目玉おやじは意外と表情も豊か。ちゃんと喜怒哀楽を目玉だけで表現している。そんな彼の感情の表れをピックアップしてみた。

被


第3部・102話

病


第4部・28話

笑


第4部・23話

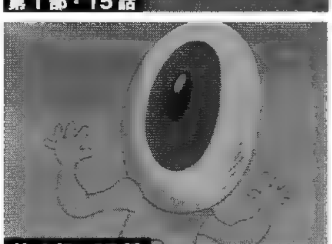
哀


第1部・15話

照


第4部・14話

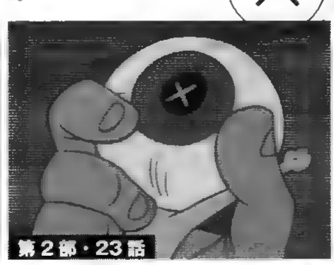
驚


第4部・37話

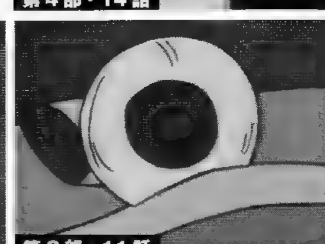
泣


第3部・110話

×


第2部・23話

眠


第2部・11話

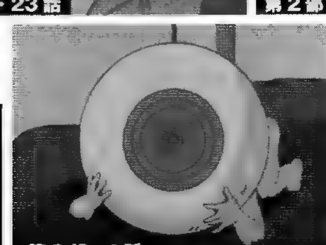
考


第4部・9話

怒


第4部・70話

渦


第3部・4話

nezumiotoko

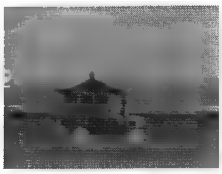
ねずみ男

【ねずみおとこ】

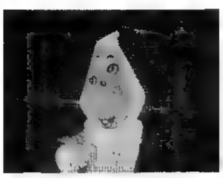
計算高さとフットワークの軽さが身上

妖怪と人間との間に生まれた半妖怪。つねに計算高く、鬼太郎の親友を気取りながらも金のためなら平気で仲間を敵に売る。風呂に入らぬ不潔さは、もはやチャームポイントかも。言わずもがなだが、ネコ娘とは犬猿の仲。

60′ 第1部（68年度版）



明治時代の霊柩車を出して、運転する。



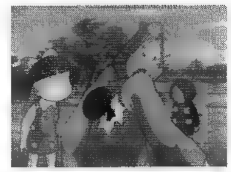
のっぺらぼうに顔を奪われ、鬼太郎の元を訪ねる。



鬼太郎の親友を自任する、自分に正直な半妖怪

本来は金のためなら何でもするねずみ男だが、第1部では無償で鬼太郎を助けることも多かった。金に意地汚いというよりも、むしろピュアに生きているといったほうがしっくりくる感じ。妖怪研究家を名乗り、グルメな怪奇愛好家を気取る。数十年、着物（劇中でミニマントと呼称）は取り替えておらず、口臭を武器に何度もピンチを切り抜けた強運の持ち主だ。足は水虫に冒され、胃炎を患ったことも。シーズンをとおして、かなづち。みずから妖怪を復活させてしまうことも多かった。

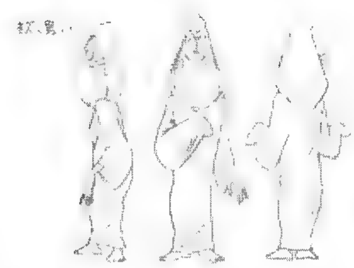




不潔なところを好むマンモスフラワーが背中に生えたことも。



呼子に陥れられ、身体が入れ替わってしまう。



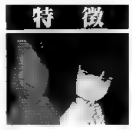
70′ 第2部（71年度版）

インチキ商売花盛り&卑屈さと臆病さもクローズアップ

商魂たくましく、あくどさはさらにエスカレート。口調などもいかがわしさに磨きがかかった。前作以上に詐欺まがい（というより詐欺）な金儲けを何度も試み、教祖などで成功をおさめることもあった。妖怪研究家という肩書は影を潜め、鬼太郎のマネージャーと名乗り、鬼太郎をだしに使うことも増える。また気弱な部分がより表れ、暗闇から現れる妖怪に驚いたり、怯えて鬼太郎に助けを求める印象が強く残る。

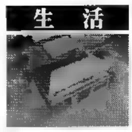
第1・2部 PROFILE

特徴



300歳。体重は40kg。視力は5.0。妖怪大学出身（第2部では最高学府、不潔学部出身）で、自称・妖怪研究家。脳膜炎を2回患う。結婚歴あり（魍魎のワナだったが）。

生活



普段は一軒家に住んでいるもよう。愛読書は「努力しないで金をもうける方法」。インチキ商売で、極まれに成功することもあり、家と車を購入したことも。

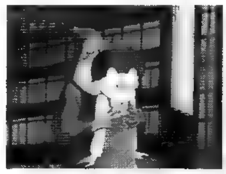
趣味



金もうけ以外の趣味は、怪奇愛好家と称して、ゲテモノを食うこと。そしてパチンコ。また、年代ものの霊柩車を所有、新たに中古車も購入。しかし、車は金持ちの象徴としての見栄だろう。

80' 第3部（85年度版）





意外とネコ娘との絡みも多い。接触する機会はシーズンNo.1。



強烈な臭いのおならと息を放出する攻撃は健在。



商売の幅は広がるが、ユメコちゃんには相手にされず

ユメコの登場により、ときにはユメコを巡って鬼太郎と醜い争いを見せるなど、金に加えて色への執着も見られるようになった。第1～2部に比べて鬼太郎と一緒に行動する機会が減り、その分、ぬらりひょんなどの敵妖怪に手のひらを返す回数も増える。そしてすぐ仲間に戻るなどズル賢さのフットワークは軽い。手がける商売も多岐にわたり、従来のマント姿以外のタキシードや蝶ネクタイ姿などのコスプレも増えた。ちなみに、日本一の音痴らしい。

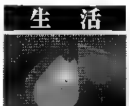
第3部PROFILE

家族



身寄りはないものと思われるが、シーズンとおしてむじなが弟に化けて登場する。また第3部では、地獄と天国の間にある「ねずみ男の国」で、サソリ女が母親に化けて現れる。

生活



ボロボロのテント住まいのことも。食事は、ゴミ漁りや雑草が常食。しかし鬼太郎と一緒にラーメンを食べるなど、第1～2部に比べて普通の人の食生活に近づいているといえる。

趣味



金儲けに関するコスプレが増え、もはや趣味の域といえるだろう。さらに「フロムB」なる求人情報誌も読んでいる。鬼太郎をよそに、スキーを堪能していたことも。運動神経がUP!?

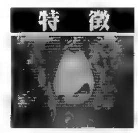
90' 第4部（96年度版）

ハジけっぷりが随一、やや人情家&情熱的な面も

金と美女に弱く、手のひらを返す調子の良さは相変わらず。ただし過去シーズンに比べて、言動のハジケ方と感情の振り幅が激しく見える。人情に厚い面が見えたり、時には純愛に涙したり、第4部独特の感情の発露が見られ、よりオーバーアクションに。また、前シーズンにも増して商売のバリエーションが広がり、インチキ商売だけではなく普通にアルバイトしている姿も。鬼太郎ファミリー以外に対しては、基本的に“いいヤツ”になるパターンも多い。

第4部PROFILE

特徴



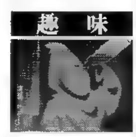
妖怪大学出身。妖力は最低レベル。女性の好みは「清楚、可憐、いつも笑顔」で、嫌いなものは「嘘つくガキと、医者の薬」らしい。家族はないが、ニセねずみ男に妖怪アパートを紹

生活

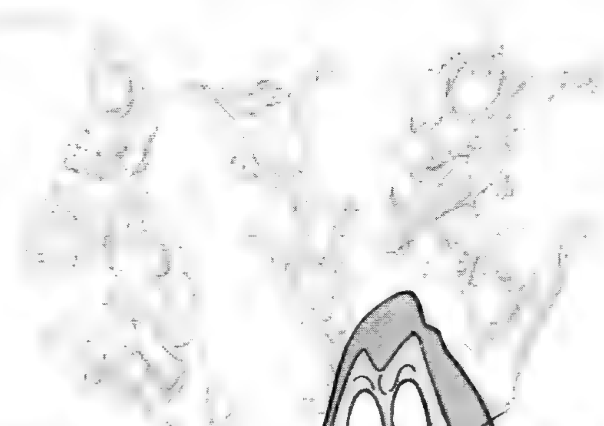


基本的には借金取りに追われる毎日。食事はゴミ捨て場でゴミを漁ることもあるが、芋やラーメンなども口にする。新鮮な特上寿司を食って腹痛になったことがある。

趣味



金儲けに宝探しが加わり、コスプレもエスカレートする。酒もシリーズ最多で飲むようになった。愛車はボロボロのトラック。アイドル・渡辺千里の大ファン。タバコも嗜む。







意地汚さが災いして吸血鬼になってしまう。



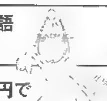
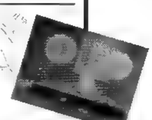
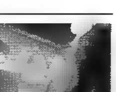
邪魅の手先となった鬼太郎と一緒に新聞に載る。

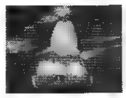
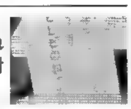
nezumiotoko

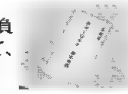
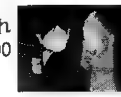
ねずみ男 Best of 金もうけ

さまざまな職業で稼ぐ!

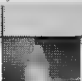
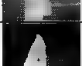
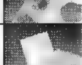
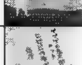
悪知恵を働かせ、金のこととなると目の色を変えるねずみ男。詐欺、泥棒、窃盗といった犯罪そのものから、鬼太郎の紹介、宗教、斡旋、まじめに働いたものまで、ねずみ男が“賃金を得ようとした”商売を特集した。おまけとして、名乗った肩書の一部も紹介しよう。

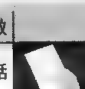
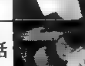
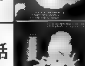
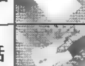
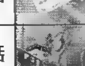
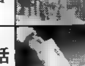
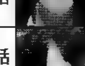
シーズン	話数	商売
第1部	2話	鬼太郎の紹介料。夜叉に魂を抜かれた子どもたちを、鬼太郎に治させるとして賃金を巻き上げる。
	4話	吸血鬼ラ・セーヌがもたらした「血なし病」のにせワクチンを販売。ちなみに、1杯1000円だった。同時に、ラ・セーヌを血なし病のワクチンを発明した博士として日本に紹介し、売り上げアップを狙う。 
	7話	鬼太郎や仲間の妖怪と組み、“本物の妖怪を使った妖怪ショー”を開催。
	14話	村に現れて人を襲う水虎を封じ込める。代金10万円を請求。
	15話	新聞の求人広告で、吸血鬼エリートの秘書に。妖怪語がわかるという条件だった。月給10万円で雇われる。
	20話	長寿教教祖となって、三虫を殺す丸薬をひとつ1万円で販売。また、家にやってきた老婆に対しては、虫下しを10万円で売る。もうけた後は、家とクルマを購入し、蝶ネクタイで正装。10万円の熱帯魚を飼っている。  
	25話	三角山の村に、雨を降らすと約束。雨乞いをし、10万円の報酬を請求。前金で受け取り済み。
	26話	鬼太郎をテレビ局に推薦し、出演料を前払いでもらう。しかし、鬼太郎が行方不明になり、代わってTVに出演することに。
	40話	鬼太郎の別荘の立ち退き料として3万円もらう。しかし、後に鬼太郎にだまし取られてしまう。
	41話	またたびと猫いらずを50円で売ろうとする。さらに、猫の亡霊の慰霊碑を建てる名目で募金活動も行う。
	42話	生け贄を出さなくてすむようにすれば、謝礼として1000万円がもらえる。分割で前金として100万円をもらう。
	43話	妖怪（ひでり神）の描いたマンガを売るという条件で前金をもらう。しかし、原稿は一切、渡さずじまい。
	45話	のっぺらぼうから、3000円で死体を守る。実際は2000円に負けさせられた。後に、のっぺらぼうの秘書になる。日当5銭?
	51話	縁日で、みずからの著作「妖怪百科事典」を100円で販売する。しかし、買っている人は画面に出てこない。
	54話	「世界妖怪ラリー大会」を開催。世界各国から強力妖怪を招く。賞品は小笠原。TV局に、この模様を撮影して売り込もうとする。
	61話	凡太を探すお礼に、とりあえずおにぎりを握ってもらう。祖父とヨシ子がいなくなり、鬼太郎を呼ぶ料金を村人から1人110円ずつ請求。
	64話	「怪奇事件専門解決! ゲゲゲ探偵社」を設立。だるまの事件を解決するも報酬はなし。
第2部	3話	映画会社に、妖怪映画の企画を紹介。手付けに50万円もらうが、百々爺に詐欺を見抜かれ取られてしまう。
	4話	妖怪ポストの手紙を隠し、日本は平和だと鬼太郎に見せかけて鬼太郎に人面草の世話をさせる。それを人間界で売ろうと企む。
	5話	ホテルの客やスタッフらがホテルを壊しだすという怪奇現象を収めようと、鬼太郎のマネージャーを名乗る。
	14話	「ビビビのB級ライセンスを持つ、ねずみ男と申す車に強い者です」と、中古車販売店で店員になりすまし、怪自動車を2万円で販売。
	17話	縁切り問題相談所。「あなたは必ず救われる!! 離婚、絶縁、他、誰でも縁を切ってあげます」。1回1万円。
	18話	「ヨーロッパ風に言えば幸福を売る男、日本風に言えば福の神」を名乗り、頭金1万円で地獄玉をレンタルする。金ができた後に、出世払いで99万円をもらう契約を中村と交わす。 
	19話	村長に釜鳴り退治のギャラを要求。1人1万2000円ずつ。前払いとして60000円をもらう。
	20話	泥棒の2人組から、妖怪エネルギーを紹介してほしいと頼まれて1億円を要求する。
	21話	心配屋を開業。「事業・恋愛・受験・金繰り・エトセトラ、現代ほど心配があふれている時代はありません。本人に代わって私が解消いたします」。結果、モーレツ社員になったからと、社長が200万円を出そうとする。 
	24話	アイデアコンサルタント。傘化けに対して、アイデアを提供し利益の1割を報酬としてもらう。
	32話	妖怪探偵として、警察から事件解決を請け負う。交通費と調査費をもらう。
	35話	アレス占い師の呼び込み。イースター島で、婆さんに化けてホテルマンとなる。
	37話	魑魅魍魎の国から、「天相眼」と「水相眼」を盗み出し、安井に1億円で売ろうとする。
	40話	湯水社長から、1000万円で原始さんをそそのかすという仕事をもらうが、成功後支払われたのは1000円だった。
	41話	ズンベラのもとに、顔をなくしたい人間を連れて行く。治療費は1万円。
	43話	埋蔵金は100億円とも噂される「いらず山」を散策。発見したら、中村、山田と3人で分ける計画だった。
	43話	100円で、日本全国から集めた“うさんくさいもの（ぼろぼろの天狗のうちわなど）”を販売。
第3部	1話	ニュースでお守りを売りつけた後、「妖怪なんでも相談所」に来るように宣伝。
	4話	スクープを狙う雑誌記者に、ディスコに妖怪が出没することを教えて1万円を巻き上げる。
	7話	観光開発を予定している「ワルタ開発」に就職して、まじめにサラリーマンとなる。しかし、金髪で紫のモーニング姿。
	8話	だるまに「妖怪相談所」でもうけようとけしかける。相談料は1日1500円。
	9話	山伏のような格好で、「悩み事よろず解決」を行う。1回、3万円で受け付け。「子どもの不良化の95%は、妖怪に取り憑かれたのが原因です」
	13話	にせの弟と新年の酒を飲もうと、路上で売ろうとした時計を質屋に入れる。しかし、1000円にしかならない。
	17話	巨大鶏ふらり火を使い、空中遊泳。通常なら3000円、美少女タダ。
	18話	工事現場でアルバイト。「一日中サボってたって、皆と同じ日給がもらえるもんな」と隠れている。
	20話	「有名人 ネズミ男先生 よろず結婚相談所」を開催。入会金10万円。神前結婚式では、神主の服装をしていた。
	38話	停電している村の人々に、電気を格安でおすそわけ。お金のない子どもには、「静電気を起こして電気にしろ!」と下敷きを100円で売る。
	45話	ホテルの副支配人に。客の来ないホテルの建て替えを提案。「妖怪ホテル」に建て替えて大ヒット。
	49話	鬼太郎探偵社。名探偵・シャーロックビビビのねずみ男を名乗り、妖怪にしか解決できない事件を受けてひともうけを狙う。
	52話	セールスマン。招き猫の形をした貯金箱を1個1000円で販売。妖精の花子にあげ、代わりにはちみつをもらって店に売ると1万円に。
	54話	砂かけ婆の妖怪アパートの建設に協力のため、全国を行商している。やさかりの赤玉を祭りで売っていた。
	69話	偶然立ち寄った村が強風で困っているので、神主になりすまし土地のお払いをする。一瞬風がやみ村人からお布施をもらう。
	76話	仙人になりすまして村へ。村を助けるお礼として、村一番の美女と家と財産を要求する。
	81話	「タコショー」の主催者。入場料、大人800円、子供500円を取って荒稼ぎ。1ヵ月で、貸しビルの一つや二つ建つぐらいの売り上げ。
	82話	串刺し入道に命令され、標本になる虫などを捕まえていた。脅されて、人間の子どもを捕まえることに。報酬は、純金小判2枚。

シーズン	話数	商売
	84話	妖怪マラソンの実況&審判を行いつつ、極寒地獄では、焼き芋とカイロ売り。灼熱地獄では、アイスクリーム売り。花子復帰第1弾のマラソン大会では、ポテトを売っていた。
	劇	「人間と妖怪　友好盆踊り大会」で、かき氷、焼きとうもろこし、わたあめ売りを兼任。「最強妖怪」
	劇	怪気象が現れた東京で、お札付きサバイバルセットをひとつ1000円で販売。飛ぶように売れる。「異次元」
第4部	2話	鬼太郎が目目連を追い出した後、子どもの父親に料金を請求。
	6話	牛鬼の呪いを払う。牛鬼に取り憑かれた鬼頭社長を助けるとうそぶき、部下から金をせしめようとする。
	10話	えたいの知れない竹屋敷の物件を手ごろな価格で販売してしまう。保険として、鬼太郎をガードマンに雇う。
	12話	街に増えてきた捨て猫を退治する商売。後に、猫裁判で死刑を宣告される。
	13話	本物の妖怪たちを使って、「逃げずに出れば100万円」の妖怪屋敷を開催。
	14話	「夢の世界を占う」と祥一の両親に近づき、褒美を約束させる。
	16話	部屋に来たあかなめと白溶裔を巻き込んで、「汚してキレイにする」清掃業社を始める。
	19話	人食い島に、「この世に二つとない真珠の首飾り」を探すのが目的で上陸する。
	21話	白粉婆から「人間の顔を奪う」白粉を受け取り、人間たちに売りつける。
	25話	朧車の被害に困惑する市長と署長の前に現れ、「金をくれたら退治する」と契約する。また、夜の街に出て「妖怪封じのお札」を1枚20万円で売りつけようとした。
	27話	粗大ゴミを引き受け、永遠にモノが捨てられる「野づち塚」に落として処理。
	28話	クリスタルボール占い。なくし物、人を探す。
	29話	ダイダラボッチの封印を解いて復活させ、その主人になって金儲けを企む。
	31話	お化けの生活改善コンサルタントを名乗り、傘化けに大金持ちの死んだ人間に化けさせて金をもらおうと画策。
	32話	雷が落ちる事故が多いことに目をつけ、雷から電気を集めて電気会社に売って大もうけを企む。
	33話	憂歌団にさら小僧の「ぺったらぺたらこ」を歌わせ、大ヒットさせて金をもうけようと企む。
	36話	秋祭りで、自家製の妖怪シールを販売。

シーズン	話数	商売
	38話	おどろおどろに誘拐された子どもたちの行方調査を請け負う。「金次第では優先順位を考える」「腹が減った」と言って、依頼主に寿司を注文させる。
	41話	「漬け物のチュ～チュ～」。チラシには、「おかわり自由!無料試食券　ねずみ男商店」と書かれていた。
	42話	「ぺったらぺたらこ」が収録された、妖怪たちの声が聞けるカセットテープの販売。
	43話	土蔵からいらなくなった骨董品を1000円で買い取り、骨董屋さんに売る。タンスが1000円で売れただけだった。
	51話	キツネたちが行う「厳冬会」でアルバイト。子ギツネを探しにいくときに「救出に成功したら、もちを10倍にしてもらいますよ!」
	55話	座敷童子の悩みを聞き、彼が住む家を賃貸する不動産屋に。礼金3カ月、妖怪付き。
	57話	吸血鬼エリートに、秘書として働けば報酬100万と言われて秘書になる。しかし、ギター催眠にかけられ、石を100万円だと思い込まされてしまう。
	63話	「メンソーレホテル」で働く金城さんと母の再会シーンに感動して大泣きし、ホテルを盛り上げようとホテルマンになって働く。
	67話	封神のしめ縄を、税込み9800円でたんたん坊へ売る。この仕事をやり遂げれば、特別ボーナス100万円が手に入る予定だった。
	68話	自分の生徒が、磯女に連れ去られ混乱している先生に対し、妖怪退治の料金を請求する。
	69話	「何でもお急ぎ便」というバイク便で働き、マンガ家・木水の家へ原稿を取りに行く。
	69話	木水の家に来たぐわごぜから、水木のマネージャー料として4000円もらう。
	71話	お祭りの露店で、30000円の時計を3000円だと言って売るが、本当は300円の価値しかない。
	73話	人間と妖怪の野球試合で、霊界名物「火の玉ボール」を売り歩く。「ただの夜光ボールか」と子どもからバカにされる。
	76話	雨を降らせる祈祷師として隆三の家に現れ、祈祷料50000円のところ30000円に負けて祈祷する。
	81話	ビビビ保育ランド。「安全・清潔・安い」2歳児までが対象。チラシには、「かわいいあなたの子供さんを大切にあずかります。愛を込めて」。
	103話	朽ちて久しい寺に住み着いた「ねずみ妖怪」の退治。
	コピー妖怪	輸入道が作ったコピー品を格安で販売。有名デザイナーなどをさらい輸入道に与え、代わりにコピー品をもらって、定価の3分の1ぐらいのディスカウント価格で販売してしまう。翌日店をたたむ。
	劇	バトラーズの監督。サインは1人35円。妖怪バットを三太郎少年に手に入れさせ、バトラーズの監督に就任。「おばけナイター」

肩書 selection

シーズン	話数	肩書
第1部	2話ほか	 妖怪研究家
	3話ほか	 怪奇愛好家
	31話	 ゲゲゲ妖怪産業セールスマン
	32話	 怪死防止協会専属の妖怪医
	39話	 妖怪連邦の日本代表
	43話	 妖怪霊媒　長井風天
	45話	 全日本死体愛護協会
	54話	 株式会社ネズミ男
第2部	3話	 ゲゲゲの鬼太郎のマネージャー　ビビビのねずみ男住所……不定
	12話	 マスコミ界にその人ありと知られた、妖怪学のオーソリティー、ねずみ男先生

シーズン	話数	肩書
	24話	 不思議事件解決コンサルタント　根津見尾床
	42話	 人呼んで正義の味方ビビビのネズミ男
第3部	7話	 ワルタ観光開発営業部渉外課課長代理　ビビビのねずみ男
	49話	 名探偵・シャーロックビビビのねずみ男
	53話	 大日本妖怪研究㈱取締役兼営業部長ビビビのねずみ男
第4部	1話	 怪事件専門弁護士ビビビのねずみ男様
	8話	 格闘技世界一のねずみ男様
	19話	 妖怪問題研究所所長ビビビのねずみ男
	31話	 ねずみ仙人
	40話	 妖怪コンサルタント

nekomusume

ネコ娘
【ねこむすめ】

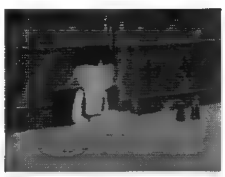
ネズミを見ればすぐに変身! 鬼太郎のガールフレンド

第2部からレギュラーとなった、鬼太郎の彼女的存在。魚とネズミ、およびねずみ男を見るとキバをむく。強気と甲斐甲斐しさを併せ持つヒロインだ。

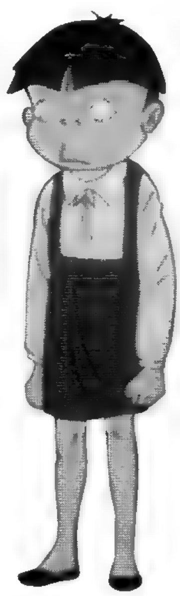
60′ 第1部(68年度版)



この頃はまだ、トレードマークのリボンをしていない。



この直前まで、3日間なにも食べていなかった。



ねずみ男への刺客としてゲストで登場

60年代は登場話数1話のみと、ゲスト妖怪の扱い。閻魔大王の命令で、ねずみ男を殺す役を鬼太郎に頼まれる。「鬼太郎ちゃん」と呼んでいるため、鬼太郎とは仲がよさそうだ。

70′ 第2部(71年度版)





土ころびにエネルギーを吸われ、ネコ婆になってしまう。



アンコールワットの亡霊に刀で斬られたこともある。

神社の縁の下に住む鬼太郎の“友だち”

レギュラー妖怪になり、リボン&ワンピース(シーズン唯一の柄物)姿で登場。鬼太郎宅にも遊びに来て、目玉おやじの世話もする。鬼太郎と仲がよく、2人で手を繋ぐこともあった。

第1・2部PROFILE

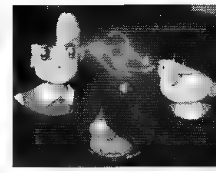
特徴



神社の縁の下に住み、カツオブシが好物。魚とネズミを見ると牙をむく。2部では、鬼太郎に“ネコちゃん”と呼ばれており、目玉おやじのことを「お父さん」と呼んだこともあった。



ふくろさげに妖怪エネルギーを取られ、ぺらぺらになる。



ユメコとは鬼太郎を巡ってライバル関係。だが仲はよい。





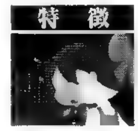
80′ 第3部(85年度版)

ユメコと仲はいいけど意識はしちゃいます

恋愛要素がある第3部では、鬼太郎のガールフレンドと強調したり、ユメコをライバル視するなどの三角関係も描かれる。オシャレも意識するようになり、着物姿やイヤーマフラーをつけた冬服も披露した。性格は前シリーズより、強気で活発に描かれている。

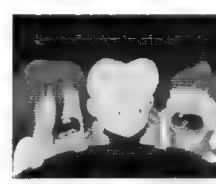
第3部PROFILE

特徴

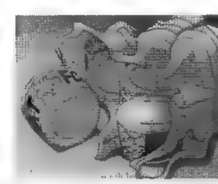


またたび餅を作りみんなに振る舞うなど、料理好きな面も見せる。着物や花嫁衣裳などコスプレもシーズン最多を誇る。悪魔ベリアルとの戦い前には「勝利のおまじない」を。





砂かけ婆、子泣き爺と顔と体が混ざってしまった。



食事のネコ缶はコンビニで購入している。



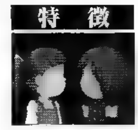
90′ 第4部(96年度版)

美少女化したネコ娘だが、化け猫バージョンは健在

ややボーイッシュな第3部に比べ、かなり美少女にバージョンアップ。紫色の髪で刈り上げおかっぱに変わる。性格も芯の強さと控えめな部分、女のコらしいやわらかさを併せ持つ、鬼太郎の名パートナーだ。きれいな歌声で怨念の塊を鎮めたことも。

第4部PROFILE

特徴

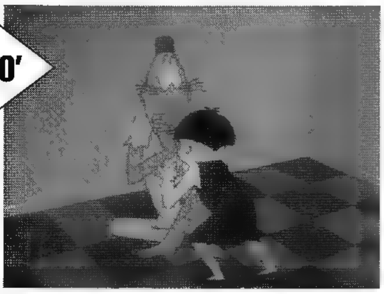


普段の食事は「コンビニエンス24」で購入したネコ缶。模型飛行機に乗ったり、ジェットコースターに乗ったりと、やはりスピード狂なのかも。妖怪バスツアーにも参加している。

ネコ娘vs.ねずみ男

本質的に仲がよくないネコ娘とねずみ男だが、そこは妖怪仲間。時として心が通じることも。バトルシーンから仲がいいシーンまで、2人の関係を追ってみよう。

60′



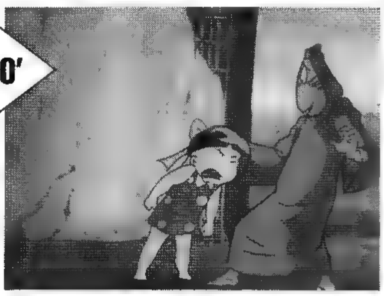
因縁はここから。ネコ娘初登場はねずみ男との絡み!!

調子に乗っているねずみ男を懲らしめるため、鬼太郎に協力するネコ娘。第1部では、ネコ娘が登場するのはこの1回のみで、ねずみ男との記念すべき初対面でもある。この時に後のシーズンへと続く、ネコ娘とねずみ男の力関係が確立されたといっても過言ではない。



↑2人の初ケンカ。服をボロボロにされ、怯えるねずみ男。第20話
→嫁候補として、ねずみ男に紹介されるネコ娘はおしとやか。

70′



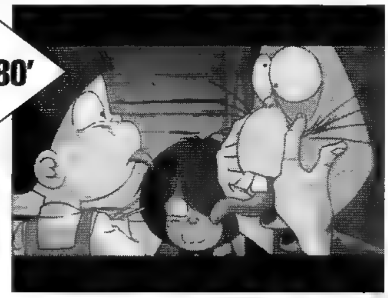
ほかのシリーズと比べ距離があるように感じる?

「あのねずみ男」といった、バカにする発言が多く、よく裏切るねずみ男に対して好感を持っていない。泥田坊に襲われたのを助けるなど仲間として認識はしているが、ネコ娘側からねずみ男にコンタクトを取ることは少ないように感じる。会っただけでネコ娘の形相が変わることはなくなった。



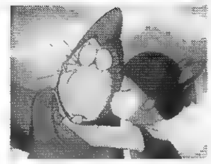
↑身長の差も、ねずみ男にはありがたかったりする……。第2話
→目的地がなくなり落ち込むネコ娘をねずみ男が慰める。第5話

80′



顔を合わすとケンカばかりの2人だがじつは仲がいい!?

ひっかいたり、化け猫の姿になって脅したりする機会が増え、良くも悪くもねずみ男とのコミュニケーションが多くなる。2人の関係がコミカルに描かれているため、ファミリー内では仲が悪いというよりもケンカ仲間として、場の雰囲気を和ませているようだ。接触することも多かった。



↑ニラメッコ(?)で嫌い度をアピールすることも。劇「異次元」。
→ねずみ男の活躍で脱出できたと勘違いしてキス。劇「妖怪大戦争」

90′



暴走するねずみ男を一応心配している大人になったネコ娘

クールな印象さえ受ける第4部のネコ娘。そして、シーズン最高のはじけっぷりのねずみ男は、かみ合わないことも多い。しかし、ねずみ男に食事を差し入れたり、生気を失ったねずみ男を心配したりと、ネコ娘はなにかと気にかけているようす。もちろんケンカは相変わらずだが。



↑ねずみ男が顔をひっかかれるのがお約束。第19話
→ネコ娘が、旧鼠によってネズミに変えられるのを阻止。第103話

ネコ娘コスプレショー

女性キャラが少ない鬼太郎ファミリーのなかで、唯一華のある若くてかわいらしい女のコ妖怪・ネコ娘。定番のリボン & ワンピース姿以外のさまざまなスタイルを一挙紹介。

70′

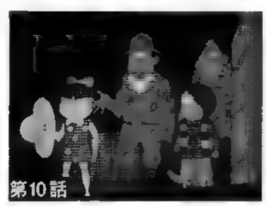
レギュラーにはなったもののコスプレは少ない。だが、レオタードなどインパクトの強い格好をするのが特徴。



第45話
サングラス



第18話
レオタード



第10話
帽子

80′

コスプレ回数が一番多いこのシリーズでは、髪型を変える、花嫁衣裳を着るなどといった派手な変化がみられる。



第11話
花嫁衣裳



第13話
着物姿



第104話
バスガイド



第41話
浴衣



第84話
ブルマ



第55話
ヘアピース



第72話
スキンヘッド



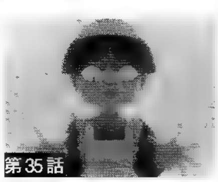
第81話
軟体動物



第84話
赤ずきん

90′

メイド姿をはじめとする萌えコスチュームから、"大人"といった身体的な変化まで。コスプレが変化した90年代。



第35話
メイド姿



第47話
鬼太郎に化ける



第89話
大人になる



第101話
人間の女の子



第103話
ネズミ

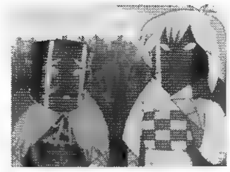
sunakakebaba

砂かけ婆

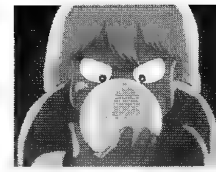
【すなかけばばあ】

鬼太郎を息子のように可愛がる妖怪医学にも詳しい頼れる味方

砂をかけて相手の視界を奪う砂かけ婆。鬼太郎を息子のように可愛がり、行動を共にすることも多い。知識も豊富で、鬼太郎のピンチを何度も救った。子泣き爺とは、なかなかの名コンビである。



砂かけ婆と子泣き爺も妖怪たちの術にかかり竹人間に。



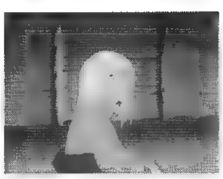
毒についても詳しい。鬼太郎曰く、妖怪医術の先生。





60′ 第１部（68年度版）





初登場の回から。顔が現在とは大きく異なっている。



西洋妖怪と戦い、一度命を落としている。

ときに現れ鬼太郎をサポート

第1部では、ゲストキャラ扱い。しかし、鬼太郎の頼れる味方というスタンスは、この頃すでに確立している。妖怪医学に長け、占いや術を使うなど、後に出てくる設定はすべて揃う。

70′ 第２部（71年度版）



数少ない第2部でのコスプレ。ナース姿で登場した。





砂かけ婆のアパートにあるテレビを住人たちと見ることも。



妖怪アパートを作り大家に

味方としてレギュラー入り。鬼太郎や目玉おやじに意見できる数少ない妖怪のひとりでもある。妖怪アパートの大家としては、この第2部が最初。他のシーズンに比べて、肌の色が黒い。

第1・2部PROFILE



生い立ちなど 過去の生い立ちなどは不明。ねずみ男から「死者を蘇らせてやる」と言われ、死んだ孫娘に会いたいと言ったこともあるが、実際は孫娘などいなかった。

80′ 第３部（85年度版）

鬼太郎のよき母親代わり

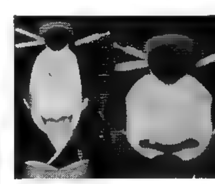
母性本能が強く、鬼太郎の母親的な役割もこなす。そのため、つねに鬼太郎たちを怒鳴っている印象が強い。砂を地面から拾ってかけることがなくなり、着物の袂（たもと）や掌（てのひら）から砂をかける。妖怪マッサージなどの新術も披露。帯もチェック柄に変更された。

第3部PROFILE

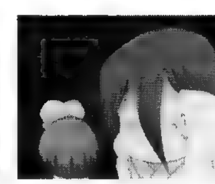


生い立ちなど 2800歳（第107話では、1200歳）。家族はいないようだ。しかし物語の終盤には、子泣き爺と恋仲になった。また、奪衣婆の素性に詳しかったため、親戚だと思われたこともある。





第4部ではコスプレもエスカレート。こちらは芸者姿。



白粉婆によって顔を取られてしまい、のっぺらぼうに。



90′ 第４部（97年度版）

壷を使って攻撃力もアップ

シーズン唯一の黒髪となり、それまでより若い印象を受ける。働き者で世話好きという面が強調され、アパートの住人に対して料理を振る舞うこともあった。砂をかける「砂かけマシンガン」以外に、新たな小道具として“妖怪を封印する壷”を使用する。

第4部PROFILE

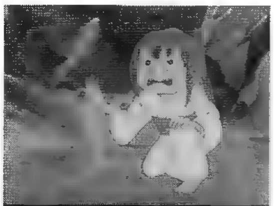


生い立ちなど 子泣き爺とは古くからの、まさに腐れ縁。回想シーンには400年前の姿や、ニセモノだが昔契ったという漁師が登場。厚化粧したり、女子高生になったりとお笑い要素も増えた。

砂かけ婆"技&術"コレクション

砂かけ婆といえば、相手の動きを封じる砂かけと、かずかずの秘術が印象的。そんな技と術をピックアップして紹介。

砂かけバリエーション


砂かけ（地面）
初期は地面から砂をすくって相手にかけていた。第1部・24話


砂かけ（袂）
第3部以降では、掌や袂から砂を出すことが増えた。第3部・1話

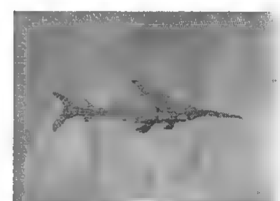

砂竜巻
アカマタが吐き出した粘液を、はね返す。第1部・39話


蘇らせる
割れた鏡の破片を集め、砂をかけて蘇らせる。第4部・4話


大砂塵
一世一代の秘術。えんらえんらを砂嵐で巻き込む。第3部・107話

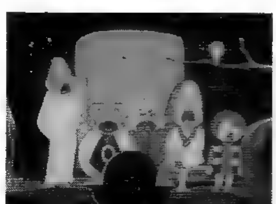

砂結界
敵の侵入を防ぐ。だが、津波や雪崩には弱い。第4部・109話


合体できない砂
分離を得意とする、くしゃみの精に対して放った砂。劇「最強妖怪」


カジキマグロ
砂をカジキマグロの形にして、雲外鏡に放った。第1部・29話

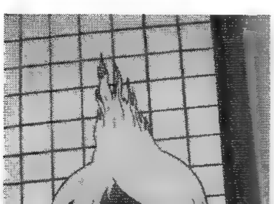
more

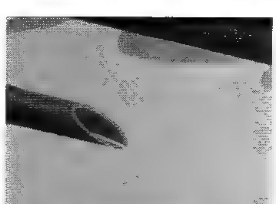

占い
占いによって、白山坊を追い出す方法を伝授。第1部・24話


呼び出し&魔除けの歌
子泣き爺、山小僧、ぬりかべらと、少女を救う。第1部・29話


妖怪接着剤&妖怪エキス
鏡に閉じ込められた鬼太郎を復活させる。第3部・2話


妖怪磨き粉
月の光を集めるため、ぬりかべを磨いた。第4部・93話


SOS受信
目玉おやじからのSOSを髪の毛を伸ばし受信。第2部・19話


神社の水
いやみに毒された鬼太郎の魂を清めた。第2部・27話

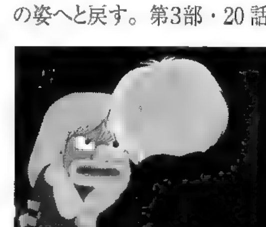

解毒の煙
火鉢でイモリの粉と髪・爪を焼き、白仙坊を見抜く。第3部・11話


妖怪生命液
玉になった鬼太郎にかけて、元の姿へと戻す。第3部・20話


眠り草
眠り草に、イモリとカエルの血の粉で効果アップ。第3部・22話


妖怪風船ガム
ガムをふくらませて、中に入ると無敵になる。第3部・46話


おばばパラシュート
一反もめんから飛び降り、野づちにわざと食われる。第4部・27話


若返りマッサージ
老人にされてしまった鬼太郎を元の姿に戻す。第3部・44話

妖怪アパートの変遷

砂かけ婆のもうひとつの顔といえるのが、妖怪アパートの大家だろう。行き場のない妖怪や、親しい仲間を住まわせている。家賃もちゃんと徴収しているのだが……。

60'

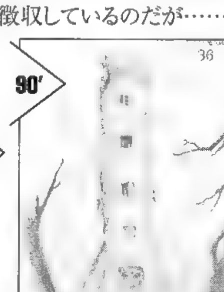
まだアパートはなく、富士山の裾野に別荘を建設。別荘は後にも登場。

70'

妖怪アパートが完成。やたらと壊され、そのたびに住人が修繕。

80'

より大きく近代的に。住人たちも第2部から若干変更になった。

90'

第31話で完成した。呼子たちの家賃の値上げも検討。

konakijiji

子泣き爺

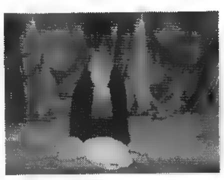
【こなきじじい】

石化して相手を攻撃する砂かけ婆とは気の合う仲間

鬼太郎ファミリーのひとり。しがみつくと離れず、石化して最大1ｔの重さに。このとき、赤ん坊の声を発するのが名の由来となっている。酒がなにより好きで、それによりピンチに陥ることも少なくない。

60′ 第1部（68年度版）





西洋妖怪と激戦を繰り広げ、敗れ去ったこともある。

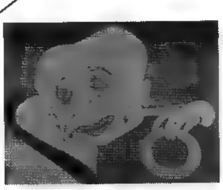


初登場時の姿。砂かけ婆と同様、弱冠印象が異なる。

鬼太郎を助け、強敵相手に大活躍する

砂かけ婆と揃って登場することが多いが、どちらかというと砂かけ婆とはケンカ仲間といった感じ。性格はいたってのんき。赤ん坊の泣き声で、うぶめをおびき出したこともある。

70′ 第2部（71年度版）



ねずみ男に大量の酒を飲まされ、鬼太郎の裁判を欠席。





妖怪アパートが壊れたときの修繕役としても活躍。



妖怪アパートでのんびり暮らす

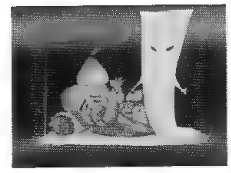
砂かけ婆ともどもレギュラーになり、妖怪アパートの住人となった。単純でボーッとしているのはシーズンとおしてだが、第2部ではやや気の荒いところも目立つ。ゲームと酒がなにより好き。

第1・2部PROFILE

生い立ちなど



ねずみ男から「死者を甦らせてやる」と言われ、別れた女房と会いたいと告げる。しかし、“別れた人間”はダメだと言われた。砂かけ婆の生い立ちが嘘だったのに対しこちらは本当のようだ。



ねずみ男とともに、妖怪病院に入院したことも。



日本妖怪の戦闘隊長としてチーたちに挑んだ。



80′ 第3部（85年度版）

ついに、ケンカ仲間だった砂かけ婆と恋仲に！

鬼太郎ファミリーとしてより活躍の場が増え、頼りなさそうなところも多少は減ったようだ。劇「最強妖怪」では、日本妖怪軍を指揮して、鬼太郎の救出をかけて中国妖怪たちと激戦を繰り広げるまでの立場に。砂かけ婆とは物語の終盤で、晴れて恋仲となる。

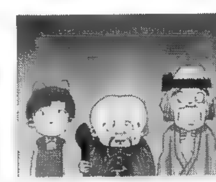
第3部PROFILE

生い立ちなど



3100歳。えんらえんらが住み着いていた炭焼き小屋の老人とは旧知の仲。彼が死んだときには、ひとり弔い酒を飲んでいた。シリーズのラスト間近には、砂かけ婆と結ばれる。





黒髪切に眉毛を切らせ、髭にすればよかったと後悔。



いのししに乗り裁判へ向かうが、時すでに遅し。



90′ 第4部（97年度版）

本当に子ども!?　おちゃめ度がアップ

さらに、とぼけた感じが増した第4部の子泣き爺。骨董品が高いと聞いて石像になりきったり、砂かけ婆たちと「だるまさんがころんだ」をしたりと、ちゃめっけもたっぷり。敵にやられた鬼太郎に、妖怪心臓マッサージを施したこともある。石にならずともピストル玉は利かない。

第4部PROFILE

生い立ちなど



ねずみ男に付いて、死者に会えるという「妖怪天国ツアー」に、砂かけ婆らと参加。この時、誰に会うのかは劇中では明かされないが、会いたいと思う者はいたようだ。

子泣き爺 技コレクション

「お前に技があったなんて」と驚いた砂かけ婆ではないが、子泣き爺の技が少ないのも事実。石化のバリエーションを含めた、子泣き爺の技をセレクトしてみた。


押しつぶす

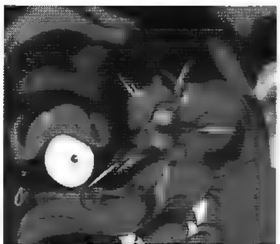
吸血鬼の上に乗ってジャンプ。地面に相手を埋め込ませてしまう技。第1部・11話


ぶち破る

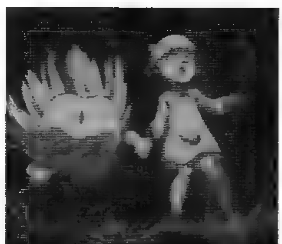
石化のバリエーションのひとつ。地下王国行きの厚い壁をぶち破った。第3部・18話


しがみつく

子泣き爺の一般的な技。しがみついたらテコでも離れず、重くなる。第3部・54話


ゴッツン頭突き

牛鬼と化した鬼太郎に上空から必殺技「ゴッツン頭突き」を食らわせる。第4部・6話


仲間を石化

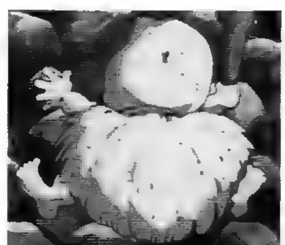
めったに出さぬ技。手を握ったネコ娘を、石に変化させ、攻撃を退けた。第4部・24話


霊力を送る

仲間とともに自分が持つ最大の霊力を鬼太郎に送り、神木を復活させた。第4部・52話


ひっくしゃっくの術

悪魔ベリアルに、しゃっくりをうつした。敵の行動を制御できるレアな技だ。第1部・30話


塞ぐ

ダムの決壊を防ぐため、石になって漏れている水をせき止める。呼吸が心配。第4部・56話


防御

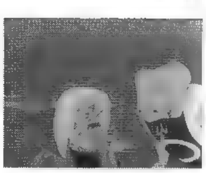
敵からの攻撃を、石化してかわす。大抵の攻撃は受け付けない、鉄壁のガード。劇「最強妖怪」

砂かけ婆と子泣き爺の関係

第3部では実際に恋仲となる2人だが、ほかのシーズンでは単なるケンカ仲間という気も……。2人の微妙な関係をシーズンごとに追う。

60'



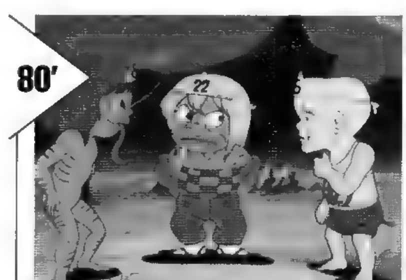


↑吸血妖怪の手から、恐山の妖怪血液銀行を守る2人。でもケンカ。第52話
→仲間たちがやられて、慰めあう。第10話

仲良しというより古くからの知り合いに過ぎない

お互いをバカにしつつも信頼しあっている、気の合う仲間といった感じ。まだまだ2人が接近するには程遠いように見える。しかし、砂かけ婆が建てたという別荘に、鬼太郎をさそって出かけていることから、意識をしているとは思われるのだが。ケンカの回数もそれなり。

80'





↑全体をとおしてケンカらしいものは見当たらない。じゃれ合っている？ 第84話
→ついに2人は恋仲になる。第107話

年の差 300歳のお似合い？カップルここに誕生

古くからの知り合いという設定。とぼけた子泣き爺と、気の強いしっかり者の砂かけ婆はなにかと気が合うようだ。憎まれ口を叩き合っていたが、「砂かけの」「子泣きの」と、お互いを認め合い、助け合っている印象を受ける。ともかく、シリーズ終盤ではついに恋仲に。

70'





↑同じ回で2回のバトル。本当に仲が悪そう。第26話
→トランプで遊ぶ2人。"仲間"といった印象が強い。第30話

会えばケンカ！違った意味で仲を疑いたくなる2人

ケンカするほど仲がいいをとおり越して、本当に仲が悪いのではと思えるほどケンカが絶えない。砂かけ婆の口調も、ほかのシーズンに比べてキツイような気もする。しかし、それでも砂かけ婆の妖怪アパートに間借りして、一緒にトランプに興じるなど、友人には違いない。

90'





↑皮肉も「オマエはあの頃からばあさんじゃったぞ」が限界か。第27話
→ピンチになると告白タイム。第41話

ピンチのときはお互いをほめ合う認め合った2人

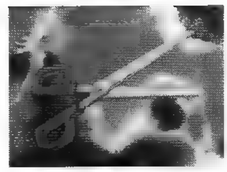
気心が知れた旧知の仲。第3部で結ばれたものの、またしても振り出しに逆戻り。しかし、シーズンとおして一番しっくりくる気がするのも確か。登場するのは必ず2人一緒だし。窮地に立たされると、お互いをほめ合うのは、第4部のお約束になっている。

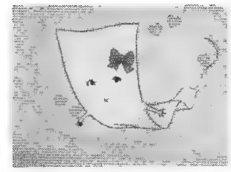
ittan momen

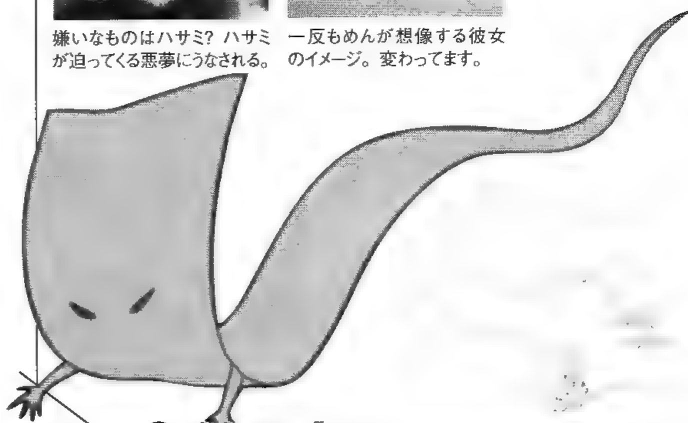
一反もめん
【いったんもめん】

水をかければたちまち復活 鬼太郎を乗せて空中を舞う

長い反物のような体で宙を舞う一反もめんは、鬼太郎を乗せて運ぶのが主な見せ場。どのシーズンも2～3人なら乗せて飛べるらしい。敵に巻き付き息の根を止める技も持つ。再生能力もピカー。


嫌いなものはハサミ? ハサミが迫ってくる悪夢にうなされる。

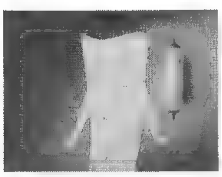

一反もめんが想像する彼女のイメージ。変わってます。



60′ 第1部（68年度版）




八百八狸に関して、意外と物知りな面を見せた。

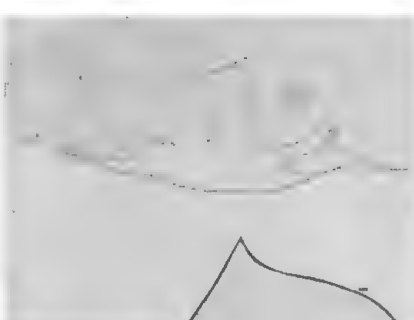

体がズタズタになっても針と糸さえあれば復活。

登場回数はぬりかべ以下

第1部では、5回しか出演していない。性格も出てくるたびごとに違うが、第22話では、口先でねずみ男を脅し、刑部狸を倒そうとする勇敢な妖怪として登場した。

70′ 第2部（71年度版）


鬼太郎を乗せ、チーの待つ妖怪城へと乗り込む。




"鬼太郎カマボコ"を乗せて、恐山の妖怪病院へ運ぶ。

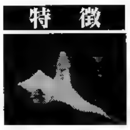


なにも言わずに鬼太郎を運ぶ

ほとんど一貫してしゃべらない妖怪として描かれ、鬼太郎の"乗り物"といった印象が強い。しかし、第14話では「ヘリ代わりに使われちゃかなわんよ」と、非協力的な態度を見せている。

第1・2部PROFILE

特徴



第1部・10話で初登場するが、その生い立ちなどは一切不明。チョコレートが好物らしく、ねずみ男からチョコレートを条件に「世界妖怪ラリー」の中継車代わりを引き受けた。

80′ 第3部（85年度版）

九州弁を使い、ひょうきんながら真面目な性格

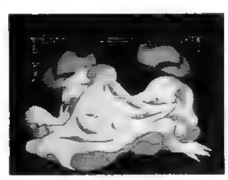
それまでのイメージを一新し、九州弁でしゃべりまくり。控えめな性格だが、かなりのひょうきん者である。鬼太郎が移動する際には、文句も言わずに空を飛ぶ。多少、気弱な面も見せるが、鬼太郎を救うためであれば敵陣へと果敢に飛んでいく。

第3部PROFILE

特徴



燃やされたり、切られたりする以外に、妖気を吸われることもあった。海の中に落ち濡れてしまうと、低空飛行しかできなくなる。村の盆踊り大会では、太鼓を叩いていた。


のっぺらぼうのアジトで顔をとられる。悲惨な状態も多い。


一反もめんもやはり男。モンローの前ではデレデレ。



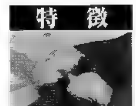
90′ 第4部（97年度版）

布も圧倒的に長くなり、NOと言える性格に

第4部でも九州弁を使う。しかし、口数とひょうきんさは抑えられ、遠方へ飛ぶことをぐずるといった自己主張も増えた。体がぐっと長くなり、スマートさが強調され、裁判の前には自分の体にアイロンをかけるなど、シーズン中一番のおしゃれかも?

第4部PROFILE

特徴



みずから体を切って窮地を脱することもあった。また、いやみの毒気にやられた鬼太郎には食いちぎられ、牛鬼となった鬼太郎には食べられたことも。ハエが嫌い。

nurikabe

ぬりかべ

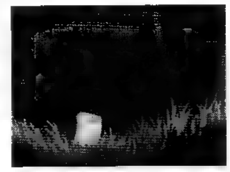
【ぬりかべ】

仲間のピンチに現れて壁となる縁の下の力持ち

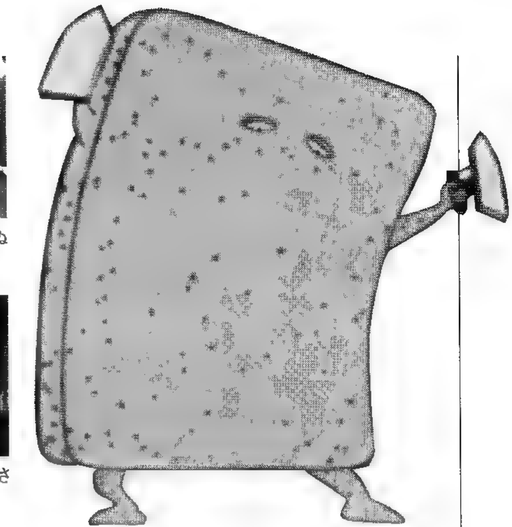
ある時は鉄壁となって仲間を守り、ある時はその巨体で敵を押しつぶすプレス機として活躍。体に敵を塗りこめてしまう必殺技も持つ頼れる味方だ。だが、どてっ腹に風穴を開けられることも多かった。



後神の美しさに、さすがのぬりかべも溶けてしまった。



悪魔ベリアルの魔法で、小さくされてしまったことも。



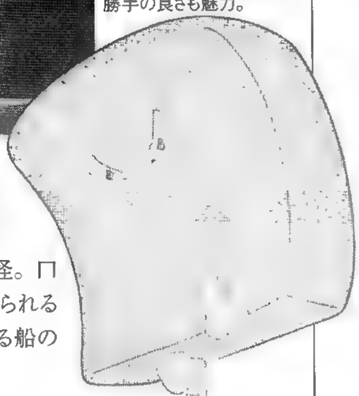
60′ 第1部（68年度版）



穴を開けられ、鬼太郎に針と糸で縫ってもらう。



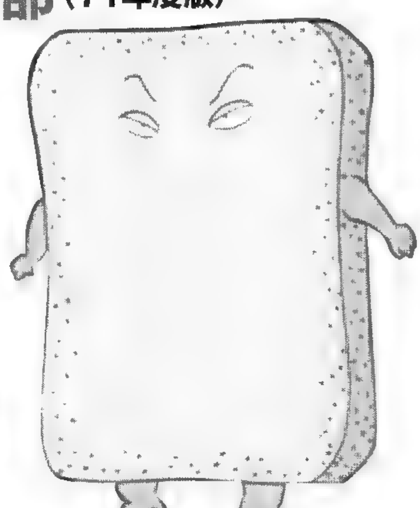
帆の代わりとなる。使い勝手の良さも魅力。

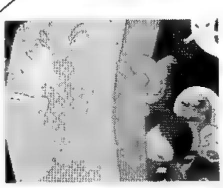


動きは意外とアクティブ

6回しか登場しない、完全にゲスト妖怪。口数は少なく、体の大きさを自由に変えられる特技を持っている。鬼太郎たちが乗る船の帆としても重宝された。

70′ 第2部（71年度版）





骨女たちの骨投げ攻撃に、壁となって仲間を守る。



自分で高くジャンプして、「ゆりかごカプセル」を割ったことも。

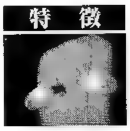
より活発にアクションをこなす

妖怪アパートの住人として半レギュラー参加。人を疑うことを知らない、心やさしい力持ちのイメージ。走る、ジャンプするなど、他シーズンにはないオリジナルな"動き"を見せる。



第1・2部PROFILE

特徴



おにぎりを食べるなど、食事はいたって普通のもの。とくに果物が好きなようで、「ヤマブドウは格別の味」と絶賛している。第1、2部ともそれほど登場回数は多くない。

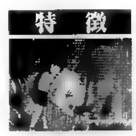
80′ 第3部（85年度版）

突然現れて仲間の窮地を救う頼もしい仲間

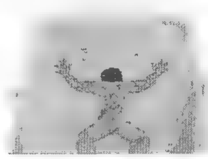
仲間のピンチに「ぬりかべ～」と、颯爽と現れては攻撃の盾になる神出鬼没な妖怪に変化。だが、敵の妖怪も強力になり、生気や血を吸われてしまうことも激増。ふにゃふにゃになったり、小さくなったりすることもしばしば。体にペイントすることもあった。

第3部PROFILE

特徴



雪山で遭難した少女・紅子と心通わせ、彼女のために鬼太郎と戦うなど、純情な一面も持つ。「人間と妖怪　友好盆踊り大会」では、的当ての的になる茶目っ気もみせた。



感情を出さない少年・太郎を笑わせようと試みる。



大海獣の光線を浴び、毛むくじゃらになってしまう。



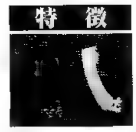
90′ 第4部（97年度版）

顔を盗まれたり、鏡のようになったりと大忙し

いきなり地面から出現して、敵の前に立ちはだかる。傷ついても、自分で左官道具を使い補修する器用な面も持っている。妖怪磨き粉で表面が鏡のようになったことや、大海獣の光線で毛だらけにもなった。また、ダイダラボッチのあまりの巨大さに退却するひとこまも。

第4部PROFILE

特徴



幅跳びに挑戦するも、記録は33cm。鬼太郎たちを助けたいという強い思いでテレポートまでしてしまう。ちなみに、反物にされる前に食べさせられたのは、干し苺だった。

妖怪の章

Guest編

鬼太郎に襲いかかった凶悪な妖怪や悪魔たちや、
また、ともに悪の妖怪をこらしめたり、人間を救った仲間たち。
全4部と劇場版などにゲストとして登場した妖怪・全374種、724体を一挙紹介。



この妖怪カタログの使い方

このコーナーは、ゲストとして登場する妖怪を五十音順に掲載している。68年放映作品を「第1部」および「60年代版」、71年放映作品を「第2部」および「70年代版」、85年放映作品を「第3部」および「80年代版」、96年放映作品を「第4部」および「90年代版」と表記。なお、第1部と第2部は連続した作品とみなしている。劇場版は以下のように略している。「ゲゲゲの鬼太郎」=劇「ゲゲゲの鬼太郎」、「妖怪大戦争」=劇「妖怪大戦争」、「最強妖怪軍団!日本上陸!!」=劇「最強妖怪」、「激突!! 異次元妖怪の大反乱」=劇「異次元」、「大海獣」=劇「大海獣」、「おばけナイター」=劇「おばけナイター」、「妖怪特急!まぼろしの汽車」=劇「汽車」。掲載は、上から順に「妖怪名」「現代に残る伝承や伝説など」「各シーズンの劇中での行動」「原作との相違など」となっている。便宜上、五十音順ではない位置にある場合も、なるべく正しい位置の近くに置くよう心がけた。各シーズンで呼び名の違う妖怪もあるが同じ表記として統一。そのつど本文のなかで異なった名を明記し、劇中で名前が明かされない妖怪に関してはシナリオを参考にした。外見的に違う妖怪もその役割やストーリーなどで同じ妖怪としてまとめている。また、その他大勢として登場する妖怪はできる限り掲載したが、誌面の都合によりカットしている場合もあるので了承願いたい。なお、原作との対比は編集部が独自に調査したもの。

aoko

青子
【あおこ】

70′



地獄の底から、人間界で働く夫・死神を心から心配

死神の妻。霊魂集めのために人間界にいる夫の死神と連絡が取れず、息子の骨太と地獄の底を抜け出してきた。夫と再会して喜ぶが、パシャと組んで、「みずからの手で人間を殺して霊魂を集めてはいけない」という死神の掟(おきて)を破る夫の姿に涙する。パシャが鬼太郎たちに倒されたことで死神が霊魂集めのノルマを達成し、一家はそろって地獄へ帰っていくのだった。第45話

原作コミックでは？

「涙ののるま」ほか「サラリーマン死神」シリーズに登場。「涙ののるま」では夫である死神に手違いでおなかに宿している子を殺される。

akaatama

赤頭
【あかあたま】



怪力を授けてくれる神のような存在

『因伯伝説集』に、鳥取県にいた怪力の男・赤頭と、それをしのぐ怪力を見せつける小僧（妖怪と思われる）の逸話が残っている。アニメ内の赤頭は、この小僧のデザインに近い。

知恵の実を使い、人間とかぶその衝突・滅亡を図る

80′



騒音と公害から逃れ、月に移り住んだ妖怪。月にまで侵攻してきた人間に怒り、月に生える知恵の木の実をかぶそに与えて地上へ送る。急速に進化したかぶそと人間を衝突させようと試みるが、かぶその自滅により失敗。みずから知恵の木を使って、地球に降り立つ。第93話

能力◎数珠を飛ばして攻撃。相手の動きを止める「不動金縛り」。

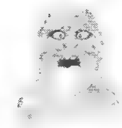
最後◎人間の自滅を予言しながら月に帰る。

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

akashita

赤舌
【あかした】



津軽の水争いを解決した正義の妖怪

鳥山石燕(とりやませきえん)の『画図百鬼夜行 前編 風』に登場する赤舌は、毛むくじゃらで爪がある、黒雲のような姿だ。山田野理夫の『東北怪談の旅』にも、津軽の農村の水争いを解決した話を掲載。

90′



なんと２段変身！　人間と心通わせ改心し帰っていく

水を自由自在に扱う北国の妖怪。始めは小さな毛の塊のような姿だったが、人間の友だち・涼子のピンチを救うべく、水を飲んで巨大化。涼子のいる東京へ向かった。清流で暮らしているため海水は猛毒になるほか、暑さと酸素不足が苦手。第49話

能力◎水を自由に扱い、水分を吸収して巨大化する。長い舌を武器として使う。

最後◎暴走を止められず、自滅しようと海へ向かうが、涼子の願いが通じて元の小さな赤舌に戻る。

60′〜70′



鬼太郎とその仲間たちを石にする

60年代は「世界妖怪ラリー大会」の審判長として登場。舌をチェッカーフラッグ模様にするほど積極的だった。第54話。70年代には、地上に王国をつくろうと画策する、水を自由に操る妖怪として登場。人間や妖怪の水分を吸い、吸ったものを胃液で石にして吐く。鬼太郎をも呑み込んだが、最後には鬼太郎の胃液で溶けて、体から水が大量に噴出。赤舌自身も流されてしまう。第31話

80′



千年王国を画策。ラリーの審判長も

骨女を使って、自分が支配する千年王国をつくろうと画策。だが骨女から鬼太郎を倒すべきだと言われて対決する。60年代と同じくラリーの審判長も務めたことも。第35、51話

能力◎水を自在に操る。鬼太郎たちを妖怪寄り合い所ごと飲み込んで水分を抜き、骨の塊となった妖怪を吐き出す。

最期◎炎の妖怪と協力した鬼太郎によって蒸発させられてしまい、地中にしみこんで眠りについた。

原作コミックでは？

[illegible]で鬼太郎[illegible]。最後は鬼太郎の胃液で溶ける。ラリーの審判長も務める。「赤舌」ほか。

akaname

あかなめ

【あかなめ】



風呂をしっかり洗えという教えが妖怪に

鳥山石燕の『画図百鬼夜行』に描かれた妖怪。特に石燕の解説はないが、『古今百物語評判』に古い風呂屋などに住む妖怪「垢ねぶり」の項があり、これがあかなめを示すと考えられている。

70′



2タイプが登場。巨大化や怪奇植物で人間を懲らしめる

東京湾に住む。人間が海に排気ガスや工場の煙、ゴミまで流すことに腹を立てマンモスフラワーを生やす。第8話。また第28話では、ゴミが増えることで生まれ、巨大化して東京の街を破壊した。一旦生まれると、すべてをゴミ化するまで自身でも制御が不能。

能力◎口から火炎ガスを放射。大砲などもすべてゴミにしてしまう。共存共栄のねずみやゴキブリも増え、人に襲い掛かる。

最後◎あかなめが街を汚す人間を懲らしめたと知り、鬼太郎と和解（8）。古代種（こだいだね）を体に植えられ、あかなめは大木に（28）。

80′



やはり巨大化！ 鬼太郎の味方をすることも

ステンレス風呂が増えたことに不満の鬼太郎の仲間。化学物質から生まれた未知の物質を食べ巨大化。第8、32、33、35、36、45、46、52、54、55、57、67、84、104、108話、劇「最強妖怪」

能力◎巨体を生かし東京を破壊。機動隊の攻撃も効かない強靭な体を持つ。また、長い舌を使って人間を食べてしまう。

最後◎巨大化した後、「豊かの木」の種を飲み込んで大きな木になった。木が縮むとあかなめも元の姿に戻る。（33）

90′



白溶裔（しろうねり）を守って風神&雷神と対決

風呂の汚れなどをなめてキレイにする妖怪。ねずみ男のもとに現れ、心を通わせる。巨大化した白溶裔を止めようとあかなめみずからも巨大化し、白溶裔の体をなめる。改心した白溶裔を風神・雷神からかばった。また、鬼太郎チーム対人間チームの野球試合も観戦。第9話、劇「おばけナイター」

能力◎吐く息でカビを作り出し、尻尾で触れたものにもカビが生じる。都市の汚れを吸収して巨大化することもできる。

原作コミックでは？

70年代の巨大化する話は『あかなめ』が原作。原作のほうが[illegible]意志を持って東京を破壊しようとしているように描かれている。

akamata

アカマタ

【あかまた】



蛇の化身か!?　沖縄に伝わる妖怪

沖縄に住むとされる妖怪。「美貌の娘がある青年に恋をするが、青年は蛇のアカマタが化けた妖怪だった」という物語が起源といわれる。また沖縄では、まだらの蛇のことを“赤又”とも言う。

90′



ジャングルを荒らす日本人に腹を立て、大海獣を操り東京を攻撃

バルル島の奥地に住む、南方妖怪のひとり。「生命の水」を求めてジャングルを荒らす日本人に怒り、やし落とし、チンポらと日本に総攻撃を仕掛ける。アカマタは、鬼太郎をゼオクロノドン（大海獣）に変えて操り、東京を破壊する。劇「大海獣」

能力◎口から煙を吐き、鬼太郎の妖気を吸い取った。また、口から吐いた煙で、人間の動きを止めることもできる。

最後◎鬼太郎のちゃんちゃんこに妖気を吸い取られて命乞い。鬼太郎に見逃してもらい、改心してバルル島へと帰っていく。

60′



日本を妖怪の国にしようと企む

やし落としとともに、軍艦に乗ってやって来た南方妖怪。妖怪未解放地区となっている日本の妖怪の地位向上のため、ねずみ男をたぶらかして鬼太郎の命を狙う。つねに他者に寄生する。第39話

能力◎手の平が吸盤になっていて、相手の生気を吸い取る。口から強力な粘液を吐き出し、相手の動きを封じる術を使う。

最期◎自分で吐いた粘液と砂かけ婆の砂で固まるが、ねずみ男に寄生し復活。鬼太郎の生気を吸いすぎ、ねずみ男の腹が破裂。

80′



腹を破ったのは、目玉おやじ

やし落とし、チンポ、キジムナーと来日した南方妖怪。ぬらりひょんと手を結び、日本妖怪の生活向上のため、鬼太郎を襲う。ほかのものに寄生して生きる。第108話、劇「ゲゲゲの鬼太郎」

能力◎口から粘液を出し、相手を石にしてしまう。ねずみ男に乗り移って鬼太郎の生気を吸い取った。

最期◎ちゃんちゃんこで粘液をはね返されて石に。ねずみ男に寄生し鬼太郎の生気を吸うが、目玉おやじに腹を破られてしまう。

原作コミックでは？

やし落としと2人で来日。ねずみ男に寄生し、鬼太郎の生気を吸う。日本に来た時は、老人の死体を使用していた。[illegible]

akanbou

赤ん坊

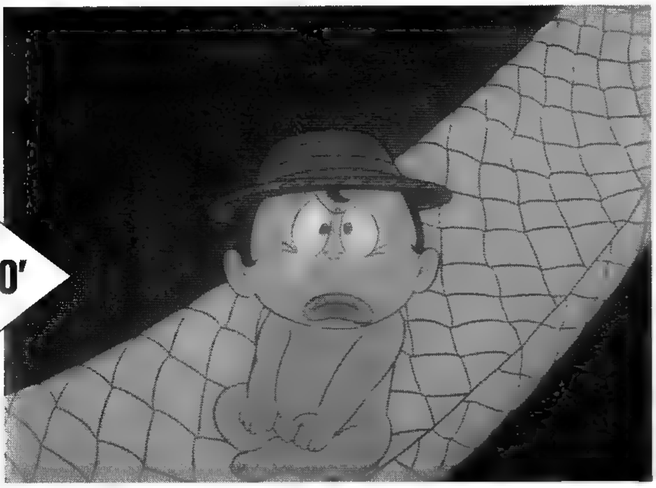


【あかんぼう】

赤ん坊を抱いているのはぬれ女？

磯女は、九州の海に現れる妖怪。人間の血を吸うとされている。だが、赤ん坊は抱いていない。また、川には濡れ女という磯女に似た妖怪もいて、赤ん坊を抱かせる妖怪としてはこちらのほうが有名。

60'



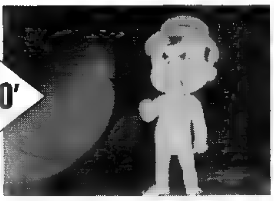
磯女の子どもで気が強く、ねずみ男に暴力も振るう

姿形はまったく似ていないが、磯女の子どもである。姿は完全に赤ん坊だが、言葉や態度は大人並み。磯女が子守に連れてきたねずみ男に、キックとパンチを浴びせる気の強さを見せた。昼寝にはハンモックを使用。ちなみに磯女は「坊や」と呼ぶ。第56話

能力◎鬼太郎にすごい力で吸い付き、海へ引きずり込んだ。口を大きく開け、鬼太郎を頭から丸呑みにしてしまう。

最期◎呑み込んだ鬼太郎が大きくなり、腹が膨張。それを抑えようとした磯女とともに、妖力を使いきり石になってしまう。

80'



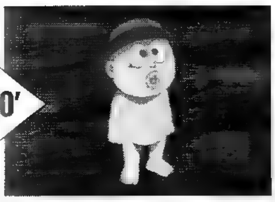
海を汚す人間に制裁を加える

レジャーランド計画に腹を立て、磯女とともに人間を襲う。生意気だが、母親を求めて泣き、「赤ん坊は悪いことしちゃダメだ」と鬼太郎に叱られた。第7、70、85、98話、劇「最強妖怪」

能力◎石となって相手を溺れさせ、磯女が呑み込むというコンビ技が得意。鬼太郎を頭から吸い込んでしまった。

最後◎呑み込んだ鬼太郎が腹の中で膨らみ赤ん坊が爆発。が、砂かけ婆が破れた腹を縫い合わせて復活した。磯女と海に帰る。

90'



母親の磯女とは一心同体

母親の磯女と洞穴に住む妖怪。小さな体をしているが、妖力も態度も大人のような赤ん坊。磯女とは一心同体で、磯女が頭を叩かれると同じように赤ん坊も痛がる。第68話

能力◎相手に引っ付いて、子泣き爺のように重い石になることが可能。お約束どおり、鬼太郎を丸呑みにしてしまった。

最期◎母親の磯女とともに、ちゃんちゃんこに包まれて妖力を吸われ消えてなくなる。磯女がさらっていた人間たちも救出。

原作コミックでは？

石になったり、凄まじい吸引力は原作と同じ。原作では磯女の本体として登場。磯女に対しては[illegible]口調だ。「磯女」

devil Buer

悪魔ブエル



【あくまぶえる】

ソロモン王の作に登場する有名な悪魔

ソロモン王の作とされる、17世紀の魔術書『レメゲトン』の第1部に登場する72人の悪魔のひとり。語学と哲学、論理学を教授し、手で触れるだけですべての病とケガを治すことができる。

70'



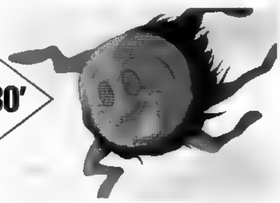
人間に化け手を付け替える、西洋悪魔軍団の指揮官

悪魔の軍団を指揮する西洋悪魔。「難儀している者を難儀させる」のが趣味で、人の手を付け替え、突然殴らせるといった悪さをする。普段は人間の姿をしているが、その正体はマントを着けた小鬼のようなスタイルだった。なぜか関西弁。第33話

能力◎手を付け替えられた人は、突然手の自由を失って暴力や犯罪を行うようになってしまう。

最期◎ヤカンズルに、悪魔軍団とともに吸い込まれてしまう。呑み込まれたブエルは、胃に落ちて息絶える。

80'



悪魔の手下を集めるため来日

人間の手を付け替えて悪事を働かせ、生きる希望をなくした者を悪魔にする。一声かければ、悪魔の20～30は集まる実力を持ち、2000人の手下を作るのを目標に日本にやってきた。第63話

能力◎目から怪光を放ち、生きる希望をなくした人間を悪魔に変えてしまう。悪魔軍団を指揮し、鬼太郎を襲う。

最期◎悪魔軍団とともにヤカンズルに呑み込まれ、腹の中で鬼太郎と対決。空中を飛び鬼太郎を翻弄するが、電撃を食らい絶滅。

90'



ヤカンズルの体内で鬼太郎と対決

人間の手を乗っ取り、何度も戦争を起こさせた残忍な悪魔。ぬらりひょんと手を組む気もなく、ひとりで天下をとるつもりでいた。普段は外国人墓地に住んでいる。第69話

能力◎人間の手を付け替える、悪魔の大群を呼ぶといった従来の能力に加え、強力な光線を発して鬼太郎を攻撃をした。

最期◎鬼太郎がヤカンズルを呼びさまし、悪魔の大群と一緒に吸い込まれる。ヤカンズルの胃の中で鬼太郎と格闘するが破れる。

原作コミックでは？

悪魔五十四軍団を指揮する悪魔。「悪魔の手」という悪事を働く手を人に付けて苦しめる。ヤカンズルに食べられる。「悪魔ブエル」

devil berial

悪魔ベリアル

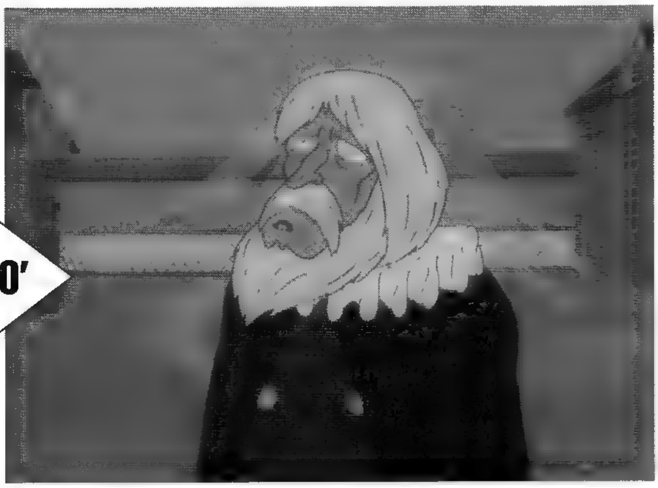
【あくまべりある】



人間を堕落させて、その魂を手に入れる

『旧約聖書偽典』では、ノアの箱舟の数代前に、地上へ知識をもたらすために天から降りた天使の長のひとり。人間を誘惑して堕落させ魂を自分のものとする。ミルトンの『失楽園』にも登場。

60′



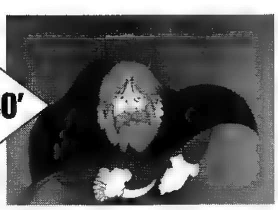
水爆並みの魔力を持つ、ポルトガルの悪魔

明治元年に、日本を植民地にして帝王になるためポルトガルから来日したが、カラス天狗によって魔力を封じられ手品師として暮らしていた。ねずみ男をだまして魔力を取り戻し、鬼太郎に挑む。魔力は水爆ぐらいの威力があるらしい。第30話

能力◎魔方陣でからす天狗を地中に封じ込め、雷や地震など自然を自由に操る。2本の逆立った髪の毛で妖気を感じることが可能。

最期◎目、口、耳、手、足を分解し力を100倍にして攻撃するが、本体の部分を鬼太郎の指鉄砲で撃たれて絶滅。

80′



日本妖怪を多彩な術で翻弄

安政元年、日本を征服しようとやってくるが、カラス天狗一族によって魔力を封じられた。魔力回復後は、自分を倒そうとする鬼太郎たちを察知し、迎え撃つために山道を疾走する。第54話

能力◎60年代の技に加えて、体から電気を発し子泣き爺の抱きつきを阻止。呪文を唱え、ぬりかべを小さくした。また、相手の能力を奪い使用することが可能。「岩石巨人化」の秘術を使った。

最期◎耳の部分にある心臓を剣で突かれて粉々になってしまう。

90′



ねずみ男のおならが敗因!?

王になるため黒船とともに来日したが、カラス天狗に力を封じ込められてしまう。140年もの間、そのパワーを探し求める。パワーが戻る前は、出店でマジックを披露していた。第44話

能力◎手、足、口、耳、目をばらして、その力を100倍にして攻撃する「百倍黒魔術」。指先からピンクの光を出し、寺を消す。

最期◎ねずみ男のおならで本体がばれ、鬼太郎のちゃんちゃんこに閉じ込められて消滅してしまった。

原作コミックでは？

明治元年に来日。黒い鳥の[illegible]を握り、悟を落とすこともできる。各パーツの本物を見抜かれ、指鉄砲で撃たれ死亡。『悪魔ベリアル』

asasabonsan

アササボンサン

【あささぼんさん】



80′



ドラキュラとともに、妖怪病院の血液を狙う南海妖怪

「吸血妖怪樹」の復活のために恐山のスーパー血液を狙うべく、ドラキュラの下に集まった、南海の吸血妖怪一族のひとり。小唐笠島で、ボス・ドラキュラによって、恐山からスーパー血液を奪われ一瞬気が抜けた砂かけ婆たちを崖の上から襲う。60年代のアササボンサンは座ったままだったが、このアササボンサンは二本の足で歩行する。そのアフリカの土産物のような風貌から、ねずみ男に「デク人形野郎」と呼ばれる。舌は出したままで、肩を震わせて笑う。体はグリーンを基調とした縞模様だ。第96話

能力◎口から粘着力のあるゲルを吐き、相手の動きを封じる。ねずみ男、砂かけ婆、子泣き爺、呼子が、この犠牲となった。

最期◎登場後、2分足らずでぬりかべの中に塗りこまれてしまう。

60′



木の上から不気味に笑う吸血妖怪

吸血妖怪軍団のひとり。ドラキュラ博士とともに、吸血妖怪樹のため、恐山の妖怪血液銀行を襲撃した。小笠原に攻め込んだ日本妖怪を木の上から迎え撃つ。第52話

能力◎甲高い笑い声とともに登場。木の上に座り、口から樹液のようなものを吐いて日本妖怪の動きを止めた。

最期◎一反もめんに捕まり、木からまっさかさまに落下。地面に上半身を突っ込み倒された。

90′



アジア最強妖怪三人衆！

ランスヴィル、ペナンガランと並ぶ、アジア最強吸血妖怪三人衆のひとり。ぬらりひょんに利用され、「吸血樹」を守るためにネコ娘たちと戦う。威張ってはいるが間抜けらしい。第104話

能力◎口から紫色をしたスライム状の粘液を吐き出し、強力な粘着力によって相手の動きを封じる。

最期◎日本妖怪たちを倒しに行き、返り討ちにあう。退却し、吸血樹の元へ向かうが吸血樹に血を吸われてしまう。

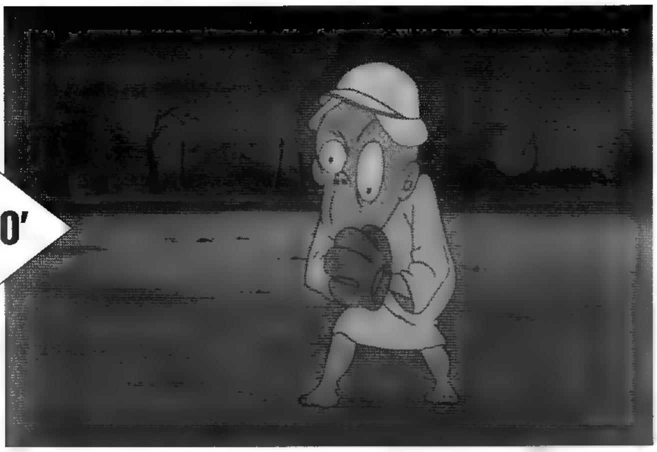
原作コミックでは？

ドラキュラに呼ばれ、妖怪血液銀行を襲う。「おほほほほほ」と笑い、鳥もちより粘り気がある樹液を吐き攻撃。『血戦小笠原』

akanbee

赤ん平

【あかんべえ】



60′

まったく目立たなかった、妖怪チームのライト担当

鬼太郎が、ドン平たちから妖怪バットを取り戻すために行った野球の試合に、妖怪チームとして参加。妖怪チームでは、ライトを守る。溶けたような顔立ちが印象的な妖怪で、なぜ“あかんべえ”という名前なのかは不明だ。ほかのチームメイトにはそれなりに活躍の場面もあるのだが、これといった働きもないまま、ニワトリの声に驚き去っていった。第1話

原作コミックでは？

[illegible]

ashiarai

足洗い

【あしあらい】

人を驚かすために現れる、足だけの妖怪

江戸時代の怪談『本所七不思議』のひとつ。泥だらけの大きな足が天井から現れ、足を洗ってやると消える「足洗邸」が元ネタ。アニメでは体も見えたが、怪談には体は登場しない。

本所七不思議の最後に待ち受ける巨大な足



80′

ぬらりひょんが仕掛けた「本所七不思議の刑」の第七の不思議、足洗い屋敷で待ち受ける妖怪。七不思議最後にして最大の仕掛け。巨大な足で天井を破り、「足洗ってくれ～」と叫びながら鬼太郎を踏みつぶそうとした。第108話

能力◎巨大な足で踏みつけるほか、天井裏に隠れる本体の目からは強力な光を放つ。暗闇の中では実体がない。

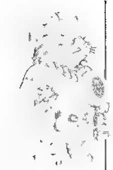
最期◎妖怪たちに動きを封じられ、日光を浴び骨になってしまう。

原作コミックでは？

[illegible]

ashimagari

あしまがり



【あしまがり】

正体は、足にまとわりつくタヌキ？

四国・香川県に伝わる妖怪。人の足に絡みつき、歩くのをじゃまする。姿は見せず、タヌキの仕業であるともされている。“まがり”とは、四国の方言で“まとわりつく”を表す言葉。



70′



気体生物を鐘と太鼓で操り、酒のためなら何でもする

見た目はタヌキそのままの妖怪。大酒飲みでつねに飲む酒に困っており、ねずみ男に妖怪花と、妖怪花を助けホテル建設をじゃまする鬼太郎の退治を酒で雇われた。自身にはさほど力がないのか、操られて自分を襲う「気体生物」に対して何もできなかった。第5話

能力◎鐘と太鼓を交互に鳴らし、進ませたい方向に念じて操る気体生物で攻撃。これに捕われたものは消されてしまう。

最期◎酒を大量に飲んだ勢いで気体生物の操り方を喋ってしまい、鬼太郎の下駄に鐘と太鼓を操られて逆に食われてしまった。



80′

ぬらりひょんの用心棒として参上

妖怪花が咲く土地を遊技場にしようと企むぬらりひょんが、用心棒として雇った妖怪。酒が大好物で、酒のために用心棒をしている。強力な妖力で、鬼太郎をピンチに陥れた。劇中では一度もあしまがりとは呼ばれることはなかった。第45話

能力◎手に持った木槌で相手を攻撃。また、太鼓を鳴らして鬼太郎を竜巻に巻き込み、地獄へ飛ばそうとする。

最期◎リモコン下駄が太鼓を叩き、竜巻に巻き込まれ飛ばされる。

原作コミックでは？

[illegible]

azukiarai

小豆洗い



【あずきあらい】

小豆をとぐような音を立てる妖怪

「小豆洗い」ともいう。川や井戸などの水辺で、小豆を洗うような音を立てる妖怪。ほぼ全国に出没しており、歌を歌うという地方もある。津村淙庵『譚海』など、江戸時代の随筆にも登場。

90′



妖怪ポストに「周りに人がいなくなり寂しい」と相談

「小豆とぎ」と呼ばれる。山の中で歌を歌いながら小豆を洗う気のいい妖怪。ねずみ男の紹介で、和菓子屋で働き成功するが、見せ物にされていることに怒り、ほかの小豆妖怪とともに人間を監禁する。第34話、92話、98話、99話、112話、劇「おばけナイター」

能力◎歌を歌いながら小豆を洗う。彼が洗った小豆を使ったあんこで作ったダンゴは、大行列ができるほどの人気に。

最後◎人々を監禁するが「本当は人を食ったことはない」と言い解放し、田舎の川を紹介され、幸せに小豆をとぐ。

60′~70′



丹波の山奥から東京に出稼ぎに来る

丹波の山奥に住む妖怪。大好物の小豆が凶作のため、電車に乗って上京し、スリラーショーでバイトしていた。ねずみ男が作った「妖怪ショー」に出演するが、心ない客に石をぶつけられる。第10話では、西洋妖怪と戦うために墓場に集合したが、結局戦いには参加しなかった。第7、10話、70年代・第3話

能力◎川で小豆を洗い、そのシャキシャキという音で人を脅かす。しかし、鬼太郎にも客にもあっさりと見つかる。

80′



作中随一の“武闘派小豆洗い”

小豆の凶作で神様に奉納できないと悩み「食べると人間の養分を吸い、顔から小豆が生える」小豆を人間に食べさせて、小豆を収穫しようとする。第32、54、75話

能力◎手に持った桶を回転させることで、どんな攻撃でも防御できる。鬼太郎のリモコン下駄、毛針もブロックした。

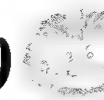
最後◎畑怨霊を鬼太郎ファミリー、小豆連合軍が協力してやっつける。ゲゲゲの森で小豆を作ればよいと言われ、喜ぶ。

原作コミックでは？

「小豆連合軍」に、小豆ばばあ、小豆はかりと一緒に小豆一族として登場。ねずみ男の金もうけの片棒を担がされる。

azukihakari

小豆はかり

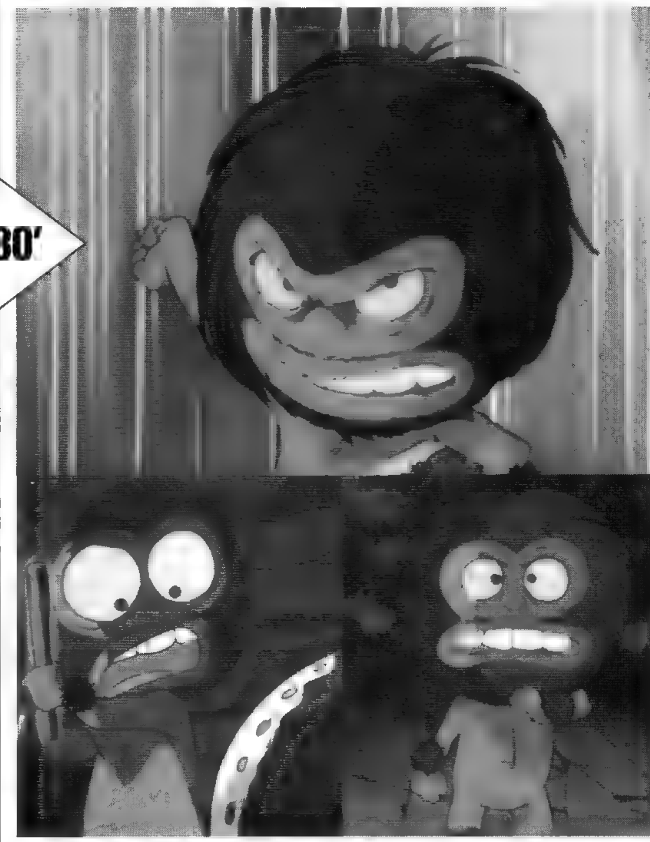


【あずきはかり】

妖怪というより騒霊に近い存在

江戸時代の『怪談老の杖』より。麻布の武家屋敷に出た妖怪で、寝ている間に天井をどしどし踏む音、小豆をまくような音、庭先で下駄を鳴らす音などを出す。音だけで特に悪いことはしない。

80′



“小豆”を武器に鬼太郎と戦う！

小豆連合軍のひとりとして登場。人の体から養分を取って小豆を作ろうと企むが、鬼太郎に阻止される。小豆を投げて戦うほか、3人の“合体技”では一番下の礎の役を担当。劇場版では鬼太郎の呼びかけに応じて集まるが、西洋妖怪との戦いに臆して、戦わずして消えていく。第75話、劇「妖怪大戦争」

能力◎手にしたザルから小豆を投げて、相手を怯ませる。そこそこの破壊力で、ネコ娘や砂かけ婆を怯ませた。

最後◎自分が「小豆の神様」だとダマしていた畑怨霊をやっつける。小豆作りにゲゲゲの森を提供してもらう。

90′



小豆とぎを追って上京し、和菓子屋で小豆を量る

山の中で小豆を量る妖怪。小豆洗いとともに和菓子屋で働き成功する。見せ物にされていることに怒り、人間を監禁する。第34話、40話、108話、112話、劇「おばけナイター」

能力◎歌を歌いながら小豆を量る。彼が量った小豆を使ったあんこで作ったダンゴは、大行列ができるほどの人気。

最後◎小豆三妖怪で人々を監禁するが、結局危害を加えずに解放する。田舎の川を紹介され、幸せに小豆を量って終幕。

原作コミックでは？

「小豆連合軍」に登場するが、名前は出てこない。彼が叩く妖力下しの太鼓の音で、人々の顔は元に戻った。

azukibabaa

小豆ばばあ

【あずきばばあ】

埼玉県中心の小豆とぎの老婆バージョン

埼玉県大宮、入間市などに伝承がある、小豆洗いの老婆バージョン。川越市の廃寺では雨の降りそうな夕方にギショギショ、ザクザクと小豆をとぐ音を立てたという。子脅しの妖怪としても登場。

80′



妖力を込めた太鼓で鬼太郎を苦しめる

小豆の凶作で「小豆の神様」（畑怨霊が化けている）に奉納できないと悩み、「食べると人間の養分を吸い、顔から小豆が生える」小豆を人間に食べさせ、小豆を収穫しようとする。妖力を込めた太鼓で、鬼太郎に小豆を生やして苦しめ落とし穴に落とし、小豆とぎ・小豆はかりとの合体攻撃で鬼太郎を苦しめた。第75話

能力◎太鼓を叩いて、鬼太郎に生えた小豆の成長を促して苦しめる。３人での合体攻撃では一番上から実際の攻撃を担当。

最後◎鬼太郎のリモコン下駄をみぞおちに食らい、負けを認める。畑怨霊を鬼太郎ファミリーと協力してやっつける。

90′



見せ物になっている小豆妖怪に憤慨

小豆洗いたちを訪ね、彼らが見せ物と化しているところを見て怒る。２匹を扇動し、見せ物にした人間たちや助けに来た鬼太郎も捕らえる。第34、98、99、112話

能力◎小豆を投げてねずみ男を攻撃。小豆のツルを操り、人間たちやねずみ男、鬼太郎らをしばりつけた。

最期◎小豆洗いや小豆はかりが結局人を食えずに解放するところを見て泣く。田舎の川を紹介され、３匹で移り住む。

原作コミックでは？

「小豆連合軍」に登場するが、名前は出ない。「妖力示しの太鼓」の方を[illegible]など、気のいい妖怪のようだ。

anaguranyudo

穴ぐら入道

【あなぐらにゅうどう】

80′



心優しい妖怪だが人間の勝手さに怒る

ぼた山の廃坑跡に住む。妖怪を生け捕りにしテレビ局に売って儲けようとする人たちにだまされ、冷蔵庫に入れられて連れ去られる。光に弱いためスポットライトに参ってしまい、顔を覆ってスタジオから飛び出し地下鉄に逃げ込む。地下鉄での事件までショーアップ化し、麻酔銃を使って自分を捕まえようとする人々に激怒。手下の大グモを呼び出して人間を襲わせ、助けに来た鬼太郎も襲わせる。穴ぐら入道を人間からかばおうとした女性が負傷したため、抱き上げて人間のもとに返そうとする。第64話

能力◎口から冷気を出して、物を凍らせる。手下の大グモを呼び出し、尻から出した糸などで人を襲わせる。

最後◎人間たちが鬼太郎の吸わせた「良心カビ」で改心したため、怒りを収め円満解決。カラスコプターでぼた山に帰る。

60′



穴倉に住むおとなしい妖怪

ぼたもち山の洞窟に住む、炭鉱に迷い込んだ人間を助けたりするいい妖怪。クモの畑を作り暮らしている。マンガ一家の親分にだまされ、見せ物にされそうになる。51話

能力◎口から冷気を出し、またその冷気を洞窟の天井に吹き付けて冷たい雫を垂らす。大声で相手を驚かす。

最後◎良心カビで改心したマンガ一家の面々によって、元の住みかに返してもらう。しかも冷蔵庫付き。

90′



山神山を守るため工事現場を襲う

山神山に住むおとなしい妖怪。人間のために住みかを追われ続け、またトンネル工事で汚されることで怒りが爆発。工事現場を襲い、工事を中止させようとする。107話

能力◎病虫をあやつり、人々の精気を吸う。口から冷気を吐き、相手を凍らせる。大百足に乗り鬼太郎たちを攻撃。

最期◎山神山から水が噴出したので、村を救うために大百足とともに水を防ぎ、石になってしまう。

原作コミックでは？

「穴ぐら入道」で登場。一見恐そうな風貌だが、おとなしい性格で、屋外に弱い。60年代が原作に近い。

aburasumashi

油すまし【あぶらすまし】



熊本に伝わる妖怪、“油ずまし”

『天草島民俗誌』によれば、熊本県天草市栖本町と本渡町を結ぶ、草隅越(くさずみごえ)という峠に現れる妖怪。本来は“油ずまし”というのが正しい。柳田国男の『妖怪談義』でも、その名を確認できる。

80′



地獄に関する豊富な知識で、鬼太郎の地獄旅をサポート

子泣き爺のような蓑を着た、鬼太郎の仲間のひとり。知名度もあり戦闘能力も高いと思われるのだが、じつは目立った活躍はしていない。第８話では「油を少し分けてくれんか」と人間の前に現れ、サラダオイルを渡されて「菜種油じゃなきゃここを動かん」とダダをこねたこともあった。「地獄編」からはレギュラーとなり、鬼太郎たちと地獄界へ同行。サラメイヤの鳩や三途の川、針の山といった地獄に関する博識ぶりを披露する。閻魔大王にも顔が利き、地上を求めて地獄を旅する鬼太郎一行のよきガイドとして活躍した。第６、８、91、109～115話

90′



無口で目立たぬダメ妖怪？

砂かけ婆の経営する「妖怪アパート」の住人。そのため、妖怪運動会や人間対妖怪の野球試合観戦と、行事のほとんどに顔を出している。そのわりには無口な妖怪で、他の妖怪とはあまり会話をすることがない。おりたたみ入道に食べられ、黒髪切には提供する髪もなく、にせの鬼太郎から妖怪アパート前の掃除を命じられるなど、ダメな妖怪の印象が強い。第36、40、92、95、108、112話、劇「おばけナイター」

原作コミックでは？

ゲゲゲの森の村長。将棋好きのとぼけたイメージだが、いざとなると術を使い悪妖怪と対決。『新編ゲゲゲの鬼太郎』からレギュラー化

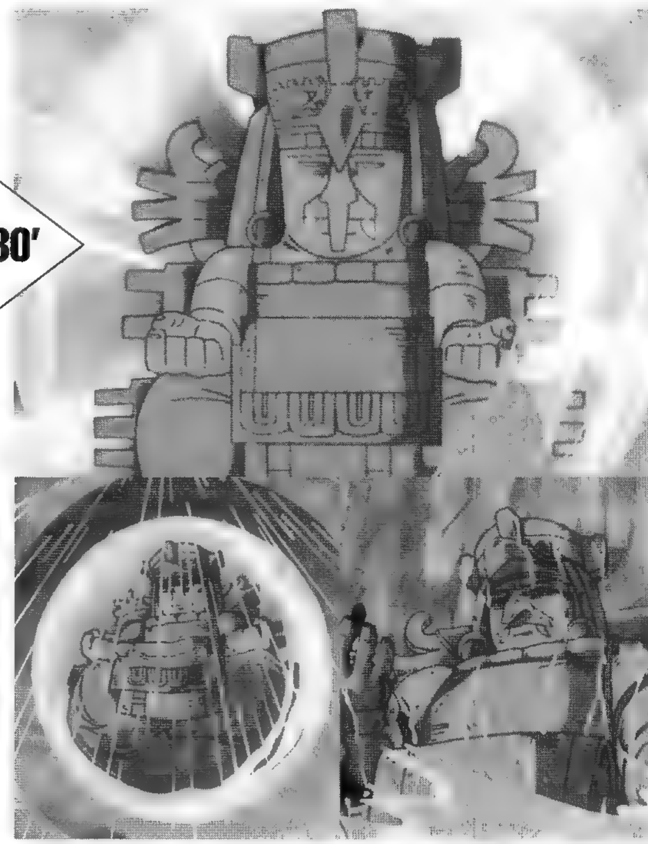
yumuchac

雨神ユムチャック【あまがみゆむちゃっく】

マヤ神話に登場する雨の神

ユムチャックは、メキシコのユカタン半島に伝わるマヤ神話に出てくる、雨と雷を司る「雨神チャック」が語源。長い鼻と大キバが特徴的で、涙を流す豊穣の神として表される。

80′



ユートピアの建設を願うマヤ族の雨神

マヤ族の神。はるか昔、人間が永遠に、幸せに暮らせる国「ユートピア」の門番として、小笠原の魔矢ヶ島にいる雨降り小僧を選出。ユートピアの鍵となる呼笛を託して、その姿を消す。しかし、ユートピアの宝を手に入れんとする内田によって門が開かれ、島の女性・カルメンの笛の音に応え、再びその姿を現す。ユートピアを汚された怒りにまかせ鬼太郎たちにまで襲いかかるが、カルメンの犠牲によって怒りを沈める。カルメンによれば、洪水を起こすことも可能なようだ。また、マヤ族では雨神ユムチャックに生け贄を捧げていたが、本来は人間の幸せを願って雨を降らせてくれる良神である。第83話

70′



怒りで雨を降らせなかった

古代マヤ文明を支配した神。ユカタン半島チチェン・イッツアの町の中心にある、「泉の源」の隠された泉に住むといわれる。マヤ族の掟では、日照りが続くと雨神を鎮めるために16歳の娘と宝石をユムチャックの泉に奉げた。召された者は永遠の命を授かると伝えられている。「泉の源」にある宝を盗もうとした内田への怒りで雨を降らせなかった。姿を見せることはないが、変色させた泉に渦を発生させて内田を溺れさせる。

原作コミックでは？

鬼太郎以外の水木作品「雨神ユムチャック」が原作で、70年代は原作を忠実にアニメ化。ユムチャックは姿を現さない。

amanojaku

天邪鬼

【あまのじゃく】

人の心を読んでからかうのが好きな妖怪

伝承や昔話に数多く登場し、人の心を読み、物まねで人をからかう。その語源は、『古事記』などに登場する「天探女（あまのさぐめ）」という悪神の名が転訛（てんか）して、あまのじゃくになったとされる。



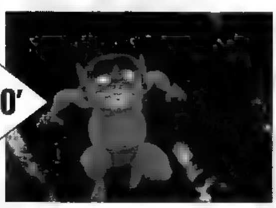
60'～70'

人間を困らせるのを生きがいにする強力な妖怪

600年前の大地震で岩の下敷きとなり伊豆の四海神社で眠っていたが、為助によって救出され２人で悪事を働く。さとりの妖怪とも呼ばれ、鬼太郎の攻撃を事前に察知する。薫製マニア。第47話。70年代は、百々爺と結託して鬼太郎を妖怪裁判にかけた。第３話

能力◎大木を根元から引き抜いて谷に落とし、土砂崩れを起こす怪力の持ち主。口から突風を吐く。相手の心を読む。

最期◎鬼太郎に巨大な岩を投げつけようとするが、鬼太郎のワナにはまり、岩を持ち上げたまま沼の中へと沈む。



80'

嫌がらせと薫製が大好き

石の下に封印されていたが、源次の若者たちへの怒りで復活。嫌がらせと納豆と薫製が大好きで、クサヤやカラスの薫製をレストランで注文した。第22、91、108、劇「最強妖怪」

能力◎相手の考えを読む悟りの妖怪で、鬼太郎の攻撃も鼻をほじりながらよける。

最期◎子泣き爺が爆弾を爆発、谷の岩の下敷きになる。その岩の上に、魔よけの毘沙門天を供えて封印されてしまう。



90'

金持ちの娘を誘拐し食べようとする

500年間封印されていた、千人力の妖怪。金持ちの娘を気に食わないと誘拐した。薫製が好きで、鬼太郎たちも桜の木を燃やした煙で薫製にしようとする。第26、106話

能力◎時間つぶしにパトカーを全滅させるほどの怪力の持ち主。ぬりかべと力比べもした。

最期◎ぬりかべとの力比べ中に、「封印用」の石風車と子泣き爺が落ちてきてつぶされ、魔よけの封印で封じられる。

原作コミックでは？

600年の封印を解かれ、千人力を豪語し悪事を働く。人の心を読む能力を持ち、鬼太郎も苦戦を強いられ燻製にされてしまう。「天邪鬼」

amamehagi

あまめはぎ

【あまめはぎ】

なまはげと類似する能登半島の妖怪

北陸の妖怪。正月や小正月、節分などに、人が仮面を被って家々を回る、国の重要無形民俗文化財に指定される能登地方の伝統行事。あまめとは、足などにできるたこのことを指す。



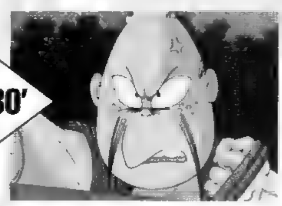
60'

頭のキノコをこまに変え、鬼太郎とこま合戦

北陸山中の「きのこ山」に住む、別名こま妖怪。明治20年に深山にこもり眠っていたがねずみ男に起こされ、世の中の変化に驚く。頭に生えたキノコのために、子どもの足の裏の皮を食べる。鬼太郎と妖怪こま試合を繰り広げた。第35話

能力◎妖怪こまを飛ばし、相手の自由を奪う。体を回転しながら地中に潜ることが可能。頭のキノコを食べると、あまめはぎの言うことを24時間は聞くようになる。

最後◎鬼太郎にやられ、頭に生えたキノコを全部とられて改心。



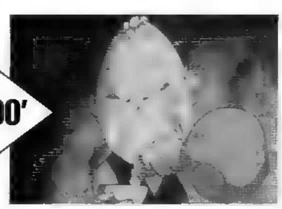
80'

またしても鬼太郎とこま試合

加賀の妖怪中に名を轟かす妖怪。明治20年に冬眠したが、ねずみ男たちが騒いだため目覚める。100年ぶりの世の中に驚き、車もテレビも妖術だと勘違い。第21、91話、劇「最強妖怪」

能力◎回ったこまを首や頭に刺し人を倒す。頭に生えた「いいなりダケ」を食べた人間は、一日言いなりになる。

最後◎自信のあるこまが、鬼太郎のオカリナや毛針で壊され観念する。鬼太郎に諭され、山へと帰っていく。



90'

子ども好きで、普段こまを使わない

こま神木に住む主。500年前にひきこもるが、大雪で神木が倒れて目覚める。昔から子供が好きで、もっと遊びたい一心でからこまに宿ってしまい、捨てられてしまった。第52話

能力◎人間をコマにして、それを使い攻撃。妖気を吸い取ってしまう「こま結界」で、鬼太郎の攻撃能力を奪う。

最後◎鬼太郎に負けて封印してくれと懇願。鬼太郎たちの霊力により、元どおりになったこま神木で静かに眠る。

原作コミックでは？

北陸の山中で、80年間眠っていた妖怪。目を回転させて相手を気絶させたり、こまを操って攻撃するなど技も多彩。「コマ妖怪」

amikiri

あみきり

【あみきり】

蟹のような手と、海老のような体

鳥山石燕の『画図百鬼夜行』に、「網剪」として描かれた妖怪。手は蟹のようなハサミ状で、海老のような姿をしている。夏に張る「蚊帳」を鋭い刃物で切ったような状態にするという。

80′



一反もめんに乗って現れた、鬼太郎の助っ人

比較的メジャーな妖怪だと思われるのだが、じつはあまり姿を現していない。第3部に鬼太郎の助っ人として、一瞬活躍する程度である。髪様にまったく歯が立たず捕らえられた鬼太郎の元に現れ、「任せとけ、ズタ切りにしてやる」と次々と髪様の毛を切っていく。あみきりは空を飛べる妖怪のイメージが強いが、このときは、なんと一反もめんに乗っている。また第52話では、ねずみ男から招き猫型の貯金箱を買い、文句を言っているメンバーのなかに、その姿を確認することができる。体は茶と緑で、髪の毛は白。目つきが悪く赤色だ。第52、72話

90′



競技は苦手!? 傍観者のあみきり

くちばしは鋭くとがっているが、特徴のひとつであるはずの手のはさみは小さく、鋭くもない。年に一度行われる「妖怪運動会」に参加している妖怪のひとり。競技を行っているのではなく、どうやら応援に来ているだけのようだ。ぬりかべのまわりに集まり仲間と楽しそうにしている。また、雨降り小僧に雨を降らせないでほしいと頼むときに、仲間とお願いをするシーンにも姿が確認できる。第40話

原作コミックでは？

原作でもほとんど姿を見せない。「死神大戦記」で、西洋妖怪を迎え撃つ日本妖怪のひとりとして、1カットのみ登場。

amefurikozou

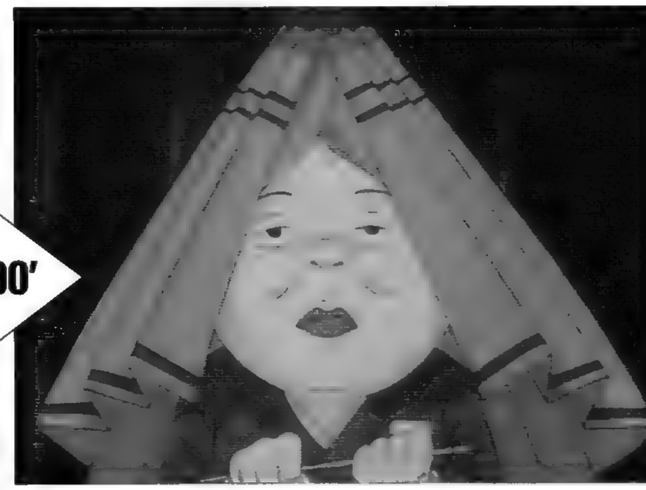
雨降り小僧

【あめふりこぞう】

中国の雨神に仕える子どもの妖怪

鳥山石燕の『今昔画図続百鬼』に描かれた妖怪。笠をかぶり、手には提灯を持って走りながら現れる。中国の雨神・雨師(うし)に仕えている侍童(じどう)といわれ、自身でも雨を降らせる能力を持つ。

90′



いい妖怪だが、雨を降らせる代わりに少年の魂を要求

山中に住み、雨を自由に降らせることができる妖怪。少年・正光の願いを聞き入れ、雨を降らせることを約束。しかし、その代償として正光の魂を要求する。約束を守るため正光をさらおうとして、鬼太郎たちと対決することになる。第40話

能力◎提灯を振り回して自由自在に雨を降らせ、提灯の火を消すと雨は止む。動きが素早く、ジャンプ力もあり。

最後◎正光をさらって逃げようとするが、ぬりかべに激突。鬼太郎たちに説得され魂をあきらめる。後に、妖怪たちの運動会に参加。

60′～70′



閻魔大王の命令を鬼太郎に相談

閻魔大王から悪い人間を殺せという赤紙が届き、人殺しはできないと鬼太郎の元へ相談に訪れる。代わりにネコ娘がこの役を引き受けるが、手を下すより先に人間は事故死してしまう。第20話。70年代では、チー率いる妖怪軍団と対決する、日本妖怪軍の一員として参加しているほか、第43話でも大勢の妖怪たちに交じってその姿を確認することができる。どちらとも、残念ながら目立った活躍は見せない。

80′



ユムチャックに、日本の雨妖怪の神に任命

日本の雨妖怪の神として、マヤ族の雨神ユムチャックからユートピアの門番を命ぜられる。本来はいい妖怪だが、ユートピアの宝を狙う内田にそそのかされ鬼太郎と戦う。第83話

能力◎小さな雨雲に乗って空中を移動。雨雲を呼び、強雨を降らせることができる。

最後◎カルメンの呼笛で雨神ユムチャックが飛来。ユムチャックの怒りを鎮めるため扉が閉ざされ、その中に残る。

原作コミックでは？

「妖怪大裁判」では、鬼太郎に不利な証言をする妖怪のひとり。「死神大戦記」では、妖怪軍団の一員として、その他大勢としてしか登場しない。

amefuritengu

雨降り天狗
【あめふりてんぐ】

原作オリジナルの石になる天狗

天狗にまつわる話は数多いが、実際に"雨に当たると石になる天狗"という民話などは、過去の"鬼太郎研究本"でもわからないと記されている。原作のオリジナルと思われる。

70'



目玉おやじを右目に移植しようとした天狗

風人峠に住む天狗。排気ガスで天狗の栄養「オゾンを含む霞(かすみ)」を汚され、スカイウェイを昼夜なく走る車に安眠を妨げられて怒り、人々を行方不明にさせていた。鬼太郎と戦い、右目を負傷。大山医師の執刀で、目玉おやじを移植しようとする。雨に当たると石になってしまい、その間は無防備に。第4話

能力◎団扇(うちわ)で暴風を起こし、その風に巻き込まれた人間は風化してしまう。風は、富士の風穴に送り込まれる。

最後◎鬼太郎と戦闘中に雨に当たり石になってしまうが、鬼太郎に右目を治してもらい戦いをやめた。

90'



人間と和解し、山へと去っていく

風吹峠に住む。排気ガスで天狗の妖力の素・カスミ草が枯れたことに怒り、峠を通る車をすべて吹き飛ばす。鬼太郎にやられた目を治すため、町の医者にかかる。第23話

能力◎団扇を振って突風を起こし、車を吹き飛ばす。雨に当たると岩に変化してしまう。

最後◎鬼太郎と戦い不利になるが、人間の優しさに打たれ、村でカスミ草を栽培することを条件に山へと帰っていく。

原作コミックでは？

[illegible]には60年代版と同じ。しかし、原作の天狗の住む峠は、[illegible]。[illegible]は、石になる[illegible]を深山に[illegible]。「雨降り天狗」

adobarana

アドバラナ
【あどばらな】

じつはマラリアを運ぶ蚊のこと？

昼間はジャングルの中に隠れており、夜になると出てきて戸口の隙間から入り、人間をマラリアにする。夕方になるとボーッ、ボーッと鳴く。部屋を煙で充満させておけば、入ってこない。

水木作品には貸本時代から登場している馴染みの顔

80'



「妖怪挑戦状」を使った、鬼太郎VS.女子プロレスラー・タンク松竹の対戦でレフェリーを務めた妖怪。負けた者は相手の言うことを聞かなければならないこの戦いで、「あくまで生身で戦うように。特に鬼太郎は、下駄に笛、ちゃんちゃんこや髪の毛針の攻撃は禁止」と、鬼太郎に対して念を押した。仮面をつけたような奇ッ怪な顔に卵形の目玉が特徴的だが、口調は普通の気のいい兄貴風。第80話

原作コミックでは？

「[illegible]」に登場。鬼太郎が挑んだプロレス勝負でレフェリーを務めた。そのほか「本所七ふしぎ」など多数に登場

ayakashi

あやかし
【あやかし】

海に現れる妖怪の類を総じて「あやかし」と呼ぶ

地域によって姿が異なり、海に現れる怪異の総称であることが多い。鳥山石燕の『今昔百鬼拾遺』には、アニメ同様海蛇のような絵で描かれ、船の上を二、三日かけて乗り越えると記されている。

妖怪皇帝の命を受け、東京都心を襲撃する巨大妖怪

80'



海上に現れて船を沈める、巨大な海蛇のような妖怪。東京を妖怪の国にしようとする妖怪皇帝の先兵として、都心に出現。「がしゃどくろ」とともに、街を破壊する。体の表面は油だらけ。ねずみ男の屁に一瞬ひるむ。劇「異次元」

能力◎人魚の姿になって油断させ、船に巻き付き沈めてしまう。鋭い牙で鬼太郎たちを襲う。

最期◎電線を噛んで感電。電気がショートし、火が起こり炎上。

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

angkor wat no bourei

アンコールワットの亡霊

【あんこーるわっとのぼうれい】

70'



４年に一度若い娘をさらう落ち武者の行列

4年に一度、うるう年の2月29日にアンコールワットに現れる日本人の落ち武者の行列で、毎年ひとりの若い女性を行列の中に巻き込む。その正体は現在の「死の村」を作った山田長政の息子・オインとその部下で、誤って殺してしまった娘・ワランを捜してさ迷い歩いているもの。鬼太郎と現地に来たネコ娘も腹を刺され、亡霊の行列の中に巻き込まれてしまった。第10話

原作コミックでは？

鬼太郎以外の水木作品「アンコールワットの女」では、女性が4年後に戻って来るが、[illegible]。

ichimokunyuudou



一目入道

【いちもくにゅうどう】

佐渡の国のイタズラ好きの水神様

『日本伝説叢書　佐渡の巻』では佐渡の加茂湖に住む水神として記載。馬にいたずらをするなど河童のような妖怪の性質を持つが河童とは書かれておらず、水神、加茂湖の主とだけある。

一目入道親方のもとに集う、気性が激しい河童集団

90'



皿のところに目のような模様がある河童。遊び場で暴れ、若者に襲い掛かるなど、気性が荒い。縄張りを広げるために水を止める、きゅうりを奪い食い荒らすなどの悪事をつくし河童村から河童たちを追い出そうとする。第42話。なお80年代にもさら小僧の手下として登場。第43話

能力◎特別な妖力はないが、木刀を使い集団で攻撃してくる。

最後◎鬼太郎に攻撃するも、歯が立たず退却する。

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

isoonna

磯女

【いそおんな】



後ろから見るとただの岩かもしれない？

磯に出現する女妖怪。『民間信仰辞典』などによると上半身は絶世の美女で、下半身が幽霊のようにぼやけている。また半身が竜、蛇という説や、後方から確認するとただの岩に見えるという説もある。

60'



怒ると怖いが子ども思いなのは人間と一緒

100年に一度現れる蛇のような長い体をした妖怪。渦を起こして船を襲い、伸ばした舌で釣り人たちを捕らえて蛸壷の缶詰にする。息子の"赤ん坊"と魔の岬の洞窟で暮らす。勝ち気で高いプライドを持っているが、息子には弱く、親バカぶりも見せる。第56話

能力◎海で渦を起こし、長く伸ばした舌で人をさらう。体を巻きつけ、締め付ける。髪を海蛇に変化させ操る。

最期◎鬼太郎を飲み込み膨らんできた赤ん坊の腹を押さえつけ、妖力を使い切ってしまったため、石になってしまう。

80



自分の住みかを守るため奮闘

海の幸を民と分け合い、縄文時代から住む場所が、レジャーランド建設で埋め立てられることに腹を立て、漁民を襲う。だが、鬼太郎に説得されて襲うのをやめ、鬼太郎や海の仲間とともに、開発会社社長と村長をこらしめる。第7、70、85、98話

能力◎人間を海の中に引きずり込み、呑み込んでしまう。

最後◎きれいな海が破壊される危機が去り、鬼太郎たちに感謝し、海の中から手を振り見送る。

90'



約束事はしっかり守るのが基本!!

海底の洞窟に住みついている蛇のような妖怪。いつも本体である"赤ん坊"を抱きかかえている。近くのほこらに人間は近づかない決まりがあったのだが、最近決まりが破られ、しばしば人間が来るようになったため、人間の子をさらう。第68話

能力◎素早く動き、長い舌で相手の体を締め付けるといった攻撃をする。さらに呑み込んで魂を吸い取る。

最期◎霊毛ちゃんちゃんこに包まれ、妖力を吸い取られる。

原作コミックでは？

鬼太郎の原作「磯女」では、赤ん坊が磯女の本体として描かれている。[illegible]でもその姿が確認できる。

ippondatara

一本ダタラ



【いっぽんだたら】

職業病が妖怪の元凶とされる

ダタラ（タタラ）とは、和製製錬法のひとつで足で踏み空気を送る鞴（ふいご）のことを指す。タタラ師は、職業から片目と片足を患うことが多かったため、この妖怪を生んだようだ。

90′



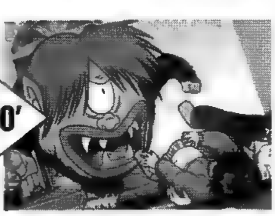
子ギツネを追いかける、ちょっと間抜けな一本足の妖怪

一本足、一つ目の妖怪。雪山で冬眠していたが、子ギツネたちにクマと間違えられいたずらされて目を覚ます。キツネを食べる妖怪としても知られ、いたずらした子ギツネたちを執拗に追う。外見とは裏腹に、ちょっと抜けたところがある。第51話。また、第79話では、チーに昼寝を邪魔され反物にされてしまう。

能力◎息を吸い込み一気に吐き出し突風を起こす。玉のように丸くなって転がり移動する。

最後◎空腹を満たそうと子ギツネを追いかけていたが、ねずみ男からもちをもらって満たされたため洞窟へ帰った。

80′



警察官に化けて鬼太郎を襲う

怪奇象を使って東京を乗っ取ろうと企む妖怪皇帝の手下のひとり。水木宅にかくまわれた鬼太郎を、警察官に変装して襲撃。鬼太郎の毛針で目をやられ退散する。劇「異次元」

能力◎一本足でドタドタと移動し、強烈なパンチで水木先生をノックアウト。

最期◎ねずみ男に殴られた挙げ句、妖怪戦車の野づち砲で吸い込まれてしまう。

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

idosennin

井戸仙人



【いどせんにん】

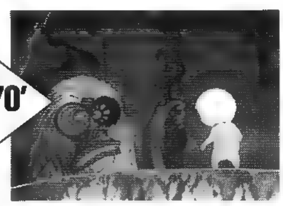
90′



中国妖術や、あらゆる妖怪医学に詳しい中国出身の仙人

1000年前に中国からやってきて、井戸で暮らす仙人。ものすごい形相とは裏腹に、あらゆる妖怪医学に精通し、現在は恐山にある妖怪病院の医者をしている。反物にされた妖怪たちの復元法や、ゼオクロノドン（大海獣）となった鬼太郎を元に戻す方法、妖怪ノイローゼの治し方などを目玉おやじたちに伝授。もちろん魚眼丸といった薬にも詳しく、水晶玉でチーの正体を見抜いたこともある。鬼太郎や目玉おやじたちは困ったことがあると、なにかと井戸仙人のもとを訪れて、助言を求める機会が多い。しかし、長年生きているせいか物忘れが激しく、いつも肝心なところを思い出せない。また、妖怪医学書を百々爺に盗まれるなど、抜けたところもあった。井戸仙人が井戸の側を離れることはほとんどないが、第106話など鬼太郎の入院先へ出向くこともあった。第80、94、97、106、劇「大海獣」

70′



メタンガスだけを食べて生きている

1000年前から、井戸でメタンガスを食べて生きている仙人。チーによって反物にされた妖怪たちを元に戻す方法を、目玉おやじたちにアドバイス。さらに、チーの正体が九尾の狐の弟だと、万能ガラス玉を使って見破った。反物を検分する際、目の部分の七色が変化する。目玉おやじとは、「わし」「鬼太郎の親父」と呼び合う仲。チーも井戸仙人のことを知っており、かなりの実力者らしい。第2話

80′



妖精の国の女王とも顔見知り

中国の妖怪に詳しい仙人。元は人間だったが、古井戸の中で1000年前からメタンガスだけを吸って生きている。チーによって、反物にされた鬼太郎たちを元に戻す方法を、目玉おやじらに伝授するなど、妖怪医学の知識が豊富だ。また、万能ガラス玉を使ってチーの正体を見抜き、妖精の国についても詳しい。「人間と妖怪友好盆踊り大会」では、ネコ娘にすり寄って盆踊りを踊っていた。第68、90、104話、劇「最強妖怪」

原作コミックでは？

アニメでは、あらゆる妖怪の病気について詳しいが、原作では「妖怪反物」にだけ登場。チーの正体を見抜き、妖怪反物を元に戻した。

iyami

いやみ

【いやみ】

鳥山石燕の創作した妖怪？

後姿は若い女だが、水面に映った顔は男のような「否哉」として、石燕の『今昔百鬼拾遺』に描かれている妖怪。しかし、妖怪の説明はなし。また、『東北怪談の旅』などにも登場。

70′



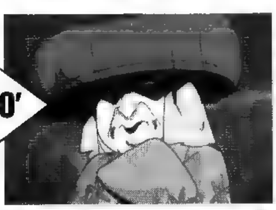
人間の“楽しみ”を食べて生きる、おかま妖怪

人間があくせく働いて手に入れた“楽しみ”のエキスを食べる妖怪。森の中にある住みかで冬眠しているところを子どもに起こされ、100年分の楽しみのエキスを吸い込もうとする。始終、オネエ言葉。人間の容姿は仮で、本体は一つ目の妖怪。第27話

能力◎口から「イロ気」という気体を出し、相手の妖力を封じる。鬼太郎もイロ気にやられ、腑抜けになった。

最期◎つるべ火により燃やされた家で、股間に火がつき「急所をやられた！」と言いながら消える。

80′



弱点は“きゃんたま”！

人間のやる気や楽しい気持ちを盗み、「楽しみエキス」を作る妖怪。別名エロモドキとも呼ばれる。人間によって冬眠を解かれ、「楽しみエキス」を吸うために人を襲う。第48話

能力◎イロ気を使い、それを吸った者は骨抜きにされてしまう。

最後◎鬼太郎に投げ飛ばされ正体を現す。「鬼太郎キック」により、“きゃんたま”を蹴られて気絶。その間に、氷の張る寒いところに連れて行かれ、再び冬眠させられる。

90′



寒い落語を披露する

人の“気”を抜き取る妖怪。「高座で大爆笑を取らせてみやがれ」と、神社で祈ったはなし家に取り憑き、「いやみ亭いやみ」という芸名で落語を披露する。本体は一つ目の妖怪。第61話

能力◎人間の正気や笑気を抜き取り、本音むき出しにさせる。鬼太郎も正気を奪われた。吸い取った気はひょうたんに。

最期◎正気を取り戻した鬼太郎が攻撃。一つ目の正体を現し、ちゃんちゃんこで体を巻かれて消えてなくなる。

原作コミックでは？

火を吐いて攻撃するいやみと、陰毛で攻撃するいやみの２タイプが登場。「いやみ」「妖怪いやみ」「セクハラ妖怪いやみ」

iwanabouzu

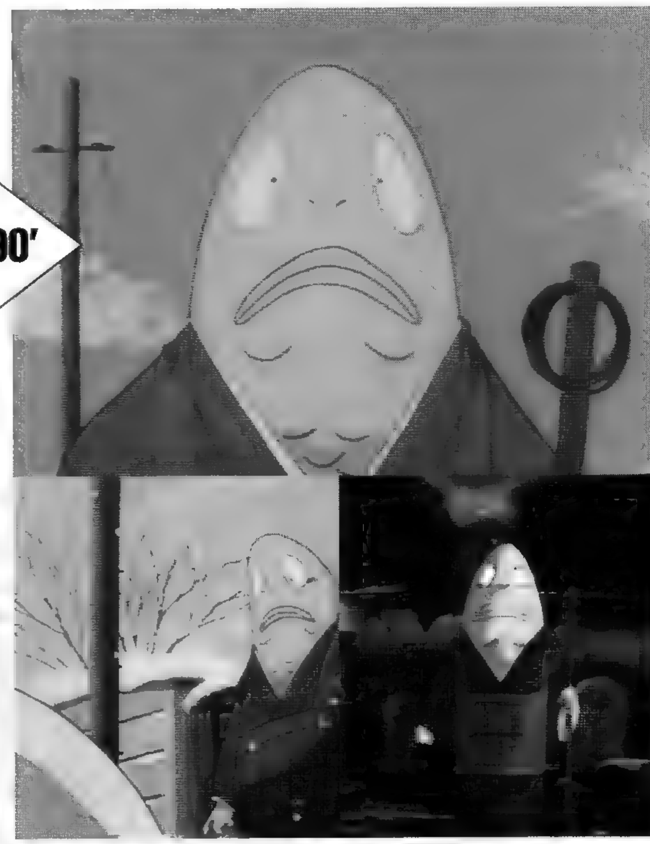
岩魚坊主

【いわなぼうず】

漁をやめさせようとする魚の化身

福島、東京、岐阜などで伝えられる妖怪。川で魚を取っていると「殺生はやめろ」と現れる。その名は『想山著聞奇集』などで見ることができる。場所によっては、鰻や鱈の場合もあるようだ。

90′



人の魂を天国に案内する徳の高い妖怪僧

鬼太郎と目玉おやじの知り合いの物静かな妖怪僧。修行により、人の寿命を言い当てることができる。少女・幸美の死を予言し、彼女と仲のよい心やさしい妖怪・オバリヨンに申告。幸美を喜ばせるため、彼女の姉に会わせたいと言うオバリヨンの願いを聞き入れ、幸美の魂が天国へ行くのを術によって１日遅らせる。そして、オバリヨンの働きで喜びを得た幸美の霊を連れて、天国へと消えていった。また、巨大な旧鼠を生み出した廃寺に巣くった悪霊たちを、目玉おやじに頼まれ、清めの念仏を唱えてこれを祓ったこともある。第59、103話

80′



モウリョウを念仏で封じ込めた

岩魚の体に、僧侶のスタイルという徳の高い妖怪。モウリョウの恨みの強さに苦戦する鬼太郎の元へ、目玉おやじが助っ人に呼んだ。一反もめんに乗って登場し、長い念仏を唱えてモウリョウを苦しめる。そして、後に「喝！」の一声とともに目を光らせ、強敵モウリョウを岩に封じ込めてしまった。とても物静かな妖怪で、お礼を言う鬼太郎たちに「いや、なんの……」とだけ応える。第53話

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

itaoni

板鬼



【いたおに】

切り裂かずに、押しつぶす殺人板

押しつぶして人間を殺す殺人板として『今昔物語』に登場する。平安時代では、妖怪の総称として「鬼」が使われていたため、この殺人板も「鬼」が板に変化したものだと考えられる。

一見ただの板切れだが、強靭な力を持つ異色の鬼

80′



板から釘のような8本の角が生えた妖怪。飛び回り、素早い動きで攻撃してくる。板の壁に溶け込むように隠れることもできる。山形屋の財産を狙う百々爺に命じられ、山形屋の人間を皆殺しにしようとする。第101話

能力◎侍の刀と同じ切れ味を持つ鋭い角。

最期◎燃え盛るお玉の魂に体当たりされ前後不覚になり、鬼太郎に蹴られて百々爺に激突。井戸の中に落下する。

原作コミックでは？

原作では「本所七ふしぎ」の刑を鬼太郎に執行する妖怪のひとり。鬼太郎の指鉄砲を受けて倒される。［妖怪　本所七ふしぎの巻］

ursetorel

ウーストレル



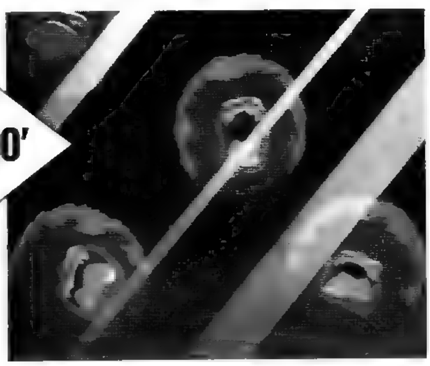
【うーすとれる】

死んだ子どもの霊が変化した悪魔

ブルガリアの悪魔。土曜日に生まれ、キリスト教の洗礼を受ける前に死んだ子供の霊がなったものとされている。牛の血を主食としているが、眠っている人間の血を吸うこともある。

コウモリ猫の体から集団で出現する西洋妖怪

90′



バックベアード配下の西洋妖怪。妖怪王となったぬらりひょんのため、日本各地で妖魔城出現の封印を解く鏡を探す妖怪のひとり。ぬらりひょんの妖力で生み出したダイダラボッチの肩に乗り、桜島を散策。第96、97話

能力◎コウモリ猫の体から出現。鬼太郎の体に張り付き、妖気を吸い取りカラカラにした。妖怪バスに張り付き、ネコ娘や砂かけ婆らを脅かした。

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

ushirogami

後神



【うしろがみ】

“後ろ髪”の語呂合わせから生まれた石燕の創作？

鳥山石燕『今昔百鬼拾遺』に「臆病者に付き、前にいるかと思えば後ろにあり、人の“後ろ髪”を引く」妖怪として登場。親が子を勘当しようというときに、後ろで親の気持ちをなだめる神という説も。

60′



妖怪サボテンと組んで、人間の家を乗っ取ろうとした

祭りで妖怪サボテンを売り、買った人間の家を乗っ取ろうとする。住まいと食べ物欲しさに、凡太一家を妖怪サボテンのえさにして、凡太家で我が物顔で暮らそうとする。倒された後に鬼太郎に社を造ってもらい、後神の祟りは消えたもよう。第61話

能力◎妖怪サボテンと結託。手から煙を出して妖怪サボテンを操り、人間を食わせてしまう。

最期◎顔に鬼太郎のちゃんちゃんこが張り付き、苦しさのあまり柳の木の中へ。そこへ落雷し、木が真っ二つに。

80′



男たちはメロメロ必至の美人妖怪

美しい女性の妖怪。人間の男と恋に落ちるが、下山して帰ってこない男を捜して山から下りてきた。妖怪サボテンと組んで、男の行方を捜す。花を育てさせたら妖怪一。第59話

能力◎髪の毛を伸ばして相手の自由を奪う。しかし力は弱く、ネコ娘でも簡単に逃げることができた。

最後◎捜している男が建築現場で事故死していたため、みんなに迷惑をかけたと謝り山に帰っていく。

90′



影の世界を操り鬼太郎を襲う

家にとり憑き、その一家を妖怪サボテンのえさにして魂を奪う。座敷童子の住む家に目を付け、そのほとんどを妖怪サボテンに食べさせてしまった。光が大の苦手。第55話

能力◎すべての影が後神の言うことを聞く「影の世界」に、鬼太郎を閉じ込める。

最期◎明かりを持ったつるべ火や子泣き爺たちにより非力に。影を探して、砂かけ婆の壺に誘い込まれてしまう。

原作コミックでは？

「後神」に登場。70年代がほぼ原作に近いが、後神はちゃんちゃんこに顔を締め付けられてあっさりやられてしまう。

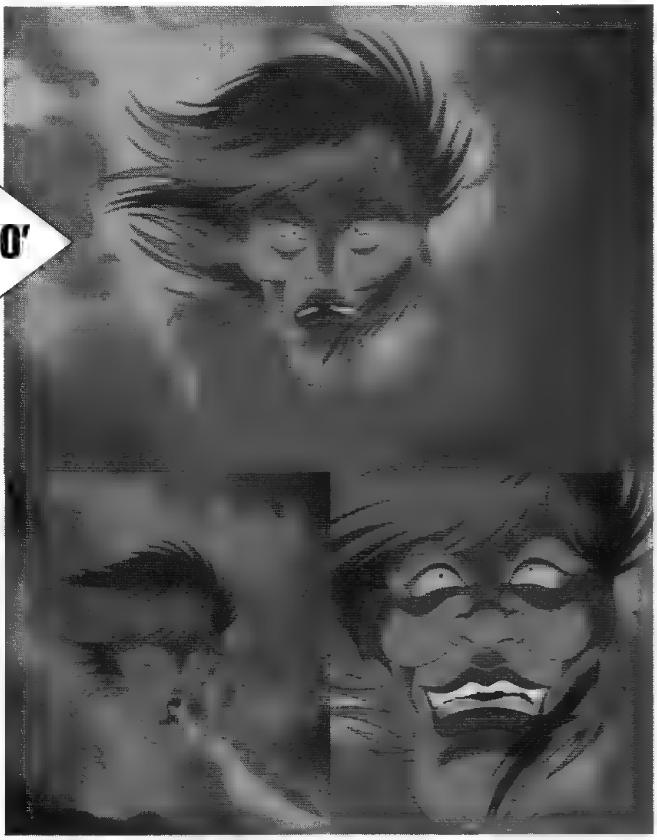
ubagabi

姥が火
【うばがび】

油泥棒の老婆が転じた火の妖怪

雨の晩に、大阪府にある枚岡(ひらおか)神社に現れる火。毎晩、神社の油を盗んでいた老婆がこの妖怪になったといわれている。『河内鑑(かわちかがみ)名所記』『諸国里人談』『古今昔物語評判』などに登場。

90′



口から吐くすさまじい炎に、鬼太郎もかなわなかった

男に捨てられた女の情念が化けた妖怪。クリスマスに浮かれるカップルたちに怒り姿を現した。仲の良い男女を見ると見境がなくなり、連続放火を引き起こす。鬼太郎をかばい手をつないだネコ娘を見て逆上した。また、妖怪ノイローゼとなった鬼太郎の幻覚にも登場。第50、106話、劇「おばけナイター」

能力◎口から火炎を吐き、辺りを焼き尽くす。鬼太郎の髪の毛針も炎の威力に効果がなかった。

最期◎鬼太郎のちゃんちゃんこを着て霊力アップした吹消婆に吹かれて、空の彼方へと消えていった。

80′



炎の妖怪５人衆のひとり

登場名は「姥火」。天火、つるべ火、海月の火玉、化火らと炎の妖怪５人衆を組んで、鬼太郎のピンチに駆けつける。合体して、より激しい炎攻撃を繰り出すことも可能だ。また、チー率いる中国妖怪軍団との戦いでは画皮に苦戦するも、鬼太郎のちゃんちゃんこをたいまつにして炎の妖怪５人衆が合体。パワーアップして、紙に描かれた絵が立体化した妖神を焼き尽くした。第35、91、劇「最強妖怪」

原作コミックでは？

ヒー族を倒すべく集められた妖怪のひとりとして登場。また、地獄の魔物と対決する際にも呼ばれた。「妖怪危機一髪」「復活悪魔くん」

ubume

姑獲鳥
【うぶめ】

形態は異なれど各地に伝わる妖怪

中国が発祥の妖怪。さまざまな文献に記され、各地方に伝わる女性の妖怪だ。茨城県では「ウバメドリ」と呼ばれる、姑獲鳥とほぼ同じような鳥の妖怪も存在している。

80′



大勢の赤ん坊をさらい世話をする巨大な鳥の妖怪

子どもを死なせ、親の役目を果たせなかった魂が変化した妖怪。姑獲鳥の羽を付けられた「姑獲鳥石」から出現。赤ん坊をさらい滝の奥にある部屋で世話をしていた。また、日本妖怪軍として中国妖怪と戦った。第24、81、91話、劇「最強妖怪」

能力◎目から光線を出し、糞を落として攻撃。干してある布団に足跡を付け、その布団で寝た子は必ずオネショをする。

最期◎鬼太郎が髪の毛針によって、姑獲鳥の羽を姑獲鳥に付けたことで元の石像に戻る。石になってから涙を流す。

60′



鬼太郎を頭から呑み込んだ

巨大な鳥の姿をした妖怪。「姑獲鳥石」を姑獲鳥の羽で覆うと現れる。昭和町で赤ん坊をさらっては洞穴に連れ去り、ねずみ男と雄一少年に世話をさせていた。第46話

能力◎目から怪光線を発射し、相手の目をくらます。足の力は強く、鉄格子も難なく曲げてしまう。鬼太郎を呑み込む。

最期◎鬼太郎を呑み込むが、ちゃんちゃんこが腹の中で暴れ悶絶。つるべ火に羽を焼かれ、元の姑獲鳥石に戻る。

90′



日本中の赤ん坊をさらうと豪語

日本中の赤ん坊をさらい自分のものにしようとする。「自分があやせば赤ん坊は安心する、人間は赤ん坊を泣かせる」と主張。鬼太郎をガキ妖怪とののしった。第81話

能力◎鬼太郎へ電気を発射して攻撃。髪の毛針を、羽ばたいてはね返した。

最期◎つるべ火に火を点けられて、地面に落ちると「姑獲鳥石」になっていた。

原作コミックでは？

60年版は原作と同じ攻撃パターン。妖怪番傘に火を点けたことで、蘇ったこともある。「姑獲鳥」「再生妖怪軍団の反撃！の巻」

umiosho

海和尚

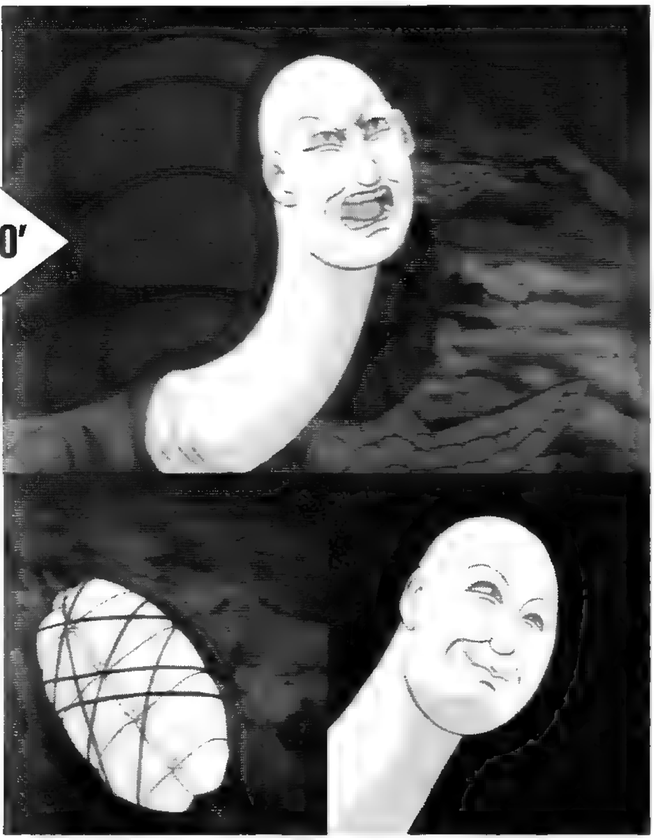


【うみおしょう】

災害をもたらす顔は人間、体は亀の海坊主

海坊主の一種。「和尚魚」ともいう。『海島逸志』によると、現れると必ず災害をもたらすという。また紅色のすっぽんのような体に人の顔が付いていると『和漢三才図会』『斉諧俗談』にある。

90′



信心薄い人々に怒る頭は坊主、体は亀の妖怪

体は亀の甲羅で、首と顔が和尚。凶悪で頭がいい。漁師たちが、年に1回の海を尊ぶ儀式をしなくなったことに怒りを感じる。また底引き網で魚を根こそぎ捕られ、自分も網に閉じ込められたことで、人間を憎むようになった。船幽霊の製造工場を使って船幽霊を造り、船を襲う。第77話

能力◎船幽霊の製造工場という釜の中に鬼太郎を入れて、幽霊にしようとする。鬼太郎も、下半身だけ幽霊にされてしまう。

最期◎リモコン下駄でひっくり返され、オカリナ鞭で縛られ身動きがとれなくなる。そのまま冷たい海の底に沈む。

80′



島神に寄生し人の肝を食う

海辺の村で冷たい仕打ちを受けて死んだ和尚の魂が、亀に乗り移った妖怪。島神（人食い島）に寄生して、人の肝を食べることで人に戻ろうとした。第76話

能力◎島神に寄生して人食い島に成り代わり、生け贄を捧げさせる。すっぽんのように、噛み付いたら離れない。

最期◎鬼太郎に食いついたが体内電気を放電されて離してしまい、人食い島の血液に流され心臓の弁に挟まれて死亡。

原作コミックでは？

原作には登場[illegible]妖怪[illegible]

umizato

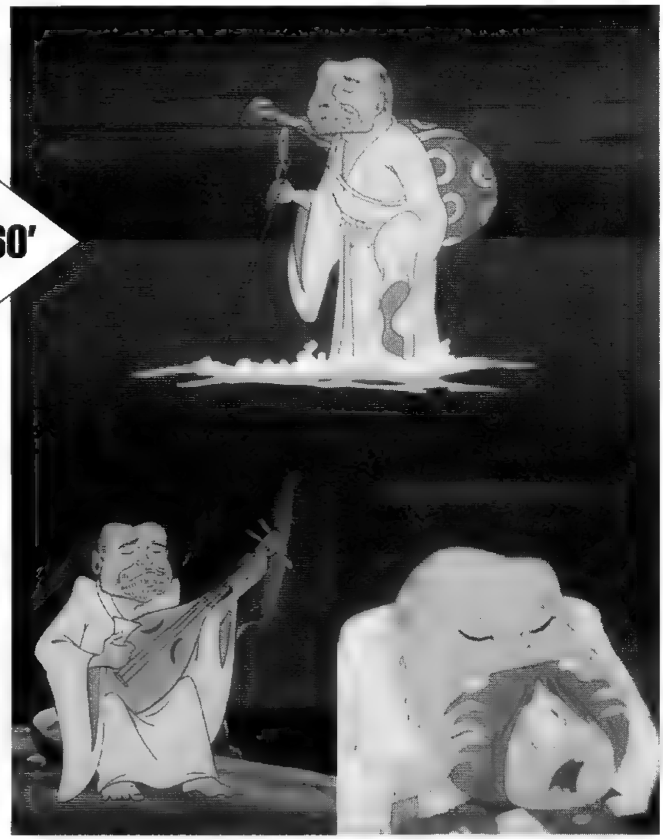
海座頭

【うみざとう】

琵琶法師の姿をした盲目の海坊主

鳥山石燕『画図百鬼夜行』にある、月の終わりに琵琶法師姿で現れる盲目の妖怪で、杖をついて海上を歩き回る。質問に素直に答えると姿を消し、害を与えないという。海坊主の類。

60′



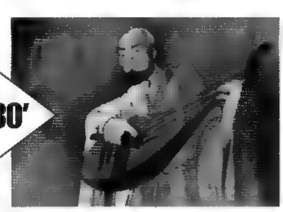
船幽霊を奴隷のように扱う盲目の妖怪

岬の岩場の洞窟に住んでいる。船員たちの魂を奪って船幽霊にし、その船幽霊を奴隷のように使って新たな船を沈没させ、宝を蓄えていた。フミ子という少女をさらい、自分の跡継ぎにしようとする。盲目だが聴覚をはじめ他の感覚器官は、視覚を補って余りあるほど鋭い。岬の岩場で琵琶を嗜む。第26話

能力◎杖で海を掻き回し巨大な渦を作る。海中でも琵琶を振り回して渦を作ることが可能。毛穴から魂を吸い取る。

最期◎海中に鬼太郎を誘い込み優位に立つ。しかし鬼太郎の魂を吸おうとして、鬼太郎の体内電気の放電で倒れる。

80′



人間たちへの警告として船を沈める

源平武士の亡霊を鎮めるのが使命だが、人間たちがその後も争い続けるのを見て、これでは霊たちも成仏できないと警告の意味で船幽霊を使って船を沈める。第50話

能力◎船幽霊を使い船を沈める。死んだ船員は船幽霊に。琵琶を奏でて、源平以来の海戦の歴史を遡って幻覚を見せる。

最期◎警告として、海戦の歴史を遡って見せ、鬼太郎や人間たちが納得したので、船幽霊の魂を解放。海に帰っていった。

原作コミックでは？

「海座頭」に登場。60年代が原作に近い[illegible]。80年版は[illegible]、ほぼアニメオリジナルの設定。

umijijii
海じじい
【うみじじい】



『まんが日本昔ばなし』にも登場

大分の民話にある、青白くやせこけた風貌の老人。海に住み人を食ってしまうという。サザエを取った舟に現れ、逃げ出すと「サザエ、もちっとよこせや～」と追いかけてくるそう。

60'



大クラゲになる敵妖怪と仙人風の2とおりで登場

人間や動物におぶさり、養分を吸う妖怪。吸い尽くすと大クラゲとなって次の獲物を探す。少年にとり憑くが、ねずみ男のデタラメな呪文によってねずみ男の背中に。第62話。また第22話では北極で氷漬けになった鬼太郎を発見し、目玉おやじの元へ届けた。

能力◎大クラゲとなり触手で鬼太郎を捕まえて、その精気を吸い取る。どこからでも塩を呼ぶことができる。

最後◎鬼太郎の養分だけでなく、精気まで吸ったため体が発電して、鬼太郎がくっつくと養分と精気が鬼太郎の元へ。

80'



凍った鬼太郎を運んだ爺

中国の仙人のような枯れた顔をしている妖怪。釣り竿を持ち、腰みのをしている姿は浦島太郎そのもの。目玉おやじや鬼太郎とは、もともとの知り合いだったらしい。普段は北極で釣りをしている。北極で、大なまずとの闘いによって氷漬けになっていた鬼太郎と一反もめんを発見。粉々にして玉手箱に入れ、目玉おやじの元へ届ける。その後、北極に釣りをしに戻っていった。第57話

90'



80年代とほぼ同じ形で活躍

80年代と同じく、妖怪獣の回に登場。大なまずとの闘いで氷漬けになった鬼太郎を運ぶ役割を果たす。伝承にある海にいて人を食ってしまう老人の妖怪（『まんが日本昔ばなし』にも登場）と、60年代に出てきたクラゲの化身のような妖怪と、この仙人に近いような妖怪とのつながりは不明。海の妖怪はそのほかにも海坊主、海禿ほか大勢いるので、それぞれがどういう妖怪なのかは明確ではない。第111話

原作コミックでは？

60年代は「海じじい」と同じ設定。鬼太郎の仲間は「妖怪獣」に登場している。どちらも原作とほぼ同じ設定でアニメ化されている。

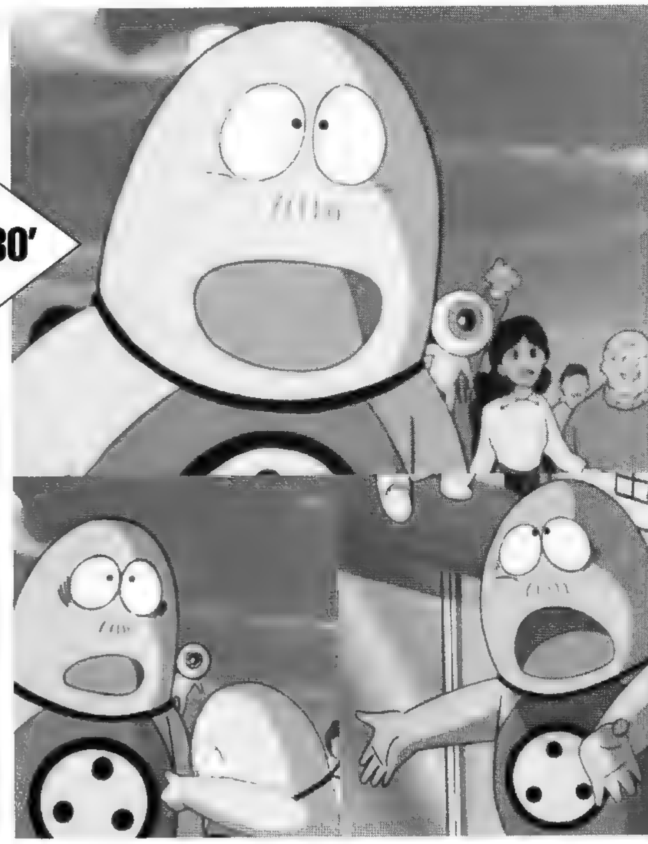
umibouzu
海坊主
【うみぼうず】



海に現れる巨大な黒い坊主頭が船を破壊する

多くは夜間の海上に現れる。それまでは穏やかだった海面が突然盛り上がり、黒い坊主頭の巨大なものが現れて、船を破壊するとされる。かなり巨大なものから比較的小さなものまでいる。

80'



世界妖怪ラリーに観客として登場

世界妖怪ラリーの回に登場。空色の外皮にオットセイのような形状の胴体（二足歩行で手足あり）の妖怪。口の周りに無精ひげのようなものを生やしている。世界妖怪ラリーの当日に、世界の妖怪たちの街中での暴れっぷりにしかめ面をしながら、息子とともに鬼太郎を待つ。その際に、妖怪に跳ね飛ばされて空中に飛んだ赤ん坊を受け止めて救う。その後は砂かけ婆、子泣き爺とともに中継を見ながら鬼太郎を応援。橋を落とされるなどの鬼太郎のピンチには、心配そうな顔をしていた。ラストはゴール地点で大声援を送っていた。第51話

60'



炎上した鬼太郎の車を消火する

80年代と同じく世界妖怪ラリーの回に登場した、大きな目と大きな口が愛らしい妖怪。ルックス的には80年代とほぼ同じ。息子の小坊主がラリー会場の近くに酒の買い出しに出ていたところから、ラリー会場である佐渡ヶ島周辺に住んでいると思われる。ゴール近くにおり、バックベアードの妨害で炎上してしまった鬼太郎の車（霊界自動車）がゴールした後で、口から水を吐き出して炎を消した。第54話

原作コミックでは？

「妖怪ラリー」には子どもは登場せず、酒を奪われるのは父親。最後にはバックベアードに葬られていた。「海坊主」という別キャラの作品もあり。

umibouzunokodomo

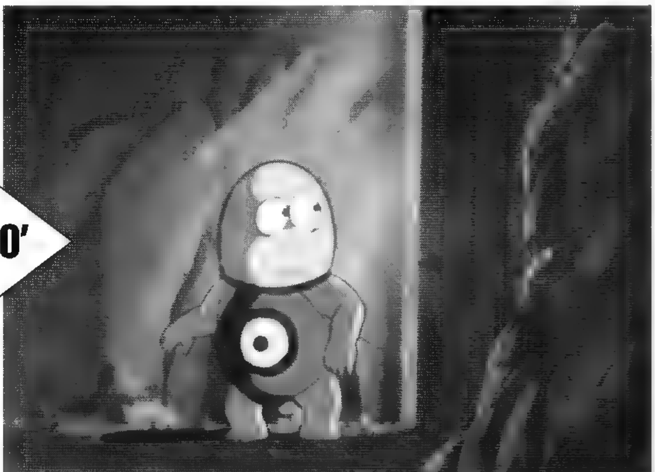
海坊主の子ども

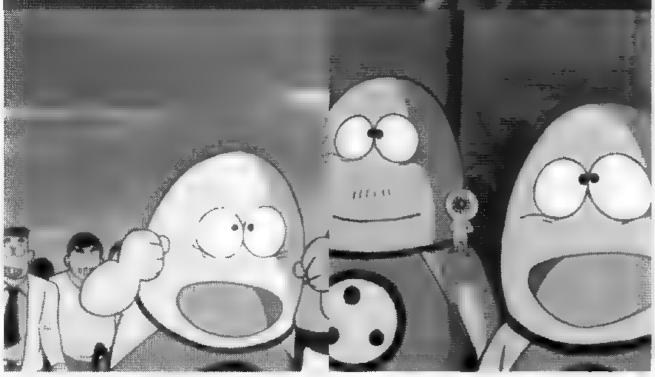
【うみぼうずのこども】

海の怪の総称だが子供の記録はなし

海に出没する怪の総称を海坊主と言う。裸体の坊主風なものが群れをなして船を襲うといわれることが多く、船体や櫓に抱きついたり、篝火（かがりび）を消すといった行動をとる。

80′

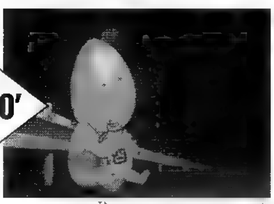




ぬらりひょんのアジトに忍び込む

空色の外皮に大きな目、卵形の子供大のカラダを持つ。洞窟に駆け込んでくる朱の盤を怪しんで後をつけると、ぬらりひょんのアジトに着いてしまう。そこでぬらりひょんが世界妖怪ラリーを利用して世界の妖怪を支配しようと企んでいたこと、そしてギリギリでおじけづいて、鬼太郎に日本代表を押し付けてきたことを知る。当日、来日して各国のラリー代表が暴れる現場で鬼太郎を待ち、事態のあらましを説明する。その後は砂かけ婆、子泣き爺らとともに応援。ラストはゴール地点で声援を送っていた。80年代に限り、名称は「小坊主」。第51話

60′



火を噴いた鬼太郎の車を消火

世界妖怪ラリーが開催された佐渡ヶ島付近に生息していると思われる。卵形の小さなカラダ（子供と同じくらいの大きさ）を持つ妖怪。世界妖怪ラリーの際、コースに飛び出してバックベアードに轢（ひ）かれそうになる。さらにそのとき、持っていたお酒をバックベアードに奪われてしまう。ラリーに出場した鬼太郎が火ダルマの車体でゴールした後、親である海坊主とともに口から水を吐き出し、その車の消火活動を行う。第54話

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。しかし「妖怪ラリー」では、海坊主が登場。60年代の海坊主の子どものように、酒を奪われる役回りだった。

ungaikyou

雲外鏡

【うんがいきょう】

付喪神（つくもがみ）の一種で銅鏡が変化した妖怪

長い年月を経た鏡が妖怪化したもの。鏡の表面に、自分の顔を映し出している。鳥山石燕の『画図百器徒然袋』で描かれているが、照魔鏡（しょうまきょう）をモチーフに石燕が創作したものと考えられている。

60′



鬼太郎一派をだまし、鬼太郎をも鏡に閉じ込める

銅でできた鏡が、2000年以上の年月を経て物質が変化し、妖怪となったもの。銅鏡寺から、照魔鏡が盗まれ海に捨てられたため復活。美しい少女に化け、鬼太郎を鏡に閉じ込めた。照魔鏡を当てられて、雲のような化物としての正体を現す。第29話

能力◎少女に化けて、妖怪たちをだます。巨大な舌で、目玉おやじとねずみ男を呑み込んだ。

最期◎雲外鏡を倒すために用意された塩水を浴びて、赤サビになってしまい死亡。

80′



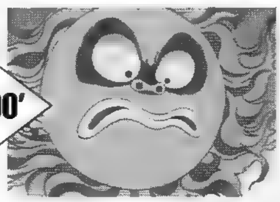
鏡一族の内紛に鬼太郎を利用する

世界を征服しようと企む、鏡妖怪。自分の弱点を知る鏡爺に罪をなすりつけ、鬼太郎たちをワナに陥れる。ふだんはクモコという女子高生に化け、敵の目をあざむく。第70話

能力◎目から怪光線を放ち、鏡を使ったさまざまな妖力を使う。人間に化けることができる。

最期◎鬼太郎たちを鏡の中に閉じ込めるが、ユメコが出雲大社から持ち帰った照魔鏡によって封じ込められる。

90′



天敵・照魔鏡を探すために少女に変化

2000年以上経った鏡が変化して誕生。照魔鏡で照らされると普通の鏡に戻るので、処分しようと少女に変化し、在り処を探す。巨大な舌で子泣き爺や鬼太郎をも呑み込んだ。第75話

能力◎少女に変身して鬼太郎ファミリーをだます。口から火を噴く。舌が長く、相手を食べることができる。

最期◎鬼太郎が呑み込まれる前に、体中に塩をこすり付けていた。その体内に塩をこすり付けられて退治される。

原作コミックでは？

「鏡合戦」に登場。鬼太郎を呑み込むが、鬼太郎を塩水入りのバケツとともに呑み赤サビとなってしまった。

enkirimushi

縁切り虫

【えんきりむし】



70′

小さな虫ながら世界を破滅させる破壊力を持つ

噛んだ人間を人間嫌いにさせる虫。噛まれた人間は体中に毒が回り、捨て鉢な態度をとる。ねずみ男が「縁切り問題相談所」を開設。さらに、世界平和会議で縁切り虫を使い、戦争を起こして武器会社の株を高騰させて大儲けしようとする。第17話

能力◎ 人の首筋を噛む。噛まれた人間は、人間嫌いになる。

最後◎ 被害者は硫黄臭を嗅ぎ正気に。縁切り虫はどこかへいなくなる。

原作コミックでは？

鬼太郎以外の作品[illegible]の縁切り虫[illegible]して登場。こちらでは、主人公が縁切り虫を絶滅させることに成功する

enraenra

えんらえんら

【えんらえんら】

さまざまな表情を見せる煙の妖怪「煙羅煙羅（えんらえんら）」

鳥山石燕『今昔百鬼拾遺』にある煙の妖怪。さまざまな形になりながら大気中をさまよう。「羅」とは薄い織物のことで、煙を「羅」が風にたなびく様子に見立てたもの。「えんえんら」ともいう。

都会の有害な煙を吸って凶暴になった！



80′

煙のカラダに大きな顔を持った妖怪。煙を吸って巨大化し、煙を吐く。もとは山奥の炭焼き小屋の煙を吸って暮らす穏やかな妖怪だった。炭焼き小屋の爺さんが死に、ねずみ男の導きで都会に出てきて凶暴になる。ねずみ男の火事場泥棒を手伝うが、排気ガスを吸って巨大化。107話

能力◎煙を吸って巨大化。口から煙を吐いて人を巻き込む。

最後◎砂かけ婆の大砂塵で吹き飛ばされ、山に戻り温厚になる。

原作コミックでは？

「煙羅煙羅」に登場。都会の有害な煙を吸って凶暴になるのは同じ。原作は最後に、[illegible]に吸い込まれて終わる。

enmadaiou

閻魔大王

【えんまだいおう】

地獄と浄土を行き来できる地獄の守護天

人間で最初の死者となったゆえに、死者の国の王となったといわれる。死者を裁いて地獄に落とす神と考えられた。閻魔天は仏教において地獄を守護する天部。閻羅王、閻魔羅闍（らじゃ）ともいう。



80′

地獄の王として頻出。地獄編では操られる

目玉おやじを恐縮させるほどの強大な権力と威圧感を持つ、地獄の王。鬼太郎の妖怪退治の手助けをたびたび行う。第27話では妖怪エネルギーを吸収する妖怪・ふくろさげを倒すために、ふくろさげが吸収しきれないほどの妖怪エネルギーを鬼太郎に与えた。また第33話では巨大化したあかなめを倒すための方法「豊の木の種を体内に入れて毒を浄化する」を鬼太郎に教える。しかし「地獄編」では、天叢雲剣を抜いたぬらりひょんに操られて鬼太郎一行に死刑を宣告する。第27、33、39、112、115話



60′～70′

ねずみ男殺害命令を下す

1部～2部では鬼太郎親子とそれほど親しくはない模様。人間の悪事を報告する虫“三虫”の報告に基づき、鬼太郎のもとへねずみ男を殺せと命令する赤紙を2度に渡って送った。そして実行しない鬼太郎を焚きつけるため目玉おやじを人質に取る。60年代・第20話。70年代では死神の上司として登場。死神42号に早くノルマの霊魂を送るように命令し、不可能なら地獄払いだと告げる。第34話



90′

鬼太郎親子と持ちつ持たれつ

第48話では母親と思うほど慕う女性を病から救おうと談判に来たネコ娘に、解決法を示唆。また91話では、目玉おやじを地獄に呼び出し、最近、死んだ人間の魂があの世へ来ていないことについての調査・解決を依頼する。結果は閻魔大王の部下・百鬼夜行の鬼の仕業だった。また劇場版にも登場。地獄からまぼろしの汽車を奪って逃げた西洋妖怪たちを捕まえるよう目玉おやじに依頼する。第48、91話、劇「汽車」

原作コミックでは？

「死霊軍団」「鬼太郎地獄編」シリーズ[illegible]「白骨軍団」などに登場。「地獄編」のみ主要キャラ。



oitekebori

おいてけ堀

【おいてけぼり】

釣った魚を「置いてけ～」と囁く。河童や狸の化身か

本所七不思議のひとつ。釣りをしていると「置いてけ、置いてけ」という声がする。無視しても必ず足がすくんで、釣った魚は消えてしまうという。現在の錦糸町か両国あたりといわれる。

90′





魚を愛する東京湾の主、水仙人の俗称

東京湾の主であり、本来の名前は水仙人。性格はやさしく穏やかで、飄々としている。魚に対しては甘い。うっかりもの。無意味に魚を釣る人間に、どこからともなく「置いてけ～」と囁き無視されたら魚の気持ちをわからせるべく、魚になってしまう「魚眼丸」を渡す。井戸仙人とは旧知の仲であり、魚眼丸および元に戻れる「回復丸」を作れる数少ない仙人のひとり。東京湾中の魚と連絡を取ることができる。第94話

能力◎魚眼丸などの薬を作れる。手足が伸びる。海中での吸引力がすごく、水ごと敵を飲み込む。

80′



本所七不思議の第三の不思議

ぬらりひょんが鬼太郎を倒すべく仕掛けたワナ「本所七不思議の刑」の第三番目「おいてけ堀」で待ち受ける妖怪。痩身・長髪で、顔は光る目と大きな口のみ。第108話

能力◎「置いてけ～、置いてけ～」と泣きながら、伸縮自在の長い腕で、相手を水底近くまで引きずりこむ。

最期◎鬼太郎は水中に引きずり込まれ苦戦するが、雷獣から受けた電撃を一気に放出させ、おいてけ堀は敗北した。

原作コミックでは？

80年代の「おいてけ堀」は、原作「妖怪　本所七ふしぎの巻」に登場。「おいてけ堀幽霊」という名前で呼ばれていた。

ookamiotoko

狼男

【おおかみおとこ】

世界三大怪物のひとり。東欧の民間伝承が起源か

月を見るとオオカミになる獣人の一種。北欧神話や旧約聖書が根幹にあり、古代東欧のバルト・スラヴ系民族の民間伝承にもある。リカントロピー（狼狂幻想）なる精神疾患という説も。

80′



意外に義理堅く、誇り高いイギリス一流の妖怪

劇「妖怪大戦争」で、バックベアードたちとともにホウキボシ島に上陸。部下の吸血狼を使い、鬼太郎たちを襲う。また第51話では、世界妖怪ラリーにイギリス代表として参戦。第46話では、妖怪大統領選挙の進行役として登場した。

能力◎鋭い牙と爪で強襲。劇場版にて、機敏な動きの部下・吸血狼たちを使って日本妖怪たちを苦しめた。

最期◎劇場版では、噴出した水流に流されてしまう。世界妖怪ラリーでは鬼太郎に助けられ、恩義を感じる。

60′



西洋妖怪出場の機会には漏れなく登場

第10話「妖怪大戦争」で、ロンドンのパーティ会場を壊され、人間に復讐を誓う。西洋妖怪軍団の一員として妖怪の国を作ろうと、日本の鬼界ヶ島へ上陸した。ただし西洋妖怪のなかでは、最初に倒されてしまう。また第54話「妖怪ラリー」にも出場。水虎のガソリン攻撃でスリップする。第58話の「怪気象」では、調布に定着した怪気象の中にある、お化けの国の妖怪のひとりとして登場。水木しげる宅の周りをうろついていた。

90′



鬼太郎のおかげで復活するが再度牙をむく

第64話「妖怪ラリー」に出場。第1ポイントで、魔女とともにマグマに落ちてしまう。しかしレースに優勝し「伝説の妖怪石」を手にした鬼太郎が「犠牲者を元の姿へ」と願い、復活した。また劇場版「まぼろしの汽車」では、地獄から脱走した西洋妖怪のひとりとして登場。子泣き爺の杖を折ったが、砂を目にくらい、石になった子泣き爺を負ぶわされる。最後は鬼太郎に、下駄で滅多打ちにされて終わる。

原作コミックでは？

「妖怪ラリー」「妖怪大戦争」「ボクは新入生」「閻魔危うし白骨軍団」「妖怪ロッキード」「死神大戦記」など多数の作品に登場している。

ookubi

大首
【おおくび】

江戸時代に現れた、呪いを残して死んだ女の霊

突然夜空に現れる巨大な女の首のこと。鳥山石燕『今昔画図続百鬼』に、長い髪がばさばさと風になびき、口から長い舌を出した大首が描かれている。お歯黒を塗りたくった姿が定番。

90′



巨大な骸骨の姿をした縄文王の成れの果て

王国復活をめざして生き長らえていた縄文王。2000年前、隣国との戦いに敗れて風穴に追い込まれた。死なない方法として人間から妖怪になり、骨だけの巨大な骸骨の姿となったが、人間の骨の缶詰を食べて生きつづけた。骨女を仲間にする。第82話

能力◎人間の骨を缶詰にして、それを食べる。体内のカルシウムが固まったものを口から出す。

最期◎「もう王国復活をあきらめよう、自分で自分が恐ろしい」と、骨女とともに風穴に封印される。

70′



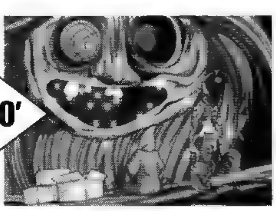
将来有望な人間を連続で襲った

人の霊魂を食べ、数千年も生きてきた妖怪。退化して手足がなく大きな頭だけになった。富士の洞穴を根城とし、優秀な人間の魂を食べて長生きし続けようとした。第26話

能力◎顔を回して渦巻きを作る。かまいたち（カマで切ったような傷）のように相手を寄せ付けずに危害を加える。

最期◎特選フーセンの中に入った鬼太郎に振り回され、大首が疲れたところへ、骨女から奪った毒液をかけられ溶かされた。

80′



霊魂の缶詰をエネルギー源にする妖怪

霊魂を食べて力を強化していく妖怪。富士の洞穴に棲む。富士山を噴火させて東京を死の町にし、日本を支配しようと考えていた。霊魂の缶詰がエネルギー源。第40話

能力◎真空状態を作り出し、無数の骸骨を操ることができる。霊魂を缶詰にして、それを食べる。

最期◎霊魂を食べる霊食キノコを植えつけられると能力が低下し、元の姿である巨大な石に戻る。

原作コミックでは？

「大首」に登場。真空状態を作り鬼太郎たちを攻撃。霊食キノコを体に植えられ、キノコに食べられてしまう。

oonamazu

大ナマズ
【おおなまず】

大地震を起こす、地下にいるナマズ

『動物妖怪譚』によれば、地震とナマズが結び付けられたのは江戸時代らしい。鹿嶋市の鹿島神宮にある「要石」は巨大なナマズを抑えており、封印が解けたら大地震が起きるといわれる。

60′



刑部狸によって復活した巨大なナマズ

刑部狸の命令を受けて動く巨大なナマズ。要石で封印されていたが、刑部狸の力で復活した。大地震を起こすことが可能で、地下の湖に生息。鬼太郎と対決し、一時は鬼太郎の体電池で感電する。後に地上に現れ街を破壊し始める。第21、22話

能力◎ヒゲの力で岩をも砕く。不死身。目から光線を出し戦車を破壊する。渦を作って艦隊を沈める。口から竜巻を吐く。

最期◎鬼太郎と一反もめんを飲み込むが、鬼太郎に脳波をコントロールされ北極へ。そこで氷山になってしまった。

80′



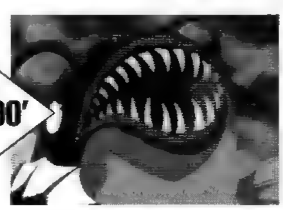
水爆数個分の破壊力！

富士山の地下にある要石によって封印されていた、妖怪獣の一匹。大地震を起こすことが可能で、その威力は水爆数個分にも匹敵するという。刑部狸の力で復活する。第56、57話

能力◎大地震を起こすことができる。巨体を生かしたパワー攻撃で街を破壊する。

最期◎鬼太郎を呑み込むが、鬼太郎に脳みその中へ進入され、コントロールされて南極で冷凍されてしまった。

90′



立ち歩きできるナマズ神

富士の地底湖に住む巨大なナマズ。狸たちには「ナマズ神」と呼ばれている。大地震を起こすことができる。鬼太郎の全妖力を込めた電気攻撃で一度は撃退される。第110、111話

能力◎大地震を起こすことができる。街に出るときには立ち歩きをする。巨体を生かしたパワー攻撃。

最期◎鬼太郎を飲み込んだが、そのまま操られ北極まで連れて行かれて「妖怪冷凍」にされる。

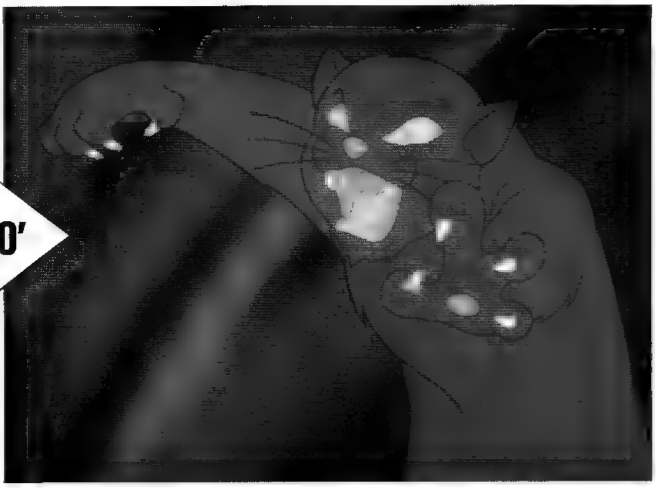
原作コミックでは？

原作「妖怪獣」に登場。ヒゲで鬼太郎の目をつぶし、口から熱光線を吐いて大暴れ。最後は北極で氷漬けに。

ooneko

大猫
【おおねこ】

60′



巨大な体で鬼太郎に襲いかかる、猫塚の番人

猫仙人の肉体が眠る、猫塚の番をする巨大な黒ネコ。その村では猫が人間の上に立ち、「お猫様」と呼ばれていた。その「お猫様」のボス的存在で、猫塚に侵入してきた鬼太郎に叫び声とともに襲いかかる。攻撃方法は普通のネコと変わらないようで、素早い動きで鬼太郎を翻弄。鋭い爪で飛び掛かり、巨体を活かして覆いかぶさった。そのパワーに圧倒され、鬼太郎も一度は倒されてしまう。しかし最後は、鬼太郎にバットの要領でこん棒で殴られ、壁に激突してしまう。猫仙人が、ふだん移動するのに使っている体だと思われる。第17話

能力◎猫塚に入ってくる人間に、素早い動きで襲い掛かる。おそらく人語を解すると思われる。

最期◎飛び掛ってきたところを、鬼太郎がこん棒で打ちつけ、壁にぶち当てて気絶させる。

80′



遠足中の小学生たちを襲う巨大な猫

「化け猫」と呼ばれる。猫仙人が移動するために化けた姿。ねずみ男に壊された猫塚の中にあった、猫仙人の魂を保存してある「宝の玉」を探すために、猫仙人は猫たちを派遣していたが、まったく見つからなかった。そのために焦った猫仙人が、最後の手段として黒い大猫の姿で学校を襲った。雷鳴とともに登場して屋根の上に飛び乗り、ユメコを咥えて、猫仙人の住みかまでさらっていった。第3話

90′



猫王国を作ろうとする猫仙人の仮の姿

「大黒ネコ」として登場。猫と人間の立場が入れ替わった町で、ペット屋の店主として登場。人間をペットとして檻に閉じ込め、餌付けをして猫に売っていた。さらに猫を捨てた人に対する裁判を開き、裁判官を務めて、佑子の友人に有罪判決を出していた。その場で正体を現して、鬼太郎と戦う。その正体は、猫を操り猫の国を作ろうとした猫仙人だった。体の各部が自在に伸びる能力で鬼太郎を翻弄する。第12話

原作コミックでは？

「猫仙人」に登場。猫仙人の魂が入っていたと思われる巨大ネコ。猫の大群を率いて鬼太郎を襲うが、ノミをけしかけられ戦意を喪失する。

oonyudo

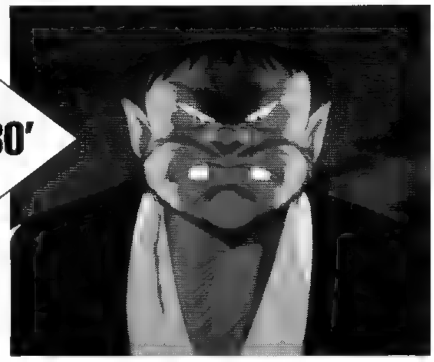
大入道
【おおにゅうどう】

見ると病気になる？　脅かしが専門

大きさや行動は伝わる地方によってまちまちだが、大入道の伝説は全国各地に残っている。狸やカワウソも大入道に化けるともいわれ、人を驚かしたり、見ると病気になる伝承が多い。

体調を崩し、井戸から出るのもやっとな皿数えの夫

80′



皿数えの夫で、皿だけを食べて生きている妖怪。昔は暴れん坊だったが、体調を壊して体力・妖力ともに衰え、今は井戸を出るのがやっと。皿数えに支えられながら暮らしている。皿数えによって皿に変えられた鬼太郎と砂かけ婆によって術を解かせるための人質にされてしまう。しかし、病気のことを知った鬼太郎は、大入道が元気になるまで、２人の食料を運ぶことを約束する。第97話

原作コミックでは？

皿数えが皿に変えた食物を食べ続くなる夫とする。アニメ同様に、皿に変えられた鬼太郎と砂かけ婆の攻撃を受ける。「皿合戦」

oogumo

大蜘蛛
【おおぐも】

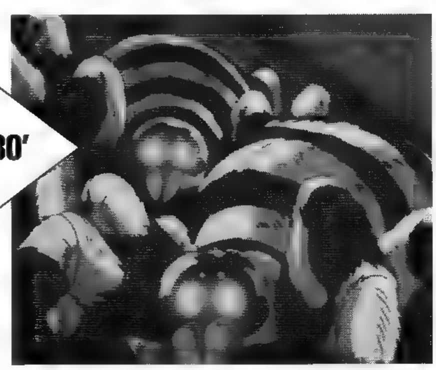


年を経た巨大蜘蛛がさまざまな怪異を起こす

『狗張子』『諸皐記』ほかの随筆や怪談集、各地の民俗資料に多く登場する、怪異を起こす巨大な蜘蛛。『信濃奇勝録』には、大蜘蛛がある農民の生気を吸って病気にさせる話が残っている。

地下鉄で人間を襲う穴ぐらの入道の飼い蜘蛛

80′



穴ぐら入道が本気で怒ったときに操るといわれている、巨大な蜘蛛の妖怪。TVのスポットライトから逃亡し、地下鉄に逃げ込んだ穴ぐら入道が呼び出した。鬼太郎を糸で絡め取った。全部で５匹登場。第64話

能力◎強靭な糸で相手を絡め取る。しかし、糸に毒気がない。

最期◎女性クルーの涙の謝罪と、体を張って自分を守ってくれる態度を見て穴ぐら入道の怒りが解け、同時に消えていった。

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

oomukade

大百足
【おおむかで】

蛇との因縁めいた対決が残る

日本各地にいわれが残る。とくに、蛇と百足の因縁めいた話が多く、その対決は数多くの文献に描かれている。しかし、どれもが百足が有利とされている。『和漢三才図会』にも掲載。

80′



キジムナーの畑を荒らす巨大な百足の化け物

沖縄に住む巨大な百足の妖怪。鎧武者を糸で操り、キジムナーたちの畑から食料を集めていた。鬼太郎たちを毒ガスが充満する洞窟に閉じ込めて、ねずみ男を誘拐。ねずみ男のオナラを使ってキジムナーたちをおどし、食料の調達を強要する。砂の中を自由に移動することができる。第73話

能力◎口から吐く糸を使って物を操る。溶解液を吐いて、何でも溶かしてしまう。

最期◎シーサーが土の中から現れ、大百足の体を貫通。同時に体内にある溶解液の袋が破れて溶けてしまう。

90′



分離合体が可能な穴ぐら入道のペット

穴ぐら入道が飼っている病虫たちが、カメに入って合体し巨大な百足に変化。穴ぐら入道を頭に乗せて、鬼太郎たちを襲う。攻撃力の高さと、しぶとさで鬼太郎を圧倒。第107話

能力◎体を切断されても、パーツごとに行動が可能。また、元に戻ることもできる。

最期◎穴ぐら入道を乗せたまま山神山の水を止めるために亀裂に突っ込み、そのまま石になってしまう。

原作コミックでは？

百足たちの親玉。村人に「ムカデ酒」を作るために仲間を殺され、怒って家畜や人間を襲う。鬼太郎の胃液で溶かされた「妖怪大百足」

osiroibabaa

白粉婆
【おしろいばばあ】

雪の日に酒を買いにくる老婆の妖怪

奈良県に現れるという妖怪。大きな笠を被り、雪の日に酒を買いにくると『図説日本民族学全集』に記されている。また、鳥山石燕の『今昔鬼拾集』にも白粉婆の姿が描かれている。

90′



白粉を使って人間の顔を奪い、若返りをはかる

醜い姿を人に見られたくないので、めったに人前に出てこない妖怪。基本的に白粉を使った妖術を得意とするが、杖で攻撃をすることもできる。付けると顔がなくなってしまう白粉をねずみ男に売らせ、盗んだ顔を煮込んで作った薬で若返ろうとした。年寄りとは思えぬ素早い身のこなしで、鬼太郎を圧倒する。第21話

能力◎付けた者の顔を奪う白粉を使い、砂かけ婆やネコ娘、子泣き爺も顔を奪われてしまった。笠を盾にする。

最後◎鬼太郎＆のっぺらぼうのコンビにやられ、逆に顔を食べられてしまう。改心して人間に顔を返す。

80′



妖怪大統領になる野望を持つ

女妖怪一の妖力を持つ「脂粉仙子」の力で、妖怪大統領になろうと企む。しかし、脂粉仙子として生まれてきた赤ん坊を人間に連れ出されてしまい、鬼太郎に捜索を依頼。第103話

能力◎白粉を使い、相手を固め動けなくする。美女に化けることができ、その姿で鬼太郎に近づく。

最期◎おじいちゃんと思い込んでいたぬりかべを倒され、妖力に目覚めた脂粉仙子により消されてしまう。

原作コミックでは？

原作に登場しない妖怪。

otomidanuki

お富狸

【おとみだぬき】

存在しない八百八狸は狐がモチーフ？

八百八狸は、刑部狸の伝承に登場するのだが、そのなかに「お富狸」はいないようだ。愛知県には人に憑く「おとら狐」というのがいるが、こちらが名前の元になっているのかもしれない。

60′



「おたんこなす」と相手を殴打する、過激な狸

工事の影響で封印が解け、日本をタヌキの国にしようと企んだ八百八狸。そのなかでもひときわ目立つ、日本髪を結った異色のタヌキ。同じく仲間の団三郎狸と行動を共にすることが多い。過激な八百八狸のなかでも出刃包丁を持つ、とくにぶっそうなタイプで、「おたんこなす」「ぶっ殺してやる」が口癖。集団で攻撃するときは先陣をきって、相手をこん棒で殴打する。また、地下のアジトに乗り込んだ一反もめんを裁ちばさみで細切れにしてしまった。最後は、目玉おやじによって岩戸にお札を貼られ、仲間とともに再び石になってしまう。名前はシナリオから。第21、22話

90′



日本髪に着物のいでたち

400年の眠りから覚め、日本を狸王国にしようと企てる八百八狸のひとり。日本髪に着物といういでたちだが、「おたんこなす」が口癖の暴力狸。団三郎狸をはじめ仲間と行動をともにし、こん棒で襲いかかる。目玉おやじが護符の代わりに用意した、鍋に松ヤニを煮て、硫黄やタバコの葉を入れたもので岩を封じられ、念が込められた護符によって再び封じ込められてしまう。シナリオでは「着物狸」と明記されている。第110、111話

原作コミックでは？

原作ではとくに名前は出てこないが、その過激な言動で記憶に残るタヌキ。「おたんこなす」の口癖も健在だ。『妖怪獣』

odoroodoro

おどろおどろ

【おどろおどろ】

石燕は“おとろし”という名で紹介

『化物づくし』に描かれた妖怪。また、「おとろし」という名で、鳥山石燕の『画図百鬼夜行』にも描かれる。上から落ちてくるという設定は『日本妖怪大辞典』では児童書の創造と推測。

60′



実験の失敗から妖怪になってしまった科学者

元は優秀な科学者だったが、毛生え薬の実験台となって妖怪化。人間に戻る研究をしていたが、そのうち心までも妖怪になってしまった。飛行機のプラモデルを使い子どもを誘拐。食料となる血液を吸って霊界に送っていた。第27話

能力◎髪の毛で人間の血を吸い、「霊界輸送機」で霊界に送る。髪の毛を操り、相手を攻撃。ホウキ元素を発明した。

最期◎鬼太郎の血液を吸おうとして、逆に血を吸いとられて髪の毛だけの姿になって果てた。

80′



不老不死を願った科学者が変身

科学者の死への恐怖心に、妖気が取り憑き生まれた。息子の隆に子どもを誘拐させ、体を維持するためにその血を吸う。「霊界転送機」など、“変な機械”を作る。第32、37、91話

能力◎霊界転送機を使って子どもたちを霊界に監禁していた。髪の毛を操り、相手を捕まえる。目から怪光線を発射。

最期◎鬼太郎を捕らえて血を吸うが、逆に吸い取られてしまう。人間の姿に戻って息絶える。

90′



満月の夜に変身した科学者

毛生え薬の実験中に科学者が突然変異を起こして変化。満月の夜に、血を吸わなければ生きていけない。元に戻るために必要な、汚れのない血液を求め子どもたちを狙う。第38話

能力◎子どもたちを機械で押しつぶし、新鮮な血液を得ようとした。髪の毛を自在に操り、相手を捕らえて血を吸う。

最後◎鬼太郎の血を吸うが、逆に吸い取られ悶絶。鬼太郎が妖気で清めた薬を飲み、人間の姿へと戻る。

原作コミックでは？

「おどろおどろ」『妖怪大裁判』や、魔人ドラキュラの4代目と戦って果てる「おどろおどろ対吸血鬼」などに登場した。

okurichochin

送り提灯

【おくりちょうちん】

絶対追いつけない提灯の明かり

江戸で語られる七不思議。「夜中に歩いていると、前方に提灯の明かりが見える。しかしいくら急いでも提灯の明かりには近づけず、同じような距離のままで前方に見えている」というもの。

鬼太郎を目玉おやじのもとへ誘う無害な妖怪

80′



ぬらりひょんの作戦、本所七不思議の第六の不思議「送り提灯」で待ち受ける妖怪。第五の不思議「送り拍子木」の後、鬼太郎の前に出現。父親の居場所に案内すると告げて、第七の不思議「足洗い屋敷」まで鬼太郎を連れて行く。ただ道を案内するだけで、危害を加えることはないようだ。提灯のように明かりが揺れ徐々に姿を現すが、近づくと姿が消え、いつまで経っても追いつけない。第108話

原作コミックでは？

「妖怪 本所七ふしぎの巻」で、本来の七ふしぎを紹介するコーナーにのみ登場。物語としては絡んでこない。

onimiko

鬼巫女

【おにみこ】

80′



八百比丘尼の霊力で、操られたユメコの姿

ユメコが、八百比丘尼の霊力がかかった般若の面を着けられて豹変した姿。鬼太郎への愛情をそのまま憎しみに変えられたため、強大な霊力を持っている。女王人魚を手に入れるため、「妖怪殺しの奥義」に鬼太郎の魂を封印してしまう。最後は、八百比丘尼が投げたクナイが般若の面に当たり、面が割れて霊力が解かれた。火を使った攻撃が得意。第100話

原作コミックでは？

「鬼道衆」に登場。鬼道衆を率いる。人魚をめぐり、鬼太郎と対決。[illegible]

oni

鬼

【おに】

目に見えない怪異はすべて「鬼」だった

もともとは隠(オン)がなまって伝わったものであり、人の目に見えざる超自然的な存在の総称。そこから陰陽思想や浄土思想と習合し、閻魔大王の配下として認識されるようになった。

閻魔大王のそばにいる、地獄の戦闘員たち

80′



地獄における閻魔大王配下の屈強な怪物。大きさや風貌が違うものが何種類かいる。天叢雲剣が封印されている「奥の院」には赤鬼、黒鬼、青鬼がおり、それらはぬらりひょんを指でつまめるほど巨大だ。ほかにも人間を少し大きくした程度の、閻魔大王付きの「十鬼」も登場。また、第39話では奪衣婆の万有自在玉で操られる者も登場した。第39、109話ほか

能力◎こん棒を持ち、怪力を操る。

原作コミックでは？

「血戦！三途の川」で奪衣婆の配下の「十鬼」が登場。そのほか「地獄編」をとおして、閻魔大王の周辺に[illegible]

obariyon

オバリヨン

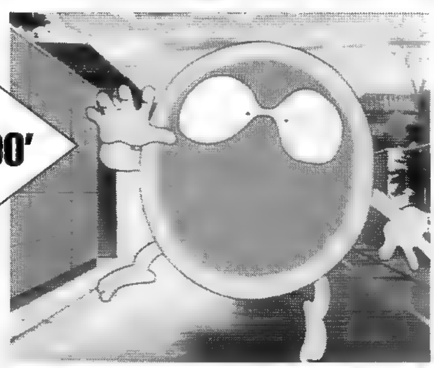
【おばりよん】

背中に飛び乗って頭をかじる妖怪

夜中に歩いていると、飛び乗って頭をかじる新潟の妖怪「バリヨン」がモチーフと思われる。バリヨンとは、“負われたい”という方言で、この妖怪を連れ帰ると金の入った壷だったという話も。

30年以上仲良しだった子を思い続ける

90′



緑色の風船のような体をした、心のやさしい妖怪。人間に危害を加えることはない。仲のよかった少女・幸美が事故で死亡。生前に彼女が姉と会うのを楽しみにしていたことから、その願いを叶えてやりたいと30年以上思い続けていた。姉には自分の姿が見えないため、夢の中で訴えかけ、なんとか姉を動かすことに成功したオバリヨンは、時間を越える力を使って過去へ。岩魚坊主の力を借りて、幸美の願いを叶えてあげる。第59話

原作コミックでは？

[illegible]

obakehamaguri

お化けはまぐり

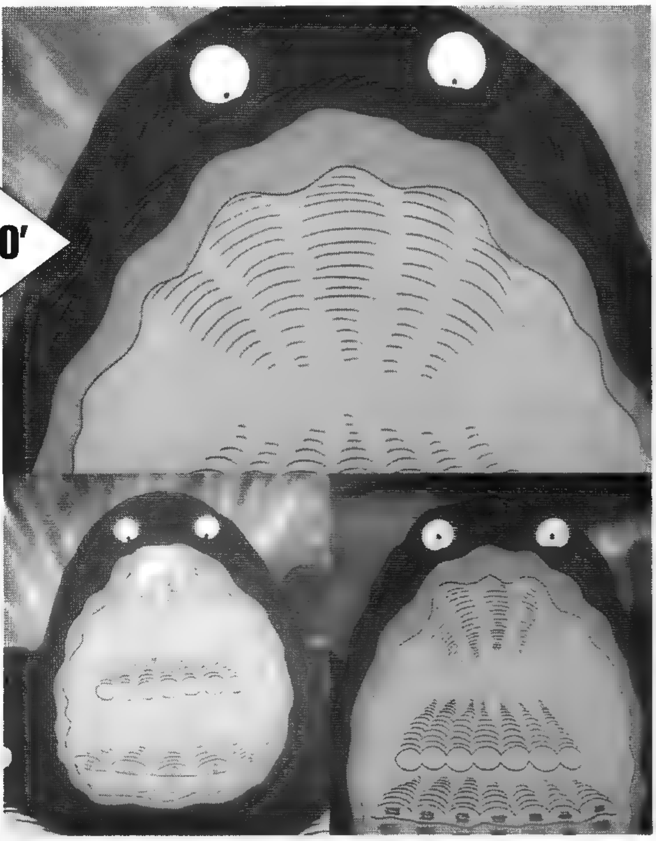


【おばけはまぐり】

蜃気楼は大はまぐりが吐き出している？

はまぐりではないが、『今昔百鬼拾遺』には、蜃気楼を大はまぐりや蛟が吐き出していると記されている。また、『播磨の妖怪たち』の中に、一丈もあるはまぐりのお化けが登場する。

60′



「妖気定着装置」として、怪気象を作り出す朧車の正体

朧車に身を包み、「怪気象」を作り出していた。怪気象は小笠原に発生し、時速20kmで南関東へ移動。ぐわごぜ率いる妖怪たちは、この怪気象の中に住んでいる。東京上陸後は、マンガ家・水木しげる宅付近の空中に存在し、つねに怪気象を吐き出して調布を妖怪たちの国にすべく環境を整えていた。妖怪総理大臣と呼ばれるぐわごぜからは、妖気定着装置と呼ばれる。第58話

最期◎朧車の状態で鬼太郎を石にするが、石化した鬼太郎に何度も体当たりされ、その正体を現す。さらに、鬼太郎に攻撃を続けられ、あっけなく破壊されてしまう。

80′



国会議事堂に巣くい怪気象を吐く

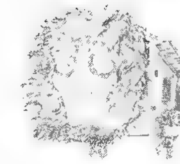
ぐわごぜの命令を聞き、国会議事堂の中で怪気象を吐き出していた。ふだんは朧車として存在し、議事堂の中から出ることも可能。朧車時に目から怪光線を出し、鬼太郎とぬりかべを石に変えた。最後は復活した鬼太郎に攻撃され、その正体を現し、貝の口を開けてあっけなく果ててしまった。目玉おやじによれば、「もともと、お化けはまぐりは、霊気で蜃気楼を見せることができる妖怪」らしい。劇「異次元」

原作コミックでは？

「朧車」では、お化けはまぐりと呼ばれることはないが、貝の姿で怪気象を吐き出す。あっけないやられかたは原作と同じだ。

oboroguruma

朧車



【おぼろぐるま】

牛車争いの遺恨が妖怪になって走る

鳥山石燕の『今昔百鬼拾遺』では「牛車の場所の取り合いで犠牲になった者が妖怪になり、夜に賀茂の大路を車輪のきしむ音を立てながら走った」と書かれている。

90′



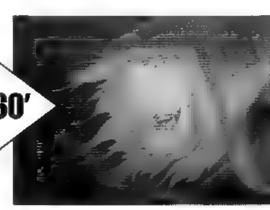
工事に怒って夜中をひた走る、妖怪化した牛車

数百年前の遺跡から発掘された木片が博物館で牛車に再現されて、それが妖怪となった。何百年も住んでいた丘と、そこに立つ博物館の取り壊しに激怒。夜中に車道を走って、次々と交通事故を引き起こしていた。第25話

能力◎これといった特殊能力はないが、相手への体当たりや、車輪で轢くことを武器にしている。

最期◎鬼太郎の説得には耳も貸さず、工事のトラックに体当たりして粉々に壊れた。破片は館長に渡される。

60′



その正体は、妖気定着装置

その中に妖怪の国が存在する、怪気象を発生させていた。ぐわごぜの指令で、東京の調布市に停車。竜巻とともに姿を現し、鬼太郎を石に変える。正体は、お化けはまぐり。第58話

能力◎目から怪光線を放ち、鬼太郎を石にしてしまう。

最期◎石になった鬼太郎に体当たりされ、その皮をはがされて妖気定着装置（お化けはまぐり）の正体を現す。その後も何度か体当たりされて粉々になってしまった。

80′



妖怪皇帝と手を組んで怪気象を生む

妖怪皇帝軍のひとり。怪気象を発生させ、妖怪の国をつくろうとしていた。その正体は、お化けはまぐり。朧車に、石にされた者を元に戻すには、朧車の涙が必要。劇「異次元」

能力◎怪奇象を作り出す。目から光線を出し、鬼太郎とぬりかべを石にしてしまった。

最期◎鬼太郎に、ちゃんちゃんこで目をふさがれ、オカリナロープで車輪を破壊される。剣で体も壊されてしまう。

原作コミックでは？

90年版はオリジナルストーリー「朧車」に加え、「謎のゴーストカーの正体は!?の巻」にも登場。両目はヘッドライトになっている。

oritataminyudou

折りたたみ入道

【おりたたみにゅうどう】

90′



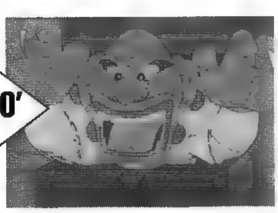
つづらの中から現れて、大好物の妖怪を頭から一呑み！

箱などの中から、突然飛び出して人を驚かす妖怪。山の中で行き倒れていたところを「むじな」に拾われ、言うことを聞くようになった。普段は、むじなの背負ったつづらの中に住んでいる。好物の妖怪を食べるため、ねずみ男に化けたむじなとともに妖怪アパートに潜入。気のいい妖怪の呼子や、油すましをだまして食べる。伸縮する体で素早く動き、鬼太郎を翻弄。鬼太郎の飛ばしたリモコン下駄も一呑みに。さらに、隙をついて鬼太郎をも食べてしまう。ちなみに、呼子より油すましの方がおいしく、鬼太郎はもっとうまいらしい。第36話

能力◎妖怪が好物で、頭から丸呑みにしてしまう。突然、つづらから現れての奇襲攻撃。

最期◎呑み込んだ鬼太郎が発した電気で、鬼太郎を吐き出す。ちゃんちゃんこで締め付けられ、紙のようになってしまう。

60′



鬼太郎の「毒まんじゅう」で悶絶

むじながしょっているつづらの中にいて、隙を突き鬼太郎に襲い掛かる。鬼太郎に倒されるが、山の妖気を浴びて復活。その正体はカカシで、育てるのに100年かかるらしい。第38話

能力◎つづらの中から突然現れ、相手を驚かす。大きな口で、何でも呑み込んでしまう。

最期◎鬼太郎の「毒まんじゅう」を食べて倒れるが、山の妖気を浴び復活。鬼太郎の飛び蹴りを食らい、カカシに戻る。

80′



妖怪香炉で再び鬼太郎を襲う

むじなのつづらに入り、鬼太郎を襲った。また、ぬらりひょんの妖怪香炉から現れた、妖怪のひとりとして登場したことも。実体化して、鬼太郎に迫る。第13、86、91話

能力◎鬼太郎の髪の毛針を吹き返した。鬼太郎を目玉おやじとともに食べてしまう。

最期◎一反もめんが折りたたみ入道の体を裂き、うずくまったところを子泣き爺に地面へ押しつぶされて消滅する。

原作コミックでは？

「おりたたみ入道」では、日本では育たない妖怪らしい。毒まんじゅうによって倒されている。「再生妖怪軍団の反撃！」の巻」ほか。

onnayasya

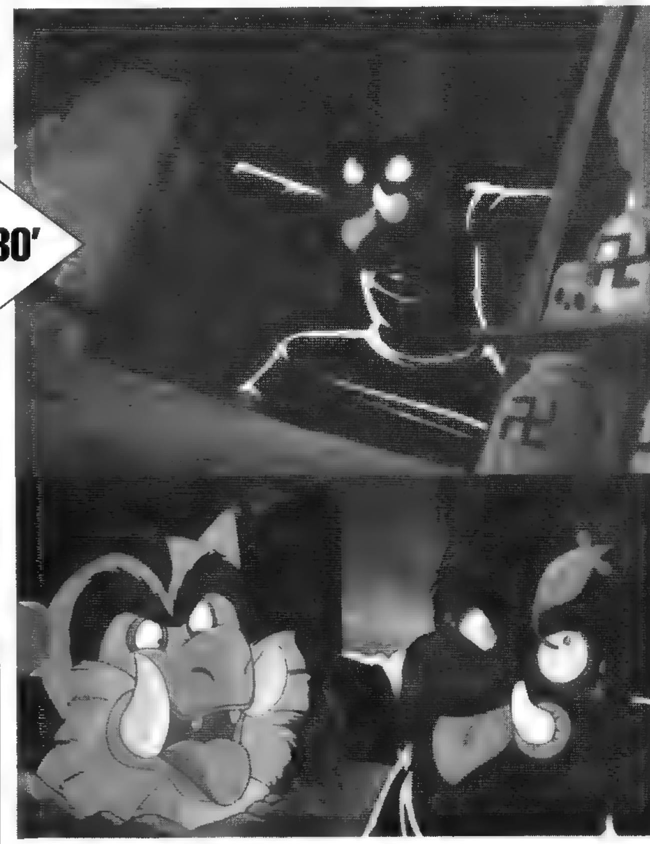
女夜叉

【おんなやしゃ】

日本では神を守る護法神に変化

古代インド神話に登場する悪鬼。インド神話において、悪鬼の総称と一般的にはいわれている。なお、インド神話で悪鬼だった神々は、仏教では仏界を守護する護法神になった。

80′



妖怪の天敵・ヒー族を操って妖怪帝国の支配を目論む

ヒー族から夜叉神さまと呼ばれ、あがめられる中国妖怪。ヒー族を使って鬼太郎をはじめ日本の妖怪を倒し、「妖怪帝国日本支部」を作ろうとしていた。最期は、ヒー族を作る際に用いる金蚕虫が体内に潜り込んでしまう。目玉おやじと毛目玉に、後世に伝えてほしいと、ヒー族製造の秘伝の技を語って息絶える。第91話。また、「夜叉」として、第96話にも登場。地中から現れ、ねずみ男と出くわして追いかけ、お尻にかみ付くが、おなら攻撃を受けて気絶してしまう。砂かけ婆たちに追われて地下に戻っていく。ほとんど活躍することはなかった。

60′



恐山を襲う吸血妖怪軍団のひとり

「吸血夜叉」として登場。ドラキュラ博士とともに吸血妖怪樹のため、恐山にある妖怪血液銀行を襲撃。老人に化け、鬼太郎に毒入りジュースを飲ませようとした。第52話

能力◎地中から現れて敵の意表を付く。キバを伸ばし、バッファローのように突進して襲い掛かる。

最期◎砂浜で鬼太郎たちと対決するが、吸血妖怪綿に襲われる。吸血夜叉は戦っているうちに海中へ。

原作コミックでは？

「血戦！小笠原」などに登場。吸血妖怪軍団の一員として恐山に出向き、土の中から飛び出して驚かすが、砂かけ婆に一蹴される。



陰形魔法は、ぬっぺらぼうを見るのじゃ

onmoraki

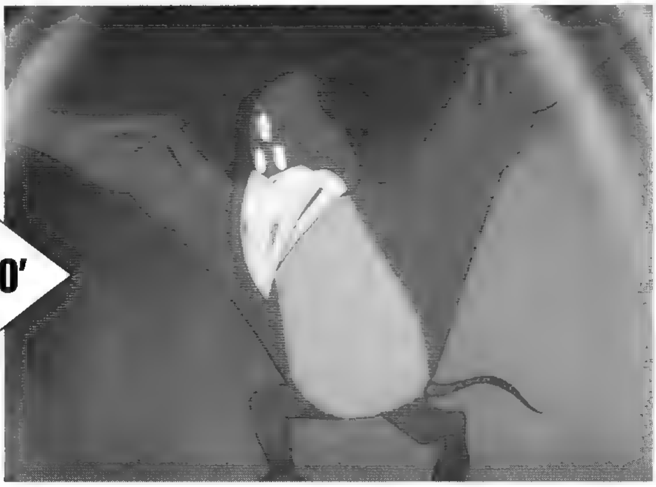
陰摩羅鬼【おんもらき】



三つ目ではない鳥の妖怪

中国の古書『清尊録』には、新しい死体の気が変化したという陰摩羅鬼が登場。鳥山石燕の『今昔画図続百鬼』にも、アニメと違って三つ目ではない陰摩羅鬼が描かれている。

60′



魂と肉体が別になった、復讐の鳥妖怪

「いんもらき」と読んでいる。太古から住む古墳の上に、哲夫の父が大きな家を建てたため、復讐の機会を狙っていた。哲夫のガールフレンド・啓子を殺し、その死体に乗り移って哲夫の命を狙う。魂状態は、おたまじゃくしのような姿。第64話

能力◎空中を飛行し、哲夫を襲う。鬼太郎の口から、魂を抜き取った。死体に乗り移って操ることができる。

最期◎106の質問で絵に魂を封じ込められるが、肉体は健在。鬼太郎の魂を抜き取るが、体に眠り薬を流し込まれ絶滅。

80′



死者に乗り移り、財産を狙う

死者に乗り移って悪さをする妖怪。死んだルリ子に乗り移り、資産家の伊集院と結婚して財産を奪おうと企む。じゃまな「悪霊封じのお札」を探し、夜な夜な家の中を徘徊。第49話

能力◎本体と魂が別々に行動可能。魂のみ死者に乗り移って、動かすことができる。

最期◎74の質問で正体を現し、お札によってルリ子から陰摩羅鬼の魂が抜ける。本体も鬼太郎たちに敗れ去る。

90′



亡霊たちを操り、鬼太郎を襲った

魂の供養を怠った人間に腹を立て、人を襲った。夜な夜な人間の亡霊を操り、生きている人の生気を吸う。鬼太郎に「正体暴きの秘術」で正体を暴かれ、墓に逃げ込む。第24話

能力◎足の力が強く、鬼太郎の頭を掴んで離さない。翼で空を飛ぶ。墓場で亡霊を操り、鬼太郎たちを襲う。

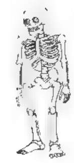
最期◎鬼太郎が出した108の質問による「正体封じの秘術」で、紙に封じ込められて土に返る。

原作コミックでは？

「陰摩羅鬼」に登場。地下5メートルの所に、太古から住んでいた。「妖怪　本所七ふしぎの巻」でも、その姿を確認することができる。

gaikotsu

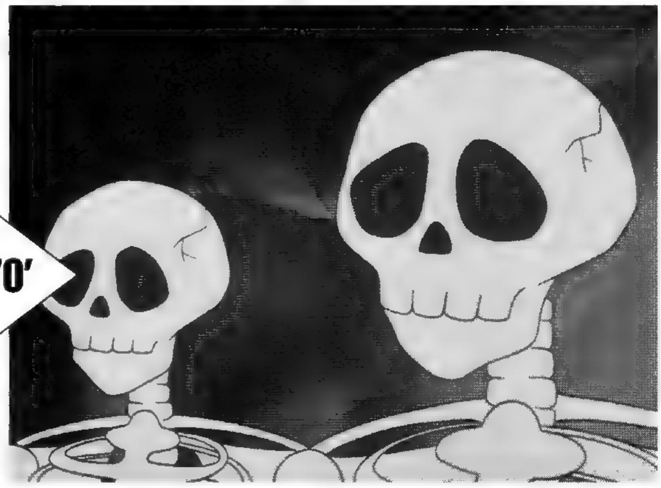
骸骨【がいこつ】



丑三つ刻に現れるたくさんの骸骨

“骨”にまつわる怪異は各地に伝わる。骸骨としては『赤碕の民俗』に、鳥取県東伯郡赤碕町の怪談が掲載されている。丑三つ時に町を歩いていると、無数の骸骨が現れて困ったという。

70′



体の骨を投げて攻撃。骨女の奴隷として使われる

大首が蘇らせて、骨女の奴隷として働く。2～9人程度で行動し、つねに骨女の側にいて彼女の指示に従う。その役割は、ねずみ男の死体が入った棺おけを運んだり、ネコ娘を捕らえたりと、雑務が主となっている。しかし、体の骨を投げて攻撃することも可能。大首の住みかに乗り込んだ鬼太郎たちをこれで迎え撃った。だが、いとも簡単に突破されていることから、攻撃力は低いようだ。鬼太郎のリモコン下駄や砂かけ婆たちによってで粉々にされてしまった。第26話

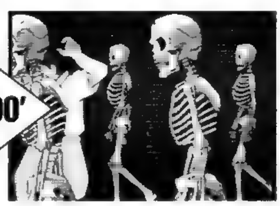
80′



大首の命令で霊魂を缶詰に

大首によって墓から蘇り、遠隔操作されている。同じく大首の子分、骨女の命令により、人間の霊魂を集めて缶詰工場で缶詰にして、大首のもとに運んでいた。つねに集団で行動。戦いの際には、体のパーツを外しそれを投げて攻撃する。体の分離が自由で、バラバラにされてもすぐに元に戻ることが可能なため、攻撃力はさほど高くないものの、しぶとさで鬼太郎ファミリーを苦しめた。大首が鬼太郎に倒されると、ただの骨に戻った。第40話

90′



みずからの意志をもつ兵隊

大首の念力によって生かされ、骨女の骨笛で操られる。集団で行動し、大首のために人をさらって缶詰にしていた。意志を持ち、クルマの運転をしたり、骨女に意見したりすることもある。大首が改心したため、動きを止めた。「縄文ガイコツ」と呼ばれる。また、第64話では、妖怪レースの司会を務めた者もいる。優勝者の鬼太郎に、妖怪石を出せと言われ冷や汗をかいていた。どちらの話でも鬼太郎と戦うことはなかった。第64、82話

原作コミックでは？

「大首」以外にも、「鬼太郎ムー一の国への巻」「決闘コロセウム」などで狼男らの部下としても登場する。

kagamijijii

鏡爺

【かがみじじい】





80′

ユメコを鏡の中にさらい、雲外鏡とも戦う

鏡の中に住む老人の妖怪。昭和の初めは鏡が貴重で、少女たちから大事にされていた。なかでもとくにかわいかった少女・お花ちゃんがユメコに似ていたため、鏡爺が昔から住んでいた村にある鏡の中へユメコをさらう。鬼太郎に倒されて改心した後は、原宿の『時代屋』という古道具屋に勤務。少女が鏡に閉じ込められる事件が発生し、その濡れ衣を着せられる。だが、雲外鏡の仕業と判明し、雲外鏡を倒すのに必要な「照魔鏡」を、ユメコと出雲大社に取りに行った。第2、35、46、52、70、80話、劇「最強妖怪」

能力◎杖からビームが出て鏡を操る「あわせ鏡攻撃」。ミラーハウスの鏡が鬼太郎を取り囲む「鏡地獄」。

最後◎ユメコがお花ちゃんの孫にあたることを知り、鏡の中に消える。後に原宿の古道具屋で働く。



60′

少女を鏡に連れ込みこき使う

銀座の古道具屋で売られていた鏡に潜み、大山家の長女・カオリを誘拐。身の回りの世話をさせる。本体は空気のようなもので、鏡は300年前のものだった。第8話

能力◎人間を鏡の中にさらい、さらわれた人間は姿を盗まれて外の世界では透明になってしまう。

最期◎透明になった鬼太郎に岩でなぐられ本体を現す。鏡に逃げ込むが、鏡を割られて本体も爆発。



90′

田舎の小学校に移される

鏡に住み、持ち主を守る心やさしい妖怪だったが、鏡を捨てられてしまい人間に復讐を誓う。翔太や、学校の子どもたちを鏡の世界に閉じ込めてしまう。第4話

能力◎鏡の中を自由に出入りでき、鏡の中では能力がアップする。人間を鏡の世界に封じ込める。

最後◎砂かけ婆が合わせ鏡で作った光の道から鏡の外に引きずり出され降参。その後は、田舎の小学校で幸せに暮らす。

原作コミックでは？

基本的には原作と同じ。奈良県の山奥に住む。鏡の中に[illegible]りすることができ、鬼太郎を鏡に閉じ込めた「鏡爺」

gaki

餓鬼

【がき】



この世に未練があり成仏できない者たち

仏教の六道のひとつで、餓鬼道に堕ちた亡者のこと。現世で自殺や事故死などを遂げて、この世に未練がある者が餓鬼道に堕ちるといわれている。その形態は書物によって異なる。

人間を食べてしまう、地獄に暮らす妖怪



80′

地獄に堕ちながらも、人間を食べて生き長らえている妖怪。昔、人里に下りて人間を襲っていたため「入らず山」に封印されたが、そこへ人間が入ったことで現代に復活した。村人を連れ去り、“ワイン漬け”にして食べようとしたが、鬼太郎に不老長寿の泉に投げ込まれて赤ん坊になってしまう。また地獄にいた餓鬼は、ユメコの両親に化けて、鬼太郎たちに襲いかかった。第77、113話

原作コミックでは？

[illegible]

kakutanju

角端獣

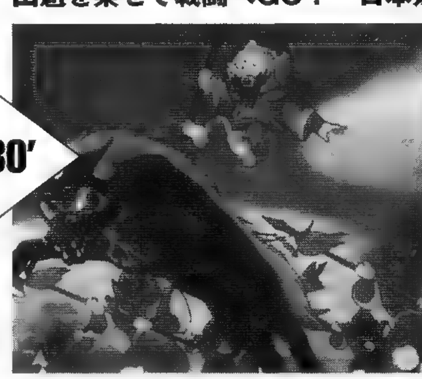
【かくたんじゅう】



チンギス=ハンが出会った妖獣

「角端」とも呼ばれる、中国の麒麟の一種。13世紀に、チンギス=ハンの斥候隊が、砂漠の中で出くわした。馬のような頭に緑色の体毛が生え、額には1本の角を持っていたという。

山魈を乗せて戦闘へGO！　日本妖怪を蹴ちらす



80′

チー率いる中国妖怪のひとり。黒い馬のような姿で、額に1本のツノを有する。チーの呼び出しで出現し、命令に従う。日本妖怪との戦いでは、「山魈」乗せ出撃。かまいたちらと激しい死闘を繰り広げる。劇「最強妖怪」

能力◎額の一本ヅノを振り回し、かまいたちをはじき飛ばした。また、後ろ蹴りが強烈だ。

最期◎石になった子泣き爺に乗られて、地面に押しつぶされて消滅。

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

kaibutsu

怪物

【かいぶつ】





90'

母を想い世間を呪う画家が生み出した怨念

妖怪ではなく、人の怨念の塊。母が死んだときに誰も助けてくれなかったと世を恨む青年画家が描いた絵が、スライム状の物体となって絵を飛び出して人を食う。食われた人は、絵の世界に閉じ込められてしまう。ちなみに体の赤色は、青年の血。第84話

能力◎ 部屋の中に画家が連れてきた絵のモデルを食べる。

最期◎ 画家が正気を取り戻し、動きが止まって消滅。

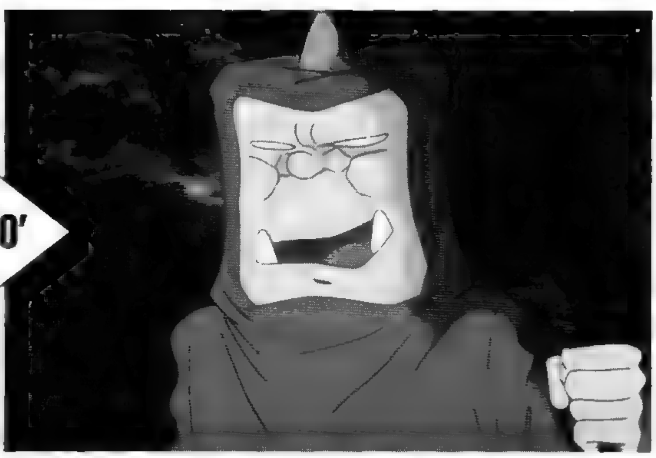
原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

kakurezatou

かくれ座頭

【かくれざとう】



70'

死ぬことも老いることもない"隠れ里"の管理者

盲目の妖怪。17年間座禅を組んでいて、念力が備わり"閧(とき)の橋"が見えるようになる。12〜13歳の貧乏な子どもをさらい、隠れ里に連れ込んで「神隠し」を起こす。自分の世話をさせ、あとは子どもたちとのんびり暮らすことを望んでいる。第38話

能力◎ 念力を持つ。閧の橋を見ることができる。

最期◎ 鬼太郎の毛針にやられ、永遠の国・隠れ里も滅びる。

原作コミックでは？

鬼太郎以外の水木作品『蒸発』に登場。隠れ里はアニメと違い女性だらけの国で、男神がさらわれて連れ込まれる。

kageonna

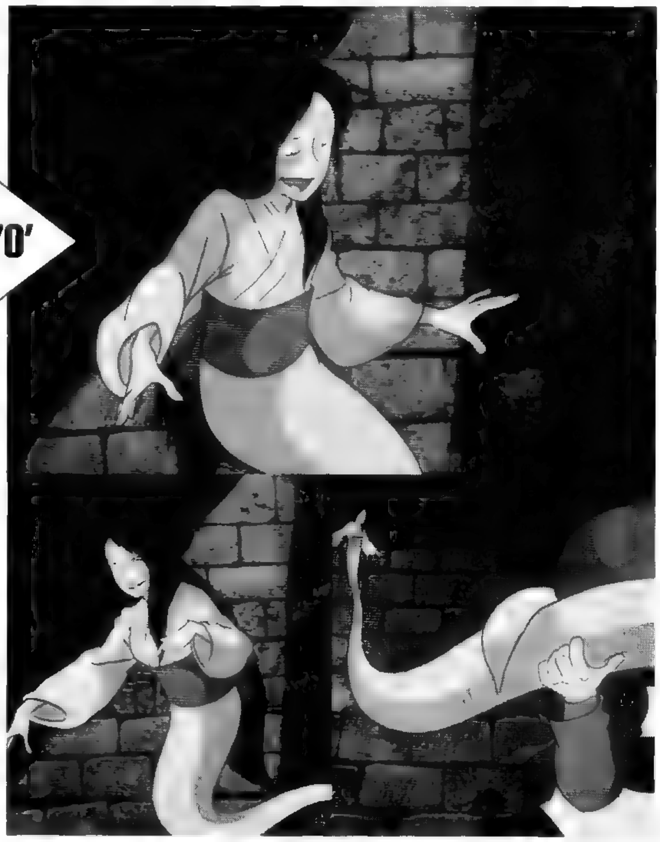
影女

【かげおんな】



月夜の晩に障子に映る女の影

鳥山石燕『今昔百鬼拾遺』にあり。「物の怪ある家には、月夜の晩に女の影が障子などに映る」という、その影のこと。荘子『斉物論篇』にも、"影"に関する記述がある。



70'

姿を見た人間は霊石で魂の世界に閉じ込められる

幽霊屋敷と呼ばれる家に住み着く、女の姿をした霊。障子に影が映り、畳に足跡が残る。無数の人魂が集まって、影女へと変貌する。100年の間に自分の姿を見たひとりの人間を生かしておけず、「霊石」を食べさせ魂の世界に閉じ込める。それは、妖怪や幽霊などは存在しない、と言い張る人間への罰の意味もある。第36話

能力◎自分の姿を見た人間に、霊石を食わせて魂を閉じ込める。伸縮自在の自分の体で相手の首を締め付ける。

最後◎光を消されると影も消え、力が落ちて降参。恨みがましい女性の顔から、一気に美女の顔に変化した。



90'

不平不満が集まった巨大な黒い影

地獄へ送られた人間たちの悪意から生まれた妖怪。不公平・不満だ、と思う負の気持ちに反応して出現。人を影の世界へ引きずり込み、そこで悪意の塊に変えてしまう。第100話

能力◎人を影の世界へ引きずり込む。1000の悪意を集めると実体化する。

最期◎コンサート会場へおびき出され、四方から強いライトの光を浴びて元の姿へ。ちゃんちゃんこに包まれて消滅。

原作コミックでは？

鬼太郎以外の水木作品『妖怪屋敷』に登場。70年代とほぼ同じ。また『影女』なる前後編の物語もあるが、まったく別のストーリー。

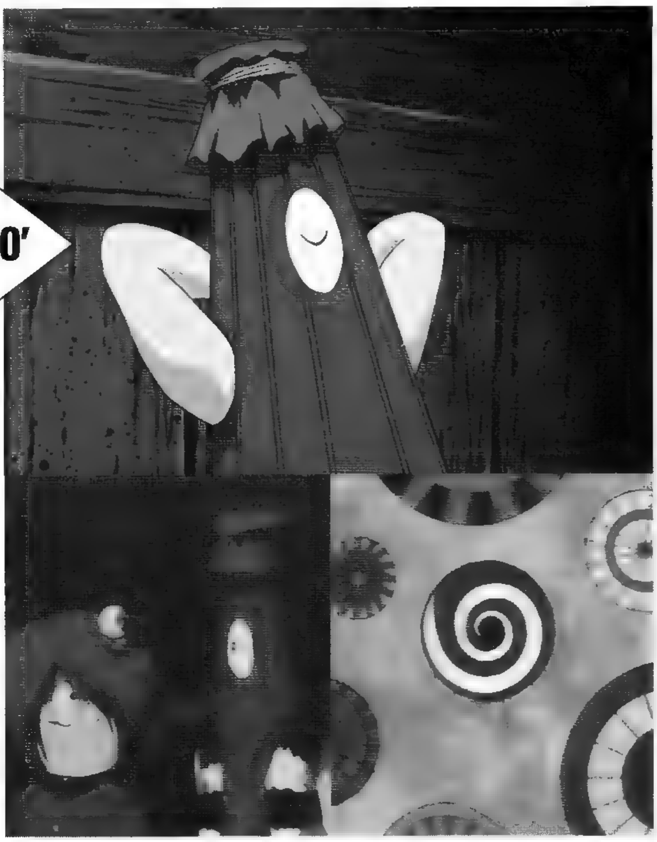
kasabake

傘化け【かさばけ】

戯画などで頻出のわりには伝承は少ない

一つ目あるいは２つの目が付いた傘から２本の腕が伸び、一本足でピョンピョン跳ね回る傘の化け物のこと。付喪神（つくもがみ）の一種と思われるが、知名度のわりには伝承は残っていないようだ。

90′



のほほんとした性格のわりには、かなりの強敵

一つ目で一本足の傘の妖怪。純朴で人が良く、頭はあまり良くない。ねずみ男にそそのかされて、鬼太郎に攻撃を仕掛け、ちゃんちゃんこを奪う。奪ったちゃんちゃんこで大金持ちの老人（故人）に化け、そこのおばあちゃんとの生活に幸せを感じる。唐傘小僧とは別個体と思われる。第31話

能力◎円盤状になって周囲を切り刻む。目から光線を出す。分身して催眠術をかけるなど、攻撃力は大きい。

最後◎ちゃんちゃんこを取り戻しに来た鬼太郎と再対決し、アキレス腱固めでギブアップする。

70′



怠け者だが恐ろしく強い

「楽して幸せになりたい」といつも考えている、愚痴ばかりこぼす困った妖怪。“怠け者だが恐ろしく強い”とは目玉おやじ談。鬼太郎のちゃんちゃんこを狙い一度は奪う。第24話

能力◎分身して目くらまし催眠をかける。目からビームを出す。円盤状になって空を飛び、周囲を切り刻む。

最期◎鬼太郎との再戦で、自分が目から出した光線を、ネコ娘の手鏡で跳ね返されて焼かれてしまう。

原作コミックでは？

「傘化け」に登場。70年代は、傘化けが化ける相手や、やられ方もほぼ原作のまま。90年代は、化ける相手からして違う。

kasha

火車【かしゃ】

墓場から死体を奪う猫の化身

葬式や葬列、あるいは墓場で死体を奪うという妖怪。全国に分布し、年をとった猫の姿だとする地方が多い。火車という名前は、地獄からの迎えである「火の車」よりきているようである。

80′



鬼太郎に乗り移り悪事三昧。「鬼太郎組」を作る

鬼のような姿をした妖怪で、モチが大好き。鬼太郎と対決し、鬼太郎と魂を入れ替えて火車の姿の鬼太郎を倒す。そのまま金を奪い、キャバレーで遊んで暴力団をのっとり「鬼太郎組」を作るなど悪行三昧。第62話、108話、劇「異次元」

能力◎魂をモチと一緒について食べる「モチ殺し」。魂を相手と瞬時に入れ替える「魂とりかえばやの術」を使う。

最期◎目玉おやじの妖術「逆モチ殺し」で魂を元のカラダに戻され、鬼太郎の体内電気でトドメを刺される。

70′



完全降伏して命ごいする

妖怪の中でも５本の指に入る強敵で、“鬼太郎でもかなわない”とは目玉おやじの談。自分の魂を敵の体に潜り込ませることも、人の魂を抜き出すこともできる。モチが好物。第23話

能力◎自分の魂を相手と入れ替えることができる。相手に乗り移ったら、相手の技も使える。

最後◎目玉おやじから受けた「逆餅殺し」で火車の魂が出てきて、もう永久に穴ごもりするから殺さないで、と懇願する。

90′



人情深いが“モチの魂がらみ”が大好き

亡くなった人間の魂を食う妖怪。母親の葬式に出ない親不孝な３人兄妹をさらい、母親の魂と一緒に食べてやるから腹の中で懺悔（ざんげ）し続けろという。第45話、劇「おばけナイター」

能力◎魂とモチを一緒に食べる。食べられたら成仏できない。自分がやられそうになると、相手と入れ替わることができる。

最後◎「息子を誇りに思っている」という母親の本当の気持ちを知り、「今回はモチだけを食べる」とどこかに消えていく。

原作コミックでは？

「逆餅殺し」に登場。基本的に70年代版は原作と同じ。90年代はほぼオリジナルの設定だ。



gashadokuro

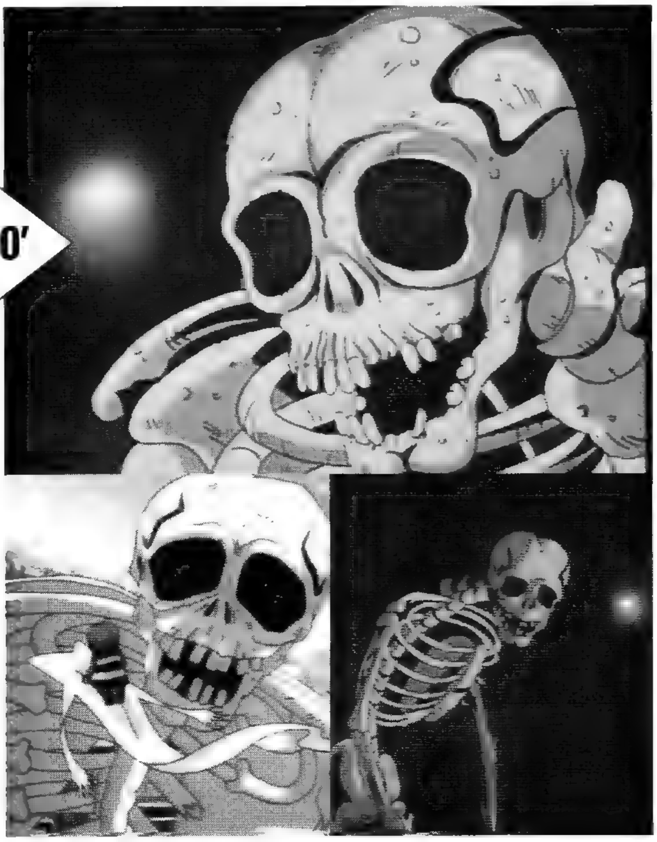
がしゃどくろ

【がしゃどくろ】

全長10m前後の巨大な人食い骸骨

佐藤有文『日本妖怪図鑑』にあり。野垂れ死にした人の髑髏(どくろ)が集まり、10mほどの大きさになった人食い骸骨。深夜2時ごろ、ガシャガシャと音を立てて出現。子ども向けの創作と思われる。

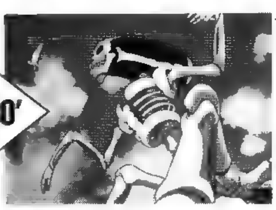
90′



毛羽毛現に操られ、ハイウェイの車を襲う

巨大な骸骨。霊山ハイウェイに現れ、自動車を襲って事故を頻発させる。これは自然を破壊して高速道路を造る人間に怒った毛羽毛現が、がしゃどくろを操って起こした事件だった。その後、毛羽毛現の主張に納得した鬼太郎は、高速道路を広げようとしている大臣と社長を温泉ツアーの接待でおびき寄せ、仲間たちを使って恐怖体験を味わわせる。がしゃどくろもターゲット2人が温泉に入っているのを見計らい、鬼太郎のオカリナ笛に反応して現れ脅かした。第11話。また、第96話では札幌で大暴れ。雪祭りが行われる時計塔の下の大通りを掘り起こした。

80′



南の島で妖花を守る墓守

華子の部屋の中に咲き乱れた「妖花」の元の木がある南の島に住み、華子たちが来るまでずっと、木の下にある墓の墓守をしていた。尋ねてきた鬼太郎たちを墓荒らしと間違え襲ったが、華子のおじが眠っていたその木が、勘違いしているがしゃどくろの周りに木の葉を飛ばして止める。そのすきに鬼太郎のオカリナ鞭(むち)が頭に巻きつき、頭を落とされ倒れる。第71話。また劇「異次元」では、妖怪皇帝軍として東京の街を破壊した。

原作コミックでは？

「大妖怪がしゃどくろ復活の巻」に登場。カマキリのようなスタイルで、人間を吸収して大きくなるなど設定は大きく異なる。

kashabo

カシャボ

【かしゃぼ】

河童が山の上にあがった姿

和歌山県と三重県にまたがる熊野地方に伝わる妖怪。川にいる間は河童で、山にいる間はカシャボになるといわれている。カシャンボ、カシランボウ、ガシャンボウとも呼ばれる。

大きな頭が特徴的な、金比羅島に暮らす妖怪

90′



“日本の南の果ての果て”にある、金比羅島に住む妖怪。紫色の長い頭に、ふんどし姿のラフなスタイル。ゆったりとした性格のようだ。いやみの毒にやられ、何をするにも面倒になった鬼太郎を治す唯一の薬「清めの水」を求めて、金比羅島に降り立つ目玉おやじたち。そこへ現れ、一行を「清めの泉」の場所へと案内する。鬼太郎は泉に浸かり、無事に元の状態へと戻るのだった。第61話

原作コミックでは？

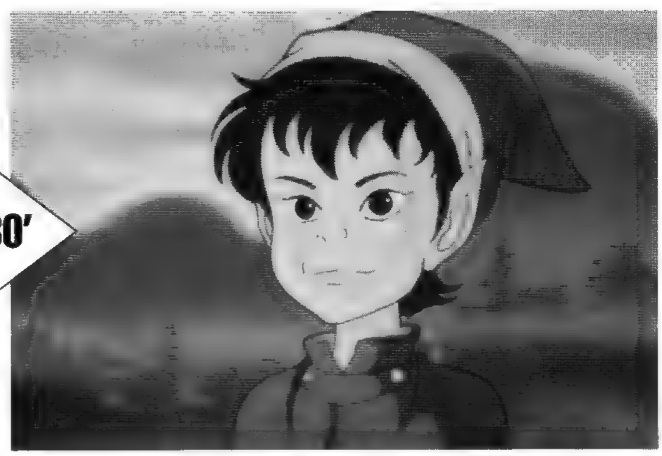
原作には登場しない妖怪。

kazenomatasaburou

風の又三郎

【かぜのまたさぶろう】

80′



工事を中止させるため、人間の子どもを誘拐

季節風の妖精を道案内する妖怪。鬼太郎の見立てによれば、天狗の子どもらしい。季節風の妖精たちが休む風の谷が、木枯峠の道路建設で破壊されそうになり、工事をやめさせようと人間の少女・風子を誘拐する。第69話

能力◎空を自由に飛ぶ。巨大なカラスに変身し、羽で突風を巻き起こす。

最後◎風子と旅に出ようとするが、彼女の母親の涙を見てひとり去っていく。

原作コミックでは？

TVアニメオリジナルの妖怪。

kazenokami

風の神
【かぜのかみ】

中国やインドが発祥とされる神

「風神」のルーツは、中国やインドとされている。日本の蓮華王院には鎌倉期の影像があり、有名な「風神雷神図屏風」の作者とされる俵屋宗達は、この造形を参考にしたともいわれている。

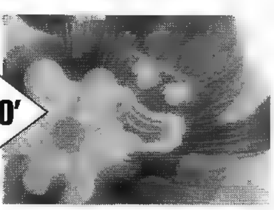
80′



袋から大量の突風を出す、鬼太郎の力強い味方

２度目の登場以降は、「風神」と呼ばれる。抱えている袋はいくらでも膨らみ、そこから強風を噴出してなんでも吹き飛ばしてしまう。また鬼太郎は、その風に乗って自由に空を飛ぶこともできる。鬼太郎の頼もしい助っ人として度々登場し、いつも用が終われば疾風のように去っていく。第63話では、悪魔ブエルと悪魔軍団を吸い込むために封印を解かれたヤカンズルが暴走を始めたときに、再び封じ込めるために参上。ヤカンズルの腹の中に大量の風を送り込み、風船のようにしてヤカンズルを膨らませて持ち去り、封印した。第14、63、69話

90′



雷神との連係で風雨を起こす

「風神」として登場。砂かけ婆に呼び出され、雷神とともに出現。都会に溢れる公害を吸収して、巨大化し暴れる白溶裔を洗い流して元に戻すべく、神通力を発揮。雷神とのコンビネーションで風雨を起こす。また妖怪バットをかけた、人間チーム対妖怪チームのナインとしても参加。突風でボールを上空にあげてキャッチ。バッターボックスではボールを打たずに風で飛ばして反則になっていた。第16話、劇「おばけナイター」

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

kazehoukou

風ほうこう
【かぜほうこう】

“風”ほうこうは水木オリジナル

ほうこうは、鳥山石燕の『今昔鬼拾遺』に登場するが、木の精とだけ説明されており、地水火風を操る旨は書かれていない。風ほうこうは、アニメ（原作も含め）のオリジナルである。

90′



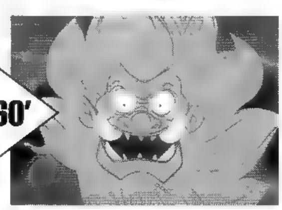
風攻撃で鬼太郎ファミリーを襲う

砂かけ婆の壷に吸い込まれた、ほうこうの分裂したうちのひとり。漬物をねずみ男にダメにされ、同じく分裂した火ほうこう、水ほうこう、地ほうこうとともに砂かけ婆やねずみ男たちを襲う。妖怪塩で溶かされた鬼太郎だったが、砂かけ婆たちの妖力を得て復活。風ほうこうたちと死闘を繰り広げる。第41話

能力◎体を高速で回転させて竜巻を起こす風攻撃で、砂かけ婆と子泣き爺を吹き飛ばした。

最期◎鬼太郎に風攻撃を仕掛けるが、地ほうこうをぶつけられ「力が……」と言い残して消えていく。

60′



ほうこうが４人に分裂して攻撃

ほうこうが、４人に分裂したうちのひとり。地ほうこう、水ほうこう、火ほうこうと共同で鬼太郎を襲撃する。鬼太郎の下駄で攻撃されるが、いとも簡単に振り払う。第65話

能力◎体を回転させて突風を起こし、鬼太郎を“きりもみ”にしてやろうとする。

最期◎４人のほうこうたちで鬼太郎を窮地に追い込むが、地ほうこうとぶつかり無にかえる。

原作コミックでは？

『ほうこう』に登場。「台風とめ」で鬼太郎を攻撃。やはり土ほうこうに投げつけられて無にかえった。

kappa

河童【かっぱ】



まさに、全国各地に伝わる水の妖怪

その語源は、関東地方の方言「カワッパ」とされている。全国各地で知られる妖怪であり、そのいわれや形態もさまざま。しかし、相撲やキュウリを好み、尻子玉が好物というのは共通のようである。

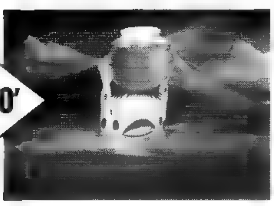
90′



淵や村まで登場する、最多登場キャラクター

いたるところに顔を出すメジャー妖怪・河童。第14話で、河童淵の河童たちがかに坊主に操られ、第42話では、河童親分が仕切る河童村に集団で暮らし、同じ河童妖怪の一目入道たちと対決していた。第63話では、第一回日本妖怪会議に出席し、第71話ではカワウソを倒すため、朱の盤に協力する。さらに、妖怪新聞で尋ね人の欄を眺め、さら小僧と行動をともにする少数派も存在している。また、怪気象により出現した妖怪の町で、寿司職人をする変わった者もいた。第8、14、30、42、63、70、71話

60′



単独で行動する河童がわずかに登場

そのネームバリューの割に、意外と姿を見せない60年代の河童たち。メインとなる話はなく、いずれもゲスト、もしくはその他大勢での出演にとどまっている。吸血鬼エリートによって液体にされた鬼太郎を湖面で受け取り、恐山の妖怪病院に運んだ河童。また、さら小僧とともにザ・ビンボーズを誘拐し、鬼太郎とさら小僧の戦いを川の中から笑って観戦していた河童たちが登場した。第16、34話

80′



日本妖怪軍には欠かせない戦力

やはり、複数の種族の河童が存在している。第85話では、カッパ天国が登場。ユメコの弟・星郎と体を入れ替えた子どもの河童・三吉や、その母親も顔を見せている。ほかにも磯女たちと悪い人間を懲らしめ、悪魔ベリアルや猛霊八惨に日本妖怪軍団のひとりとして戦いを挑んだ者もいた。また、地獄を一周する妖怪マラソンにも参加した河童が登場した。第7、31、43、52、54、84、85、94、98、108話

原作コミックでは？

その他大勢として顔を出すことが多い。「尻子玉」「妖怪大戦争」「妖神大戦記」「妖怪大裁判」「地獄マラソン」「妖怪危機一髪」などに登場。

kappaoyabun

河童親分【かっぱおやぶん】



90′



河童村を一目入道一家から守る、河童たちの長

平和な河童村を束ねるボス。心優しく、本来は争いごとが嫌い。一目入道一家が、河童村の子どもたちの遊びをじゃまし、また、若い衆を集団で暴行して、胡瓜を盗んで食べてしまう事件が多発。そんなとき、一目入道一家から河童村を守ろうと奮闘。木刀を振り回し、一目入道親分と戦いを繰り広げた。ちなみに、客人のねずみ男とがんぎ小僧には、かっぱ巻きを振る舞った。第42話

原作コミックでは？

TVアニメオリジナルの妖怪。

katsuraotoko

桂男【かつらおとこ】



月を見ていると現れ人をさらう

和歌山県東牟婁郡下里村に伝わる妖怪。月を長く眺めていると桂男に招かれ命を落とすといわれる。『絵本百物語　桃山人夜話』や『酉陽雑俎』などにもタイプの異なる桂男が登場している。

巨大なハエやゴキブリを使って街を攻撃する

90′



月女の忠実な部下。800年に一度、月の船を飛ばすために出現。船にじゃまな生活光を、巨大化させたハエやゴキブリで破壊していく。それを阻止しようとする鬼太郎と巨大なハエを戦わせ、自身は破壊活動を続行。第93話

能力◎目と口から光線を発射し、昆虫を巨大化させる。

最期◎月女の説得によりおとなしくなり、鬼太郎の協力を得て月女を月へ帰すと、自分は海に帰っていく。

原作コミックでは？

人間に月を荒らされて怒り、仕返しするため童児とともに飛来する。ひでり神の攻撃によって体の水分を失ってしまう。「月の妖怪　桂男」

kanibouzu

かに坊主

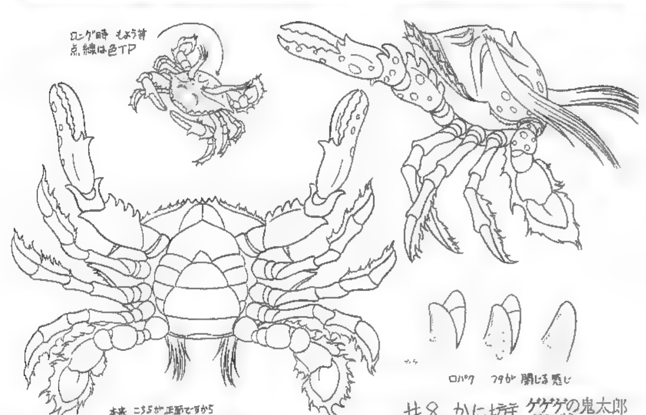
【かにぼうず】

禅問答を仕掛けてくる蟹の化け物

山梨県、富山県、石川県にある数多くの寺に逸話が残るカニの妖怪。「新しく住職が来てもすぐにいなくなる寺があり、そこに旅の僧が泊まると、夜に何者かが現れ禅問答を仕掛けてくる。僧は、これをカニ坊主の仕業と暴き退治する」というのが一般的に知られるカニ坊主の話のようだ。

90′









上海ガニが2000年を経て妖力を得た

徐福とともに日本に渡ってきた上海ガニが、2000年生きて妖力を手に入れ妖怪になった。山奥の沼に住んでいたが、沼を埋めた人間に復讐を誓う。しかし鬼太郎に破れ、以後仲間に。蓬莱島に詳しく、そこに住む蛟を鬼太郎とともに抑え、二千動力で船幽霊を退治をしたこともあった。第8、14、77話

能力◎白い泡を吐き、浴びたものを操る。海和尚に泡攻撃をして動けなくした。

最後◎泡を吐いて鬼太郎の自由を奪うが、復活した鬼太郎の髪の毛網で妖力を引き出されて、上海カニに戻る。（8）

原作コミックでは？

原作では荒れ寺の池に住んでいる。しかし山童に仲間を乱獲されて、鬼太郎に救ってもらう。「地獄の妖怪なべの巻」

kanedama

金霊

【かねだま】

よい行いをすれば福きたる!?

鳥山石燕の『今昔画図続百鬼』に描かれている。しかし、妖怪というよりも、「よい行いをすれば、必ず天より福が舞い降りる」といった教えを絵に表したもののようだ。

光り輝く金色の体で、百目の目を眩ませた

80′



金貨そのままの姿をした妖怪。一度だけ、鬼太郎の仲間として登場する。かなり大きく、鬼太郎を乗せて空を飛ぶことも可能。自身の輝きを強くすることもできる。光が弱点の強敵・百目と戦う鬼太郎にオカリナで呼び出され、百目退治に加勢。その金色に輝く姿で百目の目を眩ませ、百目を追い込む。これにより、鬼太郎は止めを刺すことができたのだった。第65話

原作コミックでは？

「妖怪金霊あらわる!!の巻」人間の発する邪気に当てられて巨大化し、邪気のこもった金を撒き散らして人々を[illegible]

gahi

画皮



【がひ】

人の皮を被って、人間を食べてしまう中国の妖怪

中国に伝わる伝承。人間の皮に化粧を施し、それを身にまとって美女に化けて人間に近づき食べてしまう。『聊斎志異（りょうさいしい）』に詳しい。また、人間の皮を使って行う妖術のことも画皮と呼ぶ。

空から日本妖怪空軍を襲う中国妖怪

80′



日本を支配しようとする、チーが指揮する中国妖怪のひとり。巨大な頭だけの妖怪で、空中を移動して化け傘やうぶめなど、日本妖怪の空軍を蹴散らした。鬼太郎に振り回され、岩に激突して気を失っていたが復活。同じくチーが呼び出した妖神とともに鬼太郎に挑む。劇「最強妖怪」

能力◎空を飛び、口から黒い突風を吐いて敵を攻撃。

最期◎燃え盛る妖神と激突し、そのまま妖怪城へ突っ込む。

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪

kamaitachi

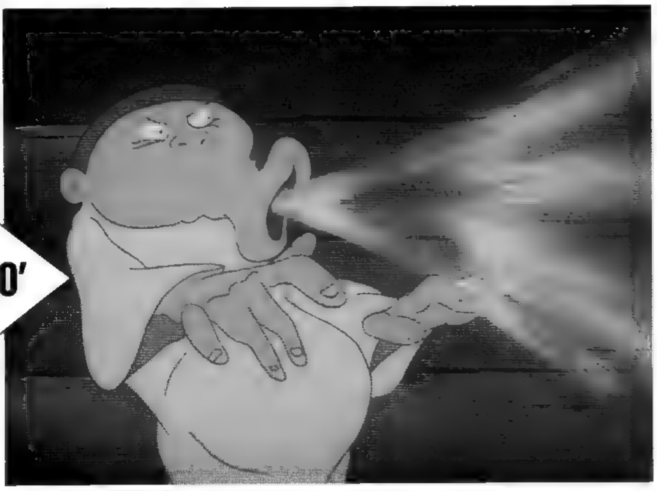
かまいたち

【かまいたち】

知らぬ間に手足に切り傷を作る

風に乗り、人の手足を切るといわれている妖怪。その伝承は各地で語られており、いつの間にか刃物で切ったような傷ができるのは、このかまいたちの仕業と考えられていた。

60′



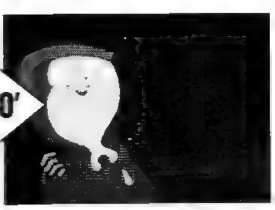
人間を妖怪に変えて仲間増やそうと目論む

たんたん坊、大口女らと妖怪の世界を復活させようと企む。入らずの森で冬眠に入っていたが、ねずみ男によって百年の眠りから復活。妖怪城を建設し、人間を妖怪に変えてその数を増やし、百年前のような妖怪最盛期を目指す。第３話

能力◎尖った口から突風を起こす。鬼太郎を吸い込み、遠くに噴き出した。

最期◎封印されていた石にしめ縄をかけられ、妖怪城とともに再び封印されてしまう。

80′



鬼太郎ファミリーとして仲間に

妖怪城を造り、子どもたちを次々と誘拐する。鬼太郎に倒された後に、ファミリーに加わった。「人間と妖怪友好盆踊り大会」にも浴衣で参加。第１、74、93話、劇「最強妖怪」

能力◎素早い動きで敵を翻弄。黄緑色の塊になり、風のように人をさらう。

最後◎一反もめんに巻きつかれて、身動きが取れなくなってしまう。第１話では、封印されてしまった。

90′



ノイローゼの鬼太郎の幻覚にも

たんたん坊らとともに妖怪城に潜む。すべてを闇の世界にして、世の中を支配しようと目論んだ。また、妖怪ノイローゼにかかった鬼太郎の夢の中にも登場する。第66、67、106話

能力◎素早く風のように空中を舞い、両手を刃物に変えて相手を引き裂く。突風を起こす。

最期◎たんたん坊たちと妖怪城に閉じ込められ、城とともに封印されてしまう。

原作コミックでは？

「妖怪城」「妖怪 本所七ふしぎの巻」では鬼太郎の敵として、『新編ゲゲゲの鬼太郎』では、仲間として鬼太郎とともに戦った。

kabuso

かぶそ



【かぶそ】

人にいたずらする子猫大の獣

石川県の妖怪。子猫ほどの大きさで、体は黒くて前足が短い。そして、尾は先のほうが太い。夜間に出没して、人にいたずらをし、美女に化けることもできるらしい。「カワソ」とも呼ばれる。

赤頭の与えた「知恵の実」で急速に進化を遂げる

80′



木に住む大人しい妖怪。ハチャとメチャの２人のかぶそが、偶然、人工衛星に乗ってたどり着いた月で、赤頭に遭遇。月にある「知恵の実」を赤頭に与えられたかぶそは、急速に進化。ハチャとメチャの２人を女王と国王にし、一夜にして巨大な城を建設する。さらに、城に乗り込んだユメコとねずみ男を人質にとって鬼太郎たちに宣戦布告。しかし、油断したかぶそは自滅してしまう。第93話

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

gamajin

ガマ人

【がまじん】

70′



山林に暮らす、元は人間の二足歩行のカエルたち

ニューギニアの山林の奥で暮らす。元は人間。引田青年の父親が戦時中銃弾に当たり、ガマ人が輸血してくれたことで命を取りとめ、第二の人生をガマ人として過ごしていた。ガマ人となった引田の父は、引田を呼び寄せるために夢を見させる。第16話

能力◎美女に変身する。相手の夢のなかに入って自分の存在を知らせる。

最期◎鬼太郎は、髪の毛を紐にしてガマ人の首にまきつけて痛めつけた。

原作コミックでは？

鬼太郎が登場しない「南からの招き」という短編に、カエル人として出演。カエル人になるには、交尾を重ねる必要がある。

gamasennin

ガマ仙人

【がませんにん】



60'

多彩な仙術を使う、邪魅をガマにした仙人

邪魅を封印した、多彩な術を使う強力な仙人。目玉おやじとは古くからの知り合い。ガマから元の姿に戻った邪魅の毒気にやられた鬼太郎と、昔から一流の妖怪が決戦の場に選んだという、時間もなければ空間もない、「妖怪関ヶ原」に鬼太郎をおびき入れて対決。なんなく鬼太郎を正気に戻し、邪魅を再びガマにしてしまう。蛇が苦手で、ねずみ男を「チュー公」と呼ぶ。第50話

能力◎鬼太郎の下駄やちゃんちゃんこすらはね返してしまう力を持ち、持っている杖を回転させ投げて攻撃。木の根を自由に操ることもでき、これで鬼太郎を捕らえた。壁に杖で線を描いて「妖怪関ヶ原」の入り口を作り、異次元光線を放つ「キノコランプ」を使って自由に出入りが可能。また、下駄とちゃんちゃんこを着て、鬼太郎に化ける。しかし、ヒゲはそのままだった。

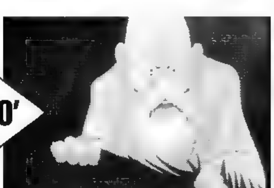


80'

霊力のある杖を使う仙人

不仙山の奥の樹齢3000年の木の中に住む。鬼太郎を助けようと、必死で戦っているユメコを見て姿を現す。「妖怪関ヶ原」へ、邪魅に操られる鬼太郎を連れ込み術を解く。第41話

能力◎異次元へ続く扉を開け、妖力を無効化する「妖怪関ヶ原」へ行くことができる。鬼太郎に、霊力のある杖を渡し「杖は霊力がある、その杖で邪魅を東のほうへ打て！」と指示。放った光が邪魅に当たり、再び邪魅はガマになる。



90'

「異次元の森」では無敵の仙人

邪魅をガマガエルの姿に変えた仙人。毒気で邪魅の言いなりとなった鬼太郎を「異次元の森」に誘い込み、鬼太郎を助ける。鬼太郎のふりをするが、顔は老けていた。第54話

能力◎壁に杖で線を描き、光るキノコを使った「キノコランプ」で「異次元の森」に入ることができる。ここにいる限りは、ガマ仙人は無敵となり、鬼太郎の攻撃も効かなかった。光るキノコに呪文をかけ、再び邪魅をガマに変えた。

原作コミックでは？

邪魅に毒気を浴びた鬼太郎を「妖怪関ヶ原」に誘いだすガマ仙人。基本的に、60年代は原作と同じ展開に。「妖怪関ヶ原」

kamanari

釜鳴り

【かまなり】

釜を頭に被った二足歩行の獣？

「鳴釜」とも呼ばれる。鳥山石燕の『画図百器徒然袋』に、釜を被った獣のような妖怪として描かれる。釜鳴りは、占いの方法として用いられる手法のひとつでもある。



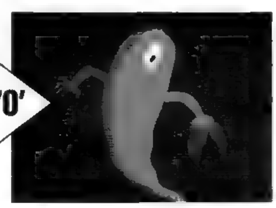
90'

ニセの鬼太郎になりすまし、妖怪を支配しようと企む

釜に宿った、一つ目の妖怪。地獄の閻魔大王を倒して、妖怪たちの支配者になろうと画策。鬼太郎の髪、ちゃんちゃんこ、下駄を奪ってニセ鬼太郎になりすました。口がうまく、人をだますのが得意。本体の一つ目が弱点。第95話

能力◎相手を釜の中に吸い込み、釜で相手に体当たりする。人に化けることが可能。

最期◎釜の中に隠れつつ鬼太郎に攻撃するが、毛針に炙(あぶ)り出さる。一つ目に下駄をくらい逃げ出し、ただの釜に戻った。



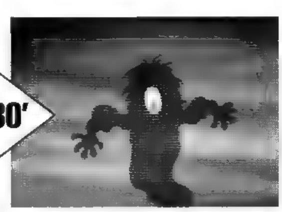
70'

釜に入り込んだ生気が妖怪に

古い釜に、よどんだ風が入り生気をおびた。釜の中に手を入れると吸い込まれ、異次元へ落下。入り込んだ子どもは砂と土に化して、城壁の壁の中に閉じ込められる。第19話

能力◎釜の中に人を吸い寄せ、異次元の世界へ閉じ込めてしまう。鬼太郎の髪を奪った。

最期◎砂かけ婆の砂を「ブハ！ブハ！」と吐き出すと、妖気も出てしまう。鬼太郎のリモコン下駄の攻撃で姿を消す。



80'

子どもに怒って復讐を誓う

釜の中の異次元空間で暮らす妖怪。子どもたちに、釜を祭っている祭壇を壊されて激怒。復讐を誓って鬼太郎の髪を奪取し、妖力を使って子どもたちを飲み込む。第36、91、108話

能力◎鬼太郎を助けようとした妖怪たちの網にかかった釜鳴りだったが、巨大な鍋たちを操って反撃する。

最期◎鬼太郎を壁に挟んで潰そうとするが、逆に髪の毛針で攻撃され敗れる。

原作コミックでは？

文福茶釜の系統に当たる。鬼太郎の髪を奪い復活し、人間を飲み込み生気を吸う。「釜なり」。ほかに『最新版ゲゲゲの鬼太郎』にも登場。

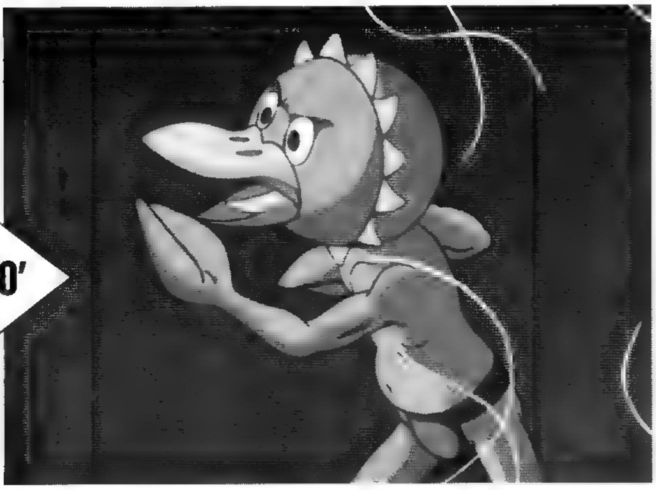
kamikiri

かみきり
【かみきり】

いつの間にか髪を切られている

『諸国里人談(しょこくりじんだん)』などに記された、知らぬ間に髪を切られている話がもと。水木しげるの『妖怪大百科』には「貧しい人が売った髪の毛の霊が妖怪になったらしい」と説明。

80'



あみきりによく似た、両手がハサミの妖怪

両手のハサミでなんでも切ってしまう妖怪。鬼太郎を助ける仲間のひとりとして顔を出す。第64話では、鬼太郎に呼ばれ、一反木綿に乗って参上。穴ぐら入道の操る大蜘蛛の糸に捕まった鬼太郎を、両手のハサミを使って救う。クモの糸を切りながら、「さすが穴ぐら入道だけあって、毒気がない」とささやく。第104話では、妖怪狩りツアーの客たちを乗せたバスに“人間狩りツアー”の妖怪客として同乗する。また、第36話では、よく似たあみきりと共演。第36、64、80、104話、劇「最強妖怪」

70'



言葉の代わりに表情で語る!!

ぱっくり病で死んだねずみ男の葬式に参列する。言葉を発することなく悲しみの表情を浮かべ、始終うつ向いているが、涙は流していない。砂かけ婆などみんなと一緒に墓の前でお経を唱える。墓前で手を合わせる際に、なぜかひとりだけ西洋風だったりする。手ははさみではなく、人間と同じ手をしている。夜になるまでみんな集まったままだが、その後は姿を消してしまう。第26話

90'



妖怪運動会で疾走する

夜の墓場で年に一度行われる「妖怪運動会」に参加した妖怪。夜行さん、ねずみ男とともに短距離離走に出場。険しい表情で汗をかきながら必死に走り、夜行さんと一位を競いあうが、寸分の差で負けてしまい、二着になってしまう。くちばしや、ひまわりのようなエラはあるが、鼻穴はなく、目はオレンジ色。80年代とは違いはさみではなく、70年代と同じように5本の指がある。第40話

原作コミックでは？

「UFO宇宙突撃隊」「死神大戦記」「妖怪危機一髪」「[illegible]なり」など多数の話に登場するが、両手がハサミではないタイプもいるようだ。

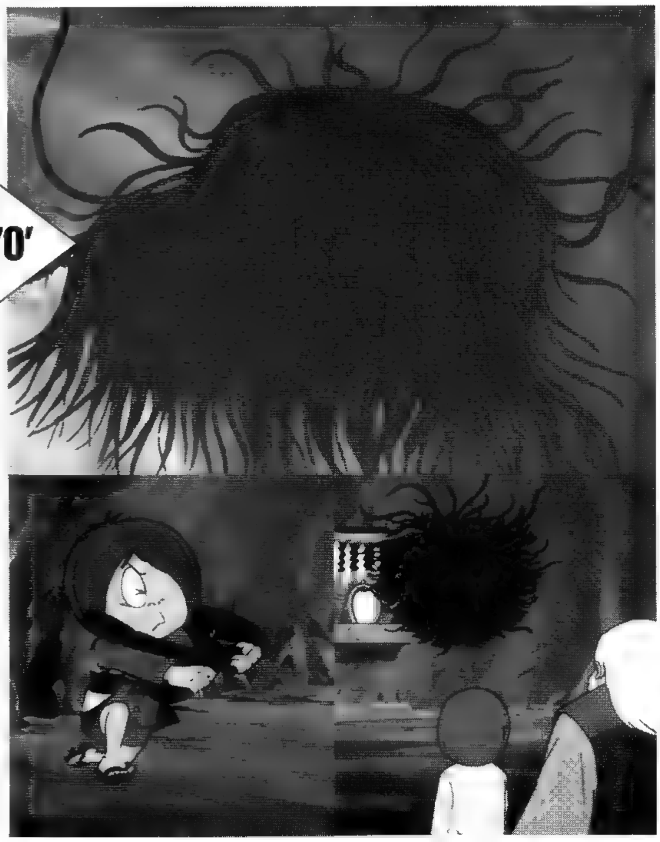
kamisama

髪様



【かみさま】

70'



髪の毛を操り、島民を苦しめる髪の毛の妖怪

沖の島に住む、髪の毛の妖怪。毎年、生け贄を捧げる風習が残る島だったが、その年の生け贄に逃げられたために激怒。神主の毛目玉を使って、代わりに100人の生け贄を要求する。島民はなすすべなく困っていたが、要求を受け入れられないと、さらに怒って全島民たちの髪の毛を奪い、これを操って島民を島から追い出してしまおうと企む。救援に来た自衛隊のヘリすら、髪の毛を大群で飛ばして墜落させてしまった。みずからの意思は神主の毛目玉を通じて島民に伝える。普段は、覗いた者を吸い込んでしまう「ヤタの鏡」の中に潜んでおり、これを割られると何もできなくなってしまう。第９話

能力◎人間から髪の毛を奪って操る。その髪は電気を発することが可能。鬼太郎を髪の毛で締め付けた。

最期◎鬼太郎にヤタの鏡を割られて動けなくなり、神通力が消えて、ただの髪の毛になってしまう。

80'



人間に存在を忘れられ激怒

島の平和を守っていたが、お供えもなく自分の存在をないがしろにされ、怒って生け贄を要求。神主の毛目玉を使って、島民に意思を伝える。生け贄を阻止する鬼太郎と対決。第72話

能力◎人間の髪の毛を操り、その髪から電気を発することができる。髪の毛を伸ばして鬼太郎を攻撃。毛針も跳ね返す。

最後◎巨大化し鬼太郎を髪の毛で捕まえるが、力の源である「ヤタの鏡」を割られて元の良神に戻る。

原作コミックでは？

沖の島の洞窟にある、ヤタの鏡の中に住む。5000年前から島を支配し、毎年、生け贄を要求する。鏡を壊されて神通力を失った「髪さま」。

kaminari

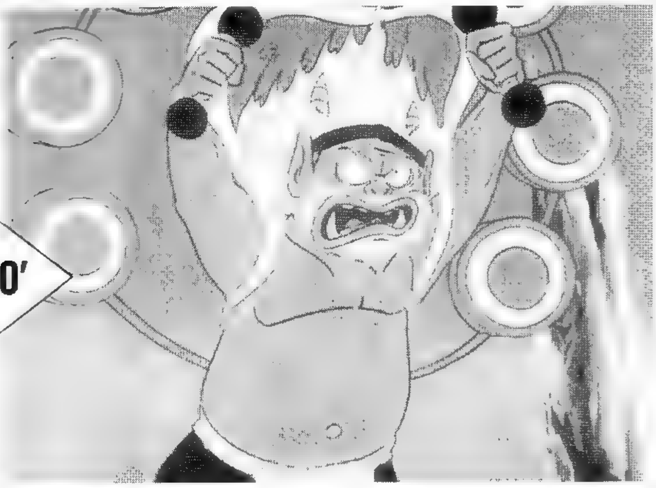
かみなり

【かみなり】

菅原道真が生まれ変わった雷の神？

雷神、雷電様、鳴神、雷公とも呼ばれ、菅原道真が、死して天神（雷神）になったとも伝えられる。俵屋宗達が描いたとされる「風神雷神図屏風」により、風神と対で語られることも多い。

60′



人工雨の実験に怒り、雨を降らせなかった電気妖怪

別名、「電気妖怪」。空中に浮かぶ巨大な岩に住む。岩には引力があり、普段は岩の中に潜っているようだ。相次ぐ人工雨の実験に怒り、1年間、村に雨を降らせなかった。自由に雷を操ることができる。元々人間の前には姿を現さない妖怪。第25話

能力◎体から電気を発し、雷を引き起こす。持っているバチから電光を放ち、敵を攻撃することもできる。

最期◎子泣き爺にしがみつかれて地面に落下。鬼太郎に電気を吸い取られたあげく、鬼太郎の放電をくらい体が燃えてしまう。

80′



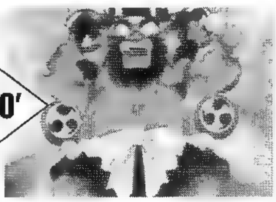
電気を使いすぎる人間に怒り巨大化

博士の雷から電気を作る実験で、エネルギーを奪われると勘違いして博士に不信を抱き、電気を無駄使いする人間に怒り出現。後に、鬼太郎の仲間に。第23、82、106話、劇「最強妖怪」

能力◎強力な雷を落とす。電気ショックで、雨山博士が作った機械「キテレツⅡ」と合体して巨大化。

最後◎鬼太郎の毛針＆下駄でひるみ、寝技で首をしめられてギブアップ。最後は、雨山博士と酒を酌み交わす。

90′



背中の太鼓は蓄電器になっている

積乱雲の中に住み、雷を発する電気妖怪。実験で積乱雲にミサイルを撃ち込まれて怒る。背中の太鼓は蓄電器で、すぐに補充が可能だ。第32話。また、第16話には「雷神」も登場。

能力◎人間たちを雷で撃って捕らえる。雷が尽きたと見せかけ組み付いてきた鬼太郎を逆に組み伏せ、電気を流し込む。

最後◎鬼太郎の電気攻撃に逆にやられてしまう。住みかの岩と一緒に、積乱雲の中に帰っていく。

原作コミックでは？

アニメは「電気妖怪」をベースにしている。また「妖怪 本所七不思議の巻」「吸血鬼」「死神大戦記」など、賑やかしには欠かせない。

karakasakozou

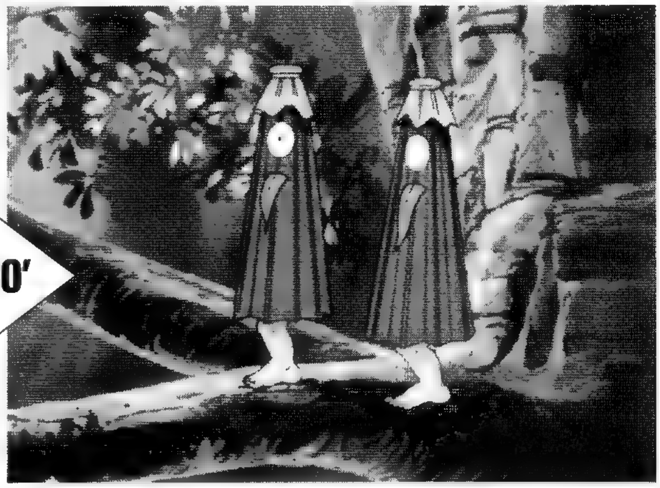
唐傘小僧

【からかさこぞう】

作り話のなかだけに登場する物の怪

「傘化け」ともいう。傘が化けたとされるポピュラーな妖怪だ。しかし、戯画や昔話などには頻繁に登場するものの、実際に現れたという記録などは残されていない。

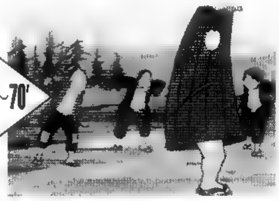
80′



仲間をぶら下げて空を飛ぶ、傘の妖怪

傘化けと同じタイプだが、こちらは鬼太郎ファミリーである。みずからを"カサコプター"と呼んだこともあった。大抵は仲間を足にぶら下げて飛行するのが主な役割だが、賽の河原を支配する時計を逆回ししたり、中国妖怪戦では空軍として集団で参戦したりしている。また、妖怪チームVS.少年野球チームの試合では、3番でファーストを担当。バットは唐傘を使用していた。「人間と妖怪　友好盆踊り大会」では、ぬりかべの的当てを担当する。第6、23、26、40、46、50、54、68、75、79、83、84、94、102、104、106、108話、劇「最強妖怪」

60′～70′



さまざまな呼び名をもつ傘妖怪

傘やん、化け傘、傘化けとも呼ばれる、鬼太郎の仲間。「妖怪ショー」に出演して黒川にボロボロにされ、ピーによって吸血鬼にされた人間に破かれたりもした。鬼太郎と子泣き爺を乗せて電機妖怪の住む空中の岩へと向かうなど、鬼太郎たちを運ぶことも多い。また、70年代では妖怪アパートの住人となり、ねずみ男が死亡した際、棺おけの前に集まって葬式に参加。60年代・第7、25話、70年代・第2、25、26、31話

90′



チーに挑み、反物にされた

「傘化け」と呼ばれる。シーズンをとおして、鬼太郎を運ぶことが一番少なかった。しかし、シーズン中で唯一、中国妖怪・チーに対抗して反物にされている。また、今回も妖怪チームと少年野球チームの試合に参加。ポジションをセカンドに移し、それなりの活躍をみせる（シナリオでは、変身して驚かす旨も考えられていた）。バッターボックスでは、傘の上でボールを回しアウトに。第32、79、80話、劇「おばけナイター」

原作コミックでは？

エキストラ的な登場が多い。味方の傘化けが「[illegible]」「[illegible]」「母を求めて三千里」「妖怪反物」「電気妖怪」ほかに登場。

karasutengu

カラス天狗

【からすてんぐ】

天狗であって、天狗ではない者

そのモデルは、山に住む人間に自然の脅威や山賊などのイメージを重ねたものらしい。鞍馬山のカラス天狗が牛若丸に剣を教えたのは有名な話。天狗とあるが、厳密にいえば天狗ではない。

60′



100年前に悪魔ベリアルの魔力を封じた一匹狼の天狗

ひとり鞍馬山の奥で暮らす妖怪。100年前、密かに日本へやってきた悪魔ベリアルをいち早く察知し、その魔力を封じ込めた。しかし魔力が復活したベリアルの魔法陣によって、家ごと地中に封じ込められてしまった。鬼太郎がベリアルを退治した後は、砂かけ婆の別荘に移ったようだ。第30話

能力◉やさかりの玉に、悪魔ベリアルの魔力を封じ込めた。袖の中に大量の蚊を飼っており、その蚊を使って空中に文字を書くことができる。

80′

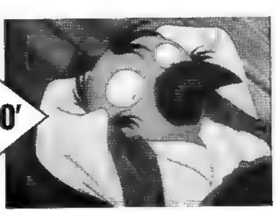


132年前にベリアルの魔力を封印

カラス天狗を束ねる長。132年前に、西洋の悪魔ベリアルとの間で起こった「妖怪大戦争」において、ベリアルの魔力をやさかりの赤玉に封印した。復活したベリアルに仕返しされ、地底に家ごと沈められてしまう。ベリアルが倒された後に地底から救出される。だが住む家を失い、砂かけ婆の妖怪アパートに移り住むことになる。第54話

能力◉ ほかのカラス天狗に、蚊で文字を書き救助を求めた。

90′



140年前にベリアルの魔力を封印

140年前、黒船とともに日本にやってきて、妖怪の王になろうとした西洋の悪魔ベリアルの存在を知り、やさかりの玉にベリアルの魔力を封じ込める。縁日でそのやさかりの玉を見せていたねずみ男のおかげで魔力が戻ったベリアルは、かつて自分を封じ込めたカラス天狗に復讐して、地中深くに封じ込めてしまった。鬼太郎がベリアル討伐後に呪文を唱え、カラス天狗の封印を解いた。第44話

原作コミックでは？

「悪魔ベリアル」に登場。ベリアルに気づかれないうちに魔力を封印したが、逆に自分が気づかないうちに土の中に封じられた。

karura

迦楼羅

【かるら】

千手観音菩薩を守る護法善神のひとり

インドの神、ガルーダが仏教に入ってきたもの。千手観音菩薩の信者を守る、護法善神・二十八部衆のひとりで、各地の寺に、その像が奉納されている。別名「金翅鳥（こんじちょう）」。

70′



人間の祈りに応えて牛鬼を封じ込めた、インドの神

背中に大きな翼を付けた男性の神。1000年前に、牛鬼を退治したことがある。現代に復活した牛鬼に襲われる村民たちの祈りによって、神社から出てきた。背中の羽で空を飛ぶ。神社には見えない壁が張られ、牛鬼は入ってこられなかった。第15話

能力◉横笛を吹き、桜山へ牛鬼を誘い出す。牛鬼の額へ笛を投げつけ、火山口へ落とす。

最後◉牛鬼の本体である気体を風呂敷に包み、鉛の箱に入れ海に沈めるよう指示。役目を終え神社へと戻っていった。

80′



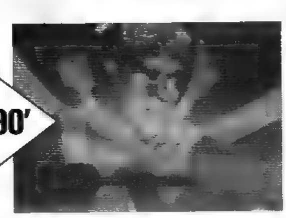
強大な力を持つ二十八部衆のひとり

千手観音を守った二十八部衆のひとり。唯一、過去に牛鬼を倒したことがあり、現在は漁村の神社に祭られている。背中の羽を使って空を飛ぶことができる。第42話

能力◉横笛で牛鬼を呼び寄せ火口に落とし、鬼太郎の口から出た妖気を布で覆う。その上に封印石をのせ閉じ込める。

最後◉牛鬼を封印した後、「牛鬼を呼び起こしたのは、掟を破り封印石を動かした罰」と、人間たちに釘を刺し去る。

90′



幻のように現れて牛鬼を退治

牛鬼となった鬼太郎の前に現れた、インドの神。体が透け、幻のように飛び回る。目玉おやじの鬼太郎を想う涙に応え牛鬼を倒し、牛鬼に呑み込まれた一反もめんらも救う。第6話

能力◉横笛で牛鬼を誘い出し、断崖から海の中へ落とす。お札を投げ、牛鬼を岩の中に封じ込める。

最後◉鬼太郎たちを救い、牛鬼を復活させた人間に「驕るなかれ」と一喝して姿を消す。

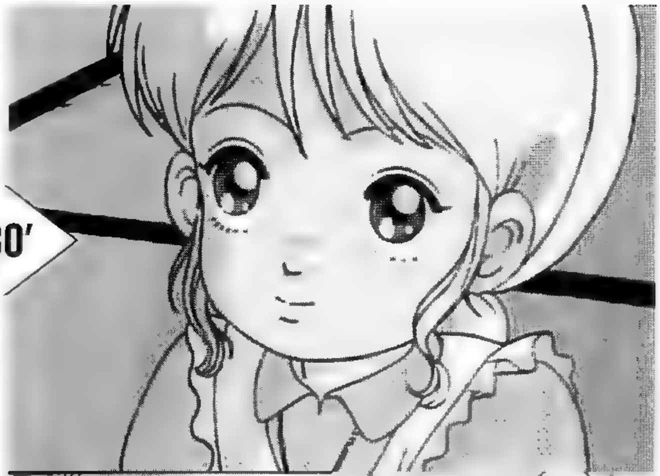
原作コミックでは？

原作「牛鬼」に登場。当てもなく神社で祈っている村人を救うために登場。神ではないとし、みずから迦楼羅と名乗った。

Caroline

カロリーヌ

【かろりーぬ】

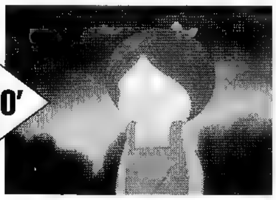




ねずみ男を慕い、石になった鬼太郎を救うべく奔走

妖怪皇帝の側近である、ぐわごぜの娘。親とはまったく似つかない金髪の美少女である。地下鉄で、土蜘蛛に襲われているところをねずみ男に救われて以来、みょうにねずみ男を信頼。「ねずみ男しゃん」と呼んで、つねに行動を共にするようになる。しかし、妖怪皇帝軍の白溶裔にさらわれてしまう。だがそれは、ぐわごぜの企てた鬼太郎をおびき出すための作戦だった。囮(おとり)に使われたことを知ったカロリーヌは、ぐわごぜに反旗を翻す。朧車の光線で石にされてしまった鬼太郎を救うため、ねずみ男と協力。鬼太郎を元に戻すのに必要な朧車の涙を手に入れようと奮闘する。父・ぐわごぜとお揃いのペンダントを所有している。劇「異次元妖怪」

最期◎ねずみ男をかばい、猛スピードで突っ込んでくる朧車に撥(は)ねられて死亡。泣き叫ぶねずみ男の腕の中で、光となって消えていく。



鬼太郎にままごとを強要する

朧車を使って怪気象を発生させ、東京を妖怪の国にしようとする、ぐわごぜのひとり娘。親とは似ていない。とりあえず言うことを聞くことにした鬼太郎に、ままごとの相手をさせる。これといった特殊能力はもっていないようだ。ちなみに、鬼太郎と遊んでいた人形は、ナンシーちゃんだった。第58話

最期◎鬼太郎が朧車を倒したため、移動した怪気象とともに消えたと思われる。

原作コミックでは？

ストーリーが類似した「朧車」以外に、貸本時代の「ボクは新入生」では、カッパ博士の娘として登場。

kawauso

かわうそ

【かわうそ】

狸と同じ、人を化かす河の動物

日本全国で諸説あるかわうそ。地域によっては河童のような扱われ方もしている。鳥山石燕の『画図百鬼夜行』には、徳利(とっくり)を持った、化ける動物として描かれている。



少年に化け、人間たちをだまして金儲けをする

オベベ沼に住むことから、「オベベ」とも呼ばれる。人間の子どもに化けて悪さをする。ねずみ男とグルになってからは、悪さもエスカレートした。鬼太郎の昔の友だちだが、ダム工事で住みかを追われ沼に移り住んだ。60年代・第40話、70年代・第2、3話ほか

能力◎水中から水鉄砲を発射。鬼太郎の飛び蹴りをよけるほどすばしっこく、鬼太郎を沼に引きずり込み攻撃する。

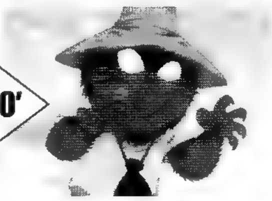
最後◎鬼太郎憑きで捕まり、フナを焼く匂いにつられて正体を現す。反省し、人のいない所へ移り住んだ。



淋しさからいたずらを繰り返す

オベベ沼に住む妖怪。勘違いから村人に迫害を受け、逆上していたずらを繰り返していた。村人と和解した後は、鬼太郎のファミリーに参加。巨大な貝の船を持っている。第31、46、52、54、71、85、98、104話、劇「最強妖怪」

能力◎人間の少年に化け、ねずみ男や村人をだます。水鉄砲を発射し、口笛でヒルを操ることも可能だ。水中では、地上にいるときよりパワーが増す。



金だけを頼りに生きる一匹狼

天涯孤独で、金だけを頼りに人をだましてきた妖怪。ケンカが得意で、ペテンで生きてきた。ぬらりひょんから「キタロンZ」販売で資金稼ぎを依頼されるが、現金を持って逃走。朱の盤や河童に攻められ、滝に流されておじいさんの家に着く。「妖怪も金じゃない、心と心のつながりだ」と知り、しばらくおじいさんの孫になる。また、中国妖怪・チーに挑み、反物にされたことも。第71、79話

能力◎ケンカが得意で、人をペテンにかける。

原作コミックでは？

「オベベ沼の妖怪」以来、鬼太郎の敵となったり味方となったり数多く登場している。「妖怪大戦争」ほか、『新編ゲゲゲの鬼太郎』にも。

gangikozou

がんぎ小僧

【がんぎこぞう】

河童の仲間のようだが……

「岸涯小僧」と書く。鳥山石燕の『今昔百鬼拾遺』に描かれた妖怪。毛に覆われた河童のような姿をしているが、河童関連の伝承などには、この名は登場しない。

90′



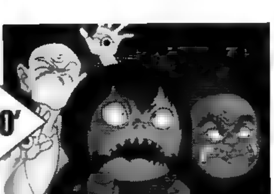
義理と人情に厚く、ねずみ男を兄ィと慕う

ちょろちょろ川出身の河童の仲間。天涯孤独の流れ者で、つねに股旅姿。旅の途中でねずみ男に会い、にぎりめしを半分分けてもらう。以降、ねずみ男を兄ィと慕っていた。河童村の親分の下でわらじを脱ぐつもりで村を訪れるが、一目入道たちにいやがらせをされている村人のために立ち上がる。第42話

能力◎特殊な能力はないが、木刀で敵をなぎ倒す。

最期◎一目入道たちと戦い、傷を負って死亡。ねずみ男が、さら小僧の「ぺったらぺたらこ」が入ったカセットテープをかけ、ねずみ男とがんぎ小僧が再会する場面まで時間が戻る。

80′



鬼太郎を助けて戦う妖怪のひとり

鬼太郎の仲間のひとり。鬼太郎を助けて中国妖怪軍団を始め、悪さをする妖怪たちと激戦を繰り広げた。また、人間チームとの野球試合では、7番ショートを担当。「人間と妖怪友好盆踊り大会」にも浴衣で参加した。一度だけ、百々爺に騙されて鬼太郎と戦ったこともある。第32、38、43、50、52、55、67、68、80、84、85、104、106、108話、劇「最強妖怪」

能力◎どんな硬いものでも噛み砕く、鋭く強靭な歯。

原作コミックでは？

「妖怪大裁判」「妖怪　本所七ふしぎの巻」など、大勢集まる妖怪たちのひとりとして顔を出す。メインとなる話は作られていない。

kiko

気狐

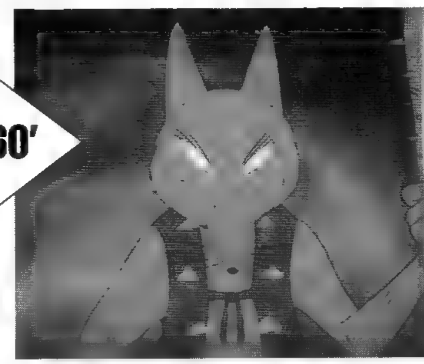
【きこ】

4つの階級に分類される妖狐のひとつ

妖狐は、天狐→空狐→気狐→野狐と4つのランクに分類される。さらに気狐は、赤狐と白狐に分かれる。一般的に気狐は、人間に良いことをもたらす善狐とされることが多い。

妖狐では、人に化けるのがもっともうまいとされる

60′



妖狐の中の一種。サクラビル地下駐車場の建設で住みかを追われ、人間に工事を中止するように忠告。地下の喫茶店「元禄」の美女に化け、ねずみ男たちを眠らせた。また、ねずみ男に化け、鬼太郎を騙して沼に沈める。第49話

能力◎人間に化けるのが得意。念じて地割れを起こし、炎となって岩を溶かした。

最後◎巨大なコマとなった鬼太郎に、弾き飛ばされる。油揚げを稲荷に捧げることを条件に、天狐たちと去る。

原作コミックでは？

「天狐」に登場。名前だけは紹介されるが、どれが気狐であるか不明。おそらくアニメと同じ、美女に化けていたのが気狐と思われる。

kijo

鬼女

【きじょ】

本州、沖縄まで広く伝わる鬼女伝説

昔話などにもたびたび登場する、各地に伝わる妖怪。女性が怨みなどから転じた者だったり、山に住んでいたりと、その形態はさまざま。また、美女に化けることもあるようだ。

妖怪皇帝の部下として、蛇骨婆と鬼太郎を襲う

80′



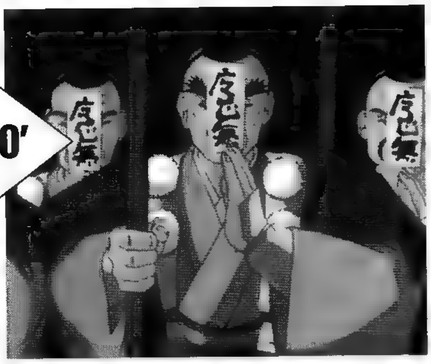
怪気象を使って東京を乗っ取ろうと企む妖怪皇帝の部下のひとり。ぐわごぜとともに姿を現す。水木しげる宅にかくまわれた鬼太郎を、蛇骨婆たちと襲撃。しかし、ねずみ男の口臭に悶絶して倒れる。その後も国会議事堂に乗り込んだ鬼太郎と対決した、妖怪軍のひとりとして登場。ねずみ男に殴られるひとコマも。妖怪戦車の野づち砲で吸い込まれたと思われる。劇「異次元」

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

kidousyu
鬼道衆
【きどうしゅう】

邪馬台国の女王、卑弥呼が使った？
弥生時代後期に邪馬台国を治めた女王、卑弥呼。『魏志倭人伝』によれば、卑弥呼は“鬼道”と呼ばれるもので衆を惑わしていたという。この鬼道には諸説あり、正確にはわかっていない。

妖怪を天敵とする妖怪狩りを生業とする武闘派集団
80'

桂木山を本拠地に、1000年前から妖怪狩りのエキスパートとして知られる。別名、妖怪必殺仕掛人。八百比丘尼の霊力で生きながらえ、八百比丘尼に絶対の服従を誓う。八百比丘尼の命を受け、女王人魚の肉を狙うが、鬼太郎にじゃまされてユメコを誘拐する。第100話

能力◎顔に妖力を封じるお札を貼り、六角棍で攻撃。

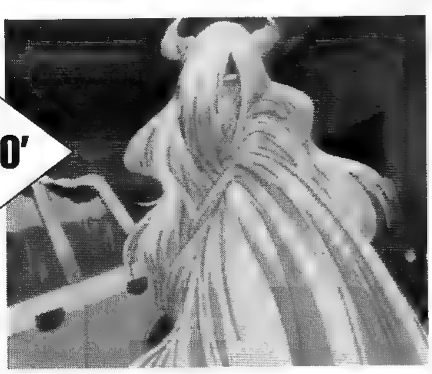
最期◎八百比丘尼が倒され、ともに全滅した。

原作コミックでは？

原作では着物を脱ぎ捨てて透明になることができる。[illegible]の面を割られ、全員無力になってしまった。「鬼道衆」

kihatsu
鬼髪
【きはつ】

怒りの力で髪が鬼の角のように
髪鬼として鳥山石燕の『百器徒然袋』にあり。醜い顔を長い髪で隠していた女性が、美しい女性を見るたびに怒っていた。そのうち毛髪は硬くなり、鬼の角のようなものがでてきたという。

人間の髪の毛と魂を奪う、髪の毛が変化した妖怪
90'

女の執念がこもった髪が変化した妖怪。300年前、手当たりしだいに人間を襲っていたが、髪の毛妖怪の代表に選ばれた黒髪切によって、人形の中に封印されていた。ねずみ男が、髪の大社から封印の人形を盗んだために復活。女性を中心に、人間を襲いはじめる。第112話

能力◎髪の毛を伸ばし相手を捕らえて、髪の毛と魂を奪う。

最期◎黒髪切に押さえつけられ、清めの炎で消滅する。

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

kijimunar
キジムナー
【きじむなー】

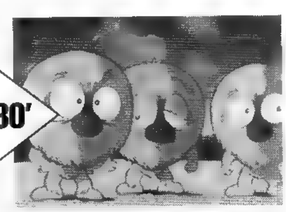
沖縄のガジマルに住む木の精霊
キジムナーは木の精霊といわれ、沖縄本島中南部のものが沖縄各地に広がったとされている。また、古くからキジムナーと類似の伝承もあり、地域によっては名前なども異なっている。

90'


南太平洋と沖縄出身の２タイプが登場した
南太平洋のバルル島の奥地に住む南方妖怪。つねに集団で行動する。生命の水を求めてジャングルを荒らす日本人に怒り、日本に総攻撃を仕掛けた。また、シーサーに協力する、沖縄産のキジムナーたちも登場。鬼太郎に襲いかかるが、じつは南国育ちの気のいい妖怪なのだ。第63話、劇「大海獣」

能力◎口から火を放ち攻撃。横に連なり、アカマタとやし落としを乗せて空を飛ぶ。（劇）少女に変身し、集団で襲う。（63）

最後◎鬼太郎の毛針や下駄で蹴散らされ、アカマタたちと南方に帰っていく（劇）。目玉おやじにパンチされ降参（63）。

さとうきびを作って沖縄に暮らす
80'

シーサーとともに、沖縄に住む妖怪。長老を中心に、集団で村を作って生活。さとうきび畑を荒らす鎧武者集団に困り果て、鬼太郎に助けを求めてきた。ボクデンといった名のあるキジムナーや、沖縄を離れ単体で暮らす仲間もいるようだ。オナラを怖がる妖怪らしい。第32、73、104話

能力◎戦闘能力は低く、鬼太郎に武器の使い方を教わったが、うまく使いこなせなかった。

原作コミックでは？

80年代の傑作『妖怪大百科』にも登場せず、鬼太郎国盗り物語シリーズの「ガジュマルの精あらわる!?の巻」に名前のみ登場。

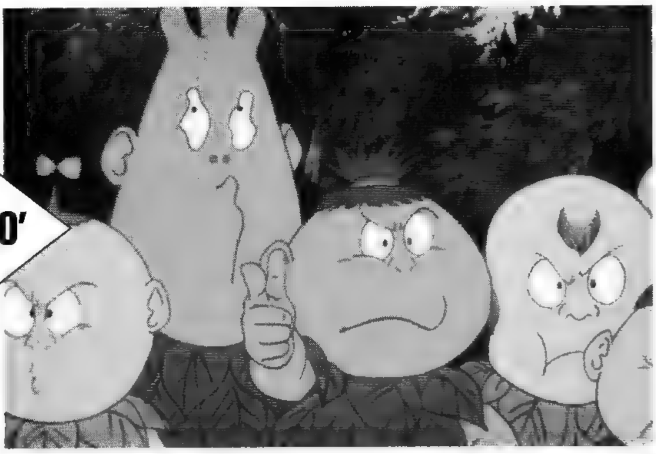
着物は、お富狸を見るのじゃ

kinoko

木の子

【きのこ】

80′



人間の子どもと一緒に暮らす子どもの妖怪

天狗の森の奥深くにある、妖怪の森に住む妖怪。気のやさしい子どもの妖怪たちで、森に迷い込んだ人間の少女・モモコと一緒に暮らしていた。モモコを連れて行かれると勘違いし、鬼太郎と対決。悪い妖怪・山天狗を封印から解き、鬼太郎にけしかける。7人の木の子が登場。第89話

能力◉ 木枯らしを起こし、木の葉で相手の動きを封じる。木の葉に火をつけ相手を煙攻めにする、「木の葉いぶし」。

原作コミックでは？

森の精霊。人間の少女・モモコと暮らし、モモコが山天狗に食べられそうになるところまで、アニメと同じ設定となっている。「木の子」

kibagurui

牙ぐるい

【きばぐるい】

60′



妖怪野球チームのキャッチャー担当

鬼太郎と知り合いの気の荒い妖怪。人間に拾われた妖怪バットを、力ずくで奪い返そうと提案し鬼太郎にたしなめられる。妖怪バットを懸けて、ドン平たちと対決した妖怪チームでは、キャッチャーを担当していた。また、西洋妖怪と戦うため、ねずみ男の呼びかけに集まった。OPにも登場。第1、10話

能力◉ 巨大な口だけとなり、相手に噛み付く。

最期◉ ニワトリの声に怯えて逃げていった（1)。

原作コミックでは？

TVアニメオリジナルの妖怪。

gyuki

牛鬼

【ぎゅうき】

各地に角や骨が残されている妖怪

日本各地に、その謂(いわ)れが残る。香川県の根香(ねごろ)寺には牛鬼の写し絵とその角が所蔵され、福岡県の観音寺には牛鬼の手の骨がある。また、『太平記』には源頼光に退治されたという話がある。

70′



退治した鬼太郎も牛鬼になってしまった

牛のような角を持ち、蜘蛛のような体をした巨大な妖怪。1000年前に、現在は神社に祭られている神・迦楼羅によって封印されるが、人間の手によって復活してしまい漁村を襲う。牛鬼の本体は気体で、迦楼羅しか退治することができない。第15話

能力◉巨大な体で人家を潰し、爪で引っかく。自分を殺した人間の細胞を変化させて、その人を牛鬼にしてしまう。

最期◉迦楼羅が神社から出てきて、火口へ落とされる。それにより出てきた気体は、鉛の箱に入れ牛鬼岩の側へ沈めた。

80′



本体は生きている気体だった

生物にとり憑き細胞を変化させる、生きた気体。これにとり憑かれた者が牛鬼の姿と化し、その者が死ぬと殺した者にとり憑いて永遠に生き続ける妖怪だ。第32、42話

能力◉鋭い爪と、巨体を活かした体当たり。相手にとり憑いて生き続ける不死身の体。

最期◉迦楼羅に笛でおびき寄せられ火口に落下。口から出た妖気を布で覆われ、封印石で火口に封じ込められる。

90′



子泣き爺やぬりかべたちも食った

巨大で凶暴な妖怪。迦楼羅によって封じ込められていた。口から突風を噴き出し、額と背中に模様があるのが特徴。ねずみ男やぬりかべたちも食べてしまった。第6、106話

能力◉退治されると退治したものに乗り移り、その者が新たに牛鬼の姿となる。鋭い爪。

最期◉鬼太郎に乗り移るが、迦楼羅に横笛でおびき出されて再度封じ込められる。

原作コミックでは？

原作となる「牛鬼」以外に、「週刊少年サンデー」版、「鬼太郎地獄編」などでは味方として、「鬼太郎夜話」では吸血鬼と戦った。

kyuuketsuookami

吸血狼

【きゅうけつおおかみ】


80′

素早い動きで敵を翻弄する狼男の部下

バックベアードをボスに、ホウキボシ島を占領した狼男の部下。狼男の命令で動き、つねに集団で行動する。島に上陸した鬼太郎ら日本妖怪を襲い、要塞建設の監視役も担う。一匹では、人間にやられてしまう弱さもある。劇「妖怪大戦争」

能力◎素早い動きで相手を翻弄し、牙や爪で襲う。ムチも使う。

最期◎ホウキボシ島を襲った水流に、狼男ともども流されてしまった。

原作コミックでは？

[illegible]

kyuuketsuki

吸血鬼

【きゅうけつき】

人間の生血を吸って生き続ける

世界中に多くの伝説を残す。墓場から蘇り、生きている人間の血を吸う死者という、スラヴを起源とする説が有力だ。ほかに、死体に悪霊が入り込んだ、死者の霊そのものともいわれている。

集団で鬼太郎たちに襲い掛かったドラキュラの子分


60′

「妖怪の国」建設の前進基地として奇怪ヶ島を占領した、バックベアードの片腕・ドラキュラの子分たち。つねに集団で行動。計6体以上が登場し、鬼太郎たちを襲った。ぬりかべの血を吸って、倒す。第10、11話

能力◎吸血。ぬりかべの血を吸い、倒してしまう。

最期◎３体は子泣き爺に押しつぶされ、地面に埋められる。４体は鬼太郎に倒される。残りは、鉄砲水に流される。

原作コミックでは？

[illegible]

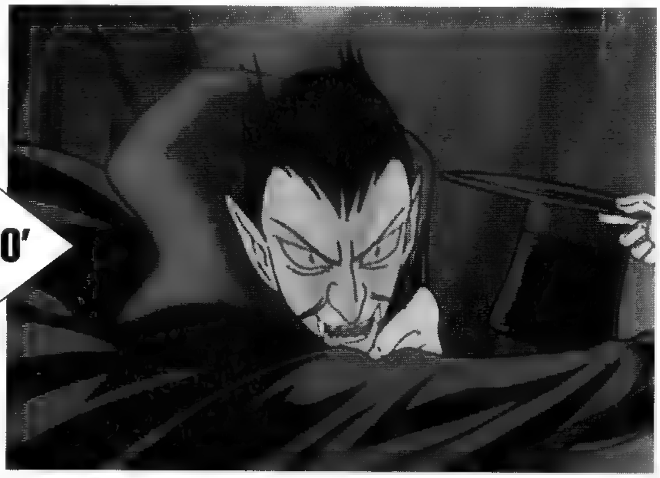
vampire

吸血鬼

【きゅうけつき】

語源もいろいろな説があるようだ

小説や映画などに頻繁に登場する吸血鬼=ヴァンパイア。ヴァンパイアという語源には、諸説がある。トルコ語の「ＵＤＥＲ」（魔女）、セルビア語の「ＶＡＭＰＩＲ」（飛ばない人）、ポーランド語の「ＵＰＩＯＲ」（翼ある亡霊）などがそうだ。また、人狼や悪夢、魔女などと同一視されることもある。


90′





まぼろしの汽車を奪って、暗黒世界を目指す

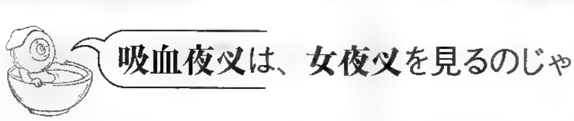
狼男、魔女、フランケンを引き連れた、西洋妖怪のリーダー格。地獄に落ちていたが、“この世”にも“あの世”にも自由に行き来できる、まぼろしの汽車を奪い脱走。世界中の妖怪を支配するパワーを手に入れるため、汽車で暗黒世界を目指す。鬼太郎を石炭に変えて汽車のパワーアップを図った。劇「汽車」

能力◎歯の付いたシルクハットやマントで、鬼太郎を攻撃。サーベルも使う。鬼太郎をマントで包み、妖怪石炭にした。

最期◎投げたマントがちゃんちゃんこではね返され、自分の心臓に刺さってしまう。

原作コミックでは？

[illegible]



kyuuketsukoumori

吸血コウモリ

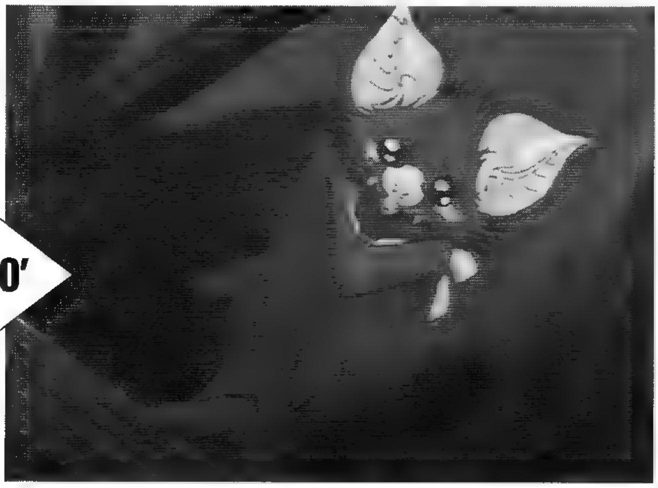
【きゅうけつこうもり】



ドラキュラの正体として認識された!?“チスイコウモリ”

ブラム・ストーカー『吸血鬼ドラキュラ』のなかで、ドラキュラはコウモリに変身して移動する。そこから吸血鬼の正体として認識されるように。実在の動物に“チスイコウモリ”もいる。

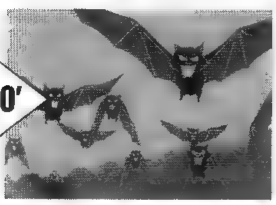
90′



妹コウモリ・ティナのためにエリートは戦う

吸血鬼エリートの妹・ティナをはじめとする、エリートの部下として登場。ターゲットの家の前で、ねずみ男と鬼太郎がもみ合う前に、鬼太郎に大群で向かっていく。そしてターゲットの誘拐に成功したエリートは、吸血コウモリたちの大群が作る“空飛ぶコウモリ絨毯”に乗って移動する。そもそもエリートの正体も吸血コウモリであり、1000年かけて美女の血を吸い“超エリート吸血鬼”を目指したのは、ティナを“人語を解する”エリート吸血鬼にすることが目的だった。第57話

60′



ドラキュラの正体も吸血コウモリ

第52話では、吸血妖怪軍団のボス、ドラキュラの手下として登場。恐山の洞窟の中で、砂かけ婆や子泣き爺に襲い掛かかったり、小笠原島での戦いではねずみ男を敗走させる。鬼太郎が、巨大な吸血コウモリと化したドラキュラとの最後の戦いで、つるべ火の力を借りて羽を燃やして退治している。また第15、16話ではエリートの部下として登場。エリートは吸血コウモリの大群にぶら下がって移動している。第15、16、52話

80′



劇場版でもドラキュラに付き従う

第96話にて、小唐笠島での吸血妖怪との戦いに登場。ドラキュラたちに脅され、協力していた子供たちが、寝返って鬼太郎を助けようとしているのを目撃して、吸血妖怪樹に報告した。なお、ドラキュラ自身が恐山を襲った後に退却する際などは、巨大な吸血コウモリと化して“スーパー血液”の入った壷を持って移動している。また劇場版でも、やはりドラキュラの手下として登場している。第96話、劇「妖怪大戦争」

原作コミックでは？

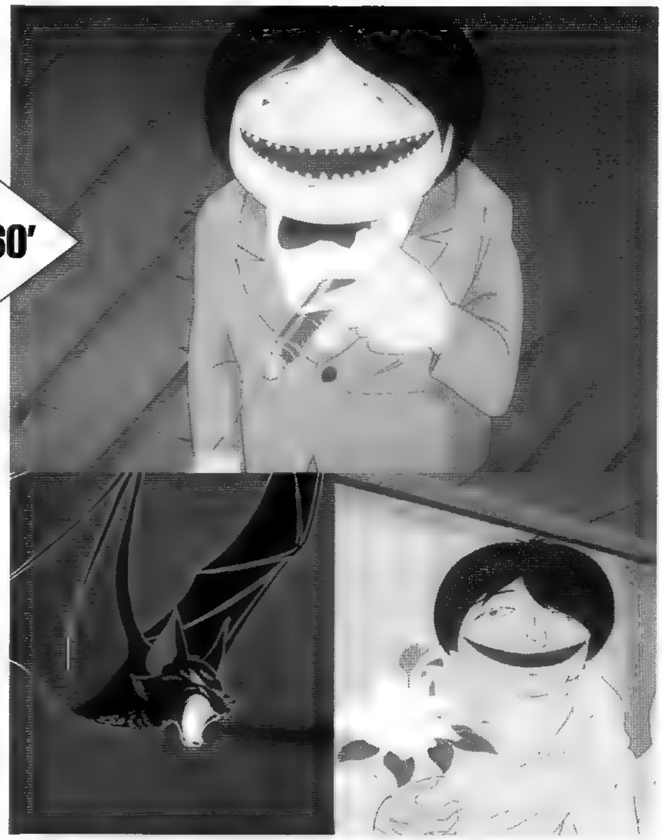
「血戦！小笠原」「吸血鬼エリート」ほか数々。ドラキュラが登場する回にともに活躍する。また「ダイダラボッチ」でも登場。

elite

吸血鬼エリート

【きゅうけつきえりーと】

60′



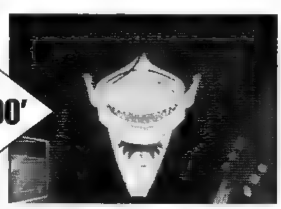
名士の血ばかりを狙い、変装まで行った吸血鬼

20年間、美女の血を求め、世界中を旅する吸血鬼。紳士的に振るまっているが、血を見ると恐ろしい形相に変わる。吸血コウモリを部下にし、150年もの間、住みかの別荘が誰にも知られずにあるのは、このコウモリのおかげらしい。この吸血コウモリは、新鮮な血液をエリートのために供給していた。有名人の血が好物で、別荘には樽に入った血液がストックされている。さらに、有名人ばかりの血を狙う「1000人吸血プラン」を計画。手始めに花菱コンツェルン会長を狙うが、失敗し、モンガ国の通産大臣に化けて再び花菱社長を襲う。正体は巨大な吸血コウモリ。鬼太郎を“けたろう”と呼んでいた。第15、16話

能力◎相手の性質に合わせてギターを演奏することで、催眠術をかける。肉体を溶かす注射液で、鬼太郎を溶かす。

最期◎吸血コウモリに変身し、鬼太郎を攻撃。髪の毛針を顔に浴び、視界が利かなくなったところへ火を放たれる。

90′



最強の妖怪・超エリート吸血鬼！

1000年もの歳月をかけて99ヵ国の天才美女の血を吸い歩いてきた。100人目の美女の血を吸ったとき、最大の妖力を持つ、最強の妖怪超エリート吸血鬼へと出世する。第57話

能力◎相手の体の一部をおたまじゃくしに食べさせると楽譜に変化。それを使い催眠ギター曲を作る。血を吸う。

最期◎鬼太郎を館から突き落とそうとするが避けられ、ねずみ男のオナラを浴びて、館ごと崩れ落ち砂地獄の谷へ。

原作コミックでは？

「吸血鬼エリート」「[illegible]の妖怪アイドル」「[illegible]の巻」に登場。「霧の中のジョニー」では、終戦のどさくさで来日し国防大臣の血を狙った。

pi

吸血鬼ピー

【きゅうけつきぴー】

70'



吸血解放区を作ろうと、鬼太郎とねずみ男を吸血鬼に

南方から来た吸血鬼。ワニが逆立ちをしたような姿（妖怪・さがりに酷似）をしており、祖先の血でできた赤いシルクハットと靴を身に着けている。そのシルクハットを被った者は、吸血鬼に変化。ねずみ男もこの帽子を被って吸血鬼と化してしまった。紳士的な態度で相手に接し、いつも妻と呼んでいる女吸血鬼・モンローを同伴。作戦を実行するのはモンローの役目だった。鬼太郎を吸血鬼に変え、日本に吸血解放区をつくろうと画策する。じゃまに入ったネコ娘を尻尾のような手で殴り飛ばす力ももつ。鐘撞堂から村に鳴り響く鐘の音が嫌い。第25話

能力◎"悪魔の血"を持ち、飲んだ者は吸血鬼になってしまう。血を吸われた者は、24時間以内に吸血鬼に。

最後◎鬼太郎と目玉おやじがまぼろしの汽車を走らせ、時間を戻す様子を見て退散。日本征服をあきらめ南へ帰る。

80'



黒いシルクハットと靴を着用

日本へ追放されて100年間、棺の中で眠っていたが、ねずみ男によって復活する。シルクハットと黒い革靴を身に着けている。吸血鬼に効くとされる妖怪鐘は効かない。第61話

能力◎仮死状態になっている鬼太郎を連れ去り、噛み付いて吸血鬼の鬼太郎として復活させる。

最後◎正気に戻った鬼太郎に、リモコン下駄でとどめを刺され火の海へ。棺に入れられ海に流され日本から追放される。

90'



靴は履かず、鳥のような足はむき出し

ある村から吸血鬼をネズミ算式に増やし、日本を牛耳ろうとする西洋の妖怪。尻尾が手のようになっており、つねにシルクハットを着用。鬼太郎も吸血鬼にしてしまった。第９話

能力◎手になった尻尾で、人や妖怪を叩きつぶす。吸血鬼になってしまう薬を使い、鬼太郎を吸血鬼にする。

最後◎鬼太郎を吸血鬼に変えるが、正気に戻った鬼太郎に縛りあげられ、土の中に埋められてしまう。

原作コミックでは？

日本征服を目的に来日するが、まぼろしの汽車で吸血鬼が次々と元に戻されていくのを見て南へ帰っていく。「まぼろしの汽車」

la seine

吸血鬼ラ・セーヌ

【きゅうけつきらせーぬ】

60'



パリの美女を震え上がらせ、鬼太郎を倒すため来日

美女の血しか吸わない、フランス出身の吸血鬼。社交界などに出没しては吸血を繰り返し、「血なし病」としてパリ全土を恐怖に陥れる。しかし鬼太郎に正体がばれるのを恐れ、マンモスという殺し屋を子分に引き連れて鬼太郎抹殺のため来日する。鬼太郎をおびき出し、最新式のマシンガンで撃ち殺すことに成功するが、倒したはずの鬼太郎の下駄が現れてラ・セーヌに付きまとう。まるで意思があるようにひとりでに動く下駄に、恐ろしくなったラ・セーヌは下駄から逃れるため、東京から500km離れた屋敷へ電車に乗って逃走。窓と入り口に一定の時間が来るまで開かない"フランス製電気鍵"が取り付けられた屋敷に立て込もる。第４話

能力◎パリで美女たちの血を吸う。血を吸われた人間は「血なし病」にかかったとされ、恐れられていた。

最期◎時間が来ないと鍵の開かない屋敷に火をつけてしまい、みずから放った炎に包まれ焼死した。

原作コミックでは？

原作の「手」とほぼ同じラ・セーヌ。「吸血鬼ラ・セーヌ」では、千人の美女の生き血を吸ってさらに千年の生を得ようと企む。

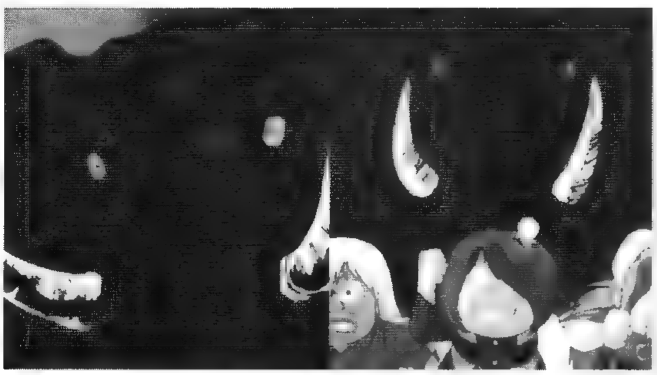
kyuketsuzou

吸血象

【きゅうけつぞう】

80′

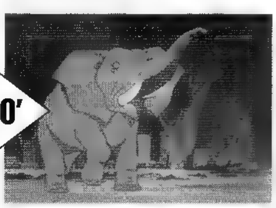




こうもり猫の妖術で現れた、血を吸う巨大な象

玉手箱を取り返しに来た鬼太郎たちを追い払うため、こうもり猫が口の中から妖術で出現させた、巨体を持つ象の妖怪。妖怪大統領を狙おうというこうもり猫の妖術だけに、かなりの強さを誇っている。見てくれは単なるグリーンの象だが、じつは鼻を相手に刺して血を吸うヴァンパイアなのだ。血を吸う以外にも、巨体を活かした体当たりや踏みつけも得意としている。鬼太郎たちが吸血象に襲われる瞬間、地面からぬりかべが出現して鬼太郎たちをガードする。しかし、逆に長い鼻で血を吸われ、ぬりかべは縮まってしまう。さらに一反もめんが助けに現れ、吸血象の目に巻きつき攻撃するが、またしても鼻で血を吸われペラペラとなり地面に落下。落ちたところを吸血象に踏まれてボロボロにされてしまう。次々と鬼太郎ファミリーを倒し、圧倒的な強さを誇る吸血象だったが、最後は鬼太郎に「逆魔法」を掛けられて消されてしまった。第46話

60′



鬼太郎たちの前に立ちはだかる巨大象

妖怪大統領こと、こうもり猫の術で現れた妖怪。妖怪というよりも、単なる大きな象といった印象が強い。こうもり猫の住みかから白い煙とともに出現し、鬼太郎たちに襲い掛かる。目玉おやじによれば、鼻で血を吸うらしく、「逃げろ」と言っていることからもかなりの強敵だと予想できる。下駄を両手に持った鬼太郎が吸血象に飛び掛かって行った、「逆魔法」により忽然と姿を消してしまう。第53話

原作コミックでは？

原作とまったく同じことしかしない吸血象。出現方法から「逆魔法」で倒されるところまで一緒だ。「妖怪大統領」

kyuketsuyoukaimen

吸血妖怪綿

【きゅうけつようかいめん】

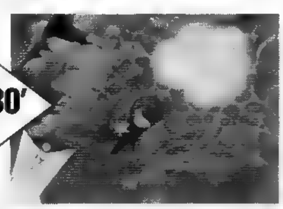
60′



鬼太郎の血を吸い、吸血夜叉と激しいバトル

南洋に住む巨大な海綿の妖怪。体中にはタコの吸盤のようなものが付いている。海中を猛スピードで移動し、体全体を使って獲物を包み込んで捕獲。捕まえた獲物の血を吸い取ってしまう。砂浜を移動することも可能だ。ドラキュラたちに毒を盛られた鬼太郎を襲撃し、血を吸ってミイラにしてしまう。その後、吸血妖怪軍団と砂浜で戦う、復活した鬼太郎とその仲間たちの前に姿を現わした。吸血妖怪軍団のひとり「吸血夜叉」に襲いかかり、激しいバトルを展開する。戦いは海へともつれ込み、ともに絶滅したと思われる。吸血妖怪たちとの関係は不明だが、吸血夜叉と戦っていることから、もともとその島で暮らしていたものだと思われる。「毒さえ回ってなかったら、こんな奴には負けないんだけど！」と鬼太郎が言っていることから、そんなに強い敵ではないのかもしれない。第52話

80′



鬼太郎の血を吸うためだけに現れた

ドラキュラを中心に吸血妖怪軍団が集結する、おからがさ島の海辺に住む吸血妖怪。巨大なグリーンの海綿の姿をし、単体で行動する。ドラキュラに誘い出され、しびれ薬を飲まされた鬼太郎を奇襲。何本もの触手で鬼太郎に覆いかぶさり、体全体から血液を吸いつくして、鬼太郎をミイラのようにしてしまう。鬼太郎の血を吸ったあとは、そのまま姿を現すことはなかった。第96話

90′



鬼太郎を丸呑みにして虎柄になった

「吸血なまこ」として登場した。アジアの吸血妖怪がうじゃうじゃいる吸血島に住む巨大ななまこの妖怪。獲物を狙って、集団で砂浜を移動し、吸血を終えるのには数時間かかる。普段は薄紫の体色だが、ぬらりひょんのワナにハマった鬼太郎を丸呑みにして黄と黒の虎柄に。その大半はぬりかべたちに退治され、鬼太郎を呑んだ吸血なまこは、仲間の妖力をもらった鬼太郎の復活とともに破裂してしまう。第104話

原作コミックでは？

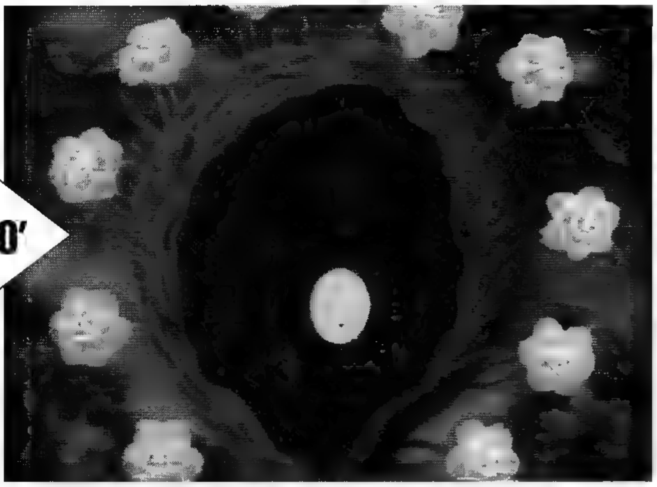
鬼太郎を血を吸って倒す。しかし、復活した鬼太郎に再び襲いかかり、逆に血を吸われてしぼんでしまう。「血戦小笠原」

kyuketsuju

吸血樹

【きゅうけつじゅ】

90′



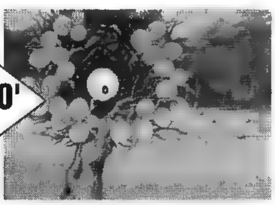
自立し歩行する吸血樹の子どもが誕生

吸血島に生息する吸血植物。人の言葉は話さずテレパシーで対話する。花を咲かせ、火事にあって初めて実を結ぶ。中央の目をやられると活動を停止し、海水が弱点だ。ぬらりひょんによって復活させられ、大量の血を必要とすることから手あたり次第に妖怪の血を吸おうとした。花が咲いて実を結んでタネがまかれると、無数の吸血樹の子どもたちが登場。子どもたちはみずから動き、攻撃を受けても分裂して増殖を繰り返す。普段は、アササボンサン、ペナンガラン、ランスプィルという「アジアの最強吸血妖怪三人衆」に守られている。第104話

能力◎枝で相手を絡め、血を吸う。タネからは、動く妖怪樹の子どもが出て相手を襲う。

最期◎吸血樹の子どもが鬼太郎たちを追い詰めるが、化け鯨に海水をかけられ枯れてしまう。

60′



具体的には何もしない吸血鬼のドン

「吸血妖怪樹」として登場。小笠原の母島の奥地で、数千年の生命を保っている吸血植物。昔のように暴れ回りたいと、パワーを取り戻すのに必要な妖怪の血を「ドラキュラ博士」に懇願した。短時間で花が咲き、実がなる。繁殖すると人類が滅亡するほどの繁殖力と破壊力を持つといわれるが、具体的な攻撃方法や吸血方法などは明かされていない。第52話

最期◎ 燃え盛る大コウモリが落下し、ともに燃えてしまう。

80′



体内電気スーパー発電で爆発！

「妖怪樹」として登場。小唐笠島に生息している樹の吸血妖怪。「吸血妖怪のボス」ともいわれる。体調不良をドラキュラに診察してもらい、妖怪の血の不足だといわれ妖怪病院から「スーパー血液」を奪うよう指示する。スーパー血液が手に入って復活し、木いっぱいに花を咲かせる。第96話

最期◎鬼太郎を幹で捕まえてその血を吸おうとするが、逆に「体内電気スーパー発電」を流され爆発してしまう。

原作コミックでは？

「妖怪樹」として「吸血小笠原」に登場する。90年代が原作に近く芽が出て動き回る。マッチで火をつけられ[illegible]になってしまう。

kyuso

旧鼠

【きゅうそ】

ネコに代わって子猫を育てる古ネズミ

年老いたネズミがメスネコと交わり、５匹の子猫を生んだ。その後、メス猫が毒で死亡した後、この旧鼠が子猫を育てたという伝承が『絵本百物語　桃山人夜話』に残っている。

ネコ娘を“ネズミ娘”に変えた、巨大なハツカネズミ

90′



山奥の廃寺に住むネズミが、悪い霊たちによって巨大ネズミ妖怪となった。ねずみ男の魂をとって手下にして、自分の妖力を分けたハツカネズミを人間たちに配り、人間をネズミに変えて街をパニックに陥れる。ネコに恨みを持ち、ネコ娘も“ネズミ娘”に変えられた。第103話

能力◎ガスを浴びせ、相手をネズミに変えてしまう。

最期◎リモコン下駄の攻撃で元の小さなネズミに戻ってしまう。

原作コミックでは？

旧鼠はちょっとしか出ないが、「ドブねずみ大王あらわるの巻」などに巨大な旧鼠王が登場。ねずみ男を使い、猫妖怪たちを無力化した

kinsanchu

金蚕虫

【きんさんちゅう】

80′



妖怪の天敵・ヒ一族を作る元

妖怪の天敵・ヒ一族を生み出すエキスを作るために、中国妖怪・女夜叉によって作り出された生き物。さまざまな毒虫をひとつの甕に入れ、共食いをさせて1年間育てる。そして生き残った1匹に、アダダという数百年に１度生える霊草を与えて育てたものが金蚕虫になる。そのフンを取り水を混ぜたエキスの中にヒルを入れて、じっくり育てるとヒ一族になるという。第91話

原作コミックでは？

「妖怪危機一髪」に登場。女夜叉がヒ一族を作り出すために飼育した毒虫。何十年も[illegible]の中に閉じ込められていたことを恨み、女夜叉を殺す。

kyubinokitsune

九尾の狐



【きゅうびのきつね】

天皇に取り入るが成敗され石にされた

インドや日本各地に伝わる悪狐。平安朝で女官に化けて天皇に取り入るが、安部泰成（あべのやすなり）に正体を見破られて武士に退治される。その怨念は凄まじく、石と化すというのがアニメの元ネタだ。

90'



姉の復讐に現れ、９本の尾を使って鬼太郎たちを襲う

尻尾が９本に分かれた狐の妖怪。中国妖怪たちを指揮して、姉の復讐のため日本に攻めてきたチーの正体。その姉である九尾の狐は、昔、悪さをするので殺生岩に封印されていた。巨大な体で、鬼太郎たち日本妖怪軍に勝負を挑む。第79、80話

能力◉９本のシッポで、鬼太郎たちを攻撃。巨体のわりに動きが素早いのが特徴。

最期◉「最後の妖術」で日本妖怪を全滅にしようとするが、反物になってしまう。

70'

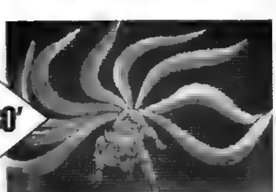


姉は人間に、弟は妖怪に倒される

何千年と生きている間に術を体得した狐。チー姉弟の正体でもある。姉は800年前に倒され、殺生石に封じられた。弟は、チーとして来日し、姉の復讐を遂げようとした。第２話

最期◉リモコン下駄で目をやられ、首にかけていた妖怪を反物に変える薬の入った袋を取られてしまう。その薬を鬼太郎に飲まされ、大きな反物に。井戸仙人の指示に従った鬼太郎たちによって、鉛の箱に入れられて埋められた。

80'



毒気となって鬼太郎に詰め寄る！

仲間を倒され、妖怪城も焼かれてしまったチーが見せた真の姿。直接戦うことはなく、みずから巨大な毒気となって、じわじわと鬼太郎たちを襲う。劇「最強妖怪」

能力◉どんな妖怪も死んでしまう毒気となって、鬼太郎たちに迫る。毒気はチーの術にかかった者には逆の働きがある。

最期◉チーの使っていた妖怪を反物にしてしまう丸薬をかけられ、九尾の狐の形をした反物になってしまう。

原作コミックでは？

八百年前、中国で悪事を働き日本にもやってきたが、三浦介義純（みうらのすけよしずみ）に矢を射られて石と化す。「妖怪反物」。「太古の秘密」にも登場。

gyoubudanuki

刑部狸



【ぎょうぶだぬき】

元は守護神だった狸の妖怪

愛媛県松山の化け狸、隠神刑部狸。四国八百八狸を従え久万山に住み、守護神として崇められていたが、お家騒動に巻き込まれ洞窟に封じ込められる。現在でもその洞窟は残っているそうだ。

60'



八百八狸を従え、日本を狸の国にしようとした巨大な狸

大なまずや蛟竜（妖怪獣）を操り、日本を狸の国にしようと企む八百八狸の親分。工事によってお札が剥がれ、この世に復活した。政権を奪った暁には、日本中の美人を集めて狸城のお手伝いとし、"野郎はソーセージに"しようとした。第21、22話

能力◉鬼太郎の頬にキスをして呪いをかけ、裏切った鬼太郎を狸にしようとした。大なまずを封じていた要石に術をかけ、触った者を石に変えてしまう。

最期◉洞窟の岩にお札を貼られ、再び石になってしまう。

80'



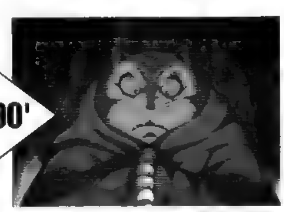
要石まで登場させ日本を脅す

四国から出現した、八百八狸のボス。狸たちに指示を出し、首相を捕らえて日本を征服しようとする。強力な妖力を持ち、妖怪獣や大ナマズ、要石を操った。第56、57話

能力◉数珠に念を込めて、工事車両を中に浮かせた。また、鬼太郎に呪いをかけ、狸にしようとする。

最期◉妖怪獣と大ナマズを倒され、八百八狸も洞窟の中へ封印される。力を失い鬼太郎たちに潔く負けを認めた。

90'



マヌケな狸憲法を制定する

八百八狸を束ねる狸。一時、日本を征服し、狸内閣を発足させる。狸憲法第13条・時報はすべて狸の腹鼓、第14条・たぬきうどん、たぬきそばは全面禁止らしい。第110、111話

能力◉鬼太郎にキスをして、狸の祟りをかける。妖力で、蛟竜や「ナマズ神」を操る。狸石に結界を張っていた。

最期◉目玉おやじが用意した、念が込められた護符によって、再び封じ込められてしまう。

原作コミックでは？

地上を美人と狸だけが暮らす「狸王国」に変えようと企む。だが、目玉おやじとねずみ男の手によって再び封印された。「妖怪獣」

kuuko

空狐

【くうこ】

じつは天狐よりも格上（?）の妖狐

ほとんどが御先稲荷を引退した狐。狐の最高格、御先稲荷の頂点に立つ天狐が現役ゆえに上のように扱われているが、引退した空狐は大神狐－神なので、広い意味での最上級の狐ともいえる。

90′



光る妖力しっぽと素早い動きで鬼太郎もピンチに

地底王国に住む、狐のなかで最も偉い天狐に仕える妖狐のひとり。七王子にある三高屋デパートの屋上にある、お稲荷さんからデパートを見守っていたが、リニューアルでお稲荷さんが取り壊されたために怒って出現。デパートを異次元に沈めてしまう。第72話

能力◎狐火とともに現れ、５本の尻尾を使って相手の首を絞める。妖力しっぽを回転させて体当たり。動きが素早い。

最後◎鬼太郎を食べるが、鬼太郎が腹の中で放出した「霊電気」に苦しむ。後に天狐が現れておとなしくなる。

60′



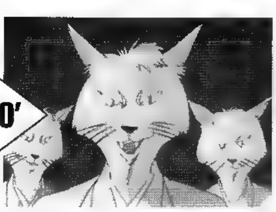
鬼太郎を相手に化け勝負

狐の中で、もっとも位の高い天狐に続く階級の妖狐。地水火風を操る。地下に暮らしていたが、ビルの地下駐車場建設で住みかを追われ、工事を中止するように宣告する。第49話

能力◎空中を高速で移動。鬼太郎の髪の毛針を板に化けてかわし、炎の攻撃を軍配団扇に化けてあおいだ。

最後◎軍配団扇に化けて有利に見えた空狐だったが、リモコン下駄で殴られタンコブだらけに。

80′



鬼太郎の行く手を阻む五人衆

妖狐の幹部。「空狐五人衆」として登場。地下工事を侵略と勘違いし、人間を襲う。天狐に頼らず、自分たちで鬼太郎を倒そうとした。和服美人に変身する妖術を使う。第18話

能力◎女性に化けて人間を惑わす。分身の術を使って敵を翻弄するが、分身には影がないという弱点がある。

最後◎鬼太郎を取り囲み苦しめたが、天狐が一騎打ちを望んだため、戦いを見守った。鬼太郎に負けた天狐と去っていく。

原作コミックでは？

原作では化けることに加えて、地水火風を自在に操ることができる。見た目はほかの狐たちとほとんど変わらない。「天狐」

kusakamaitachi

草かまいたち

【くさかまいたち】

かまいたちの登場しない七不思議

「駒止堀という小さな堀に生えている葦は、なぜかすべて、茎の片側にしか葉が出ていなかった」という、江戸の噂話「本所七不思議」の「片葉の葦」が元ネタ。かまいたち自体は登場しない。

「片葉の葦」で鬼太郎を待ち受ける、かまいたち

80′



打倒、鬼太郎を目指すぬらりひょんが仕掛けたワナ「本所七不思議」。その第四の不思議「片葉の葦」の刺客として、鬼太郎を襲った妖怪。空中を飛び回り、素早い動きで鬼太郎を翻弄。両手の鋭いカマと、葦の葉を手裏剣のように飛ばして鬼太郎に切りつける。鬼太郎を追い詰めるが、カメレオンの術によって背後を取られ、オカリナムチで木に叩きつけられて消滅した。第108話

原作コミックでは？

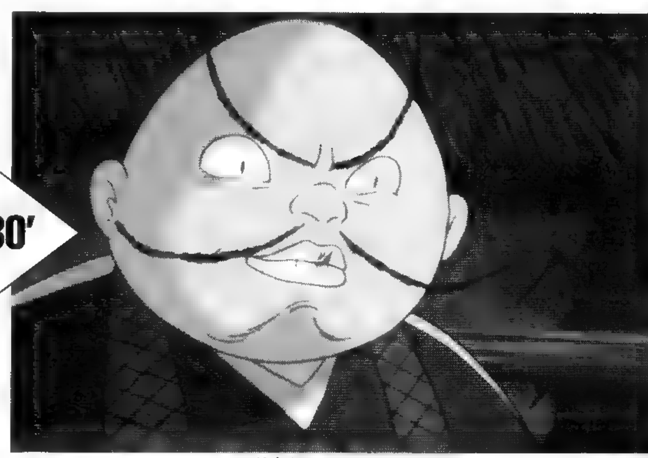
「本所七ふしぎ」で鬼太郎を襲った妖怪。武器は「草じゅりけん」。鬼太郎の体内[illegible]を受け[illegible]。「妖怪 本所七ふしぎの巻」

kushizashinyudou

串刺し入道

【くしざしにゅうどう】

80′



動物、人間、妖怪を剥製（はくせい）に！　標本コレクター妖怪

さまざまな動物を剥製にし、その能力を自分のものにする妖怪。ねずみ男を使い、剥製にするための人間を調達。鬼太郎にじゃまされるが、逆に鬼太郎も標本にしてその能力を手に入れる。首が抜け、首先に付いた巨大な針で相手を串刺しにする。第82話

能力◎ 手から無数の針を飛ばして攻撃。ムクロを操る。

最期◎ 助っ人に現れたかみなりの放電を受けて倒れる。

原作コミックでは？

使いこんだものを標本にする。その頭は、胴体から離れて飛行移動。胴体と協力して相手に襲いかかることもできる。「串さし入道」

kushaminosei

くしゃみの精



【くしゃみのせい】

鼻から出てきた小さな“モノ”が合体!?

水木しげるの『世界の妖怪100話』によれば、ある男がくしゃみをすると、鼻から鬼瓦の形をしたものが4つ出た。その4つは、共食いしてひとつに。最後は肌に付いてこぶになったという。

4つに分離合体が可能な中国妖怪軍のひとり

80′



日本を襲う、チーが指揮する中国妖怪のひとり。黒い体に大きな目は、小さなバックベアードを思わせる。チーのいる妖怪城に攻め込んできた日本妖怪たちと対決。機敏な動きで、ネコ娘や砂かけ婆らを翻弄した。劇「最強妖怪」

能力◎4つに分離・合体が可能。1／4サイズとなりネコ娘を攻撃した。

最期◎分離したところへ、砂かけ婆の“合体できない砂”をくらう。合体しようとして爆発してしまう。

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

kuppa

クッパ



【くっぱ】

90′



鬼太郎を救う大活躍！　仲のよい河童三兄弟の長男

河童淵で暮らす、クッパ、コッパ、パッパの河童三兄弟の長男。山奥の沼からやってきたカニ坊主が、淵にいた河童たちを操って復讐を始めた。困ったクッパたち三兄弟は、助けを求めて鬼太郎の元へ。鬼太郎は、カニ坊主に果敢に立ち向かうも体の自由を奪われてしまう。クッパ、コッパ、パッパの三兄弟は、動けなくなった鬼太郎を助けようと奮闘する。第8話

原作コミックでは？

TVアニメオリジナルの妖怪。

kubireoni

くびれ鬼



【くびれおに】

同心に首を括(くく)れと迫る悪霊

江戸麹町に現れたとされる幽霊の一種。柴田宵曲(しょうきょく)編『随筆辞典　奇談異聞編』に掲載されている。「同心が誰かに首を括るように命じられる。しかし、上役の機転で同心は命を取り留める。だが、別の者が代わりに首を括った」という物語に登場する。首を括らせようとすることから、「縊鬼(いき)」とも呼ばれる。

90′









疲れた人間を黄泉の国へと誘う顔の大きな悪鬼

現世に疲れた人間の心に取り憑き、黄泉の世界へ連れ込む凶悪な妖怪。黄泉の国へ俊彦を誘い込み、紙芝居屋さんに化けて徐々に俊彦の魂を奪っていく。また、地獄絵図窃盗及び無断公開事件の法廷で、検事側の証人として登場。「ひどい目にあいました。鬼太郎は妖怪界の鼻つまみもん」と証言した。第19、46、70話

能力◎心が弱っている人に取り憑き、黄泉の国へ誘う。黄泉の国では、食事をするたびに魂が削られていく。

最期◎霊毛ちゃんちゃんこに包まれ、目玉おやじと砂かけ婆に「偉い坊さんのいる山」に封じ込められる。

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

kuneyusuri

クネユスリ

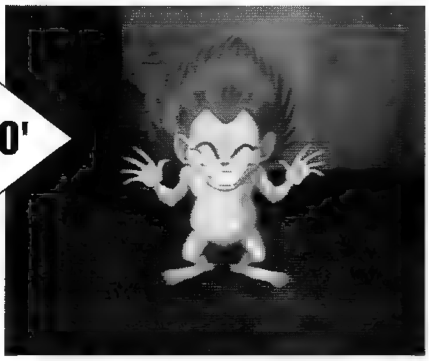
【くねゆすり】

生け垣を激しく揺するが姿は見えず

秋田県仙北郡角館町中川村に伝わる妖怪。音だけの妖怪で、姿は見えない。「くね」とは生け垣のこと。生け垣をひどく揺するという。小豆をとぐ音を出す小豆洗いの傍らにいるという説も。

家を回転させるすばしっこい妖怪

90'



小人のように小さな妖怪で、すばしっこく床から壁も天井も自在に歩き回る。迷い家に住む倉ぼっこと納戸婆をダマした会社社長を懲らしめるために、鬼太郎たちが召集した妖怪のうちのひとり。家を押してグルグルと回転させた。家が回転すると、会社社長らも一緒に回って、恐怖に震えた。第87話

能力◉床から壁、天井と歩き回り、家を縦に回転させる。

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

kumootoko

クモ男

【くもおとこ】

80'



口から糸を吐いて鬼太郎をつかまえ殺そうと企む

ミミズ男、サソリ女とともに「首狩り三人衆」を名乗る、クモの妖怪。ぬらりひょんに操られ、鬼太郎をつかまえて殺そうとした。母を捜しに地獄に来た鬼太郎を待ち受け、口から糸を吐いてグルグル巻きにし、つかまえる。第109、110話

能力◉口から白い糸を吐き出して、相手をグルグル巻きにする。

最期◉ちゃんちゃんこに襲われ、自分の糸でグルグル巻きに。

原作コミックでは？

「[illegible]」に登場。こちらでは、人間界と地獄の中間の村を襲った、[illegible]人の手下として描かれている。

kuragenohinotama

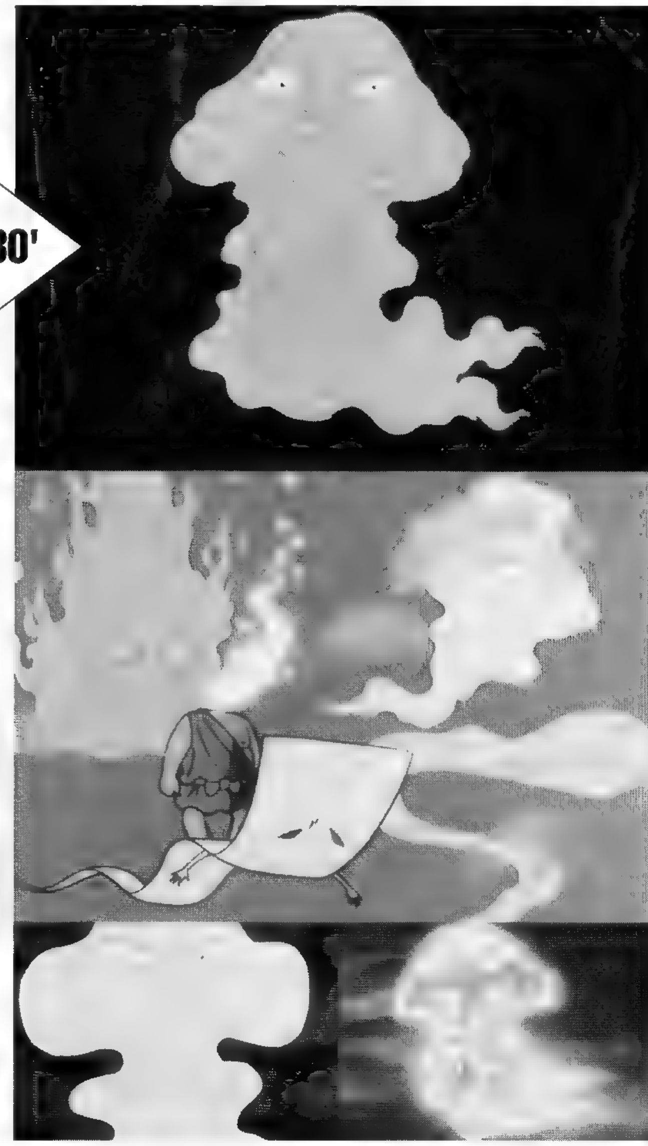
海月の火玉

【くらげのひのたま】

ゼリーのようにドロリとした怪火

『三州奇談』に出てくる怪火。夜道を歩いていると、光りながら前方から漂ってくる。この怪火と出合ったある侍が刀で斬りつけたところ、真っ二つに割れて、その片割れが顔にベッタリ貼りついた。それはねばねばした糊のようで、赤く光り続けていた。目を開けると、そこから辺りが赤く見渡せたとか。

80'



炎の妖怪五人衆として鬼太郎に召喚されること多し

くらげの姿をした火の玉の妖怪で、青い火を放っている。敵を倒すときなどに、ほかの炎の妖怪とともに呼び出されることが多い。第35話では、赤舌に対抗しようと、化火や天火たちとともに鬼太郎に呼び出された。赤舌の腹の中に入ってグルグル回り、赤舌を倒す。第91話では、ヒ一族と戦うために集められた妖怪のうちのひとり。ほかの炎の妖怪たちと攻め込んでいくが、あっという間にキーホルダーにされてしまう。第94話では激しく燃えるぬけ首の顔に、胴体をドッキングするために近づいていく。第35、91、94、劇「最強妖怪」

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

kurabokko

倉ぼっこ

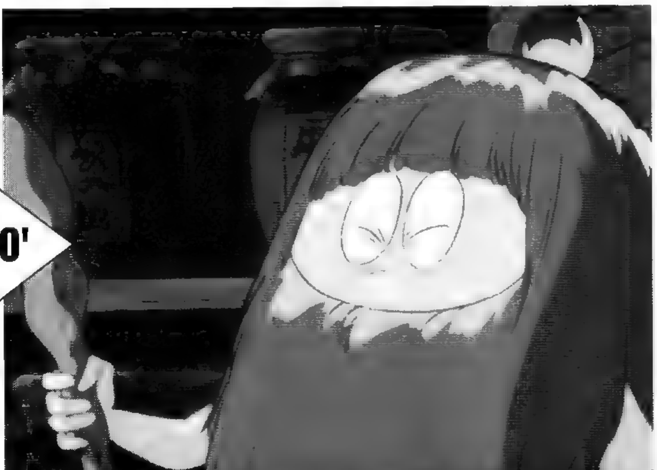


【くらぼっこ】

倉に住み着いて栄えさせる「倉わらし」

岩手県遠野で伝承される妖怪。倉に住む子どもの妖怪で「倉わらし」ともいわれる。座敷童子と同じように、倉の持ち主に幸運を授ける。倉ぼっこがいなくなると、とたんに家運が傾く。

80'





妖怪病院で妖怪の病気や怪我を治す医者

恐山にある妖怪病院で医者をしている。全身が長い毛でおおわれた、ずんぐりむっくりした妖怪。おっとりとした穏やかな性格。第96話では、妖怪樹とドラキュラが狙っている「スーパー血液」を、病院の一室で守っている。が、あっさり奪われてしまう。第102話では、アラビアからきた魔女・ジニヤーによって誘拐されそうになる。ジニヤーはアラビアの魔王の娘で、体を壊した父親のために、日本の妖怪医者をアラビアに連れて行こうとしていた。しかし、鬼太郎がジニヤーと戦って勝ったため、つかまっていた倉ぼっこは解放される。第96、102話

90'



幸福の茶碗を授ける慈悲深い妖怪

迷い家に納戸婆と一緒に住む。事業に失敗して自殺しようと迷い込んできた男を諭し、勇気づけるようにお椀をあげる。男は自殺することをやめ、再び頑張って生きることに。倉ぼっこからもらったお椀からは米がいくらでも出て、それを食べて必死に働いた男はあっという間に金持ちになった。その話を聞いた悪徳社長が倉ぼっこのところにやってくるが、同じようにお椀をあげてしまう。やや抜けているが、優しい性格。第87話

原作コミックでは？

「吹消婆」に登場。こちらでは、鬼太郎と太鼓のドン子がプロレスの試合をしたときに、観客として観戦していた。

gurumarukin

グルマルキン



【ぐるまるきん】

二股の尻尾の猫に化ける魔女

猫に化けるイギリスの悪魔で、サバト（魔女の夜宴）に現れる。猫に化けたときの姿では、日本の「猫又」と同じように、尻尾が二つに分かれている。健康な人間にとり憑いて生命力を吸い取るなどといわれる。シェイクスピアの「マクベス」に登場したことで、その名を世間に広く知られるようになった。

90'







西洋妖怪四天王のなかで唯一の女の妖怪

西洋妖怪四天王のうちのひとり。尻尾が二股に分かれ、ぶちのあるかわいい猫の姿に化けて鬼太郎に近づく。ぬらりひょんと結託し鬼太郎を倒そうとする。ゴーレムを操って鬼太郎を倒しかけるが、オカリナの音に邪魔されて失敗。怒ったぬらりひょんに妖気を吸い取られてしまう。第97、98、99話

能力◎尻尾が二股に分かれたかわいらしい猫に化ける。ほうきの柄についた笛を吹いて、超巨大な魔物ゴーレムを操る。

最期◎ぬらりひょんの持つ「妖気を吸い取る鏡」によって妖力を吸い取られてしまい、妖魔城から姿を消してしまう。

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

gurenurin

グレムリン



【ぐれむりん】

機械を故障させるいたずら好きな小人

醜い小人の姿をした妖精で、機械をいたずらして遊び、うまく作動できないようにする。かつては人間に発明のヒントを与えていたが、ないがしろにされたため悪さをするようになった。

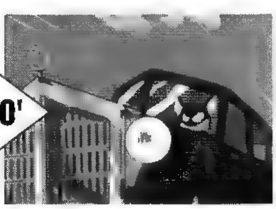
60'



ゴール寸前でガス欠により鬼太郎に敗北

ねずみ男が主催する「世界妖怪ラリー大会」に、ソ連代表として出場した妖怪。車から鋲（びょう）を発射し、魔女の車をパンクさせる。レース半ばで水虎に燃料を抜かれるが、鋲で攻撃を仕返し、水虎の車にも穴を開けて燃料を漏れ出させる。と、漏れた燃料にほかの妖怪の車がスリップ。そのおかげで西洋妖怪代表の車が五重衝突を……。レースの賞品である佐渡島が欲しいため、西洋妖怪たちは共同戦線を張り、鬼太郎を陥れようとする。最終的に残ったのはグレムリン。が、ゴール直前でガス欠を起こし、やってきた鬼太郎の車に抜かれてジ・エンド。第54話

80'



魔女の次にレースリタイア

西洋妖怪のうちのひとりで、青い体に牙の突き出た口をしている。日本で開催された「妖怪ラリー」にソ連代表として参加。ラリー開始早々、先頭を走る魔女の車の屋根に飛び乗り、力ずくで魔女を放り出す。その後、先頭を走るが、アメリカ代表のバックベアードに抜かれる。バックベアードは、振り向きざまに目から光線を発して、グレムリンを攻撃。グレムリンは、車ごとガードレールを突き破って海に落ちる。第51話

原作コミックでは？

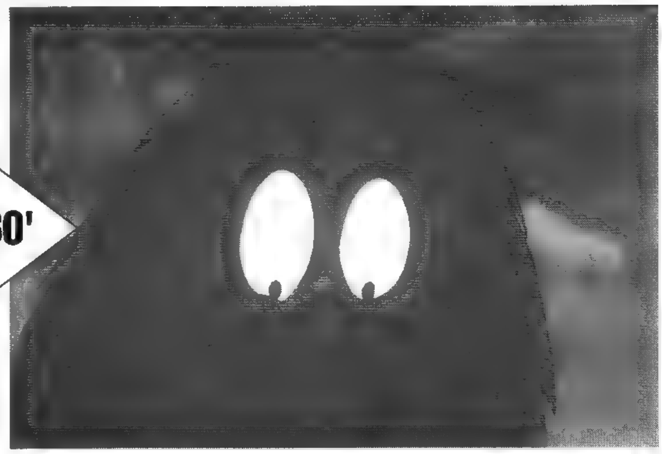
「妖怪ラリー」「[illegible]」に登場。原作でもやはりゴール寸前でガス欠となって鬼太郎に抜かれてしまう。

kuroikyodainayoukai

黒い巨大な妖怪

【くろいきょだいなようかい】

60'



妖怪の街で水木しげるにぶつかった魔物

名前はシナリオから。漫画家の水木しげるがネタに詰まって喫茶店を訪れると、そこには鬼太郎とねずみ男がいた。ふたりを家に連れて帰ると、怪気象が起こり妖怪が次々訪れる。水木が外に出ると、調布の街は妖怪の街と化していた。そこを水木が歩いているときに、前から来てぶつかった妖怪。黒くて巨大で毛が生えている。水木に「気をつけてちょうだいね」と言う。第58話

原作コミックでは？

「朧車」に登場。原作では水木と森の中でぶつかっている。水木に「気をつけてね」と告げている。2コマのみ登場。

kurokaibutsu

黒怪物



【くろかいぶつ】

おじさんに逃げていく怪物たち

藤沢衛彦が『妖怪画談全集支那篇』に紹介。2匹の黒い怪物から逃げていた青年が、新たな怪物と遭遇。3匹の怪物は大乱闘に。そこに叔父が来て杖をふりあげると、怪物は逃げていった。

図体はでかいが敵を殴るだけであっという間に退散

80'



中国妖怪チーの手下。真っ黒で、巨大な体をした妖怪。日本の妖怪軍団がチーの城に攻め入ったときに、これ迎え撃つ。鉄の棒を片手に持っており、それで子泣き爺の頭を殴るが、石に変身されて失敗。劇「最強妖怪」

能力◎体の大きさを変えることができる。怪力で鉄の棒を振り回し、相手を殴りつける。

最期◎鬼太郎の毛針で目をつぶされ、画皮とぶつかり消滅。

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

kurokamikiri

黒髪切

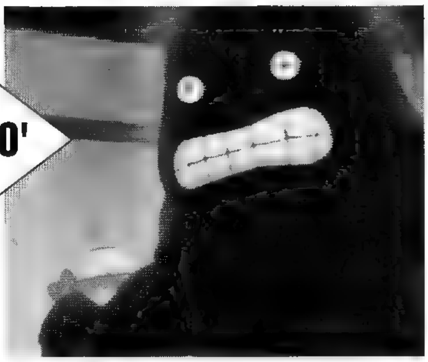
【くろかみきり】

夜道で髪の毛をバッサリ切り落とす妖怪

正体は不明で、男女問わず人の髪の毛を切ってしまう妖怪。夜道を歩いていると髪の毛を根元からバッサリ切られるが、切られた本人は気づかない。髪の毛は束になったまま道に落ちているそう。

葛藤しつつ仲間の髪の毛妖怪を倒す正義の妖怪

90'



人間の髪の毛を食べて生きる髪の毛妖怪のうちのひとり。悪さをする妖怪ではなく、同じ髪の毛妖怪の仲間で人間の魂まで奪ってしまう鬼髪を、300年前に封印。鬼髪が現代に蘇ったため再び封印すべく立ち向かう。年を取り力が衰えていたが、鬼太郎たちの毛を食べてパワーアップを果たす。第112話

能力◎霊毛すら噛み切ることのできる鋭い歯で鬼髪の髪を切る。

最期◎鬼髪を押さえ込んで、清めの炎を受け鬼髪と一緒に消滅。

原作コミックでは？

「カニ妖怪」「妖怪危機一髪」に登場。こちらでは「黒髪屋」という。髪の毛で服を作って売る店を営んでいた。

keiten

刑天

【けいてん】

首を切られても戦った中国の巨人

中国神話の妖怪。元は人間の姿をした巨人だったが、敵の黄帝に立ち向かい頭を切り落とされる。それでも刑天は、両乳首を目にへそを口にして戦い続けた。刑天は「頭を切り落とす」の意。

鬼太郎たちをキョンシーにして操るいばりん坊妖怪

90'



中国でも一二を争う暴れ者。支配欲が強く、人を平気でだますズルイ性格。長い間、封印されていたが、泥棒に盗まれて日本へ運ばれ、復活した。怪光線を出して、鬼太郎の仲間を次々とキョンシーにする。第102話

能力◎怪光線を出して相手をキョンシーにしてしまう「キョンシーの術」。口から炎、目から光を出して相手を石化。

最期◎オカリナのムチで護符を額に貼られ、再度封印された。

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

guwagoze

ぐわごぜ

【ぐわごぜ】

人食い鬼となって人を食らう悪者の霊鬼

鳥山石燕の『画図百鬼夜行』に描かれる。「元興寺」と書いて「がごぜ」と読む。奈良の元興寺の鐘楼に住んでいた人食い鬼のこと。正体は、この世で悪事を働いて死んだ者の霊鬼という。

80'

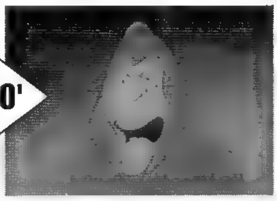


妖怪皇帝に仕え国会議事堂を乗っ取った

怪気象を使って東京を乗っ取ろうと企む、妖怪たちの総理大臣。妖怪皇帝に仕えている。娘・カロリーヌを使って鬼太郎をおびき出し、朧車に攻撃させて石にしてしまう。さまざまな悪妖怪を操って鬼太郎を襲わせるが、自分にはとくに能力はない。娘には優しく、ふたりで妖怪帝国で幸せに暮らすために皇帝に従って人間たちを襲った。劇場版「異次元」

最期◎娘・カロリーヌを朧車にひき殺され、妖怪皇帝を恨んで殺そうとするが、剣で顔を切られ、国会議事堂の屋根から落下。

60'



妖怪の総理大臣として水木宅へ

妖怪の国の総理大臣。怪気象を起こし、調布を妖怪の街にしようと企む。水木しげるの家を国会議事堂にし、そこで悪の政治を行おうとした。カロリーヌという娘がいる。第58話

能力◎怪気象定着装置の朧車を操り、東京上空を怪気象で覆わせた。朧車に命令をし、鬼太郎を襲わせて石にした。

最期◎目玉おやじを飲み込んだところ、脳を支配されてしまう。鬼太郎に朧車を攻撃され、怪気象と一緒に消える。

90'



人間の妄想を吸い取ってパワーに

妖怪王国を建設するため人間の妄想や欲望に取りつきエネルギーを吸い取る。木水しげるの妖怪を見たいという欲望を満たす。「妖怪総理大臣」という名刺を持つ。第70話

能力◎怪気象により街を混乱させ、妖怪の街に変えてしまう。マンガ家木水しげる宅に入り込み、鬼太郎を石にする。

最期◎目玉おやじを飲み込んで、コントロールされる。石から戻った鬼太郎がちゃんちゃんこを投げ、天に消える。

原作コミックでは？

「朧車」「妖怪　ご所七ふしぎの巻」に登場。「朧車」では、目玉おやじに脳を乗っ取られた後、物言わずに去っていく。

keukegen

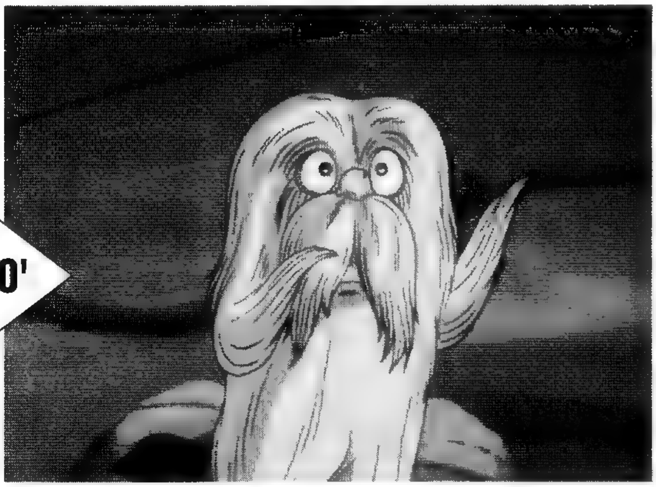
毛羽毛現

【けうけげん】

じめじめした縁の下から不幸を撒き散らす

鳥山石燕の『今昔百鬼拾遺』に描かれた、全身が毛むくじゃらの妖怪。縁の下など、家の周辺のじめじめした場所に住みつき、その家に疫病や不幸などをもたらすともいわれている。

80'



人間の魂を恐竜に変えて太古の昔を再現！

全身長い毛に包まれた妖怪。人間に覆いかぶさって魂を抜き、抜いた魂を恐竜に変えてしまう。昔は妖怪と恐竜が共存し、楽しく暮らしていたが、人間が生まれて恐竜たちは死に絶えてしまった。人間は魂のない冷たい生き物ばかり作る現実を嘆き、人間の魂から恐竜を作り太古の世界を再現しようとした。第17、91話、劇「最強妖怪」

最後◎巨大な鶏に乗り鬼太郎と戦うが、恐竜にされた子どもたちが人間の友だちに親しげにする様子を見て改心する。

60'



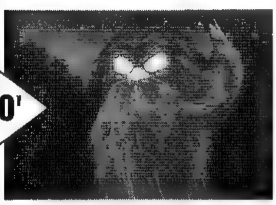
子どもたちをさらって恐竜に！

東北弁をしゃべる毛だらけの妖怪。人間の文明を嫌い太古の世界を復活しようと企む。子どもの魂を抜き、それを使い恐竜を生き返らせる。毛を踏むと本体も痛がる。第55話

能力◎毛を飛ばし、子どもの魂を抜く。その魂を化石に吹き込んで、恐竜を生き返らせた。ふらり火に乗って空を飛ぶ。

最後◎鬼太郎の催眠術にかかり捕まる。「人間には話さない」という鬼太郎の言葉を信じて山奥へと帰っていく。

90'



自然破壊を行う人間に仕返しを

動物の毛や鳥の羽でできた妖怪。第11話では、霊山に封じられていたが、ねずみ男がお札を外したため復活する。自然を壊す人間に対して森の動物たちを代表して怒り、がしゃどくろを操り人間を襲わせる。第106話では、妖怪ノイローゼにかかった鬼太郎の夢の中に登場した。第11、106話

最後◎ジャマをする鬼太郎を殺そうとするがねずみ男に止められ、鬼太郎が人間を改心させるという約束により矛を収める。

原作コミックでは？

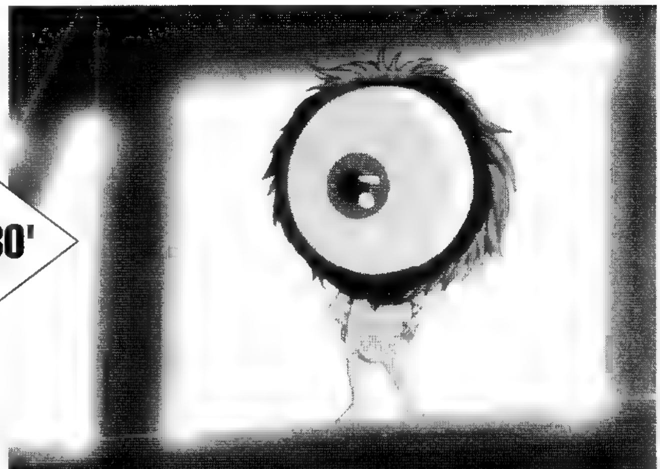
「毛羽毛現」「妖怪大裁判」「死神大戦記」「最新版ゲゲゲの鬼太郎」「新編ゲゲゲの鬼太郎」などに登場。

kemedama

毛目玉

【けめだま】

80'



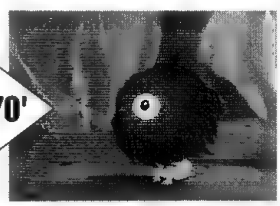




髪の毛を操って村人を襲う髪様に仕える妖怪

姿かたちが目玉おやじにそっくりの、目玉の妖怪。その風体からわかるとおり、目玉おやじの親戚でもある。頭の部分をぐるりと取り囲むように、グレーの毛が生えており、ぴょんぴょんと跳ねるような歩き方をする。とくに悪さをする妖怪ではなく、ある村の神社に祀られている髪様に仕える神主。髪様の言葉を、そのまま人間たちに伝える役割をする。第72話では、髪様と一緒にうらぶれた神社のそばにある洞窟のなかに住んでいた。そのころは、島も寂れてきており、島民からの奉納品も滞っている状態であったため、「最近村人に大切にされなくなった」と怒る髪様の言葉を、村人たちに伝えにいく。その一生懸命の言動から、律儀で忠義立てする性格であり、髪様への忠誠心は非常に高いことが伺える。第91話では、ヒ一族と戦うために集まった妖怪のひとりとして登場。しかし戦闘力は皆無に等しいように見える。第72、91話

70'



髪様の言葉を人間に伝える

四国の沖ノ島に祀られている髪様に仕える神主。髪様と村人との橋渡し役を行う。目玉おやじにグレーの毛が生えた姿。生け贄に逃げられ、村人が自分に敬意を払わなくなったと怒りだした髪様が、村人へさまざまな要求をするとき、それを村人へ伝えにいく。ねずみ男をダマして生け贄にした。第9話

能力◎手から光線を出して相手に浴びせ、相手を自分のほうに引き寄せる。逃げようとしたねずみ男に浴びせた。

原作コミックでは？

「髪さま（髪の毛大戦）」「地獄軍団登場の巻」「妖怪危機一髪」「鬼太郎のベトナム戦記」シリーズなどに登場。

玄蕃狸は、シルクハット狸を見るのじゃ

kerakeraonna

ケラケラ女
【けらけらおんな】

ケラケラ笑いながら道行く人を驚かせる

着物を着たおたふく顔の巨大な女の姿で現れ、寂れた道をひとりで歩く人間を驚かせる。ケラケラ笑う声がするので振り返ると、巨大な女がその者を上から見下ろして笑っているという。

暗い顔をした子供たちに笑いを提供しようと連れ去る

80'



巨大な女の妖怪。着物を着ていつもケラケラと笑っている。笑いを忘れた子どもたちをかわいそうに思い、ねずみ男を使って笑いの世界に子どもたちを連れていく。鬼太郎に倒されて自分が間違っていたと反省。第95話

能力◎突風を巻き起こす。手下の妖怪ヘンラヘラヘラを使い人を混乱させる。「笑い粉」をまいて相手を笑わせる。

最後◎鬼太郎が口に飛び込み腹で暴れ回る。涙を流して降参。

原作コミックでは？

「けらけら女」に登場。こちらでは子どもたちに変な笑い方を教えたり、笑い虫を使って襲うなど悪事を行う。

kooni

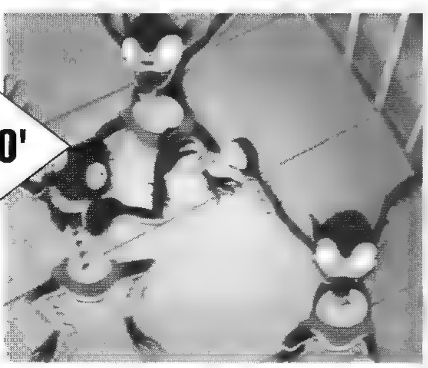
子鬼
【こおに】

陰陽師が紙や動物に憑依させて操る

平安時代に盛隆を極めた、陰陽道を操る陰陽師が使った鬼神や精霊。これらの精霊は「式神」といわれた。陰陽師は式神を紙や人形、動物などに憑依させて操ったり、人間の姿をとらせた。

皿にかけられたまじないによって出現した鬼の幻影

90'



地面から多数出てきて、奇妙な声を出しながら鬼太郎を襲う。体長15cmほどで、グレーの体に紫色の舌を出している。妖怪ではなく、古い道具にまじないをかけて作り出された幻影。式神を操る陰陽師によって、小学校の校庭に出現した。十数匹がいっぺんに登場。第101話

能力◎特殊な能力はない。鬼太郎を多数で地面に押さえつける。

最期◎校庭に埋められていた皿を掘り返し割ったら消滅した。

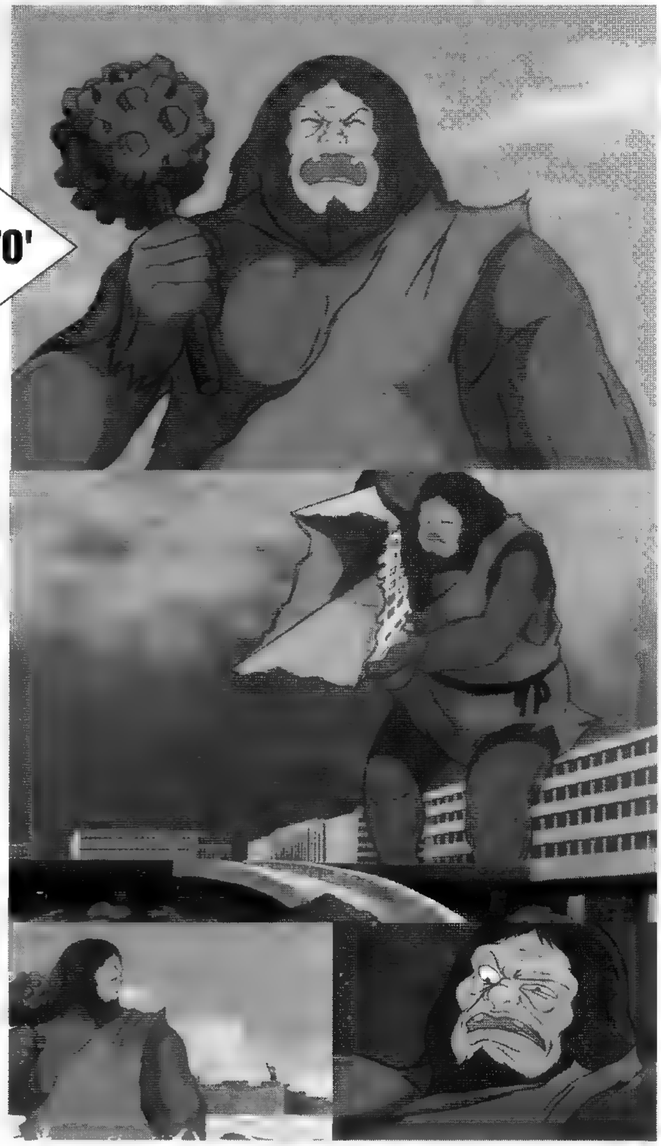
原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

genshisan

原始さん
【げんしさん】

70'



東京をあっという間に緑化した"エコ"な妖怪

豪快に「ワハ、ワハ」と笑う、原始人の姿をした大巨人。目玉おやじが妖怪図書館で調べたところによれば、破壊されかけた自然が、その精気を巨人の形に集め、人間の手より緑と自然を回復しようとする妖怪だという。別名「えころ爺」ともいう。どこからともなく現れ、荒々しく東京のビルを壊して回ったが、その後に土を運んで種を蒔き、自然を生かして人間の住みやすい環境を作っていった。日本政府との間にまとまった約束に基づいて、山手線の内側を緑のニュータウンとして原始の街を残して行き、その代わり山手線の外側には手出しはしない。それにより、山手線の内側はビキニ姿の女性や原始人さながらの風体の男性などが溢れ、あたかもヌーディスト村よろしく、原始の世界へ帰ったかのようになった。第40話

能力◎草木の種を蒔いて育て、丸の内、東京、赤坂などの都心をたったの1日で、本来の自然の姿に戻した。

最後◎「いつかきっと人間は一人残らず後悔する」と語り、人間には自然のありがたさがわからない、と海へ帰る。

原作コミックでは？

鬼太郎以外の水木作品「原始さん」に登場。突然現れ、10年かけて東京を原始の街に作り変えた。最後はアメリカに嫌われて帰る。

koumorineko

こうもり猫

【こうもりねこ】

80'



なんとしてもアメリカ妖怪大統領になるために日本へ

アメリカの妖怪大統領選で、バックベアードに1票差で敗れた妖怪。ふだんは帽子をかぶった人間の男の姿で、攻撃時などに羽の生えた猫の姿に変身する。ずる賢く、支配欲の強い性格。なんとか大統領になりたいと日本にやってきて、葬頭河婆に協力を仰ぐ。おりしも、日本ではある博士が「浴びると年寄りになってしまう」浦島太郎の玉手箱と同じ煙を発明。「それを使って大統領になれ」と葬頭河婆はこうもり猫に指示し、大統領になった暁には、自分を日本の妖怪のボスにするという約束をさせる。が、鬼太郎に阻止されてあえなく退散。第46話

能力◎口から煙を吐くと吸血象が登場。ふだんは人間の姿をしているが、攻撃の際には羽の生えた猫の姿に変わる。

最後◎玉手箱を持って飛んで逃げようとしたところ、ちゃんちゃんこに襲われ落下。子泣き爺にのっかられて降参する。

60'



日本の妖怪大統領を目指す

アメリカの妖怪。賽の河原を散歩中、葬頭河婆に「日本の妖怪大統領にしてやるから玉手箱を盗んでこい」と言われ玉手箱を盗む。催眠術をかけて鬼太郎にパンを盗ませた。第53話

能力◎爪と牙で襲いかかる。空を飛びちゃんちゃんこを追う。口から気体を出すと、吸血象が登場。催眠術をかける。

最期◎ちゃんちゃんこと格闘。頭に石化した下駄が落ちてダウン。人類老化の煙で満たされた賽の河原に閉じ込められる。

90'



バックベアードらと鬼太郎を攻撃

妖怪四天王の一匹。ぬらりひょんと結託して鬼太郎を倒そうとする。妖魔城に乗り込もうとする鬼太郎を待ち受けて攻撃。鬼太郎の妖気を吸い取った。第97、98、99話

能力◎空を飛び、爪を立てて襲う。妖気を吸い取る妖魔を服の裏に忍び込ませて、鬼太郎の妖気を吸い取った。

最期◎ぬらりひょんと仲間割れ。妖気を吸い取る鏡を向けられ、ぬらりひょんに妖気をすべて吸われてしまう。

原作コミックでは？

「妖怪大統領」に登場。60年代は原作とほぼ同じ設定。80年代は完全オリジナルのストーリーとなっている。

kouryu

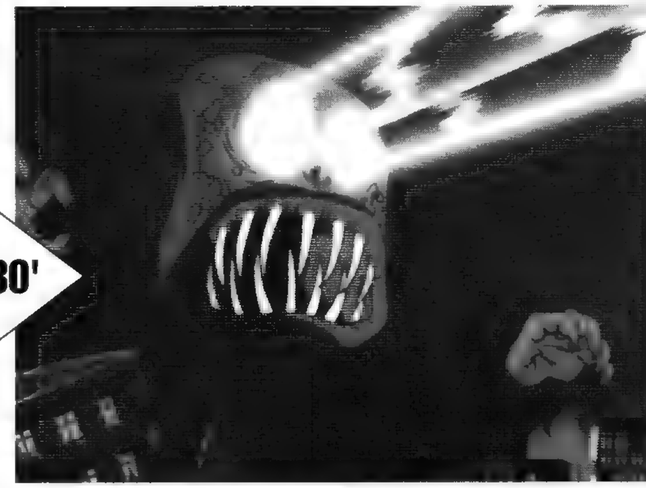
蛟竜

【こうりゅう】

中国古来の竜と蛇の中間のような妖怪

中国古来の竜の一種。長さは約3mで、蛇に似たうろこを持つ。四足で広い盾のような顔つき。蛟(みずち)が山穴に隠れてしばらくして変化し、竜になって海に入るともいわれている。

80'



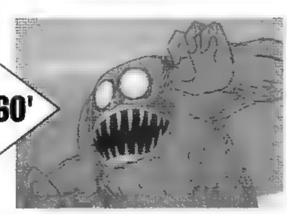
激しく暴れて東京の街を破壊しまくる巨大怪獣

八百八狸が出現させた「第二の月」から生まれる。巨大な体に鋭い牙を持ち、二本足で地面を歩く。土の中や海にも潜った。また、劇場版では、南方妖怪の配下となり海上で鬼太郎たちに襲いかかった。第56、57話、劇「ゲゲゲの鬼太郎」

能力◎目から出す光線で何でも燃やしてしまう。地中に潜る。海を自在に泳いで、牙や巨体で敵を攻撃する。

最期◎第57話では、何でも溶かす胃液になった鬼太郎に溶かされる。劇場版では、オカリナで刺されて船に激突。

60'



刑部狸の命令により暴れまくる

八百八狸の守護神。第二の月から出現し、自衛隊の攻撃が効かない。70年生きた蛇が蜃気楼の中で卵を産み、その卵から生まれて地下に入り数百年経つと天に昇り蛟竜に。第21、22話

能力◎目から怪光線を出し、鬼太郎に幻覚を見させる。また、鋭い牙のはえた口で鬼太郎を食べようとする。

最期◎巨大な足で鬼太郎を踏みつぶすが、鬼太郎が「どんなものでも溶かす液体」に変化。溶けて白骨化してしまう。

90'



目からの光線で幻影を見させる

東京上空に現れた第二の月から出現した巨大な妖怪。東京湾から上陸し、街を破壊した。地面を掘り、地中に姿を消す。刑部狸の命令で再び地上に現れ、鬼太郎を襲う。第110、111話

能力◎目から光線を出し、浴びたものに蜃気楼を見させる。鬼太郎は花畑の幻影を見て、蛟竜につかまりかかる。

最期◎鬼太郎を足で踏みつぶすが、鬼太郎の胃液で急速に溶かされていく。骨だけになって倒れてしまう。

原作コミックでは？

「妖怪獣」「妖怪大裁判」に登場。60年代と同キャラだが、「妖怪大裁判」に描かれているのは、ミニサイズとなっていた。

golem

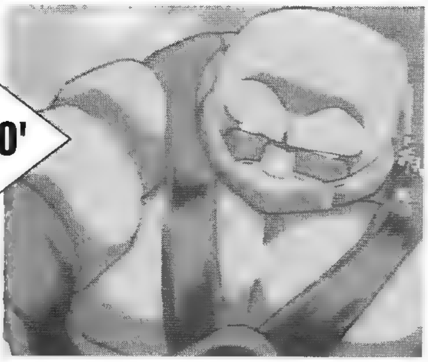
ゴーレム
【ごーれむ】

自分を創った人間にのみ従う土の人形

ユダヤ教の伝承に登場する泥人形。自分を作った人間の言うことだけを聞く。忠実なしもべになるが、操るにはさまざまな制約があり、守らないと凶暴化することも。主に土から作られる。

グルマルキンに操られて鬼太郎たちを踏みつぶす

90'



西洋妖怪四天王のひとりであるグルマルキンが操る、巨大な魔物。ほうきの柄に付いている笛をグルマルキンが吹くと、その意思に従って敵を攻撃する。恐山に乗り込んできて鬼太郎たちを踏みつぶそうとした。さらに、鬼太郎を両手で押しつぶそうとする。第97話

能力◎グルマルキンの吹く笛の音に従い、怪力を駆使し暴れる。
最期◎ぬらりひょんが倒されて妖魔城が崩れ、その下敷きに。

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

koppa

コッパ
【こっぱ】

90'



かに坊主から鬼太郎を救い出した河童の３兄弟

河童淵に住む河童３兄弟の次男。かに坊主によって、おかしくされた仲間たちをもとに戻してくれと鬼太郎に助けを求めにくる。事件が起きたときのことを説明し、「泡を浴びなかったのは森に遊びに行っていたおいらたちだけだっぱ」と伝えた。かに坊主に操られた河童に連れ去られた鬼太郎を助けるために、３匹で河童淵の中に潜る。かに坊主から、鬼太郎を救うなど大活躍する。第8話

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

kogappa

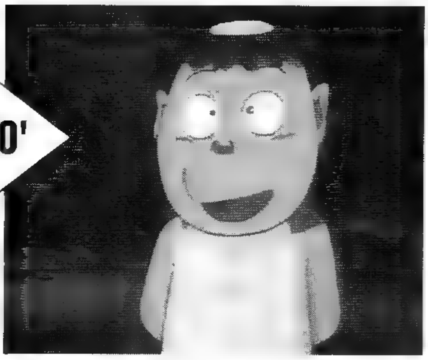
子河童
【こがっぱ】

河原や水辺に現れる。子どもの伝承も多し

日本全国で伝承される水の妖怪。地域によってさまざまな呼び名がある。同時に、その外見も地方によって違いがあり、頭に皿がない亀や、すっぽんに似たものなどさまざま。

平和な河童村に住んでいる温和な河童の子ども

90'



河童村に住む河童の子ども。おとなしくて温和な河童たちを、一目入道という皿が目玉になっている凶暴な河童の一家が襲う。がんぎ小僧が率先して戦うが、ねずみ男はその様子を見ているだけで戦わない。そのときにねずみ男の肩を叩き、「おじさんはやらないの？」と言った。一目入道に敗れてがんぎ小僧は連れ去られるが、鬼太郎とその仲間たちと河童が村を救う。第42話

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

gohoudouji

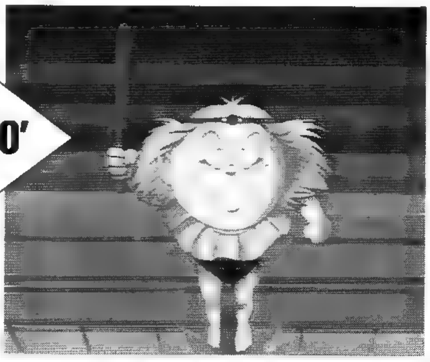
護法童子
【ごほうどうじ】

雲に乗り戦う毘沙門天の使者

『信貴山縁起絵巻』の「延喜加持の巻」に毘沙門天の使者である“剣の護法童子”が登場する。別名剣鎧童子。法輪を回転させ雲に乗り清涼殿まで向かう姿などが描かれている。

陰陽師・一刻堂の正しさの証明

90'



一刻堂の法力が正しいことを保証する存在。右手に剣を掲げ、火を噴く一輪車に乗って宙を飛び回る。一刻堂の計略で学校に集められた鬼太郎の仲間たちに素早い動きで襲いかかり落下させた。第101話

能力◎炎の車輪にまたがり、剣で切りつけつつ体当たりする。
最期◎一刻堂の術から覚めた鬼太郎や子泣き爺をはじめとする仲間たちの連係攻撃を受け、一刻堂の懐へ消えていく。

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

gotokuneko

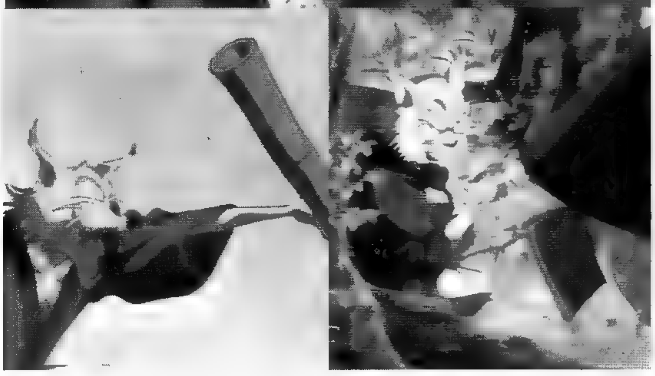
五徳猫
【ごとくねこ】

尾が二股に分かれ五徳を頭に載せた猫の妖怪

鳥山石燕の『画図百器徒然袋』に描かれた猫の妖怪。尻尾が二つに分かれ、頭に五徳を載せている。室町期に『百鬼夜行絵巻』に描かれた五徳を載せた妖怪をモデルにしたと思われる。

90'





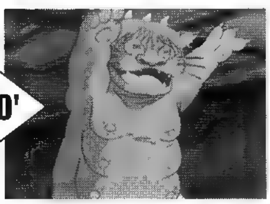
鬼太郎を倒すためにぬらりひょんに雇われた貧乏妖怪

お金がないため、傘貼りの内職をしている。ねずみ男にそそのかされて、如意自在、山爺とともにぬらりひょんのもとで鬼太郎を抹殺するバイトを請け負うハメに。河原の掘っ立て小屋に住んでいるが、訪ねてきたねずみ男と話すうち、小屋は崩れてしまう。倒す相手が鬼太郎と聞いて腰を抜かす。第113話

能力◎竹筒に口をつけて吹き、業火を起こす。だが、風に簡単にあおられて鬼太郎には届かない。逆に自分が黒焦げに。

最期◎如意自在、山爺と三匹で肩車をして攻撃する「妖気合体」で鬼太郎に挑むが、攻撃する前に勝手に倒れて終わる。

80'



鉄鼠と結婚したいがために鬼太郎を襲う

巨大なメス猫。身長2mで体重は210kg。鉄鼠の恋人で、ぬらりひょんに「鬼太郎を仕止めたら盛大な結婚式を開いてやる」といわれ2匹で鬼太郎を襲う。第112話

能力◎特殊な能力はない。巨体で相手につかみかかるなどの力技。頭の三本の角が折られると、本来の猫の習性に戻る。

最期◎鬼太郎のちゃんちゃんこが頭の角を直撃。角が折れてしまい、猫の習性に戻って鉄鼠と大ゲンカを繰り広げる。

原作コミックでは？

「世紀の妖怪アイドル [illegible]の巻」に登場。鉄鼠の[illegible]で死者をこの世に留まらせる力を持つ妖怪となっている。

goronomiira

五郎のミイラ
【ごろうのみいら】

60'



魍魎が乗り移ってゾンビのように街を徘徊

死体から死体へ乗り移る妖怪魍魎が、死んだ五郎の死体に憑いてゾンビのように徘徊した姿。五郎は山奥の村はずれに住んでいたが、10日前に死亡。死因に不審な点があるということで、魍魎が乗り移った状態のまま解剖のため大学に運ばれた。法医学の先生を襲い、街中を走って逃走。その後、魍魎は体内から抜け出し、ただの死体に戻って焼かれた。第31話

原作コミックでは？

「[illegible]」に登場。原作とほぼ同じス[illegible]原作同様、最後はつるべ火に残った指を焼かれてしまう。

koboruto

コボルト
【こぼると】

イタズラ好きで偏屈な家に住み着く小人

ドイツで伝承されている家の中に住む小人の妖精。キレイな部屋を散らかしたり、逆に汚い部屋を掃除したりする。贈り物をすると怒ることも。住み着いた家に幸せをもたらすといわれる。

ニクスを「アネキ」と慕う妖精

80'



妖精ニクスの弟分。ニクスが「上級妖精になりたい」と女王様に願い出たときに、つきそっていた妖精。ニクスが人間たちを幸福にして上級妖精になることをともに願い、試練を与えられたニクスと一緒に人間界にやってくる。妖精なのでとくに悪さはしないが、ニクスとともに悪気なく人間界に混乱を引き起こす。ニクスのために鬼太郎に食ってかかるなどヤンチャな面あり。第90話

原作コミックでは？

[illegible]



子坊主は、海坊主の子供を見るのじゃ

kowai

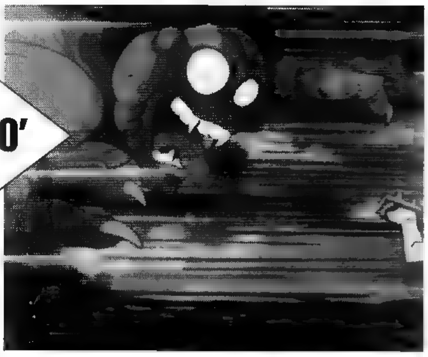
孤者異
【こわい】

傲慢な人間の霊魂がこの世を徘徊した姿

『絵本百物語　桃山人夜話』に記されている妖怪。無分別で強欲、傲慢な人間が執着を残して死んだとき、成仏できずに悪霊となって怪異を引き起こす。そうした悪霊のことを「孤者異」と呼ぶ。

鬼太郎に襲い掛かるがやられて泣きながら退散

80'



ぬらりひょんが、妖怪だけの妖怪王国を作るのにじゃまな鬼太郎を陥れる作戦。本所七不思議・第二の不思議「灯りなしそば」で、鬼太郎に襲いかかった。気味の悪い声を発しながら鬼太郎を追い掛け回す。第108話

能力◎鋭い爪で鬼太郎に襲いかかる。

最期◎鬼太郎の髪の毛で数回打たれると、あっさり体が砕け散り目の玉だけに。青い火の玉になって消えていく。

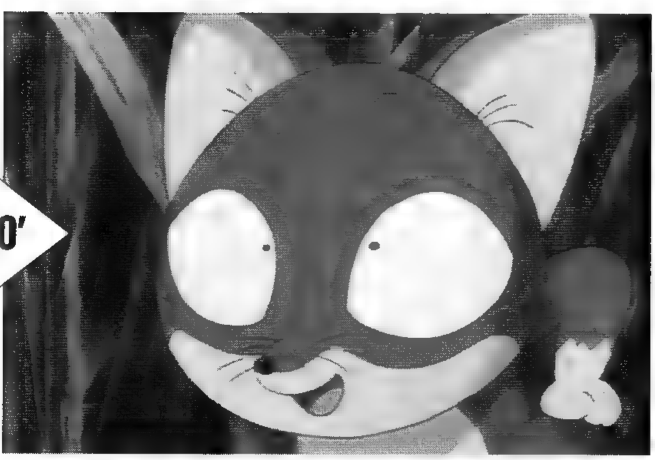
原作コミックでは？

「妖怪 本所七ふしぎの巻」に登場。こちらでは、蕎麦屋の提灯から現れて鬼太郎と格闘をくり広げる。体が炎でできていた

konta

コン太
【こんた】

90'



神通力に憧れるヤンチャな子狐

占狐の化け物・白山坊の弟子。神通力を教えてもらうために白山坊に仕えている。人間の娘を眠らせようと「お前は眠くなる」と催眠術をかけるが、自分がかかって寝てしまうドジぶり。生意気だけどじつは優しい性格で、白山坊が娘の生き血を吸おうとしていることを知って、自分が身代わりになろうとした。白山坊が倒されると普通の狐に戻った。第38話

原作コミックでは？

TVアニメオリジナルの妖怪。

sakabashira

逆柱
【さかばしら】

逆さに立てられて不吉なことを呼び込む柱

「逆柱」とは妖怪ではなく、木の上下を逆にして立てた柱のことをいう。逆さに柱を立てると、家がパシーン、パシーンなどと鳴り、不吉なことがその家に数多く起こるといわれている。

80'



立派な床の間の柱になることを夢見た柱の妖怪

マントを着た紳士の姿で現れ、ねずみ男に貯金箱を売らせる。その貯金箱は、お金が入ると逆柱のもとに飛んでくるというもの。逆柱はもとはお屋敷の柱だったが、一家が破産して家を取り壊され妖怪になった。お金を集めてもう一度家を建てる野望を持つ。第52話

能力◎グルグル回転して竜巻を巻き起こす。だが、上下を逆にされて地面に打ちつけられると妖力が消えてしまう。

最期◎回転する逆柱に子泣き爺がしがみついて動きを止め、鬼太郎の髪の毛で上下を逆に。地面に打ちつけられて死ぬ。

60'



巨大下駄になって鬼太郎を攻撃

鬼太郎が生まれる前から丸毛を奴隷として使っていた妖怪。鬼太郎ににせの下駄を履かせ、妖術が効かない場所に監禁して仲間になるように脅した。正体は柱。第44話

能力◎人の目をくらませるために巨大な下駄に化ける。弟子である、たくさんの磨り減った下駄を操り鬼太郎を攻撃。

最期◎鬼太郎の本物の下駄が巨大下駄に攻撃される。下駄は巨体で鬼太郎に飛びかかるが、逆に真っ二つにされてしまう。

90'



逆さが苦しいあまり人間を攻撃

家を建てるときに、上下逆さの状態で立てられた柱が、妖怪となった。逆さでいることが苦しくて、それを人間に気づいてもらおうと、人間たちを襲った。第83話

武器◎柱から根を伸ばし、鬼太郎とねずみ男を食べる。葉っぱが敵の体にくっつく、葉っぱ妖怪を口から出す。

最後◎燃えて灰になる。鬼太郎から「灰になっても故郷の森に戻すから新しい命に生まれ変わればいい」と言われ納得。

原作コミックでは？

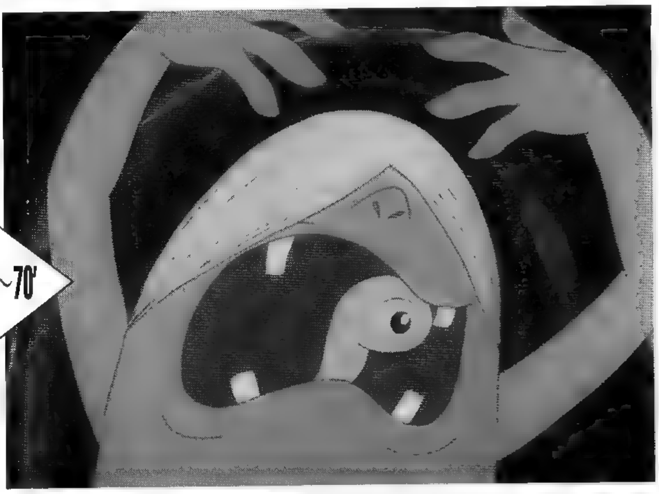
「げた合戦」に登場。80年代は原作をほぼ再現。ふだんは下駄の姿で、鬼太郎の下駄とすり替わって鬼太郎を操った。

sazaeoni

さざえ鬼
【さざえおに】

さざえが鬼に変化することもあり得る？

“ありえない造化の不思議”を意味する諺、「雀海中に入てはまぐりとなり、田鼠（でんそ）化してうずらとなる」という言葉とともに、鳥山石燕の『画図百器徒然袋』にサザエの妖怪として描かれる。



60'〜70'

何にでも化けられる、間抜けな外見のクセに強いヤツ

300年以上生きたサザエが変化したもの。千葉・天狗岩に住む。仲間がつぼ焼きにされたため、人間に復讐。鬼太郎を食べて強い妖力を得ようと、鬼太郎に化けておびき寄せる。貝殻に人間を取り込み、人間のつぼ焼きを作ろうとした。第33話、70年代・第3話

能力◎細胞が変化し、自由に化けることができる。腕が自由に伸びる。手錠でも何でも食べてしまう。

最期◎鬼太郎に本体である舌を持って振り回され、舌が取れて本性を現す。地面に叩きつけられて絶命する。



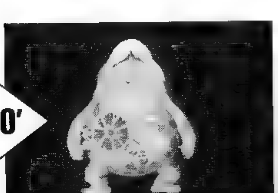
80'

工場による海域汚染の被害者

公害で海が汚れ、エサが減って体が弱ったため、鬼太郎を食べて復活しようと企む。ウツボの毒から作ったシビレ薬を鬼太郎に注射する。第14、52、84、85、98話、劇「最強妖怪」

能力◎何にでも変化できる。人間や妖怪を食べることで、その妖力を吸収できる。鬼太郎を調理して食べてしまう。

最後◎舌の先が本体ということを鬼太郎に見抜かれて、握りつぶされる。恐山の妖怪病院に転地療養を勧められる。



90'

特技は変身、趣味は長生き

サザエが300年以上生きて、妖力を持った妖怪。より強い妖力と、1000年以上の長寿を求めて鬼太郎を食べようと、鬼太郎のにせものに変身しておびき出す。口の中にある本体が弱点。第17、106話

能力◎細胞を自由に変化させられるため、何にでも変身できる。妖怪を食べることで、寿命を延ばせる。

最期◎一度は鬼太郎を食べるものの、毛穴から逃げられる。弱点の目に髪の毛針を打ち込まれ、退治される。

原作コミックでは？

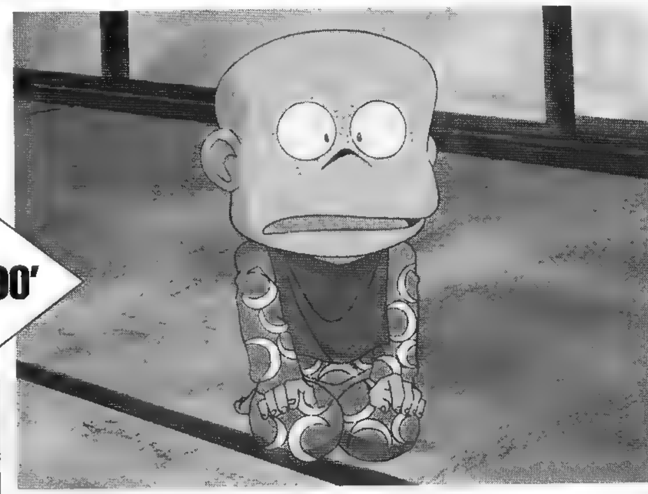
「さざえ鬼」に登場。鬼太郎に化けておびき寄せるシーンは出てこないが、それ以外は60、90年代とも原作同様のストーリーとキャラ

zashikiwarashi

座敷童子
【ざしきわらし】

家の盛衰を司る子ども姿の妖怪

岩手県を中心とした東北地方に伝わる、家に憑く子どもの妖怪。3〜12歳くらいで、髪はオカッパが多い。座敷童子のいる家は繁盛するといわれ『遠野物語』などにエピソードがある。



90'

後神＆妖怪サボテンとの家憑きバトル！

人に尽くして家を栄えさせるのが生きがいの子どもの妖怪。「座敷童子の住む家」としてその家を買った家族を幸せにしてやろうと頑張るが、同じく家に憑き家を不幸にする妖怪・後神と鉢合わせになり、後神の使う妖怪サボテンに食われる。第55話

能力◎家に憑き、その家の家族を幸せにする。住人がいない間に掃除や裁縫、やきいもなどをする。

最後◎妖怪サボテンの腹の中で暴れて、鬼太郎の戦いをサポート。食われていた家族とともに復活する。



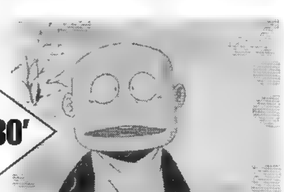
60'

笠地蔵の“ゲゲゲ版”に登場

岩手県に住む。座敷童子が住み付くと縁起がいいと喜ばれる。ある善良な老夫婦の家に憑こうとするが、貧乏すぎて迎え入れてくれないことを鬼太郎たちに相談する。第60話

能力◎霊感のままをわらべ歌にし、鬼太郎の病気を言い当てた。人の体に巣くった悪霊を退散させる。

最後◎食べ物を老夫婦の家に届け、その家が座敷童子を迎えられるようにする。改めて、老夫婦の家に憑く。



80'

貧乏神と憑く家を奪い合い!?

子どもと妖怪にしか姿が見えない妖怪。呼子のかまくらを訪ねて、善良な老夫婦の家から貧乏神を追い出してほしいと頼む。第12、46、54、68、97、104、108、劇「最強妖怪」

能力◎家に憑いて、その家を栄えさせる。腕力や戦闘能力はほとんどない。

最後◎鬼太郎たちと一緒に、貧乏神をその家から追い出すことに成功する。老夫婦に食べ物をプレゼントする。

原作コミックでは？

「笠地蔵」「妖怪大裁判」などに登場。60年代のストーリーは、「笠地蔵」とほぼ同じ。「妖怪大裁判」ではなぜか敵方についている



サボテン妖怪は、妖怪サボテンを見るのじゃ

sasorionna

さそり女

【さそりおんな】





80′

ねずみ男の母親に化け、鬼太郎を地獄に向かわせる

首狩り三人衆のひとり。地獄とこの世の中間にある「ねずみ男の村」でねずみ男の母親に化けて、鬼太郎をだましてワナにかける。鬼太郎が母への郷愁を呼び起こされて地獄に向かうと、正体を現して、用済みのねずみ男を殺そうとした。第109話

能力◎両手のハサミから、何でも溶かす毒液を噴出できる。

最期◎子泣き爺の「漬物石殺法」に敗れる。

原作コミックでは？

「地獄編」の原作「母を求めて地獄旅」に登場。人間界と地獄の中間の村を襲った[illegible]の手下で、砂かけ婆と子泣き爺に倒された。

sarakazoe

皿数え

【さらかぞえ】



播州皿屋敷のお菊の別名？

鳥山石燕『今昔画図続百鬼』に、井戸から炎のようなものが出て皿を操っている姿が描かれる。「一枚足りな～い……」で有名な『播州皿屋敷』のお菊の亡霊を描いたものと説明される。

夫思いの美人妻だが、怒ると怖い！



80′

古井戸に住む、着物姿の美人の妖怪。体が皿でできているのか、体で皿を作るのか、とにかく皿を自在に操る。体調を崩した夫・大入道の食料となる皿と、自分のための上に載っている食料を人間たちから奪う。第97話

能力◎相手を眠らせる「眠り皿」、踊らせる「皿踊り」など皿を使った多彩な攻撃で、鬼太郎たちを翻弄した。

最期◎夫・大入道を人質に取られ、術を解く。

原作コミックでは？

「皿合戦」に登場。やはり大入道の妻だが、食欲旺盛で、食べたものを皿に変える能力を持つ。外見はもっと恐ろしい形相の女性。

satori

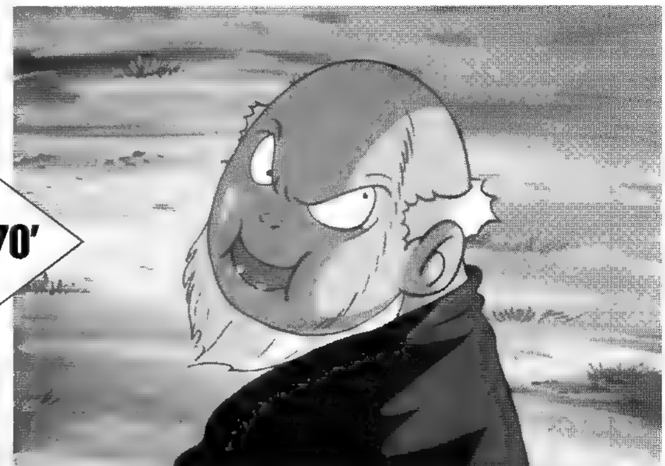
サトリ

【さとり】



山のなかに住み、人の心を読む

各地の民話に登場する妖怪。人の思うことを次々と言い当て、思うことがなくなるとつまらなくなって逃げるとも、相手を食べてしまうともいわれる。鳥山石燕『今昔画図続百鬼』にもあり。



70′



山の洞穴に住む、予知能力を持つ妖怪

死神の親戚で、予知能力を持った妖怪。先のことがわかってしまいつまらないため、200年も山の洞穴にこもっていた。紫色の顔に白い顎鬚を蓄えている。ものぐさな性格なので、行動するときはつねに誰かと組んで動くらしい。ノルマに苦しむ死神を助けるために、ある男性を自殺に追い込む。第34話

能力◎人や世の中の未来のことがわかる。それにより災難を避けたり、人を災難に遭わせたりすることができる。

最期◎妖怪たちから妬みの心で睨みつけられて、苦しくなり海に落ちる。「やっぱり自分は山にこもる」と消える。



90′

チーの企みを鬼太郎たちに伝える

中国妖怪チーの企みを神社の草陰で見て、呼子とねずみ男とともに鬼太郎のもとに行き伝える。ほとんどしゃべらない呼子や、要領を得ないねずみ男の代わりにすべての報告をした。用心深く、わりと聡明である。中国妖怪側に寝返ったねずみ男のワナに、みんなが引っかかりそうになっているところを止めるが、ネコ娘に“弱虫”呼ばわりされてしまう。その後中国妖怪たちと戦って、結局、反物にされてしまった。第79話

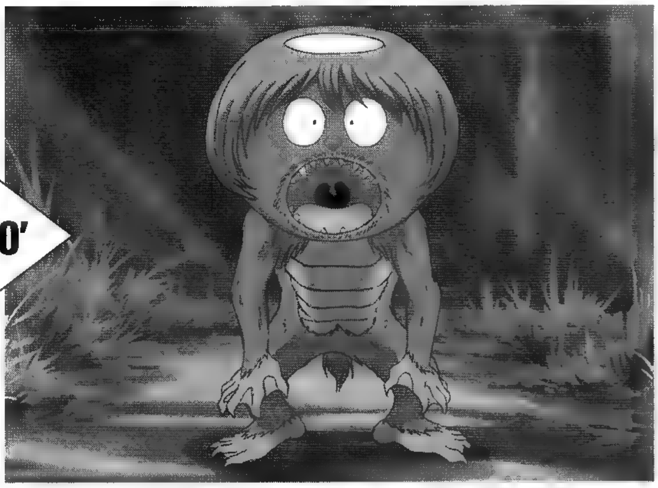
原作コミックでは？

鬼太郎以外の水木作品「ねたみ」に登場。死神と共謀して、1人のエリートを死に追いやる。90年代は「妖怪反物」と同じ役回り。

sarakozou

さら小僧
【さらこぞう】

90′



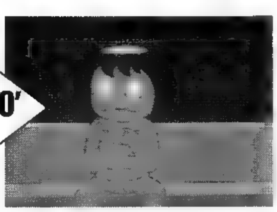
普段はのんびり屋だが怒ると怖い河童の仲間

名曲「ぺったらぺたらこ」を墓場で妖怪たちに歌って聞かせる、美声の持ち主。ただし４番を歌うと恐ろしいことが起きるといわれているので、４番になると妖怪たちも逃げ出してしまう。自分の歌を他人に歌われることを極端に嫌う。ねずみ男にそそのかされたバンド・憂歌団に「ぺったらぺたらこ」を歌われ、激怒してさらってしまい、一生自分の家に閉じ込めようとする。彼らを助けに来た鬼太郎やねずみ男に「ジェットコースターに乗りたい」などのわがままを言うが、わがままを聞いても無駄だった。怒ると目が真っ赤になり、凶暴な形相になる。第33話

能力◉水皿を円盤のように投げる「水皿攻撃」と、「何でも溶かすおしっこ」が武器。かなり攻撃力は高い。

最後◉一度は鬼太郎に退治されて素直に引き下がるが、その妖力で人間たちに禁断の４番を歌わせる。

60′



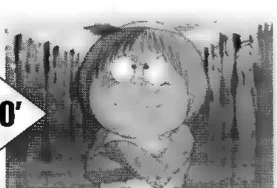
怒りっぽいけど強い河童の仲間

350年生きている、川に住む妖怪。「ぺったらこ」の曲を「ザ・ビンボーズ」に盗作され、メンバーを誘拐する。説得に来た鬼太郎相手に、わがまま放題の注文をする。第34話

能力◉頭の皿を無数に飛ばし、太陽の光を反射させて相手に向かって光線を出す。

最後◉自分の皿から発射される光線を頭にあび、皿にヒビが入っておかしくなってしまう。隠れ里に閉じ込められた。

80′



怪力の河童の親玉格だが音痴

自称“河童一族一の美声の持ち主”だが、本当は建物を破壊するほどの音痴。強引に仲間を従え、河童一族の歌を盗作した「ビンボーブラザース」を誘拐する。第43話

能力◉怪力の持ち主。頭の皿を刃物のように飛ばす。飛ばした皿に太陽の光を集める「皿レンズ攻撃」。

最後◉ひでり神が吐いた熱風で頭の皿が乾いて割れそうになり、降参。人間と和解して歌謡大賞に出る。

原作コミックでは？

大筋は原作と同じ「さら小僧」に登場。原作はよりふてぶてしく、一度は鬼太郎をやっつける実力の持ち主。

sankichi

三吉
【さんきち】

80′



人間に憧れていた河童の子で、人間と入れ替わる

河童天国に住む河童の子ども。いつも人間の生活を覗き見している。学校で友だちと遊ぶ人間の子どもたちを羨ましがっては、母親に怒られていた。たくろう火の妖力で、人間（星郎）と入れ替わる。ところが１日も経たないうちに、自分が人間に向いていないことを知り、元に戻りたくて鬼太郎のもとを訪れた。人間になっても水かきはあり、長時間の水中活動も可能。第85話

原作コミックでは？

三吉という河童は登場しないが、水木しげるの代表作「河童の三平」の主人公・三平は人間から河童になったキャラ。

sankichinohaha

三吉の母
【さんきちのはは】

80′



“河童の自由”を愛する、のんびり屋だがよき母親

人間界から離れた河童天国に住む河童で、人間に憧れている息子・三吉の母。いつも人間の生活を覗き見している息子を連れ戻しては、たしなめている。そのときの常套句は河童天国のモットーである「河童は誰からも干渉されず、誰にも干渉しない」である。息子が人間と入れ替わったことにも、気づいたり心配したりしている様子はないのんびり屋。第85話

原作コミックでは？

TVアニメオリジナルの妖怪。

sanshou

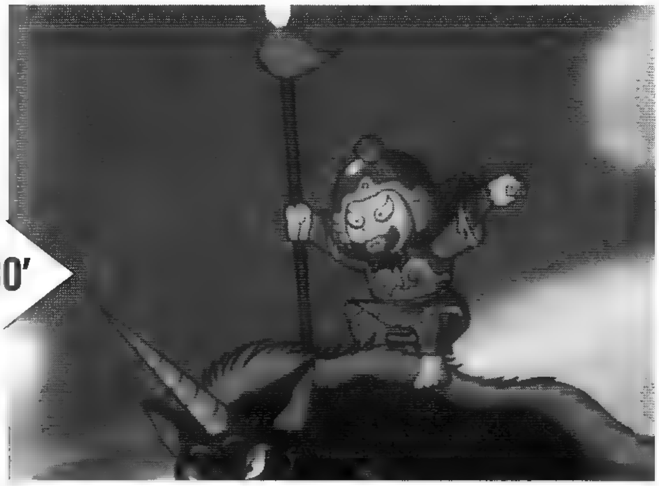
山魈

【さんしょう】



鋭い眼光をした獣のような姿の鬼

中国南山に出没する鬼の一種。熟した瓜のような顔色に鋭い眼光、猿の体に手足が1本ずつ。踵は逆向きで、指は３本。雄には金を、雌には紅や白粉を出すと喜ぶと『広異記』にある。



80′

小柄な体で宙を舞う、中国妖怪チーの手下

中国妖怪チーの手下のひとり。小柄な体に緑の皮膚で、鎧兜に身を包む。日本妖怪との戦いでは、角端獣に乗って何度も宙返りしながら出撃。体が硬く石で殴られてもビクともせず、ネコ娘の爪も歯が立たなかった。劇「最強妖怪」

能力◎角端獣の上で何度も宙返りできる身の軽さ。三椏の矛を操り、敵と戦う。体は非常に硬く丈夫。

最期◎日本妖怪との２戦目で、巨大化した黒怪物のこん棒が吹っ飛ばされ、その下敷きになって倒れる。



70′

特に目立った活躍のない青い鬼

頭に角が３本ある鬼。日本に来襲してきた、中国妖怪チーの手下であり、胴長短足で、側近の中でもチーの傍らにつねに控えているタイプ。劇中では名前で呼ばれない。第２話

能力◎肉弾戦のみで日本妖怪と戦う。仲間とともに鬼太郎を攻撃するが、特に目立った活躍はしていない。

最期◎主人であるチー妖怪が九尾の狐としての正体を現すと同時に城は炎につつまれ、結局チー妖怪とともに燃え尽きる。



90′

紙魔法で作られたチーの手下

青鬼。紙魔法で作られた、中国妖怪チーの手下。白髪で三椏の矛を操る。日本妖怪の様子を探りチーに報告。城に攻めてきた日本妖怪に応戦する。第79、80話

能力◎三椏の矛を操り、敵を襲う。小柄な体を生かし斥候の役割を果たす。チーの妖力を分けてもらうと、強くなる。

最期◎元が紙なので、火に弱いことを井戸仙人に見破られて輪入道の火で敗走する。

原作コミックでは？

「妖怪反物」に登場。特に名前は[illegible]チー妖怪の側近。[illegible]と主従関係は明確ではなく[illegible]と[illegible]ている。

sanchuu

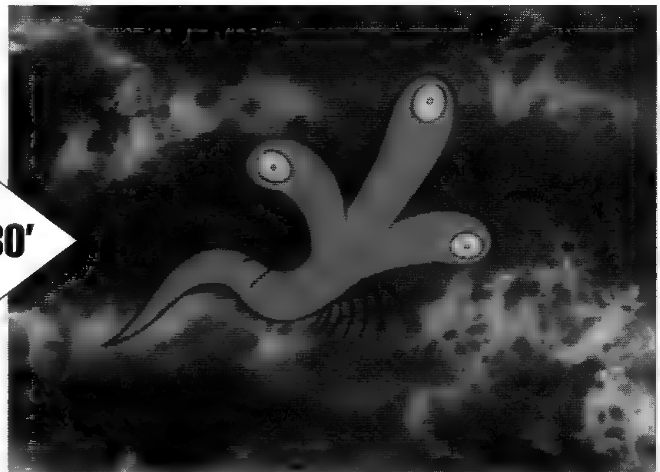
三虫

【さんちゅう】

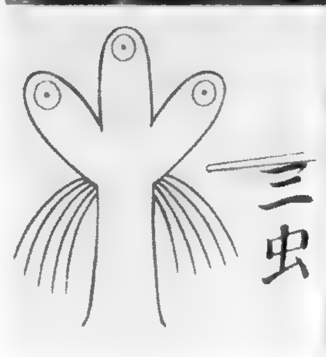


小さな悪事も見逃さない閻魔大王の手下

60日に一度、庚申の日の夜に人間の体内から抜け出して、閻魔大王にその人が60日間に犯した罪をすべて報告する、虫のような生き物。「青面金剛」という神に弱いらしい。



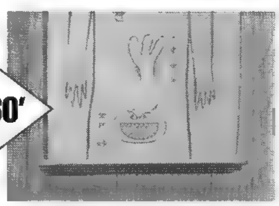
80′





めんどくさがりな悪事の見張り人

人間の体内に巣食い、その人の悪事を見張る役目を持つ、小さな虫のような生き物。ねずみ男の説明では「体の真ん中に住む悪魔」らしい。くしゃみとともにねずみ男の体を抜け出し「仕事かぁ、めんどくさいなぁ～」と言いながら閻魔大王の下に飛んでいった。そのセリフからも、ねずみ男の普段の悪事を見逃して、罪もない老人からお金を巻き上げるという悪事に手を染めて初めて動いたところから見ても、あまり仕事熱心なタイプではないと思われる。三股に分かれた体の先すべてに目があり、両側の体を翼のように羽ばたかせて空を飛ぶ。第55話



60′

悪事を見逃さない悪魔は姿を見せない

人間の体の中心に住む悪魔。その人間が悪事を働くと、閻魔大王に知らせに行く。閻魔大王は、三虫の報告を受けて手近な妖怪に“赤紙”を出し、その人を事故やその他の方法で殺させる。急に病気になる人の半分は三虫の仕業らしい。三虫が死ねば、閻魔に連絡がいかない。目玉おやじの話の中に登場し、ねずみ男のインチキ宗教のイラストが映るだけで実際に姿は見せない。第20話

原作コミックでは？

「猫娘とねずみ男」に登場。ねずみ男が三虫をネタにした宗教を立ち上げて大金を稼ぐと[illegible]。60年代は原作と同じ。

さ

seaser

シーサー



【しーさー】

名は“獅子”を琉球語で発音したもの

沖縄県中心に見られる、伝説の獣の像。起源は古代オリエントのライオン。建物の門や屋根などに配置され、家や人、村に災いをもたらす悪霊を追い払う魔除け、幸運招きの意味を持つ。

80′







鬼太郎に弟子入り志願のひょうきんもの

沖縄を守っていた妖怪だったが、鬼太郎の強さに触れて憧れ、弟子入り志願する。以降上京し、鬼太郎ファミリーの一員としてレギュラー出演。カワイイ声と笑顔で人気者に。ねずみ男のことも何かと慕い、茶化しながらも尊敬しているようだ。第93話では、地中を掘り進む能力で鬼太郎たちを助け、第97話では皿女に皿の上に乗せられてさらわれている。意外と役に立っているのだが、まだまだ未熟とつねに悩んでいる。第73〜115話

能力◎地中をドリルのように掘って突き進む。すばしっこい動きと鋭い牙。変身能力もあり、獅子に化ける。

90′



沖縄・妖怪ホテルのベルボーイ

沖縄の森に住む気のいい妖怪。観光客から森を追われ、ホテルに泊まりにきた。沖縄は自分が守る、と鬼太郎に牙をむくが、鬼太郎のちゃんちゃんこに降参。ホテルの金城支配人と協力して、ホテル再建の立役者となる。第一回日本妖怪会議の司会も務めた。カワイイ声でいつも笑顔で、ホテルのベルボーイも務める。伝承上の巨大なシーサーに変身可能だ。第4シーズンではこの1話のみのゲスト妖怪として登場。第63話

原作コミックでは？

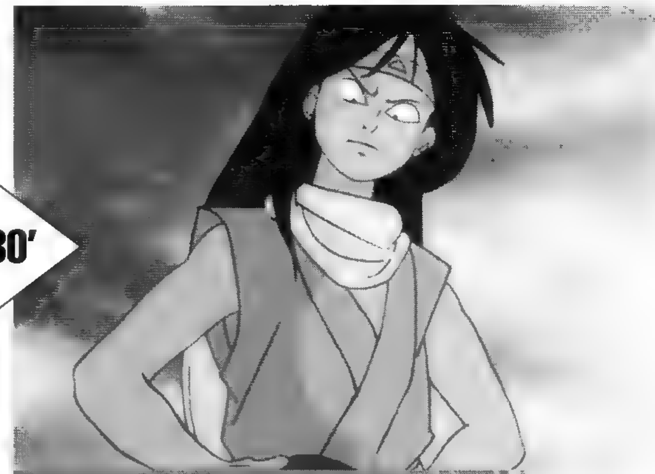
「妖怪大百足」に登場して以来、レギュラー化。鬼太郎のピンチを幾度となく助ける。小さいけれど頼りになる仲間。

jigokudouji

地獄童子

【じごくどうじ】

80′







閻魔大王に雇われた、キザで凄腕の“地獄の用心棒”

この世とあの世の双方でハグレものとしてしか生きられず、手を焼いた閻魔大王に逆に用心棒として雇われた。閻魔大王に処刑されそうになった鬼太郎が、閻魔大王庁から逃げ出したとき、その前に立ちはだかり鬼太郎と初対戦。白いマフラーをみずからの手足のように、ときには剣のようにして戦う。しかし鬼太郎たちと戦っていたのは、地獄の五徳猫や鉄鼠に、幽霊である恋人の幽子を人質に取られていたためだった。闘いで負傷し、輸血が必要になったときに「妖怪と人間とのハーフ」であることが判明。同じ境遇である鬼太郎の血を輸血し、一命をとりとめる。その後、鬼太郎の協力で幽子を救い出し、和解。はぐれたユメコを助け出すなど、陰に回って鬼太郎の地獄旅をサポートする。「地獄編」をとおして活躍した。第111〜115話

能力◎トレードマークの白いマフラーを、みずからの手足のように操る。時には剣のようになる。

最後◎恋人の幽子と再会。鬼太郎らと和解し、地獄で幸せに暮らしたと思われる。

原作コミックでは？

「恐怖の地獄童子の巻」[illegible]アニメが先行[illegible]

jigokunoshisha

地獄の使者

【じごくのししゃ】

70′



小柄なマント姿のガイコツが杖をつきながら人を襲う

“アクアク”と呼ばれ、イースター島の地下に住む。金も命も幸福も得られる魔法の奥義を手に入れようとする、欲の強い人間を処罰する。「赤い月が中天にかかるとき。13匹のコウモリが空に舞うとき。石像の目が血の涙を流すとき。汝の影は三里になり、地獄の使者はアクアクの精霊に招かれ、汝の呼びかけに応えるであろう」という条件で姿を現す。第35話

原作コミックでは？

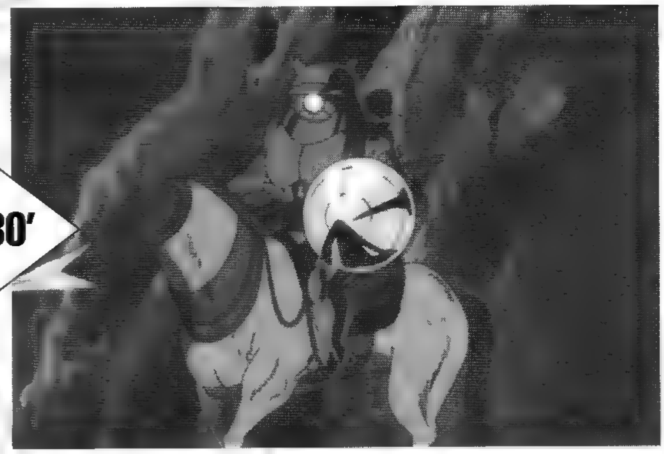
鬼太郎以外の水木作品「イースター島奇談」に登場。鬼太郎が登場しないほかは、ほぼ原作どおりにアニメ化されている。

jigokumusha

地獄武者

【じごくむしゃ】

80′



ぬらりひょんに操られた夜行さんの変装

ぬらりひょんの組織した地獄軍団の、最後のひとり。妖怪科学の粋を集めた鎧を身に着け、首なし馬に乗って戦う。じつは夜行さんが天叢雲剣の光に操られ、鬼太郎の前に現れたときの姿。ユメコたちを捕まえて餓鬼を作る機械の実験台にした。第113話

能力◉鬼太郎の体内電気を再現するなど、妖怪科学を操る。

最後◉鬼太郎に倒されて、操られていた術が解ける。

原作コミックでは？

鬼太郎地獄編「最期の出会い」で餓鬼たちの管理人として、鉄の鎧に身を包んだ夜行さんが登場している。

jigokunobanken

地獄の番犬

【じごくのばんけん】

80′



鬼太郎を圧倒するパワーを持った犬の妖怪

奪衣婆が「万有自在玉」を手まり歌にあわせてまりのようにつきながら操る、巨大な犬の妖怪。青く長い毛を持ち、狛犬のような風貌。その巨体からくるパワーと、石化した子泣き爺を一瞬で噛み砕く強靭な顎と牙で、鬼太郎たちを圧倒した。第39話

能力◉強靭な顎と牙で攻撃。口から炎を噴く。

最後◉万有自在玉を壊され、パワーを失う。

原作コミックでは？

TVアニメオリジナルの妖怪。

jizoubosatsu

地蔵菩薩



【じぞうぼさつ】

六道とは地獄、餓鬼、畜生、修羅、人、天である

釈迦の入滅後、弥勒菩薩が出現するまでの56億7000万年の間、六道を輪廻する衆生を救うとされる菩薩。日本においては地獄の責め苦からの救済を司る菩薩の意味合いが強い。

サラメイヤの鳩を鬼太郎たち一行に渡す

80′



天上界から賽の河原に降りてきた、ありがたい菩薩様。何でも見とおす目を持つ。賽の河原で石を積む子どもたちを救済するため、地獄へと降りてくるのは伝承のとおり。地獄から人間界に戻ることができる道しるべの「サラメイヤの鳩」を持っていて、鬼太郎たちに1羽渡した。しかし鬼太郎たちは、ユメコではなく生まれたばかりの子どもを残していた人間の女性・山田花子にその鳩を譲る。第110話

原作コミックでは？

鬼太郎地獄編「母を求めて地獄旅」に、サラメイヤの鳩は登場しているが、地蔵菩薩は姿を現さない。

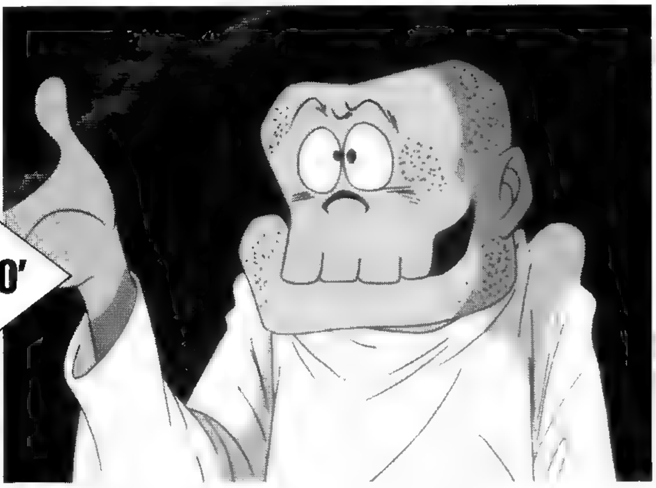
shinigami

死神
【しにがみ】

大鎌を持つ髑髏(どくろ)の姿は西欧スタイル

人間を死に誘う悪霊、または神を指す。『絵本百物語　桃山人夜話』では、人を死に仕向ける憑き物のような存在。西欧においては生命と死を司る神で、冥府の魂の管理者とされる。

70′



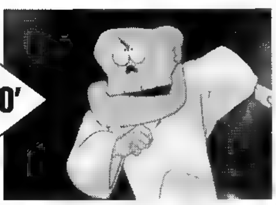
“魂のノルマ”に追われるサラリーマン的存在

顎(あご)が突き出たガイコツを思わせる、独特の風貌。幾度となく登場し、魔女と組むなどして鬼太郎の命を狙う。自分の仕事に嫌気がさして地上の王を狙ったり、ノルマに苦しめられたりと、かなり人間的で哀愁漂う存在。第30、38、42、45話

能力◎絶対に死なない。口からガスを吐き、相手を老化させる。生きている人間の魂を抜く（死神憲法で禁止されている）。

最後◎鬼太郎にやっつけられたりしつつ、最後は鬼太郎の協力で魂のノルマを達成し、家族と地獄へ帰っていく。

80′



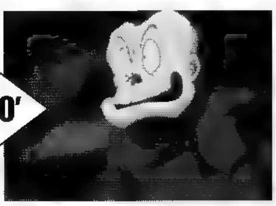
鬼太郎になり代わり現世支配を企む

死人をあの世に案内する仕事をしていたが嫌気がさし、鬼太郎になり代わり現世を支配しようと考える。ねずみ男に自分が父親だと偽って近付き、鬼太郎にワナを仕掛ける。第44話

能力◎口から吐くガスを浴びると老化がすすみ、そのまま放っておくと白骨化してしまう。舌先三寸で相手をだます。

最後◎宇宙に飛ばされた目玉おやじが超巨大化して落ちてきて、死神を包み込む。それにより苦しんで降参する。

90′



妖怪ハンター・ヒー一族と共謀！

恐れられこそすれ誰からもありがたがられない生活に不満を抱き、ヒー一族の巫女にそそのかされて、鬼太郎たちを襲う。目玉おやじらを無明の世界へ連れて行こうとする。第114話

能力◎大鎌を駆使して鬼太郎たちを襲う。舌先三寸で人をだますこと、および謀略が得意。

最期◎汽車に乗ったまま、すべてが無になる無明彼岸の世界へ行ってしまう。

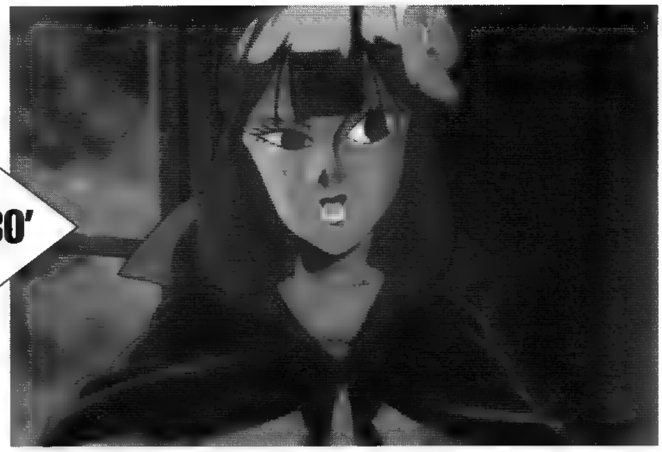
原作コミックでは？

鬼太郎以外の水木作品『サラリーマン死神』[illegible]主人公として登場。性格、行動などは、原作と同じ。

jiniya

ジニヤー
【じにやー】

80′



アラビア生まれのじゃじゃ馬魔女

約1000歳の、アラビア生まれの魔女。悪魔の国の王を父親に持つその父親の病気を治すため、医師を誘拐しようとした。日本の高校に入り込んで不良たちを部下にし、ねずみ男から医者の居場所を聞き出し恐山の妖怪病院を襲う。第102話

能力◎魔力で人や物を操る。宙に浮く。ホウキで空を飛ぶ。

最後◎父による鬼太郎への攻撃の巻き添えを食い、空から落下。

原作コミックでは？

『魔女ジニヤー』に登場。[illegible]魔力を体内に宿せる「[illegible]」[illegible]

jiniya no chichi

ジニヤーの父
【じにやーのちち】

80′



アラビアに住む悪魔の国の王様

悪魔の国の王だが、争いごとはあまり好きではない。娘思いで腰が低い。日本に向かった娘を心配して追ってきた。鬼太郎との戦闘中に娘・ジニヤーを自分の攻撃の巻き添えにしてしまうが、その娘を鬼太郎に助けられて心を開く。第102話

能力◎空を飛ぶ。口から光線を吐く。翼からも光線が出る。

最後◎日本での娘の悪事を知り、鬼太郎たちに謝罪する。

原作コミックでは？

『魔女ジニヤー』に登場。娘を追って日本に現れ、口から光線を出して鬼太郎を攻撃。[illegible]ガラスで反射した自分の攻撃で[illegible]。

死神パシャは、パシャを見るのじゃ

giant

ジャイアント

【じゃいあんと】

90′



坊主頭にヒゲ面の西洋妖怪四天王最強の男

ケタ違いに大きな体を持つ、西洋妖怪四天王の最強の男。上半身裸のレスラー風スタイルで、坊主頭に白いひげを蓄えている。決して抜けられない「妖怪坂の術」や「分身の術」で鬼太郎を苦しめる。ケタ外れに五感が優れ、闇討ちも効かない。第109、110話

能力◎巨体を生かしたパワー攻撃。ケタ外れに鋭い五感。

最期◎妖力の源であるひげをカットされて力を失う。

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

shifunsenko

脂粉仙子

【しふんせんこ】

白粉婆が仕える紅白粉の神

鳥山石燕『今昔百鬼拾遺』のなかにある、白粉婆の項目に「紅おしろいの神を脂粉仙女と云う。おしろいばばは此神の侍女なるべし」とその名が出ている。

女妖怪の頭領となるべき妖怪もまだカワイイ女の子

80′



普段は美しい女の姿だが、一度その妖力に目覚めると恐ろしい力を発揮するという、女妖怪の頭領となるべき妖怪。白粉婆が、無理やり目覚めさせて利用しようとしていたところを老人に助けられ、人間の女の子・紅子として育てられていた。雪山で祖父（助けてくれた老人）を捜して遭難したところをぬりかべに助けられる。再び近付いてきた白粉婆に対して、無意識にその妖力を解放して退治した。第103話

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

jakotsubabaa

蛇骨婆

【じゃこつばばあ】

体に蛇を巻きつけた、蛇塚の蛇五衛門の妻

鳥山石燕『今昔百鬼拾遺』に、蛇を体に巻きつけた老婆として描かれている。解説によると「もろこし巫咸(ふかん)国は女丑(じょちゅう)の北にあり」と書かれており、"蛇塚の蛇五衛門"の妻とのこと。

60′



ぬらりひょんと共謀して、鬼太郎を追い詰める

面長、タレ目の老婆。鬼太郎を倒すためにぬらりひょんと共謀。ぬらりひょんが、手が勝手に動く「鬼太郎憑き」に悩んでいるときに、魔法のつぼから出る煙を使って、ぬらりひょんの手の中に憑いた鬼太郎の手を燻り出して解決。さらに鬼太郎を、魔法のつぼの中に閉じ込めようとする。その際「例え仲間でもただ働きはイヤじゃ」と、ぬらりひょんから大金をせしめる。第12話

最期◎鬼太郎をだまして魔法の壷に閉じ込めようとするが、逆にだまされて、古代の石臼で原始時代に送られてしまう。

80′



地獄編にも登場、一つ目の犬に変身

昔の暮らしをしている、一見普通の老婆。60年代と同じくぬらりひょんと共謀して鬼太郎に立ち向かったほか、地獄編では、「地獄の針の山」に住む老婆として登場。五徳猫＆鉄鼠のコンビと組む。一つ目の犬に変身して鬼太郎やユメコを食べようとした。劇「異次元」では、怪気象の中にいた妖怪のひとり。国会議事堂に現れた鬼太郎たちと対決し、ねずみ男にやられた。第4、108、112話、劇「異次元」

90′



鬼太郎の誕生秘話を語る

ぬらりひょんと共謀し、霊力を吸って固まる特製コンクリート「妖怪コンクリート」を作ってぬらりひょんに渡す。鬼太郎をコンクリート詰めにした後も、鬼太郎の誕生秘話を思い出し、鬼太郎がまた墓場から蘇ってくるのではないかと恐れていた。鬼太郎の下駄に追われて逃げ惑い、背中に下駄が張り付いたまま水の中に入って、大蛇の本性を現す。下駄を蛇骨婆ごと葬り去ろうとしたぬらりひょんの手で、魔法の壷に封じられる。第78、106話

原作コミックでは？

「ぬらりひょん」に登場。60年代の内容が、ほぼ原作のまま。地獄編には登場せず、大蛇などに変身することもなかった。

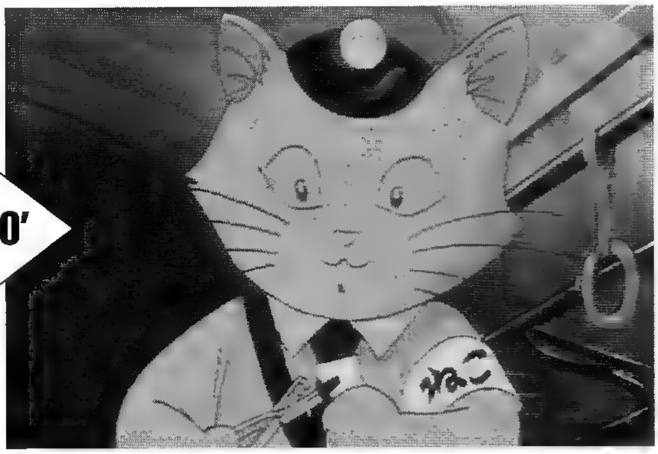
shashouneko

車掌猫

【しゃしょうねこ】



90′



猫町への唯一の交通手段、「猫町線」で働く車掌

疲れた人間たちが現世を捨て、ネコに変わって生きる「猫町」に向かう電車「猫町線」の中で"切符を拝見"をしていたネコ。「次はばけ猫〜」などと駅案内をしていた。同僚に、猫町駅で鬼太郎たちを迎え入れた改札猫がいる。双方とも薄茶色の三毛ネコ風だが、猫町駅の改札猫は目が赤い。改札猫は「猫町逆切符がないと人間界には帰れない」と鬼太郎に教えていた。第28話

原作コミックでは？

「猫町切符」には、猫町線で働き、終点の猫叉駅で"パスポート"を拝見していた改札猫が登場している。

jushakitsune

従者キツネ

【じゅうしゃきつね】

90′



キツネの嫁迎え行列を作る白山坊の手下

白山坊が、人間の娘・茜を嫁に迎えるために派遣した、狐の行列。銃を構えて待っていた茜の父親も、彼らが現れたことで観念したらしい。駕籠に茜を乗せて進んで行くが、茜と仲良くなっていた白山坊の弟子・コン太が裏切って「このまま行ったら白山坊様に食べられちゃうよ」と教えたら、従者キツネは「大変だ〜、白山坊様に怒られる〜」と叫びながら姿を消した。第39話

原作コミックでは？

TVオリジナルの妖怪。

jami

邪魅

【じゃみ】



人に害をなす妖怪一般を指す名称

鳥山石燕の『今昔画図続百鬼』に描かれている妖怪。「邪魅は魑魅の類なり。妖邪の悪気なるべし」との言葉が添えられており、つまりは人を害する妖怪一般のことを指すという。

60′



ガマになっていた妖怪。目玉おやじが恐れる悪名高さ

ガマ仙人により、カエルの姿に封じられていた妖怪。太った熊のような外見でタラコ唇。目玉おやじが「アイツが暴れだしたら一大事」と言うほど悪名高い妖怪らしい。ねずみ男のおかげで封印が解かれ、「毒気」で鬼太郎を手下にする。第50話

能力◎吐く息は毒気となり、吸い込んだらどんな秀才でもおかしくなってしまう。鬼太郎も吸わされ、手下にされる。

最期◎部下になった鬼太郎をガマ仙人に倒され、その後再度ガマ仙人に封じられ、カエルの姿に戻る。

80′



女性に変化して鬼太郎を操る

200年前にガマ仙人によりカエルの姿に封じられていた。女性の声色でねずみ男をだまし、封印を解かせて復活。鬼太郎と闘い、毒気で鬼太郎を操り部下にする。第41、91、108話

能力◎変身能力。吐く息（毒気）で人の心を歪めて操る。体を丸めて転がりながら襲ってくる。

最期◎正気に戻った鬼太郎が、ガマ仙人の杖で丸くなった邪魅を打ち返し、封印石にぶち当てて再度封印する。

90′



ぬらりひょんの指示で鬼太郎をはめる

鬼太郎に封印を解かせてカエルにした、目玉おやじが身代わりになることで鬼太郎が元に戻った瞬間に毒気を噴きかけ、鬼太郎を部下にしてぬらりひょんの思惑どおり悪事を働かせる。第54話

能力◎吐く息（毒気）で人の心を歪め、操る。鬼太郎は銀行強盗をさせられてしまった。

最期◎ガマ仙人の手でふたたびカエルの姿に封じられ、悪事を働かないように管理された。

原作コミックでは？

「妖怪関ヶ原」に登場。基本的に60年代のアニメのストーリーは原作とほぼ同じだが、ねずみ男ではなく直接鬼太郎が封印を解く。



縄文ガイコツは、骸骨を見るのじゃ

shunobon

朱の盤



【しゅのぼん】

鬼系と真っ赤な顔の大坊主系、2つの伝承が残る

福島県では頭には針のような毛、額には1本の角、目は皿のようで口は耳まで裂けている鬼のような妖怪。ほかに新潟県では、真っ赤な顔の大坊主が朱盤として伝わる。『老媼茶話』などに残る。

80′





ドジばかりだが、ぬらりひょんの忠実な部下

赤い大きな顔で、目が黄色。体は小さく、昔の足軽のような格好をしている。鬼太郎の宿敵、ぬらりひょんの手下として行動を共にし、何度も鬼太郎に立ち向かうが、いつもドジばかり。第91話では、妖怪の宿敵・ヒ一族にぬいぐるみにされてしまったぬらりひょんを助けるため、鬼太郎たちと行動をともにした。また、第58話ではユメコの優しさに触れてぬらりひょんを裏切り、ユメコと２人で妖怪城を脱出しようと試みた。「地獄編」では改心し、鬼太郎とともに地上に向かうが、ぬらりひょんを裏切りきれず、最後には地獄に残る。第4、16、58話ほか

90′



主人に絶妙なツッコミを入れることも

「朱の盆」と表記。ドジで間抜けで憎めない、ぬらりひょんの忠実な部下。鬼太郎の強さは認識しており、下駄の音にもビクビクする始末。鬼太郎との闘いで他力本願のぬらりひょんを見て「やっぱり自分では何もやらないんですね～」などと悪意なく言ってしまい、怒られたりもする。第113話では鬼太郎を倒す助っ人を集めるが、ねずみ男にダマされてヘナチョコ妖怪ばかり３匹集めてしまう。第60、64、71、74、78、83話ほか

原作コミックでは？

「鬼太郎と妖怪大相撲」に登場。相撲大会の緒戦で鬼太郎に当たり、やはり間の抜けた負け方をする。

jofuku

徐福

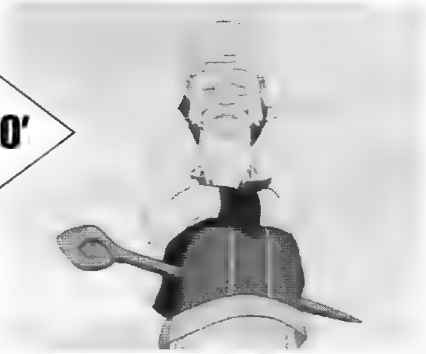
【じょふく】

不老不死の霊薬を求めて渡航した秦代の学者

秦の始皇帝の命を受け、不老不死の霊薬を求めて東方に船出したという中国の方士（学者）。司馬遷『史記』ほかに伝承が残り、日本各地に一行が上陸したとされる伝説が残っている。

仙人のような出で立ちの蓬莱島（ほうらいじま）の主

90′



2000年前の中国の方士であり、幻の島・蓬莱島の主のような立場。ちなみにかに坊主の前身である上海ガニは、2000年前に徐福に付いて日本にきた。現世に疲れた人間のもとに現れ、蓬莱島へと導く。名前を呼べばその相手を封じ込めてしまうひょうたんが武器。行方不明の人間を追って、かに坊主に乗り蓬莱島にたどり着いた鬼太郎を、島を荒らす侵入者と勘違いしひょうたんの中に封じ込めた。第14話

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

john bull neko

ジョンブル猫

【じょんぶるねこ】

90′



座り込んだねずみ男に優しく具合を聞いた紳士ネコ

シルクハットに口ひげを蓄え、ステッキを付いた英国紳士風の、二足歩行のネコ。鬼太郎とねずみ男が行方不明のサラリーマンの足取りを追って着いた、人間がネコに変化して生きる町「猫町」に住む。見渡す限りネコだらけで、気分を悪くしたねずみ男に「どうしました？　顔色が悪いみたいですけど」と声をかけるが、ねずみ男に「放っといてくれぇ」と一蹴されてしまう。第28話

原作コミックでは？

TVオリジナルの妖怪

shirukuhattodanuki

シルクハット狸

【しるくはっとだぬき】

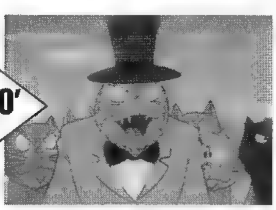
80'



刑部狸に次ぐ八百八狸の実質ナンバー2

四国の山中に封じ込められていた、日本征服を狙う妖怪狸集団・八百八狸の幹部。解放される前から「人間どもめ〜」と唸っており、人間に対する敵愾心は強かった。そしてその分、刑部狸への忠誠心は厚く、刑部狸に続く実質ナンバー2の地位を得ている。主に参謀的役割を担当している。街で鬼太郎を見つけて「あれが鬼太郎か」と確認して、部下のタヌキたちを指揮して拉致。さらに目玉おやじを木の枝に吊るして運び、刑部狸の前に連行する。ねずみ男のことは「無礼者のザコ妖怪めが!」と相手にもしないプライドの高さを持っている。タヌキが政権を取ってからは、人間たちに狸城建築を指揮する指揮官のような役割を果たす。刑部狸が封じられて妖力が消えると仕返しにきた警官に追われ、最後は倒れてきた鉄骨の下敷きになってしまう。第56、57話

60'



川原にも彼専用のイスがある?

「玄蕃狸」として登場。八百八狸のひとり。妖怪獣が入っている第2の月について人々に解説している鬼太郎を見て「放ってはおけない」と拉致することを決意した。川原で鬼太郎と話をするときも、イスに深く腰掛け、ふんぞり返って話すなど、紳士的な外見とは裏腹の強権的な態度で物事に挑む。鬼太郎に「昭和40年代に妖怪の時代が来ることは、知っているだろう。なぜ人間の味方をする?」と問いかける。第20、21話

90'



タヌキ内閣の外務大臣

シルクハットに礼服を着こなし、蝶ネクタイと白い軍手で身を固める、完全に英国紳士風の八百八狸のひとり。手にしているステッキはなかなか強力な武器となり、鬼太郎のリモコン下駄攻撃を打ち落としたことも。一度は殺したと思われた鬼太郎が復活してきたときには、妖怪獣・蛟竜に直接指示を出して鬼太郎を襲わせた。八百八狸が政権を奪取した際に、刑部狸に任命されて外務大臣を務めていた。第110、111話

原作コミックでは?

「妖怪獣」に登場。原作における役割が、ほぼアニメに反映されている。しかしアニメほど強烈なリーダーシップは発揮しない。

shirouneri

白溶裔

【しろうねり】

『徒然草』にちなんで作られた創作妖怪

鳥山石燕『画図百器徒然袋』にあり。吉田兼好の『徒然草』第60段に登場する坊主「白うるり」にちなんで雑巾の化けたものをこう名付けたとされる。おそらくは石燕の創作妖怪。

90'



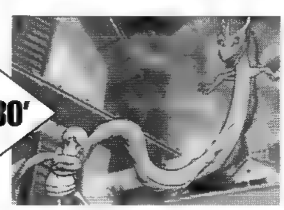
普段はカワイイ小型竜が都会の汚れを吸って巨大化

汚れを含んだ雑巾が、妖怪変化したもの。竜のような体を持ち、吐く息や尻尾からカビを作り出す。ねずみ男とあかなめとともに、「汚してはキレイにする」エセ清掃業者を始め、彼らと心を通わせる。都会の汚れを吸収して巨大化し、暴れだすが、風神・雷神に止められる。第16話、劇「おばけナイター」

能力◎ 吐く息や尻尾からカビを作り出し、周囲をカビだらけにする。川の汚れなどを吸って巨大化する。

最後◎ 街で暴れていたところを風神・雷神に止められ、洗い流されてもとの小さな白溶裔にもどる。

80'



ぬらりひょんの部下として登場

妖怪皇帝・ぬらりひょんの部下として、怪気象に包まれた東京に降り立つ。ぐわごぜの娘・カロリーヌを、その長い尻尾で捕まえる。劇「異次元」

能力◎子泣き爺いわく「ねずみ男よりもクサい息」を吐く。竜のような体を生かして空を飛ぶ。

最期◎鬼太郎と国会議事堂で対決し、鬼太郎のオカリナの剣「妖怪剣」でコマ切れにされてしまう。

原作コミックでは?

「妖怪・本所七ふしぎの巻」に登場。横暴な人間文明を潰すべく号令をかけた、妖怪総大将・ぬらりひょんの賛同者のひとり。

shirobouzu

白坊主
【しろぼうず】

伝承は少ない“白っぽい坊主のような妖怪”

静岡県、大阪府、三重県などに伝わる妖怪で、その具体的な逸話はあまり残っていない。単純に白っぽい坊主のような形の妖怪をいうと思われる。タヌキが化けたものともいわれる。

西洋妖怪との戦いに備え墓場にとりあえず集合

80′



第６話では、鬼太郎が妖怪の存在を信じない人間をこらしめるために用意した「幽霊電車」に乗車。大勢の妖怪とともに乗客の２人を驚かせた。劇「妖怪大戦争」にて、西洋妖怪に対抗すべく墓場に集まった妖怪のうちのひとり。青い渦巻き模様の着物姿。結局、西洋妖怪に臆して消えていく。のっぺらぼうを思わせるツルツル顔だが、違いは足があるか否か。第6話、劇「妖怪大戦争」

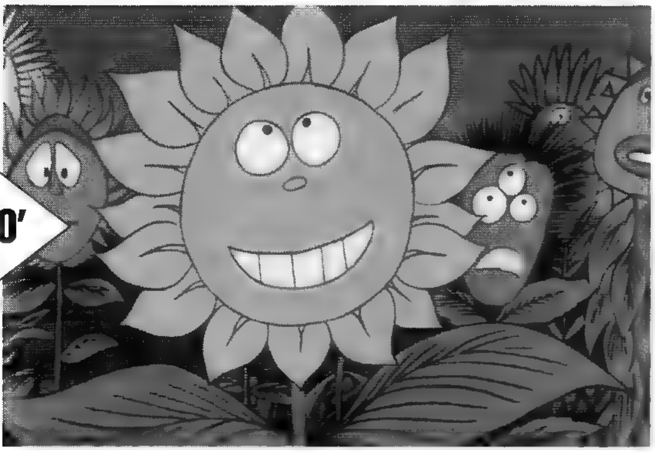
原作コミックでは？

「妖怪　本所七ふしぎの巻」に登場。妖怪総大将・ぬらりひょんの号令に応じて、墓場に集合した大勢の妖怪のなかのひとり。

jinmensou

人面草
【じんめんそう】

70′



カラフルで表情豊かな顔が付いている花

鬼太郎が栽培していた、顔のある花。一つ目のものから三つ目のもの、鼻のあるものやないものなど、複数の種類があると思われる。笑っているものや怒っているものなど多数あり、ねずみ男が顔のアゴに当たる部分をなでてやると喜ぶところを見ると、触覚もあるし感情も豊かのようだ。ねずみ男はこれを人間界に持ち込んで、一儲けしようと考えていた。第４話

原作コミックでは？

「雨降り天狗」での登場の仕方がアニメに反映されている。また鬼太郎以外の作品に「人面草」もあるが、別タイプと思われる

suiko

水虎
【すいこ】

河童とは異なる水中に潜む小坊主的妖怪

中国の古書『本草綱目』が起源。子供のような外見で、全身矢も刺さらないほど丈夫な鱗に覆われている。普段は水の中におり、いつも膝頭だけを水の上に出しているという。

60′



封印を解いてくれた恩人・百合子を守る

あらゆるものから水を吸い取って生きる妖怪。500年前に中国から渡ってきて、徳の高い僧につぼの中に封じ込められていたところを、村の女の子・百合子が復活させてしまう。百合子に恩義を感じ、いじめられている彼女を守る。第14話

能力◎ 森羅万象から水分を吸い取る。人間の口から入り、水分を取って干からびさせる。液状になることができる。

最期◎ 鬼太郎の体内に入るが、鬼太郎の策略により、冷気で凍って動けなくなり、再びつぼに封じられる。

80′



夫婦になるメスを探す、オスの水虎

液状の生き物で、打撃を受けても元に戻る。メスの水虎が封印されたつぼを探し、水虎を増やそうとしていた。そのために少年・新一にとり憑き、古代塚を掘らせた。第９話

能力◎ 液状なので、攻撃が一切効かない。人にとり憑いて、人を操る。特に子どもにとり憑くのが好き。

最期◎ 鬼太郎の体に入ったまま雪崩に呑み込まれ、鬼太郎の体の中で凍ってしまいつぼに封じられた。

90′



強大な力を得るため女房と合体

雪崩や津波を起こす。別に封印された女房と合体することで、凶暴性と力は爆発的に大きくなった。大昔封印を解いて現れたときは、妖怪総出で再び封印したほどの強敵。第56話

能力◎ 口から水を噴く。水の中で姿を消すことができる。液体なので刀などで切っても切れない。

最期◎ 水と一緒に水虎の腹の中に入った鬼太郎が、体内で「妖気冷凍」の術を用いて水虎を凍らせた。

原作コミックでは？

「水虎」に登場。80年代のストーリーが最も原作に近いが、外見は虎の姿ではない。とり憑かれる子どもの名前は同じ新一。

suiko

水虎【すいこ】



中国の妖怪が日本で変質し、河童と混同される

中国からの伝承が起源だが、日本で変質し明治の初めには河童の上役、水神様的な存在として祭られるようになっている。鳥山石燕『今昔画図続百鬼』にもその姿が描かれている。

90′



いつもフランケンとともにレースを脱落

富士の青木が原樹海で行われた、ぬらりひょんが仕組んだ妖怪ラリーに参加するために中国・長江より来日。猫とイタチを混ぜたような外見で、赤い目。ラリーでは第2チェックポイント「幸福の橋と不幸の橋」で、正解の橋を知りたくてフランケンを先に行かせて様子を見ようとする。結局フランケンともども第3チェックポイントで爆破され、溶岩に落ちてしまう。ラリーが終わり、優勝者の鬼太郎が妖怪石に「ぬらりひょんの企みで傷ついたものをもとどおりに」と願うことで、生き返る。第64話

60′



論語を読みながら悠々と運転

佐渡ヶ島を舞台にした、「世界妖怪ラリー大会」に中国代表として出場。スタート時は論語を読みながら、悠々とレースを展開。後半になり積極的になると、グレムリンの燃料を抜いてしまう。その後、鬼太郎との取っ組み合いになり、水に変化して、鬼太郎の毛針をかわす。そこで第14話の水虎と同じく、水でできている虎だと判明するが、デザインがまるで異なるため別人と思われる。フランケンのクルマが炎上し、一緒に燃えてしまう。第54話

80′



共闘していたフランケンに裏切られる

世界妖怪ラリーに参加するために来日。スタート前に街で暴れまくる。スタート時は鬼太郎に次いで5番手に付け、その後フランケンと協力して左右から鬼太郎の車を挟み撃ち。ドッグファイトを繰り広げ、一度は鬼太郎を追い落とす。「そんなポンコツ車に構っていられるか！」と息巻くが、その後、吊橋のポイントで直前に渡ったフランケンが吊橋を落としたため、一緒に川に墜落してしまった。第51話

原作コミックでは？

「妖怪ラリー」に登場。60年代のストーリーでは論語を読んでいるが、コミックでは「毛沢東語録」を読みながらレースを展開。

sunekosuri

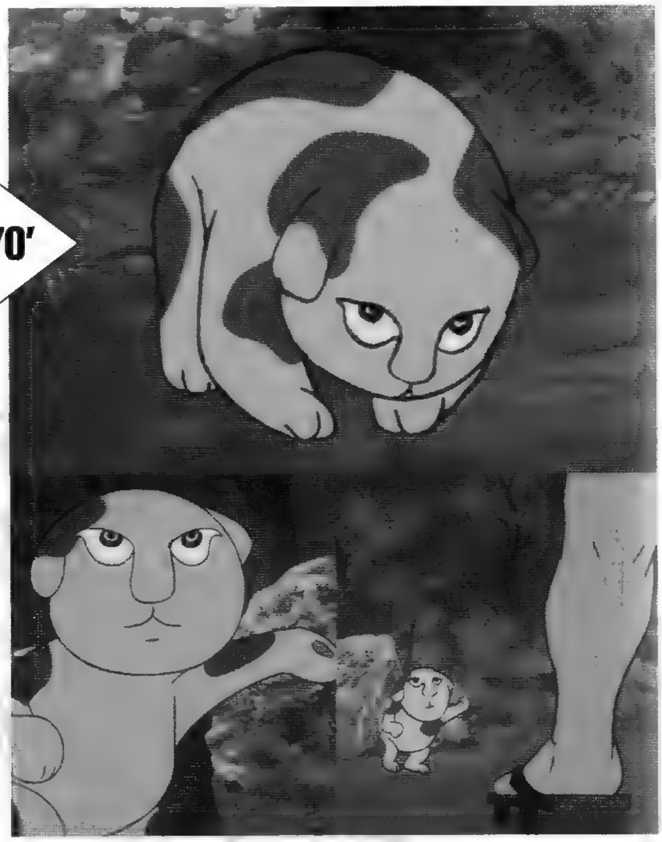
すねこすり【すねこすり】



犬のような外見で脛をこすって驚かす

岡山県小田郡に伝承が残るローカル妖怪だが、名前は全国区。通行人の足をこすってとおり、ビックリさせる、犬のような形をした妖怪。晴天よりも雨の降る日に多く現れるらしい。

70′



かわいい顔してやることはキツい、犬思いの妖怪

人食い藻屑で作られた「怪自動車」を操る黒幕の妖怪。しかし、本来は気が弱そうなかわいい系ルックス。怪自動車で中古車店の客をさらって沼の底に引きずり込み、「二度と車を持ちたいと思うな」と脅迫する。それは交通戦争の中で、犬の轢き逃げが頻発していることに対する報復だった。第14話

能力⊙人食い藻屑で作られた怪自動車を操り、車が欲しい人たちに報復を与える。力が弱く、自分では何もできない

最後⊙鬼太郎が呼んだ、つるべ火により、怪自動車を焼かれて出てくる。鬼太郎に犬の轢き逃げの多さを訴える。

80′



体全体で扉を開ける妖怪皇帝軍の一員

劇「異次元」に登場した、ハムスターと犬が混ざったようなかわいいルックスの妖怪。妖怪皇帝・ぬらりひょんに従い、ほかの大勢の妖怪皇帝軍とともに怪気象に包まれた東京に降り立った。国会議事堂の中にある妖怪皇帝の本部にいつもいる様子。ぬらりひょんがとおろうとした扉を、体全体を使って開けるなど、忠誠心はかなりのもの。ねずみ男が本部に来たとき、つい性質で擦り寄ってしまう。劇「異次元」

原作コミックでは？

「妖怪大戦争」で、鬼太郎の出した新聞広告を読んで墓場に集まった妖怪のひとりだ。アニメとデザインは異なる。



zunbera

ズンベラ

【ずんべら】

青森県におけるのっぺらぼう「ずんべら坊」が語源

正式には「ずんべら坊」といい、厳谷小波『大語園』にその姿を見ることができる、のっぺらぼうのこと。青森県に残っている民話は"再度の怪"の手法を踏んでおり、小泉八雲『狢』(のっぺらぼうの伝承)と同じパターンである。また島根県の人食い妖怪「ずんべら」の伝承もあるが、モデルは前者であろう。

70'



ナポレオン、リンカーン、渥美清などの顔に付け替え可能

顔を取ることが存在理由の妖怪。人魂入り料理を他人に食べさせて、顔を取る。本来は死体の顔しか取らないが、ねずみ男にそそのかされて生きている者の顔も取り始めた。顔を盗ったうえで、コレクションから自由に顔を選んで付け替える「霊形手術」を施す。整形依存症の女性・月子と結婚した。第41話

能力◎人魂入り料理を食べさせ、相手の顔をのっぺらぼうにしてからコレクションした他の顔に付け替える。

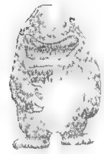
最後◎鬼太郎に諭され、ねずみ男の誘惑を突っぱね死体以外の顔しかとらないと約束して去っていく。

原作コミックでは？

鬼太郎の登場しない『霊形手術』で、人魂を食べて顔を付け替える"元・人間"のことを『ずんべら』と呼んでいる。妖怪ではない。

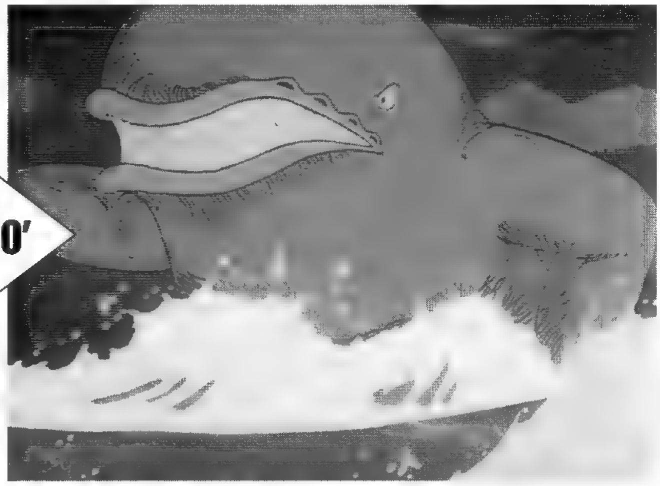
zeokuronodon

ゼオクロノドン



【ぜおくろのどん】

60'



ニューギニアに生きる3億年前の生物が復活!?

通称、大海獣といわれる、クジラの祖先。3億年前の生物だが、ニューギニアの奥地で生きながらえていた。ビーグル川で上島博士に発見され、探検隊に血を採取されて逆上。探検隊のキャンプを荒らす。若き学者・山田と鬼太郎のみ逃げ延びるが、鬼太郎は山田の策略により採取した血液を注射され、ゼオクロノドンと化してしまう。鬼太郎はゼオクロノドンになりながらも東京に上陸。期せずして街を破壊し、戦車隊と対決することに。その後、山田が操縦するロボットと激突しこれを退けるが、原爆を投下されミサイルの総攻撃を受ける。第5、6話

能力◎口から光線を吐き、相手を毛だらけにしてしまう。巨体を生かした怪力で、ロボットや自衛隊と対決。

最期◎心を入れ替えた山田が作った薬により、もとの鬼太郎に戻る。放射能はおしっこと一緒に流してしまった。

80'



日本に来てゲゲゲの森に向かう

ニューギニアの奥地で発見された大海獣。鬼太郎は山田の謀略で大海獣と化してしまうが、仲間の妖怪たちに自分が鬼太郎だと分かってもらうことに成功する。第67、68話

能力◎巨体を生かしたパワー攻撃。戦車の砲弾などをモノともしない頑丈さ。

最期◎目玉おやじ、ねずみ男らに悪事の裏を取られた山田が、鬼太郎を元に戻す薬を作り、注射したことで戻った。

90'



南方妖怪の神として崇められる

南太平洋・バルル島の山の奥地に眠っている巨大な妖怪。アカマタたちに神として崇められていた。眠っているプールの水を飲んで、鬼太郎もゼオクロノドンとなる。劇「大海獣」

能力◎口からなんでも毛むくじゃらにしてしまう光線を吐く。巨体を生かした怪力で攻撃。

最期◎ココの実をすりつぶしたものと、妖気を取り戻す薬草で鬼太郎は元の姿に戻る。

原作コミックでは？

原作『大海獣』を、60年代のストーリーがほぼ忠実に再現。90年代の劇場版は、オリジナルの要素が強い。

sennin

仙人

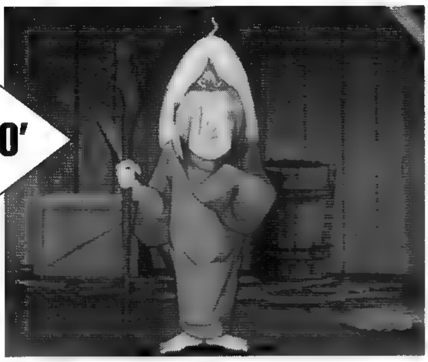
【せんにん】

不老不死になり“人を超えた人”の総称

高い山の上や仙島、天上界などで暮らし、仙術を身につけ不老不死を得た人間を指す。有名な斉天大聖孫悟空のように、妖怪でありながら修行により仙術を身につけた妖仙もある。

“自分は強い”と調子に乗る鬼太郎にお灸をすえる

80′



チベットの山奥に住み3000年修行して、森羅万象に悟りを開いている。犬のタローとしてユメコの家に潜り込み、いろいろな奇跡を起こすことで鬼太郎を誘い出し、闘いを挑まれるが一蹴。正体を現し、鬼太郎を自分の弟子に挑ませる。歯が立たない鬼太郎に、その弟子の正体がただの岩であることを伝え、戦う前に相手の正体や戦いの意味を考えるよう諭した。第88話

原作コミックでは？

原作『妖犬』では、とくに鬼太郎にお灸をすえる場面はない。人間である限り幸せな生活は送れないと、犬として生きることを選んだ。

soratobusakana

空飛ぶ魚

【そらとぶさかな】

80′



鬼太郎のニセ母を襲う紫色の魚

「地獄編」に登場。巨大な口と鋭い牙で、高い岩の塔にはりつけにされた人間を襲う紫色の魚たち。ダツを思わせる細身の体で、自由自在に鬼太郎のニセ母親の周りをいたぶるように飛び続け、少しずつ傷をつけていた。全部で４匹登場。第109話

能力◎ 空を飛ぶ。巨大な口と鋭い牙で人を襲う。

最期◎ 鬼太郎の髪の毛針とリモコン下駄で撃ち落とされる。

原作コミックでは？

『母を求めて地獄旅』に登場。地獄とこの世の中間で、[illegible]（13歳の少女。アニメではニセ母）を襲う。毛針で打ち落とされる。

souzugababaa

葬頭河婆

【そうずがばばあ】

衣の重さで罪の重さをはかる

三途の川の岸の衣領樹の下にいる鬼。亡者から衣類を剥ぎ取る役割を持つ。奪った衣は樹上にいる懸衣翁が枝にかけ、その枝のしなり具合で生前の罪の重さをはかる。「脱衣婆」ともいう。

80′



鬼太郎を石にするが、時を遡られて逆転負け

賽の河原に住む、老婆の妖怪。つねに上半身裸で風呂に入っている。鬼太郎を倒して日本妖怪の頂点に立とうという野望を抱き、こうもり猫と組む。科学者が作った、人を老化させる煙の入った「玉手箱」を奪い、鬼太郎とその仲間を老化させて弱らせたうえで、特殊な湯をかけ鬼太郎を石にしてしまった。第46話

能力◎特殊な湯を使い、何でも石にしてしまう。TVのようなもので世の中を見ることができる。

最期◎三途の川を渡って逃げようとしたときに、賽の河原の時間を戻すことで老化から復活した鬼太郎に倒される。

60′



妖怪大統領になるため玉手箱を狙う

賽の河原に住む老婆の妖怪。妖怪大統領の座を狙うこうもり猫をそそのかし、陰から操って鬼太郎の命を狙う。鬼太郎を倒した暁には、地上で暮らそうと考えていた。第53話

能力◎水風呂に入った鬼太郎に対して、コンクリートを流し込んでコンクリート詰めにする。

最期◎「人類老化の煙」で満たされた賽の河原に、閉じ込められてしまう。

原作コミックでは？

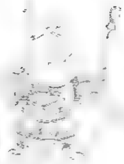
『妖怪大統領』に登場。地上で暮らすために鬼太郎親子の[illegible]も猫を利用して消そうとする。

大海獣は、ゼオクロノドンを見るのじゃ

setotaishou

瀬戸大将

【せとたいしょう】



『三国志』の関羽をイメージして創作される

鳥山石燕『画図百器徒然袋』に、寄せ集めた瀬戸物の身体に瀬戸物の甲冑をつけたような姿で描かれている。『三国志』の曹操孟徳と関羽との逸話をモデルにして創作された妖怪。

カワイイ顔に凍りついたような微笑で襲う

90′



陰陽道斑鳩流・言霊使いの一刻堂が使う式神。数十メートルはあるかという巨体で、瀬戸物を集めて作られたような外見。丸い目玉に凍りついたような微笑を浮かべて、巨大な槍のような武器で相手を襲う。瀬戸物を元に一刻堂が作った幻影であるため、妖怪ではなく、妖気はない。

能力◉ 巨体を生かして襲う。幻影なのでダメージは受けない。

最期◉ 校庭に埋められた本体の瀬戸物を壊され、消える。

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

daijasama

大蛇様

【だいじゃさま】



80′



三途の川を違法に渡ろうとする人々を食う大きな蛇

三途の川に住んでいる巨大な蛇。三途の川は渡し舟以外で渡ることはできず、ほかの方法で渡ろうとする者を攻撃する習性がある。その巨大な口で、人間をひと呑みにしてしまう。泳いで渡ろうとする子どもを助けに入った鬼太郎を襲ってくる。第110話

能力◉ 巨大な口で人を呑む。

最期◉ 鬼太郎のオカリナの剣で眉間をひと突きされ絶命。

原作コミックでは？

鬼太郎地獄編「血戦三途の川」に登場。一度は鬼太郎を丸呑みするが、腹の中で鬼太郎が何でも溶かす胃液を出してやっつける。

daidarabotti

ダイダラボッチ

【だいだらぼっち】



スケールが半端じゃない伝説の大巨人

関東、中部を中心に東北から四国まで広く分布する伝説の巨人。一説によれば、富士山はこの妖怪が地面を掘った土を盛り上げて作ったという。ちなみに掘った後は琵琶湖になったらしい。

70′



日本の国土を65日間で食い尽くすという伝説の巨人

昔は日本の主であったが、あまりに強いため妬んだ者がその体を解体し、埋めて封印していた。封印時に使った巨大な鍵を見つけ出した6人の「ダイダラ教」信者が、復活させようと体の各部を掘り起こす。それが岡山県に集まり復活。封印した者への復讐として暴れまわり、日本の国土を食べ始める。ニュースでは「65日間で日本を食べつくす」と報道された。第29話

最期◉鬼太郎の切り離された手が、身体を遠隔操作していたダイダラボッチの脳みそを壊し、倒れる。

80′



ぬらりひょんに利用される

ものを生む土地の神とも、破壊を呼ぶ魔人ともいわれる巨人。ダイダラボッチ教徒の手によって体の各部の封印が解かれ、それが集まり復活した。その復活の裏には、ダイダラボッチで文明を破壊しようとしたぬらりひょんの野望があった。脳みそ復活前は本能のままに暴れまわる。第60話

最後◉最後に復活した脳みそを鬼太郎がぬらりひょんから奪い返し、それを加えることでおとなしくなった。

90′



争いを食べて鎮める大巨人

争いを鎮める伝説の巨人。昔、争いの絶えない日本全土を食い尽くそうとして大暴れし、体の各部をばらばらに封印された。ねずみ男に封印を解かれ、再度暴れだす。第29話

能力◉争いを見つけると食って鎮める。とにかくデカイので、鼻息ひとつとっても武器になる。

最期◉封印の解けていない脳みそを、竹やりを打ち込まれて壊され、ばらばらになって海に沈む。

原作コミックでは？

「ダイダラボッチ」。60年代版は原作をアニメ化。鬼太郎が切り落とされた手をリモートコントロールして脳みそをつぶした。

daidarabottikyouto

ダイダラボッチ教徒

【だいだらぼっちきょうと】

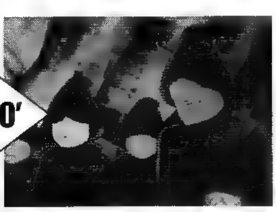
70'



ねずみ男を勧誘するなど布教に積極的な６人組

日本の主が伝説の巨人・ダイダラボッチであるとする「ダイダラ教」を信じる人々。かつてダイダラボッチを封じるときに使われた鍵を、子から孫へ、その孫へと1000年もの間引き継ぎ続けていた。ねずみ男が福島県・猪苗代湖で見つけたときには「目も口もない６人」と表現された。フンドシ一丁で大きな鍵を担いで「エンヤァ〜コラサァ〜エィ〜」の掛け声とともに歩き、全国各地で土の中にその鍵を刺しては回し、ダイダラボッチの体の各部を復活させる。穴の中から体が復活する瞬間には突風が巻き起こり、彼らは、穴に向かって土下座している。ダイダラボッチのことは“ダイダラボッチ様”もしくは“ボッチ様”と呼ぶ。また、砂かけ婆の家の前で締め出されていたねずみ男を誘拐し、信者として勧誘。復活したダイダラボッチが鬼太郎によって倒されると、姿を消してしまった。“教祖様”と呼ばれているリーダーは、ネックレスをしている。第29話

80'



ぬらりひょんに利用される

物を生む土地の神・ダイダラボッチを信じる「ダイダラボッチ教」の教徒。全身が黒一色だった70年代に比べ、濃い紫色のフードをかぶるにとどまっていることから信者が人間であることがわかる。リーダー格は彼らの信仰心を利用し、ダイダラボッチを復活させて操ることで、人間社会を破壊しようと考えているぬらりひょん。ただし信者たちは純粋に、ダイダラボッチの力にすがり、緑の大地を取り戻したかった。第60話

原作コミックでは？

「ダイダラボッチ」に登場。ルックスは70年代のいでたちが原作に近いが、もっと[illegible]が低く描かれている。

taitanbounoishi

タイタンボウの石

【たいたんぼうのいし】

70'



タブーを冒すと、人間も妖怪も祟られる

入らず山にある岩に祀られている、妖怪以上の力を持つ自然を支配する神様のひとり。妖怪の前には姿を現さないが、怒ると恐ろしい力を発揮する。立ち入り禁止の岩の聖地を中村と山田が冒したため、関係のない人物が神隠しに遭った。第43話

能力◎ まず指や耳など体の一部分を消し、体も消滅させ、最後には血の足跡・手形だけのまま岩の近くの穴に引き込む。

原作コミックでは？

鬼太郎以外の水木作品「足跡の怪」に登場。ストーリーはほぼ原作どおりで、やはりタイタンボウは姿を現さず祟りだけ起こす。

takekiridanuki

竹切り狸

【たけきりだぬき】

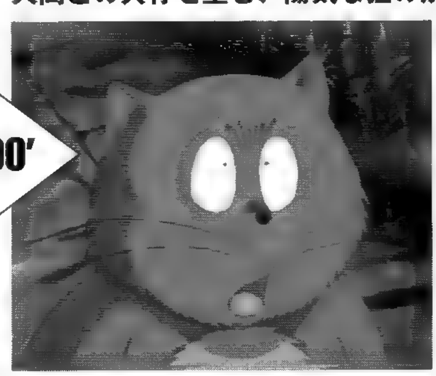


山奥で笹の葉を鳴らすのは、タヌキの妖怪の所業

夜中、山中の竹やぶでチョン、チョンと小枝を払ったり、竹が倒れる音がする。しかし翌日その竹やぶを確認しても何事もないという。これらの音は、竹切り狸の仕業だといわれている。

人間との共存を望む、陽気な狸の妖怪

90'



竹やぶで竹を切ったり、人間にイタズラをするのが好きなタヌキの妖怪。人間とタヌキの共存共栄を考えている。八百八狸の日本支配に反対。鬼太郎たちを八百八狸が封じられていた場所へ案内するが、八百八狸に捕まり袋叩きにされる。「ナマズ神」を撃退して妖力を失った鬼太郎を、八百八狸の妖力の源である狸石へと案内した。目玉おやじには「気のいいタヌキ妖怪」と言われる。第110、111話

原作コミックでは？

「竹切り狸」に登場するが、こちらは悪役妖怪で、妖怪万年竹の親類の狸妖怪。万年竹を倒した鬼太郎に復讐するため攻撃を仕掛ける。

球妖怪は、地魅を見るのじゃ

daitengu

大天狗

【だいてんぐ】

山伏の装束に高下駄を履き、葉団扇で風を起こす山の神

大別すると、大天狗とは高い鼻をもつ人型の天狗を指し、カラスの相貌で術が未熟な小天狗とは区別される。仏法を守護するカラスの姿をした「迦楼羅」が変化したものとも伝えられる。

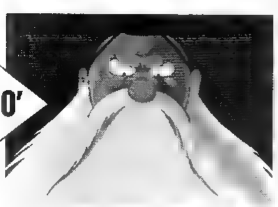
70′



鬼太郎の擬態も見抜く辣腕(らつわん)裁判長

妖怪大裁判の裁判長を務める天狗。白い髭(ひげ)を蓄え、修験者のような容姿。妖怪パーティーの様子が映画になり、妖怪の秘密を人間に知られてはならないと、出席した妖怪たちを叱責。企んだのは鬼太郎だと百々爺らから話を聞くと、鬼太郎に500年の妖怪刑を申し渡した。鬼太郎が逃げると、すぐさまちゃんちゃんことリモコン下駄を封印し、目玉おやじを人質にする。その後鬼太郎が無実だと判明すると、真犯人の百々爺は禁固刑に、ねずみ男は偽証罪に処せられた。第３話

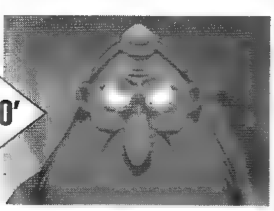
80′



威厳ある姿だが百々爺にダマされる

妖怪裁判所の裁判長を務める天狗の長で、閻魔大王の代行人としての顔も持つ。まんまと百々爺の計略にはまり、妖怪パーティー公開の冤罪で鬼太郎を500年の妖怪刑に処してしまう。鬼太郎が隙を見て逃げると、目玉おやじを人質にして、期限までに戻らねば目玉おやじを処刑すると宣言。ギリギリ間に合った鬼太郎の活躍で黒幕が百々爺とわかると、すぐさま百々爺と偽証したねずみ男にも、有罪判決を言い渡す。第32話

90′



悪事を裁く公明正大な判決

髭を蓄え、修験者の頭巾（帽子）に橙と紫の法衣をまとった鼻高の天狗。地獄絵図窃盗および無断公開事件の法廷の裁判長を務めた。妖怪たちやねずみ男から証言を聞き、地獄絵図を盗んだ鬼太郎に対し、有罪を言い渡す。逃亡した鬼太郎が約束の刻限になっても戻らず、鬼太郎に逃げるように言った目玉おやじの処刑を許可した。後に真犯人のぬらりひょんを時代流しの刑に処した。第46、47話

原作コミックでは？

妖怪ポリスを配下に持つ、妖怪法廷の裁判長。逃亡した鬼太郎の擬態を見抜き、目玉おやじを人質に。「妖怪大裁判」に登場。

takuroubi

たくろう火

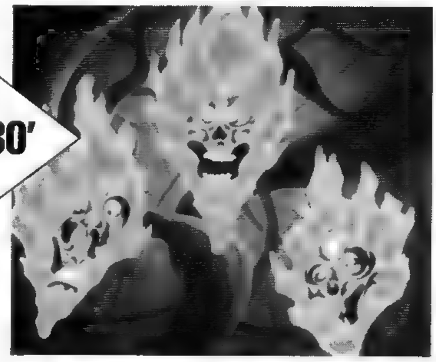
【たくろうび】

不知火の一種で双子の火

広島県の長井浦の沖に、夜明け頃波間に火が燃えるのが見えるといい、これを地元では「焚朗火（たくろうび）」と呼ぶ。ふたつの並んだ炎として現れ、不知火の類ともいわれる。

口から噴く炎で河童の世界を灼熱地獄に

80′



骸骨のような顔をした炎の妖怪。二つ目が二体と三つ目が一体の、計３体が一緒に行動する。怠け者で、楽しい世界を乗っ取るのが趣味。河童になった星郎に持ち込ませた壺に潜そみ、河童の世界を炎で蹂躙(じゅうりん)。河童たちを奴隷にして、炎の王国をつくろうとした。第85話

能力◎人間と河童の体を入れ替える。口から炎を吐く。

最期◎鬼太郎たちに水の中に引き込まれて消滅。

原作コミックでは？

[illegible]四次元世界の炎の妖怪。[illegible]世界征服を[illegible]。

datsuebabaa

奪衣婆

【だつえばばあ】

三途の川で罪の重さを測る婆

亡者の衣服を剥(は)ぎ取り、三途の川の岸辺にある衣領樹という木にかける老婆。亡者の衣の重さは、生前の業が表されるとし、その重さによって死後の罪の重さが決まる。脱衣婆ともいう。

亡者の服を剥ぎ取る、美しさを求めた地獄の妖怪

80′



地獄の入り口で亡者から服を剥ぎ枝にかけ、罪の重さを測る妖怪。本来の仕事を放って美しい娘になろうと人間の男をさらい、魂を取り込んで若返ろうとした。第39話。第110話では、ぬらりひょんに召喚され、鬼太郎の衣服をだまし取ったが、地蔵菩薩に滅ぼされた。

能力◎万有自在玉で鬼を操り、地獄の番犬を呼び出す。

最期◎閻魔大王に罪を裁かれ、人間界に落とされた。

原作コミックでは？

地獄の入り口で死人の着物を剥ぐ妖怪。閻魔大王の万有自在玉を持ち出し、この世に来た。「奪衣ばばあ」に登場。

daruma

だるま



【だるま】

もとはインドの王子が日本では妖怪に

仏教の一派である禅宗の開祖・達磨大師がモデル。達磨は修行のため９年壁に向かって座り、それで手足が腐ってしまったといわれる。玩具や縁起物として親しまれている。

60'〜70'



ビルの4階に住みビルを乗っ取ろうとする

だるまの妖怪。とあるビルの４階に住み着き、ビルを乗っ取ろうとする。４にまつわる場所を求め、銭湯の４番ゲタ箱、４を含むトラックのナンバー、４の電話ボックスなどへ移動。鬼太郎にガソリンをかけ、火だるまにした。第59話。70年代・３話

能力◎腹から無数の小だるまを出し、相手を食い殺す。手足を引っ込めて倒れることはない。

最期◎小だるまは、だるまの内臓にあたる。心臓の小だるまを鬼太郎に噛まれ、命乞いしつつ消滅。

80'



自身の内臓でもある小だるまで攻撃

だるまに手足がついていて、顔には髭がある。第8話では、ねずみ男に言われ妖怪相談所を始める。青い小だるまは心臓部分。第26話では野球チームで5番センターを担当。

能力◎おなら攻撃で相手をひるませる。腹から小だるまを出して相手を困らせる。

最後◎鬼太郎に心臓にあたる小だるまを握られ降参した。「おじゃましました」とあいさつして去る。

90'



丸いからだの憎めないやつ

廃ビルの4階に「だるま王国」をつくり、日本中の人間をだるまにしようと企む、気分屋のだるま。ウーマンリブともやしっこが嫌い。下駄や毛針攻撃にも耐えた。第105話

能力◎人間を丸呑みにして、だるまにする。火だるま攻撃や、雪だるま攻撃、小だるまを出すだるま落としという技を持つ。

最後◎小だるまで一斉に鬼太郎を襲うが、心臓部分の小だるまを捕まれ、降服した。

原作コミックでは？

だるまに手足が生えた妖怪。[illegible]問題専門解決[illegible]」を開き、妖怪を呼び寄せた。「だるま」に登場。

danzaburodanuki

団三郎狸



【だんざぶろうだぬき】

困った人には金も貸す「団三郎狢」

新潟県の佐渡では、タヌキのことを狢と言い、「団三郎狢」というタヌキがいる。佐渡の狢の大将で、木の葉で買い物したり、人に化けたりしたらしい。困った者には金を貸すこともある。

60'



鉢巻きがトレードマーク。一反もめんはマフラーに

日本をタヌキの国にしようと企てる、刑部狸率いる八百八狸のひとり。250年前、天海聖人により四国の狸山に封じられていたが、工事の影響でお札がはがれ再び目覚める。八百八狸のなかでは行動隊長的な役回りが多く、つねに前線に赴いている。また、お富狸と行動をともにすることも多かった。第21、22話

能力◎力技が得意で、こん棒を携帯して相手をタコ殴りにする。

最期◎一反もめんを倒したと思いマフラーにして、封印される前に絞め殺されてしまう。

80'



行動隊長的な役割の「団十郎狸」

「団十郎狸」として登場。八百八狸のひとりで、鉢巻きが特徴だ。乱暴な性格をしており、つねに前線で鬼太郎たちと対峙していた。一反もめんをふんどしにした。第56、57話

能力◎これといった特殊能力はないが、こん棒で鬼太郎を殴りつけるなどの力技が得意だ。

最期◎２匹の妖怪獣を鬼太郎に倒され、観念した刑部狸たちと再び洞窟に封印される。

90'



名前は単純に「鉢巻」だった!?

四国から蘇った、八百八狸のひとり。狸王国設立の暁には、建設大臣になる予定だった。捕らえた一反もめんをふんどし代わりにして、結局締め付けられて気絶してしまう。シナリオでは「鉢巻」という名で書かれている。第110、111話

能力◎こん棒で相手を殴りつける、パワーファイター。

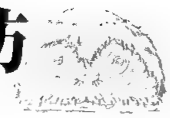
最期◎目玉おやじが用意した、念が込められた護符によって、再び封じ込められてしまう。

原作コミックでは？

団三郎狸として「妖怪獣」に登場した。捕らえた一反もめんをふんどしに[illegible]される前に首を絞められて絶命している。

tantanbou

たんたん坊



【たんたんぼう】

『小夜時雨』の中の「古狸人を驚かすモノ」

水木しげるによる『日本妖怪大全』などに掲載された「大かむろ」がベースと思われる。もとは『小夜時雨』にある「古狸人を驚かす」ものといわれている。

80′



人間を妖怪にしようとした、妖怪城のボス的存在

自分たちの存在を認めず、思いあがった人間たちを妖怪にしようと企む、巨大な頭だけの妖怪。かまいたち、二口女とともに「妖怪城」を建設する。「人間と妖怪　友好盆踊り大会」にも参加。第1、86、91、108話、劇「最強妖怪」

能力◎口から唾液を発射。それを受けると、全身が石になってしまう。巨体を使った押しつぶし。

最期◎砂かけ婆に砂をかけられ視界を失い、鬼太郎のちゃんちゃんこで顔を覆われて、妖怪城とともに沈んでいく。

60′



妖怪全盛期を目指す

入らずの森で冬眠していたが、ねずみ男によって100年の眠りから覚める。妖怪城を根城にし、人間を妖怪にして仲間を増やし、再び妖怪全盛期を作ろうと画策する。第3話

能力◎目から「誘導ミサイルより命中率の確かな」ヤニを飛ばし、相手のありとあらゆる穴を塞ぐ。押しつぶし。

最期◎一緒に蘇った、かまいたち、大口女とともに、妖怪城もろとも封印されてしまう。

90′



夜になると無敵になる

妖怪城に巣くい、夜は無敵になる力を備えた3妖怪のひとり。世界征服の野望を抱く。昼を消滅させるため、人間をさらい妖怪の生け贄に改造する。第66、67話、「風雲！妖怪城」

能力◎口からピンクの唾液を吐く。体に張り付くと、すべての穴を覆う。巨大な顔で上から押しつぶす。

最期◎城の崩壊と同時に封印された。ちなみに、1000年前は尾泥神社のしめ縄で封印され、小さな石にされていた。

原作コミックでは？

アニメのベースになった「妖怪城」のほかに、80年代の第86話の原作「再生妖怪軍団の反撃！」の巻」などにも登場している。

chî

チー



【ちー】

70′



人間に復讐するため、妖怪を反物に変えてしまう

気のいい妖怪を装って妖怪たちに近づき、次々と「妖怪反物」を製作。その反物で作った衣服を着た人間を操り、世界を支配しようと暗躍する中国の妖怪。鬼太郎や、砂かけ婆もこの術で反物にされてしまう。計画が明るみに出た後は、中国妖怪たちを指揮して日本の妖怪連合軍と激突。絵に描いた妖怪を実体化させる術で複数の「妖怪獣」を呼び出し、日本妖怪を迎え撃つ。その正体は九尾の狐の弟で、姉を殺した人間への復讐が本来の目的だった。鬼太郎たちの攻撃を受けピンチになり、本来の姿を現して鬼太郎たちに立ち向かう。井戸仙人が正体を看破していることから、中国時代の知り合いのようだ。第2話

能力◎赤い丸薬を飲ませ、妖怪染色剤をかけて妖怪を反物にする。それを着た人間たちを意のままに操る。白い息を吹きかけて、相手をしびれさせる。

80′



中国妖怪を指揮し、日本妖怪たちと戦う

昔、武将に殺された姉の敵を討つため、日本妖怪と人間を支配しようと企む。中国妖怪を指揮し、日本妖怪軍と対決した。透明な布を使い、姿を消すこともできる。劇「最強妖怪」

能力◎妖怪に丸薬を食べさせ、口から赤い煙を吐いて反物にしてしまう。粉を振り掛けると反物に柄が付く「布の術」。透明な布で姿を消し、その布で毛針をかわす。紙の精を使って、紙に描いた妖神を呼び出す。

90′



催眠術やカンフーも使う

中国の妖怪。日本の妖怪を手下にして、世界を自分の天下にして王国を作ろうとした。九尾の狐という、中国から日本に逃れてきた妖怪の弟だと井戸仙人が見破る。第79、80話

能力◎催眠術で妖怪を眠らせて、干し苺を食べさせて反物にしてしまう。その反物から作った服を着た人間は、すべてチーの配下に下る。また、カンフーを使った肉弾戦もこなし、日本妖怪に立ち向かった。

原作コミックでは？

相手に幻覚を見せるバラ色の気体を吐く。姉の九尾の狐が日本に渡ったのは七百年前らしい。井戸仙人に正体を見破られる。「妖怪反物」

chihoukou

地ほうこう

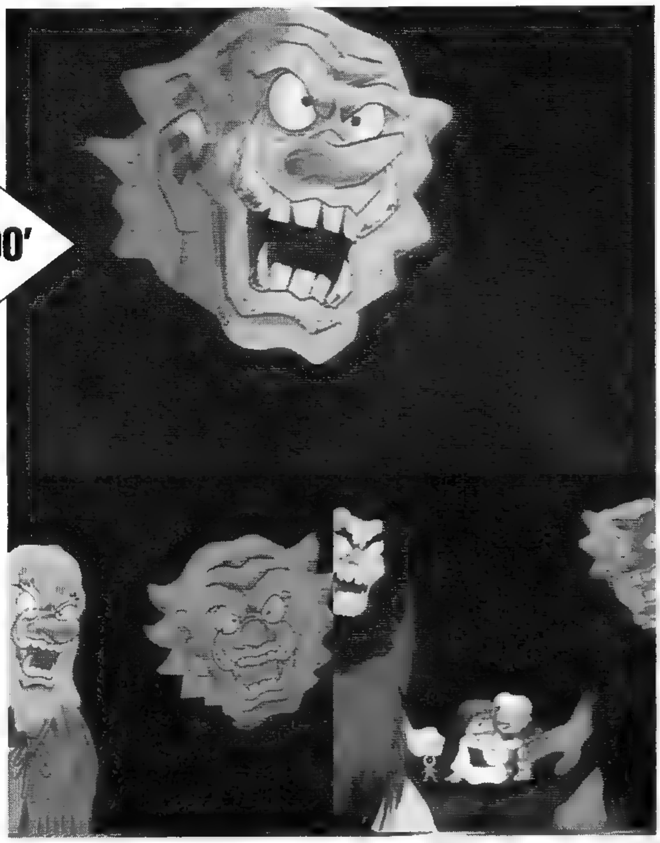


【ちほうこう】

４人に分裂しない動物タイプのほうこう

ほうこうは四足のライオンのような姿で、鳥山石燕の『今昔鬼拾遺』なかにも描かれている妖怪だが、アニメのように地水火風のほうこうに分裂することはないようだ。

90′



土や砂に変化する、ほうこうが分裂したひとり

砂かけ婆のつぼに吸い込まれたほうこうが４人に分裂したうちのひとり。地、水、火、風ほうこうとなって鬼太郎を襲う。「地」に関する術を数多く操り、地中を移動することもできる。妖怪塩で溶かされた鬼太郎が復活した後、最初にちゃんちゃんこの洗礼を受けて、いつまでも地面に倒れてもがいていた。第41話

能力◎手の平から砂を出し、砂かけ婆と子泣き爺に浴びせる。砂や土に変化することが可能で、地中をすばやく移動。

最期◎鬼太郎を押さえつけたものの、風ほうこうに投げつけられ無に帰す。

60′



分裂したほうこうのリーダー？

ねずみ男に、家に火を付けられて漬物を台無しにされ、激怒したほうこうが分裂。水、火、風ほうこうたちとともに、鬼太郎を襲った。怪力を武器に鬼太郎に組みかかり、いとも簡単にほうり投げた。最期は、風ほうこうを投げつけられ、無に帰す。接触しそうになった火ほうこうと水ほうこうを見て、「気をつけろ！　火と水がぶつかったらそれまでだぞ」と注意していることからも、リーダー的な役割なのかもしれない。第65話

原作コミックでは？

「ほうこう」に登場。砂などに変化し、鬼太郎の術もなかなか効かなかった。アニメよりは若干活躍しているようにも見える。

chimi

地魅

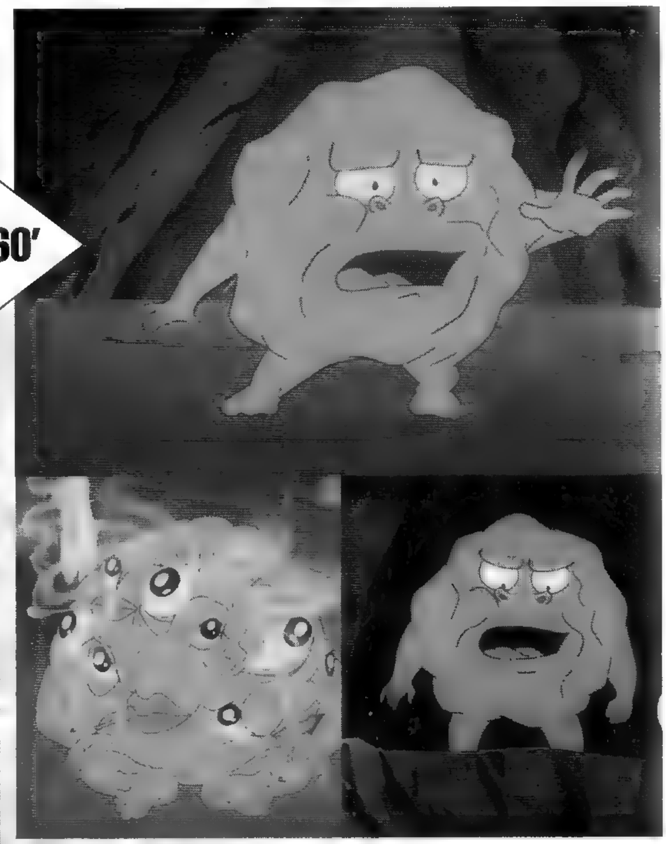


【ちみ】

虎と猪を現す、山の神様と沢の神様

“地”ではなく“魑”は、山林の瘴気から生じた怪物といわれ、人を迷わせることがあるという。また“魑”は虎の形をした山神“魅”は猪頭の沢神を表すともいわれている。

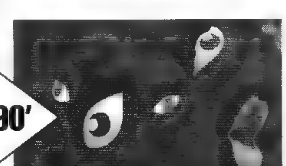
60′



妖怪たちも指示に従う、妖怪対人間の野球試合の審判

妖怪チーム対人間チームで行われた、野球試合の審判を務めた妖怪。鬼太郎から「地魅さん」と呼ばれるように、妖怪たちのリーダー的な存在のようだ。一方的に人間から「妖怪バット」を奪おうとした「牙ぐるい」と、野球の試合で取り返そうとする鬼太郎が激突。ちゃんちゃんこで牙ぐるいを押さえつけた鬼太郎の勝利を認め、野球試合を決行した。シナリオでは、オネエ言葉を話す設定だった。第１話。また第７話には、原作に近いスタイルの地魅が登場する。ねずみ男が開催した「妖怪ショー」に参加し、控え室であぐらをかきながらキセルをふかしていた。

90′



オネエ言葉をしゃべる「球妖怪」

シナリオでは「球妖怪」となっている。「妖怪バット」をめぐって行われた、妖怪チーム対少年野球チーム・バトラーズの審判。目と口がたくさん付いた肉の塊のような姿をしている巨大な妖怪。なぜか“オネエ”言葉でしゃべる。同じ妖怪仲間だからといってヒイキすることなく、公平に審判を行っていた。勝負がつき、明け方になると、帰っていく。劇「おばけナイター」

原作コミックでは？

「おばけナイター」に登場する地魅は、90年代版や60年代版・第7話のタイプと酷似。60年代の審判はＴＶオリジナルのデザイン。

chimimouryou

魑魅魍魎

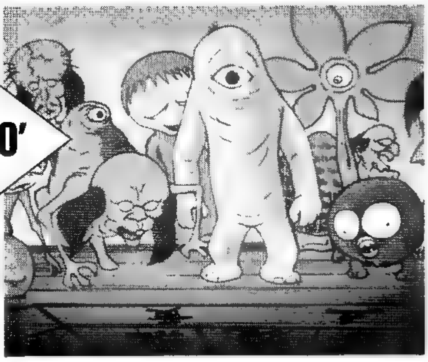
【ちみもうりょう】

すべての妖怪たちをまとめた呼び名

妖怪や物の怪などの総称名。『和漢三才図会』によれば、魑魅を山の神、魍魎を水神としている。また、中国に伝わる妖怪・魍魎と、水沢の神・魑魅が合わさったものという説もある。

死人にとり憑き、集団で現れる妖怪たち

70′



さまざまなタイプが存在する、死人にとり憑いて人間を襲う妖怪。八角円に入ると、魑魅魍魎たちから中の者の姿は見えないが、「土精」と呼ばれる魑魅魍魎には姿が見える。第6話。また、第37話には「魑魅魍魎の世界」が登場。

最期◎八角円に入った鬼太郎の誘いにのり、朝までお堂に閉じ込められ、弱点である朝日を浴びてしまう。すべての魑魅魍魎がミイラ化してしまった。(第6話)

原作コミックでは？

鬼太郎以外の水木作品「死人つき」と「異形の者」に登場。「異形の者」の中では、[illegible]と呼ばれていた。

choukouzetsu

長広舌



【ちょうこうぜつ】

60′



人間対妖怪の野球試合でホームランを打つ

「妖怪バット」と命を懸けた、人間VS.妖怪の野球試合で、妖怪チームのショートを担当。長い舌が特徴的な妖怪だ。手ぶらでボックスに入り、「あんさんとこのピッチャー、ガタガタしとるがな」と関西弁で人間たちを挑発。その舌をバット代わりにスイングして、見事ホームランを打った。試合の終盤には、ニワトリの声に朝が来たと勘違いし逃げていった。第1話

原作コミックでは？

TVアニメオリジナルの妖怪。

chainadoushi

茶伊那道士

【ちゃいなどうし】

90′



中国の妖怪「刑天」を、唯一倒すことのできる仙人

中国からやって来た仙人。妖怪・刑天を封印するための護符を唯一作ることができる。日本で復活した刑天を追って来日。護符を作って刑天に挑むが、返り討ちにあって石にされてしまう。しかし、護符の中で意識体となり、鬼太郎のもとへ飛び、見事に刑天を倒すことに成功する。肉体は失ったが、護符を使ってミイラ化した刑天とともに中国へ帰っていく。第102話

原作コミックでは？

TVアニメオリジナルの妖怪。

chouchinobake

提灯お化け



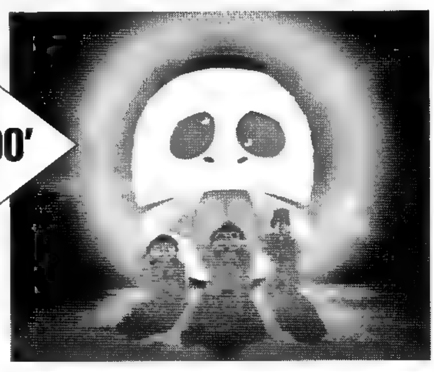
【ちょうちんおばけ】

昔話には頻繁に登場するが？

昔から、妖怪の本やお化けカルタなどで目にする機会が多い提灯お化けだが、はっきりとした伝承や伝説などは残されていない。子ども向けに創作された妖怪だと思われる。

巨大な姿で現れ、人間を驚かす物の怪

90′



納戸婆から茶碗を奪った、欲の深い人間を懲らしめようと立てた鬼太郎の計画に参加。倉ぼっこの家の家捜しを始めた人間たちの前に、妖怪たちが次々と現れる。天井なめが顔をなめ、クネユスリが家を揺らし、そして外に放り出された人間たち。その眼前に、巨大な提灯お化けが出現目を開き、ベロを出して人間たちを驚かした。第13、87話。また、第3部・84話には、口から炎を噴く「破れ提灯」が登場している

原作コミックでは？

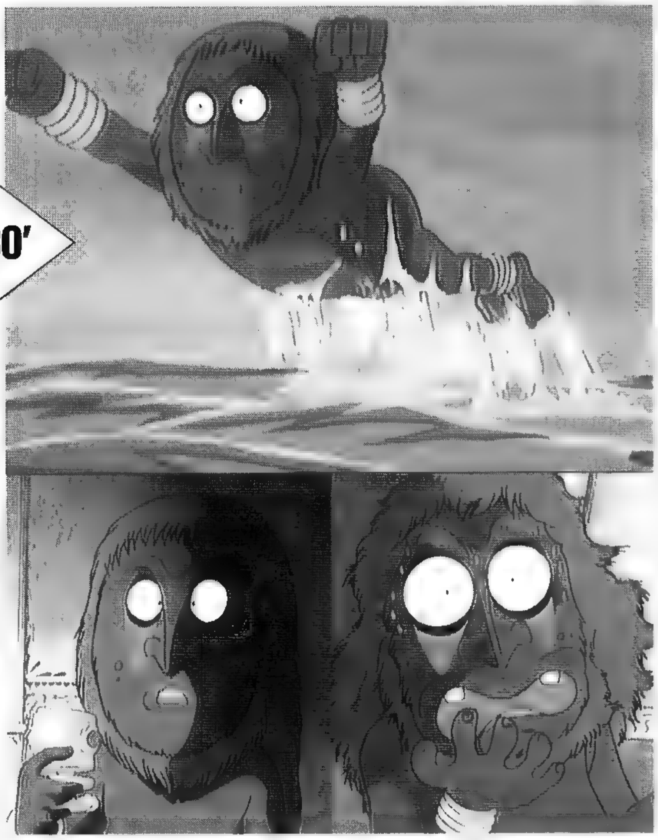
原作には登場しない妖怪。

chinpo

チンポ 

【ちんぽ】

80′



日本における妖怪の地位向上のために鬼太郎を襲う

3つの男性性器を持つ南方妖怪。南方妖怪たちの首領格であり、妖怪は人間の上に立つべきだ、という思想を持っている。アカマタ、やし落としらと日本妖怪の地位向上のため来日。ぬらりひょんと手を組み、計画にじゃまな鬼太郎を亡き者にしようと企む。鬼太郎ファミリーの攻撃でアカマタたちが不利になると、切り札として巨大な妖怪・蛟竜を差し向ける。実際の戦闘はアカマタたちが行い、チンポ自身はぬらりひょんとともに、遠征に使用した船の中で酒を酌み交わしていただけ。クライマックスである船上での戦闘でも、ねずみ男の悪臭にむせて何もできなかった。劇「ゲゲゲの鬼太郎」

能力◎三連のチンポから燃料を噴射して空を飛ぶことができる。特殊な攻撃方法は持っていないようだ。

最後◎南方妖怪の切り札・蛟竜が船に激突し、脱出したボートも岩に激突。三連チンポ噴射で国に帰っていった。

90′



3つの性器から連射して攻撃

バルル島に住む、南方妖怪。「生命の水」を求めてジャングルを荒らす日本人に怒る。探索に来た鬼太郎を大海獣にして日本へ送り、アカマタらと、日本に来襲した。劇「大海獣」

能力◎自由自在に空を飛行可能。3つの性器からマシンガンのように砲撃して、相手を攻撃する。

最後◎股間にリモコン下駄の攻撃を受けて悶絶。アカマタたちとともに、南方に帰っていった。

原作コミックでは？

「妖怪七人の侍」「ドラキュラ親分」に登場。[illegible]も飛ぶことができる。ドラキュラに[illegible]

tsukime

月女 

【つきめ】

90′



夜なお明るい現代、月への関心が薄れたことを嘆く

月を愛でる日本人の心に応えるために、月からやってきた月の使い。地球では800年以上は生きられず、満月の夜に桂男の飛ばす船でのみ、月へ帰ることができる。その夜を逃すと、霧となって消えてしまう。街中で暴れる桂男を説得する。第93話

能力◎月が明るく輝いて見えるようにする。

最後◎桂男が飛ばす月の光を集めた船に乗り、月へ帰っていく

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。桂男が出てくる「月の妖怪・桂男」にも、月女は登場しない。

tsujigami

辻神

【つじがみ】

「神」はつくが、「魔」として扱われる

鹿児島県屋久島では、丁字路の突き当たりの家に入り込み、家の者を病気にさせたり不幸にするといわれる。兵庫県淡路島にも伝わり、『綜合日本民俗語彙』『民間信仰辞典』に見られる。

一反もめんと、空飛ぶ乗り物対決！

80′



ぬらりひょんの空飛ぶ乗り物として登場する。一瞬、一反もめんと見間違えるほど似ている。「地獄編」の最後で、朱の盆が乗った一反もめんに絡みつかれ、締めつけられる。第115話　劇「異次元」では妖怪皇帝に呼ばれて登場。妖怪皇帝を乗せて空を飛ぶ。

能力◎人を乗せて、縦横無尽に飛び回る。

最期◎ぬるり坊の投げた石が当たり、地獄のマグマに落ちる。

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

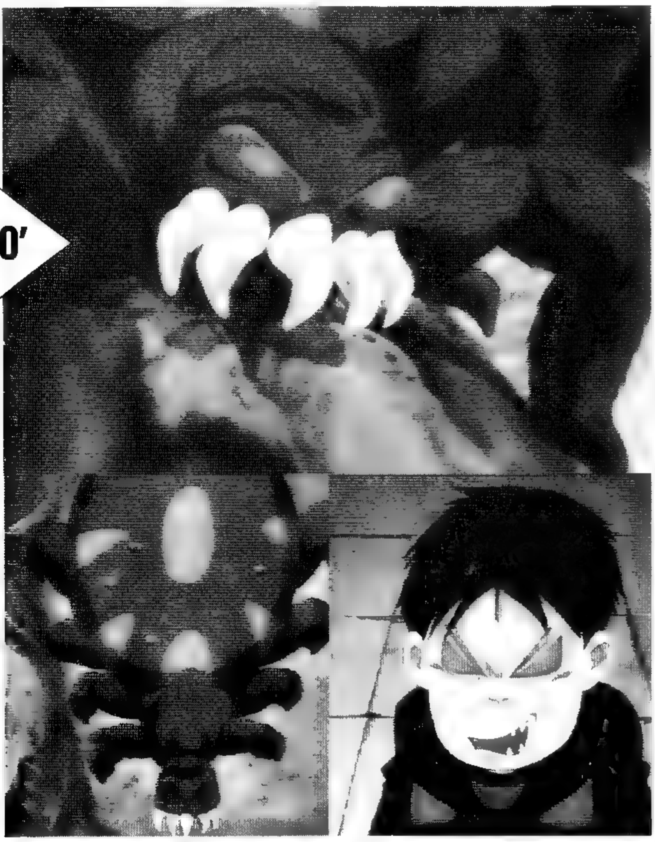
tsuchigumo

土蜘蛛【つちぐも】

源頼光の説話で“妖怪”の地位を確立

古くは、『古事記』『日本書紀』や各地の風土記に登場し、朝廷に従わない先住民の事をさした。中世になり、『平家物語』に登場して源頼光に怪しい術を使う蜘蛛の妖怪として広く知られた。

90′



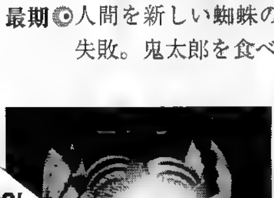
黒と赤の巨体で糸を吐きながら人を追いかける

大人４人分ぐらいの大きさの、糸を自由に操る巨大な蜘蛛。“蜘蛛の巣山”に糸を張り巡らして住んでいる。800年使った体を乗り換えようと、少年に化けて４人の人間を綿菓子状の糸に絡めとった。さらに金塊と混ぜ、最強の新しい体を作ろうとした。鬼太郎との戦いの後、住みかにしていた山は崩れた。第85、106話

能力◎口から糸の網を出し、相手を捕らえる。糸の玉を吐いて相手を包み込み、妖気を吸う。人間に化ける。

最期◎人間を新しい蜘蛛の体に仕立て、乗り換えようとしたが失敗。鬼太郎を食べ、体の中から攻撃されて消滅した。

80′



土蜘蛛をも怯ませる屁の威力

東京を襲った怪気象の中に現れ、東京を壊滅状態に向かわせようとした妖怪軍団のひとり。東京の地下鉄に現れ、ねずみ男とユメコの乗った電車を襲う。ねずみ男とユメコはこの地下鉄内でぐわごぜの娘・カロリーヌを見つけ、保護しながら逃げることになる。土蜘蛛はそれを追い、ねずみ男のぶちかました屁をくらって悶絶していた。劇「異次元」

最期◎国会議事堂に現れ、野づちに食べられてしまった。

原作コミックでは？

「霊界大決戦」の巻」に登場。霊界かくれんぼで岩穴に入ってきた鬼太郎たちに、問答無用で襲いかかってくる。

tsuchikorobi

土ころび【つちころび】

読み方は同じ、「槌転び」

鳥取県東伯郡小鹿村中津では「槌転び」と書き、槌の形をした怪蛇とされる。足元に転がってきて、噛み付く。『妖怪談義』『妖怪名彙』では、九州の一部に伝わり、小豆洗いの正体とされる。

90′



ほこらを粗末にし、電気を浪費をする人間に失望

元々は山にいて、旅人を驚かせて喜ぶ罪のない妖怪。体は滅び、魂がほこらに祀られてダムの底に沈んでいたが、水不足で干上がって外へ。人間が有難みもなく電気を使う姿に憤慨。電気を止め、人間を困らせる。電線から電気を吸い取り巨大化する。第73話

能力◎発電所所長の体に入り込み、街を荒らして停電させる。物を吸い取り、自分のエネルギーにして巨大化する。

最期◎鬼太郎に妖力を送り込まれて、体が膨張して爆発。町に明かりが戻り、魂はほこらへ帰っていった。

70′



工場の廃液で細胞が成長

ガソリンや電力などエネルギーを食べる妖怪。タンクローリーを襲い、また山乃旅館で電力を食べ停電させた。絶滅したとされていたが、細胞は川の底で生きていた。第11話

能力◎口から火炎を吐き、火傷を負わせる。飲み込んでエネルギーを吸う。ネコ娘のエネルギーを吸い、老婆にした。

最期◎鬼太郎を飲み込んだが、口をちゃんちゃんこでふさがれてエネルギーを溜め込まされ、体電池で爆破された。

80′



人間の生活を見守る事をただ願う

自分が祀られていたほこらが、ダムの底に沈められた事に腹をたてている。ねずみ男にそそのかされ、沈んだ村を蘇らせるために、村に来る電気をすべて吸い取った。第38話

能力◎電気を吸い、巨大化する。吸い取った電気を放出する。妖怪エネルギーを電気エネルギーに変える。

最期◎自分の気持ちを理解してもらえた事に納得し、水の底から引き上げたほこらに納まる。

原作コミックでは？

「土ころび」「土転び」に登場。「妖怪大戦争」には、目玉がひとつついた容姿で、多磨霊園に集まった妖怪として登場。

tsuraraonna

つらら女



【つららおんな】

「氷柱女房」がモチーフか？

氷柱を切っていた独身男の元へ美しい女が現れて女房となるが、風呂に入るのを嫌がる。無理に風呂に入れると、姿が消えていた、という「氷柱女房」の昔話が東北や新潟に伝わる。

80′







冷気で鬼太郎の手助けをする、貴重な存在

妖精・コボルトとニクスの集めた、100人分の青い涙の小瓶が割れ、体となり動き出したとき、その「青い涙の塊」を凍らせるために登場。「季節はずれに呼び出されてしんどい」と嘆きながら手先と口から冷気を出し、凍らせた。第84話では「地獄マラソン」に参加。極寒地獄でトップに立ち、灼熱地獄でヘロヘロになる。第94話では、胴体と離れて限界を超えるほどの高熱をもった妖怪・ぬけ首の頭を冷やすために登場。爆発寸前のところを息を吐いて冷やしてあげた。第84、90、94話

能力◎冷たい息を吐き、人や物を凍らせる。巨大な物でも可。

90′



体は冷たいが、温かい仲間のひとり

妖怪島へ向かう道を阻止するブイイとの、氷点下の戦いの助っ人のひとりとして登場。妖怪島では人喰い花に追いかけられ、全力で逃げるが、呑み込まれる。鬼太郎が人喰い花を操っていたジャイアントを倒したことで救われる。仲間とともに鬼太郎に妖力を送り、物を凍らせる力を与えた。鬼太郎たちとともに化け鯨に乗って妖怪島を去る。第98、99話

能力◎どんなに寒くても凍らない。冷気を吐く。

原作コミックでは？

「地獄マラソン」に登場。地獄マラソンに参加。灼熱地獄で溶けてしまった。東北生まれの妖怪のようだ。

tsurubeotoshi

つるべ落とし



【つるべおとし】

人を木に引っ張りあげて食べてしまう

京都などに現れる妖怪。突然、木の上から落ちてきて、人を引っ張りあげ食べてしまう。「つるべ下ろし」ともいう。鳥山石燕の『画図百鬼夜行』には火中に顔があるつるべ落としが描かれる。

80′



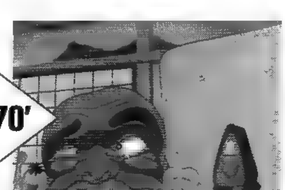




大きな顔が印象的な、鬼太郎の仲間のひとり

鬼太郎の仲間として登場する、大きな顔だけの妖怪。単身、釜鳴りの元へ乗り込んだ鬼太郎の助っ人として登場した。「つるべ落とし〜」と叫びながら、木の上から釜鳴りの上に落下。釜鳴りもその巨体を吸い込めずに、釜から本体を出してしまった。また、赤舌に呑み込まれて「やけに暑いなぁ」ともらしながら、仲間の妖怪たちと石にされたことも。鬼太郎や砂かけ婆、子泣き爺らが出場した「妖怪マラソン」にも参加。コースを跳ねて進んでいたが、「針の山」以降は姿を見せないことから、脱落してしまったようだ。第35、36、84話

70′



砂かけ婆のアパートの住人

妖怪アパートの住人。巨大な顔だけの妖怪で、圧倒的な存在感を残す。が、これといった活躍はしていない。釜鳴りに奪われた鬼太郎の髪の毛を取り返すため、砂かけ婆が妖怪アパートの住人を招集したとき、家賃1ヵ月棒引きを条件に戦闘に加わった。しかし戦地には赴いたものの、子泣き爺らが釜鳴りと激戦を繰り広げているにもかかわらず、傍観するだけだった。最後にはちゃっかりみんなと喜んでいた。第19、25話

原作コミックでは？

「釜鳴り」ほか、「妖怪アパート」の住人として何度も登場。活躍の場に恵まれず、能力などの詳細は不明である。



ティナは、吸血コウモリを見るのじゃ

tsurubebi

つるべ火

【つるべび】

名づけ親は鳥山石燕らしい？

鳥山石燕の『画図百鬼夜行』に描かれた妖怪。村上健司の『日本妖怪大事典』によれば、「『百物語評判』にある"釣瓶下ろし"を、石燕が"釣瓶火"と名づけたようである」と記されている。

60～70'

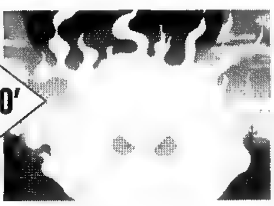


どんな強敵も焼き尽くす、鬼太郎の強い味方

火の妖怪。鬼太郎が呼ぶと現れ、火に弱い妖怪などを焼き払う。強敵との勝負を決めることも多く、鬼太郎の頼れる仲間のひとりだ。また、妖怪自動車のランプになったり、鬼太郎の家を照らすことも多い。第1部の1、39話のみ話していたが、後は口を開くことはなかった。また炎のサイズの小さな「妖怪ランプ」も存在している。こちらは一瞬にして水虎の吐いた液体で消えてしまった。第1部・1、7、20、31、39、41話ほか。第2部・2、6、8、14、19、22話ほか

能力◎口から炎を吐き、相手に火をつける。

80'

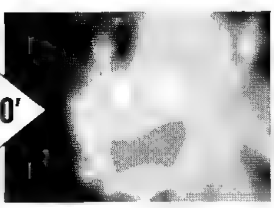


妖怪戦車のライトでも活躍

鬼太郎がオカリナで呼ぶと現れる仲間のひとり。つるべ火、海月の火玉、姥が火、天火、化火で構成された「炎の妖怪五人衆」の一員でもある。周囲を照らしたり、敵に火を放ったりと鬼太郎をサポートする。夜行さんが開発した、妖怪戦車のヘッドライトや、火炎放射器としても活躍する。第35、36、91、94話、劇「ゲゲゲの鬼太郎」「最強妖怪」

能力◎炎の妖怪五人衆は、合体して大きな炎となることも可能。

90'



主な役割は道案内や明かり

鬼太郎の仲間のひとり。他のシーズンと比べて、敵を業火で焼き尽くすというよりも、道案内や周りを照らす役目が多い。雨降り小僧のところへ案内するよう、ねずみ男に呼ばれたり、鬼太郎に呼ばれて空港の滑走路を照らしたりと、ランプとして重宝されていた。しかし、ぶるぶるの冷気に対して炎の力で対抗し、姑獲鳥の羽に火をつけとどめを刺して「姑獲鳥石」に戻す活躍も見せる。第15、40、55、73、81、90話

原作コミックでは？

「モウリョウ」「妖怪軍団」「姑獲鳥」「釜なり」などに登場。口から炎を噴くようになったのは、「新編ゲゲゲの鬼太郎」のシリーズから。

tesso

鉄鼠

【てっそ】

約束を破られた僧が死後変化した

鳥山石燕の『画図百鬼夜行』に描かれた妖怪。天皇に皇子誕生の祈祷を命じられた僧が、約束を果たしたにもかかわらず褒美をもらえなかったため、死んで大鼠へ変化して暴れまわった。

五徳猫との結婚を願う、地獄で暮らすネズミ妖怪

80'



地獄で、ぬらりひょんの手下として働いているネズミの妖怪。鬼太郎を倒し、猫の妖怪・五徳猫と盛大な結婚式をあげようとしていた。"ねずみ男の叔父"としてねずみ男の前に現れ、結婚式の付き添い役を頼む。第112話

能力◎鉄よりも硬い体を持ち、ある程度の攻撃をはね返すことができる。

最後◎頭に生えた角を折られて猫の習性を取り戻した五徳猫と争いになり、永遠にケンカし続ける。

原作コミックでは？

「世紀の妖怪[illegible]」「鼠子の[illegible]」に登場。五徳猫とは夫婦で、鼠子を利用し金儲けを企[illegible]い主のようになる。

tenagaashinaga

手長足長

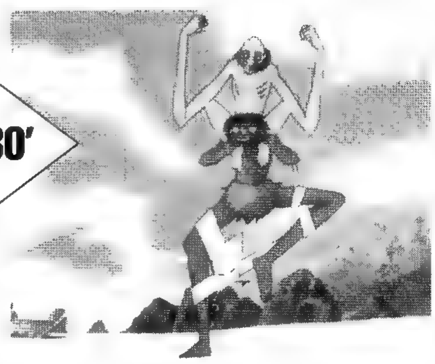
【てながあしなが】

清少納言の『枕草子』にもその名が登場

秋田などに伝わる巨人の妖怪。海で船を襲ったり、里に下りて悪さをしたりする。また、清少納言の『枕草子』にも天皇の長寿を願う神仙として、「清涼殿」に描かれていたと記されている。

タコへ復讐を誓う、足長の上に手長が乗った妖怪

80'



足長という力の強い妖怪が、手長という妖術使いを肩車しているコンビ妖怪。300年前、大ダコによって壺に封じられ、石塚に奉納されていた。しかし、建設工事で石塚が取り壊されて復活。タコたちへ復讐を始める。第81話

能力◎手長の妖術で、タコの頭を犬猫に変えたり、目玉おやじたちの体をタコのようにする。足長の強力な足蹴り。

最期◎「妖素」を中和させる力を持つ要石を掴み液体となった。

原作コミックでは？

「手長足長」に登場。原作と同じ内容で、デザインも変わらない。ちなみに、原作で頭をタコに変えられたのは目玉おやじだけ。

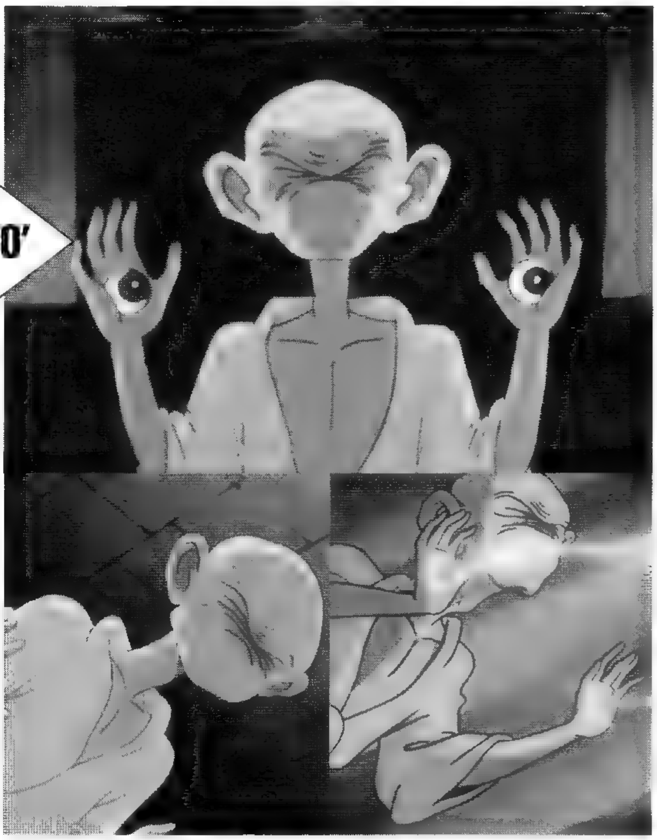
tenome

手の目【てのめ】

手のひらに目がある座頭姿の妖怪

鳥山石燕の『画図百鬼夜行』に描かれている。座頭（盲目の坊主）の手のひらに目がついた姿をしている。京都七条河原の墓所に、肝試し目的で入ってきた若者を襲ったという。

80′



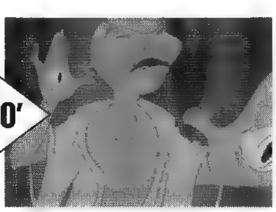
手に付いた目から光線を出して鬼太郎を攻撃

のっぺらぼうで、手のひらに目玉が付いた妖怪。白い着物を着た坊主の姿。不老長寿の泉がある山の洞窟に住んでいたが、人間が餓鬼とともに自分をそこに閉じ込めて封印したことに腹をたて、封印が解かれた後に、餓鬼たちに人間を襲わせる。もともとは人間たちを驚かせるだけで悪さはしない。第32、77、91話

能力◎手に付いた目から光線を出し相手をしびれさせる。手から目玉を離すことができ、目玉が空中を飛んで攻撃する。

最期◎鬼太郎が顔面に入れた蹴りによって後方に飛ばされ、木にぶつかって倒れる。その後、洞窟に再び封印される。

60′



人間の手を意のままに操る

白い着物を着た盲目の坊主姿で、手のひらに目玉がついている。あばら家に住んでおり、人間に目から光線を浴びせて思うままに操る。少年を操り銀行強盗をさせた。第37話

能力◎手にある目から光線を放ち、浴びた者の手の細胞を変化させ意のままに操る。目玉を飛ばして相手の目に付ける。

最期◎砂かけ婆の砂で視力を失い、髪の毛針を浴びて妖力が使えなくなった。銀行強盗容疑で留置所へ入れられる。

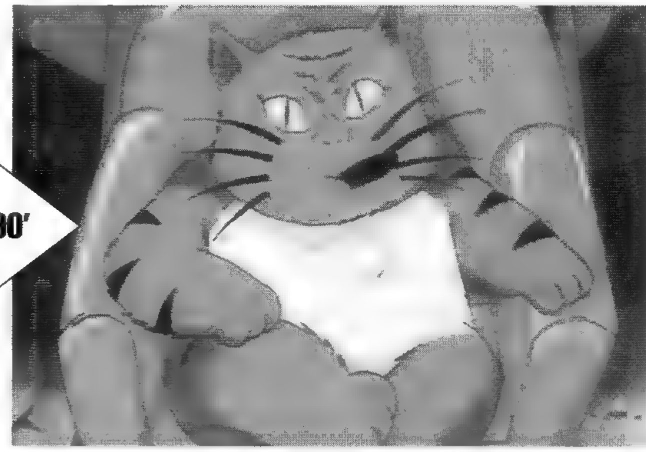
原作コミックでは？

「[illegible]」「[illegible]」「手の目」「妖怪大裁判」に登場。やはり手に目があり、火を操る。

debuneko

デブ猫【でぶねこ】

90′



人間界と猫町をつなぐ建物の中で猫町行きの切符を発行

猫町に続く地下通路の入り口で、猫町切符を発行している太ったネコの化け物。鬼太郎の3倍くらいはありそうな大きい図体で、トラ柄。ピンク色のソファに腰掛け、葉巻をくわえている見てくれどおり、堂々としたしゃべり方をする。地上から続く洞窟を歩いて行った先に、鉄でできたネコの顔の形をした建物があり、その中で巨大コンピュータを自在に操る。第28話

原作コミックでは？

「猫町切符」に登場。作品に直接は登場せず、この切符を手配する[illegible]デブ猫（名称はなし）が猫町の[illegible]存在として描かれている。

tenka

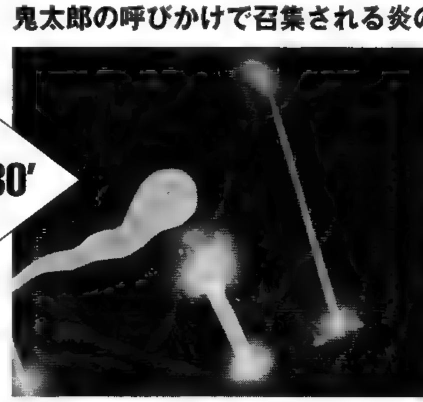
天火【てんか】

夜間や夕方に空を飛ぶ明るい怪火

愛知県や岐阜県などで伝承される、怪火のこと。愛知県では夜間に辺りが昼間のように明るくなるもの。岐阜県では夏の夕方に、音を立てながら不意に空を飛ぶといわれている。

鬼太郎の呼びかけで召集される炎の妖怪の中のひとり

80′



「炎の妖怪五人衆」のひとり。青くて大きな火の玉。悪い妖怪ではなく、たいていは敵をやっつけるために鬼太郎が召集する「炎の妖怪」のなかのひとりとして登場する。第35話では、ほかの炎の妖怪4人とともに、赤舌の腹に入って赤舌を熱した。第91話では、ヒー族と戦うためのひとりとして集められた。第35、91、94話、劇「最強妖怪」

能力◎ただ燃えて飛ぶのみ。敵を熱したりするときに能力発揮。

原作コミックでは？

「地獄の散歩道」に登場。[illegible]で行われたすき焼き[illegible]に参加した妖怪の中で、とくに説明はなく名前だけ紹介された。



電気妖怪は、カミナリを見るのじゃ

tengu
天狗
【てんぐ】

正反対のいわれをもつ中国産の天狗

『山海経』によれば、「てんこう」と呼ぶらしい。この書ではタヌキのような白い首の「凶を防ぐ獣」であると考えられ、また別の書によれば「災いの前兆」とも伝えられている。

80′

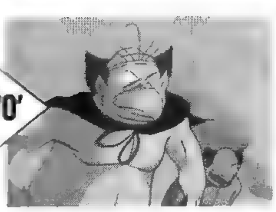


チーの傍らにいて妖怪たちを反物にする手伝いをする

チーが指揮する中国妖怪のひとり。赤い顔をしてくちばしのようなとがった口を持つ。妖犬とともにチーの一番の手下で、いつもチーの傍らにいる。これといった能力はなく、二股の矛を持ちながらも日本妖怪と中国妖怪の戦いにも交じらない。唯一、ねずみ男に反物をすべて盗まれ、怒ったチーに命じられてねずみ男を追いかけることをするくらい。劇「最強妖怪」

最期◎ねずみ男を追いかけている途中にネコ娘の蹴りにあい、倒れたところを子泣き爺に乗っかられて消滅する。

70′



二尾の狐が化けて天狗に

中国妖怪チーに仕える妖怪。青い顔にくちばしのような長い口をしている。上半身裸で下半身に腰巻を着け、マントを羽織っている。尻尾が9つに分かれた九尾の狐（チー）と同じような尻尾が2つに分かれた狐の化けた姿。とくにこれといった能力は持っておらず、戦いにも参加しない。第2話

最期◎鬼太郎たちを追いかけたときに、鬼太郎に攻撃される。髪の毛針が腹に突き刺さり、倒れると狐の姿に戻った。

90′



チーに仕える中国妖怪のひとり

中国妖怪チーの手下。妖犬、山魈とともに、3人でチーに仕える。黄色い顔に黒いくちばしを持っているとくに能力はないが、ネコ娘たちと戦うときにチーに妖力を与えられてパワーアップ。持っていた団扇で傘化けをはたき飛ばす。正体は、チーが紙魔法で作った妖怪だった。第79、80話

最期◎紙魔法で作られた妖怪なので、火に弱い。妖怪自動車の火で攻撃されて逃げる姿を見て、チーに消される。

原作コミックでは？

「妖怪反物」に、名前こそ登場しないが天狗と思われる妖怪が登場。完全にチーの部下ではなく、妖犬同様に同等の立場のようだ。

tengupolice
天狗ポリス
【てんぐぽりす】

修験者の守り神である山に住む精霊

半人半鳥の妖怪で、鳶（とんび）のような顔と姿をしている「カラス天狗」。現代では、赤面鼻高の大天狗の配下に置かれていると解釈されることがある。和歌山県の熊野神社の守り神として祀られている。

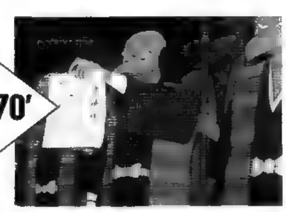
80′



濡れ衣を着せられた鬼太郎を逮捕しに来た「妖怪ポリス」

「妖怪ポリス」として罪を犯した妖怪を捕まえる仕事をしている、カラス天狗の集団。青い顔にとがった口をしており、背中に羽根がついていて飛べる。妖怪パーティを撮影して人間たちに映画として見せた罪で、鬼太郎をつかまえに来る。桜の大紋がついた印籠を持っており、これが警察手帳のような役割をし、蛇の手錠を鬼太郎の手にかけ、妖怪裁判場へ鬼太郎を連れて行った。裁判長である大天狗に従い、処刑場を抜け出した鬼太郎の代わりに、大天狗の命を受けて目玉おやじを処刑しようとする。第32話

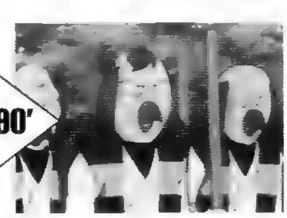
70′



妖怪界の戒律を守らせる存在

カラス天狗の集団で、「妖怪ポリス」として働く。青い顔にとがったくちばしをしていて羽根があり、そろいの作務衣に半てんを着ている。年に一度行われる「妖怪パーティ」を人間たちに撮影させた罪で、逮捕状を持ち鬼太郎を裁判所へと連れ去った。妖怪裁判で鬼太郎に有罪判決が下ると、処刑をするために処刑場に引き立てていった。事件に加担したねずみ男が閉じ込められた牢屋の門番を行ったりもしている。第3話

90′



鬼太郎を処刑しようとする

「妖怪ポリス」として働くカラス天狗の集団。人間たちに見せてはいけない「大地獄絵図」を、人間界に公開した罪により、鬼太郎をつかまえに来る。白蛇の手錠を鬼太郎の手にかけ、鬼太郎をつかまえて空に飛び去った。妖怪裁判所で裁判長の大天狗に従っており、法廷を守る役割をしたり、処刑を実際に行ったりする。どろどろに溶かされて500年間壷に入れられる刑が下った鬼太郎の刑を執行しようとする。第46、47話

原作コミックでは？

「妖怪大裁判」では、「妖怪ポリス」としてカラス天狗の部隊が登場。アニメ版よりも、よりリアルなデザインとなっている。

tenko

天狐

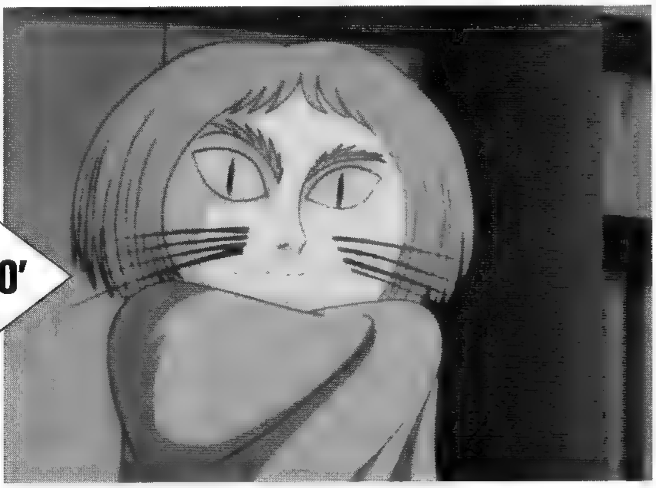


【てんこ】

数多い妖狐のなかでも最高の位をもつ

狐の妖怪である妖狐のなかでも最高位の存在。尻尾が９本に分かれており、容姿はえもいわれぬほど美しいとされる。とくに悪さはしない。狐が1000年生きると天狐になれるといわれる。

80′



鬼太郎に一対一の勝負を挑んだ狐王国のドン

地下にある狐王国のドン。体は狐だがオレンジ色の長い髪の毛を持つ。プライドが高い。「人間が地下鉄の工事をして自分たちの王国を荒らす」と怒って人間たちを人質にとったが、鬼太郎と勝負をして負け、あっさり身を引く。第18話

能力◎手のひらから七色の光を出す。それを鬼太郎の体に巻きつけて動けなくした。動きが俊敏。

最後◎鬼太郎に尻尾を持って振り回され、柱に当たって倒れる。あっさり負けを認め身を引き、別転地へと地下王国を移動。

60′



後光の差す最高峰の妖狐

妖狐のなかで最高峰の存在。普段は姿を現さない。崇高な魂を持っており、後光が差している。妖狐の巣を荒らすと空狐たちが怒って人間を襲ったそのとき「天狐に話をつける」と鬼太郎が妖狐の巣にやってくると、空狐が「俺に勝ったら天狐に会わせてやる」という。負けても人数を増やして戦おうとする空狐を見かねて天狐が登場し「卑怯なことをするな」と諭す。「全国の稲荷神社に油揚げを絶やさないように」と告げて去る。第49話

90′



気高き魂を持った最高位の狐

日本の狐たちのなかで、一番位が高く尊い狐。崇高な魂の持ち主で狐が悪さをしないように見張っている。「自分たちを大切にしない」と怒る空狐を諭し鬼太郎たちに謝る。第72話

能力◎攻撃しようとする空狐の動きを止める。強大な妖力で、地上の建物を地下に沈めたり、地上に戻したりできる。

最後◎空狐が地下に“沈めたデパート”をもとに戻し、人間に頭を下げながら去っていく。

原作コミックでは?

「天狐」に登場。60年代のアニメは原作と同じストーリー&キャラ。地下に王国を構える妖狐族の長で、高潔な精神を持つ。

tenjouname

天井なめ



【てんじょうなめ】

人の見ていないところで天井に染みを

長い舌で天井をなめる妖怪。鳥山石燕の『画図百器徒然袋』に描かれている。家に誰もいないときに天井をなめ、染みをつけるといわれる。人間に見られると天井の穴からさっと逃げる。

80′



舌でカビを全部なめとる、カビが大好物の妖怪

カビが大好物。緑色の体をしていて、舌を長く伸ばせる。悪い妖怪ではなく、鬼太郎たちの仲間として登場した。将棋九段の腕前で、京都のお化け茶屋で子泣き爺と将棋の名人戦を行っているところを、全身カビだらけになったねずみ男の体を綺麗にするために呼ばれる。一反もめんのカビをすべて舐めて綺麗にしたほか、自分の胃液を水で薄めて鬼太郎やねずみ男にかけて、カビを取り去る。第106話

能力◎カビをなめ取る。胃液でカビを消失させることができる。胃液を薄めたエキスで鬼太郎たちについたカビを消した。

90′



舌を伸ばして人間の顔をペロリ

天井に張り付いて、天井をペロペロなめる妖怪。倉ぼっこと納戸婆の住む迷い家を荒らした人間を懲らしめるために鬼太郎が召集した。その人間たちを家に閉じ込め、クネユスリや提灯お化けたちとともに人間を脅かす。天井に張り付いて振り返り、長い舌を伸ばして人間たちの顔をなめた。第87話

能力◎天井に張り付き、天井をなめる。長い舌を伸ばして、下にいた人間たちの顔をなめまわす。

原作コミックでは?

「豆腐小僧」「[illegible]」「死神大名行列」に登場。「豆腐小僧」以外は、ほとんどエキストラのような状態。

tenjousagari

天井さがり
【てんじょうさがり】

天井から逆さまにぶら下がってペロリ

鳥山石燕の『今昔画図続百鬼』に描かれている妖怪で、天井の板の割れ目から上半身を乗り出し、逆さまにぶら下がっている。舌を出して笑ったり、下で寝ている人間の顔をなめる。

天井からぶら下がって人間たちを薄ら笑い

80′



紫色の顔に黄色い目をして舌を出している。顔の周りは黒くて長い髪の毛でおおわれていて、服は着ていない。鬼太郎をバカにした人間を懲らしめるために、鬼太郎たちが用意した幽霊列車に乗り込んでいる妖怪のなかのひとり。濡れ女や唐傘小僧、油すましなどと一緒に人間たちを脅かす。天井からぶら下がり、幽霊列車の窓から逃げようとしている人間たちを薄ら笑いを浮かべながら眺めている。第6話

原作コミックでは？

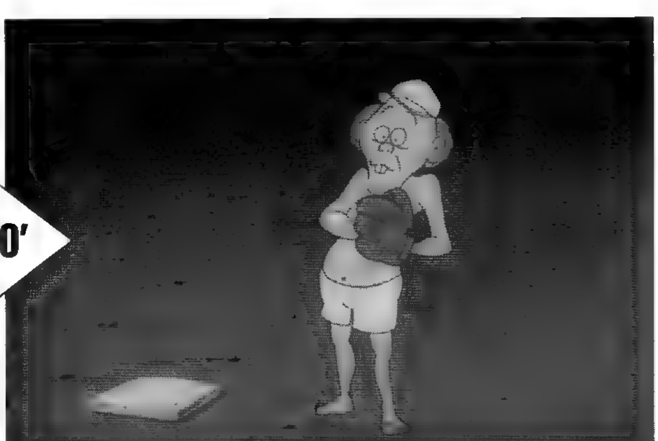
「死神大戦記」に登場。西洋妖怪と戦うために集められた日本妖怪のひとりとして描かれている。

dozaemon

土左ヱ門


【どざえもん】

60′



少年たちと野球の試合をした妖怪チームのサード担当

少年に盗まれた妖怪バットを取り戻すために、鬼太郎が少年たちと妖怪たちの野球の試合をセッティング。そのときに、三塁を守った妖怪。頭のてっぺんがハゲていて前歯が二本飛び出している。野分婆さんがヒットを打つと、喜んで両手を挙げる。ニワトリの鳴き声を聞いて、朝が来たと勘違いして逃げ帰ってしまう。また、ねずみ男主催の妖怪ショーにも出演。第1、7話

原作コミックでは？

TVオリジナルの妖怪。

toufukozou

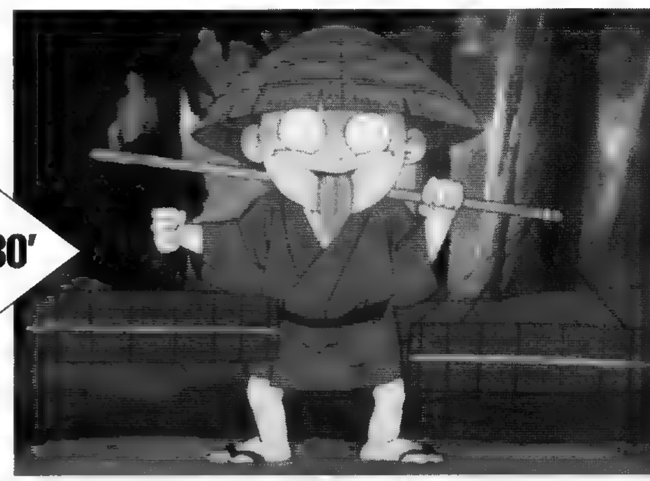
とうふ小僧

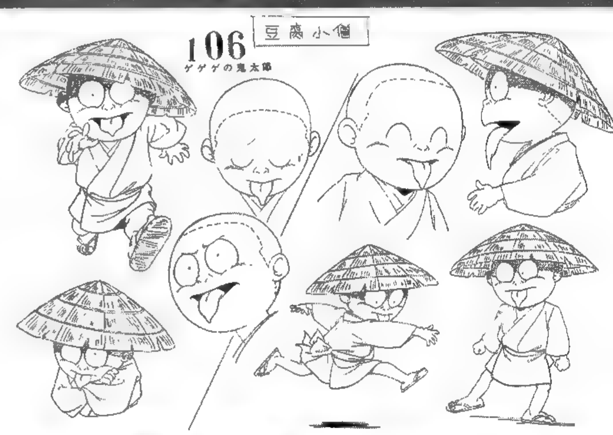

【とうふこぞう】

豆腐を持って歩き回る愛嬌のある小僧妖怪

江戸時代中期の滑稽文学に描かれた妖怪。頭に傘を乗せ、豆腐をのせたお盆を持つ小僧の姿をしている。「臆病で悪さはしない」という説と、「豆腐を食べさせ人間の体をカビだらけにする」という説がある。後者の場合、雨の降る夜に現れてひとり歩きの人間に豆腐を勧め、食べた者をカビだらけにし長患いさせる。

80′







豆腐を山神に差し入れする本当は心優しい性格

目玉が大きくて舌を出している、坊主頭の小僧の姿。手に豆腐を持っており、山神に差し入れをする。普段は気の優しい性格で悪いことはしないが、人間が山の木を勝手に切り、山神が弱ってきたことに怒って人間たちを攻撃する。全身をカビだらけにする薬を豆腐に混ぜ、人間やねずみ男に食べさせた。第106話

能力◎分身の術を使って自分の分身を多数見せる。舌を長く伸ばして相手を絡めとる。豆腐や油揚げを投げつける。

最後◎破れかぶれで鬼太郎に襲い掛かると、簡単に襟首をつかまれて背負い投げされる。木の根にぶつかって降参。

原作コミックでは？

「豆腐小僧」に登場。アニメでは舌が急所だが、原作では手に持つ豆腐が急所。豆腐を攻撃されると消える。

dracula

ドラキュラ
【どらきゅら】

小説から生まれ、超メジャーな吸血鬼の代名詞に

ブラム・ストーカー作『吸血鬼ドラキュラ』に登場する吸血鬼の名称が一般化し、今では吸血鬼＝ドラキュラという認識も強い。モデルは独裁専制君主のワラキア公・ヴラド・ツェペシュ。

60′



西洋妖怪軍団の一員にして吸血妖怪軍団のボス

シルクハットにマント姿の、知的な出で立ちの吸血鬼。第10、11話ではロンドンのパーティ会場を壊され、人間に復讐を誓う。妖怪の国を作ろうと日本の鬼界ヶ島へ上陸。子泣き爺を血を吸って倒した。また、第52話ではドラキュラ博士と呼ばれており、小笠原の母島に眠る吸血妖怪樹に妖怪の血が欲しいと依頼されて世界中から“吸血妖怪軍団”を組織。恐山にある妖怪血液銀行を襲った。大コウモリに変身し、空を飛ぶことができる。コウモリのキバと爪で鬼太郎を襲うが、つるべ火に焼かれ、妖怪樹の上に落ちて炎上してしまった。第10、11、52話

80′



スーパー血液を求めて戦う

劇「妖怪大戦争」では、バックベアードらとともにホウキボシ島に上陸。一反もめんを切り裂き、食事のナプキン代わりに使う。最期には、噴出した水流に流されてしまった。第96話では、医者として妖怪樹の体を診る。南海吸血一族を使って、恐山の妖怪血液銀行を襲わせた。大コウモリに変身して突風を巻き起こすなどの攻撃を有する。最後は弱点の日光と十字架を見せられて逃げ去った。第96話、劇「妖怪大戦争」

原作コミックでは？

アニメの原作となった「妖怪大戦争」「[illegible]」以外にも「鬼太郎のおばけ旅行」シリーズや「ボクは新入生」など多数の作品に登場。

dorotabou

泥田坊

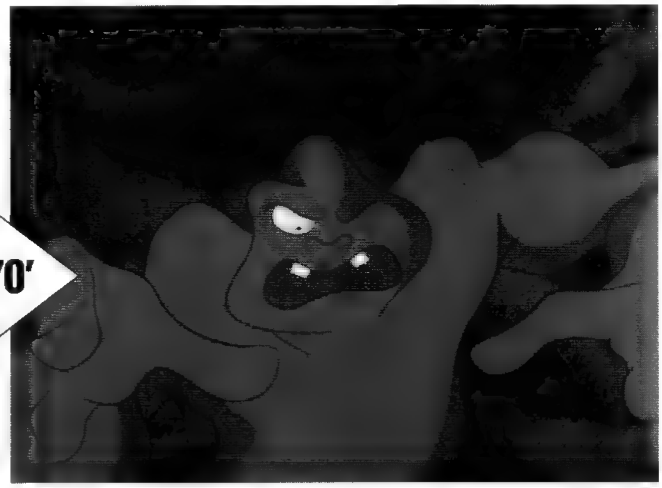


【どろたぼう】

農民の霊が、恨みを言って現れる

鳥山石燕の『今昔百鬼拾遺』に描かれた一つ目の妖怪。農民の息子が、彼の死後に田地を売り払うと農民は妖怪となり、息子と田を買った者に対して、「田を返せ」と恨みを言って現れる。

70′



「田を返せ～」と暴れまわる泥の妖怪

田んぼに住む妖怪。田んぼが減って住みかを追われ、「田を返せ～」と漁村を暴れまわった。ヘドロに移り住み、そこをとおる漁船を襲う。熱に弱く、鬼太郎の体内電池で倒されるが、雨を浴びて復活した。本来は、きわめておとなしい性格。第1話

能力◎口から吐いた泥で相手を固める。水を浴びると、粉々になってもたくさんの小さな泥田坊になり復活する。

最後◎鬼太郎に脳神経を操縦され、学校の田んぼに移住。「農薬を使っていないいい田んぼ」と気に入ったようす。

80′



雨に打たれれば何度でも復活

普段は田んぼに住むおとなしい妖怪だが、住んでいた田んぼが新幹線のためにつぶされ、怒って新幹線を襲う。雨が止み崩れてしまうが、再び雨が降って再生した。第28話

能力◎口から赤い火を吐く。物理的攻撃が効かず、粉々に砕けてしまっても、雨に打たれれば分散した状態で復活。

最後◎鬼太郎に退治され魂となった泥田坊は、山中家の庭に逃げ込む。山中は庭に田んぼを作り、沼田坊を落ち着かせる。

90′



溶けて合体し、さらに巨大化

雨の日に現れる妖怪。地域開発で田んぼがなくなることに怒り、人間たちに襲いかかった。消防車の散水に一度は溶けるが、合体して巨大化する。本来は田んぼを守る妖怪。第22話

能力◎口から泥を吐き、その泥で鬼太郎をつぶした。水を吸収するとパワーアップし、巨大化する。

最後◎人間たちが起こした火により乾燥して弱る。人間たちが田んぼを残すことにしたので、田んぼへ帰っていく。

原作コミックでは？

水田を取り上げられた農民たちの霊が妖怪化した「泥田坊」や、「[illegible]」「[illegible]」「鬼太郎夜話」などにも登場。

土精は、ブイイを見るのじゃ

ナマズ神は、大ナマズを見るのじゃ

namahage

なまはげ

【なまはげ】

「泣く子はいねぇがぁ」と家を回る鬼

秋田県男鹿半島に伝わる妖怪。行事としても知られる。起源は、漢の武帝が５匹の鬼たちとともに男鹿に住み着き、まじめに働いたので１月15日だけは村に下りていいといわれたことから。

次々に人の面を変え、その素顔は謎のまま

60′



面使い。手に負えないイタズラ者だが、行き当たりばったりで人を驚かすようなことはしない。なまはげが作った面を被ると、誰でもその面そっくりの顔になることができる。村の六平じいさんに化け、鬼太郎と地元を馬鹿にする片田舎のインテリ・東大助に悪さをした。第63話

能力◎口から火を噴くひょっとことおかめの面で鬼太郎を襲った。

最後◎鬼太郎につり橋を揺らされ、橋に絡まってしまった。

原作コミックでは？

「出現!! 妖怪総大将の巻」に登場。子どもの前に現れて馬鹿にされる。また、デザインが異なるが「野球の巻（野球狂の巻）」にも登場している。

nandobabaa

納戸婆

【なんどばばあ】

「ほー」という奇妙な声を発する

西日本に伝わる妖怪。老婆の姿をしており納戸に住んでいる。とくに悪いことをするわけでもなく、家人が納戸の戸を開けるとさっと床下に隠れる。「ほー」という奇妙な声を発したりする。

見かけは悪いが気のいいボンヤリした妖怪

90′



倉ぼっこととともに迷い家に住む。お歯黒をつけた老婆の姿をした妖怪。容姿は悪いが性格はボーッとしていて悪さはしない。ねずみ男の手引きでやってきた金の亡者・安田社長に「幸せになるお椀をくれ」とねだられ、黄金のお椀を渡す。しかし、安田の手下に殴られ気を失ってしまう。鬼太郎やネコ娘、ぬりかべなどの妖怪たちと結託して安田たちをこらしめる。第87話

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

nekirimushi

根切り虫

【ねきりむし】

80′



妖怪樹の根を切ってしまった変わった虫

小唐笠島に住む、木の根を切ってしまう生き物。過去に大量発生し、ジャングルが全滅しそうになったことがある。第96話では、木を焼かれた妖怪樹が飛ばした種が地面に落ちて発芽。「スーパー血液」を吸いこんで、一つ目で動き回る無数の妖怪樹の芽となってしまったときに登場。鬼太郎の虫寄せ笛で大量に集められ、妖怪樹の根を根こそぎ食い荒らして退治した。第96話

原作コミックでは？

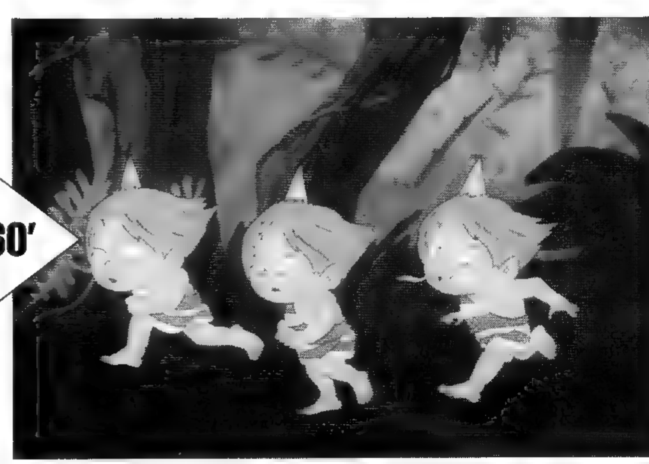
原作でも妖怪樹の芽は、根切り虫にやられてしまう。しかし、根切り虫を集めたのは目玉おやじだった。「血戦！小笠原」

nanpounokooni

南方の小鬼

【なんぽうのこおに】

60′



妖花のある南方のジャングルで鬼太郎たちを襲う

南方のジャングルに住む小鬼。ピグミーやホッテントットに間違われるが別の妖怪らしい。妖花を求めてジャングルを訪れた鬼太郎たちに、突然襲いかかってくるが、妖花の森には近づかずに、いずこかへ去っていった。最後は、妖花の真意を知り帰国する鬼太郎たちに、手を振って別れを告げる。第32話

能力◎集団で襲いかかり、口から矢を放つ。

原作コミックでは？

TVアニメオリジナルの妖怪。

nikusu

ニクス
【にくす】

美しい容姿で人間を惑わす水の妖精

ドイツに伝わる川や湖の中に住む水の妖精。男は緑色の歯に緑色の帽子をかぶっており、女は金髪で美しい容姿をしている。人間を水の中に引っ張り込み、溺れた人間の魂をつぼに入れる。

「人間を幸せにしたい」と思う行動で混乱を招く

80′



妖精の国に住む心優しい妖精。「上級の妖精になりたい」と願い、人間たちを幸せにしようと人間界へやってくる。「時間や義務に追われる人間を自由にしてあげれば幸せにできる」と思い込んでおり、人間たちを勝手に解放。会社や学校をサボる人間であふれかえり人間界は大パニック！　が、大きなストレス怪物が生まれてしまい自分が間違っていたと気づく。第90話。

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

nyoijizai

如意自在
【にょいじざい】

室町時代に描かれたのが大もと

鳥山石燕の『画図百器徒然袋』に描かれた妖怪。「如意」とは僧侶が使う仏具の一種。如意の妖怪は室町時代の『百鬼夜行絵巻』に描かれており、鳥山石燕はこれをモデルにしたといわれる。

「みさこ、ゆうた、怖いよ～」と泣き叫ぶ弱虫妖怪

90′



ゴルフ場でロストボールを盗んで生計を立てている貧乏妖怪。みさこ（妻）と、ゆうた（息子）という家族がいる。ねずみ男にたぶらかされ、五徳猫、山爺とともに3人で鬼太郎と対決するハメに。が、「家族がいるから死にたくない」とおよび腰。一度は逃げようとする。第111話

能力◎両手を長く伸ばして、遠くから敵に掴みかかる。3人で肩車する「妖気合体」で挑むが勝手に倒れて自滅。

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

nisekitaro no haha

にせ鬼太郎の母
【にせきたろうのはは】

70′



鬼太郎を殺すために死神の謀略に乗った魔女

鬼太郎を亡き者にすべく、死神とタッグを組んだ魔女の変身した姿。魔力で変身したというより、マスクのようなものを着けて変装していた。目に見えない地下をとおってくる「地獄列車」に乗ってきたという設定で、墓場の土の下から現れる。その姿を見た砂かけ婆が「まことに鬼太郎の母」というので、実際にかなり似ていたらしい。鬼太郎はこの魔女の持ち込んだ「地球上のどんな生物だって死ぬ毒入りのジュース」を全部飲んでしまうが、なぜか毒は効かなかった。ちなみに鬼太郎はこのにせ母に限り「なんとなく」違うことを見抜いていた。第30話

能力◎髪の毛の間から血管のような触手を伸ばし、血を吸う。「地球上のどんな生物も死ぬ毒」を使って毒殺する。

最期◎毒が効かなかった鬼太郎を殺すために添い寝しながら血を吸うが、鬼太郎の血液の中に入った毒を吸って死ぬ。

80′



鬼太郎、2度もにせ母にだまされる

第109、110話では、この世に幼子を残した人間の母親が、首狩り三人衆に操られてにせ母を演じた。しかし途中で改心して、鬼太郎が殺されそうになるところを止める。また第44話ではこの世に息子を残した妖怪が、にせ母に化けて登場。息子に会いたい一心で死神と取引し、鬼太郎に“妖怪コロリ”という毒を飲ませる。しかし情がわいて毒を鬼太郎から吸い出し、身代わりになって白骨化してしまう。第44、109、110話

90′



ヒー族の巫女が死神をそそのかす

妖怪界の支配を企むヒー族の巫女が、鬼太郎を殺すために変装した姿。死神をそそのかして共闘し、鬼太郎たちにワナを仕掛ける。目玉おやじ、砂かけ婆、子泣き爺、ねずみ男をだまして遠くに追いやったうえで、鬼太郎に毒入りの食事を食べさせた。異変を感じて駆けつけた夜行さんとネコ娘に正体を見破られ、姿を消す。その後、解毒薬で助かった鬼太郎と対決。本性である白蛇の姿に戻り、鬼太郎を苦しめた。第114話

原作コミックでは？

70年代のにせ母は「死神」に登場。80年代地獄編のにせ母は「母を求めて地獄旅」に。にせ母ではないが鬼太郎をだます役として登場。

ningyo no ko

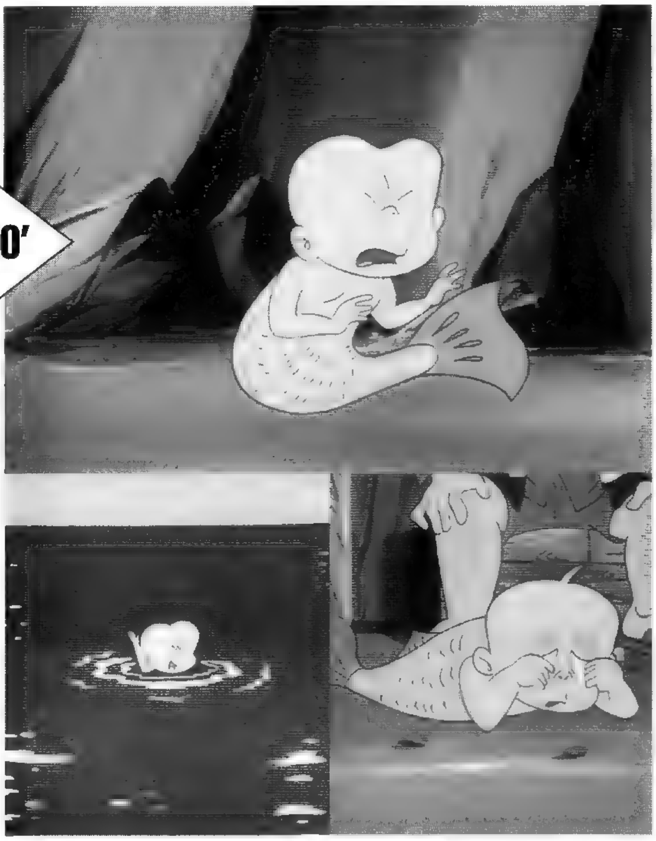
人魚の子

【にんぎょのこ】

多くの童話や小説の題材にもなる

人魚とはヨーロッパや日本、中国など世界各地に伝説が残る半身半魚の想像上の生き物。「海に生息する哺乳動物のジュゴンが見間違えられた」とする説が流布しているが真偽のほどは不明。

60′



ねずみ男に釣り上げられた伝説の人魚の子

千葉県の海岸の天狗岩付近の海の底に住む、人魚の子供。体長1mほどの毛がない男の子の様相。もちろん下半身は魚。妖怪とはいえ性質はおとなしく、悪さはしない。ふだんは海の底深くにもぐっていて絶対に姿を現さない。ねずみ男が天狗岩で釣りをしていて釣り上げるが、その直後、海中から現れた妖怪（さざえ鬼）によって海に戻される。じつは、鬼太郎の神通力を使って人間を支配しようと考えたさざえ鬼が、鬼太郎をおびき寄せるために人魚の子を捕らえていたのだった。鬼太郎がさざえ鬼を退治し、海の底にある住みかに戻っていく。第33話

90′



鬼太郎をおびき寄せるためのエサ

こちらに登場時も、第1シーズンの第33話とほぼ同じストーリー。しかし、「ボス人魚が盗まれた人魚の子を捜す」というエピソードがつけ加えられている。鬼太郎の肉を食べようと目論むさざえ鬼に捕らえられ、ニセ鬼太郎に扮したさざえ鬼に売り歩かれる。「さざえ鬼を倒してほしい」と鬼太郎に依頼し、鬼太郎を海の底の住みかまで案内。さざえ鬼を鬼太郎に退治してもらい、ボス人魚とともに海の底に帰っていく。第17話

原作コミックでは？

「さざえ鬼」に登場。原作では鬼太郎を「鬼太郎先生」と呼ぶなど、少々したたかそうに描かれている。

ningyo

人魚



【にんぎょ】

ヨーロッパをはじめ世界各地に伝わる

上半身が人で下半身が魚の、伝説上の生き物。日本では人魚の肉を食べた娘が十代の美しさを保ったまま何百年も生き、尼になって洞窟に消えたという「八百比丘尼伝説」が残る。

海の底に住むおとなしく性格の優しい半身半魚

80′



海に住む半身半魚の妖怪。女王人魚は、赤いロングヘアの見目麗しい美女。外見同様に心もキレイ。第14話では、海を埋め立ててレジャーランドを建設しようと目論むワルタ会社の社長を、磯女に仕返しさせるために美貌で海におびき寄せる。第100話では、美貌と永遠の命を求める八百比丘尼に捕えられ、釜茹でにされ食べられそうになる。第7、14、100話

原作コミックでは？

「鬼道衆」に登場。人間の少女として暮らしていた女王人魚が、海に帰るまでのエピソードが展開される。妖術も使う。

nukekubi

ぬけ首



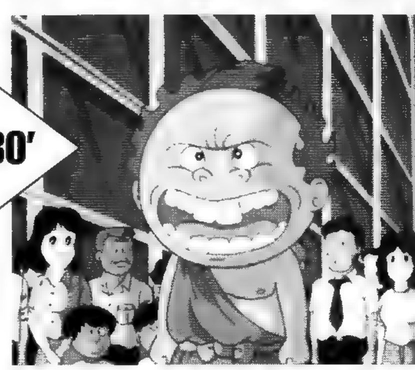
【ぬけくび】

頭が抜ける「ろくろ首」の進化系

首が長く伸びる妖怪「ろくろ首」の別名。ろくろ首が首を伸ばしすぎると、胴体から頭が抜けてしまう。このときに体を隠されると、栄養補給ができず次第に弱って死んでしまうとか。

体からスッポリ抜ける灼熱の頭と、頭を冷やす体を持つ

80′



「妖怪ブーム」を機に人前に姿を現すが、世間では誰も自分を知らない。妖怪人気No1の鬼太郎を妬み、体を離れた燃える頭で襲いかかる。その間に頭を冷やすために必要な体が盗まれ、頭が熱で爆発しそうになる。第94話

能力◎太陽のコロナと同等の熱を発する頭を持ち、炎も吐く。

最後◎体を探し出しぬけ首の頭へ持っていくが、燃えすぎて近寄れないため、炎の妖怪たちによって戻され爆発せずに助かる。

原作コミックでは？

妖怪の中で一番強いと思っている。鬼太郎とその仲間の人気にやっかみ、頭にきて鬼太郎たちを襲った。「ぬけ首」

nupperabou

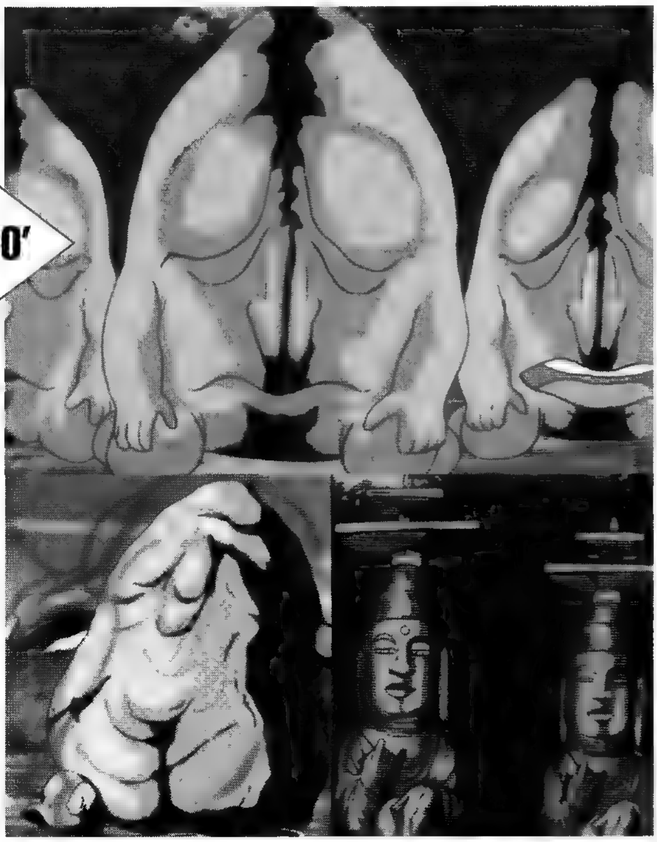
ぬっぺらぼう

【ぬっぺらぼう】

江戸時代のカルタにも描かれた妖怪

鳥山石燕の『画図百鬼夜行全画集』にも描かれている「ぬっぺっぽう」という妖怪がモデル。廃寺や墓地に現れて意味もなくうろうろする。ぶよぶよとした肉の塊に手足が付いている。

80′



アリランを聞かせて鬼太郎の若さを吸い取った！

肉の塊の姿をした韓国の妖怪。人間の若さを吸い取って生きる。石像の中に入って美しい声でアリランを歌い、聞きほれた若者の若さを奪う。鬼太郎にもアリランを歌って聞かせ若さを吸い取った。人間と変わらない背丈の３匹のぬっぺらぼうのほかに、巨大な透明のぬっぺらぼうがいる。第66、108話

能力◎アリランを歌って、その歌に魅了された者の若さを吸い取る。巨大なぬっぺらぼうは透明になって町を壊す。

最後◎大量の金バエがたかったところに、小鳥の大群が来てつつく。血だらけになったところを、ヒルに血を吸われる。

60′



透明なぬっぺらぼうが悪さを

沖縄の村人に「ゆんた様」として恐れられていた妖怪。一年に１度現れ、ゆんたの言い伝えを借り、歌を歌って村人の若さを奪っていく。巨大なぬっぺらぼうもいる。第57話

能力◎透明の体を利用して村を破壊するなど悪さを行う。上手な歌を聞かせ、歌に魅了された若者の若さを吸い取る。

最後◎鬼太郎の毒ガスを浴び、大量の金バエと小鳥にたかられ、血だらけになったところを無数のヒルに血を吸われる。

原作コミックでは？

「朝鮮魔法」のほか、「妖怪大裁判」の「妖怪危機一髪」「世紀の妖怪アイドル」「鋼手の巻」などにも登場している。

nurarihyon

ぬらりひょん

【ぬらりひょん】

どこからともなくヌラリと現れる

頭部が大きいハゲた爺の姿で描かれる妖怪。伝承では妖怪の親玉とされ、忙しい夕暮れどきに現れ人の家に勝手に上がりこむ。岡山県では頭を海面に浮かべ人をからかう海坊主と伝えられる。

80′

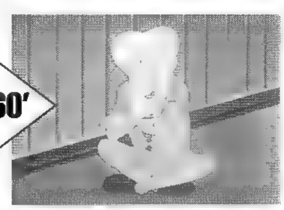


妖怪軍団を操り、鬼太郎を殺そうと策を練る妖怪王

妖怪の世界の総大将。人間や妖怪の心理を巧みに操り、自分の利益のために悪事を働く。鬼太郎をじゃま者扱いし、ほかの妖怪を操って抹殺しようと企む。が、いつもすんでのところで失敗するマヌケな面も。第4話で、鬼太郎に何万年も前の古代へ送られたはずだが、謎の復活を遂げてレギュラー化。つねに朱の盤を手下として連れている。第109話からの「地獄編」では天叢雲剣を手に入れ、地獄の支配者となる。第4、6、16、68話ほか

能力◎剣術が得意で仕込み杖をつねに持ち歩く。

60′



「山田」と名乗って悪さを！

一見、貧乏そうな老人の妖怪。ずる賢い性格で、人間のふりをして悪いことばかりしている。鬼太郎をコンクリートで固めてやっつけようとするが失敗に終わる。第12話

能力◎特殊な能力はない。ウソをついたりうまいことを言うなどして、人や妖怪をだまし、味方につけてうまく動かす。

最期◎鬼太郎によって、石臼を使った“タイムマシーン”で、数万年前のマンモスや恐竜のいる先史時代に飛ばされる。

90′



多数の策を練って鬼太郎を攻撃

鬼太郎を葬り去って、妖怪界を牛耳る妖怪王になろうと企む。第46話で初登場。「地獄絵図」を盗んだ濡れ衣を着せられ、逮捕された鬼太郎の弁護士を務める。だが悪事がバレ、「時代流しの刑」によって恐竜のいる原始時代に送られる。その後復活し、「土と山の怨霊の力」を手中に収め妖怪王として君臨。バックベアードといった強力な外国妖怪を配下におき、鬼太郎ファミリー抹殺を図る。第46、47、54話ほか

原作コミックでは？

原作ストーリーとする「ぬらりひょん」（最新版ゲゲゲの鬼太郎）に加え、「地獄軍団登場の巻」「野球狂の巻」など多数に登場。

nururibou

ぬるり坊



【ぬるりぼう】

全身ぬるぬるの体で人にもたれかかる

鳥取県米子の近くに現れる「ぬるぬる坊」という海坊主がモチーフ。一つ目で胴回りが約60cmほどある杭のような姿をした妖怪。もとは『因伯伝説集』に引用されている『因幡怪談集』の「海坊主」のよう。

地獄を揺るがす大立ち回りを演じる

80′



地獄にある血の池に住む妖怪。地獄に行った鬼太郎一行が血の池に落ち激怒し、手当たり次第に岩を投げつけるなどして暴れる。その後、ぬらりひょんにけしかけられ、鬼太郎一行に襲いかかった。第114、115話

能力◉血の池の中から池に引きずり込もうとする。池の外では、そこら中にある石や岩をつかんでひたすら投げつける。

最期◉鬼太郎が放ったオカリナで、地獄の洞窟の岩が落下し、爆発。

原作コミックでは？

「最後の出会い」に登場。体内に飼っている無数のヒルを吐き出して鬼太郎たちを襲った。

nureonna

濡れ女



【ぬれおんな】

恐ろしい大蛇の姿をした女の妖怪

北陸や九州に伝わる妖怪。大蛇の体に女の顔で髪の女で長い舌を持つ。川や沼に住んでいて、全身ずぶぬれ。岩や木などの物陰から様子をうかがい、とおりかかる人間を脅かす。血を吸うともいわれる。

髪の毛を振り乱して人間たちを驚かせる

80′



大蛇のような体を持ち、顔は恐ろしい形相。髪は長く、赤い目と長い舌で人間を脅かす。見かけはいかにも恐ろしいが、とくに人間に危害を加えるわけではなく、人間を驚かせるだけ。第３部では全5話に登場するが、いずれも大きな役どころではない。初登場の第6話では、鬼太郎を殴ったサラリーマンを懲らしめるために、幽霊電車に乗せて彼らを驚かせる場面で登場。第6、68、84、91、104話

原作コミックでは？

「復活悪魔くん」「死神対戦」「妖怪危機一髪」などに登場。原作でもやはり、その他大勢の妖怪のひとり。

nekoshou

猫ショウ



【ねこしょう】

90′







鬼太郎やぬりかべ、一反もめんも若さを吸われる

もともとは猫又。猫ショウとは、猫又の知能と妖気が上がって、無限に生きる力を得た状態のことで、猫又よりさらにサイズが一回り大きい。人間の若さを吸い取ることで猫ショウになれる。若返りの方法を研究していた博士の論文を盗み、「若返りのために人間の若さを吸い取る」方法を知る。そして、女子高生や女優などから若さを吸い取り、猫ショウへと進化した。猫ショウになった猫又は、さらに大きくなって猫妖怪の頂点に立とうと企み、人間では飽き足らず、妖怪たちの若さを吸い取りまくる。ねずみ男、子泣き爺、ぬりかべなどの若さを吸い、小山ほどの大きな猫の怪物になる。そして、鬼太郎の若さを吸いとったあげく、丸呑みにしてしまう。第108話

能力◉人間や妖怪に襲い掛かり、首筋にかみついて若さのエキスを吸う。鬼太郎にも襲い掛かって若さを吸った。

最期◉猫ショウの若さエキスを吸って赤ん坊になった鬼太郎を呑み込んだが、逆にやられる。小さな猫になって逃げた。

原作コミックでは？

「妖怪猫ショウ」に登場。コミックでは、呑み込んだ鬼太郎に生気を吸われて、衰弱死してしまう。

nekosennin

猫仙人

【ねこせんにん】

80′



猫塚の中で安らかに生き続ける仙人

生まれて1200年の不老不死の仙人。命の水が入っている宝の玉を見つけ、その水に自分の魂を吹き込むことで永遠のやすらぎを得た。だが、猫塚の中に入れておいた宝の玉がねずみ男に持ち去られたため目を覚まし、眠らせておいた肉体に魂を戻す。姿は着物を着て杖を持った、毛むくじゃらの顔をした老人。猫に化けることができ、ネコの姿になったときは黒豹のような大猫の姿だ。「命の玉がないと1日で肉体も魂も滅びてしまう」と必死で命の玉を探す。ユメコに乗り移って生きながらえようとするが、最後は鬼太郎によって命の玉の中に戻される。第3話

能力◎目から赤い光のエネルギーを放つ。両手と胴体をどこまでも伸ばすことができ、それで鬼太郎を追い回した。

最後◎両手と胴体をどこまでも伸ばしながら鬼太郎を追いかけたため、体と手がこんがらがってしまい降参する。

60′



魂と体の分割に成功！

1200年間生きている仙人。生きながらにして魂と体を分けることに成功。体は猫塚の中で冷凍人間として保存し、魂は猫の中へ入り込ませている。体が危険になると魂が体へ戻る。第17話

能力◎手を伸縮させることが可能。魂を生き物から生き物へ乗り移らせることができるが、石に封じられると出られない。

最期◎ねずみ男に乗り移って鬼太郎を毒殺しようとするが、「74の質問」によって、漬物石に封じ込まれてしまった。

90′



人間たちを裁判にかける

ネコに変身し、体を自在に伸ばすことができる妖怪。ネコを粗末に扱う人間を裁判にかけ、ネコを操りネコの国を作ろうとする。猫壺に入れられると力を失う。第12、64話

能力◎「大黒猫（だいこくねこ）」という黒い大きなネコに化けて、野良ネコたちを操る。仙人の姿のときは手がどこまでも無限に伸びる。

最期◎鬼太郎の攻撃で降参。猫壺に入れられそうになるが、ネコ娘の助けで許され、捨てられたネコとともに山奥へ。

原作コミックでは？

「猫仙人」に登場。肉体と魂を切り離して猫塚の中で眠っていたが、道路工事で猫塚が壊されたことに怒る。

nekomata

猫又

【ねこまた】

歳をとった老ネコのバケモノ

鎌倉時代から伝わる、ネコの妖怪。尻尾が二股に分かれており、かなりの歳をとっている。大きな犬ほどのサイズ。ふだんは山奥に住んでおり、都に下りては人を喰らうなどの悪事を働く。

90′



体が大きい、「猫町」を取り仕切るネコの親分

尻尾がふたつに分かれている、神通力を持った化け猫。体がふつうのネコの倍以上に大きく、ネコが楽しく暮らす「猫町」を取り仕切っている。第28話では、行方不明になった男を捜すために鬼太郎とねずみ男が猫町を訪れる。猫町では誰もがネコの姿になるため、鬼太郎とねずみ男もネコに変身。だが、猫又はねずみ男を「ネズミ」と見抜き喰おうとする。そこへ来たネコ娘に止められ、理由を説明されて納得、猫町から人間界へ戻る切符を発行してくれる。第108話では、人間の若さエキスを吸って妖力をアップした猫ショウになる。第28、108話、劇「おばけナイター」

70′



妖力を使って飼い主を守った

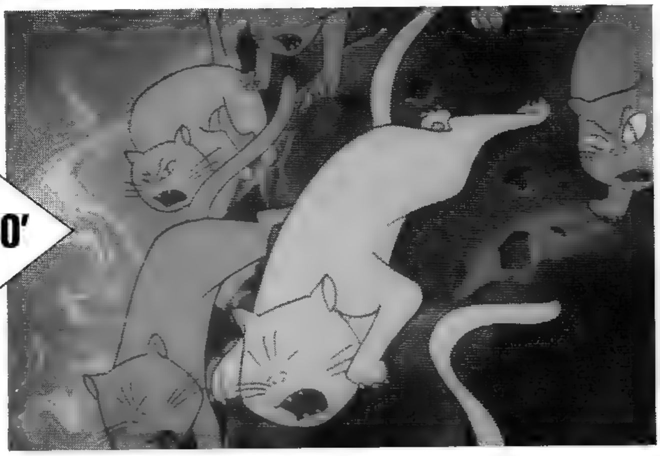
インドネシアの奥のボロゴン島に住む娘・エリーメが飼っていた猫。名前はジーダという。50年も生きているため、妖力を持ち、尻尾がふたつに分かれているのが特徴。片時もエリーメのそばを離れないため結婚相手も見つからないと、父親が鬼太郎に殺害を頼む。だが、じつはジーダは妖狐という妖怪からエリーメを守っていたのだった。結局、ジーダは僧の姿に化けて、エリーメをさらった妖狐と戦い命を落とす。第7話

原作コミックでは？

「雪姫ちゃん登場」「猫町切符」「妖怪猫ショウ」のほかに、鬼太郎以外の水木作品「猫又の恋」にも登場する。

nekonobourei

猫の亡霊
【ねこのぼうれい】

60′


集団で鬼太郎たちを襲う事故死した猫の怨念

人間の運転する車にはねられ、死んだ猫の霊。「人間たちは轢き殺すだけで、墓にも入れず線香の一本も立ててくれない」と怒って人間たちを襲う。鬼太郎と目玉おやじ、ねずみ男が事件を解明しようと霊界を訪れたとき、集団で襲ってくる。その親玉は豹のような大きさで三つの火の玉を従えている。第41話

最期◎ 鬼太郎に投げ飛ばされ、岩と一緒に崩れてつぶされる。

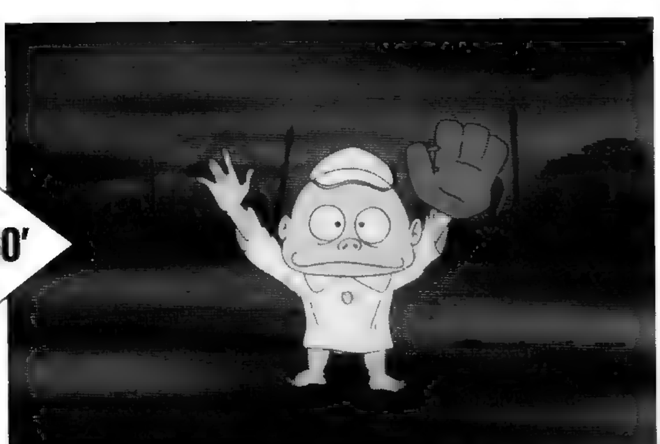
原作コミックでは？

猫の亡霊は、「猫の霊」に登場するがTVアニメとはまったくの別物。こちらは水木たちが地獄に送られる道すがら一緒になる。

notaribou

のたり坊


【のたりぼう】

60′


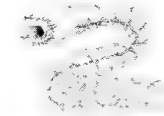
墓地の中で最後の球を難なくキャッチ

振れば必ず当たる「妖怪バット」を拾った野球少年。そのバットを取り返すため、鬼太郎たちは妖怪チームを組んで少年たちと野球を行う。その試合でレフトを担当した妖怪。９回の裏で少年が打った球をキャッチする。少年たちは負けており、あとアウトひとつでバットと命をとられる約束だったが、のたり坊が球を取った瞬間に夜が明け、試合はドローでお開きとなる。第１話

原作コミックでは？

TVアニメオリジナルの妖怪。

noduchi

野づち


【のづち】

径一尺、長さ二尺の寸詰まりの蛇の化け物

『古事記』に見られる草の神カヤノヒメの別名から、後に胴のみの蛇の妖怪を指すように。ツチノコの語源であり、坂道を転がり人の足に喰いつく。江戸の百科事典『和漢三才図会』にも記述あり。

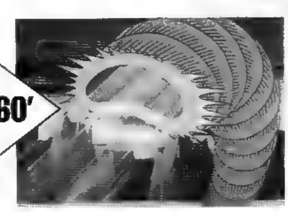
90′


何でも吸い込む妖怪。ゴミ処理場に利用されて怒る

古代の神様が命がけで封じた、すべてのものを無限に吸い込んでしまう妖怪。ねずみ男と少年・淳が封印を解いてしまい復活。鬼太郎と砂かけ婆を吸い込むが、鬼太郎が腹の中で「妖怪竜巻」をおこし腹の四次元のねじれを正されすべてを吐き出す。第27話

能力◎ ものを吸い込むという本能だけで生きている。腹の中が四次元になっており、飲み込んだものは別の世界に消える。

最期◎ すべてのものを吐き出した後、鬼太郎の策で自分の尻尾を食わされ、小さくなったところを再び封じ込められる。

60′


ひでり神を封じるため起こされる

300年間、鬼ヶ原にある野づち塚に眠る巨大な蛇の妖怪。火山の熱で強力になったひでり神を封じるために、鬼太郎がひでり神の炎で塚を壊して復活させる。第43話

能力◎ ものを何でも吸い込んでしまう。ひでり神は吸い込まれたうえ、精気を吸われてヨボヨボに。

最期◎ 眠り草を大量に食べさせられ、野づち塚の中で再び眠りにつく。「これで300年は起きんじゃろう」と目玉おやじ談。

80′


妖怪自動車の上に乗っての登場も

ひでり神の攻撃により岩が壊れて目を覚ます。ひでり神を吸い込み、鬼太郎も吸い込もうとした。劇場版では日本妖怪軍の一員。妖怪戦車としても活躍。第29、64話、劇「最強妖怪」

能力◎ 周囲のものを何でも吸い込む腹。第64話では自分勝手な人間たちにかけられた「良心カビ」のみを吸い込んだ。

最期◎ 鬼太郎の策略で輪状になってしまい、自分の尻尾を吸い込み動けなくなる。劇場版では丸薬を飲まされ反物に。

原作コミックでは？

「ひでり神」「煙羅煙羅」ほかに登場。「ひでり神」以降は鬼太郎たちの仲間として活躍している。

nopperabou

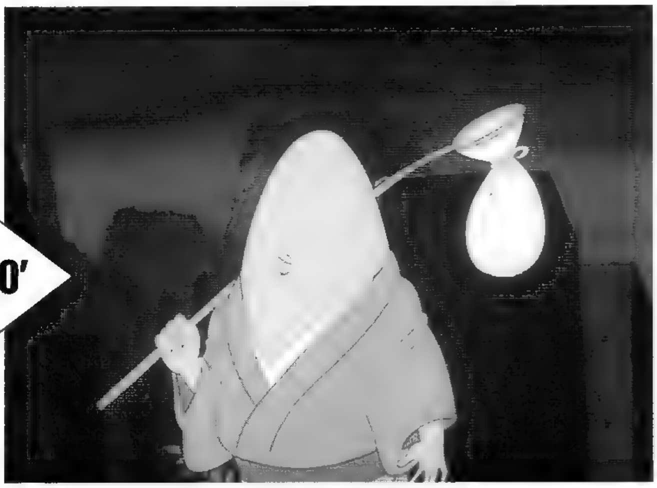
のっぺらぼう

【のっぺらぼう】

人を驚かせて楽しむだけの無害な妖怪

外見は普通の人間だが、顔には目も鼻も口もない。小泉八雲『怪談』内「むじな」の話が有名だが、原型は中国古典『夜譚随録（やたんずいろく）』などにあるといわれる。むじななどが化けたものというのが定説。

60′



人魂を食わせて顔を奪い、自分のものにする

墓場で人魂を捕まえて、天ぷらやスープにして食べることで死人の顔を奪う。生きた人間の顔も狙い始め、鬼太郎もねずみ男も一度は顔を奪われた。都会人の顔を集めるためねずみ男とともに東京へ。人魂入りポップコーンを配り36人分の顔を集めた。第45話

能力◎人魂を調理して食べ、死人の顔を奪う。または人に人魂入りの料理を食べさせることで、その人の顔を奪う。

最後◎鬼太郎を岩でつぶし、もちにして食おうとするが、逆に餅が全身にくっついて降参。奪った顔をすべて返す。

80′



ぬらりひょんに利用される

他人の顔を盗み、それを、顔を変えたい指名手配犯などに高額で売り払う商売をする。ただし本人はお金を受け取らず、裏にいるぬらりひょんに利用されていた。第16、52、68話

能力◎抱きついた人間の顔を奪う。また抱きついて、他人の顔をストックしてある奪った顔と入れ替えることもできる。

最後◎鬼太郎に抱きついて顔を奪う寸前に、オカリナムチで首を絞められて敗北。その際奪った顔をすべて吐き出している。

90′



顔を奪う顔なし妖怪は武術の達人

顔のない妖怪。うまいと評判のそば屋を経営し、客の顔を食べてのっぺらぼうにしてしまう。第21話「白粉婆」からは改心し、仲間として登場。第7、21、40、64話

能力◎人の顔を食べて、のっぺらぼうにしてしまう。武術の達人で、鬼太郎ファミリーをいいところまで追い詰める。

最後◎鬼太郎を食べるつもりが霊毛ちゃんちゃんこを食べてしまい、腹が膨れて降参。奪った顔をすべて戻す。

原作コミックでは？

墓場で人魂を取り、調理して食べさせることで顔を奪う『のっぺらぼう』が、60年代版の原作。

noderabou

野寺坊

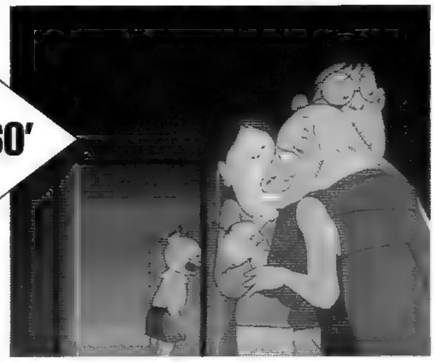
【のでらぼう】

石燕以外の伝承がない謎の多い妖怪

鳥山石燕『画図百鬼夜行・陽』に描かれている、野寺や廃寺にいる３本指の妖怪。坊主の姿をしており、壊れた鐘を叩いて音を鳴らすという。石燕以外の情報がなく、詳細は不明な点が多い。

妖怪の国の建国を目指す集団の大臣のひとり

60′



妖怪の国をつくるべく東京に定着した怪気象の中にある、お化けの国の妖怪のひとり。ぐわごぜを総理大臣と仰ぎ、ねずみ男に「野寺坊大臣」と呼ばれる。ねずみ男の導きで、水木しげる宅の中に入り込む。川赤子や蛇骨婆と同じく、そのほか大勢のひとりとして大臣を名乗り登場する。第58話

能力◎作品内では能力をまったく見せていないため、不明。

最期◎怪気象の終焉と同時に、竜巻に巻き込まれ去っていく。

原作コミックでは？

「[illegible]」に登場。作品自体が第58話「[illegible]」の原作であり、[illegible]

nowakebaasan

野分婆さん



【のわけばあさん】

60′



杖でボールを打つ！ 妖怪チームの強打者？

妖怪野球チームのファースト。バットを使わず杖でボールを打つ。杖を持ったまま走り、吹く息でボールを吹き飛ばし無理やりヒットにした。また、鬼太郎が試合を引き延ばすため投げた鋭い牽制球で、グラブごと弾き飛ばされる。第1話

能力◎強力な吹く息でボールを吹き飛ばす。杖でボールを打つ。

最後◎目玉おやじが鳴かせた一番鶏にだまされ、墓場に消える。

原作コミックでは？

TVアニメオリジナルの妖怪。

nobiagari

のびあがり

【のびあがり】

見上げるほどに大きくなり行く手を阻む

愛媛県や徳島県に伝わる、見上げるほどに背が高くなり身長10mにも達するという妖怪。「高坊主」ともいわれ、カワウソが化けたものなので、地上から30cmのところを蹴れば消えてしまうという。

60′



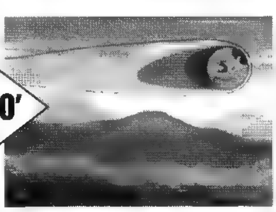
妖怪の世界を作ろうとした半透明妖怪

土の下に住む妖怪。半透明でゲル状の体と無数の腕を持つ。普段は見えないが、地震によって戦国岩から現れた。人間をねむり花の花粉を使って眠らせ、吸血木の芽を植えて吸血木にしてしまう。吸血木を使って地上を妖怪の世界にしようとした。第19話

能力◎催眠作用のある目を持つ。無数の腕で攻撃。ねむり花の花粉を使って人を眠らせ、吸血木の芽を人間に植える。

最期◎髪の毛針をくらった後、鬼太郎を追うが、水中で鬼太郎の体電池で感電。吸血木の芽を植えられて木になってしまう。

80′



人間を吸血木にしてしまう

地中深くに封じ込められていたが、群発地震により２万年ぶりに復活。木を切りまくっている人間に怒り、人間をすべて木に変えて地上を征服しようとした。第47話

能力◎無数の腕を使い、人間に吸血木の種を飲ませる。種を飲まされた人間は吸血木になる。

最期◎地底の地震の巣と、のびあがりの住みかをぬりかべが穴を開けて繋ぎ、襲ってきたマグマで燃えながら埋まってしまう。

90′



村人を救うため犠牲になる

落下した隕石から出現。村の青年の「山の安全を守り、人々を助けたい」という強い意志がのびあがりと合体。雪崩を予言し、村の人々を助けようとした。第109話

能力◎無数の手を使って、村の人々を赤い木に変える。それは彼らが雪崩に耐えられるようにするためだった。

最期◎妻・今日子と、娘・春を雪崩から救うため日光の中へ飛び出し、最終的に水蒸気となって粉々に砕け散る。

原作コミックでは？

「吸血木」に登場。"のびあがり"という名前は、地元に伝わる妖怪の名を便宜上使っていただけのようである。

baku

獏

【ばく】

悪夢を食べてくれる想像上の珍獣

中国古来の幻獣で、悪夢を食べるとされる想像上の動物。体は熊に似ていて、象の鼻、さいの目、牛の尾、虎の足を持つ。獏の絵を枕の下に敷くと、いい夢が見られると信じられていた。

気味の悪い幻を消すために鬼太郎に呼ばれ登場

80′



アニメの中でも伝承どおりの姿で、悪夢を食べる存在として登場。ぬらりひょんの陰謀を阻止するため、「夢の世界」に入った鬼太郎一行。そこでぬらりひょんが鬼太郎を惑わせるために、鬼や妖怪たちの幻を見せる。その幻を食べてもらうため、鬼太郎がオカリナで獏を呼ぶ。獏は幻を吸い込むが、怪物の強い妖力に耐えきれず幻に負けてしまい爆発する。第86話

原作コミックでは？

「妖怪大裁判」「妖怪 本所七ふしぎの巻」「獏」に登場。基本的には、鬼太郎の味方である。

hagurobettari

歯黒べったり

【はぐろべったり】

お歯黒をつけた口だけを持つ女の妖怪

『絵本百物語　桃山人夜話』に出てくる妖怪。角隠しを着けて着物を着た女の姿をしているが、目と鼻がなくお歯黒をつけた口だけがある。古い神社の前にいて、とおりかかる人を驚かせる。

作り物の妖怪のフリをして妖怪ショーに出演

60′



伝承そのままの角隠しをつけた着物姿で、目と鼻がなくお歯黒の口だけを持つ妖怪。第7話では、鬼太郎とねずみ男が催した「妖怪ショー」に出演し、にせの妖怪のふりをする。が、まったく驚かない客に、顔に「へのへのもへじ」を書かれてしまう。その後、その客を幽霊電車に乗せ、妖怪たちみんなで仕返しをする。第10話では、西洋妖怪と戦うために集まった日本の妖怪のひとりとして登場。第7、10話

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

hakusanbou

白山坊

【はくさんぼう】

僧頭巾をかぶった白銀の化け狐

『絵本百物語　桃山人夜話』に登場する、「白蔵主」という化け狐がモデルと思われる。甲斐の国（山梨県）の夢山の麓に住む歳をとった白狐で、僧頭巾をかぶって坊主に化けていた。

80′



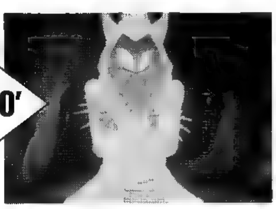
自分の取引の道具として、人間にツキを与える

マントをかぶった狐人間のような姿をしている。無生物に化けるのが得意で、赤い指輪や鎌などに変身する。ある男を商売で儲けさせてやり、交換条件として娘を嫁にほしがる。男の屋敷の裏手の稲荷神社に住む。第11、86、91話、劇「最強妖怪」

能力◎木づちや岩など無生物に化ける。鬼太郎との戦いのときに、鎌に化けてちゃんちゃんこを切り裂いた。

最期◎鬼太郎が放った毒蜂の集団に刺され、中枢神経が麻痺。そこに蛾の卵を注射され、幼虫に内臓を食われて死ぬ。

60′



ずる賢くて残忍な樹海の主

樹海の中にある岩穴に住む古狐。マントをかぶっている。落ちぶれた男を救ってやるが、「代わりに16歳になったら娘を嫁にくれ」と言う。じつは生き血を吸うのが目的。第24話

能力◎無生物に化けるのが得意。真珠のネックレスに化けて娘をさらったり、大きな岩に化けて鬼太郎と戦ったりする。

最期◎人の体内に卵を生みつけ、孵化した幼虫が内臓を食い荒らすという「鬼蛾」に卵を生みつけられ、死亡。

90′



娘を食べようと企む古狐

歳をとった大きな狐の姿で、マントをかぶっている。全身が白銀の毛で覆われ、大きい黄色い目と鋭い牙、とがった鼻を持つ。自分がかつてツキを授けてやった男の娘が16歳になったので、約束どおり嫁にもらおうとやってくる。だが、じつはその娘を食べようと思っている。第39、106話

最期◎砂かけ婆の家の押し入れにあった「狐封じの壺」を鬼太郎がかざすと、その中に吸い込まれてしまう。

原作コミックでは？

「白山坊」「（再生妖怪軍団の反撃）の巻」に登場。TVアニメは原作と同じ性格で、人の弱みにつけ込んで悪さをする。

bakeika

化けイカ

【ばけいか】

小説や映画にも登場する幻の巨大イカ

昔から伝説的に語られる巨大イカ。ダイオウイカという種類で、最大で全長は18メートルになるといわれる。だが、その姿を捕らえた者はいない。4〜5mのものはわりと頻繁に目撃される。

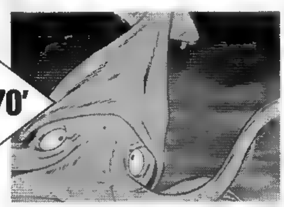
80′



半魚人にリモコンで操られて悪さをしでかす

海の底に住む、巨大なイカの化け物。もとは南の海に住んでいたらしい。半魚人によって、貝のリモコンで操られている。人間の女性と結婚したい半魚人が、じゃまする鬼太郎を殺すために海の底から呼び寄せた。船に乗っていた鬼太郎を襲い、海中に引きずり込む。鬼太郎を口の中に吸い込んで、海の底にある巨大な貝の中に閉じ込めてしまった。だが、半魚人に操られているだけなので、それ以上の悪さはしない。鬼太郎によって貝のリモコンが壊されたため、半魚人から自由になった。第20話

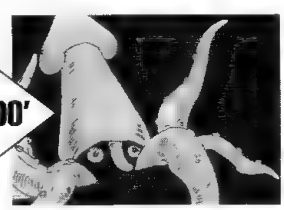
70′



呼ばれて現れる半魚人の手下

半魚人の子分である、巨大なイカ。亀を食べようとして鬼太郎に邪魔された半魚人が、怒って海底から呼び寄せる。鬼太郎を長い手でつかまえて、丸呑みにしてしまう。イカの胃の中に落ちた鬼太郎は、消化液で体を溶かされてしまうが、脳とちゃんちゃんこだけは溶けず、逆にイカの脳を支配する。イカになった鬼太郎は、半魚人にもとに戻すように要求するが、爆薬でバラバラにされてかまぼこにされてしまう。第13話

90′



「妖怪真珠」を産む巨大イカ

海の底に住んでいる、巨大なイカ。「妖怪イカ」と呼ばれる。半魚人の命令で動く。鬼太郎を呑み込んで、鬼太郎の妖力エキスを含んだ「妖怪真珠」を産み落とした。いったん呑み込まれると、体の中から出てくることはできず、飲まれた鬼太郎は妖怪イカそのものになってしまう。第60話

最期◎鬼太郎になった妖怪イカが、事件の黒幕ぬらりひょんに襲いかかり、その剣によってバラバラに斬られてしまう。

原作コミックでは？

「かまぼこ」に登場。巨大なイカというだけで、これといった名はないようだ。鬼太郎を飲み込み、ダイナマイトで爆破されてかまぼこに。



化け傘は、唐傘小僧を見るのじゃ

bakegarasu

化けガラス
【ばけがらす】

70'


目玉おやじを背に乗せて飛ぶ温和な大カラス

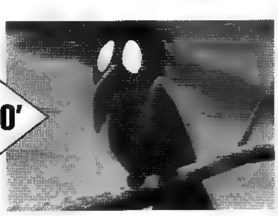
大きなカラスで、人間の言葉はしゃべらずに「カアカア」と鳴くのみ。悪い妖怪ではなく、鬼太郎たちの味方。何か事件が起きたときに、それを知らせにきたり、目玉おやじを背中に乗せて飛んだりする。一羽だけでなく、集団で行動することも多い。第2話に初登場し、反物にされてしまった鬼太郎を救うために、数羽で目玉おやじとネコ娘をブランコ状に吊り下げて敵の館まで運んだ。第3話では、砂かけ婆に言われて、ネズミ男を捜しに飛んでいく。また、百々爺率いる悪者妖怪軍団が鬼太郎を襲ったときに、集団で現れて、妖怪軍団に石を投げつけて攻撃をした。鬼太郎のピンチのときには、百々爺の顔に「封じフン」を落とした。第2、3話ほか

能力◎大きなフンを相手の顔にかける「封じフン」。そのフンは、ゴムのようになって、とろうとしても簡単にとれない。

80'


反物になった鬼太郎を救出

70年代とまったく同じキャラで、人間の言葉をしゃべらない妖怪カラス。劇「最強妖怪」の中で、中国妖怪によって反物にされてしまった鬼太郎を救うために、目玉おやじを背中に乗せて、ネコ娘や一反もめんらと敵陣に乗り込む。大きな入れ物の中にしまわれていた、反物になった鬼太郎と砂かけ婆を両足につかんで飛ぶ。あまり積極的に自分から動くことはなく、命令されてそのとおりに行動する。第36話ほか、劇「最強妖怪」

90'


ネコ娘や鬼太郎の乗り物役

第47話では鬼太郎に逮捕状が出ていることを知らせにきた。また、百々爺と鬼太郎が戦っているときに集団でやってきて、木の上にとまってフンを落とした。ほか、ねずみ男が妖怪ポストから手紙を盗んだり、魍魎に人間の体を提供させる密談をしたりしたときに、鬼太郎に報告。聞いたり見たりしたことを鬼太郎たちに報告するほか、集団で鬼太郎やネコ娘などを吊り下げて運んだりする。第17、47、55、63、86話ほか

原作コミックでは？

「新編ゲゲゲの鬼太郎」では頭に帽子をかぶって登場し、人間の言葉をしゃべった。ほか、数多くの作品で登場。

bakekujira

化け鯨
【ばけくじら】



90'


悪と戦う味方妖怪一行を背に乗せて大海を行く

神聖な場所である「くじらの墓場」の守り主。第18話では、くじらの墓場が人間たちに荒らされたことを怒って、人間を襲う。鬼太郎、ねずみ男、静子たちを呑み込むが、化け鯨の体内にいた魂に頼まれ、鬼太郎たちを陸地まで送り届ける。また、世界を征服しようとぬらりひょんや西洋妖怪が待つ「妖怪島」まで、鬼太郎やネコ娘らを運ぶ。第18、98、99、104話

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

bakekoumori

化けコウモリ
【ばけこうもり】

70'


ダイダラボッチの脳みそがある場所へ鬼太郎を案内

日本各地からパーツが出現し、合体して巨人となったダイダラボッチ。しかし脳みそは別の場所にあり、そこからリモートコントロールされていた。ダイダラボッチの脳みそが地下にあると悟った目玉おやじは、その在りかを探るべく「化けコウモリに頼め」と鬼太郎に告げる。化けコウモリは、ダイダラボッチの脳みそが眠る山口の秋芳洞に、鬼太郎を案内した。第29話

原作コミックでは？

TVアニメオリジナルの妖怪。

bakezouri

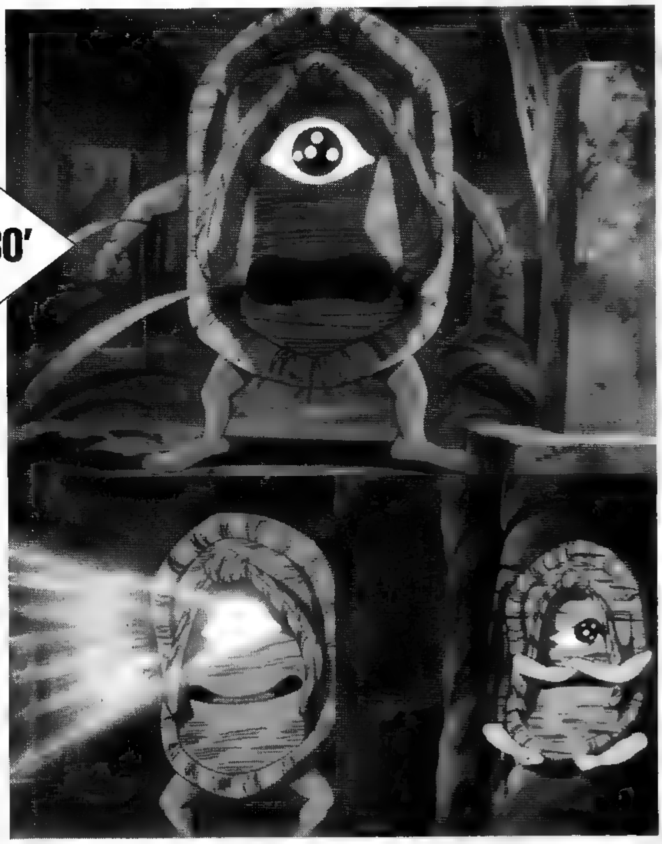
化けぞうり【ばけぞうり】



デカい草履の一つ目おばけ

佐々木喜善の『聴耳草紙』に書かれている妖怪。大きな草履の姿で手足があり一つ目。履物を粗末にする家に現れる。「カラリン、コロリン」などと歌いながら出てきて歌い終わると消える。

80′



「履物のあの世が霊でいっぱいだ」と怒る草履の妖怪

大きな草履に大きな一つ目と手足がついた姿。靴や下駄や草履の霊を支配している。人間が簡単に履物を捨てることに怒って、仕返しをしようと捨てられた靴たち（靴の霊）を扇動して人間を襲う。光線を靴に浴びせかけると、靴は人間以上の巨大な大きさに変わる。第99話、劇「異次元」。

能力◎空中で体を振り突風を出す。藁を体から伸ばし絡みつく。目から光線を出し、相手の動きを止めたり妖力を吸い取る。

最後◎砂かけ婆に砂をかけられてひるみ、小さくなったところを鬼太郎の髪の毛針にやられて木に貼りつけられる。

90′



普通の草履が、妖怪に!!

末の旅路に履く草履で大事に保管されていたが、ねずみ男に片方を捨てられてしまい妖怪に変化。古い道具を大切にしない人間を懲らしめる。第43話、劇「おばけナイター」

能力◎大きい足で踏みつぶしたり、人間の生気を吸い取ることができる。古道具たちを操り、攻撃させる。

最期◎草履の持ち主である老人の霊に怒られ、末の旅路に履く草履に戻り、老人を天国に連れて行く。

原作コミックでは？

「化けぞうり」に登場。原作とほぼ同じ設定の60年代だが、原作では履物界で履物の[illegible]理している。[illegible]は履物界に[illegible]。

bakeneko

化け猫【ばけねこ】



人間に恨みを持つ猫が「化け猫」に

各地で伝承される猫の化け物。人間に粗末にされた猫が化けて出る。「飼って13年たった猫は化け猫になって主人を殺す」といわれることも。人間に憑いたり、悪さをしたりする。

80′

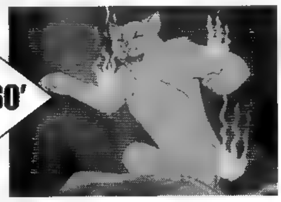


ひき殺された猫の怨霊が巨大な化け猫に！

大きなトラックに化けて、国道0号線に出没。運転する人間がそのトラックにぶつかると、ネコそっくりの行動を取る「猫打ち症」になってしまう。正体は、人間にひき殺されたたくさんのネコ。それぞれが化け猫だが、その魂がひとつになると、通常の100倍くらいの巨大化け猫になる。ひき殺された恨みを晴らそうと人間たちを襲ったが、鬼太郎に説得されて退散する。第34話

最後◎鬼太郎がみずからを投げ出し「好きに攻撃して恨みを晴らせ」と言ったことにより攻撃をやめる。

60′



猫の亡霊を従え人間を襲う

トラックに化けて、甲州街道で人間たちに交通事故を起こさせていた。人間たちが車でネコをひき殺し、線香の一本もあげないことに腹を立て、仕返しをしようとする。豹のような大きさで、三つの火の玉が周りに飛んでいる。霊界高速道路をとおった先で鬼太郎と対決。猫の亡霊たちを従える。第41話

最期◎鬼太郎に投げ飛ばされ、くずれた岩と一緒につぶされる。その後、鬼太郎たちに慰霊塔を建ててもらう。

90′



またたびを嗅いで腑抜けに

霊界でひき殺されたネコたちの親玉として、ネコたちを操る。人間が車でネコをひき殺すことに怒って復讐のためにネコをひいた人間を「猫打ち症」にする。妖怪自動車で霊界に乗り込んだ鬼太郎たちを「人間の味方をする」と言って怒り、襲いかかった。大きさは巨大だがとくに特殊な能力はない。第62話

最後◎鬼太郎と戦っているとき、砂かけ婆の袖に入っていたまたたびの匂いを目玉おやじが嗅がせ、力が抜け戦意喪失。

原作コミックでは？

「鬼太郎のおばけ旅行」に登場するが設定は異なる。パリのベル[illegible]宮殿に、[illegible]現れる化け猫として描かれる。

は

bakebi

化火



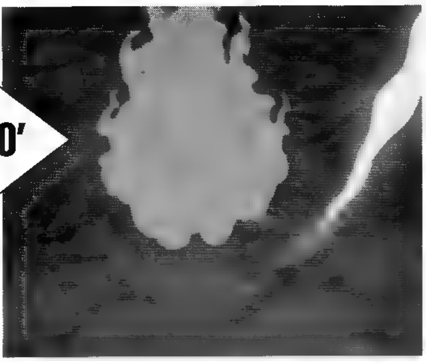
【ばけび】

燃え盛る火の玉の中に人の顔が

『周遊奇談』に出てくる火の化け物。琵琶湖の付近に出没する。90cmほどの火の玉で、火の中に人の顔がハッキリと映る。２人の男が相撲をとっているように見えるともいわれる。

鬼太郎たちのピンチを救う燃える火の塊

80′



1メートルくらいの火の塊で、中に３人の男の顔が見える。ピンチのときに鬼太郎のオカリナによって呼び出される。第15話では、雪ん子と雪女に凍らされた鬼太郎の氷を熱で溶かした。第28話では、鬼太郎の体の中に入ってあたりを高温にし、泥田坊を倒す。第15、25、28話ほか

能力◎空中を燃えながら飛ぶ。燃え盛る自分の体を自在に伸ばしたり、分割したりできる。どんな氷も火力で溶かす。

原作コミックでは？

「妖怪危機一髪」などに登場。火の玉の姿をした炎の妖怪のなかのひとりで、妖怪ハンター・ヒー一族退治に参加する。

bakedako

化けダコ

【ばけだこ】

人間を海に引きずり込む海の魔物

『日本妖怪変化語彙』に蛸入道というタコの妖怪の話がある。島根県隠岐地方に出没し、漁船をひっくり返す、漁師を海に引きずりこむなどの悪さをする妖怪として伝えられる。

大荒れの中から突如出現する大ダコ!!

80′



ハリケーンの中から突然現れ、妖花の元の樹がある島へ向かう鬼太郎たちに襲いかかってきた巨大なタコ。足を切断されても動ずることなく襲い掛かってくる。シナリオでは「大ダコ」と明記されている。第71話

能力◎巨大な体で貝船にしがみつき、強力な力で締めあげる。

最期◎貝船の蓋に挟まれ、もがいているタコの左目に鬼太郎がオカリナ剣を刺したため、貝船から離れ海の中へと退散する。

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

pasha

パシャ

【ぱしゃ】

70′



王に内緒で人を殺して霊魂集めをしようと算段

アラビアの死神。霊魂を集めては、スフィンクス王に献上していた。昔は商売のために砂漠を行き来する人が頻繁に死んだので魂を多く取ることができ、成績優秀な死神としてトロフィーをよく貰っていた。が、現代は車などの乗り物が発達したため、人が死ななくなり、魂を昔ほど集められなくなってしまった。死神の世界では、魂を集めるために人間を殺すのはご法度。そこで、人を殺してもスフィンクス王の目が届きそうもない日本へやってきて、霊魂を200個集めようと算段する。「分け前を１割やる」とそそのかし、日本の死神に協力させ、旅行客の霊魂をとるためのツアーを実行する。行き先の大島・三原山の砂漠地帯で砂嵐を起こし、倒れた隙に日本の死神に魂を取らせようとするが、鬼太郎に阻止されてしまう。第45話

能力◎ターバンを使って首をしめ、口から火をふく。霊魂を干物にして保存し、水で元通りにする方法を編み出した。

最期◎ネコ娘が砂漠の中にアリ地獄を作った。そこに落ちて、二度と出てこられなくなってしまった。

原作コミックでは？

鬼太郎以外の水木作品「[illegible]」に登場。安達ヶ原の鬼婆と大口取り引きをして、成績を稼いでいるトルコの死神。

hataonryou

畑怨霊

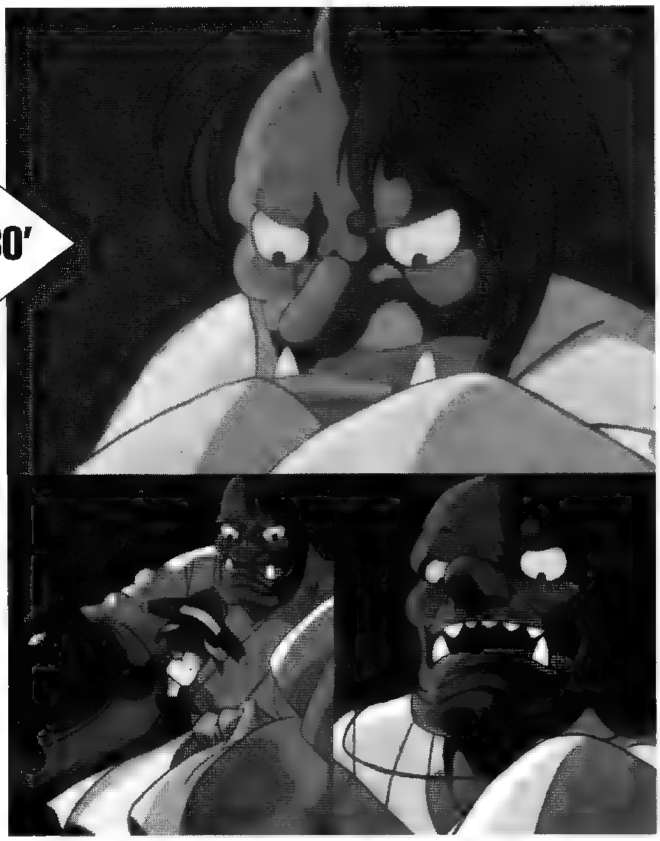


【はたおんりょう】

凶作で餓死した人が恨みを持ってよみがえる

水木しげるの『日本妖怪大全』に記されている妖怪。「凶作で餓死した人を葬式もせずに放っておくと、妖怪となってしまうと信じられていた」との記述が。何をする妖怪なのか詳細は不明。

80′



「小豆をお供えしろ」と畑の中から現れ脅かす

大きな赤い顔に黄色い目の、般若のお面のような顔をした妖怪。岩の塊のような巨大な顔を突き出して「小豆の神様」と名乗る。小豆ばばあ、小豆とぎ、小豆はかりに「小豆をたくさんお供えしないと全世界の作物を不作にする」と脅かす。目玉おやじによると、「凶作になると出てくる、ウソをつくのがうまい妖怪」とのこと。鬼太郎たちに正体を暴かれて、戦うために全身を現すと、白い着物に下駄を履いた巨大な体が出現。第75話

最期◎小豆ばばあやぬりかべ、ネコ娘たちが叩き、一反もめんに乗った鬼太郎が首に縄をまいて引くとあっさり倒れる。

90′



巨大な緑色の顔で人間を脅かす

90年代ではチョイ役としてのみ登場。第13話では、妖怪屋敷でほかの妖怪たちとともに「妖怪などいない」と断言する偉そうな人間を脅かす。劇「おばけナイター」では、妖怪チーム対少年チーム・バトラーズで行った野球の試合を、化け草履や油すましなど、大勢の妖怪たちと見に来る。このときの外見は、巨大な岩の塊のような緑色の顔に白い髪、黄色い目をしていて、体はない。口から火を吹く。第13話、劇「おばけナイター」

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

back beard

バックベアード

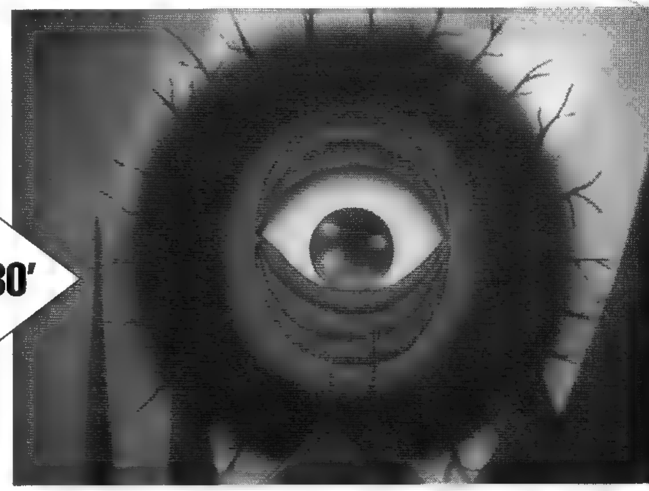


【ばっくべあーど】

親が子どもをしつけるときに使う怪物

英国ウェールズ地方発祥の「バグベア」がその名の名由らしい。黒い毛むくじゃらな体に赤い目という以外詳細は不明。「いい子にしないとバグベアに食べられる」としつけに使われる。

80′



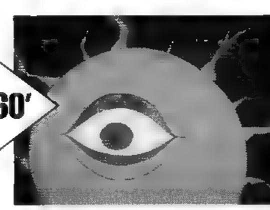
アメリカ妖怪の大統領に選ばれた西洋妖怪のドン

黒い毛の塊のような丸い体の中央に、大きな赤い目がついている。西洋妖怪のドンで、魔女やドラキュラなど西洋妖怪を率いて日本乗っ取り計画を画策。体の中はブラックホールになっている。急所は目。第46、51話、劇「妖怪大戦争」

能力◎目からさまざまな光線を発して攻撃。「燃焼攻撃」で相手を燃やし、「全エネルギー砲」で爆発を起こさせる。

最期◎劇場版では、鬼太郎をつかまえて体内に入れようとするが、髪の毛針を目の玉に打ち込まれ赤く燃えながら退散。

60′



西洋妖怪を扇動し日本乗っ取りを計画

西洋妖怪の首領格として登場。日本を征服しようと企み、その前線基地として鬼界ヶ島に上陸する。また第54話では世界妖怪ラリーにアメリカ代表として参加。第10、11、54話

能力◎目から光線を出して、相手を催眠術にかける。鬼太郎もこの能力で、一度はバックベアードの手下になりかけた。

最期◎灯台のまぶしい明かりに目がくらんでひるむ。そのとき、目の玉を鬼太郎に蹴られ、そのまま倒れてしまう。第11話

90′



ぬらりひょんとまで共謀!!

世界妖怪ラリーに参加し、鬼太郎と最後まで争う。また妖怪王になったぬらりひょんとも共闘して鬼太郎を襲うが、裏切ってぬらりひょんを溶岩に突き落とす。第64、96〜99話

能力◎空を飛ぶ。目からさまざまな光線を発射する。しびれさせたり、焼いたり、催眠術をかけたりと効果は多数。

最期◎第64話では鬼太郎とラリーし岩に当たって砕ける。第97話ではぬらりひょんに光線を浴びせられて倒される。

原作コミックでは？

「妖怪大戦争」に登場。その眼力にちゃんちゃんこも歯が立たなかったが、目玉おやじに針で目を刺されて息絶えた。



バチ傘は、傘化けを見るのじゃ



ハチマキは、団十郎狸を見るのじゃ

pappa

パッパ
【ぱっぱ】

90′



平和な河童淵に訪れた危機を救おうと立ち上がる子河童

河童が平和に暮らす河童淵に住んでいる、カッパ3兄弟の末っ子。まだ幼いため「パッパ、パッパ」としかしゃべれない。かに坊主が河童たちを妖術で操り始めたため、鬼太郎に助けを求めて3兄弟でやってくる。かに坊主に操られた河童たちに鬼太郎が連れ去られたとき、後をついていって鬼太郎を救出。鬼太郎を襲おうとする父親を、体を張って止める。第8話

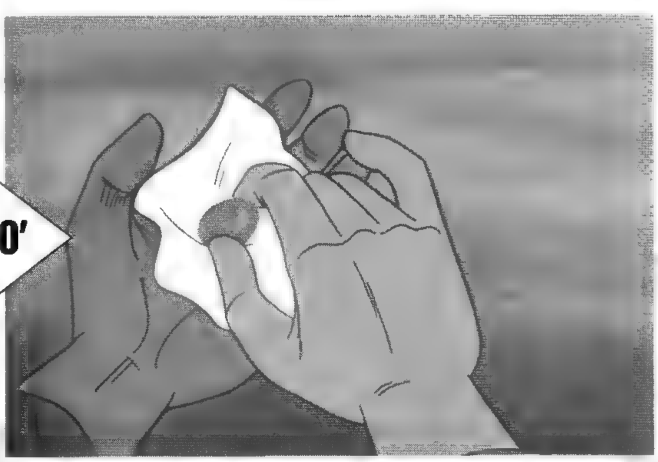
原作コミックでは？

[illegible]

baribari

バリバリ
【ばりばり】

70′



人の持って生まれた能力をバツグンに伸ばす珍妖怪

体内に埋め込むことで、その人の能力を最大限に伸ばすことができる妖怪。卵で人間の体内に入り、体温で孵化する。ダメ息子を有能な人物に変えたい会社の社長が、ねずみ男に頼んで卵を息子の体内に埋め込ませた。が、不都合が起きてバリバリを体外に出すことに。ねずみ男の爪の垢を与えると息子はバリバリを吐き出す。体外に出て空気に触れたとたん消えた。第21話

原作コミックでは？

鬼太郎以外の水木作品「心配屋」に登場。アニメも同じく姿を現わさず、卵を埋め込まれた平凡な青年はすぐに非凡となる。

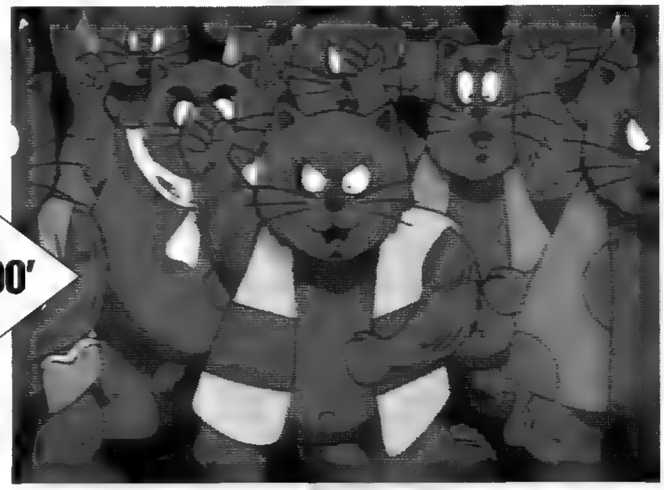
happyakuyadanuki

八百八狸
【はっぴゃくやだぬき】

四国の山中に封じ込められた化け狸

四国に古来から伝わる化け狸。「隠神刑部狸」という親分ダヌキにつき従う。古くから愛媛県松山市の久万山に棲みついていたが、松山城のお家騒動に巻き込まれ、洞窟に封じ込められた。

90′



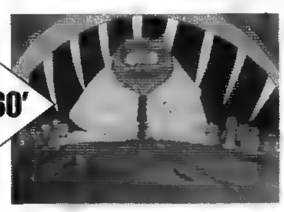
一時的に日本を制圧した凶悪キャラの化けダヌキ

四国の山奥に400年間封じ込められていたタヌキの集団。日本を占領して人間をタヌキの支配下におく「狸王国」を作ろうと企み、親分の刑部狸とともに東京へやってきた。巨大な妖怪獣を操り日本を制圧。興奮すると腹鼓と雄叫びを上げる。第110、111話

能力◎つねに集団で行動し、こん棒で相手をめった打ちしたり、集団で殴りかかったりする。妖怪獣・蛟龍を操る。

最期◎目玉おやじが用意した念が込められた護符によって、再び洞窟の封じ込められてしまう。みんな石になった。

60′



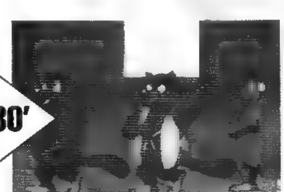
巨大妖怪獣を操る悪狸集団

250年前、天海聖人によって四国の狸山に封じられた化けダヌキの集団。工事の爆発でお札がはがれて復活。刑部狸を親分に、日本を乗っ取る計画を立てる。第21、22話

能力◎岩に化けて、ねずみ男を欺いた。集団でこん棒を持って相手を殴る。腹を叩きながら集団で雄叫びをあげる。

最期◎大ナマズと蛟龍を操って暴れまくるが、目玉おやじにお札を貼られ、再び石になって封印されてしまう。

80′



第3部のみ「要石」が飛びました

行部狸を頭領として日本征服を企んだタヌキの集団。そのほかには、シルクハット狸、飛脚狸などがいる。80年代のみ、大ナマズを抑えていた要石を行部狸が飛ばした。第56、57話

能力◎集団で相手に殴りかかる。妖怪獣・大ナマズと、第2の月から生まれた妖怪獣・蛟竜を操る。

最期◎2匹の妖怪獣を操って暴れ、一度は鬼太郎を溶かしてしまうが、目玉おやじらによって再度封印される。

原作コミックでは？

「妖怪獣」に登場。60年代は原作とほぼ同じストーリー。護符を見つけたねずみ男と目玉おやじに封印される。

は

hanako

花子
【はなこ】

80′







ねずみ男をただひとり信じる、純粋な花の妖精

お花畑に住む、純情可憐な花の妖精。ピンクのドレスと羽衣をまとっていて、金髪で角が2本生えている。性格はピュアで優しく、人を疑うことを知らない。ねずみ男がくれた「招き猫の貯金箱」のお礼に、天然のはちみつをあげる。その貯金箱にお金の代わりに花びらを入れると、貯金箱は怒ってどこかにいってしまう。じつはその貯金箱はお金が貯まるとどこかに消えてしまうという代物だった。それをねずみ男に売りつけられた妖怪たちが怒ってねずみ男を責めたとき、「ねずみ男さんはそんな人じゃない」と、ひとりだけ信じてあげる。花吹雪を出すことができ、ねずみ男に貯金箱を売らせた逆柱を花吹雪の突風で攻撃する。鬼太郎の攻撃で逆柱が息絶えると、指先から花びらをたくさん出して体の上にかけてあげる。第52、108話

能力◎空を飛ぶことができる。指先から花びらを出し、花吹雪を相手に吹きつける。花吹雪を舞わせて瞬時に消える。

60′



かわいい顔してワガママ系

花の妖精。日ごろは鬼太郎たちを軽蔑して口もきかないが、「貯金箱がなくなった」と鬼太郎を頼ってくる。かわいい顔だが、ツンツンしていてワガママ。子供たちのためになくなった貯金箱を探している鬼太郎に、「早く私の貯金箱を探してよ！」と何度も言いにくる。外見がかわいいためにねずみ男はメロメロ。ねずみ男は貯金箱が見つかったあと、喜んで渡しにいくが、「お風呂に入ったら」と冷たく言われる。第44話

原作コミックでは？

「げた合戦」に登場。60年代のキャラが性格、外見とも原作に忠実。ただし原作では夜にねずみ男と[illegible]をしたりする。

hangyojin

半魚人
【はんぎょじん】

頭が魚で両手両足のついた半身半魚の怪物

一般にいわれている「半魚人」とは、アマゾン川やカスピ海などに生息するといわれる半身半魚の怪物。上半身が魚で下半身が人間の姿。全身がうろこで覆われ、両手両足にエラがある。

70′



ダイナマイトで鬼太郎を爆破し、かまぼこに

亀を食べる直前に鬼太郎に阻止され、怒って子分の化けイカに鬼太郎を襲わせる。飲み込まれてイカになった鬼太郎に魚をとらせ、かまぼこにして売り大もうけ。じゃまになった鬼太郎もダイナマイトで爆破して、かまぼこにして売りさばく。第13話

能力◎子分である化けイカを一声で操ることができる。鬼太郎を襲うように指示し、パクリと腹の中に飲み込ませた。

最後◎女中に化けた鬼太郎にそそのかされ、妖怪病院で人間に。税金や公共料金の取り立てが押し寄せてきて後悔する。

80′

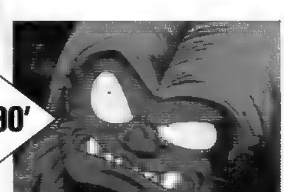


人間の娘と結婚したいと願う

半身半魚の妖怪。人間の娘に片思いをして、ねずみ男に仲介を頼んでその娘と結婚しようと企む。口から真珠を出して得たお金で、人間に変身しようとデパートで一張羅を買ってお見合いに臨む。それを阻止しようとする鬼太郎を化けイカを使って襲う。最後は、人間と結婚したいため、妖怪病院で人間になる。第20話

能力◎口の中からいくらでも真珠を生み出すことができる。貝のリモコンを使って、化けイカを好きなように操る。

90′



ぬらりひょんの片棒をかつぐ

海の底に棲む半身半魚の妖怪。化けイカを操るほかはとくに能力は持っていない。ぬらりひょんの口車に乗せられ、海で溺れたふりをして鬼太郎をつかまえる。化けイカに命令して鬼太郎を飲み込ませ、妖力を閉じ込めた「妖怪真珠」を生ませる。しかしぬらりひょんの裏切りに合い、仕返しとして妖怪真珠に明かりをともした妖怪灯台にしのびこみ、妖怪真珠を取り上げて割る。おかげで鬼太郎に妖力が戻った。第60話

原作コミックでは？

「かまぼこ」のほか、「死神大戦記」「鬼太郎のおばけ旅行」に登場。「死神～」と「～旅行」では西洋妖怪のひとりとして描かれる。



ピーは、吸血鬼ピーを見るのじゃ

hiichizoku

ヒ一族【ひいちぞく】





80′



妖怪に恐れられる、妖怪でも人間でもないヒルの化身

過去に妖怪と何度も戦い、妖怪たちを絶滅寸前に追い込んだ妖怪の天敵。妖怪でも人間でもなく、妖力を消す能力があり恐れられている。その誕生は、各種の毒虫を缶に入れて共食いさせ、一年後に生き残っていた最後の一匹に霊草を与え、そのフンを混ぜた水にヒルを入れて生長させたもの。自分たちを誕生させた者を神と崇める。神棚の中国妖怪・女夜叉の声に操られ、口からガスを吐き妖怪たちをぬいぐるみにしてしまう。ふだんは、その妖怪ぬいぐるみを売って暮らしているが、妖怪を狩るときには戦闘服に身を包み圧倒的なパワーで妖怪たちを攻撃していく。女夜叉は、鬼太郎をもぬいぐるみにして、日本の妖怪を支配するのが目的だった。第91話

能力◎口から吹く紫のガスで、妖怪をぬいぐるみにしてしまう。妖怪の毒や妖力を中和させ消す。

最期◎骨壺の中の薬を飲み元に戻った鬼太郎に、海に投げ入れられる。海水によって体から毒素が消えうせた。



90′

鬼太郎の母親に化け、毒をもる

かつて妖怪界を束ねようとして失敗し、妖怪界と人間界から追放された「ヒ一族の巫女」。死神をそそのかし、鬼太郎たちを亡き者にして妖怪たちを支配しようと企む。第114話

能力◎鬼太郎の母親に化けて、鬼太郎に毒を食べさせる。正体を現して白蛇となり、巨体で鬼太郎を締め付ける。

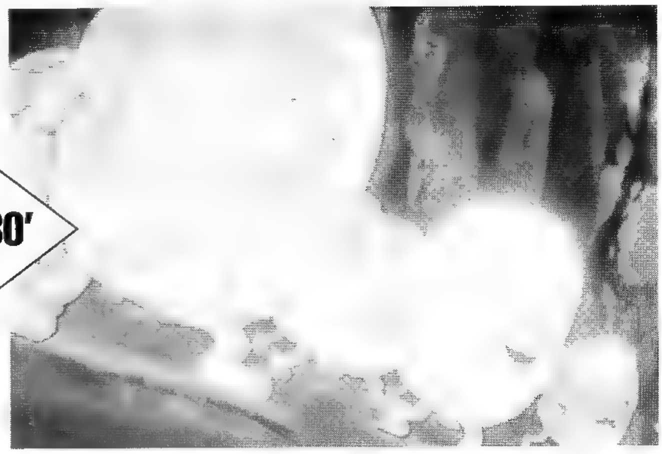
最期◎鬼太郎の母親の魂が入ったアゲハ蝶の光を受け、鬼太郎のチャンチャンコに顔を覆われて消滅する。

原作コミックでは？

「妖怪危機一髪」では、妖怪を料理し金を稼ぐ。父親の入れ歯は相手を食いちぎる。女夜叉が死ぬと、元のヒルに返る。

hiotoko

火男【ひおとこ】





80′

無言で迫る、全身が「奥の院」の地獄の番人

ふだんは地獄の壁にずらっと埋まり眠っているが少しでも音がするとカッと目を見開き、侵入者めがけて迫ってくる。全身の火の熱によって相手の攻撃力を無効にしてしまう。地獄へやってきた鬼太郎たちに複数で迫り寄り、血の池に追い込んでしまう。第114話

能力◎迫り寄り、相手に火をつける。その高熱は、近くに寄っただけでのぼせてしまうほど。

原作コミックでは？

「最期の出会い」に登場。地獄の溶岩の妖怪で、壁と一体化している。燃え盛る灼熱の体で集団で襲いかかってくる。

hikyakudanuki

飛脚狸【ひきゃくだぬき】





80′

神通力をもつ刑部狸に仕える情報員

行部狸を筆頭に、人間界を支配し、狸城を建設していく八百八狸の一匹。配下の人間の公務員は狸の尻尾をつけられ、コントロールされる。ゴーグルを付け、赤いバンダナを首に巻いたパイロットのような格好で、戦場の情報を集める。報告時の一瞬しか姿を見せない。第57話

能力◎素早い動きで、刑部狸に戦局の報告をする。

原作コミックでは？

TVアニメのオリジナルの妖怪。

hiderigami

ひでり神

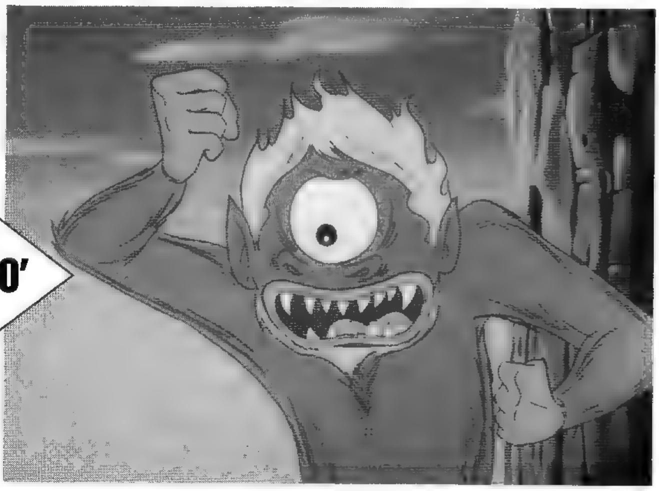
【ひでりがみ】



中国から伝わった、俊足の獣身

古代中国の書『山海経』には、旱魃をおこす怪物「魃」とある。石燕の『今昔百鬼拾遺』や『和漢三才図会』には、猿のような姿で、足は風のように速く、現れると大日照りになるとある。

60′



煮えたぎるマグマに落ち、なお強くなる

雲、温度、湿度、自然の気象条件が合うと出現。街で暴れたがっていたところをねずみ男と出会い、２人で漫画雑誌の編集者を誘拐して、身代金を要求しようと画策。じゃまをする鬼太郎も亡き者にしようと襲いかかる。隠れ家はひでり山の洞穴。第43話

能力◎妖怪ホバークラフトを操る。口から炎を噴き、火口に落とされてパワーアップ。さらに岩を吸収し巨大化。

最後◎野づちに吸い込まれ、吐き出されるものの1000年分の生気を吸われヨボヨボになってしまう。

80′



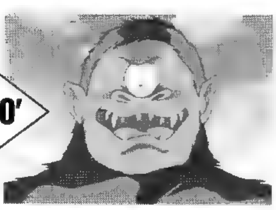
漫画を描こうと意気込む

ねずみ男に誘われ漫画を描くが、ダメ出しされ自信を喪失する。野づちに吸い込まれ、生気を吸い取られてよぼよぼに。第29、43、52、57、80、104、108話、劇「最強妖怪」

能力◎口から火を吹き、ホバークラフトを操る。全身を火で包み、熱の力で強くなる。

最後◎野づちに吸い込まれ、生気を吸われておとなしくなる。ねずみ男が漫画を描くのを手伝う。

90′



機械化された酒の味に不服、大暴れ

年に一回、うまい酒（山一錦）を飲んでおとなしくしていたが、機械で作られた酒の味を偽物として激怒。雨雲を消し、米農家を困らせることで怒りを晴らそうとした。第76話

能力◎口から火を吹く。火の中に入って、熱すれば熱するほど、強い炎の塊になる。

最後◎砂かけ婆たちが雨雲を連れて現れ、雨を降らし、ひでり神の力を封じる。最後は酒を作っている一家と楽しい宴会を。

原作コミックでは？

「ひでり神」では、熱風を吐く。「月の妖怪・桂男」でも桂男に呼び出され、相手の水分を蒸発させて降参させた。

hitokuijima

人食い島

【ひとくいじま】



60′



生け贄を要求する、巨大な人間の形をした島の妖怪

和歌山県の笹岡村沖合いにある巨大な島。「海神様」として、毎月２人の生け贄を要求。生け贄を断わられると津波を起こし、町を破壊してしまう。妖怪ポストの手紙を盗んだねずみ男は生け贄のことを知り、島へ急行。ねずみ男はマネキンの生け贄を渡し、生け贄を救うが、人食い島はさらに怒って津波を起こす。責任をとって生け贄となった村長と鬼太郎は人食い島の体内に潜入するが、村長は溶かされてしまう。鬼太郎はちゃんちゃんこのおかげで無事であった。島全体が人体と同じ構造をしており、生け贄を養分として1000年も生き続けていた。第42話

能力◎鼻息は突風となって人を襲う。生け贄が口から入るとその体を溶かしてしまう。生け贄を断ると大津波を起こす。

最期◎飲み込んだ胃の中の鬼太郎に、何でも溶かしてしまう胃液をスプレーされ溶けてしまう。

80′



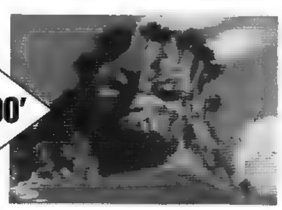
海和尚に乗り移られた「人喰い島」

「人喰い島」と呼ばれる。島全体が人の形をしている。本来は無害な島妖怪だが、若い娘の肝を食べれば人間に戻れると信じる海和尚が住み着き、村に若い娘の生け贄を要求する。第76話

能力◎巨大な人間の姿をしており、内蔵もすべて揃っている。呑まれた人間は胃で消化され、肛門の部分から排出される。

最期◎島に隠れる海和尚を追い詰めた鬼太郎が放電。海和尚を心臓弁へ流れさせて退治する。元のおとなしい島妖怪へ戻る

90′



真珠の首飾りに込められた約束を守る

巨大な島の妖怪。1000年前に人質となった美しい娘との約束で、人を食べるのをやめたが、彼女の形見の首飾りをねずみ男に盗まれ逆上。島にいる人間たちを溶かそうとする。第20話

能力◎口から人間を飲み込み、胃液で消化して排泄する。大波を起こす。また人間体をしており、動くことも可能だ。

最後◎事情を知った鬼太郎によって、首飾りが人食い島の手に返される。怒りがおさまり元の静かな島へと戻る。

原作コミックでは？

「人食い島」では、凄まじい呼吸力で風を操り海神として生け贄を要求。一見洞窟の様な口の中は人体内にそっくりで、人間を消化する。

hitokuiuchi

人喰い家
【ひとくいうち】

80′



山小屋からマンションへ。成長する、妖怪・家鳴の住みか

山奥で暮らしていた妖怪・家鳴の住みかだったが、人を食う快感を覚えてどんどん食べ始め、そのたびに成長するようになった。藁葺きの山小屋から普通の一軒家へ変わり、次に特大の洋風アパートへ、さらに近未来風の高級マンションへと成長していく。妖怪戦車の野づち砲に家鳴は吸い込まれ、さらに妖怪戦車の体当たりで崩壊。食われた人々は元に戻った。第92話

原作コミックでは？

鬼太郎以外の水木作品『一万人目の男』がベース。人を食っては成長していく家の話で、住民である妖怪・家鳴は出てこない。

hitokuimokuzu

人食いもくず
【ひとくいもくず】

70′



沼に住む、引っ付いて離れないプランクトンの塊

山の中の沼に住むプランクトンが、プラスチックの塊のようになったもの。人間に引っ付いて、剥がそうとしてもなかなか剥がれず、最終的にガイコツにして沼に沈める。野良犬たちが山ほど車にひき殺されていることに腹を立てたすねこすりが、人食いもくずを怪自動車に作り上げて操り、人を沼まで引きずり込む。そうして車を持たないように警告をしていた。第14話

原作コミックでは？

鬼太郎以外の水木作品『妖怪自動車』が原作だが、人食いもくずは出てこない。乗った人を食べてしまう自動車の話。

hitokuibana

人喰い花
【ひとくいばな】

90′



ジャイアントによる幻影？　妖魔城に生息

妖魔城にいる妖怪花。花より下のサボテンのような部分は地中に埋もれ、敵が近づくと飛び出してぴょんぴょんと跳ねながら集団で追いかけてくる。花びらの中央から黄色く太いホースのようなものを突き出し、敵を丸呑みにする。第98、99話

能力◎ 近づくと、跳ねながら追いかけてきて丸呑みにする。

最期◎ ジャイアントの分身の術を破ることによって消えた。

原作コミックでは？

TVアニメオリジナルの妖怪。

hyakkiyagyounooni

百鬼夜行の鬼
【ひゃっきやぎょうのおに】

火を灯し行列する、異形の者

「ひゃっきやこう」とも読む。夜中に異形の者が列をなして歩き、出会うと遠近の者が死ぬといわれている。『拾芥抄（しゅうがいしょう）』では、出現する日が決まっており、その日は外出を控えたという。

仲間思いの、魂の通り道の番人

90′



病気の兄貴と、その子分3人が登場。普段は魂の通り道の番人で、夜な夜な行列を組み、魂があの世へ行くのを見張っている。魂を集めて飲めば病気が治るという迷信を信じ、兄貴のために廃墟の病院で魂を集める。第91話

能力◎ 金棒をプロペラのように振りまわし、鬼太郎の髪の毛針もはね返す。結界の糸（網）を張る。鬼の張ったこの網は、金棒でないと切れない。

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

hihoukou

火ほうこう

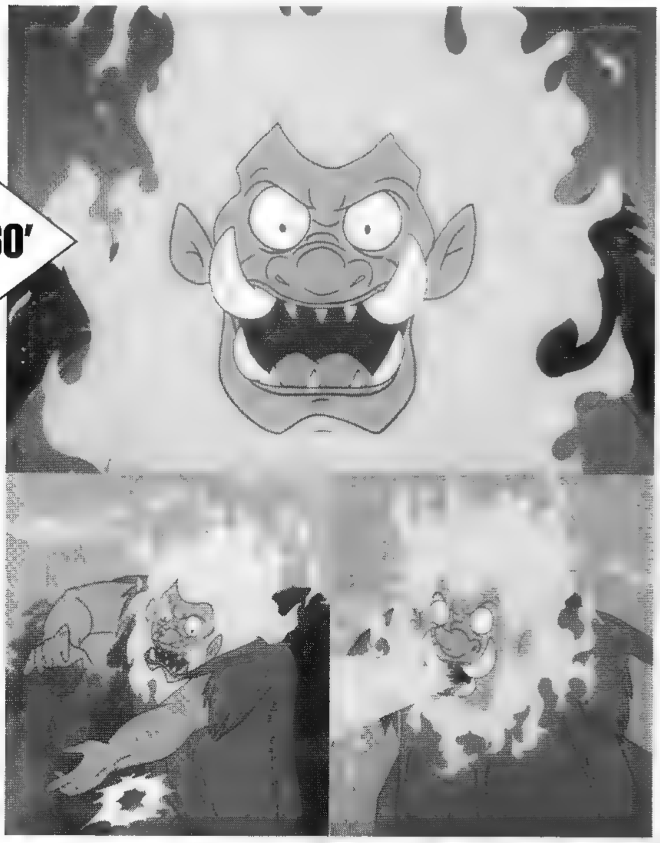


【ひほうこう】

伝承に残るほうこうはまったく違う

木の精との説明付きで、鳥山石燕の『今昔鬼拾遺』に描かれるほうこう。しかし、地水火風を操るという記述はない。火ほうこうは、アニメ（原作も含め）のオリジナルのようだ。

60′



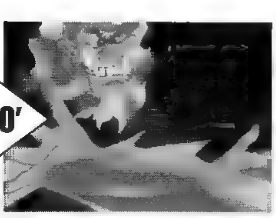
ほうこうが操る、地水火風のほうこうのひとり

元は木の精。火ほうこうは、ほうこうが変化したもので、ほかにも地ほうこう、水ほうこう、風ほうこうがいる。顔はめらめらと燃える炎のような風貌だ。ほうこうは、ねずみ男による住みかへの放火に怒り、生命の根源である地水火風のほうこうへと変化。口から火を吐き、リモコン下駄と格闘する。第65話

能力◎口から勢いのある炎を吐き出し、敵をめがけて吹きかけ燃やしてしまう。リモコン下駄をも燃やす。

最期◎砂かけ婆と子泣きじじいの妖力によって蘇った鬼太郎に、水ほうこうと束ねられ中和させられて無となる。

90′



分裂し炎を操るほうこう

砂かけ婆の壷に詰められたほうこうが、地水火風の4種のほうこうに分裂したひとり。漬物樽を燃やされ、漬物が台無しだと怒り、火を放ちながら攻撃。鬼太郎ファミリーをピンチにおとし入れる。その正体は、2000年以上生きた巨木の妖怪だった。第41話

能力◎指先や手のひらから勢いのある火を放ち、敵を燃やす。

最期◎鬼太郎のムチで水ほうこうとぶつけられ、互いの力を消し合い無になってしまう。

原作コミックでは？

「ほうこう」以外では「妖怪 本所七ふしぎの巻」で、ぬらりひょん主催の集会に、仮面をかぶったほうこうの姿が。

hyakume

百目



【ひゃくめ】

ユング『変容の象徴』の挿絵がモデル？

水木しげる『日本妖怪大全』によると、体中に百の目がついた化け物で、人に会うと目玉が飛び出してついてくる。カール・グスタフ・ユングの『変容の象徴』では百目鬼として紹介。

脱獄の手助けの裏に謀略あり

80′



全身に100個の目玉が付いた妖怪。百目神社に住む。目玉を飛ばし刑務所の囚人と連絡をとり、脱獄の手はずを整える。脱獄囚に水晶を見せ、生きたまま地獄のはしっこへ送還。狙いは50人の凶悪犯の目玉を集めて、自分のコピーを作ることだった。第65話、劇「妖怪大戦争」

能力◎目玉を飛ばす。妖怪風船となり妖気ガスを吐くなど。

最期◎妖怪風船に穴を開けられ落ちてしまう。

原作コミックでは？

「阿部の奇連盟」では全身の目を飛ばして攻撃。また「鬼太郎と妖怪大相撲の巻」でも登場している。

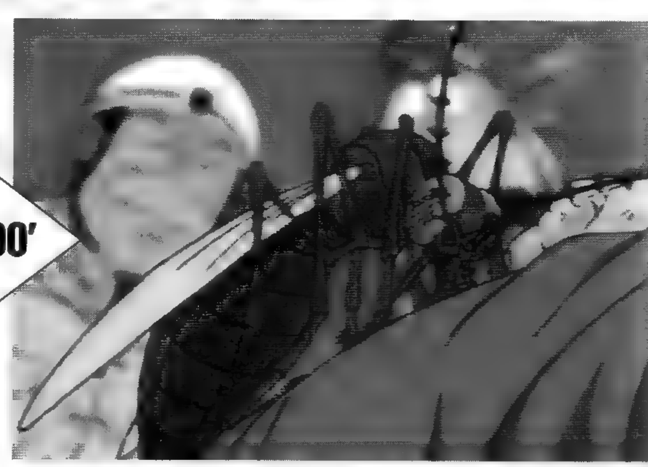
byouchu

病虫



【びょうちゅう】

90′



合体すると大化けする、穴ぐら入道の飼う虫

トンネル工事に怒る山の神、穴ぐら入道に操られる妖虫。ふだんは穴蔵にある瓶の中にいる。毒のある虫を、妖気を封じ込めた瓶の中で飼っておき、変化させたもの。赤い目玉の巨大な蚊のような容姿で、人間の生気を吸い取り、発熱させる。第107話

能力◎生気を吸い発熱させる。瓶の中で合体し、大ムカデとなる

最期◎髪の毛針で退治される。大ムカデとなり決壊の壁となる。

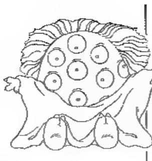
原作コミックでは？

TVアニメオリジナルの妖怪。

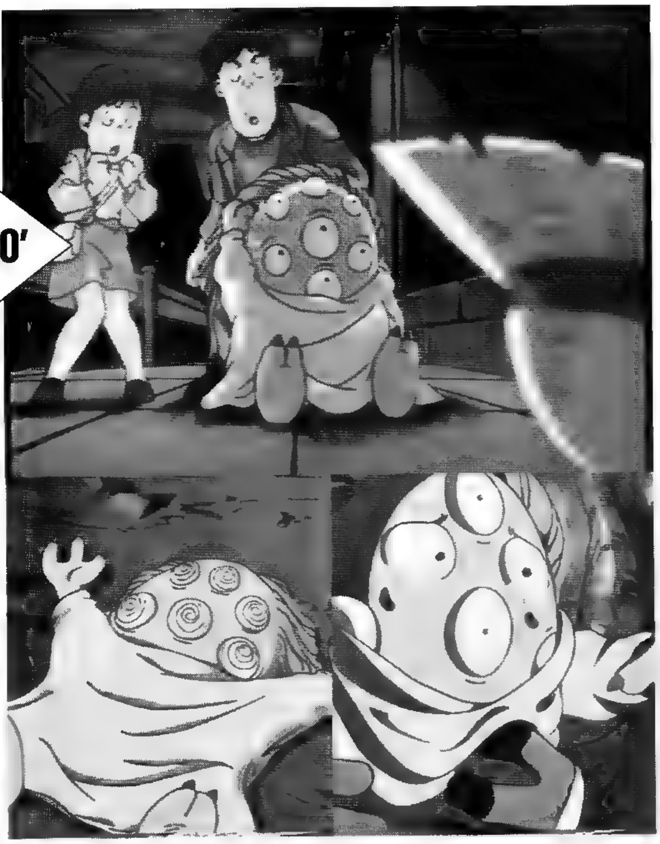
hyakumenobouya

百目の坊や

【ひゃくめのぼうや】



90′



まだ妖力を開花させていない、偉大な父の子

百目の子ども。お父さん子で、好奇心が旺盛だが臆病。砂かけ婆に預けられていたが、勝手に外へ出て人間界で迷子になってしまう。辺りを「遠目」で覗いて回ることができるため、ねずみ男に金儲けの材料にされそうになる。「遠目」をしている時、花が満開の妖怪樹を発見。テントを抜け出し、妖怪樹を見に工場跡へ行ったところ、ぬらりひょんたちに捕まってしまう。助けに来て逆にピンチとなった鬼太郎、砂かけ婆を助けるため、勇気を出して、秘められていた能力「金縛り」を開花させて、2人を救う。助けられた後、百目に手を引かれ帰っていく。第92話

能力◎5km以内を、目を一個飛ばし「遠目」で覗いて回る。金縛り。じつはその妖力は妖怪界でも1、2を争うほど。

60′



気の弱い、泣き虫の坊や

折しも妖怪界で野球がブームになっており、思ったとおりに球を打てるという妖怪チームのバットを墓場になくしてしまう。つるべ火に伴われ、泣きべそをかきながらバットを探していて、鬼太郎と会う。人間の少年がバットを拾ったことを知り、牙ぐるいに怒られてしまうと鬼太郎に泣きついた。また西洋妖怪との戦いで、ねずみ男の呼びかけに集ったが、結局戦いには参加しなかった。第1、10話

原作コミックでは？

水木しげる原作の『悪魔くん』には、60年代版と同じデザインの百目の子がレギュラーとして登場する。

hyousube

ひょうすべ

【ひょうすべ】



その鳴き声から？　名の由来諸説あり

九州でいう河童のことで、ヒョウズンボなどともいう。「ヒョウヒョウと鳴きながら渓流を行くことがある」と語られる。ひょうすべの姿を見た人間は必ず病気になってしまうともいわれる。

60′

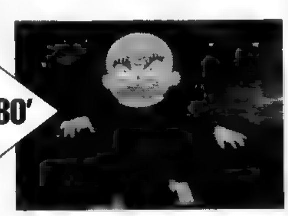


人間征服のため、その能力を利用されそうになる

九州にいる日本妖怪。鬼太郎たちと西洋妖怪との戦いで、バックベアードの目から発する妖力によって手下となってしまった鬼太郎が、人間を支配するためにひょうすべの利用を提案する。鬼太郎は「以前、面倒を見たことがある」と語っていた。ひょうすべの姿を見た者は必ず病気になり、またその人間を見た者も病気なる、といわれている。第10、11話

能力◎自分の姿を見た者を病気にさせる。また、その人間の姿を見た者をも病気にさせる。

80′



目立つ色なのに存在感薄い!?

緑色の体をした妖怪。お化けを信じない会社員と鬼太郎が言い争いとなり、鬼太郎は暴力を振るわれ、たんこぶを作る。仕返しをするため、酔っぱらった会社員2人を、臨時の特別便と偽り幽霊電車に乗せる。駅の中で、会社員2人の前に現れ、驚かそうとするが、酔っぱらっているため気付いてもらえず、しょんぼりする。その後も鬼太郎の仲間として、たびたび顔を出すようになる。第6、46、53、54、68、84、104話

90′



両手に魚をぶら下げて登場

ぬらりひょんの仕組んだ妖怪城へ向かう鬼太郎たちの前に、海から西洋妖怪のブイイが現れる。強力な力の前にピンチになる鬼太郎ファミリー。そんな時、助っ人として登場した。小豆三妖怪とともに参上し、魚の差し入れを持ってくる。また、城では、人喰い花に吸い込まれそうになり、必死で逃げるが、結局吸い込まれてしまう。鬼太郎がジャイアントを倒したことにより、人喰い花は消滅して助かる。第98、99話

原作コミックでは？

『妖怪コンビ！わいらとサガリの巻』ではスパイとして殺される。『さら小僧』『妖怪大裁判』などにも端役で登場。

binbougami

貧乏神

【びんぼうがみ】

囲炉裏に住むとされる疫病神

家に住みつき、貧乏にする神。「窮鬼」ともいう。昔話や落語では押し入れに、民間伝承では囲炉裏に住むとされる。新潟では年越しの夜に囲炉裏で大火を焚くと逃げていくとされた。

80′





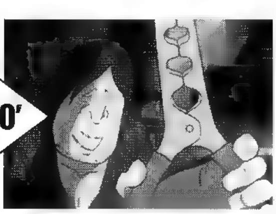
金儲けをしている家に行けと言われる、迷惑な存在

東北のある山村の、人のいい老夫婦の家に住みつき貧しくさせる。おかゆを盗み食いしたり、後から家にやってきた座敷童子に出ていけと言って言い争いをしたりする。鬼太郎たちにおびき出され、老夫婦の家を追い出されるが行き場に困り、ねずみ男にとり憑こうとする。第12、55、108話、劇「最強妖怪」

能力◎家に住み着き、貧乏にさせてひもじい思いをさせる。作ったご飯を盗み食いしてしまう。

最後◎食べ物につられ、老夫婦の家から追い出される。鬼太郎にムチでまかれ、ぬりかべに打ち付けられる。

70′



死神と手を組み、ひと芝居

最近は人間が豊かになって貧乏神にとっては不景気。死神と手を組み、揺りかごから墓場までの「ゆりかごカプセル」を発表。過激なデモンストレーションを行う。第42話

能力◎何の武器も使えないが、工場内の6万ボルトの電流を使い、鬼太郎を失神させ、「ゆりかごカプセル」に閉じ込めた。

最後◎死神とともにみずからが開発した「ゆりかごカプセル」に閉じ込められ警察へレッカーされる。

原作コミックでは？

まったく同一ではないが、「スポーツ狂時代」「野球の巻」に、金にうるさい高校の教師の貧乏神先生が登場する。

buii

ブイイ

【ぶいい】

地中に住んでいる魔性の老人“土の精”

19世紀の作家、ゴーゴリの「妖女（ヴィイ）」が起源であり、一般的にはゴーゴリの創作と考えられている。地中に住んでいると信じられている、恐ろしい魔性の老人を意味する。

90′







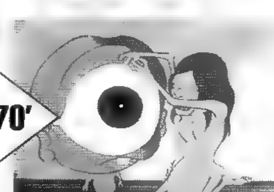
まぶたで一つ目を隠し、極寒の海から現れる

西洋妖怪四天王のひとり。ぬらりひょんの潜む妖怪島へ向かう鬼太郎たちの行く手を、海に流氷を張って阻止した。大口を開き、鬼太郎たちを吸い込もうとする。化け鯨に体当たりされ、輪入道を呑みこんで体温が上がり、耐えかねて隠していた目を見開く。輪入道が腹から飛び出す時、前歯を2本折られた。第98話

能力◎大口を開けて息を吸い込み、敵を呑み込む。冷たい息を吐きかけ、敵や髪の毛針を氷漬けにする。

最後◎まぶたをめくった目玉に鬼太郎のリモコン下駄を当てられて退散し、海の底のほうへ潜っていく。氷は解けていった

70′



死人に取り憑く魍魎として登場

「土精」という一つ目の妖怪として登場。八角円に入ると、入った者は妖怪たちから見えなくなるが、土精の大きな目には見える。まぶたはほかの妖怪に上げてもらう。第6話

能力◎まぶたを開けてもらい目を開くと、見えないはずの八角円に入った者を見とおせる。

最期◎目玉に髪の毛針を受けて倒れる。朝陽を浴び、ほかの魍魎とともに乾燥して消滅する。

原作コミックでは？

ブイイとしては「妖怪実力選手権大会」「恐怖の地獄童子の巻」、土精としては「妖怪大裁判」に登場した。

風神は、風の神を見るのじゃ

ブエルは、悪魔ブエルを見るのじゃ

fukurosage

ふくろさげ

【ふくろさげ】

長野に伝わる、袋を提げた狸の妖怪

長野県大町市に伝わるタヌキの妖怪で、突然高い木の上から白い袋を下ろすという。民俗学研究所編『総合日本民俗語彙』や、柳田国男『妖怪談義』などにもその名が登場する。

80'



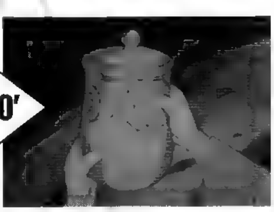
欲深さが仇となる、タヌキの風貌をした妖怪

持っている袋で妖怪を包み込み、妖気を吸い取る、欲深い性格。昔の妖怪が苦労して壷に封じ込めたが、ねずみ男により復活。自分を封じ込めた妖怪たちを怨んで復讐を誓い、人間にも妖怪の恐ろしさを知らしめると意気込む。第27、91、108話

能力◎袋で妖怪エネルギーを吸い取り、紙のようにペラペラにする。袋にためた妖気で壁に穴を開ける。

最期◎鬼太郎の肩に噛み付き妖気を吸い取るが、吸い取りすぎで体が膨らみ、破裂する。再びつぼに封印された。

70'



妖怪にとっては危険な妖怪

人間の欲望を叶え、妖怪エネルギーを吸い取って生きる。その昔、妖怪たちによって封じ込められ山奥の洞窟に埋められていたが、2人の泥棒によって悪用されてしまう。第20話

能力◎つぼのなかに入っており、妖怪エネルギーを吸うときにはゲル状となって相手の体内へ。人間の願いを叶える。

最期◎妖怪エネルギーを吸収しようと鬼太郎の体内へ入るが、体電気を浴びて逆にエネルギーを吸われてしまう。

90'



人間の欲望で、妖力をため込む

元々は中国出身の豆狸で、縄文時代に日本に渡ってきた。古狸の玉袋が妖力を持った。現代人の欲望のパワーで強くなった。鬼太郎の“袋”をも狙う。第88話

能力◎欲望の幻想を見せ、欲の力を妖力とする。袋の中に取り込み、消化する。お腹を叩き、中にいる人を苦しめる。

最期◎ぬりかべが袋へ入り、玉袋を破裂される。ちゃんちゃんこに妖力を吸い取られ、かわいい豆狸の姿に戻る。

原作コミックでは？

「ふくろさげ」に人魂のような形で登場。他の妖怪のエネルギーを主食とする。鬼太郎のエネルギーを吸い取ろうとして自滅する。

futakuchionna

二口女

【ふたくちおんな】

髪で隠した後頭部に歯の生えた大口あり

「飯食わぬ女房、夫の留守に後頭部の口で大食いする」という昔話としても知られる。本性は山姥や蜘蛛とされている。『絵本百物語桃山人夜話』には、意地悪な継母として登場する。

60'



俊敏に動く髪の毛で、敵を締め付ける

入らずの森で冬眠に入っていたが、ねずみ男によって100年の眠りから復活。妖怪城を建て、人間を妖怪にしようと企む。劇中ではひとつの口しか見せず、名前も呼ばれなかった（シナリオでは「大口女」)。第3話。またねずみ男主催の「妖怪ショー」に出演。乱暴な客から口につっかえ棒をされてしまう。第7話

能力◎髪の毛を伸ばして相手を捕まえ、締め付ける。巨大な口で相手を呑み込む。

最期◎妖怪城とともに、再び封印されてしまう。第3話

80'



パトカーも持ち上げる髪の威力

たんたん坊と組み、この世を治めようと企む。髪の毛を伸ばして巻き付け、子どもをさらう。後頭部の髪の中に大きな口があり、鬼太郎を食べようとする。第1、86、91話

能力◎後頭部にある牙のついた大きな口で、食い付く。長い髪が伸び、人を締め付ける。

最期◎捕った鬼太郎を助けに来た砂かけ婆に砂をかけられ、視界を失って妖怪城の高所から地に落ちる。

90'



牙ある口で噛み付こうとする

後頭部に大きな口を持つ妖怪。たんたん坊らと妖怪城を復活させ、13人の生け贄の妖怪を集める。無敵となる夜だけの世界にして、世の中を支配しようとした。第66、67、106話

能力◎蛇のように伸びる髪を自在に操り、敵を締め付けたり、投げつけたりする。後頭部の大きな口で相手を呑み込む。

最期◎太陽の光を浴び、妖力が弱まったところをネコ娘に顔を引っかかれる。締め縄をされた城とともに封印される。

原作コミックでは？

「妖怪城」「妖怪大裁判」「再生妖怪軍団の反撃！の巻」に登場。「死神大戦記」にもひとコマのみだが登場する。

fukkeshibabaa

吹消婆

【ふっけしばばあ】

石燕が創作？　行灯の火を吹き消す

火消婆（ひけしばばあ）として、鳥山石燕『今昔画図続百鬼』のみに登場し、「苦手である火を消す」として描かれている。鍋田玉英画『怪物画本』には、「ふっ消し婆」の名で模写されている。

90′



電気ばかりの現代に腹を立て、人間を困らせる

本来はろうそくの火を吹き消すだけの妖怪。美女の姿で、ねずみ男にキャンドルの火を灯してもらい、吹き消していた。だが、電気ばかりで火が少ない現代に腹を立て、遊園地の観覧車やジェットコースターを吹き飛ばそうとする。鬼太郎のちゃんちゃんこを着てパワーアップし、姥が火を倒す。第50話

能力◎息を吹きかけ、炎を消す。口から強風を吹きつけ、リモコン下駄すらはね返した。

最後◎姥が火との対決で100年分は吹いた、と満足して、美女の姿になり遊園地の観覧車の下に消える。

80′



火だけじゃなく運命も吹き消す

ねずみ男と共謀して、へぼレスラー・タンク松竹の手相を消して運命を変え、強い力と凶暴性を与えた。その力を悪用し、銀行強盗をさせようとする。第8、54、80話

能力◎たい焼きのマシンのようなものを使って、人の手相の運命線まで吹き消して、人の運命を変える。

最後◎妖怪挑戦状にもとづく勝負に敗れて居直るが、罰を受けて退散し、タンク松竹から手を引く。

原作コミックでは？

「吹消婆」に登場。そのほか「おどろおどろ」ではのん気に酒を飲み、「妖怪大戦争」では日本妖怪軍のひとりとして登場。

funayurei

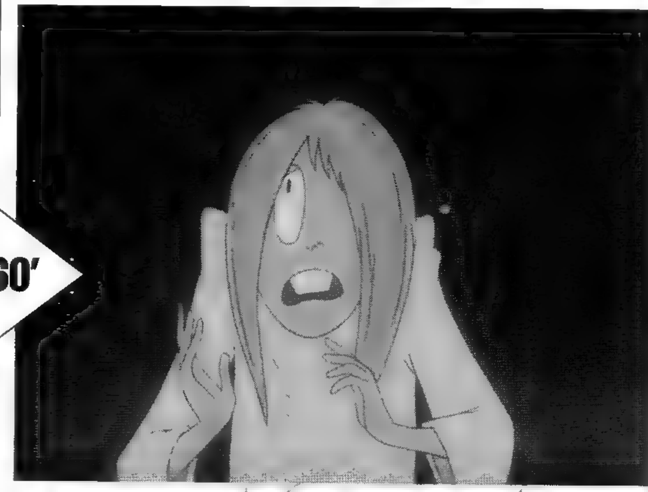
船幽霊

【ふなゆうれい】

全国各地でいわれる、海の怪異

海や川で死んだ人の霊が船とともに姿を現し、仲間に引き入れようとするもの。各地の民俗資料や江戸時代の怪談本などにも多く記述が見られる。怪火、怪光、幻影、怪音などのパターンもある

60′



魂を奪われ、サラリーマン生活を強いられる

海座頭に魂を奪われて操られている、海難事故の遭難者たちの霊。海座頭の財産を増やすために働かされていた。船にひしゃくで海水をかけ、沈めて財産を奪う。第26話では鬼太郎たちのイカダで栽培していたもやしに海水をかけ、全滅させてしまう。鬼太郎が海座頭を退治すると、もとの人間に戻れた。第26話

能力◎ひしゃくで船に海水を入れて沈ませる。海中を泳ぐ。

最期◎鬼太郎に魂を閉じ込めたつぼの蓋を開けてもらい、風船状の魂を手に入れ人間に戻る。

80′



海座頭に操られて船を沈める

船に乗って集団で現れ、ほかの船にひしゃくで海水をかけて沈めてしまう。源平時代以来、争いを繰り返す人間たちに対しておろかなことはやめろと伝えたい海座頭が、船幽霊を使って船を沈めることでメッセージを発していた。第50話

能力◎ひしゃくで海水をすくい、船にかけて船を沈める。

最期◎同じ過ちを繰り返すなと言い残して、海座頭は消えた。鬼太郎につぼに入った魂を開放してもらい人間に戻る。

90′



海和尚に操られた、哀れな魂

海で遭難した人の魂。謎の多い妖怪とされていた。ひしゃくを渡すとひしゃくとともに巨大化し、海水をすくって船を沈める。海和尚によって幽霊にされ操られていた。第77話

能力◎漁に出ている漁師へ、ひしゃくをくれと迫る。ひしゃくを渡すと、海水をかけて船を沈ませる。

最期◎鬼太郎たちが船幽霊を操っていた海和尚を退治し、船幽霊製造の液体を逆流させる事によって人間に戻った。

原作コミックでは？

「海座頭」で、船員が魂を奪われ船幽霊となる。沈めた船の宝を海座頭に納めさせられていた。魂を解放され、人間に戻る。

furaribi

ふらり火
【ふらりび】

絵だけが残る、炎に包まれた奇怪な姿

鳥山石燕『画図百鬼夜行』、狩野派の絵巻などに見られる怪火で、炎の中央には羽のある犬か鳥らしきものが描かれている。竹原春泉『絵本百物語』では天火(てんび)という名で出ている。

60′





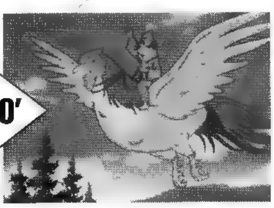


ねずみ男が焼き鳥にしたがる、巨大なニワトリ風妖怪

人間の文明を嫌う妖怪・毛羽毛現の、空飛ぶ乗り物。満月の夜に飛行中、フクロウに攻撃されて墜落し、地面に刺さってしまった。そこをねずみ男に助けられ、お礼の意味もあるのか、ねずみ男を背中に乗せて飛んであげる。一見巨大なニワトリ風で、鳴き声は「コケコッコー」。じつはねずみ男は、埋まっているふらり火を焼き鳥にしたくて掘り返しただけだった。主人である毛羽毛現の毛を食べると、毛羽毛現の思うままに暴れる。

能力◎乗り物として空を飛ぶ。屋根の上に立ち、不審者がくると鳴いて見張りの役目をする。

80′



毛羽毛現の空飛ぶ乗り物

毛羽毛現によって妖怪に変化したニワトリ。毛羽毛現を乗せ、巨大な体で空を飛ぶ。また、劇「最強妖怪」では、日本妖怪軍の一員となって中国妖怪と戦う。空軍に参加し、毛羽毛現を乗せて出撃する。中国妖怪の侵略を退けた後で開催された「人間と妖怪 友好盆踊り大会」では、子どもを乗せて空を飛ぶ、妖怪飛行機となった。第17話、劇「最強妖怪」

能力◎人や妖怪を乗せ、巨体を揺らして空を飛ぶ。

原作コミックでは？

「毛羽毛現」でも、毛羽毛現の空飛ぶ乗り物とされる。戦う時はフンを落として攻撃。鬼太郎たちを毛羽毛現のすみかまで乗せていく。

frankenstein

フランケンシュタイン
【ふらんけんしゅたいん】

映画、パロディで有名なモンスター

1818年にメアリー・シェリーが出版した怪奇小説の題名。小説では、科学者フランケンシュタインによって醜悪な人造人間が作り出さる。殺戮を繰り返し、後に北極の海に消えて行く。

60′



ドイツ代表として長距離自動車レースに参加

「世界妖怪ラリー大会」にドイツ代表として出場。金鉱が眠るといわれる、優勝賞品の佐渡ヵ島を狙う。水虎の車から漏れたガソリンでスリップしてレースを中断。途中から鬼太郎には優勝させまいと、バックベアードたちと結託して鬼太郎のじゃまをする。鬼太郎と戦い、鬼太郎を羽交い絞めにする。第54、58話

能力◎怪力で襲いかかる。素手で体を押さえつける。

最期◎ほかの参加者とともに鬼太郎を襲うが、髪の毛針を顔に浴びて、地面へ倒れてしまう。

80′



虫が苦手な巨体のモンスター

西洋妖怪軍団の一員として、ホウキボシ島に上陸。ぬりかべと力比べをして投げ飛ばす。毛虫やクモなど、小さな虫が嫌い。劇「妖怪大戦争」第51話では妖怪ラリーに参戦。吊橋を落としてライバルのじゃまをする。第51話、劇「妖怪大戦争」

能力◎怪力の持ち主。鬼太郎一行が乗ったイカダを持ち上げ、砂浜に投げ飛ばした。

最期◎噴出した水流に流されてしまう。(劇「妖怪大戦争」)

90′



西洋妖怪を代表する怪力男

劇「汽車」では地獄から脱走した西洋妖怪の一人。一反もめんに顔を覆われるが、逆に引きちぎってしまう。牛乳が好きらしい。仲間は狼男、魔女、吸血鬼。第64話では願いを叶える伝説の妖怪石を狙いラリーに参戦。第63、64話、劇「妖怪大戦争」、劇「汽車」

能力◎怪力でネコ娘を放り投げ、汽車のイスを外して投げる。

最期◎砂をかけられ、一反もめんに足を引っ張られ転倒。側頭部を強打したところに、石になった子泣きが落ちてくる。

原作コミックでは？

「ねらわれた雪姫ちゃん」「妖怪ラリー」「死神大戦記」「妖怪実力選手権大会」「妖怪大戦争」「ゲハラ、ベトナムに現る！！」など多数登場。

buruburu

ぶるぶる



【ぶるぶる】

ぶるぶると震えるのは、幽霊の仕業？

「震々」とも書く。女の姿をした幽霊。鳥山石燕『今昔画図続百鬼』では、ぞぞ神もしくは臆病神ともいわれ、怖がった時に首筋がぞっとするのは、ぶるぶるが取り憑いたからだとされる。

90′



住みかは人間の「臆病な気」でできていた

峠のトンネルを通る臆病な人たちを襲って住みかへ引きずり込み、寿命を奪う妖怪。人々の臆病な気持ちが力の源であり、捕まえたなかに臆病な気持ちを捨てた人間がいたせいで、力が弱まり住みかから引きずり出され、鬼太郎に捕まる。第90話

能力◎臆病な人以外には、姿が見えない。風を巻き起こして自分が無敵となる住みかへ引きずり込み、寿命を吸い取る。

最期◎鬼太郎のちゃんちゃんこに包まれ、オカリナ鞭で縛られたうえ、つるべ火にあぶられて蒸発する。

60′



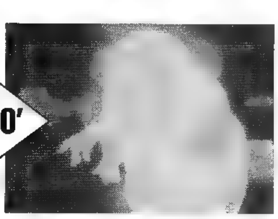
二度と同じ手にかからない利口な妖怪

峠を走る車の運転手にとり憑いて、事故を起こさせる。絵に封印されていたが、燃やされて出現。アスピリンとお湯が苦手で、温泉で弱ったところを木に貼り付けにされる。第23話

能力◎人にとり憑き寒けを感じさせ、事故を起こさせる。霧となって相手を包み、凍らせることもできる。

最期◎ねずみ男の体から出たところを鬼太郎に吸い込まれ、風船の中に閉じ込められて空に飛ばされる。

80′



珍味!?鍋にされたぶるぶる

封じ込められた巻物を焼いたため復活。鬼太郎に木に貼り付けられ、ねずみ男に持ち帰られ鍋にされてしまう。ユメコにとり憑くが熱い温泉によってユメコの体から出て行き、その温泉宿に向かってくるバスを襲おうとする。第25、104話

能力◎人が怖いと思うときの、背筋がヒヤっとする冷気を食べる。体の中に入ると、その者を凍らす。

最期◎岩に髪の毛針で貼り付けられ、封じ込められる。

原作コミックでは？

『峠の妖怪』では、鬼太郎の霊毛でのみ固定できるとされる。「再生妖怪軍団の反撃！」の巻、などにも登場。

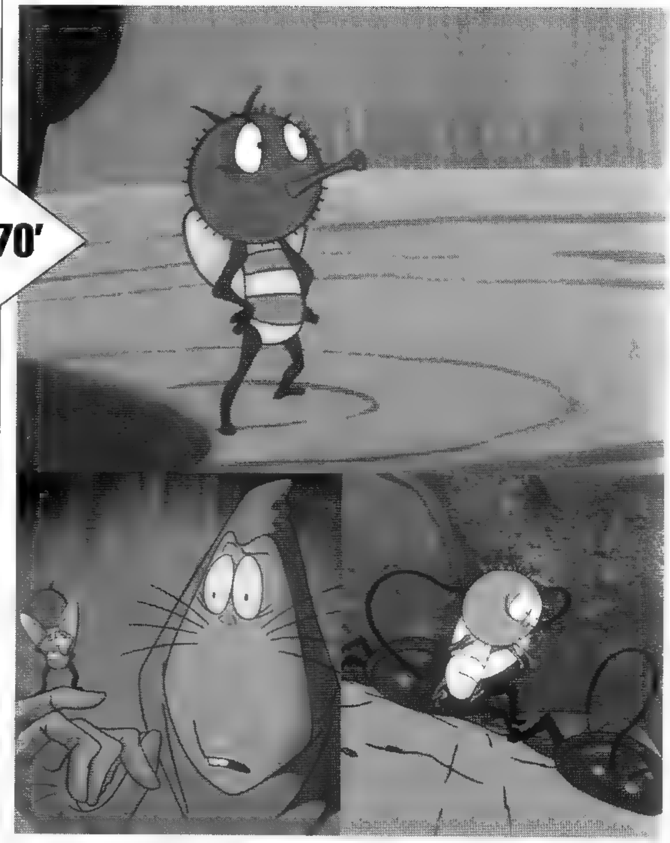
bunta

ブン太



【ぶんた】

70′



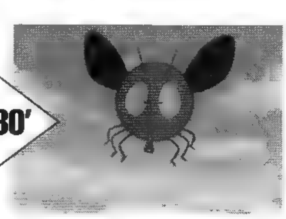
巨大化したあかなめ退治の救世主！

東京に溢れるゴミのおかげで生活に困ることがなく、進化して知恵がついたハエ。喋ることができるが、ねずみ男の商売に利用されそうな時は口を利かず、ただのハエのふりをしていた。ゴミ処理場にいるねずみ男に話しかけて自分の存在を知らせ、夢の島で化学変化が起きて、ゴミの中から怪物（巨大化したあかなめ）が生まれそうなことを鬼太郎たちに忠告する。ねずみ男の無知を諭し、巨大化したあかなめを退治する方法として、ゴミの中から拾った古代植物の種を託す。ネコ娘があかなめを倒して街が平和になったことを見届け、「人間どもよ、過ちを再び起こすなかれ」と言いながら去っていく。第28話

能力◎ハエでありながら知識と知恵を備え、人語を解する。しかもねずみ男に利用されない臨機応変な対応も。

最後◎古代植物が巨大化したあかなめを滅ぼし、東京に緑が戻ったことを見届けて去っていく。

80′



人語を解する新種のハエ

知恵バエと名乗る。多くのゴミによって頭が進化した、人語を解するハエ。「地球上の生物は複雑に化合した結果生まれたのだ、人類おごるなかれ」と語る。第33話

能力◎人間の言葉を話し、人間とコミュニケーションを取る。知能は高く、複雑な話もできる。

最後◎あかなめが退治されて、きれいになった東京は自分の住みかではない、と飛んでいってしまう。

原作コミックでは？

知能が進化したハエ。『あかなめ』に登場。あかなめの出現を予言し、その解決の知恵を提示した。

fukunokami

福の神

【ふくのかみ】

80′



ボカスカ打てる！　バットに込めた不思議な力

妖怪チームのために、樹齢2000年の霊木から作ったバットをあげた。だがバットは人間の少年に拾われ、その少年たちはバットの威力で連戦連勝。彼らがバットの力に頼りきり努力をしなくなってしまう、と鬼太郎に相談を受け、少年の眠っている間にバットに込めた神通力を消す。第26話

能力◎ よく打てるバットを作る。また、その効力を消す。

原作コミックでは？

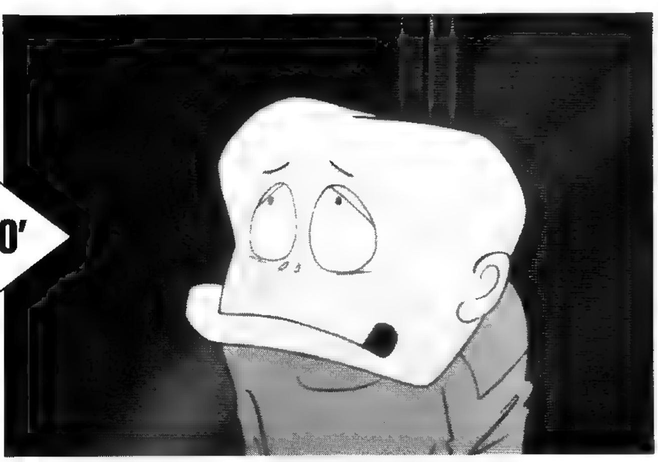
原作には登場しない妖怪。

honeta

骨太

【ほねた】

70′



死神のタブーを犯す父を案じて鬼太郎に相談

死神の息子。父が霊魂集めのノルマを達成できないために、地獄でいじめられていた。母の青子とともに、消息の途絶えた父を心配して日本にやってくる。地獄の掟を破り、人間の命を故意に奪ってまでノルマを達成しようとしている父を止めるため、鬼太郎に協力してもらおうと、パシャに奪われた鬼太郎の魂を救出した。第45話

最後◎ 霊魂集めのノルマを達成し、一家で地獄へ戻れる。

原作コミックでは？

『サラリーマン死神』シリーズや『涙のゆるま』に登場。死神の息子という設定だが、活躍はほとんどしない。

penangaran

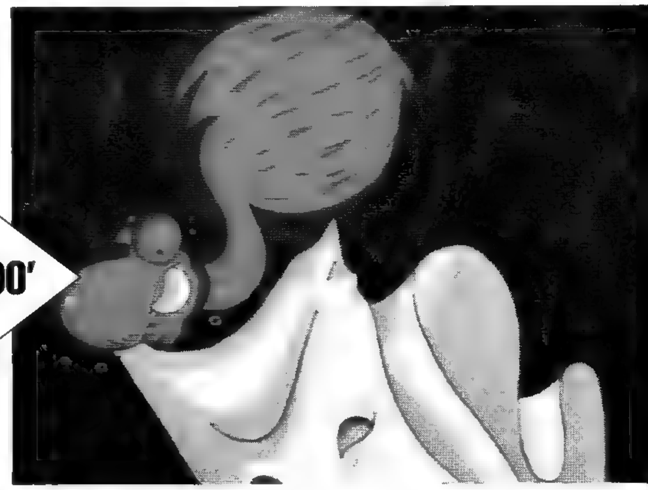
ペナンガラン

【ぺなんがらん】

異様な姿で、子供や妊婦の生き血を狙う

東南アジア（マレーシア）の吸血怪物。女の妖怪とされ、ポンティアナともいわれる。夜中に生首の下に消化器官をぶら下げて空を飛ぶ。血を吸った後は、消化を助けるために酢に浸かる。

90′



吸血樹の完全復活を願う、吸血妖怪三人衆のひとり

アジアの最強吸血妖怪三人衆。いばってはいるが、間抜けな性格。身体の中は妖怪血液だらけ。目玉おやじを飲み込んだことで鬼太郎の仲間につかまり、ミイラになった鬼太郎を救出するため、鬼太郎を呑み込んでしまった吸血なまこに入れられる。第104話

能力◎ 空を飛び、相手を丸呑みにして血を吸う。体の中には妖怪血液が詰まっている。

最期◎ 吸血なまこに飲み込まれた鬼太郎を救うため、ネコ娘の手で吸血なまこに入れられ、妖怪血液を吸われる。

60′



歯は弱い!?　吸血妖怪

胃袋のような風貌の空飛ぶ吸血妖怪。ドラキュラとともに吸血妖怪樹のために、恐山の妖怪血液銀行を襲撃する。子泣き爺に吸いつくが、石化されて押しつぶされてしまう。第52話

能力◎ 空を飛び、鋭い牙で血を吸う。飛行能力に加え、相手に突進するときはまるで全身がバネのように素早い動きをする。

最期◎ 石になった子泣き爺に押しつぶされ、胃に入っている大量の妖怪の血を注射器で抜き取られた。

80′



大きな口と気のような体を持つ

人間や動物にとり憑いて操る妖怪。獅子頭の中で300年間封印されていたが、お札をはがされ復活。鬼太郎のちゃんちゃんこで起こした渦の遠心力で寄生先からはじき出された。第87、96話

能力◎ 空を飛ぶ。目から光線を出し、相手を思いどおりに操る。ダイヤモンドより硬い頭をもつ。口から火を吐く。

最期◎ ちゃんちゃんこで起こした渦に巻き込まれて獅子頭から抜け出たうえ、目を回して伸びてしまう。

原作コミックでは？

『ペナンガラン』、『血戦小笠原』では恐山の妖怪血液銀行を襲った。ガランガランと音を立てて飛びかかる。

babydorotabou

ベビー泥田坊

【べびーどろたぼう】



90′

ホースの水でも溶かされちゃう、赤ちゃん泥田坊

大きい泥田坊と同様に泥からできている、子どもの泥田坊。田んぼを守ろうとする少年・直也と友達になり、暴れまわる大きな泥田坊をふたりで止めようとする。泥田坊に攻撃されそうになった直也をかばい、また鬼太郎も助けた。第22話

能力◎水でどろどろに流されても、元の形に復活できる。

最後◎泥田坊の後を追い、笑顔で直也の家の田んぼに消える。

原作コミックでは？

TVオリジナルの妖怪。

henraherahera

ヘンラヘラヘラ

【へんらへらへら】



80′

鬼太郎そっくりのヘンラヘラヘラも登場

へらへらと笑いながら浮遊し、妖怪・ケラケラ女の命令で街を破壊する。目玉おやじによると、人間でも妖怪でもない、正体不明の生き物。「妖怪ケラケラトンカチ」で頭を叩くと、叩かれた人物そっくりのヘンラヘラヘラが出てくる。第95話

能力◎笑顔のまま宙に浮き、飛び回りながら街を壊す。

最期◎ケラケラ女が反省すると、自然に消えてしまう。

原作コミックでは？

公害病によって死んだ人間の恨みから生まれた、新生命だと思われたが、正体は公害を喰らった細菌。[illegible]

houkou

ほうこう

【ほうこう】

犬の味!?　食べられた記述がある木の精

「彭侯」と書く。中国生まれの木の精。『和漢三才図会』『捜神記』の呉の彭侯の逸話には、人面を持った黒犬のようで、「木を切ると中から出てきたので煮て食べた」とある。



60′

おとなしい漬物好き男に扮した、木の妖怪

2000年以上経った木が変化して生まれ、木から出て自由に生活できるようになった妖怪。なぜか漬物好き。生命の根源である地・水・火・風の本体を持ち、自由に操る。杉山杉太郎という人のよい男に扮して大杉村で大根泥棒を働き、ねずみ男とともに、家にある巨大な漬物樽で漬物を作っていた。第65話

能力◎しびれ薬が付いた歯を飛ばし、相手をしびれさせる。巨大なノコギリを振り回して暴れる。地水火風に分離する。

最期◎地ほうこう、水ほうこう、火ほうこう、風ほうこうに変化し、火は水と、地は風と合わされて無となり、消滅した。



90′

世界一うまい漬物にかける執念

2000年以上年を重ねた縄文杉の精。鬼太郎の妖怪パワー入りスタミナ漬けを作って大儲けしようと、ねずみ男にもちかける。鬼太郎漬けを腹いっぱい食ってやる！と発言。聖なる岩塩で鬼太郎をエキスにして漬け込む。復活した鬼太郎と戦い、砂かけ婆の持つつぼに吸い込まれる。第41話

能力◎地水火風の４つのほうこうに分裂。毒の牙を飛ばす。

最期◎鬼太郎にそれぞれの力を打ち消される。

原作コミックでは？

「妖怪本所七ふしぎの巻」ではぬらりひょん主催の集会に出席。また「ほうこう」でメインの敵として登場。



ベリアルは、悪魔ベリアルを見るのじゃ

honeonna

骨女



【ほねおんな】

男に逢いにやってくる、あの世の女

三遊亭円朝『怪談牡丹灯籠』や『伽婢子』に登場する女の亡霊。鳥山石燕『今昔画図続百鬼』にも骨だけの女として描かれている。また、『東北怪談の旅』にも歩く骸骨の女が登場。

70′



着物に長い髪、不気味な骸骨の女

大首の子分。長い髪の生えた骸骨の女。大首の食糧となる優秀な霊魂を集めるために"ポックリ病"を流行らせ、骸骨の手下を引き連れて墓を掘り起こしていた。ネコ娘に薬を飲ませて操り、鬼太郎の命を狙う。また、赤舌の子分になったこともあった。第26、31話

能力◎体の骨を投げつける。首が外れると、首だけで飛ぶことが可能。死体から魂を抜き取り、大首へ届ける。

最期◎子泣き爺に捕まり首が外れ、砂かけ婆に砂をかけられる。大首が退治されると一緒に消滅してしまった。

80′



合計３人の主に仕える尻軽女!?

赤舌、大首、家鳴と、合計３人の妖怪に仕える家来として３度登場。第35話では、「1000年王国」をつくろうという赤舌の野望の手助けをする。赤舌が鬼太郎に倒された後には、ねずみ男に「２人だけのユートピアをつくろう」と言い寄ったことも。また第92話では、人喰い家の家主である妖怪・家鳴に仕える。ユメコのふりをしてねずみ男を誘い出して味方につけ、人喰い家の食糧になる人間を集めさせた。第35、40、92話

90′



大首復活にかけ続ける執念

「縄文王国」復活を大義として大首を生きながらえさせていた、縄文王国の巫女。大首の食糧を確保するため骨の缶詰工場をつくり、ねずみ男をそそのかして工場で働かせた。第82話

能力◎骨笛の音を聞くと、自由を奪われる。人間を集めて骨缶詰にして、大首へ献上する。美女に化けることができる。

最期◎改心した大首の涙を見て、悪魔に魂を売った自分を反省。大首とともに、みずから洞窟の中に封印された。

原作コミックでは？

「赤舌」「大首」では、それぞれに操られる手下として登場。いずれもねずみ男を利用して、鬼太郎の命を狙った。

poltergeist

ポルターガイスト



【ぽるたーがいすと】

物がひとりでに動く心霊現象

ドイツ語で"騒がしい霊"を意味する言葉で、一般的には物が勝手に動く、誰もいないのに音がする、などの心霊現象をさす。ポルターガイストを題材にした映画や小説も製作されている。

一言も発さず、飛んで襲い掛かる

90′



西洋妖怪。ぬらりひょんの妖力で生み出された見上げ入道とともに、道頓堀で「妖怪島」出現のための鏡の破片を探す。こうもり猫と鬼太郎の戦いの中でちゃんちゃんこの下に潜り込み、鬼太郎の妖気を吸った。ネコ娘たちに襲いかかろうと突っ込むが、ぬりかべに阻止される。第96、97話

能力◎背後より噛みつき、妖気を吸う。

最期◎ぬりかべに衝突し、つぶれる。

原作コミックでは？

原作には登場しない。

matagorouoni

又五郎鬼



【またごろうおに】

80′



鬼太郎たちのピンチを救った、気のいい鬼

「万有自在玉」を持つ奪衣婆を捜している途中、地獄の火の中に落ちそうなネコ娘を見つけ助ける。鬼太郎が奪衣婆にやられそうになっていることを知り、万有自在玉を破壊すれば、奪衣婆はただの老婆に戻ると教え、そのための針をネコ娘に渡した。第39、80話

能力◎ 地獄にいて、万有自在玉を無力にする針を持つ。

原作コミックでは？

「奪衣婆」に、地獄の三丁目にいる鬼として登場。奪衣婆に対抗するための金剛針を目玉おやじに託した。

makuragaeshi

まくら返し【まくらがえし】

枕は夢の世界と現実を結ぶもの？

枕小僧ともいう。朝起きると枕があらぬ方向へ移動している怪異。『妖怪の民俗学』では、枕を返されると魂が夢から肉体へ戻れないとされる。東北地方では、座敷童子の仕業とされる。

60'



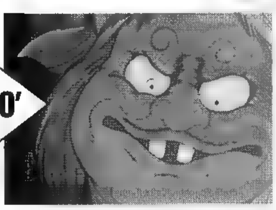
昼夜問わず、夢の世界へ引きずり込む

夢の世界に住む妖怪。毎晩夢を見て領分を荒らす夢吉に怒り、夢吉を「夢の世界」へ引きずり込もうとした。夢吉を助けに現れた鬼太郎と夢の世界で対決。腕のリングで目玉おやじを捕まえて遠くへ飛ばし、鬼太郎を眠らせてノコギリ引きにしようとした。夢を食べてしまう動物のバクと、塩が苦手。第28話

能力◎手足のリングを飛ばし、相手にはめて自由に操る。眠り粉を投げつけ、相手を眠らせる。

最期◎現実世界に現れ、動物園のバクに食われてしまう。

80'



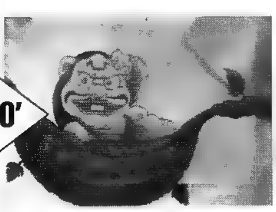
香炉を使って、夢を操る

香炉を命の次に大事にする、夢の番人。体の成分がなめくじと似ており、塩をかけられると動けなくなる。弱点は獏。第86話では、ぬらりひょんに香炉を奪われた。後に鬼太郎の仲間として活躍。第19、86話、劇「最強妖怪」「妖怪大戦争」

能力◎眠り砂で人を眠らせ、香炉から出す妖気で悪夢を見せる。

最後◎鬼太郎が呼んだ獏に、鼻から吸い込まれそうになり観念する。「妖怪手形」に手を付けて、夢の世界に戻っていく。

90'



多忙な現代の子どもを狙う

人の夢の中に、自分の仕掛けた夢の中に引きずり込む。始めはいい夢を見させて誘い、奥に行くに従い悪夢となり、最後には魂を食べてしまう。夢の中へ来た鬼太郎の首を切ろうとするが、塩をかけられ、手が溶けてしまう。手を取り返そうと現実世界まで追いかけて、再び鬼太郎に挑む。第15話

能力◎夢の中に現れ、自分の仕掛けた夢の中に引きずり込む。

最期◎一反もめんに塩をかけられ、溶けて虹となり消える。

原作コミックでは？

「羽衣」「枕返し」ほか。「死神大戦記」では、西洋妖怪と戦う日本妖怪のひとりとして登場し、魔女に飛びかかる。

majo

魔女【まじょ】

一方で暗い歴史を持つ、童話にかかせぬ存在

ヨーロッパの俗信で、魔術、呪術などを使い、魔力を持つ女性のこと。中世においては、キリスト教会に対して害を与えると考えられ、弾劾された。また、西洋の童話などにも多数登場。

60'~70'



魔法がなくなり、ただの人間のお婆さんになる

魔王の命令で10人の少女を魔女にしようと企む。魔女になりたい少女から魂を奪い、魔女にしてしまう。その後も仲間を増やそうとするが、鬼太郎に阻止される。魔女の持ち物を焼いてしまえば、人間に戻る。第10、11、18、54話、70年代・30話

能力◎ホウキで空を飛ぶ。幻覚を見せ、変身も可能。毒を使い人間の魂を奪う。帽子の先はレーダーになっている。

最期◎ロープのように変身した鬼太郎に捕まる。逃がしてもらうが、魔王によって普通の人間にされてしまう。

80'



日本妖怪を襲う、手強い相手

バックベアードとともにホウキボシ島に上陸。日本を占領しようと、日本の妖怪軍と対決する。また、フランス代表として「世界妖怪ラリー」にも参加。その魔力でバックベアードを石化した。第51話、劇「妖怪大戦争」

能力◎ホウキで空を飛ぶ。ホウキで砂をかけ、日本妖怪を苦しめる。カマを出し、子泣き爺たちに襲いかかる。

最期◎劇場版では噴出した水流に流されてしまう。

90'



ねずみ男に惚れる、稀有な感性

地獄から脱走した西洋妖怪のひとり。ねずみ男に惚れて迫り、ねずみ男の口臭を香水のようだと言う。劇「汽車」。第64話では、妖怪ラリーに参加し、第1ポイントで狼男とともにマグマに落ちる。

能力◎呪文を唱え、爪をハサミに変えて攻撃。ホウキに乗って空を飛ぶことができる。

最期◎劇場版では、ねずみ男に迫り、強烈な屁をくらってダウンしてしまう。

原作コミックでは？

「妖怪ラリー」「魔女ジニヤー」「死神大戦記」「[illegible]手権大会」「魔女人形」「妖怪七人の[illegible]」「妖怪大戦争」「死神」「猫娘」ほか多数。

魔王は、ジニヤーの父を見るのじゃ

魔女ジニヤーは、ジニヤーを見るのじゃ

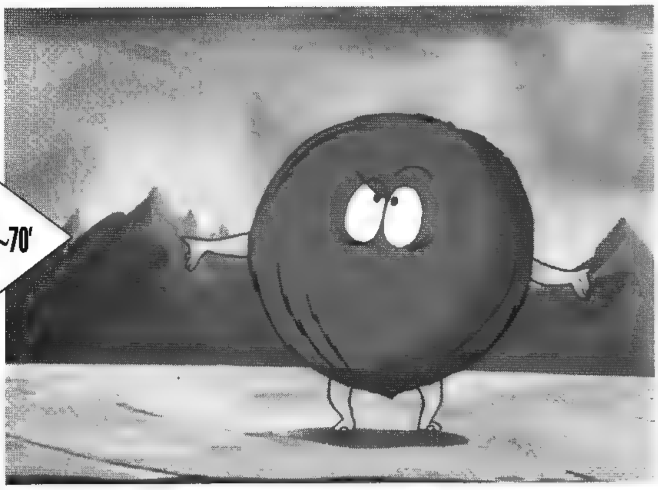
maruge

丸毛



【まるげ】

60'~70'



自分の子どもを守るため、無口を貫く

第1部・44話では、妖怪・逆柱の手下として登場。逆柱に子どもたちを人質に取られ、奴隷として使われている。妖怪貯金箱に化けて、子どもたちの小遣いを奪って逆柱に届けていた。鬼太郎に捕まったときも、逆柱に人質になっている自分の子どもたちのことを思い黙秘を貫くなど、骨のあるところも見せる。素早い動きで木の上を飛び回って、鬼太郎を翻弄する。鬼太郎が逆柱を倒すと解放され、親子ともども自由の身となる。また第2部・2話では、日本を侵略に来た中国妖怪・チーの住む妖怪城に、目玉おやじとともに潜入。チーの妖術で反物にされた鬼太郎を、箱の中から助け出すなどの活躍を見せる。第1部・44話、第2部・2、3、43話

能力◎動きがすばやく、木の上を飛び回る。貯金箱に化け、中のお金を取り出そうとすると噛み付く。

最期◎鬼太郎が逆柱を倒し、自由の身となる。縁の下に隠れていた丸毛の子どもたちも解放された。

80'



敵陣に潜入する、勇気ある活躍

比較的おとなしい鬼太郎の仲間。中国妖怪・チーや、鬼太郎に本所七不思議を仕掛けたぬらりひょんを相手に活躍した。また逆柱に操られて、招き猫に入りお金を盗みだす悪事をはたらいたこともあった。そのときは、鬼太郎の髪の毛針攻撃によって招き猫が割られ開放されるが、閉じ込められている間の記憶は残っていなかった。第52、104、108話、劇「最強妖怪」

能力◎毛を抜き、妖術のかかった錠前を開ける「秘術錠前破り」。

90'



ちょこちょこ動く、かわいい存在

丸くて小さな妖怪。中国妖怪・チーが、妖怪たちを反物にする企みを木陰から覗き、鬼太郎へ知らせに行く。ネコ娘、一反もめん、ねずみ男などに乗りながら移動。目玉おやじとともに城へ忍び込んで、反物になった鬼太郎を救い出す。中国妖怪軍との戦闘にも積極的に参加した。第79、80話

能力◎小さな体で、目立たずに敵陣へ潜入することができる。フットワークが軽く、偵察などに向く。

原作コミックでは？

「げた合戦」「妖怪大裁判」「妖怪反物」などに登場。「地獄マラソン」では、年に一度のマラソン大会に出場する。

mannendake

万年竹



【まんねんだけ】

80'





生き物のことを考えない人間に、復讐する

竹やぶに宿る、竹の精。竹やぶを切り崩して開発しようとしている地主の家に、女中としてもぐりこむ。そして工事を中止するように忠告するが聞き入れられず、工事現場の人間を襲って、「竹人間」にしてしまう。ねずみ男も工事現場で働いており、竹人間にされてしまう。鬼太郎たちが調査に赴いたときには、女中の姿で対応して案内役を買って出て、隙を見て砂かけ婆や子泣き爺たちを竹人間にしてしまう。この勢いでほかの生き物のことを考えない人間たちへの復讐のため、日本中の人々を竹人間にしてしまおうとするが、鬼太郎とシーサーのコンボ攻撃にあえなく倒れる。それにより竹人間たちも元に戻った。第74話

能力◎相手を竹人間にする。手先から細い竹を伸ばし、締め付ける。竹を伸ばし相手を取り囲む。巨大化する。

最後◎根を食いちぎられ、竹を真っ二つに割られ、弱ったタケノコの姿に。まだ残っている竹林に植えられる。

90'



思い出を守る、感情を持った竹

何万年も生きて妖力を持った竹。心を通わせたエリとの思い出を守るため、万年竹が住む屋敷に近づく人間を竹人間に変える。ちなみに竹人間は火には弱い。第10話

能力◎人間の魂を奪い、生気を吸って竹人間にする。その竹人間を操り、鬼太郎たちを攻撃した。

最後◎死亡したエリの魂が近くにあることを知り改心。吸い取った魂を放出し、竹人間を元の人間に戻す。

原作コミックでは？

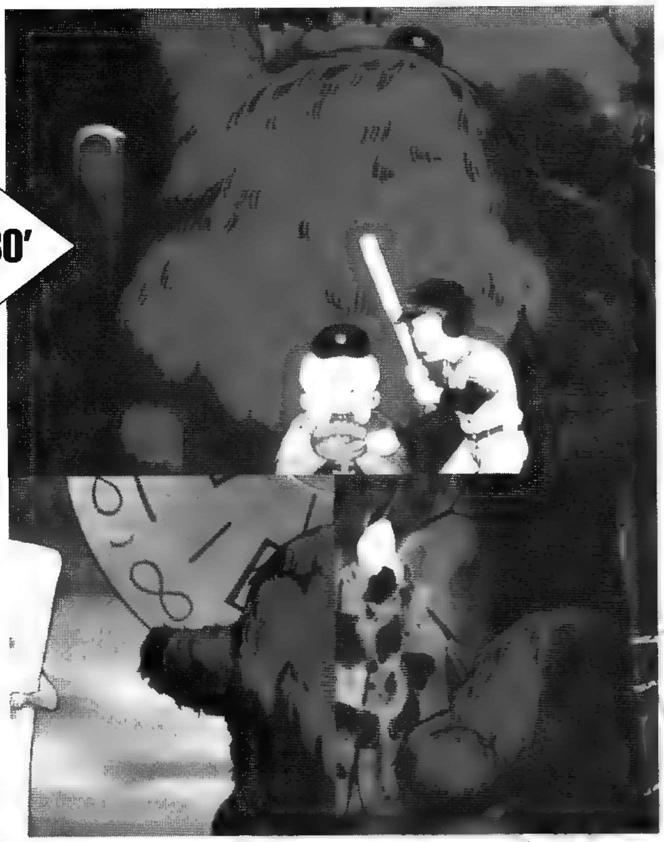
「妖怪万年竹」では、竹の精に操られている。妖怪万年竹のタケノコを食べると腕がタケノコになってしまう。

ま

mammothotoko

マンモス男
【まんもすおとこ】

80′



鬼太郎の味方をする、力強い助っ人

大きな毛で覆われた巨体を持つ。登場頻度は少ないが、鬼太郎たちの頼れる味方。第57話では、日本を征服しようと暴れるタヌキ軍団・八百八狸との戦いに参戦。タヌキ軍団の念力の源である要石を、元の位置に戻す手助けに現れて、その怪力で押す。しかし妖怪獣・蛟竜が現れると、一度は逃げ帰ってしまう。その後、タヌキたちを洞窟に封じ込めるために妖怪たちが集まった際に再度登場。目玉おやじを頭に乗せて、大きな岩を肩に担いで現れ、タヌキ軍団のアジトの洞穴をその大岩で塞いだ。また、第26話では、妖怪チームと人間チームのナイター試合で審判を務める。人間からクレームを受けると問答無用で「アウト、チェンジ」と叫んでしまうが、鬼太郎に注意されて人間のルールにあわせてジャッジするようになる。さらに第46話では、葬頭河婆に石にされた鬼太郎を救うために、賽の河原を支配する時計を逆回転させ、時間を戻すのを手伝う。第26、46、57話

60′



妖怪野球チームでセンター担当

「むく邪羅」と呼ばれる。「妖怪バット」の所有権と、人間チームの「命」を賭けた妖怪チーム対人間チームのナイター試合に参戦する。守備位置はセンター。巨体を生かして大飛球をキャッチするなどして、人間チームを苦しめる。試合は、思うがままにボールを打てる妖怪バットを封じられた人間チームの圧倒的な劣勢ですすむが、試合終了前に一番鶏が鳴いたため、ほかの妖怪たちとともに逃げ帰っていく。第1話

原作コミックでは？

「おばけナイター」の妖怪チームの一員。どんな高い球もキャッチできる巨大な妖怪として登場する。

manmmothflower

マンモスフラワー
【まんもすふらわー】

70′



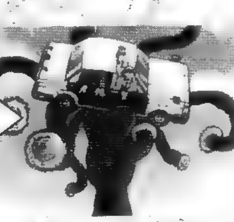
キレイ好きなあかなめからのメッセージ

あかなめが発生させた、巨大な植物。ゴミの山や地面を突き破り、汚いところによく育つ。鬼太郎曰く、「案外きれい」な花を咲かせる。綿毛の種子で増え、茎は鉄のように固く、ブルトーザーでも歯が立たない。2458本生え、ブルトーザーは1361台破壊した。銀座、新宿、臨海工業地帯を壊滅状態にし、空軍のナパーム弾も効かず、花を守りながら茎でジェット機をたたき落とす。ねずみ男の背中からも芽が生えるが、お風呂に入り、体を清潔にすると縮んだ。そしてそこから、マンモスフラワーへの対処方法が決定する。第8話

能力◎早いスピードで巨大に成長し、茎を動かし敵に攻撃する。花をつけて種子を飛ばし、あちこちに繁殖する。

最期◎あかなめが人間の不衛生な生活に怒って生やしたものなので、東京中を大掃除し清潔にするとなくなった。

80′



原始時代へ回帰させる植物

山男がまいた種で育つ、古代の巨大植物。急成長し、花からミサイルのような種子を飛ばして繁殖する。光る胞子を飛ばして、人間の現代の価値観を失わせた。第78話

能力◎つるを素早く動かす。花から種を飛ばして撃ちこみ、胞子を飛ばして人間を原始に帰らせる。

最期◎夜行さんの造った妖怪戦車の火炎放射で燃やされ、野づちの口に吸い込まれる。消滅とともに、人間は元に戻る。

90′



ねずみ男が巨大な花に変身!?

カンブリア紀島から持ち帰られた古代植物・マンモスフラワーの種がねずみ男の体の中で発芽。あっという間に巨大化し、花を咲かせる場所を求めて暴れる。第65話

能力◎飛行機のミサイルや戦車などでは歯が立たない強靭な体と、それらを撃墜する自在に動く茎や葉など。

最期◎特大カラスヘリでカンブリア紀島に運ばれ、花を咲かせて実をつけた。その実の中からねずみ男が復活。

原作コミックでは？

鬼太郎が出てこない水木作品『マンモスフラワー』が原作。70年代のアニメがもっとも原作に近く。あかなめも登場する。

miagenyudou

見上げ入道



【みあげにゅうどう】

尻餅（しりもち）をつかせるほどに大きくなる、入道

「見越し入道」ともいう。新潟県佐渡島でいう妖怪のこと。小坊主のような姿で現れ、見上げれば見上げるほど大きくなる。「見上げ入道、見越した」という呪文を唱えると、消える。

80′



神出鬼没、風を操り、空も飛ぶ

目の前に現れ、巨大化して見上げさせる妖怪。息を吸うと体が大きくなり、吐くとノミほどまでに小さくなる。動物や妖怪をさらって、妖怪学校で勉強をさせ妖怪にしてしまおうと企み、じゃまする鬼太郎を霊界へと飛ばしてしまう。第30、32、91話、劇「妖怪大戦争」

能力◉風を自由に操り、体の大きさを変える。「秘法霊界流しの術」で、中から外の様子が見えない霊界へと運ぶ。

最後◉ちゃんちゃんこで喉をふさがれ、息を吹いたはずみに目が飛び出してしまい、その目を追いかけて飛んでいく。

60~70′



妖怪学校のスパルタ教師

入らずの山に落書きした忠助や動物を捕まえ教育し、妖怪にしようとする。口から蜘蛛の巣のような網を吐き、鬼太郎を捕まえた。第9話。第２部・３話では、百々爺にそそのかされ、鬼太郎を襲った。

能力◉大きく呼吸し、体の大きさを変えたり、相手を吹き飛ばす。「火業霊界流し」で炎を出して相手を霊界に送る。

最期◉鬼太郎を吸い込むが、ちゃんちゃんこで息をふさがれ、思いっきり息を噴出したために霊界へ飛んでいった。

90′



かつて入道沼に封じられた妖怪

住みかを荒らす工事をじゃまし、子どもたちを襲う。また法廷で、「鬼太郎は妖怪のくせに人間の見方ばかりしているひでぇ奴」と証言したことも。第１、46、96話、「妖怪城」

能力◉人間の魂を吸い、妖力のもとにする。何でも呑み込む腹。体のサイズを自由に変えることが可能。突風を起こす。

最期◉鬼太郎に「見上げ入道、見越した」と言われ、つぼに封じ込められてしまう。

原作コミックでは？

「死神大戦記」「妖怪金霊あらわるの巻」「見上げ入道」「妖怪大裁判」「妖怪本所七ふしぎの巻」ほかに登場。

mikoshinyudou

見越し入道



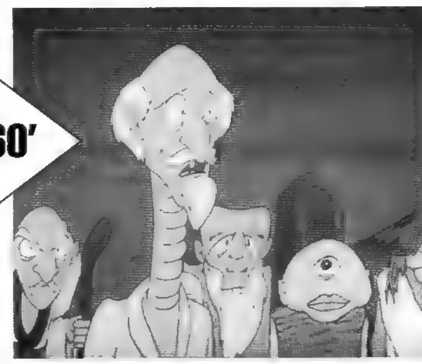
【みこしにゅうどう】

行き止まりに現れ、みるみる巨大化

見上げ入道の類。全国に伝わり、『宿直草』『煙霞綺談』『百物語評判』などに登場。狐狸や鼬（いたち）の仕業ともいわれ、命を奪うとされている。「見越した」「見抜いた」と唱えると退散する。

活躍の場を見せずして、姿を消す

60′



ねずみ男が主催する「妖怪ショー」に出演。また、鬼界ヶ島を妖怪の国にしようと目論む西洋妖怪たちと戦うために集められた妖怪のひとりとして登場。墓場に集合し、ねずみ男に点呼をとられ、首を伸ばす。命が惜しかったのか、戦闘には参加せずにあっさりと姿を消してしまった。第７、10話

能力◉首を伸ばす。「攻撃能力がないものは消えてくれ」という言葉では残っているので、何かしらの攻撃方法はあるようだ。

原作コミックでは？

「復活悪魔くん（鬼太郎対悪魔くん）」に、首の長い姿で登場。鬼太郎とともに戦う妖怪のひとり。

mizugami

水神

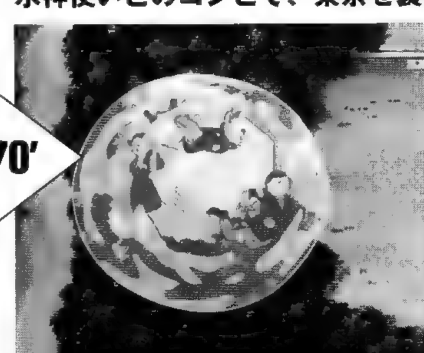
【みずがみ】

生活と密接する、多様な意味を持つ神様

全国各地の水の豊かな所や水の危険がある所、水の乏しい所などで、水の神様として祀られる。雨乞い、豊作を祈願する田の神との関連も強いと考えられる。河童のことをさす地方もある。

水神使いとのコンビで、東京を襲う

70′



水神使いの角笛の音によって操られる、透明な細胞を持った、"高等な液体生物"のようなもの。ヒマラヤで100年の眠りについていたが、大学教授によって持ち出され、水蒸気となって逃げ出した。第22話

能力◉水神使いの指示によって人を呑み込み溶かしてしまう。津波となって東京の街を襲った。

最期◉水神使いとともにガソリンをまかれ、火をつけられ滅びた。

原作コミックでは？

「水神様が町へやってきた」「顔の中の敵」に登場。透明な細胞を持ち、太古から人間を食べて生きる。石油をまかれて火葬される。

ま

mizugamitsukai

水神使い

【みずがみつかい】

70'



角笛を使って水神を操り東京を水攻めに

ヒマラヤの山奥で、“高等な液体生物”である水神を祭る神官のような役割をする妖怪。角笛を使って水神を操る。ヒマラヤを探検に来て、水神の秘密を知り日本に持ち帰った男を追って来日。男を殺した後、東京中を高波で襲わせた。第22話

能力◎角笛で水神を操る。体術にも優れ、複数の警官を投げ飛ばす。

最期◎ガソリンをまかれ、つるべ火で火をつけられて燃え尽きる。

原作コミックでは？

鬼太郎以外の水木作品「地獄の水」に登場。ヒマラヤ「チョゴリザ」の水神様に仕える、木彫り風の面をした男。やはりホラ貝を操る。

mizuchi

蛟

【みずち】

日本書紀にも仁徳天皇の項で登場

古い時代に信じられた、水神の性格を有した蛇神。『和漢三才図会』によれば、竜族の一種。長さは一丈あまりで蛇に似て鱗(うろこ)がある。四足で形は広く楯のようだという。

ピンクの息を吐き、蓬莱島という蜃気楼を作る

90'



蜃気楼を作る巨大な海竜。ピンク色の息を吐いて、幻の島「蓬莱島」という蜃気楼を作り出す。その島は現世に疲れた人々が集い、すべてを忘れて過ごす空間になっている。ねずみ男に「逆さ鱗」をとられ、暴れだして息を吐くのをやめてしまい、島が消えかかってしまう。第14話

能力◎自分の吐く息で、蜃気楼を作ることができる。

最後◎取られた逆さ鱗を返すと、暴れるのをやめた。

原作コミックでは？

「蓬莱王国」に、[illegible]の生まれ変わりと[illegible]「みずち（蛟）」という妖怪が登場。正体は蛇神で、鑑真和尚の邪魔をする。

mizuhoukou

水ほうこう

【みずほうこう】

“水ほうこう”としての伝承はなし

千年生きた樹木に宿る精である“ほうこう”の伝承は中国『本草綱目』より。人面の黒犬のような姿とされるが、作品内で“水を司る”といわれる水ほうこうとしての伝承は残っていない。

90'



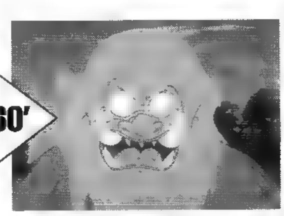
水を自在に操ることができる、ほうこう

2000年以上年を取った杉の木から抜けでた妖怪であるほうこうが、地水火風の4つのほうこうに分かれたうちのひとり。妖怪塩で溶かされた鬼太郎を助けに来た砂かけ婆によって、つぼに吸い込まれたほうこうが、つぼを爆発し、地水火風のほうこうに分裂して攻撃してきた。砂かけ婆たちの妖力によって鬼太郎が復活。鬼太郎に口から水を吐く水攻撃で襲いかかる。第41話

能力◎口から勢いのある水を吹き付ける「水攻撃」。地ほうこうとの連携で、砂かけ婆と子泣き爺を攻撃した。

最期◎火ほうこうとともに縄で巻きつけられ、無となる。

60'



木から抜け出た妖怪の正体

ほうこうの正体である地水火風に分裂したひとり。ねずみ男に、鬼太郎が死んだ証として骨を探させた。生きていた鬼太郎の下駄に翻弄されるが、その強力パワーで鬼太郎をも圧倒する。第65話

能力◎生命の根源である地水火風のうち、水を自由に操る。口から水を放出して、鬼太郎を攻撃した。

最期◎鬼太郎のリモコン下駄を追って、火ほうこうと一緒に穴へ入ってしまい、中和されて無となる。

原作コミックでは？

「ほうこう」[illegible]で登場。4体あるほうこうのうちの一体。水や木になると説明され、何の攻撃もしないまま倒されてしまう。

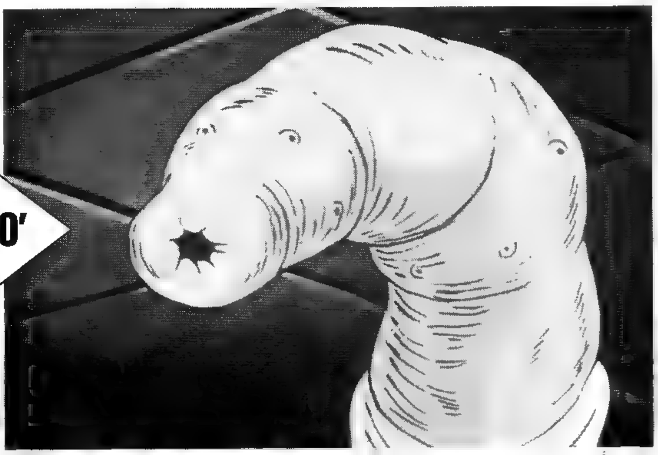
水仙人は、おいてけ堀を見るのじゃ

むく邪羅は、マンモス男を見るのじゃ

mimizu

ミミズ
【みみず】

70′



取られた地相眼を取り戻しにくる、巨大ミミズ

魑魅魍魎の国の使者。巨大なミミズの風貌だが、性格は紳士的。地相眼、天相眼、水相眼からなる天文方位観測所から、地相眼を盗み富を築いた男に、責めはしないが10年後に息子を地相眼に変えるか、自分の命とすべての財産を失うか選べと予告する。後に、ねずみ男が天相眼、水相眼を盗んだのに腹を立て、息子を無理矢理に連れていこうとする。第37話

原作コミックでは？

鬼太郎以外の作品「地相眼」に登場。「チミモウリョウの国」の使者。地相眼に通じる能力、性格などアニメ版で忠実に再現。

mimizuotoko

ミミズ男
【みみずおとこ】

80′



首狩り３人衆の頭領で武器を山ほど操る

「地獄編」最初の敵、首狩り３人衆の頭領。正体は小さなミミズだが、天叢雲剣を手にしたぬらりひょんの妖力で強大な力を持つように。本来の姿では、２本の手以外にたくさんのミミズが触手のように生えており、それで多彩な武器を操って戦う。第109話

能力◎ 青龍刀で首を狩る。たくさんの触手で武器を操る。

最期◎ 鬼太郎のオカリナ剣で退治され、ミミズに戻る。

原作コミックでは？

「母を訪ねて地獄旅」に、「魔人」の名で登場。手下のクモ男とサソリ女を引き連れて鬼太郎を襲い、一度は鬼太郎をピンチに陥れる。

mujina

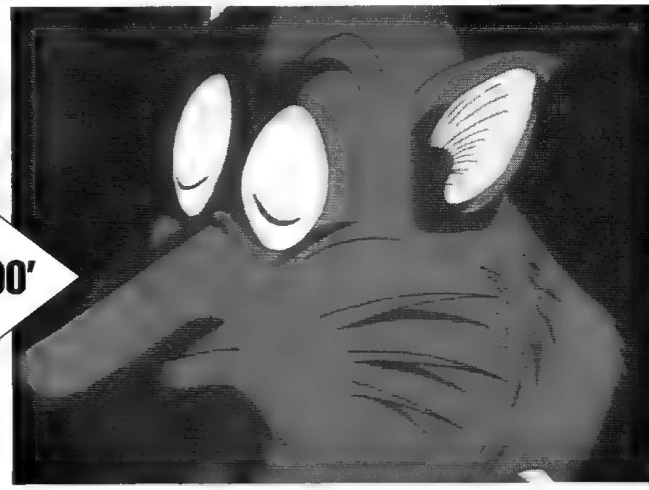
むじな
【むじな】



奈良時代の書にも登場、怪しい動物

文献上の初見は『日本書紀』に始まり、日本各地の民族伝承や怪談、随筆に多く見ることができる。化ける怪しい動物とされている。穴熊の異称だが、地方によっては狸や狐と同一視される。

90′



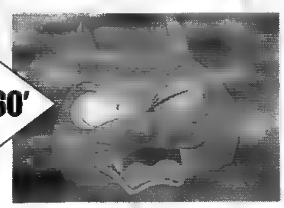
にせの弟に扮し、兄ねずみ男の寵愛を一身に受けた

山奥に住んでいた、変身能力を持つ獣の妖怪。折りたたみ入道を背負い、ねずみ男に扮してお金をだましとる。ねずみ男の弟と偽り、折りたたみ入道に呼子、油すましを食わせてしまった。正体がばれて無理矢理頭を下げさせられ、尻尾を出してしまう。第36話

能力◎変身能力を持つ。口八丁でねずみ男をだまし、妖怪アパートに忍び込むことに成功する。

最後◎だまされたことに気づいたねずみ男に往復ビンタをくらい、涙を流す。反省して山へと帰っていく。

60′



にせ者はひげの数が足りない？

ねずみ男の弟に化け、鬼太郎をおとしいれ、子どもたちから金をだまし取った。100年山にこもって育てた折りたたみ入道を使って、鬼太郎を亡き者にしようとする。第38話

能力◎変身能力を駆使し、人の心の隙をつく。ねずみ男の弟に化け、ねずみ男と共謀して鬼太郎を襲った。

最後◎ちゃんちゃんこを燃やした煙を浴びて正体を現し、逃げる。折りたたみ入道はただの案山子だった。

80′



折りたたみ入道で金儲け

変身能力を持った獣の妖怪。神社で折りたたみ入道を使って、子どもたちのお年玉を奪い取る。鬼太郎に追い詰められてねずみ男の弟のふりをし、その場を逃れる。第13話

能力◎化ける。目を見させ、幻覚を見せる。股間の袋を膨らませて、相手を押しつぶす。

最後◎巨大化した股間の袋を鬼太郎に針で突き破られ、破裂させられて降参。砂かけ婆に縫ってもらう。

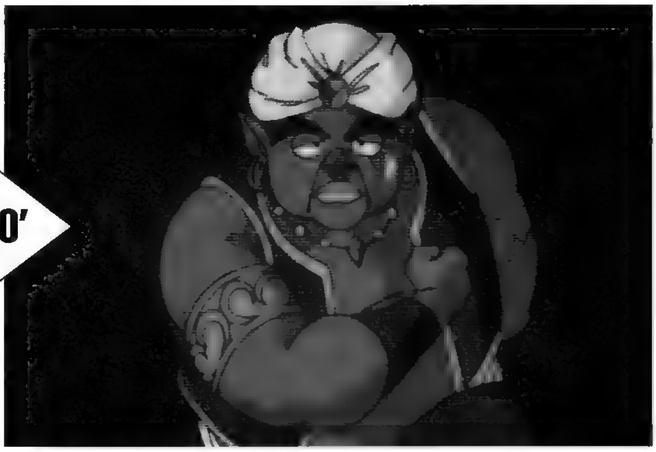
原作コミックでは？

「おりたたみ入道」に登場。ねずみ男そっくりに化け、見つかると弟のふりをしたが、化け切れなかった尻尾をつかまれて逃げた。

meshitsukai

召使い

【めしつかい】



80′

指輪をこすれば現れ、ジニヤーの命令をきく

アラビアのおてんばな魔女ジニヤーに仕え、ジニヤーの父である魔王の指輪をこすると現れる。息を吹きかけ、鬼太郎をねずみに、仲間を猿や犬に姿を変えた。空飛ぶじゅうたんで、妖怪病院の先生・倉ぼっこをアラビアに連れて行こうとする。第102話

能力◎ 動物に変身させるガスを吐く。布を空飛ぶじゅうたんに変えた。

最期◎ ちゃんちゃんこで顔を覆われ、じゅうたんから落ちて消えた。

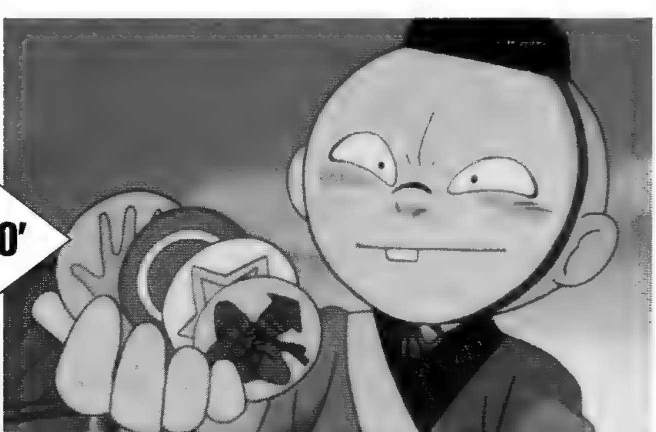
原作コミックでは？

TVアニメオリジナルの妖怪。

menkotengu

めんこ天狗

【めんこてんぐ】



80′

心底めんこを愛し、現代っ子に楽しみを教えたがる

めんこをするのが好きな妖怪。一本歯で下駄を履いている。めんこのおもしろさを叩き込もうと、子どもたちをさらい、妖力でめんこに変えた。鬼太郎もめんこに変え勝負するが、負け続け、自分もめんこになったところを鬼太郎めんこの竜巻に巻かれる。第105話

能力◎ 妖気を放ち、どんな物もめんこにする。自分もめんこになる。

最後◎ 鬼太郎に負け、子供たちがめんこをするのを横目に帰る。

原作コミックでは？

「めんこ天狗」では、[illegible]めんこ製造機で子供をめんこに変えた。手[illegible]剣や強力な[illegible]を飛ばして攻撃する。

mouryou

魍魎

【もうりょう】

墓場の死体の肝を好んで食す妖怪

「罔両」、「方良」とも書く。亡者の肝を好む、中国由来の妖怪で、『淮南子（えなんじ）』『左伝』に記述が残っている。『和漢三才図会』では水神とされ、日本では後に河童と混同されるようにもなった。



80′

亡者の未練につけいる、死の国の住人

墓場に住む妖怪。この世に未練を残して死んだ人の体に乗り移る。マチコの体に入り込み、家の者を驚かせた。化け火にあぶり出され、正体を現し、亡者の吹きだまりである墓地の地下へと逃げ込むが、桶に入り死人に扮した鬼太郎におびき出される。第53、108話

能力◎死者の体に入り込み、身軽に飛び回る。怪力の巨体で攻撃する。亡者たちを操る。

最期◎鬼太郎に縄で木にくくりつけられている間に、岩魚坊主がお経をあげ、岩へ封印されてしまった。



60～70′

死体を求めて墓を掘り起こす

死体から死体へ乗り移って生きている妖怪。乗り移った死体は夜しか動き回れない。五郎の死体から、実験用の犬の死体へ乗り移るが、火を放たれて姿を現す。第31話、第２部・6話

能力◎死体に乗り移り、動き回る。噛み付く。体の一部が残っていれば復活することができる。

最期◎五郎の死体を焼かれ、残っていた五郎のミイラ化した指も焼かれ、完全に灰となり姿を消す。



90′

変化する埋葬方法に翻弄される

魂だけで肉体がない妖怪。昔は、土葬にされた死体に乗り移っていたが、火葬の時代になり、魂が乗り移れる肉体を探していた死んだ人間が、生きたいと未練がある場合は、体を奪えない。第86、106話

能力◎死体に乗り移る。事故を起こし死体を得ようと、街で暴れる。魂だけのため、体の大きさを自由に変えられる。

最期◎「入るがイイさ」と鬼太郎が自分の肉体に魂を入れろと言うが、着ているちゃんちゃんこに包まれ魂が消滅。

原作コミックでは？

「モウリョウ」では、[illegible]しい死体を求めて[illegible]を[illegible]く。「[illegible]人軍団の奇襲の巻」「妖怪[illegible]あらわるの巻」「死神大戦記」

moureiyassan

猛霊八惨

【もうれいやっさん】

恨み辛みで哀しくも仲間を引きずり込む

千葉県銚子市に伝わる船幽霊「亡霊ヤッサ」がもとになっている。海難事故で死んだ者たちが、自分たちだけ死んでしまったことを怨んで、仲間を増やそうとしているらしい。

70′





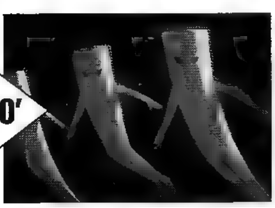
鬼太郎が身を削って戦った、海をさまよう死者たち

猛霊八惨の主により、集められた水難死体を集めて木製ローラーで薄くペラペラにし、再び海に戻すことで作られる亡霊。主の命令により船を沈める。妖怪水車などの強靭なエネルギーになる。生身の人間でも近いうちに水難事故によって死ぬ運命を与えられ、猛霊八惨にされることもある。第39話

能力◎津波を竜巻にしたような「妖怪水車」となり、人の体に巻きつき捕まえる。船の上の人を海に引きずり込む。

最期◎猛霊八惨の主が鬼太郎に破れ、猛霊八惨は鬼太郎の体内電気に触れて骸骨となり、海に消えていく。

80′



津波以上に恐い「妖怪水車」

「もうりょうはっさん」と読む。神聖な祭りが村おこしに利用されていることに憤慨。「猛霊八惨」のかけ声とともに海で死んだ人たちを利用し、妖怪水車で村を呑み込もうとする。第98話

能力◎水精の翁の手により作られ、妖怪水車のエネルギー源になる。それにより猛霊八惨をさらに増やしていく。

最期◎鬼太郎の口から火炎連弾が発射され、水精の翁は敗走。翁の起こした水車に巻き込まれた猛霊八惨は消えてしまう。

原作コミックでは？

鬼太郎以外の作品『妖怪水車』が、70年代のストーリーのベース。出漁の船に集まりひしゃくを求め、渡すと船を沈めてしまう。

moureiyassan no nushi

猛霊八惨の主

【もうれいやっさんのぬし】

70′





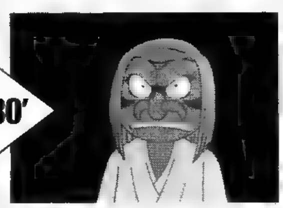
烏帽子に着物の古風な出で立ちだが一見して凶悪

海難事故に遭い、命を落とした人々がなるという亡霊・猛霊八惨（第2部では「もうれいやっさん」と発音）を束ねる長。水難事故者の霊毛がその正体であり、真っ青の長髪は自由自在に伸びて敵に巻きつき、捕らえて離さない。周囲に亡霊を引き連れて登場し、怒ると緑色の顔に黒いクマドリができるなど、一見して凶悪な印象。猛霊八惨を作っていたのがじつはこの妖怪である。溺死した遺体を集めてのしいかのようにプレスして、水につけることで猛霊八惨を作り上げていた。この儀式を見てしまった人間は、猛霊八惨の主の呪いにより生きながら屍と化し、導かれるように水難事故で死んでしまうという。第39話

能力◎鋭い眼光は、岩をも砕くことができる。猛霊八惨を使い、竜巻状の大津波「妖怪水車」を起こす。

最期◎鬼太郎のリモコン下駄で目つぶしを受け、ちゃんちゃんこが首に巻きつき、苦しさのあまり溶けてしまう。

80′



「水の守り神」が人間に憤慨

水精の翁と呼ばれる。海で死んだ人から猛霊八惨を作り出す妖怪であり、水の守り神でもある。人間が神聖な海の祭りを汚し、村おこしに利用したと腹を立て、猛霊八惨を使って大津波「妖怪水車」を起こし、村ともども呑み込もうとした。第98話

能力◎猛霊八惨を使うほか手を回転させても妖怪水車を作る。

最期◎化火を呑み込んだ鬼太郎の口から、火炎連弾が発射され、それが弱点の大きな鼻に当たって空高く逃げて行く。

原作コミックでは？

鬼太郎以外の水木作品『妖怪水車』に登場。このストーリーが70年代版のアニメのベース。ただし呪いをかけたりはしない。

mokumokuren

目目連

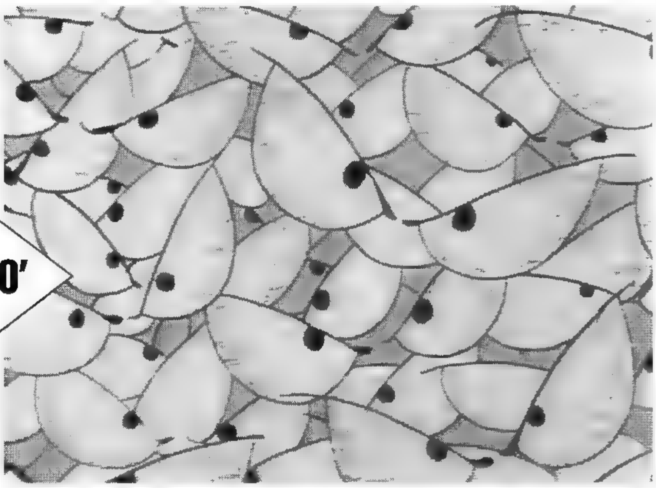


【もくもくれん】

住人をみつめる無数の目・目・目

鳥山石燕『今昔百鬼拾遺』にも描かれている、廃屋の障子に現われたおびただしい数の目の妖怪。碁盤に注がれた碁打ちの目の念が家の隅々にこもって浮かび上がってきたものともいわれる。

90′



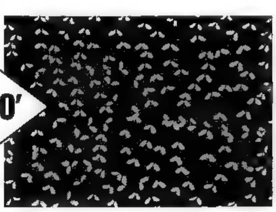
心優しき妖怪が涙の反逆を開始する

普段は「木蓮の里」に住む、心優しき妖怪。無数の目の姿で宙を舞い、無生物にとり憑く。里を壊されたことへの抵抗で、さまざまなものにとり憑きその犯人の家族を襲う。線香の煙と玉ねぎ攻撃で追い出された後もトラック、ビルにとり憑き街を破壊する。第2話

能力◉人の衣服だけではなく、家のじゅうたん、壁、タンスなどの無生物にとり憑き、自由自在に操る。

最後◉ねずみ男の服にとり憑き、ねずみ男ごと妖怪カメラに閉じ込められる。後に、解放される。

70′



一度は鬼太郎も殺した強敵

光の粒でできた妖怪で、昆虫の擬態のように、どんな色・形にもなれる。昼に比べ、夜は力が弱くなるが、月の光により通常と変わらないほどの力を発揮することができる。第32話

能力◉相手の布団や服に無数の目が張りついて、圧迫して苦しめ殺してしまう。被害者はカチンコチンの石になる。

最期◉ネコ娘が持ってきた鏡で集められ、ひとつの光になったところを、「妖怪カメラ」に収めて妖力を封じた。

80′



“生きる城”は妖怪の魔窟

無数の目だけで存在している妖怪。ぬらりひょんの手下として妖怪城にとり憑き、鬼太郎を襲う。光が弱点のため、基本的に締め切った家の中に生息している。第58話

能力◉ものにとり憑き、自由自在に操ってしまう。時には自由を失うほど圧迫し、石にしてしまうことも。

最期◉弱いという瞳に光を当てられ、一気に勢力低下。小さな光の粒になり、その後フィルムに焼き付けられる。

原作コミックでは？

「目目連」に登場。能力などが原作に近い。体を光の粒子にして姿を変える一方で、夜の闇の中では無力と化す。

momonjii

百々爺



【ももんじい】

爺の妖怪か？　はては獣の絵遊びか？

鳥山石燕の『今昔画図続百鬼』には、爺の妖怪と描かれているが、江戸時代に尾の生えた毛深いものを嫌って「モモンジイ」と呼んだので、獣をキーワードにした絵遊びという説もある。

70′



鬼太郎の地位をひそかに狙う頭脳犯

狡猾な性格の謀略が得意な爺の妖怪。鬼太郎に濡れ衣を着せ、追い落そうとする。ねずみ男を利用し、ねずみ男がだまし取った金もすべて巻き上げ、さらにほかの妖怪たちをも仲間に引き込む。裁判ではもちろん鬼太郎の有罪を主張する。第３話

能力◉鼻から毛針を飛ばす「鼻毛針」と、鼻から出すガスにやられると、幻覚を引き起こす「鼻もんも」。

最後◉鼻もんもで鬼太郎に幻覚を見せ、優位に立つが、術の正体を聞いた鬼太郎に毛針で撃退される。

80′



地位のためなら姑息なことも

妖怪裁判にかけられた鬼太郎の弁護ができないよう、一反もめんを木にはり付けたり、ねずみ男を使って子泣き爺に眠り薬を飲ませたり、汚い手を平気で使う。第32、91、101話

能力◉鼻毛針という鼻から出る針で攻撃したり、鼻穴からシャボンを出し、幻覚を相手に見せる鼻もんもがある。

最後◉鬼太郎のリモコン下駄で倒され、一連の事件の真犯人として、鬼太郎の手でカラス天狗に身柄を渡される。

90′



カラスの糞の恨みは糞で返す

以前鬼太郎に受けたカラスの糞の恨みを晴らそうと、復讐の機会を狙っていた。井戸仙人から妖怪医学書を盗み、幻術で鬼太郎を妖怪ノイローゼに。第46、47、106話

能力◉カラスの糞を材料に、ひどい悪臭のガスを手紙に染み込ませ、幻術で鬼太郎を妖怪ノイローゼに陥れた。

最期◉みずから臭いガスを嗅ぎ、妖怪たちの幻覚に怯えながら、足を滑らせて「恐れが淵」に落下。

原作コミックでは？

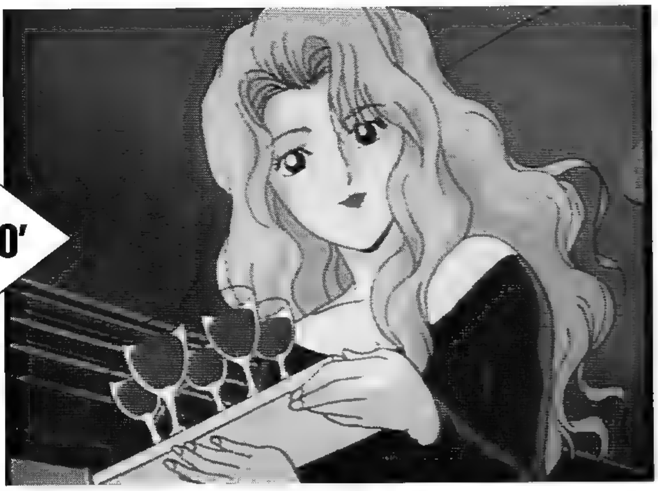
「妖怪大裁判」に登場。鬼太郎を始末し、妖怪界を牛耳ろうと考えた狡猾な妖怪。しかしやはり使える術はふたつのみ。

monroe

モンロー
【もんろー】



90′



ずる賢いやり方で世界征服を狙う

吸血鬼ピーの手下で、必要以上に色気のある妖怪。金髪&ボディコンの美しい女性の姿で、汽車の中でワインと偽って、吸血鬼になってしまう薬を配り、ねずみ男を吸血鬼にしてしまう。その時初めて出会ったねずみ男にはまったくいい印象がなく、「不潔なところが嫌」と言い放つクールな面も。世界征服を夢見る吸血鬼ピーとモンローの2人は、まずは鬼太郎からと助けを求める嘘の手紙を出し、鬼太郎に近づく。そして吸血鬼になったねずみ男が噛んだ肩の手当てをすると見せかけ、じつは吸血鬼になる薬を鬼太郎に塗りこんだ。第9話

能力◎ワインに見せかけ、吸血鬼になる薬を飲ませる。もしくは吸血鬼になる薬を塗る。優れた美貌で男をだます演技派。

最期◎吸血鬼ピーとともに太陽の方向を向かされ、首まで地面に埋められる。

70′



マリリン・モンローの血が流れる

吸血鬼ピーの妻。昔、マリリン・モンローの血を吸ったため、外見はモンローにそっくりな吸血鬼だ。仲間の吸血鬼を増やしていくカギとなる薬を操る。ときに暴力的。第61話

能力◎吸血鬼を増やすため、飲んで吸血鬼になる液体や塗り薬を駆使。もちろん噛んでも吸血鬼にすることができる。

最後◎鬼太郎と仲間たちの団結力を目の当たりにし、日本征服を目標にしていたが、吸血鬼ピーとともに南へ帰る。

80′



ピーの復活をその美貌で成す

吸血鬼ピーの手下。美貌を生かしてねずみ男に重い棺のフタを開けさせ、100年ぶりにピーを蘇らせる。目玉おやじの頼みとウソをつき、倒れた鬼太郎の診察に現れる。第61話

能力◎生まれながらに備わった天性の美しさ。そして吸血鬼ピーへの忠誠心。薬を使って吸血鬼を増やす。

最期◎「まぼろしの汽車」の煙突の中に広がる火の海で、鬼太郎と根比べをした結果、吸血鬼ピーと火の海へ消える。

原作コミックでは？

「まぼろしの汽車」に登場する墓の下高校の教師。モンローそっくりな、野球部の後援会長で、資金集めのためにはヌードも辞さない。

yakanzuru

ヤカンズル
【やかんずる】



木の上からぶら下がる“やかん”

ヤカンズルという妖怪は存在しないが、木の上から突然、やかんが下がってくる「薬缶づる」という怪談が長野県に伝わり、水木しげる『妖怪百物語』でも「やかんづる」として語られる。

70′



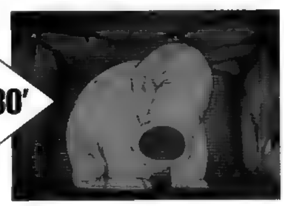
胃袋に別の世界を持ち、悪魔軍団を一気に呑んだ

目も鼻もない、4本足の妖怪。洞窟で3000年もの間、眠っていた。悪魔ブエル率いる悪魔軍団を一網打尽にするため、鬼太郎と目玉おやじが洞窟の鍵を開ける。悪魔ブエルたちを食べた後もあらゆるものを食べ続け、とどまることを知らなかった。第33話

能力◎胃袋には別の世界を持っていて、いくらでも食べ続けることができる。

最後◎封印を解いた者を食べるまで永遠に食べ続けるため、鬼太郎が悪魔ブエルを道連れに食べられる。そして洞窟へ。

80′



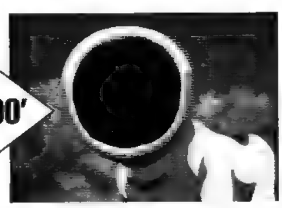
無限の胃を持つ悪魔退治の専門家

神に仕える、悪魔退治専門の妖怪。洞窟に眠っていたが、悪魔ブエルを倒すために鬼太郎たちが封印を解いた。悪魔ブエルを倒したが、物があふれかえる現代に暴走する。第63話

能力◎無限にものを吸い込む。吸い込んだものは、空の彼方に転送し保存。まとめて消化する。

最後◎砂かけ婆に風船を吸い込ませられ、その風船に空気を入れられて上空へ。体の自由を失い、再び洞窟に戻された。

90′



胃袋が井戸の底と繋がっていた

胃袋が地の底まで繋がっているという、何でも吸い込む大食い妖怪。悪魔ブエル率いる悪魔軍団を倒すために封印を解かれた。だが、その後も吸い込むのをやめなかった。第69話

能力◎自分の封印を解いた者を食べるまでは、あらゆるものを食べ続ける。胃袋は井戸に繋がっていた。

最後◎強力な胃液で溶かされるが、消化するのに一晩はかかる。封印を解いた鬼太郎を吸い込み、再び洞窟に戻っていく。

原作コミックでは？

別世界に胃袋を持つ。体内に飛び込んだ鬼太郎にコントロールされ、天の岩戸へ。体内の鬼太郎に倒されたもよう。「悪魔ブエル」



yagyousan

夜行さん【やぎょうさん】

頭に草履（ぞうり）を載せていれば大丈夫？

徳島県に伝わる、首のない馬に乗って現れる鬼。出会うと蹴り殺されるが、地にひれ伏して草履を頭に載せれば助かるらしい。節分、大みそか、庚申（こうしん）の日などに現れるとされている。

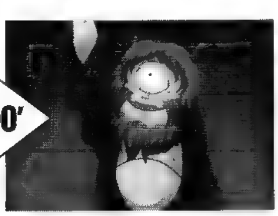
80′



「妖怪戦車」を発明し、鬼太郎のピンチに駆けつける

鬼太郎を助ける仲間のひとり。文明や技術の進歩に興味を持ち、いろいろなモノを研究・開発している妖怪発明家。その代表作は、妖怪たちの能力を活かし、最先端の文明の利器を応用した「妖怪戦車」だ。へそ曲がりで一筋縄ではいかないが、本当は気がやさしく、いざというときとても頼りになる。「地獄編」では、ぬらりひょんに操られ、首なしの馬にまたがり「地獄武者」を名乗って鬼太郎たちに襲い掛かった。また、西洋妖怪戦の呼びかけに集まったものの、すぐに姿を消してしまったことも。第78、86、113話、劇「妖怪大戦争」「異次元」

90′



「妖怪自動車」を開発した発明王

妖怪一の発明家。妖怪自動車を開発し、妖怪潜水艦をつくって妖怪を退治しようと提案したこともあった。普段は、首のない馬に乗り移動している。鬼太郎の母親に化けた「ヒー族の巫女」が放つ、たちの悪い霊気を見抜き、毒にやられた鬼太郎に「解毒草」を煎じて飲ませる活躍も見せる。「地獄絵図窃盗及び無断公開事件」の法廷では、妖怪検事も務めていた。第37、46、47、77、80、114話、劇「おばけナイター」

原作コミックでは？

[illegible]「最後の出会い」



yako

野狐【やこ】

妖狐の中では最下級で人に害なす妖怪

人間に危害を加える妖狐のことを、野狐と呼ぶ。妖狐の中では野狐が一番下の階級とされ、尻尾は１本しかないが、長い歳月を経て９つになるといわれる。また、九州では憑き物とされる。

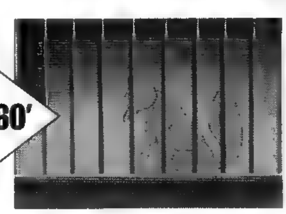
80′



紋付き袴を着た、妖怪ギツネのなかでは一番下っ端

妖狐組織のなかでは、一番身分が低いとされるキツネ。地下の工事で住みかを脅かされ、これ以上工事を進めぬよう人間たちへ警告を発する。つねに紋付き袴を着用し、城の護衛や牢屋の見張りなどが主な仕事だ。天狐の忠実な部下だが、捕らえたねずみ男から賄賂をもらって牢屋から釈放し、それが空狐にばれて叩かれていた野狐もいる。集団で行動することが多く、長い棒を手にして、地下にある城に乗り込んだ鬼太郎に襲いかかった。だが、あっけなく素手で倒されてしまう。最後は、鬼太郎に敗れた天狐とともに、城ごと姿を消してしまう。第18話

60′



化けることすらできない妖狐

妖狐と呼ばれる妖怪ギツネの一種。妖狐の王城では、実力によって階級が分かれている。野狐は、天狐、空狐、地狐に次いで、一番下級の妖狐。尻尾は１本で、化けることもできない地底の王城に暮らしていたが、地下10階の駐車場建設の工事で行き場をなくし、工事中の現場でロープを切るなどの事故を頻繁に起こして、工事の中止を人間たちに訴えた。油あげを供える約束で、天狐とともに去っていく。第49話

原作コミックでは？

「天狐」に登場。妖狐のなかでもっとも階級が低く、化けることもできない。やはり、天狐とともに去っていった。



夜叉は、女夜叉を見るのじゃ

yashiotoshi

やし落とし

【やしおとし】





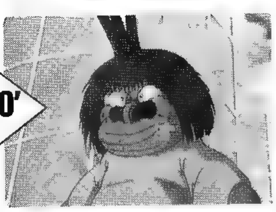
60'

「キキキのキ」と不気味に笑う、南方妖怪

「アカマタ」ら南方妖怪軍団とともにやって来た、植物性妖怪。頭にやしの木を生やし、マント一枚というスタイルだ。妖怪未解放地区になっている日本妖怪の地位を向上させるため、軍艦に乗って来日。日本の妖怪王にしてやると、ねずみ男をだまして、計画の障害となる鬼太郎の抹殺を図る。アカマタとつねに行動をともにし、しゃべりはアカマタが担当。やし落とし自体は、「キキキのキ」と笑っていることが多く、ときに「キーッ」と怒るなど、言葉らしきものを発することがなかった。正体は目のある、動く怪木だった。第39話

能力◎頭のやしの木を伸ばし、やしの実を落下させて攻撃。指がつるになり伸縮自在。周りにある木の根を自由に操る。

最期◎鬼太郎の髪の毛針を目に浴び、動きが止まったところをつるべ火に焼かれてしまう。



80'

植物園で鬼太郎ファミリーと対決

南方妖怪のひとり。ねずみ男をたぶらかして、鬼太郎をおびき出す。アカマタとともに、「熱帯植物園」で鬼太郎たちを襲った。話し方はカタコトである。劇「ゲゲゲの鬼太郎」

能力◎突風を起こし、頭に生えたやしの実を飛ばして攻撃。木の根を自由に操り、鬼太郎たちを襲った。

最期◎木の根でネコ娘たちを捕らえるが、つるべ火の放った火で焼かれてしまう。



90'

やしを落として攻撃する南方妖怪

南太平洋上のバルル島の奥地に住む、南方妖怪のひとり。生命の水を求めてジャングルを荒らす日本人に怒り、アカマタ、チンポらと日本に総攻撃を仕掛ける。劇「大海獣」

能力◎頭のやしの実を飛ばして攻撃。やしの実を落とすスピードは自由自在。

最後◎キジムナーが噴いた火を鬼太郎がかわし、それが引火し丸焼けに。最後はアカマタたちと南方に帰っていった。

原作コミックでは？

「妖怪軍団」に登場した妖怪。日本にやってきた妖怪解放軍のひとり。正体は巨木の根のような姿で、最後はつるべ火に焼かれてしまった。

yasha

夜叉

【やしゃ】



空を飛び、人間の血肉を喰う

中国に伝わる悪鬼の一種。水木しげるの『中国妖怪事典』によれば、空中を飛行し、人間の血肉を吸うといわれている。また、人間の女をさらって自分の妻とするという話も伝えられている。



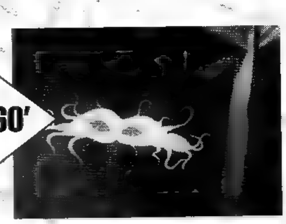
90'

ねずみ男の魂を食べ、腹を壊してしまった

ギターを爪弾き、体の自由を奪って魂を食う妖怪。墓場で魂を奪っていたが、ねずみ男の魂を食って腹を壊す。それを治そうと4人の子どもの魂を集め、食べようとしたところを鬼太郎に見つかってしまう。その正体は、髪の毛。第3話

能力◎ギターを爪弾きし、体の自由を奪う。ギターの音で鬼太郎の自由も奪った。

最期◎魂を茹でるための湯をかけられ、死霊の穴に落ちて死霊に食われてしまう。



60'

死体を操り、子どもたちの魂を狙う

中国出身の妖怪。ノロの死体を操り、街の子ども全員の魂を狙う。抜き取った魂は、風船の中に入れて保管していた。鬼太郎も隙をつかれ魂を抜かれる。正体は髪の毛。第2話

能力◎ギターの音色で相手を催眠状態にし、魂を抜き取る。髪の毛を伸ばし、鬼太郎の首を絞めた。

最期◎髪の毛の正体を現し、鬼太郎の呼んだ「妖怪ランプ」の炎で焼かれてしまう。



80'

ビートルズの曲も夜叉が作った!?

中国の妖怪。響というギター演奏者に乗り移り、演奏を聞いている人が聞き惚れている間に、魂を抜き取ってしまう。ビートルズの曲も夜叉が作ったという。第10、86話

能力◎人がギターの音色に酔っているうちに、魂を抜き取る。昔は琵琶(びわ)を使用していた。

最期◎音痴だと曲を聴いても大丈夫なので、日本一音痴なねずみ男の尻から出るガスに火をつけて噴射し、燃え尽きる。

原作コミックでは？

原作となった「夜叉」以外にも、1000年前に中国から来た吸血鬼として「下宿屋」「あう時はいつも死人」などに登場。

yaobikuni

八百比丘尼

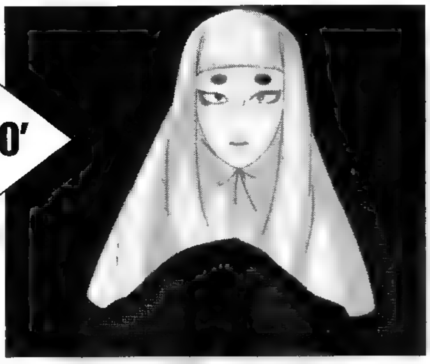
【やおびくに】

人魚の肉を食べ、諸国をめぐった女性

若狭・小浜の出身といわれ、人魚の肉、または九穴の鮑(あわび)を食べて不老不死になった女性。白い椿を持って諸国をめぐり、後に若狭の空印寺の岩屋で入定したとされている。

「鬼道衆」を使い、妖怪抹殺を企てる800年生きた尼

80′



人魚の肉を食べ800年を生き延びている尼。衰えていく肉体を再生するため、同じく人魚の肉で生きながらえている「鬼道衆」を使って、女王人魚を手に入れようとする。しかし、鬼太郎に邪魔されてしまう。妖怪たちを天敵とみなしており、必要以上に鬼太郎たちを追った。第100話

能力◎ユメコに鬼巫女の術をかけて操る。

最期◎鬼巫女の面が割れツノがのどに。老化が進み白骨化する。

原作コミックでは？

『おそろしい八百比丘尼の巻』には、ムーに協力して鬼太郎を亡き者にしようとした老婆の妖怪として登場する。

yamaotoko

山男

【やまおとこ】

気のやさしい、山に住む大男

山中で山男に会ったという話は、日本各地に伝わる。大半は半裸で毛深い大男とされ、言葉を話したり話さなかったりするという。また、少ない報酬で大きな労働をしてくれるのが通例だ。

東京をジャングルにしようとマンモスフラワーの種をまく

80′



地下深く氷漬けになって眠っていたところを、ねずみ男に目覚めさせられた妖怪。文明を嫌い、自然がないとノイローゼになってしまうことから、街を原始時代に戻そうと「マンモスフラワー」の種をまき東京をジャングルにしてしまう。鬼太郎の説得にも応じなかったが、状況を打開しようと登場した妖怪戦車に、文明の進化を目の当たりにした山男は、東京を元に戻して再び山へ帰って行く。第78話

原作コミックでは？

80年代のアニメでは「山男」だが、鬼太郎の登場しない「原始さん」の原始さんが、妖怪のベースになっていると思われる。

yanari

家鳴

【やなり】

小鬼の姿をした和風ポルターガイスト

『画図百鬼夜行』に描かれているが、説明はつけられていない。水木しげるの各書によれば、「障子や戸をガタガタと鳴らす、ポルターガイストのようなもの」と説明されている。

人喰い家に住んで、家鳴帝国をつくろうとした

80′



人里離れた山奥で、ひっそりと暮らしていた３人組の妖怪。ある日、迷い込んできた人間を、自分たちが住み着いている家が食べてしまった。取り憑いた家が「人喰い家」で人間を食べて成長することに気付いた家鳴は、家を大きくし、家鳴帝国をつくろうと計画する。第92話

最期◎妖怪戦車に人喰い家を破壊され、逃げようと外に出たところを野づちに吸い込まれてしまう。

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

yamagami

山神

【やまがみ】

日本各地で祀られている「さんじん」

「さんじん」と呼ぶ。山で生活する人により、全国的に祀られている精霊のような存在。水木しげるによれば、山から石を持って帰ると、石を返してもらうためにいたずらをするらしい。

とうふ小僧を従え、森とともに弱っていく神

80′



山で一番古く大きい木の中に住んでいる山の神。自分たちの森が工事により破壊されるにつれ、山神自体も床に伏せるようになっていた。山神に仕えるとうふ小僧は、山神の体を心配し、カビの粉で人間を襲うが、鬼太郎に阻止される。山神は、「自分を心配してやったことだから」と鬼太郎たちにとうふ小僧を許してくれるよう頼むのだった。鬼太郎たちの協力により自然伐採を続ける人間を懲らしめて工事は中止に。山神も一命を取り留めた。第106話

原作コミックでは？

「豆腐小僧」で登場。とうふ小僧を従えており、悪さをして鬼太郎に倒されそうになったとき小僧のために命を絶す。



山小僧は、呼子を見るのじゃ

yamajijii

山爺

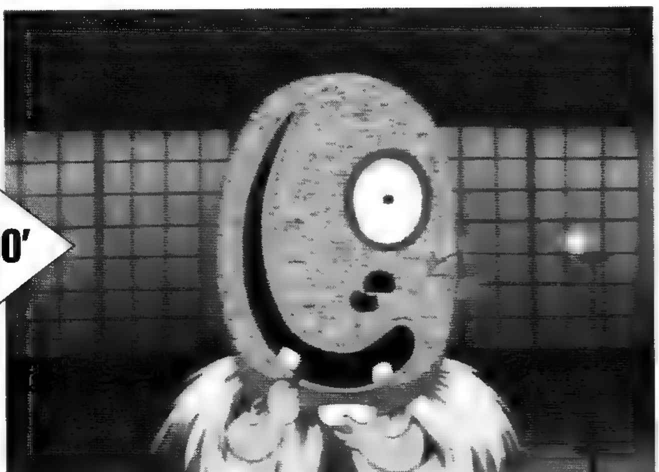


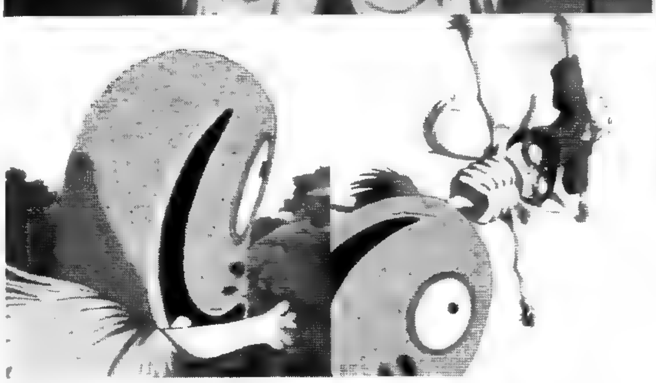
【やまじじい】

猪や猿をバクバク食べる一本足の妖怪

四国山中に伝わる妖怪。『南路志続篇稿本二十三』によれば、約90～120cmの一本足で、目は2つあるが、ひとつが小さく一つ目にも見える。猪や猿をまるで大根を食べるように食うらしい。

90'





恐ろしい顔をしながら、チョウが好きなのんびり屋

山に住む得体の知れない妖怪。ねずみ男から強引に誘われ、ぬらりひょんの助っ人バイトを務めることに。そのごつい顔とは裏腹に、チョウが好きな妖怪で、無口でほとんどしゃべらない。山の古木を住みかとしており、その入り口には「ゴ用ノ方ハ木ヲタタイテ下サイ　山ジジイ」と書かれてある。第113話

能力◎巾着からどんぐりを投げつける。これといった特殊な能力は持っていないようだ。

最期◎五徳猫、如意自在と3人で肩車して攻撃する「妖気合体」で鬼太郎に挑むが、あっけなく倒れてしまう。

~70'



西洋妖怪戦から離脱した

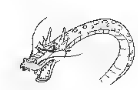
日本を妖怪の国にしようと企む、西洋妖怪。奇怪が島に上陸したバックベアード率いる西洋妖怪たちに立ち向かう有志を、ねずみ男が募った中にいたひとり。ねずみ男に「山爺」と出席をとられ、墓石の陰から大きく手を挙げていた。しかし、決戦には参加せず姿を消してしまった。派手なつくりの顔に似合わず、攻撃能力がないか、命が惜しかったのだと思われる。第10話。70年代、第2話でも違うタイプの山爺が確認できる。

原作コミックでは？

名前は呼ばれないが、「妖怪大裁判」の中で姿が確認できる。百々爺の仲間として、ほかの妖怪たちと鬼太郎を襲った。

yamatanoorochi

八俣大蛇



【やまたのおろち】

8つの頭と8つの尾を持つ大蛇

『古事記』や『日本書紀』に登場。八俣大蛇は、クシナダヒメを生け贄にしようとしていたが、スサノオノミコトによって退治される。尾からは三種の神器のひとつ「草薙の剣」が出た。

70'



解放石の中で、生け贄が来るのを待つ

呼子が持つ、解放石の中に住んでいる巨大な妖怪。解放石に触れた者はその中に引きずり込まれ、中で待ち構える呼子の手下によって、八俣大蛇の前まで連れて行かれる仕組みとなっている。それぞれの頭はカラフルで、体の部分は見えない。第12話

能力◎鋭いキバで鬼太郎に襲いかかった。そして、鬼太郎を丸呑みにしてしまう。

最後◎ちゃんちゃんこやリモコン下駄で視界をふさがれた1頭が別の1頭に噛み付く。残りは、妖怪体電池で感電。

80'



呼子のやまびこの術で倒れる

8つの頭を持つ妖怪。ダイヤモンドの中に異次元の世界を作って妖怪たちを住まわせ、月に一度生け贄を差し出させていた。尾には、異次元を脱出できる剣が隠されている。第79話

能力◎口から火炎を吐いて鬼太郎を襲う。鋭いキバも強力な武器として使用する。

最期◎呼子たちの「やまびこの術」で分身した鬼太郎に、8本の首を絡まされ、剣でとどめを刺され倒される。

90'



各地に首が散らばっている

鍾乳洞などにある封印場所に、「草薙の剣」をはめ込むと、1頭ずつ大蛇が復活。ぬらりひょんが鬼太郎を倒すため復活させた。お台場のフジテレビにも出現。第74、96話

能力◎口から火や光線を出す。鬼太郎の髪の毛針やリモコン下駄、ちゃんちゃんこも効かない。剣で倒しても復活する。

最期◎黄色目のオロチの額にある心臓が急所。草薙の剣で刺されると、すべてのオロチが倒れた。

原作コミックでは？

鬼太郎が登場しない「やまたのおろち」に登場。呼子が持つ解放石の中に住んでいるなど、70・80年代版はほぼ原作どおり。

yamatengu

山天狗

【やまてんぐ】



山に住み人を驚かす"山の天狗"

神奈川県津久井町に伝わる天狗。山小屋をゆすったり、木を倒す音をたてるといわれる。また、この地では山に住む天狗を「山天狗」、川に住む天狗を「川天狗」と呼んでいる。

鬼太郎の鼻を天狗うちわで伸ばした

80′



「天狗の森」にある祠に封印されていた巨大な天狗。鬼太郎たちに、人間の少女、モモコを連れて行かれたくない「木の子」たちによって、封印を解かれる。女の子の生き胆を食べると1000年長生きすると豪語する。第89話

能力◎高い下駄で大木を倒す「天狗倒し」、鼻から飛ばす「鼻毛針」。天狗うちわを扇ぎ、相手の鼻を伸ばす妖術を使う。

最期◎封印の札を鼻に貼られ、元の祠に戻され再び封印される。

原作コミックでは？

原作とアニメがほぼ同じキャラだが、前述した以外に、無数の石つぶてを飛ばす「天狗つぶて」という技も使う。「木の子」

yamawaro

山童

【やまわろ】

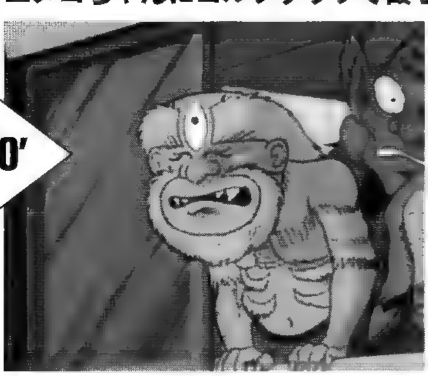


九州では、山仕事の手伝いもしてくれる

各地に伝わる山に住む妖怪。九州では、河童が山に入って山童になったとされている。その呼び名もさまざまだ。山仕事の手伝いをするともいわれ、木を運んでくれたりもするという。

ユメコちゃんにゴルフクラブで殴られ卒倒

80′



一つ目の老人のような妖怪。怪気象を使って、東京を妖怪の国にしようと企む「妖怪皇帝」軍団のひとりとして登場。マンガ家・水木の家で鬼太郎を襲う。しかし、待ち構えていたユメコによって、ゴルフクラブで殴られて気絶してしまう。国会議事堂前でも鬼太郎を待ち構えて、妖怪軍団とともに迎え撃つ。これといった目立った活躍もないまま、怪気象とともに消えてしまった。劇「異次元」

原作コミックでは？

『妖怪　本所七ふしぎの巻』では、ぬらりひょんの呼びかけに集まったひとりとして、その姿を確認することができる。

yukiotoko

雪男

【ゆきおとこ】



現在でも目撃される、雪山に現れる大入道

富山県に伝わる、雪の降る夜に現れる大男の妖怪。『日本妖怪変化語彙』に書かれている。現在でもUMAとして、世界中で目撃例が多い。中国山地のヒバゴンも雪男と同一視されるようだ。

90′



つらら、雪崩、冷気と多彩な攻撃を繰り出す冷凍妖怪

北海道の「最果村にある銀雪山」に住む、なまはげのようないでたちの冷凍妖怪。雪女の夫で、娘は雪ん子。むやみに動物を殺す村人をさらい、魂を抜く。住みかの洞窟に乗り込んだ鬼太郎を、雪女と雪ん子の３人で迎え撃つ。第58話

能力◎つららを落として攻撃。口から冷気を吐き、相手を凍らせる。洞窟の天井をたたけば雪崩がおこる。

最期◎妖怪エネルギーの温度をあげた鬼太郎に、エネルギーを顔に吹きかけられ溶けてしまう。

60′



雪女＆雪ん子と合体して冷凍巨人に

雪女、雪ん子と北海道に暮らす、冷凍妖怪のひとり。雪ん子を使い、人をさらって魂を抜く。鬼太郎に苦戦する雪女と雪ん子を救うべく、氷の中から現れて鬼太郎を襲う。第48話

能力◎相手を怪力で押さえつけて凍らせてしまう。雪女、雪ん子と合体して冷凍巨人となる。

最期◎冷凍巨人となって鬼太郎を襲うが、鬼太郎の火炎により洞窟が崩れて姿を消す。

80′



化火によって２度溶かされる

雪山の鍾乳洞に住む。雪女、雪ん子とは冷凍妖怪ファミリー。「我々３人で世界中の人間どもを凍らせてやるのさ」と豪語。計画をじゃまする鬼太郎と戦う。第15話

能力◎目が青く光り、光線を発射。その光線が体に巻きつくと、相手は凍ってしまう。

最期◎化火の火を受けて溶けるが、雪女、雪ん子の妖気が集まって大きな冷凍妖怪に。結局、化火の熱で溶かされる

原作コミックでは？

アニメ版の原作である「雪ん子」以外にも、「再生妖怪軍団の反撃」の巻」「百鬼夜行軍団の逆襲」の巻」などに顔を出す。

や

山彦は、呼子を見るのじゃ

yukionna

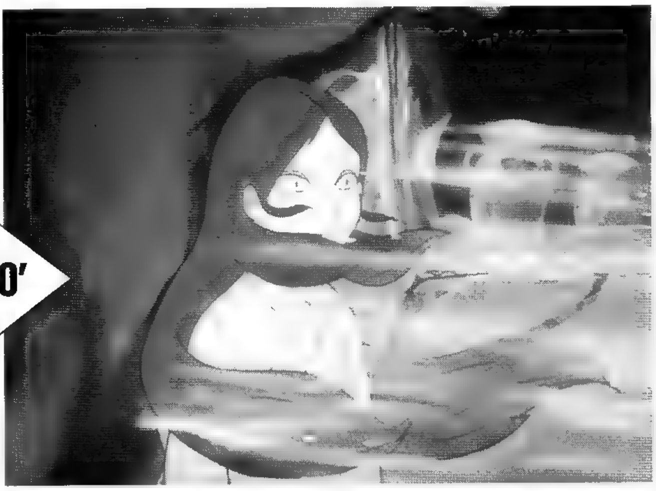
雪女



【ゆきおんな】

古くから各地で伝わる雪女伝説

日本各地で知られる雪の夜に現れる女の妖怪。地方によって、雪女郎、雪姉サ、雪バンバ、雪婆など呼び名はさまざま。しかしどの地方でも、会った人間は殺されてしまうようだ。



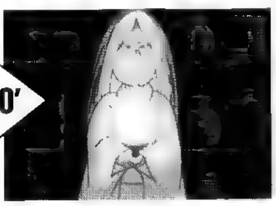
60′

雪ん子を助け、強力な吹雪を起こして鬼太郎を襲う

雪男、雪ん子と共存する冷凍妖怪のひとり。北海道の雪山にいる。人間の魂を抜いていた雪ん子が鬼太郎の攻撃を受け、ピンチに陥ったときに現れ、鬼太郎を襲う。雪男、雪ん子と合体して、冷凍巨人になることもできる。第48話

能力◎口から冷気を吐く。髪の毛針もはね返す、雪ん子よりも強力な吹雪を起こす。

最期◎妖怪原子炉を燃やした鬼太郎が口から噴いた火炎により、溶けてしまう。



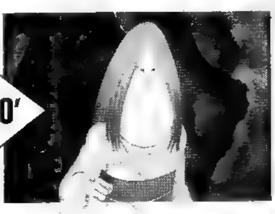
80′

鬼太郎に手を貸すこともあった

雪男、雪ん子と暮らす妖怪。氷の魂を食べるのは、一日ひとつが基本らしい。「人間と妖怪　友好盆踊り大会」にも参加。ぬけ首の頭を冷やすため鬼太郎に手を貸したこともある。第15、94話

能力◎目が青く光り、口から冷凍光線を発射する。光線を相手に巻き付けて、凍らせてしまう。

最期◎鬼太郎が呼んだ化火の火を直接受けて、溶けて消えてしまった。



90′

鬼太郎と妖魔城を目指したことも

むやみに動物を殺す人間の魂を抜く。「姿を見られたら生きて帰せない」と、鬼太郎を凍らせようとした。また鬼太郎に協力して妖魔城へ乗り込み、人食い花に喰われた。第58、98、99話

能力◎鬼太郎を助けようとした雪ん子を叱り、雪男とともに、口から冷気を吹いて、鬼太郎を凍らせてしまった。

最期◎妖怪エネルギーの温度を上げた鬼太郎に、熱気を顔に吹きかけられて絶命する。

原作コミックでは？

アニメ版の原作である「雪ん子」のほかに、「再生妖怪軍団の反撃！ の巻」では、妖怪香炉で蘇り鬼太郎を襲った。

yukinko

雪ん子



【ゆきんこ】

雪女が連れてくる子どもの雪妖怪

「雪童子（ゆきわらし）」とも呼ばれる。北国の防寒具でもあった蓑を纏った女の子の姿で描かれることが多い。雪女が連れてくることも多く、人間の子どもと遊ぶこともあるという。



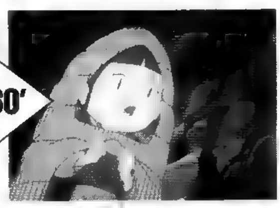
80′

しぶしぶながらも鬼太郎に協力したことも

雪男、雪女と行動をともにする冷凍妖怪。人間を凍らせ、その魂をアイスキャンディーにして食べる。住みかに乗り込んだ鬼太郎も凍らせてしまう。また、ぬけ首の頭を冷やすため、雪女、つらら女とともに鬼太郎に協力した。第15、94話、劇「最強妖怪」

能力◎目を青く光らせて光線を出す。その光線が体に巻きつくと、相手は凍ってしまう。

最期◎化火が作った熱い炭を鬼太郎が鍾乳洞の池に投げ、熱くなった池の中に入ってしまい溶けて消える。



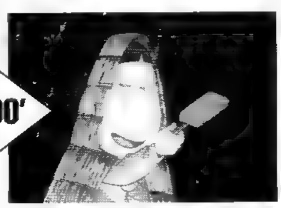
60′

鬼太郎の炎で溶けてしまう

村人を氷漬けにして魂を抜き、アイスキャンディーにして食べていた。鬼太郎をだまして背中に負ぶさり凍らせ、雪女、雪男と共謀して鬼太郎を窮地に追い込む。第48話

能力◎人間を凍らせて、その魂をアイスキャンディーにしてしまう。小さな雪嵐や、吹雪を起こす。

最期◎「妖怪原子炉」を燃やした鬼太郎が、口から火炎を噴出。その炎を浴びて溶けてしまう。



90′

鬼太郎をかばって逃がそうとする

雪男と雪女の娘。人間がむやみに動物を殺すことに怒り、人間の魂をアイスキャンディーにして食べてしまう。動物を殺したことのない鬼太郎をかばい、逃がそうとする。第58話

能力◎「アイスキャンディーはいらんかね」と雪の中を歩き、人間の口にアイスを入れて凍らせ、魂を抜く。

最期◎鬼太郎が妖怪エネルギーを上げて出した、熱光線を浴びた雪男をかばって、一緒に溶けてしまう。

原作コミックでは？

アニメのベースとなっている「雪ん子」をはじめ、「再生妖怪軍団の反撃！ の巻」にも登場。どちらも敵として描かれ、改心しない。

youka

妖花

【ようか】

60′



少女の身を案じて咲き乱れる、ジャングルに生息する花

本来は南方のジャングルに生息する植物であり、空から飛んできたタネが、花子の家の植木鉢に落ちて発芽したもの。見る間に物干し竿いっぱいに広がる繁殖力と、切ってもまたすぐに生えてくる驚くべき生命力を兼ね備えている。また、夜になると花が点滅。彼女を半ばノイローゼ状態に追い込んでいった。鬼太郎たちが花を引きちぎろうとすると、動きまわる蔦と体に吸い付く花で反撃する。しかし、花子が手を差し伸べると、絡みついた蔦や花が簡単に取れてしまう。妖花の本体の木小鬼たちが住む南方のジャングルにあり、そこから各地へタネを飛ばしていた。じつは、妖花の根の近くにある地下通路には花子の両親の死体が眠っており、２人の魂が妖花のタネに宿って海を渡り、花子を見守っていた。第32話

能力◎蔓を鞭のようにして攻撃。花が飛んで体に吸い付く。

80′



がしゃどくろに守られた叔父の魂

華子の住むアパート一面に咲いている、不思議な熱帯性の植物。切ってもすぐに生えてくる生命力の強い花で、大元の木は南の島に生息している。その島の密林にある墓は巨大ながしゃどくろに守られた、まさに秘境である。その密林の奥にある木の根元に、戦死した華子の叔父の骨が埋められていた。木の寿命が近づき、木にとり憑いた叔父の最後のメッセージとして、妖花は華子の部屋に咲き乱れていた。第71話

90′



孫の成長を見守る祖父母の魂

南方のジャングルに生える植物。毎年、夏の暑い盛りに一気に繁殖する。蔦が花子の部屋中に広がり、大輪の花を咲かせていた。人間に危害を加えることはない。南の島で、戦死した花子の祖父の遺体から養分を吸い成長。妻（花子の祖母）と、孫の花子を守るために、遥か南の島から花粉を飛ばして、部屋に花を咲かせていた。後に、花子の祖母も同じ場所で息を引き取り、２人で花子の成長を見守るようになった。第30話

原作コミックでは？

「妖花」に登場する妖花が、アニメにおける妖花のベース。少女を見守っているのは、60年代アニメの設定と同じく両親。

youkaisaboten

妖怪サボテン

【ようかいさぼてん】

90′



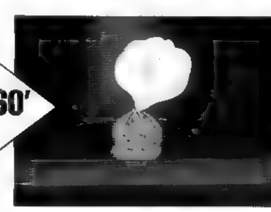
座敷童子も呑み込んだ、攻撃力が高い「サボテン妖怪」

「サボテン妖怪」として登場。家に入り込み、住人の生気を吸い取る妖怪・後神の相棒でもある。「幸せを運ぶサボテン」として、座敷童子の住む家に進入。ふだんは小さいただのサボテンだが、後神の命令どおりに、そこで暮らす人たちをつぎつぎと襲う。舌のような触手で相手を捕まえて、頭から呑み込む。座敷童子も呑み込まれてしまった。また、腕力も強く、体のトゲを飛ばすなど攻撃力も高い。消化力はさほど強くないようで、呑まれた人たちは無事救出されている。また、意思のようなものもなく、後神が倒されるとおとなしくなった。第55話

能力◎サボテンのトゲを連射する。触手で獲物を捕まえて呑み込む。呑み込まれた人間はコブとなって現れる。

最期◎座敷童子に体内で攻撃されて悶絶し、リモコン下駄で触手を切られる。後神がいなくなると鎮静化した。

60′



鬼太郎の指鉄砲で絶滅

後神と手を組み、人間を食べてしまう妖怪サボテン。体の大きさを自由に変えることができ、後神の合図によって獲物を狙う。隙をついて、鬼太郎も呑み込んだ。第61話

能力◎後神の手から出る煙を合図に、花が咲き人間を丸呑みに食べられた人間は、サボテンのコブとなってしまう。

最期◎妖怪サボテンに呑み込まれた鬼太郎が、指鉄砲を発射。ひるんだところを鬼太郎が皮を裂いて出てくる。

80′



後神に同情して孤軍奮闘！

ふだんは普通の鉢植えのサボテンだが、じつは花弁を伸ばして相手を捕え呑み込む妖怪。一人呑み込むたびに体のコブがひとつずつ増える。後神の境遇に同情して、花屋を持たせてやろうと奮闘する。呑み込んだ鬼太郎に、体内にある中央の茎を剣で破られ水が噴出。鬼太郎たちを吐き出し、しおれてしまった。後神に「さぼちゃん」と呼ばれる。第59話

能力◎体内は別空間のようになっている。針を飛ばす。

原作コミックでは？

「後神」では、後神と手を組んで家を乗っ取ろうと企む。ラストは指鉄砲で倒されている。後神は「サボちゃん」と呼んでいる。

や

ユムチャックは、雨神ユムチャックを見るのじゃ

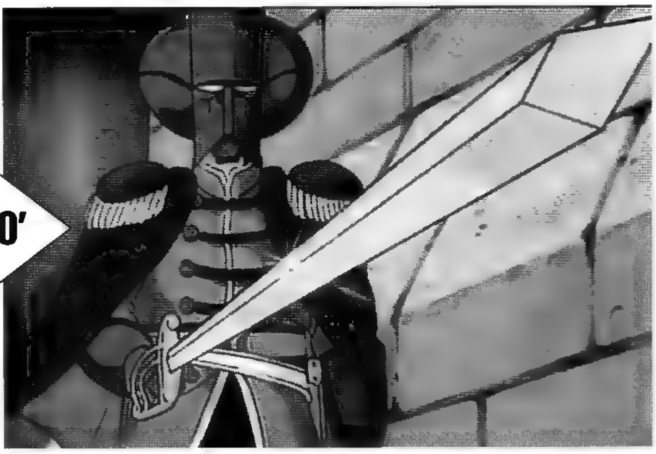
妖怪大統領は、こうもり猫を見るのじゃ

youkaikoutei

妖怪皇帝

【ようかいこうてい】

80′



東京を妖怪の国にしようとした、妖怪皇帝とは？

「人間よりも優れている妖怪が、人間を支配するのは当たり前」を持論に、東京に怪気象を発生させて妖怪の天国を作ろうと企む。ぐわごぜの娘・カロリーヌが死んでも「しかたがない」と一蹴する非情ぶり。その正体はぬらりひょん。劇「異次元」

能力◎腰のサーベルを抜いて、鬼太郎と一騎打ち。

最期◎鬼太郎のオカリナ剣で切られ、国会議事堂から落下する。

原作コミックでは？

TVオリジナルの妖怪。

youaltepuztli

ヨナルデパズトーリ

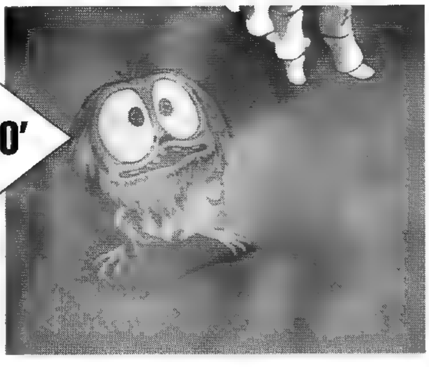
【よなるでぱずとーり】

時には命をも奪う、恐ろしい地獄の神

人間の魂を支配する地獄の神といわれる、メキシコの妖怪。斧で木を切るような音をたて、この音を聞くと吐き気に襲われたり病気になったりし、姿を目撃したのがばれると命を奪われる。

小さな体で巨大ながしゃどくろを操作

90′



毛の生えた丸い体に大きな首と鳥のような足を持つ、外国の妖怪。妖怪王になったぬらりひょんに遣わされ、がしゃどくろを操って、札幌で妖怪島を出現させる鏡の一片を探す。鏡を捜しあてると消えてしまった。台場でぬらりひょんが自分の持つ鏡を空にかざすと、紫の光に包まれながら、捜し当てた鏡を持って空中に出現した。第96話

能力◎妖怪を操り、姿を消すことができる。

原作コミックでは？

日本の地獄を手伝いに地上へ出るが、ぬらりひょんに操られて、街を襲う。「地獄の妖怪総出動の巻」また「悪魔くん」の、十二使徒のひとり。

youkaibananosei

妖怪花の精

【ようかいばなのせい】

70′



絶滅寸前の花に宿り、夢の中で助けを求める精霊

「妖怪平」だけに生息する希少な花「妖怪花」に宿る精霊。西洋人の女の子風のルックスで赤いワンピースを着て登場。リゾート開発のために花畑が壊され、妖怪花は一輪を残し絶滅寸前になったため、妖怪花の精が人々の夢の中に登場して助けを求めた。妖怪花を求めてきたネコ娘が、最後の一輪を救ってホテルの植木鉢に植え替えてやると、妖怪花の精はホテルの客や従業員に夢を見せるようになる。それによりホテルの客や従業員は、妖怪花のためにホテルの建物を壊し始める。どうやら目的のためなら、手段は選ばないタイプのようだ。鬼太郎の夢の中にも現れ、妖怪花を救ってくれるように頼んで抱きついた。第5話

能力◎人の夢の中に登場し、助けを求める。鬼太郎にも夢の中でメッセージを残した。

最期◎鬼太郎が用心棒の妖怪・あしまがりを退治したため、妖怪平は平和を取り戻し、妖怪花の一面の花畑は蘇った。

80′



“妖怪”と名はつくが可憐な花

日本で1カ所だけに咲く珍しい花で、妖怪花一族の最後の生き残り。妖怪花の精は、黄色の髪で耳の尖った少女の姿で登場した。温厚で人間とは一度も争ったことがない。第45話

能力◎破壊されそうになると、相手に一斉に針のようなものを飛ばす。羽が生えており、空を飛ぶことができる。

最期◎鬼太郎のおかげでぬらりひょん、および用心棒を撃退することができ、ホテルの社長も花畑の回復を約束する。

原作コミックでは？

「妖怪花」に登場。ある山村に咲く花の妖怪。最後の1本を残して絶滅し、宿泊客や従業員の夢の中で助けを求めた。

youken

妖犬
【ようけん】

人間に化けた黒い風貌の中国妖怪

中国陝西（せんせい）省近辺に伝えられる唐時代の妖怪。黒犬が人間の姿に化けたもの。韓という人物の馬を乗り回し、古い墓で何やら企んでいたとの話が『中国怪奇全集4－変化の巻』にある。

80′



二股の矛を持つ、チーの側近

チーが率いる中国妖怪のひとり。黒色で犬というよりは牛のような容貌。二股の矛を持ち、人間ほどの背丈。中国風の衣服をまとっている。戦いの際はあまり前線には出なかった。妖犬に捕獲された一反もめんは網のような形状の反物にされてしまった。劇「最強妖怪」

能力◎二股の矛を操り戦う。前に出て戦わず、基本的に、守りを固める役割。チーの側近のように、隣にいる。

最期◎砂かけ婆に不意打ちで砂をかけられる。その後砂封じの技を受け、全身砂になって崩れてしまう。

70′



鬼太郎にさすまたを投げつけて攻撃

チーの手下の顔も体も黒い妖怪。さすまたを持っている。他の仲間と違い、人間らしい服を着ている。妖怪反物を持って逃げたねずみ男を追って鬼太郎と遭遇。第2話

能力◎ほかの手下と違い唯一武器を持っている。鬼太郎と戦う際もさすまたでを使った。

最期◎鬼太郎に投げ返されたさすまたを胸に受け、二尾の白い狐の姿となって倒れた。

90′



ねずみ男を部下にして日本妖怪と対決

チーの手下。ねずみ男を使って日本の妖怪を陥れようと企むが、返り討ちに合う。日本妖怪を窮地に追い込む場面も。シナリオでは「黒怪物」と書かれている。第79、80話

能力◎石のこん棒で戦う。チーの妖力を分け与えられることにより、パワーアップし、炎を吐けるようになる。

最期◎反物から復活した鬼太郎のオカリナムチでこん棒を捕えられ、蹴られて倒された。

原作コミックでは？

「妖怪反物」に、チーの手下として登場。日本妖怪に無条件降伏を要求する手紙を届けに行くなど重要な役を担う。

youko

妖狐
【ようこ】

ヒエラルキーの頂点に立つのは天狐

キツネは日本古来より、化けたり人間をだましたりする動物としてなじみ深い。中国の史書にも登場し、人を惑わす白面金毛（はくめんこんもう）九尾（きゅうび）という妖狐などに代表され、強力な妖力を持つといわれる。

60′～70′



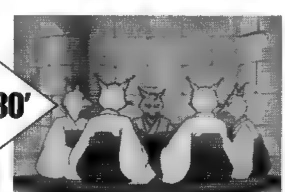
2パターン登場するが1つは本当にキツネ？

キツネの妖怪。妖狐は天狐から、空狐、気狐、野狐からなる。地底を根城にし、地下駐車場建設で住みかを追われて人間に工事の中止を求める。また第2部では、巨人風の妖狐が娘をさらうが、本当にキツネの妖怪かは不明。第1部・49話、第2部・7話

能力◎野狐は何もできず、気狐は化けるのが得意。空狐は土水火風を操る。天狐はめったに姿を現さない妖狐。

最後◎空狐が鬼太郎に倒され、騒ぎを聞きつけ天狐が登場。「全国の稲荷神社に油揚げを絶やさないように」と人間に約束させ、去っていく。

80′



空狐5人衆が大活躍

地下王国を率いる女帝・天狐を中心とした狐の妖怪の総称。仲間は全国に散らばっている。プライドが高く、負けを認めると潔く引く。第18話

能力◎手から光の糸を出して、鬼太郎の体に巻きつめる（天狐）空狐は土水火風を操り、空も飛べる。

最期◎天狐は鬼太郎にしっぽをつかまれて振り回される。自分の負けを認め、別天地へ行くと言い地下王国を壊した。

90′



異次元風の地下で空狐が大暴れ

三高屋デパートと竹蔵たちをずっと見守ってきたが、竹蔵の息子の信仰心のなさに腹を立て、デパートを地下に沈める。空狐は大暴れし、天狐は信仰心の大切さを教えた。第72話

能力◎野狐は戦闘をただ見守るのみで、空狐は尻尾を振り回して空中に浮き、体当たりする。かなりの強さである。

最期◎狐の気高さを示すため、デパートを何事もなかったかのようにもとの状態に戻して、地下の住みかへ去っていく

原作コミックでは？

「天狐」がストーリーのベース。地下駐車場工事を妨害する妖狐たち。鬼太郎は天狐と話をしに地下に潜る。

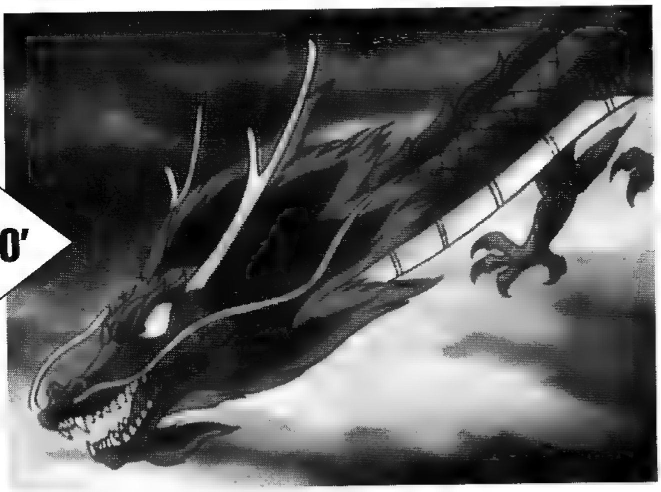
youjin

妖神

【ようじん】



80′



鬼太郎たちもたじろぐ手強い妖怪！

チーが赤い紙に筆で竜の絵を描き召喚した紙の妖怪。雷が轟（とどろ）くなか鬼太郎たちの前に姿を現すと、至近距離で襲ってきた。鬼太郎が木に擬態すると、木をなぎ倒して暴れ回る。近くをとおるだけでも激しい風が吹き荒れるほど巨大。一反もめんを得た鬼太郎が再度向かっていくと、口をあけて威嚇。顔に飛び移った鬼太郎が拳を繰り出し顔面を攻撃するが、効果はなく、逆にヒゲで鬼太郎を絡めとり、地上に叩き落とした。しかし、丸毛からその正体が紙の精だと知らされた鬼太郎は、オカリナでつるべ火たち炎の妖怪五人衆を呼び出し、反撃を開始した。劇「最強妖怪」

能力◎空を自由に飛びまわる。鬼太郎の毛針も効かず、逆に吹き返してきた。ヒゲを触角のように自在に操る。

最期◎つるべ火、姥が火、天火、海月の火を、ちゃんちゃんこの松明にした鬼太郎によって点火され燃えてしまった。

70′



中国妖怪が作り出す不思議な紙の精

チーが作り出す、紙の妖怪。チーがキャンバスに輪を描き、息を吹きかけると大きな妖怪になり、鬼太郎たちを攻撃。形の違うタイプで４種登場。「妖怪獣」と呼ばれる。第２話

能力◎空中を飛びまわって、大きな体で敵を襲う。紙製なので鬼太郎の毛針攻撃ももとともしない。

最期◎鬼太郎にその正体が紙だと知れると、つるべ火の炎で燃やされてしまった。

90′



助っ人の輪入道たちに燃やされる

竜のような外見の大きな妖怪。鬼太郎がチーの妖術で反物にされている間に鬼太郎の仲間の日本妖怪たちを襲うため、チーが紙から生み出した。第79話、80話

能力◎竜のような大きな体で空中を飛びまわって敵を襲う。鬼太郎が反物から復活する前に襲ってきた。

最期◎正体が紙であることを井戸仙人に見抜かれて、妖怪自動車の一部である輪入道の炎で燃やされた。

原作コミックでは？

「妖怪反物」に登場。チーが紙に絵を描き、呼び出した妖怪。正体が紙だと知られて、マッチで燃やされてしまった。

yobuko

呼子

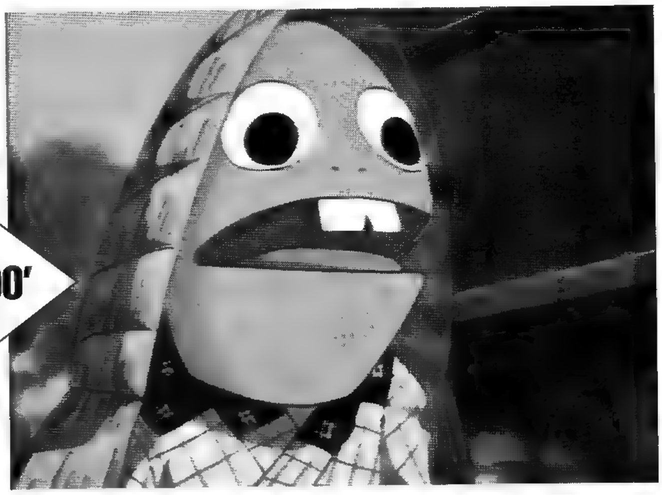
【よぶこ】



山の中にいて、呼びかけると山彦を返してくる

鳥取市で呼ばれる山彦、もしくはその仲間。実際は山のこだま現象のこと。柳田国男の『妖怪談義』によれば、山中に呼ぶ子という“何か”がいて、山彦を返していると信じられていた。

90′



危険ではないイベントには毎回参加する？

妖怪アパートの住人。中国妖怪・チーとの戦闘に加わったこともあるが、基本的に鬼太郎とともに戦うことは少ない。百目の子の捜索や、妖怪チーム対少年野球チーム「バトラーズ」の試合観戦。また、猫ショウにやられ、年寄りになっていく妖怪がいるという警告を聞くときなどに顔を出した。折りたたみ入道に食べられたり、にせ鬼太郎を従えたねずみ男にお茶を入れさせられたりと不運な妖怪だ。笠を取ると髪はなく、２本足である。第36、79、92、95、108、112話、劇「おばけナイター」

60′〜70′



目立たないが鬼太郎をサポート

「山小僧」とも呼ばれる、鬼太郎の仲間。一つ目だったり、一本足だったりとさまざまなタイプが存在するようだ。第２部では、妖怪アパートに住んでいた。目立たぬ存在ではあるが、鬼太郎に呼ばれる機会も多く、砂かけ婆と呼び出しの歌や魔除けの歌を歌ったり、六地蔵の代わりに人間の家へモチやミカンを届けたことも。また、鬼太郎たちと戦闘にも積極的に参加した。第１部・第10、27、29、60話、第２部・第13、19、30、31、34話

80′



登山客相手に山彦を返す

山に住む鬼太郎の仲間。夏場は「山彦」とも呼ばれ、登山をしてはしゃぐ人間に声を返してあげる。冬場は雪ばかりで寂しく食べ物も少ないため、鬼太郎たちをかまくらに呼んで年越しを楽しもうとした。また山から下りて、中国妖怪軍との対決にも参戦し、「人間と妖怪　友好盆踊り大会」では、やぐらの上で太鼓を叩いていた。第12、32、35、36、54、68、70、79、94、96、108話、劇「最強妖怪」

原作コミックでは？

原作でも妖怪アパートの住人として登場。その呼び名もまちまちである。「釜なり」「傘化け」「死神大戦記」「母を求めて地獄旅」ほか。



用心棒は、あしまがりを見るのじゃ

yobuko

呼子



【よぶこ】

「山びこ」も妖怪の仕業と思われていた

鳥山石燕の『画図百鬼夜行』に、幽谷響(やまびこ)として毛むくじゃらの妖怪の姿で紹介されている。日本各地に広がる「山びこ」のことだが、昔は妖怪の仕業と思われていたようだ。

70'



解放石の中に八俣大蛇を住まわせる、"悪い呼子"

鬼太郎たちの仲間とは別の呼子。ひい川の川上に住んでいる。大声で叫ぶとそれに答え、「山彦」とも呼ばれている。木のように地面に根が張って動くことができず、200年もの間、人が来るのをずっと待っていた。たまたま訪れたねずみ男をだまして解放石を使って入れ替わり、足を手に入れる。第12話

能力◎解放石を使い、根が張って動けない体をねずみ男と入れ替えて自由になる。解放石の中には八俣大蛇がいる。

最後◎ねずみ男の懐に隠れた目玉おやじを捕まえようとして解放石に触り、解放石の中へ。八俣大蛇に命乞いをし、再び元に戻る。

80'



八俣大蛇に脅される

「ニセ呼子」と呼ばれる。月に一度八俣大蛇に生け贄を捧げるため、人間を八俣大蛇が住むダイヤの中へ誘い込む。本来はいい妖怪だが、ダイヤに閉じ込められた仲間のため、逆らえずに従っていた。正体がばれ、本物の呼子と直接バトルを展開。しかし、鬼太郎が八俣大蛇を倒せば助かると考え、呼子と協力し鬼太郎を助ける。第79話

能力◎叫ぶと周りに反響して、こだまの数だけ鬼太郎が増える「やまびこの術」を使う。

原作コミックでは？

鬼太郎の登場しない水木作品「やまたのおろち」に登場。正夫という少年が、山中で呼子と入れ替わってしまうというストーリー。

yobukonoteshita

呼子の手下



【よぶこのてした】

80'

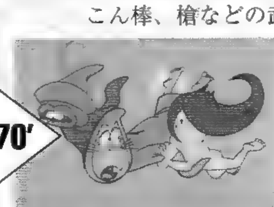


八俣大蛇に捕えられていた妖怪たち

ニセ呼子が持っていたダイヤモンドの中にいる妖怪たち。ダイヤモンドの中の宙に浮かぶ島にある家に住み、八俣大蛇に捕らえられ働かされていた。ユメコのクラスメイトの弘などダイヤモンドの中に入ってきた人間を捕らえては、毎月八俣大蛇に献上している。一つ目や赤いフードの妖怪などが計8体いて、それぞれ手には剣や鎌などの武器を持っている。ニセ呼子も彼らの仲間で、生け贄を呼び込む役目をしていた。ダイヤモンドの中に入り込んだ鬼太郎を前に、赤いフードの妖怪が人質の子どもに鎌をつきつけ、鬼太郎たちの動きを止める。ユメコらも捕まえると妖怪は八俣大蛇の生け贄にすると宣告した。八俣大蛇に歯向かう鬼太郎たちに呆れるが、鬼太郎が優勢になるとひるがえって応援。鬼太郎のおかげでもとの世界に戻る。第79話

能力◎つねに集団で行動。それぞれが手に持っている剣、ナタ、こん棒、槍などの武器で戦う。

70'



解放石に棲む無口なふたり

呼子が持つ解放石の中にいる妖怪たち。首ごとに色の異なる八俣大蛇に仕え、また艶やかな風景が広がる異次元空間の住人だけあり、かなり個性的なルックス。大きなピンクの帽子をかぶり着物を着た、前歯の大きな妖怪と、腰まである髪の毛で裸の一つ目の妖怪が存在し、解放石に吸い込まれた者を八俣大蛇のもとへ連れて行く。ねずみ男の時はふたりで両脇をかためて連れて行き、鬼太郎たちの場合は一つ目がネコ娘を、帽子のほうが鬼太郎の首根っこを掴んで誘導した。第12話

原作コミックでは？

「やまたのおろち」では、解放石に取り込まれた者を、八俣大蛇の口まで運ぼうとする。デザインは80年代のほうが原作に近い。

raiju

雷獣

【らいじゅう】

雷とともに現れる不思議な獣

雷が落ちたところに出現する。栃木県の山に住み、夕立雲が起ころうとすると、ものすごい勢いで空中に駆け上がるといわれる。また江戸時代に雷とともに不思議な獣が現れたとも伝えられる。

電気を操り、敵を痺れさせる雷の妖怪

80′



ぬらりひょんが仕掛けた鬼太郎抹殺作戦「本所七不思議」第二の不思議「灯りなしそば」で鬼太郎を待ち受ける。雷が地上に落ちると、青い光とともに現れた。鬼太郎に電撃を食らわせ、しびれさせた。鬼太郎に飛び掛り押さえつけるが、リモコン下駄の攻撃で顔がずれてしまう。第108話

能力◎二股の尻尾を逆立て、その先から青い光の雷を放つ。

最期◎リモコン下駄で攻撃され、目に毛針を受けて消滅。

原作コミックでは？

雷とともに現れ目玉おやじを連れ去った。「本所七ふしぎ」で鬼太郎を襲う。「妖怪　本所七ふしぎの巻」に登場。

rakshasas

ラクシャサ



【らくしゃさ】

インドに住む古来より伝わる羅刹(らせつ)の語源

インド出身の妖怪。その起源は古く、インドの古書『リグ・ヴェーダ』『ラーマーヤナ』などに登場する。仏教に伝播すると漢訳されて「羅刹」となり、夜叉と似た性格の護法神とされた。

策を弄して日本の妖怪を陥れる巧妙さ

90′



純喫茶「銀十字」の店員に化け、「妖怪は人間を苦しめてこそ、人間界にての存在理由がある」という持論から、人間となれ合う鬼太郎たちを倒しにきた。妖怪たちが一番会いたい者の姿になりすまし、だます。第89話

能力◎伸縮自在の髪の毛で相手を攻撃。髪の毛単体でも相手が会いたい者の姿に化け、その後髪の毛に戻り動きを封じる。

最期◎インドの行者が円を描き、鬼太郎が霊毛を操って炎上させた。

原作コミックでは？

原作には登場しない妖怪。

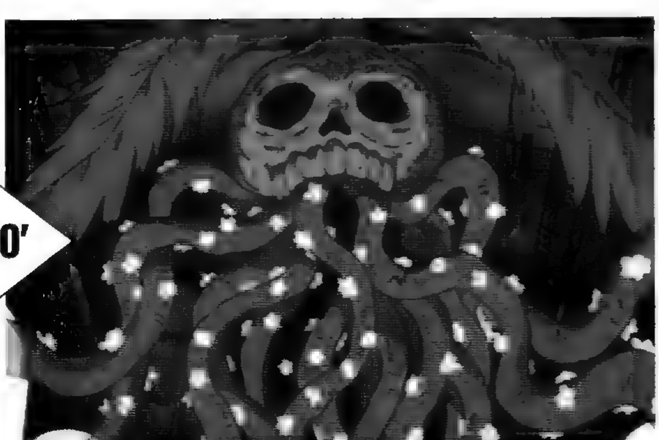
youkaiju

妖怪樹



【ようかいじゅ】

90′



ぬらりひょんを乗せて空を飛ぶ妖怪植物兵器

ぬらりひょんが育てた、妖怪植物兵器。根の部分から妖怪パワーを摂取することによって、兵器としてのパワーが増す。ぬらりひょんたちを乗せることができるほどに巨大。触手のような根を伸ばして相手を捕まえ、妖怪パワーを奪う。第92話

能力◎ 葉の部分を使い飛び、木の実爆弾や長い根で攻撃する。

最期◎ 百目の坊やの金縛りの術によって力をなくし落下する。

原作コミックでは？

鬼太郎以外の水木作品「悪魔くん」に「なんじゃもんじゃ」という名前で登場。油すましなどが乗り物として利用。

reikainojunin

霊界の住人

【れいかいのじゅうにん】

60′



宙にぽっかりと浮かぶ死人の国の住人

髭の長い老人の姿で、着物をまとい長い杖をついている。ゆっくりと穏やかな話し方をする。見上げ入道によって霊界に飛ばされた鬼太郎が死んでいないので、人間ではなく化物だと気づく。霊界を荒らされては困るので鬼太郎に帰るように促した。鬼太郎が帰る方法を知らないと言うと、近くにある木の根を指し、その根のフタを取れば下界に戻れると教えてくれた。第９話

原作コミックでは？

杖を持った骸骨の姿で登場する。死霊の国は外国では天国、日本では高天ヶ原のことだという。「見上げ入道」に登場。

ransubuiru

ランスブィル

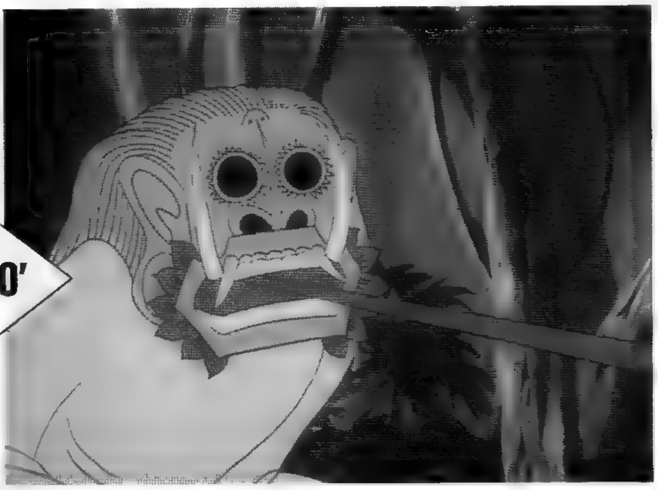
【らんすぶぃる】



お産のために死んだ女性が変化した南方吸血鬼

マレーシアの妖怪。お産のために死んだ女性がこの妖怪になるといわれる。木の枝などにとまり、手を叩いたり大声で喚(わめ)いたりする。首に血を吸う穴があるが、普段は頭髪で隠しているという。

60′



尖った舌で狙いをすます南方吸血妖怪

鋭い牙を持つ、バリのお面のような顔の妖怪。3本指、髪型はオールバック。変装が得意で、老婆に変装し鬼太郎に毒を飲ませた。ドラキュラとともに恐山にある妖怪血液銀行を襲い、「吸血妖怪樹」を復活させるため、鬼太郎たちと対決する。第52話

能力◎口から先の尖った舌を長く伸ばし、カメレオンの舌のように伸縮させて、槍のように相手を刺して攻撃。

最期◎槍のような舌を子泣き爺の石頭で折られ、ぬりかべに上から覆いかぶさられた。

80′



鋭い歯で呼子の竹やりを噛み砕く！

南方の吸血妖怪のひとり。赤い顔に黄色の鋭い牙が生えている。ドラキュラの要請で、南方吸血妖怪たちと恐山にある妖怪血液銀行を守る目玉おやじたちを襲撃。地中から出現して日本の妖怪と戦うが、形勢不利となって、牙が折れた哀れな姿のままほかの吸血妖怪ともども逃げ惑うはめになる。第96話

最後◎子泣き爺の頭突きをくらい、大きな牙を折られてしまった。日本の妖怪に追われ、地中に帰った。

90′



ちょっとマヌケで憎めない吸血樹の手下

赤い眼に黄色の牙、緑色の舌と極彩色の吸血妖怪。吸血樹の手下で、ペナンガラン、アササボンサンの3人で「アジアの最強吸血妖怪三人衆」を結成。鋭い歯で子泣き爺に噛み付いたが、石頭で歯が欠けてしまった。さらにぬりかべが迫ってきたので、逃げ出してしまう。第104話

最期◎目 Eおやじ一行に負かされ吸血樹のもとへ戻るが、吸血樹の枝に絡めとられ、血液を吸われミイラ化した。

原作コミックでは？

妖怪血液銀行を襲撃した南方の吸血妖怪。子泣き爺に前歯を折られ、目玉おやじに背を攻撃され壊滅。「血戦小笠原」より

reitoukyojin

冷凍巨人

【れいとうきょじん】

60′



雪の妖怪3人が合体した強敵・冷凍巨人

雪ん子、雪女、雪男の溶けた液体が集まり、人型の妖怪として出現したもの。鬼太郎の妖怪原子炉により、3人が溶かされた後に合体。大きく角ばった氷の塊ような体に、細い眼とのこぎりのような牙がある口を持つ。唸り声を上げ威嚇し、口から吹雪を吐き出す攻撃をする。鬼太郎も冷凍巨人に対抗し、口から炎を出すが、互角のため、なかなか勝負がつかない。炎と氷の壮絶な戦いが影響して、洞窟の上部が崩れ落ちはじめる。劇中で名前を確認することはできないが、シナリオでは「冷凍巨人」となっている。第48話

能力◎口から吹雪のような風を吹く。直線の吹雪と、ランダムに吹き荒れる吹雪のパターンがある。

最後◎冷凍妖怪と戦っていると、なだれが発生。気を失った鬼太郎が気がついたときには退却していた。

80′



氷柱を下げた氷の妖怪

雪ん子、雪男、雪女の妖気が合体した、大きな冷凍妖怪。つららの下がった白い体に黒い目と口を持ち、人々を凍らせる。冷凍妖怪が溶けると、人々も元どおりになった。第15話

能力◎飛びながら相手を追いかける。大きな体で相手を押さえつけ、凍えさせる。

最期◎鬼太郎に覆いかぶさっていたが、鬼太郎の体内に入った化火の熱で溶かされ、水蒸気となり蒸発。

原作コミックでは？

鬼太郎に溶かされた雪男、雪女、雪ん子の液体がひとつに集まって出現し、鬼太郎に襲い掛かる。「雪ん子」に登場。



ラ・セーヌは、吸血鬼ラ・セーヌを見るのじゃ

rokurokubi

ろくろ首

【ろくろくび】

夜な夜な首が伸び、行灯(あんどん)の油をペロリ

夜になると首が長く伸びて頭が自在に動く妖怪。頭が胴体から離れる「飛頭蛮(ひとうばん)」という中国の妖怪に由来するという。古典落語では、夜な夜な少女の首が伸びる悪い病気とされる。

60′





意外にファッショナブルなろくろ首

和装の女の姿をして、首が自在に伸びる妖怪。ねずみ男が思いついた「妖怪ショー」に出演。しかし、傍若無人な男の客が投げ縄で捕獲しようとしたので、首を縮めて難を逃れる。楽屋に戻ったろくろ首は、かなりのご立腹だった。その後、幽霊電車で洋装の婦人の姿となって男に近づき、恐怖を味わわせて復讐した。また第27話では、ポニーテールにリボンのろくろ首が登場。おどろおどろのプラモデルによって、無人島に飛ばされた妖怪のひとりとして登場した。第7、27話

能力◎首を長く伸ばしたり縮めたりできる。

80′



妖怪界に花を添える日本の妖怪

日本髪に和服の姿で、首を長く伸ばしている。いわずと知れた日本を代表する妖怪。劇「最強妖怪」では「人間と妖怪 友好盆踊り大会」に観客として参加している姿が見られる。また、劇「妖怪大戦争」では鬼太郎の呼びかけで集まったものの、西洋妖怪に怖気づいて姿を消してしまった。第104話にも、女妖怪のひとりとして1カットのみ登場している。

能力◎首を長く伸ばすことができる。

原作コミックでは？

おどろおどろによって無人島に飛ばされた妖怪のひとり。新年パーティーだと思い酒を飲む。「おどろおどろ」

rokurobee

ろくろ兵衛



【ろくろべえ】

60′



人間と野球で戦った、妖怪チームのひとりとして登場

「妖怪バット」を手に入れた少年・ブン太のチームと、そのバットと魂を賭けた野球試合を繰り広げる妖怪チームのメンバーのひとり。長い首が特徴の妖怪で、チームではセカンドを担当する。試合は妖怪チームの圧倒的有利で展開。しかし、ニワトリの声を聞いたろくろ兵衛は、なんの活躍もしないまま、朝が来たと勘違いし逃げていってしまう。第1話

原作コミックでは？

TVアニメオリジナルの妖怪。

waraotoko

ワラ男

【わらおとこ】

70′



「アガアゴ、アゴゴ」と話す、ワラを被った男

元は、ニューギニアの村に暮らしていた人間。村が飢饉で苦しんだとき、ガマ人に食料を分けてもらい救われる。醜い姿をしていても平和で幸福な生活をするガマ人に憧れ、ワラ男を含む村人全員がガマ人になった。日本軍が大勢入り込んだために、日本語を覚えた。島を調査に来た博士に会ったワラ男は、「アガアゴ、アガアゴ、アゴゴ」と、妙な言語を話した。第16話

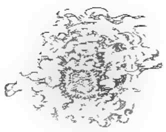
原作コミックでは？

鬼太郎以外の水木作品「南からの招き」に登場。ちなみに原作では、「ガマ人」は「カエル人」と呼ばれる。

ら

wanyudo

輪入道



【わにゅうどう】

見たものの魂を奪う牛車の怪

『今昔画図続百鬼』に描かれる、牛車の車輪に顔が付いた妖怪。見たものの魂を奪うと記されている。これは、『諸国百物語』に描かれた挿絵がもとになっているともいわれる。

90′



数々の悪事を働きながら、妖怪自動車の車輪にも

人間をダイヤに変え、ねずみ男と組んでブランド品のコピー品を作った。さらに、閻魔大王城にある「宝珠」を盗み、妖怪界最大の力を手に入れようとしたことも。また、妖怪自動車の車輪としても活躍。第5、37、46、62、98、99話、劇「おばけナイター」「コピー妖怪」

能力◎息を吹きかけ、人をダイヤにする。口からガスを吹いてねずみ男をストラップにし、商品のコピー品を作った。

最後◎鏡で息を反射され、魂を抜かれる（第5話）。鬼太郎のちゃんちゃんこに包まれ、小さくなった（「コピー妖怪」）。

60′



人間をダイヤにして食べてしまう

車輪の中心に顔がある妖怪。地獄山の洞窟に住んでいて、ダイヤを使って人間を住みかにおびき寄せる。炭素が好物で、人間をダイヤにして食べてしまう。第36話

能力◎口からC光線（炭素光線）を吐き、人間をダイヤに変えて食べる。体当たりで建物を破壊する。

最期◎空中を飛行して鬼太郎を翻弄するが、鏡に跳ね返ったC光線をみずから浴びダイヤになってしまう。

80′



元は鏡に住んでいた輪入道

砂かけ婆に懲らしめられて、千年の眠りについていたが、人間が騒がしいので眠りから覚めてしまう。そのため、人間を懲らしめてやろうと、人をダイヤにしてしまう。第5話

能力◎口から炭素光線を吐き、人をダイヤに変えてしまう。鏡に反射させた光線は、妖力を何十倍も強くする。

最期◎鬼太郎を倒そうと光線を出すが、鏡によって反射した自分の光線を浴びてしまい姿が消える。

原作コミックでは？

鬼太郎の敵や味方として数多く登場する。「ダイヤモンド妖怪」「妖怪危機一髪」「ぬけ首」「UFO宇宙迎撃隊」「妖怪城の大攻防戦の巻」ほか。

そのほかの妖怪

第3部は水木妖怪のオンパレード

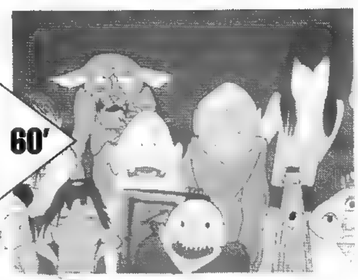
第6話には、一目入道、袖引き小僧、がんばり入道、一つ目大入道、疱瘡婆、五体面、機尋、水木しげるタッチの影女やおいてけ堀、天邪鬼などの姿が。第43話には、一目入道などもいる。

80′



どことなく“妖怪大百科”で見たような顔ぶれが

60′



第10話に大挙して登場する妖怪たちは、ほとんどがTVオリジナルのデザイン。しかしなかには、水木しげるタッチの日和坊や山鬼、油すまし、ひょうすべに似た妖怪たちが確認できる。第58話には、アドバラナもいるようだ。

ちょっとおかしな妖怪たちがダンスしてる

70′



第3話には、オリジナルの妖怪に混じって、山爺だろうと思われる妖怪たちが妖怪パーティーに参加している。同じく、体の大きなキジムナーっぽいものや、鱗のない水虎らしきものもいるようだ。第19話にはネコ娘の原作版・猫子の姿が！

マイナー妖怪がズラリ！　なんとネコ娘が2人!?

90′



第63話には、水木しげるの『妖怪大百科』にも描かれた一つ目巨人など、第70話には、火まむし入道らしき者を確認。第40話には、山童、土精、海坊主の子ども、なんとここにも原作に登場するネコ娘のバリエーション、猫子の姿が！

原作コミックでは？

意外と原作からの引用は少ないようだ。ほかにもまだまだ紹介しきれない妖怪たちがたくさん登場している。劇場版に得体の知れない奴が……

人物・アイテムの章

『ゲゲゲの鬼太郎』の魅力は、決して妖怪だけじゃない。
この章では、鬼太郎に味方する人間や、妖怪を倒したアイテム、
妖怪が出現した場所など、妖怪以外にスポットを当てた。



この人物・アイテムカタログの使い方

このコーナーは、妖怪以外のキーワードをピックアップして五十音順に掲載している。68年放映作品を「第1部」および「60年代版」、71年放映作品を「第2部」および「70年代版」、85年放映作品を「第3部」および「80年代版」、96年放映作品を「第4部」および「90年代版」と表記。なお、第1部と第2部は連続した作品とみなしている。劇場版は以下のように略している。「ゲゲゲの鬼太郎」=劇「ゲゲゲの鬼太郎」、「妖怪大戦争」=劇「妖怪大戦争」、「最強妖怪軍団!日本上陸!!」=劇「最強妖怪」、「激突!! 異次元妖怪の大反乱」=劇「異次元」、「大海獣」=劇「大海獣」、「おばけナイター」=劇「おばけナイター」、「妖怪特急!まぼろしの汽車」=劇「汽車」。
掲載したキーワードは、人、動物、アイテム、場所に分類し、これに当てはまらないものに関しては、その他とした。

あ

【赤紙】あかがみ(アイテム)

第1部・20話

閻魔大王の命令書。人間の悪事を見張る虫、三虫から知らせを受けた閻魔大王は、適当な妖怪を選んで悪事を犯した人間を殺させる。赤紙を受け取った妖怪は、その人間を殺すと、褒美がもらえる。

【あかね】あかね(人)

第3部・20話

半魚人に見初められた、アワビなどの漁をする若い海女。アワビが採れなくなったと嘆いていた。ある夜に大量のアワビが家の前に出現。それとともに大きなウロコがあったので、気味悪がって、鬼太郎へ手紙を送る。半魚人とお見合いをした。

【アキオ】あきお(人)

劇「妖怪大戦争」

ホウキボシ島に父親と暮らす少年。島が西洋妖怪たちに占領され、鬼太郎に助けを求めてきた。父親譲りの勇敢さを持ち、鬼太郎を助けて活躍する。ちなみに、第1部・10、11話に登場した同じ境遇の「鬼界ヶ島」に住む少年の名は、キチだった。

【東大助】あずまだいすけ(人)

第1部・63話

東京の大学に入って、故郷に住む人々をバカにしている男。故郷の考え方を合理化するため、非科学的なものを排除しようとする。イタズラで「なまはげ」の面を被り村人たちを驚かすが、面が顔から離れなくなってしまった。なまはげが化けた六平を、驚かせて殺したと思い込み、死体を穴に埋める。鬼太郎に救われても、最後まで妖怪を否定していた。

【汗っかきの葉】あせっかきのは(アイテム)

第1部・37話

薬草の一種。これを煎じた湯に浸かると、風邪がいっぺんに吹き飛ぶ。砂かけ婆が目玉おやじのために持参した。

【天叢雲剣】
あめのむらくものつるぎ(アイテム)

第3部・109〜115話

「八咫鏡」「八尺瓊勾玉」とともに、天照大御神から授けられた三種の神器のひとつ。岩に突き刺さっており、それを抜いた者は、地獄界・地上界・天上界を支配できるといわれている。ぬらりひょんがこれを抜き(実際には地震によりひとりでに取れた)、地獄界を支配した。ちなみに実際の伝承では、草薙の剣と同一のもの。

【雨山博士】あめやまはかせ(人)

第1部・25話、第3部・23話

世界的な人工雨の権威。ねずみ男に頼まれて、1年間雨が降らない三角山に、人工雨を降らせようとした。雲にドライアイスを落とし、電気妖怪の怒りを買ってしまう。吉田という助手がいる。第3部では、研究所で電気ロボット製造の実験中に、かみなりを刺激してしまう。「現在鬼太郎がかみなりに勝つ勝率は1%、だが、私が協力すれば99%成功するだろう」と分析した。自分が作った「キテレツII」が、かみなりと合体して巨大化するが、鬼太郎と協力した作戦(東京タワーにかみなりを落とさせる)で、キテレツIIは宇宙を漂うことに。ちなみに第4部で電気を集める実験を行っていたのは、保谷博士だった。

【綾子】あやこ(人)

第4部・57話

小学生にして世界学力コンクール大人の部で6年連続優勝。中学1年で東大、オックスフォード、ケンブリッジ大学の学士課程を首席で卒業。政府の依頼を受けて、流行病の特効薬を研究している天才エリート美女。薬が完成すればたくさんの病人を救うことができる。吸血鬼エリートに狙われ、ギリギリのところで鬼太郎に助けられる。

【アレス占い師】あれすうらないし(人)

第2部・35話

ペルーからやってきた女性の占い師。大繁盛しており、近所の占い師の男・福島に、営業妨害だからと殺されてしまう。ちなみにアレスの占いの店は、ねずみ男が客引きをして、ネコ娘が接客をしていた。

い

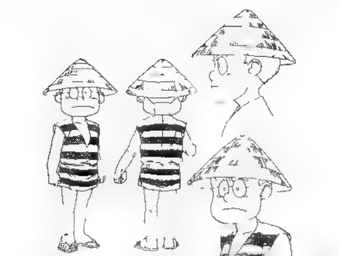
【伊集院寿太郎】いじゅういんじゅたろう(人)

第4部・31話

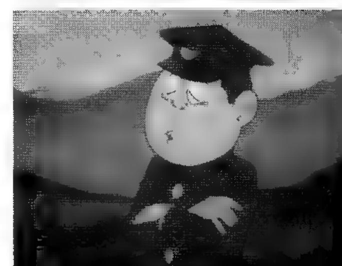
野菜売りから一代で大財閥を築いた大富豪。1年前に死亡しており、ねずみ男の謀略で、鬼太郎のちゃんちゃんこを奪った傘化けが化ける人物となった。いつも威厳があり折り



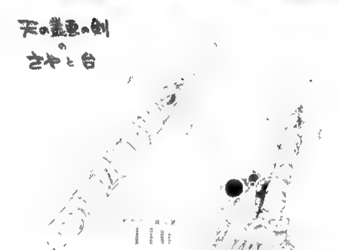
第3部・あかね



劇・アキオ



第1部・東大助



第3部・天叢雲剣



第3部・雨山博士



第4部・綾子



第2部・アレス占い師



第4部・一刻堂



第4部・インドの行者



第3部・梅ノ木花子



第1部・浦島小太郎



第2部・エリーメ

目正しい昭和の男という感じで、三つ指ついて迎える女房がいる。

【一刻堂】いっこくどう（人）

第4部・101話

陰陽道斑鳩流（おんみょうどういかるがりゅう）の言霊使い。理屈屋で律儀。「式神」を操り攻撃する、憑き物落としの拝み屋。モノ（古い道具）にまじないをかけ、命令を下して式神として操る。五芒星（ごぼうせい）の中に鬼太郎とその仲間たちを封じ、"真の姿"を言い当て戦闘不能にして鬼太郎を追い詰める。相手（妖怪）の正体を言い当てると、その相手は真実の姿に戻ってしまう。ちなみに100話では、毎回、次回予告で鬼太郎の言うセリフ「君のうしろに黒い影」が、「世の中に不思議なことは何もないのだよ」に変わっていた。第4部で大きな話題となった、京極夏彦が脚本・メインゲスト声優を務めた作品のゲスト敵。

【生命の水】いのちのみず（アイテム）

劇「大海獣」

バルル島のゼオクロノドンが住む山にあるとされる、ひと口含めば寿命が伸びるという言い伝えのある不老長寿の秘薬。日本の雑誌に紹介され、日本人が盗もうと山に入って、次々と行方不明に。

【入らずの森】いらずのもり（場所）

第1部・3話ほか

作品内に数多く登場。何がしかの物の怪や怪現象を司る場所で、人間が入ってはいけないとされている森を指す。第1部・3話では、四国山中にあり、そこには妖怪城が立っている。また第2部・43話では、自然を司る神の一種・タイタンボウが祭られている洞穴があった。人間が荒らしてはいけない聖域であり、研究者の山田と中村が、この中で小便をするなど無礼を繰り返して、祟りで命を失った。

【入らずの山】いらずのやま（場所）

第1部・9話ほか

作品内に数多く登場。登ると二度と下りてこられないといわれる山。第1部・9話では、忠介はここを登ることで度胸を示したが、後にそのときに残した落書きが原因で見上げ入道に捕まってしまう。見上げ入道はこの中に妖怪学校をつくっていた。また第2部・43話では、いらず山として登場。山村にある神聖な山で、聖地の岩は立入禁止になっていた。第4部・106話では、妖怪ノイローゼにかかった鬼太郎が回復するために登山した。その中にある恐れが淵が目的地だった。

【インドの行者】いんどのぎょうじゃ（人）

第4部・89話

ラクシャサを退治できる人物。ラクシャサに苦戦する鬼太郎を救うため、目玉おやじが連れてきた。行者の持つ赤い粉で円陣を描き、ラクシャサの動きを封じる。ラクシャサを倒すと、空から降りてきたロープにつかまって飛んで帰って行った。

う

【梅ノ木花子】うめのきはなこ（人）

第3部・84話

女子高生スプリンター。2年連続で全国大会に優勝するが、今期は優勝を逃してしまいビルの上から飛び降り自殺を図る。鬼太郎たちと地獄を一周する「地獄マラソン」に参加し、生きる希望を取り戻す。

【浦島小太郎】うらしまこたろう（人）

第1部・53話

毒ガス研究で知られる博士。浦島太郎の子孫。人類老化の煙を開発してしまい、悪用されるのを恐れて、鬼太郎に玉手箱に入れたその煙を捨てるように頼む。第3部・46話でも同様の煙を発明する博士は登場するが、名前は不明。

え

【永遠の国】えいえんのくに（場所）

第2部・44話

雨神ユムチャックの生け贄になった女性たちが暮らす世界。宝や花に囲まれた時間のない空間。カルメンを追ってここにきた菅原は、永遠の時間と愛のあるこの地で、名誉も金も捨ててカルメンと生きることを決意する。

【エリーメ】えりーめ（人）

第2部・7話

インドネシア諸島にある、ボロンゴ島に暮らす娘。ジータというネコを飼っている。妖狐に狙われており、ジータが化けた僧侶によって、魔除けとして顔の半分をアザのように黒くされてしまう。

お

【大黒】おおぐろ（人）

第4部・35話

土地転がし、サギ、脅迫などで追われる指名手配犯。鬼太郎たちがラーメンを食べているところに現れ、立てこもろうとする。店から帰ろうとする鬼太郎を人質にしようとするが、無視して帰る鬼太郎をピストルで撃つ。路地裏に逃げ込み、転がってきた大きなダイヤに見入っていると、中に吸い込まれてしまう。鬼太郎が用意した『地獄』で、水と引き換えに笑顔を、ラーメンと引き換えに若さを奪われ、宿と引き換えに母の思い出も奪われる。結局最後まで、地獄から出られなかった。

【恐山】おそれざん(場所)

第1部・16話ほか

青森県にある霊場。日本で唯一の妖怪病院および妖怪血液銀行がある。吸血鬼エリートに溶かされて液体となった鬼太郎がつぼに入ったまま運び込まれたり、妖怪結膜炎になった目玉おやじが入院していたり、妖怪たちが非常に世話になっている。また、吸血妖怪樹が吸血妖怪軍団を指揮して襲ってきたり、腕のいい医師を狙って魔女のジニヤーが襲ってきたりと、受難続きの場所でもある。

【落目映画株式会社】おちめえいがかぶしきがいしゃ(その他)

第2部・3話

ねずみ男が忍び込み、妖怪映画の企画を提案した映画会社。映画は大ヒットし、TV会社から億単位のフィルム買い取りの話が舞い込む。WCテレビは1日1億円で、アメリカのTV会社からは2億円で貸し出しの要請があった。ちなみにこの会社は、予算不足で「黒目の太陽」「糞林火山(ふんりんかざん)」などの超大作は作れないらしい。

【尾泥市】おどろし(場所)

第4部・66話

子どもが連れ去られる事件が続発している市。たそがれ時に謎の男(ねずみ男)が現れて子どもを誘拐していく。さらわれた子どもは、妖怪城へと連れていかれる。

【鬼蛾】おにが(動物)

第1部・24話

山中でねずみ男に殺されるところを鬼太郎に助けられ、白山坊との戦いで恩返しをした蛾。体に張り付いて卵を産みつけ、たちまち幼虫が内臓を食い尽くして成虫になる。この戦いで白山坊の体に卵を産みつけた。

【鬼火販売機】おにびはんばいき(アイテム)

第4部・37話

妖怪界の発明王、夜行さんの発明品。本体には「明るい鬼火」「安全清潔　暗い夜通し大丈夫!」と書いてある。鬼火は赤、青、黄の3種類で1コ100円。熱くないのでヤケドの心配もなく、夜のひとり歩きも安心。

【オベベ沼】おべべぬま(場所)

第1部・40話、第3部・31話、第4部・71話

かわうそが住んでいる沼。ねずみ男が時計の商売をしていて、少年(かわうそ)と出会った場所でもある。釣りができ、スッポンもとれる。第3部では神社があり、かわうそや河童が住む川の綺麗な場所になっている。ちなみに第1部では「おべべ沼」と表記。

【お夢】おゆめ(人)

第3部・101話

番外編に登場した、ユメコの姿。江戸で絹問屋を営む「山形家」のひとり娘。お玉というネコを飼っている。百々爺に店を狙われるが、飼いネコのお玉に救われた。

か

【カー坊】かーぼう(動物)

第2部・9話

沖の島のカラス。可愛がってくれた花子が“髪さま”の生け贄に選ばれたので、助けを求めて鬼太郎宅にやってきた。しかし鬼太郎は留守で、ねずみ男が「カラス語事典」を使って会話を試みた。

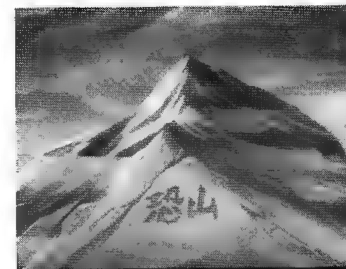
【怪気象】かいきしょう(その他)

第1部・58話、劇「異次元」、第4部・70話

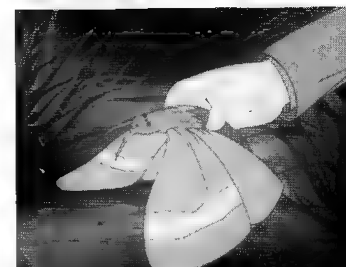
第1部では、小笠原に発生した異常気象が時速20kmで南関東へ移動し、調布に停滞したものをいう。暗闇の中には妖怪・ぐわごぜを総理大臣とするお化けの国があり、怪気象の中心は水木しげる宅。外側100mが霧でおおわれ、それ以外は闇になっている。その闇に包まれると、中へ進んでいるつもりでも外側へ出てしまう。1時間1mの速度で膨張していた。調布は妖怪の町と化し、「お岩ようかん」「一ツ目タクシー」「鬼火保険」などの看板が続々登場。朧車こと「妖気定着装置」により停滞していたが、鬼太郎がこれを壊したため、妖怪たちとともに移動する。第4部でも基本



第4部・大黒



第1部・恐山



第1部・鬼蛾



第4部・鬼火販売機



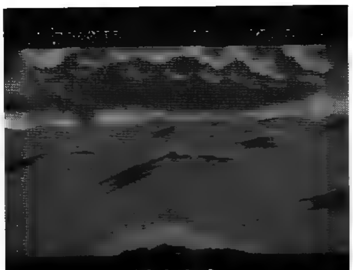
第4部・オベベ沼



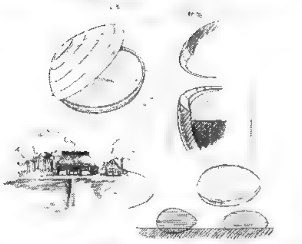
第3部・お夢



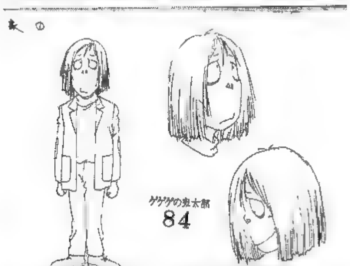
第2部・カー坊



劇・怪気象



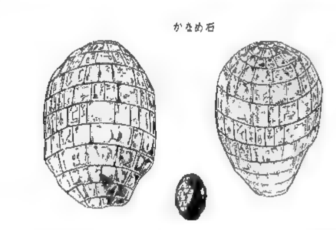
第4部・貝の船



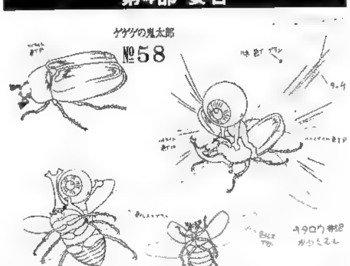
第4部・画家



第2部・和吉



第4部・要石



第4部・カブト虫



第2部・カラスヘリ

設定は変わらない。2000年前に出現しており、妖怪の町では、河童の寿司職人や人魂の串刺し、バー悪霊などが活気づいていた。劇場版の設定では、100年に一度世界中の妖気が集まってできるという。雲の渦の中ではあらゆる不可思議なことが現実になる。妖怪皇帝の命令で、国会議事堂から朧車が煙(怪気象のもと)を噴出していた。

【解放石】かいほうせき(アイテム)

第2部・12話

足が木の根になっていて動けない妖怪・呼子が持つ、ダイヤモンドのような石。石に触ると、呼子と体が入れ替わってしまう。中には、八俣大蛇が住んでいる。

【貝の船】かいのふね(アイテム)

第1部・32話、第3部・71話、第4部・30話

鬼太郎が南方のジャングルを目指すのに使った船。第3部ではかわうそが持っていた。月が上り、蜃気楼とともに姿がわかる。海底を移動することも可能で、"栓"を抜くと浮上する。貝の中には庭付きの一軒家が建っている。妖花の咲く南方の島を目指すときは、必ずこの船を使う。ちなみに第4部では夜行さんの発明品「貝の潜水艦」も登場した。

【画家】がか(人)

第4部・84話

ある洋館に住んでいる青年画家。母が病で死んだとき、周囲の人間が助けてくれなかったと恨みをもっている。そして母の肖像画を書くうちに、自分の血で唇を描いたことから怨念が絵にのり移り、モデルを食う化け物「人食い肖像画」を引き出す。もっと強い妖力をもったものをモデルにすれば、母が生き返ると思い込んでいた。しかし、ネコ娘が歌う優しい歌声に、正気を取り戻して涙を流す。正気に戻るとモデルとして絵の世界に閉じ込められた人たちを解放する。

【餓鬼製造機】がきせいぞうき(アイテム)

第3部・113話

地獄武者(夜行さん)が発明した機械。人間のエネルギーをしぼり取り、餓鬼にしてしまう。鬼太郎によって破壊された。

【隠れ里】かくれざと(場所)

第1部・34話、第2部・38話ほか

作品内に数多く登場。第1部・34話では、さら小僧たちの住みかであり、人間の知らない未知の世界として描かれている。ザ・ビンボーズのメンバーが監禁されていた。第2部・38話では、子どもたちと妖怪・かくれ座頭が住む世界とされる。枯れることのない花が咲く永遠の国で、年をとることも死ぬこともない。鬼太郎はここから子どもたちを救い出すが、現実世界に戻った子どもたちはあっという間に白骨死体と化してしまった。

【和吉】かずよし(人)

第2部・1話

隠遁生活をする鬼太郎を居候させていた漁師の息子。父親を泥田坊に固められてしまった。鬼太郎に言われ、泥田坊の住みかに学校の田んぼを提供してあげる。

【要石】かなめいし(アイテム)

第1部・22話、第3部・56、81話、第4部・110話

大ナマズ(ナマズ神)を封印していた巨石。触った者を石に変える刑部狸の魔力がかけられていた。第3部に限っては、空を飛ぶ。また、同84話では「手長足長」を封印する際に使用された"別の要石"が登場した。

【カブト虫】かぶとむし(動物)

第1部・15、16話、第4部57話ほか

作品内に数多く登場。「吸血鬼エリート」の回に活躍。第4部・57話では、黄金虫に呼ばれて、鬼太郎たちを助けにくる。第1部・15話でも吸血鬼エリートに対抗。以前に鬼太郎に助けられたことがあるらしい。目玉おやじを乗せて飛び、ともに鬼太郎を救出。エリートの服に入って笑わせ、砂地獄に落とした。

【上島博士】かみしまはかせ(人)

第1部・5話

大海獣を発見した博士。調査隊を結成し、ニューギニアへ大海獣を追う。大海獣の血を抜くことに成功するが、逆に殺されてしまった。第3部・67話でも大海獣の調査団を結成する人物が登場するが、劇中では教授としか呼ばれていなかった。

【カラスヘリ】からすへり(アイテム)

第2部・41話ほか

作品内に数多く登場する、鬼太郎とその仲間たちのメジャーな移動手段のひとつ。カラスの足を結わえて、連隊を作って人や物を運ぶ。その形式もさまざまで、腕でぶら下がる"ぶら下がり型"、気球のような"ゴンドラ型"、"腰かけ型"などがある。第1部・27話では、目

玉おやじがカラスの足を結わえてこのヘリを作っているところも描写されている。ちなみに目玉おやじは、この乗り物の騒音(鳴き声)と糞害が嫌い。第4部・65話では、マンモスフラワーと化したねずみ男をカンブリア紀島まで運んだ。第2部・28話では巨大化したあかなめに近づこうと鬼太郎たちが命令するが、あかなめを怖がって近づかなかった。

【カルメン】かるめん(人)

第2部・44話、第3部・83話

雨神ユムチャックのエピソードに登場した女性。第2部ではユムチャックを信じて生け贄となった16歳の娘として登場。助けにきた鬼太郎に説得されるが聞かず、自分が生け贄になることで村を救え、さらに自分は永遠の命を得られると信じており、望んで生け贄になる。泉の中の「永遠の国」で内田と再会し、永遠の愛を得る。「この世には、理屈では割り切れないことがあります」と鬼太郎たちに話す。第3部ではユートピアへ入るために必要な、島に伝わる笛を守ってきた一族の娘として描かれる。妹・アルメラと2人暮らし。笛を吹くことでユートピアへの扉が開くので、日本人学者・内田の命令で、島に呼び寄せられ笛を吹く。最後はユートピアに残り、雨神ユムチャックのために笛を吹き続けた。

【川犬猫病院】かわいぬねこびょういん(場所)

第3部・15話

ねずみ男が、肌のかゆみで診療を受けた病院。酷い皮膚病なので、環境を変えて寒い場所へ行ったほうが良いと助言される。なぜか肩に鳥を乗せている、1000匹以上の動物をみてきた獣医がいる。

【カンブリア紀島】かんぶりあきとう(場所)

第4部・65話

南方にある、海に囲まれた小さな島。この島で採取された古代植物・マンモスフラワーの種が日本に渡り、誤って口にしてしまったねずみ男がマンモスフラワーになってしまう。マンモスフラワーに花を咲かせるためにはこの島の環境が必要であり、鬼太郎たちはカラスヘリを使って日本のマンモスフラワー(ねずみ男)をこの島まで運んだ。

【鬼界ヶ島】きかいがしま

第1部・10話

バックベアードやドラキュラたち西洋妖怪が、日本に妖怪の国を作るための前線基地に選んだ島。島では金の延べ板がいくらでも採れる。上陸した西洋妖怪たちは、島にあるガジュマルの森をアジトにしていた。

き

【キタロンZ】きたろんぜっと(アイテム)

第4部・71話

かわうそがぬらりひょんの依頼で売ったインチキドリンク。鬼太郎の汗と涙で作った栄養ドリンクという触れ込みで、鬼太郎推薦としてかわうそが神社で売り出した。露店の前で朱の盤はわざとらしいサクラを演じていた。たくさんのお客が買うが、かわうそは売り上げ金を持ってぬらりひょんに渡さず逃げる。

【キツネの幻燈会】
きつねのげんとうかい(その他)

第4部・51話

毎年大晦日に冬山で、狐たちによって行われる幻燈会。狐たちが影絵芝居をする。鬼太郎たちの年に一度の楽しみで、砂かけ婆、子泣き爺、ネコ娘なども参加していた。ねずみ男は会場でアルバイトしており、本番の幻燈会を見て感動して号泣した。

【狐封じの壺】きつねふうじのつぼ(アイテム)

第3部・39話

砂かけ婆のアパートの押し入れの奥にしまってあった、白山坊を封じるためのつぼ。つぼをあけると風が起こり、白山坊を吸い込んだ。

【キノコ谷】きのこだに(場所)

第3部・21話

妖術、妖力を使えない、妖怪の難所。谷中のキノコが妖気を吸ってしまう。あまめはぎはねずみ男を使って鬼太郎をここにおびき出し、一度負けた雪辱を果たすべく戦った。あまめはぎのこま投げは妖術ではなく鍛えた技なので、キノコ谷でもこまを投げられる。巨大ごまで岩を壊し、鬼太郎が埋まった。

【キノコランプ】きのこらんぷ(アイテム)

第1部・50話、第3部・41話、第4部・54話

異次元光線を放つ、光るキノコを入れたランプ。これによりガマ仙人が作る異次元・妖怪関が原へ行くことができる。第4部では異次元空間の名前は「異次元の森」に変わる。この異次元空間にいる間は、ガマ仙人は無敵の強さを誇る。


第2部・カルメン



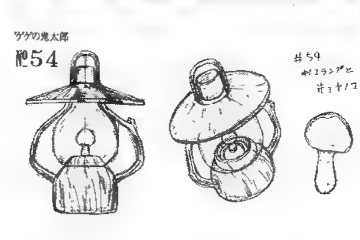
第3部・カルメン


第3部・川犬猫病院

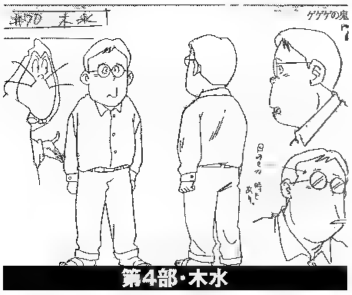

第1部・鬼界ヶ島


第4部・キタロンZ


第4部・キツネの幻燈会

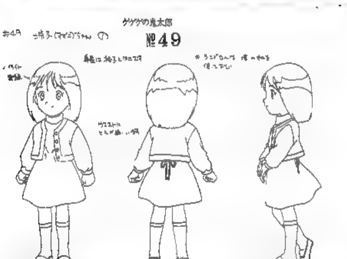


第4部・キノコランプ


第4部・木水

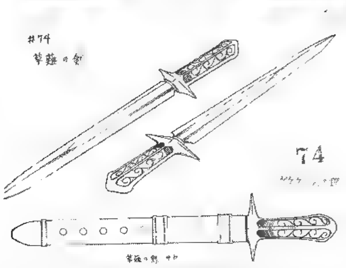

第3部・吸血サボテンのジュース


第1部・九ちゃん


第4部・清滝涼子


第1部・霧ヶ岳


第2部・霧子


第4部・草薙の剣

【木水】きみず(人)

第4部・70話

マンガ家。アイデアが浮かばず悩んでいるところへ、ねずみ男がバイク便ライダーとして現れる。ねずみ男が本物であることを確認するため、口の匂いを嗅いで倒れる。その後、怪気象が起きて現れた妖怪・ぐわごぜに、妖怪王国の文部大臣にしたいと言われて有頂天になる。妖怪を出すたびに欲望が満たされ、逆に体が弱っていく。ぐわごぜに乗り移られるが、鬼太郎がぐわごぜを倒すと元に戻った。なお1部および劇場版では、漫画家の名前は水木である。

【九王子警察】きゅうおうじけいさつ(場所)

第2部・30話

ノーカーデーを行っている町の警察。あと100年で人間は、地球をみずから汚したことで滅びるので、ノーカーデーの1日や2日はムダだと死神が話している。その後は妖怪の世界になるとのこと。

【牛鬼岩】ぎゅうきいわ(場所)

第2部・15話、第4部・6話

妖怪・牛鬼が封じられている岩場。牛鬼岩のそばに行くと、帰って来られなくなるという言い伝えがある。かつて迦楼羅によって牛鬼が封印された場所であり、第2部では、忠太の父がそこで行方不明になった。ちなみに第3部では「海鬼の磯」から牛鬼が復活した。

【吸血サボテンのジュース】
きゅうけつさぼてんのじゅーす(アイテム)

第3部・96話

小唐笠島の吸血サボテンから取れるジュース。即効性の眠り薬になる。ドラキュラが、恐山の妖怪病院の「スーパー血液」を奪うのにじゃまな、鬼太郎を眠らせるために使用。

【九ちゃん】きゅうちゃん(動物)

第1部・48話

「雪ん子」のエピソードで活躍する、山田元少年が飼っている九官鳥。人の言葉が解かる頼りになる鳥だ。北海道から、元の手紙を妖怪ポストに出しにきた。

【魚眼丸】ぎょがんがん(アイテム)

第4部・94話

海のそばで飲むと体が魚に変化する薬。回復丸で元に戻る。一部の妖怪が作れる妙薬で、水仙人と井戸仙人が作ることができる。

【清滝涼子】きよたきすずこ(人)

第4部・49話

手のひらサイズの「水の妖精」としての赤舌と友達。父親の転勤で北国から東京へ転校してきて、村上佑子と同じクラスに。転校早々下校途中で強盗犯に人質に取られたため、「困ったときは助けてね」という約束を守るため、赤舌が巨大化して北国から駆けつけて大騒ぎとなった。最後は自滅しようと海へ向かう赤舌を、体を張って止めようとする。

【清めの炎】きよめのほのお(アイテム)

第4部・112話

妖怪を火に封じ込めて焼き尽くす。髪の大社の拝殿の下に埋まっていた。髪の妖怪はこの炎に触れただけで燃え上がってしまう。鬼髪と黒髪切を葬った。

【霧ヶ岳】きりがたけ(場所)

第1部・15話ほか

吸血鬼エリートの別荘があるところ。霧が晴れたことがない。吸血鬼エリートはそこへ骸骨だらけの道を通って、ロールスロイスを思わせる高級外車で乗り付けている。

【霧子】きりこ

第2部・6話

死んで魑魅魍魎にとり憑かれた町長の娘。死んでから3日後に、ねずみ男に結婚を申し込む。生きている間は病に伏せ、死んでからは魍魎にとり憑かれると災難続きの女性。

【銀太】ぎんた(人)

第1部・33話

中学生。新しい手をブエルにつけてもらうが、手が勝手に動いて数々の悪行をしてしまう。ヤカンズルにブエルが呑みこまれて消滅すると、元の手に戻った。

く

【草薙の剣】くさなぎのつるぎ(アイテム)

第4部・74話

八俣大蛇を復活させるための剣。この剣で八俣大蛇の急所を刺すことでしか、八俣大蛇は倒せない。ぬらりひょんがこの剣を使って八俣大蛇を復活させた。そのぬらりひょんから佑子・淳・翔太の3人組が剣を奪い、鬼太郎に渡す。八俣大蛇を倒した後は、八俣大蛇とともに永遠に封印された。

【くじら飛行船】くじらひこうせん(アイテム)

第3部・86話

夜行さんが開発した、夢の世界に行ける船。鬼太郎が悪夢に悩む人間たちのために、夢の世界へ向かう際に、夜行さんに借りて使用した。ぬらりひょんのエネルギー波を浴びて墜落してしまった。

【くらやみ新聞】くらやみしんぶん(アイテム)

第4部・54話

邪魅に操られ、銀行強盗や現金輸送車強奪事件を起こした鬼太郎の記事が載った新聞。記事内容は以下のとおり。

くらやみ新聞　vol.2349　「東京支社発行。謎のちゃんちゃんこ少年。24日正午頃練馬区東大泉の親切銀行に謎の少年が突然押し入り、行員を不思議な下駄で脅すなどして約1000万円を奪って逃走した。少年は、黄色と黒のちゃんちゃんこ姿で、不気味な目つきで行員たちをにらみつけ恐ろしげな風体だったという。(中略)空飛ぶ下駄で防犯用カメラを破壊。現金輸送車には髪の毛が多数刺さり、ガードマンは黄色と黒のちゃんちゃんこを目撃後、気を失った。(略)」

【黒川】くろかわ(人)

第1部・7話、第3部・6話

元ボクサーの男。妖怪を怖がらず、「妖怪ショー」の入場料も踏み倒した。鬼太郎を叩いて鬼太郎にコブを作り、「幽霊電車」に乗せられる。あまりの恐怖に電車から飛び降り、鬼太郎と同じ大きさのコブを自分で作った。白山という後輩がいる。第3部では、ラーメン屋台で、鬼太郎を叩いて鬼太郎にコブを作り、後輩・吉永と列車から飛び降りて自分にコブを作った。後に、人間の駅長から列車事故の話を聞いて、お化けはいると信じるようになる。ちなみに、第4部・53話で「幽霊電車」に乗る人物は、小林という男だった。

【黒洋】くろなだ(人)

第4部・65話

植物学者。生命エネルギー研究所でマンモスフラワーの研究をしていたが、悪人に持ち去られる。知事に対してマンモスフラワーを攻撃しないように交渉。「自然が持っている不思議な力を信じるべきだ」と軍隊に向かって言う。鬼太郎たちと協力して、マンモスフラワーを沈静化。カンブリア紀島へマンモスフラワーの移動を提案する。

け

【ゲゲゲの森】げげげのもり(場所)

第1部・2話ほか

鬼太郎親子や、その仲間たちが暮らす森。うっそうとした森で、沼や池などがある。ユメコをはじめ、人間たちも何かと出入りし、第2部・1話では沼を埋め立てる工事をしていた。また、第1部・13話では、政吉が銀行強盗をした後に迷い込んだ。なお、「ゲゲゲの森」と呼ばれるのは第3部から。

【源爺】げんじい(人)

第1部・23話

九谷村に住む老人。峠の自動車事故を妖怪の仕業だと気づき、妖怪ポストに手紙を出して鬼太郎に助けを求めた。しかしじつは、自分の蔵から出てきた絵を燃やして、封じ込められていた妖怪・ぶるぶるを復活させたのは源爺本人だった。

こ

【濃沼】こいぬま(人)

第2部・17話

財界のプリンスで、金儲けのことしか頭にない男。「縁切り虫を使って戦争を起こせば、武器を作る会社が儲かるので、株が高騰する前に買占めて株が上がってから売り払えばボロ儲けだ」と、ねずみ男をその気にさせる。それにより1000億円を儲けようと仕掛けるが、失敗する。

【光一】こういち(人)

第1部・19話

奥山村に住む少年。妹のみつこが、のびあがりによって「吸血木」にされてしまい、鬼太郎とともに復讐する。勇敢な少年で、のびあがりにカマで切りつけ、目に砂をかけるなどして鬼太郎をサポートした。妹の形見として、手鏡を身につけている。

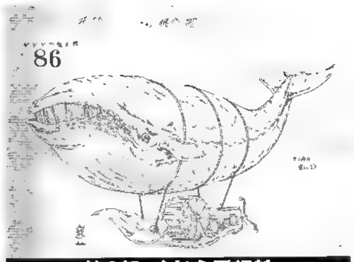
【幸吉】こうきち(人)

第2部・23話、第３部・62話

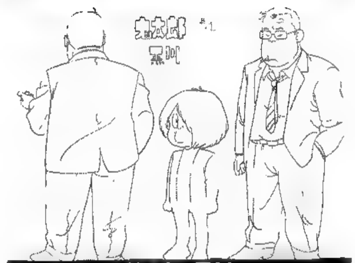
死んだ母親の遺体を火車に奪われた少年。母の葬儀中、火車に母の死体をさらわれ鬼太郎に助けを求める。第2部ではみずから退治に向かうが、逆に操られてしまった。

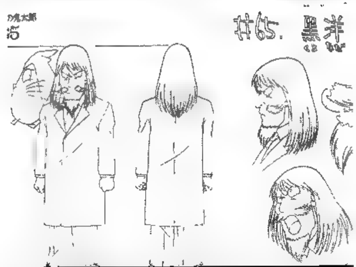
【高僧ちんぽ】こうそうちんぽ(人)

劇「異次元」



第3部・くじら飛行船


第3部・黒川


第4部・黒洋

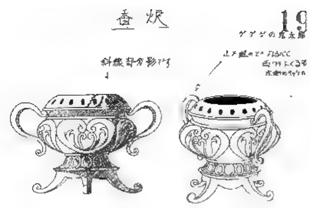

第4部・ゲゲゲの森


第1部・源爺



第2部・濃沼


劇・高僧ちんぽ



第3部・香炉



第4部・古代岩



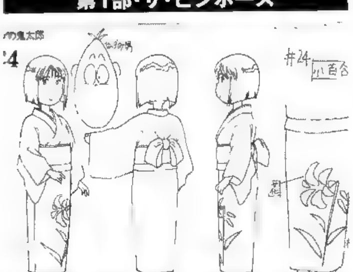
第3部・古代の石臼



第4部・金比羅島



第1部・ザ・ビンボーズ



第4部・小百合



第3部・地獄

総理大臣に呼ばれ来日した高僧。額にある第3の目で怪気象を解き明かす。怪気象を止めるには、妖気を出している謎の生物を退治するほかないと総理に進言した。目は3つあるが人間のようだ。

【香炉】こうろ(アイテム)

第3部・19、86話

まくら返しが所有する、人々が悪夢に襲われるように攻撃として使うつぼ。妖怪香炉と呼ばれるタイプもあり、ぬらりひょんに盗まれ悪用されたこともある。そのおかげで、人々は毎晩苦手なものに襲われる悪夢を見せられていた。普段は夢の世界の番人・まくら返しが使用している。

【ココの実】ここのみ(アイテム)

劇「大海獣」

井戸仙人が、目玉おやじに教えた、ゼオクロノドンとなった鬼太郎を元に戻すための方法のひとつ。クルミによく似た実で、山の上の祠にあった。

【古代岩】こだいいわ(場所)

第1部・12話、第4部・78話

ぬらりひょんが鬼太郎を封じ込めるべく、連れてきた場所。妖怪が嫌ういやな音を、風と共鳴して作り出す。鬼太郎が苦しんでいるところを穴に落とし、妖怪コンクリートで生き埋めにした。鬼太郎は妖怪コンクリートの妖気を吸い込んで、自力で動き出し、結局、ぬらりひょんと朱の盤がひきずり込まれる。

【古代の石臼】こだいのいしうす(アイテム)

第1部・12話、第3部・4話

石臼を右へ回すと時間が逆戻りして、外の風景が変わる。回しているうちに恐竜時代までさかのぼり「外で見たら、マルチスクリーンのように迫力がありますよ」という鬼太郎の言葉で、ぬらりひょん、朱の盤、蛇骨婆が外に出る。その後、石臼を左へ戻し、3人を取り残してしまう。これが"先祖流しの術"である。

【コマ神木】こましんぼく(場所)

第4部・52話

コマ妖怪・あまめはぎが住む神木のこと。大雪によって倒れてしまったが、鬼太郎たちが霊力を送って元どおりにした。

【金比羅島】こんぴらとう(場所)

第4部・61話

鬼太郎が、いやみに毒された魂を清めに行った場所。日本の南の果ての果てにある。妖怪・カシャボが案内人になり、目玉おやじたちを島にある清めの泉へと連れて行った。

さ

【再生粉末】さいせいふんまつ(アイテム)

第1部・22話ほか

恐山の妖怪病院に置いてある薬。第1部・第3部の「八百八狸」との戦いにおいて、みずからの胃液で妖怪獣・蛟竜とともに溶けてしまった鬼太郎を元に戻した。鬼太郎を助けるために、一反もめんが取りに行くのがお約束。

【賽の河原】さいのかわら(場所)

第1部・53話ほか

地下深くにあり、葬頭河婆が住んでいる。地下に水風呂があり、葬頭河婆が入っていた。こうもり猫のエピソードでは、鬼太郎が人類老化の煙をここに捨てた。

【笹岡村】ささおかむら(場所)

第1部・42話

和歌山県にある村。毎月2人の生け贄を海神さまに捧げる儀式を行っている。生け贄を差し出さなかった月は、船の転覆事故で漁師が死亡し、村には大津波がやってきて100人以上が死んだ。生け贄を出さなくてすむようにねずみ男に問題解決を依頼するが、マネキンを使ってだますというねずみ男の作戦が人食い島の逆鱗にふれ、大津波を起こされて村が破壊されてしまう。責任をとって村長が鬼太郎とともに生け贄となり、人食い島の胃の中で溶けてしまう。

【ザ・ビンボーズ】ざ・びんぼーず(人)

第1部・34話

ジャリー虎刈をリーダーとする売れないバンド。さら小僧の「ぺったらぺたらこ」を盗作して大ヒットを出すが、怒ったさら小僧に隠れ里へ誘拐されてしまう。メンバーは3人。

【小百合】さゆり(人)

第4部・24話

荒れ寺の元住職の娘で、みずからもすでに死んでいる。妖怪・陰摩羅鬼にとり憑かれた幽霊として登場。行き倒れのねずみ男を助け、結婚して一緒に寺をもり立ててくれと頼む。鬼太郎の正体暴きの術で陰摩羅鬼と切り離された小百合は、退治された陰摩羅鬼を

かばう。小百合は、ねずみ男に号泣されながら成仏した。

【サラマンドラの粉】
さらまんどらのこな(アイテム)

第1部・5話

科学者・山田修一が研究していた、妖怪封じの効き目がある薬。山田は大海獣の探検に鬼太郎と同行し、負傷した鬼太郎に、追い打ちをかけるようにこの粉をかけた。サラマンドラの粉の解毒剤もあり。

し

【地獄】じごく(場所)

第1部・13話ほか

物語の中に多数登場。第1部・13話では、午前0時に、墓場の停留所に地獄行きのバスが来ることになっている。地獄の様子は霊界テレビで見られる。また第31話では、霊界自動車で移動したねずみ男の妄想に登場した風景。妖怪自動車でスペシャル優良道路を通り、地獄めぐりをした。針の山、火炎地獄、血の池地獄が登場。同じく第91話では、地獄の鬼たちは、死んだ人間の魂が来ないと体力があり余り、はけ口をなくして暴れ、三途の川は干上がるとある。そのほか第3部の最終シリーズ「地獄編」は、地獄そのものを舞台に展開する。さらに、第4部「えんま大王とねこ娘」、第1部「妖怪大統領」などにも登場している。

【地獄石】じごくいし(アイテム)

第3部・109話

白雪姫も眠り姫も愛用したという、ねずみ男家に先祖代々伝わる眠り枕。と「ねずみ男一族の秘宝」には書かれているが、じつは頭を乗せると地獄に落ちてしまう。

【地獄ゼミ】じごくぜみ(動物)

第3部・111～115話

地獄に落ちた鬼太郎一行を導き、サポートするセミ。鬼太郎の母親の意思を持つようだが、鬼太郎の母親の化身かは不明だ。

【地獄玉】じごくだま(アイテム)

第2部・18話

願いが叶う不思議な玉。中村太郎が頭金1万円で、ねずみ男から購入した。そのときの願いは「金持ちになって出世できますように」「部長になれますように」「専務、社長になれますように」だった。あまりの中村夫妻の欲深さに、地獄玉は爆発。中村は手に入れたものをすべて失う。

【静子】しずこ(人)

第4部・18話

南の島での難破船宝探し&ダイビングのツアーに参加した女性。同海域で3年前に動物学者の父を亡くしており、その父に結婚の報告をするためツアーに参加した。化け鯨に飲み込まれるが、その奥で「自分を呼ぶ声がする」と、さらに奥に進む。そこで父の魂に会い、結婚の報告をする。

【死神憲法】しにがみけんぽう(その他)

第2部・30話

死神が、鬼太郎の母(にせ者)をあの世から連れて来た時に語った憲法。死者はこの世では死神と行動をともにしないといけない、などの項目がある。

【ジニヤーの指輪】
じにやーのゆびわ(アイテム)

第3部・102話

人間界に現れた、魔女ジニヤーが持つ。魔法をかけたり、召し使いを呼び出したりと万能の働きをみせる。じつはジニヤーの父である魔王の持ち物で、勝手に持ち出したジニヤーは叱られてしまうのだった。

【ジャリパック】じゃりぱっく(その他)

第2部・45話

パシャが考えた旅行会社で、通称JAR。表向きは貧乏人のための海外旅行団。貧しい人々を夢の国・オアシス王国へ無料で招待するといって参加者を募る。じつはその参加者から魂を取るつもりで企画した旅行であり、目的地に向かう途中と言って、参加者を大島の砂丘に連れて行く。

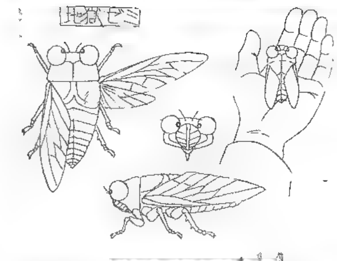
【照魔鏡】しょうまきょう(アイテム)

第1部・29話、第3部70話、第4部・75話

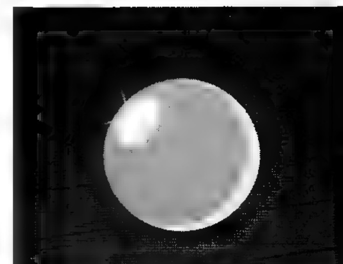
「魔を照らす鏡」といわれ、降魔の力を持っている。鏡の妖怪・雲外鏡を封じ込めており、封印が解けて雲外鏡が外に出てからも、雲外鏡にとっては塩とともに恐れる大きな弱点。第1部では銅鏡寺に奉納されており、寺の火事にまぎれて盗まれてしまった。第3部では出雲大社に奉納されており、ユメコが持ち出して鏡の世界に閉じ込められた鬼太郎たちを助け出した。第4部では一度は雲外鏡に奪わ



第3部・地獄石



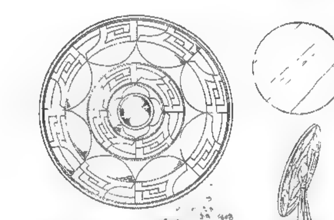
第3部・地獄ゼミ



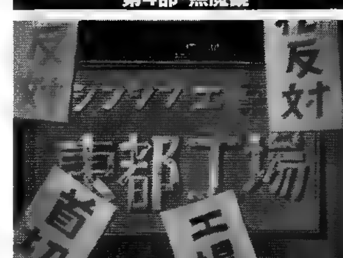
第2部・地獄玉



第3部・ジニヤーの指輪



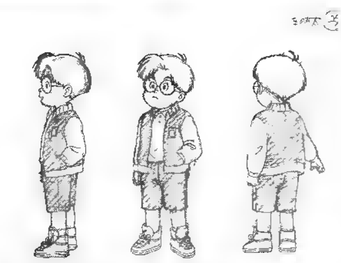
第4部・照魔鏡



第2部・シンシン工業



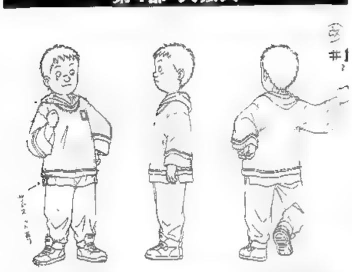
第3部・スーパー血液


第4部・鈴木翔太


第2部・殺生石



第4部・大猿人


第4部・谷本淳


第3部・狸城


第4部・だるま王国


第2部・地相眼

れ、壊される寸前までいってしまう。

【親切銀行】しんせつぎんこう(場所)

第3部・52話

邪魅に操られた鬼太郎が、銀行強盗を働いた銀行。約1000万円を奪われた。銀行強盗の記事、そしてそれが解決した記事はくらやみ新聞に掲載された。ちなみにこのとき鬼太郎は、1000万円を持っていながら直後に会ったねずみ男には金を貸さなかった。

【シンシン工業】しんしんこうぎょう(その他)

第2部・42話

「ゆりかごから墓場まで」という乗り物を作った会社。社長は秦という大学を出たばかりの人物で苦労を知らず、面倒だからと会社をつぶして、作曲家になりたいと思っていた。しかし、ねずみ男から「こんな下手なギター聞いたことない」と言われ、ショックのあまりマンションから飛び降り自殺。また専務は「ゆりかごから墓場まで」の発表会で、モデル(死神)を火葬して殺人罪で逮捕されてしまった。

す

【スーパー血液】すーぱーけつえき(アイテム)

第3部・96話

強力な妖怪の血をブレンドしたもの。恐山の妖怪病院に保管されていたが、吸血樹が指揮する吸血妖怪軍団に奪われてしまった。強力な吸血樹の芽を生み出す。

【鈴木翔太】すずきしょうた(人)

第4部・1話ほか

第4部を通じて活躍する、小学生3人組のひとり。坊ちゃん刈りで眼鏡をかけており、海では浮き輪が手放せない、ちょっと頼りなさげな少年。怖がり。鏡爺に連れ去られ、鏡の中の世界に閉じ込められてしまう。そのほか、のっぺらぼう、野づち、電気妖怪かみなり、ダイダラボッチなどの回に登場。八俣大蛇の回では村上佑子、谷本淳と協力してぬらりひょんから草薙の剣を奪うという活躍を見せる。ちなみに、第4部で一番初めに妖怪ポストを使った人物でもある。

【砂地獄の谷】すなじごくのたに(場所)

第1部・15話、第4部・57話

第4部では、吸血鬼エリートの隠れ家の崖の下にあり、砂に体を溶かす成分が含まれている砂の穴。行方不明者たちのガイコツがある。第1部でも「砂地獄」として登場。このときは体を溶かす成分は入っていなかった。一度落ちると二度と這い上がれない。

せ

【殺生石】せっしょうせき(アイテム)

第2部・2話、第4部・80話、劇「最強妖怪」

以下、作品内での殺生石の説明。

「いまから800年前のことであるが、どこからともなく一匹の妖狐が出現した。それがチー妖怪の姉にあたる九尾のキツネとよばれる妖怪である。悪事のかぎりをつくしたので、三浦介義純が矢を射て石にした。それが殺生石のいわれである。今、同じところに別の殺生石ができた。チー妖怪の殺生石である」

た

【大猿人】だいえんじん(その他)

第4部・86話

マントヒヒのような着ぐるみヒーロー。大猿人が登場する作品は、人気作でシリーズ化されている。大猿人の着ぐるみに入っているのは、長島晴之助というベテラン役者。

【谷本淳】たにもとじゅん(人)

第4部・1話ほか

第4シーズンを通して登場する、小学生3人組のうちのひとり。背が高いワンパク少年。妖怪や伝承の類にも意外に詳しく、ダイダラボッチの話を鬼太郎たちに教えたのもじつは彼。「野づち」の回では0点のテストなどを野づち塚に捨ててしまい、その後ねずみ男とともに、野づちの封印を解いてしまう。

【狸城】たぬきじょう(場所)

第1部・22話、第3部・57話

日本から政権を奪った八百八狸が建てさせた城。第1部の設定では、製作途中で50万人が犠牲となった。八百八狸が封印されるとくずれ落ちた。第3部では、ユメコやその父親も建築に借り出されていた。

【だるま王国】だるまおうこく(場所)

第4部・105話

だるまが「治方戸市」の廃ビルの4階につくった、清い心を持っただるまだけが住んでいるだるまの本拠地。中は幻覚で、昔の古きよき日本を再現している。ちなみに3階から上っても、5階から降りても辿り着かない。子だるまに導かれて初めて辿り着く異空間となってい

る。外の声は聞こえても、中からの声は外には聞こえない。

【だるま妖怪相談所】
だるまようかいそうだんじょ（場所）

第3部・8話

だるまがアパートの「存在しない4階」を100万円で借りて作った、妖怪の身の上相談所。ねずみ男からそそのかされて作った。妖怪はたくさん集まってくるが、誰も金を払ってくれないため経営が立ち行かなくなる。しかも妖怪が集まるため気味悪がられ、アパートの住民が大多数出て行ってしまう。その状況を見ただるまは、アパートを乗っとろうと考える。相談所の看板は、3階の窓から見ると1階上に見えるが、5階から見ると1階下に見える。妖怪しか入れない場所にある。

ち

【チースッター祭】ちーすったーさい（その他）

第4部・57話

第4部において、吸血鬼エリートの信仰する神を祭る日と思われる。チースッターの神の教えに従い、エリートは世界中の美女の血を吸い続けてきた。最後の100人目の美女である綾子を誘拐したのがこの日。

【チチエン・イッツァ】
ちちえん・いっつぁ（場所）

第2部・44話

メキシコはユカタン半島の中ほどにある小さな町。町の中ほどに泉があり、その地下には隠された泉がある。古代マヤ文明を支配した雨神ユムチャックが、そこに住んでいるという。住民はフレンドリーだが、いまだにユムチャックに対する生け贄の習慣が残っており、ユムチャックの名前を出すと、みなよそよそしくなってしまう。

【地相眼】ちそうがん（アイテム）

第2部・37話

地のことが何でもわかる玉（赤色）。戦後に魑魅魍魎の世界に入り込んだ安井は、この地相眼を手に入れてから"地"に関する事業で成功し、大財閥を築くまでになった。地相眼は安井のへその中に入っている。そのほか天のことが何でもわかる玉「天相眼」、水のことが何でもわかる玉「水相眼」がある。

【地底王国】ちていおうこく（場所）

第1部・49話、第3部・18話、第4部・72話

天狐を長とする妖狐の組織が暮らす、地底の王国。地下鉄工事が天狐たちの聖地に近づいたために、人間を懲らしめようとした。第4部では、異空間にある設定の狐たちの住まい。地底にあるが人間が入ることはできない。デパートの改装工事の際に壊された稲荷台明神の祠が、新装の際に建て直されなかったことに激怒した空狐が、デパートをこの「地底王国」に引きずり込んだ。空狐と互角の戦いを見せる鬼太郎だったが、王・天狐に認められ、デパートは元の場所に戻った。

【血なし病】ちなしびょう（その他）

第1部・4話

吸血鬼ラ・セーヌの吸血によって死亡した人間は、この病気にかかったとされた。ちなみにラ・セーヌは、来日したときねずみ男の手により「血なし病のワクチンを開発した有名な博士」として紹介されている。

【長寿教】ちょうじゅきょう（その他）

第1部・20話

ねずみ男が教祖を務めるインチキ宗教。その宗旨をまとめると、以下のようになる。
「人間の頭の中には『どろたぐう』という神、心臓には蜂の宮という女神、下半身には血下という神が住んでいる。体の中央には三虫という悪魔が住んでいる。この三虫を衰えさせる丸薬を売る。悪いことをして貯めたお金を渡すことによって、それが2倍になって返ってくる」ということ。

つ

【月子】つきこ（人）

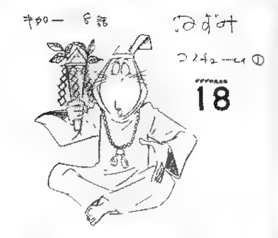
第2部・41話

美しくなりたいという欲望が強い女性。整形をして顔を変えるが、より美しくなりたいと、顔のスペアをたくさん持っている妖怪・ズンベラと結婚する。最後は、美への欲望が強すぎて石になってしまった。石になった月子を見た鬼太郎は、「美人になりたい欲が自分の心をすっかり干からびさせてしまった」と呟く。

【月の船石】つきのふないし（アイテム）

第4部・93話

月の光を集めて、月と地球を結ぶことができる、桂男のアイテム。人工の明かりが強い都会では効力が薄いため、桂男は街の明かりを



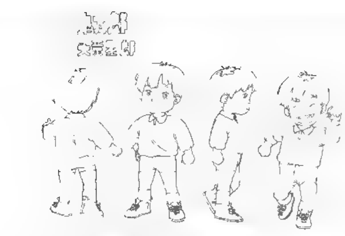
第1部・長寿教


第2部・月子


第4部・月の船石

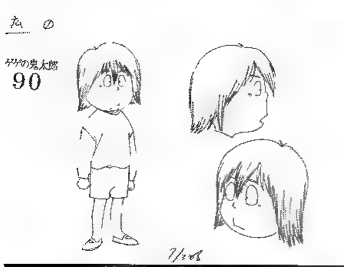

第4部・筒井俊彦


第3部・天童ユメコ


第3部・天童星郎


第3部・天童正夫


第3部・天童優子


第4部・遠山正弘


第2部・永島幸一


第2部・中村


第4部・猫打症

巨大なゴキブリや蜂を使って隠したり、街を破壊したりして明かりを消しまくった。

【筒井俊彦】つついとしひこ(人)

第4部・19話

会社で後輩に出世の先を越され、荒れているところを妖怪「くびれ鬼」にとり憑かれる。黄泉の国で子どもに帰って遊び、その黄泉の国の食べ物を口にすることでだんだんやせ細り、魂を抜かれて死に近づいていく。ギリギリのところで鬼太郎らに助けられ、残された家族を思い出して、現実世界に戻る。

て

【天狗岩】てんぐいわ

第1部・33話、第3部・14話、第4部・14話

千葉にある岬。人魚が海底に住んでいたが、さざえ鬼に占領されてしまう。鬼太郎はにせ鬼太郎(さざえ鬼)との対決をこの海岸の岩で行った。2人とも海の中へもぐり、さざえ鬼の住みかに辿り着く。

【天童星郎】てんどうほしろう(人)

第3部・2話ほか

第3部を通して登場。第3部のヒロイン的存在であるユメコの弟。性格は好奇心旺盛で、やんちゃ坊主。初登場でいきなり鬼太郎になつき、以降もたびたび妖怪とかかわっていくことになる。少年少女の狙われる誘拐事件に巻き込まれることなど、みずからが妖怪に狙われることも多かった。また第85話では、学校のない妖怪世界に憧れた星郎が河童の三吉とすすんで入れ替わり、大トラブルを起こしたという経験も。鬼太郎のことを両親に聞かれて「日本のゴーストバスターさ!」と答えていた。

【天童正夫】てんどうまさお(人)

第3部・2話ほか

第3部を通して登場。第3部のヒロイン的存在である天童ユメコの父親。性格は少々頭が固いが、つねに子どもたちのことを考えているよき父親だ。初登場のときは、娘を鏡爺にさらわれながらも「妖怪なんかいない」と言い張る常識的な父親だったが、娘の"姿"が盗まれるという非常識に遭遇して鬼太郎の力を借り、以後たびたび娘や息子が鬼太郎とかかわっていくことで態度は軟化していく。また第25話では、峠で妖怪・ぶるぶるに狙われて家族を乗せた車で事故に遭い、入院してしまう。第57話では狸城建築に借り出され、狸にせっかんされる。さらに第90話では、妖精ニクスに狙われてストレスを回収され、一日中遊んで暮らすようになるなど、みずからも受難の人でもある。

【天童ユメコ】てんどうゆめこ(人)

第3部・2話ほか

第3部を通して活躍。第3部における、人間側のヒロイン的存在。第2話で、遊園地のミラーハウスの中で妖怪・鏡爺に鏡の中の世界に閉じ込められたところを助けられて以来、鬼太郎に全幅の信頼を寄せる。以降も猫仙人に乗り移られる、夜叉に狙われる、毛羽毛現に魂を抜かれる、ぶるぶるに体に入られる、こうもり猫に老婆にされるなどなど、その受難は数え上げれば切りがない。また「地獄編」では枕石(地獄石)で最初に地獄に入り、以降鬼太郎たちと行動をともにして地獄を探検。敵だった地獄童子に助けられたこともある。性格はおとなしそうに見えて意外に大胆で、鬼太郎のために妖魔の巣である山の中を分け入ってガマ仙人を探したり、夜中にねずみ男とともにかぶその城を探検に行ったりと好奇心旺盛なタイプ。誰にでも優しく接する女の子で、鬼太郎のみならずねずみ男や朱の盤ですらトリコにしてしまう罪なコでもある。で、それを逆手にとって自分の非をねずみ男に擦り付けるなど、ちゃっかりした一面も持っている。ちなみに4月生まれで、誕生石はダイヤモンド。輪入道の事件が解決したのち「私もダイヤが欲しい」と発言していた。

【天童優子】てんどうゆうこ(人)

第3部・2話ほか

第3部を通して登場。ごくごく普通の母親で、つねにユメコと星郎のことを心配している。鏡爺を「昔は女の子の味方だったはず」と思い出すなど、比較的妖怪などを信じているほう。ちなみに鏡爺が惚れていた女性は、優子の母親でありユメコの祖母。

【天道法印塔】てんどうほういんとう(場所)

第1部・30話ほか

黒船とともに日本にやってきて日本征服を企んだ悪魔・ベリアルの魔力が封じられた神器「やさかりの赤玉」が封印されていた場所。第4部のこの塔の看板には「この塚　天道法印塔なり　何人も触れることまかりならず」と書かれていたが、ねずみ男が触れてしまう。

と

【遠山正弘】とおやままさひろ(人)

第4部・90話

妖怪・ぶるぶるにつかまって異次元に連れていかれた宿の主人・遠山の息子。父親を救うために、鬼太郎のちゃんちゃんこをまとい、単身で妖怪・ぶるぶるのところへ乗り込んでいく。鬼太郎と間違われ引きずり込まれそうになるが、父親に助けられる。

【閧の橋】ときのはし(アイテム)

第2部・38話

かくれ座頭が仕切っている秘密の空間・隠れ里と現世を結ぶ、ただひとつの橋。普段はかくれ座頭にしか見えず、かくれ座頭の許可なくしてこれを渡ってしまうと、白骨化してしまう。

な

【直也】なおや(人)

第4部・22話

祖父母の下に、両親とともに遊びにきた少年。かえるやアメンボにはしゃぎ、ベビー泥田坊と友だちになる。ベビー泥田坊を洗ってあげて、溶かしてしまったことも。後に畑を守る良い妖怪であることを知る。泥田坊が暴れ始めるとベビー泥田坊とともに止めに入り、泥につぶされた鬼太郎を助ける。火で弱らされた泥田坊を退治しようとする鬼太郎を止め、田んぼに帰してあげた。

【永島幸一】ながしまこういち(人)

第2部・34話

福々産業の総務部長。順調に出世し順風満帆だったが、突然の病に不安になり、鬼太郎へ治してほしいと懇願。サトリから「痛みを消したいなら、妬まれている状態(地位)を捨てることだ」と助言される。今の地位を捨てるぐらいなら一家心中しようと、ヘビケ浦海岸まで行くが、鬼太郎に止められ一命を取り留めた。突然の病とは、目玉おやじによると「大勢の人の視線が物理的効果により痛みの原因になった」ものらしい。心中を止められてからは、出世のために人にひどいことをせず子どものために生きていく、と鬼太郎に話す。余談だが、車のナンバーは「多摩　5657」。

【中村】なかむら(人)

第2部・43話

都会の人間。山田とともに入らずの森に入り、隕石だと思い込んで、タイタンボウの聖地の岩を削って持ち帰り研究する。祟りで人間の心をなくしていたため、鬼太郎が石を返せと忠告しても聞く耳を持たない。石をとられ、鬼太郎たちをニトログリセリンで爆発させようとする。祟りで体が溶け、穴に落ちる。

ね

【猫打ち症】ねこうちしょう(その他)

第1部・41話、第3部・34話、第4部・62話

第1部においては、甲州街道で発生した奇病。怪しいトラック(ナンバー 7460)相手に事故を起こした者が、猫そっくりな動作をするようになったのが最初。目が赤くなり、人間なのにネコと同じ仕草をし、キャットフードやドブネズミなどを食べるようになる。この事故は化け猫が、事故で捨てられた猫の復讐として起こしていた。猫の亡霊の慰霊碑を建てると患者も元に戻った。

【猫塚】ねこづか(場所)

第1部・17話、第3部・3話、第4部・12話

猫塚村にあり、猫塚の魂である猫玉が納められている塚。ねずみ男がこの玉でひと儲けを企んで車を走らせていたところ、運転をあやまり塚を壊してしまい、玉が現れる。それにより、村中の猫が狂い、遠足中のユメコたちを襲った。猫塚の地底に、猫仙人が住んでいる。第4部では、猫仙人の体が眠る塚として登場。みだりに手をかけたり壊したりしたら祟りがあるとされ、大猫が守っている。

【猫町】ねこまち(場所)

第4部・28話

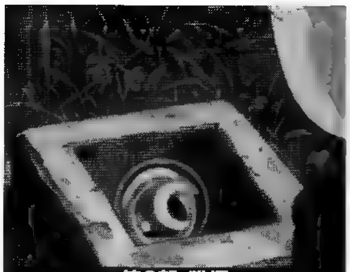
現世に疲れた人間が、野良猫に案内されて到着するネコの町。向かった者は行く途中でネコになってしまう。地下鉄を乗り継いで行き、最後に「猫町切符」で猫町線に乗って終点で到着。でぶ猫駅、三毛猫駅などが途中にあり、三毛猫駅の前はからす猫、後ろはばけ猫。猫町のことは猫だけの秘密のため、戻ってきたら記憶が失われてしまう。

の

【野づち塚】のづちづか(場所)

第1部・43話、第3部・29話、第4部・27話

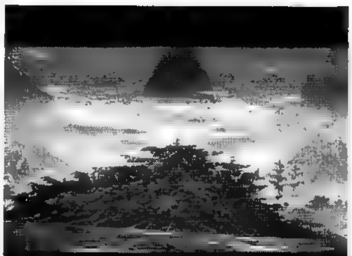
「野づち」が冬眠しているところ。第1、3部では、ここから野づちが復活してひでり神を呑み込んだ。第1部では、鬼が原と呼ばれる平原、第4部では、街外れにあり、何でも吸い込


第3部・猫塚

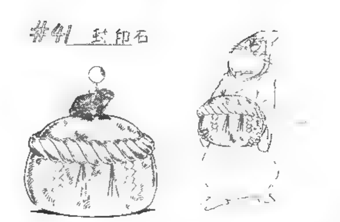

第1部・橋本正吉



第4部・花子

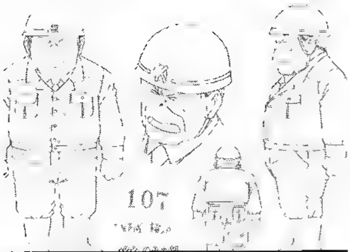

劇・バルル島

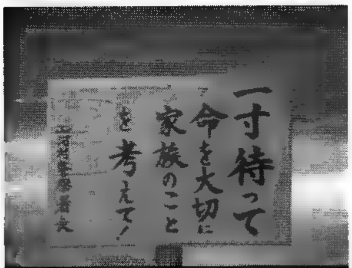

第3部・響ワタル



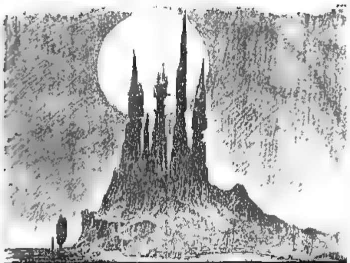
第3部・封印石


第2部・福島


第4部・古野国権造

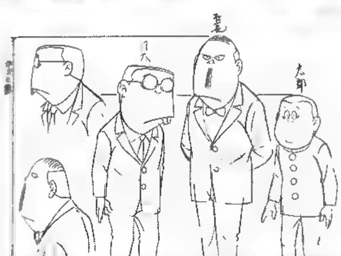


第2部・ヘビヶ浦海岸


劇・ホウキボシ島


第4部・蓬莱島


第2部・ボボンガ島


第2部・凡太


第1部・政吉

む穴として存在。

は

【橋本正吉】はしもとしょうきち(人)

第1部・24話、第4部・39話

第1部、第4部において白山坊に狙われた娘の父親。事業に失敗し、自殺しようと富士山を訪れて白山坊と出会い、娘が16歳になったら白山坊の嫁にすると約束。以後幸せな暮らしを送る。娘の名前は第1部が花子、第4部が茜。ちなみに第3部で同じ境遇の「正吉」の苗字が、橋本であるか否かは定かではない。

【花子】はなこ(人)

1部・32話、4部・30話

「妖花」のエピソードで登場する女性。第4部は花田花子、1部は苗字が不明。第1部のほうは笑うとえくぼのできる赤いほっぺの女のコで、ハーモニカで「埴生の宿」を吹く。内職で暮らしていた。第4部は夏が好きな妙齢の美人。古書店員で、終戦記念日のことを子どもに説明したりする面倒見のいい女性。毎年夏になると咲く「妖花」がおばあちゃんを連れて行ってしまったと思い、プロポーズされても「同じことが起きるのでは」とためらう。ちなみに第3部では「華子」という名で、妖花が部屋に咲き乱れ大家とトラブルを起こしている。

【羽仁輪博士】はにわはかせ(人)

第2部・16話

大和大学の博士。ニューギニアへ探検に行く。人間を呼び寄せる奇怪な能力をもった怪物を探すため、夢でニューギニアに呼び寄せられたという疋田と鬼太郎に同行を依頼する。発見したガマ人については、彼らの平和な日々を壊さないために、世間への発表はしなかった。助手ともども、ジャングルでもネクタイを着用していた。

【バルル島】ばるるとう(場所)

劇「大海獣」

南太平洋にある島。山にはアカマタをはじめ南方妖怪と、ゼオクロノドンの亡骸が眠っている。ゼオクロノドンの「生命の水」を求め、日本人が大挙して上陸。

【万能ガラス玉】
ばんのうがらすだま(アイテム)

第2部・2話ほか

井戸仙人が操る、何でも見えるガラス玉。主に妖怪の正体がわかる。これをとおして、チー妖怪の正体が九尾の狐であると判明した。

【万有自在玉】ばんゆうじざいだま(アイテム)

第3部・39話

閻魔大王が持つ手毬。毬をつくことによって、望みがかなう。どんな経緯で入手したかは不明だが、奪衣婆が閻魔庁より持ち出した。奪衣婆は若さを取り戻すため、人間を地獄に誘拐。魂入りのスープを作るのに使用していた。又五郎鬼の針によって破裂してしまう。

ひ

【一つ釜村】ひとつかまむら(場所)

第2部・19話

大きなヤカンや釜を村の宝としている村。村の子どもが行方不明になる事件が多発した。ちなみにぶんぶく茶釜は、この村からの伝説とされている。

【響ワタル】ひびきわたる(人)

第3部・10話

ギター演奏者。コンクールに出す曲が作れず、「神さま才能をください」と祈ったところへ、夜叉が現れる。「有名になれるなら何でもします」と言ったため、夜叉にコントロールされてしまう。夜叉が燃え尽きた後、自分で曲を作りコンクールで喝采をあびた。ちなみに、第1部で夜叉に操られていたのは「野呂」という人物だった。

ふ

【封印石】ふういんせき(アイテム)

第1部・50話、第3部・41話、第4部・54話

邪魅を封印していた石。この石を動かした者はガマになってしまい、元に戻るには、誰かをガマにしなければならない。ちなみに第1部では、邪魅→ねずみ男→鬼太郎→目玉おやじ→邪魅の順にガマになる。

【福島】ふくしま(人)

第2部・35話

「アレス占い師」の出現で閑古鳥が鳴いている占い師。アレスに「近々悲惨な死に方をする」と占われて怒り、殺害して逃亡。魔法の奥義を得ようとイースター島へ行く。船内で荷物の中の父の日記を発見して「地獄の使者に会えば金も幸福も思うままに手に入る」と知るが、地獄の使者によって地獄に連れて行かれてしまう。

【フジテレビ】ふじてれび(場所)

第4部・94話ほか

第94話では建物をバックに沢井が釣りをしていた。第96話ではぬらりひょんが屋上を拠点とし、各地の鏡探しの様子を見ていた。八俣大蛇が建物を突き破って登場。ちなみに名称は出てこず、建物が描かれるのみ。

【古野国権造】ふるやこくごんぞう(人)

第4部・107話

穴ぐら入道の住む山神山に、トンネルを開けようとした社長。穴ぐら入道におどされても村人のためと言い張り、トンネル工事をやめようとしなかった。穴ぐら入道が村人の犠牲になって石と化した後も態度を変えようとせず、鬼太郎に殴られる。

へ

【ヘビヶ浦海岸】へびがうらかいがん(場所)

第2部・34話

自殺の名所。サトリによって自殺へ導かれたエリート・永島は、家族そろってココで心中しようとしていたが、待ち構えていた鬼太郎に止められる。自殺防止の看板が立っている。

ほ

【ホウキ元素】ほうきげんそ(その他)

第1部・26話

おどろおどろが発見した、魔女のホウキに含まれる元素。モノを空に飛ばすことができる。おどろおどろがプラモデルの飛行機に使用し、子どもたちを誘拐するのに使った。

【ホウキボシ島】ほうきぼしとう(場所)

劇「妖怪大戦争」

アキオたちが暮らす島。バックベアードら西洋妖怪に占領されてしまう。ハレー彗星が近づくと、渦潮が島の底へ集まってエネルギーを溜める。島の底には縦穴の大きな洞窟があって、そこから噴出する水の圧力で島が吹っ飛びそうになった。膨大な金が採れる。

【蓬莱島】ほうらいとう(場所)

第4部・14話

浮世を忘れ、年も取らず楽しく暮らせる楽園。仙人・徐福がこの島の主。本当に欲する者の前だけに現れる。じつは海竜・蛟の吐く息が作る蜃気楼だった。

【ボボンガ島】ぼぼんがとう(場所)

第2部・16話

疋田の父親がともに暮らす、ガマ人の住みか。ボボンギ沼のボボンゲ部落に住んでいるガマ人は、ボボンゴ洞窟でご馳走を振る舞い、探検隊員をガマ人にしようとした。石柱を見た博士は、村が作られてから30年しか経っていないと断定していた。

【凡太】ぼんた(人)

第2部・21話

薬品会社社長の息子。いつも居眠りばかりして、会社を継ぐつもりはない。しかし、バリバリの卵を飲まされて、生まれ変わったように、寝る間も惜しんで仕事をする。「死なない薬」を開発しようとするが、父親の願いでバリバリが離れて元のぐうたらな男へと戻る。

ま

【政吉】まさきち(人)

第1部・13話

銀行から1億円を盗んで逃走した指名手配犯。前科8犯。押し入った際に2人の銀行員を殺害した。ゲゲゲの森に逃げ込み、留守の鬼太郎の家で拾った「地獄行き」の切符を使って、相棒の豆蔵とともに地獄へ流されてしまった。

【増本俊之】ますもととしゆき(人)

第4部・109話

冬岳がある村の村長の息子。10年前、冬岳に落ちた隕石を飛行機の墜落と勘違いし、救助のために吹雪の山に入って遭難。「山の安全を守り、人々を助けたい」という強い念が、隕石に乗ってやってきたのびあがりと合体。雪崩を予言し、村人を助けるために人間を「赤い木」に変えていた。妻は今日子、娘は春。

【魔法の壷】まほうのつぼ(アイテム)

第1部・12話、第3部・4話、第4部・78話

蛇骨婆の持ち物。鬼太郎をやっつける相談に来たぬらりひょんに対して、魔法のつぼに入れるしか手はないと協力する。ぬらりひょんはお礼として200万円渡した。しかし鬼太郎に見破られ、作戦は失敗に終わる。

【まぼろしの汽車】まぼろしのきしゃ(アイテム)

第2部・25話、第3部・61話、劇「汽車」

吸血鬼ピーのエピソードのときなどに登場。走ると過去に戻れる汽車。吸血鬼になった



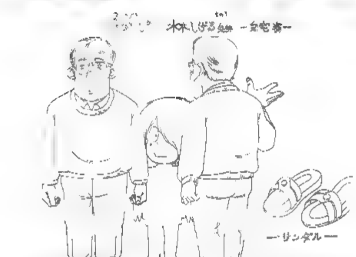
第4部・増本俊之



第3部・万年



第1部・マンモス



劇・水木しげる

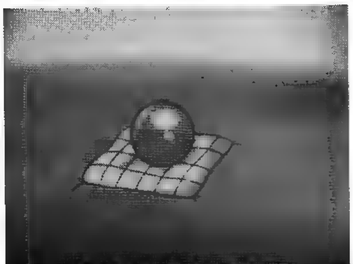


第4部・村上佑子


第1部・明治時代の霊柩車



第4部・メンソーレホテル


第3部・やさかりの赤玉


第3部・山田秀一


第4部・憂歌団


第1部・ゆうれい列車


第4部・幽霊電車

鬼太郎を救おうと、目玉おやじが強い霊力で呼び出した。劇場版でも1度登場。過去、未来、現世、来世すべて行ける。

【迷い家】まよいが(場所)

第4部・87話

妖怪たちがひっそりと暮らしている、山の中にある古い小さな屋敷。気の弱い妖怪もいる。ふだんは、倉ぼっこ、納戸婆が住んでおり、迷い込んだ人間にお椀を渡したことも。

【丸田勇夫】まるたいさお(人)

第4部・37話

生真面目な、働きすぎで急死した中年男性。息子・勇樹を連休にドライブに連れて行き、夜明けの海を見せる約束をしていたが、それが果たせぬまま死んでしまい、心残りになっていた。妖怪・夜行さんに会い、妖怪自動車を借りて現世に戻り、約束を果たす。

【万年】まんねん(人)

第3部・26話

野球少年。所属チーム「ラッキーズ」。以前はヒットを打つのがやっとだったが、墓で妖怪バットを拾い、10割の打率を残す。妖怪との野球対戦では、鬼太郎が打ったあわやホームランというライナーをジャンプしキャッチするファインプレーを見せる。試合の決着がつかず、ハワイでの他チームとの試合後に、鬼太郎と再戦を約束する。ハワイの試合は、5打席5三振とさんざんな結果に終わる。帰って来た万年は、バットの神通力が消えてしまったことを嘆くが、鬼太郎に「バットの力に頼らずとも、万年君は野球が上手い」と励まされ、体力づくりに励むようになる。ちなみに第1部で妖怪バットを拾ったのはブン太、劇場版「おばけナイター」では三太郎だった。

【マンモス】まんもす(人)

第1部・4話

吸血鬼ラ・セーヌの子分の殺し屋。ラ・セーヌを先生と呼び、つねに行動をともにする。鬼太郎を最新式のマシンガンで撃ち殺そうとしたが失敗。ラ・セーヌとともに、みずから放った炎に包まれて死亡した。

み

【水木しげる】みずきしげる(人)

第1部・58話、劇「異次元」

調布に住むマンガ家。『ゲゲゲの鬼太郎』の作者である。マンガのアイデアに行き詰まって入った喫茶店『ホームラン』で、本物の鬼太郎とねずみ男に出会う。家が怪気象の中心となり、妖怪総理大臣を名乗るぐわごぜによって妖怪の国会議事堂にされてしまう。怪気象が晴れたため、自分が次元の異なる扉を開けてしまったのだと納得。

む

【村上佑子】むらかみゆうこ(人)

第4部・1話ほか

第4部を通して登場。準レギュラーの小学生3人組のひとりで、一番目立っている女の子。1話で見上げ入道に飲み込まれたのを鬼太郎に助けられて以来、たびたび妖怪に遭遇し鬼太郎に助けを求める。素直で優しく、芯の強い少女だ。たまたま探検に行った鍾乳洞で、悪事を働いているぬらりひょんと出会い「鬼太郎さんが黙ってないんだから」と啖呵を切る。そしてぬらりひょんから草薙の剣を奪うなど、度胸と行動力もある。

め

【明治時代の霊柩車】めいじじだいのれいきゅうしゃ(アイテム)

第1部・41話

ねずみ男が所持。猫打ち症を引き起こす怪しいトラックを追うために出動。霊界高速道路を通って霊界へ。ねずみ男によればいずれは国宝に指定されるべき値打ち物らしい。

【目玉おやじ人形】めだまおやじにんぎょう(アイテム)

第3部・98話

“若者文化の最先端”原宿で流行っているぬいぐるみ。魔よけの効果もあり、なんにでも効くスグレモノ。ねずみ男が祭りの出店で売っていた。原宿では2000円だが、1980円に負けて販売。

【目玉印グローブ】めだまじるしぐろーぶ(アイテム)

コピー妖怪対鬼太郎

職人・喜平が製作したグローブ。プロの有名選手も使っている。通常は3万円するが、ねずみ男がコピー品を、1万円で販売。少年・勇はそれを8000円で売ってもらった。

【メンソーレホテル】
めんそーれほてる(場所)

第4部・63話

沖縄にあるホテル。妖怪が出ると噂で客が減り、鬼太郎が妖怪退治を依頼される。鬼太郎が沖縄に着くと、BGMで三線の音が響いた。妖怪と仲良くなることを売りにして業績がUPする。第1回世界妖怪会議もここで開催された。支配人は金城。

や

【やさかりの赤玉】
やさかりのあかたま(アイテム)

第1部・30話、第3部・54話、第4部・44話

「悪魔ベリアル」のエピソードで登場。第1部での設定は、100年前にからす天狗がベリアルの魔力を封じた金色の玉。天童法師塔に保管されていたが、ねずみ男によって壊される。第3部では「八尺瓊の赤玉」で、カラス天狗の長老がベリアルの魔力を封じ込めた。第4部では「やさかりの玉」として登場。カラス天狗がベリアルのパワーを封じ込めた玉。露天商をしていたねずみ男が、それと知らずその封印を解いてしまった。

【ヤタの鏡】やたのかがみ(アイテム)

第2部・9話

最初に覗き込んだものを生け贄にする鏡。神通力をもち、髪様はふだんはこの中に住んでいる。

【山田秀一】やまだしゅういち(人)

第1部・5、6話、第3部・67、68話

「大海獣」のエピソードに登場するインテリの青年。生物学から物理まで万能の天才といわれて周りをバカにし、モットーは科学こそすべて。大海獣研究のためニューギニア探検に出かける。大海獣の血を独り占めしようとして鬼太郎を襲い、鬼太郎に大海獣の血を輸血して大海獣にしてしまう。第1部では、鬼太郎の能力に興味を持って、妖怪封じの薬を研究。ロボットを作り、大海獣と対決を繰り広げた。大海獣となった鬼太郎に命を救われて、妹の言葉によって改心し、鬼太郎を救う。最後は妖怪を認めるまでになった。

ゆ

【憂歌団】ゆうかだん(人)

第4部・33話

木村、内田、島田、花岡で構成されたバンド。ねずみ男にそそのかされ、さら小僧の歌「ぺったらぺたらこ」を盗作し、大ヒットさせる。しかし、さら小僧にばれて誘拐されてしまう。

【幽霊電車】ゆうれいでんしゃ (アイテム)

第1部・53話、第3部・6話、第4部・53話

もしくは「ゆうれい列車」としても、作品内に登場。鬼太郎が人間を霊力でおどかしたときに使用した特別列車。「特別電車 霊園行き この世⇔墓場」。第4部では、4番ホームから出発。ブレーキは霊柩車がきしむような音で、扉は火葬場の扉の音、冷たいイスの一両編成。窓から見える景色は墓場で、駅員が笛を吹くと電車が到着する。出発するときには駅員全員が線香をたいて見送り、乗客は拝んでいる。終点までの切符を買うと、途中駅では降りられない。幽霊電車の正体は、使い古されて捨てられたボロ電車だった。第1部では村山霊園行きの臨時列車。停車駅は危篤、臨終、火葬場、骨壷。車内は、ひんやりして気味が悪い。妖怪が多数乗車している。その正体はやはり古い電車。

【豊かの木】ゆたかのき(アイテム)

第3部・33話

干ばつが続いたときも、その木だけ実をつけ人々を救った木。体に回った毒を取り除く木としても大切にされていた。自然の恵みを与えてくれる「神の木」として、豊作を願う神社には種が置いてある。巨大化したあかなめの体にこの種を植え込めば、あかなめを抑えることができるとブン太が提案した。第2部では同様の役割の種が「古代の種」として登場している。

【夢の世界】ゆめのせかい(場所)

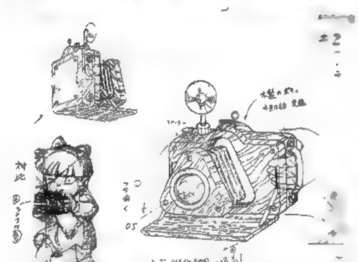
第1部・28話、第3部・19話、86話、第4部・15話

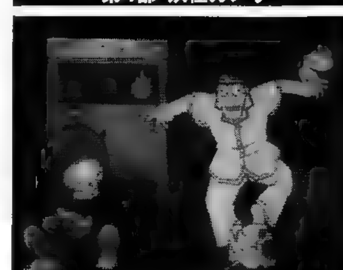
まくら返しのエピソードなどに登場。目玉おやじによれば「死んでも死なず、生きても生きず、あってもない世界で、金や食べ物に苦労しない。途中の道は険しく、迷いの山の頂上に上り、太陽を背にして待つと、虹の架け橋が現れる。橋は鬼太郎の下駄がないと渡れない。世界の中では、切り株から芽が出て森となり、雷に打たれて切り株になるまでが一瞬にして起こる。時の流れは速くて無限に例えるのは、ここから始まったらしい。眠るときは、魂だけ夢の中で遊ぶ、夢は本当にある、妖怪の空間」。虹を渡って夢の世界に行けるが、虹は15


第4部・夢の世界


第2部・ゆりかごから墓場まで

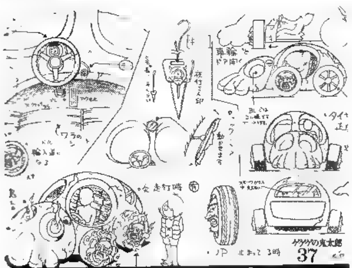

第1部・妖怪学校


第4部・妖怪カメラ


第4部・妖怪研究所


第3部・妖怪シール


第3部・妖怪自動車



第4部・妖怪自動車



第3部・妖怪城



第4部・妖怪城



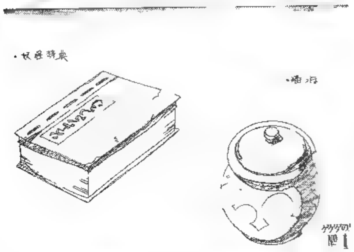
第4部・妖怪真珠



第3部・妖怪水車



第3部・妖怪事典(悪魔の書)



第4部・妖怪事典

分くらいで消えてしまう。鬼太郎はねずみ男に片方の下駄を借して、2人ともケンケンして虹を渡った。

【ゆりかごから墓場まで】
ゆりかごからはかばまで(アイテム)

第2部・42話

シンシン工業の新製品。ゆりかごから墓場までをコンセプトに作られた。赤ちゃんの自動授乳から、児童の勉強部屋になり、車なので通学・通勤に便利で、寝室にもなる。最後に持ち主が亡くなったら、ドクロボタンを押せば20秒で火葬して骨にできる。1台作るのに8000万円かかる。

よ

【妖怪】ようかい(その他)

第1部・1話ほか

全編にわたって登場。作品内で「妖怪とは」を語っているところをいくつか抜粋する。
「妖怪は人間と違っていつまでも生きられるが、人間のように子どもを産んで子孫を増やすわけにはいかない」(見上げ入道)。「昭和40年代には妖怪の時代がくる。妖怪事典の最初に載っている」(お富狸)。「飛行機などという科学的なものは使わない」(目玉おやじ)。「人間をだまし、人間が努力して作った物を横取りし、人間よりも高級な生活を送るのが妖怪の本分」(アカマタ)。「夜より昼間眠ったほうが体にいい」(目玉おやじ)。「妖力が衰えてきたとき、この世にはとどまることはできずに、人間とは違うはるかあの世に隠れてしまう妖怪や幽霊がいることは確か」(目玉おやじ)。

【妖怪運動会】ようかいうんどうかい(その他)

第4部・40話

骸骨山の墓場で年に1回開催されるイベントで、各地の妖怪たちが集まって行われる大々的な運動会。ちなみに夜行さんが短距離走1番、ねずみ男はビリ。おはぎ食い競争では1つハズレの激辛がある(ねずみ男に当たり)。飴玉探し競争はのっぺらぼうが得意。ぬりかべの幅跳びは33cm(倒れただけ)。

【妖怪エキス】ようかいえきす(アイテム)

第3部・2話

鏡の中に閉じ込められた鬼太郎を甦らせるために、砂かけ婆がエキスを口に含み、霧吹いた。それにより、鬼太郎が復活。

【妖怪学校】ようかいがっこう(場所)

第1部・9話

見上げ入道が先生を務める、妖怪学を教える学校。さらわれた忠助、鬼太郎、ねずみ男のほかに、ニワトリ、ネコ、イヌらの生徒がいる。空気の食べ方、サイズの変え方などを教えて、妖怪になれるように勉強する。逆らった生徒は見上げ入道に吹き飛ばされ、二度と戻れぬ「霊界流しの刑」に。

【妖怪カメラ】ようかいかめら(アイテム)

第1部・32話ほか

このカメラで撮影されたものは、フィルムの中に封じ込められ、妖怪も妖力を使えない。目玉おやじが、鏡で集めた目目連を妖怪カメラのシャッターを押して封じ込めた。第4部では砂かけ婆が持参。やはり目目連をねずみ男ともども封じ込める。

【妖怪研究所】ようかいけんきゅうじょ(場所)

第4部・37話

夜行さんの住みか。夜行さんは、手狭になってきたので広い場所に移りたいと思っている。鬼火販売機、人魂を入れる風船などを開発。

【妖怪残酷物語】
ようかいざんこくものがたり(その他)

第2部・3話

妖怪映画の公開名称。『世紀のドキュメンタリー　妖怪残酷物語』。<衝撃のロードショウ>」、立て看板には「初めてカメラがとらえた衝撃の数々・・・・」と書かれていた。

【妖怪シール】
ようかいしーる(アイテム)

第3部・94話ほか

妖怪のイラストが入ったシール。妖怪ブームによって、子どもたちに人気を呼んでいた。ねずみ男が縁日でよく販売。

【妖怪事典】ようかいじてん(アイテム)

第1部・32話ほか

作品内で多数登場。妖怪のことなら何でも載っている事典だが、妖花については載っていなかった。また、鬼太郎の病気のことも載っていた。「88以上の妖怪を倒すとその悪霊が乗りうつり、高熱を出して死に至ることがある。治療法としては、人間に愛される妖怪と親しくなることにより、悪霊を退散させることがで

きる」。その後ろのページが破れていた。第2部・33話には『悪魔事典』、9話には『カラス語事典』、第4部・12話には『猫族妖怪事典』、40話には『日本妖怪図鑑』なども登場した。

【妖怪自動車】 ようかいじどうしゃ（アイテム）

第1部・54話ほか

鬼太郎が「世界妖怪ラリー大会」出場のために使用した。フロントのゲタが飛び、障害物となった車をどかす仕掛け付き。目玉おやじがチューンナップし、逆に不調になってしまった。始めは「妖気自動車」ともいい、化け猫を追うときにも使用された。第4部では妖怪界の発明王、夜行さんの発明品として、まったく異なるデザインで登場。霊界バイパスをとおって、あの世とこの世を行き来できる唯一の乗り物という設定にバージョンアップ。ガイコツのボディに輪入道のタイヤ、鬼火のヘッドライト、ガマ蛙のクラクションを完備している。差し込んであるキーを抜くと封じられている輪入道が解放され、暴走を始めてしまう。

【妖怪住宅問題事件解決　4商事】
ようかいじゅうたくもんだいじけんかいけつ
よんしょうじ（その他）

第1部・59話

だるまが経営するビルの4階につくった会社。ビルは明治時代からあり、エレベーターはない。4階は元々存在せず、5階から見ると下に、3階から見ると上に看板があった。住むところに困った数匹の妖怪が、そのビルで暮らす。鬼太郎は、ロープをつたって、外から侵入した。

【妖怪城】 ようかいじょう（場所）

第1部・3話ほか

全シーズンをとおして、妖怪が立てた城を総じてこう呼ぶ。代表的なものをいくつかあげよう。第1部・3話には、たんたん坊たちとともに妖怪城が復活し、子どもを生け贄に出すよう要求した。この後のシーズンでも、たんたん坊とともに各所で復活している。第2部・3話では、チーら中国妖怪たちが建築し、アジトに使用していた。さらに、劇「妖怪大戦争」のバックベアードも、人間を使って建設させたのが妖怪城（シナリオ表記）だった。

【妖怪真珠】 ようかいしんじゅ（アイテム）

第4部・60話

妖力を封じ込める力を持つ真珠。妖怪イカに生け贄をささげるとひとつ産み落とす。食べられた人の妖力は真珠に封じ込められる。ぬらりひょんと半魚人のワナにはまり、鬼太郎が妖怪イカに呑み込まれて真珠になってしまった。その鬼太郎の妖怪真珠を妖怪灯台にはめ込むことで、全世界の妖怪をひれ伏させることができるらしい。

【妖怪水車】 ようかいすいしゃ（その他）

第2部・39話、第3部・98話

猛霊八惨がつくり出した、巨大な渦を巻く大津波。「猛霊八惨」という声とともに出現し、船などをたやすく沈めてしまう。第3部では、水精翁が使用していた。

【妖怪石】 ようかいせき（アイテム）

第4部・64話

第4部における「妖怪ラリー」の優勝賞品。願いをひとつだけ叶えてくれる石。月にかざして願うとたちどころに叶う。

【妖怪関が原】 ようかいせきがはら（場所）

第1部・50話、第3部・41話

昔から、一流の妖怪が決戦の場に選んだ異次元空間。時間もなければ、上下もない。鬼太郎とガマ仙人が対決した場所だが、この空間ではガマ仙人は無敵。第4部では同様の空間を「異次元の森」と呼称していた。

【妖怪戦車】 ようかいせんしゃ（アイテム）

第3部・78話ほか

妖怪界の発明王、夜行さんの発明品。ガイコツのボディに輪入道のタイヤ、化け火とつるべ火のヘッドライトに野づち砲を乗せて完成。その何でも吸い込んでしまう能力で、東京は山手線内に大繁殖したマンモスフラワーを一掃した。劇場版にも登場。

【妖怪反物】 ようかいたんもの（アイテム）

第2部・2話、第4部・79話、劇「最強妖怪」

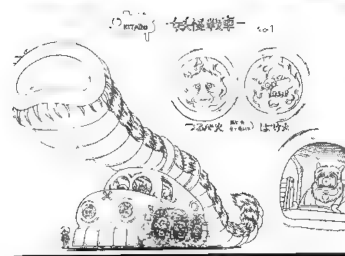
チーの赤い丸薬を飲んだ妖怪が変化したもの。その反物で作った服を着ると、チーの思いどおりに動く。毎回反物にされる鬼太郎とチーを除くと、第2部では、ぬりかべと砂かけ婆。劇場版では、野づち、ひでり神、かまいたち、だるま。第4部では、呼子、かわうそ、傘化け、サトリがそれぞれ反物にされていた。

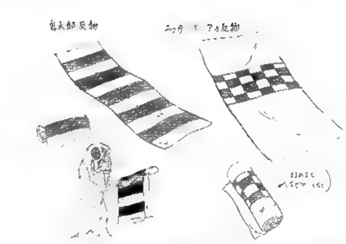
【妖怪貯金箱】 ようかいちょきんばこ（アイテム）

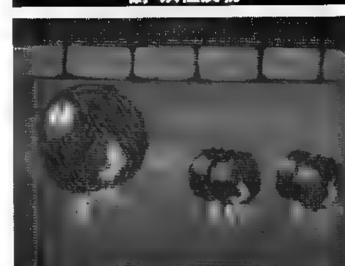
第1部・44話ほか

正体は丸毛。逆柱に操られ、子どもたちの小遣いを盗もうとした。預金すると妖怪貯金箱


第3部・妖怪関が原


劇・妖怪戦車


劇・妖怪反物

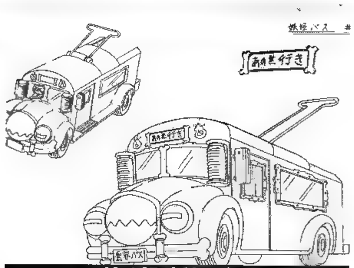

第1部・妖怪貯金箱

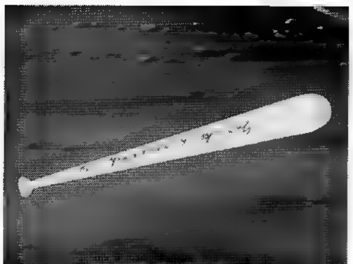

第4部・妖怪遠眼鏡



第4部・妖怪ノイローゼ


第2部・妖怪パーティー


第4部・妖怪バス


第1部・妖怪バット


劇・妖怪バット


第1部・妖怪パンチ


第1部・妖怪ポスト


劇・妖怪ホバークラフト


第3部・妖怪ミキサー

がもらえるキャンペーンを、一菱銀行が行っていた。

【妖怪遠眼鏡】ようかいとおめがね(アイテム)

第4部・74話ほか

主に砂かけ婆が使いこなす、何でも覗ける望遠鏡。第74話では八俣大蛇の急所を見つけ、第19話ではくびれ鬼が黄泉の国に引きずり込もうとしている会社員・俊彦を覗いて、その魂がやせ細っていることを確認。2度目は黄泉の国で使用し、現実への出口を見つけ出すなど、見たいと思ったものは何でも見えるらしい。第37話では目玉おやじが、妖怪自動車を盗んだねずみ男の場所を確認するために使用した。

【妖怪ノイローゼ】
ようかいのいろーぜ(その他)

第4部・106話

百々爺の策略で、鬼太郎がかかった病気。この病にかかると、妖怪は自分のなかの恐怖心にさいなまれてどんどんやつれていく。眠りにつくたびに進行する。最後は妖怪の姿で襲いかかってくる自分の恐怖心に押しつぶされてしまう。恐怖心をみずからの手で克服する以外に治せない。

【妖怪パーティー】
ようかいぱーてぃー(その他)

第2部・3話、第3部・32話

ねずみ男が、鬼太郎主催と偽って金儲けのために計画したもの。人間の監督とカメラマンが隠れて撮影を行っていた。第2部では、主催者の鬼太郎が来ないので、妖怪たちは気分を害す。しかし、陽気に「妖怪ダンス」を披露していた。

【妖怪バス】ようかいばす(アイテム)

第4部・96話、97話ほか

鬼太郎たちがツアーに出かけたバス。霊界と人間界を自由に移動できる。運転手の妖力を吸い取って走り、スピードも運転手の妖力に比例する。行き先表示も変わる。ナンバープレートには「霊界バス」と表示されている。

【妖怪バット】ようかいばっと(アイテム)

第1部・1話、第3部・26話、劇「おばけナイター」

ホームランでもゴロでも好きなように打てる百発百中のバット。打ったときに嫌な音が鳴る。第3部の設定では、妖怪チームのために福の神が樹齢2000年の木から作ってくれたバット。福の神がその能力を自在に操る。劇中では妖怪バットとは呼ばれない。劇場版ではホームランが打てる代わりに魂を吸う。

【妖怪パンチ】ようかいぱんち(アイテム)

第1部・43話

妖怪ネタをマンガにした雑誌。雑誌は売れず、社内は返本の山。妖怪の描いたマンガをねずみ男から買う予定だったが、それは身代金目的の誘拐の布石だった。

【妖怪ポスト】ようかいぽすと(アイテム)

第1部・9話ほか

妖怪関連の困ったことを鬼太郎に相談したいとき、このポストに投函すれば鬼太郎の元に届く。「人間と妖怪が仲良くするために作った」と第1部では鬼太郎が語る。鬼太郎の家の前にあるもの以外はわりと神出鬼没で、どこにあるかはわからない。本当に必要としている人の前に現れるという話もある。

【妖怪ホバークラフト】
ようかいほばーくらふと(アイテム)

第1部・29話ほか

妖怪・ひでり神が使っている乗り物で、雲形の浮かぶ障子付きの部屋。水を含むと、重さで墜落する。第4部の妖怪ホバークラフトは、雨を降らせる装置が付いている。

【妖怪ミキサー】ようかいみきさー(アイテム)

第1部・9話、第3部・30話

見上げ入道が教師を務める、妖怪学校に設置された機械。第1部では木でできた樽に水車が付いていて、中に人を入れ回転させる。妖怪になるため、中に入って激しい訓練をするための道具として説明されていた。

【妖怪メガネ】ようかいめがね(アイテム)

第1部・23話ほか

妖怪の妖気が薄すぎて見つけられない時、これをかけると妖怪が見える。薄いえんじ色の丸メガネ。虫眼鏡タイプもある。第1部の設定では、月の映った氷をみがいて鬼太郎が作ったサングラス。これを使い普段は姿が見えない、ぶるぶるの姿を見ることができた。鬼太郎が崖から落ちたために、割れてしまう。

【妖花平】ようかだいら(場所)

第2部・5話

山中に開けたリゾート。以前は日本にただひとつの妖怪花の生息地だった。「利徳ホテル　レストラン　ビアガーデン　妖花平ゴルフ場」の立て看板が立っている。

【与太郎】よたろう(人)

第1部・62話

大クラゲに海へ引きずりこまれ、海爺にとり憑かれた少年。栄養を海爺に取られ、体重は30kgにまで減ってしまうが、ねずみ男の呪文で海爺から解放される。鬼太郎にサインを頼んだ。母親はTVの料理番組に出演し、裕福な生活を送っている。

ら

【Live House Ge^3】ライブハウスゲゲゲ(場所)

第4部・33話

「ぺったらぺたらこ」でヒットを飛ばす前に、憂歌団が歌っていたライブハウス。鬼太郎のエンディングテーマ『カランコロン～』を歌っていた。

り

【良心カビ】りょうしんかび(アイテム)

第1部・51話、第3部・64話

穴ぐら入道のエピソードに登場。良心菌という細菌が含まれていて、吸うと二度と悪いことをしなくなるというカビ。穴ぐら入道の住みか近くには必ず生えている。第1部ではマンガー家、第3部では穴ぐら入道を売り物にしようとしたマスコミなどが改心した。

れ

【霊界】れいかい(場所)

第1部・9話ほか

生きた者には見えないが、空中に浮いている死人の国。行ったら最後、この世に帰ることはできない。見上げ入道によって、鬼太郎が送られた。そのほか、霊界高速道路を通って行ける。猫の亡霊、ばけ猫がいる洞窟もある。

【霊界テレビ】れいかいてれび(アイテム)

第1部・13話ほか

鬼太郎の家にあるテレビ。光の当たる角度を変えると、見える景色が変わる。見える世界は地獄で、妖怪がいて同じようにこちらを見ている。鬼太郎は「トランジスタテレビ」と呼ぶ。また、過去の真実を映しだすこともできる。第2部35話では、アレスの占いに怒った男性が、アレスを殺害する様子が映った。

【霊食キノコ】れいしょくきのこ(アイテム)

第2部・26話、第3部・40話

骨女が鬼太郎を殺すために食べさせようとしたキノコ。骨女たちの住みかに生えている。第2部では骨女に操られたネコ娘が鬼太郎に食べさせようと妖怪鍋にしたが、霊食キノコに鬼太郎が気づき、食べることはなかった。大首は、この霊食キノコの菌をばらまかれて死に至る。なお第3部では、霊魂を食べるという設定あり。大首はこのキノコを植えつけられたことで能力が低下し、本来の姿である巨大な石に戻っていった。

【霊石】れいせき(アイテム)

第2部・36話

影女が持っている石。食べるとバリアに包まれたようになり、透明人間=死者になる。霊石を食べて袋に包まれた金太が学校へ行くと、自分と同じように袋に包まれたたくさんの人間がいた。それは自分の子孫をじっと見守っている先祖だった。ちなみに、元に戻るためにはもうひとつ「霊石」が必要。

ろ

【ロボット】ろぼっと(アイテム)

第1部・5話

山田修一が5億円かけて作った対大海獣の兵器。山田が搭乗して操縦する。全身が鋼鉄でできており、目から怪光線を放つ。また、両手はハサミになっていて、大海獣の光線で毛だらけになった自分の体の毛を刈った。大海獣が海中で作った渦によって沈没。

わ

【若杉先生】わかすぎせんせい(人)

第3部・3話ほか

第3部をとおして登場。ユメコのクラス担任。第3話では猫の大群に襲われ、第10話では夜叉に魂を抜かれるなど、ユメコの担任になったばかりに受難の人でもある。

【渡辺千里】わたなべちさと(人)

第4部・100話

人気アイドル。本人の意思とは関係ない仕事が多いため、逃げようとしたところを影女に吸収されてしまう。ファンの着る顔写真入りTシャツにはなぜか「Mi」の文字。ねずみ男も大ファンだった。


第2部・妖花平


第1部・与太郎


第1部・霊界


第2部・霊界テレビ


第1部・ロボット


第3部・若杉先生


第4部・渡辺千里

物語の章

第1部から第4部までの全339話に加え、劇場版8作、および特別編2編を含む、
全349話のストーリーがすべてこの章に!
原作との対比もついているので、アニメを楽しむ一助として利用しよう。



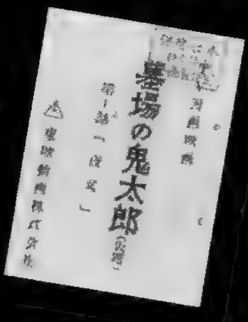
物語の章について

このコーナーは第1部から第4部までのTVアニメ、および劇場版などのストーリーを紹介している。掲載の原作は、アニメを楽しむ一助として、編集部が独自に調査したものである。妖怪名の表記は、P9からの妖怪カタログの表記に順じる。

68年1月3日〜69年3月30日放映

ゲゲゲの鬼太郎 第1部の世界

gegege no kitaro first season





「鉄腕アトム」(63年)に始まったとされる日本のTVアニメ界は、ヒーローものの潮流を「8マン」(63年)が引き継ぎ、それとは別に「おそ松くん」(66年)や「もーれつ!ア太郎(69年)など、日常をナンセンスに切り出した赤塚不二夫作品などが人気を博していた。そんななか、近未来的なSFヒーローものとも、ナンセンスギャグとも異なる新たなジャンルを切り開くべく、東映と講談社「週刊少年マガジン』がアニメ化に向けて強い情熱を注いでいたのが、ほかならぬ「鬼太郎」である。ある理由で難航していたこの企画を強烈に後押ししたのが、キングレコードと講談社によるタイアップレコード用に作られた"あの歌"だった。

アニメ鬼太郎の誕生

ヒーローではない、新しい主人公の形

アニメ化企画の背景には、66年スタートの同じ水木作品『悪魔くん』の実写ドラマの成功があった。しかし、貸本時代から『週刊少年マガジン』初期にかけての鬼太郎のタイトルは『墓場の鬼太郎』である。このタイトルがアニメ化に際し、スポンサーを渋らせていた。その問題を解決したのが、タイアップレコード企画で生まれた主題歌の"ゲゲゲ"という言葉である。好感の持てる主題歌と『ゲゲゲの鬼太郎』というタイトル。シスコ(現・日清シスコ)がスポンサーに決定し、第1シーズン鬼太郎の制作が始まった。

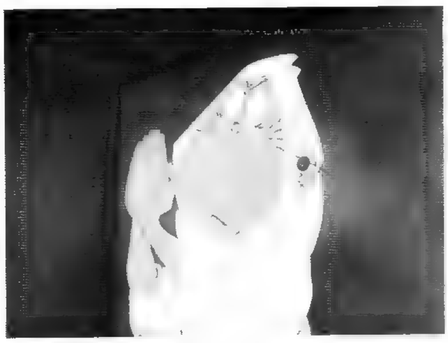
原作にほぼ忠実に、人間に害なす妖怪を鬼太郎が退治するという勧善懲悪型のストーリー。しかし鬼太郎は決して"ヒーロー"ではなかった。親友のねずみ男を子供っぽく蔑(さげす)み、またあるときは強大すぎる敵に歯が立たずに、取り憑かれて操られたり、食べられたり……。これほどまでに敵に蹂躙(じゅうりん)される主人公を、ステレオタイプのヒーローとは同一視できない。「主人公ではあるが、ヒーローではない」という鬼太郎像は、放映開始とともにたちまち人気となった。



主人公の鬼太郎役の声優には野沢雅子を起用。野沢にとっても初のシリーズもの主演作だ。



住んでいるところは奥深い山の中の萱葺(かやぶ)きの小屋。「ゲゲゲの森」という呼び名は、まだ出てこない。



ねずみ男役は個性派のベテラン・大塚周夫。目玉おやじ役は最新シリーズまで変わらず、田の中勇が担当。



第2話「夜叉」で、いきなり敵に魂を抜かれてしまう鬼太郎。決して無敵ではないその姿が人気を博す。

怪獣ブームから妖怪ブームへ

怪獣ブーム収束の裏で“妖怪”がきた

鬼太郎躍進の背景にあるもうひとつの要素があった。それが、大人も子どもも問わず当時日本全国を巻き込んだ、“怪獣ブーム”の一時的収束である。円谷プロの「ウルトラマン」シリーズ第1作『ウルトラQ』が始まったのが、鬼太郎に先んじること2年の66年1月。それを超えてヒットした『ウルトラマン』、さらに『キャプテンウルトラ』を経て、視聴率的には前作におよばなかったが、テーマの深さから現在ではシリーズ最高傑作との呼び声も高い『ウルトラセブン』に至る空想特撮シリーズが終了したのは、68年9月のことである。ソフビやプラモなどで独特の造形を楽しむこのブームに当て込んで、鬼太郎に関してもスポンサーのシスコから、まずは「鬼太郎チョコレート」などのお菓子類が登場。『ウルトラセブン』と並行して、大々的な商品展開を行っていく。さらに妖怪マンガや大映・妖怪三部作をはじめとする妖怪映画などが次々と登場し、「東映まんがパレード」における初の劇場版も68年夏に実現。怪獣へのオマージュに満ちているTV版の第5〜6話「大海獣」の再編集版を上映した。業界では“怪獣ブームから妖怪ブームへ”と謳(うた)われるようになるが、実際は怪獣ブームが収束しかけたところに、うまくハマったというのが現実だろう。第1シーズンの目玉おやじのセリフの中に「現代人は怪獣に慣れっこになっとりますからなあ」（第33話「さざえ鬼」）という言葉があるのも、時代を感じさせる。



68年3月上映の『妖怪百物語』は、『妖怪大戦争』『東海道お化け道中』と続き、空前のブームを生み出した大映・妖怪三部作の第1弾。



問題の目玉おやじのセリフの後に、イメージカット的に差し込まれた怪獣カット。確かにこんな感じでした。



江戸時代、お上の悪巧みを阻止すべく住民が催した“百物語”が現実に!?『妖怪百物語』監安田公義脚吉田哲郎出藤巻潤（68日／角川エンタテインメント）79分 ¥4,935

どこか民話的で魅力的な妖怪たち

民話の世界が命を吹き込まれ動き始める

妖怪も人間も、水木しげる原作をもとに、当時の東映動画の傾向が色濃く反映されたスタイルで登場。モノクロ作品ならではの“おどろおどろしさ”もあり、他シーズンとは大きく雰囲気を異にしている。そして敵妖怪に関しては、おどろおどろしさとともに、どこか民話的でファンタジックな造形で作画された。伝承の中の絵でしか見たことがなかった妖怪たちが、TV画面の中で命を吹き込まれて動き出す。現代よりも「妖怪」が生活に根付き、身近に感じられていた時代だけに、その衝撃は大きかっただろう。



鬼太郎を苦しめた妖怪・たんたん坊のデザインも、原作の姿を生かしながら、イキイキと動けるようにマイナーチェンジ。どこか憎めない姿となっている。

主題歌のみならずBGMのレベルも随一

日本アニメ音楽シーンに燦然(さんぜん)と輝く“あの歌”

アニメ化の決め手となった主題歌「ゲゲゲの鬼太郎」（発売当初は「墓場の鬼太郎」）の作曲は、後の日本音楽界の重鎮・いずみたく。この歌は最新の第4シーズンに至るまで、歌い手を変えつつ歌い継がれている。さらにバトルのシーンなどに流れる、オーケストラを存分に使ったBGMのレベルの高さは、他作品を大きく抜きんでていた。また、鬼太郎の音楽関連として、「鬼太郎ナイナイ音頭」を含め、当時のメディアの定番である“ソノシート”は10種類以上も発売。息の長い人気商品となった。



第1シーズンのオープニング。歌い手は熊倉一雄だ。ちなみに「ゲゲゲ」は、貸本から「週刊少年マガジン」に移行する際にラストに添えられた文字から取られたという。

【第001話】

おばけナイター

1968年1月3日放映

STORY

妖怪vs.人間の野球試合開始！

思いのままに球が打てる「妖怪バット」を拾ったドン平は、そのバットを使いチームを連勝に導く。鬼太郎はそれを妖怪バットだと気付き、妖怪チームに返すように頼むがドン平は手放そうとしない。そこで命とバットを賭けたナイター試合を持ちかけた。試合は数々の超能力を持つ妖怪チームの絶対的優勢で進む。命まで取りたくない鬼太郎は、試合を長引かせて朝を迎えることで、命を救おうとする。人間の命も欲しいほかの妖怪たちは、早く試合を終わらせようと画策。しかし鬼太郎の機転で目玉おやじが一番鶏を早く鳴かせると、朝に弱い妖怪たちは逃げて行き、命は奪わずにすむのだった。



原作

「おばけナイター」では、妖怪バットは鬼太郎の持ち物である。妖怪たちは目玉おやじの鳴かせた一番鶏ではなく、朝日とともに逃げていく。

演出●山口康男　**脚本**●辻真先　**作画監督**●我妻宏

【第002話】

夜叉

1968年1月10日放映

STORY

魂を奪う、危険なギターの音色

山寺で子どもたちが意識喪失で発見され、病院に運ばれる。子どもたちは魂を抜き取られていた。捜査を始めた鬼太郎が山寺へ行ってみると、ギターを弾く男・野呂と遭遇する。彼は魂を喰らって生きる妖怪・夜叉に操られ、ギターの音色で子どもたちをおびき寄せているという。野呂の家で夜叉が現れるのを待つ鬼太郎。しかし、野呂自身が夜叉だったため、不意をつかれ魂を奪われてしまう。そして野呂は鬼太郎を火葬しようと棺を持って家を出るが、その隙に目玉おやじは鬼太郎の魂を取り返し、鬼太郎を復活させることに成功。鬼太郎は妖怪ランプで夜叉を燃やし、子どもたちの魂を取り戻した。



原作

「夜叉」では、目玉おやじは、鬼太郎の左目から登場。鬼太郎の魂を取り返そうとしているところを夜叉に見つかり、食べられてしまう。

演出●黒田昌郎　**脚本**●高久進　**作画監督**●細田暉雄

【第003話】

妖怪城

1968年1月17日放映

STORY

100年の眠りから覚めた妖怪たちが暴れ出す！

ねずみ男によって封印を解かれた、たんたん坊・かまいたち・大口女の３匹の妖怪に、月にひとりずつ子どもの生け贄を差し出すように脅された村長は、途方に暮れていた。そこに鬼太郎がとおりかかり、妖怪退治を買って出る。そして長老の孫娘・とみ子をおとりにし、妖怪の出現を待っていると、妖怪たちの手先となったねずみ男がたんたん坊とともに現れる。だが鬼太郎がたんたん坊と闘っている間にとみ子がさらわれてしまい、鬼太郎は妖怪たちが住む妖怪城に、とみ子を助けに行く。ところが手強い３妖怪に苦戦し、鬼太郎はちゃんちゃんこを奪われたうえ、のしいかにされてしまう。



原作

「妖怪城」では、鬼太郎がのしいかになったまま復活する前に、ちゃんちゃんこを操り、ねずみ男に妖怪城を封印させることに成功している。

演出●白根徳重　**脚本**●岩井基成　**作画監督**●落合道正

【第004話】

吸血鬼　ラ・セーヌ

1968年1月24日放映

STORY

吸血鬼が鬼太郎の下駄に右往左往

鬼太郎を倒すため、吸血鬼・ラ・セーヌがパリからやって来た。鬼太郎を墓場で待ち伏せし、ラ・セーヌの手下のザ・マンモスが機関銃を乱射する。手応えを感じ、鬼太郎を殺した、と満足げな２人。しかしその夜、ラ・セーヌが宿泊するホテルに鬼太郎の下駄が現れ、暴れ始める。うっとうしく思ったラ・セーヌたちは、下駄から逃れるために山奥の別荘へ。しかしそこにも下駄が追いかけてくる。彼らは下駄を焼き払おうとするが、そのうちに別荘全体に火が回り、ラ・セーヌたちは焼死してしまった。じつは、鬼太郎は墓場で撃たれた時に下駄だけ残してその場を離れ、下駄を操っていたのだった。



原作

別作品で「吸血鬼ラ・セーヌ」もあるが、ストーリーは「手」がモチーフ。切り離された鬼太郎の手が遠隔操作で動き、２人を倒す。

演出●高見義雄　**脚本**●雪室俊一　**作画監督**●高橋信也

【第005話】

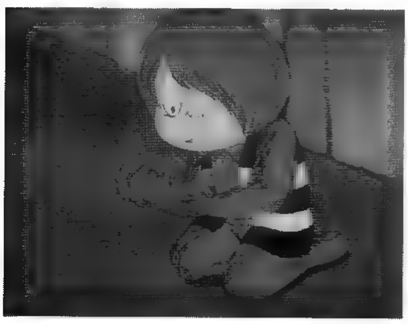
大海獣(前編)

1968年1月31日放映

STORY

鬼太郎危うし!?　怪獣にされる

ニューギニアに住むクジラの祖先・大海獣の探検隊に参加することになった鬼太郎。現地で鬼太郎と若き学者・山田が水を汲みに行っている間に、探検隊のキャンプが大海獣に襲われる。瀕死の探検隊参加者・上島博士は採取した大海獣の血を鬼太郎に託す。ところが山田はその手柄を自分のものにしようと、開発した妖怪封じの粉・サラマンドラを鬼太郎にかけ、大海獣の血を奪ってしまう。しかし山田が船で帰国しようとすると、生き延びた鬼太郎が現れ、山田に襲い掛かってきた。山田はサラマンドラの粉で死ななかった鬼太郎に“大海獣の血”を注射。鬼太郎は大海獣になり、海に落ちてしまう。



原作

105ページの長編「大海獣」では、鬼太郎はもともと山田青年一家の隠れた恩人だった。それ以外のストーリーは、ほぼ忠実に再現されている。

演出●設楽博　**脚本**●辻真先　**作画監督**●田島実

【第006話】

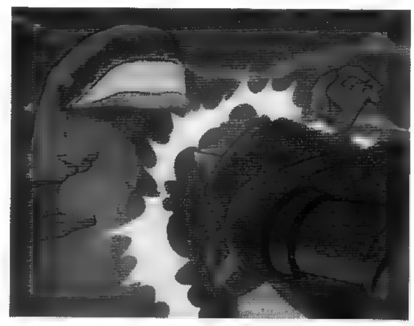
大海獣(後編)

1968年2月7日放映

STORY

変わり果てた姿でも、親子の愛は通じるのか!?

大海獣の姿になった鬼太郎は、目玉おやじに会いたい一心で東京に上陸する。みずからの悪事がばれることを恐れた山田は、科学省の大臣に大海獣を倒すよう進言。一方、目玉おやじは大海獣が鬼太郎だということに気づかず、ショックを受けた鬼太郎は街を徘徊する。山田は大海獣を倒すため、鋼鉄のロボットを作りみずから搭乗する。激しく戦う大海獣とロボット。政府は原爆をも使い鬼太郎を攻撃。鬼太郎は山田を原爆からかばい、傷ついてしまう。山田は、大海獣が鬼太郎であると気づいた自分の妹の説得もあり、鬼太郎の体を元に戻す薬を作りだす。そして鬼太郎は無事、目玉おやじと再会を果たす。



原作

アニメでは目玉おやじが涙を流して鬼太郎の身を案じているが、原作「大海獣」では心配をしている様子はなく、ほぼ冷静に過ごしている。

演出●設楽博　**脚本**●辻真先　**作画監督**●田島実

【第007話】

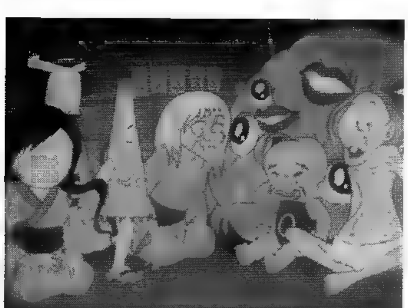
ゆうれい電車

1968年2月14日放映

STORY

妖怪の恐ろしさを人間が思い知る瞬間！

近頃マンガや映画などにしか妖怪が現れないことを嘆くねずみ男。そこで鬼太郎は「妖怪に会わせてあげる」とお化け屋敷に連れて行く。そこには妖怪・小豆洗いがいた。小豆が凶作なため、お化け屋敷でバイトをしているという。そこでねずみ男は、本物の妖怪を使ったスリラーショーを始め、それが大繁盛。しかし心ない２人組の客が調子に乗り、妖怪たちをいじめだした。そこで鬼太郎は、２人を妖怪ばかりが乗った電車に誘い込む。不気味な車内に耐え切れなくなった２人は、電車から飛び降りた。気がつくと原っぱにおり、鬼太郎たちを本物の妖怪だったのだと気づき恐れおののいたのだった。



原作

「ゆうれい電車」では“スリラーショー”のくだりはない。鬼太郎たちが妖怪を信じていない人間を懲らしめ、妖怪の存在を認識させる話。

演出●村山鎮雄　**脚本**●鈴樹三千夫　**作画監督**●羽根章悦

【第008話】

鏡爺

1968年2月21日放映

STORY

鏡に巣くい“姿”を奪う妖怪が登場

骨董店で妖気を発する鏡を見つけた鬼太郎。翌日店に行くと、鏡はすでに売れていた。購入者を訪ねると、その家の娘・カオリが行方不明になっており、鬼太郎は誘拐犯と間違われ捕まってしまう。しかしその後、自分が有名な“ゲゲゲの鬼太郎”だと信じてもらえ、逆に警察に協力を求められた。そしてその鏡をカオリの家から買い取った老人がいると聞き、手がかりを追って山に入った鬼太郎は、不審な気配を感じる。それは鏡の中に住む妖怪・鏡爺に姿を奪われたカオリだった。カオリを助けるため鬼太郎は鏡爺と対決。一度は姿を奪われたが、鏡を割って全員元の姿に戻すことができた。



原作

「鏡爺」では、鬼太郎が山奥の民家に泊めてもらおうと入り、鏡爺に姿を取られた少女に助けを求められる。ねずみ男は登場しない。

演出●明比正行　**脚本**●安藤豊弘　**作画監督**●古沢日出夫

【第009話】

見上げ入道

1968年2月28日放映

STORY

鬼太郎が妖怪学校に入学!?

妖怪の存在を信じない少年・忠助は、度胸試しに“入らずの森”の洞窟に入ったために、妖怪にさらわれてしまう。救出に向かった鬼太郎が着いた先には、いたずらな人間や動物を無理やり妖怪にしてしまう「妖怪学校」があった。そこの教師の見上げ入道に捕まり、無理やり入学させられた鬼太郎。そこには忠助の姿もあった。忠助を救いたい鬼太郎は、体の大きさは自由自在だという見上げ入道に「試しに小さくなってみろ」とそそのかす。そしてその隙に逃げようとするが捕まり、霊界送りの術で霊界に飛ばされてしまう。しかし鬼太郎はちゃんちゃんこのおかげで無事生きて戻り、見上げ入道と再び対決する。



原作

「見上げ入道」をほぼ忠実に再現。原作ではちゃんちゃんこで喉を詰まらされたとき、見上げ入道の詰まった息が、大きな目を吹っ飛ばした。

演出●白根徳重　**脚本**●雪室俊一　**作画監督**●落合道正

【第010話】

妖怪大戦争(前編)

1968年3月6日放映

STORY

外国の妖怪の総攻撃に大苦戦！

ロンドンで、妖怪たちのパーティー会場となっていた城が壊された。それに怒った妖怪たちは、妖怪の国を作ろうと決断。日本の鬼界ヵ島に、その前線基地を作ろうと攻め入ってくる。島民・キチの訴えを聞いた鬼太郎は、一反もめんや砂かけ婆など日本の妖怪を集め、島に向かう。しかし一反もめんを魔女に倒され、ねずみ男をさらわれ、さらにワナにはめられた鬼太郎はちゃんちゃんこを奪われる。一方残りの日本の妖怪たちは、西洋妖怪の襲撃を受け、大苦戦。さらに島民が避難している洞窟に辿り着いた鬼太郎は、そこに現れた西洋妖怪を追い返すために妖気を使い切り、倒れてしまう。



原作

「妖怪大戦争」でも鬼太郎はちゃんちゃんこを取られて霊力を使い果たす。ただし、原作では毛針を飛ばしすぎて、毛を3本残して気絶する形。

演出●茂野一清　**脚本**●雪室俊一　**作画監督**●生頼昭憲

【第011話】

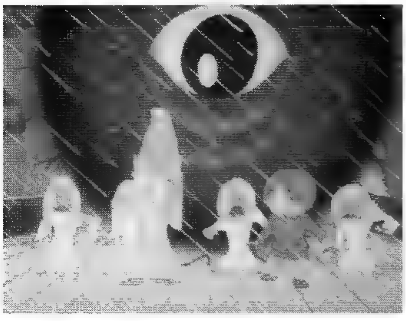
妖怪大戦争(後編)

1968年3月13日放映

STORY

多数の犠牲のうえに、西洋妖怪を撃破！

西洋妖怪の首領・バックベアードは、日本侵略のために鬼太郎を催眠術で味方につけようと画策。一方鬼太郎は、消息が途絶えた砂かけ婆、子泣き爺たちの様子を探りに出る。そして西洋妖怪に倒された仲間たちを発見。悲しみに暮れるなか、そこに訪れたバックベアードの催眠術にかかり、鬼太郎は手下となってしまう。ところが島に来る船を奪おうとしたバックベアードは、灯台の明かりに目をつぶされ、鬼太郎の催眠術を解いてしまう。正気に戻った鬼太郎は、目玉おやじが守ってくれたちゃんちゃんこを取り戻してバックベアードらを倒すが、多くの仲間を失い悲しみにくれるのだった。



原作

「妖怪大戦争」では、島を占領していた妖怪たちは、ある一定の気象条件（ブリガドーン現象）によって、存在していたことになっている。

演出●茂野一清　**脚本**●雪室俊一　**作画監督**●生頼昭憲

【第012話】

妖怪ぬらりひょん

1968年3月20日放映

STORY

人間に溶け込み悪事を働く妖怪が鬼太郎に挑む

悪事を重ねる妖怪・ぬらりひょんは、鬼太郎を殺すためにワル仲間の蛇骨婆と手を組む。ぬらりひょんが犯人の新幹線連続爆破事件の捜査をしていた鬼太郎は、ぬらりひょんから呼び出され、だまされてコンクリートで生き埋めにされてしまう。鬼太郎を殺したと思い、喜ぶぬらりひょん。しかしその日以来、鬼太郎の妖術「鬼太郎憑き」で、死んだはずの鬼太郎に手を操られる。鬼太郎が生きていると判断した2人は、復活した鬼太郎を好物の甘酒で釣ってだまし、つぼの中に封じ込めようとする。しかし鬼太郎は逆に2人をだまし、「先祖流しの術」で二度と戻れぬ古代の世界に送り込んだ。



原作

「ぬらりひょん」では、蛇骨婆が鬼太郎憑きを払うと、鬼太郎の手が姿を現す。その手が遠隔操作され、埋まっている自分を助け出す。

演出●西沢信孝　**脚本**●安藤豊弘　**作画監督**●高橋信也

【第013話】

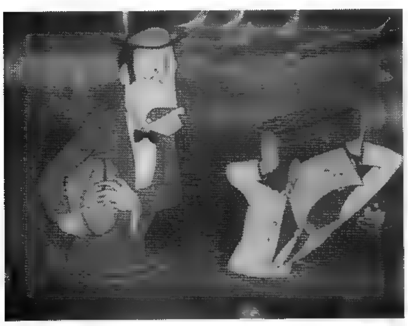
地獄流し

1968年3月27日放映

STORY

救いようのない犯罪者には特製の地獄を！

２人組の銀行強盗が逃亡を続け、鬼太郎の家に着く。強盗たちは鬼太郎がいない間に小屋に入り込み、居座ってしまう。そこで鬼太郎は、地獄行きの切符を風に乗せて飛ばし、強盗たちに渡す。どこまでも逃げ切りたいと考える兄貴分１人だけが地獄行きのバスに乗る。そして弟分は鬼太郎に出くわし、仕方なく鬼太郎をドライブに誘い出すが、車を走らせているとなぜか“地獄”に着いてしまう。２人の強盗は地獄で再会するが、鬼太郎の姿はすでにない。切符も片道切符で、元の世界には帰れない。怯える２人の様子を、霊界テレビで見ていた鬼太郎は、明日にでも警察に引き渡そうと思うのだった。



原作

「地獄流し」をアニメでほぼ忠実に再現。ただし原作ではアニメとは異なり、２人を地獄から元の世界に戻す気はないように描かれている。

演出●久岡敬史　**脚本**●鈴樹三千夫　**作画監督**●我妻宏

【第014話】

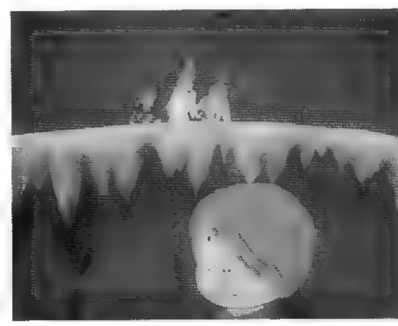
水虎

1968年4月7日放映

STORY

あらゆる物の水分を吸い取る虎が復活

百合子は父母のお墓参りの際、どこからか起こるうめき声を聞く。百合子は声に誘われて林の中へ進み、そこにあった液体入りのつぼを開けて、妖怪・水虎を逃がしてしまった。百合子はそれを知らせに村に行くが、誰も信じてくれない。助けられたことを恩に感じる水虎は娘をかばうため、村の子どもたちの体から水分を抜き取ってしまう。そのうわさが広がり、百合子が水虎を操っていると思い込んだ村人は百合子を迫害する。すると百合子を助けるため、水虎が村の人々の水分を吸い取りはじめた。暴れる水虎を退治するため、鬼太郎は自分の体の中に水虎を取り込んで雪山で凍らせる。



原作

「水虎」では復活した雄の水虎が、雌の水虎を復活させようとするのを鬼太郎が阻止。外見も虎ではなく水蒸気で、人の形に変形もする。

演出●村山鎮雄　**脚本**●高久進　**作画監督**●古沢日出夫

【第015話】

吸血鬼エリート（前編）

1968年4月14日放映

STORY

えり好みの“吸血プラン”、始動

ある会議室で、花菱コンチェルンの会長がコウモリの大群に襲われた。さらに吸血鬼からの脅迫状が会長のもとに届き、怯えた会長は鬼太郎に警護を依頼する。一方、ねずみ男は大金に釣られ、ギターで人を操る吸血鬼エリートの秘書に採用されていた。エリートは有名人の血を吸う“吸血プラン”を計画。会長の血を吸おうと考えていたため、ねずみ男はまずは鬼太郎を倒すべきだと進言する。そこでエリートは鬼太郎を催眠術にかけて捕らえ、薬を注射して体を溶かしてしまう。ひと足遅れて助けに来た目玉おやじは、鬼太郎の液体をつぼに集める。やがて、そこに残った鬼太郎の下駄が動き出した。



原作

「吸血鬼エリート」が原作。注射液で溶かされてしまうが死ぬことはなく、しゃれこうべだけで動き回り、寝ているエリートに攻撃を仕掛ける。

演出●黒田昌郎　**脚本**●鈴樹三千夫　**作画監督**●高橋信也

【第016話】

吸血鬼エリート（後編）

1968年4月21日放映

STORY

体を溶かされた鬼太郎の驚きの戦術

何をしていても鬼太郎の下駄が近くで暴れまわるため、気味悪がるエリート。そのころ溶けた鬼太郎が入ったつぼは、恐山の妖怪病院に持ち込まれていた。一方エリートと仲違いしたねずみ男は、深い「砂地獄」へ突き落とされる。ところがエリートもまた、目玉おやじによって突き落とされてしまう。目玉おやじは縄梯子を下ろし、エリートを残してねずみ男だけを救出した。しかしエリートは「ギターとともに死にたい」とねずみ男に懇願してギターを手に入れ、コウモリを呼び出して脱出に成功する。そこに妖怪病院で復活した鬼太郎が登場。エリートと鬼太郎の、最後の戦いが始まった。



原作

「吸血鬼エリート」と「手」の要素をドッキング。原作ではねずみ男と目玉おやじでエリートを家ごと焼き殺し、その後鬼太郎を元の姿に戻す。

演出●黒田昌郎　**脚本**●鈴樹三千夫　**作画監督**●高橋信也

【第017話】

猫仙人

1968年4月28日放映

STORY

魂をネコに宿らせる仙人、鬼太郎毒殺を謀る

ねずみ男は、ネコの墓場・猫塚を壊そうとしてネコに襲われる。鬼太郎が現場に向かうと、人間がネコに支配されている村があった。鬼太郎は猫塚の洞窟に入り、猫仙人と遭遇。猫仙人は自分の魂をネコに宿らせ、体は冷凍保存することで1200年生きているという。鬼太郎と猫仙人との闘いは、鬼太郎の勝利に見えた。その時ねずみ男が現れ、猫仙人は死んで村から猫が消えたと報告してきた。しかしその夜、ねずみ男は毒入り酒を鬼太郎に飲ませようとする。猫仙人がねずみ男に乗り移り、鬼太郎の毒殺を謀ったのだ。鬼太郎は妖術で猫仙人の魂を岩に移して封じ、井戸に投げ入れて葬る。



原作

「猫仙人」が原作。アニメでは猫仙人がねずみ男に乗り移るが、原作では村の少年に猫仙人が乗り移り、鬼太郎を毒殺しようとする。

演出●山口康男　**脚本**●雪室俊一　**作画監督**●我妻宏

【第018話】

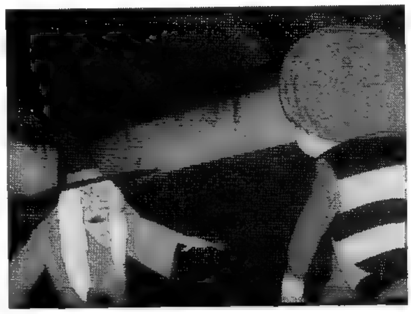
魔女人形

1968年5月5日放映

STORY

魔女の陰謀を阻止せよ！

鬼太郎とねずみ男が旅の途中で立ち寄った旅館の娘・尚子は、魔女が空を飛ぶ姿に憧れて魔女に弟子入りしてしまう。魔女に魂を渡した尚子は、ほかの少女を魔女にするために誘い出した。悲鳴を聞いた鬼太郎は少女たちを発見。救出し、尚子を捕まえる。ところが尚子は隙をみて逃走。追いかけた鬼太郎は魔女の家にたどり着き、魔女と対決する。妖力で魔女を縛り付け、尚子の魂を取り戻した鬼太郎。そして魔王の命令で動いていた魔女を逃がし、魔王に対して「来るなら来い」と伝言させる。失態を演じた魔女は魔力を失い、祭りでワラ人形を売る普通の老婆になってしまった。



原作

基本的な話の流れは「魔女人形」に同じ。原作はマンガというより絵物語に近い構成の、いわば「特別編」である。

演出●村山鎭雄　**脚本**●安藤豊弘　**作画監督**●落合道正

【第019話】

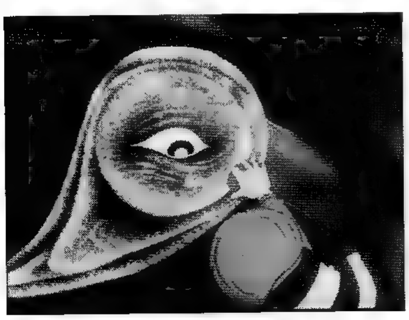
吸血木

1968年5月12日放映

STORY

人間が木になる奇病が流行、鬼太郎も木に！

奥山村で、人間が木になる奇病が流行していた。鬼太郎たちは現地を訪ね、妹が木になってしまった少年・光一に会う。そこで目玉おやじは話を聞き、吸血木の種をばらまいている妖怪・のびあがりを発見する。その夜、鬼太郎はのびあがりに種を植えつけられてしまう。のびあがりは人間を木にすることで地上を妖怪の世界にしようと考え、じゃまな鬼太郎を先に封じようとしたのだ。鬼太郎の体からは翌朝には芽が出て、のびあがりを追っているうちに木になってしまった。やむなく村長たちが鬼太郎の木を切ろうとすると、木の実から鬼太郎が復活。鬼太郎とのびあがりの最後の激戦が始まった。



原作

のびあがりが登場するなど、「吸血木」と大部分は同じだが、原作では木になった鬼太郎を村人が倒そうとするシーンなどは登場しない。

演出●白根徳重　**脚本**●辻真先　**作画監督**●落合道正

【第020話】

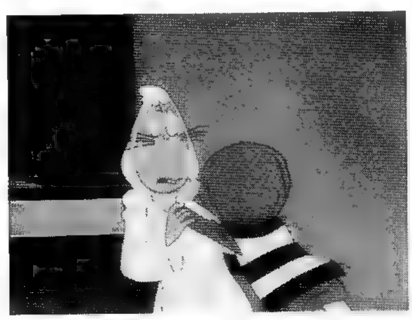
猫娘とねずみ男

1968年5月19日放映

STORY

「ねずみ男を殺せ」の指令が鬼太郎に下る

人間の体の中には、その人の悪事を閻魔大王に告げる「三虫」という虫がいる。閻魔大王は三虫の報告を受け、その人を殺す命令を書いた「赤紙」を妖怪に渡して殺させるという。半妖怪であるねずみ男の三虫の報告を受けた閻魔大王は、赤紙を鬼太郎に送る。しかし殺せない鬼太郎は、せめてねずみ男の悪事を止めようと、ネコ娘に頼んでねずみ男を襲わせた。ねずみ男は観念し、悪事はしないと約束。しかし閻魔大王の命令に逆らったため、目玉おやじが人質に取られてしまう。困った鬼太郎は、三虫がその人間の栄養で生きていると知り、ねずみ男に断食させる。三虫を殺して報告を途絶えさせ、ねずみ男が死んだと思わせようとしたのだ。



原作

原作「猫娘とねずみ男」では赤紙という設定はない。閻魔大王はねずみ男の退治を求めるのみにとどまり、殺すことまでは要求しない。

演出●高見義雄　**脚本**●雪室俊一　**作画監督**●古沢日出夫

【第021話】

妖怪獣(前編)

1968年5月26日放映

STORY

タヌキの集団が日本を征服しようと大暴れ！

四国の狸山が爆破され、封じられていた妖怪タヌキの集団・八百八狸が復活。彼らは日本を乗っ取ろうと巨大な「第二の月」を呼び出して、その妖力を見せつける。鬼太郎はその月に追いかけられて逃げまわっていたが、タヌキの群れに遭遇。政府代表とともにタヌキに捕まってしまう。そこで鬼太郎たちは政権をタヌキに渡す約束をして時間を稼ぎ、隙をみてタヌキたちを封印。しかし約束を破った鬼太郎は、刑部狸の呪いでタヌキになってしまった。鬼太郎を元に戻すため、目玉おやじとねずみ男は封印を再び解く。タヌキたちは約束を破った人間たちに報復すべく、第二の月から妖怪獣を誕生させた。



原作

全126ページの長編「妖怪獣」の前半を、ほぼ忠実に再現。ただし八百八狸にさらわれた政府の人間は、科学庁長官ではなく総理大臣だった。

演出●明比正行　**脚本**●高久進　**作画監督**●細田暉雄

【第022話】

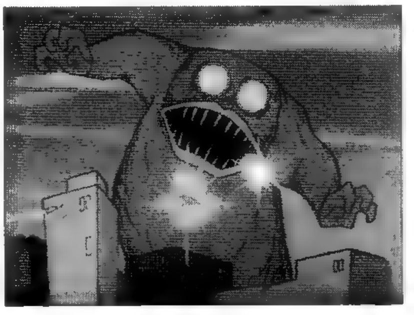
妖怪獣(後編)

1968年6月2日放映

STORY

妖怪獣や巨大ナマズとの死闘！

妖怪獣は、その強大な力で東京を破壊。政府は苦肉の策として、政権をタヌキたちに譲ると決定。その間に鬼太郎は妖怪獣を攻撃するが返り討ちに遭い、彼らが飼っている巨大ナマズのエサにされる。その後、なんとか大ナマズからは逃亡するが、再度妖怪獣に遭遇。鬼太郎は何でも溶かす胃液で、妖怪獣を自分の体と一緒に溶かしてしまう。そこから再生粉末で復活した鬼太郎は、今度は暴れまわる大ナマズを倒すため体に入り込み、北極へと導く。その間にねずみ男と目玉おやじは狸を封じるため、四国へと飛んだ。鬼太郎は大ナマズを氷漬けにすることに成功し、日本の危機は回避されたのだった。



原作

「妖怪獣」では、アニメよりも大ナマズとの死闘が激しい。髪が抜け、目をつぶされた鬼太郎の左目に、目玉おやじが入る場面などもある。

演出●明比正行　**脚本**●高久進　**作画監督**●細田暉雄

【第023話】

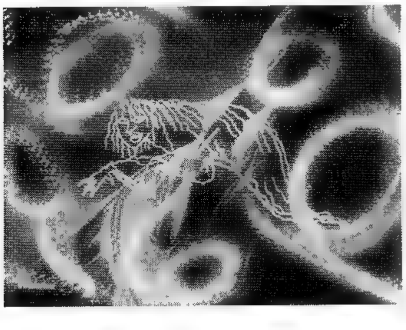
峠の妖怪

1968年6月9日放映

STORY

人間の体を冷やす妖怪・ぶるぶるが復活！

車の事故が多発する峠があり、妖怪の仕業と考えた源爺さんは鬼太郎に手紙を出す。バイクで落下した人に話を聞くと、突然体が寒くなり操縦不能に陥ったという。その後、源爺さんが体を冷やす妖怪・ぶるぶるを封印していた絵を焼いてしまい、封印を解いてしまったことが判明。鬼太郎は峠へ行き、ぶるぶると対決する。そしてぶるぶるを髪の毛針で木に貼り付けた鬼太郎は、目玉おやじに封印してもらうためにその場を離れる。そこにねずみ男が現れ、ぶるぶるをかすみの干物と勘違いして食べてしまう。鬼太郎は凍ってしまったねずみ男を湯に入れてぶるぶるを追い出し、再び退治した。



原作

「峠の妖怪」では目玉おやじは登場しない。そのため鬼太郎がみずからぶるぶるの正体をつかむべく、妖怪大辞典を調べに行こうとする。

演出●白根徳重　**脚本**●辻真先　**作画監督**●落合道正

【第024話】

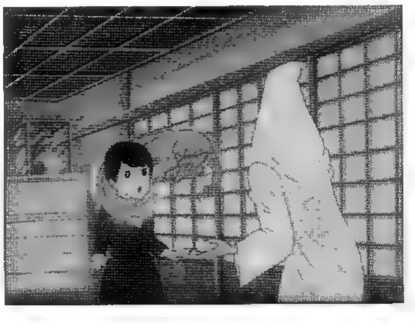
白山坊

1968年6月16日放映

STORY

鬼太郎、“蛾の恩返し”に助けられる

自殺寸前に古狐の妖怪・白山坊に助けられた正吉は、娘の花子が16歳になったら、白山坊の嫁に出す約束をして金持ちになった。だが娘を妖怪の嫁になど出したくない正吉は、砂かけ婆に相談。そしてアドバイスに従って、娘と同じ生年月日の少女を殺そうとした。それを知った鬼太郎は正吉を止め、連れ去られてしまった花子を取り返しに向かう。その道中で内臓を食いつぶす蛾・鬼蛾を発見。ねずみ男は踏み潰そうとするが、鬼太郎はそれを止める。その後、敵地に乗り込み、岩に変化した白山坊につぶされる鬼太郎。だが、白山坊は鬼太郎が助けた鬼蛾に卵を生みつけられ、死んでしまうのだった。



原作

蛾の卵を生みつけられ白山坊が死ぬところは「白山坊」に同じだが、蛾の卵を生みつけるのはひめばち。「恩返し」という設定はない。

演出●久岡敬史　**脚本**●雪室俊一　**作画監督**●古沢日出夫

【第025話】

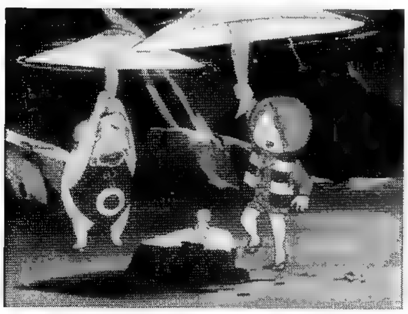
電気妖怪

1968年6月23日放映

STORY

“カミナリ様”も妖怪だった!?

１年も日照りが続き、困っていた三角山の農民が、鬼太郎に雨を降らせてくれるように頼みに来る。そのころねずみ男は三角山で、雨を降らせる約束をして農民から金をだまし取っていた。そして科学者を巻き込み、人工降雨の実験をその村でさせていた。じつはその実験が、天気を司る電気妖怪の怒りを買っていたのだ。実験のため雨雲の中に入ったヘリコプターが墜落し、乗っていた人たちが姿を消す。空の上に向かった鬼太郎と子泣き爺は電気妖怪を発見。鬼太郎は敵から送り込まれた電気を吸い取り、逆に妖怪に返して倒した。すると日照りが続いた村に雨が降るようになり、飢饉は解消された。



原作

「電気妖怪」をほぼ忠実に再現。ただしねずみ男は絡まず、原作の戦いのほうが、ひと晩以上続く長時間の戦いとして描かれている。

演出●高見義雄　**脚本**●安藤豊弘　**作画監督**●細田暉雄

【第026話】

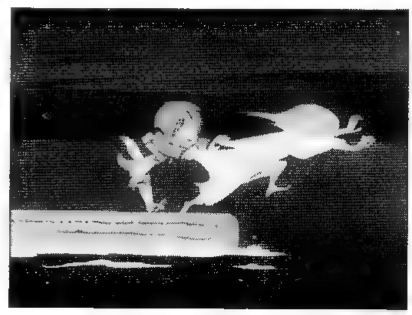
海座頭

1968年6月30日放映

STORY

海で起こる神隠しを鬼太郎はどう解決する？

賢一は、海の上で忽然と霧の中に消えてしまった妹・フミ子を助けてもらおうと、鬼太郎に依頼する。しかし鬼太郎はそのころノイローゼぎみでふせっていた。それでもお礼が欲しいねずみ男は、鬼太郎を無理やりイカダで事件現場付近の海に連れ出した。狙いどおり夜になると船幽霊が現れ、イカダを沈めようとする。話を聞くと彼らは事故に遭った元船乗りで、海座頭に魂を奪われてしまっているという。そこに海座頭が現れ、船幽霊たちを連れ帰ろうとする。鬼太郎は船幽霊の魂を解放し、海座頭の本拠地に乗り込んだ。そして体から電気を起こして海座頭を退治し、フミ子を救った。



原作

「海座頭」が原作。ねずみ男がノイローゼになった鬼太郎を励まし、旅行に誘い出す。その海で船幽霊に頼まれ、海座頭を倒すことになる。

演出●村山鎭雄　**脚本**●鈴樹三千夫　**作画監督**●生頼昭憲

【第027話】

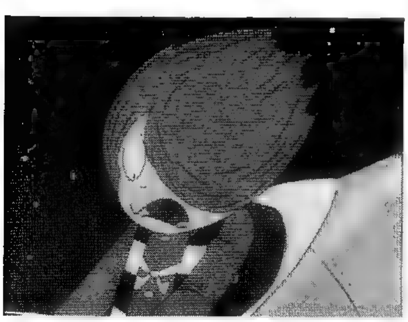
おどろおどろ

1968年7月7日放映

STORY

研究熱心な科学者の悲しい末路

鬼太郎の家に突然プラモデルの飛行機が届けられ、鬼太郎は喜んで組み立てる。ところが鬼太郎がそれに乗り込むと制御不能のまま勝手に飛んで行き、無人島に墜落してしまう。それはすでに30人もの子どもを誘拐していた、不思議なプラモデルだった。事件は妖怪の仕業であり、自分のじゃまをしそうな鬼太郎を無人島に追いやったのである。それを知った鬼太郎は、誘拐された子どもたちを追跡。その先には自分を実験台にして研究を行い、子どもの血を吸わなければ生きていけない妖怪・おどろおどろになってしまった科学者がいた。鬼太郎は子どもたちを救うべく、妖怪・おどろおどろと対決する。



原作

「おどろおどろ」でも、おどろおどろになった父を助けようと息子が鬼太郎を説得するが、鬼太郎は息子の言葉を聞かずに倒してしまう。

演出●白根徳重　**脚本**●鈴樹三千夫　**作画監督**●落合道正

【第028話】

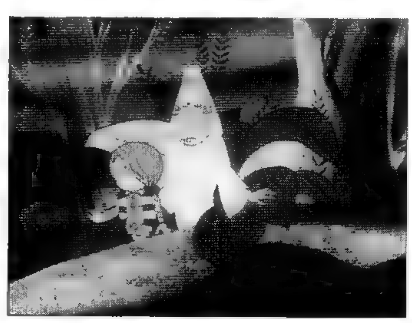
まくら返し

1968年7月14日放映

STORY

夢の世界に取り込まれた少年を救え！

妖怪・まくら返しは、少年・夢吉が夢の世界を荒らしたために怒っていた。夢吉は日中でも眠るようになり、心配した母親は鬼太郎に手紙を出す。鬼太郎が訪ねると、すでに夢吉は夢の世界に引きずり込まれて姿を消していた。鬼太郎は夢の世界へ入り、夢吉を連れ帰ろうとするが、そこにまくら返しが現れて、鬼太郎はその妖術で眠らされてしまう。そこで目玉おやじは、まくら返しの苦手なバクを柵から放ち襲撃。鬼太郎を起こして夢吉とともに逃げ出した。まくら返しの追撃を振り切って現実世界に戻った鬼太郎たちは、バクの檻に逃げ込むのだった。そして、バクはまくら返しを食べてしまう。



原作

「まくら返し」ではバクを連れて行くことはせず、ねずみ男が塩だけで倒す。また、鬼太郎がカメレオンのように舌を伸ばす技もみられる。

演出●村山鎭雄　**脚本**●辻真先　**作画監督**●鍋島嘉継

【第029話】

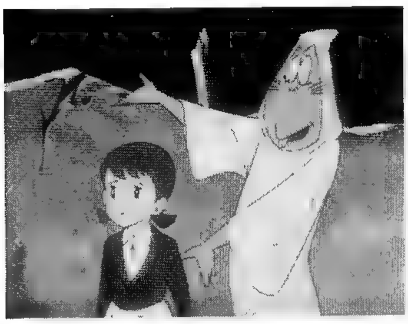
鏡合戦

1968年7月21日放映

STORY

鏡妖怪の親玉に、鬼太郎危機一髪！

銅鏡寺という寺が火事になり、封魔の鏡・照魔鏡が盗まれた。その話を聞いた目玉おやじは、照魔鏡が封じ込めていた妖怪・雲外鏡が復活するのではないかと心配する。そこにねずみ男が、鏡の中に閉じ込められた少女を助けてほしいとやってきた。鬼太郎は砂かけ婆たちと協力し、少女を救出。その鏡を壊そうとするが、逆に隙をつかれて鏡に封じ込められてしまう。じつはその少女こそ雲外鏡で、ねずみ男と共謀しての犯行だった。しかしねずみ男は最後に寝返り、妖怪たちは照魔鏡を見つけ出して鬼太郎を救出。鬼太郎は銅鏡から生まれた雲外鏡の弱点である塩水を使って、雲外鏡を倒す。



原作

「鏡合戦」では、「呼び出しの歌」の後で、砂かけ婆や子泣き爺、山小僧らは、雲外鏡の妖力を目の当たりにして戦わずして逃げてしまう。

演出●西沢信孝　脚本●雪室俊一　作画監督●生頼昭憲

【第030話】

悪魔ベリアル

1968年7月28日放映

STORY

悪魔に恐るべき魔力が復活！　激戦開始

カラス天狗に魔力を奪われた悪魔ベリアルは、露店で手品をしながら100年以上の日々を過ごしていた。魔力を取り戻したいベリアルは、偶然現れたねずみ男に、カラス天狗に奪われた金塊を取り戻したいと嘘をつく。それを聞いたねずみ男は、金塊を独り占めしようとカラス天狗を訪ねた。ベリアルはその後をつけて、まんまと封じられた魔力を取り戻し、カラス天狗に復讐。カラス天狗は鬼太郎に助けを求めた。鬼太郎がベリアルのいるという山へ行くと、ベリアルはその恐るべき魔力で大地震を起こす。鬼太郎が砂かけ婆の別荘に退避すると、ベリアルが異形の姿に変身して襲ってきた。



原作

「悪魔ベリアル」では、体の各部を100倍にして襲ってきたベリアルに対し、鬼太郎は木の葉に隠れて前に降り立ち、指鉄砲を使って倒す。

演出●村山鎮雄　脚本●鈴樹三千夫　作画監督●落合正宗

【第031話】

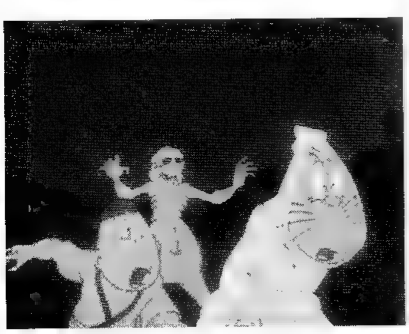
もうりょう

1968年8月4日放映

STORY

墓を守る少年が見た妖怪は一体!?

ある村では親族が死ぬと1ヵ月間、死体に乗り移る妖怪・魍魎が現れないよう、見張る風習があった。祖父を亡くした少年・玉吉が墓を見張っていると、数日前に死んだ村人・五郎のミイラに襲われる。話を聞いたねずみ男は、お礼目当てに魍魎退治を買って出て、鬼太郎に押し付けた。鬼太郎は大学病院に運ばれた五郎の遺体を追い、それを燃やすことで魍魎を退治する。それで事件が解決したかと思いきや、再び妖気を感じる鬼太郎。少年が墓場で魍魎と格闘した際に引きちぎった指に、魍魎が生き残っていたのだ。正体を表した魍魎だが、寄生先である指を焼かれるとなす術もなく消え去った。



原作

「モウリョウ」をほぼ忠実に再現。ただ原作では大学病院のシーンは出てこない。また、ねずみ男が珍しく妖怪退治料金を取ることに成功。

演出●永樹凡人　脚本●安藤豊弘　作画監督●我妻宏

【第032話】

妖花

1968年8月11日放映

STORY

亡き両親が娘を見守る思いが“妖花”となる

花子の家に舞い込んできた白い綿毛が鉢に落ちると、2～3日のうちにベランダ一杯にツルを張り、花を咲かせていた。そのうち部屋の中にも伸びてくるようになり、花子はこの花の正体を知るために鬼太郎に手紙を出す。しかし鬼太郎にも、その花の正体はつかめなかった。しかも花弁を飛ばすなどして攻撃してくるその花は、花子の言うことだけは聞くようなのだ。ただひとつ、南方に咲く花だという手がかりだけを頼りに、鬼太郎たちは貝の船で南方の島へ向かう。導かれるかのようにジャングルの奥地に向かった一行は、問題の花が咲く大木を発見。そのメッセージに耳を傾ける。



原作

「妖花」でも貝の船（ハマグリの船）に乗り込み、南方の島のジャングルに向かう。ただしジャングルに住む「南方の小鬼」は登場しない。

演出●山根憲重　脚本●辻真先　作画監督●[illegible]詔之

【第033話】

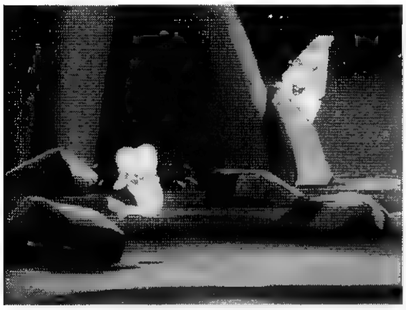
さざえ鬼

1968年8月18日放映

STORY

鬼太郎、さざえ鬼に食われて絶体絶命に

ねずみ男は釣りの帰りに、にせ鬼太郎（＝さざえ鬼）に会い、暴力を振るわれる。そして本物の鬼太郎が、暴行罪で逮捕されてしまう。鬼太郎は真相を探るため牢を脱出。捜査のために現場である海に行くと、さざえ鬼が待ち構えており、鬼太郎は食べられてしまった。やがて目玉おやじとねずみ男の前に現れた鬼太郎は、傍若無人の限りを尽くす。その正体はさざえ鬼だった。それに気がついた目玉おやじは「さざえを海岸で売ると儲かる」とそそのかして、さざえ鬼を炎天下に担ぎ出す。そして太陽の熱で腹の中の鬼太郎を気化させ、毛穴から蘇らせた。鬼太郎とさざえ鬼の、２度目の戦いが始まった。



原作

「さざえ鬼」ではさざえ鬼に生のビフテキのように食べられた鬼太郎は、復活と同時にさざえ鬼の本体（目玉のついた舌）を締め上げて倒す。

演出●古沢日出夫　脚本●雪室俊一　作画監督●菊池城二

【第034話】

さら小僧

1968年8月25日放映

STORY

河童・さら小僧の歌が一躍大ヒット！

無名のバンド、ザ・ビンボーズは、どこからか聞こえてくる音楽に聞きほれていた。そしてつい魔が差してその歌を盗作すると、一躍大人気に。ＴＶから流れるその歌が妖怪・さら小僧の歌だと気づいた鬼太郎は、歌うのを止めさせようとするが追い返されてしまう。その直後、ザ・ビンボーズはさら小僧に誘拐される。さら小僧は自分の歌が他人に歌われるのを、もっとも嫌うのだ。鬼太郎はさら小僧にザ・ビンボーズの行方を問い詰めるがはぐらかし続けられ、耐え切れずに攻撃。戦いのさなかに皿が乾き、おかしくなったさら小僧を追うと、隠れ里の牢に閉じこめられているザ・ビンボーズを発見した。



原作

「さら小僧」では、ピンチの鬼太郎を救うため、ねずみ男が自分のマントをさら小僧に投げつける。その臭さにさら小僧がおかしくなり、事件は解決へ。

演出●久岡敬史　脚本●辻真先　作画監督●細田暉雄

【第035話】

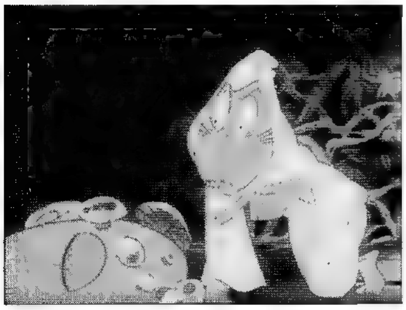
こま妖怪

1968年9月1日放映

STORY

あまめはぎとのこま対決で目玉おやじが大活躍

キノコ狩りをしていた子どもたちが、妖怪に足の皮をはぎ取られる事件が発生。鬼太郎は、犯人を捕まえるためワナを張る。そこにねずみ男が現れ、こま妖怪・あまめはぎの冬眠を起こしたことを打ち明けられる。すでに村ではあまめはぎが暴れており、鬼太郎はあまめはぎに「妖怪こま勝負」を挑まれた。対決では、こま代わりに回る目玉おやじが、あまめはぎのこまの回転を止めて勝利。諦めきれないあまめはぎは、ねずみ男に鬼太郎を呼び出させ、妖気消滅地帯の岩で押しつぶす。鬼太郎は隙をついて逃げ出し、ちゃんちゃんこで反撃。あまめはぎは、二度と人里に来ないと約束するのだった。



原作

「コマ妖怪」では、ねずみ男があまめはぎに火をつけてトドメをさそうとしたところを、鬼太郎がかばったため、あまめはぎは改心する。

演出●白根徳重　脚本●鈴樹三千夫　作画監督●落合道正

【第036話】

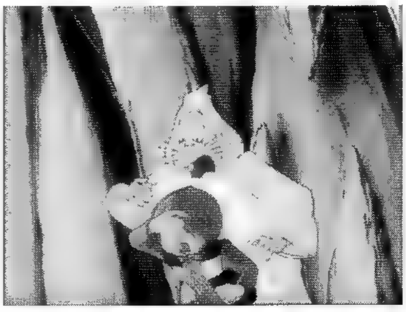
ダイヤモンド妖怪

1968年9月8日放映

STORY

輝く宝石に秘められたワナ

地獄山で鉱物を研究していた学者が、大きなダイヤモンドひとつを残し忽然と姿を消す。話を聞き、そのダイヤが怪しいと感じた鬼太郎は、それを買い取った宝石店に足を運ぶが、店員も姿を消していた。店員は地獄山にあるダイヤモンド妖怪・輪入道の住みかに誘い出されていたのだ。鬼太郎はねずみ男とともに現地へ。ダイヤに興奮している店員２人とねずみ男は、危険だから帰ろうという鬼太郎を殴りつけて気絶させる。そこに輪入道が現れ、３人を“炭素光線”でダイヤに変えてしまう。目覚めた鬼太郎は、輪入道の光線を鏡で反射して、輪入道自身をダイヤに変えて退治した。



原作

「ダイヤモンド妖怪」では、ダイヤモンドが採れる穴にねずみ男が鬼太郎を誘う。行方不明捜しの依頼を受けて動くアニメの設定とは異なる。

演出●明比正行　脚本●安藤豊弘　作画監督●我妻宏

【第037話】

手の目

1968年9月15日放映

STORY

勝手に手が動き出して悪事を働く!?

宙に浮かぶ巨大な目を見た少年は、自分の手が勝手に動くようになってしまう。その手は母親を打ちのめす、強盗するなど、悪事の限りを尽くすのだ。鬼太郎は少年を家に連れて帰り、砂かけ婆に相談すると、人の手を操る妖怪・手の目の仕業だという。そして鬼太郎は、少年が強盗したお金を取りに来た手の目と対決。しかし返り討ちに遭い、鬼太郎も手を操られてしまう。一旦退却し、改めて砂かけ婆の妖術で、手の目の住みかを暴き出す鬼太郎。再度の対決は、妖力の源である“手に付いた目”を髪の毛針で撃つことで、鬼太郎の勝ちが決まる。手の目は二度と妖力を使えなくなってしまった。



原作

「手の目」では、操られた手を包丁で切ったり、鬼太郎の左目に入り込んだ“手の目”の目を指で潰したりと、より豪快な戦いぶりをみせる。

演出●村山鎮雄　脚本●安藤豊弘　作画監督●落合道正

【第038話】

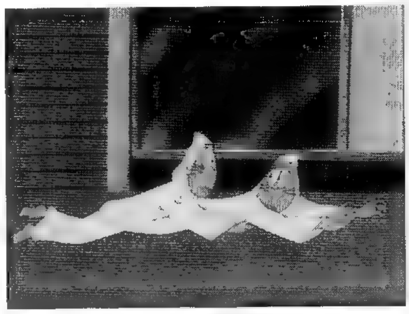
おりたたみ入道

1968年9月22日放映

STORY

にせねずみ男が登場して、鬼太郎を狙う

ねずみ男が子どもたちをダマしたと聞いた鬼太郎は、ねずみ男に詰め寄るが、どうやら本当に覚えがない様子。逆に「ついににせものが現れた、俺も有名になった」と喜ぶ始末だ。その直後に本当に姿をあらわしたにせねずみ男は、弟と名乗ってねずみ男に近付き、妖怪・折りたたみ入道を見せ物にして金もうけしたいと相談してくる。じゃまになりそうな鬼太郎を倒そうとする2人のねずみ男。折りたたみ入道に襲われた鬼太郎は、体に溜まった毒素で作った毒まんじゅうを食わせて撃退。その後、再度挑戦してきたにせねずみ男は、ねずみ男の弟ではなく、その正体がむじなであったことが暴かれた。



原作

「おりたたみ入道」は、ねずみ男が兄弟の情をみせて鬼太郎を陥れるくだりはなく、子どものお金をむじなに代わり立て替えるのみにとどまる。

演出●古沢日出夫　脚本●雪室俊一　作画監督●江藤文男

【第039話】

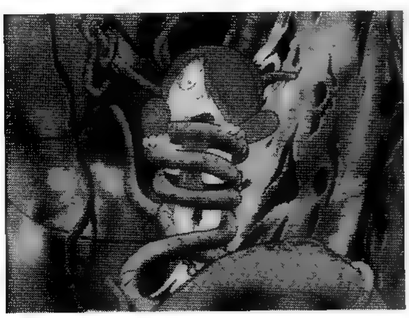
妖怪軍団

1968年9月29日放映

STORY

南方妖怪が来襲し、ねずみ男が日本代表に!?

妖怪の地位向上のため、妖怪・アカマタとやし落としら妖怪軍団が南方から来日。2人はねずみ男をそそのかし、じゃまになる鬼太郎を誘いだす。アカマタは鬼太郎を粘液で攻撃。鬼太郎は砂かけ婆の砂を粘液と混ぜ合わせて投げ返し、アカマタを石にして撃退した。ところがその石を運ぶねずみ男がやし落としの指示で石を割ると、アカマタが復活。ねずみ男の腹に寄生してしまう。アカマタはねずみ男を操り、まんまと鬼太郎をだまして生気を吸い取る。しかしその量が多すぎて、腹が爆発。溢れた生気が鬼太郎に戻り、鬼太郎は復活する。復讐にきたやし落としも、つるべ火に焼かれて退治された。



原作

「妖怪軍団」では、やし落としはアニメと違い口がきける設定。アカマタとも五分の付き合いであり、日本代表にねずみ男を推薦する。

演出●設楽博　脚本●鈴樹三千夫　作画監督●生頼昭憲

【 第40話 】

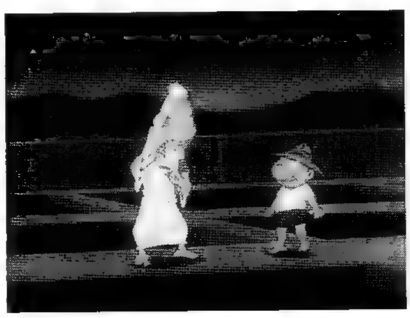
おべべ沼の妖怪

1968年10月6日放映

STORY

イタズラ妖怪がねずみ男と最強タッグ!?

鬼太郎はねずみ男が落とした悪銭を、小さなほこらの前で拾った。気が付いたねずみ男が戻ってくると、鬼太郎はほこらの中から神様のフリをして「一日一善を続ければお金を返してやる」と言う。さっそくねずみ男は、ある村で病床の母を養っているという少年の漁を手伝うが、だまされて散々な目に遭ってしまう。その少年はイタズラ好きの妖怪・かわうそだった。ねずみ男はかわうそと意気投合し、水路をせき止めてお金を要求するなど、度を越した悪事を働き始める。イタズラに過ぎないと放置していた鬼太郎も止めに入り、かわうその手に乗り移る“鬼太郎憑き”で、かわうそを降参させた。



原作

「オベベ沼の妖怪」では、カワウソはアニメほどの悪さはしない。ねずみ男と共謀して村人が頻繁にだまされるようになり、鬼太郎が乗り出す。

演出●白根徳重　脚本●鈴樹三千夫　作画監督●落合道正

【第041話】

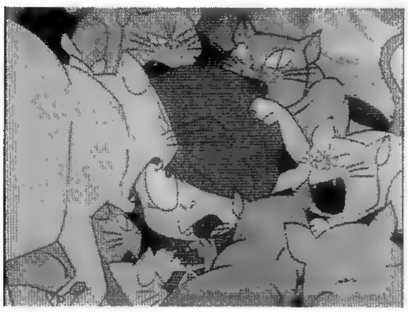
ばけ猫

1968年10月13日放映

STORY

化け猫の悲しい思いを鬼太郎が汲み取る

怪しいトラックにあおられての事故が多発。事故に遭ったドライバーは、ネコの真似をしてしまう奇病「ねこ打ち症」にかかってしまう。鬼太郎とねずみ男が、ねずみ男の持つ霊柩車で現場近辺を探っていると問題のトラックが現れ、鬼太郎たちもろとも霊界へと迷い込んでいく。鬼太郎はそのままトラックを追い続け、霊界の岩に到着。岩場の奥へ進み、化け猫と対峙する。トラックの正体は化け猫で、事故は車でひかれたネコたちが、ゴミ同然に扱われていることに対しての復讐だった。鬼太郎は化け猫と戦い勝利して、その臨終の言葉どおり、ネコの慰霊塔を建ててその霊を鎮めた。



原作

「ばけ猫」では大きい化け猫は登場せずに、化け猫たちが集団で襲ってくる。それをマタタビでやりすごし、そこから退散してから慰霊碑を建てる。

演出●茂野一清　**脚本**●鈴樹三千夫　**作画監督**●江藤文男

【第042話】

人食い島

1968年10月20日放映

STORY

恐怖！　人間を食う島をどう退治する？

毎月２人の生け贄を海神様に差し出している漁村で暮らす三郎は、自分と母親にその順番が迫ったため、助かりたい一心で鬼太郎に手紙を出す。その手紙を先に読んだねずみ男は、村を救う仙人という触れ込みでその村から大金をせしめる。さらに追ってきた鬼太郎を自分の弟子と偽り、連れ立って生け贄を差し出す人食い島へ向かった。ところが生け贄の代わりにマネキンを差し出すねずみ男の作戦は海神の怒りを買い、津波を起こされてしまう。事態を収めるべく、鬼太郎は村長とともに再び人食い島へ。何でも溶かす自分の胃液をスプレーにして撒き、島を崩壊させることに成功した。



原作

「人食い島」が原作。ねずみ男が先に手紙を読み、汽車賃がなく徒歩で来るという鬼太郎を置いて村に到着。村人から100万円をだまし取る。

演出●明比正行　**脚本**●雪室俊一　**作画監督**●我妻宏

【第043話】

ひでりがみ

1968年10月27日放映

STORY

強敵・ひでり神には野づちで対抗！

雑誌に「妖怪にマンガを描かせる」企画を持ち込んだねずみ男は、妖怪漫画家のふりをしたひでり神の家に編集部員を送り込む。それはねずみ男とひでり神が共謀した、身代金目的の誘拐だった。事情を聞いた鬼太郎は、ニセの札束を持って受け渡し場所へ行き、現れたひでり神と対決する。火山のマグマを吸って強大化したひでり神にてこずった鬼太郎は、そこに封印されていた何でも吸い込む妖怪・野づちを解放し、ひでり神を吸い込ませる。そして野づちに生気を吸われて弱ったひでり神から、誘拐した２人の居場所を聞き出し助けることに成功。最後に野づちを眠り草で眠らせて、再び封印した。



原作

「ひでり神」では、ひでり神が暴れまわりたいと主張することはなく、気象条件が整い現れただけ。マンガ編集者を誘拐する点などは同じ。

演出●山口康男　**脚本**●安藤豊弘　**作画監督**●生頼昭憲

【第044話】

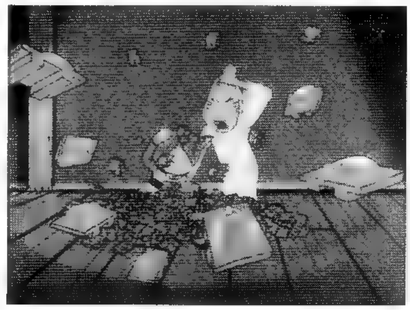
げた合戦

1968年11月3日放映

STORY

下駄を倒すには、下駄しかない!?

妖怪・丸毛が化けたかわいい貯金箱が、子どもたちの間で大人気に。しかしその貯金箱は開けようとしても開かず、夜中に勝手にどこかに行く始末。相談を受けた鬼太郎は、たまたま逃亡中の丸毛を発見する。これ幸いと尋問していると、鬼太郎の下駄が勝手に動き出し、ある山寺に連れて行かれてしまう。鬼太郎の下駄はすり替えられていたのだ。その下駄に操られ２日間踊らされた挙げ句、黒幕の妖怪・逆柱から仲間になれと命令される鬼太郎。「本物の僕の下駄さえあれば」と鬼太郎が思った矢先に、ねずみ男によって偶然、鬼太郎の下駄の封印が解かれる。鬼太郎は自分の下駄で反撃を開始した。



原作

「げた合戦」が原作。逆柱が怪しまれないよう下駄になっている。目玉おやじが本物を取り返して倒す。鼻毛ミサイルという変わった技も披露。

演出●白根徳重　**脚本**●雪室俊一　**作画監督**●落合道正

【第045話】

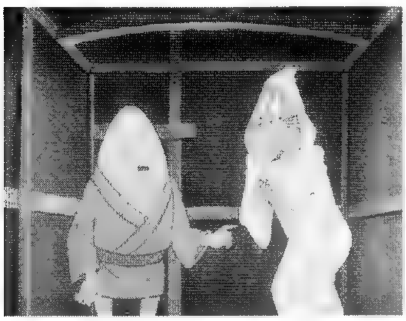
のっぺらぼう

1968年11月10日放映

STORY

顔のない人間が街に溢れた日

死人の顔を盗む妖怪がいると聞き、ねずみ男は死体を守る商売を始める。そして墓場で見張っているところに、のっぺらぼうが姿を現した。のっぺらぼうは人魂で作った料理を人に食べさせることで、人の顔を奪う妖怪である。それと知らずに人魂料理を振る舞われたねずみ男は、顔を奪われる。さらに鬼太郎すら策略にはまり、人魂料理を食わされてしまった。そのうえのっぺらぼうは“より都会的な顔”を求めて、街に出始めた。そこで鬼太郎はレストランで待ち伏せし、逆にのっぺらぼうに人魂入りアイスを食べさせることに成功。顔を取り戻したうえで、のっぺらぼうとの戦いに突入する。



原作

「のっぺらぼう」では、鬼太郎がねずみ男の顔を取り戻すためにのっぺらぼうの家にのりこみ戦う。街に出て戦うくだりは原作にはない。

演出●古沢日出夫　**脚本**●雪室俊一　**作画監督**●江藤文男

【第046話】

うぶめ

1968年11月17日放映

STORY

姑獲鳥の“赤子コレクション”を止めろ！

鬼太郎は、ある町で10人もの赤ん坊がさらわれたという手紙を受け取る。それは赤子をさらって育てる妖怪・姑獲鳥の仕業だった。生意気な少年・優一に「妖怪なんかいない」と言われたねずみ男が、姑獲鳥石から復活させてしまったのだ。鬼太郎は子泣き爺をおとりにして姑獲鳥を捕まえるが、隙をつかれてねずみ男をさらわれる。さらに助けに向かった鬼太郎も返り討ちに遭い、姑獲鳥に食われてしまった。自分の巣に戻り、鬼太郎を吐き出して檻に入れる姑獲鳥。しかし鬼太郎はちゃんちゃんこを腹の中に残してつまらせ、最後はつるべ火の力を借りて姑獲鳥の羽を燃やして、退治するのだった。



原作

「姑獲鳥」では、姑獲鳥は子供をさらうだけでなく、布団に足跡を付けて寝小便をさせるのが趣味。あえて優等生に寝小便をさせている。

演出●久岡敬史　**脚本**●安藤豊弘　**作画監督**●細田暉雄

【第047話】

天邪鬼

1968年11月24日放映

STORY

強敵のヒネクレ妖怪・天邪鬼との激闘

ヒネクレ者で、周囲の幸せが憎い為助爺さんは、夢のお告げに従い妖怪・天邪鬼の封印を解く。別荘地に土砂崩れを起こすなど、その怪力を生かして暴れまわる天邪鬼。相談を受けた鬼太郎は、小包に入り天邪鬼の住みかに潜入。しかし燻製好きの天邪鬼に食べ物と勘違いされ、燻製窯に入れられ燻製にされてしまう。そこで天邪鬼の部下になっていたねずみ男が鬼太郎を発見し、水に浸して復活させる。鬼太郎は、今度は為助に化けて天邪鬼に近づくが、見破られて生き埋めにされる。ふたたびねずみ男と為助に助けてもらい脱出した鬼太郎は、さらに一計を案じて、天邪鬼を底なし沼に誘い込む。



原作

「天邪鬼」より。鬼太郎は怪力の天邪鬼に対して、大きな石を頭上に掲げた瞬間にリモコン手でくすぐり、石の下敷きにしてから封印する。

演出●勝間田具治　**脚本**●雪室俊一　**作画監督**●落合道正

【第048話】

雪ん子

1968年12月1日放映

STORY

冷凍妖怪トリオが鬼太郎に襲いかかる！

北海道・大雪山で村人が次々と冷凍され、魂を抜かれる事件が起きる。姉が凍ってしまったという少年からの依頼を受けて、鬼太郎は現地へ飛んだ。その美人の姉を見て、やる気になったねずみ男は、先走って事件現場に向かう。しかしそこで魂をアイスキャンディーにして食べる妖怪・雪ん子に出会い、あっさりと魂を抜かれてしまった。ねずみ男の異変を知り、鬼太郎も現場へ。そして雪ん子、雪男、雪女の冷凍妖怪トリオとの対決となり、体内で“妖怪原子炉”を起動。口から炎を吐き、雪の３妖怪を退治したかに見えた。しかし彼らはそのまま合体し、冷凍巨人として鬼太郎を襲い始めた。



原作

「雪ん子」が原作。目玉おやじは登場せず、ねずみ男と鬼太郎のみで北海道に行く。ねずみ男がすぐに魂を抜かれてしまうのは原作のまま。

演出●明比正行　**脚本**●辻真先　**作画監督**●我妻宏

【第049話】

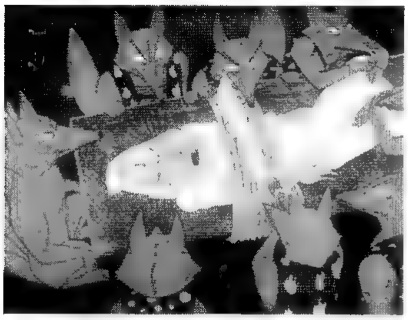
天狐

1968年12月8日放映

STORY

化け狐たちのささやかな望み

地下の工事現場から大量の水が噴出する事故が発生。人間たちが調査のため洞窟に入ると、狐火が現れて化かされる。そこは妖狐の巣で、狐たちは住みかを荒らす工事を止めようとしていたのだ。だが工事を強行したため、再び事故が発生する。鬼太郎は地下へ向かい、妖狐の親玉・天狐に会いたいと頼むが、部下の空狐らに阻まれる。鬼太郎はこまに化け、狐たちの火の攻撃を消し止めた。そこに天狐が現れたので、鬼太郎は地下を人間に少し明け渡してほしいと交渉。天狐は人間たちの侵略に加え、人間が稲荷を敬わなくなったため怒っていたという。鬼太郎は人間に供え物をするよう伝えた。



原作

「天狐」では、空狐代表の"九尾の狐"と鬼太郎が戦う。指鉄砲を使い鬼太郎が勝つが負けを認めず、天狐が出てくるところは同じ。

演出●宮崎一哉　**脚本**●安藤豊弘　**作画監督**●菊池城二

【第050話】

妖怪関ヶ原

1968年12月15日放映

STORY

鬼太郎も目玉おやじもガマガエルになる!?

ねずみ男は、ある沼で出会ったカエルにだまされて封印をとき、身代わりにカエルに変身してしまう。カエルの姿から復活した妖怪・邪魅は、元に戻りたければ身代わりを探せという。そこで今度はねずみ男が鬼太郎をだまし、封印を解かせて身代わりにする。そこで凶悪妖怪・邪魅の復活を知った目玉おやじは、邪魅退治のため鬼太郎の身代わりにカエルになる。だが、鬼太郎は邪魅の吐く"毒気"に操られ、手下になってしまった。目玉おやじはカエルの姿のまま、かつて邪魅を封じたガマ仙人の元に向かった。そしてガマ仙人は邪魅を封じるため、みずから作り出す異次元世界「妖怪関ヶ原」に鬼太郎を誘い込む。



原作

「妖怪関ヶ原」が原作。はじめにねずみ男がガマの封印を解くシーンはなく、直接鬼太郎が解いている。ほかの部分は原作とアニメは同じ。

演出●新田義方　**脚本**●辻真先　**作画監督**●生頼昭憲

【第051話】

穴ぐら入道

1968年12月22日放映

STORY

人間を改心させる効き目バツグン"良心カビ"

縁日で商売をするねずみ男は、商売敵の暴力団・マンガ一家に襲われる。その場は鬼太郎に撃退されたマンガ一家だが、今度はねずみ男を利用し、妖怪の見せ物で稼ごうと思いついた。ねずみ男はこの話に乗り、おとなしい妖怪・穴ぐら入道を捕まえに行く。しかしなかなかうまくいかず、親分は役に立たない子分を叱り飛ばして、みずから穴に入っていった。事態を知った鬼太郎は一家を説得するが、彼らは聞く耳を持とうともしない。そこで目玉おやじは、吸うと悪事ができなくなる"良心カビ"を彼らに吸わせようと提案。穴ぐら入道を連れ出そうとする一家に、良心カビを振りまいた。



原作

「穴ぐら入道」をほぼ忠実に再現している。ただしねずみ男は原作には登場せず、穴ぐら入道の危機をコオロギが鬼太郎に知らせにくる。

演出●山口康男　**脚本**●鈴樹三千夫　**作画監督**●我妻宏

【第052話】

吸血妖怪団

1968年12月29日放映

STORY

鬼太郎がミイラになっちゃった！

小笠原に数千年生息する吸血妖怪樹は、かつての力を取り戻すために妖怪の血を欲していた。その仲間のドラキュラは、世界の吸血妖怪たちを集め"吸血妖怪団"を組織。恐山にある妖怪血液銀行で血を盗むために、まずはじゃまな鬼太郎を始末しようとする。鬼太郎はそのワナにはまり、吸血妖怪綿に血を吸われミイラになってしまった。一方危機を知った目玉おやじたちは、恐山で吸血妖怪たちと戦うが、奮闘むなしく血を盗まれる。しかし、その戦いで捕らえた吸血妖怪の血を鬼太郎に輸血し、鬼太郎を復活させることに成功。鬼太郎と仲間たちVS.吸血妖怪団の、小笠原決戦が始まった。



原作

「血戦小笠原」が原作。原作では吸血樹を焼き払った後、吸血樹の芽が群れで復活する。目玉おやじが根切り虫を連れてきて、退治して終幕。

演出●高見義雄　**脚本**●安藤豊弘　**作画監督**●林正史

【第053話】

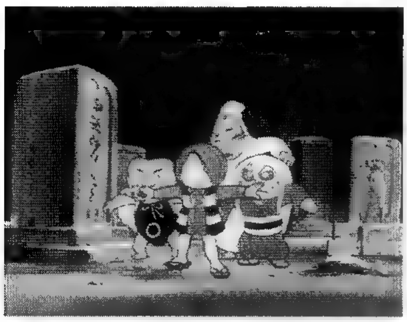
妖怪大統領

1969年1月5日放映

STORY

浦島太郎の“老化の煙”が世界を滅ぼす!?

鬼太郎は浦島太郎の子孫・浦島子太郎博士から“人類老化の煙”の入った玉手箱を、人間の手の届かない場所に捨ててほしいと頼まれる。ところが帰り道に催眠術をかけられ、玉手箱を盗まれてしまった。鬼太郎は妖気を追い、犯人の妖怪・こうもり猫を追い詰めて事件を裏で操る妖怪・葬頭河婆の存在を知る。ところが隙をつかれ、玉手箱と目玉おやじを奪われてしまった。鬼太郎は追跡して洞穴に入ったものの、葬頭河婆に簡単にコンクリート詰めにされてしまう。しかし鬼太郎はそこに残したちゃんちゃんこでねずみ男を操って洞穴内で玉手箱を開けさせ、葬頭河婆とこうもり猫を追い詰める。



原作

「妖怪大統領」では、砂かけ婆、子泣き爺らも玉手箱の煙で老いてしまう。解決後は浦島博士の家でみんな「ライスカレー」を食べていた。

演出●山口康男　**脚本**●小沢洋　**作画監督**●細田暉雄

【第054話】

妖怪ラリー

1969年1月12日放映

STORY

ラリー勝負で日本を守れ！

妖怪ラリー大会を開いて、その映像をＴＶに売ることで金儲けを思いついたねずみ男。佐渡ヶ島を賞品に、世界の妖怪を出場者として呼び集めた。そして鬼太郎は佐渡ヶ島を守るため、レースに参加することに。しかし目玉おやじがスタート前に、鬼太郎の妖怪自動車を変にいじくり回したため、故障して出遅れてしまう。レースはすすみ、ほかの妖怪たちは攻撃し合いながらトップ争いをしていた。しかし徐々に詰め寄ってきた鬼太郎を見て、鬼太郎を妨害し、優勝賞品の領土を山分けしようと協力し始める。鬼太郎は行く手を阻む妖怪たちを蹴散らしながら、ゴールに向かって突き進んでいく。



原作

「妖怪ラリー」では、本来はレースを楽しむ「妖怪ラリー」が、西洋妖怪と鬼太郎のケンカで、優勝者の命令を聞くというルールに変更される。

演出●勝間田具治　**脚本**●雪室俊一　**作画監督**●落合道正

【第055話】

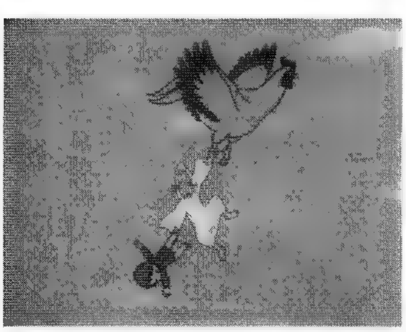
妖怪毛羽毛現

1969年1月19日放映

STORY

鬼太郎の今度の相手は“恐竜”だ!?

鬼太郎とねずみ男は、子どもたちの行方不明事件が頻発する、ある村を訪れる。村人は子どもたちの捜索で、みんな山狩りに出ていた。そこで鬼太郎も山に向かい、誘拐されて魂を抜かれた子どもたちを発見。その犯人を探していると、山奥の神社に妖怪・毛羽毛現が現れる。毛羽毛現は化石になった恐竜を蘇らせるために、子どもたちの魂を抜いて化石に入れていた。人間の文明が気に入らない毛羽毛現は、世界を古代の姿に戻そうとしたのだ。子どもたちを返せと詰め寄る鬼太郎を、復活した恐竜が毛羽毛現の命令で襲ってくる。鬼太郎は苦戦の末、毛羽毛現を捕獲し、子どもたちの魂を取り返した。



原作

「毛羽毛現」でも催眠術を使って毛羽毛現を倒すところなどは同じ。ちなみに毛羽毛現のズーズー弁は、アニメオリジナルの設定。

演出●西沢信孝　**脚本**●辻真先　**作画監督**●田島実

【第056話】

磯女

1969年1月26日放映

STORY

磯女のテリトリーに入ると呪いが振りかかる

立ち入り禁止の岬で釣りをしていた男が、磯女にさらわれた。知らせを受けた鬼太郎たちは、岬で目玉おやじとともに海中を探る。すると磯女が現れ、人間に味方する鬼太郎を攻撃してきた。その場にいたねずみ男は海へ落ち、磯女にさらわれてしまう。住みかに連れ込まれたねずみ男は、保身のため磯女の赤ん坊の子守りを始める。一方、赤ん坊に海の中に誘いこまれた鬼太郎は、タコツボに入れられるが、何とか自力で脱出。赤ん坊と対峙するも、呑み込まれてしまう。ところが赤ん坊の腹はどんどん肥大化。磯女は破裂しないように抑えつけるが、やがて妖力を使いきり、2人とも石になってしまった。



原作

「磯女」では、鬼太郎が赤ん坊に呑み込まれた後、“空気ポンプの術”という技で赤ん坊の腹を破裂させて、磯女ごと粉々にしてしまう。

演出●古沢日出夫　**脚本**●小沢洋　**作画監督**●昆進

【第057話】

隠形魔法

1969年2月2日放映

STORY

鬼太郎、若さを吸い取られ老人になる！

沖縄からトラジという少年が、鬼太郎の家を訪ねてきた。村の若者がみんな、魔法で姿が見えない妖怪に若さを吸い取られて困っているという。退治に行った鬼太郎も、やはり姿の見えない敵に苦戦し、若さを吸い取られる。そこで鬼太郎は一計を案じ、口から毒ガスを吐き、敵の周りにハエを集めた。そしてハエが集まり敵の姿が見えるようになると、それは巨大な妖怪・ぬっぺらぼうだった。そのハエに集まった小鳥に突かれて血を流したぬっぺらぼうは、ヒルの大群に吸いつかれて倒れる。鬼太郎はぬっぺらぼうの住みかから若さのエキスが入ったつぼを奪い、村の人々とともに若さを取り戻した。



原作

「朝鮮魔法」が原作。沖縄ではなく朝鮮から老化した少年がやってきて、妖怪退治を頼まれる。倒し方など、残りのシーンは原作をほぼ忠実に再現。

演出●設楽博　**脚本**●雪室俊一　**作画監督**●生頼昭憲

【第058話】

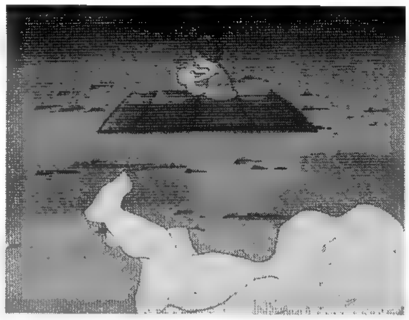
おぼろぐるま

1969年2月9日放映

STORY

鬼太郎が水木の家にやってきた!?

漫画家・水木しげるの前に鬼太郎が現れ、興奮した水木は鬼太郎を家に招待する。ちょうどその日、不思議な大嵐「怪気象」に街が包み込まれ、一日で街は妖怪に支配されてしまった。そして怪気象の中心にある水木家に、妖怪総理大臣を名乗るぐわごぜをはじめ、多くの妖怪たちが入り込んでくる。鬼太郎は怪気象の原因を暴こうとするが、怪気象を作り出していた妖怪・朧車の光線を浴びて石にされる。しかし鬼太郎は、石になったまま朧車を攻撃。さらにぐわごぜに食われた目玉おやじも、逆にぐわごぜを操って鬼太郎に協力。朧車を退治し、怪気象を吹き飛ばすことに成功した。



原作

「朧車」ではぐわごぜに呑まれた目玉おやじが体を乗っ取り、妖気定着装置を逆に回す。それにより怪気象を地上から離し、事件は解決する。

演出●勝間田具治　**脚本**●辻真先　**作画監督**●落合道正

【第059話】

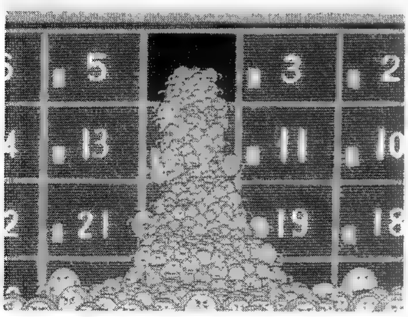
だるま

1969年2月16日放映

STORY

アパート乗っ取りを企むだるまと対決

“4”のつく部屋やモノに住んでいた妖怪が、縁起を担がなくなった人間に住みかを奪われて困っているという。そんななか、4のつく下駄箱などから、大量の子だるまが転がり出てくる事件が発生。ねずみ男は問題解決のため、ビルの4階に見つけた妖怪住宅問題相談所に行こうとする。しかし、なぜか4階にたどりつかない。管理人が言うには、ないはずの4階を大金に釣られて妖怪・だるまに貸し、それ以来アパートに妖怪が住みついて困っているとのこと。鬼太郎は妖怪たちをタバコの煙でいぶりだし、だるまと対決。大量の子だるまの中からだるまの心臓を見つけ出すと、だるまは手も足も出ず降参した。



原作

「だるま」が原作。墓場の霊気を吸いに来ていた鬼太郎が、ビルの管理人の会話を聞き、妖怪・だるま退治をみずから買って出る。

演出●宮崎一哉　**脚本**●雪室俊一　**作画監督**●岡田敏靖

【第060話】

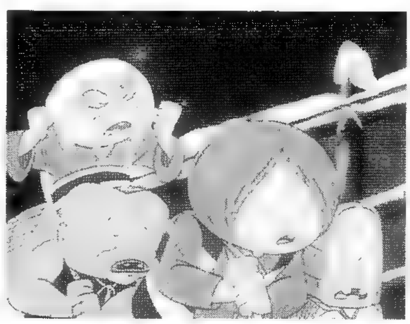
笠地蔵

1969年2月23日放映

STORY

「笠地蔵」のゲゲゲバージョン

88の妖怪を倒したため、悪霊にとり憑かれた鬼太郎は、治療のため東北に向かう。そこで座敷童子に会い、その地方に一軒だけ、幸福を呼ぶはずの座敷童子を招き入れない老夫婦がいることを知った。鬼太郎が理由を尋ねると、貧しすぎて座敷童子を歓迎できないからだという。だがその日は内職で仕上げた笠を売るので、ようやく迎えられるというのだ。ところが結局ひとつも笠は売れず、寒そうなお地蔵さまに被せてあげてから帰宅してきた。話を聞いた鬼太郎は仲間たちと協力して、こっそり老夫婦に食べ物を届ける。老夫婦は、お地蔵様のおかげで座敷童子を歓迎できる、と喜ぶのだった。



原作

「笠地蔵」が原作。鬼太郎が主体の話ではなく、ざしきわらしと老夫婦が中心の、いわゆるメジャーな民話「笠地蔵」に近い話になっている。

演出●明比正行　**脚本**●雪室俊一　**作画監督**●林正史

【第061話】

後神

1969年3月2日放映

STORY

寂しがり屋の後神でも、人を食うのはNGです

凡太はある祭りでサボテンを買った翌朝、行方不明になってしまう。鬼太郎とねずみ男が凡太の家に行くと、ほかの家族も消えていた。2人が様子を探るために家に泊まると、サボテンに不思議な花が咲き、それが鬼太郎を呑み込んでしまう。そこに祭りでサボテンを売っていた妖怪・後神が現れた。後神は妖怪サボテンと手を組んで、凡太の家を乗っ取ろうとしていたのだ。鬼太郎は指鉄砲を使ってサボテンから脱出。後神をちゃんちゃんこで締めると、後神は雷に打たれて消えてしまった。鬼太郎は凡太たちに後神はひとりで寂しかったのだと説明し、後神を祭った社を大切にするように伝えた。



原作

「後神」にほぼ同じ。ただしねずみ男は登場せず、目玉おやじは後神に釘で打ち付けられ、動けなくなる。後神を祭った神社などは登場しない。

演出●古沢日出夫　**脚本**●小沢洋　**作画監督**●鳥島嘉継

【第062話】

海じじい

1969年3月9日放映

STORY

背中にとり憑くクラゲ妖怪が現れた！

海で溺れる与太郎を助けた鬼太郎。偶然病院でねずみ男に会った与太郎の母は、息子があれ以来具合が悪い、とねずみ男に話す。クラゲの妖怪・海爺がとり憑いたせいだと知ったねずみ男は、金もうけのために、海爺を追い出すインチキ呪文を教える。するとなぜか呪文が効き、海爺は今度はねずみ男にとり憑いた。鬼太郎が、海爺が苦手とする三杯酢をねずみ男に飲ませると、今度は海爺が鬼太郎にとり憑く。鬼太郎は海爺を弱らせるため、三杯酢の池に飛び込んだ。鬼太郎は弱った海爺から、体電気を使って脱出する。しかし海爺は弱りながらも、妖力で池を塩水にして復活してきた。



原作

鬼太郎以外の水木作品『海じじい』は、インチキ呪文で海爺がねずみ男に乗り移って終わる。鬼太郎以外に原作を求めた初のエピソード。

演出●高畑勲　**脚本**●雪室俊一　**作画監督**●落合道正

【第063話】

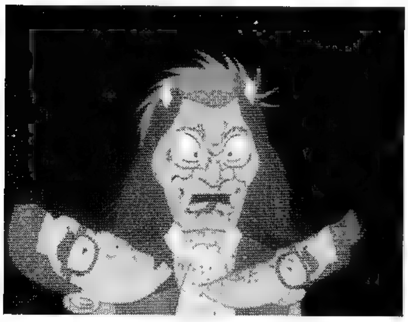
なまはげ

1969年3月16日放映

STORY

なまはげに顔を奪われた青年の不運な一日

妖怪を信じない青年・東が社の中を開けると、なまはげの面があった。そこで、東は無知な人間をだまそうと、面を被って鬼太郎や村人を脅かしていた。すると驚いた拍子に、六平じいさんが死んでしまう。慌てた東が面を外すと、東は顔もなまはげになってしまっていた。その夜、鬼太郎が昼間に会ったなまはげが気になり村へ行くと、東が村人に追われていた。鬼太郎は東をかばい、一緒に村人に捕らえられてしまう。そこに死んだはずの六平が現れた。昼間に死んだ六平は、本物のなまはげが化けていたのだ。東の顔を取り返そうと、なまはげを追う鬼太郎。つり橋でなまはげに東の面を落とさせ、顔を取り返す。



原作

鬼太郎以外の水木作品『なまはげ』は、片田舎のインテリがなまはげの面をかぶり、人々を驚かしていたらなまはげの顔になってしまう話。

演出●西沢信孝　**脚本**●辻真先　**作画監督**●岡田敏靖

【第064話】

陰摩羅鬼

1969年3月23日放映

STORY

死体を操る恐るべき妖怪・陰摩羅鬼が登場！

恋人・啓子の中に妖怪が入り込んだと、青年・哲夫が鬼太郎に相談にくる。ところが入れ違いに啓子が鬼太郎の家に現れ、妖怪は倒したからと大金を渡してきた。その夜、不審に思った鬼太郎が見張っていると、啓子が哲夫の首を絞めはじめる。じつは、すでに啓子は死亡し、陰摩羅鬼に操られていたのだ。鬼太郎は陰摩羅鬼を妖術で紙に封じ込め、燃やして退治した。ところがその夜、誤って眠り薬を飲んだ鬼太郎は、魂と体を分離させて難を逃れていた陰摩羅鬼に身体を乗っ取られてしまう。そこで鬼太郎は、自分の魂に入っていた眠り薬を陰摩羅鬼に流し込んで眠らせ、再び退治することに成功した。



原作

「陰摩羅鬼」では鬼太郎は身体を乗っ取られず、陰摩羅鬼はねずみ男に乗っ取られる。また、アニメでは見られない鬼太郎の喫煙シーンも登場。

演出●宮崎一哉　**脚本**●雪室俊一　**作画監督**●江藤文男

【第065話】

妖怪ほうこう

1969年3月30日放映

STORY

古木が化けた漬物好きの妖怪が鬼太郎を襲う！

村で大根が大量に盗まれたため、鬼太郎は現地へ向かう。しかし鬼太郎の人気を妬んだねずみ男が鬼太郎を殴り倒し、自分が代わりに犯人を捜しに行ってしまう。そこに大根泥棒の犯人・杉山が現れ、ねずみ男をそそのかして盗みを手伝わせる。鬼太郎は回復して村に向かうが、ねずみ男と杉山にはめられ、毒を食らい漬物にされてしまう。杉山の正体は漬物好きの妖怪・ほうこうだった。目玉おやじは鬼太郎を助けようと漬物の樽へ。そしてねずみ男は、ほうこうを消し去るべく漬物小屋に火をつける。しかしほうこうは小屋から脱出。復活した鬼太郎とほうこうの、激しい戦いが始まった。

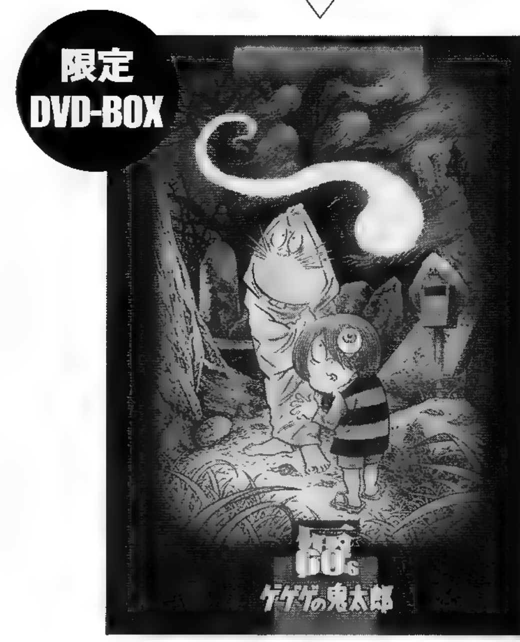


原作

「ほうこう」では、鬼太郎は漬物にされるが、目玉おやじが鬼太郎を助けるために持ってきた“毒消し”で、元の姿に戻ることができる。

演出●勝間田具治　脚本●鈴木三千夫　作画監督●我妻宏

＜第1部＞をまとめて観るならコレ！



ゲゲゲの鬼太郎第1シリーズ 1968DVD-BOX ゲゲゲBOX60's

全65話を完全パッケージソフト化。描き下ろしイラスト入り豪華ボックスに当時の貴重な資料を収録したブックレットを収納。特典映像も満載！ 完全予約制の限定生産で11枚組¥45,150。BOX70'sとの2セットで¥78,750。

Telecast List ゲゲゲの鬼太郎＜第1部＞放映リスト

放映日	話数	放映タイトル
68.1/3	1	おばけナイター
1/10	2	夜叉
1/17	3	妖怪城
1/24	4	吸血鬼ラ・セーヌ
1/31	5	大海獣(前編)
2/7	6	大海獣(後編)
2/14	7	ゆうれい電車
2/21	8	鏡爺
2/28	9	見上げ入道
3/6	10	妖怪大戦争(前編)
3/13	11	妖怪大戦争(後編)
3/20	12	妖怪ぬらりひょん
3/27	13	地獄流し
4/7	14	水虎
4/14	15	吸血鬼エリート(前編)
4/21	16	吸血鬼エリート(後編)
4/28	17	猫仙人
5/5	18	魔女人形
5/12	19	吸血木
5/19	20	猫娘とねずみ男
5/26	21	妖怪獣(前編)
6/2	22	妖怪獣(後編)
6/9	23	峠の妖怪
6/16	24	白山坊
6/23	25	電気妖怪
6/30	26	海座頭
7/7	27	おどろおどろ
7/14	28	まくら返し
7/21	29	鏡合戦
7/28	30	悪魔ベリアル
8/4	31	もうりょう
8/11	32	妖花
8/18	33	さざえ鬼

放映日	話数	放映タイトル
8/25	34	さら小僧
9/1	35	こま妖怪
9/8	36	ダイヤモンド妖怪
9/15	37	手の目
9/22	38	おりたたみ入道
9/29	39	妖怪軍団
10/6	40	おべべ沼の妖怪
10/13	41	ばけ猫
10/20	42	人食い島
10/27	43	ひでりがみ
11/3	44	げた合戦
11/10	45	のっぺらぼう
11/17	46	うぶめ
11/24	47	天邪鬼
12/1	48	雪ん子
12/8	49	天狐
12/15	50	妖怪関ヶ原
12/22	51	穴ぐら入道
12/29	52	吸血妖怪団
69.1/5	53	妖怪大統領
1/12	54	妖怪ラリー
1/19	55	妖怪毛羽毛現
1/26	56	磯女
2/2	57	隠形魔法
2/9	58	おぼろぐるま
2/16	59	だるま
2/23	60	笠地蔵
3/2	61	後神
3/9	62	海じじい
3/16	63	なまはげ
3/23	64	陰摩羅鬼
3/30	65	妖怪ほうこう

第1部・第2部｜鬼太郎役

野沢雅子インタビュー

今でもたんたん坊と戦っています

第1部「ゲゲゲの鬼太郎」が始まったのは、1968年。数々のアニメ作品でヒットを連発している野沢雅子さんにとっても、これがシリーズ物では初の主演作品だったという。すでに40年近く経っているにもかかわらず、驚くほど鮮明に当時のことを語ってくださった。



PROFILE
のざわまさこ　東京都出身。舞台女優・声優。声優としての代表作は『ど根性ガエル（ひろし役）』『銀河鉄道999（星野鉄郎役）』『ドラゴンボール（孫悟空ほか役）』など。劇団ムーンライト主宰。

「録音中に心臓が止まるかと思いましたよ」

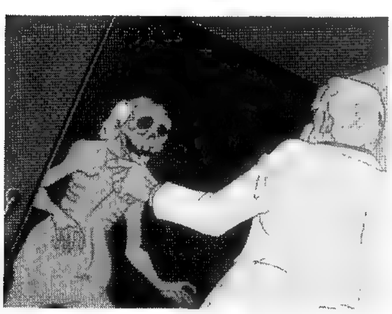
鬼太郎ファミリーは最初から もう「ファミリー」だったんです

野沢さんにとって、この『ゲゲゲの鬼太郎』の第１部がシリーズものの初主演ということですが、どんなお気持ちでしたか？

当時の私は、単発での主演はございましたが、シリーズものでの主演作品は初めてでした。オーディションのお話をいただき、受かった時は、嬉しかったです。

初の顔合わせから、第１～２部合わせて（ブランク含め）5年近くのお付き合いになるわけですが、現場の雰囲気はいかがでしたか？

これがね、とてもやりやすかったんですよ。いい環境でした。なぜかといえば、メインの３人がもともと同じ劇団だったんです。大塚さん（大塚周夫：ねずみ男役）と田の中さん（田の中勇：目玉おやじ役）はもう劇団は辞めていらしたのですが、同じ舞台も何度も経験していた仲間でしたからね。舞台の場合だと、ひとつの作品を創るまでに長い間「稽古」があるわけじゃないですか。そういうものを何度も超えてきた仲間でしたから、最初から息はピッタリだったんですよ。鬼太郎ファミリーは、最初からもう「ファミリー」だったんです（笑）。



※1

『ゲゲゲの鬼太郎』という作品の初のアニメ化とはいっても、そういう慣れ親しんだ環境だったこともあり、演じるうえでの「迷い」とかは一切ありませんでした。もともと私は自分の役に対して、「どんな声なのかな」「どんなキャラクターなのかな」という迷いを持ったことが、今まで一回もないんです。現場でスタジオに入って初めて絵を見て、マイクの前に行く間にフゥッと（役に）入るんですよ。それでワッと出た最初のひと言に対して、今のところプロデューサーさんとか原作者さんとか、ディレクターさんに「ちょっと違うね」と言われたことが一回もないんです。だから、今のところはそれでいいのかなと思っています。たぶんこれからも、そうなんじゃないかと思います。

周りの皆さんは勉強家ですから、ちゃんと骨組みを立ててくるんです。場面ごとに「ここはこう演じよう」とか、「このシーンはこの間で行こう」とか。私は、そういう話に関しては「聞き手」になっているんです。「へえ～、そうなんだ。そうだよね」って。「私はこうよ」とか言ったことはないですね。何も言えないし、いい加減に思われちゃイヤだから（笑）。もちろん、いい加減じゃないですよ。私なりに真剣にやっているのですけれど、迷った記憶は一切ないですね。

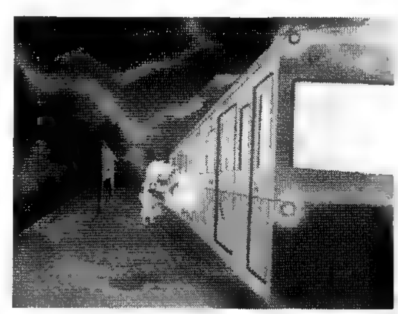
アフレコの前に、原作の漫画を読まれることはありますか？

第１回目だけは、録りに入る前に原作を読んで行ったんです。で、台本を読んで「今日はこういうお話だ」というのを簡単に頭に入れて行きました。でも、原作を事前に読んだのはその一冊だけ。絶対に先には読まないです。これは鬼太郎に限らず、どんな作品でどんな役を演じていても同じ。先を読んでしまうと、例えば「次はぬらりひょんが出てくるんだな」とか、話がわかってしまうじゃないですか。そうすると新鮮味がなくなると思う。鬼太郎として「今日はどんな人と出会えるのかな」っていうドキドキ感を、私は大切にしたいんです。一期一会というか、鬼太郎として驚き、感動するためには読んじゃいけないと思うんですよ。

でも、録りが終わってから読むことはありますよ。アニメになることで演出とか話の展開が変わることもあるじゃないですか。それを「あ、このへんはこう変わるのか」なんて楽しんだりもします。たぶん、視聴者の方々と同じ感覚なんじゃないですかね。

録りは東映の大泉スタジオだったと伺っていますが、この作品をやっていて怪奇現象みたいな怖い目に遭った記憶はないですか？

一切ないですね～。ただ大泉のスタジオって、すごく鬼太郎の世界観にハマっているんです。これは現地のスタッフさんもおっしゃっているんですが、鬱蒼とした雰囲気で薄暗くて、冷た～い感じのスタジオで（笑）。スタッフさんが夜に編集作業をしていると"出る"なんて話は聞きますけれど、私たちは全然見たことも感じたこともないです。大塚さんとかと「私たちは鈍感ですよね～」なんて話していたりするんですが。



※2

鬼太郎の現場って、録音前からもう「ゲゲゲの森」なんですよ。私は現場に着くのが早いほうなはずなんですけれど、だいたい現場に着いたらもうお二人（大塚さんと田の中さん）はいらっしゃる。で、私は「（鬼太郎の声色で）悪いな」なんて言って入るんですが、そうすると大塚さんが「（ねずみ男の声色で）あらキタさん～」なんて返してくる。田の中さんも「（目玉おやじの声色で）キタロウ！」という感じなんです。

スタジオの中では、３人ともほとんどみんな「役」で会話している。で、スタジオを一歩出たら大塚さんが普通に「メシでも食っていくか？」なんて言う。私も"野沢雅子"で「いいですね、行きましょう

か」って返すんです。一歩前のスタジオでは、何だったんだという感じですよね。スタッフさんも見ていて、相当変だったと思いますよ。
アフレコが終わってお茶したり、食事したりはたまにありましたね。だいたい、そういうときにイニシアチブを取るのは大塚さんなんです。そこで何を話すかといえば、もう芝居の話ばっかり。ホント私たちどうしようもないですよね。普通の話とかほとんどしないの。「あのときの舞台はどうだった」とか「あの芝居は思い出したくもない」とかそんなのばっかり。今でもそうですが、お芝居が楽しくて仕方なかったんです。

今でもときどき、夜中に“たんたん坊”にうなされるんですよ



テレビシリーズで全110話（第1部65話、第2部45話）ある中で、特に記憶に残っているエピソードはありますか?

覚えていますよ〜。私、結構水を向けられると思い出すんですよ。演じていて“すごく怖かったシーン”が2つあって、特にそれは鮮明に覚えているんです。ひとつは、鬼太郎がコンクリートの壁に囲まれた通路を、霊安室に向かってずーっと歩いていくシーン（※1）。たぶん「もうりょう」（第1部・31話）という話だと思います。
廊下を歩いていく音が、鳴り響いているんです。もちろんアフレコ前ですから、私が絵を見た段階では音なんて入ってないんですよ。でも私の中では、鬼太郎クンの下駄の音がカタ、カタ、カタって聞こえるわけです。もう自分は鬼太郎クンになっているから、聞こえてきちゃうんですよ。それで霊安室前に着くのですが、もちろん鬼太郎クンだから開けて確認しなきゃ、と思っている。でも、そこまで行ってピタッと止まるんです。で次の瞬間「ドゥワ〜ッ」と開いたドアから「もうりょう」が出てくるわけです。思わず怖くてびっくりして、「ウワァ〜!!!」って叫んじゃったのを覚えていますね。
もうひとつが「幽霊電車」（第1部・7話）という話です。それがチンチン電車みたいなんですけれど、もう満席なくらい客が乗っている。普通のサラリーマンみたいな人がズラッ〜と座っていて。で、ある瞬間フ〜ッと風が吹くと、窓の外は荒野なんですよ。向こうのほうに木が一本立っていて。もうそこまで視覚として覚えているんですが。駅らしい駅はないんです。それで第1部の（まだ鬼太郎ファミリーに入る以前の）砂かけオババが、白髪を風でたなびかせてカンテラを下げて「ほねつぼ〜。ほねつぼ〜」って駅の名前を言うワケですよ。で「クヒヒヒヒ……」って笑うの（※2）。「骨壷?」ってヒョッと見ると、周りにいた今までサラリーマンだった人が、みんな骸骨になっているんです。これも怖かったですよ。
ストーリーとか相手の妖怪とかじゃなくて、シーンとして怖いものを覚えているんです。もちろん台本は前もって見ているんですよ。それでも現場に入っちゃうと、自分はもう鬼太郎クンなんです。一緒に驚いちゃう。今の台本と違って、手書きの大雑把な台本ですから、シーンまでは細かくわからない。絵を見て一緒にびっくりしちゃうんです。心臓が止まるかと思っちゃいましたよ。
びっくりするのも「鬼太郎」としてびっくりしていますから。「野沢雅子」じゃないんです。鬼太郎の声色でビビっちゃう。で、大塚さんたちが「キタさん〜（ねずみ男の声）」ってすぐに言ってくるんです。大塚さんも、私が本気でびっくりしたってのはわかって、ねずみ男でツッコミを入れてくるんです。「悪かったな（鬼太郎の声）」ってアドリブで応えるんですけれどね。田の中さんだったら目玉おやじで言ってきますからね。このへんが劇団の良さというか、息の合った良さというか……。

現場を見てみたいですね（笑）。ゲスト妖怪で、特に印象に残った妖怪とかエピソードはありますか?

印象に残っている妖怪は、断然「たんたん坊」（※3）ですね。自分でも不思議なんですけれど、今でも夢でうなされるときは「たんたん坊」が出てくるんですよ。ウワァーッて、自分の声で目が覚めるの。いったい何年、戦っているんでしょうね（笑）。
たんたん坊って、とてつもなく大きいじゃないですか。それが私のところにグワーッて迫ってくるんですよ。もうホント、怖いというか不思議で仕方がない。あのころから、「この人、顔だけなのになんでこんな大きいの?」っていうのが（たんたん坊の）イメージなんです。もちろん怖かったのも確かでしょうが、印象に残った一番の理由は「不思議だから」だと思いますよ。だって不思議ですよ。ほかの妖怪って、だいたいどこか人間っぽいじゃないですか。人間じゃないかもしれないけれど、骸骨でも手があって足があって、みたいな。あの人、顔だけですから……。あんた、ご飯どうやって食べるの?なんて聞きたいくらいですよ。今でも出てくるくらいだから、きっと当時もずっと思っていたんでしょうね。たんたん坊、はぁ、怖い（笑）。



第2部に入ると、メインの3人以外でも鬼太郎を取り巻く仲間たち、いわゆる「鬼太郎ファミリー」が形成されていきます。仲間たちのなかで、印象に残っているのは誰でしょうか?

鬼太郎の仲間のなかでは、砂かけのオババ（※4）が好きなんです。まるで自分の祖母みたいに、すごく身近に感じていたんですよ。保護者みたいなもので、すごく愛情を持ってくれているうえに、ダメなものはダメって言ってくれる。でも鬼太郎クンは自分がこうだと

思ったら曲げないコですから「それはオババが違っているんだよ」なんて口をとがらして言い合いしたりして。オババってじつは怖い顔しているんですよね。でも、大好きだったんです。



あとは2部で仲良くなった、ネコ娘。鬼太郎クンのガールフレンドだから。お隣に住んでいるっていう感じ。隣ってどこなんだ?と言われたら困っちゃうんですけれど、私の中では隣なんですよね。もうすごく仲良しだと思いますよ。ネコ娘ちゃんがいてくれたおかげで、ねずみ男だけが友達だった鬼太郎クンが救われた感じがしました。

断然1部が好きです モノクロのほうが生かされると思う

野沢さんたちが作り上げてきたアニメの鬼太郎の世界なのですが、その世界観について、プロデューサーさんとかほかのキャストの皆さんと話をすることなどはありましたか?

プロデューサーさんとは、それほど話さなかったですね。最初に、大塚さんと田の中さんと私、あとプロデューサーの4人で一度だけテーブルに着いて話したことがあるんです。そこで、鬼太郎ってどうして生まれたのか、っていう話を聞きました。それだけですね。あとは妖怪の世界ですけれど、(キャストの)みなさんの好きなようにやってください、と言われたんです。私は「鬼太郎クンは決して妖怪だと思っていません。普通の少年だと思っているんです」と言ったら「それで結構です。それでやってください」とおっしゃられました。全部お任せしてくださったので。その先はごく自然に3人で入っていって、作っていったんですよ。

先ほどから伺っていますと、第1～2部を通して演じていらした野沢さんですが、比較的第1部のころのお話が多いように思うのですが。

鬼太郎の世界は、やっぱりモノクロですよ。モノクロのほうが、鬼太郎の世界の非常に大切な要素である「怖さ」も「おどろおどろしさ」も生きてくると思うんです。例えば、原作は顔が怖いですよね。カラーになっちゃうと、やっぱりどう考えても明るくなっちゃうじゃないですか。雰囲気とかストーリー以前に、物理的に「明るい」でしょ。例えば山の描写だったら、“緑”が鮮明に出ることになる。これをグレーと黒の二色の濃淡だけで表そうとすると「えッ」って引くものがあるじゃないですか。例えるなら、水墨画の持つ怪しさみたいな感じですよね。ぼやぼや～っとしながらも、引き込まれていくような。それが鬼太郎の世界観の中で、すごく生かされていたんだと思います。

あとは第2部には教訓っていうか、社会に対する“風刺”が、わりと色濃く含まれているじゃないですか。これも、違ってきたんだなあというイメージになりますよね。

メッセージ性が強くなることに関しては、「世の中が変わってきたんだなあ」って思う感じです。世の中が移り変わっていく中で自分自身は変わっていないから、好きとか嫌いじゃなくて、客観的に眺められる。スタジオに入っているときは自分は鬼太郎クンですから、そんなに違和感はないんですよ。なんたって永遠の“小学生”ですからね。同じ9歳とか10歳の視点で「世の中が変わってきたんだな」っていうのを感じることができる。しかも妖怪だから長く生きられるんですよ。だから世の中も変わる。得した気分が味わえますね。

自分(が演じた)以外の鬼太郎も、少しは見ましたよ。でもちょっと不満がある。第3部だと、よくユメコちゃんのために鬼太郎クンが動くじゃないですか。あれは私の中ではNGですよね。「どうしちゃったの、鬼太郎クン。アンタ、そんなコじゃなかったのに」っていう感じなんですよ。

第4部はチラッとは拝見しましたが、もう“別の作品”ですよね。変わっちゃったな、というのが印象。怖さとか、おどろおどろしさというものがないんです。今のお子さんは、耐えられないんですかね。例えば泥のついた石とか拾ったりしたら、親御さんが「やめなさいッ!」なんて言って止めるでしょ、今は。超過保護っていうんですかね。そんなコたちがおどろおどろしい鬼太郎を見たら、ショックを受けちゃうのかな、とは思います。

第1部や第2部は、相手の妖怪も犠牲者の人たちも結構死んだりするんですよ。“殺し”が出てくる。3部以降になってくると、そういう描写もすごく気が使われている。死んでも復活してきたりとか。良い悪いじゃなくて、時代の流れなんだろうな、とは思います。

世の中が変わっても 変わらないものが詰まっています

アニメの世界もこの40年間で非常に様変わりしたかと思うのですが、あのころの自分と今の自分、そして自分を取り巻く環境で、変わったな～と思うところなどはありますか?

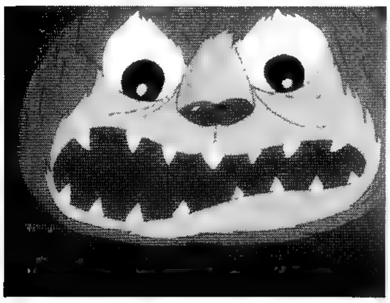
自分たち俳優がやってきたこと、やっていることはそんなに変わらないですよ。ただ、セル画からCGに変わっていますが、私は人間の手で描いたセル画のほうが好きですね。CGはとてもキレイなんですけれど、温かみがないというか。私の好き嫌いでは、昔のほうが好き。演じやすさとかは、別に変わらないですけれど。

あと、今現場にいる若い人たちは、「声優」を目指してきますよね。昔は「劇団の人」が多かったんです。それこそ現場に行っても「あ、あの人はあそこの劇団の人だ」とか、声優として知り合う前から結

「鬼太郎って、“ガキ大将の優等生”なんです」



構知り合いな感じ。狭い世界ですからね。
そこの差というか、一概には言えないんですが浅さ深さで言えば、劇団の人間のほうが深いのかなと思います。もちろん今のコでも、やるコはやりますよ。ただ言えるのは、声をつぶしちゃう人が多いですよね。劇団の人は、めったに潰さないですよ。マイクなんかないところで、広い小屋中にバーッと声を届かせなければならないですからね。



※3

今の「声優さん」も、学校のカリキュラムでお芝居をやってはいるんだと思います。でも劇団の人は「芝居」にどっぷり漬かっているわけだから、やっぱりそこの差は表れてくると思います。声をつぶす人がいると、感じちゃいますね。
若手の声優さんたちから、相談を受けることはありますよ。もちろん私で答えられる範囲では答えます。でも自分から言うようなことはしません。彼らにとっても、大きなお世話ですからね。ウルサい、なんて言われてもイヤだし、つまんないでしょ(笑)。
自分はこれまで40年以上やってきて、自分で「変わったな〜」って思うようなところは驚くほどないんです。変わらないと思いますよ。年を取っているとも思わないんです。いつの日からか、年は誕生日のたびに捨てているんです。だから、若い人たちがいつの間にか追い越していきますよね(笑)。自分としては、この先もきっと変わらないですよ。世の中の変化に合わせて、変わっていくべきところ、取り入れていくべきところはあるのかもしれません。でも野沢雅子個人としては「変わってないなあ」と思うんですよ。考えると、まさに妖怪の世界ですよね。

今まで数多くの役を演じてこられた野沢さんですが、これまでのなかで、あえて印象に残った役を選ぶとしたら?

よく聞かれるんですが、ひとつだけ選ぶことができないんですよ。あえて選ぶとしたら、3つは同じくらい印象に残っているんです。そのうちのひとつが鬼太郎で、もうひとつは『銀河鉄道999』の鉄郎、あとは『ドラゴンボール』の孫悟空。この3つは、甲乙が付けられないんですよ。
共通して言えるのが、世の中の非常に多くの人たちに愛されたキャラクターだということです。「週刊文春」とか「週刊新潮」まで、鬼太郎の特集を組んでいたんですよ。あの当時では、とても考えられなかったことなんです。今では珍しくもないアニメのイベントも、鬼太郎が初だったと思います。全国どこに行っても、この3人は誰もが知ってくれていた。これってすごく嬉しいことなんです。

でもこの3作品に関しても「これはヒットするな」というような予感は全然ありませんでした。一回も考えたことないですね。考え始めたら、逆にプレッシャーになっちゃいますから。ヒットは後から付いてくるものだと思います。
後から聞いたのですが、『ドラゴンボール』の悟空役は鳥山(明)先生がみずから決めてくださったんだそうです。私も『ドラゴンボール』のオーディションのとき、鳥山先生の絵を見て、すごくいいなあ〜と思ったんです。前作の「アラレちゃん」の脚本も読んだことがあって「ヒットしそうだな」って思ったことがあった。自分の作品に関しては(ヒットの有無は)考えないんですけれど、人の作品は客観的に見られますから。だから鳥山先生のことは存じていました。鳥山先生も私の名前はご存じだったようなのですが、名前に左右されないように、録音したテープは名前を伏せて聞いてもらっていたそうです。そうしたら「悟空役はこの人しかいない」って言ってくださったそうでその言葉は、今でも私の宝物ですね。

今回DVD化される『ゲゲゲの鬼太郎』第1〜2部をご覧になる方に、この鬼太郎で何を感じてほしい、などのお考えはありますか。

鬼太郎クンって、ひと言でいえば『ガキ大将の優等生』なんです。正義漢で、弱い者をいじめることは大嫌い。一見優等生っぽいけど、父親をけなされてすねてしまうところなど、子供っぽいところは山ほどあるんです。あと妖怪たちと戦っていても、結構負けていますよね。演じていてハラハラすることはしょっちゅうある。それでも「ダメなものはダメ、いいものはいい」というのがハッキリしている。人間と変わらないごく一般的にいる普通の少年なんです。だからいいんです。
「父さん、茶碗風呂が沸きましたよ」というセリフが、大好きなんですよ。この茶碗風呂が、またキレイな茶碗じゃなくヒビが入りかけていて、でも大切にされている。そして、父さんのためにいつもお風呂を入れてあげている少年。今の世の中の親子関係よりも、ずっとあるべき姿に近いですよね。ねずみ男も愛すべき人。ちゃらんぽらんだけれど、でも助けてくれたりもするじゃないですか。妖怪の話ながら、そんな信頼関係、人間関係が鬼太郎の世界にはあるんです。だからこそ、今こそ皆さんに鬼太郎を見てくださいと言いたい。世の中が変わっても、変わってほしくないものが詰まっています。大人もこの作品から学ぶことはたくさんあると思う。できれば親子三代で見てほしいですね。『ゲゲゲの鬼太郎』は、それができる作品だと思います。



※4

71年10月7日〜72年9月28日放映

ゲゲゲの鬼太郎 第2部の世界

gegege no kitaro second season





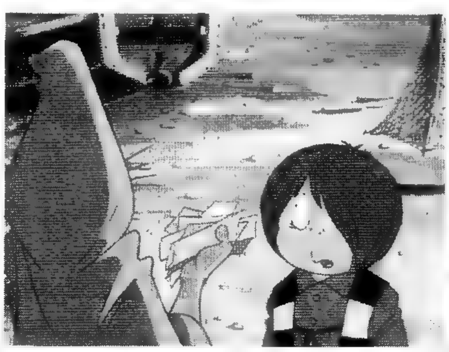
『週刊文春』などでも特集が組まれるほどのブームを巻き起こした第1シーズン『ゲゲゲの鬼太郎』は、69年3月にその幕を閉じた。しかしその余波は残り、「鬼太郎」に関して当時としては珍しいアニメのイベントも各地で開催される。さらに妖怪マンガに妖怪特集、妖怪アニメ、映画『妖怪大戦争』(68年)に代表される妖怪特撮ものなどが続々生まれ"妖怪ブーム"社会現象のレベルにまで達していった。そんななか2年半の歳月を経て、71年10月、第2シーズンがスタートする。それは前作のテイストを引き継ぎながらも新たな境地を切り開いた点で、ブランクの短さが生んだ理想的なリメイク作品だった。

妖怪たちがカラーで甦る

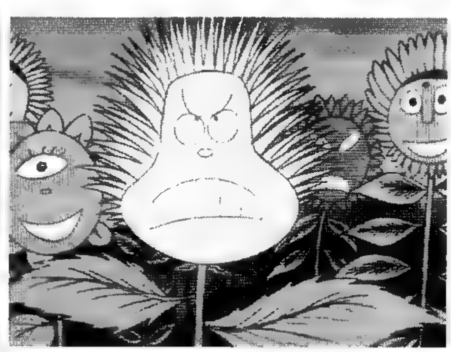
カラー化の余波で鬼太郎がアクティブに

第1シーズンの終了より約2年半の月日を経て、鬼太郎がカラーで甦った。メイン3人のキャストも変更なし。製作スタッフも第1シーズンの面々が、社会派の名作アニメ『タイガーマスク』の製作を経て、骨太になり戻ってきた。ここに水木しげる原作の雰囲気を残しながら、やや大人向けの新たなテイストを盛り込んだ、新『ゲゲゲの鬼太郎』が誕生する。

ミミズやゲジゲジなどの虫が集まってくる、口から蛇を出すなどの"ゲテモノ描写"は減り、モノクロ時代特有のおどろおどろしさは影を潜める。基本的に妖怪のデザインは前作を踏襲。そのうえで、妖怪の色や鬼太郎の服の色についての検討がなされた。その結果、鬼太郎はアクティブになり、女装やメキシカンなど明るい色使いのコスプレが増加する。さらに、カマボコになるなどの遊び心や柔軟性も生まれていった。カラー化されて間もないTVアニメ製作現場において、カラーでこそ楽しめる要素を的確に導入していったスタッフたちのセンスと研究熱心さには、感嘆せずにはいられない。



メインキャストは前シーズンと変わらず野沢雅子・大塚周夫・田の中勇の3人。当然息はピッタリ。



色合いは当時のカラー作品の例にもれず、原色系が強く、鮮やかさのなかにドギツさが感じられる。



鬼太郎の扮装の幅は驚異的に広がり、トランクになったり女装したり……。カラー化を楽しんでいる。



交通渋滞など社会への警鐘を含んだ第14話「怪自動車」など、少し大人向けのプロットが増える。

社会風刺を盛り込んだ珠玉のストーリー

カルト臭、アングラ臭のなかにメッセージ性あり

71年は高度経済成長が円熟期に入り、そのマイナス要素である公害問題、ゴミ問題、過密・過疎問題などがクローズアップされていた時期である。そんななかで、社会派テーマを盛り込んだ『タイガーマスク』の製作に当たっていた「鬼太郎」第1シーズンのスタッフが、大きくスキルアップしてカムバック。それにより、夢の島のゴミ問題やハエの大量発生事件から第28話「あかなめ」や、人間の限りない欲望を皮肉った第18話「幸福という名の怪物」など、社会派テーマに寄った作品が生まれてくる。

そしてその方向性は、原作の選定にも当てはまる。ストックが底をつきつつあったマンガ版の鬼太郎を補完する形で、他の水木短編に原作を求めたのである。それにより鬼太郎は、“主人公”より、狂言回し的な役割が求められる場面が増える。第37話「地相眼」、40話「原始さん」など、旧来の鬼太郎より重厚なテーマを扱った原作や、第10話「アンコールワットの亡霊」、第35話「イースター島奇談」など、世界の現存ミステリーをモチーフにしたミステリアスな原作などは脚本にも色濃く反映され、全シーズンのなかでも独自の境地を切り開いていく。さらに、タブーを犯した人間が祟りに遭い命を落とす、などの怪奇系描写が増えていることも見逃せない。漂うカルト臭、アングラ臭のなかに感じられる強いメッセージ性が、第2シーズンのストーリーの特徴なのだ。



[illegible]



聖地を侵した人間が祟りに遭う、第43話「足跡の怪」。トラウマになりそうなグロさだ。

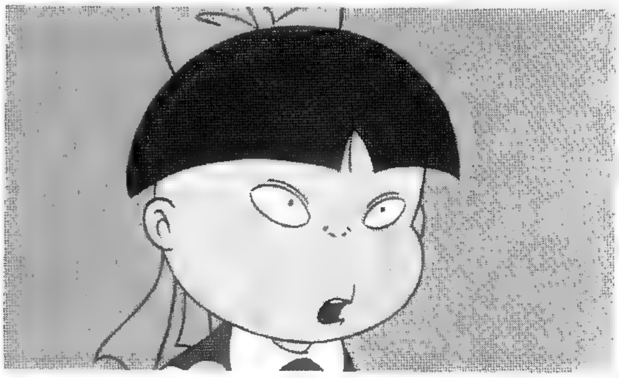


自然破壊への直接的メッセージが込められた「原始さん」のときも、鬼太郎は何もできず。

ネコ娘のレギュラー化と鬼太郎ファミリーの前身

“鬼太郎を取り巻く仲間たち”が徐々に定着

第1部では1エピソードのみに登場したゲスト妖怪であったネコ娘が、鬼太郎の幼なじみとしてレギュラーに昇格。それにより、鬼太郎の日常生活の描写が大きく広がった。さらに、砂かけ婆や子泣き爺、一反もめんなどが、鬼太郎の仲間として徐々に定着してくる。しかし彼らが“鬼太郎ファミリー”としてつねに鬼太郎と行動を共にするまでには、まだ13年もの月日を要した。この時点では、鬼太郎親子の求心力に惹かれて集まってきたというより、同じ“妖怪仲間”としてツルんでいるといったイメージが強い。



第1シーズンでは友達がねずみ男のみだった鬼太郎も、ネコ娘の存在でずいぶん救われたはず。その分ねずみ男の役割が微妙に変わってきている。

「鬼太郎」の切り開いた地平の先にあるもの

アニメ・SFブームの源流としての鬼太郎

第1〜2シーズンの鬼太郎は、“妖怪”というオカルト・ファンタジー的要素をアニメ界に持ち込んだ。さらに『ゲゲゲの鬼太郎』シリーズと同じスタッフが移行して製作した作品『デビルマン』(72年)のスマッシュヒットにより、そこにヒーロー的要素が加味され、大学生以上のアニメ・SFブームの先駆けとなる。それらの作品の“少し大人向けの演出技法”が『マジンガーZ』(72年)、『宇宙戦艦ヤマト』(74年)から、今なお名作と語り継がれる『機動戦士ガンダム』(79年)へと続く、巨大なアニメブームの潮流を生み出していく。



「鬼太郎」を見て育った世代が、後の“大人のアニメ・SFブーム”を支えていく。端的に言えば「アニメファンが大人になった」と言えるかもしれない。

【第001話】

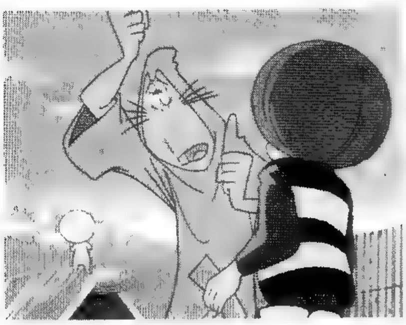
妖怪復活

1971年10月7日放映

STORY

鬼太郎復活！　迫る泥田坊の群れ

行方不明の鬼太郎を探していたねずみ男は、ネコ娘に鬼太郎の居場所を聞いて、ある漁村に向かう。そこでねずみ男が見たものは、妖怪退治をせずに漁村で居候しながら干物を作る、のどかな鬼太郎親子だった。聞けば妖怪退治から身を引いて、晴耕雨読の生活に入っているという。だがその漁村に妖怪・泥田坊が出現。「田を返せ」と叫びながら口から吐く液体で漁船を転覆させ、人々を固めてしまう。やむなく泥田坊と対決する鬼太郎は体内電池を発火させて、泥田坊を船ごと爆破する。しかし、消滅したかと思われた泥田坊は、雨が降るとたくさんの小さな泥田坊となり、復活してしまった。



原作

「泥田坊」では、航空基地ができて弾圧された農民たちの死霊が泥田坊となり事故を引き起こす。鬼太郎の「コブおとし」という技も見られる。

演出●白根徳重　**脚本**●雪室俊一　**作画監督**●生頼昭憲

【第002話】

妖怪反物

1971年10月14日放映

STORY

妖怪を反物にするチー。その正体とは!?

ぬりかべをはじめ日本の妖怪たちが、丸薬によって反物に変えられてしまう。そのころ鬼太郎のもとに、ある少年が訪れていた。両親がある反物屋から購入した布で作ったハンテンを着たところ、山に入って戻ってこないという。その布が妖怪反物であると看破する目玉おやじ。次々と妖怪を反物にする敵の正体は、妖怪反物を着せて人々を意のままに操り、日本征服を企む中国の妖怪・チーだった。鬼太郎たちはチーの城に侵入。ところがチーと対峙した鬼太郎も、奮戦むなしく反物に変えられてしまう。そこで目玉おやじは鬼太郎を元に戻すべく、中国妖術に詳しい井戸仙人のもとを訪れる。



原作

「妖怪反物」を、ほぼ忠実にアニメに再現。ただし原作では、サトリが人の心を読む能力で、チーに会うや否や企みを見抜き、鬼太郎のもとへ。

演出●西沢信孝　**脚本**●安藤豊弘　**作画監督**●我妻宏

【第003話】

妖怪大裁判

1971年10月21日放映

STORY

鬼太郎に仕掛けられた百々爺のワナ

映画会社に営業に来たねずみ男は、妖怪映画の企画を提案。鬼太郎の名をかたって妖怪パーティを開催した。その様子を撮影した映画は大ヒットするが、妖怪の生態を知られることは禁忌であったため、鬼太郎は罪を着せられ妖怪裁判にかけられてしまう。これは鬼太郎に取って代わろうとする妖怪・百々爺のワナだった。妖怪ポリスに引っ立てられた鬼太郎を救おうと奔走する目玉おやじだったが、傍聴席のほとんどの妖怪たちも百々爺の手中にあった。そしてねずみ男の偽証もあり、鬼太郎に妖怪刑500年の判決が言い渡される。しかし鬼太郎はみずから濡れ衣を晴らすべく、刑執行前に脱走した。



原作

「妖怪大裁判」をほぼ忠実に再現。ただし、オチメ映画株式会社の撮ったフイルムはTV会社に売られたらしく、TVで放映されている。

演出●山口康男　**脚本**●三芳加也　**作画監督**●窪詔之

【第004話】

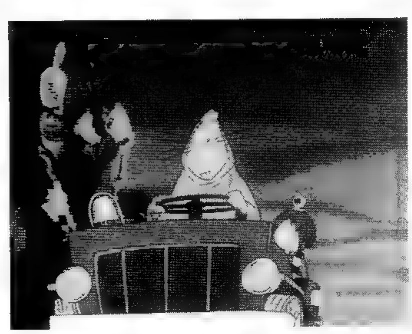
雨ふり天狗

1971年10月28日放映

STORY

手術室でメスを向けられた目玉おやじ

天狗村に完成したドライブウェイでは、暴風が発生し人間が消える現象が多発していた。調査を開始した鬼太郎たちが現場の風人峠を訪れると、人間の自然破壊を憎む天狗が現れる。天狗の攻撃をかわした鬼太郎の毛針で、天狗は片目をやられて退散した。その直後に村では、鬼太郎たちが泊まっている病院の医師が天狗の来訪を受ける。負傷した目を治すよう迫られ、医師は目玉おやじを使って目を入れ替えようとする。注射を打たれ手術室に運ばれた目玉おやじにメスが入る寸前、鬼太郎とネコ娘がこれを阻止。鬼太郎は再度天狗と戦う。その時、雷雨が降り始め、天狗の体に変化が現れた。



原作

「雨ふり天狗」では、指鉄砲で天狗の目を潰したり、目玉おやじの手術が行われてしまって犠牲になるなど、アニメに比べて多少過激な描写。

演出●田宮武　**脚本**●辻真先　**作画監督**●白土武

【第005話】

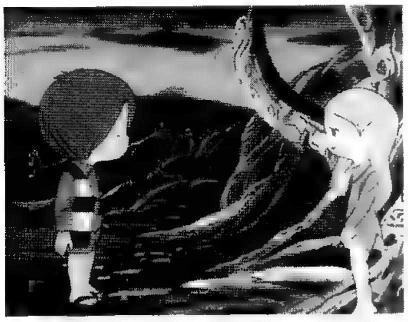
あしまがり

1971年11月4日放映

STORY

再開発で絶滅寸前、妖怪花の運命は!?

ネコ娘とねずみ男は、それぞれの目的地に向かって珍しく道中をともにしていた。しかしネコ娘が向かった妖怪花の花畑は、ホテルなどのリゾートとして乱開発されていた。たった一輪残った花を、ホテルの鉢に植え替えてやるネコ娘。するとホテルでは人々に奇行が発生し、これを調査するため鬼太郎が呼ばれる。その夜、妖怪花の精が鬼太郎の夢の中に現れた。彼女は自分たちがホテルの乱開発によって絶滅寸前であると訴えていた。妖怪花をかばう鬼太郎に、ホテル側についたねずみ男は妖怪・あしまがりを呼ぶ。そしてあしまがりが操る怪しい雲により、鬼太郎は捕らえられてしまう。



原作

「妖怪花」をほぼ忠実に再現。ただしネコ娘は登場せず、最後の一輪を植え替えるくだりはない。あしまがりの倒し方などは、ほぼ同じ。

演出●高畑勲　**脚本**●柴田夏余　**作画監督**●森利夫

【第006話】

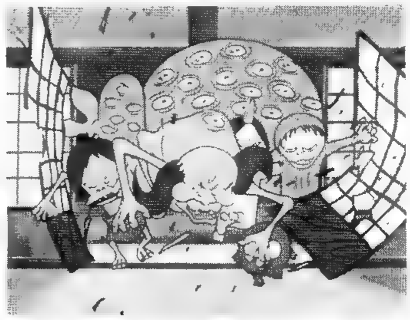
死人つき

1971年11月11日放映

STORY

ねずみ男、美しい娘に求婚される!?

夜道を行くねずみ男に声をかける美しい娘。彼女はねずみ男に結婚を申し入れてきた。相手は町長の娘であり、ネコ娘や鬼太郎たちはどこかに違和感を感じる。そこで真相を確かめようと町長の家を訪れた鬼太郎たちは、驚愕の事実を知った。娘は、３日前に病気で亡くなっていたのだ。安置されている娘を見て、鬼太郎は魍魎が憑いているかもしれないと弔いに来た坊主に話すが、証拠もないと追い出されてしまう。その夜、娘は急に立ち上がり、恐ろしい形相で坊主に襲いかかった。町長に魍魎退治を依頼された鬼太郎は、魍魎憑きの娘と対決。そこへほかの魍魎たちが、大群で現れる。



原作

鬼太郎以外の水木作品『異形の者』『死人つき』をモチーフにした作品。『異形の者』では魑魅魍魎は“妖姥(やまんば)”と呼ばれている。

演出●茂野一清　**脚本**●安藤豊弘　**作画監督**●国保誠

【第007話】

猫又

1971年11月18日放映

STORY

長く生き、妖怪となっても主人を想う！

ボロゴン島からの客人・バンダは鬼太郎に、50年以上生きている飼い猫・ジータの殺害を依頼してきた。島の言い伝えでは、猫は50年生きると妖怪・猫又になるという。この猫又のせいで、一人娘が結婚できないというのだ。一方、バンダの家の前では、ある僧侶が行き倒れていた。介抱された僧侶は娘を狙っているのは妖狐だといい、娘に呪術をかける。それにより顔半分が黒くなった娘はショックで寝込んでしまう。ねずみ男は呪術の解き方を盗み聞きし、娘との結婚を条件に顔のあざを消した。すると妖狐が出現。鬼太郎の攻撃は効かず、とうとう娘はさらわれてしまう。そこに娘を守るためジータが現れる。



原作

鬼太郎以外の水木作品『猫又の恋』が原作。猫語を研究している青年が、「不思議な猫のフン」のうわさを聞いてボロゴン島に行く。

演出●新田義方　**脚本**●雪室俊一　**作画監督**●大工原章

【第008話】

マンモスフラワー

1971年11月25日放映

STORY

ところで君たちのうちは大丈夫？

ゴミが山積みされた夢の島に、突如巨大な花・マンモスフラワーが出現。猛烈な勢いで東京中に生い繁っていく。駆除しようにもその茎は固く、ブルドーザーでも歯が立たない。対策本部の人間が鬼太郎を訪ね、マンモスフラワーを駆除してほしいと大金を積むが、鬼太郎はこれを拒否。しかし不潔にしていたねずみ男の背中にも、マンモスフラワーが発芽してしまう。ますます増える花には空軍のミサイルも効かない。事態を打開すべく、目玉おやじは妖怪・あかなめに連絡を取った。鬼太郎はあかなめに会うために、東京湾へ。しかし、水中で対峙したあかなめの返答は、厳しいものだった。



原作

鬼太郎以外の水木作品『マンモスフラワー』は、物語自体が今の世の中と政治家に不満を持った、夢の島に勤める臨時清掃員の白昼夢だった。

演出●紫木登喜司　**脚本**●辻真先　**作画監督**●我妻宏

【第009話】

髪さま

1971年12月2日放映

STORY

生け贄の島で髪の毛の大群が暴走！

鬼太郎宅で留守番するねずみ男のところに、１羽のカラスが助けを求めてきた。可愛がってくれた少女・花子が「髪様」と呼ばれる神への生け贄になってしまうのを、助けてほしいという。ねずみ男は島に向かい、花子を助け出すことに成功。しかし髪様に仕える神主の妖怪・毛目玉に捕まってしまい、代わりに生け贄にされる。しかし髪様は満足せず、村長に、代わりの生け贄100人をよこすよう命じてきた。その約束が果たされないので、激怒した髪様は、島民の髪の毛を頭から分離させて操り始める。そのころ島から逃げた花子に話を聞いた鬼太郎とネコ娘は島に向かい、髪様と対決する。



原作

「髪の毛大戦」では髪様が村を占領しており、鬼太郎が「八タの鏡」のある場所に着いた時には居なかったので、戦わずして鏡を割れた。

演出●山口康男　**脚本**●柴田夏余　**作画監督**●江藤文男

【第010話】

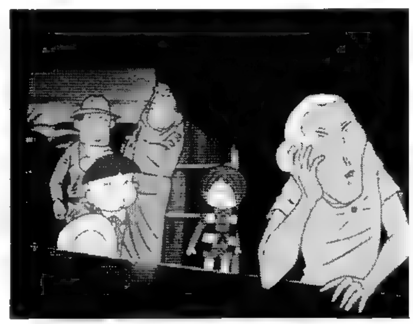
アンコールワットの亡霊

1971年12月9日放映

STORY

うるう年に徘徊する亡霊に隠された悲話

カンボジアの遺跡・アンコールワットでは、４年ごとに鎧武者の亡霊が出現するという。武者の亡霊にさらわれた娘を助けてほしいと頼まれ、鬼太郎たちは現地を訪れる。現地の警察によると、武者の亡霊による誘拐事件は４件発生していた。鬼太郎が事件の行方を追うと、「死の村」という廃村にたどり着く。鬼太郎親子はそこへ向かうが、その迷路のような路地を見た目玉おやじは、ここは日本人が作った街だと謎の指摘をする。そして古井戸を覗き込んだ途端、鬼太郎は井戸の中へ突き落とされた。冷たい水で凍えながら犯人の話を聞く鬼太郎だったが、ついに力尽き、水の中へ沈んでしまう。



原作

鬼太郎以外の水木作品『アンコールワットの女』では、行方不明の女性は４年後に戻ってくるが、本人の中では数分間の出来事だったという。

演出●西沢信孝　**脚本**●雪室俊一　**作画監督**●白土武

【第011話】

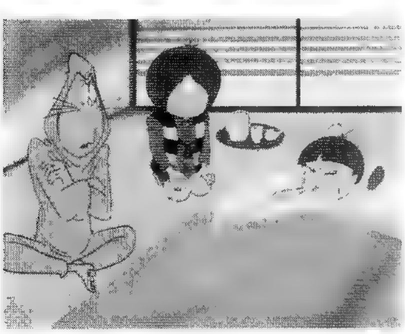
土ころび

1971年12月16日放映

STORY

鬼太郎のエネルギーが狙われた！

ガソリン輸送車に乗せてもらったねずみ男が山中で降りると、車の前に妖怪・土ころびが出現。運転手は驚いて逃げてしまい、残ったガソリンを飲む土ころび。じつはねずみ男は土ころびとグルであり、土ころびにガソリン料金を請求する。一方ねずみ男から温泉へ招待されていた鬼太郎は、ひとり温泉地へ向かった。その地では怪物が出るため、客足が遠のいているという。ねずみ男が宿の主人に怪物退治料を要求しているころ、その地にある発電小屋で、鬼太郎も妖気を感じていた。そこにネコ娘の悲鳴が聞こえてくる。なんとネコ娘は土ころびにエネルギーを吸い取られ、老婆になってしまっていた。



原作

「土ころび」では土ころびは元人間で、工場排水が混ざった水を飲み続けた結果、巨大な肉塊に変化したという設定。やられ方などは同じ。

演出●白根徳重　**脚本**●安藤豊弘　**作画監督**●野田卓雄

【第012話】

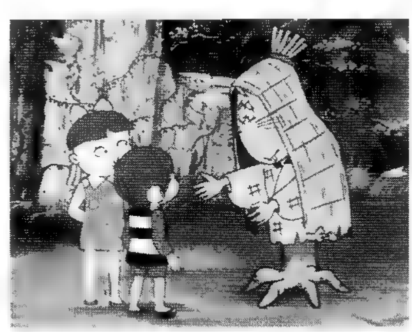
やまたのおろち

1971年12月23日放映

STORY

「解放石」に触った者は、捕らわれる！

八俣大蛇を探していたねずみ男は、呼子という妖怪の存在を教えられる。そして山中でねずみ男が遭遇したのは、足が根になった妖怪・呼子だった。呼子が持つ大きな宝石に目がくらんだねずみ男は、その石「解放石」に触り中に吸い込まれてしまう。しかも石の中には、八俣大蛇がいて襲い掛かってきた。ねずみ男は呼子に懇願して出してもらったが、その代償として呼子と入れ替わり、足が根になってしまう。解放されたいために次の身代わりを探すねずみ男は、助けにきた鬼太郎たちをだまして解放石に触らせる。そして石に吸い込まれた鬼太郎たちに、八俣大蛇が襲いかかった。



原作

鬼太郎以外の水木作品『やまたのおろち』は、八俣大蛇に興味がある子どもが山の中で呼子にだまされ、身代わりで呼子になってしまう話。

演出●茂野一清　**脚本**●辻真先　**作画監督**●大工原章

【第013話】

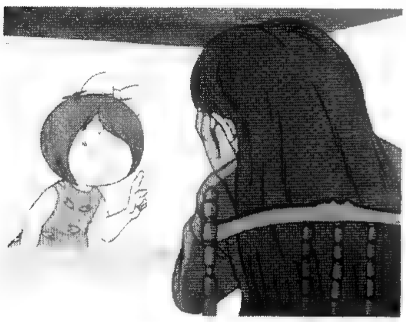
かまぼこ

1971年12月30日放映

STORY

鬼太郎、なんとかまぼこになる!?

鬼太郎は半魚人に食われそうになったカメを救い、半魚人の手下・巨大イカに食われてしまう。そこで鬼太郎は巨大イカの意識を支配。魚を100ｔ獲れば元に戻すという半魚人の言葉を信じ、魚を獲り続ける。その魚でかまぼこを作り大金持ちになった半魚人は、鬼太郎イカをもだまして爆破。その肉片もかまぼこにしてしまう。目玉おやじたちはそのかまぼこを買い占め、妖怪病院へ。復活した鬼太郎は半魚人の家に忍び込み、半魚人をそそのかし人間になる手術を受けさせる。人間になった半魚人のもとには税務署や保険勧誘員が押し寄せ、そのわずらわしさに半魚人は人間になったことを後悔するのだった。



原作

「かまぼこ」を忠実にアニメに再現。妖怪から人間になり後悔する半魚人に対して、人間として永遠に苦しめと鬼太郎が言うシーンがある。

演出●設楽博　**脚本**●柴田夏余　**作画監督**●菊池城二

【第014話】

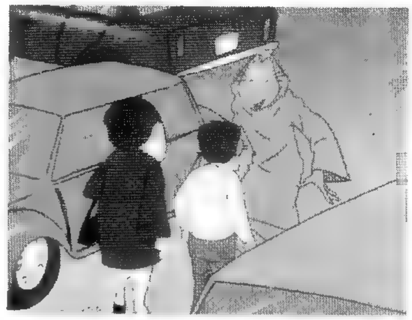
怪自動車

1972年1月6日放映

STORY

人食い藻屑でできた暴走自動車はいかが？

激安車を買った夫婦がその車に乗り込むと、車が勝手に走り始めた。そしてその「怪自動車」は夫婦を乗せたまま、池の中に飛び込んでしまう。夫婦が「マイカーを持たない」と池の中で宣言すると、ようやく車のドアが開き解放される。これは、マイカーブームのせいで、毎日犬がひき殺されることに怒った妖怪・すねこすりの仕業だった。人食い藻屑で作られた怪自動車を操り、車を持ちたがる人々に罰を与えていたのだ。事件の解決に乗り出した鬼太郎は、暴走する怪自動車を発見。トランクの中に忍び込むが、そこでは妖力がまったく効かず、人食い藻屑が待つ池の中に引きずり込まれてしまう。



原作

鬼太郎以外の水木作品『妖怪自動車』が原作。わずか７Ｐの短編で、妖怪自動車を購入した夫婦は、山に連れて行かれ、食べられてしまう。

演出●山本寛巳　**脚本**●三芳加也　**作画監督**●白土武

【第015話】

牛鬼

1972年1月13日放映

STORY

鬼太郎が凶暴な牛鬼に変身してしまう！

ねずみ男と少年たちは、立ち入り禁止である牛鬼岩の周りで釣りをしたため、妖怪・牛鬼の怒りをかう。町まで追って来た牛鬼を倒そうと町民たちが攻撃するが効果なし。駆けつけた鬼太郎が退治したものの、今度は鬼太郎が牛鬼に変身してしまう。牛鬼は、退治されると本体が体から抜け、退治したものに乗り移る厄介な妖怪だったのだ。鬼太郎の危機を知った目玉おやじは、かつて牛鬼を封じた迦楼羅（かるら）様を住民みんなの念力で呼び出すしか道はないと断言。出現した迦楼羅様により、牛鬼は桜山へ誘導され、燃え盛る火口へ落ちていく。鬼太郎は自分の妖力によって、火口から復活してきた。



原作

「牛鬼」では、牛鬼の正体は、細胞を変化させる生きた気体であり、生物が死ぬと最も近くの生物に寄生する、と迦楼羅様が鬼太郎へ説く。

演出●西沢信孝　**脚本**●安藤豊弘　**作画監督**●江藤文男

【第016話】

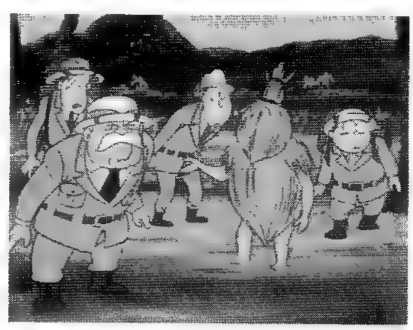
南からの招き

1972年1月20日放映

STORY

テレパシーを持つガマ人が息子を呼び寄せる

毎日同じ秘境を探検する夢ばかり見るという男・疋田が、鬼太郎のもとに相談に来る。人間を夢で呼び寄せる能力を持った怪物を研究している大学教授が、疋田の夢はその超能力で見せられていると断言して、その怪物がいるというニューギニアへの冒険に同行するよう求められたという。鬼太郎も疋田に同行を求められ、快諾。ニューギニアに着き河を進むと、疋田の夢と同じ沼にたどりつく。しかし一行は、その集落でガマガエルの外見で人語を話すガマ人に襲われてしまう。水上で行き場をなくす一行だが、鬼太郎の体内電気でガマ人を一網打尽にする。そこに疋田の父親だと名乗るガマ人が現れた。



原作

鬼太郎以外の水木作品『南からの招き』が原作。ガマ人と交わるなど生活を共にすることで「呼ばれた人」は徐々にガマ人になっていく。

演出●山口康男　**脚本**●辻真先　**作画監督**●生頼昭憲

【第017話】

縁切り虫

1972年1月27日放映

STORY

縁切り虫が戦争まで起こしちゃう!?

刺されたら人間嫌いになる虫・縁切り虫がある結婚式に現れ、新婦が刺されて突然離婚宣言した。その場で縁切り虫を捕まえたねずみ男は「縁切り問題相談所」を開設。相談所に来た男性から「世界平和会議で縁切り虫を使えば、戦争になり武器会社の株が高騰して大儲けできる」とそそのかされる。そんな一大事に、ねずみ男に縁切り虫の実験台にされた鬼太郎は、目玉おやじに暴言を吐いてふて寝する始末。ネコ娘は強引に鬼太郎を平和会議へ連れて行く。火山の硫黄を吸い正気に戻った鬼太郎は、縁切り虫により混乱した会議場に硫黄臭を注ぎ込む。参加者は正気に戻り、会議は無事に終了した。



原作

鬼太郎以外の水木作品『縁切り虫』は、さえない男が縁切り虫を捕まえ、離婚相談所を開業。成功するが最後に虫に逃げられ、絶望だけが残る話。

演出●設楽博　**脚本**●雪室俊一　**作画監督**●白土武

【第018話】

幸福という名の怪物

1972年2月3日放映

STORY

欲望で"幸せ"にはなれません！

山で拾った不思議な玉を鬼太郎の家に持って行くネコ娘。それは妖怪が持つと単なる玉だが、人間が持てば欲を吸って巨大化し、最後は爆発する危険な地獄玉だった。鬼太郎は目玉おやじにその玉を井戸に捨てるように言われるが、ねずみ男のワナにはまり渡してしまう。さえない男・中村を見つけたねずみ男は、地獄玉を夢が叶う魔法の玉だとうそをつき、出世払いで売りつける。中村が試しに出世を願うと叶い、妻にも宝くじが当たる。玉を信じる妻は外出時も持ち歩き、奪い返そうとしたネコ娘も失敗。ところが、人より巨大化した玉は爆発し、豪邸など欲で得たものすべてを消し去ってしまった



原作

鬼太郎以外の水木作品『幸福という名の怪物』では、幸福の卵が孵化して幸福という名の怪物が産まれ、怪物を成長させて欲望を叶える話。

演出●茂野一清　**脚本**●安藤豊弘　**作画監督**●国保誠

【第019話】

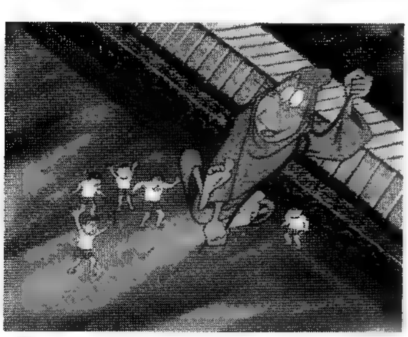
釜鳴り

1972年2月10日放映

STORY

妖力を奪う強敵・釜鳴り登場！

鬼太郎はバランスを崩して崖を転げ落ち、その拍子に化け釜に頭がはまり、髪の毛を奪われてしまう。妖力の源である髪の毛が抜け、人間の子ども並みに弱ってしまった鬼太郎を救うべく目玉おやじは髪の毛を取り戻しに行く。一方、ねずみ男は妖怪ポストの依頼に応え、子どもの行方不明が続発する釜ヶ原へ。そしてそこにいた化け釜に飲み込まれてしまう。釜の中は異次元になっており、目玉おやじや子どもたちもそこにいた。目玉おやじが釜の中から妖気を送り、気づいた砂かけ婆は妖怪アパートの住民を駆り出して化け釜の正体・釜鳴りを攻撃。鬼太郎の髪も戻り、釜の中の人々も無事救出された。



原作

「釜なり」では、平凡な釜が鬼太郎の髪を吸い込んだことで、文福茶釜風の古い釜に復活するが、鬼太郎に髪を取り戻されると元の釜に戻る。

演出●山本寛巳　**脚本**●辻真先　**作画監督**●江藤文男

【第020話】

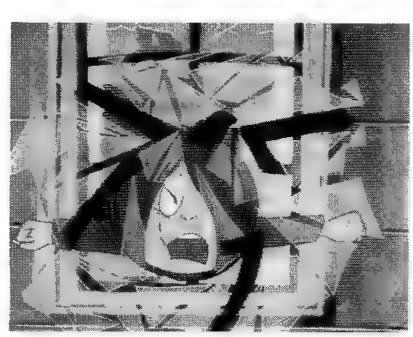
ふくろさげ

1972年2月17日放映

STORY

妖怪の敵・ふくろさげをやっつけろ！

山でお宝を探す２人の泥棒と会ったねずみ男は、古代の地図からつぼに入った妖怪・ふくろさげを発見。ふくろさげは、人間の要望には何でも従うが、妖怪エネルギーを吸い取るので、妖怪は近づけない危険な妖怪だった。ふくろさげのおかげで銀行から大金を盗めた泥棒たちは、ふくろさげが満足するよう鬼太郎の妖怪エネルギーを吸収させようと、鬼太郎をホテルに呼び出す。鬼太郎は体に入り込んだふくろさげを倒すため、プールに飛び込み体電気をフル放出してふくろさげを苦しめる。弱ったふくろさげからエネルギーを吸い取った鬼太郎は、ふくろさげをつぼに閉じ込めることに成功した。



原作

「ふくろさげ」では、鬼太郎を襲ったふくろさげの欲が強すぎて、自分の体に入らないほどの強いエネルギーを吸い込んだために自爆した。

演出●西沢信孝　**脚本**●柴田夏余　**作画監督**●菊池城二

【第021話】

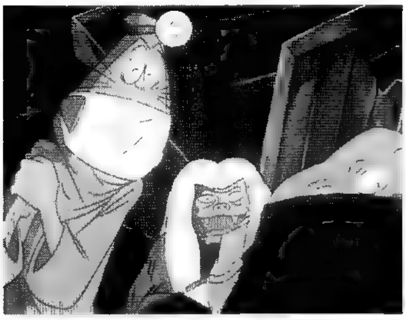
心配屋

1972年2月24日放映

STORY

“モーレツ社員”に効く特効薬はねずみ男？

製薬会社の社長が息子・凡太の無気力な姿を心配し、熱血社員にしてほしいと鬼太郎へ依頼する。人間の尊厳に関わることはしたくない、と断る鬼太郎親子。しかしお金儲けのチャンスを逃すまいとするねずみ男は、妖怪・バリバリの卵を体内に入れれば、平凡を非凡にできると目玉おやじから聞き出す。そして卵を見つけ「心配屋」を始めたところにその社長が訪れた。息子にバリバリを埋め込む手術を行うと、望みどおり凡太はモーレツ社員に変身。しかし度を超した働き方が不安になった社長は、今度は元に戻してほしいと頼む。鬼太郎がねずみ男の爪の垢を飲ませると、元の凡太に戻った。



原作

鬼太郎以外の水木作品『心配屋』では、凡太を元に戻す代金としてねずみ男は社長に1億円を請求。下剤でバリバリを下して、元に戻した。

演出●白根徳重　**脚本**●柴田夏余　**作画監督**●菊池城二

【第022話】

地獄の水

1972年3月2日放映

STORY

水神の秘密をつかんだ登山家が狙われる

ヒマラヤの水神の秘密を知った登山隊員・深谷を滅するために、水神使いが日本まで追いかけて来た。その力によって東京のビル街が高波に襲われるが、鬼太郎の妖力で水を引かせる。水神使いが姿を消したことを不審に思った鬼太郎は、水を飲んだ人の姿が消えたことで、水源地に水神がいるだろうと推測。水神の正体が、深谷が考えるように透明な細胞を持った高等液体動物ならば火で燃えるだろうと、ガソリンを撒いて燃やす方法を思いつく。そして水源地にいた水神使いを燃やすと、水神本体も燃え尽きていく。ようやく人々は姿が消えることを心配せず、安心して水を飲めるようになった。



原作

鬼太郎以外の水木作品『地獄の水』が原作。水神の秘密を知った父親が命を奪われ、息子が仇を討つ話。ガソリンで退治されるのは同じ。

演出●山口康男　**脚本**●雪室俊一　**作画監督**●山上武

【第023話】

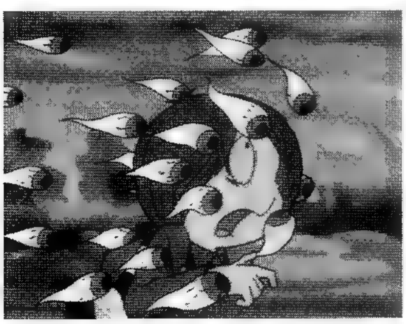
逆餅殺し

1972年3月9日放映

STORY

目玉おやじの妖術・逆餅殺しが炸裂！

母の遺体が妖怪・火車に盗まれたので取り返してほしいと、少年が鬼太郎に頼みに来た。それに対して目玉おやじは、鬼太郎でもかなわない妖怪がいると断ってしまう。少年が泣く姿に一念発起したねずみ男が遺体を取り返そうと火車に挑むが、簡単に魂を抜かれてしまった。そして火車に挑んだ鬼太郎もやはり魂を抜かれ、火車と体を入れ替えられてしまう。駆けつけた目玉おやじは火車の餅攻撃を逆手に取り、火車を目玉餅で襲った。火車は降参し、永久に穴ごもりするといって少年の母の遺体も返す。鬼太郎たちも復活し、目玉おやじは数年ぶりに妖術を使ったので、5年寿命が縮まったという。



原作

「逆餅殺し」の火車は自分の老いを主張し、昔の元気はないと繰り返している。勝負に負けた後も、死体を棺桶に戻す体力がなかった。

演出●白根徳重　**脚本**●安藤豊弘　**作画監督**●野田卓雄

【第024話】

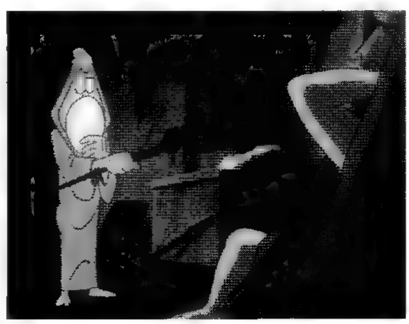
傘ばけ

1972年3月23日放映

STORY

ねずみ仙人が傘化けの願いを叶える!?

人間みたいに幸福になりたいと呟いた傘化けに対して、鬼太郎のちゃんちゃんこがあれば望みが叶う、と仙人のふりをしたねずみ男が助言。傘化けに追われた鬼太郎は砂かけ婆の妖怪アパートに逃げ込むが、傘化けが家に火を着けるので、ちゃんちゃんこぐらい貸してやれ、と砂かけ婆に責められ仕方なく貸してしまう。ちゃんちゃんこにより金持ちの子どもに変身した傘化けは、豪邸でワガママに暮らす。しかし、傘化けを妖怪だと教え、それを追っ払って親から金をふんだくろうとしたねずみ男の計画は、警察に見つかり失敗。傘化けも鬼太郎の機転で傘を燃やされて降参し、ちゃんちゃんこを返した。



原作

「傘ばけ」では、ねずみ男の悪巧みに利用された傘化けが、鬼太郎を熱光線で攻撃するものの、鏡で反射され傘が燃えて消滅してしまう。

演出●笠井由勝　**脚本**●辻真先　**作画監督**●菊地城二

【第025話】

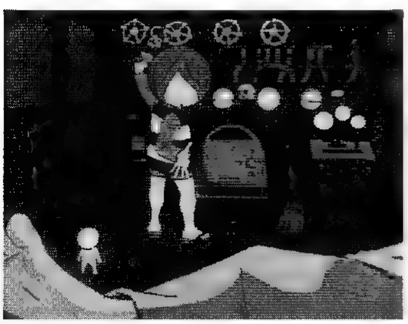
まぼろしの汽車

1972年3月30日放映

STORY

鬼太郎が吸血鬼になってしまった！

南方から来た吸血鬼ピーは、日本征服の拠点としてある村を襲う。助かった村人が鬼太郎に助けを求めに来た。村に行き、吸血鬼の嫌う鐘の音を鳴らそうとした鬼太郎は、吸血鬼となった村人たちにより、鐘の中に閉じ込められ蒸し焼きにされてしまう。そしてちゃんちゃんこに包まれて出てきた鬼太郎を、治してあげるとだまして持っていく美女が現れた。ところが彼女はピーの手下であり、鬼太郎は吸血鬼となって復活してしまった。息子の危機を救おうと、目玉おやじは時間を戻せる「まぼろしの汽車」を呼びよせる。それに無理やり乗せ、過去へと戻ることで鬼太郎と村人たちは正気に戻った。



原作

「まぼろしの汽車」をほぼ忠実に再現。原作では吸血鬼と化したねずみ男がピーの命令におびえたり、鬼太郎に義理を感じるなどやや正気を保つ。

演出●茂野一清　脚本●柴田夏余　作画監督●白土武

【第026話】

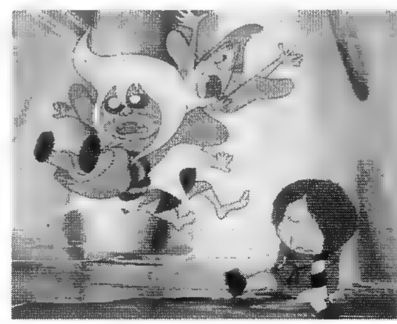
大首

1972年4月6日放映

STORY

巨大な首だけの妖怪が魂を求めて戦う

原因不明の「ポックリ病」で急死する、将来有望な若者たちが激増。妖怪・大首が優秀な魂を食べるため、骨女を使って魂を集めていたのだ。ねずみ男も急死し、墓を見張っていた鬼太郎たちは骨女と遭遇。一戦交えた後、ネコ娘は骨女を尾行するが、逆に何でも言いなりになる毒を盛られてしまう。ネコ娘は毒キノコを鬼太郎に食べさせようとするが、気づいた鬼太郎がキノコ鍋を捨て、事なきを得る。一方ねずみ男の魂は井戸に捨てられ、ねずみ男は蘇生。鬼太郎は仲間たちと敵の本拠地へ向かう。苦戦した鬼太郎だが、自分の唾液と胃液で作った特製風船で防御し、毒を使い大首を倒した。



原作

「大首」では、骨女の手下となったねずみ男が、妖怪アパートに自分の屁の缶詰を送りつけ、住民が喜んで開けると、衝撃で屋根が飛んだ。

演出●西沢信孝　脚本●雪室俊一　作画監督●生頼昭憲

【第027話】

いやみ

1972年4月13日放映

STORY

鬼太郎、骨抜きの色ボケになる！

山の中で冬眠していた妖怪・いやみが復活。居合わせたねずみ男は、いやみの吐き出す楽しみのエキス「イロ気」を吸って色ボケ状態になり、少女を誘拐する。さらに鬼太郎を誘い出したいやみは、イロ気を吸わせ鬼太郎をも骨抜きにしてしまう。そして人間の楽しみを吸ういやみのせいで人間たちは気力を失い、街は静まり返っていた。目玉おやじは鬼太郎の体内に入って汚された魂を取り出し、神社の水で洗い清める。それにより正気に戻った鬼太郎は誘拐された少女を救い出し、つるべ火で家ごと燃やす。そしていやみの集めた「楽しみ」の入った袋を解放し、街に活気を戻すことに成功した。



原作

「いやみ」では、いやみの吐く息を受けて、目玉おやじは風呂に入っても楽しくなく、鬼太郎は生きていたくない気持ちになってしまう。

演出●山本寛巳　脚本●安藤豊弘　作画監督●白土武

【第028話】

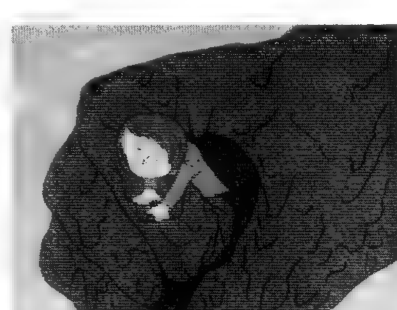
あかなめ

1972年4月20日放映

STORY

ゴミから生まれた妖怪が街を襲う

夢の島のゴミから、突如巨大な妖怪・あかなめが出現。東京の街を破壊し始める。火炎放射しても、あかなめは受けたものを吸収して体が巨大化するだけ。あかなめ自身も、街中をゴミで埋め尽くすまで止まることができないのだ。鬼太郎親子はあかなめと話し合おうとしたが、問答無用で呑み込まれてしまう。そこにゴミの増加によって人語を話すまで進化した知恵バエが、生命力が異常に強い古代の種を持ってくる。最後の願いを込めてネコ娘があかなめの体に種を埋め込むと、体内のゴミを養分にして一夜で巨木へと成長。その木の実が割れて鬼太郎たちは脱出し、東京は一面の緑に覆われた。



原作

「あかなめ」では、種を植える行為に危険を感じたねずみ男が猫子（ネコ娘）に種を託す。その結果、猫子もあかなめに呑み込まれてしまう。

演出●設楽博　脚本●辻真先　作画監督●小松原一男

【第029話】

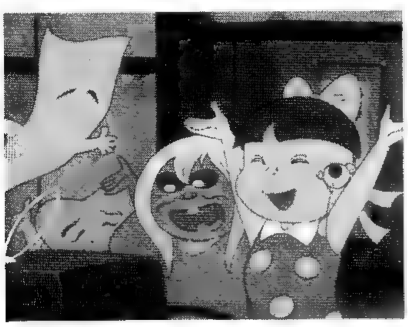
ダイダラボッチ

1972年4月27日放映

STORY

「伝説の巨人」の復活を防げ！

体をバラバラにされ、日本各地に封じられていた伝説の巨人・ダイダラボッチ。その復活を期す手下たちは、巨大な鍵を使って封印を解いて回る。鬼太郎はその鍵を奪うことに成功するが、すでに復活していた巨大な目に見張られ、わずかな隙に鍵ともどもさらわれてしまう。そして完全復活したダイダラボッチは、日本を食いつくそうとする。ダイダラボッチが体を脳みそで遠隔操作していると知った鬼太郎は、脳みそのある場所を発見して潜入。ダイダラボッチの手下と化していたねずみ男に谷底に突き落とされたが、手首から先をねずみ男にくっつけて残し、遠隔操作で脳みそを破壊した。



原作

「ダイダラボッチ」では、洞窟でコウモリに血を吸われて意識が戻った鬼太郎が、コウモリの先導でダイダラボッチの脳みその場所に行く。

演出●山口康男　**脚本**●柴田夏余　**作画監督**●国保誠

【第030話】

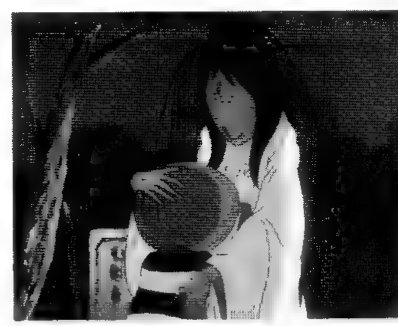
死神

1972年5月4日放映

STORY

人間が公害で滅びた後の地上の王者は？

人間亡き後の地上の王者を目指す死神は、じゃまになる鬼太郎親子を消そうと企んでいた。まずはねずみ男をだまして目玉おやじを拉致し、大砲に入れて空に飛ばす。続いて鬼太郎にはにせの母親を用意し、毒入りのジュースを飲ませる。しかし毒は効かなかったため、にせの母親を演じていた魔女は鬼太郎が寝ている隙に血を吸って殺そうとする。そして毒の入った血を吸って命を落とした。死神との戦いで鬼太郎は、死神の吐く息を浴びて老衰し、さらに魂を抜かれてしまう。逃亡する死神だが、空高く打ち上げられ巨大に膨張した目玉おやじが落ちてきて死神を包み込み、鬼太郎の魂を取り返した。



原作

「死神」では、死神は目に見えない地下を通ってやってくる"あの世交通公社"の汽車を使い、親のない子に親を与える運動をしていた。

演出●蕪木登喜司　**脚本**●雪室俊一　**作画監督**●森利夫

【第031話】

赤舌

1972年5月11日放映

STORY

赤舌が目玉おやじの策略にはまる！

水を自由に操る妖怪・赤舌は、王になるため鬼太郎を亡き者にしようと襲う。妖怪アパートごと飲み込む赤舌に仲間たちもみな水分を吸い取られ、ひとつの石になってしまった。全員の妖力をひとつにして、石のまま立ち向かう妖怪たちだが、一撃で粉々に打ち砕かれる。そこに遅れて駆けつけた目玉おやじは赤舌の手下になっていたねずみ男に、鬼太郎の遺体のうち、胃液だけは不老不死の妙薬のため、自分に欲しいと嘆願。それを奪い取り飲む赤舌だが、それは目玉おやじのワナだった。何でも溶かす胃液を飲んだ赤舌からは水が溢れ出し、みずから流されてしまう。その水分で妖怪たちも元に戻った。



原作

「赤舌」では、ねずみ男が集めた人間たちが大きな口の赤舌に飲み込まれ、体内の水分を奪われて赤舌の肛門から出て川に浮かぶ事件あり。

演出●高見義雄　**脚本**●安藤豊弘　**作画監督**●森利夫

【第032話】

目目連

1972年5月25日放映

STORY

見たものは総じて死ぬという無数の目！

祟りがあるという家を壊した工事現場の親方が、翌朝には無数の目の形をした妖怪・目目連に襲われて死んでいた。報酬目当てで目目連退治を買って出たねずみ男だが、目目連にマントに取り付かれて苦しめられる。そして鬼太郎は寝返ったねずみ男に、目目連が取り付いているあばら家に誘い出される。無生物を自在に操る目目連の能力で家ごと押しつぶされ、石に変えられてしまう鬼太郎。それを発見した目玉おやじは、妖力を使って石になった鬼太郎と会話する。そこで鬼太郎は目目連の倒し方を教えた。その作戦は光の妖怪である目目連をネコ娘が虫眼鏡で一つにまとめ、妖怪カメラで封じ込めるというものだった。



原作

「目目連」では、目目連を妖怪カメラに収めたあと、目目連に幽霊にされた鬼太郎が、蜃気楼の中の世界へ妖怪カメラを捨てに行った。

演出●白根徳重　**脚本**●辻真先　**作画監督**●我妻宏

【第033話】

悪魔ブエル

1972年6月1日放映

STORY

西洋悪魔VS.日本の妖怪！

少年はある人にもらった左手が勝手に動き、仕事に失敗ばかりしていた。その手を付けた悪魔ブエルは、他人の手を付け替えて操ることで、何度も戦争を起こしてきたという残虐な悪魔である。少年から相談を受け、鬼太郎はブエルと対決する。すぐにブエルは鬼太郎をただ者ではないと見抜き、その正体を現して、とてつもない数の悪魔軍団を召還。鬼太郎たちはどうにか逃げ出して天の岩戸に向かい、悪魔軍団を呑み尽くす大食い妖怪・ヤカンズルの封印を解いた。首尾よくヤカンズルは悪魔軍団を食べ尽くしたものの、その食欲には底がない。封印を解いた者＝鬼太郎を食べるまでは止まらないのだ。



原作

「悪魔ブエル」では、封印者として「ヤカンズル」に呑み込まれる鬼太郎が、生け贄になることに対して涙する。だが、目玉おやじになだめられる。

演出●新田義方　**脚本**●柴田夏余　**作画監督**●野田卓雄

【第034話】

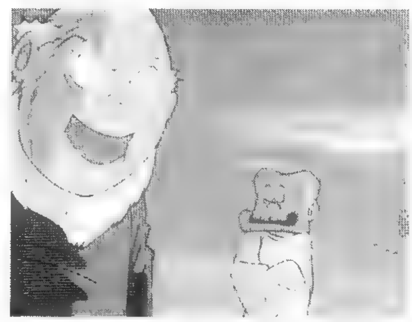
死神とサトリ

1972年6月15日放映

STORY

予知能力を持つ敵とどう戦う？

原因不明の痛みの発作に悩む男・永島が、鬼太郎に助けを求めてきた。病気の正体を探るため、予知能力をもつサトリを訪ねる鬼太郎。しかし旧知の仲の死神が霊魂を集めるノルマに困っているため、サトリとしては永島が死ぬほうが望ましかった。鬼太郎たちを、死神を使って足止めし、さらに永島に「今の地位、金すべてを捨てれば、痛みが取れる」と伝えるその一言で、永島が峠から谷底に落ちるとサトリには“分かっていた”のである。しかもサトリの予知では、鬼太郎も永島の自殺を止める過程で死ぬはずだという。一方永島は、やはり地位を捨てきれず、家族と心中しようと考えていた。



原作

鬼太郎以外の水木作品『ねたみ』が原作。サトリと死神は共謀してあるエリートを死に追いやり、サトリはアルバイト料として3万円を得る。

演出●西沢信孝　**脚本**●雪室俊一　**作画監督**●白土武

【第035話】

イースター島奇談

1972年6月22日放映

STORY

命を軽んじたことへの恐怖の代償

占い師の男は、大繁盛している商売敵・アレスを殺して国外逃亡する。霊界テレビでアレスの殺された様子を確認した鬼太郎たちは、男を追ってイースター島に向かう。そして偶然船中で男は、父親の残した日記によって「命も幸福も思い通りにできる術」がイースター島で手に入ることを知った。ところが島では男の行動を操るために、鬼太郎たちが待ち伏せしていた。男は鬼太郎に言われたとおり石像の下を掘り、「地獄の入口」と呼ばれる洞窟に入っていく。言い伝えによると、赤い月が昇り、13匹のコウモリが出現したとき地獄の使者が現れるという。そして条件が揃い、地獄の使者、アクアクが現れた。



原作

鬼太郎以外の水木作品『イースター島奇談』が原作。ほぼストーリーは同じだが、殺された占い師の身内がアクアクの力を借りて仇をとる形。

演出●茂野一清　**脚本**●安藤豊弘　**作画監督**●小松原一男

【第036話】

妖怪屋敷

1972年6月29日放映

STORY

鬼太郎危うし！　強敵影女登場

ある少年の父親が購入した屋敷は、一見妖怪屋敷のように寂れていた。少年が中の様子を伺うと、謎の人影や足跡などが出現する。命からがら逃げ出した少年は、ねずみ男と衝突してしまう。話を聞いたねずみ男は屋敷に現れた人魂で商売しようと考えるが、逆に人魂に翻弄される。そのうち人魂が集まり、妖怪・影女が現れた。そして影女にむりやり霊石を飲ませられた少年は魂の世界に閉じ込められ、周囲から見えない存在になってしまった。少年の母親に頼まれて、鬼太郎は少年を助けようと幽霊屋敷に向かい、影女と対決する。苦戦する鬼太郎だが、目玉おやじは影女の弱点を思いだす。



原作

鬼太郎以外の水木作品『妖怪屋敷』がモチーフ。原作の影女は、元に戻るための霊石を、はじめから少年のポケットに忍ばせてくれている。

演出●設楽博　**脚本**●辻真先　**作画監督**●我妻宏

【第037話】

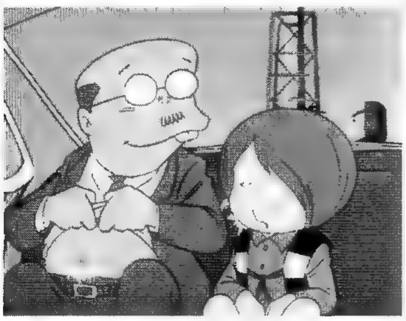
地相眼

1972年7月13日放映

STORY

財閥の将来と息子の未来、どちらを優先？

かつて地中の魑魅魍魎の世界に迷い込んだ安井は、そこで地相眼という珠をへそに付けて以来、"地"に関する事業で大財閥にまで成り上がっていた。しかし魍魎たちが、その地相眼を持ち出した代償として、彼の息子が20歳になった時、その息子を地相眼に作り変えると言ってくる。息子の命と財閥の将来を計りかねた安井は、鬼太郎に相談する。一方、今の世の中と人間に疑問を持つ息子は地相眼になってもいいと言い出し、鬼太郎は魑魅魍魎たちに掛け合いに行く。息子が地相眼になりに行くと聞いた安井は、急ぎ息子のもとに向かう。ようやく得た親子の時間だったが、息子の決意は固かった。



原作

鬼太郎以外の水木作品『地相眼』では、父は悩みながらも財産を選ぶ。息子は地相眼に変えられながら、社会における人間の存在意義を考える。

演出●笠井由勝　**脚本**●柴田夏余　**作画監督**●生頼昭憲

【第038話】

隠れ里の死神

1972年7月20日放映

STORY

永遠の命は幸せか不幸せか

村祭りの夜、ねずみ男は着物を着た少年に出会う。その少年は、すぐに白骨化してしまった。一方鬼太郎は、死神が村の子どもを誘拐しているところを発見。死神はその子をかくれ座頭のもとへ連れて行こうとしていた。みずからおとりになり、黒幕のかくれ座頭のもとへ向かう鬼太郎。そこは貧乏な子どもたちが連れてこられた、年も取らない国「隠れ里」だった。しかし何百年も前からいる里の子供たちは、自分の村へ戻りたがっていた。鬼太郎はかくれ座頭と戦い、倒すことに成功。しかし現実に戻ると、何百年という時間が子どもたちに襲い掛かる。ねずみ男が最初に会った少年と同じように……。



原作

鬼太郎以外の水木作品『蒸発』では、恋した女が死に、悲しむ暇なく魂を取るシビアな死神が主人公。子どもではなく大人の男が神隠しに遭う。

演出●山口康男　**脚本**●雪室俊一　**作画監督**●小松原一男

【第039話】

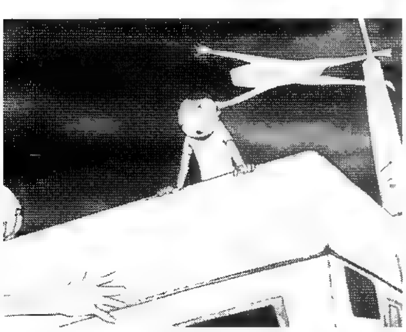
妖怪水車

1972年7月27日放映

STORY

海で死んだ霊は猛霊八惨になるという

ある少年が、海で遭難した両親の捜索を鬼太郎に依頼する。目玉おやじが、両親は海で死んだものがなる亡霊・猛霊八惨になったかもしれないと告げるが、少年はそれを受け入れられずにいた。その夜、港では猛霊八惨を鎮める迎え火を焚いており、その存在を確かめようとした少年は洞窟に侵入し、猛霊八惨を目撃してしまう。猛霊八惨の主によって亡霊にされそうになっている少年を助けにきた鬼太郎。亡霊たちと戦うが、少年はいずれ海で死ぬと言い残して猛霊八惨の主は退散していく。そして鬼太郎たちが船で海へ出ると、船の行く手には渦を巻いた大津波「妖怪水車」が巻き起こる。



原作

鬼太郎以外の水木作品『妖怪水車』がモチーフだが、原作では主人公の少年が洞窟の儀式をみても、猛霊八惨に呪われることはない。

演出●高見義雄　**脚本**●安藤豊弘　**作画監督**●森利夫

【第040話】

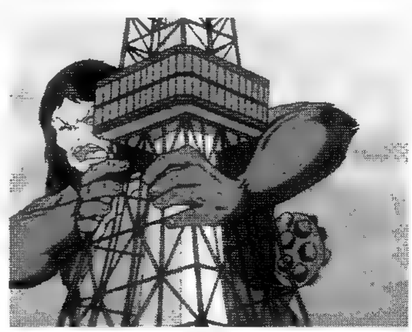
原始さん

1972年8月10日放映

STORY

いつかきっと人間はひとり残らず後悔する

スモッグが立ちこめる街に、ビル群を破壊する巨人妖怪・原始さんが出現。人々は逃げ惑い、見かねた鬼太郎は街に向かう。鬼太郎は原始さんに立ち向かうが歯が立たず、その間にも巨人のまいた植物の種が成長していく。原始さんを、破壊されかけた自然のメッセージだと知った目玉おやじは、鬼太郎に攻撃を止めさせる。そして巨人のおかげで、都市は人間の住みやすい緑の街に様変わりしていった。だが都市開発で儲けている会社の社長がねずみ男を使って、原始さんが攻撃されるようワナにはめる。原始さんは鬼太郎が止めるのも聞かず、歩み続ける。そして原始さんに軍隊の大砲が向けられた。



原作

鬼太郎以外の水木作品『原始さん』では、文明の建物を破壊し、自然の種をまくと10年ほどで原始の世界に。そして原始さんはアメリカに渡る。

演出●白根徳重　**脚本**●辻真先　**作画監督**●我妻宏

【第041話】

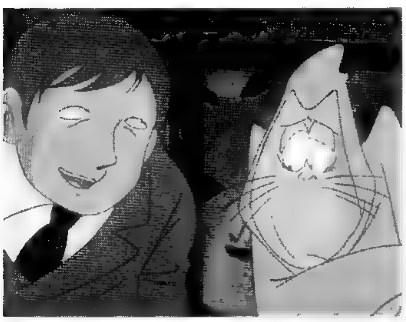
霊形手術

1972年8月17日放映

STORY

顔盗り妖怪・ズンベラがねずみ男にだまされ

整形手術を繰り返し美人となっている月子は、婚約者の不細工な顔が気に入らない。多少整形しても無駄、と月子に突き放された男は「顔の土台をなくしたい」と呟き、ねずみ男はその男に顔盗り妖怪・ズンベラを紹介した。普段は死人の顔を盗り、コレクションしているズンベラは、ねずみ男にそそのかされて生きている人間の顔を盗るようになったのだ。顔を盗られた男は嬉々として月子の前へ。それを見て、もっときれいな顔を楽しみたい月子はズンベラに興味を持つ。ズンベラに顔を盗ってもらい、さらにズンベラと結婚して顔のコレクションを楽しもうとするが……。



原作

鬼太郎以外の水木作品『霊形手術』では、月子・ズンベラ・三吉が協力して好きな顔に取り替えられる霊形手術を日本中に広めようとする。

演出●新田義方　**脚本**●柴田夏余　**作画監督**●小松原一男

【第042話】

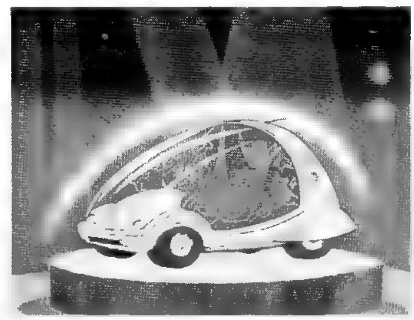
死神と貧乏神

1972年8月24日放映

STORY

この世とあの世の最凶タッグが動き出した！

貧乏人および自殺者をたくさん作りたい貧乏神と死神は、一流企業「シンシン工業」に潜り込む。そこで人の生誕から火葬まで面倒を見る新商品「ゆりかごから墓場まで」のマスコミ発表会において、火葬のデモンストレーションで死人を出すことで企業をつぶそうと考える。絶対に死なない死神が死人の役をやって策は成功し、会社は倒産へ一直線。倒産なんてどこ吹く風のお気楽２代目社長をよそに、２人の思惑を知り捜索していた鬼太郎は、シンシン工業の工場に潜入。しかし、待ち受けていた２人に「ゆりかごから墓場まで」の中に閉じ込められ、火葬のうえ、骨壷に入れられてしまう。



原作

鬼太郎以外の水木作品『枯れ葉』では、死神と貧乏神は酒びたりの日々。貧乏神が死神に借金を追わせたことで、貧乏人を増やす目的を達成。

演出●西沢信孝　**脚本**●雪室俊一　**作画監督**●国保誠

【第043話】

足跡の怪

1972年9月7日放映

STORY

“祟り”を信じずバカにする男の哀れな末路

ある村で起きた神隠し事件の原因を調べていた鬼太郎は、その村に祭られている自然を支配している神様・タイタンボウの聖地の石が削られていることに気が付く。その石が隕石であると考えて、削って持ち帰った２人組の学者がいたのだ。鬼太郎がその学者の所在を突き止めると、そのうちのひとり・山田の小指が忽然と消えるという不気味な現象が起きていた。そして山田は赤い足跡を残して、耳、目、鼻から顔全体、体すべてが消えてしまう。事態の急を見た鬼太郎は、残りのひとりから削り取った石を無理やり奪って聖地へと返したが、それでもタイタンボウの怒りはおさまらなかった。



原作

鬼太郎以外の水木作品『足跡の怪』が原作。神隠しに遭った人はおらず、岩を削った２人が同じ“体の各部が消えていく祟り”で命を落とす。

演出●茂野一清　**脚本**●安藤豊弘　**作画監督**　●森利夫

【第044話】

雨神ユムチャック

1972年9月21日放映

STORY

名誉と財宝と時間と愛、なにが大切！？

マヤ文明を支配した雨神ユムチャックの遺跡探検隊２人と、同行を頼まれた鬼太郎とねずみ男の姿があった。一行はメキシコに着き話を聞こうとするが、ユムチャックの名を出すと現地の人々は口を閉ざす。そのとき鬼太郎は、村の少女・カルメンが、雨神ユムチャックの生け贄として捧げられることを知る。探検隊員のひとりはカルメンに惚れており、鬼太郎に止めてくれと頼む。鬼太郎は儀式にもぐりこみカルメンを助け出そうとするが、カルメンは自分の意思で生け贄になるといい、そのまま大渦に飲まれていく。後を追う探検隊員が見たものは……。そしてカルメンに惚れた男の行く末は？



原作

鬼太郎以外の水木作品『雨神ユムチャック』では、カルメン以外誰も永遠の国に残らず、探検隊は２人とも命を落としてしまう。

演出●及部保雄　**脚本**●辻真先　**作画監督**●我妻宏

【第045話】

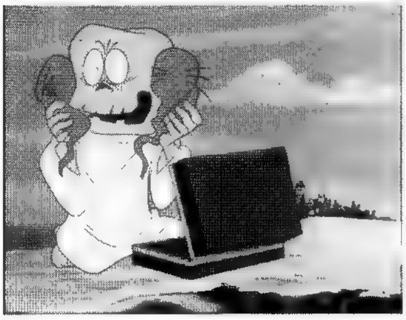
死神のノルマ

1972年9月28日放映

STORY

日本の死神、アラビアの死神に利用される!?

霊魂集めのノルマに苦しむ死神は、アラビアの死神・パシャに会う。パシャは日本に、200個の霊魂を集めに来ていた。死神はパシャの口車に乗り、人を殺して霊魂を集めてはいけないという禁忌に目をつぶり、手数料1割で協力を決める。そこに死神の女房と子どもが、日本に尋ねてきた。パシャと死神が人間をだまして殺すためのツアー企画を組んでいることを知り、2人は猛反対。そこに鬼太郎が乗り込んでくるが、パシャの餌食になり魂を抜かれてしまう。死神の息子・骨太は、父を止めるため鬼太郎の霊魂を取り返し、協力を要請。鬼太郎は死神を止めるために、ツアーを追った。



原作

鬼太郎以外の水木作品『涙ののるま』は、ノルマに苦しむ死神が、誤って生まれる前の自分の息子を殺してしまうというブラックな内容。

演出●中村一　脚本●雪室俊一　作画監督●野田卓雄

<第2部>をまとめて観るならコレ!



ゲゲゲの鬼太郎第2シリーズ 1971DVD-BOX ゲゲゲBOX70's

全45話を完全パッケージソフト化。描き下ろしイラスト入り豪華ボックスに、特製フォルダケースと、当時の貴重な資料を収録したブックレットを収納。完全予約制の限定生産。8巻組¥33,600。60's BOX との2BOX セットで¥78,750。

Telecast List ゲゲゲの鬼太郎<第2部>放映リスト

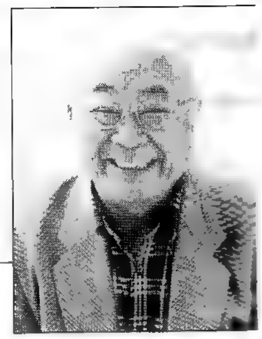
放映日	話数	放映タイトル
71.10/7	1	妖怪復活
10/14	2	妖怪反物
10/21	3	妖怪大裁判
10/28	4	雨ふり天狗
11/4	5	あしまがり
11/11	6	死人つき
11/18	7	猫又
11/25	8	マンモスフラワー
12/2	9	髪さま
12/9	10	アンコールワットの亡霊
12/16	11	土ころび
12/23	12	やまたのおろち
12/30	13	かまぼこ
72.1/6	14	怪自動車
1/13	15	牛鬼
1/20	16	南からの招き
1/27	17	縁切り虫
2/3	18	幸福という名の怪物
2/10	19	釜鳴り
2/17	20	ふくろさげ
2/24	21	心配屋
3/2	22	地獄の水
3/9	23	逆餅殺し
3/23	24	傘ばけ
3/30	25	まぼろしの汽車
4/6	26	大首
4/13	27	いやみ
4/20	28	あかなめ
4/27	29	ダイダラボッチ
5/4	30	死神
5/11	31	赤舌
5/25	32	目目連
6/1	33	悪魔ブエル
6/15	34	死神とサトリ
6/22	35	イースター島奇談
6/29	36	妖怪屋敷
7/13	37	地相眼
7/20	38	隠れ里の死神
7/27	39	妖怪水車
8/10	40	原始さん
8/17	41	霊形手術
8/24	42	死神と貧乏神
9/7	43	足跡の怪
9/21	44	雨神 ユムチャック
9/28	45	死神のノルマ

第1部・第2部 | ねずみ男役

大塚周夫インタビュー

ねずみ男オン・ステージ

PROFILE
おおつか ちかお 1929年生。俳優・声優。代表作はチャールズ・ブロンソン、リチャード・ウィドマークの作品全般の吹き替え、アニメ『美味しんぼ』(海原雄山役)ほか多数。

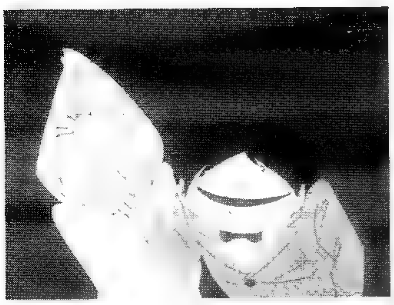


2006年に喜寿を迎えて、なお現役バリバリの俳優・大塚周夫さん。数多い“当たり役”の中でもお気に入りであるという「ねずみ男」の役作りから、役者としての生き方論まで、まさにオン・ステージなインタビューをお楽しみあれ！

昔の劇団の役者ってのは みんな身内みたいなものだったんだ

第1～2部の『ゲゲゲの鬼太郎』で、ねずみ男を演じることになった過程をお教えください。

オーディションで決まったんですよ。いろんな劇団の連中が来ていたけどね。大体、昔の劇団員というのは新劇か中小劇団しかなかったんです。新劇の人たちは、テレビの仕事は一切やらなかったから。



※1

僕らみたいな中小劇団は、小さな小屋を借りて自分たちで勉強資金を出しながら、芝居していましたね。マスコミから仕事なんて、ほとんどなかったんですから。マスコミ自体がない時代だからね。

だから荷車を引いて学校へ行って公演打って、何千円かもらって、それを自分たちの勉強費とか生活費に充てる、みたいな状態だったんだ。

要するに、芝居を好きな奴だけが集まって、お金を持っている者がその日の食い物を買って、劇団のみんなを食べさせる。そんな運命共同体みたいな組織だったんだよ。

戦後なんか特に生活できなかったですよ。今はたくさんの劇団があるけど、みんなアルバイトで食べていけるでしょ。僕たちのころは、本当に食えなかったですよ。食えないことを覚悟で、ホントに芝居が好きな連中が集まってくるから、本物だったわけ。

『ゲゲゲの鬼太郎』は、決まってみれば主役の野沢君も田の中君も、もともと同じ劇団にいた2人だっただけ。もちろんやりやすかったけど、芝居やっている連中はみんな身内みたいなものでしたからね。

東京だけで10個の劇団があったとしても、ひとつの劇団の中には、10人か20人しかいないわけですよ。そうすると、オーディションとか見ていても『アレはどこどこの誰だ』って、顔を見ればわかるわけ。そのなかで同じ劇団だなんていったら、もう家族みたいなもの。着るものなんかも、いつの間にか共有してたりして。そんな関係だったんだよね。

大塚さんが演じているほかの役は、低く渋めの声が多い気がしますが、ねずみ男は違いますね。ねずみ男の声はすぐ出ましたか？

やっぱり、すぐは出ないですよ。最初は手探りでしたね。ねずみ男の様子を絵で見ていて、ウンと調子よくやったほうが面白いんじゃないかなと思ってやっていたんだよ。ちょっとハイトーンにして。

それが、以前に洋画の吹き替えでやった役のずる賢さとピタリと重なったんだ。役者の引き出しとピタッと合ったのね。

僕は自分で言うのも何だけど、いろんな役で大当たりしていると思う。ねずみ男やっても大当たりするし、ヨミ(『バビル2世』)でも当たるし、ブラック魔王(『チキチキマシン猛レース』)も当たっているしね。なぜかというと、僕はちょっとずるいの(笑)。普通の人よりずるくて、下心がちょっと強いんだ。

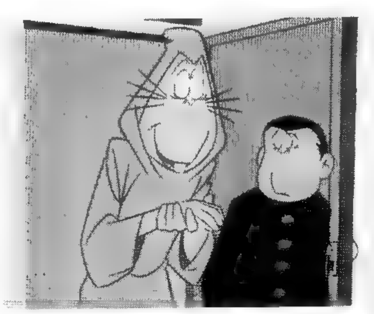
テクニックとして、普段を悪く見せていて、その人の人間的な温かいところをチラリチラリと見せたりするんですよ。そうすることによって、その役のキャラクターは幅が出てくるんですよ。ただ単に悪い人なんじゃなくて、「何でそんなことやるんだよ、馬鹿だね～」「だけどおかしい奴だね」って言わせたほうが得でしょう？

『美味しんぼ』の海原雄山を演じたってそう。何たって「死ね！」って怒鳴りつけるんですから。だけどチラチラと人間的な、温かい感じのところを見せる。だから、憎まれないんだよね。

当時の制作現場は、どんな状況でしたか？

ねずみ男でも、30分の番組を作るのに4時間ぐらい、こんなハイトーンな声を出しっぱなしですよ。ホント、キツいよね。それで、クッタクタになりますからね。それでも、やめるわけにはいかない。

ギャラって当時、アニメ1本いくらだったかな。とにかく1本では飯が食えなかったですよ。最低3～4本持っていただろうね。だから、それだけに全力投球とはいかないけれども、役者ってのはお調子者ですからね。気分が乗れば、全部乗っかるんですよ。自分を乗せられるかどうかですよね。



※2

第1～2部の「鬼太郎」の現場では、収録が終わると大塚さんが先頭きって飲みに出たと聞きましたが。

「『ねずみ男は何やってもいい』って水木先生が言ったの」

昔はそういうのが当然だったんだけどね。そのコミュニケーションの中で、「迫力がないと目玉おやじらしくねえぜ」とか話したりしてさ。年上の役者が「行くぞ」って言うと、だいたいみんな付いて来たものね。それが、今では普通じゃなくなったから困っちゃうんだよね。時代の流れというのか……。昔だったら当然だったことが、できない奴が出てきた。後輩にコーヒーもおごれないような奴が出てきたんだよね。

結局僕なんかは、ひと昔前の役者の世界の人間で、その郷愁の匂いみたいなのが好きなんだよね。めちゃくちゃ男臭い中にいて、キッと目を光らせているようなね。野沢君とかは、僕が劇団にいたころはまだ研究生でしたからね。僕とは10歳以上年が違うし。彼女が18ぐらいの時に、僕は30ぐらいだった。「メシ食いに行くぞ」なんて言ったら、付いて来るわけですよ。で、話すのは芝居の話。もちろん鬼太郎の話もあったし、ほかの芝居のこともあったよね。

リチャード・ウィドマーク役はもともと演技を盗みたくて吹き替えの役を志願したんですよ

洋画の吹き替えでのご活躍も印象に残っていますが、ご自身のはまり役であるチャールズ・ブロンソン、リチャード・ウィドマークの吹き替えのお話を聞かせてください。

例えばブロンソンはね、演じる前から好きだったんで、いろいろ調べたんですよ。で、ブロンソンを僕が演じるときどうすればいいかを考えたんですが、まず普通に喋ったら終わりなんですよね。

ブロンソンは男っぽさが売りなんです。こいつは絶対僕より、声のトーンが低いほうがいいなと。（低い声で話し始める）このへん（トーン）の声で喋れば、ブロンソンになるな。

よーし、ここから高い音は出さない、低い音はバンバン出そうと。あともうひとつ大事なことは、言葉の選び方。できるだけ柔らかい言葉を選ぼうと思いましたね。攻撃的な行動をするんだけれど、ふっと優しい言葉で語りかける。

「水を一杯ください……」（チャールズ・ブロンソンの声色で）とかね。キザだけど、そういうイタズラをずいぶんしましたね。それがブロンソンの魅力なんだもの。

そうやって、役の魅力をとことん探る。それは、役者にとって当然なことでもあり、面白かったですから。

リチャード・ウィドマークは、自分で売り込みましたね。「この役をやらせてくれ」って。僕もプライドが高いから、やって見せたうえで、「これでダメなら使わなくていいですよ」って、執着はしていないフリをして売り込んだんだけど、気に入ってもらえたんですね。

このリチャード・ウィドマークってのが、ニヒルな感じで目がギョロッとして、本当に嫌な芝居だったんですよ。すごいワルだったわけ。映画館でさんざん、それこそ1日3〜4回も見て、その芝居を一生懸命盗んだんですよ。もともと（この吹き替えをやる）目的は、彼の芝居の研究でしたから。

で、あるときわかったんです。「ああそうか、初めっから凄んでやるからいけないんだ」と。イスにふんぞり返って「オウ！」なんてやっていても、ホントは全然怖くなんかない。ニタッと笑ってお辞儀とかしておいて、「ああそうですか、わかりました」って言っておいてから、テーブルの下からピストルをおもむろに取り出して「すいません、商売なんで」とニタリと笑いながらバン！と。こういうのが凄みがあって面白いわけですよ。

僕はそういう演技をいきなりテレビでやったので、一時は悪役ばっかり依頼が来ましたね。局に入るときの道の両脇にジャリが積んであったんですけど、スタジオ入りする時に「テレビの悪者が来たぞ！」って子どもから石ぶつけられたことがあって。それを追っかけまわしたりしてね。それほど、悪役が定着していた時期があったね。

そういう変な芝居を絶対盗みたかったんですよ、僕は。そこを盗んでおいて時々チラリと優しさを見せたりすると、「いいじゃない、アレ！」ってことになるんだよね。

水木先生と作り上げたねずみ男像

100本以上ねずみ男を演じてきて、印象的な場面やストーリーなど覚えていらっしゃいますか？



よく聞かれるけど、ほとんど覚えてないですね。即興で演じてますからね。例えば、鬼太郎が「ああ」と言ったとしますよ。「何が、ああ、だよ」って即興でねずみ男が返す。「またそんなこと言って」と鬼太郎が怒ると、「言ってない？あーあ、そうですか、言ってないよね〜。悪いのはいつも俺ですよ。ごめんなさ〜いね〜」って、これもアドリブで続けちゃうわけですよ。

そういうことは、台本にはありえないわけですよね。それを、水木先生はバンバンやれっていうんです。ねずみ男しかいないんですよ、こういうことをやれるのは。

ほかのキャラクターはみんな妖怪ですから。妖怪っていうのは、軽々しくものを喋ったりすると、その持ち味がなくなるわけです。一反もめんには一反もめんの義務・責務があって、それなりの自負があるわけですよ。ねずみ男だけですよ、鬼太郎のキャラクターの中でそういう制約が何にもないのはね。

「役者じゃない自分なら、一日もいらない」



ねずみ男の『ゲゲゲの鬼太郎』の中での役割というのを、どう意識していましたか。

「妖怪世界の妖怪じゃない、といって、人間世界の人間でもない。年は200歳でね、まだ妖怪になれないの」と、水木先生がおっしゃったんです。ねずみ男だけ妖怪になれないで、ウロウロしている。一生懸命妖怪にオベッカ使ったりしながら(※1)、妖怪にしてもらおうと思うんだけど、みんなに嫌われているからダメだという設定。
ねずみ男は、恩を売れるときにはホントに徹底的に売るわけですよ。それでいて、逃げるときにはこれ以上ないってぐらい素早く裏切って逃げるわけですよね。
「そう、ねずみ男は何やってもいいから。死んでもすぐ生き返らせるからね」って、水木先生はおっしゃってましたね。この言葉が、ねずみ男という役をすごくやりがいのある役にしてくれたんですよね。
だからってむやみやたらに適当なこと言うわけにいかない。台本を忠実に守りながら、その中で人間の調子のいいところ、腹の底みたいなものの出し方を、チョロチョロ変えながら演じていかなきゃいけないっていうこと。自由な分、すごく難しい役でもあるんです。
ねずみ男って面白くて、あるシーンでみんなが歩いているときに、なぜかねずみ男だけがつまずくんだよね。そこで水木先生に「先生、あれ気になってしょうがないんですけど。あれ、ねずみ男だけですよね」って聞いたら、「そうだよ。あのとき誰かつまずかないかなって思ったんだ。そしたら、ねずみ男しかつまずかないだろうから。いいでしょ?」って言うんですよ。それで「そのニュアンス、使わせていただきます」ってなった。「計算されているつまずき」っていうか、ねずみ男も、そういうずるい面ってたくさんあるんですよね。

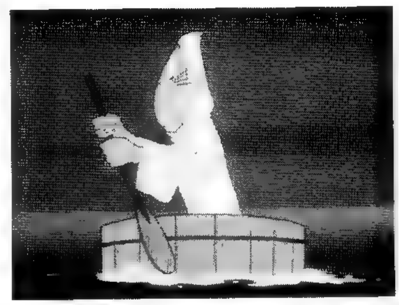


チラリチラリと見せることによって面白さを感じさせる、ってねずみ男でも同じことですか?

もちろんそうですよ。「人間の魅力」って何か、って考えてみたときにどうなるか。普段のその人から考えて、何か事件があったときに、それに対しての一般的なリアクションがあるじゃないですか。そこからちょこっと外れたものがチラリと見えたときに「あら面白いんじゃない?」ってことになるわけですよ。それが出たときに、初めて役者なんです。ねずみ男って、誰が見てもいいかげんなキャラクターでしょ。これはかなり人間臭いキャラクターなわけですよ。でも普段の生活では、僕らはねずみ男ほど露骨に本音で進めないし、手のひらも返せない。そんな自分が隠している“本音”が、ねずみ男を見ると、チラチラと見えるわけです。露骨に見せているようであくまでもチラチラ。それが面白いんだと思うんですよ。

大塚さんのねずみ男って「笑い方」に特徴がありますよね。

ねずみ男に限らず、役作りのうえで笑い方を研究したことがあるんです。例えば、リチャード・ウィドマークって「ニマァ〜」って、音のない笑い方しかしないのね。それを見ていると、「こりゃ、ヤバイぞ……」って思わされるんです。同じように笑い方ひとつで、いくらでも役を表現できるんですよ。
それじゃ、ねずみ男の笑い方ってどういうものなのかって考えると、ひと言でいえば「堪えきれなくなった笑い」なんだよね。「クーックックククッ」って搾り出すような笑いって、ねずみ男らしい笑い方じゃないですか。相槌(あいづち)を打ちながらの笑いとか、何か企んでいるときの笑い(※2)とか……。笑いのシーンにもいろいろあって、そのたびに考えてやっていたからね。でも基本にあるのは、“笑う”ってことは喜びの表現なんだよね。堪えていたのを、あるキッカケで出しちまって「クーッ!!」ってやると楽しいじゃない? そんなことを考えてやっているから。そんな中で「今の笑いは面白くないので、考えてください」なんてスタッフに言われると、「なぁに〜、コノ野郎!」って思っていたりしたんだけどね(笑)。



※3

ほかの役者さんのねずみ男を見て、どのような感想をお持ちですか?ご覧になったことはありますか?

ほかの役者が演じているねずみ男は、一切見ません。意識して見ませんね。意地になっても見ません。第3部の富山くんも、第4部の千葉くんだって後輩だし、どういう演技するかもだいたいわかっているし。うまくやってて、悔しい思いをするのもシャクにさわるじゃない? (笑)
僕にとっては、絶対に僕と同じようなねずみ男はできない、っていう自負があるからね。なぜかって言えば、そこまでいろいろ水木先生と話し合って、人類と妖怪の世界という、違う世界の中を一人のたうちまわって生きている(※3)ねずみ男の頭の中について掘り下げるっていう行為をしているはずがない。ねずみ男がみんなに媚(こび)を売って生きる(※4)っていう姿を根底に作って、そこから笑いを生み出していこうっていう基本姿勢ですよね。
「ねずみ男像」を、必死で掘り下げましたから。アニメでもそこまでいけばね、本物になるわけですよ。
だからこそ、昔の自分の作品に関して、僕は絶対の自信を持っていま

す。今回みたいにDVDになって販売されて、初めてモノクロで見てくれる人がいるのは嬉しいですね。

なんで自分は芝居をやるのか
人の心を打つためだろ、って思う

若手の俳優さん、声優さんをご覧になっていて、どのように感じていらっしゃいますか？

今の若い人たちに一番感じているのは、役者としての"引き出し"がないことなんですよ。もちろん幅広く、数多くの引き出しを持っていれば、それに越したことはないと思う。それができないなら、せめて「こういう形の役が来たら絶対負けないぞ！」っていうのを持ってなきゃダメだね。
昔は、本当に芝居をやりたい奴が集まっていたから、今よりもっと、いわゆる芸の"技"に重きを置いていましたから。そういう意味では、感性がハイレベルだったと思うよ。
なんで俺たちは芝居やるのか？　人の心を打つ以外に、人を感動させられることなんてできる？　人の心を打つってことは何？　それが芝居だろうってことですよ。
今の若い人たちの芝居を見ていると、思わず言っちゃうんです。あなたたち何をやってるの？って。ジェスチャーだけじゃないかって。悲しい顔のジェスチャーをして、誰が心打たれる？って。
自分の欠点を隠そうとするのが本当ですけど、ジェスチャーっていうのは強調するからね。強調しないとできないから。そういう"ジェスチャー役者"が増えてきましたね。
例えば時代劇で、芸者さんが「あら？　なぁに、初めてお会いできて嬉しいわ」っていうセリフがあるとするでしょう？　その全部をジェスチャーでやっちゃうわけですよ。
（お客を）見た。ハイよろけた、ハイビックリして持ち直した。って、全部ジェスチャーでしょ。疲れるでしょ、って言ってあげたいぐらいやっているんですよ。セリフだってそうですよ。自分の欠点を隠そうとするのが本当ですけど、ジェスチャー役者は強調するからね。役者の「演技」というのとは、反対なんですよ。
先ほどの「演技の幅」の話じゃないですが、隠そう隠そうとしている本音がチラチラ見えるから面白い。全身で感情を解放されても、そのキャラクターの持つ幅は見えてこないんです。
つまり、芝居は"心理"なんです。お客様と私たち役者の心理の格闘。僕の友人の俳優は「お客は芝居を見に来ているんじゃない。"盗み見"しているんだ」って言うんですよ。
客席との間に"壁"があって、お客は何千円か出すと、その壁に穴を開けられる。自分の好みにあった穴を開けて、そこからジーッと見ているわけ。その状態からこれから始まる物語に対して、この人はどんな性格なんだろう、どんな物語が始まるんだろう、と見ているって言うんです。
そんななかで、ジェスチャー芝居なんか見ちゃったら、ゲェ〜ッとなる。せっかく覗き見しているのに、「見てちょうだい」ってな芝居を見せられたらシラけるじゃないですか。そのくらい、芝居とはリアルな芸ということだと思うんだよね。
それが今の芝居といえば、出番になるとお立ち回りして目立たせてさ。歌舞伎のせいもあるんだけれど、もう"芝居"でもなんでもないよね、歌舞伎の"舞"のほうですから。歌舞伎みたいにきちっと区別されて、歌もあって、型もあるような芸術なら結構だけど、一般人にとってワケのわからない芝居なんか、したくないんだよね。

半世紀以上を"役者"として生きてきた大塚さん。もし役者をやっていないとしたら、何をやっていると思いますか？

考えることもできないよね。僕は70歳過ぎてから「ああ、一番大事なことは、いつまで自分が役者として過ごして生きていけるかってことなんだ」と思えるようになったんだ。それまでは大変でしたよ。売れているときって、基本的に生意気なんですよ。もっとギャラ高くしてくれ、ぐらいしか考えていないですから。ほんとに役者って、みんなそうだと思う。
でも僕は50歳代くらいのころ、井上ひさしさん脚本の芝居に5年間で10本出演したんですよ。芸能座で日本中歩いたらね、もう当分芝居がいらなくなっちゃった。稼ぎも欲しくなくなっちゃったんだ。
だから僕は60歳くらいから、20年間近く芝居をしなくなっちゃったんだ。この年になったら、お金がどうのという気はほとんどなくなちゃった。ご飯だけ食べられればいいんだよ。家も古くて、女房も年だしお金はいらないじゃないですか。生活するだけのものがあれば。
そうすると、ガツガツ仕事くださいってこともないじゃない。そうなると、お金がどうのではなく、役者として生きる、ということがいかに自分にとって大切かがわかってきたんですよ。

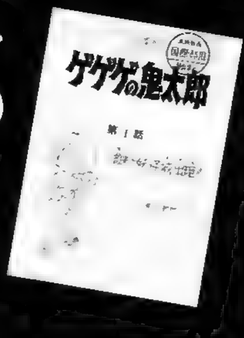

※4

今は、役者じゃなく生きるなら、死んだほうがいいって思っているんです。役者じゃない自分なら、一日もいらない。だからこのごろ若いころの作品にも、思い入れが生まれてきている。ねずみ男なんかも自分のやったことだから責任があるし、そういう"役に対しての追憶"があるんですよ。それはこの先も、自分で守っていかなければいけないな、と思っているんですよね。「お金にこだわらないねずみ男」というのも、なんか変な感じだけれどね（笑）。

85年10月12日〜88年3月21日放映

ゲゲゲの鬼太郎 第3部の世界

gegege no kitaro third season





第2〜3シーズンまでの間には、13年間ものブランクがある。その間に『ウルトラマン』『仮面ライダー』に代表される特撮ブーム、『機動戦士ガンダム』などSFブームはようやく一段落を見せ、純粋に子ども向けのエンタメ作品が求められるようになっていた。今シリーズのスタッフ陣には、昔のシリーズを見ていた若い世代はもちろん、旧シリーズからのベテラン勢も参加。なにがしか鬼太郎に思い入れのある者たちが、鬼太郎に新たな息吹を吹き込んだといえる。その"低年齢層向けの大幅リニューアル"は、旧来からのファンには、現在に至るまで賛否両論あるところだが、それも80年代を代表するヒット作品となったひとつの勲章のようなものだ。

13年ぶりの復活・大ブレイク

最高視聴率 29.6%の大ヒット

第3シーズンは、13年のブランクから視聴者の世代交代を意識した、完全な新作としてスタートする。鬼太郎役とねずみ男役には、時の人気声優である戸田恵子と富山敬。目玉おやじのみ、過去2シリーズと同じく田の中勇が演じることになる。そして各種ムック本やLP、キャラクターグッズなど、スポンサーの講談社やバンダイの力もあり、他シリーズとは比較にならない規模のマーチャンダイジングが行われた。放映はフジテレビの毎週土曜日18:30〜。週末、団らんのひと時を過ごす親子が、一緒に見られる番組を求める時間帯である。その方向性に合わせ、仲間同士の協調が強く意識されるストーリー展開が増えてくる。さらに妖怪のデザインはおどろおどろしさの感じられた過去作とは異なり、ファンシーで低年齢層向けのリ・デザインがなされる。そこに後述のさまざまな要素が加わり、第3シーズンは最高視聴率29.6%、平均視聴率23.3%というケタ外れの大ブレイクとなった。まさに、80年代を代表するアニメ作品のひとつであることは疑う余地もない。



物語後半にレギュラーに定着したシーサー。第3シーズンにおける"ファンシーな妖怪"の代表格だ。



最高視聴率を記録したのは、第24話「子供が消える!?妖怪うぶめ」。29.6%という驚異的数字をマーク。



少年向け作品のヒーローに欠かせないのが、"宿敵"の存在。ぬらりひょんの果たした役割は大きい。



鬼太郎役は「アンパンマン」などで知られる戸田恵子。声色よりも緩急の使い分けで演じる名優だ。

ダイナミックな演出&オリジナル設定

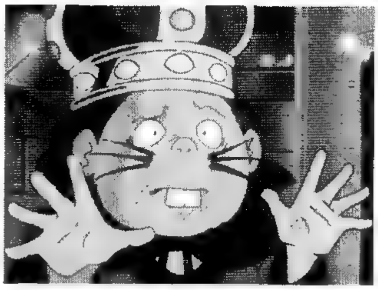
ヒーローとしての鬼太郎像の定着

まず作画技術の大幅なアップを背景に、第3シーズンの戦闘シーンでは空中戦が非常に増えている。さらに目まぐるしく変わるカメラアングルや、新たな武器“オカリナ”を駆使したバトル、「鬼太郎ファミリー」の確立を背景にした、複数の妖怪同士で戦うコンボ戦の増加など、展開の多様さが子供たちの心を捉えた。そして本シーズンの熱血正義漢な鬼太郎の性格も手伝い、“アクション派鬼太郎”としてのイメージを定着させていく。また、ぬらりひょんという“宿敵”の存在によりストーリーもグッと厚みを増したといえる。さらに前シーズンにおいて、タブーに触れた人々が悲劇的な結末を迎えるストーリーが多かったのとは対照的に、人間の犠牲者はほとんど描かれていない。それどころか敵妖怪を退治する際にも殺さず、逆に反省や和解を促すなど、平和的な解決のパターンが増える。これも低年齢層向けを意識した改定のひとつである。

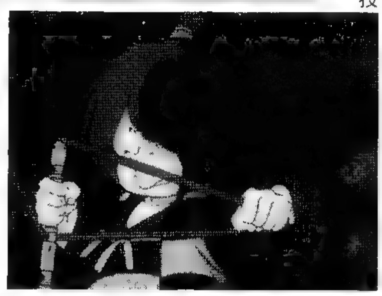
さらに基本が第1～2シーズンのリメイクでありながら、時おり混ぜ込まれたオリジナルストーリーがまた面白い。妖怪が出てこない水木しげるのSF作品「宇宙虫」を原作に、かぶそと赤頭という妖怪を絡めて、さらに鬼太郎を入れ込んだ第93話「進化妖怪かぶそ」ほか、複数のエピソードを盛り込んだ脚本も多数登場。さらに第101話「妖怪捕物帖　猫騒動」など、遊び心のあるオリジナルで鬼太郎たちの意外な一面を垣間見られるのも楽しい。



無害な妖怪の代表格であるはずの小豆洗いまで、空中戦や合体技を披露するなど徹底的にアクション重視のストーリー。



月に行った妖怪・かぶそが禁断の“知恵の実”を食べていさかいを起こす「進化妖怪かぶそ」。



舞台を江戸に移した「妖怪捕物帖　猫騒動」。バブルの生んだ心の余裕か、遊び心満載。

鬼太郎ファミリーの確立 ユメコの登場

“仲間”の存在と人間との共存が描かれる

第1話「謎の妖怪城出現!!」より、鬼太郎&目玉おやじに加え、砂かけ婆、子泣き爺、一反もめん、ぬりかべが顔見せ興行のように登場。第2話に登場したネコ娘も加え、このシリーズが過去作とは一線を画し「鬼太郎とその仲間たち」の物語であることが強調される。さらにテーマとして“人間と妖怪の共存”を掲げ、その象徴としてユメコという人間のキャラクターを登場させる。ユメコの存在は鬼太郎の世界にこれまでなかったラブコメの要素を加味し、さらに「わかりやすい面白さ」を視聴者に提供していった。



ユメコの登場で、鬼太郎には“美女に弱い”という新たな設定が加わる。そのほか砂かけ婆と子泣き爺の恋など、突っ込みどころ多数のわかりやすい面白さを追求している。

「地獄編」へ続くサイドストーリー

鬼太郎の母を求めて地獄を仲間と旅する

第3シーズン最後に放映されたシリーズ「地獄編」は、7本連続の特別編であり『月刊少年マガジン』に連載された「鬼太郎地獄編」のTVアニメ化である。ここで初めて鬼太郎の誕生秘話が映像化され、第3シーズンの独自設定「鬼太郎が妖怪と人間のハーフである」ということが明確に描かれる。加えて美少年ライバル・地獄童子、および美形の母親の登場という、本来の水木作品のタブーともいえる要素が続々映像化。『ゲゲゲの鬼太郎』は原作者の手を離れ、すでに一人歩きし始めていたのである。



7話連続のシリーズ「地獄編」は、88年2月8日より月曜19:00～の放送で、油すましなども活躍。視聴率は最高で13.2%と、本編に比べてやや振るわなかった印象もある。

【第001話】

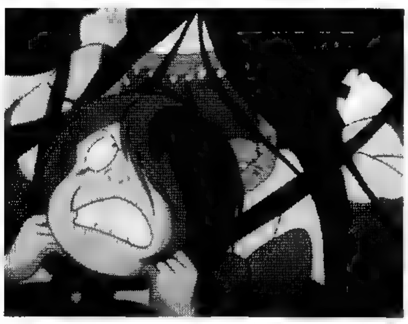
謎の妖怪城出現!!

1985年10月12日放映

STORY

鬼太郎ファミリー集結！妖怪城を撃破せよ

工事現場にあった石塚を作業員が崩し、妖怪城の封印が解かれてしまう。それと同時に子どもたちの誘拐事件が続発。都会の真ん中に、巨大な妖怪城が出現する。妖怪城に住む妖怪・たんたん坊、かまいたち、二口女の３人は、誘拐した子どもたちを妖怪に変え、この世のすべてを支配しようともくろんでいた。彼らはねずみ男を部下にして、もっと子どもたちを誘拐するように命令する。事件を知った鬼太郎は、砂かけ婆、子泣き爺、一反もめんらと乗り込んだ。激闘の末、鬼太郎たちは３妖怪を退治して無事子どもたちを救出。工事現場の石塚を元に戻すと、妖怪城はふたたび地中に封印された。



原作

「妖怪城」では、３妖怪が村に生け贄の子どもを求めているが、そこをとおりがかった鬼太郎が解決。アニメでは、ねずみ男が誘拐を敢行。

演出●葛西治　**脚本**●星山博之　**作画監督**●清山滋崇

【第002話】

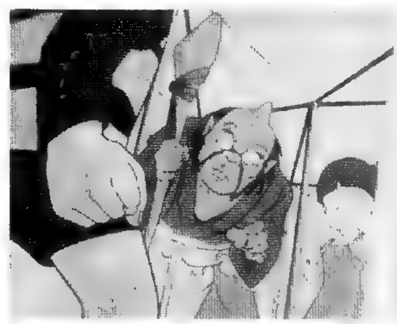
鏡じじい

1985年10月19日放映

STORY

ユメコちゃん初登場。鏡爺にさらわれる

遊園地で消えたユメコを捜してほしいと、弟・星郎が妖怪ポストを使って鬼太郎に助けを求めてきた。鬼太郎はミラーハウスで“姿”を奪われたユメコを発見。目玉おやじは鏡妖怪の仕業だと見破り、鏡爺を鏡の中からおびき出す。しかしそこは鏡爺の独壇場・ミラーハウス。鬼太郎は「合わせ鏡の術」によって鏡に閉じ込められ、鏡ごとバラバラにされてしまった。しかしすぐに砂かけ婆の妖術と妖具によって復活した鬼太郎は、鏡爺の妖気を追い、その住みかを発見。鏡爺は今度は、合わせ鏡を利用して分身し襲ってきた。そこで目玉おやじは、ユメコが鏡爺の憧れの女性の孫であることに気がつき、鏡爺の説得にかかる。



原作

「鏡爺」の中の目玉おやじによると、原作の鏡爺は昔からの趣味として「美少女を見るとたちのわるいいたずらをする」ことが好きらしい。

演出●芝田浩樹　**脚本**●武上純希　**作画監督**●音無竜之介

【第003話】

ネコ仙人

1985年10月26日放映

STORY

猫の大群に襲われたユメコたちを助け出せ！

ねずみ男が猫塚村で「宝の玉」を盗み出す。すると、猫塚村に遠足に来ていたユメコのクラスに犯人がいると疑われ、ネコの大群に襲われる。そこに鬼太郎たちが助けに来たが、突如現れた化け猫にユメコとネコ娘をさらわれてしまう。その後を追うと、石塚の奥の洞窟からネコを操る猫仙人が登場。宝の玉には猫仙人の魂が封じてあり、それがなければ彼の魂も肉体も滅んでしまうという。ねずみ男が宝の玉を盗んだことを知らない鬼太郎は、宝の玉など知らないと猫仙人に告げる。すると猫仙人は怒り、ユメコに乗り移って暴れ出した。鬼太郎は妖術で、ユメコから猫仙人の魂を追い出した。



原作

「猫仙人」では、鬼太郎の家が道路工事で立ち退きになると聞き、鬼太郎は旅に出ようとすると、そこにネコに襲われた村人が逃げてくる。

演出●棚沢隆　**脚本**●武上純希　**作画監督**●石黒育

【第004話】

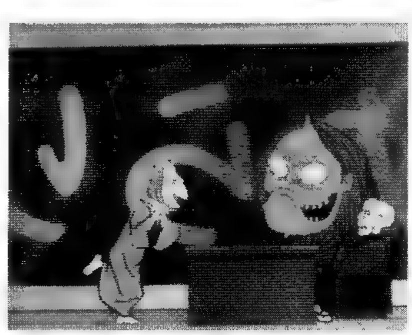
妖怪ぬらりひょん

1985年11月2日放映

STORY

ぬらりひょん登場！鬼太郎コンクリ詰めに

自分の建築会社が大もうけするために、手下を利用して次々とビルを破壊していくぬらりひょん。彼はじゃまする鬼太郎を誘い出し、コンクリート詰めにしてしまう。ところがその直後から、ぬらりひょんの右手が勝手に動き始める。蛇骨婆によると「鬼太郎憑き」という術で、鬼太郎が生きていて、右手を操縦しているのだという。今度こそ確実に殺してやろうと、助け出された鬼太郎を魔法の壺に封じようとするぬらりひょんと蛇骨婆。仲直りをチラつかせて鬼太郎をだまそうとする２人だが、返り討ちに遭い、不思議な石臼を使って古代の世界に追放する「先祖流し」にされてしまった。



原作

「ぬらりひょん」は、人間界で悪事を働く妖怪・ぬらりひょんの話。ねずみ男はぬらりひょんとパチンコ屋で会い、鬼太郎を紹介する。

演出●今沢哲男　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●山本福雄

【第005話】

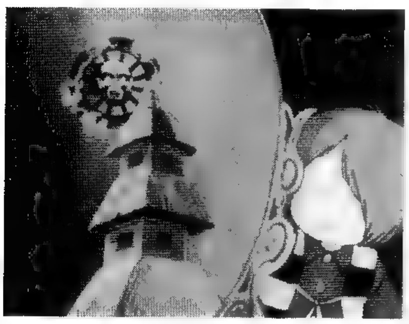
ダイヤ妖怪　輪入道

1985年11月9日放映

STORY

ダイヤに変えられた仲間たちを救え！

出所不明のダイヤモンドの売買で儲ける会社社長・横田の秘密を嗅ぎまわっていたねずみ男は、偶然会ったユメコと一緒に、横田が入って行った洞窟の中へ。そこは大量のダイヤが眠る採掘現場だった。妖気を追ってそこに現れた鬼太郎は、ここが「炭素光線」で人々をダイヤに変える妖怪・輪入道の住みかだと気づく。そしてこの場所は危険だと警告するが、誰も聞く耳を持たない。そんななか輪入道が出現し、ねずみ男やユメコらもみんなダイヤに変えてしまう。鬼太郎は鏡を利用して光線を反射させ、輪入道自身をダイヤに変えて退治した。するとみんなは元の姿に戻り、ダイヤもすべて消えた。



原作

「ダイヤ妖怪」では、ダイヤを発見したねずみ男が、鬼太郎を気絶させ持ち逃げしようとするが失敗する。ダイヤを売る商社は登場しない。

演出●葛西治　**脚本**●並木敏　**作画監督**●山口泰弘

【第006話】

地獄行！幽霊電車!!

1985年11月16日放映

STORY

“お化けを信じない男”を襲う恐怖体験

会社員・黒川は、自分の身に起こった恐怖体験を語り始めた。ある夜、黒川は後輩の吉永と飲み屋をハシゴして泥酔。とあるラーメン屋に入る。店に居合わせた鬼太郎とねずみ男の前で、妖怪はいないと大声で騒いだ黒川は、それに反論した鬼太郎の頭を殴り、コブを作ってしまう。その後、終電ギリギリで臨時最終電車に滑り込んだ2人は、酔いが醒めて様子がおかしいことに気付く。周囲を見渡すと、車掌は鬼太郎、乗客は亡者やガイコツに妖怪軍団まで登場してきた。驚き慌てて窓から飛び降りた2人が、翌朝ホームのベンチで目を覚ますと、鬼太郎のものと同じ大きさのコブが頭にできていた。



原作

「幽霊電車」では酔った2人が電車に乗り込むと、たくさんの駅員が線香をもって集まり、死を褒め称えるお経のような歌を歌い始めた。

演出●石田昌久　**脚本**●星山博之　**作画監督**●柳瀬譲二

【第007話】

子連れ妖怪磯女

1985年11月23日放映

STORY

悪徳レジャーランド開発を潰せ！

鬼太郎は、浜辺の村で磯女に子どもをさらわれたと聞いて、現地を訪れた。そしてさらわれた子どもの祖父から、村長がねずみ男をとおして悪徳レジャー会社と組み、浜辺を埋め立ててレジャーランドを建設するという計画を知る。鬼太郎は事件の原因がそこにあるとして、磯女と話し合うために浜辺へ。ところが磯女の子ども・赤ん坊に食べられてしまう。しかしすぐに腹を破って脱出。子どもを失い悲しむ磯女を見て、砂かけ婆に頼んで赤ん坊を復活させる。鬼太郎は磯女と和解してさらわれた子どもを取り戻し、海に住むほかの妖怪たちとともに、ねずみ男や村長、レジャー会社社長を懲らしめた。



原作

「磯女」では、赤ん坊に入り込んだ鬼太郎が、膨らむ赤ん坊を抑えようとする磯女ともども爆発させる。環境問題的な視点はＴＶオリジナル。

演出●芝田浩樹　**脚本**●武上純希　**作画監督**●兼森義則

【第008話】

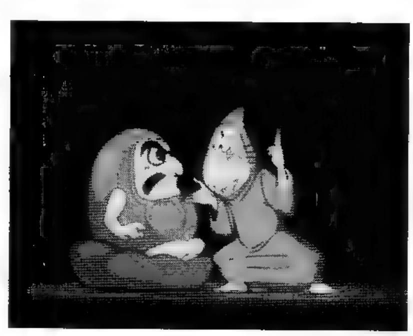
だるま妖怪相談所

1985年11月30日放映

STORY

だるまがアパートののっとりを画策！

4を不吉な数字として、4階部分を5階と呼んでいたアパートで、だるまはあるはずのない4階を貸してくれと大金を積む。管理人がそれに目がくらみ承諾すると、悩みを持った妖怪たちが「4階」にあるだるまの妖怪相談所へと殺到。ほかの入居者たちは気味悪がり、次々と引っ越してしまう。そこでだるまは管理人を追い出し、アパートを乗っ取ろうと画策。管理人から依頼を受けた鬼太郎は、妖怪の嫌がる臭いで、だるまやほかの住み付いた妖怪たちをいぶし出す。そして屋上でだるまと対決。腹の中から現れたたくさんの子だるまの中から、だるまの心臓を見つけて捕まえ、退治に成功した。



原作

「だるま」では、ビルで「ふしぎ問題解決事務所」を開いただるま。しかし人間が騒いだので、商売が始まる前に鬼太郎から追い出された。

演出●西沢信孝　**脚本**●星山博之　**作画監督**●入好さとる

【第009話】

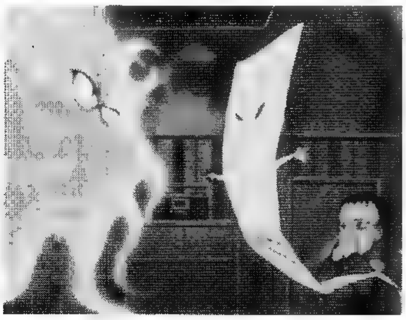
不死身の妖怪水虎

1985年12月7日放映

STORY

強敵の水虎と、極寒の日の決戦！

いじめられっ子の新一は、古いつぼの中にあった液体を飲まされ、その晩から夜中になると家を抜け出すようになる。心配した両親は、ねずみ男を信用してお祓いを頼むが、当然効果はない。怒った母親に「料金分の働きはしろ」とすごまれ、仕方なく夜中に出て行く新一の後をつけたねずみ男は、妖怪・水虎を追っていた鬼太郎と鉢合わせする。新一は水虎にとり憑かれて、水虎のメスが封印されたつぼを探していたのだ。鬼太郎は新一の中から水虎を追い出し、水虎に対して雪の降る寒い日の決闘を申し込む。そして対決の日、鬼太郎は水虎にとり憑かれて操られ、雪崩に巻き込まれてしまう。



原作

「水虎」を比較的忠実に再現。古いつぼの中の液体を飲んだ少年が操られ、メスを探して地面を掘る。ちなみに少年の名も原作とアニメで同じ。

演出●石田昌久　**脚本**●並木敏　**作画監督**●清山滋崇

【第010話】

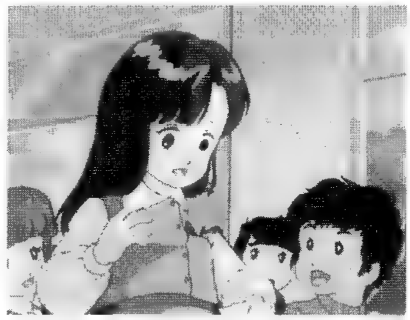
悪魔のメロディ・夜叉

1985年12月14日放映

STORY

ねずみ男の"屁"が鬼太郎たちを救う!?

ユメコのクラスに現れた、キザな特別音楽講師・響ワタル。彼が奏でるギターは、人を虜にする不思議な力があった。彼はユメコに「完成した曲を君だけに聞かせる」と言い、演奏を始める。そこに、ある少女が魂を抜かれた事件を調べていた鬼太郎が登場。響のことを、ギターを使って魂を抜き取る妖怪・夜叉だと見破り、攻撃する。しかしその時点では証拠がなく、逃がしてしまう。その後鬼太郎は、やはり響が夜叉だと突き止め、耳栓を用意して対決に臨む。しかし耳栓は簡単に吹き飛ばされ、魂を奪われてしまう。そこで、音痴のために妖怪音楽が効かない、ねずみ男の出番がやってきた。



原作

「夜叉」では、夜叉に魂を抜かれた鬼太郎を助けるため、目玉おやじが夜叉の家から鬼太郎の魂を取り戻し、夜叉本体の毛に火を付けた。

演出●葛西治、棚沢隆　**脚本**●武上純希　**作画監督**●石黒育

【第011話】

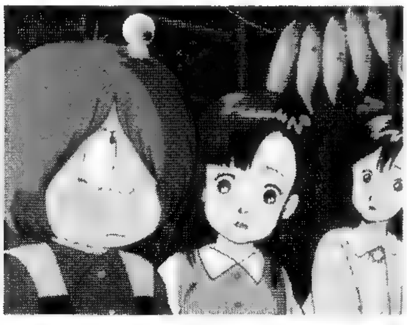
妖怪キツネ白山坊

1985年12月21日放映

STORY

弱みに付け込む白山坊にキツいお仕置き！

15年前、事業に失敗して心中を図った春子の両親は、妖怪・白山坊に命を救われる。そのとき、白山坊より事業資金の援助を受ける見返りとして、娘が16歳になったら嫁に差し出すように約束させられていた。16歳を迎えた春子は、父親の様子が変だと気づき、鬼太郎に相談。砂かけ婆の占いで一同は事実を知る。春子を救うため、鬼太郎たちはネコ娘に花嫁衣装を着せて神社へ。そこで会ったねずみ男の情報により、鬼太郎は白山坊がいるという山の中に向かった。しかしその情報こそが白山坊の部下になっていたねずみ男のワナであり、白山坊はその隙に春子を奪うため、春子の家に現れていた。



原作

「白山坊」では、娘の花子が砂かけ婆の家に相談に行き、白山坊との約束を知る。白山坊を退治する方法も原作に忠実にアニメ化されている。

演出●芝田浩樹　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●下田正美

【第012話】

ざしきわらしと笠地蔵

1985年12月28日放映

STORY

心優しい老夫婦を貧乏神から救え！

東北のある村に、貧しくも誠実に生きる老夫婦がいた。その姿を見た座敷童子は、老夫婦の家に住みついた。そんなある日、おじいさんは作った笠を売り、そのお金で正月のもちを買おうと町へ出かけていった。しかし笠は売れず、その帰りに雪を被ったお地蔵様がかわいそうだからと、笠を被せてきたという。そのころ、座敷童子は老夫婦を苦しめている貧乏神を見つけていた。追い出そうと試みるが、逆に貧乏神に退去を迫られてしまい、座敷童子は地元の妖怪・呼子と、そこに遊びに来ていた鬼太郎に相談。鬼太郎たちは貧乏神を追い出し、老夫婦に年越しのための食料をプレゼントする。



原作

「笠地蔵」に貧乏神は登場しない。老夫婦が寂しい正月を迎えないよう、座敷童子が鬼太郎とともに老夫婦に食料をプレゼントする。

演出●今沢哲男　**脚本**●星山博之　**作画監督**●山本福雄

【第013話】

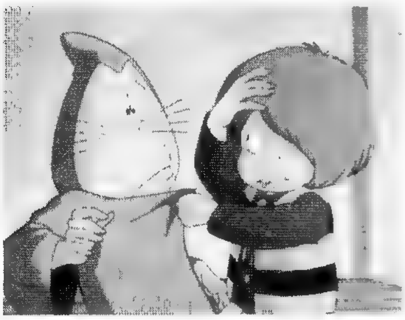
おりたたみ入道

1986年1月4日放映

STORY

ねずみ男には生き別れた弟がいた!?

正月でのんびりムードのある日、ねずみ男が子どものお年玉を盗んで捕まったという連絡が届く。真犯人は別にいると訴えるねずみ男を信じて、鬼太郎たちがおとりになると、ねずみ男にそっくりな男がワナにかかり、妖怪・折りたたみ入道を使って攻撃してきた。鬼太郎たちは協力して、折りたたみ入道を退治。するとその男は、ねずみ男の生き別れた弟だと名乗る。突然現れた肉親に喜んだねずみ男は、彼を住みかに招待。しかし鬼太郎は、男の正体を妖怪・むじなだと見破り、ねずみ男をだましたむじなを懲らしめる。そのうえで鬼太郎はねずみ男のために、むじなにひとつだけ頼みごとをした。



原作

「おりたたみ入道」では、鬼太郎は折りたたみ入道に食べられてしまう。しかし体を足首だけに縮小して身を守り、毒まんじゅうで殺した。

演出●芹川有吾　**脚本**●武上純希　**作画監督**●入好さとる

【第014話】

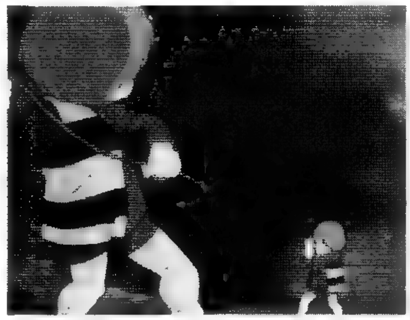
不老不死!?妖怪さざえ鬼

1986年1月11日放映

STORY

鬼太郎が人魚の子どもを誘拐？

工場排水で汚染されていく町で、ねずみ男は人魚の子どもを売り歩く鬼太郎を目撃。そんな鬼太郎の姿を嘆いていると、突然さらわれた人魚の親が襲いかかってきた。駆けつけた鬼太郎に助けられたねずみ男は、事のてんまつを鬼太郎に話す。先に現れたにせ鬼太郎の正体は、妖怪・さざえ鬼。公害によってボロボロになったさざえ鬼は、若い妖怪細胞を持った鬼太郎を食べて癒し、長生きするために、鬼太郎を誘い出そうとしていたのだ。鬼太郎はさざえ鬼に捕らわれ、食べられてしまうが、驚異的な再生能力で復活。最後に降参したさざえ鬼から、汚染の元凶である工場をどうにかしてくれと頼まれる。



原作

「さざえ鬼」では、さざえ鬼を鬼太郎が退治すると、住みかを奪われた人魚の子が平和な日々が戻ったと喜ぶ。環境汚染の話はアニメオリジナル。

演出●西沢信孝　**脚本**●武上純希　**作画監督**●兼森義則

【第015話】

冷凍妖怪・雪ん子

1986年1月18日放映

STORY

雪男、雪女、雪ん子に凍らされる鬼太郎

皮膚病と診断され、寒いところでの転地療養を勧められたねずみ男は、妖怪ポストに来た北海道からの手紙以外を捨ててしまう。そして首尾よく、鬼太郎たちと一緒に大雪山へ向かっていた。村で多発している、人間が凍りつく事件の解決を差出人・よし夫に頼まれ、調査を始めた鬼太郎。一方、スキーを満喫していたねずみ男は、突然現れた妖怪・雪ん子に凍らされてしまう。鬼太郎は雪ん子の住みかへと乗り込むが、そこにいた雪男と雪女に返り討ちに遭い、凍らされてしまった。目玉おやじたちは化火の力を借りて、凍った鬼太郎を溶かして助け出す。そこから鬼太郎の反撃が始まった。



原作

「雪ん子」では、冷凍妖怪を退治するために氷を溶かそうとエネルギーを使い果たした鬼太郎は、洞窟で失神し村人に救出された。

演出●小山崑、福留政彦　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●古川達也

【第016話】

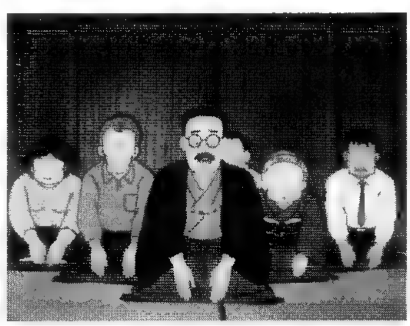
妖怪のっぺらぼう

1986年1月25日放映

STORY

“顔が盗まれる”という怪事件に挑む！

人間の顔が消えてしまう謎の事件が続いている村で、村人は鬼太郎に助けを求める手紙を出す。しかしねずみ男が、礼金目当てでその手紙を持ち去ってしまった。鬼太郎よりひと足早く村に行き、のっぺらぼうが犯人であると当たりを付けたねずみ男が墓地で張り込んでいると、案の定のっぺらぼうを発見。じつはその背後にはぬらりひょんがいて、のっぺらぼうに盗ませた顔を、顔を変えたい指名手配犯に高額で売りつけていたのだ。そしてねずみ男も返り討ちに遭い、顔を盗まれてしまう。鬼太郎はねずみ男から話を聞いて、悪事を止めるべくのっぺらぼうの住みかへと向かった。



原作

「のっぺらぼう」では、ぬらりひょんは出てこない。ねずみ男がのっぺらぼうに顔を取られたが、鬼太郎に助けてもらい、顔を取り戻す。

演出●芝田浩樹　**脚本**●星山博之　**作画監督**●山口泰弘

【第017話】

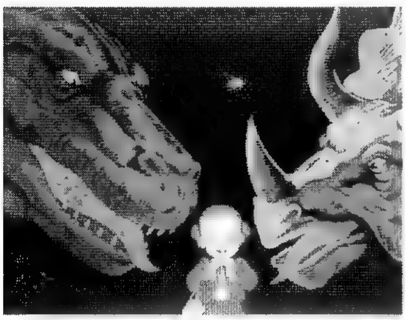
古代妖怪・毛羽毛現

1986年2月1日放映

STORY

人間嫌いの妖怪が、太古の森を出現させる！

鬼太郎とユメコは化石採集に出かけた森で、恐竜の姿を目撃する。そして山の中の村で、幼い少女・キクに出会う。その村では、子どもたちが集団で姿を消していた。そこへねずみ男が巨大なニワトリに乗って現れ、キクとユメコを乗せて飛び立ってしまう。事件との関わりを感じた鬼太郎は、ふらり火の足に飛びつくが、ふらり火もろとも落下。そこで魂を抜かれ、化石になっている子どもたちを発見する。それは妖怪・毛羽毛現の仕業で、子どもたちの魂を使って恐竜を復活させていたのだ。そしてユメコも魂を抜かれてしまう。しかし、毛羽毛現はユメコや子どもたちの魂に触れて変わっていく。



原作

「毛羽毛現」では、鬼太郎が毛羽毛現に催眠術をかけて勝負が決まる。毛羽毛現は自分の存在を秘密にするという条件で、子どもたちを解放する。

演出●石田昌久　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●清山滋崇

【第018話】

妖怪天狐 地底王国の逆襲

1986年2月8日放映

STORY

狐一族が人間たちに復讐する！

地下鉄の工事現場で働く作業員は、突如現れた謎の美女に誘われるようについて行き、姿を消す。彼らが目を覚ますと、都市の地下に存在する狐たちの聖地、巨大な地底王国の牢に捕らえられていた。工事を人間たちの侵略だと考えた狐一族の統率者・天狐は、さらった作業員を人質に工事中止を要求してきたのだ。知らせを聞いた鬼太郎は、交渉人として地底王国へと向かうが、人間の手先だと思われて「空狐五人衆」に執拗な攻撃を受ける。それでも何とか、天狐の前にたどり着いた鬼太郎。対して天狐は、鬼太郎との戦いに敗れたら人質を解放し、地底王国を違う場所へ移すと約束する。



原作

「天狐」では、霞ヶ関ビルの地下駐車場建設工事が、狐の妨害で進まず死者も出る。鬼太郎は人間から狐との仲介を依頼され、天狐と会う。

演出●棚沢隆　**脚本**●星山博之　**作画監督**●松本清

【第019話】

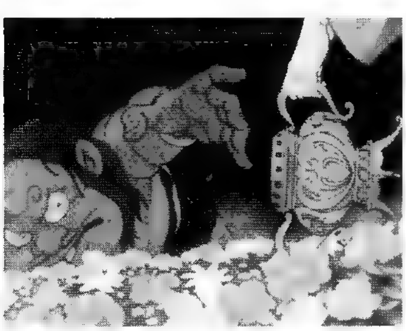
ゆめ妖怪まくらがえし

1986年2月15日放映

STORY

消えたユメコを追い、夢の世界へ！

真夜中に突然、姿を消したユメコ。鬼太郎は夢の世界の番人・まくら返しの仕業とつきとめ、ねずみ男とともに夢の世界へと向かう。まくら返しはきれいな夢を見るユメコを使って、夢の世界の修復を行っていた。鬼太郎たちは、まくら返しの弱点である塩を桶いっぱいににかけて撃退。ユメコを助け、夢の世界から脱出する。しかしまくら返しは眠り砂をまいて鬼太郎たちを眠らせ、ユメコを再び連れ去ろうとする。さらに「妖怪香炉」の煙を使って鬼太郎たちに悪夢を見させるが、鬼太郎は獏を呼び、その悪夢を食べさせる。観念したまくら返しは、二度と悪さをしないと約束した。



原作

「まくら返し」では、獏は登場せず、まくら返しは樽いっぱいの塩を被せられて事切れる。塩によってナメクジのように溶けていった。

演出●今沢哲男　**脚本**●武上純希　**作画監督**●山本福雄

【第020話】

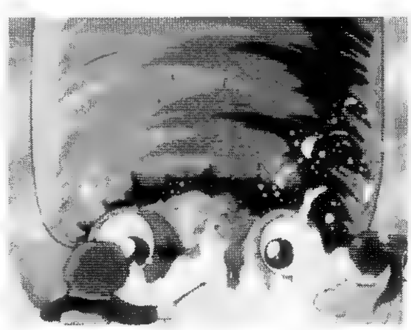
半魚人の恋

1986年2月22日放映

STORY

人間に惚れた妖怪・半魚人の運命は!?

人間の海女・あかねを嫁に欲しい半魚人は、ねずみ男に仲介を頼み込む。ねずみ男は見合いの段取りをするが、相手が妖怪だと気付いたあかねは鬼太郎に相談する。半魚人の正体を突き止めた鬼太郎が海へ行くと、化けイカに海に引きずり込まれ、貝の中に閉じ込められて真珠にされてしまう。あかねは鬼太郎を救うため、半魚人との結婚を承諾。飲めば相手を永久に好きになるという「妖怪惚れ薬」を飲まされる直前に、何とか元の姿に戻った鬼太郎が阻止する。それでも人間に憧れる半魚人は、人間になる手術を受ける。しかし人間のわずらわしさを知り、妖怪に戻りたいと後悔するのだった。



原作

「かまぼこ」では、自作のかまぼこで儲けて家を買った半魚人が、手術を受けて人間になる。しかし税金などを取り立てられ、嘆く結末の話。

演出●芹川有吾　**脚本**●武上純希　**作画監督**●人好さとる

【第021話】

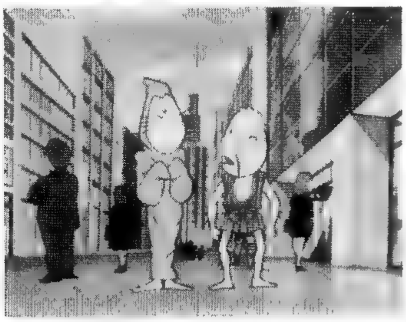
コマ妖怪あまめはぎ

1986年3月1日放映

STORY

負けず嫌いのあまめはぎが鬼太郎に逆上

ねずみ男は、山の中で100年近く冬眠していた妖怪・あまめはぎを起こしてしまう。あまめはぎから身を守るため、鬼太郎のことをあまめはぎに話すねずみ男。するとあまめはぎは闘志を燃やし、「負けた者は相手の言うことを聞く」という妖怪の掟をかけたこま合戦を鬼太郎に挑む。鬼太郎は目玉おやじをこまにして勝負に勝ち、おとなしく山へ帰るようにあまめはぎに命じた。勝負に納得がいかないあまめはぎは、ねずみ男を使って鬼太郎をキノコ谷に誘い出す。そこは日本で唯一妖力の効かない、妖気消滅地帯だった。妖力の使えない鬼太郎は、あまめはぎに巨大ごまで生き埋めにされてしまう。



原作

「コマ妖怪」では、鬼太郎を妖気消滅地帯に誘い込んだあまめはぎが、鬼太郎をこん棒で殴り倒し、さらに大岩を投げつけて押しつぶした。

演出●白土武、山寺昭夫　**脚本**●並木敏　**作画監督**●清水明

【第022話】

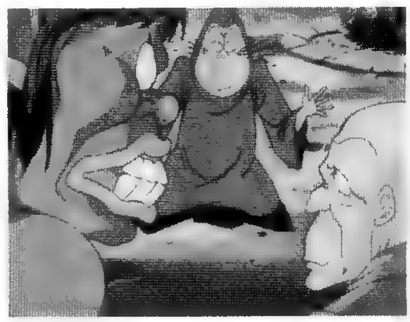
いじわる妖怪天邪鬼

1986年3月8日放映

STORY

天邪鬼が人間を手下にして町で大暴走

老人・源次は夢のお告げに従い、妖怪・天邪鬼の封印を解いてしまう。天邪鬼は源次と、手下となったねずみ男と一緒に町で暴れ始める。止めようとした鬼太郎は相手の心を読める天邪鬼になす術もなく捕らえられ、燻製にされそうになる。そこで子泣き爺たちは、天邪鬼に眠り草のお茶を飲ませ、睡眠中に鬼太郎を助け出す。さらに封印を試みるが失敗。そこで鬼太郎は、心を読める天邪鬼対策として目玉おやじの指示を受けて何も考えず全力で走り、天邪鬼を誘導する。そこを子泣き爺が爆弾で岩を崩して、天邪鬼を押しつぶした。そして魔よけの毘沙門天をそこに供えて、ようやく封印する。



原作

「天邪鬼」では、戦争ですべてを失い根性が曲がった老人が天邪鬼を復活させる。最後に鬼太郎が、老人のために国に交渉して家を得る。

演出●芝田浩樹　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●松本朋之

【第023話】

電気妖怪かみなり

1986年3月15日放映

STORY

科学の力に激怒したかみなりの復讐

雨山博士は、雷から電気エネルギーを吸収する機械・エレキテルⅡの実験中に、電気妖怪かみなりから電気エネルギーを吸いとってしまう。ねずみ男は電気を売って金儲けしようと、弱ったかみなりに話をもちかけるが、かみなりが送電線から電気を吸収して体力を取り戻した途端、追い払われる。復讐のため雨山博士を拉致したかみなりに対して、鬼太郎は話し合いを試みるが、かなわず戦いになる。エレキテルⅡに触れて巨大化したかみなりは、人間からも電気エネルギーを奪いはじめ、街を停電に陥れる。ひとりでは勝ち目がない鬼太郎は、雨山博士に科学の力を借りることを思いつく。



原作

「電気妖怪」では、科学的に人工雨を降らせるため、ドライアイスをヘリから撒いたことでかみなりが激怒。そのヘリを墜落させる。

演出●石田昌久　**脚本**●武上純希　**作画監督**●山口泰弘

【第024話】

子供が消える!?妖怪うぶめ

1986年3月22日放映

STORY

赤ん坊をさらう妖怪・姑獲鳥を封じろ！

山奥で「姑獲鳥石」と「姑獲鳥の羽」を見つけたねずみ男は、立ち寄った屋敷の主人・村山に姑獲鳥で金儲けをしようとそそのかされ、妖怪・姑獲鳥を呼び出してしまう。その夜、復活した姑獲鳥は病院から生まれたばかりの赤ん坊を誘拐。村山の息子・秀夫とねずみ男も、誘拐した赤ん坊の子守り役としてさらわれた。捜査に乗り出した鬼太郎も、突如現れた姑獲鳥に襲われ、呑み込まれてしまう。隠れ家に連れてこられた鬼太郎は、拾っていた姑獲鳥の羽を姑獲鳥の頭にかぶせて、元の姑獲鳥石の姿に戻すことに成功する。そして石像を奉り、二度と姑獲鳥が現れないように処置した。



原作

「姑獲鳥」では、子どもにおねしょをさせるのが、姑獲鳥の趣味。アニメでは姑獲鳥の出産悲話が語られるが、原作ではその描写はない。

演出●西沢信孝　**脚本**●山崎晴哉　**作画監督**●清山滋崇

【第025話】

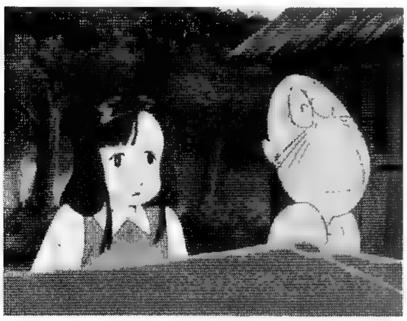
妖怪ぶるぶる

1986年3月29日放映

STORY

ユメコの入浴シーンは必見！

鬼太郎の名前をかたってユメコを温泉に招待したねずみ男は、きれいな旅館に泊まってもらいたい一心で、体を冷やす妖怪・ぶるぶるを封じた古い絵を燃やしてしまう。復活したぶるぶるは次々とドライバーにとり憑き、交通事故を起こさせる。ユメコの弟・星郎からの手紙で駆けつけた鬼太郎は、妖怪めがねを使ってぶるぶるを見つけ、髪の毛針で木の幹に貼り付ける。しかし鬼太郎が警官を呼ぶ間に、ねずみ男がそれをキノコと勘違いしてユメコに振る舞ってしまう。鬼太郎は凍り付いていくユメコを温泉に入れ、ユメコの体内からぶるぶるを追い出す。そして鬼太郎とぶるぶるの再戦が始まった。



原作

「峠の妖怪」から、ぶるぶるが峠のドライバーを襲う部分、鬼太郎がぶるぶるを木に髪の毛針で貼り付ける部分などが生かされている。

演出●棚沢隆　**脚本**●武上純希　**作画監督**●金子康良

【第026話】

おばけナイター

1986年4月5日放映

STORY

鬼太郎たち妖怪が本気で野球試合！

10割打者・万年の活躍が、少年野球チーム・ラッキーズを日本一に導いた。万年が使うバットは墓地で拾ったもので、福の神が妖怪チームのために、樹齢2000年の霊木から作った特別なバットだったのだ。鬼太郎はバットを返すように頼むが、万年は離そうとしない。そこで鬼太郎はバットを賭けて、ラッキーズと妖怪チームのナイター試合を申し込んだ。試合は延長戦に入っても０対０の引き分けで、日を改めて再試合することに。鬼太郎はバットの力に頼って努力をしない万年を心配し、福の神に頼んでバットの力を失わせる。試合で功績を残せなくなった万年だったが、努力する心を取り戻した。



原作

「おばけナイター」では、バットと命を賭けた試合になっている。圧勝していた妖怪チームだが、朝日が昇ると同時に逃げていく。

演出●今沢哲男　**脚本**●星山博之　**作画監督**●山本福雄

【第027話】

妖怪ふくろさげ

1986年4月12日放映

STORY

閻魔大王からもらった妖怪エネルギーで退治！

ねずみ男はオサムとアキラというコソ泥２人から、妖怪文字で書かれた地図の解読を頼まれる。３人は記された場所に着き、宝と勘違いしてつぼを開けると、妖怪エネルギーを吸収する妖怪・ふくろさげが現れた。半妖怪のため、妖怪エネルギーを半分吸収されただけで助かったねずみ男は、鬼太郎に助けを求める。そのころふくろさげは、子泣き爺たちから妖怪エネルギーを吸い取り、コソ泥を連れて銀行から金を盗み出していた。鬼太郎は妖怪を犠牲にどんどん強くなっていくふくろさげを倒すため、閻魔大王から強力な妖怪エネルギーを借り受け、そのエネルギーを限界までふくろさげに吸収させる。



原作

「ふくろさげ」では、ふくろさげはつぼから出てくる人魂のような形であり、狸の姿はしていない。自爆する顛末はアニメに生かされている。

演出●芝田浩樹　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●入好さとる

【第028話】

田を返せ!! 妖怪泥田坊

1986年4月19日放映

STORY

泥田坊退治に化火が大活躍！

ねずみ男にそそのかされて田んぼを売った山中は、怪物に「田を返せ」と追いかけられる夢に悩んでいた。そのころ、雨の降る夜に新幹線が襲われる事件が続発。鬼太郎が現場に張り込むと、妖怪・泥田坊が出現する。鬼太郎はそれを退治し、事件は解決したように見えた。ところが泥田坊は雨によって再生する能力を持ち、何十体にも増殖して町で暴れ始めた。目玉おやじは化火を呼び、鬼太郎の体内に入れて鬼太郎の体温を上昇させる。熱が弱点の泥田坊は熱さに耐え切れず、水たまりへと逃げ込んだ。鬼太郎はその場所を田んぼにし、泥田坊の一時的な住みかを作って、騒動を鎮静化させた。



原作

「泥田坊」では、鬼太郎が泥田坊をちゃんちゃんこで一度は倒すが、雨が降り復活する。その他、泥田坊が熱に弱い設定なども原作に同じ。

演出●白土武、山寺昭夫　**脚本**●山崎晴哉　**作画監督**●清水明

【第029話】

妖怪ひでり神

1986年5月3日放映

STORY

妖怪マンガ家・ひでり神が誕生!?

採掘場でダイヤを探していたねずみ男は、洞穴で壁画を描く妖怪・ひでり神に出会う。ねずみ男はひでり神を漫画誌に売り込むが、編集者の森田は原稿を見て、使い物にならないとダメ出しする。そこで方針変更し、ねずみ男は森田を人質にして身代金を要求する。鬼太郎は、身代金の受け渡し場所に「妖怪ホバークラフト」に乗って現れたひでり神と対決。ひでり神を火山口に落とすが、熱がエネルギー源のひでり神は巨大化してしまう。そこで鬼太郎はひでり神を野づち塚へ誘いこみ、妖怪・野づちにひでり神を吸い込ませた。ひでり神は降参し、ねずみ男と2人で漫画を仕上げることになった。



原作

「ひでり神」では、妖怪にマンガを描かせようとしてひでり神に連れ去られた編集者は、解放されてからようやく妖怪の存在を理解した。

演出●芹川有吾　**脚本**●武上純希　**作画監督**●松本朋之

【第030話】

妖怪見上げ入道

1986年5月10日放映

STORY

鬼太郎が妖怪学校の生徒になっちゃった!?

イタズラ好きの俊夫が、妖怪・見上げ入道に連れ去られた。行き先は、イタズラ好きな動物や人間を妖怪に育てる「妖怪学校」である。ユメコから相談された鬼太郎は俊夫の救出へ向かうが、見上げ入道に生徒と勘違いされて、授業を受けることになってしまう。鬼太郎は脱出するため、見上げ入道を挑発して小さくさせると、俊夫やほかの生徒たちを助け出す。しかし鬼太郎は巨大化した見上げ入道に、異次元空間に閉じ込められてしまった。鬼太郎と助けに来た砂かけ婆たちは、妖気を放出して異次元を破り脱出。鬼太郎は見上げ入道にわざと吸い込まれ、ちゃんちゃんこで喉をふさいで退治した。



原作

「見上げ入道」では、鬼太郎は見上げ入道から子どもたちを救った後「見上げ入道の縄張りを荒らしたからだ」と子どもたちをたしなめている。

演出●石田昌久　**脚本**●星山博之　**作画監督**●山口泰弘

【第031話】

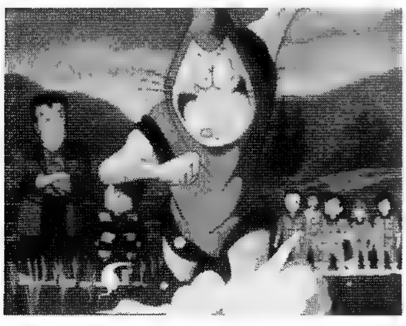
オベベ沼の妖怪

1986年5月17日放映

STORY

ねずみ男がのけ者にされる胸中を語る

ユメコたちに誘われ、田舎で田植えをしてのんびりと過ごす鬼太郎。ねずみ男も仲間に入れてもらおうとするが、入れてもらえなかった。そんな時、ねずみ男は沼辺で少年と出会う。その少年は、村人から相手にされず、寂しくてイタズラを繰り返す妖怪・かわうそだった。他人とは思えないねずみ男は、かわうそと一緒に水路を破壊し、田んぼを水浸しにするなど、悪質なイタズラを繰り返す。そんなかわうそを退治しようとした鬼太郎だったが、許してやってくれとねずみ男に懇願され、考え方を改める。かわうそたちと一緒に、田んぼを元通りにし、村人たちとの仲を取り持つ鬼太郎だった。



原作

「オベベ沼の妖怪」をほぼ忠実に再現。ただし原作では、村人たちへのイタズラを反省したかわうそは、人間たちの村を離れ、沼に帰る。

演出●芝田浩樹　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●松本勝次

【第032話】

鬼太郎危うし! 妖怪大裁判

1986年5月24日放映

STORY

鬼太郎が濡れ衣で有罪判決、大ピンチに！

妖怪の秘密パーティの映像を人間に撮らせた罪により、鬼太郎は逮捕されてしまう。これは無実の罪であり、妖怪界の支配を企む妖怪・百々爺のワナだった。裁判で鬼太郎側の証人になるはずの子泣き爺たちは足止めされて出廷できず、さらに百々爺と結託したねずみ男の偽証により、鬼太郎は有罪判決を受けてしまう。しかし鬼太郎は、真犯人を捜し出そうと刑執行前に逃亡。代わりに目玉おやじが捕まるが、鬼太郎には処罰の時間までの猶予が与えられる。百々爺の仕業だと知った鬼太郎は仲間たちと合流し、その居場所へと向かう。鬼太郎ファミリーと百々爺率いる妖怪軍団の対決が始まった。



原作

「妖怪大裁判」では、本来は鬼太郎の味方である妖怪も、裁判後も鬼太郎の敵に回ったまま。アニメのように鬼太郎を助けたりはしなかった。

演出●明比正行　**脚本**●武上純希　**作画監督**●清山滋崇

【第033話】

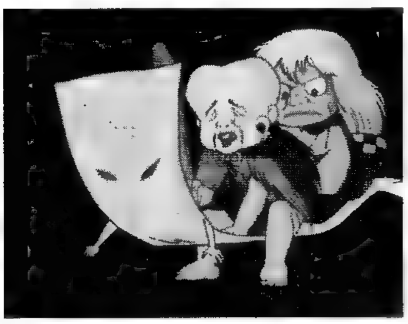
妖怪あかなめ　哀しみの逆襲

1986年5月31日放映

STORY

人間たちが捨てたゴミのガスで、あかなめが巨大化！

ねずみ男がゴミ捨て場で食べ物を漁っていると、人間の言葉を話すハエ・ブン太から、逃げるように伝えられる。その直後、巨大化した妖怪・あかなめが現れ、街で暴れ始めた。鬼太郎は現場へ駆けつけ、あかなめを説得するが、問答無用で呑み込まれてしまう。ブン太が言うには、あかなめは人間が捨てたゴミから発生したガスを吸い込み、巨大化してしまったという。鬼太郎は、あかなめの腹の中から閻魔大王に連絡を取り、あかなめの体の中に「豊の木」の種を入れて、毒を浄化する方法を教わった。そこで、仲間たちがあかなめに豊の木の実を食べさせると、あかなめの体に変化が現れる。



原作

「あかなめ」では、鬼太郎親子はあっさりとあかなめに呑み込まれ、ねずみ男があかなめ退治に動き回るが、世間には認めてもらえなかった。

演出●永丘昭典、今沢哲男　**脚本**●星山博之　**作画監督**●平田かほる

【第034話】

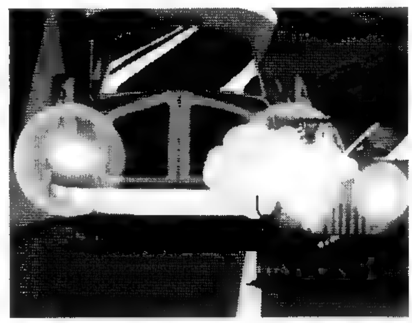
ばけ猫国道0号線

1986年6月14日放映

STORY

鬼太郎が化け猫との戦いを放棄する

健二の父親は、国道０号線で事故に遭って以来、猫の真似をしてしまう奇病・猫うち症にかかってしまう。健二から相談を受け、化け猫の仕業と考えた鬼太郎は現場へ直行。現れた怪しい車に鬼太郎が飛び移ろうとすると、その車は消えてしまう。それが幻覚だと知った鬼太郎は、蛍の死骸で作った蛍光塗料で車に目印をつける。そして正体を現した化け猫を追うと、交通事故の犠牲となった猫たちの怨念がこもった場所へたどりつく。鬼太郎は人間のすべてが悪いわけではないと話し、化け猫との戦いを放棄。化け猫はどこかへ去っていった。鬼太郎は国道０号線に、猫の慰霊碑を作って供養した。



原作

「ばけ猫」では、化け猫退治に行った鬼太郎が、化け猫たちに問答無用で襲われる。猫の心情を察して道に慰霊碑を作ると、猫の呪いが収まった。

演出●芝田浩樹　**脚本**●星山博之　**作画監督**●大好さとる

【第035話】

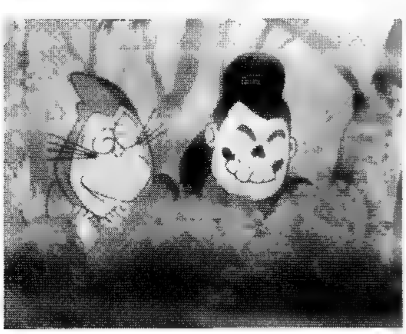
妖怪赤舌の千年王国

1986年6月28日放映

STORY

ねずみ男に猛アタックする骨女が登場

千年の眠りから目覚めた妖怪・赤舌は、理想郷「千年王国」を作ろうと企んでいた。手下の骨女は、千年王国の人柱にするために人間たちを集めていく。そして水を自在に操る赤舌が、人間たちから水分を吸収して固め、千年王国の柱にしていった。続いてじゃま者の鬼太郎を排除しようと、赤舌は鬼太郎に狙いを定める。赤舌は、鬼太郎とその仲間が集まっていた家ごと呑み込み、やはり柱にしてしまった。ところがもともと石に変身していた子泣き爺が難を逃れ、鬼太郎たちにお湯をかけて復活させる。鬼太郎は炎の妖怪五人衆を集めて赤舌の体内に入り、熱を発して赤舌の水分を蒸発させていく。



原作

「赤舌」でも鬼太郎は赤舌に呑み込まれる。しかし液体のままだった鬼太郎の胃液を飲んだ赤舌は、強力な力で溶かされて液体になってしまう。

演出●葛西治　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●松本朋之

【第036話】

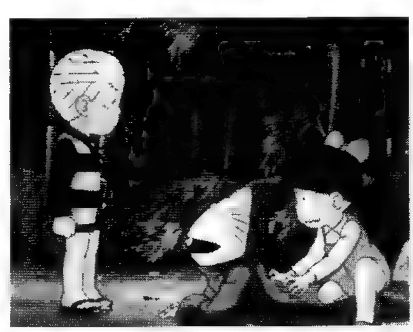
異次元妖怪かまなり

1986年7月5日放映

STORY

鬼太郎、釜の中へ吸い込まれ妖力を奪われる

手紙で何者かに呼び出された鬼太郎は、妖力の源である髪の毛を奇妙な釜に奪われてしまう。そこで鬼太郎はねずみ男に頼み、釜を誘い出すが、ねずみ男も釜の中へと吸い込まれてしまう。砂かけ婆によると、妖怪・釜鳴りの仕業だという。仲間に迷惑はかけられないと、鬼太郎はひとり戦いに向かうが、やはり釜の中へと吸い込まれてしまう。釜の中からちゃんちゃんこを解いて、ロープにして脱出を図るものの、釜鳴りに気付かれてしまい失敗。そんな時、救援にかけつけた妖怪たちが協力して釜鳴りを攻撃し、鬼太郎の髪の毛を取り戻す。妖力が復活した鬼太郎と、釜鳴りの再戦が始まる。



原作

「釜なり」での鬼太郎は、髪の毛も取られ下駄の鼻緒も切れ、ついてないからと昼でも布団で寝ており、釜鳴りへの反撃に関わらなかった。

演出●山寺昭夫　**脚本**●武上純希　**作画監督**●清水明

【第037話】

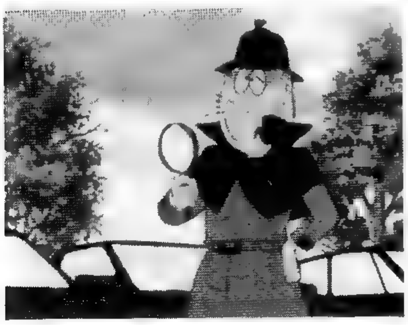
妖怪おどろおどろ

1986年7月12日放映

STORY

妖怪になってしまった人間の悲哀

子どもの誘拐事件が続き、鬼太郎のもとに「事件に手を出すな」という脅迫状が届く。ワナだと知りつつ、ユメコをおとりに捜査する鬼太郎。しかし誘拐犯が妖怪ではなかったために、ユメコをさらわれてしまう。後を追った鬼太郎は、誘拐犯が潜む洋館に到着。そこには強い妖気が立ち込めていた。そして自分が開発した薬の副作用で妖怪・おどろおどろと化した、誘拐犯・隆の父親が現れる。隆は父親に新鮮な血液を与えるために、子どもを誘拐していたのだ。おどろおどろと鬼太郎の対決は、鬼太郎がおどろおどろの妖気を吸い取って決着がつくが、親子の悲しい運命には鬼太郎にも手の出しようがなかった。



原作

「おどろおどろ」では、妖怪・おどろおどろになった父を息子がかばう。アニメでは父の行動を許さない子の心情が、強調されて描かれていた。

演出●石田昌久　**脚本**●星山博之　**作画監督**●松本勝次

【第038話】

タタリだ〜!?妖怪土ころび

1986年7月19日放映

STORY

住みかを奪われた妖怪の悲痛な叫び

村が原因不明の停電になり、祖母が祟りだと騒いでいる、という手紙を受け取った鬼太郎。その祖母は、最近できたダムに沈んだ村の祟りだという。そんな時、ねずみ男が村に電気を売りにくる。怪しいと思いその後を追った鬼太郎は、ねずみ男が妖怪・土ころびに「村の電気を止めればダムがなくなる」と話しているのを耳にする。鬼太郎はそれが嘘だと土ころびに伝えるが、土ころびは聞く耳を持たずに水の中へ逃げ出した。電気を食う土ころびは、ダムの電気を吸収し、巨大化しようと考えていたのだ。鬼太郎は土ころびの退治を考え直し、ダムの中へと沈んだ土ころびの住みかを丘の上へと移そうとする。



原作

「土ころび」は、工場排水で汚染された人間が、妖怪と化して最後は殺される哀れな結末。「憎むべきは工場排水」と鬼太郎が断言する。

演出●生頼昭憲　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●新野義信

【第039話】

三途の河のだつえばばあ

1986年8月2日放映

STORY

若さを望んだ奪衣婆の結末は？

和服の美女に誘われて、夜の繁華街から３人の男が姿を消した。美女と聞き、張り切って調査に向かったねずみ男も、やはりさらわれてしまう。鬼太郎たちは被害者たちが地獄にいると知り、地獄行きの列車に乗る。美女の正体は、地獄に来た者の罪を測る仕事をする、奪衣婆だった。彼女は人間の魂で作ったスープを飲んで、若さを取り戻そうとしていたのだ。奪衣婆は「万有自在玉」で地獄の番犬を操り、鬼太郎たちを攻撃。ところがネコ娘が地獄を駆け回って手に入れた針で万有自在玉を割ると、奪衣婆の力は消滅した。激昂した閻魔大王は、奪衣婆に赤ん坊になって人間界で生きるという罰を与える。



原作

「奪衣婆」は、万有自在玉を持ち出した奪衣婆が、若者とのアバンチュールを夢見て現世を訪れる話。ねずみ男が引っかかるが、鬼太郎が退治。

演出●明比正行　**脚本**●武上純希　**作画監督**●入好さとる

【第040話】

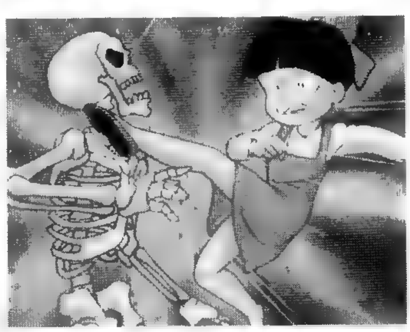
富士山大噴火!?妖怪大首

1986年8月9日放映

STORY

目玉おやじが缶詰にされちゃった！

骨女はねずみ男を強引に、妖怪・大首のエネルギー源の「霊魂の缶詰」を作る工場へと連れて行く。大首は富士山を噴火させて東京を死の町にして日本を支配しようと考え、そのためにじゃま者の鬼太郎を抹殺しようとしていた。オナラを巨大な缶詰にしたねずみ男は、鬼太郎を倒すべく家を訪れるが、直前で気付かれて計画は失敗。ねずみ男の後をつけた鬼太郎は缶詰工場に乗り込む。しかし隙をつかれ、目玉おやじを缶詰にされてしまう。鬼太郎はそれを追って大首のいる富士山の洞窟へ向かい、目玉おやじを無事救出。真空を作り出して攻撃する大首に対し、「霊食キノコ」を使った反撃に出た。



原作

「大首」では、鬼太郎はねずみ男から送られた「屁の缶詰」に驚き、ねずみ男を操る黒幕を感じて、大勢の仲間たちと大首の住みかへ向かう。

演出●今沢哲男　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●平田かほる

【第041話】

激戦！妖怪関ヶ原

1986年8月23日放映

STORY

鬼太郎たちが次々とカエルの姿に！

ねずみ男はカエルの姿に封じられている妖怪・邪魅にだまされ、封印石を動かして身代わりにカエルになってしまう。その後、鬼太郎はねずみ男にだまされてカエルになり、その鬼太郎の身代わりに目玉おやじがカエルになる。元の姿へと戻った鬼太郎だが、すぐに邪魅の「毒気」を浴びて操られ、さまざまな悪事を働いてしまう。ユメコは事情を知り、目玉おやじとともに、かつて邪魅を封じたガマ仙人の元へ。ガマ仙人は鬼太郎を異次元「妖怪関ヶ原」に引きずり込み、正気に戻させる。鬼太郎は邪魅と対決し、苦戦の末ガマ仙人から借り受けた杖で邪魅を打ちつけ、再度カエルの姿に封印した。



原作

「妖怪関ヶ原」では、邪魅が女性に化けるシーンなどはない。さらに最後には鬼太郎ではなくガマ仙人が、邪魅をふたたび封印している。

演出●葛西治　**脚本**●武上純希　**作画監督**●清山滋崇

【第042話】

妖怪牛鬼

1986年8月30日放映

STORY

鬼太郎、今度は牛鬼にのっとられる！

立入禁止の場所で釣りをしていた忠吉は、封印の石を安易に動かしてしまう。するとそこから生じた気体にとり憑かれ、忠吉は妖怪・牛鬼になってしまった。数日後、同じ場所で釣りをしていたねずみ男は、突如現れた牛鬼に呑み込まれる。知らせを受けた鬼太郎は、牛鬼を退治してねずみ男を助け出した。すると牛鬼は忠吉の姿に戻り、今度は鬼太郎が牛鬼にとり憑かれてしまった。鬼太郎は牛鬼へと姿を変えて、暴れ始める。駆けつけた子泣き爺たちは、かつて牛鬼を退治したといわれる迦楼羅様しか鬼太郎を救えないと考え、村に祭られている神社で、村人たちとともに祈りを捧げる。



原作

「牛鬼」とほぼ同じ。牛鬼をしとめた迦楼羅様は、塚を作るように村人に指示。塚をいじったので牛鬼が世に出たと戒めて、姿を消した。

演出●石田昌久　**脚本**●星山博之　**作画監督**●松本朋之

【第043話】

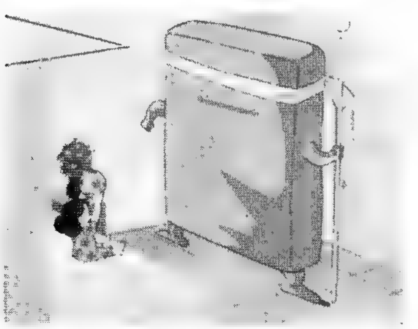
さら小僧　妖怪歌謡大賞

1986年9月6日放映

STORY

河童一族の歌が人間界で大ヒット！

歌手を辞めようと悩んでいたタケシは、たまたま妖怪・さら小僧の歌を聞く。そして自分のグループ・ビンボーブラザーズから「闇夜に気をつけろ」というタイトルでその曲を発表し、一躍スターへとのし上がった。ところが河童一族の歌を勝手に歌われたと怒るさら小僧はメンバーを誘拐し、もう二度と歌うなと脅迫してくる。しかしタケシは、病床の娘のために、どうしても歌謡大賞を取らなければならなかった。鬼太郎たちは河童たちの住みかへ向かう。激しい戦いの末、タケシの事情も知ったさら小僧は、「自分も歌謡大賞にゲストで出たい」という条件付きで、曲を歌うことを許可するのだった。



原作

「さら小僧」が原作。売れない歌手がさら小僧の歌を盗作する部分は同じだが、アニメでは「ぺったらぺたらこ」ではなく、オリジナルの歌。

演出●白土武　**脚本**●武上純希　**作画監督**●清水明

【第044話】

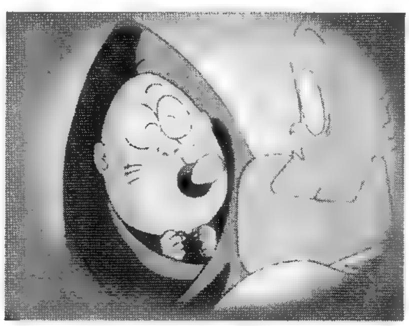
あの世からの使者死神

1986年9月13日放映

STORY

死神に狙われた鬼太郎の未来は!?

母親へのプレゼントを買うユメコに付き合った鬼太郎とねずみ男は、母親がいない淋しさを感じていた。その晩、ねずみ男の前に死神が現れる。死神の仕事に嫌気が差し、鬼太郎を亡き者にしてこの世を支配しようと考えたのだ。死神はまず、自分がねずみ男の父親であるとだましてねずみ男を味方につける。さらに目玉おやじをだまして宇宙へと打ち上げ、鬼太郎にはにせの母親を用意して、毒入りの料理を食べさせた。しかしにせの母親は鬼太郎に情が移り、鬼太郎を助けるために、鬼太郎から毒を吸収して死んでしまう。にせとはいえ母を殺された怒りを爆発させ、鬼太郎は死神に襲いかかった。



原作

「死神」では、家系図を見て死神の弟と信じたねずみ男が、人間が滅びた後に世界の支配者になろうと死神に誘われ、鬼太郎殺しに協力する。

演出●生頼昭憲　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●松本勝次

【第045話】

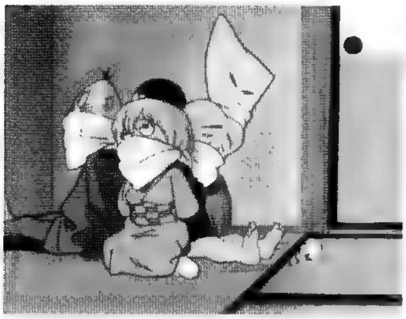
妖怪花を救え!!

1986年9月20日放映

STORY

ねずみ男のお陰でホテルは大繁盛!?

妖怪花が咲く原野の傍らにある寂れたホテルが、ねずみ男のアドバイスに従って改装。妖怪ホテルとして生まれ変わり、大繁盛していた。それに目をつけたぬらりひょんは、ホテルの社長とねずみ男を拘束したうえで、社長に化けてホテルの乗っ取りを開始した。さらにぬらりひょんは、妖怪花の咲く場所も遊技場にしようと、工事を開始する。妖怪花から助けを求められた鬼太郎が現場へ向かうと、ぬらりひょんの用心棒が現れ、鬼太郎は竜巻の中に閉じ込められてしまった。さらに鬼太郎に社長を探すように頼まれた目玉おやじや砂かけ婆たちも、社長を人質に取られて捕まってしまう



原作

「妖怪花」では、ホテルの主人自身が、欲にかられて開発に手を出す。そして絶滅の危機に瀕した妖怪花が、夢の中で鬼太郎に助けを求める。

演出●明比正行　**脚本**●星山博之　**作画監督**●稲野義信

【第046話】

妖怪大統領こうもり猫

1986年9月27日放映

STORY

地獄を舞台に「玉手箱」の争奪戦！

こうもり猫は妖怪大統領選挙で1票しか取れずに落選し、掟により国外追放される。そして報復を考えるこうもり猫は、葬頭河婆から万人を老人にしてしまう玉手箱の存在を聞き、手に入れようと考えた。一方、玉手箱を作った博士は、世を滅ぼしかねないその玉手箱の存在を持て余し、鬼太郎に廃棄を依頼していた。その研究所からの帰りに鬼太郎は、こうもり猫に催眠術をかけられ、玉手箱を使われて老人になってしまう。そのまま鬼太郎はこうもり猫を地獄まで追いかけるが、今度は葬頭河婆に石にされ、三途の川に沈められてしまう。困り果てた目玉おやじは、閻魔大王に助けを求めた。



原作

「妖怪大統領」では、鬼太郎がねずみ男を使って、こうもり猫と葬頭河婆を三途の川に閉じ込め、玉手箱を開封して老化させて倒した。

演出●葛西治　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●入好さとる

【第047話】

妖怪のびあがりと吸血木

1986年10月4日放映

STORY

自然破壊をする人間への警告

山奥の村では、人間が赤い木に変わるという怪事件が起こっていた。鬼太郎が現場に到着すると、犯人である妖怪・のびあがりに襲われる。のびあがりは、自然を破壊する人間を木に変えようと企んでいたのだ。この赤い木は人間の血を吸って成長するため、吸血木と呼ばれていた。吸血木を切って金儲けをしようと考えていたねずみ男は、のびあがりと結託して鬼太郎に痺れ薬を飲ませ、吸血木の種を植え付けた。その翌日、木に姿を変えてしまった鬼太郎を、ねずみ男のチェーンソーが襲う。ネコ娘がそれを阻止すると、鬼太郎は吸血木の実から復活し、のびあがりをマグマによって消し去った。



原作

「吸血木」では、のびあがりは人の目に見えない。地下生物が、人間を赤い木に変えて地上征服を狙っている、と鬼太郎が解説した。

演出●今沢哲男　**脚本**●武上純希　**作画監督**●平田かほる

【第048話】

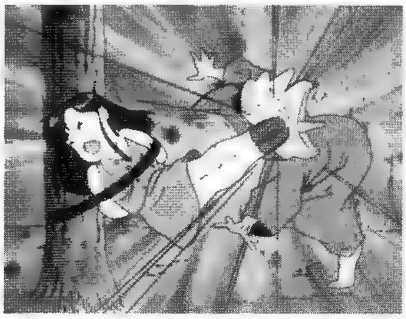
妖怪いやみ

1986年10月11日放映

STORY

鬼太郎とねずみ男がユメコを奪い合う!?

100年近い眠りについていた妖怪・いやみが目覚めた。いやみは人々の「楽しい気持ち」を吸い取ってしまう妖怪であり、それにより人々はやる気を失ってしまう。そして鬼太郎にも、その兆候が出始めていた。また、ねずみ男は、いやみからいい気持ちになる「イロ気」を吸わせてもらって浮かれてしまい、ユメコを誘拐して結婚を迫る。鬼太郎は即座に駆けつけるが、やはりいやみにイロ気を吸わされてしまい、ねずみ男とユメコを奪い合う始末。ねずみ男は強烈な屁でユメコを奪い取り、いやみのもとへ。一方、正気に戻った鬼太郎は、再びいやみと対決。ようやくいやみが、その正体を現した。



原作

「いやみ」では、いやみにより呆けた鬼太郎とねずみ男は、魂が汚れて衰弱していたので、ねずみ男の「最後っ屁」により2人とも気を失った。

演出●石田昌久　**脚本**●星山博之　**作画監督**●松本朋之

【第049話】

妖怪殺人事件おんもらき

1986年10月18日放映

STORY

名探偵・鬼太郎が事件を解決!?

鬼太郎と目玉おやじが、ユメコの叔父・伊集院がいる伊豆の別荘へ遊びに行くことになった。すると現地で伊集院は婚約者のルリ子を紹介し、夜中に動き出す小さな妖怪に困っていると相談してきた。それくらいならと、ねずみ男と目玉おやじが捜査を開始。すると確かに小さな妖怪が現れ、魔除けのお札を狙ってきた。そして翌日、密室で死んでいるルリ子が発見され、鬼太郎が誤認逮捕される。しかし鬼太郎は牢屋から抜け出し、単身捜査に向かう。そのころ妖怪・陰摩羅鬼が死んだはずのルリ子に乗り移り、動き回っていた。鬼太郎は探偵に変装し、封印術である74の質問を陰摩羅鬼にぶつける。



原作

「陰摩羅鬼」では陰摩羅鬼に乗り移られた女性が、恋人を殺そうとする。そして解決の過程でねずみ男も、陰摩羅鬼に乗り移られてしまう。

演出●明比正行　**脚本**●武上純希　**作画監督**●山口泰弘

【第050話】

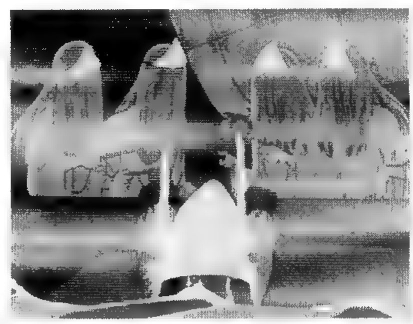
妖怪海座頭の怒り

1986年10月25日放映

STORY

海座頭が気付かせた祖先を敬う心

瀬戸内海では、船が次々に沈む事故が起きていた。父親が海で消息を絶ってしまった少年・アキオからの手紙で、鬼太郎は調査に向かう。ところが偶然そこにいたねずみ男と一悶着あるうちに、船幽霊と巨大ザメに襲われてしまう。そして逃げ遅れたねずみ男は船幽霊の犠牲になってしまった。鬼太郎たちが助けに向かうと、今度は課外授業のために船に乗ったアキオたちが船幽霊に襲われていた。鬼太郎は巨大ザメを退治し、捕まえた船幽霊たちに話を聞くと、彼らは妖怪・海座頭によって魂を奪われ、姿を変えられた人間たちだった。そこに現れた海座頭は、鬼太郎たちに伝えたいことがあるという。



原作

「海座頭」がベースだが、船幽霊と海座頭との関係のみ原作が生かされている。原作の海座頭は、船幽霊を使って宝を集める強欲妖怪だった。

演出●生頼昭憲　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●清山滋崇

【第051話】

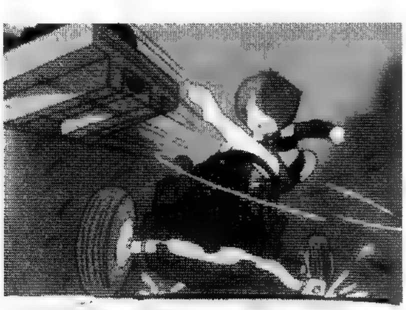
世界妖怪ラリー

1986年11月1日放映

STORY

鬼太郎がカーレースで大激走！

優勝すれば負けた国の妖怪を支配できるという、世界妖怪ラリーが開催される。妖怪の頂点を狙うぬらりひょんと朱の盤が企画したものだが、手配ミスで各国の強豪妖怪が集結してしまい、おじけづいた彼らは逃げ出してしまう。そして日本代表を鬼太郎に押し付けた。それを知った鬼太郎は、日本の妖怪を救うためにラリーに参加。一方、ねずみ男はラリーを録画してテレビ局に売りつけようと、一反もめんを中継車がわりに実況を行う。レースは妖力で相手を攻撃するなど何でもありで、ルール無用の大荒れ模様。リタイアが続出するなか、終盤には鬼太郎とバックベアードの一騎打ちになる。



原作

「妖怪ラリー」は、ラリーのために来日したバックベアードが海坊主を轢いてしまい、ラリーが終わった後でしぶしぶ謝っている。

演出●白土武　**脚本**●星山博之　**作画監督**●清水明

【第052話】

燃えるネズミ男 げた合戦

1986年11月8日放映

STORY

妖精・花子に信頼され、ねずみ男が走る！

なぞの男から、大量に招き猫形の貯金箱をもらったねずみ男。ところが花の妖精・花子がその貯金箱にお金の代わりに花びらを入れると、貯金箱は怒って去っていく。ほかの妖怪たちもねずみ男から貯金箱を譲り受け、中のお金ごと逃げ出されたため、ねずみ男に猛抗議する。珍しく身に覚えのないねずみ男は、潔白を証明すべく動き始めた。そんな時、鬼太郎の下駄がすり替えられ、鬼太郎はにせ下駄の妖力で踊り続けるハメに。そして鬼太郎の下駄を盗んで逃げる招き猫を発見したねずみ男は、必死で下駄を奪い返す。その招き猫の正体は、妖怪・逆柱に操られていた妖怪・丸毛だった。



原作

「げた合戦」が原作。花の妖精・花子も登場するが、アニメと正反対の高飛車な性格で、ねずみ男のことなど袖にして見向きもしない。

演出●葛西治　**脚本**●武上純希　**作画監督**●入好さとる

【第053話】

皿屋敷の妖怪モウリョウ

1986年11月15日放映

STORY

この世に未練を残した女の悲劇

ねずみ男は屋敷の古井戸に現れる幽霊の退治を引き受けたが、手に負えず鬼太郎に押し付けてきた。屋敷の主人・太一の傲慢さに腹を立てた鬼太郎だが、幽霊の正体は、悲運な事故で命を落としたその屋敷の秘書・町子だと知る。哀れな幽霊を助けるために依頼を受けることにした鬼太郎。しかし鬼太郎の前に現れた町子には、なぜか実体があった。調べてみると、町子の死体は妖怪・魍魎に乗り移られていた。鬼太郎は化火の力を借りて、町子の体から魍魎を炙り出すが、亡者の世界に逃げられてしまう。鬼太郎は魍魎を今度こそ退治すべく、棺桶の中に入って敵を待ち伏せる。



原作

「モウリョウ」では、死者に乗り移る妖怪・魍魎を退治して謝礼をもらおうとしたねずみ男だが、結局鬼太郎にすべてを押し付けてしまう。

演出●芝田浩樹　脚本●大橋志吉　作画監督●松本勝次

【第054話】

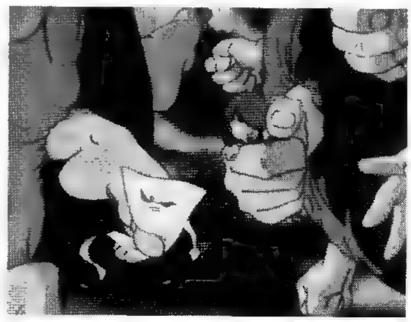
悪魔ベリアル

1986年11月22日放映

STORY

132年の時を経て最強悪魔が復活！

132年前に日本征服に来た西洋悪魔ベリアルは、カラス天狗の長老によって魔力を八尺瓊（やさかり）の赤玉に封印されていた。そのままヨボヨボになりながら魔力を探し求めていたベリアルは、たまたまねずみ男が持っていた八尺瓊の赤玉を割って、魔力を取り戻す。そしてカラス天狗の長老を、地中へと封印した。一方、妖怪アパートの完成式に集まった妖怪たちは、ベリアルの復活を知る。鬼太郎たちはベリアルの次の目標である妖怪図書館に急行。そこでベリアルの弱点を調べるが、結局わからないまま戦いに突入する。しかし目玉おやじが引き続き悪魔の書を調べ続け、ベリアルの弱点を突き止めた。



原作

「悪魔ベリアル」では、悪魔の肉体構造を見抜いた鬼太郎が、指鉄砲でベリアルを倒したと、鬼太郎は砂かけ婆に撃退方法を聞かれて説明。

演出●石田晶久　脚本●武上純希　作画監督●稲野義信

【第055話】

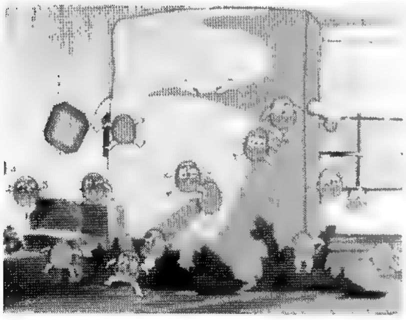
㊙指令!!ねずみ男は死刑だ

1986年11月29日放映

STORY

ねずみ男の行動にエンマ大王が激昂！

ねずみ男がお年寄りをだまして、大金を手に入れていた。そのことをねずみ男の体内にいる、悪事を見張る虫・三虫が閻魔大王へ知らせると、閻魔大王は罪を重ねるねずみ男に死刑判決を下し、死刑執行の役目を鬼太郎に命じた。しかし、ねずみ男のいい所も知っている鬼太郎にはできるはずもない。悩む鬼太郎を見かねたネコ娘は、ユメコと一緒にねずみ男を更生させようと作戦を立てる。ネコ娘は仲間の妖怪たちとともにねずみ男を懲らしめて、ねずみ男に自分の罪を自覚させることに成功した。しかし、絶対である閻魔大王の命令に背いた鬼太郎には、厳罰が下されることになっていた……。



原作

「猫娘とねずみ男」では、鬼太郎はねずみ男を懲らしめるために、初対面時はネコ娘をねずみ男の花嫁候補としてだまして紹介している。

演出●今沢哲男　脚本●星山博之　作画監督●平田かほる

【第056話】

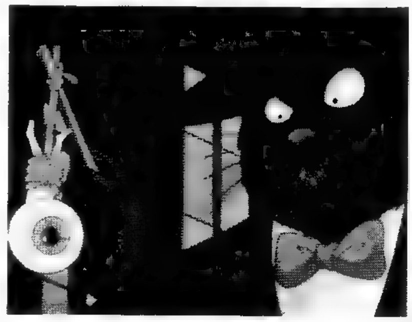
タヌキ軍団日本征服!!<前編>

1986年12月6日放映

STORY

八百八狸が日本征服の野望に突き進む！

人間たちの開発によって、日本征服を企む八百八狸の封印が解かれてしまう。タヌキたちは、じゃまな鬼太郎と日本の首相を、ボスの刑部狸の前に連行。タヌキに政権を渡すように迫り、30時間の猶予を与えて解放した。その猶予の間にタヌキたちを封印した鬼太郎だが、刑部狸の呪いで苦しみ始める。鬼太郎を救うため、目玉おやじたちはタヌキたちを解放。鬼太郎は暴れ始めたタヌキたちの部下、妖怪獣・蛟竜を退けるが、目玉おやじたちを人質にされ、鬼太郎自身も捕らえられてしまう。八百八狸はさらに大ナマズを暴れさせ、地震を起こす。ついに首相は、タヌキに政権を渡すことを決意した。



原作

「妖怪獣」では、一反もめんが妖怪獣についての知識を目玉おやじたちに詳しく説明しており、その意外に博学な側面を披露している。

演出●芹川有吾　脚本●星山博之　作画監督●松本朋之

【第057話】

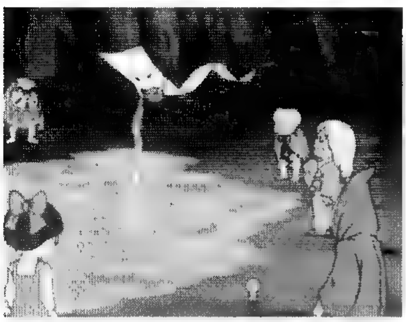
タヌキ軍団日本征服!!＜後編＞

1986年12月13日放映

STORY

八百八狸に征服された日本を取り戻せ！

政権を奪った八百八狸は、人間たちを駆り出して城の建設を始める。さらに警察官などの公務員はタヌキの尻尾を付けられ、刑部狸にコントロールされていた。一方、捕らわれていた鬼太郎は脱出に成功し、大ナマズを封印すべく、「要石」のある富士山の地底へと向かう。そしてそこに現れた妖怪獣・蛟竜を倒すため、みずから胃液となり蛟竜と一緒に溶けてしまう。そこから鬼太郎は「再生粉末」によって復活し、大ナマズの脳に侵入。大ナマズを氷漬けにするため、南極までコントロールしていく。その間に日本の妖怪たちは、八百八狸を改めて洞窟に封印した。日本は無事、元の姿に戻った。



原作

「妖怪獣」では、政権を奪った八百八狸は独自の政策をとろうとする。美人はタヌキに仕え、男はみんなソーセージにされそうになる。

演出●芹川有吾　**脚本**●星山博之　**作画監督**●山口泰弘

【第058話】

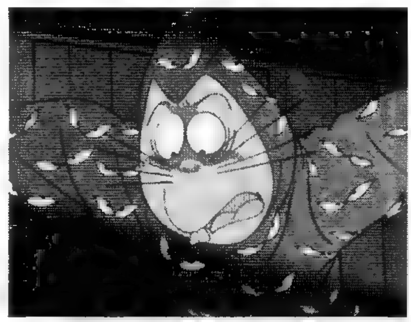
妖怪城の目目連

1986年12月20日放映

STORY

目の妖怪・目目連の恐るべき力とは!?

ぬらりひょんの手下・朱の盤は、下校途中のユメコを怪しげな家へと誘う。そしてユメコは、その家にいた妖怪・目目連によって妖怪城へ連れ去られてしまう。これは鬼太郎を抹殺しようと企む、ぬらりひょんのワナだった。鬼太郎は妖怪城へ乗り込むが、目目連に攻撃されて、体を石に変えられてしまう。目玉おやじは霊気を吹きかけて、鬼太郎の霊体だけを救出。その頃、ユメコの優しさに心動かされた朱の盤は、ユメコを連れて妖怪城から脱出しようとするが、目目連に見つかってしまう。駆けつけた鬼太郎は、目目連の弱点である光を目目連に手鏡で当て、妖怪フィルムに焼き付けて退治した



原作

「目目連」では、目目連に操られたねずみ男が、目目連が支配する家に鬼太郎をだまし入れる。鬼太郎が石になるところなどは原作と同じ。

演出●生頼昭憲　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●清山滋崇

【第059話】

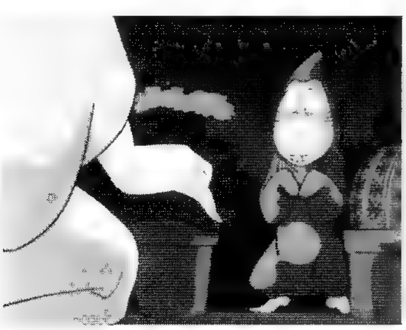
宵待ち草の後神

1986年12月27日放映

STORY

恋人を想う妖怪の情念と悲しい真実

縁日で、ある花売りの女性からサボテンを買ったねずみ男と、ユメコの友だちの花屋の娘・カオリが、２人とも行方不明になってしまう。その花売りの女性は「緑色の三角屋根の花屋」にしか花を売らないという。心配したユメコが鬼太郎とともにカオリの家に向かうと、その女性が花屋の店番をしていた。不審に思った２人が裏口から忍び込むと、妖怪サボテンに呑み込まれてしまった。女の正体は妖怪・後神で、「緑色の三角屋根の花屋」を乗っ取り、そこで行方知れずの恋人を待とうとしていたのだ。鬼太郎たちはサボテンから脱出し、妖怪情報網を使って後神の恋人を捜したが、恋人は事故で亡くなっていた。



原作

「後神」でのサボテンと後神の関係は、妖怪サボテンが人を呑み込んだ後に、後神が家をのっとるという“共生関係”とでもいうべきものだった。

演出●白土武　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●清水明

【第060話】

巨人妖怪ダイダラボッチ

1987年1月3日放映

STORY

またしてもぬらりひょんの陰謀が露見する

ねずみ男は、マント姿の男たちが地面に大きな鍵を差し込み、巨大な目玉を復活させようとしているのを目撃する。彼らが伝説の巨人・ダイダラボッチをよみがえらせようとするダイダラボッチ教の信者であると見た目玉おやじは、ダイダラボッチの復活を危惧する。調査を始めた鬼太郎がある洞窟を調べると、ねずみ男に遭遇し、ダイダラボッチを金儲けに利用しようとするねずみ男に、谷底に落とされてしまう。そのころダイダラボッチは教団に潜り込んだぬらりひょんに操られて、町で暴れ始めていた。ぬらりひょんとダイダラボッチを止めるべく、谷底から這い上がった鬼太郎が後を追う。



原作

「ダイダラボッチ」は、大昔に巨人が富士山を背負おうとして足をつき、湖ができたなど、日本各地の巨人伝説を背景に持つストーリー。

演出●石田晶久　**脚本**●星山博之　**作画監督**●松本勝次

【第061話】

まぼろしの汽車

1987年1月10日放映

STORY

吸血鬼になってしまった鬼太郎を救え！

ねずみ男の前に現れた美女・モンローは、ねずみ男に洋館の地下室にある棺桶を開けさせる。そこから吸血鬼ピーが現れ、ねずみ男は襲われて吸血鬼になってしまった。そしてまた、ねずみ男に襲われた村人たちは、みんな吸血鬼に変貌。事情を聞いて村に入った鬼太郎は、吸血鬼の動きを止める「妖怪鐘」を鳴らし続ける。しかし妖怪鐘の効かないピーに鐘の中へ閉じ込められ、蒸し焼きにされてしまう。さらに仮死状態のまま、鬼太郎はモンローに連れ去られ、吸血鬼にされてしまった。目玉おやじが閻魔大王に助けを求めると、時間を遡れる「まぼろしの汽車」を使うようアドバイスを受ける。



原作

「まぼろしの汽車」では閻魔大王は登場しない。目玉おやじが、息子を思う強い念力でまぼろしの汽車を呼び、過去に戻してみんなを助けた。

演出●葛西治　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●松本朋之

【第062話】

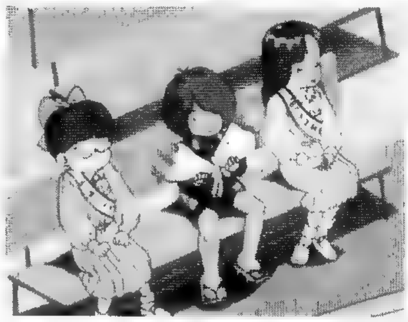
妖怪火車 逆モチ殺し!!

1987年1月17日放映

STORY

目玉おやじの秘技・逆モチ殺しを見よ！

妖怪・火車に母親の遺体を奪われた幸吉は、鬼太郎に助けを求める。鬼太郎は、火車の恐ろしさを語る目玉おやじの制止を振り切り、火車のもとへ。無事遺体を取り戻すが、なぜか鬼太郎は幸吉に報酬を求めて金を受け取り、ねずみ男と一緒に夜の街へと繰り出す。さらにそこで暴力団を力でねじ伏せて、鬼太郎組を結成する。じつは鬼太郎の魂は、火車の魂と入れ替わっていたのだ。砂かけ婆たちは、モチを使って火車を封じる「モチ封じ」を試みるが、跳ね返されて「逆モチ封じ」されてしまう。目玉おやじも一緒にモチにされてしまったが、ここで目玉おやじの秘技・逆モチ殺しが炸裂する。



原作

「逆モチ殺し」では、鬼太郎に乗り移った火車は、実際に悪事を働く前にまず目玉おやじを葬ろうとするが、逆モチ殺しの術に敗れる。

演出●明比正行　**脚本**●武上純希　**作画監督**●松本朋之

【第063話】

悪魔ブエルとヤカンズル

1987年1月24日放映

STORY

鬼太郎ファミリー、悪魔の大群に追われる！

治療した手が勝手に動き出し、職業を失う人が続出する。医者に扮した悪魔ブエルが、人間を悪魔に変えて、悪魔軍団を作ろうとしているのだ。鬼太郎がブエルのもとに乗り込むと、ブエルは悪魔たちを呼び集めて鬼太郎を攻撃する。砂かけ婆は鬼太郎に頼まれ、何でも吸い込む大食い妖怪・ヤカンズルを呼び出した。鬼太郎たちの思惑どおり、悪魔たちを吸い込んだヤカンズル。しかしその食欲に終わりはなく、あたりかまわず呑み込み始める。さらに止めようとした鬼太郎もヤカンズルに吸い込まれてしまう。砂かけ婆たちはヤカンズルを止めるべく一計を案じ、風神を呼び出した。



原作

「悪魔ブエル」では、ヤカンズルは鬼太郎親子を呑み込むことで止まり、洞窟の中に帰っていく。鬼太郎親子は7年かけて復活するとされた。

演出●今沢哲男　**脚本**●星山博之　**作画監督**●平田かほる

【第064話】

妖怪穴ぐら入道

1987年1月31日放映

STORY

おとなしい穴ぐら入道が、ついに怒る

妖怪・穴ぐら入道を捕獲して金儲けをしようと、その住みかの洞窟に社員を派遣した会社社長の野上。穴ぐら入道を見て一目散に逃げ出した社員たちの中で、逃げ遅れたミナコだけが穴ぐら入道と接し、その優しさを感じていた。その後、社員たちは穴ぐら入道の捕獲に成功。テレビ局へ連れ込むが、明るいところが苦手な穴ぐら入道は、地下鉄へ逃げ込んでしまう。事件を知った鬼太郎も地下鉄に駆けつけるが、穴ぐら入道は人間たちの勝手さに怒って、大蜘蛛を呼んで暴れ始めた。そして機動隊は穴ぐら入道に発砲し全面対決かという瞬間に、穴ぐら入道の優しさを知るミナコが動いた。



原作

「穴ぐら入道」では、ヤクザのような強権的な社長が穴ぐら入道で儲けようと企むが、穴から運び出した直後に「良心カビ」で改心した。

演出●芹川有吾　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●柳瀬譲二

【第065話】

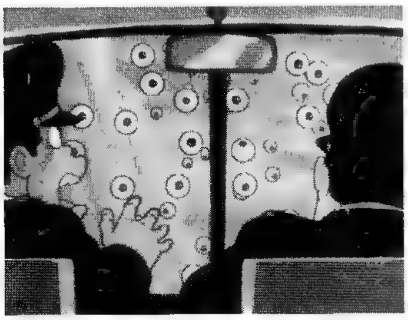
妖怪百目・地獄流し

1987年2月7日放映

STORY

鬼太郎が刑務所に潜入して大活躍！

凶悪犯が脱獄し、足取りが途絶える事件が相次いでいた。警察の依頼を受けて、鬼太郎は調査を開始。老人に扮して刑務所へ潜入し、熊虎という男と知り合う。熊虎は妖怪・百目と連絡を取り、脱獄を計画していた。脱獄に成功する熊虎だったが、手錠で繋がれた鬼太郎も一緒に連れていくハメになってしまう。そこに百目が現れ、待ち伏せしていた子泣き爺たちが戦うも、逃げ切られてしまった。そのまま熊虎と鬼太郎は、百目と待ち合わせた神社へ。そこに現れた百目は、２人を地獄へ連れて行く。百目の真の目的は、犯罪者の目と体を使って自分のコピーを作り、地上を支配することだった。



原作

ＴＶアニメオリジナルのストーリー。

演出●生頼昭憲　脚本●武上純希　作画監督●山口泰弘

【第066話】

韓国妖怪ぬっぺらぼう

1987年2月14日放映

STORY

妖怪に国境なし！　韓国の村の救出劇

韓国の少年・トラジが、鬼太郎を訪ねてきた。話を聞くと村の人々が妖怪に若さを吸い取られて困っているという。村では妖怪をアリラン様と呼び、逆らえば魔法を使われると恐れられていた。鬼太郎は現地へ飛び、調査を始めた途端に巨大な石像に襲われる。さらに「見えない巨大な何か」が村を破壊し始めた。鬼太郎は再び現れた巨大な石像に挑むが、若さを吸い取られてしまう。その後鬼太郎は「見えない何か」の正体を暴くために、「何か」に蜂蜜をかける。すると蜂の大群が現れてそれを覆い、巨大なぬっぺらぼうが姿を現した。鬼太郎は村人たちと協力して、ぬっぺらぼうを退治する。



原作

「朝鮮魔法」では、鬼太郎の吐いた「変な息」で巨大なぬっぺらぼうはキンバエにたかられ、さらに雀に突っつかれ、血を出して逃げ出した。

演出●山寺昭夫　脚本●大橋志吉　作画監督●清水明

【第067話】

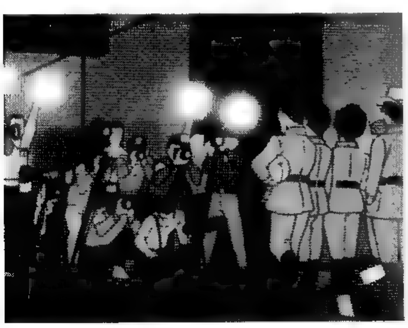
密林の大海獣

1987年2月21日放映

STORY

大海獣にされてしまった鬼太郎

３億年前に絶滅したはずの巨大獣・ゼオクロノドンが発見された。鬼太郎は調査隊の一員となり、現地で若き学者・山田と一緒に行動。大海獣を発見して血液の採取に成功する。しかし怒った大海獣によって、調査隊員の多くは命を落としてしまう。大海獣の血液を預かった鬼太郎も、毒蛇に噛まれて倒れてしまった。そこで栄光を独占したい山田は、鬼太郎から血液を奪い、さらに鬼太郎を置き去りにしようとする。それでも生き残った鬼太郎に、山田は帰りの船の中で大海獣の血液を注射。すると鬼太郎は、体の変化を訴えながら海に落ちてしまう。その数日後、大海獣に姿を変えた鬼太郎が日本に現れた。



原作

「大海獣」にほぼ忠実。ただし、原作と第1部で登場していた山田が操縦するロボットが第３部では登場しなくなっている。

演出●葛西治　脚本●星山博之　作画監督●稲野義信

【第068話】

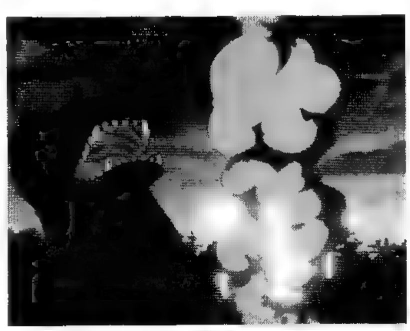
大海獣 怒りの逆襲

1987年2月28日放映

STORY

温厚な鬼太郎が怒りをあらわに！

山田の妹・啓子は、大海獣が持つお守りが、自分が鬼太郎に託したものだと気がつく。そして大海獣は鬼太郎ではないかと考え、山田を問い詰めた。一方、目玉おやじも、大海獣は鬼太郎だと思い始めていた。そんな時、大海獣が政府に攻撃され始める。大海獣を鬼太郎ではないかと考えた妖怪たちは、攻撃を妨害して大海獣に接触。鬼太郎だと確信するに至る。そんななか、罪が露見することを恐れた山田は、おとなしくしていた大海獣に興奮弾を打ち込み、無理やり暴れさせた。しかし目玉おやじたちにその証拠を突きつけられてついに観念し、鬼太郎が元に戻れる薬の開発に着手する。



原作

「大海獣」では、ロボットに乗って大海獣と戦った山田が、大海獣の手により放射能から守られて、そこで改心する。鬼太郎は怒らない。

演出●葛西治　脚本●星山博之　作画監督●入好さとる

【第069話】

妖怪風の又三郎

1987年3月7日放映

STORY

自然を愛する妖怪と少女の友情物語

道路を造り、峠の自然を破壊する人間に怒った又三郎は、工事を止めさせるため少女・風子をさらう。しかし又三郎は、自然が大好きな風子とすぐに打ち解け、妖精が集まる「風の谷」に案内する。そして両親から風子捜しの依頼をされた鬼太郎の前に、又三郎が現れた。風子を助けるべく戦う鬼太郎の攻撃で又三郎は傷を受け、医者に行くことに。しかしその医者は、鬼太郎の変装だった。話し合いで解決しようとする鬼太郎だが、正体を見破られたうえ又三郎に逃げられてしまう。風神を呼んだ鬼太郎は、風に乗って又三郎を追う。そのうえで道路は峠をとおさずに、トンネルにすると約束した。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。

演出●明比正行　**脚本**●武上純希　**作画監督**●清山滋崇

【第070話】

鏡地獄! 妖怪うんがい鏡

1987年3月14日放映

STORY

濡れ衣を着せられた鏡爺の災難

ねずみ男が持ってきた鏡の中には、少女が閉じ込められていた。鬼太郎たち7人の妖怪は歌を歌い、音の妖力で少女・クモコを救い出す。話を聞くと、彼女は鏡爺に閉じ込められたという。鬼太郎は強引に鏡爺を封印。そのやり方に、ユメコは強い違和感と憤りを感じる。一方、お礼にとクモコの家に招待された鬼太郎たちは、深い霧の中を案内され、いつの間にか鏡の世界に幽閉されてしまう。じつはクモコは妖怪・雲外鏡で、自分の弱点を知る鏡爺を封印することが目的だったのだ。ユメコは鏡爺から、出雲大社の照魔鏡なら雲外鏡を倒せると聞き、鬼太郎たちを救うべく出雲へと飛ぶ。



原作

「鏡合戦」を基に、鏡爺が出てくる形にアレンジ。原作ではカラスが照魔鏡を、雲外鏡のそばで待つ目玉おやじのところまで運んできた。

演出●芹川有吾　**脚本**●武上純希　**作画監督**●松本勝次

【第071話】

妖花の森のがしゃどくろ

1987年3月21日放映

STORY

戦争で命を落とした男の悲しい思い

華子のアパートに、一夜にして奇妙な花が咲き乱れる。花の正体は妖花で、本体の木がある限り咲き続けるという。華子と鬼太郎たちは、本体の木があるという南の島へ。そして妖花の妖気が漂う島を発見。一行は本体の木を見つけると、華子の耳に「木の根元を掘れ」という声が聞こえてくる。掘り起こしてみるとガイコツと、華子の叔父の遺品が出てきた。そこへ鬼太郎たちを墓荒らしと思い込んだ墓の番人・がしゃどくろが襲ってくる。鬼太郎はがしゃどくろに苦戦するが、なんとか撃退。そして叔父の霊魂が現れて華子と話をし、もう思い残すことはないと成仏していった。



原作

基本は「妖花」のエピソードを比較的忠実に再現。そこに、「大妖怪がしゃどくろの復活」のがしゃどくろを、墓守として登場させている。

演出●岡崎稔　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●平田かほる

【第072話】

ケ・け・毛！　妖怪大髪様

1987年3月28日放映

STORY

ネコ娘が髪を奪われ泣き叫ぶ！

ある島で2人の漁師の髪の毛が、一本も残らず消えてしまう事件が起こる。それは、自分がないがしろにされていると考えた髪様の仕業だった。髪様は毛目玉に少女・花子を生け贄にするよう、人間への伝言を申し付ける。しかし、島民はねずみ男を生け贄として差し出したため、髪様は激怒し、村人全員の髪の毛をなくしてしまった。そこに花子を助けるため、鬼太郎とネコ娘が到着。ネコ娘は髪を奪われながらも、代わりに生け贄になりに神社へ向かう。鬼太郎は、姿を現した髪様と戦うが、髪の毛によって捕らえられてしまう。窮地に陥った鬼太郎を助けてくれたのは、妖怪・あみきりだった。



原作

「髪の毛大戦」では、鬼太郎の留守中に花子を助けてもらうためカラスが現れる。留守番のねずみ男は「カラス語辞典」を駆使して会話する。

演出●石田昌久　**脚本**●星山博之　**作画監督**●松本朋之

【第073話】

シーサー登場!!沖縄大決戦

1987年4月4日放映

STORY

鬼太郎に弟子入り希望のシーサー初登場！

畑を荒らす鎧武者に困った沖縄の妖怪・キジムナーたちは、鬼太郎に相談。クジラに乗って沖縄へ向かった鬼太郎は「自分が沖縄を守る」と息巻く妖怪・シーサーに戦いを挑まれる。そしてシーサーを軽く負かすと、弟子にしてくれと慕われてしまう。ねずみ男はこれ幸いと、シーサーに沖縄の観光案内をさせていたが、その最中に何者かにより砂の中へと引きずり込まれてしまう。一方、鬼太郎たちが鎧武者を倒すと、黒幕の妖怪・大百足が登場。大百足はねずみ男を人質にし、鬼太郎を有毒な硫黄ガスの湧く洞窟に閉じ込めた。鬼太郎は助けに来たシーサーと協力して、大百足とバトルする。



原作

「妖怪大百足」は、舞台は沖縄ではない。仲間たちとハイキングに出た鬼太郎一行とシーサーが、大百足にだまされて洞窟に閉じ込められる。

演出●生頼昭憲　**脚本**●武上純希　**作画監督**●山口泰弘

【第074話】

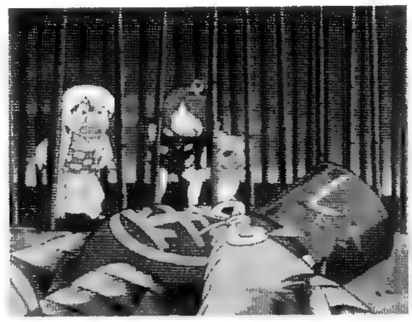
妖怪万年竹

1987年4月11日放映

STORY

竹人間にされた仲間たちを救え！

竹林をつぶして、ビル建設を計画していた金林。その竹林でアルバイトをしていたねずみ男は、鬼太郎の弟子になるため上京してきたシーサーに会う。その目の前でねずみ男は竹人間に襲われ、竹人間になってしまった。シーサーから話を聞いた鬼太郎は、竹林に直行。しかしビルの建設予定地にいた人は、すべて竹人間になってしまっていた。妖怪・万年竹の仕業と考えた鬼太郎たちは、万年竹の場所を知っているという金林のお手伝いさんに案内してもらう。しかし彼女こそが万年竹であり、ワナにはまって砂かけ婆たちも竹人間にされる。苦戦する鬼太郎を助けてくれたのはまたもシーサーだった。



原作

「妖怪万年竹」では、鬼太郎も竹人間になってしまう。しかしそれは、竹人間になることでその本体を見破ろうという、鬼太郎の作戦だった。

演出●白土武　**脚本**●星山博之　**作画監督**●清水明

【第075話】

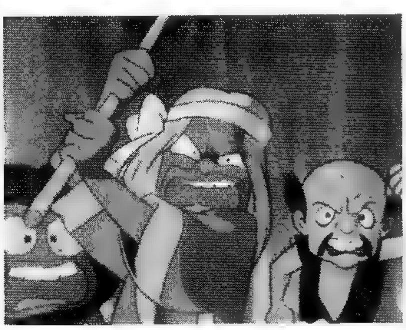
妖怪小豆連合軍

1987年4月18日放映

STORY

人間の体を畑に小豆を栽培する!?

小豆の畑が枯れて困っていた小豆婆、小豆はかり、小豆洗いの３人に、小豆の神様は容赦なく、奉納を出すように迫ってくる。そこで３人は、自分たちの小豆を使った食べ物を人間たちに無料で配った。そして彼らが夜中に太鼓をたたくと、それを食べた人間の体から、その人の養分を吸収した小豆が収穫できるようにしたのだ。調査に向かった鬼太郎も、小豆のとぎ汁をかけられ、小豆の湧き出る体になってしまう。養分を吸われながらも３匹と激しい戦いを繰り広げ、降参させた鬼太郎。そこに小豆の神様が現れる。その正体は凶作時に神様のフリをして現れ、農民を困らせる妖怪・畑怨霊だった。



原作

「小豆連合軍」では、鬼太郎は小豆の生える顔を元に戻すため、一度降参している。小豆３妖怪は、ねずみ男の金儲けの片棒を担がされていた。

演出●芝田浩樹　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●稲野義信

【第076話】

人喰い島と海和尚

1987年4月25日放映

STORY

ウンチになってしまった鬼太郎!?

ひとりの若者が、村で敬われていた島神様に、バチ当たりな行為をしてしまう。怒った島神様は妖怪・人食い島となり、娘の生け贄を要求してきた。手紙を受けた鬼太郎は、島の洞窟へと入っていくが、それは人食い島の胃袋だった。鬼太郎は、強力な人食い島の胃液によって溶かされて排泄物となってしまう。それをねずみ男に発見され、砂かけ婆の秘薬によって、何とかもとの姿へと戻ることができた。そのころ、島では長老の娘・おととが、生け贄として人食い島に捧げられていた。駆けつけた鬼太郎が、おととを追って人食い島の中に入ると、人食い島に寄生していた妖怪・海和尚が姿を現した。



原作

ねずみ男が先に現地に入り、村民をだます点などは「人食い島」に同じ。ただし海和尚は登場せず、鬼太郎は胃液で人食い島を溶かせて退治。

演出●芹川有吾　**脚本**●武上純希　**作画監督**●柳瀬譲二

【第077話】

妖怪手の目と地獄の餓鬼

1987年5月2日放映

STORY

自分を封印された手の目の復讐劇

立ち入り禁止の「入らずの山」に入り、珍しいキノコを採っていた六助と叔父。２人は奇妙な扉を見つけてその中へ入り、地下神殿にある若返りの泉で妖怪を見つける。六助たちは逃げ出してきたが、それ以降、村では妖怪・餓鬼に人間が襲われる事件が多発。鬼太郎は村へ駆けつけるが、すでに村は餓鬼の襲撃をうけていた。鬼太郎は村人を救うため入らずの山へ向かうが、現れた妖怪・手の目の金縛り光線を受けて捕らわれてしまう。手の目は自分を餓鬼と一緒に封印した人間に恨みを持ち、餓鬼を掌握して人間を襲わせようとしていたのだ。隙を見て脱出した鬼太郎は、再び手の目に戦いを挑む。



原作

鬼太郎の登場しない作品『迷路』は、餓鬼のいる山に入った人間が、しつこく餓鬼に付きまとわれ、襲われる話。そこに「手の目」を絡めた。

演出●明比正行　**脚本**●星山博之　**作画監督**●清山滋崇

【第078話】

マンモスフラワーと山男

1987年5月16日放映

STORY

妖怪と文明の力を融合した妖怪戦車が街を救う

ねずみ男が宝探しをしていると、凍った原始人を発見する。原始人の正体は妖怪・山男だった。ねずみ男はTVに売って大もうけを考えるが、文明を嫌う山男は逃げ出してしまう。そして山男が町を耕し、マンモスフラワーの種をまくと、町は太古の巨大植物に覆われていった。さらにその胞子を吸い込んだ人間たちは、文明を捨てて原始時代への志向を持つようになる。切り倒せない古代植物に困った鬼太郎たちは、夜行さんから妖怪と文明の力を融合した妖怪戦車を借り受ける。それに乗り込んだ鬼太郎は町へと向かい、マンモスフラワーを撃退。鬼太郎に説得された山男は、再び眠りについた。



原作

鬼太郎以外の水木作品『マンモスフラワー』と『原始さん』を、アレンジしたストーリー。山男が原作の原始さんの役割を果たしている。

演出●葛西治　**脚本**●武上純希　**作画監督**●清山滋崇

【第079話】

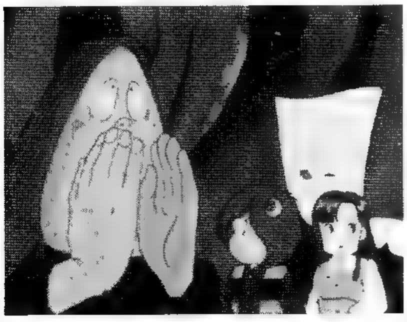
妖怪やまたのおろち

1987年5月23日放映

STORY

鬼太郎が呼子の「山彦の術」で分身！

ユメコの友だちの弘が、遠足先で姿を消した。犯人は呼子だというが、無実を主張する呼子は、鬼太郎とユメコと一緒に現場へと向かう。現場で聞こえた呼子の声をたどるとにせ呼子が現れ、にせ呼子が持つダイヤモンドに触れた鬼太郎たちは、八俣大蛇の待つ異次元へと引きずり込まれる。そこで弘を発見するが、鬼太郎たちも捕まってしまった。八俣大蛇に生け贄を捧げるために、にせ呼子が人間を誘っていたのだ。しかしにせ呼子も、八俣大蛇から解放されたがっていた。そこで呼子とにせ呼子が協力して、脱出した鬼太郎に「山彦の術」をかける。それにより鬼太郎が分身して八俣大蛇に立ち向かう。



原作

鬼太郎以外の水木作品『やまたのおろち』をモチーフにしたストーリー。原作の中では八俣大蛇の住むダイヤモンドは「解放石」と呼ばれる。

演出●石田昌久　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●松本朋之

【第080話】

妖怪吹消婆　プロレス地獄

1987年5月30日放映

STORY

鬼太郎がプロレスのリングに上がった！

ねずみ男はポンコツ女子プロレスラー・タンク松竹を強くして、金儲けしようと考える。そこで人の運命すら吹き消せる妖怪・吹消婆に、タンクの運命を変えてもらった。凶暴化したタンクは“スーパータンク”となり、チャンピオンを倒すが、暴力の衝動を抑えきれず、ゴングの後も戦い続ける。観客席にいた鬼太郎は、バックに妖怪の影を感じてリングに上がるが、逆に痛めつけられてしまう。そしてねずみ男は、タンクを利用して銀行強盗を企む吹消婆の計画を知り、行きすぎだと感じて鬼太郎に相談。鬼太郎は、勝った者に従うという掟つきの「妖怪挑戦状」をタンクと吹消婆に突きつけた。



原作

「吹消婆」では、どんくさいレスラー・太鼓のドン子が吹消婆の「手相がえし」の術の犠牲になる。ねずみ男も最後まで、吹消婆に加担している。

演出●生頼昭憲　**脚本**●武上純希　**作画監督**●入好さとる

【第081話】

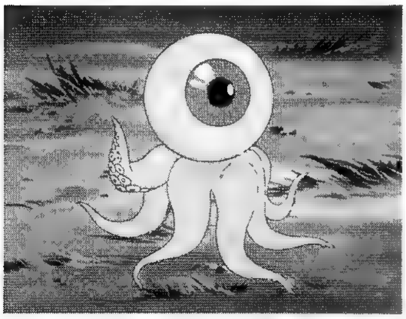
コンビ妖怪 手長足長

1987年6月6日放映

STORY

ねずみ男、計算外の大手柄!?

鬼太郎はユメコと一緒に、ねずみ男が始めた『タコタコ大変化ショー』を見に行く。そこではさまざまな動物の顔をしたタコが芸をしていた。鬼太郎にはどう見ても作り物には思えず、タコたちに事情を聞くと、コンビ妖怪・手長足長に姿を変えられたという。それは300年前に海で暴れていた手長足長を封じ込めた、大ダコへの復讐だった。事件を解決すべく動いた鬼太郎も手長足長に襲われて、仲間たちをタコにされてしまう。そして鬼太郎は目玉おやじの助言に従い、手長足長を封じ込めるために要石を手に入れる。しかし手長足長を使い金儲けをしたいねずみ男に、要石を奪われてしまう。



原作

「手長足長」を比較的忠実に再現。ねずみ男のショーを初めに見に行った砂かけ婆は、タコたちが作り物ではないことを鬼太郎に力説する。

脚本●星山博之 **演出**●岡崎稔 **作画監督**●半田かほる

【第082話】

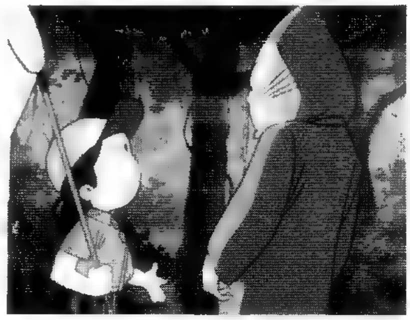
妖怪 串刺し入道

1987年6月13日放映

STORY

妖怪標本にされてしまった鬼太郎

動物たちを標本にして、その能力を自分のものにできる妖怪・串刺し入道は、今度は子供の標本がほしいと部下にしたねずみ男に命令する。ねずみ男は昆虫採集をしていた少年・ツトムを、串刺し入道のいる寺へと導いた。ツトムは串刺し入道に捕まり、標本にされる恐怖を味わったことで初めて命の大切さを考える。そしてツトムが逃がしてやったクワガタが、鬼太郎に事件を知らせてくれた。鬼太郎は串刺し入道に挑むが、今度は妖怪の能力をほしがった串刺し入道にさまざまな動物の能力を使って捕らえられ、標本にされてしまう。絶体絶命のピンチを救ったのは、砂かけ婆の妖術だった。



原作

「串刺し入道」に、標本作りが趣味の妖怪・串刺し入道が登場。標本にした動物の能力を手に入れられるというのは、TVオリジナルの設定。

脚本●大橋志吉 **演出**●芹川有吾 **作画監督**●稲野正信

【第083話】

雨神ユムチャック伝説

1987年6月20日放映

STORY

人間の欲によって封印されたユートピア

はるか昔、雨神ユムチャックは美しい心を持つ人々の楽園・ユートピアの番人に雨降り小僧を指名し、金の笛を託した。現代、考古学者の内田は、その笛を所有している娘・カルメンから強引に笛を奪って吹かせ、財宝を目当てにユートピアに入る。そして財宝を手にしたが、外に出るためにも笛が必要であるため、笛を吹けるカルメンをユートピアに呼ぼうと雨降り小僧を懐柔。雨降り小僧にカルメンが信仰する雨神ユムチャックのふりをさせて、カルメンを生け贄に要求させる。カルメンの妹・アルメラから相談を受けた鬼太郎はカルメンを救おうと、子泣き爺らとともにユートピアに乗り込む。



原作

「雨神ユムチャック」がモチーフ。原作ではユカタン半島の町を舞台に、雨神ユムチャックの生け贄になるカルメンを内田らが止める。

脚本●武上純希 **演出**●芝田浩樹 **作画監督**●松本勝次

【第084話】

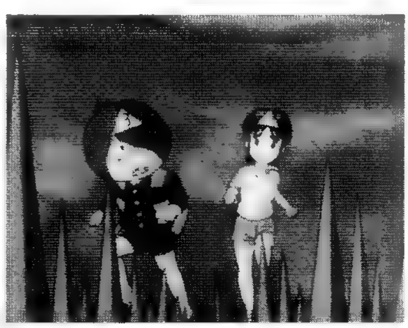
地獄一周!!妖怪マラソン

1987年6月27日放映

STORY

目玉おやじがマラソン大会を企画!?

鬼太郎が町で見かけた少女が飛び降り自殺を図り、意識不明の重体になってしまう。彼女は梅ノ木花子といい、全国大会で2連覇を果たした優秀なマラソンランナーだった。しかし今期は予選で破れ、生きる希望を失って自殺を図ったのだった。花子に生きる希望を取り戻させようと、目玉おやじは地獄マラソンの計画をたてる。地獄で花子が目を覚ますと閻魔大王が現れ、妖怪たちとともに地獄を一周するマラソンに参加して、ゴールまで走りぬくように命令。初めはやる気を見せなかった花子も、鬼太郎の挑発によって持ち前の負けん気を刺激され、ゴールを目指して走りだした。



原作

「地獄マラソン」をほぼ忠実に再現。原作では、地獄マラソンでゴールした花子が、それと同時に病室で目覚めるところで物語が終わる。

脚本●星山博之 **演出**●白土武 **作画監督**●清水明

【第085話】

河童一族とたくろう火

1987年7月4日放映

STORY

ユメコの弟・星郎が河童になっちゃった

学校に嫌気が差した星郎は、のんびり過ごせる妖怪に憧れていた。そして星郎は、人間に憧れている河童の少年・三吉に会う。そこへ妖怪・たくろう火が現れ、ある徳利を河童天国へ持っていくことを条件に、星郎と三吉の体を入れ替えた。そして徳利に入ってまんまと河童天国に潜り込んだたくろう火は、河童天国を支配しようと暴れ始める。一方、やはり人間の生活が合わない三吉は鬼太郎の家を訪れ、河童に戻してほしいと頼む。2人の姿を入れ替えたのが、怠け者の乱暴妖怪・たくろう火だと知った目玉おやじと鬼太郎は、よからぬことが起きていないかと心配し、河童天国に駆けつけた。



原作

鬼太郎以外の水木作品『河童の三平』は、少年・三平が、河童とともに暮らして時々河童と入れ替わる。これが下敷きではないだろうか。

脚本●大橋志吉　**演出**●石田昌久　**作画監督**●松本朋之

【第086話】

妖怪香炉　悪夢の軍団

1987年7月11日放映

STORY

ぬらりひょんが鬼太郎の下駄を履く！

ぬらりひょんはねずみ男に鬼太郎の下駄を盗ませ、それを履いて夢の世界へと向かった。そしてまくら返しから奪った「妖怪香炉」を使い、人間たちに悪夢を見せ始めた。そのせいで人間たちは、総じて寝不足になってしまう。この事件が夢の世界に渡ったぬらりひょんの仕業と知った鬼太郎たちは、夜行さんから借りた「くじら飛行船」に乗って夢の世界へ。しかしぬらりひょんは妖怪香炉の力でくじら飛行船を撃墜、鬼太郎たちは捕えられる。そこから何とか脱出した鬼太郎は、改めてぬらりひょんと対決。ぬらりひょんは妖怪香炉を使い、鬼太郎に恨みを持つ妖怪の魂を実体化させて襲ってきた。



原作

「再生妖怪軍団の反撃！の巻」では、ねずみ男がぬらりひょんの命令で掘り出した妖怪香炉から、鬼太郎がこれまで倒した敵妖怪が復活した。

脚本●武上純希　**演出**●葛西治　**作画監督**●清山滋崇

【第087話】

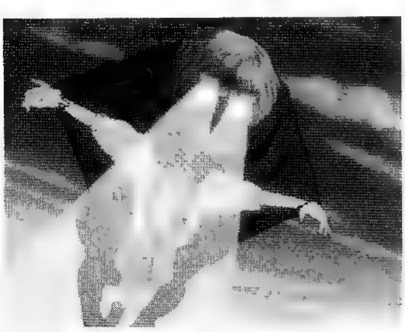
寄生妖怪ペナンガラン

1987年7月25日放映

STORY

獅子頭にとり憑いたペナンガランの復讐劇

北陸の城下町でねずみ男は、泥棒がその家の獅子頭を封じていた魔除けの札をはがすところを目撃する。封印を解かれた獅子頭はその家の娘・ユミをさらい、彼女の体を使って悪事を働き始めた。それは、かつてユミの先祖に封印されたことに対する復讐だという。現れた獅子頭を鬼太郎が攻撃すると、苦しむユミの声がする。獅子頭への攻撃は、ユミを傷つけてしまうのだ。何もできない鬼太郎は、一度は獅子頭に火だるまにされてしまう。しかし、ちゃんちゃんこで竜巻を起こして、ユミから獅子頭を追い出すことに成功する。すると獅子頭の中から、寄生妖怪・ペナンガランが現れた。



原作

「ペナンガラン」が原作。獅子頭にとり憑いたペナンガランが、その家の娘を寄り代に悪事を働く。攻撃すると娘が苦しむという設定はない。

脚本●星山博之　**演出**●生頼昭憲　**作画監督**●柳瀬譲二

【第088話】

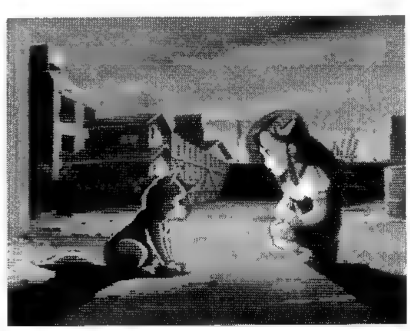
不思議な妖犬タロー

1987年8月1日放映

STORY

うぬぼれる鬼太郎を目玉おやじが制裁!?

鬼太郎はシーサーに、これまでの戦いを振り返って自慢げに語っていた。そんな鬼太郎の自信過剰ぶりをたしなめるべく、目玉おやじはある計画を進めていった。そんなある日、ユメコは一匹の野良犬を拾う。タローと名づけられたその犬に妖力を感じた鬼太郎は疑念を抱いて、ユメコを守るために戦いを挑むが、鬼太郎の妖力はまったく通用しない。じつはタローの正体は、鬼太郎をたしなめるべく目玉おやじに請われて日本に来た、チベットの仙人だったのだ。仙人は正体を現し、鬼太郎に自分の弟子と戦ってみるように命令する。しかしその弟子にも、鬼太郎の攻撃はまったく通用しなかった。



原作

「妖犬」では、欲望を捨てるために"人"を捨て、犬として生きることを選んだ仙人が、鬼太郎たちに正体を気づかれるが返り討ちにする話。

脚本●大橋志吉　**演出**●芹川有吾　**作画監督**●松本朋之

【第089話】

木の子と妖怪山天狗

1987年8月15日放映

STORY

人間との暮らしを選んだ妖怪たち

５年前に少女・モモコが行方不明になった「天狗の森」に松茸採りに入ったねずみ男は、足を滑らせて「妖怪の森」に入る。そこでモモコを見つけたねずみ男は、モモコを離したくない木の子たちに捕まってしまう。しかしモモコはねずみ男と会って次第に外の世界を思い出し、帰りたいと思い始めていた。そのころ鬼太郎はねずみ男を捜すため、幼いころモモコと友だちだったユメコを連れて、森へと向かう。そして森に現れた鬼太郎を見て、モモコを連れて行かれると思った木の子たちは、鬼太郎と戦う。しかしまったく歯が立たず、やむを得ず封印されていた凶悪妖怪・山天狗を解放してしまう。



原作

「木の子」では、雑誌にスクープされた森の中のモモコの写真を見て、大金持ちになっていたモモコの両親が鬼太郎に頼んで連れ戻そうとする。

演出●岡崎稔　**脚本**●武上純希　**作画監督**●平田かほる

【第090話】

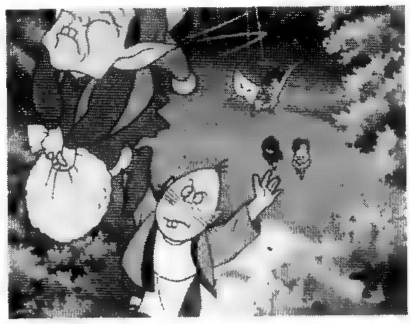
妖精ニクスの青い涙

1987年8月22日放映

STORY

人間のストレスが怪獣になって襲ってくる！

上級妖精になりたい西洋妖精・ニクスに、日本で時間に追われて働く100人の人間を解放しろ、という試練が与えられた。ニクスは日本人のストレスを、青い涙に変えて回収していく。すると人間は働かずに、遊んで暮らすようになってしまった。ユメコは働かなくなった父親を心配し、鬼太郎に相談する。犯人の検討もつかない鬼太郎は、井戸仙人に相談。そして井戸仙人から、犯人の妖精・ニクスのことを聞いた鬼太郎は、ニクスを説得しようと試みる。そんなとき青い涙の入った小瓶が割れ、青い涙は巨大なストレスの塊となって暴れ始めてしまう。そして鬼太郎も、その中に呑み込まれてしまった。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。

演出●芝田浩樹　**脚本**●星山博之、金巻兼一　**作画監督**●稲野義信

【第091話】

妖怪ハンター　ヒ一族！

1987年8月29日放映

STORY

ぬらりひょんたち悪党妖怪と協力する！

妖怪の天敵・ヒ一族により、妖怪たちがぬいぐるみに姿を変えられてしまう事件が続発。日本の妖怪界を支配したいぬらりひょんは、ヒ一族と手を組もうとするが門前払いにあい、ぬいぐるみにされてしまった。必死に逃げ出した朱の盤は、鬼太郎に助けを求める。そこにヒ一族が現われ、鬼太郎を襲ってぬいぐるみにしてしまう。目玉おやじたちは、ヒ一族を退治しようと妖怪決死隊を組織するが、ヒ一族と聞くとみんな及び腰になってしまい、人数が集まらない。しかし討ち入り当日、そんな危機を救ってくれたのは、一度は同盟を断ってきた、ぬらりひょんの配下の悪党妖怪たちだった。



原作

「妖怪危機一髪」では、ヒ一族にやられた妖怪たちはぬいぐるみではなく、飲食店のメニューとして調理され、テーブルに上っていた。

演出●葛西治　**脚本**●武上純希　**作画監督**●入好さとる

【第092話】

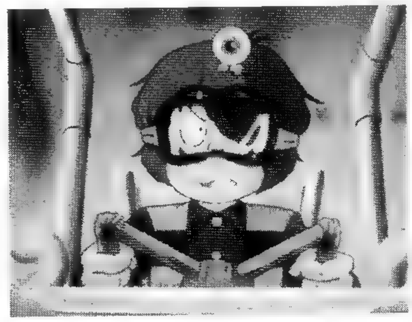
人喰い家と妖怪家鳴

1987年9月26日放映

STORY

夜行さんの妖怪戦車が大活躍！

ユメコからラブレターをもらったねずみ男が、待ち合わせの場所へと向かうと、それは骨女のワナだった。骨女は大金をチラつかせてねずみ男を誘惑し、人喰い家の食糧となる人間を調達させる。人喰い家は人を食べるたびに立派な家へと姿を変えるため、行方不明者を捜していた鬼太郎たちは気が付かなかった。その後、ねずみ男が売る都心の高層マンションが人喰い家だと知った鬼太郎たちはその家に乗り込み、人喰い家の家主の妖怪・家鳴と戦うが、人喰い家に飲み込まれてしまう。そこで鬼太郎はシーサーに壁を破らせ、人喰い家から脱出。夜行さんの妖怪戦車の力を借りようと考える。



原作

鬼太郎以外の水木作品『一万人目の男』では、成長する人喰い家が１万人入居可能なマンションになり、満室になった瞬間に住民を食べ始める。

演出●芹川有吾　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●松本朋之

【第093話】

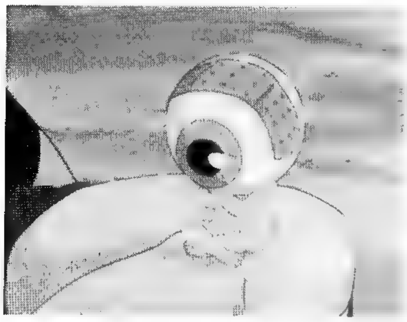
進化妖怪かぶそ

1987年10月3日放映

STORY

知恵の実を食べた妖怪かぶその悲劇

人類の文明を嫌う月の妖怪・赤頭は、月への無人探査機に潜り込んでいた純朴な妖怪・かぶそに「知恵の実」を渡す。知恵の実を食べた生き物は、心を忘れ知恵に振り回されるようになってしまう。かぶそと、かつて知恵の実を食べたといわれる人類との戦争を期待したのだ。急激に進化し、要塞を築き始めたかぶその文明を見て、驚く鬼太郎。その日の夜、好奇心からかぶその要塞に潜入したユメコとねずみ男は、かぶそたちに捕らえられてしまう。鬼太郎は仲間たちの助けを借りて、2人を救出する。そしてかぶそたちが誤って要塞の中で自爆すると、月から黒幕の赤頭が姿を現わした。



原作

鬼太郎以外の水木作品『宇宙虫』では、宇宙から来た虫が、人類の進化の過程をわずか4～5ヵ月で成し遂げ、ロケットで星に帰っていった。

演出●芝田浩樹　**脚本**●武上純希　**作画監督**●山口泰弘

【第094話】

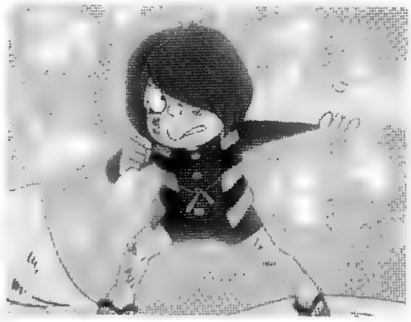
高熱妖怪ぬけ首

1987年10月10日放映

STORY

妖怪ブームにぬけ首が物申す！

妖怪ブームのなか、妖怪・ぬけ首は自分の知名度がないことに腹を立てていた。それが鬼太郎のせいだと思い込んだぬけ首は、高熱を発する頭を分離して鬼太郎を攻撃。鬼太郎が誤解を解こうとすると、ぬけ首は事実を確認するために、ひとまずその場から去る。まずはぬけ首を冷静にさせようと、冷却する役割を持つ胴体を探す鬼太郎だが、ねずみ男がTV番組に出演させるためにそれを持ち去っていた。熱を調整できないぬけ首の頭は、膨張し爆発寸前に。鬼太郎は冷凍妖怪たちを呼び冷却を頼むも、ぬけ首は限界を感じて姿を消した。事態を解決するため、鬼太郎たちはぬけ首の胴体を必死で探す。



原作

「ぬけ首」を比較的忠実に再現。原作ではねずみ男により、ぬけ首の胴体が「冷気を発する胴体」として、単独でTVで紹介されていた。

演出●白土武　**脚本**●星山博之　**作画監督**●清水明

【第095話】

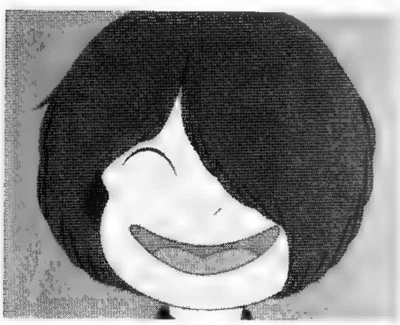
笑い妖怪ヘンラヘラヘラ

1987年10月17日放映

STORY

鬼太郎がヘンラヘラヘラと笑い出した

笑わない少年・金太を心配した母親は、カウンセラーのねずみ男に治療を頼む。ねずみ男は金太の頭を「妖怪ケラケラトンカチ」で叩き、金太そっくりの笑みを浮かべた「ヘンラヘラヘラ」を誕生させて、金太と入れ替えてしまった。ところがヘンラヘラヘラは、塾やゲームセンターを壊し始める。鬼太郎がヘンラヘラヘラの後を追いかけると「笑いの世界」にたどり着いた。鬼太郎はそこで入れ替えられた子どもたちを見つけ、家へ帰るように説得するが、子どもたちは笑いの満ちた世界から帰りたがらない。そこへ妖怪・ケラケラ女が登場。鬼太郎に「笑い粉」を浴びせて、ヘンラヘラヘラにしてしまった



原作

笑いを強要する"ケラケラ学校"を開設する「けらけら女」に、鬼太郎以外の水木作品『ヘンラヘラヘラ』のキャラを生かして再構成した話。

演出●今沢哲男　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●平田かほる

【第096話】

決戦!!妖怪吸血軍団

1987年10月24日放映

STORY

スーパー血液で鬼太郎が復活

吸血妖怪樹は復活するために、恐山にある強力な妖怪の血をブレンドした、スーパー血液を狙っていた。ドラキュラはそのじゃまになる鬼太郎を抑えるため、鬼太郎を誘い出して、しびれ薬を飲ませることに成功。そして鬼太郎が薬を飲んで動けなくなっている間に、南海吸血一族に恐山を襲わせ、スーパー血液を奪っていった。鬼太郎は島の2人の子どもに救出されたが、吸血妖怪綿に襲われて、ミイラにされてしまう。しかし子供たちが機転を利かせてスーパー血液の入ったつぼを割り、床に流れた血液を鬼太郎に吸い取らせて復活させる。吸血軍団と鬼太郎の、最後の戦いが始まった。



原作

「血戦！小笠原」では、吸血妖怪樹は復活のために妖怪の血を欲するにとどまる。「スーパー血液」というものは、アニメオリジナルの設定。

演出●芹川有吾　**脚本**●武上純希　**作画監督**●稲野義信

【第097話】

夫婦妖怪!?皿数え

1987年10月31日放映

STORY

ハタ迷惑な夫婦愛に振り回される!?

皿が料理を乗せたまま、どこかへ消えてしまう事件が頻発していた。そんなときシーサーは、突然現れた空飛ぶ皿に乗って、その上で眠りにおちていた。それを目撃したねずみ男が鬼太郎に知らせ、一行は皿の後を追う。皿が行き着いた先の井戸にいたのは、妖怪・皿数えだった。皿数えは妖力を失った夫・大入道に食事を与えるために、事件を起こしていたのだ。皿数えは妖力で、鬼太郎たちを皿にしてしまう。鬼太郎たちとの戦いで妖力を使いすぎた皿数えは、その場を大入道に任せて井戸の中へ入ろうとする。その隙に鬼太郎たちは大入道を人質にし、皿数えに妖術を解かせることに成功した。



原作

「皿合戦」では皿数えの猛烈な攻撃にタジタジになった鬼太郎は、一度は退却しようとしたが「ねむり皿」の術にかかり、皿数えに食われる。

演出●石田昌久　脚本●星山博之　作画監督●松本朋之

【第098話】

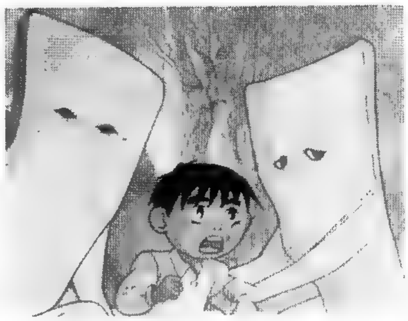
津波妖怪猛霊はっさん

1987年11月7日放映

STORY

両親を海で亡くした少年の願い

祭り見物にきたユメコと星郎は少年・智彦に出会う。智彦は海で死んだ人がなるという妖怪・猛霊八惨が現れる祭りの日に、海で亡くした両親に会いたいと願っていた。祭りの日、立ち入り禁止の小島に行き、戻らない智彦を心配したユメコは鬼太郎に相談する。鬼太郎が小島へ到着すると、水精翁が死体を猛霊八惨に変えていた。猛霊八惨を従え「妖怪水車」で村を襲おうとする水精翁。しかし目玉おやじが呼び寄せた水の妖怪たちがそれを止めた。そして鬼太郎が水精翁を追って、猛霊八惨の世界へ到着すると、そこには智彦の姿があった。鬼太郎は化火を呑み込み、改めて水精翁に立ち向かう。



原作

鬼太郎以外の水木作品「妖怪水車」では、猛霊八惨製造工場を見た少年は、猛霊八惨になった両親に会い、"猛霊八惨の世界"を垣間見る。

演出●山寺昭夫　脚本●大橋志吉　作画監督●高田耕一

【第099話】

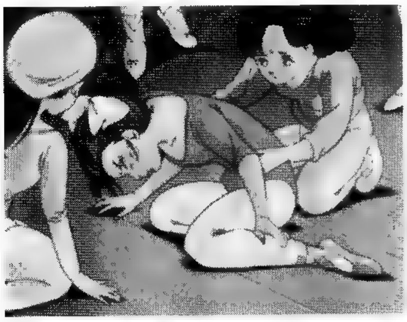
はきもの妖怪化けぞうり

1987年11月14日放映

STORY

捨てられた靴が人間に逆襲！

タダシは、古い靴を履き続ける居候のハルコのせいで新しい靴が買ってもらえないと思い、自分の靴とハルコのトゥーシューズを捨ててしまう。すると夜中に靴が勝手に歩き出し、どこかへ行ってしまった。じつはハルコのトゥーシューズは母親の形見であり、それを知ったタダシは、慌てて鬼太郎に靴を捜してほしいと依頼する。そのころ捨てられた靴は、町で暴れ出していた。鬼太郎は靴を一足捕まえておとりにし、黒幕の妖怪・化けぞうりをあぶりだす。化けぞうりは、靴を粗末に扱う人間たちに復讐していたのだ。鬼太郎は化けぞうりに妖力を吸い取られるが、砂かけ婆の妖術に救われる。



原作

「化けぞうり」では、化けぞうりははきもの界で霊の管理をしている立場。最後には鬼太郎のリモコン下駄が、化けぞうりの仕事を手伝う。

演出●芹川有吾　脚本●山崎晴哉　作画監督●松本朋之

【第100話】

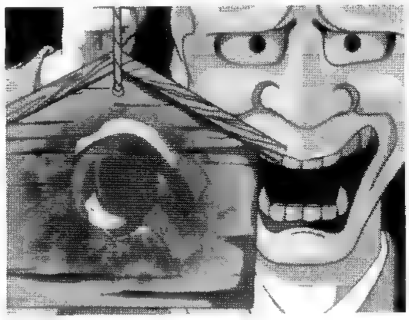
鬼巫女の鬼太郎抹殺作戦

1987年11月21日放映

STORY

操られたユメコが鬼太郎の魂を盗んだ！

女王人魚と半魚人の結婚を祝福する鬼太郎たちの前に、長寿のために女王人魚を狙う鬼道衆が現れた。鬼太郎に撃退された鬼道衆は、首領の八百比丘尼に報告。八百比丘尼は鬼太郎を倒すためにユメコを捕らえ、鬼太郎への愛情を憎しみに変換して、ユメコの姿を鬼巫女へ変えてしまう。鬼巫女は強力な霊力で鬼太郎の魂を絵馬に閉じ込めてしまい、女王人魚をさらうことに成功。一方、結界で神社の中に入れない目玉おやじたちに代わり、半妖怪のねずみ男が潜り込み、絵馬を取り戻す。復活した鬼太郎は鬼巫女と戦おうとするが、その正体がユメコだと知り、困惑しながらも必死で呼びかける。



原作

「鬼道衆」は、海辺で拾われ、15歳まで人間として育てられていた女王人魚が鬼道衆に狙われて、鬼太郎がそれを助けるストーリー。

演出●今沢哲男　脚本●武上純希　作画監督●平田かほる

【第101話】

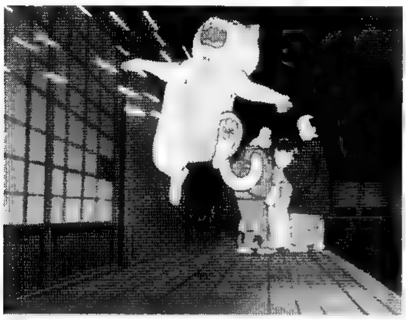
妖怪捕物帖 猫騒動

1987年12月12日放映

STORY

江戸時代版 妖怪捕物奇談！

時は江戸時代。絹問屋・山形屋の使用人が一夜にして３人も殺される事件が起きる。そこへ旅の虚無僧が現れ、犯人は山形屋で飼っている猫・お玉だという。その言葉を信じ、お玉を殺そうとする大人たちから守るため、娘のお夢はお玉を抱いて家を飛び出した。しかしお玉には逃げられてしまい、お夢は偶然出会ったネコ娘に、鬼太郎を紹介される。調査を始め虚無僧が怪しいと考えた鬼太郎は、山形屋の家族を鬼太郎ファミリーと総入れ替えし、犯人の正体を暴こうとした。その夜、妖怪・板鬼が現れて一家を殺そうとする。すべては山形屋の財産目当ての、虚無僧に扮した百々爺の陰謀だった。



原作

「猫又の恋」がプロット上のモチーフと思われる。長年生きた猫が妖怪・猫又になり、世話になった女性の飼い主をその妖力で守る話。

演出●明比正行　脚本●星山博之　作画監督●山口泰弘

【第102話】

おてんば魔女ジニヤー

1987年12月19日放映

STORY

父親思いの魔女の行き過ぎた愛情

アラビアからの転校生・ジニヤーは、ねずみ男から妖怪病院の場所を聞き出していた。子分を引き連れて妖怪病院を襲ったジニヤーはじつは魔女で、病に倒れた父親を治療してもらおうと、妖怪病院から腕のいい医者を誘拐しに来たのだ。そのころ妖怪病院には、妖怪結膜炎で入院中の目玉おやじがいた。異変を知り駆けつけた鬼太郎は、ジニヤーが指輪から呼び出した召使いの魔法でネズミにされてしまう。しかし鬼太郎はすぐに砂かけ婆の術で元に戻り、ジニヤーを追い詰める。ところが彼女の悲鳴を聞いて、アラビアの「魔法の国」にいるはずの父・魔王が現れ、鬼太郎を一方的に攻撃し始めた。



原作

「魔女ジニヤー」では、ジニヤーはその魔力でクラスメイトを従えて、銀行強盗などの悪事を働く。魔力の元は指輪ではなく、「精霊煙草」だった。

演出●葛西治　脚本●大橋志吉　作画監督●松本朋之

【第103話】

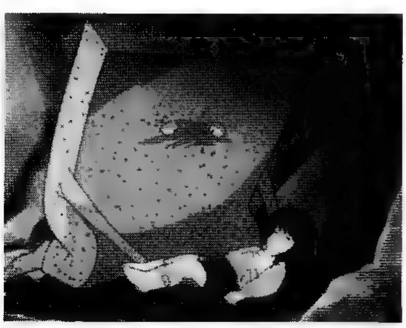
純愛 ヌリカベとおしろい娘

1987年12月26日放映

STORY

ぬりかべと鬼太郎の大激闘！

鬼太郎は美女に、行方不明の娘・仙子を捜してほしいと頼まれる。そのころぬりかべは雪山で迷子になっていた少女・紅子を助けていた。つららで目を痛め、一時的に視力を失った紅子は、ぬりかべを祖父の茂作だと思い込む。そこに現れた鬼太郎と美女は、紅子を娘だと言って連れて行こうとするが、母を知らない紅子はそれを嫌がる。それを見たぬりかべは、紅子を守るために鬼太郎と戦うことを決断する。そんなとき、鬼太郎は紅子がじつは女妖怪の頭領となるべき妖怪・脂粉仙子で、保護者である白粉婆に利用されぬよう、人間として育てられたことを知る。美女の正体は、妖怪・白粉婆だった。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。

演出●葛西治　脚本●武上純希　作画監督●新岡浩美

【第104話】

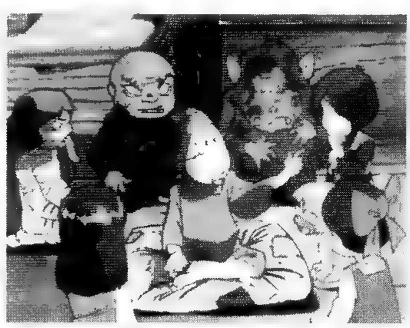
謎の妖怪狩りツアー

1988年1月9日放映

STORY

鬼太郎が寂れた旅館をプロデュース

ユメコの母親から恩師が経営する寂れた旅館「水木屋」の復興を頼まれた鬼太郎は、“妖怪と遊べる旅館”をうたい文句に客足を伸ばそうと、妖怪たちに協力を求めた。その話を知ったぬらりひょんは、ねずみ男を金で釣り、「妖怪狩りツアー」として宣伝させる。すると暴力団が客として来て、旅館で暴れ出した。ぬらりひょんの仕業だと知った鬼太郎は、まずは暴れる客を懲らしめるため、妖怪狩りツアーと称してバスに乗り込ませ、恐怖体験をさせる。おびえた男たちは妖怪狩りをやめると約束し、おとなしくなった。一方、ぬらりひょんは鬼太郎に戦いを挑まれたが、朱の盤と逃げ帰っていった。



原作

「妖怪狩りツアー」の黒幕はねずみ男であり、妖怪たちが「妖怪狩りツアー」に参加してきた高飛車な人間たちに、恐怖を味わわせる話。

演出●芹川有吾　脚本●星山博之　作画監督●松本朋之

【第105話】

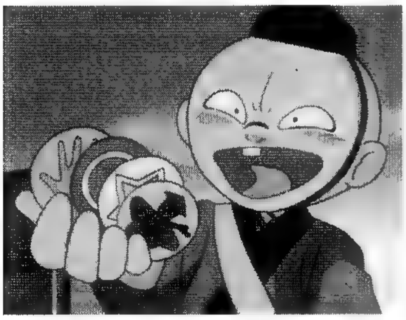
妖怪めんこ天狗

1988年1月16日放映

STORY

めんこになった鬼太郎の本気勝負！

男の子が神隠しにあう事件が多発し、星郎も行方不明に。調査を始めた鬼太郎の前に、妖怪・めんこ天狗が現れる。めんこ天狗の話では、ほとんどめんこで遊ばなくなった子どもたちに、めんこの楽しさを教えるために誘拐したという。鬼太郎は戦いを挑むが返り討ちに遭い、ほかの子どもたちと同じくめんこにされてしまう。その後、めんこ天狗の住みかから星郎の協力で脱出した鬼太郎は、カラスに運ばれめんこの姿のまま家へ戻る。翌日、ネコ娘はめんこ天狗に、鬼太郎めんこを使っためんこ勝負を挑んだ。そしてネコ娘は見事全勝。悔しがるめんこ天狗は、みずからめんこになり最後の勝負を挑む。



原作

「めんこ天狗」では、すべての生物をめんこにしてしまう「念写めんこ製造機」を使って、めんこ天狗が鬼太郎たちをめんこにしてしまう。

演出●白土武　脚本●星山博之　作画監督●高田耕一

【第106話】

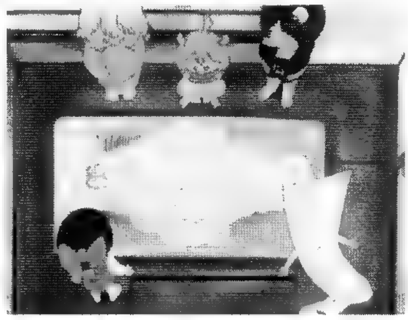
とうふ小僧と山神

1988年1月23日放映

STORY

鬼太郎ファミリーがカビだらけに！

森林伐採により体調を崩してしまった山神を心配した妖怪・とうふ小僧は、工事を中止させるため、全身にカビが生える豆腐を配って現場の人間に食べさせた。そこで働いていたねずみ男も、知らずにその豆腐を食べてしまう。ねずみ男に生えたカビは取り除いてもすぐに繁殖し、さらにその胞子を吸い込んだ鬼太郎たちにもカビが生えてしまう。鬼太郎たちはカビが大好物の妖怪・天井なめを呼び、その胃液から消毒液を作ってカビを除去した。しかし、被害に遭った人間たちのために消毒液を配っていた子泣き爺とユメコが、とうふ小僧に連れ去られてしまう。鬼太郎は急いで現地に駆けつけた。



原作

「豆腐小僧」では、ねずみ男は工事現場で働いていない。わざわざ山に入ってとうふ小僧を呼び出し、カビの生える豆腐を食べてしまう。

演出●芝田浩樹　脚本●大橋志吉　作画監督●松本朋之

【第107話】

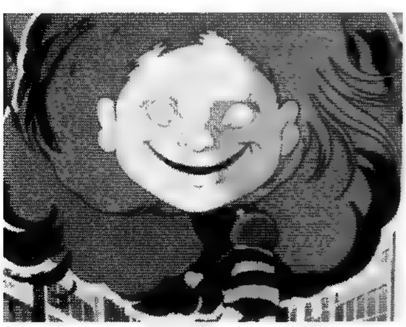
ケムリ妖怪えんらえんら

1988年1月30日放映

STORY

子泣き爺の愛に応え、砂かけ婆の秘術が炸裂！

街の銭湯で火元もないのにボヤ騒ぎが起こり、人々の金銭が盗まれる事件が多発する。事件は煙の妖怪・えんらえんらを使って火事場泥棒を繰り返すねずみ男の仕業だった。しかし鬼太郎がえんらえんらを発見したときには、えんらえんらは都会の有毒な煙を吸って凶暴化していた。鬼太郎たちは砂かけ婆の家宝の香木の煙を使ってえんらえんらを誘い出し、風の神に借りた風神袋に封じ込めようとしたが逃げられる。子泣き爺はえんらえんらに挑むが、煙を吸い込んで倒れてしまう。それを見た砂かけ婆はその身を犠牲にする秘術・大砂塵を使い、体を砂にしてえんらえんらの煙を吸い取った。



原作

「えんらえんら」では、都会の煙を吸って凶暴化したえんらえんらを、一度は砂かけ婆の砂太鼓で抑えたが、最後には野づちに吸い込ませた。

演出●岡崎稔　脚本●武上純希　作画監督●宮沢康紀

【第108話】

鬼太郎ファミリーは永遠に

1988年2月6日放映

STORY

鬼太郎VS.ぬらりひょん、最後の戦い！

妖怪王国をつくろうと企むぬらりひょんは、仲間の妖怪を集めて鬼太郎抹殺計画「本所七不思議の刑」を実行した。目玉おやじを人質にされた鬼太郎が、呼び出された柳川の土手に向かうと、雷獣や狐者異など、妖怪たちが次々と襲ってくる。ねずみ男はこの計画を偶然立ち聞きし、砂かけ婆たちに知らせた。砂かけ婆たちは鬼太郎を救うべく仲間たちに連絡。そのころ鬼太郎は最後の難関・足洗い屋敷で妖怪・足洗いに苦戦を強いられていた。そこを駆けつけた仲間たちに助けられ、鬼太郎は足洗いを倒して目玉おやじの救出に成功。ぬらりひょんは逃げ出し、鬼太郎は仲間たちとゲゲゲの森に帰っていった。



原作

「妖怪本所七ふしぎの巻」では、送り提灯は出てこない。足洗いをはじめ残りの妖怪たちは、その姿も能力もほぼ原作を踏襲している。

演出●葛西治　脚本●星山博之　作画監督●新岡浩美

【第109話】

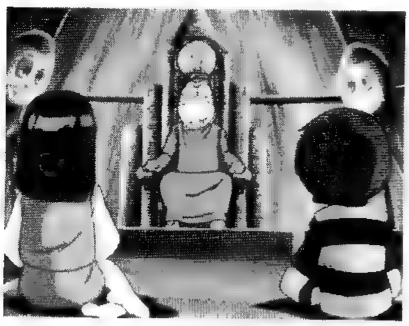
母を求めて地獄旅

1988年2月8日放映

STORY

「地獄編」スタート！鬼太郎窮地の連続

ぬらりひょんは、地獄界、地上界、天上界を支配できるという天叢雲剣を手に入れた。一方、地上ではねずみ男が枕石を掘り当て、それに触れたユメコとねずみ男が行方不明に。枕石が地獄に続いていると聞いた鬼太郎は、ユメコを助けるために地獄へ向かう。そして、この世とあの世の境目であるねずみ男一族の村でユメコを見つけると同時に、母親に甘えるねずみ男も目撃。それにより母に対する郷愁が掻き立てられた鬼太郎は、隣村に母親がいるらしいと教えられて先を急ぐ。しかしすべては、鬼太郎の母への思いを利用して、鬼太郎を亡き者にしようと企むぬらりひょんのワナだった



原作

「母を求めて地獄旅」で、鬼太郎は地獄にいるという母を求めて旅をする。ぬらりひょんの謀略はないので、ニセの母親などは出てこない。

演出●芝田浩樹　**脚本**●武上純希　**作画監督**●松本朋之

【第110話】

血戦三途の川

1988年2月15日放映

STORY

鬼太郎の危機を地蔵菩薩が救う！

にせの母親にだまされて捕まった鬼太郎の首に、首狩り三人衆の刀が無情にも振り下ろされる。ユメコも殺されそうになるが、人間界に残した赤ん坊を盾にされて鬼太郎の母親を演じていた花子が、それを止める。そこに秘術・亀の首で、刀を避けていた鬼太郎が復活。一行は首狩り三人衆を倒し、ユメコと花子を人間界に戻す方法を見つけるために賽の河原へ向かう。鬼太郎は三途の川で大蛇様に襲われ、さらに奪衣婆が鬼太郎のオカリナを持ち去るなどの受難が続く。そんななかを仲間の助けで道具を取り戻して危機を脱すると、地蔵菩薩が人間を地上へ運ぶサラメーヤの鳩を1羽授けてくれた。



原作

「母を求めて地獄旅」から「血戦三途の川」までのストーリーをアレンジ。原作では奪衣婆が、もっと強烈な妖力で鬼太郎たちを苦しめる。

演出●葛西治　**脚本**●武上純希　**作画監督**●入好さとる

【第111話】

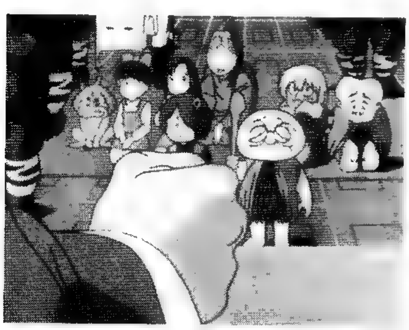
鬼太郎vs地獄童子

1988年2月22日放映

STORY

鬼太郎が閻魔大王庁を攻撃する！

鬼太郎一行は閻魔大王庁へ向かう。しかし何者かに操られている閻魔大王は、地獄荒らしの罪で鬼太郎たちに死刑を言い渡す。一行は逃げようとするが、用心棒の地獄童子に戦いを挑まれ、牢に入れられてしまう。鬼太郎は意識を失っているときに母の声を聞き、奮い立って「カメレオンの術」で牢を抜け出して逆転のカギを探す。そして現れた地獄ゼミに導かれ、閻魔大王庁にダメージを与えるべく、火山のマグマ溜まりへと向かう鬼太郎。しかし地獄童子に待ち伏せられ、熾烈な再戦が始まった。一方、助っ人に現れたぬりかべはマグマ溜まりを刺激し、閻魔大王庁に向けてマグマを流す。



原作

「閻魔危うし！白骨軍団」がモチーフではあるが、ほとんど鬼太郎一行と閻魔大王の対面、というプロットが生かされているのみ。

演出●岡崎稔　**脚本**●武上純希　**作画監督**●宮沢康紀

【第112話】

二大妖怪の罠

1988年2月29日放映

STORY

鬼太郎が地獄童子と協力し、妖怪を退治

鉄鼠と五徳猫は鬼太郎を抹殺するために、一行を散りぢりに別れさせる。そして地獄童子は鬼太郎と離れたユメコを誘拐し、鉄鼠と五徳猫に引き渡した。地獄童子は恋人・幽子を解放してもらうため、2人に協力していたのだ。しかし裏切られ、不意を突かれて奈落の底に突き落とされる。鬼太郎はユメコを人質にとられたまま蛇骨婆に呑まれてしまう。そこに復活した地獄童子が現れ、ユメコを救う。鬼太郎は蛇骨婆の腹の中から脱出し、傷を負った地獄童子を病院へと連れて行く。そこで地獄童子が鬼太郎と同じ妖怪と人間のハーフであることが判明。鬼太郎は、地獄童子に自分の血を提供する。



原作

「世紀の妖怪アイドル、幽子の巻」に、鉄鼠と五徳猫に地獄童子、その恋人の幽子も登場。話は異なるが、お互いの関係性は近い。

演出●白土武　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●高田耕一

【第113話】

地獄武者の処刑作戦

1988年3月7日放映

STORY

妖怪科学を身につけた地獄武者を撃退せよ！

針の山でユメコが熱を出して倒れてしまう。そこで針の山の向こうに見えたあるはずのない人間界へ行ってみると、見覚えのある町並みが広がり、ユメコの家族が待っていた。しかしその正体は餓鬼で、やはりぬらりひょんが仕組んだワナだった。餓鬼はユメコをさらい、地獄武者に引き渡す。戦いを挑む鬼太郎も、妖怪科学を身につけた地獄武者の返り討ちに遭い、ユメコを連れ去られてしまう。鬼太郎は地獄武者のアジトに突入。地獄武者の発する電力を吸い取り、体内電気と合わせ一気に逆流させ退治した。再び姿を現した地獄ゼミは、天叢雲剣があるという奥の院の入り口へと一行を案内した。



原作

「最後の出会い」では、夜行さん(アニメの地獄武者)が餓鬼道の管理人として登場。鬼太郎は髪の毛針を敵の心臓に潜り込ませて退治した。

演出●芹川有吾　脚本●武上純希　作画監督●松本朋之

【第114話】

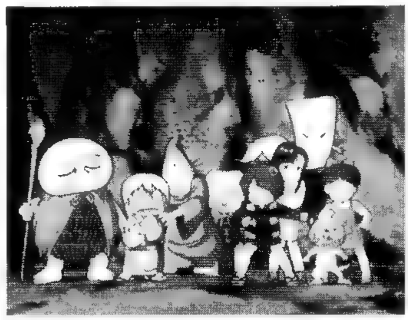
血の池妖怪ヌルリ坊

1988年3月14日放映

STORY

鬼太郎と目玉おやじの誕生秘話が明らかに！

鬼太郎たちは地獄の奥の院の番人・火男に見つかってしまった。やむを得ず血の池地獄に飛び込むと、ズブズブと体が沈んでいく。いよいよ最期のときとみた目玉おやじは、母親について、そして鬼太郎誕生の瞬間について語り始める。そこへぬるり坊が現われ、逃げ切れはしたものの、一行はバラバラにはぐれてしまった。そして鬼太郎は、地獄の鬼に罰を受ける母親と再会。母親の身代わりになろうとするがそれはやはり幻覚で、駆けつけたユメコの声で正気に戻る。そこにぬらりひょんが姿を現わした。鬼太郎は天叢雲剣の光を見ないように、ユメコのハンカチで目隠しをして最後の決戦に挑む。



原作

「最後の出会い」でも、火男に追い詰められて血の池地獄に落ちた鬼太郎たちは、ぬるり坊に襲われる。鬼太郎はリモコン手&指鉄砲で撃退。

演出●芝田浩樹　脚本●武上純希　作画監督●西城隆詞

【第115話】

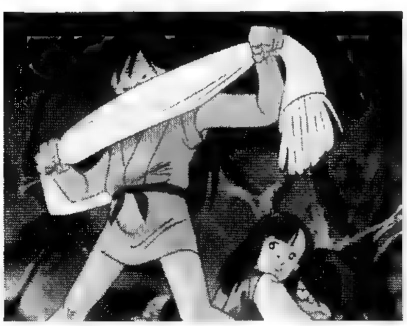
鬼太郎最後の出会い!!

1988年3月21日放映

STORY

ついに鬼太郎の本物の母親が登場！

ぬらりひょんとの戦いに一度は敗れる鬼太郎。しかし母の声に戦う気力を取り戻し、仲間たちから妖力をもらい天叢雲剣を粉砕。ぬらりひょんを奈落の底へと落とした。鬼太郎たちと改心した朱の盤は、正気に戻った閻魔大王に人間界への道・胎内道を教わり、人間界へと向かう。胎内道には鬼太郎の母親が待っていた。ところが天叢雲剣の影響で閉ざされようとしていた胎内道をとおる鬼太郎たちの前に、再びぬらりひょんが現われる。しかし朱の盤が犠牲となって地獄に残り、一行は人間界を目前にする。しかしここに来てユメコが落石の犠牲に。鬼太郎の母親は、自分の命をユメコに授けて地獄へと戻っていった。



原作

「最後の出会い」では、鬼太郎の母は現世には戻れない決まりになっており、見送るつもりで現世に出てしまった母が灰になってしまう。

脚本●武上純希　演出●葛西治　作画監督●入好さとる，新岡浩美

【劇場版第1作】

ゲゲゲの鬼太郎

1985年12月21日公開

STORY

3人の南方妖怪が来襲。その黒幕はやはり……

鬼太郎を始末すべく、チンポ、アカマタ、やし落としの3人の南方妖怪が来襲。ねずみ男をそそのかして、ユメコをさらう。助けに来た鬼太郎も、やし落としの攻撃で気を失い、捕まってしまう。しかし自力で脱出し、砂かけ婆、子泣き爺らの助けを借りて、アカマタとやし落としを退けた。ところがやられたはずのアカマタはねずみ男に乗り移り、油断した鬼太郎の生気を吸い取ってしまう。しかしその容量に耐え切れずアカマタは爆発。生気を取り戻した鬼太郎は復活し、正気に戻ったねずみ男とともに、ユメコが捕まっている船へと向かう。チンポと船にいたのはすべての黒幕、ぬらりひょんだった。



原作

「妖怪軍団」では、アカマタとやし落しは「妖怪解放軍」を名乗り、鬼太郎を始末するために戦う。ぬらりひょんとチンポは原作には登場せず。

【劇場版第2作】

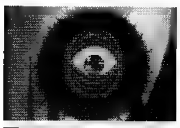
妖怪大戦争

1986年3月15日公開

STORY

西洋妖怪たちが日本来襲 ホウキボシ島を救え！

バックベアードを頭領に、ドラキュラ、フランケンなどの西洋妖怪たちが、ホウキボシ島を占拠。妖怪王国建国の前進基地として、島に要塞を建てるべく暴れ始めた。島から逃げ延びた少年・あきおが助けを求め、鬼太郎のもとへ。要塞完成を阻止し、西洋妖怪を退治すべく鬼太郎ファミリーが立ち上がる！





原作

「妖怪大戦争」とも第1シーズンのTVアニメ作品とも異なり、この作品のみフランケンが登場する。

監督●葛西治　**脚本**●星山博之
作画監督●兼森義則

【劇場版第3作】

最強妖怪軍団！日本上陸!!

1986年7月12日公開

STORY

チーの妖術に翻弄され 鬼太郎まで反物に！

鬼太郎たちが「人間と妖怪の友好盆踊り大会」を開こうとしているさなか、中国妖怪チーが現れ、日本を支配すべくその妖術で日本妖怪を反物にしてしまう。さらに妖怪城を建築し、その反物を身に着けた人間たちを従えていく。鬼太郎は妖怪城に乗り込むが、返り討ちに遭い反物にされてしまった。





原作

「妖怪反物」に、第3シーズンらしく「妖怪と人間の友好盆踊り大会」のような味付けを施した。

監督●芹川有吾　**脚本**●星山博之
作画監督●山口泰弘

【劇場版第4作】

激突!!　異次元妖怪の大反乱

1986年12月20日公開

STORY

妖怪戦車も登場し大活躍 妖怪皇帝の企みを潰せ！

1000年に一度起こるという「怪気象」に包まれ、麻痺状態の東京。これは東京を妖怪天国にしようと企む、謎の妖怪皇帝の仕業だった。その部下・ぐわごぜは、娘のカロリーヌを使い、鬼太郎を妖怪たちの本拠地・国会議事堂におびき寄せる。そこで妖怪・朧車が待ち受け、鬼太郎を石化してしまう。





原作

「朧車」をモチーフとするが、原作のボスはぐわごぜ。妖怪皇帝・ぬらりひょんは出てこない。

監督●芝田浩樹　**脚本**●武上純希　**作画監督**●入好さとる／新岡浩美

ゲゲゲの鬼太郎<第3部>放映リスト

放映日	話数	放映タイトル
85.10/12	1	謎の妖怪城出現!!
10/19	2	鏡じじい
10/26	3	ネコ仙人
11/2	4	妖怪ぬらりひょん
11/9	5	ダイヤ妖怪輪入道
11/16	6	地獄行! 幽霊電車!!
11/23	7	子連れ妖怪磯女
11/30	8	だるま妖怪相談所
12/7	9	不死身の妖怪水虎
12/14	10	悪魔のメロディー・夜叉
12/21	11	妖怪キツネ白山坊
12/28	12	ざしきわらしと笠地蔵
86.1/4	13	おりたたみ入道
1/11	14	不老不死!? 妖怪さざえ鬼
1/18	15	冷凍妖怪・雪ん子
1/25	16	妖怪のっぺらぼう
2/1	17	古代妖怪・毛羽毛現
2/8	18	妖怪天狐　地底王国の逆襲
2/15	19	ゆめ妖怪まくらがえし
2/22	20	半魚人の恋
3/1	21	コマ妖怪あまめはぎ
3/8	22	いじわる妖怪天邪鬼
3/15	23	電気妖怪かみなり
3/22	24	子供が消える!? 妖怪うぶめ
3/29	25	妖怪ぶるぶる
4/5	26	おばけナイター
4/12	27	妖怪ふくろさげ
4/19	28	田を返せ．妖怪泥田坊
5/3	29	妖怪ひでり神
5/10	30	妖怪見上げ入道
5/17	31	オベベ沼の妖怪
5 24	32	鬼太郎危うし! 妖怪大裁判
5/31	33	妖怪あかなめ　哀しみの逆襲
6/14	34	ばけ猫国道0号線
6/28	35	妖怪赤舌の千年王国
7/5	36	異次元妖怪かまなり
7 12	37	妖怪おどろおどろ
7/19	38	タタリだ〜!? 妖怪土ころび
8/2	39	途の河のだつぇばばあ
8/9	40	富士山大噴火!? 妖怪大首
8/23	41	激戦! 妖怪関ヶ原
8/30	42	妖怪牛鬼
9/6	43	さら小僧　妖怪歌謡大賞
9/13	44	あの世からの使者死神
9/20	45	妖怪花を救え!!
9/27	46	妖怪大統領こうもり猫
10/4	47	妖怪のびあがりと吸血木
10/11	48	妖怪いやみ
10/18	49	妖怪殺人事件おんもらき
10/25	50	妖怪海座頭の怒り
11/1	51	世界妖怪ラリー
11/8	52	燃えるネズミ男　げた合戦
11/15	53	皿屋敷の妖怪モウリョウ
11/22	54	悪魔ベリアル
11/29	55	㊙指令!! ねずみ男は死刑だ
12/6	56	タヌキ軍団日本征服!!（前編）
12/13	57	タヌキ軍団日本征服!!（後編）
12/20	58	妖怪城の目目連
12/27	59	宵待ち草の後神
87.1/3	60	巨人妖怪ダイダラボッチ
1/10	61	まぼろしの汽車
1/17	62	妖怪火車　逆モチ殺し!!
1/24	63	悪魔ブエルとヤカンズル
1/31	64	妖怪穴ぐら入道
2/7	65	妖怪百目・地獄流し
2/14	66	韓国妖怪ぬっぺらぼう
2/21	67	密林の大海獣
2/28	68	大海獣　怒りの逆襲
3/7	69	妖怪風の又三郎
3/14	70	鏡地獄! 妖怪うんがい鏡
3/21	71	妖花の森のがしゃどくろ
3/28	72	ケ・け・毛!妖怪大髪様
4/4	73	シーサ　登場!! 沖縄大決戦
4/11	74	妖怪　万年竹
4/18	75	妖怪小豆連合軍
4/25	76	人喰い島と海和尚
5/2	77	妖怪手の目と地獄の餓鬼
5/16	78	マンモスフラワーと山男
5/23	79	妖怪やまたのおろち
5/30	80	妖怪吹消婆　プロレス地獄
6/6	81	コンビ妖怪　手長足長
6/13	82	妖怪　串刺し入道
6/20	83	雨神ユムチャック伝説
6/27	84	地獄一周!! 妖怪マラソン
7/4	85	河童一族とたくろう火
7/11	86	妖怪香炉　悪夢の軍団
7/25	87	寄生妖怪ペナンガラン
8/1	88	不思議な妖犬タロー
8/15	89	木の子と妖怪山天狗
8/22	90	妖精ニクスの青い涙
8/29	91	妖怪ハンターヒー族!
9/26	92	人喰い家と妖怪家鳴
10/3	93	進化妖怪かぶそ
10/10	94	高熱妖怪ぬけ首
10/17	95	笑い妖怪ヘンラヘラヘラ
10/24	96	血戦!!妖怪吸血軍団
10/31	97	夫婦妖怪!?皿数え
11/7	98	津波妖怪猛霊はっさん
11/14	99	はきもの妖怪化けぞうり
11/21	100	鬼巫女の鬼太郎抹殺作戦
12/12	101	妖怪捕物帖　猫騒動
12/19	102	おてんば魔女ジニヤー
12/26	103	熱愛ヌリカベとおしろい娘
88.1/9	104	謎の妖怪狩りツアー
1/16	105	妖怪めんこ天狗
1/23	106	とうふ小僧と山神
1/30	107	ケムリ妖怪えんらえんら
2/6	108	鬼太郎ファミリーは永遠に
地獄編		
88.2/8	109	母を求めて地獄旅
2/15	110	血戦三途の川
2/22	111	鬼太郎VS地獄童子
2/29	112	二大妖怪の罠
3/7	113	地獄武者の処刑作戦
3/14	114	血の池妖怪ヌルリ坊
3/21	115	鬼太郎最後の出会い!!

第3部｜鬼太郎役

戸田恵子インタビュー

肩にちょこんと鬼太郎が乗っかってます

PROFILE
とだ　けいこ　女優・声優。女優としてTV、舞台、映画に、声優として洋画やアニメまで活躍の幅は広い。代表作に『ラヂオの時間』（映画）『それいけ！アンパンマン』（アンパンマン役）など。

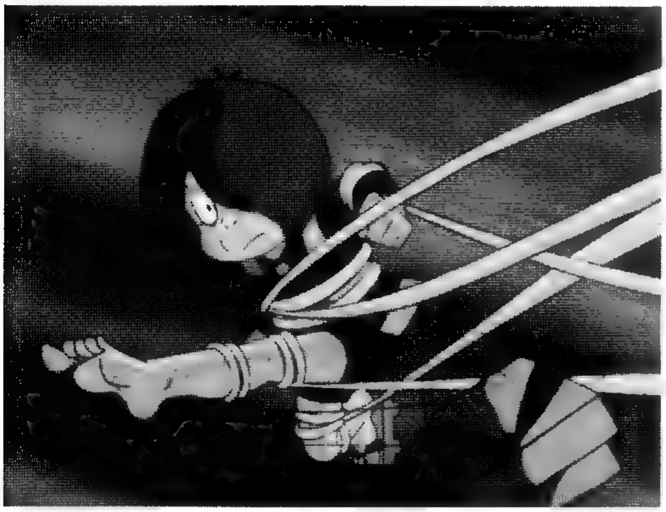


俳優陣総入れ替えで望んだ第３部は最高視聴率29.8％と、80年代を代表する大ヒット作となった。数々のヒット作を演じてきた戸田さんにとって『ゲゲゲの鬼太郎』とはどのような作品なのだろうか。

新しいキャストによる新しい鬼太郎を見せたかった

〝ゲゲゲの鬼太郎〟の原体験はいつごろで、どんな印象がありましたか？

第１部の、野沢雅子さんが演じてらしたシリーズを見たのが初めてですね。私は子どものころから仕事をしていたので、テレビやマンガをあまり見ていなかったんです。そんな私でも、印象に残っている作品



※1

でした。何よりも歌が印象に残っています。鬼太郎の歌はすごく有名だったし、圧倒的に人気がありましたからね。番組を見ているか否かにかかわらず、誰もが知っている存在でしたから。だから、テレビをあまり見ていない私でも知っていたんでしょう。

鬼太郎の声に選ばれた時は、どんな気持ちでしたか？

まず、とても有名な作品だなあ、と思ったのを覚えています。あとは何より、憧れの存在であるマコ（野沢雅子）さんが演じてらした作品だったので、お話を頂いたときはホントに驚きました。鬼太郎といえばマコさんでしょ！　主役を誰かがチェンジするということがあるのか、そういうことが起こるのかとびっくりしましたね。
当時は劇団に所属していたころでした。自分が抜擢されるなんてホントに意外だったんです。「私……ですか？」って感じで、寝耳に水という感覚でした。

繰り返しますが私にとっては、あまりにも野沢雅子さんという方が偉大すぎるんです。お仕事も一緒にさせていただいていましたし、大好きな憧れの、リスペクトしている先輩でしたから。しかも『ゲゲゲの鬼太郎』という作品自体が、国民的人気のある作品ですからね。プレッシャーがなかったと言えば、嘘になります。
でもそこまで条件がそろうと、逆にとらわれなくなっちゃうものなのかもしれません。マコさんの「鬼太郎」に追いつこうとは決して思わないし、同じように演じることなんてできるわけがない！　と開き直れたんです。さらに、第3部は目玉のお父さん以外、俳優陣が総入れ替えになったことも大きかったです。新しいキャストの私たちがこの作品にトライすることで、新しい『ゲゲゲの鬼太郎』を新しい世代の人たちに見ていただけるんじゃないか、と考えたのが、この役を受ける気持ちを後押ししてくれた要因ですね。ヒットした作品のキャストをガラッと変えるわけですからね。製作スタッフの意図としても、そういうのはあったんじゃないかと思います。キャラクターも以前のおどろおどろしい感じから、可愛い雰囲気になりましたからね。

第３部では、アクションシーン（※１）が多用されたり、人間のユメコちゃんがレギュラーで出るなど変わりましたが、違和感はありませんでしたか？

まったくなかったですね。正直、コアなファンの方のような、細かい知識とかこだわりというものは、私のなかにはまるでなかったんです。鬼太郎に関しては、誰もが知っているレベルで私も知っていた、という感じなので。むしろそれが良かったと思いますね。多くを知りすぎていると、やりづらかったんじゃないかなと思いますし。
以前のシリーズの鬼太郎がどうだったとか、そういうのはもちろん参考にさせていただくことはあるんですけど、ほかのアニメーションの仕事で新しいキャラクターをいただいた時と同じような感じでした。
（アニメの絵を見ながら）この絵を初めて見て、このぐらいの男の子をどういうふうに生かすのか、どう命を吹き込むのかというのが私の仕事だと思ってやっていますから。
前シリーズでは、ちょっと怖い感じがするなとか、とっても水木先生の原作に近いな、というのは感じていましたけれど。それと比較してどうする、というのはなかったですね。

「私にとっても、ホント特別な作品です」



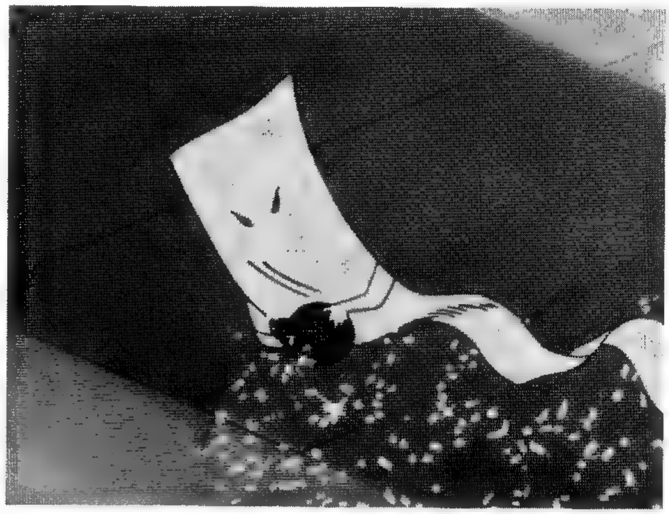
鬼太郎は普通の男の子として演じたかった

鬼太郎の絵を見て、どのような声にするか、というのはすぐ決まりましたか？

私がアニメで声を収録する場合は、あんまり考えず、インスピレーションを大切にしているんです。その時に、その子の動きを見て、自然と出たものを信じるようにしています。自分がその役に乗り移った感じで、最初に出た第一声が正しいんだと。映像を見て初めて感じたイマジネーションから、この子にどんな命を吹き込めばいいのかなっていうのを大切にしていますね。どの役の時もそうです。でも、その声でいいのか、最大公約数のＯＫをもらわなければいけないので、現場の監督さんなどから、「こうしたほうがいいんじゃないの？」という意見があれば、要求には応えるようにしています。いつもそういう感じで、比較的すんなりいきますね。
"声色"とかじゃないんですよ。それよりも、シチュエーションを大事にしていきたいんです。キャラクターが一生懸命やっている様子とか。鬼太郎なら例えば、必死に下駄を蹴っているな～とか、気持ちがたくさん表れる演じ方ができるように意識しますね。の～んびりとお父さんと話しているときは、そういうのんびりさが声で伝わるようにしたい。むしろ、見えない空気感のほうを大事にしたいなと思うんです。
「声」なんて結局同じ人間が出すものなのだから、種類とか幅とかが多少あったとしても、やっぱり限度があります。だから、どういう声にするかというより、いかに状況に応じて起伏を豊かに出せるか、シチュエーションの中での声にこだわりました。戦闘態勢の緊張感のある声や、お父さんをお茶碗に入れて話している時とか、友達のねずみ男と話している時とか、色を付けるとしたら、そういう部分にこだわって頑張りたいなと思いましたね。

妖怪という存在を演じるに当たって、こだわったことや参考にしたことなどはありましたか？

私はマンガを全然見ない子どもだったし、役を始めた当初は、水木先生の原作の知識もゼロでした。ただ、鬼太郎を演じる時には非常に穏やかに暮らすことを望んでいる子なんだな、という意識をつねにもっていましたね。
鬼太郎は、普通の男の子として演じたかったんです。当時は男の子の役を演じたことがまだ数少なかったので、妖怪というより、男の子をどう演じられるのかを意識しました。
私は女なので、当然男の子としての経験がないわけですよね。使える引き出しがないわけです。どこまで行っても想像の世界なんですよ。でも男の子を演じるなんて、声優という現場以外ではほとんどありえないことですから、逆に役者冥利につきると思うんです。テレビとか舞台とか、映像に映る仕事では、男の子を演じることはできないわけですから。
「アンパンマン」にしろ「トーマス」にしろ、私が演じるアニメの役は、ちょっと特種能力を持ったキャラクターが多いじゃないですか。でも私はそんな中でも、普通の生活の時の意識を強く持つようにしています。戦闘シーンだとか、ドタバタのシーンよりも普通のシチュエーションの声。それがうまく演じられれば、成功するように思うんです。



※2

ベテランぞろいの現場は安心して身を任せられました

「鬼太郎」の声優さんたちは、ベテランぞろいだったと思いますが、現場の雰囲気を教えてください。

ただただ、ひたすらすごく楽しかったのを覚えています。周りに"大人"の役者さんがたくさんいて、安心して身を任せられる感覚がありましたね。当時の私からすると、雲の上の人たちばかりでしたから。
今はどこへ行っても私はお姉さん的存在になるんですよね。それはそれで楽しいんですけれど。
鬼太郎をやっていた当時は、よく飲みに連れて行ってもらったり、ご飯を食べに行ったりしていましたね。仲が良かったですよ。
言ってみれば鬼太郎の時は、子どもの"鬼太郎"の存在そのままで、お仕事をさせてもらっていたかも知れません。甘えていられたという感じです。現場の中でも、特にのびのびやらせていただいたっていう印象がすごくありますね。
田の中さん（目玉おやじ役）もそうですし、八奈見さん（一反もめん（※2）役）は素敵なジェントルマンですし。同じ名古屋出身でよく飲んだ杉山さん（ネコ娘役）とか、亡くなった富山敬さん（ねずみ男役）も、もちろん含めて。"素敵な大人の方々と過ごせる何時間か"が、定期的に訪れていた感じです。のびのびとすべてを委ねて仕事ができましたから。

「女の子のファンが超熱狂的でした」



今となっては、もうあんな状態での仕事はないでしょうからね。思い返すとすごく懐かしくなってくる。いい現場だったなと思います。とっても、和気藹々として楽しかった。

第３部の115話のシリーズの中で、特に印象に残っている話はありましたか？

印象に残っているキャラクターは、ぬらりひょんと朱の盤(※３)ですかね。何度も出てきましたし、名前がインパクトあるじゃないですか。ストーリーは……。正直、コレというのが思い出せないんです。第３部のDVDは事務所のほうにもちろん頂いているんですが、全然見られないんですよ。ロングスパンのアニメ作品に参加することが多いので、なかなか覚えていられない。アンパンマンで19年ですしね(笑)。鬼太郎の場合は、確か「鬼太郎音頭」という挿入歌もあったと思うんですが、それも今となっては……(笑)。

野沢雅子さんのお話がありましたが、ベテランの俳優さんというのは、どういう点が違うと感じますか？

マコさんとは、自分が鬼太郎を演じる以前に『ふしぎなコアラ・ブリンキー』と『みつばちマーヤの冒険』の２本をご一緒させていただいていたと思います。一言でいうなら、もう「天才」ですね。私がそんなふうに口にするのも、おこがましい話なんですけど。
現場でのニュアンスなので、口頭で説明するのは難しいんですけど。感性というか、感覚というか……。天性なんですよね、演じることが。それはもちろん、ユーモアのセンスであったり、いろんなものを含めてですけれども。瞬時に頭が働くし、切り返していけるし、アドリブが効いてどんなことにも対応できる。言うまでもなくお芝居がお上手だし、すべて兼ね備えている。人としても、大変素晴らしい方なんです。こんな年下の私でも手を差し伸べてくださいますし。もう、すべて違いますね。
ですから、マコさんがやっていた鬼太郎をやらせてもらえる、というのは、むしろ“ありがたい気持ち”。ホントに光栄でしたね。

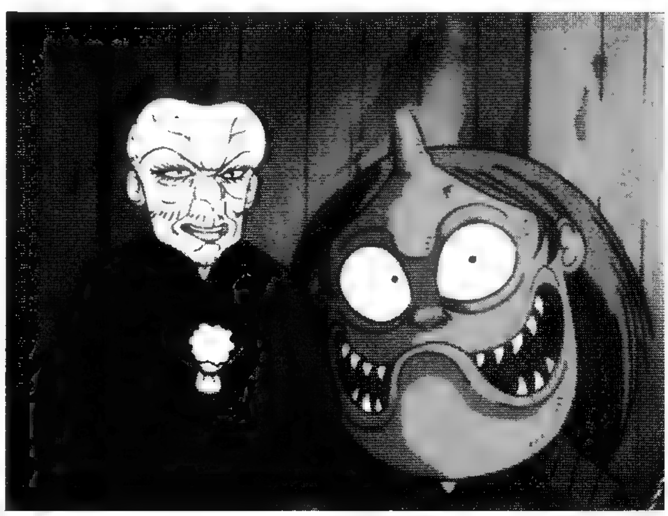
いつもちょこんと肩に乗っている スペシャルな存在

第３部はかなり高い視聴率で、２年半という長い間放映されましたが、戸田さんにとって鬼太郎の存在はどんなものですか？

そんなに長かったんですか？　あまり実感はないですね。視聴率が高いというのは、やっぱりマコさんが作り上げた世界観がすでに確立していた、というのがとても大きいと思うんです。初めに丁寧に作り上げた方々がいたから、期待するファンのみなさんに支えられて、高視聴率という結果が出たんだと思います。
私の中での鬼太郎は、自分の仕事の中でもちょっとした「スペシャル感」というか、普通の作品と違う感覚があるんですよ。
仕事柄いろいろな方と接する機会があるんですが、たくさんの人から「え！　鬼太郎をやっていたんですか！」って、いまだに言われるんですよね。私自身よりも、“ゲゲゲの鬼太郎”というキャラクターと作品がものすごく先に走っている。私がやっていたことを知らなくとも、みんなが名前を知っている特別な存在なんですよ。
例えて言うなら、鬼太郎の肩にのっている目玉おやじのように、いつも私の肩にちょこんと座っているような感じがあるんです。で、他の人と話をしているときに、ヒョコッと出てくる(笑)。どの世代でも知らない人はいないというスペシャルな存在というか、キラキラしたものが乗っている感じといえばいいのかな。
『ゲゲゲの鬼太郎』という作品に対して、私自身は特に何もしていないんですよ。あまりにも作品が大きくて「私がコレをした」「コレを残せた」というのがひとつもないのに、鬼太郎をやっていたということだけで、周りが反応してくれる。何かひとつ“お得感”みたいなものが、いつもついているんです。鬼太郎の話が出る度に、周囲の反応がものすごいので、ほかの仕事とは違うなと思いますね。

戸田さんが演じるほかのアニメのキャラクターも、国民的人気だと思うのですが、それでも鬼太郎は特別ですか？

鬼太郎って、ただの「良い子」じゃないですよね？　妖怪だし。登場した当初は、すごく斬新なものだったろうし。しかも斬新なものって飽きられやすいと思うんですが、その後もずっと愛されていますからね。もちろん『きかんしゃトーマス』や『アンパンマン』も、まったく異なるそれぞれの世界観がある作品なんですけど、妖怪ワールドというのはまた異質なものなので。確かにいくつか国民のヒーロー的な役をやら



※3

せていただいていますけれども、長く愛され続けている"ゲゲゲの鬼太郎"というキャラクターは、やっぱりすごいと思いますよ。
あと思い出すのは、鬼太郎を演じている当時はファンレターで「鬼太郎に惚れました！　好きになりました！」というものが、ものすごく多



かったですね。
鬼太郎はとにかく、女の子のファンが超熱狂的でした。もともと私のファンは女性の方が多いんですけれど、当時はもう"女の子"ばかり。「鬼太郎命！」とか、熱〜いファンレターをたくさん頂きました(笑)。女の私が演じる男の子に対して、これだけ惚れられる、憧れを感じてくれるというのは、なかなかないと思いますよ。さすがにあそこまでの熱狂ぶりは、私も初体験でした。
今のファンの方々でも、鬼太郎をきっかけに好きになりました、と言われることは多いですからね。やっぱり私にとって、大きくて特別な作品なんだと思います。

声優もドラマも舞台も すべて大事な好きな仕事

戸田さんは、ドラマ・舞台・声優と、オールラウンドに活躍されていますが、どの仕事が一番好きですか？

基本的にどの仕事も、同じだと考えています。どれが好きとか重要とか考えてないですね。全部が役者の仕事ですから。
例えばテレビドラマに出ている人でも、声優という役を演じなければいけない時があるわけですよね。今回のドラマでは声優の役、今回の舞台では映画俳優の役、今回のアニメでは舞台女優の役とか。全部が役者の仕事なんですよね。役者だったらどの仕事もできないといけないと思うんです。私にとっては、仕事として要求されるから、どんな役でもチャレンジさせていただいているということなんです。
たまたま私は運よく全部にかかわってくることができたので、いまだにすべてやらせていただいているということです。すべては同じ"役者"としての仕事。別々な仕事だと分けて考えていたら、きっと出来ないと思うんですよね。そんなふうに、ギアチェンジはできないだろうと思います。
全部、役者がやる仕事だと思っているので、やり続けられるのだと思うんです。この仕事が好きで、この仕事が嫌いというなら、とっくに嫌いなヤツは辞めていますよ、私(笑)。どれも好きな仕事なんですよね。全部、私に必要な仕事で、どれ一つ欠けてもいけないんじゃないかって思います。

では声優としての仕事で、これまでで特にやりがいを感じたものを教えてください。

アニメの『伊勢湾台風物語』という作品で少年の役をやったのが、印象に残っています。確かドキュメント物だったかな。すごくリアルな作品だったので、印象に残っていますね。
アニメの世界って、鬼太郎とかアンパンマンのような架空のキャラクターだと、デフォルメされているので私たち女性が男の子の役をやっても何とかなるんですよね。でも普通の少年という設定の役だと、本当の少年を起用するケースが多いんです。リアルな少年だとよりリアルさを要求されるということで。
ですから、こういう作品に自分が起用されると、とても嬉しくてやりがいを感じます。そういう意味でも印象に残っていますね。

もし、また鬼太郎を演じられるとしたらやりますか？

もちろん依頼があればやりますよ！　喜んで。みんなのヒーローですからね。こんな楽しい仕事はないです。でも私の理想としては、鬼太郎には野沢雅子さんありき、ですかね(笑)。



第3部｜ユメコ役

色川京子インタビュー

ねずみ男さんが好き♥

PROFILE
いろかわきょうこ　声優、タレント。1963年11月7日生まれ。代表作に『ストップ!!ひばりくん!（つばめ役）』、『シティーハンター（綾乃役）』ほか。現・東京アナウンス学院声優科講師

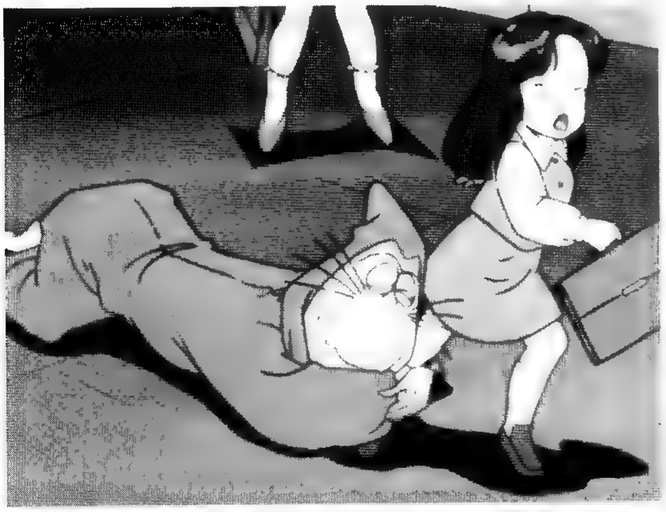


シリーズ初の"人間のヒロイン"という大役に抜擢された色川さん。なんと当時、彼女はまだ21歳の新人だった。鬼太郎を慕うユメコだが、実際の色川さんは……。忘れられないプレッシャーと、ベテラン声優陣との思い出を語ってくださった。

ベテラン声優陣の中で迷惑をかけないように必死でした

ユメコ役になるまでの声優としての活動と、ユメコ役になった経緯を教えてください。

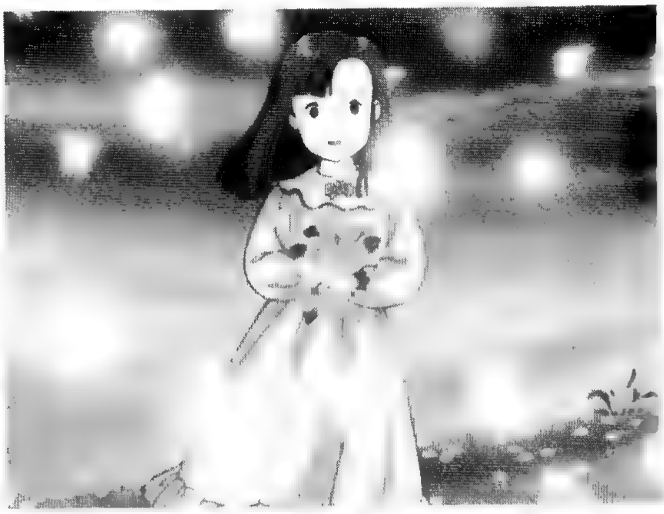
私の声優デビューは18歳の時で、『聖戦士ダンバイン』のリムルの役でした。洋画のアテレコもやっていたんですが、その頃は『ストップ!!ひばりくん!』などアニメーションの仕事が続いていたんです。
ユメコ役は、オーディションで決まりました。アニメーションでは、すべてと言っていいほどオーディションで役が決定していくので、当日は各事務所から大勢の声優さんがいらしてましたよ。
オーディションでは、全キャラクターの声優さんが対象だったので、当日はいろいろな役柄を試してみるんです。その時点では「ユメコ役」として受けていたわけではないので。当時は21歳でした。まだまだ新人だったので、本当にビックリしましたね。正直、私でいいのかなって思いました。



※1

第3部の重要なキャラクターに抜擢されて、ほかのベテラン声優の方とのお仕事はどんな気持ちでしたか。

ほかの出演者の方の顔ぶれは、事前にはわからないことが多いんです。初顔合わせがいきなり初回の収録なんですよ。当日に集まった全員の顔ぶれを見て、もうホントにビックリでした。
第3部のねずみ男役は亡くなられた富山敬さんで、私が声優になりたいと思っていたころから憧れていた方だったんです。いつか共演できたらいいなと思っていたので、もうドキドキでしたね。私は『宇宙戦艦ヤマト』が大好きで、当時はいろんなヒーローの声を富山さ



※2

んが演じられていましたから……。
ユメコはねずみ男につきまとわれる役（※1）だったので、「なんという光栄!」という感じでした（笑）。富山さんが、ねずみ男が言うように「ユメコちゃ～ん」という感じで、私のことを「京子ちゃ～ん」と呼んでくれたので、内心ウハウハ♥だったのですが、このことは未だに誰にも言っていない、ヒミツなんです。
現場はベテランの方々が多かったので、和気藹々（わきあいあい）としていましたね。私はフォローしていただきながら、仕事を教わっていた感じです。特に「マイクへの入り方」とか。気後れしてしまって先輩と同時に入り込めないこともあるんです。そんなときの「ここに、入りな」とかのフォローがうれしかったですよね。
新人ばかりの現場も多いなか、鬼太郎のスタジオはベテランの方が大勢いらしたので、雰囲気が全然違いました。

ユメコというヒロインになりきれるように戦った

ユメコは「人間でありながら妖怪と友達」という新しい立ち位置でしたが、キャラクター像の指示はありましたか。

水木先生から直接聞いたわけではないのですが、最初の打ち合わせの時に、そういう話はありましたね。人間だけど妖怪と仲がいいユ



「ねずみ男に付きまとわれて光栄でした」

メコは、新しいキャラクターということで愛情をもって考えてくださったようなので「大事に育ててくださいね」と言われました。
ですから、プレッシャーだらけでした。収録時間はベテランの方ばかりなのでわりと短くて、足を引っぱっていたのは私だけだと思います(笑)。しかも、ユメコってすごくかわいいキャラクター(※2)じゃないですか。このイメージを壊さないように演じたい、というプレッシャーはすごかったですね。どうやったらユメコになりきれるかなって、最初は"戦い"でしたよ。
それまで自分が演じていたアニメは、時間がなくてオンエアをあまり見ていなかったんです。でも、鬼太郎は見ていました。ダビングの現場も何度か見せてもらいに行きましたね。
昔は収録時には、フイルムを使っていたんです。フイルムは一定の区切りで回すので、収録で間違えても途中で止められないんですよ。だから、間違えると時間がかかる。間違えた部分だけもう一回、と言われると、全部私のセリフの部分だったりすることもありました。



※3

苦しいことも多かったですね。だから、番組に育てていただいたなと感謝しています。
じつは、砂かけ婆役の江森浩子さんも新人からの大抜擢で、お互いに仲良く励まし合いながら、仕事を進めていたという記憶がありますね。

仕事をしていて、ベテランの声優さんとはどういう点が違うな、と思われましたか?

私が緊張しているな、っていうのが、皆さんにはバレちゃうんですよね。そういう時に面白いことを言って和ませてくれたり。スタジオの中は笑いがいっぱいで、とても楽しい先輩方だったんです。子泣き爺役の永井一郎さんとか、すごく楽しかったですね。
それに皆さん頭の回転が速いので、凄いなって思いました。演じている役者さんの個性がキャラクターにも出るので、おもしろいですよね。青野武さん(ぬらりひょん役)も、とぼけた感じそのまんまですごく面白かった〜。
妖怪役の人たちは、どんどんアドリブが入りますから。全然台本にないところで「ボヨ〜ン」なんて八奈見さん(一反もめん役)が入れてたりして、すごいなって思いました。目玉おやじの田の中さんは、私が子供のころ見ていた目玉おやじさん、そのまままでなんだか感激しましたね〜。



それと、私のセリフの分まで、「ここは間が空くからね」とかアドバイスしてくださって。もう職人さんですよね。当時の私にはそんな余裕はなかったな〜。

ユメコの役作りで意識したことはありますか?

役作りというのは特にしていないです。絵を見て、絵と一緒になった時に出てくる声なんですよね。当時はイベントなどで「ユメコちゃんをやってください」とよく言われていましたが、絵のないところで声を出すのは結構難しいんですよ。絵を見て初めて出てくる声ですから。
例えば友人の結婚式で「ユメコちゃんの声をしている〜」と紹介されると、やっぱりやるじゃないですか。それで周りが喜んでくれていても、自分としては違うな、と思っていたんです。
ユメコちゃんの声に慣れてきたのは、1年以上経ってからですね。最初はすごく考えながらやっていて、苦しい部分があったんですけど、やっぱり1年以上やっていくなかで、違和感なくユメコちゃんの絵にイコールで、自分がそこにいるような錯覚になりました。少し時間はかかりましたが、自然と一体になれた気がします。ユメコちゃんの絵を見ると、自分の声が聞こえてくるような感じで。

洋画とアニメーションの声優とは、どんなところが違うのでしょうか?

基本的にアニメーションは、テンションを上げていかないと。向こうが絵なので、人間と絵の"間"ができてしまうと思うんです。洋画の場合は向こうも人間なので、同じ息で、同じ呼吸で芝居が違和感なくできる。でも絵に命を吹き込むという意味では、かなり自分がテンションを上げていかないとダメかなって私は思いました。そこが圧倒的に違うと。

「小学生なの　に色っぽい声になってしまって」

アニメーションの収録ばかりに慣れてしまうと、"耳を忘れる"ことがあるんです。洋画の場合は、原音(元のセリフの声)を片方の耳で聞きながら、日本語のセリフを入れていくんです。アニメでは、音がない状態でセリフを入れることになるので、感覚はだいぶ違いますね。当時の私は、洋画とバランスよくやらせていただいていたかな。

小学生なのに色っぽい?
視聴者には見抜かれていた

ユメコを演じた中で、一番印象に残っているシーンは何ですか?



第2話(初登場のシーン)ですね。鏡爺の鏡に閉じ込められて、叫ぶシーン(※3)から入ったんです。未熟だったので、ユメコは小学生なのに、叫ぶ声は大人になっちゃうんですよ。何回も録り直したのですが、叫ぼうと思うと、自分の年齢のままの大人の声になってしまうんですよね。

もう、最初から戦っていました。「ウワッ!　できない。こんなつもりじゃなかったのに」って。可愛くやりたいのに色っぽくなってしまう。叫んだり、捕らわれたり、いじめられたりするのが多い役なのに……と不安になりました。今見ても、あのシーンは恥ずかしいですね。

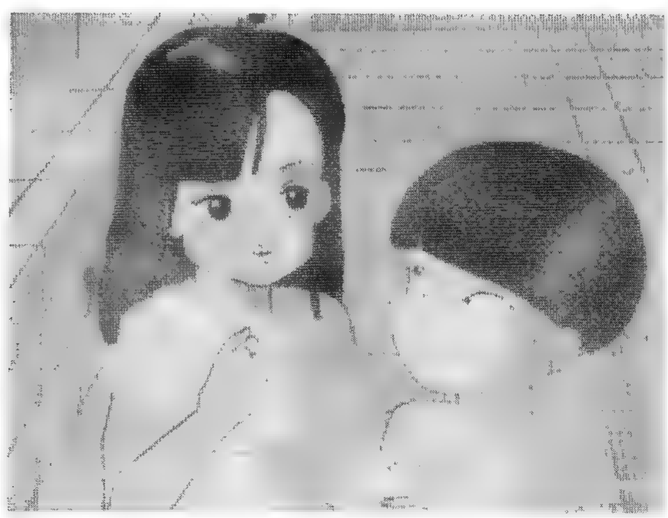
そのほかに思い出に残っているシーンはありますか?

絵をはっきりと覚えているのは、その最初の叫ぶシーンと、ラストの「鬼太郎に忘れられるのはいや!」と叫ぶシーン(※4)ですね。
これも何テイクも録りました。鬼太郎と別れると、人間の世界を忘れてしまう、という最後のシーンで、その悲しみを叫ぶのが難しかったんです。収録の時の雰囲気も、よく覚えていますね。富山さんや皆さんの「がんばれ」っていう雰囲気がとても伝わってきたんです。みなさんに支えられているんだな、と強く感じました。
あとは最後の生き返るシーン。あれは夢ではないんでしょうが、かといって現実かもわからない。どう演じていいのか、すごく悩んだのを覚えています

ユメコを演じていて、鬼太郎をどんなふうにとらえていましたか?


※4

鬼太郎さんは大好きでした。戸田(恵子)さんの鬼太郎は、ヒーローとしてかっこいいなって思っていました。それ以前のシリーズはオドロオドロしい感じがあったのですが、このシリーズではユメコちゃんが捕まると、鬼太郎がいつも優しく助けてくれる。
ただ、鬼太郎よりもねずみ男のほうが、ユメコちゃんへのアピールが強かったんですよね。それに、私も富山さんのねずみ男が好きだったんで……。ちょっとアニメの内容と、声優の現実は違うかもしれないですね(笑)。
ユメコちゃんは博愛ですよね。優しくて、思いやりがあって。できすぎなぐらいに素敵なキャラクターだと思っていました。


※5

ユメコのようになりたい、と思ったことはありましたか?

え～っ、無理ですよね!(笑)。叫びも含めてね。ある雑誌に「ユメコちゃんの声はじつは色っぽい」と書かれてしまって、視聴者は見抜いているな、と(笑)。怖かったですね。
でも実際、ユメコちゃん自身の色っぽいシーン(※5)もありましたよ



ね。それまでの鬼太郎にはそういうカラーがなかったので、入れたいというのもあったのかもしれない……かな(笑)。

好きな敵の妖怪は何でしたか?

断然、ぬらりひょん(※6)。印象に残っています。まず、おかしな名前だなと。ユメコちゃんとは絡まないですけどね。
ぬらりひょんのいかつい顔と、青野さんが演じられたとぼけた様子が面白い!! だって、みなさんおかしいんですもん。役者さん、声優さんたちのセンスがいいんです。

じつは声優の世界は“体育会系”なのです

声優陣とスタッフとのエピソードなどはありますか?

みなさんお忙しかったので、一緒にどこかに行くとかはなかったんですが「まぼろしの旅行」というのがありましたね。第3部のメンバーで2年ぐらい経過した時に、みんなで番組旅行に行こう、という話になったんです。それで、私たち若い2人(色川さんと砂かけ婆役の江森さん)が幹事をやります、ということになったんですけれど、結局みんなのスケジュールが合わないので、実現しませんでした。予定では、声優のレギュラーとスタッフ全員でした。箱根の高級な宿に予約まで入れたんですけど(笑)。
役者の世界って、上下関係が体育会系のノリで存在するんですよ。だから新米の私たちが、幹事をかって出たんだったかしら……。礼儀のない人はいなくなりますから、この業界は(笑)。

鬼太郎のメンバーで、歌(LP)を出されていますよね。

妖怪たちが歌を出すというので、「ゲゲゲの鬼太郎音頭」の裏に、「ユメコちゃんの歌」というのをプロデューサーさんが書いてくれました。歌の収録は、私にとって最初で最後でしたね。ユメコちゃんの声で歌ってくださいと言われたんですけれど、当時の私には難しいことでした。妖怪たちはアドリブばっちりで、すごい歌に仕上がっていましたよ(笑)。

もう一度、『ゲゲゲの鬼太郎』の声優になるとしたら、挑戦したい役はありますか?

もしもう一度やらせていただけるなら、戸田さんの鬼太郎さんと心を通わせるユメコちゃんをやりきりたいですね。
やっぱり私にできるのは、ユメコちゃんかなと思います。ユメコちゃんは第3部だけなので「鬼太郎」で声優をやっていたといっても知名度が今ひとつというところがあって、ちょっと寂しい思いもするのですが。
改めて映像を見ると、「こんなに一生懸命だったんだな、でもここまでしかできなかったんだな」というのを感じますね。それでも「意外にイケてるじゃん!」というシーンもありますけど。

ユメコをやって良かったなと思ったことはありますか?

今は、アニメからは少し離れていて、ナレーションの仕事が多いんです。舞台もしていましたけど。やっぱり一番思い入れもあるし、頑張れたなって思うのがユメコちゃんの役ですね。
2〜3年前ぐらいに、富士急ハイランドに、ゲゲゲの鬼太郎館とい


※6

うお化け屋敷があって、息子を連れて行ったんです。そのお化け屋敷を出ると、グッズ売り場があるんですけど、息子が「お母さんがやったユメコちゃんあるかな?」と探していたら、フィギュアに近いような置物があったんですね。それで「ユメコちゃんあったね」って話していたら、ちょうど隣にいたカップルが、「ユメコちゃんだ! オレ、ユメコちゃん好きだったんだよね」と彼女に話していたんです。
何十年経っても、こういうふうに、「好きだったんだよね」って思ってくれる人がいるというのが本当に嬉しいですね。こういう作品をやらせていただいたんだな、本当にありがたいなと思っています。
『ゲゲゲの鬼太郎』では、貴重な経験をいっぱいさせていただきました。憧れの方と一緒に3年。本当にありがたい経験でしたね。

96年1月7日〜98年3月29日放映

ゲゲゲの鬼太郎 第4部の世界

gegege no kitaro fourth season





第3シーズンまでのブレイクを受けて、放映終了後もテレビゲームやファンシーグッズなどの展開は続き、日本を代表するパーマネントキャラの地位を獲得した「鬼太郎」。じつは90年代に入ってすぐ、再度アニメ化の話が持ち上がっていた。水木しげる氏が新たな構想で描いたコミックボンボン連載『鬼太郎国盗り物語』のアニメ化である。TV誌などでも特集は組まれたが、残念ながら実現には至らなかった。ところが新たな原作もなく、96年新春より第4シリーズの「鬼太郎」がスタート。4度目の"鬼太郎祭り"に際し、原作者・水木しげるからの唯一の注文は「宮崎アニメのように見せてくれ」だったという。

怪談ブーム影響下に復活

原作に忠実な方向で再度リメイク

「鬼太郎」3度目の復活には、『学校の怪談』(95年)にはじまり『リング』(98年)から『着信アリFinal』(06年)に至るまで続く"和製ホラーブーム"が根底にあるように思われる。だからこそ大ヒットした前シーズンの方向を踏襲せず、妖怪のデザインは水木しげる原作への回帰を掲げている。特に序盤のタッチは幽玄とした原作の雰囲気を忠実に再現しているといえる。そしてヒーロー色の強かった第3シーズンの鬼太郎のイメージを捨て、比較的クールでドライ、ときに"やる気のなさ"を感じさせながら、人間味豊かな"大人な鬼太郎"が誕生した。ストーリーは第13話「妖怪屋敷へいらっしゃい」や第24話「怪談!妖怪陰摩羅鬼」などのほのぼの・感動系からミステリアスな作品、果てには後半のぬらりひょんとの対決に見られる、強さのインフレも激しい"少年ジャンプ"系の展開まで、よく言えばバラエティ豊か、うがった眼で見れば"迷走"とも思われるような展開を見せる。なお、後半はCGを利用した着色がなされ、前期とはイメージが異なることも特筆すべき点である。



第1話「妖怪!見上げ入道」など、敵妖怪の造形は水木しげる原作に近い形で再現されている。



第96〜99話の妖怪王・ぬらりひょんシリーズは、当時も根強い人気を誇っていた『ドラゴンボール』を思わせる。



鬼太郎役は、松岡洋子が担当。落ち着いたトーンと透明感ある声で、新たな鬼太郎像を作っていった。



第93話「月よりの使者・桂男」をはじめ、ロマンチックなストーリーも登場するなどバラエティ豊か。

〝陰〟を生かした不気味を加味

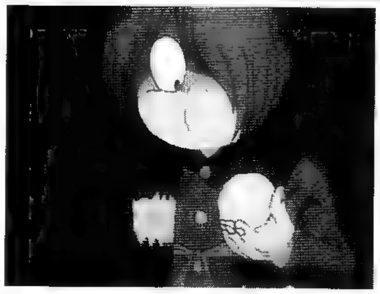
造形的なレトロ感とデジタル化による陰影効果

第4シーズンの「鬼太郎」が妖怪のデザインを考えるうえで目指した方向は、水木しげる原作への回帰である。特に序盤の小豆洗いや見上げ入道、魍魎など敵妖怪の造形は、ほぼ水木しげる原作、もしくは水木しげるの描く妖怪画のおどろおどろしい雰囲気をよく再現し、子供向けにデザインされた第3シーズンとは対極の方向に進んでいる。またデジタル化の時代の波を受けつつも、意識的に手描き風味を残したビジュアルを使用。第3話に登場した敵妖怪・夜叉をはじめとして、そこにデジタル作品ならではの陰影を生かして、敵妖怪や鬼太郎の表情でもおどろおどろしさを表現することに成功している。

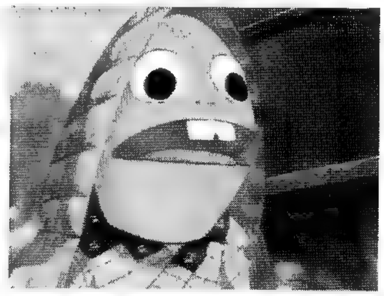
逆に鬼太郎ファミリーのデザインは洗練の一途をたどる。特に一反もめんに乗りながら髪をなびかせたり、“襟立て鬼太郎”になるなど、過去作にないスタイリッシュな鬼太郎の描写は、マニアックな女性ファンを魅了した。さらに可愛らしくモデルチェンジされたネコ娘は、時代を先取りしたかのようなメイド服のコスプレを披露。また美形の割合が増えてきたゲストの人間キャラも、作品をより現代的な雰囲気へと導いていく。特に俳優・佐野史郎が声優を務めたことで話題の第57話「吸血鬼エリート」は、第1シーズンのエリートに比べ、幻想的な雰囲気が大幅にアップ。90年代後半の新作アニメであることを実感させてくれた。



第3話「ギターの戦慄！夜叉」は、デジタルならではの動きと陰影に加え、夢に出そうなおどろおどろしさも復活した快作だ。



第35話「鬼太郎の地獄流し」より。穏やかな表情を怖く見せる、デジタル処理での陰影。

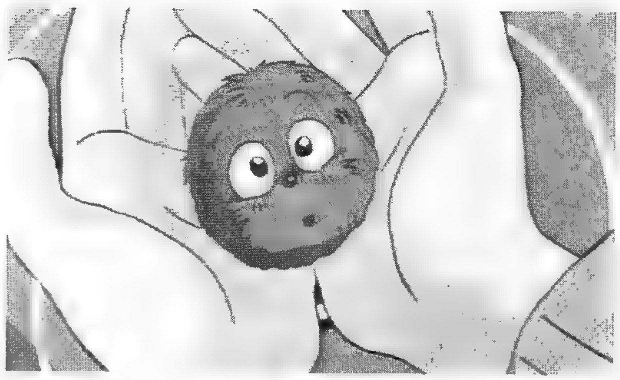


第92話「百目とぬらりひょん」ほかに登場した呼子。過去作に比べて水木原作に近いデザインだ。

原作を意識しつつも新たな展開が目を引く

類を見ない妖怪設定の自由度の高さ

妖怪キャラの設定に関しては、原作や実際の伝承を離れ、脚本家たちの独自解釈に委ねられている部分が大きい。例えば過去作では地底王国からの侵略者だった妖怪・のびあがりが、村人を雪崩から守るために働く、自己犠牲の精神あふれる妖怪に変わっている。また凶悪妖怪・火車や赤舌が、本シーズンではいい妖怪に変貌していることに驚きを覚えた、旧作からのファンも多いことと思われる。なお、その際にも妖怪の基本能力などの設定は生かされているところは、脚本家のハイレベルな力量を感じさせる。

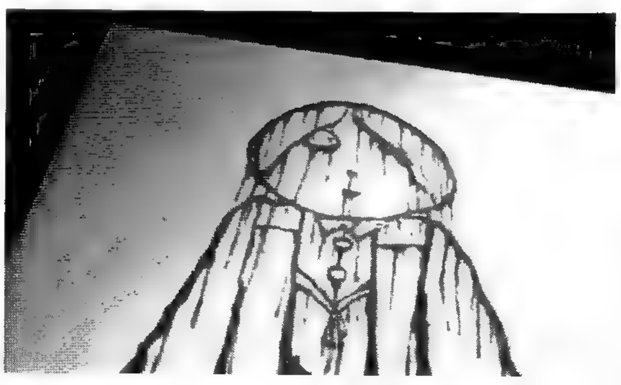


赤舌は過去作では「千年王国」を築こうという敵妖怪だったが、本シリーズでは水の精として女の子を救うために、巨大化して暴走する。第49話「水妖怪赤舌の疾走!」。

ドラマ性が高まったゲスト妖怪のストーリー

サイドストーリーを詳しく描き、共感を呼ぶ

これまでは“妖怪帝国をつくる”“日本を侵略する”などという端的な動機しか語られなかった敵妖怪のバックボーンやサイドストーリーが、本シーズンの中盤以降、その心情も含め詳細に語られるようになった。子供への愛情が裏返り、復讐するようになったコマ妖怪・あまめはぎなど、「なぜ妖怪が人間に祟るのか」という理由が客観的に洞察され、事件の背景が次第に深く表されるようになる。これは、テーマを人間と妖怪、自然との共存に落とし込む、第3シーズンを彷彿とさせる展開であるといえる。



第84話「怪奇!人食い肖像画」では、人の怨念が生み出す怪物を相手にする。その怪物が生まれるに至った過程や、生み出した人間の苦悩も詳細に描写している。

【第001話】

妖怪！見上げ入道

1996年1月7日放映

STORY

何でも吸い込む見上げ入道、怒る！

住みかである入道沼を工事で荒らされ、さらにほこらを足蹴にされたことで妖怪・見上げ入道の怒りが爆発。現場の作業員たちや、それを目撃した小学生・佑子らが見上げ入道に吸い込まれてしまう。現場で鬼太郎は見上げ入道と対決。しかしその巨体に攻撃の効果もなく、あえなく吸い込まれてしまった。さらに見上げ入道は、力ずくで押さえに来たぬりかべを吹き飛ばそうとする。ところが息を吹いた瞬間に、腹の中から鬼太郎が復活。鬼太郎はちゃんちゃんこで見上げ入道の喉をふさぐと、自分の息で膨れ上がった見上げ入道を毛針で攻撃。破裂させて退治し、人々を救った。



原作

「見上げ入道」では、見上げ入道がイタズラな子を集めて妖怪学校を開き、妖怪として生きる方法を教育し、激しい訓練をしていた。

演出●西尾大介　**脚本**●武上純希　**作画監督**●飯島弘也

【第002話】

妖怪目目連の涙！

1996年1月14日放映

STORY

住みかを奪われ報復する目目連！

幼い姉弟のもとに「目」の大群の妖怪・目目連が現れる。鬼太郎が家に駆けつけると、目目連は天井一面に張り付いて、家を壊し始めた。鬼太郎は姉弟たちと協力し目潰しを敢行。目目連は涙を流して一旦退却した。翌日姉弟の父親に話を聞くと、新しく建てた別荘が、目目連の住みか・木蓮の里を潰してつくられていたことが発覚。彼らはその復讐に現れたのだった。街に出た目目連は、トラックにとり憑き暴走するなど大暴れ。鬼太郎は撮影対象を封じ込める妖具・妖怪カメラで目目連を封じた。その街の惨状を見て反省した父親は木蓮の里を元に戻すことを決め、目目連は喜んで帰って行った。



原作

「目目連」から目目連の能力（無生物にとり憑き、操る）を生かしてリメイク。性格や行動は、原作では第2、3シーズンと同じく凶悪な妖怪。

演出●明比正行　**脚本**●橋本裕志　**作画監督**●遠藤明夫

【第003話】

ギターの旋律！夜叉

1996年1月21日放映

STORY

魂を食らう妖怪・夜叉を退治せよ

ギターの旋律で人を操り、魂を抜いて食べる妖怪・夜叉は、ねずみ男の魂を食べたことで腹を壊してしまう。そして「どんな痛みも忘れるほどうまい」とされる子どもの魂を狙い始めた。子どもたちが消えた公園に向かった鬼太郎は、そのまま夜叉の妖気を追って地下鉄へと入っていく。そして夜叉に遭遇するが、鬼太郎もギターの演奏で気を失い、死霊の待つ穴に落ちてしまう大ピンチに。そこを追いかけてきたネコ娘に助けられた鬼太郎は、魂を茹でるために用意してあったお湯を夜叉にぶちまけた。そして怯んだ隙に夜叉を死霊の待つ穴に落とし、子どもたちの魂を無事、取り返すことに成功した。



原作

「夜叉」でも子どもを襲い魂を取るが、それにより鬼太郎をおびき出すことが夜叉の目的。鬼太郎は魂を取られ、目玉おやじが救助に奮闘。

演出●貝澤幸男　**脚本**●雪室俊一　**作画監督**●木下和栄

【第004話】

恐怖！鏡の国の鏡爺

1996年1月28日放映

STORY

鏡の中に閉じ込められた子どもたちを救え

子どもたちの行方不明が相次ぎ、佑子の友人の翔太も行方不明に。目玉おやじは鏡に住む妖怪・鏡爺が怪しいとにらんでいだ。現場に急行した鬼太郎は鏡爺と対決するが、力ずくで鏡の中に引きずり込まれてしまう。鏡の中で、分身した無敵の鏡爺に苦戦する鬼太郎。しかも鏡は清掃業者のトラックに持っていかれ、道中で外に飛び出して割れてしまう。外界への通路が閉ざされてしまったのである。砂かけ婆は鏡の破片を集めて妖術で復活させ、外の世界への通路を作る。鬼太郎はそこを通って外に逃れ、鏡爺も釣られて外へ。鏡の外では妖力がない鏡爺は痛い目に遭って説得され、子どもたちを解放するのだった。



原作

「鏡爺」では、鏡爺は山奥の小屋の鏡の中に女の子を捕らえていた。捕らえられた人は鏡に閉じ込められるのではなく“姿”を奪われる。

演出●川田武範　**脚本**●武上純希　**作画監督**●海老沢幸男

【第005話】

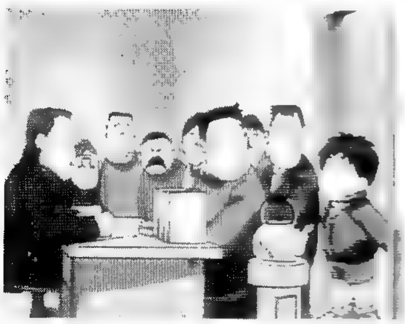
ダイヤ妖怪・輪入道

1996年2月4日放映

STORY

欲深い魂はダイヤになり、クズになる!?

多発している行方不明事件を調べていた鬼太郎は、ねずみ男が絡んでいる宝石店の大繁盛を見て、怪しいとにらんで追いかける。そしてねずみ男が最近頻繁に出入りしている廃墟にたどり着いた。そこは、人間の欲が集まる場所に現れ、光線を浴びせて魂を食うことで相手をダイヤモンドに変える妖怪・輪入道の住みかだった。目玉おやじによると輪入道を倒すには、鏡で自身の光線を反射させるしかないという。輪入道も自分の弱点は百も承知で、廃墟にある鏡という鏡を壊して鬼太郎を追い詰めていく。窮地にたった鬼太郎を救ったのは、巨大な鏡を抱えて突如現れた頼れる仲間、ぬりかべだった。



原作

「ダイヤモンド妖怪」では、輪入道は人をダイヤに変えて食べる欲深い妖怪として描かれ、ダイヤに群がる人間の欲深さは強調されない。

演出●吉沢孝男　**脚本**●橋本裕志　**作画監督**●八島善孝

【第006話】

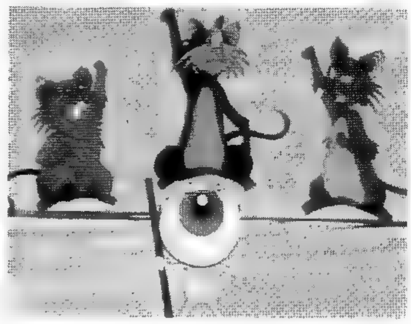
暴走！鬼太郎牛鬼

1996年2月11日放映

STORY

鬼太郎、牛鬼となり大暴れ!?

封印を解かれ、巨大な妖怪・牛鬼が復活。駆けつけた鬼太郎が退治したかに見えたが、今度は鬼太郎が牛鬼に乗り移られ、仲間たちも鬼太郎牛鬼に飲み込まれてしまう。牛鬼とは退治した者に乗り移り、その者が新たな牛鬼となってしまうという厄介な妖怪なのだ。目玉おやじが前に立ちふさがるが、一瞬ためらうのみで止まれない鬼太郎牛鬼は、牛鬼を封じるべく出現した迦楼羅により、海に沈められ封印された。目玉おやじの涙に免じて、迦楼羅は鬼太郎や鬼太郎牛鬼に食われた者たちを復活させる。鬼太郎はみずからの未熟さを大いに反省し、さらに親子の愛情を再確認するのだった。



原作

「牛鬼」と基本的なストーリーは同じ。迦楼羅に助けられた鬼太郎は、牛鬼の退治方法を迦楼羅に聞いてその恐ろしさを実感した。

演出●明比正行　**脚本**●武上純希　**作画監督**●出口としお

【第007話】

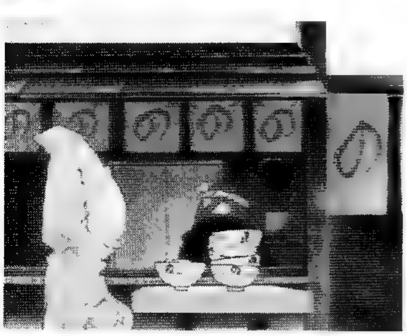
妖怪 のっぺらぼう！

1996年2月18日放映

STORY

ねずみ男のふりをする落書き顔ののっぺらぼう！

帽子にマスクをして、顔を隠す人が町に増えていた。人気の蕎麦屋を装ったのっぺらぼうが、客の顔を盗んでいたのだ。ねずみ男もその店で蕎麦をご馳走され、顔を盗まれる。店に行った鬼太郎は、自分の顔にねずみ男の顔を描いたのっぺらぼうを見て、ねずみ男本人と勘違いする。しかし本物のねずみ男に会って誤解に気がつき、奪われた顔を取り戻そうとのっぺらぼうに挑むが、素早い動きでネコ娘、一反もめんも顔を奪われてしまう。鬼太郎ものっぺらぼうが作ったもちに体を包まれるが、ちゃんちゃんこを食わせて体内で膨らませ、腹を破裂させて退治。奪われていた顔は戻っていった。



原作

「のっぺらぼう」におけるのっぺらぼうは、人魂入り料理を人に食べさせることで、人の顔を奪う。ねずみ男がその料理を食べさせられた。

演出●宇田鋼之介　**脚本**●橋本裕志　**作画監督**●直井正博

【第008話】

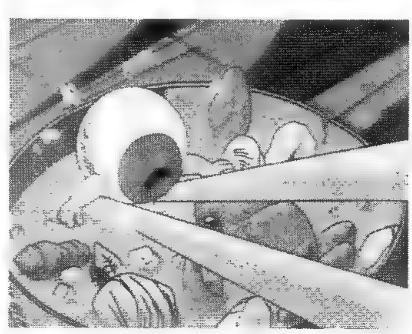
妖怪かに坊主と河童

1996年2月25日放映

STORY

2000年生きたカニに操られる河童たち！

河童淵で人間とうまく付き合ってきた河童たちが、突然人を襲い始めた。白い泡を浴びた河童は目が赤くなり、凶暴になったと聞いた鬼太郎は、子河童たちに頼まれ救いに行く。ところが鬼太郎が河童淵に行くと、凶暴になった河童に取り囲まれ、海底へ連れ去られてしまう。海底には白い泡を吐き、河童を操っていた妖怪・かに坊主がいた。沼を人間に埋められて恨み、河童を使い人間に仕返ししたのだという。その強大なパワーをいなされ、髪の毛綱で締められたかに坊主は、妖力を吐き出し小さな上海ガニの姿になった。凶暴になっていた河童も元に戻り、河童淵に普通の暮らしが戻るのだった。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。

演出●川田武範　**脚本**●武上純希　**作画監督**●木下和栄

【第009話】

爆走！鬼太郎機関車

1996年3月3日放映

STORY

血が欲しいと叫ぶ吸血鬼＝鬼太郎!?

日本征服を企む吸血鬼ピーは小さな村・行き止まり村に侵入。居合わせたねずみ男を含め、村人たちを瞬く間に吸血鬼にしてしまう。駆けつけた鬼太郎たちは、ねずみ男に襲われて、それを撃退する過程で、吸血鬼の毒素は土に埋めれば抜けることを知る。ところが鬼太郎自身がピーにだまされ、吸血鬼にされてしまった。鬼太郎たちを乗せた列車は次の町へと暴走。鬼太郎を助けるべく子泣き爺がピーを襲うと、怒ったピーは列車の先頭を切り離し、山に激突させた。しかしそれにより列車が土に埋もれて鬼太郎から吸血鬼の毒素が抜ける。鬼太郎は正気に戻り、ピーを退治することができた。



原作

「まぼろしの汽車」では、吸血鬼と化した鬼太郎を元に戻すため、目玉おやじが過去に戻れる「まぼろしの汽車」念力でを呼び出した。

演出●吉沢孝男　脚本●雪室俊一　作画監督●飯島弘也

【第010話】

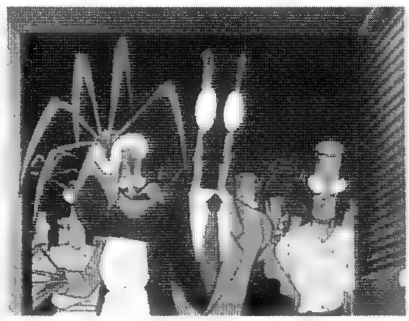
怪奇！妖怪万年竹

1996年3月10日放映

STORY

竹と通じ合った少女の物語

ねずみ男が不動産屋として扱っている家は、竹人間が現れると評判の怪奇屋敷だった。万が一のために鬼太郎を連れ、ねずみ男は客と現地に視察に向かう。そしてその夜、案の定現地で竹の姿をした“竹人間”に襲われて、ねずみ男たちも竹人間にされてしまった。妖怪・万年竹の仕業と見た鬼太郎たちは、地下の奥にそびえる万年竹の元へと向かう。万年竹に話を聞くと、万年竹は仲良しの少女・エリの病死で世を拗ね、人間を襲っていたのだという。目玉おやじはエリの魂はすぐそばにいて、100年後に竹として甦ると万年竹に伝えてあげた。すると万年竹は泣いて喜び、人々を解放した。



原作

「妖怪万年竹」では竹の精が万年竹を操っている。原作では鬼太郎も竹にされてしまうが、竹の精が改心することにより元の姿に戻る。

演出●西尾大介　脚本●島田満　作画監督●遠藤明夫

【第011話】

毛羽毛現とがしゃどくろ

1996年3月17日放映

STORY

森の死を食い止めるため立ち上がった妖怪たち

自然の宝庫だった霊山に、私腹を肥やす大臣と社長の悪企みで高速道路が作られ、自然が破壊されていた。妖怪・毛羽毛現は、怒った森の動物たちを束ねて人間を懲らしめようと、巨大な骸骨・がしゃどくろを使い霊山ハイウェイの車を襲う。事件を解決すべく鬼太郎は霊山へ入るがすぐに捕まり、毛羽毛現の話を聞かされた。そして毛羽毛現の意見に同調し、無差別に人間を襲うことを止めさせるかわりに、大臣たちを懲らしめるために協力する。「怪奇温泉ツアー」に大臣と社長の２人をだまして招待し、恐怖体験を味わわせた鬼太郎たち。２人は、二度と自然を破壊しないと土下座して誓うのだった。



原作

「毛羽毛現」では、文明嫌いな毛羽毛現は、人間の横暴を阻止しようと、恐竜の化石に子どもの魂を入れて復活させ、町への進撃を企てた。

演出●宇田鋼之介　脚本●武上純希　作画監督●海老沢幸男

【第012話】

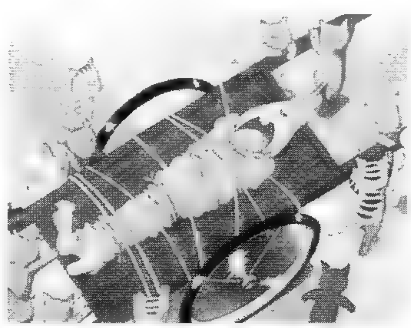
陰謀！猫仙人の猫王国

1996年3月24日放映

STORY

ネコと人間の立場が入れ替わる!?

鬼太郎たちが捨てネコが住み着いているという町に行くと、そこではペットショップで「人間」が売られていた。人間とネコの立場が入れ替わっていたのだ。そして、そのペットショップの主・大黒ネコの正体は、ネコを操る猫仙人だった。その日にネコばかりの会場で裁判が行われ、ネコを捨てた人間に死刑がくだる。鬼太郎たちが助けに入ると猫仙人は正体を表し、伸縮自在の手で鬼太郎を襲ってきた。しかし鬼太郎の策略で、長く伸びた手同士が絡まってしまい、猫仙人は降参する。そしてネコを捨てた人間も反省したことを知り、猫仙人は引き取り手のないネコたちを連れて、山奥へと去っていった。



原作

「猫仙人」をモチーフに、捨てられたネコたちの悲しみを前面に押し出す形にリメイクしている。猫仙人の倒し方などは、ほとんど同じ。

演出●明比正行　脚本●橋本裕志　作画監督●八島善孝

【第013話】

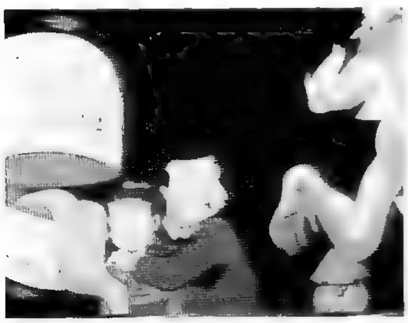
妖怪屋敷へいらっしゃい

1996年3月31日放映

STORY

感情をなくした子供を笑わせられるのか!?

ねずみ男は鬼太郎たちを巻き込んで、本物の妖怪を使った見せ物小屋を開いていた。ところが屋敷の中では妖怪を信じない大人たちが暴れていたため、鬼太郎たちは彼らを脅かし懲らしめていた。そんななか、無表情に屋敷の中を巡っている太郎という少年がいた。鬼太郎は太郎の父から、母親が死んで以来表情がなくなってしまった太郎に、感情を呼び起こしてほしいと頼まれる。そこで、怖がらない太郎を今度は笑わせようとあの手この手を繰り返す。しかしうまくいかず、父親は諦めて太郎を連れ帰ろうとした。その時鬼太郎は、一つの火の玉が、ずっと太郎に寄り添っていることに気が付く。



原作

TVアニメオリジナルストーリーだが、やや「幽霊電車」のテイストが入っている。

演出●川田武範　**脚本**●島田満　**作画監督**●出口としお

【第014話】

蜃気楼海竜・みずち

1996年4月7日放映

STORY

極楽世界・蓬莱島からの脱出

残業続きで疲れ果てた父親の前にある老人が現れ、「蓬莱島」という夢の島に行くよう勧められる。そのまま帰らない父を心配した息子・健吾とともに、鬼太郎は蓬莱島へ。健吾は父と再会するが、父は蓬莱島に来る以前の記憶をなくしていた。鬼太郎は島の主である仙人・徐福に相談するが、本人の意識次第だという。そんなときねずみ男が海竜・蛟の封印を解いてしまい、島は突然波に呑まれてしまう。蓬莱島は、蛟の吐き出す息が作る蜃気楼だったのだ。なんとか鬼太郎が蛟を封じると、島は元に戻る。そして父の幸せを願った健吾は、父を蓬莱島に残したまま、家に帰ると決意するが……。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。

演出●青沢孝男　**脚本**●武上純希　**作画監督**●直井正博

【第015話】

悪夢！妖怪まくら返し

1996年4月14日放映

STORY

夢の世界に染まった少年

妖怪・まくら返しに誘われ夢の世界に入り込んでしまった少年・祥一を救うため、鬼太郎は夢の世界へ。そこで祥一を見つけた鬼太郎は、連れて帰ろうとするが、まくら返しに眠らされて殺されかけてしまう。そこで目玉おやじはねずみ男に指示を出し、岩塩でまくら返しの腕を溶かして追い返した。そして無事に夢の世界から逃げ出した鬼太郎たちは、今度こそまくら返しを退治すべく、溶けた腕を使っておびき出す。鬼太郎や砂かけ婆たちが待ち構えるお堂に誘い出されたまくら返し。しかしやはり砂かけ婆たちは眠らされ、まくら返しは祥一をさらって再び夢の世界に帰ろうとする。



原作

「まくら返し」がベース。行方不明の息子が夢の世界へ連れさられたと考えた両親が、鬼太郎に救出を頼む。成功すると神様として敬った。

演出●明比正行　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●木下和栄

【第016話】

あかなめと白うねり

1996年4月21日放映

STORY

ねずみ男と２匹の妖怪の心の交流

自分の家に住みついた妖怪・白溶裔とあかなめの２人とインチキの清掃業者を始め、いつしか仲良くなっていたねずみ男。しかし妖怪を使っての金もうけを鬼太郎に止められ、ねずみ男はやむなく白溶裔を川に放す。すると白溶裔は川の汚れを含んで巨大化し、暴れ始めて街をカビだらけにしてしまう。さらにそのカビをなめすぎてあかなめも巨大化し、白溶裔をなめて止めようとするが、抵抗にあって倒れてしまった。砂かけ婆は風神と雷神を呼び出し、“汚れ”でできた白溶裔を洗い流して止めようとする。そのとき、苦しむ白溶裔を見たねずみ男は、白溶裔を助けてやってほしいと懇願する。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。

演出●宇田鋼之介　**脚本**●武上純希　**作画監督**●飯島弘也

【第017話】

海奇！妖怪さざえ鬼

1996年4月28日放映

STORY

鬼太郎のにせ者が現れた!?

ある港町で鬼太郎のにせ者が現れたという話を聞き、鬼太郎は現地へと向かう。するとそこにいた人魚の子に、妖怪・さざえ鬼に捕まった仲間を助けてほしいと相談された。鬼太郎はさざえ鬼の住みかに向かうが、海中で激流に呑まれて気絶してしまう。気が付くと目の前に、鬼太郎の姿をしたさざえ鬼がいた。彼は妖力の強い鬼太郎を食べて寿命を延ばすため、鬼太郎に変身して鬼太郎をおびき出したのだ。しびれ薬で動けない鬼太郎は、大岩でプレスされて食べられてしまうが、その直後にさざえ鬼の毛穴から気体となって復活。そして激闘の末、さざえ鬼の本体を見つけて攻撃する。



原作

「さざえ鬼」とほぼ同様。さざえ鬼のせいで海の中が騒がしくなったと知った鬼太郎がさざえ鬼を退治すると、今までの平和な海に戻った。

演出●西尾大介　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●海老沢幸男

【第018話】

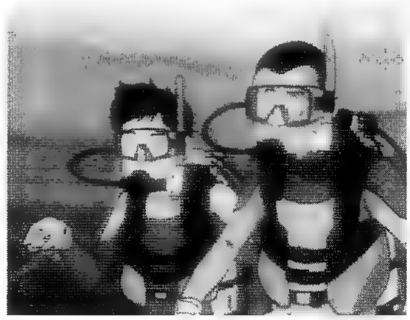
深海の奇跡！化け鯨

1996年5月5日放映

STORY

南国宝探しツアーの落とし穴

南国の海でツアーに参加していた静子は、化け鯨の研究をしていた父をその海域で亡くしていた。その父に結婚の報告をするためにツアーに参加していたのだ。一方、ねずみ男も宝探しのため、一反もめんに乗って同じ場所に向かう。そして鬼太郎たちは、化け鯨が出るその海域は危険だと伝えるため、ねずみ男たちを追いかけていた。するとやはり「鯨の墓場」を荒らされ怒っている化け鯨が現れ、ねずみ男と静子は呑み込まれてしまう。２人を救出するために化け鯨の中に入った鬼太郎。ところが静子は「誰かが呼んでいる」と言って奥へ進んでいく。そしてそこから、静子の父の魂が現れた。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。

演出●川田武範　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●遠藤明夫

【第019話】

恐怖！妖怪くびれ鬼

1996年5月12日放映

STORY

“理想の世界”を作り出す黄泉の住人

父が急激にやつれていくのを心配した少女・晴美は、鬼太郎に相談する。話を聞いた砂かけ婆は、その男は「黄泉の世界」に行っているのではないかと言う。黄泉の世界ではその世界の物を口にするたびに魂が削られ、最後は死んでしまうのだ。鬼太郎たちが晴美の父の後を追うと、案の上黄泉の世界にたどり着く。黄泉の世界は晴美の父の理想の世界である、子供時代を再現していた。その世界で晴美の父を見つけた鬼太郎は、元の世界に連れ戻そうとする。そこに、人々を黄泉の世界に誘い込む妖怪・くびれ鬼が出現。戦おうにも黄泉の世界では力が発揮できない鬼太郎は、外の世界への脱出を試みた。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。

演出●吉沢孝男　**脚本**●武上純希　**作画監督**●八島善孝

【第020話】

冒険！絶海の人食い島

1996年5月19日放映

STORY

1000年の時を超えて約束は守られる

遭難したダイバーを捜してある島に向かった鬼太郎たちは、その島にある洞窟の奥に入り込む。そこで行方不明のダイバーを見つけるが、洞窟の中に溢れている人間を溶かす液体に阻まれて脱出できなかった。鬼太郎は、その島が妖怪・人食い島だと気が付く。人食い島は1000年前の生け贄の娘との約束で人を食うことをやめていたが、遭難したダイバーら人間たちが、娘の形見の首飾りを盗みにくることに怒って、再び襲っているという。そんなとき、実際に首飾りを盗んでいたねずみ男が、はずみで海中に首飾りを落としてしまう。怒った人食い島は洞窟の中の人間を溶かそうと暴れだした。



原作

「人食い島」では、人食い島は生け贄を求める“海神様”という設定。生け贄にされたくない村人が鬼太郎に助けを求めて手紙を出す。

演出●明比正行　**脚本**●橋本裕志　**作画監督**●山口としお

【第021話】

白粉婆とのっぺらぼう

1996年5月26日放映

STORY

のっぺらぼうが疑いをはらすため奮闘

“若返る”という謳(うた)い文句の白粉を使った人間が、顔を奪われる事件が続発。鬼太郎はのっぺらぼうを疑うが、どうやら犯人ではないらしい。しかも甘い言葉にだまされて砂かけ婆やネコ娘まで、顔を盗られてしまった。ねずみ男が事件に絡んでいると知った鬼太郎は、ねずみ男を問い詰める。そこで犯人が白粉婆であることを突き止めた鬼太郎は、故意に白粉婆に顔を盗ませ、その居場所を突きとめた。白粉婆は人間たちの顔を使い、若返りの薬を作ろうとしていたのだ。鬼太郎は顔を返すように迫るが、白粉婆は応じようとしない。そこで同行していたのっぺらぼうが白粉婆に立ち向かう。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。

演出●宇田鋼之介　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●直井正博

【第022話】

蜂起！妖怪泥田坊

1996年6月2日放映

STORY

村を救った田んぼを慈しむ少年

都市化が進む村で、田を守る妖怪・泥田坊が暴れだした。人間たちは泥田坊を退治するため消防車で放水する。しかし水を得て、泥田坊はさらに巨大化してしまう。田んぼが好きな少年・直也と、その子と仲良くなったベビー泥田坊が泥田坊を説得しようとするが、泥田坊は怒りで我を忘れていたため、耳を借そうとしない。そこで鬼太郎は泥田坊を攻撃するが、反撃され泥に埋まってしまう。その間に人間たちは泥田坊を倒そうと、巨大な火をおこし泥田坊を乾かしていた。直也たちに救出された鬼太郎は、倒れる寸前の泥田坊に攻撃しようとするが、直也とベビー泥田坊がそれを止めた。



原作

「泥田坊」が原作。“田を返せ”というセリフは原作そのままだが、航空基地で暴れるシーンなどはなく、内容は大きく変更されている。

演出●川田武範　**脚本**●武上純希　**作画監督**●木下和栄

【第023話】

風魔！妖怪雨ふり天狗

1996年6月9日放映

STORY

目玉おやじが鬼太郎から離れ大活躍

風吹峠でドライバーが車に乗ったまま行方不明になる事件が頻発しており、父が行方不明になった少年・晴夫が鬼太郎に相談する。鬼太郎が調査をしていると雨降り天狗が現れ、鬼太郎を攻撃してきた。戦いの末、鬼太郎の下駄で目を負傷した天狗はいったん退却していく。そして病院でもある晴夫の家に戻った鬼太郎たちだが、そこへ天狗が目の治療にやってきた。晴夫の祖父が診察している隙を見て、目玉おやじは天狗の頭巾(ときん)に潜み、事情を聞きだした。天狗は峠に車が増えて食料である霞草(かすみそう)が枯れてしまい、腹を立てて車を襲っていたという。事情を知った晴夫の祖父は、霞草の栽培を約束する。



原作

「雨ふり天狗」では、天狗は「かすみ」が排気ガスで汚れたことを怒っていた。鬼太郎が天狗を空気のきれいな“妖怪保護区”に移動させた。

演出●吉沢孝明　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●飯島弘也

【第024話】

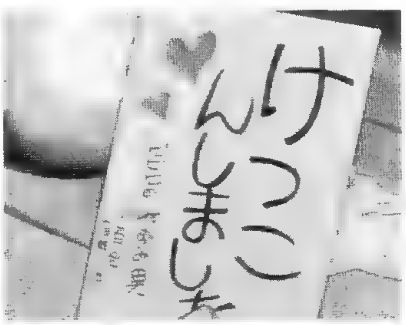
怪談！妖怪陰摩羅鬼

1996年6月16日放映

STORY

恋に生きる“純情”ねずみ男は必見！

行き倒れていたねずみ男を助けた寺の亡き住職の娘・小百合は、「寺を一緒にもり立ててほしい」とねずみ男にプロポーズする。報告を受けた鬼太郎が、ねずみ男のお祝いに向かったところ、ねずみ男は村人から、小百合は随分前に死んでいると聞かされていた。小百合は死体に取り付き人の精気を吸う妖怪・陰摩羅鬼に取り付かれて、荒れ寺を放置している人間たちへの復讐に、やむなく手を貸していたのだ。鬼太郎は画家のふりをして小百合に近づき、「正体暴きの秘術」で、陰摩羅鬼を小百合から追い出すことに成功。しかし、それはねずみ男と小百合の永遠の別れも意味していた……。



原作

「陰魔羅鬼」では鬼太郎は金持ちの少年の依頼を受け、その子の彼女に憑いた陰魔羅鬼を退治している。退治する方法は原作に忠実。

演出●佐藤順一　**脚本**●武上純希　**作画監督**●海老沢幸男

【第025話】

古都の妖怪・おぼろ車

1996年6月23日放映

STORY

そこはかつて、主と過ごした土地だった

妖怪・朧車が公道に現れ、自動車事故が多発していた。朧車とは般若のような顔が、牛車の前面に張り付いた妖怪である。そんなときねずみ男が朧車に襲われ、鬼太郎は後を追う。朧車が逃げ込んだ先には、民族博物館が寂しく佇んでいた。解体予定のその博物館には、牛車が残るのみ。これが朧車の正体だった。博物館はかつて牛車だった朧車と、その主人が過ごした思い出の土地に立っていたのだ。朧車は工事車両を襲うことで、博物館の解体を止めたかったのである。そこにねずみ男が戻ってきて、自分を襲った朧車を燃やそうとする。朧車は激怒して暴走し、工事車両の列に突進してしまった。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。「怪気象」に登場する朧車は、第1部のアニメと同じく妖気定着装置の役割を果たしている。

演出●宇田鋼之介　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●八島善孝

【第026話】

復活！妖怪天邪鬼

1996年6月30日放映

STORY

千人力の天邪鬼と必死の対決

ねずみ男は鬼太郎たちを、珍しく立派な別荘に招待した。目玉おやじとネコ娘がいぶかしがっていると、突然警察が到着。別荘の娘を誘拐したとして、取り調べを受ける羽目になってしまう。そこへ千人力の妖怪・天邪鬼が現れ、鬼太郎たちを力ずくで警察から連れ出した。そして洞窟で待っていたのはねずみ男と、天邪鬼に誘拐されたその娘だった。500年の封印を解かれたばかりで空腹だった天邪鬼は、全員を燻製にして食べようと洞窟に閉じ込める。煙が立ちこめる中、懸命に出口を掘る一行。一方外では、天邪鬼が警察を蹂躙。なんとか脱出した鬼太郎たちは、豪力・天邪鬼との戦いに挑む。



原作

「天邪鬼」では、天邪鬼の封印を解くのは意地悪な爺さんで、最後は恨みが晴れて善良な人に戻る。アニメではねずみ男が封印を解いていた。

演出●西尾大介　**脚本**●雪室俊一　**作画監督**●稲葉仁

【第027話】

吸魔！妖怪野づち

1996年7月7日放映

STORY

砂かけ婆の若かりし日の姿は必見！

淳とねずみ男が見つけた不思議な穴は、底なしで何でも吸い込む「野づち塚」だった。ねずみ男はこの穴を利用してゴミ処理の商売を始め、どんどんゴミを捨てていく。するとある日、野づち塚から妖怪・野づちが復活。辺りかまわず物を吸い込み始め、街はパニックに陥る。ねずみ男も吸い込まれる直前に、鬼太郎を乗せた一反もめんに救われる。だが、野づちを止めようとした鬼太郎は自分が吸い込まれてしまう。野づちを止めるには、大食いの原因となっている四次元化した腸のねじれを正すしかないとわかり、砂かけ婆は志願して野づちの体内へ。じつは砂かけ婆には、鬼太郎救出のほかにも目的があったのだ。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。

演出●明比正行　**脚本**●武上純希　**作画監督**●直井正博

【第028話】

幻想譚・猫町切符

1996年7月21日放映

STORY

鬼太郎とねずみ男にネコミミが生えた!?

行方不明になったサラリーマンを捜す鬼太郎とねずみ男。最後の足跡が残る公園に行くと、不思議な野良ネコに誘われて「猫町」行きの切符を手にする。地下鉄を乗り継ぎ、猫町線に乗り込んだ2人。終点に近づくと、2人はネコに変身してしまう。そこは猫又が仕切り、誰もがネコになって生活する猫町だった。そのサラリーマンも猫町で見つかるが、人間には戻りたくないという。ひと悶着あるうちに、ねずみ男のもと“ネズミ”という正体がばれてしまい、猫又に襲われる2人。鬼太郎の毛針は猫又に効かず、捕われてしまう。一方、鬼太郎が猫町に行ったという情報を得たネコ娘は、目玉おやじとともに猫町へと急ぐ。



原作

「猫町切符」では、ある科学者の助手になった鬼太郎が猫町へ。猫又は登場せず、切符を手配するデブ猫が猫町の親分となっている。

演出●吉沢孝男　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●出口としお

【第029話】

巨人伝説ダイダラボッチ

1996年7月28日放映

STORY

巨人の登場に海水浴場大パニック！

夏の海水浴場の空に、巨大な目玉が出現。各地でも巨大な鼻や口が出現し、やがて集まって巨人の体が完成していく。それは争いごとを食べて治める伝説の巨人・ダイダラボッチだった。鬼太郎たちは海水浴場に向かい、封印を解いた本人であるねずみ男を尻目に、巨人の完成を防ぐべく奔走する。その間にダイダラボッチは体を手に入れ、争う人々を襲い出した。鬼太郎たちは、最後に残った巨人の脳みそに杭を打とうとするが、その脳みそを求めてきたダイダラボッチに見つかってしまう。その瞬間、鬼太郎は自分だけ一反もめんに乗って、仲間を裏切り逃げようとする。それは、鬼太郎の策略だった。



原作

「ダイダラボッチ」では、ダイダラボッチの急所が脳みそと知った鬼太郎は、脳みそが祀られている洞窟に忍び込み、リモコン手で脳を破壊。

演出●川田武範　脚本●橋本裕志　作画監督●木下和栄

【第030話】

妖花！夏の日の記憶

1996年8月4日放映

STORY

南の島に咲く妖花の真相

古本屋で見かけた娘・花子に付いている不思議な花の妖気が気になる鬼太郎は、娘の後をつけていく。娘は3年前の夏に祖母が行方不明になって以来、アパートにひとり暮らし。祖母が消えた後には不思議な花だけが残っており、以来夏になると、部屋中にその花が咲き乱れるという。鬼太郎は情報を集め、ある古美術商で祖母の手がかりを発見した。その店で祖母は、夫が戦死した場所である南の島の絵を見つめていたという。花子と鬼太郎たちはその島へ向かう。そして、かの不思議な花と同じ花粉に導かれ、大きな木のもとにたどり着く。鬼太郎と花子が根本を掘り起こすと、そこには2体の遺体が埋まっていた。



原作

「妖花」が原作。南方の島に花子とともに貝の船で向かうところや、妖花の木の下に遺体が埋まっている部分は、原作が生かされている。

演出●明比正行　脚本●島田満　作画監督●海老沢幸男

【第031話】

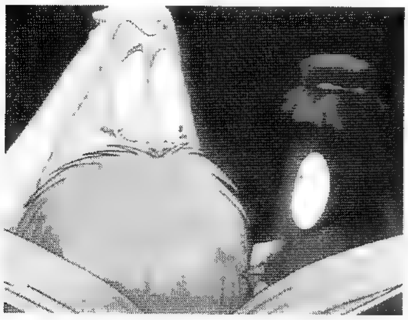
妖怪変化！傘化け

1996年8月11日放映

STORY

楽して幸せに……なれるのか？

ある寂れた廃村の倉庫で、傘化けはのんびりと暮らしていた。そこにねずみ男が現れ、鬼太郎のちゃんちゃんこがあればすぐに人間の金持ちに化けられ、幸せになれるとそそのかす。純朴な性格の傘化けは、言われるがままに鬼太郎を急襲。催眠術やビームなどで鬼太郎をひるませ、陰からのねずみ男の不意打ちで、鬼太郎を気絶させることに成功する。ちゃんちゃんこを奪った傘化けは、ねずみ男の入れ知恵で、つい先日亡くなった大金持ちに化ける。だが、社長の妻は急に戻ってきた夫を自然に迎え入れていた。そしてその老婆とすごすうちに、傘化けの「幸せ」に対する考えは変わってくる。



原作

「傘ばけ」では、不幸な自分に納得のいかない傘ばけがねずみ男に利用される。鬼太郎のちゃんちゃんこを奪ったため、最後は燃やされた。

演出●宇田鋼之介　脚本●武上純希　作画監督●八島善孝

【第032話】

電気妖怪カミナリ！

1996年8月18日放映

STORY

電気妖怪が高飛車な人間に報復する！

各地で落雷による事故が多発していた。しかも落雷に巻き込まれた人間が消えているという。調査を開始した鬼太郎は、積乱雲が関係していることから、電気妖怪かみなりの仕業だと目星をつける。鬼太郎たちが雲の中に向かうと、そこには引力のある大きな岩が浮いていて、行方不明になった人間たちがいた。鬼太郎が彼らを脱出させようとすると、そこにかみなりが現れる。人工降雨の実験を繰り返す人間たちの思い上がりが気に入らないかみなりは、鬼太郎たちと対立。戦いが始まった。鬼太郎らはかみなりの電気が切れた瞬間を狙うが、かみなりは太鼓に貯めていた電気で反撃に出た。



原作

「電気妖怪」では、鬼太郎と将棋対戦中だった子なき爺がかみなり退治に参加。鬼太郎とかみなりの格闘は一晩続き、かみなりが焼死した。

演出●吉沢孝男　脚本●大橋志吉　作画監督●直井正博

【第033話】

逆襲！妖怪さら小僧

1996年8月25日放映

STORY

この世の終わりを引き起こす!?　禁断の４番

売れないバンド・憂歌団が、妖怪・さら小僧の歌「ぺったらぺたらこ」を盗み聞きする。感動していると、「４番だけは歌うな」と念を押されたうえで「お前らの歌にしろ」と、この歌で大儲けを企むねずみ男に譜面を渡された。その歌は４番を歌うと、この世の終わりを呼び起こすという噂なのだ。そして憂歌団はこの曲で大スターに。ところが、自分の歌を他人に歌われるのが大嫌いなさら小僧は、憂歌団を誘拐してしまう。鬼太郎とねずみ男は助けに向かい、ねずみ男は鬼太郎が戦っている隙に憂歌団を助け出す。さらに怒ったさら小僧はその妖力を使い、禁断の４番を憂歌団に歌わせる！



原作

「さら小僧」も、さら小僧の歌で一躍スターになった歌手をさらってしまう話。ただし「禁断の４番」という設定はアニメオリジナル。

演出●佐藤順一　脚本●武上純希　作画監督●飯島弘也

【第034話】

流浪！妖怪あずきとぎ

1996年9月1日放映

STORY

「人恋しい」気持ちは妖怪も同じです

「自分が住んでいる田舎から人が減って、寂しい」と気のいい妖怪「小豆とぎ」から妖怪ポストに手紙が届く。それならば、とねずみ男は小豆とぎの居場所を探し、小豆とぎは和菓子店で職人として活躍の場を得る。そこへ同じく人恋しくなった小豆はかりが訪ねてくる。２人は小豆妖怪コンビとして人気になり、店には連日長蛇の列が。しかし多忙になったことと、話題になりすぎで自分たちが見せ物と化してきたことに憤りを感じ、２人は店の人間たちと仲違いし、彼らをさらってしまう。それは、２人が見せ物にされたと嘆く小豆婆の入れ知恵だった。助けに行った鬼太郎も、また捕らわれの身になってしまう。



原作

「小豆連合軍」の人間のせいで住みかがなくなってしまった小豆洗い、小豆はかり、小豆婆が、３人組で現れるところのみ生かされている。

演出●明比正行　脚本●大橋志吉　作画監督●稲葉仁

【第035話】

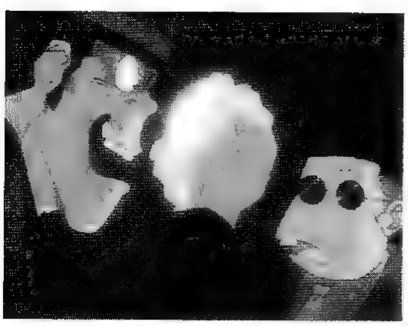
鬼太郎の地獄流し

1996年9月8日放映

STORY

鬼太郎が“地獄”を味わわせる！

土地転がしなどで指名手配中の犯人・大黒とその手下。２人は逃走中に、ラーメン店で鬼太郎たちに遭遇する。ピストルで脅しても動じない鬼太郎に対し、大黒はついに発砲。その後逃げた２人は、転がってきた巨大なダイヤに吸い込まれてしまう。そこは鬼太郎が２人のために用意した“地獄”だった。誰ひとりいないダイヤの中で土地転がしを始め、巨万の富を得る２人。鬼太郎は懲りない２人に、そこが地獄であると告げる。そこではお金には何の価値もない。いつのまにか周囲は砂漠となり、水を得るためには笑顔を失い、ラーメンと引き換えに若さを代償にしなければならないのだ……。



原作

「地獄流し」をモチーフに“悪人２人組が鬼太郎の地獄流しにあう”という本質部分は変わらず、あとはオリジナルストーリーとなっている。

演出●宇田鋼之介　脚本●島田満　作画監督●山口としお

【第036話】

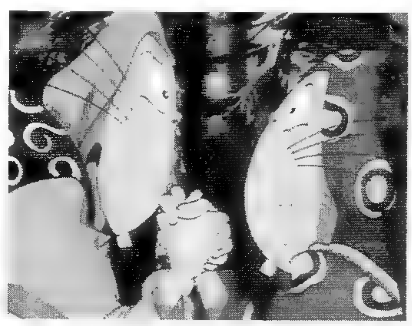
仰天！おりたたみ入道

1996年9月15日放映

STORY

“天涯孤独”のねずみ男、号泣す！

ねずみのような風貌の男が悪事を働いているという手紙を受け取った鬼太郎。その犯人は、ねずみ男本人すらその存在を知らなかった、ねずみ男の弟だった。礼儀正しい弟は仲間にも受け入れられ、砂かけ婆のアパートに住むことに。だが、そのアパートに住む妖怪が次々と消えてしまう。彼らはじつは、ねずみ男の弟が持っているつづらにいる妖怪・折りたたみ入道に食われてしまっていた。鬼太郎は弟を追いかけて折りたたみ入道と対決し、苦戦の末、勝利する。弟を許してやってくれとかばうねずみ男だったが、居直る弟の尻にはしっぽが生えていた……。その正体は、むじなだったのだ。



原作

「おりたたみ入道」では、折りたたみ入道は鬼太郎しか呑み込まないが、アニメでは油すまし、呼子の２人が呑み込まれている。

演出●川田武範　脚本●大橋志吉　作画監督●木下和栄

【第037話】

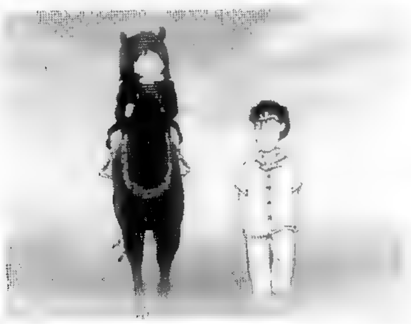
大追跡！妖怪自動車

1996年9月22日放映

STORY

夜行さんの大発明、妖怪自動車が登場！

突然死した丸田は、妖怪界の発明王・夜行さんに遭遇。果たせなかった息子との「夜明けの海を見せる」という約束を果たすため、夜行さんに現世と来世を行き来できる妖怪自動車を借りる。約束はキーを絶対抜かないことと、夜が明け切る前に返すこと。ところが丸田は息子と海に向かう途中で、ねずみ男に車を盗まれてしまう。しかもねずみ男がキーを抜いたため、妖怪自動車が暴走を開始。鬼太郎は後を追い止めようとするが、苦戦する。そこに夜行さんがスペアキーを持って現れ、鬼太郎はそれをさすことに成功。妖怪自動車は暴走をやめ、そのまま丸田は夜行さんの計らいで、息子との約束を果たせたのだった。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。

演出●吉沢孝男　脚本●武上純希　作画監督●海老沢幸男

【第038話】

血闘！おどろおどろ

1996年9月29日放映

STORY

恐怖の毛はえ薬が子供の血を求める！

模型飛行機を贈られ、それに乗り込んだ子どもが帰ってこない事件が続発。砂かけ婆たちも飛行機に乗り込むと、薬を開発する研究所へたどり着く。そこには髪の先から血を吸う妖怪おどろおどろがいて、ねずみ男が血を吸われてしまう。駆けつけた鬼太郎も血を吸われるが、逆に自分も吸い返し、おどろおどろを倒す。おどろおどろは、薬を開発する化学者が変化した姿だった。毛はえ薬を開発し自分の頭で実験した結果、薬の効果は絶大なものの、月の光で毛が異常に伸びて妖怪に変質してしまう。人間に戻るには子どもの清らかな血が必要なために誘拐していたのだ。鬼太郎は全妖力で、薬を清めた血に変えようと試みる。



原作

「おどろおどろ」では、おどろおどろは鬼太郎に退治され、元には戻らない。アニメでは鬼太郎の妖力によって、人間に戻ることができる。

演出●明比正行　脚本●橋本裕志　作画監督●八島善孝

【第039話】

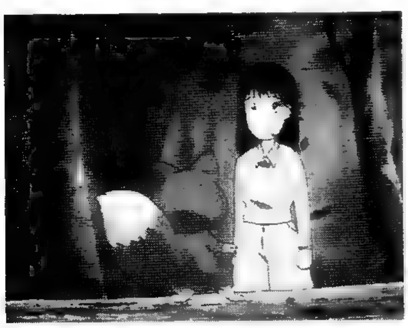
妖狐・白山坊の花嫁

1996年10月6日放映

STORY

弱みに付け込む悪狐を鬼太郎が懲らしめる！

16年前、妻を亡くし仕事にも失敗した橋本は、娘の茜と心中しようとしていた。そのとき古狐の妖怪・白山坊が現れ、ツキを授けるから娘が16歳になったら嫁によこせという。やむなく受け入れた橋本だが、以後は茜とともに幸せに暮らしていた。そして茜は16歳になり、狐が行列をなして迎えにきてしまう。茜は覚悟を決め、白山坊のもとへ行くことを決意。しかし白山坊の目的は、茜を食べることだった。駆けつけた鬼太郎は、白山坊と対決。激闘の末、「狐封じの壷」に白山坊を吸い込み、退治した。自分の力で出直したいと考えた橋本は、茜とともに再出発することを誓うのだった。



原作

「白山坊」が原作。ただし原作では白山坊は壷に封じられるのではなく、蜂の毒と蛾の卵を産み付けられ、蛾に内臓を食われて死んでしまう。

演出●佐藤順一　脚本●島田満　作画監督●直井正博

【第040話】

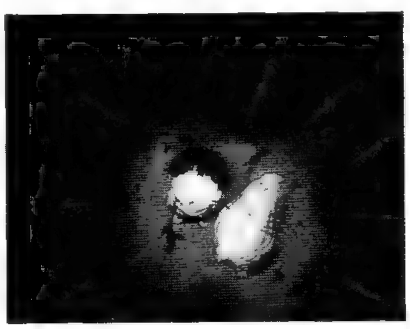
夜の墓場は運動会！

1996年10月13日放映

STORY

妖怪たちの運動会は笑いがいっぱい

運動音痴の少年・正光は、雨降り小僧に会い、運動会の日に雨を降らせてほしいと頼んでいた。その運動会の前日の夜、正光はお化けが出るとウワサの墓場に、友人たちとその正体をこっそり確認に出かける。なんと墓場では、妖怪たちによる運動会が開催されていた。その非常に楽しげな様子に彼らは、運動会は競うことより楽しむことが重要だと感じていた。そんなとき、正光の依頼どおり雨降り小僧が雨を降らせ始める。妖怪たちの残念そうな様子に、責任を感じて物陰から出てきてしまう正光。そしてそこで初めて、雨降り小僧が雨の代償に、人間の魂を抜くことを知って、恐れおののいて逃げ出したが……。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。

演出●宇田鋼之介　脚本●大橋志吉　作画監督●飯島弘也

【第041話】

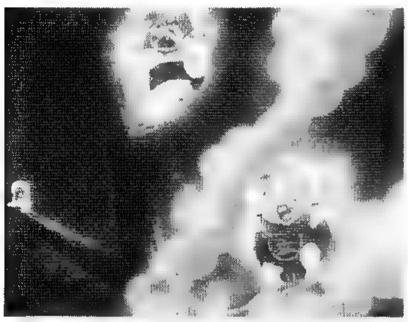
つけもの妖怪　ほうこう

1996年10月20日放映

STORY

鬼太郎が灰の中から復活する！

ねずみ男はおいしい漬物を作る妖怪・ほうこうに、漬物作りの商売を誘われる。そして、鬼太郎の妖怪エキスを入れれば一層おいしくなると言われ、ねずみ男は鬼太郎を誘い出した。鬼太郎は強烈な妖力を持つほうこうに攻撃され、漬物にされてしまう。砂かけ婆たちはほうこうをつぼに封じ込め、さらにねずみ男が家に火をつけたため、漬物樽の中の鬼太郎も灰になってしまう。ところがほうこうはつぼを割って復活し、火・地・水・風の4体に分裂した。逃げ場を失った砂かけ婆と子泣き爺は、鬼太郎を復活させるべく命をかけて妖力を送る。それにより鬼太郎は復活し、ほうこうを退治した。



原作

「ほうこう」では、漬物にされたものの目玉おやじの毒消しで復活した鬼太郎が、地面の穴に潜り、ほうこうを狙い撃ちして反撃した。

演出●吉沢孝男　**脚本**●武上純希　**作画監督**●出口としお

【第042話】

がんぎ小僧とねずみ男！

1996年10月27日放映

STORY

一宿一飯の恩義、ねずみ男の友情物語

旅先で妖怪の声が入った「妖怪テープ」を売っていたねずみ男は、弟分のがんぎ小僧と再会する。そこから行動を共にし、がんぎ小僧ゆかりの地であるカッパ村へ。そのころカッパ村では、乱暴な一目入道一族が暴れまわっていた。義理堅いがんぎ小僧は、カッパ村側の助っ人として参戦。集団攻撃に遭い、連れ去られてしまう。ねずみ男は敵の本拠地へ殴り込み、ねずみ男からの手紙で駆けつけた鬼太郎とともに一目入道を撃退。しかし時すでに遅くがんぎ小僧は命を落とす。ねずみ男は号泣するが、さら小僧が歌う「ぺったらぺたらこの歌」のテープで時間を戻して、運命を変えることを思いつく。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。

演出●明比正行　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●稲葉仁

【第043話】

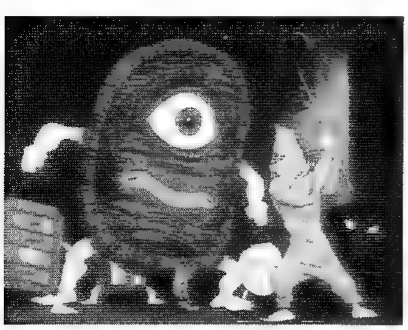
反乱！妖怪化けぞうり

1996年11月3日放映

STORY

捨てられた物たちの復讐が始まる！

少年シンヤの夢枕に、先日亡くなった祖父が立った。天国へ行くために、ご先祖様が編んだ草履を墓に供えてほしいという。草履があるという蔵に行くと、廃品回収に来たねずみ男がほかの骨董品とともに草履を持ち出していた。それを骨董屋に売るねずみ男だが、ほとんど売れずに捨ててしまう。すると捨てられた草履は巨大な妖怪・化けぞうりとなり、ほかの古道具たちも妖怪に変身してしまった。「自分を捨てた人間たちに復讐したい」と暴れ始める古道具たち。妖気を感じて現れた鬼太郎は、化けぞうりを攻撃。敗れて小さくなった化けぞうりをシンヤがかばい、祖父のもとへと送るのだった。



原作

「化けぞうり」では化けぞうりが履きもの界の霊の整理が追いつかず、粗末にする人間を懲らしめようと100足の靴を引き連れ、暴れまわる。

演出●川田武範　**脚本**●武上純希　**作画監督**●海老沢幸男

【第044話】

西洋悪魔・ベリアル！

1996年11月10日放映

STORY

黒船とともに悪魔も上陸していた

140年前、鎖国をしていた日本にやって来た西洋悪魔・ベリアルは、その力を見せ付け妖怪の王になろうとしていた。しかしカラス天狗により魔力を封じられ、人間にされていた。そしてベリアルは人間のまま封印された自分のパワーを探していたが、そんなときたまたまねずみ男が封印を解いてしまう。再び妖怪王を目指して妖怪アパートにいる日本妖怪を襲いに来たベリアルは、雷を使って妖怪アパートを傾ける。さらに「百倍黒魔術」を使い、目や口など自分の体の各部を100倍集めた球体になって襲ってくるが、ひとつだけある本物を見分けた鬼太郎により、ちゃんちゃんこに包まれ消滅した。



原作

「悪魔ベリアル」では、ベリアルの足止めのため、子泣き爺が"相手にシャックリを出させる"レアな技「ヒックシャックの術」を使う。

演出●宇田鋼之介　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●木下和栄

【第045話】

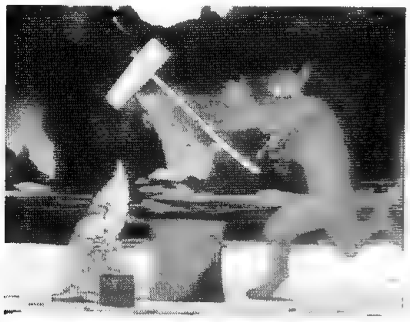
もち殺し！妖怪火車

1996年11月17日放映

STORY

“お餅の魂がらめ”の味は格別です!?

忙しくて母親の通夜に行けないという、親不孝な３人の兄妹を妖怪・火車が連れ去った。火車は本来、死んだ人間の魂をもちと一緒に食べる妖怪だが、３人に怒り「母親の魂と一緒に食ってやる。寂しく死んだ母の恨みをオレの腹の中で聞き続けろ」という。そこに鬼太郎が現れ、火車と対決。火車は敗れる寸前に鬼太郎に乗り移る。しかし倒れた鬼太郎は、自分の魂をその母親の魂が入ったもちに入れ、もちを操り火車の体を包み込む。そして鬼太郎に導かれた母の魂が、子どもたちを誇りに思っているから許してほしい、と火車に語り始めた。火車は自分の母親を思い出し、号泣しつつ３人を許すのだった。



原作

「逆モチ殺し」では、鬼太郎の身を案じた目玉おやじが、火車の何でももちにして食べる「もち殺し攻撃」を逆手にとり、先制してやっつけた。

演出●佐藤順一　脚本●矢島大輔　作画監督●八島善孝

【第046話】

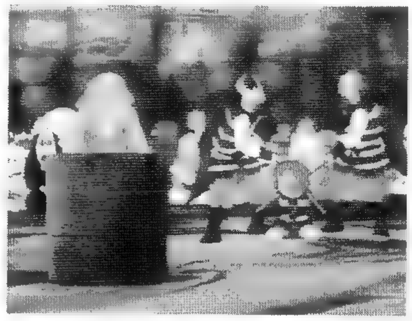
妖怪大裁判（前編）

1996年11月24日放映

STORY

鬼太郎・濡れ衣で妖怪裁判へ出頭！

閻魔大王庁から門外不出の「地獄絵図」が盗まれ、人間に公開された。容疑者となった鬼太郎は、天狗ポリスに包囲され法廷へ出る。そしてなぜか鬼太郎の弁護人２人が姿を現さないまま、裁判が始まってしまった。証言する妖怪たちは、声をそろえて鬼太郎は人間の味方で、妖怪の恥さらしと言い放つ。そして最後に証言した親友・ねずみ男のウソ告発が決め手になり、有罪が確定してしまう。ところが鬼太郎は目玉おやじから逃げろと言われ、みずからの手で真実を暴くべく逃走。砂かけ婆の妖怪アパートに逃げ込んで、鬼太郎側の証人・子泣き爺、一反もめんが、出廷を妨害されたことを知る。



原作

「妖怪大裁判」では、鬼太郎の濡れ衣の内容は「“妖怪パーティー”を人間に公開したこと」であり、地獄絵図を盗んで公開したことではない。

演出●明比正行　脚本●武上純希　作画監督●直井正博

【第047話】

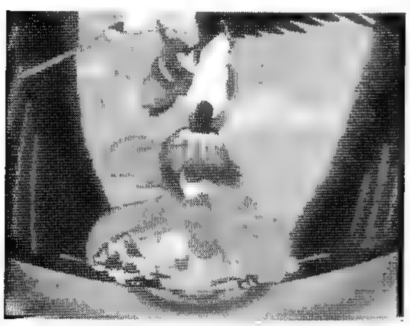
妖怪大裁判（後編）

1996年12月1日放映

STORY

すべてはぬらりひょんの罠だった！

妖怪アパートは天狗ポリスに取り囲まれた。仲間たちは協力して鬼太郎を逃がすが、自分たちは囚われの身となってしまう。本物の地獄絵図のありかを探す鬼太郎は、絵が発する妖気を追って百々爺の家へたどり着く。そこで百々爺とねずみ男の悪だくみを聞き、百々爺と決闘。化けガラスに助けられ百々爺を退治し、犯人を聞き出した。身代わりの目玉おやじが処刑される直前に駆けつけた鬼太郎は、地獄絵図を持ち帰り、百々爺に犯行を証言させる。すべては鬼太郎側の弁護士であるはずのぬらりひょんが、妖怪の王となるため仕組んだ計画だった。ぬらりひょんは二度と戻れぬ時代流しの刑に処された。



原作

「妖怪大裁判」では、事件の黒幕は百々爺のみで、ぬらりひょんの出番はない。共犯のねずみ男は百々爺より罪は軽く、３年入牢となる。

演出●吉沢孝男　脚本●武上純希　作画監督●木下和栄

【第048話】

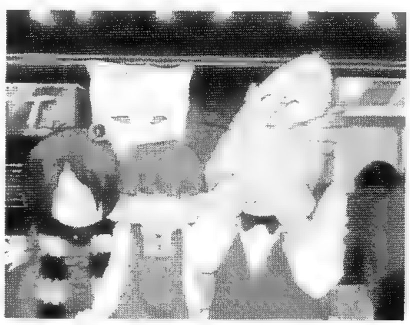
えんま大王とねこ娘

1996年12月8日放映

STORY

母を思う娘の気持ちが奇跡を起こす

ネコ娘をかばって自動車事故に遭った里子は、病室に見舞いに来たネコ娘を優しく許す。ネコ娘も彼女をママと呼び、慕うようになった。そしてネコ娘は、里子に音信不通の娘がいること、里子が心臓の病気で長くないことを知ってしまう。娘のマリを捜し出し、何とかお見舞いに来させようとするネコ娘。病院に向かったマリだったが、素直になれず再びケンカをしてしまう。２人の和解を願うネコ娘は、里子の寿命を延ばしてもらうよう、閻魔大王にお願いに行く。閻魔大王は、本人が一番会いたいと思う人が願えば、その願いは叶うという。ネコ娘はマリに「母親が生きるよう、強く祈って」と伝える。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。

演出●宇田鋼之介　脚本●小林千賀子　作画監督●出口としお

【第049話】

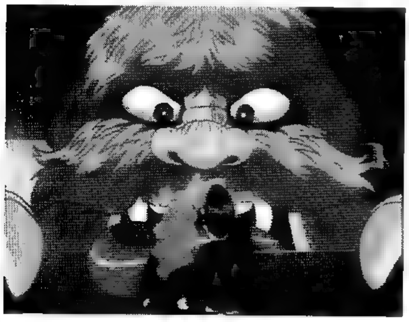
水妖怪赤舌の疾走！

1996年12月15日放映

STORY

友達のピンチに駆けつけた水の妖精！

東京の佑子たちのクラスに転入してきた少女・静子が、下校中に銀行強盗の人質になってしまう。すぐに鬼太郎に助けを求める佑子。ところが鬼太郎が向かう前に、赤い巨大な妖怪が、北国から現場に向かって直進してきていた。それは静子が北国にいたころに友達だった水の精・赤舌の巨大化した姿だった。別れのときの「困ったときは助けてね」という約束を守るため、赤舌は静子が人質になっているビルに突進。犯人を吹き飛ばして、静子を守ることに成功する。しかし巨大化して自分では暴走を止められない赤舌は、鬼太郎の制止も聞かず、海に向かって自滅するため突進していく……。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。赤舌の“水を自在に操る能力”という妖怪能力の設定のみが生かされている。

演出●川田武範　**脚本**●矢島大輔　**作画監督**●海老沢幸男

【第050話】

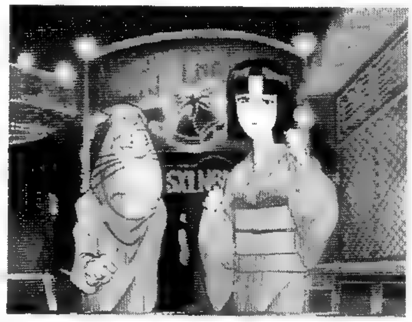
遊園地の吹き消し婆！

1996年12月22日放映

STORY

吹消婆VS. 姥が火が遊園地で対決！

クリスマス当日。若い女性に化けた妖怪・吹消婆が街に現れる。本来は蝋燭(ろうそく)の灯りを吹き消して、人を困らせて喜ぶ妖怪だ。しかし最近は街に蝋燭がなく、欲求不満だったらしい。灯りを吹き消したい吹消婆は、たくさんの灯りがきらめく遊園地に向かうが、電気なので吹き消せるはずがない。逆上した吹消婆は正体を現し、手当たり次第に突風のような息を吹き混乱を起こす。そのとき同じ遊園地に、男に捨てられた女の情念が化けた妖怪・姥が火が姿を現した。カップルだらけのクリスマスは、姥が火にとって憎しみの対象なのだ。そして吹消婆VS. 姥火、宿敵の対決が始まった。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。

演出●吉沢孝男　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●稲葉仁

【第051話】

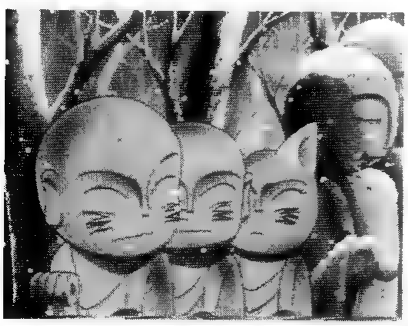
雪コンコン！ 笠地蔵

1996年12月29日放映

STORY

ゲゲゲの鬼太郎流・笠地蔵の解釈は？

キツネの幻燈会に招待されて、鬼太郎たちは雪国へやってきた。ところが、子ギツネが３匹帰ってこないという。そのころ３匹は、妖怪・一本ダタラに追いかけられ、食べられてしまう寸前だった。３匹は道端の地蔵に化けて一本ダタラをやりすごすが、一本ダタラはなかなかその場を離れない。鬼太郎たちが捜しに来て、ようやく家に帰れたという。そして地蔵に化けている間、雪よけの笠とおにぎりを供えてくれたお爺さんがいたことを、親ギツネに話す。そのお爺さんがおもちも買えずに正月を迎えるらしいと聞き、キツネと鬼太郎たちはお礼として、大量の食料を持っていった。



原作

「笠地蔵」は、座敷童子が優しく貧しい老夫婦のもとに、鬼太郎たちとともに食料を届ける話。一本ダタラやキツネたちは登場しない。

演出●佐藤順一　**脚本**●武上純希　**作画監督**●木下和栄

【第052話】

コマ妖怪・あまめはぎ！

1997年1月12日放映

STORY

裏切られたこま妖怪の悲しい復讐が始まる

公園でもらったこまを捨ててしまった子どもたちが、その夜に集団失踪する事件が起きる。話を聞いた鬼太郎は、妖怪・あまめはぎの仕業だと断定した。こまに宿る妖怪・あまめはぎは、もともとは子ども好きの妖怪だった。しかし500年前に信じていた子どもに冷たく捨てられてしまい、コマ神木に引きこもっていた。そして500年ぶりに大雪で割れた神木から出てきて、その恨みを晴らそうと燃えていたのである。コマ神木を訪れた鬼太郎に対し、さらった子どもたちをこまに変化させ、襲わせるあまめはぎ。こまを攻撃できない鬼太郎は、目玉おやじをこま代わりに、あまめはぎに向かって投げる。



原作

「コマ妖怪」では、あまめはぎが鬼太郎の体に縄を巻きこまにして回したので倒れるが、ちゃんちゃんこがあまめはぎの目を回し逆転勝利。

演出●明比正行　**脚本**●矢島大輔　**作画監督**●八島善孝

【第053話】

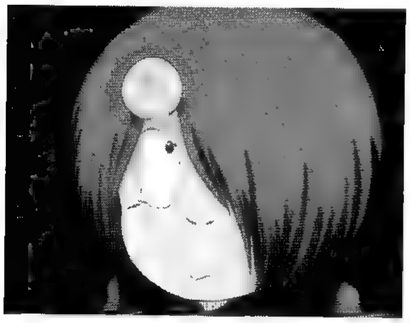
霊園行・幽霊電車！

1997年1月19日放映

STORY

妖怪を信じない人専用・墓場行きの臨時電車

鬼太郎とねずみ男はあるトンネルの中で、「妖怪なんかいない」と言い張る高飛車な酔っ払いの2人と口論になる。その末に鬼太郎は、殴られてタンコブができてしまう。鬼太郎もこれには怒りを覚え「このタンコブの分だけお返しします」とだけつぶやき、去っていく。駅に向かった2人がそのまま最終電車で帰ろうとしたところ、駅長に化けた鬼太郎が2人を特別列車に導いた。それは、乗客は骸骨や妖怪だらけ、停車駅は臨終・火葬場・骨壷……と続く、おどろおどろしい「幽霊電車」だった。怪しい雰囲気に気が付いて、徐々に酒が醒めてきた2人。しかし恐怖の夜は始まったばかりだった……。



原作

「ゆうれい電車」とほぼ同じ。幽霊を信じない2人は、頭が弱いとねずみ男から言われて怒り、鬼太郎を殴る。結果手痛い仕返しを受けた。

演出●宇田鋼之介　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●直井正博

【第054話】

妖怪邪魅とガマ仙人！

1997年1月26日放映

STORY

ぬらりひょんのワナにはまった!?

鬼太郎はある村でカエルにだまされて、封印石を動かしてしまう。するとカエルは妖怪・邪魅として復活し、鬼太郎はカエルになってしまった。目玉おやじは事態を解決するために鬼太郎を解放しようと、封印石を動かしてみずからカエルとなる。しかし、鬼太郎は即座に邪魅の口から出る“毒気”を吸わされ、邪魅の手先となってさまざまな悪事を働き始めてしまう。すべてはぬらりひょんが、鬼太郎の評判を落とそうと仕組んだワナだった。状況を知った仲間たちは、鬼太郎の消息を追う。そしてカエルになった目玉おやじと合流。かつて邪魅を封じたガマ仙人の力を借りるために、山に入っていった。



原作

「妖怪関ヶ原」と展開は同じだが、ぬらりひょんは絡まない。さらに鬼太郎の銀行強盗シーンは描かれず、新聞記事で紹介されるだけ。

演出●貝沢幸男　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●飯島弘也

【第055話】

座敷童子と妖怪後神！

1997年2月2日放映

STORY

張り切る座敷童子をあざ笑う、後神の切り札！

「幸せを呼ぶ座敷童子付きの家」を買った一家は“幸運グッズ”に手を出す困った父親と、それをけなげに支える母親、幼い兄弟の4人家族だった。座敷童子はすぐに娘のホタルと仲良くなり、一家を幸せにしたいと張り切っていた。ところが家に父親が持ち込んだ「幸せを呼ぶサボテン」が大事件を起こしてしまう。影の中に生きる妖怪・後神の操るそのサボテンは、幸運を呼ぶどころか、人間を食って巨大化する妖怪サボテンだったのだ。あっという間に座敷童子も含め、家族が次々と食べられてしまう。駆けつけた鬼太郎も、後神の操る“影の世界”に引きずり込まれて大苦戦を強いられる。



原作

「後神」は、後神が人食いの妖怪サボテンを使って、ある家をのっとろうとしたところを、鬼太郎が退治する話。座敷童子は登場しない。

演出●川田武範　**脚本**●武上純希　**作画監督**●出口としお

【第056話】

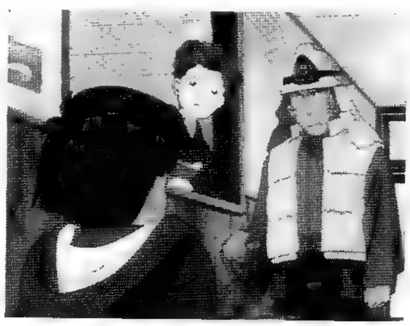
水変化！妖怪水虎

1997年2月9日放映

STORY

攻撃が効かない“水”の妖怪を倒すには!?

少年たちは洞窟探検中、妖怪・水虎の封印されたつぼを開けてしまう。封印が解けた水虎は、女房であるメスの水虎が封印されているつぼを探すため、片っ端から雪を溶かし、雪崩や洪水を起こす。メスと合体すれば、水虎はより強大な力を得るのである。封印の書からメスの封印場所を読み取り、先回りしようとする鬼太郎たち。しかしその場所を水虎に聞かれてしまい、合体を許してしまう。水攻めを受ける鬼太郎だが、一計を案じて極寒の雪雲の中を、水虎を連れて飛びまわる。その後に降下して、雪雲の中で貯めていた冷凍エネルギーを一気に解放。水でできている水虎を凍らせて退治した。



原作

「水虎」では、雪に潜り自分の体内で水虎を凍らせた鬼太郎は、氷になった水虎の魂を少年の両親に粉々にさせ、つぼに入れ埋めさせた。

演出●明比正行　**脚本**●矢島大輔　**作画監督**●海老沢幸男

【第057話】

吸血鬼エリート！

1997年2月16日放映

STORY

超エリート吸血鬼を目指す妖怪の野望を潰せ！

エリート美女連続失踪事件を警戒する才色兼備の研究者・綾子は、鬼太郎に警護を依頼する。この事件は、100人のエリート美女の血を吸うことで人間・妖怪・動物すべての命を自在に操る力を持つ「超エリート吸血鬼」になろうとした、吸血鬼エリートの仕業だった。綾子はエリートの奏でるギターに操られ、連れ去られる。エリートのアジトに駆けつけた鬼太郎も、ギターに操られて脱出不能の「地獄谷」に落とされてしまう。ところが綾子がいよいよエリートの毒牙にかかろうとした瞬間、その地獄谷から虫たちに助けられてようやく這い上がってきた鬼太郎が、エリートの前に再度立ちはだかる。



原作

「吸血鬼エリート」では、エリートは孤独な吸血鬼であり、アニメに出てきた妹分の吸血コウモリのティナなどは登場してこない。

演出●吉沢孝男　**脚本**●橋本裕志　**作画監督**●木下和栄

【第058話】

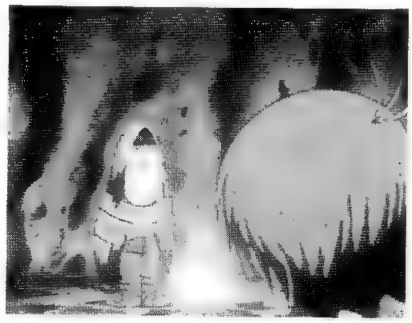
冷凍妖怪・雪ん子！

1997年2月23日放映

STORY

山の動物への思いが雪山に響き渡る！

北海道の雪山で失踪事件が続いていた。鬼太郎になりすましたねずみ男は、犯人と思われる雪ん子を捕らえようとするが、逆に氷漬けにされる。さらに後を追って現地に着いた鬼太郎も、雪ん子に誘い出され、雪男と雪女から冷気を浴びて凍ってしまう。洞窟の中で雪ん子に助けられた鬼太郎は、人間たちが山の動物を殺すため、彼らが怒りから村人を氷漬けにしていることを知る。雪ん子は動物を殺したことがない鬼太郎を助けようとするが、秘密がばれることを恐れる雪男・雪女夫婦はそれを許さない。鬼太郎は対決の末に雪男らを退け、氷漬けになった人間たちを助けることに成功した。



原作

「雪ん子」では、一度鬼太郎に溶かされて液体となった冷凍3妖怪たちは、ひとつの冷凍巨人になり、再び鬼太郎に襲いかかった。

演出●勝間田具治　**脚本**●雪室俊一　**作画監督**●稲葉仁

【第059話】

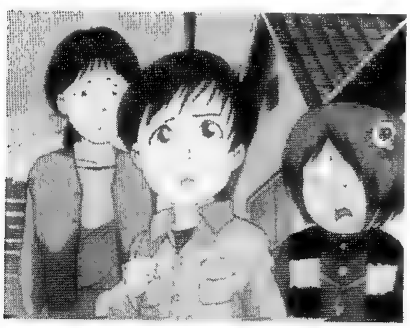
妖怪オバリヨン！

1997年3月2日放映

STORY

優しい妖怪・オバリヨンが死者の夢を叶える

ある朝、真奈美の前にフワフワと浮く物体が現れる。真奈美がきっと妖怪だと考えて友達に話すと、それを人づてに聞いた母は怒り出す。妹の死を妖怪のせいだと思っている母は、妖怪を不吉なものと嫌っていたのだ。鬼太郎に相談した真奈美は再びその妖怪・オバリヨンに会い、導かれるまま進むと30年前の東京に着く。そこは真奈美を心配してついて来た母親には、懐かしい場所。妹が死んだのは妖怪である自分のせいだと思っている母親に対して、誤解を解きたかったオバリヨンは、30年間ずっと母親に呼びかけていたのだ。母親と妹の２人は、幻のようなひと時を過ごし、妹はにこやかに天国へと旅立っていった。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。

演出●宇田鋼之介　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●八島善孝

【第060話】

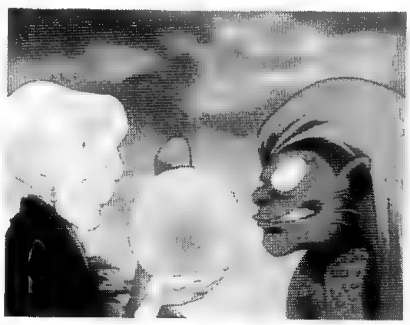
ぬらりひょんの陰謀！

1997年3月9日放映

STORY

妖怪帝国の王・ぬらりひょんの誕生か!?

海岸に妖気を感じて調査していた鬼太郎は、半魚人の助けを求める悲鳴にだまされて毒波を浴びてしまう。その鬼太郎を妖怪イカが食べ、鬼太郎の妖力を封じた妖怪真珠の玉を産み落とす。この真珠で妖怪灯台を灯せば、その妖怪は世界中の妖怪の頂点に立てるのだ。すべてはぬらりひょんの陰謀だった。半魚人がぬらりひょんに真珠を渡すと、ぬらりひょんは用済みの半魚人を切り捨てる。一方、イカの意識をのっとった鬼太郎はぬらりひょんの待つ妖怪灯台へと向かうが、イカの姿のまま、ぬらりひょんに切り刻まれてしまう。そしていよいよ、妖怪灯台に真珠の玉がセットされようとするが……。



原作

「かまぼこ」では、半魚人はかまぼこ作りで儲けて家を買う。鬼太郎が大イカに食われて何かに変わってしまうというプロットのみ生かされる。

演出●川田武範　**脚本**●矢島大輔　**作画監督**●直井正博

【第061話】

妖怪いやみにご用心

1997年3月16日放映

STORY

いやみに「ショウ気」を吸われて荒れる日本人！

町中で人々が突然荒れ始め、反社会的な行動をとる事件が続発。鬼太郎はこの事件を妖怪・いやみの仕業とあたりをつけた。いやみから「ショウ気」を吸い取られた人間は、建て前を忘れて本性がむき出しになったり、笑いを忘れて凶暴になったりしてしまうのだ。いやみと対決した鬼太郎も、ショウ気を吸い取られ目玉おやじに暴言を吐く始末。鬼太郎を正気に戻すために目玉おやじたちは金比羅島へ行き、清めの泉で鬼太郎の魂を洗い清めた。復活した鬼太郎は、いやみと再び対決。本性を現したいやみに苦戦しながらも勝利した鬼太郎は、いやみが集めたショウ気を解放。人々は元に戻った。



原作

「いやみ」では、鬼太郎が発した命がけの歯の機関銃がいやみのエネルギー源であるキンタマに当たったことで、ゲンナリさせて退治した。

演出●吉沢孝男　**脚本**●田村竜　**作画監督**●阪島弘也

【第062話】

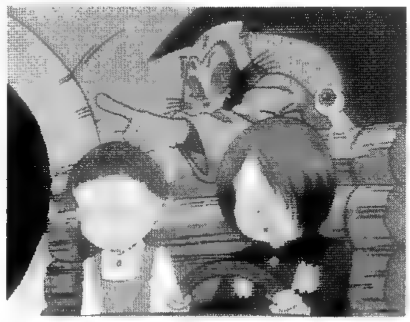
怪奇！ばけ猫街道

1997年3月23日放映

STORY

奇病・ネコ打ち症の原因は？

ネコ打ち症という奇病が発生した。患者はドライバーが多く、日常的にネコの仕草をし、キャットフードしか食べなくなるという。父親が猫打ち症になった子どもから手紙を受け取った鬼太郎が、発病した現場へ車を走らせると、巨大な化け猫が支配する別世界に行きつく。そこは人間にひかれたネコの霊界だった。ネコをひいた人間は、三日三晩踊り続けネコ霊界へやって来るという。鬼太郎は人間に手出しをしないようにと諭すが、化け猫はどんな動物にも魂があることを肝に銘じてほしかったのだという。話を聞き入れない化け猫だが、鬼太郎がまたたび香水を振ると普通のネコに戻った。



原作

「ばけ猫」では、鬼太郎とねずみ男は霊界で、多くのネコに襲われたがねずみ男がマタタビを撒くと消滅した。巨大ボスネコは登場しない。

演出●明比正行　**脚本**●雪室俊一　**作画監督**●海老沢幸男

【第063話】

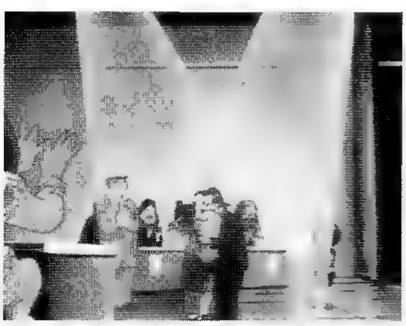
メンソーレ！妖怪ホテル

1997年3月30日放映

STORY

妖怪と仲良く暮らせる、沖縄のホテルにようこそ！

沖縄のホテルに妖怪が出るので、退治してほしいと依頼され鬼太郎親子は沖縄へ行く。ホテルに泊まるお客さんはみんな大事な存在だからと、妖怪が住みついていることを内緒にしようとする支配人。沖縄の妖怪・シーサーによれば、開発で森から追われた自分たちを客として扱ってくれた支配人に感謝しているということだった。ホテルの再建計画を指導しに東京から来た鈴木は、支配人のホテルマンとしての誇りに感動する。そして妖怪たちも協力し、妖怪と仲良く暮らせるホテルとして評判になっていく。さらに開催場所が未定だった第一回日本妖怪会議も、このホテルで行われた。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。

演出●勝間田具治　**脚本**●武上純希　**作画監督**●出口としお

【第064話】

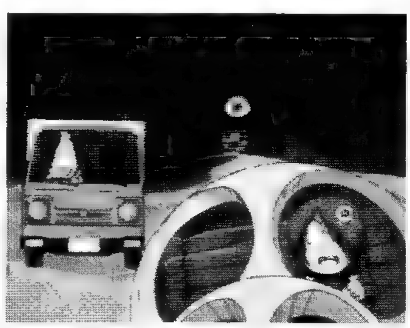
激争！妖怪ラリー

1997年4月6日放映

STORY

世界中の妖怪が集まったサバイバルラリー

世界中の妖怪を集めて妖怪ラリーが行われた。賞品は、願いを叶えてくれる伝説の妖怪石。6ヵ国の妖怪が参戦し、鬼太郎も妖怪自動車で参加する。ほかの妖怪には妖怪ラリーを観戦できるよう、宅配便でテレビが送られた。ところがこのテレビは「凶悪静電気」を発しており、テレビを観ると凶悪になる催眠術にかかってしまう。やはりぬらりひょんの陰謀だった。完走できないコースを作って世界中の強い妖怪を自滅させ、凶悪静電気で世界中の妖怪を洗脳しようとしたのだ。ぬらりひょんの陰謀を知り、ただひとり完走した鬼太郎は、伝説の妖怪石を手に、レースの犠牲者を元の姿へ戻した。



原作

「妖怪ラリー」にて佐渡ヶ島で行った妖怪ラリーは、審判長を赤舌が務め、6ヶ各国の妖怪が参加してねずみ男が実況。鬼太郎が優勝した。

演出●宇田鋼之介　**脚本**●橋本裕志　**作画監督**●木下和栄

【第065話】

驚異！マンモスフラワー

1997年4月13日放映

STORY

巨大な花になったねずみ男に戦車の攻撃が！

ねずみ男は、古代の島・カンブリア紀島より持ち出された古代植物の種を誤って食べてしまう。それによりねずみ男はみずからの意思で動く巨大な植物・マンモスフラワーと化し、花を咲かせる場所を求めて街で暴れ始めた。政府はこれに、自衛隊で応戦。マンモスフラワーがねずみ男だと知っている鬼太郎たちは、その攻撃を必死で止める。そしてマンモスフラワーが原産地のカンブリア紀島の土を求めて暴れていることを知った鬼太郎は、研究所にある土をマンモスフラワーに与えてまず沈静化。そしてその実にねずみ男が宿ることを信じて、花を咲かせるべくカンブリア紀島への移動を試みる。



原作

『マンモス・フラワー』は鬼太郎以外の水木作品。ねずみ男や黒洋博士が登場する部分、マンモスフラワーが太古の植物という設定は原作に同じ。

演出●吉沢孝男　**脚本**●矢島大輔　**作画監督**●稲葉仁

【第066話】

風雲！妖怪城（前編）

1997年4月20日放映

STORY

夜には無敵の３人組が鬼太郎に牙をむく！

ねずみ男が、どこからか聞こえてくる甘い言葉にだまされて封印を解き、伝説の「妖怪城」が復活してしまった。妖怪城に住む妖怪・たんたん坊、かまいたち、二口女の３人は夜には無敵だが、昼には満足に動くことすらできない。それゆえねずみ男を部下にして13人の人間をさらい、彼らを妖怪に変化させてから生け贄にすることで妖力を発生させ、世の中から昼をなくそうと企んでいた。鬼太郎は行方不明事件を捜査してねずみ男に行き当たり、そこから、夜にしか姿を現さない妖怪城にたどり着く。そしてたんたん坊らの企みを阻止すべく忍び込むが、夜は無敵の３人に返り討ちに遭ってしまう。



原作

「妖怪城」では、ねずみ男が四国に妖怪城を出現させてしまい、どうせなら四国を妖怪のメッカにするため、子どもを妖怪に変えようと企んだ。

演出●川田武範　**脚本**●橋本裕志　**作画監督**●八島善孝

【第067話】

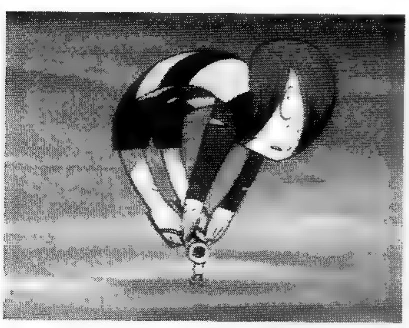
風雲！妖怪城（後編）

1997年4月27日放映

STORY

砂かけ婆の自己犠牲は花開くのか!?

３妖怪に挑んだ鬼太郎は返り討ちに遭い、たんたん坊の巨体に押しつぶされてのしいかのようになってしまう。そしてそのまま、13人の人質のひとりとして閉じ込められる。これで人質の数がそろい、外は日中なのに太陽が欠け始めた。そこに助けに来た砂かけ婆らは、３妖怪の隙をついて鬼太郎を救い出す。鬼太郎は封印のしめ縄を見つけ、城の塔にかけることで再び封印しようとする。しかし鬼太郎が人質部屋から出たため外は昼に戻っており、夜にしか存在しない妖怪城の封印は不可能だった。砂かけ婆は鬼太郎を信じ、もう一度封印可能な「夜」を呼ぶため、みずから人質部屋へと入っていく。



原作

「妖怪城」では、妖怪城から百年前のしきたりと同様に毎月ひとり子どもの生け贄を出せ、と手紙が来た村長が困惑し、鬼太郎へ相談した。

演出●明比正行　**脚本**●橋本裕志　**作画監督**●直井正博

【第068話】

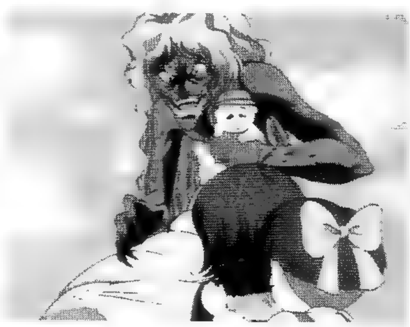
荒海の伝説・磯女！

1997年5月4日放映

STORY

磯女の本体は、赤ん坊だった!?

海岸に遊びに来ていた子どもたちは、朽ちたほこらを見つけるがそれを無視して遊んでいた。そこへ妖怪・磯女が現れ、子どもたちを連れ去ってしまった。そのほこらは、磯女が出る危険区域を知らせていたのだ。教師からの依頼で、現場へ向かう鬼太郎。地元民の証言によると、恐れられていた磯女も今では誰も信じなくなり、忘れられているという。鬼太郎は海に潜って磯女と対決するが、丸呑みにされてしまう。しかし磯女の腹の中で自分の体を膨らまし、腹を破裂させて脱出した。磯女の本体であった赤ん坊も、ちゃんちゃんこで妖力を奪って退治。現場には新たなほこらが建てられた。



原作

「磯女」では、子どもが連れ去られたと聞きつけた鬼太郎が直接磯女を訪ね、戦い始める。鬼太郎のことを内緒にする約束で、その子を助けた。

演出●境宗久　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●飯島弘也

【第069話】

悪魔ブエルとやかんづる

1997年5月11日放映

STORY

大食い妖怪・ヤカンズルに食われる鬼太郎

ぬらりひょんは、人間の“手”をのっとる悪魔・ブエルと共謀して、鬼太郎を亡き者にしようと企んでいた。ブエルに手をのっとられた仲間の妖怪たちに追われ、墓場で待つブエルの前におびき寄せられた鬼太郎。そこでブエル率いる悪魔軍団の襲来を受け、切り札として、何でも吸い込む大食い妖怪・ヤカンズルの封印を解くことを決意する。そして敵をヤカンズルの前にうまく誘い出し、封印を解いて悪魔軍団をすべて吸い込ませることに成功。だが、ヤカンズルの食欲を止めるには、封印を解いた者が飲み込まれなければならないのだ。鬼太郎は危険を承知で、みずからヤカンズルに飲み込まれた。



原作

「悪魔ブエル」では、ヤカンズルに食べられた鬼太郎親子は、体内でヤカンズルと戦って、7年近くかけて復活しようとしていた。

演出●宇田鋼之介　脚本●田村竜　作画監督●海老沢幸男

【第070話】

怪気象！妖怪ぐわごぜ

1997年5月18日放映

STORY

漫画家・木水の望みで妖怪王国が実現!?

漫画を描くために妖怪を見たいと願う漫画家・木水のもとへ妖怪・ぐわごぜが現れる。人間の欲望や妄想を適えることでエネルギーを奪うぐわごぜは、木水を利用して妖怪王国の建国を目指していたのだ。木水はどんどん妖怪を生み出し、そして妖怪の町は怪しい黒い雲・怪気象に包まれていった。鬼太郎と仲間たちは怪気象の中に突入。ところが鬼太郎はぐわごぜの吐く息で石にされ、仲間たちもなすすべなく捕まってしまった。しかし、ぐわごぜに食われた目玉おやじが、腹の中で暴れてぐわごぜを弱らせる。そこで復活した鬼太郎はちゃんちゃんこで風を起こし、ぐわごぜもろとも怪気象を吹き飛ばす。



原作

「朧車」では、マンガ家水木家の周辺に入ろうとすると弾かれ、元の場所に戻る怪奇象が起こり、ぐわごぜを目玉おやじが支配して退ける。

演出●吉沢孝男　脚本●矢島大輔　作画監督●山口としお

【第071話】

オベベ沼の妖怪！

1997年5月25日放映

STORY

天涯孤独のペテン師妖怪が人情を取り戻す！

かわうそは天涯孤独で、金だけを頼りに生きる寂しい妖怪である。ペテンの腕は天才的で、ねずみ男でさえもだましてしまうほど。しかし今回はぬらりひょんをだましたため、プライドを傷つけられたぬらりひょんに追い詰められ、かわうそは川に流されてしまう。そこをとおりかかったお爺さんに優しく介抱され、忘れていた温かい気持ちを取り戻した。かわうそは、息子の借金で家を失いかけていたお爺さんのために、所持金すべてを渡してしまう。その直後、再びぬらりひょんの追っ手に囲まれるかわうそ。鬼太郎は一部始終を知り、かわうそを助けたうえで、今しばらくお爺さんの下にいてやれと伝えるのだった。



原作

「オベベ沼の妖怪」では、貧しい子どものふりをしてねずみ男と手を組み村人をだましていたのは、山でひもじい生活をするかわうそだった。

演出●川田武範　脚本●武上純希　作画監督●木下和栄

【第072話】

出現！天狐の地底王国

1997年6月1日放映

STORY

妖狐の最高峰・天狐はひと味違う!?

新装開店した三高デパートが、建物ごと地下へ沈んでしまう。客に詰め寄られた社長は、自分たちの責任ではないの一点張り。この怪現象を調べる鬼太郎がデパートの先代社長に話を聞くと、キツネに睨まれる夢を見たという。鬼太郎はキツネ文字の文章を社長宅で見つけ、妖狐の仕業と考えて彼らの住む地底王国へ。空狐との対決の末、空狐に呑み込まれてしまうが、妖狐の長・天狐が現れて争いを止めた。天狐は稲荷神社の大切さを人間たちに諭したうえで、デパートを地上に戻す。今までの商売繁盛がキツネのお陰だったと知った現社長は、新しいデパートにも稲荷神社を作ることを決めた。



原作

「天狐」では、上下関係が厳しい縦組織であるキツネが、地位がランク付けされたひな壇に並び、地底で人間たちを待ち構えていた。

演出●明比正行　脚本●矢島大輔　作画監督●八島善孝

【第073話】

爆進！怒りの土ころび

1997年6月8日放映

STORY

気のいい妖怪・土ころびが豹変！

電気の無駄遣いを疎ましく思う発電所の所長は、ダムの中に沈んだほこらに眠っていた妖怪・土ころびの魂に体を奪われてしまう。かつて滅びる前は山に住みついて人里を守る妖怪だった土ころびだが、自分が眠るほこらを水没させてまで作った電気を、人間たちが何のありがたみも感じず使っているのを見て、怒りを感じたのだ。土ころびは電線などから電気を吸い尽くしてどんどん巨大化し、街中を停電にしていく。駆けつけた鬼太郎も土ころびに捕まり妖力を吸い取られるが、逆に強大な妖力を土ころびの体に送り込み、リミットを超えた土ころびを破裂させて、ようやくその暴走を止めた。



原作

「土ころび」では、工場排水によって変質した人間がエネルギーの必要な妖怪になり、鬼太郎の妖力を吸おうとするが、失敗し爆発した。

演出●勝間田具治　**脚本●**田村竜　**作画監督●**直井正博

【第074話】

大蛇神ヤマタノオロチ！

1997年6月15日放映

STORY

ぬらりひょんの野望、再び!?

伝説の秘剣・クサナギの剣を手に入れたぬらりひょんは、鬼太郎を始末するためその剣で8ヵ所の封印を解き、八俣大蛇を次々と甦らせていた。たまたま鍾乳洞探検に出ていた佑子たち3人組はその現場を目撃し、ぬらりひょんに見つかってしまう。虫たちの知らせで事態を知った鬼太郎は現場に急行し、次々復活する八俣大蛇に応戦するが、とても歯が立たない。八俣大蛇はクサナギの剣でないと倒せないことを知った佑子たちは、隙を見てぬらりひょんから剣を奪い取り、苦戦中の鬼太郎に渡すことに成功。さらに八俣大蛇の本体を砂かけ婆が見破り、ようやく封印することができた。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。八俣大蛇という妖怪のみ、鬼太郎以外の水木作品『やまたのおろち』より借用。

演出●吉沢孝男　**脚本●**矢島大輔　**作画監督●**飯島弘也

【第075話】

妖術・鏡合戦！

1997年6月22日放映

STORY

雲外鏡の天敵は照魔鏡と……？

鏡の妖怪・雲外鏡は、自分を封じる鏡・照魔鏡を処分するため、ねずみ男をだましてそのありかを捜させる。そして美術館から照魔鏡を盗み、それを封じるために天狗岳へと向かった。照魔鏡を取り戻して雲外鏡を封印しようとする鬼太郎だったが、雲外鏡の妖力で鏡に封じ込められてしまう。しかしわずかに残った妖力で、照魔鏡を取り返すことに成功し、鏡の中から復活。そのまま雲外鏡を封じようとする鬼太郎だが、今度は雲外鏡に呑み込まれてしまう。しかしそれは鬼太郎の策略だった。鬼太郎は銅の鏡が苦手とする塩を隠し持ち、それを雲外鏡の体の内部から塗りたくることで退治したのだ。



原作

「鏡合戦」では、少女に化けた雲外鏡は、ねずみ男を使い鬼太郎を鏡の中に閉じ込めた後、ねずみ男を召使いにして好き放題する計画だった。

演出●川田武範　**脚本●**雪室俊一　**作画監督●**海老沢幸男

【第076話】

灼熱の妖怪！ひでり神

1997年6月29日放映

STORY

妖怪のせいで日照りに苦しむ村を救う

子泣き爺は旅先で行き倒れ、酒造経営の家族に助けられる。その村は妖怪・ひでり神により、例年にない日照りに悩まされていた。子泣き爺に呼ばれた鬼太郎は苦戦の末、ひでり神が持っていた降雨装置を利用してひでり神を退治。話を聞くと、ひでり神は年に一度の奉納で飲めるうまい酒が楽しみだったが、今年の酒がにせ物であったことに腹を立てたという。しかしそれは、機械化された新方式で造られたため味が落ちただけの、本物の酒だった。事情を知った先代の酒造主が、自分が生きている限りは奉納分の酒は従来どおり造ることを約束。ようやく怒りの矛を収めるひでり神だった。



原作

「ひでり神」では、天候条件が整って現れただけのひでり神を、ねずみ男が妖怪取材を目論む人間と会わせることで、金を巻き上げていた。

演出●境宗久　**脚本●**おおいとしのぶ　**作画監督●**山口としお

【第077話】

海和尚と船幽霊！

1997年7月6日放映

STORY

海の妖怪は敬えば神に、軽んじれば……

ある漁村では、しけでもない海で遭難する漁船が相次いでいた。調査を開始した鬼太郎が夜行さんの妖怪潜水艦で海に出ると、事故の鎮魂のために出した船が船幽霊に襲われていた。鬼太郎は船幽霊を撃退するが、船幽霊を操っていた妖怪・海和尚に捕まり、海底にある船幽霊の製造工場に連行される。海和尚は、海の妖怪を敬う年一回の儀式もいつの間にか行わなくなり、しかも底引き網で根こそぎ漁をするようになった人間たちに思い知らせてやるために船幽霊をつくり、事故を起こしていたという。鬼太郎も危うく船幽霊にされそうになるが、そこに妖怪潜水艦で追ってきた仲間が駆けつけた。



原作

「海座頭」のキャラクターである船幽霊が登場するが、「船幽霊製造工場」という設定は鬼太郎以外の作品『妖怪水車』の猛霊八惨に近い。

演出●明比正行　**脚本**●武上純希　**作画監督**●木下和栄

【第078話】

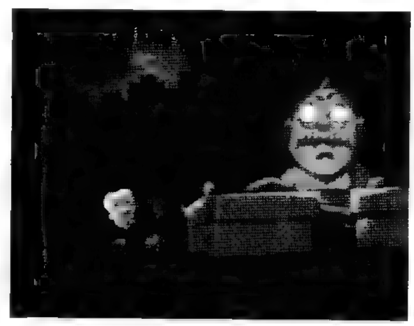
ぬらりひょんと蛇骨婆

1997年7月13日放映

STORY

鬼太郎誕生の秘話が語られる

鬼太郎はぬらりひょんの計略にはまり、妖力を封じる古代岩の結界の中に、コンクリートで生き埋めにされてしまう。ついに鬼太郎を殺したと喜ぶぬらりひょんと仲間の蛇骨婆。しかし、ぬらりひょんの元に鬼太郎の下駄が現れた。２人は鬼太郎が生きているのでは、という恐れを持ちながら、下駄を相手に戦う。そのとき蛇骨婆は、鬼太郎が墓場の土の下から誕生したときの話を思い出し、ぬらりひょんにその話を伝えた。ぬらりひょんは鬼太郎が死んでいることを確かめるため、生き埋めにした現場に舞い戻る。そのとき鬼太郎誕生の瞬間と同じように雷鳴がとどろき、古代岩の結界が倒れた。



原作

「ぬらりひょん」はぬらりひょんが蛇骨婆と手を組んで鬼太郎をコンクリ詰めにする。そこに「鬼太郎の誕生(幽霊一家)」を混ぜ込んでいる。

演出●佐藤順一　**脚本**●田村竜　**作画監督**●八島善孝

【第079話】

中国妖怪 襲来！(前編)

1997年7月20日放映

STORY

中国妖怪が日本に来襲！　鬼太郎が反物に

中国妖怪のチーは、日本の妖怪を全滅させるため日本を急襲してきた。チーの丸薬を飲まされた妖怪たちは、その妖術で反物にされてしまう。そしてその反物を着た人間は、みなチーの手下になってしまうのだ。鬼太郎は日本の妖怪を集結させて、チーに対抗することを決める。そしてチーの城に偵察のつもりで入った鬼太郎は、応援を待つ暇もないままチーと対決。体術と妖術を駆使して戦うが、勝負がつかない。その間に応援に来た日本の妖怪たちは、ほとんど反物にされてしまっていた。鬼太郎自身もチーに操られた人間に囲まれて、隙を突かれて催眠術に落ち、反物にされてしまった。



原作

「妖怪反物」では、チーと遭遇したサトリがチーの考えを見抜き、人間も使った中国妖怪の侵略作戦を鬼太郎たちに報告し、対策を練った。

演出●川田武範　**脚本**●矢島大輔　**作画監督**●直井正博

【第080話】

中国妖怪 襲来！(後編)

1997年8月3日放映

STORY

鬼太郎復活！伝説の九尾の狐に立ち向かう

目玉おやじは鬼太郎反物を奪い返すことに成功。鬼太郎を元に戻すため、井戸仙人に助けを請う。井戸仙人によれば、反物は妖怪石鹸で洗えば元に戻るとのこと。さらに井戸仙人はチーの正体を、九尾の狐の弟だと見破る。一行は再度城に向かうが、チーの前に手も足も出ない。そこに復活した鬼太郎が現れた。さらに井戸仙人の石鹸水により反物にされていた仲間たちも復活し、一斉に九尾の狐に襲いかかる。最後の妖術で巨大なゲル状物質に変化し、すべてを呑み込もうとするチー。そこでねずみ男が盗んでいた丸薬をばらまくとチー自身が反物と化し、ようやく日本の危機は救われたのだった。



原作

「妖怪反物」では、チーが反物になった後でも、チーの妖術にかかった人間が鬼太郎たちに反撃したので、服を脱がせて正気に戻した。

演出●勝間田具治　**脚本**●矢島大輔　**作画監督**●飯島弘也

【第081話】

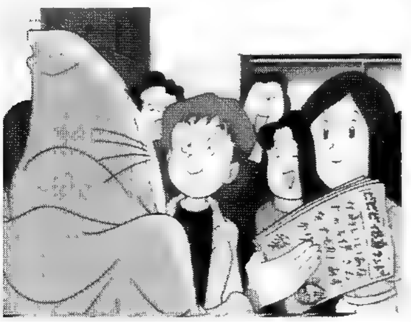
子育て妖怪！うぶめ

1997年8月10日放映

STORY

赤子へのゆがんだ愛情が暴走！

ねずみ男は、子守のスペシャリストの女性を使って24時間営業の保育園を経営。近所の母親たちから重宝され、大繁盛していた。ところがある夜、若い女性の子守がその正体を現す。それは子どもをさらい、小さなまま面倒を見ることを生きがいとしている赤子好きの妖怪・姑獲鳥だった。そしてすべての赤ん坊を住みかへ連れ去ってしまう。鬼太郎は保護者たちとともに、姑獲鳥の住みかへと向かう。そして姑獲鳥の注意を自分が引いている間に、保護者たちがカラスゴンドラを使って赤ん坊たちを救い出すことに成功した。姑獲鳥はつるべ火に焼かれ、もとの「姑獲鳥石」に戻るのだった。



原作

「姑獲鳥」は、人の赤子を自分のものにする妖怪・うぶめの話。ねずみ男は姑獲鳥を自家用飛行機にするつもりで、姑獲鳥石から復活させた。

演出●明比正行　**脚本**●小林千賀子　**作画監督**●海老沢幸男

【第082話】

古代妖怪・大首！

1997年8月17日放映

STORY

古代王国の復活を期して生き続ける悲しい妖怪

ねずみ男は骨女にだまされて、人間を缶詰にする缶詰工場で働いていた。その缶詰は骨女の主である妖怪・大首の食料である。大首は2000年前の縄文王国の王が、人骨を食べ続けて巨大な骸骨となった姿だった。骨女と大首は縄文王国の復活を期し、永劫の時を生き長らえてきたのだ。鬼太郎は、骨女が差し向けてきた刺客の後をつけ、大首のアジトにたどり着く。ところが突入した鬼太郎に応戦する骨女を、なぜか大首は止める。大首は、王国復活を大義に2000年間も人を殺め続けた自分の罪に苦しんでいたのだ。大首は王国復帰を諦めようと骨女に語り、自分たちを封印してほしいと鬼太郎に頼む。



原作

「大首」では、大首が鬼太郎から霊色キノコを食べさせられ、岩のようになり死んでしまう。大首の念力で動かされていた骨女もただの骨に。

演出●境　宗久　**脚本**●武上純希　**作画監督**●出口としお

【第083話】

ゲタ合戦！妖怪逆柱

1997年8月24日放映

STORY

逆柱の強い恨みの念が鬼太郎に襲いかかる！

工事現場に妖怪・逆柱が現れた。その強い恨みの念を気に入ったぬらりひょんは、鬼太郎を亡き者にするために逆柱を利用する。まずぬらりひょんは、逆柱で鬼太郎の下駄のにせ物をつくり、本物とすり替えることに成功。にせ物の下駄を履いてしまった鬼太郎は下駄に操られ、逆柱の前まで引きずり出される。そしてそのまま逆柱の結界の中に閉じ込められてしまった。さらに、鬼太郎ごと逆柱を燃やしてしまおうとするぬらりひょん。ところが現場に来ていたネコ娘が、朱の盆から封印された本物の下駄を取り返して形勢は逆転。無事脱出できた鬼太郎は、ぬらりひょんに怒りの一撃を食らわせる。



原作

「げた合戦」では、逆柱に操られた鬼太郎とねずみ男だが、目玉おやじが本物の下駄を見つけて解放。ぬらりひょんや朱の盤は登場しない。

演出●川田武範　**脚本**●矢島大輔　**作画監督**●木下和栄

【第084話】

怪奇！人食い肖像画

1997年8月31日放映

STORY

青年画家の怨念が生み出したバケモノ

ある青年画家の部屋にある肖像画は、部屋でその画家によって描かれる肖像画のモデルを、次々と飲み込んでしまう。その「人食い肖像画」は、母親が死んだときに世の中への恨みを込めて、青年が描いた母親の絵だった。青年は、モデルの命を次々と送り込めば、母親が生き返ると信じていたのだ。そのため妖力の強いモデルを求めており、砂かけ婆、そして鬼太郎にモデルを依頼。2人を絵に取り込んでしまう。さらに暴走する肖像画は、部屋の中の青年と母の思い出の品までも壊してしまう。そこで青年は初めて、その絵が母親などではなく、ただ自分が生み出した怨念の塊でしかないことに気が付くのだった。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。

演出●佐藤順一　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●八島善孝

【第085話】

魔境・土蜘蛛の山！

1997年9月7日放映

STORY

傷つけられた土蜘蛛が最強の体を求める

金塊を強奪した２人の泥棒は、警察に追われて妖怪・土蜘蛛がいるという蜘蛛の巣山へ入り込む。そして土蜘蛛に遭遇した２人は応戦し、銃で土蜘蛛を傷つけてしまう。傷ついた体を取り替えるために４体の体が必要になった土蜘蛛は、その２人と金塊を追ってきたねずみ男、そして泥棒を追ってきた刑事を蜘蛛の糸で捕らえてしまう。妖気を追ってきた鬼太郎は、土蜘蛛と対峙。蜘蛛の糸で妖気を奪われ、食べられてしまう。そして土蜘蛛は、４人の体と泥棒が持っていた金塊を混ぜ合わせ、最強の体を作って乗り換えようとした。そうはさせじと鬼太郎は、土蜘蛛の腹の中で妖力を全開にする。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。

正行　脚本●田村竜　作画監督●直井正博

【第086話】

死の使い・モウリョウ

1997年9月14日放映

STORY

死体に乗り移り、実体を持たない妖怪の悲哀

死体に乗り移って肉体を得る妖怪・魍魎は、火葬が常識になり乗り移れる体がなくなり困っていた。そこに役者・長島が近々死ぬという情報を得て、すぐに乗り移ろうと付きまとう。情報どおり突然の発作で倒れた長島は、魂の状態で自分亡き後の撮影現場を見て、まだまだ自分が必要とされていると感じ、生き返りたいと願う。そして長島は病院で息を吹き返した。ヤケになった魍魎は、街で姿を見せて暴れまわり、強引に死人を生み出そうとしはじめる。鬼太郎は魍魎を止めるため、自分の体を提供。喜んで鬼太郎の体に入り込んだ魍魎だが、それは鬼太郎の策略だった。



原作

「モウリョウ」に登場する、死体に乗り移る妖怪・魍魎をベースにしたオリジナルストーリー。原作では乗り移った死体を焼かれて倒される。

演出●吉沢孝男　脚本●おおいとしのぶ　作画監督●飯島弘也

【第087話】

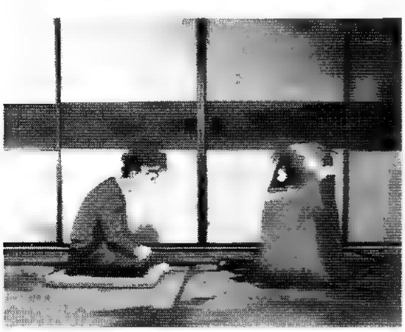
迷い家の倉ぼっこ

1997年9月21日放映

STORY

山奥の妖怪屋敷で掴んだものは「幸運」か？

事業に失敗し家族も失った村上は、自殺しようと山の中をさまよっていた。そのとき小さな屋敷で会った妖怪・倉ぼっこに、幸運を呼ぶ朱塗りの茶碗をもらう。その屋敷は妖怪たちが静かに住んでいる「迷い家」だった。村上はそれ以来すべてがうまくいき、成功していた。村上に話を聞いた欲深い友人・安田は、自分も幸運を手に入れようと山へ向かう。首尾よく迷い家を見つけ、妖怪・倉ぼっこと納戸婆に茶碗をよこせと詰め寄ると、妖怪は黄金の茶碗を出してきた。安田はその茶碗を強奪して逃げようとする。そこに現れた鬼太郎は屋敷の妖怪と協力して、安田を懲らしめるための作戦を練る。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。

演出●芝田浩樹　脚本●大橋志吉　作画監督●海老沢幸男

【第088話】

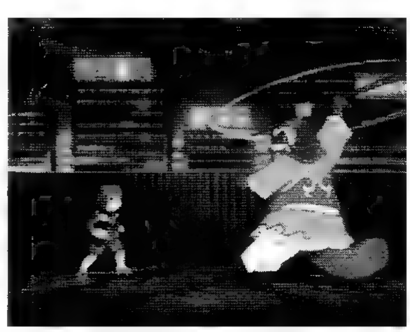
妖怪ふくろさげの罠

1997年9月28日放映

STORY

玉袋に「欲望」を溜め込む妖怪が登場！

人間の欲望を叶えたうえで、その人を取り込んで欲望を妖力として溜め込む妖怪・ふくろさげが復活した。ふくろさげは、人々の欲望をどんどん取り込み大きくなっていく。鬼太郎たちは取り込まれないよう、無心になってふくろさげと対峙。しかし「皆を助けたい」という思いが欲望とみなされ、鬼太郎たちも取り込まれてしまう。そこに「鬼太郎たちを助けたい」という思いを持ったぬりかべが取り込まれ、袋の中で巨大化。ふくろさげの正体である、縄文時代の古ダヌキの玉袋を内側から破る。これまで溜め込んだ妖力もちゃんちゃんこに吸い取られ、ふくろさげは元の豆だぬきに戻った。



原作

「ふくろさげ」では、奇妙な物体のふくろさげは人間の命令に従い、妖怪エネルギーが好物の妖怪。鬼太郎の妖力を吸い過ぎて、爆発した。

演出●川田武範　脚本●武上純希　作画監督●山口としお

【第089話】

髪の毛地獄！ラクシャサ

1997年10月5日放映

STORY

大人の姿になった、ネコ娘は必見

大人の女性に憧れていたネコ娘は、街で会った美しい人に導かれ喫茶店に入る。そしてそこで床や壁から湧いた無数の髪の毛に包まれてしまう。そのままインドの妖怪・ラクシャサに取り付かれ、髪も背も伸び大人の女性へと変身してしまった。砂かけ婆たちも“一番会いたい人”に化身したラクシャサにだまされ、ボロボロになっていた。ネコ娘として鬼太郎を呼び出したラクシャサが、正体を現して鬼太郎に襲いかかる。妖怪の心をもてあそぶラクシャサに怒り心頭の鬼太郎。目玉おやじが連れてきたインドの行者がラクシャサの動きを封じ、鬼太郎はラクシャサを喫茶店ごと炎上させた。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。

演出●角銅博之　**脚本**●小中千昭　**作画**●木下和栄

【第090話】

峠の妖怪・ぶるぶる

1997年10月12日放映

STORY

親子の愛情は恐怖心よりも強い！

峠のトンネルで行方不明事件が頻発。峠の旅館の主人も、客を迎えに行ったまま戻らなかった。ねずみ男が警官とトンネルに向かうが、妖気の渦に引きずり込まれてしまう。犯人は臆病者にしか姿が見えず、人の恐怖心を生気とする妖怪・ぶるぶるだった。鬼太郎は、旅館の息子・正広とともに現場へ。鬼太郎のちゃんちゃんこを借りた正広は、父親を助けるべくトンネルの中へ。ぶるぶるは正広を住みかに引きずり込む。そこで息子の危機を救うため、父親が勇気をもってぶるぶるに立ち向かうと、恐怖心がエネルギーのぶるぶるは弱体化。そこを鬼太郎がつるべ火で追い出し、蒸発させて退治した。



原作

「峠の妖怪」から熱に弱いというぶるぶるの性質は生かされている。ただしストーリーはほぼオリジナル。原作では自動車事件を起こさせる。

演出●明比正行　**脚本**●田村竜　**作画**●八島善孝

【第091話】

夜の怪！百鬼夜行の鬼

1997年10月19日放映

STORY

仲間想いのまちがった行動を正す

閻魔大王から「最近魂があの世に来ない」と相談を受けた目玉おやじは、鬼太郎、ネコ娘とともにあの世へ向かう魂のとおり道を調べる。道は蜘蛛の巣状の妖気の結界により、廃墟の病院へと導かれていた。魂のとおり道の番人である百鬼夜行の鬼たちが、ねずみ男を使い魂を集めていた。兄貴分の鬼の病気を治すために、人間の魂が一番効くと信じていたのである。ねずみ男のワナで鬼太郎たちは捕らえられてしまうが、鬼太郎が髪の毛を操り、砂かけ婆たちの助けを呼ぶ。戦いで仲間のために最後の力をふり絞った兄貴鬼は倒れるが、目玉おやじの診断で薬草で治ることを知る。魂は解放され、無事にあの世へ向かった。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。

演出●境宗久　**脚本**●大橋志吉　**作画**●直井正博

【第092話】

百目とぬらりひょん

1997年10月26日放映

STORY

ぬらりひょんの妖怪植物兵器が飛ぶ、撃つ！

砂かけ婆が預かっていた百目の坊やが迷子になってしまう。そしてねずみ男は百目の坊やを見つけ、金儲けに使おうと企む。退屈していた百目の坊やは「遠目」で、美しい花をつけた妖怪樹を見つけた。本物見たさに百目の坊やは、妖怪樹のある工場跡へ足を運んだが、そこは人間界と妖怪界の支配をたくらむぬらりひょんのアジトだった。植物兵器と化した妖怪樹は木の実爆弾で攻撃し、鬼太郎、砂かけ婆を捕らえて妖怪エネルギーを吸い取ろうとする。苦しむ砂かけ婆の「今こそ勇気を出せ！」という言葉に、臆病だった百目の坊やは妖術・金縛りを成功させ、一人前の百目となることができた。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。

演出●吉沢孝男　**脚本**●おおいとしのぶ　**作画**●飯島弘也

【第093話】

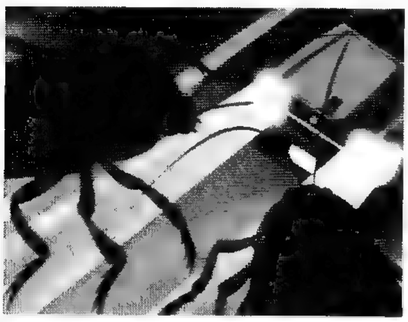
月よりの妖怪・桂男!

1997年11月2日放映

STORY

夜でも明るい現代の、妖怪の苦悩

その満月の夜は、月からの使者・月女が月へ帰る夜だった。月女は地球では800年しか生きられず、今夜中に石の舟で帰らないと消えてなくなってしまうのだ。部下の妖怪・桂男は石の舟を飛ばすため、昆虫を巨大化させ街中の明かりを破壊する。石の舟は美しい月の光を集めないと、飛ぶことができないのである。鬼太郎たちは事情を知り、力を貸すことに。オカリナの音色で鳥を呼び寄せ、街中の明かりを隠させた。そしてぬりかべをピカピカに磨き、月光を反射させ船に光を集めた。そしてようやく月女は月へ帰ることができ、桂男はみずからの使命を終えたことに満足し、海へ入っていった。



原作

「月の妖怪・桂男」では、桂男は「霊兎」とともに、地球人に月を荒らすなと警告に来た。鬼太郎は桂男の妖力によって、小さくされてしまう。

演出●川田武範　**脚本**●矢島大輔　**作画**●海老沢幸男

【第094話】

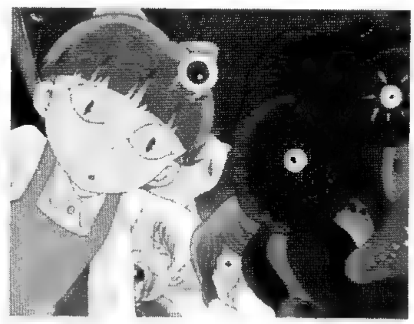
鬼太郎魚と置いてけ堀

1997年11月9日放映

STORY

魚になった少年が見た、水中の世界

退屈に任せて釣りをする少年に、水仙人が赤い玉・魚眼丸を差し出す。そしてその玉を口にした少年は、魚になってしまった。鬼太郎とねずみ男は少年を助けるため、同じ玉を手に入れ魚となり少年を捜しに行く。魚になった少年を海で見た水仙人は、元に戻れる回復丸を渡そうとするが、助けに来た鬼太郎たちを怪しい魚だと思い飲み込んでしまう。そのため激しい腹痛をおこした水仙人を目玉おやじたちが見つけ、鬼太郎とねずみ男を元の姿に戻す。その間に、少年は漁船に釣り上げられてしまう。すし屋でまさに包丁が振り下ろされる瞬間に鬼太郎たちが駆けつけ、一命をとりとめたのだった。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。

演出●細田守　**脚本**●武上純希　**作画**●山口としお

【第095話】

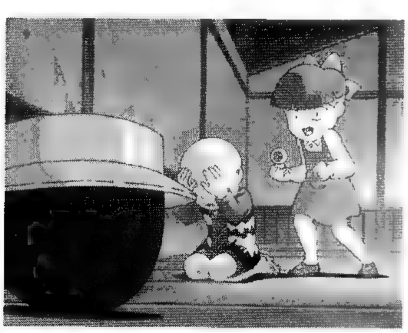
妖力泥棒・釜なり!

1997年11月16日放映

STORY

妖力を失ったツルツル頭の鬼太郎

ねずみ男は、お堂の中に祀られた古い釜の占いの声にそそのかされ、鬼太郎をその釜の元へ誘い出す。そして鬼太郎は妖怪・釜鳴りに髪の毛もちゃんちゃんこも下駄も奪われ、妖力を失ってしまった。鬼太郎の強力な妖力を手に入れた釜鳴りは鬼太郎に扮し、妖怪たちをこらしめる。が、父親である目玉おやじにはその妖力も意味をなさなかった。砂かけ婆たちは、釜鳴りを追って釜の中へ入り込み、後から寝込んでいた鬼太郎もかけつける。戦いの末鬼太郎は、髪の毛もちゃんちゃんこも下駄も取り戻して妖力を回復。釜鳴りは、ただの釜へ戻ろうと決め、一同は釜の外へ脱出し一件落着となる。



原作

「釜なり」では鬼太郎の生気が詰まった髪で復活した釜なりが子供たちを襲い取り込んでしまう。しかし、鬼太郎の仲間の活躍で元の釜に戻る。

演出●芝田浩樹　**脚本**●大橋志吉　**作画**●木下和栄

【第096話】

妖怪王・ぬらりひょん

1997年11月23日放映

STORY

妖怪島の復活、ぬらりひょんの野望

妖怪王の座を狙うぬらりひょんは、邪悪な妖怪島を復活させるための鏡の破片を探していた。そしてぬらりひょんの指示のもと、日本各地で西洋妖怪が日本の妖怪を操って大暴れし始めた。鬼太郎は北海道へ、ネコ娘たちは妖気で走る妖怪バスで大阪へと駆けつけたが、いずれも妖怪たちは忽然と姿を消してしまう。後を追っていくと、東京のぬらりひょんのところへ集結していた。妖怪たちの妖力を得て力を増したぬらりひょんは、鬼太郎の攻撃をものともせず、集まった封印の鏡のかけらを合体させ、邪悪な妖怪島を復活させてしまう。だが、ぬらりひょんの陰謀はそれだけではなかった。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。

演出●明比正行　**脚本**●矢島大輔　**作画**●八島善孝

【第097話】

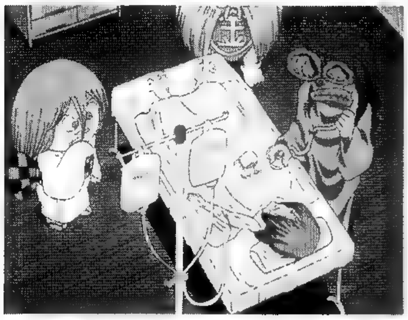
追撃！西洋妖怪四天王

1997年11月30日放映

STORY

ぬらりひょんの尽きない野望

ぬらりひょんは妖怪島を復活させ、さらに妖怪津波を起こし世界を海に沈めようと企んでいた。こうもり猫たちとの戦いで妖力を失いひからびてしまった鬼太郎は、妖怪病院へかつぎこまれる。そこへ一向に回復しない鬼太郎を狙い、西洋妖怪四天王のひとり・グルマルキンが現れ、さらっていこうとする。そこで鬼太郎は、機を見てグルマルキンの妖力を吸い取り一気に回復。グルマルキンは笛で巨大な魔物ゴーレムを操り、鬼太郎へ攻撃をしかける。鬼太郎はゴーレムを倒し、ぬらりひょんと西洋妖怪たちに立ち向かうべく日本中の妖怪を呼び寄せることにする。妖怪津波が起こるまで残された時間はわずか２日！



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。

演出●吉沢孝男　**脚本**●矢島大輔　**作画**●直井正博

【第098話】

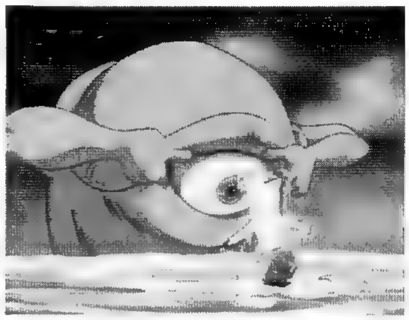
試練・妖魔城への道！

1997年12月7日放映

STORY

日本妖怪が集結し、鬼太郎のために助太刀！

ぬらりひょんは妖怪津波を起こし、妖怪の楽園を作ろうとしていた。鬼太郎は日本中の妖怪に助けを求めつつ、相次ぐ異変を防ぐため妖魔城へ向かう。海からは西洋妖怪四天王の一角・ブイイが現れ行く手を阻むが、駆けつけた日本妖怪たちの助けでブイイを撃退。ついにぬらりひょんとの対決が始まるが、あまりに強大な力を得たぬらりひょんは、使いこなせず苦しみ始める。強権的なぬらりひょんに不満の溜まっていた西洋妖怪たちは、ぬらりひょんを煮えたぎる溶岩へ落としてしまう。鬼太郎たちは先を急ぐが、ワナにはまり遅々として進まない。さらに四天王最強のジャイアントがその行く手に立ちふさがった。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。

演出●川田武範　**脚本**●橋本裕志　**作画**●飯島弘也

【第099話】

決戦！妖怪王対鬼太郎

1997年12月14日放映

STORY

ねずみ男、得意の屁で活躍!?

鬼太郎はジャイアントを倒し、さらにジャイアントは仲間割れした西洋妖怪たちにとどめをさされそうになる。そこに溶岩へ落ちたはずのぬらりひょんが現れ、西洋妖怪たちを片付けて鬼太郎を襲ってきた。彼は強大な力を我が物とし、本物の妖怪王となっていた。鬼太郎は満身創痍だったが、仲間の妖怪たちの祈りにより力が回復。そこへねずみ男が強烈な屁をかまし、並み外れた嗅覚を持つ妖怪王はあまりの臭さに倒れ込む。その隙に反撃した鬼太郎は妖魔城の水晶を壊し、津波の阻止に成功。一同は化け鯨に乗り、崩れ落ちる妖怪島から去っていく。激しい戦いを終え、鬼太郎たちは化け鯨の背で眠りこむのだった。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。

演出●境宗久　**脚本**●橋本裕志　**作画**●海老沢幸男

【第100話】

暗闇の招き・妖怪影女

1997年12月21日放映

STORY

人間の悪意を利用する、地獄からの使者

アイドル歌手・渡辺千里が妖怪・影女に呑み込まれて行方不明になる。鬼太郎たちは影女を捕まえようとするが、逆に影の世界に引きずりこまれてしまった。影の世界では引きずり込まれた人間たちが“悪意の塊”と化していた。鬼太郎も悪意にまみれそうになるが、目玉おやじの激励で気を取り直し、脱出をはかる。外の世界では砂かけ婆たちが妖力を送って出口を作り、鬼太郎は脱出。ところが1000人に達した悪の塊たちも、地上に出ていってしまう。鬼太郎は千里のコンサート会場へ影女を誘い込み、ライトの強烈な光を浴びせて退治した。塊たちは人間の姿にもどり、千里は無事、コンサートを開催した。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。

演出●芝田浩樹　**脚本**●田村竜　**作画**●出口としお

【第101話】

言霊使いの罠！

1997年12月28日放映

STORY

世の中に“存在する”ってどういうこと!?

先祖の約束でぬらりひょんの頼みを聞かざるを得ない陰陽師・一刻堂は、鬼太郎たちをはらうことを承諾。鬼太郎たちは小学校の校庭に誘い込まれ、言霊の術にはまってしまう。「五芒星」の中に入れられ名前を忘れた妖怪たちは、存在を消されてしまうのだ。ぬりかべは「朽ちた壁」に、一反もめんは「布切れ一枚」に。一刻堂の言葉のまま変化する妖怪たち。そして鬼太郎の番がきて、ぬらりひょんは思わず「ざまあみろ、鬼太郎」とはやしたてる。その声で名前を思い出した鬼太郎は、術から逃れることができた。もともと気の進まない仕事であった一刻堂はここで鬼太郎たちと和解。ぬらりひょんは逃げ帰っていった。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。

演出●角銅博之　**脚本**●京極夏彦　**作画**●木下和栄

【第102話】

凶悪!中国妖怪刑天

1998年1月4日放映

STORY

暴れん坊妖怪、500年越しの復讐戦

封印されていた中国の凶悪な妖怪・刑天のミイラが盗み出された。そして日本に運ばれる途中、船が壊れ波に打ち上げられる。そして声のする箱を見つけたねずみ男は、封印をとき刑天を復活させてしまう。砂かけ婆たちは偶然刑天と出会い、キョンシーの術をかけられ操られる。さらに刑天は、封印の護符を唯一作れる茶伊那道士を捜し出し、石に変え粉々にしてしまう。ところが鬼太郎と刑天の戦いの最中に、茶伊那道士の霊が護符を持って現れた。鬼太郎は正気に戻った砂かけ婆たちとともに戦い、刑天の額に護符を貼りつけ再び封印。茶伊那道士は肉体を失ったが、ミイラとなった刑天とともに中国へ帰っていった。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。

演出●明比正行　**脚本**●矢島大輔　**作画**●直井正博

【第103話】

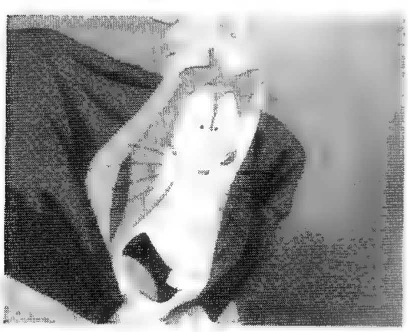
化けネズミ！ 妖怪旧鼠

1998年1月11日放映

STORY

ネズミになったネコ娘!?

ねずみ男は廃寺に住む妖怪・旧鼠の退治を引き受けたが、旧鼠に魂を奪われてしまう。痩せこけたねずみ男が街中でネズミを配る様子を見たネコ娘は、心配で後をつけるが、旧鼠に捕らわれ、ネズミに変えられてしまった。ねずみ男はわずかな妖力を使い、鬼太郎へこのことを知らせる。そのころネズミをもらった人間たちは、ネズミに変身してしまっていた。鬼太郎は寺へ駆けつけ旧鼠と対決。ネコ娘を元の姿に戻し、ねずみ男の魂も取り戻した。小さな旧鼠は荒れた寺に集まる悪い霊とあいまって、強大になっていたのだった。岩魚坊主によって霊は鎮められ、寺は村人たちによって手入れされることとなった。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。

演出●吉沢孝男　**脚本**●大橋志吉　**作画**●八島善孝

【第104話】

恐怖！吸血妖怪の島

1998年1月18日放映

STORY

仲間の血まで吸う、吸血樹の貪欲さ

ぬらりひょんは、アジアの吸血妖怪が集まる吸血島で、吸血樹の完全復活を期していた。そして復活のため鬼太郎の血を使うべく、鬼太郎をにせの手紙で呼び寄せる。鬼太郎は毒を飲まされ、吸血妖怪綿に丸呑みにされてしまう。鬼太郎の下駄から異変を知った目玉おやじたちは鬼太郎を助け出し、ともに吸血樹のもとへ向かう。戦いの中でぬらりひょんは樹に火を放って種を飛ばし、吸血樹を増殖させて攻撃してきた。鬼太郎たちは絶壁まで追い詰められるが、化け鯨が海水を浴びせて吸血樹を溶かすことに成功。ぬらりひょんたちも樹に追われて海に飛び込んだが、助けは来ずいつまでも浮いていた。



原作

「血戦小笠原」でも鬼太郎は手紙で島に呼び出され、吸血樹は倒された後、増殖する。吸血妖怪のボスはぬらりひょんではなくドラキュラ博士。

演出●川田武範　**脚本**●矢島大輔　**作画**●信実節子

【第105話】

迷宮・妖怪だるま王国

1997年1月25日放映

STORY

だるまだらけの「だるまさん、転んだ」!?

鬼太郎たちが見たものは、人がみんな“だるま”になった町だった。その町の「だるま王国」と書かれた建物の中で、鬼太郎は町の人々をみなだるまに変えた妖怪・だるまに遭遇する。だるまは、世の中にだるまだけの清らかな場所を作ろうとしていた。人間がだるまに求めることが“願い”でなく、すべて“欲”になってきたことに腹を立てたのだ。人々を元に戻すよう説得する鬼太郎たちに、容赦ない攻撃をしてくるだるま。ピンチの鬼太郎たちにとどめを刺すべく、だるまは自分の腹から子だるまを無数に出して鬼太郎を襲う。追い詰められるなか、鬼太郎は相手の動きを止めるある案を思いつく。



原作

「だるま」では、“4”という数字ににこだわりアパートを乗っ取ろうとする妖怪・だるまの話。だるま王国というのはアニメオリジナルの設定。

演出●細田守　**脚本**●橋本裕志　**作画監督**●海老沢幸男

【第106話】

悪夢！妖怪地獄

1997年2月1日放映

STORY

夢はいつも悪夢、脅える鬼太郎がノイローゼに

妖怪ポストに届いた赤い字の手紙を手にした瞬間、鬼太郎は夢で妖怪たちに襲われ、夢と同様に現実にも体に傷を負い始めた。井戸仙人に診てもらうと、妖怪ノイローゼだと診断される。治療には「入らずの山」の恐ヶ淵から飛び降りるしかないが、恐怖心が残っていれば、飛び込んだまま死んでしまうという。仲間みんなの励ましを受けて、鬼太郎は恐ヶ淵に向かう。ノイローゼを引き起こした薬品付きの手紙を送り、この病を引き起したのは、鬼太郎に恨みを持つ妖怪・百々爺だった。幻想の妖怪たちに対する恐怖心を克服できないまま、鬼太郎は百々爺に恐ヶ淵から落とされて窮地に陥る。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。

演出●境　宗久　**脚本**●田村竜　**作画監督**●出口としお

【第107話】

山の神・穴ぐら入道

1997年2月8日放映

STORY

山と人間のために生きた妖怪の最後の決断

山神山に住む優しい妖怪・穴ぐら入道がついに怒った。今まで道路工事やスキー場の建設など、人間の都合で住みかを追われても黙っていたが、山神山を壊すトンネル工事には怒り、人間の生気を奪う病虫を操って襲わせたのだ。さらに穴ぐら入道は、病虫を合体させた大百足で工事現場を襲う。そのとき、工事によってあけられた穴から水が溢れ出てしまう。穴ぐら入道は自分の都合だけを優先する人間でも見捨てられず、大百足とともに自ら犠牲になり水の放出を防いだ。「お前は人間を救え」と穴ぐら入道から言い残された鬼太郎は悔し涙を流し、自分勝手な工事責任者を殴りつけるのだった。



原作

「穴ぐら入道」では穴ぐら入道を捕まえようとした人間に、鬼太郎が良心カビを吸わせて解放させた。病中や大百足は登場しない。

演出●芝田浩樹　**脚本**●矢島大輔　**作画監督**●木下和栄

【第108話】

不老不死！猫ショウ

1997年2月15日放映

STORY

鬼太郎、今度は赤ん坊になる!?

若返りの薬を研究していた、大学教授の論文が持ち出された。その論文を食べて若返りの方法を知った猫又は人間に襲いかかり、相手を瞬時に老人にする勢いで若さを吸収する。そして猫又は知能が上がり、無限に生きる力を与えられた妖怪・猫ショウへと進化した。鬼太郎も猫ショウに若さを吸い取られてしまうが、対抗して吸い取り返す。しかし若さのエキスの使用法を知らない鬼太郎は、赤ん坊になってしまう。そこで鬼太郎は巨大化した猫ショウの体に入り、体内にあった教授の論文を読むことで元に戻ることに成功。猫ショウはちゃんちゃんこに若さを吸収され、普通の猫に戻っていった。



原作

「妖怪猫髄」は、やはり猫又が論文を奪って、若返りの秘法を手に入れる話。最初に若さを奪われたのは、ある傲慢な男子中学生だった。

演出●明比正行　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●直井正博

【第109話】

雪山の怪異・のびあがり

1997年2月22日放映

STORY

怪現象の裏にある村の人々への愛

雪山の冬岳で、人々が木になってしまうという怪現象が起きる。その木は人間の血を吸って生きるということで、吸血木と呼ばれていた。鬼太郎は手紙をくれた少女・春の祖父が語る、10年前の出来事を聞いた。春の父親は山に落ちたという飛行機を救助に向かい、そのまま帰らぬ人となっていた。実際には落ちたのは隕石であり、祖父は隕石の穴の前で息子の遺体を発見すると同時に、謎の物体・のびあがりを目撃していた。鬼太郎は山へ行き、春の父親の魂と会話して「山の安全を守り、人々を助けたい」という強い意志がのびあがりと合体し、雪崩から村の人々を守るべく人々を木にしていることを知る。



原作

「吸血木」では、鬼太郎も赤い木になってしまい、実の中に宿って脱出した。地下に封じられていたのびあがりの目的は地上侵略だった。

演出●角銅博之　**脚本**●矢島大輔　**作画監督**●八島善孝

【第110話】

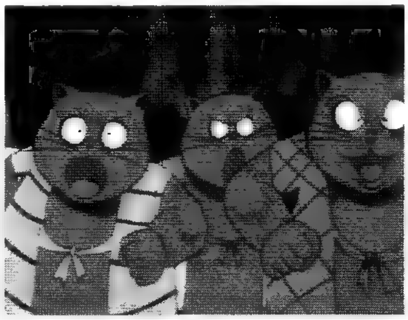
八百八狸の反乱(前編)

1997年3月1日放映

STORY

タヌキ王国の建国を目指す八百八狸の陰謀

四国の工事現場の爆弾で、八百八狸は400年の封印を解かれ眠りから覚めた。タヌキ王国の建国を目指す八百八狸たちは、東京の空にもうひとつの月を出現させ、人間たちをパニックに陥れる。政府は２つめの月を破壊しようとするが、それが妖怪獣を呼び覚まし、妖怪獣・蛟竜が東京で暴れはじめた。そして八百八狸は人間と仲のよい鬼太郎に、政府を説得するよう命令する。鬼太郎はその場を凌ぐため一度は了承するが、タヌキの根城から出てすぐにタヌキたちを封印する。しかし八百八狸のボス、刑部狸との約束を破った鬼太郎は、体がタヌキに変化してしまう。そして目玉おやじとねずみ男は鬼太郎を助けるため再度タヌキの封印を解く。



原作

「妖怪獣」では、タヌキ政権発足の際、総理大臣が「この惨状を招いたのは鬼太郎のせいだ」として責任をなすり付けるような描写がある。

演出●川田武範　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●信実節子

【第111話】

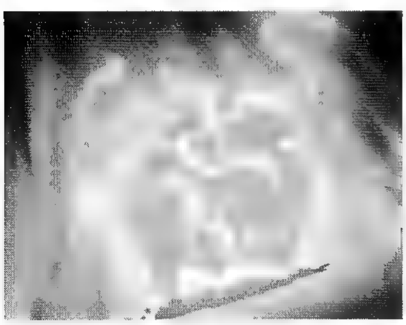
八百八狸の反乱(後編)

1997年3月8日放映

STORY

妖怪獣およびナマズ神との死闘！

目玉おやじを救出に来た鬼太郎は、八百八狸の部下であるナマズ神に食べられてしまうが、電気を放出してようやく脱出。八百八狸たちの妖力の源・狸石から消耗したパワーを取り戻し、東京の街を荒らす妖怪獣・蛟竜との対決に向かう。鬼太郎は蛟竜の体に入り込み、自分の胃液で蛟竜の体を溶かして倒した。続いて地上に現れたナマズ神を北極へ導き、冷凍して退治することに成功。一方日本政府から政権を奪った八百八狸たちはそうと知らず、タヌキ内閣を作り日本をタヌキ王国にしようと着々と進めていた。目玉おやじらは四国の八百八狸の穴を封印。八百八狸との長い戦いは終わりを告げた。



原作

「妖怪獣」では、米軍によるタヌキ討伐の水爆投下と妖怪たちがタヌキを封じた瞬間が同時だったため、鬼太郎の功績は気が付かれなかった。

演出●明比正行　**脚本**●大橋志吉　**作画監督**●出口としお

【第112話】

妖怪鬼髪と黒髪切

1997年3月15日放映

STORY

髪の毛妖怪の掟を破る鬼髪に鉄ついを！

妖怪・鬼髪が、ねずみ男の悪巧みにより封印から復活する。人間の髪を狙い、魂まで吸い取る鬼髪に鬼太郎が挑むものの毛針は相手に力を与えてしまい、霊毛ちゃんちゃんこも封じられてしまう。そこへ妖怪・黒髪切が現れ鬼髪を退治しようと挑むが、妖力が衰えている黒髪切では勝負にならなかった。髪の毛妖怪の長老の命に従い300年前に鬼髪を封印したのは黒髪切であり、黒髪切は仲間を封印したことで悩み、髪も食べずに過ごしていたのだ。話を聞いた妖怪アパートの住人たちは、髪を少しずつ提供。黒髪切は鬼髪を清めの炎で消滅させるべく、自ら犠牲になって炎に入り、燃え尽きてしまう。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。

演出●坂　宗久　**脚本**●田村竜　**作画監督**●直井正博

【第113話】

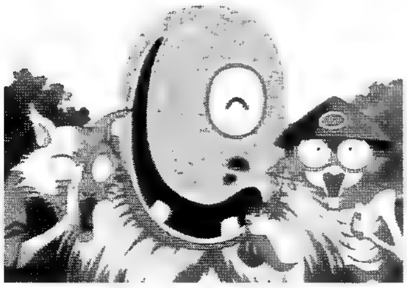
鬼太郎対三匹の刺客!

1998年3月22日放映

STORY

ぬらりひょんもヤキが回ったか!?

ぬらりひょんは鬼太郎を倒すために助っ人を雇おうと考え、朱の盤に探させていた。朱の盤が困っていると、ねずみ男が現れて事情を聞き、金目当てで「オレが見つけてやる」と豪語。しかし鬼太郎に勝てる妖怪などいるわけがないので、適当な妖怪をアルバイトと称して集め、朱の盤に押し付けようと考える。そして集められた３人の妖怪・五徳猫、如意自在、山爺は、どれもヘナチョコの食い詰め妖怪。しかし、ぬらりひょんは３人を強い妖怪と勘違いし、鬼太郎にけしかける。相手が鬼太郎と聞いた３人はビビリながら形だけは戦うが、鬼太郎が呆然と見ている間に自滅していくのだった。



原作

TVアニメオリジナルのストーリー。

演出●細田守　**脚本**●矢島大輔　**作画監督**●木下和栄

【第114話】

絶体絶命! 死神の罠

1998年3月29日放映

STORY

ヒー族と死神が共謀、危うし鬼太郎！

目玉おやじ・砂かけ婆・子泣き爺・ねずみ男のメンバーで、天国の妖怪たちとの再会ができる妖怪天国ツアーに出発。だがこれは死神とヒー族の巫女が、鬼太郎を亡き者にしようと仕組んだワナだった。鬼太郎の家には母を名乗る女性が現れ、疑いもなく信じた鬼太郎は毒を盛られて死にかけてしまう。母に変装したのはヒー族の巫女だった。タイミングよくアゲハ蝶が解毒剤を運んでくれて、難を逃れる鬼太郎。一方妖怪天国ツアーは、入ったら出られない無明彼岸の世界へ進んでいた。そこに鬼太郎は妖怪自動車で駆けつけ、何とか助け出す。鬼太郎はアゲハ蝶に、亡き母の存在を感じていた。



原作

「死神」では、死神はヒー族の巫女ではなく、魔女と組んで鬼太郎毒殺を謀る。目玉おやじはねずみ男にだまされ、宇宙に打ち上げられる。

演出●川田武範　**脚本**●武上純希　**作画監督**●海老沢幸男

【劇場版第1作】

大海獣

1996年7月6日公開

STORY

アカマタの思惑にはまり大海獣と化す鬼太郎！

南太平洋・バルル島にある大海獣・ゼオクロノドンの聖地。村の掟を破り、その聖地にズカズカと入ってくる日本人に腹を立てた妖怪・アカマタは、彼らを次々とさらう。事件を調べるために現地を訪れた鬼太郎は、キジムナーたちの一斉攻撃を浴び、さらにアカマタにより妖気を吸い取られ、薬を飲まされて大海獣にされてしまった。そして鬼太郎が変貌した大海獣を尖兵として、日本に乗り込んでくるアカマタ、やし落としら南方妖怪。鬼太郎は仲間たちに、大海獣が自分であることを何とか伝えようとするがその声は届かず、気が付けばアカマタの思惑どおり、東京を破壊してしまう。



原作

鬼太郎が大海獣になってしまうところは「大海獣」から。アカマタら南方妖怪が攻め込んでくるところは「妖怪軍団」をベースにしている。

監督●勝間田具治　**脚本**●星山博之　**作画監督**●荒木伸吾/姫野美智

【劇場版第２作】

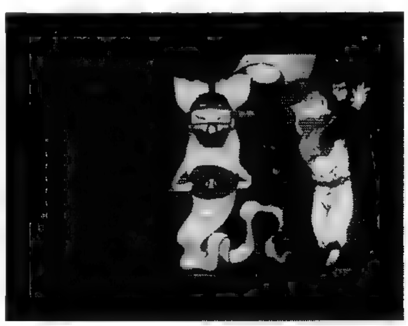
おばけナイター

1997年3月8日公開

STORY

“妖怪バット”を巡ってナイター勝負！

野球は好きだがあまりに下手で、ついに野球チームをクビになってしまった少年・三太郎が、ねずみ男の導きで手にした怪しいバット。それは、思うがままにホームランが打てる代わりに、打者の魂を吸い尽くす危険な「妖怪バット」だった。チームはその後ホームランを量産し、常勝チームに。人間たちが妖怪バットに依存している状況を見て危険を感じた鬼太郎は、そのチームに、バットと魂を賭けてのナイター勝負を申し込む。バットがあれば負けないと、試合を受ける少年たち。しかし鬼太郎ファミリーを中心とする妖怪との試合では、そのバットはまるで効力を示さないのだった。



原作

「おばけナイター」では、妖怪チームは一番鶏に驚いて墓場から逃げ帰る。“バットが打者の魂を吸う”などは、アニメオリジナルの設定。

監督●佐藤順一　**脚本**●島田満　**作画監督**●窪秀巳

【劇場版第３作】

妖怪特急! まぼろしの汽車

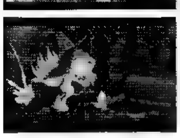
1997年7月12日公開

STORY

西洋妖怪が世界を支配!? “幻の汽車”を止めろ！

目玉おやじの夢枕に閻魔大王が立つ。吸血鬼、フランケンら西洋妖怪たちが、まぼろしの汽車を盗んで地獄から脱出。現世にも来世にも行ける「まぼろしの汽車」で暗黒世界へ行き、妖怪を支配する力を手に入れようとしていた。閻魔大王の命を受けて、汽車を止めるべく鬼太郎ファミリーが乗り込む。





原作

「まぼろしの汽車」の設定を使用し、VS.西洋妖怪の形にリメイク。完全オリジナルのストーリーに。

監督●吉沢孝男　**脚本**●大橋志吉
作画監督●荒木伸吾／姫野美智

【OVA】

コピー妖怪対鬼太郎

各種セミナーで上映

STORY

粗悪な不正品を生み出すコピー妖怪に怒りの鉄拳

企画・監修は不正商品対策協議会。知的財産権について学ぶ各種セミナーで上映される。人気商品を市価の1/3で買えると評判の、ねずみ男の「コピー商会」。しかしその商品は粗悪なコピー商品ばかり。一方、有名デザイナーなどの誘拐事件が多発。犯人は人の生気を吸いコピー商品を作り出すコピー妖怪だった。





原作

本編にも登場してきた妖怪・「輪入道」をモチーフにした、完全オリジナル作品。

演出●吉沢孝男　**脚本**●山崎晴也
作画監督●柳瀬譲二

【イベント上映】

風雲! 妖怪城

東映太秦映画村にて上映

STORY

妖怪城の三妖怪に加え見上げ入道まで結託！

東映太秦映画村にてイベント上映された、約13分の短編。復活した妖怪城に潜むたんたん坊、二口女、かまいたちの３妖怪に砂かけ婆、子泣き爺、ネコ娘が誘拐される。鬼太郎は一反もめんらと協力して３妖怪を次々撃破。しかし背後にいたのは、巨体を生かして何でも吸い込む妖怪・見上げ入道だった。





原作

「妖怪城」を原作に「見上げ入道」を加えた、オリジナルのストーリー。

監督●西尾大輔　**脚本**●西尾大輔
作画監督●松本明之

ゲゲゲの鬼太郎<第4部>放映リスト

放映日	話数	放映タイトル
96.1/7	1	妖怪! 見上げ入道
1/14	2	妖怪目目連の涙!
1/21	3	ギターの戦慄! 夜叉
1/28	4	恐怖! 鏡の国の鏡爺
2/4	5	ダイヤ妖怪・輪入道
2/11	6	暴走! 鬼太郎牛鬼
2/18	7	妖怪のっぺらぼう!
2/25	8	妖怪かに坊主と河童
3/3	9	爆走! 鬼太郎機関車
3/10	10	怪奇! 妖怪万年竹
3/17	11	毛羽毛現とがしゃどくろ
3/24	12	陰謀! 猫仙人の猫王国
3/31	13	妖怪屋敷へいらっしゃい
4/7	14	蜃気楼海竜・みずち
4/14	15	悪夢! 妖怪まくら返し
4/21	16	あかなめと白うねり
4/28	17	海奇. 妖怪さざえ鬼
5/5	18	深海の奇跡! 化け鯨
5/12	19	恐怖! 妖怪くびれ鬼
5/19	20	冒険 絶海の人食い島
5/26	21	白粉婆とのっぺらぼう
6/2	22	蜂起 妖怪泥田坊
6/9	23	風魔 妖怪雨ふり天狗
6/16	24	怪談. 妖怪陰摩羅鬼
6/23	25	古都の妖怪・おぼろ車
6/30	26	復活. 妖怪天邪鬼
7/7	27	吸魔 妖怪野づち
7/21	28	幻想譚・猫町切符
7/28	29	巨人伝説ダイダラボッチ
8/4	30	妖花! 夏の日の記憶
8/11	31	妖怪変化! 傘化け
8/18	32	電気妖怪カミナリ!
8/25	33	逆襲! 妖怪さら小僧
9/1	34	流浪! 妖怪あずきとぎ
9/8	35	鬼太郎の地獄流し
9/15	36	仰天! おりたたみ入道
9/22	37	大追跡! 妖怪自動車
9.29	38	血闘! おどろおどろ
10/6	39	妖狐・白山坊の花嫁
10/13	40	夜の墓場は運動会!
10/20	41	つけもの妖怪 ほうこう!
10/27	42	がんぎ小僧とねずみ男!
11/3	43	反乱! 妖怪化けぞうり
11/10	44	西洋悪魔・ベリアル!
11/17	45	もち殺し! 妖怪火車
11/24	46	妖怪大裁判（前編）
12/1	47	妖怪大裁判（後編）
12/8	48	えんま大王とねこ娘
12/15	49	水妖怪赤舌の疾走!
12/22	50	遊園地の吹き消し婆!
12/29	51	雪コンコン! 笠地蔵
97.1/12	52	コマ妖怪・あまめはぎ!
1/19	53	霊園行・幽霊電車!
1/26	54	妖怪邪魅とガマ仙人!
2/2	55	座敷童子と妖怪後神!
2/9	56	水変化! 妖怪水虎
2/16	57	吸血鬼エリート!
2/23	58	冷凍妖怪・雪ん子!
3/2	59	妖怪オバリヨン!
3/9	60	ぬらりひょんの陰謀!
3/16	61	妖怪いやみにご用心
3/23	62	怪奇! ばけ猫街道
3/30	63	メンソーレ! 妖怪ホテル
4/6	64	激争! 妖怪ラリー
4/13	65	驚異! マンモスフラワー
4/20	66	風雲! 妖怪城（前編）
4/27	67	風雲! 妖怪城（後編）
5/4	68	荒海の伝説・磯女!
5/11	69	悪魔ブエルとやかんづる
5/18	70	怪気象! 妖怪ぐわごぜ
5/25	71	オベベ沼の妖怪!
6/1	72	出現! 天狐の地底王国
6/8	73	爆進! 怒りの土ころび
6/15	74	大蛇神ヤマタノオロチ!
6/22	75	妖術・鏡合戦!
6/29	76	灼熱の妖怪! ひでり神
7/6	77	海和尚と船幽霊!
7/13	78	ぬらりひょんと蛇骨婆
7/20	79	中国妖怪襲来!（前編）
8/3	80	中国妖怪襲来!（後編）
8/10	81	子育て妖怪! うぶめ
8/17	82	古代妖怪・大首
8/24	83	ゲタ合戦! 妖怪逆柱
8/31	84	怪奇! 人食い肖像画
9/7	85	魔境・土蜘蛛の山!
9/14	86	死の使い・モウリョウ
9/21	87	迷い家の倉ぼっこ
9/28	88	妖怪ふくろさげの罠!
10/5	89	髪の毛地獄! ラクシャサ
10/12	90	峠の妖怪・ぶるぶる
10/19	91	夜の怪! 百鬼夜行の鬼
10/26	92	百目とぬらりひょん
11/2	93	月よりの妖怪・桂男!
11/9	94	鬼太郎魚と置いてけ堀
11/16	95	妖力泥棒・釜なり!
11/23	96	妖怪王・ぬらりひょん
11/30	97	追撃! 西洋妖怪四天王
12/7	98	試練・妖魔城への道!
12/14	99	決戦! 妖怪王対鬼太郎
12/21	100	暗闇の招き・妖怪影女
12/28	101	言霊使いの罠.
98.1/4	102	凶悪! 中国妖怪刑天
1/11	103	化けネズミ! 妖怪 旧鼠
1/18	104	恐怖! 吸血妖怪の島
1/25	105	迷宮・妖怪だるま王国
2/1	106	悪夢! 妖怪地獄
2/8	107	山の神・穴ぐら入道
2/15	108	不老不死! 猫ショウ
2/22	109	雪山の怪異・のびあがり
3/1	110	八百八狸の反乱（前編）
3/8	111	八百八狸の反乱（後編）
3/15	112	妖怪鬼髪と黒髪切
3/22	113	鬼太郎対三匹の刺客!
3/29	114	絶体絶命! 死神の罠

第4部のDVD-BOXも、07年に発売が決定!

第4部 鬼太郎役×第4部 ねずみ男役

松岡洋子×千葉繁 10年越しの爆笑対談!



鬼太郎は弱いからいいんじゃない?

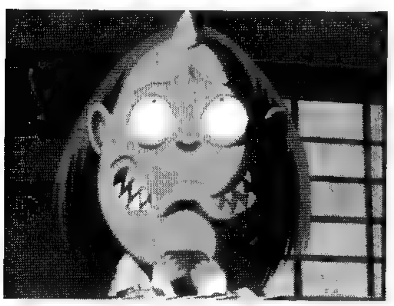
鬼太郎とねずみ男の、夢の対談が実現した！ 2006年時点では最新のアニメシリーズである第4シーズンで、前作とキャライメージがガラッと変わったメインの２人を演じたのは、松岡洋子と千葉繁。同じ事務所の２人が、お互い突っ走りながらも絶妙のバランスを取りつつ進んでいく、第4シーズンの本編さながらの対談をどうぞ。

鬼太郎の弱さって必要だと思うんですよね

千葉　鬼太郎って見てましたか？　僕は子どものころ、モノクロで見ていましたが。

松岡　名前は知っていたんですけれど、作品としては見たことがなくって。役になってから初めて見たんです。本当は鬼太郎役のオーディションを受ける予定はなかったんです。なのにマネージャーが「松岡洋子だけはどうしてもやらせてくれ」って先方に言ったらしいんです。千葉さんとは同じ事務所だったんですけど、フィールドが違うんで、レギュラーで一緒にやったのは鬼太郎が初めてでしたね。

千葉　そうですね。現場の雰囲気も、あのころからガラッと変わりましたよね。僕らの時からフィルムからビデオに変わって。まったく違いますね。すごいスタジオが明るいんですよ。映写だと、室内が暗くないとダメで、それでみんな目を悪くしちゃうんですけど。



※1

松岡　昔は、モグラみたいに、人生暗かったですね〜。それと、作業効率的にすごく早くなりましたね。デジタル化最初の作品だった。実際に収録に入る前には、前の第1〜3シーズンは、チラッとだけ見ました。私は鬼太郎として３代目なので、あまり前の方にひっぱられるのも嫌だったし。自分なりの鬼太郎をやりたかったので、できるだけ見ないようにしていました。鬼太郎って、無敵のヒーローじゃないところがいいのかもしれないですね。制作スタッフの方と、最初のころに話したんです。いかにも無敵なヒーローという感じじゃなくていい。どこか暗いカゲがあって、"やる気のなさ"があったほうがいいって。

千葉　鬼太郎は弱い。それがいいんじゃないですかね。無敵だったらたぶんつまらないと思います。無敵であれば目玉おやじも必要なければ、ネコ娘も必要ない。好きにやればいいじゃん、となりますからね。

松岡　仲間の良さとかもあるもんね。

千葉　お互いが補いあって、パズルのピースを１個１個はめていくようなものですよね、鬼太郎ファミリーは。その１個が各キャラクターで、ピースを組み合わせることで、事件や状況を変えていく力が出てくる。でないと、ドラマとして成り立たないもの。

松岡　普通のアニメだと、男の子が大ヒーローで突出して、あとのキャラはその下にいる。でも鬼太郎って、みんなが主役なんですよね。そういう横の広がりを感じられるのが、逆にいいなって。

千葉　人間らしいから、見ている人もキャラクターに共感できるんだと思いますね。ああ、私もこんなことあるなと。だから人気がある作品なんじゃないですかね。例えば、ゴルゴ13がイボ痔だったらいいなって。一見渋くてカンペキでも、大事なときにイボ痔が痛くなって的を外しちゃったとかね(笑)。ある部分は憧れるんですけど、中身は同じ人間だぜ、っていう。そういうスタンスでこそ、キャラクターが生きていくんじゃないかな。

アドリブは必然的に出るもの それがキャラを育てていくんです

松岡　朱の盤が好きだったんです。お茶目で、ドジで、可愛いし。郷里(大輔・朱の盤役)さんがカワイイ方ですから。

千葉　鬼太郎に出てくる妖怪っていうのは、基本的に悪くはないですからね。ある意味、人間が侵害した生活に対して、警告を与えたりするような。いわゆる悪霊とは違いますもんね。

松岡　ねずみ男って可愛いですよね。

千葉　一番人間っぽい感じかもね。

松岡　ねずみ男って悪さをするけど、あまり邪険にしたくないんで

「鬼太郎ってみんなが主役なんですよね」

すよ。"ねずみ男らしさ"で逆に助けてもらっていたりもするので、やっぱり鬼太郎からすると仲間ですよね。

千葉　ねずみ男を担当するのが決まったときに、プロデューサーと時間をかけて話し合ったんです。今回は、どんなふうにやりましょうかと。僕はね、ねずみ男は妖怪だとは考えてないんですよ。人間の持っている弱さを表現している、庶民の代表だと。悪いことをしようとしているわけじゃなくって、"貧しい"んですよね、ただ単に。それで、やることがはたから見ると危なっかしいんですけど、自分の生活を守るために必死になっているわけで。彼はいい環境であれば、悪さをしなくても生きていけるはずですから。庶民の代表なんです。



松岡　人ってそうですよね。環境によって、言動も表現の仕方も随分違いますから。鬼太郎もねずみ男を見ていて、ちょっといきすぎだ、といさめる程度で。最終的にこっぴどくやるというのはない。ねずみ男を懲らしめるっていうのはないんですよ。

千葉　第1～2シーズンで大塚(周夫)さんがやられて、次にちょっと知的な富山(敬)さんとなり、じゃあ僕がやるときにどうしようか。そう考えたとき、庶民の代表みたいな感じでやりたい、と思ったんです。ただ、いわゆる脚本があるわけですから、僕はこんなふうに思うんだっていうのを、どうやって制作者の方たち(役者や監督)に訴えていくかっていうと……「アドリブ」しかないんですよ。

松岡　どの作品もそうなんですけれど、シリーズの最初の1～2話は試行錯誤するじゃないですか、役者は。どこか手探りなんですよ。後で見ると、全然違うじゃないって思うことがあるんです。

千葉　少しずつ役柄を作っていく過程で、アドリブが出てくる。そのアドリブのなかで、僕はこう思うというのを一生懸命アピールする。もちろん脚本どおりにやることはできるんですけれども。キャラクターと俳優というのは、どうしてもだんだんと同化していきますね。そのなかで、こういう状況になったら、僕だったら……と思うと、どうしてもアドリブになっちゃうんですよ。本当に、役と役者が一体化したときには、自然と出てくるんです。役者ってそういうもんだと。

松岡　それがまた、次の脚本を作っていくうえで生かされていく。

千葉　ただ単におもしろいことを狙ったアドリブと、役の本質から突っ走ってしまうものと、アドリブでも2種類あるんです。単なる言葉遊びのアドリブって、僕は死んでいるものだと思う。どうしても言わざるをえない、そういった役者のアプローチを監督が見ていて、次のシナリオにその要素を使っていただいて、軌道修正しながらやっていくんです。それがだんだん、アドリブをやらなくてよくなっていく。というのは、シナリオがそういうふうに書かれますから。だから、最初のうちはあがくんですよ。こういうアプローチをやりたいんだって。そうしたほうが、キャラクターとして大きく育つと思うんですよね。

松岡　でも、千葉さんは何を言い出すかわからないですからね。ほかの作品の話ですけれど、台本に一部セリフがなくて「千葉さん1分お願いします」「好きにやっちゃってください」とか書かれる人なので(笑)。絡む人はみんなドキドキですよ。こっちがトチっちゃいますから。

千葉　シーンに合っていれば、こっちのほうが効果的かなと思うと、バ～ッと台本に書いちゃうんです。

松岡　テストのときは、みんな爆笑してますよ。本番はこらえますけど。

千葉　テスト・ラスト・本番って3回やるんですが、テストでやってみて、このままじゃつまんないなと。じゃあ違う方法でやってみようと。一応台本に書くんですけどね。本番で言いたくなるかはまた別なんですよ。まったく違うことが浮かぶ場合があるんで。本番で、バッと言っちゃう場合が、多々あるんですよねぇ。

鬼太郎ファミリーに入れた
それは素直に嬉しいですね

松岡　今日の対談なんですけれど、私はちょっと気が重かったんですよ。昨日のことも覚えてないのに、10年前の話なんて……(笑)。



松岡洋子PROFILE
まつおか ようこ 1954年生まれ。東京都出身。声優。元気な少年役から妖艶な熟女役まで幅広くこなす。代表作に『おジャ魔女どれみ』(マジョバニラ役)、『ヒカルの碁』(越智康介役)などがある。

千葉　題名を見ても、あまり映像を思い出せないなあ。記憶を辿るっていうのは不可能に近い。なんで思い出せないんだろうって考えてみたんですけど、僕らはその話には、収録の2時間半しか接していないんですよ。収録はバッとやって終わり。その後は、次の現場で別の作品をとるために、頭が初期化されるんですよね。で、オンエアはだいたい見られない。

松岡　いろんなキャラクターを仕事でやりますからね。内容となると……。短いから染み込んでいる、というわけでもないものなんで。

千葉　身もフタもないようなこと言って……。(一同爆笑)

ただ、鬼太郎ファミリーに入れたっていうのは、独特なアニメなので素直に嬉しいですよね。

松岡　私も自分の代表的な作品であるし、未だにファンレターには鬼太郎のことが書いてあるので。

千葉　鬼太郎の世界は、周りがどんな時代になろうが、人間の営みの本質的なところで構築されているから、28世紀で放送したとしてもOKだと思いますよ。人間そのものって大きく変化してないし。たぶん

「ねずみ男はぜひ実写でやってみたいね」

室町時代でも変わってないと思うんですよ。トイレが水洗になったという変化はあっても、ウ●コすることは変わってないですからね(笑)。

松岡　毎回ちゃんとテーマがあって、訴えかけるものがある作品というのもすごいですよね。

千葉　“美しい日本”って、日本の伝統文化とか暮らしの良さをもう一度掘り起こしてとか言っていますけど。政府の人、みんな鬼太郎を見たほうがイイですよ。

松岡　環境問題のこととかね、いろんなことをテーマにしてるし。

千葉　人ってどうよ！?ってことをいっぱい言ってる。こういう作品ってレアですよ。

松岡　今の人たちに見せてあげたいなって思う作品ですよね。でも鬼太郎は、あんまり馬鹿なこと言えないから。ハメを外せないというか。人間の本質を出しづらい立場なので、収録でつらいこともありましたね。思わず言いたくなることもありましたけどね。

千葉　鬼太郎が言っちゃあ、おしまいだよ。

松岡　舞台とかだったら、平気で言っちゃえるんですけど、鬼太郎のキャラを背負っていると、あんまりつられてはいけないなと思って。

千葉　そういった意味で、ねずみ男のキャラは、どちらに振れてもいいように自由だったなぁ。時にはねずみ男のクセに、すっごい熱いセリフ吐いたりしてね。この小百合さんとのエピソードとか(24話)。

松岡　いいなあ、って思ってました。私もねずみ男はやってみたかった。難しいけど、すごい楽しそうですよ。

千葉　鬼太郎の中でやってみたい役っていったら、目玉おやじはおもしろいね。元祖の田の中(勇)さんの真似をしても勝てるわけがないから、あのトーンを使わずに、博多弁なんかでやってみたい。

松岡　私はねずみ男、やっちゃう?いいですねぇ(笑)。

千葉　役者としては、えー僕がこの役でいいの?っていう意外性ある役を振られたときは嬉しいよね。僕なんか寡黙な役がなくって、いつも口数が多いじゃないですか。だから『めぞん一刻』の四谷さんを振られたときは、ビックリしたなぁ。ビックリしすぎて、一度断っちゃったもの。話をしてみて「千葉さんの好きなように」って言われたから、安心して受けられたんだけどね。



千葉繁PROFILE
ちば しげる 1954年生まれ。熊本県出身。俳優、声優、音響監督ほか。声優としての代表作に「北斗の拳」(2代目ナレーター役)、「ハイスクール！奇面組」(一堂零役)などがある。

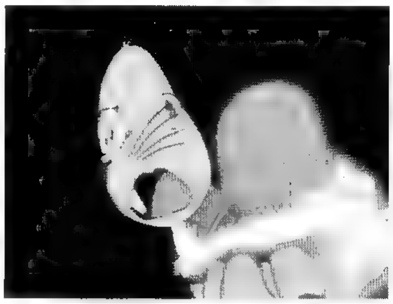
松岡　千葉さんって、いつも声帯が疲れる役ばかりだものね。大丈夫かな、って心配しちゃうけど。

千葉　声帯がね、東急ハンズとかで売ってればいいんですけど。「Aの4番ちょうだい」カチャ、みたいに。(一同爆笑)

主人と『目玉と鬼太郎』ごっこして娘が喜んでしょうがないんですよ

千葉　そういうわけで「記憶に残るセリフを」と言われてもなかなか出てこない。呼びかけとしては「鬼太郎！」って呼びかけが一番多かったよね。

松岡　私はやたら「ハイ、父さん」ってセリフが多かったですね。うちの主人が、目玉おやじのマネがスッゴイ上手なんですよ。声が高くて田の中さんの感じにそっくりなんです。家でご飯を食べながら、「オイ！鬼太郎」とか「ハイ、父さん」って言うと、子どもに「お母さん、また『ハイ、父さん』って言って」って。一時期はそればっかりやってましたからね。あとは、娘の小学校とかに行くと、私が鬼太郎をやっていたのを知っているんです。子どもたちが集まってきて「ハイ、父さん」って言えって。「言えません、アニメの顔を見なきゃ」って。私は、映像を見ないと声が出てこない。



※2

千葉　よくイベントとかでも言われるんですよ。でも、似たような声は出るけれど、絵を見て言うのと違うんですよね。僕らは絵に命を吹き込むわけですよね。例えば、(松岡さんを見て)こう見たら松岡さんなんですよ。鬼太郎ではない。僕もねずみ男でもない。絵を見ると瞬間的に頭が切り替わるんですけど。あ、この声だ！とかね。

松岡　鬼太郎の声を出してください、って言われても、あれ?って感じ。

千葉　極端に変えている場合は、出ると思うんですけど。僕は、やっていること自体は、何をやっても同じですから。性格を変えているだけなんですよね。声は基本の3オクターブを、どの役でも使っているので。だから“ガヤ”できないんですよ。すぐバレちゃう。

松岡　自分の中にあるものを引き出してもらえるキャラクターと出合うときっていうのは、俳優として幸せですよ。

千葉　ねずみ男っていうのは、遊びの要素をドンドン引き出してくれたので、すごいキャラクターと巡り合えたなと思っているんです。ぜひ、実写でやってみたいなと思って。

声優という職業はないんです 商品として多面性がないと

千葉　日本では声優という職業はないんですよね。「俳優」と「タレント」しか税金申告書の職業欄にも明記されていなくて、声優って俗称

なんです。僕らも基本的に映画もドラマも舞台もやりますし。仕事の一部として、声優をやるんです。

松岡　それが今は、声優になりたいと思って、声優学校を出てきたって人が多い。声優だから舞台はできません、という人が出てきたんです。声優"も"やっていたはずが、声優"だけ"を目指す、と。別々なものだと思っている人が、かなり多くなりましたね。

千葉　ねずみ男をやっています、というのはひとつの仮面なんです。いちアーティストとしてはそれぞれのキャラクターを付け替えられるけれど、全部の仮面を取ったときに、俳優・千葉繁が存在していないと駄目だと思うんですよ。仮面を取っちゃったら、ただのフリーターになっちゃった〜という人が多くなっている。俳優の基盤がない人だと、ひとつの番組だけで業界から消えてしまうことにもなりますからね。

松岡　やっぱり、大切なのは"ハート"ですから。若い子に「今の声は高いほうが良かったですか?」なんて言われると、「問題は声じゃないんだよ」って言ってあげたい。ハートで出した声が大切なんだ、とわかってないなと思いますね。

千葉　ベテランになると、自分の多面性を引き出す役に出合いたくなる。真逆のものをやってみたくなるんですよね。ホント二枚目やっている人は、ほとんどが三枚目をやってみたいんだから。だいたい、アニメでいう二枚目なんて、実際にいるワケがない。ある意味、はたから見ればバカですからね。あんな人が街を歩いていたら逮捕されますよ(笑)。

松岡　やらせていただいて嬉しかった役があるんです。『スター・トレック ヴォイジャー』のキャスリン・ジェインウェイ艦長の役。じつは演出家の方が鬼太郎を見ていて、役をいただいたんですよ。でも、役柄は全然違います。知性豊かで、冷静だけど猪突猛進なトコロもある。



千葉　カラーの全然異なる役を振ることは、演出をする人間としては冒険なんですが、すごく楽しいんです。この役者さんはどの色合いが出るんだろう、って試してみることもできるし、ベテランならいろんな引き出しを持っているから、違う引き出しを見せてくださいよ、って振ってみる。二枚目に凝り固まっていたベテランの役者さんに、デタラメにギャグを入れた台本を渡してみると、そのうち面白がっちゃって台本のあちこちにギャグが入ってきたりしている。

松岡　ビックリしたのが『ワンピース』でアルビダの役を演じたのですが。すごいオデブちゃんの役だったのが急に美人になって。あれには慌ててましたね。ドン！と構えていて、これでずっとやるつもりだったんで「え！こんなことになるんですか！」って。もともとアニメで女性の役自体が少なかったのもあって、ちょっと焦りました。

千葉　本当の役者さんは、みんな商品として"売り"も持っているけど、同時に"多面性"も持っている。そうじゃなきゃいけないんです。

学校の裏庭に埋めた タイムカプセルみたいな存在

松岡　鬼太郎を見てくださっている昔からのファンの方は、今回のDVD発売を喜んでくれているんでしょうね。

千葉　鬼太郎を見ながら、作り手・送り手側と受け手とが、同じ時間を共有していたわけですよね。おのおのバラバラな生活を日ごろはしているんだけれども、あるものをボンと持ってきた瞬間に、時間がボンと戻るような、そういうすごい作品だと思いますね。鬼太郎は。

松岡　だから見る側もそうだろうけど、私たちも映像を見たときに、「あ、そうだよな、こんなことあったな」とこの時間に付随するものをいっぱい思い出せる気がする。

千葉　学校の裏庭に埋めたタイムカプセルのような。この作品がそういった作用をしてくれたらと思いますね。

松岡　私自身も、こういうDVDが出るのが嬉しくて。今、また鬼太郎ブームがきていると聞いているし、10年ごとにアニメになって「10年お化け」って言われているように、また始まったら嬉しいですね。

千葉　鬼太郎と水戸黄門を一緒にして、各都道府県に潜んでいる妖怪と出会いながら全国行脚する作品って面白くないですか?そんな企画が成立しないかな、って思っているんですよ。妖怪は、子どもを守るとか村の規律を守ることに役立っていた。沼に近づくなとか、危険を知らせるような役割を、妖怪が担ってきた。僕も、もっと小さいころからそういう話に接していれば、もっと面白かったのにな、と思うんですよね。



※3

松岡　そういう作品を作れば、また鬼太郎の面白さが再認識されますからね。私たちが演じたシリーズのファンだった方々も、もう10年経っているわけだから、私たちと同じで忘れているかもしれない(笑)。

千葉　そういう方々にも「一緒に10年、年をとってくれてありがとう」って言いたいですね。

第1部〜第4部｜目玉おやじ役

田の中勇インタビュー

38年「おい！　鬼太郎」

PROFILE
たのなかいさむ　1932年生まれ。東京都出身。声優。目玉おやじ役ほか、代表作『DRAGON QUEST-ダイの大冒険-』(ブラス役)、『ドラゴンボールZ』(ビビディ、ライチ役)などがある。



『ゲゲゲの鬼太郎』のメインキャストのなかで、ただ一人全シーズンを通して一つの役「目玉おやじ」を演じ続けている田の中さん。40年近くの間、目玉おやじとして見てきた現場、世の中、そしてご自分のことを、じっくりと伺いました。

初期の目玉おやじの声は僕も聞いてみたいんですよ

今回の『ゲゲゲの鬼太郎』のDVDボックス・60年代、70年代のシリーズ発売に関して、どう思われますか?

いや、僕も見たいんです。60年代のモノクロ版なんか、全然自分では見ていないんですから。その当時は昼間は家にいなかったし、テレビを持ってなかったのかな?　オンエアで見ていないんです。収録後に視聴するわけではないでしょ。だから、話の内容も全然覚えていないんですよ。
昔の収録は、1話を10ロールぐらいに分割して、リハーサルなどはなしでいきなり出力からやったから、その場面に登場しないキャストは行かなくてもよかったんですよ。だから、よくストーリー全体の筋がわからないんです。
DVDで発売されるっていうのは、驚くようなことはないですね。今は何でもDVDばやりでしょ。当然、鬼太郎のも出ると思っていました。劣化しないから本当に便利ですもんね、DVDは。



あの“目玉おやじの声”の、誕生の秘密を教えてください。

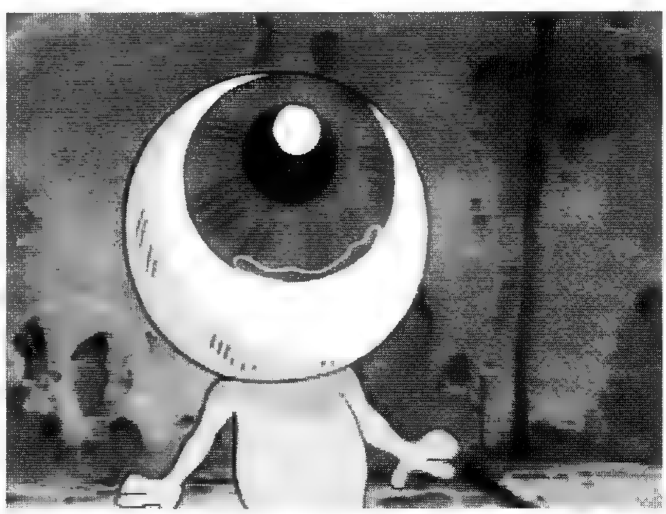
あの声は、前から使っていた声なんですよ。僕が仕事していた『おはよう! こどもショー』っていう番組が昔、あったんですね。それに出てくるロバの声をやっていたんです。それはむしろ子どもの声なんですけど、それを老人っぽく出して、利用しただけなんです。
最初に目玉おやじの絵のサンプルを見せていただいたときに、とてもちっちゃいという話を聞いたんです。そんなちっちゃいのが野太い声ではダメだろうと思いましてね。ただ、初期の目玉おやじって結構グロテスクな、気持ちが悪い感じだったんですよ。最初のモノクロのころの絵は、だいたいがおどろおどろしいのね。
だからあの声で、もうちょっと凄みを増して話していたはずなんです、最初は。それがどれくらいの声だったのか、初期のころの目玉おやじの声を自分でも聞いてみたいんですよね。

第1シーズンを終えて第2、第3、第4ってだんだんやっていく間に、絵がだんだん可愛くなってきて、声もそれに合わせて可愛くなってきちゃったんですよ。絵が変わってきちゃったから、自然と見ているうちに、変わっちゃうんでしょうね。仕草やなんかでね。

それはおやじとしては鬼太郎が可愛いだろうと思うよ

シリーズごとに目玉おやじのキャラが変わっていくのは、台本を見たらわかっていく感じでしたか?

目玉おやじはね、もともとあんまり、人を感動させるようなことを言わない人なのよね。それと昔はあんまり喋らなかったんですよ。「オイ! 鬼太郎」「なんとか〜するんじゃ!」ぐらいで。長いセリフなんてなかったんです。出ていないときも多かったくらいで。話の要所要所を押さえるくらいでしたね。
それが、第3部のころには、1ページくらいの長いセリフも出てくるようになっちゃって。長々と妖怪について説明することが多くなったんですよ。長ゼリフが続くと、声が出なくなっちゃうんですよね。この



※1

声って一発芸だから(笑)。
それと第3部のころは、やたらと興奮して泣いちゃうシーン(※1)があってね。鬼太郎が危なくなって心配でね。そのときも大変でした。あの声で悲しむ演技とか泣く演技は、ホント難しいんですよ。目玉おやじは泣くときって、基本「トホホッ……」で泣くんだよね。タダでさえ泣く演技って難しいのに、あの声だからねぇ。



「長いのはダメなんです、この声一発芸だから」

「さすがワシの息子じゃ」とか「それでこそ自慢の鬼太郎」など、過保護以上に、親バカな発言をずいぶんしていますよね。

私、そんなこと言いましたか？　そう見えちゃうんだね。自分でやっていると、そういう感じはなかったですけどね。
だって、目玉になって飛び出してきてまで、鬼太郎を守ろうとしているんだから、ま、可愛いだろうと思いますよ。母親は早く死んじゃっているんですから。
鬼太郎はなんてったって、命を張って戦っているわけで、心配することが多いじゃない？　だからやっぱり、親心は強調されますよね。
第3〜4部になると「目玉おやじはなんでも知っている」というふうな立ち位置に描かれちゃって、結構偉いんだな、とか私も驚きましたよ。「ワシはナントかじゃ、〜をよく知っているんじゃ」とか言うものね。閻魔大王とかと顔見知りになっていたりしてね。
目玉おやじの好きな、茶碗風呂のこともよく聞かれるんですけど。酒風呂（※2）ってやりましたかね？　ほかでも言われたことがあってね、酒風呂に入ったっていう記憶がないんですよね、私には。
（資料を見ながら）西洋泡風呂とか、コーヒーカップに入ったこともあるんですか、へぇ〜。鬼太郎が帰ってくるまで茶碗風呂を断ったって話は、ちょっと覚えていますね。

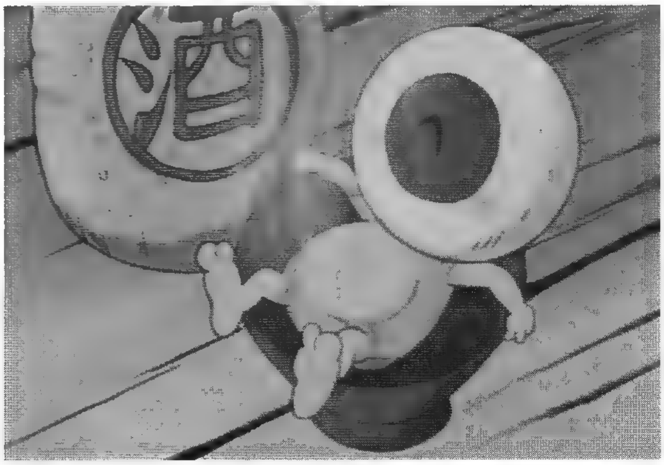
収録のときに記憶に残っている思い出を、何か伺えますか？

第1部のころは、横浜に住んでいたんですよ。だからスタジオの大泉まで2時間半もかかるのを、毎週通っていたんです。初期のころの俳優は同じ劇団の仲間だったし、入ってくるなり、みんな役の声で話していたりしたね。野沢さんなんかは、鬼太郎の声で「おはよう!」とか言っていましたよ。
もともと、大塚さん（第1部、第2部ねずみ男役）とは、同じ事務所でしたね。あの人は、花形俳優だったんですよ。スーツなんかいつも着ていて、ダンスとかやっていた人ですからね。舞台では3回ぐらい公演をやったかな。野沢さん（第1部、第2部鬼太郎役）は、その事務所に僕が辞めてから入ったんですよね。そんな感じだから、顔合わせのときから、とっくに顔見知りですからね。野沢さんとはほかの仕事でも会っていたので、顔見知りもいいところですよ。第1〜2部は、スタートから現場のやりやすさは大きかったです。
全4シーズンやっていて一番覚えているのは、現場での話じゃないんだよね。むしろ、現場へ行けなくなっちゃったときの話。ただ1回だけ朝起きたら心臓がおかしくなっていて、行けなくなったときがあって大変だったんです。実家へ「死んじゃうよ」って電話したの（笑）。それで「今日は具合悪いから出られない」ってスタジオへ電話したんですよ。そのときだけ、大竹宏さんが1回だけ目玉おやじを演じてくれた（※3）んですよね。あまり知られていないと思うんですが。
で、私は放送をほとんど見られないんですけれど、1回だけ鬼太郎を再放送で見たことがあるんです。その回が偶然それだったんですよ。あれ？　この絵見たことないな、って見ていたら、大竹さんが変わってくれた回だった（笑）。（第2部・4話「雨ふり天狗」）
今だったら後録りとかできるんだろうけれども、昔はできなかったんだね。もう現場も大変だったでしょうけどね〜。そのことはよく覚えていますよ。

僕から言わせると 4部が一番スタンダードにできたかな

全4シーズンすべてを見てきた田の中さんにお伺いしたいのですが、「鬼太郎」は時代によって比較的ストーリーや役柄の変化が激しいように思われます。自分として違和感とかはありませんでしたか？

時代とともに、鬼太郎の性格とかストーリーとかが変わっていくっていうのはありますよね。
3部だと、公害が出てきたりだとか、鬼太郎の友達として、人間の女の子のユメコちゃんが出てきたりして。1、2部とは全然違うな、と最初は思いました。こうやって変わっていくんだなって。これは、自分がそっちに付いていかなくちゃいけないなと思いながら、演じていましたよ。もともと3部は、メインキャストを僕も含めて、すべて入れ替えて作りたかったみたいなんだよね。目玉おやじに関しても、オーディションをしたって話を聞きました。でも、結局僕のところに依頼がきて。正直「ほら見ろ」くらいには思いましたよ（笑）。
あと3部では鬼太郎が幼くなったり、デザインとか作り方がちょっと子ども向けっぽい感じになったりしていましたよね。目玉おやじの体もちょっと違うしね。足の長さとか、お腹の出っ張り方とか。第1〜4部全部を並べて見てみたいね。そうじゃないと、わかんないものね。

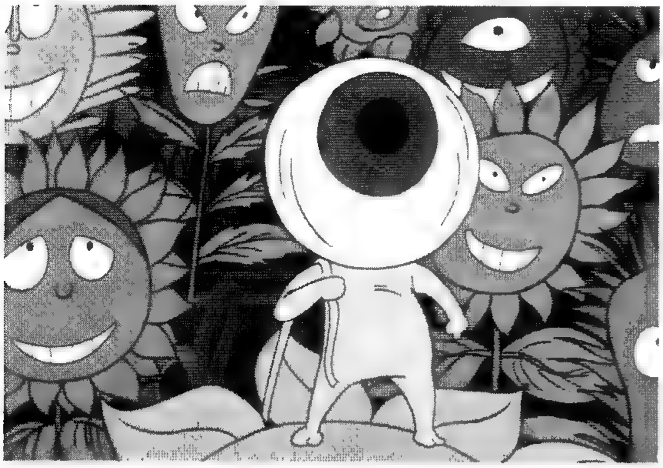


※2

でも、ねずみ男は、第3部の富山（敬）さんの芝居が好きだったな。大塚さんと同じくらい良かったと思う。演技も大塚さんとすごく似ていたし、弾け方のバランスが良かったんじゃないかな。第4部の千葉

「真似する人はみんな「覇気」が足りないんですよ」

(繁)くんは、ちょっと弾けすぎた感じがあるかも。アレもコレも一生懸命にやっちゃうから、ねずみ男のズルっこさが薄まっているのかもしれないね。
あと、第4部で鬼太郎を松岡洋子さんが演じたときは、1回目から横で聞いていて「この人は野沢さんにそっくりだなあ」とビックリしたの


※3

を覚えています。僕は知らなかった女優さんなので、よく見つけてきたなぁ、と思いましたね。
少し真面目さが際立つけれども、喋り方から演技なんかはホントにそっくり。「(野沢さんの)真似しているの?」って聞いたら、「いいえ別に、そういうことはないんですけど」っておっしゃっていまして。初期の鬼太郎は見ていなかったんでしょうね。野沢さんは演じ方とか声にガラッパチ的なところがあるけれど、それがなかっただけ。間の取り方とかそのほかはそっくりで、もうビックリしたもの。
僕から言わせると、第4部が一番スタンダードにできたかなって思うんですよ。なんか"鬼太郎らしい鬼太郎"という感じがしますね。野沢さんのガラッパチさがなくなって、松岡さんだとちょっと大人になった感じがしたけど、僕はあの感じが好きでしたよ。
まあ、全部に出演している唯一の役者って言われても、結構、間が空いちゃうでしょ、シリーズごとに。その間に前のことなんか忘れちゃうんですよね。
あとは、実写版TVドラマの声をあてたときのことは覚えているかな。目玉おやじなんて、人形を置いているだけなの。「これでやってください」なんて言われて、なんかやりづらかったんだよね。東映のアフレコ室って、真っ暗なんですよ。ほかの役者さんたちとは一緒じゃないから、暗いところですごく小さな灯りでやるの。アニメのアフレコ現場とは全然違う。でも覚えているのは、現場で目玉おやじの声で第一声を出したら、スタッフさんが歓声を上げたことなんだよね。「すげぇ、本物だ!」って。ちょっとあれは面白かったかな。

ほかのゲスト妖怪やキャラクターで、印象に残っているものはありますか。

第2部以降になると、妖怪は、基本はいい奴なんだけど、人間の自分勝手によって悪さをしているという設定が多かったよね。グレちゃってるのね。そういう話の内容が、時代の先を行っているなと思ってた。わりと悪いことをする妖怪を演じる役者は、同じような人たちが来るんで、妖怪の印象も混ぜっこぜになっちゃうんですよね。
声優に関しての思い出は、ゲストで登場した作家の京極(夏彦)さんが出たときとか、佐野史郎さんが来たときは覚えていますね。2人ともお上手でしたよ。佐野さんは俳優さんだからともかく、京極さんも。



あと、敵妖怪でとにかく覚えているのは、3部のぬらりひょん(※4)。青野(武)さんのぬらりひょんは面白かった〜。あの人はね、現場で見ていて笑っちゃうんですよ。コワモテなんだけど、なんか面白いところがある。そういうところがうまいんですよ、スゴく。
それから死神ね。亡くなった神山卓三さんが演じていた死神は面白かった。なんか、本人に似ているんだよねぇ、愛嬌とか哀愁とかが。2部以降に何度も出てきていて、印象も強いし。顔も面白いよね、死神って。ちょっとアゴが出ていてね。

目玉の声をやってなかったら この業界から去っていると思う

第4部の終盤のころのインタビュー記事で、目玉おやじの役をやるのは、多分これが最後だろうと答えていますが。

そう思っていましたよ。だから、4部の10年後に実写映画が企画されて、自分がその声をあてることになるとは、正直想像もしていなかったですね。
『ゲゲゲの鬼太郎』で目玉おやじをやってなかったら、もうとっくに、この世界から去っているんじゃないですかね。最初は定年の65歳ぐらいまで演じられればいいと思っていましたからね。それがもう74歳でしょ。予定より10年もオーバーしちゃった(笑)。
第3部の後半ぐらいから、目玉おやじに関連する仕事が多くなっちゃったんですよ。むしろそっちのほうが稼ぎが良くなっちゃってね。パチンコもあったし、目覚まし時計だとか、最近じゃあ着信ボイスとかね。あとはゲームの声とか、音の出る雑誌なんてのもあってね。妖怪ばっかりの写真集が出て、その声を演じたりしたんですよ。
あとは、日本テレビの『女子アナ給湯室』っていう番組のナレーションも、目玉おやじの声でやっていたんだよね。あれはあとから野沢さ

んも一緒になって、鬼太郎と目玉おやじでやるようになったんだよ。

“その声”を求められることが多かった、ということですよね。

面白かったのがCMなんだけれど、名古屋のパチンコ業界の大きな会社があるんですよ。そこのCMで名古屋まで行って「目玉おやじは、出玉おやじ!」って言うだけの仕事があったんだよね。あれは面白かった〜。わざわざ名古屋まで行って、その一言だけ言って帰ってきたんだから(笑)。
それと関西テレビで、やしきたかじんさんの番組のナレーションを目玉おやじの声でやったんです。それがとにかく政界の人をけなす番組で、政治家のVTRに対して「この野郎は××××じゃ〜!」みたいな感じで、ケチョンケチョンにけなすんだよ。鬼太郎も出てくるんだけど、青二塾(田の中さん所属プロダクションの育成部門)の若手が鬼太郎の役をやって。あれも面白かったなぁ。東京ではああいう企画はやらないですね。やっぱり大阪だよなあ、と強く思ったんです。もう数年前の番組だけれど。

子どもたちから、目玉おやじの声をせがまれることなどもあるのでは?

お正月に親戚で集まったりすると、子どもからせがまれましたね、最初のころは。実は、第3シーズンの収録中に親父が死んで、第4シーズンのときおふくろが死んで、なんかの因縁かと思ってね。……5回目はやらないよ(笑)。
お通夜に行くと、親戚の子どもたちがみんな集まって、声だしてくれって言うんですよ。めったにやらないですけどね。でも葬儀屋がナレーションで流すんだよね。「三男の勇様は、ゲゲゲの鬼太郎の〜」とか言っちゃって。困ったもんだよ。

実写版の仕上がりは すごく楽しみだね

もう40年以上日本アニメと関わってきて、変化している部分などを感じますか。

もうずいぶん変わりましたよね。近ごろの収録現場では、絵が全然ないんですよ。収録する声を入れる段階で絵がないから、役柄で誰が何色っていう線が決まっていて、セリフのときにその線が出るのでね、そのタイミングでセリフを言うんです。それがどこに出るかわからないので、あれは難しい。というか、できないんですよ。演技になんてならないもの。役の表情もなんにもないんだから。だから最近はアニメは全然やらなくなっちゃった。お断りしているんですよ。
そういえばこのあいだは、先ほど言った2007年GW映画のアフレコ現場に行ったんです。あの、ウエンツ(瑛士)さんが鬼太郎役の作品ね。実写版の目玉おやじのアフレコって、そうそうあるものじゃないですから、久しぶりだったのでちょっと面白かったかな。これも絵がポンと出てきて、これでやってくださいと言われて録音しました。もう収録は終わったんだけど、これから処理に時間がかかるらしいから、どんな目玉おやじになるのか全然わからないので、すごく楽しみですね。出番も結構多かったし。

多くの人が目玉おやじの声を真似しますが、本家としてはどんな気持ちですか?

くすぐったいというのと、やっぱり嬉しいよね。目玉おやじの声って、聞きやすい声ではないじゃないですか。高い声というのは、ホントはテレビではいけないんですってね。お年寄りにも悪影響があるらしいという話ですよ。
昔はCMにもよく出たんだけれども、だんだん「高音はよくない」っていう研究結果が出てきた関係からか、使われなくなってきたんだと思いますよ。高音は、耳に異常が出たりするとかで。だから、アレに近い声がほかの作品で(ほかの声優で)出てくることもなくなっているんじゃないかな。
目玉おやじの物真似をする人の声は、いかにも裏声なのね。弱々しいんですよ。声は似ているんだけど、もっとキッと力が入っているんだよね、実際の目玉おやじは。
目玉の声でCMをやったとき、一緒にやった人が「こんな覇気があるとは思いませんでした」と言っていましたよ。柔らかく聞こえるらしいけど、実際に聞くと覇気が違うんでしょう。自分でも、どうやって出しているんだか、よくわからないのですが。ひとつ言えるのは、裏声じゃあないんですよ。だから、すぐ疲れるのね。
それと、ヒソヒソしゃべることができないんです。目玉の声ではヒソヒソ声にならないんですね。喉を使わないで息だけにしちゃうと、全然ちがう声になっちゃうんです。
まぁこれだけ、たくさんの人が真似してくれるっていうのは、愛されているキャラクターですよね。


※4

音楽の章

『ゲゲゲの鬼太郎』で忘れてならないのが、おなじみの主題歌だろう。水木しげる作詞、いずみたく作曲のOPは、シーズンが変わってもずっと歌い継がれている。そんな第3、4部を手がけた2組のアーティストに、曲についての一言アンケートを実施したぞ。

singers questionnaire 2大アーティストアンケート



第3部・主題歌担当 吉 幾三

PROFILE 72年歌手デビュー。77年、吉幾三に改名。84年の「俺ら東京さ行ぐだ」ほか、数多くのヒット曲を持つ。現在は、楽曲の提供、CMソング製作から映画、ドラマ出演に至るまで、幅広く活躍する。

Q どのような経緯で主題歌の担当をすることになったのですか？
A 突然レコード会社のディレクターがもってきたので、即OKでした。

Q エンディング曲「おばけがイクゾ〜」で苦労した点や、意識したところはありますか？
A お化けの怖さを出さないように。

Q 主題歌を担当されて、周りの反応はいかがでした？
A 子どもから妖怪の人と言われた。

Q 現在でも歌われる機会はありますか？
A 鼻歌程度です。

Q アニメに出演するとしたら、どのキャラを演じてみたいですか？
A やはり、鬼太郎かな？　でもなまりが……。

Q "鬼太郎初体験"はいつですか？
A TVで初めて観ました。妖怪のイメージが変わった。

Q 主題歌を担当される前に、アニメ『ゲゲゲの鬼太郎』は観たことがありますか？
A いくつか観ました。歌は昔から知ってましたが……。

Q お気に入りの妖怪がいたら教えてください。
A ぬりかべと一反もめん。

Q 『ゲゲゲの鬼太郎』の魅力はどんなところだと思いますか？
A 家族や仲間を大切にしているところ。

Q 鬼太郎に関して、ほかになにかあればお願いします。
A 今の教育現場を考えると、"イジメ"をなくすようなドラマを作ってほしいですね。



第4部・主題歌担当 憂歌団

PROFILE 75年、ブルースバンド「憂歌団」結成。「天性のダミ声」を持つ木村充揮をリードボーカルに、長年に渡り活躍する。99年「憂歌団」は無期限活動休止に入り、現在ボーカル木村充揮はソロとして活動中。

Q どのような経緯で主題歌の担当をすることになったのですか？
A もちろん鬼太郎のアニメは好きでしたが、やっぱり憂歌団だったからだと思います（笑）。

Q おなじみの主題歌をアレンジするにあたり、何か意識されたことは？
A まったく好きなようにさせていただきました。スムーズにできたと思います。

Q エンディング曲「イヤンなっちゃう節」は、どのようなイメージで作られたのですか？
A 新しい歌ができたらいいなぁと思って作りましたが、やっぱり元の曲がいいですよね（笑）。

Q 一緒にクレジットされる「with HAKABAS」とは、どのような人たち？
A よくわかりません（笑）。

Q 憂歌団がアニメに登場しアテレコも担当されましたが、いかがでしたか？
A 「目玉おやじさん」が昔のままの声優さんで、とっても感動しました。

Q "鬼太郎初体験"はいつですか？
A 子どものときにTVで観ました。

Q 主題歌を担当される前に、アニメ『ゲゲゲの鬼太郎』は観たことがありますか？
A もちろんです！

Q お気に入りの妖怪がいたら教えてください。
A みんな好きです。

Q 『ゲゲゲの鬼太郎』の魅力はどんなところだと思いますか？
A 現代と未来、リアルと夢、そして人と自然。

Q 鬼太郎に関して、ほかになにかあればお願いします。
A 本当に好きなアニメのひとつです！

1、2部のBGMが発売!!

かつて完全なかたちで発売されたことのなかった第1、2部のサントラが発売中。CD化は望めないとさえ言われていわれていた幻のBGMと、主題歌&挿入歌併せて全127曲を収録する。スペースの関係で見づらくて申し訳ないが、トラック表を右に掲載したので購入の参考にしてほしい。思う存分"鬼太郎"ワールドを堪能しよう。

『ゲゲゲの鬼太郎 60's+70'sミュージックファイル』
ポニーキャニオン　¥3,675（税込）

DISC-1 Q−2/P−1/O−8/H−1/H−3/O−3/A−4/A−2T1/B−6/B−7/B−1/B−2/O−24/Q−3/Q−4/O−1T2/O−11/O−12/O−17/O−18/O−25/O−2/K−2/O−16T3/K−4/H−8T2/K−6/L−3T2/B−3/B−4T2/O−4/B−8/O−13/O−21/O−26/O−27/O−29/O−31/L−4/H−7/K−8/L−8/Q−6/H−2/O−19/A−6/O−9T2/C−3/K−12/O−22/C−2/K−11/H−9/L−7/P−2/O−15/O−23/B−5/G−6/H−6/A−9/G−3T2/H−5/A−5T2/A−7/G−1/G−2/Q−1/C−1/O−6T2/L−2/カランコロンのうた

DISC-2 ゲゲゲの鬼太郎/P−4/Q−13/G−5/P−3/A−2T2/A−8/P−5/F−1/G−4/O−28/O−30/O−32/O−33/O−34/O−35/O−36/O−37/L−6/Q−10/F−2/H−4/Q−5/L−9/O−7T2/O−14/O−10/L−5/K−9/O−20/Q−12/K−10/G−7/G−9/G−8/G−7/K−1/Q−11/K−7/P−6/Q−8/K−3/Q−9/O−5/A−3/K−5/A−1/L−1/カランコロンのうた/ゲゲゲの鬼太郎/カランコロンのうた/鬼太郎ないない音頭/鬼太郎メキシコオリンピックマーチ/鬼太郎妖怪クリスマス/ゲゲゲの鬼太郎



07年 4/28 (土)公開

最新版 実写映画 ゲゲゲの鬼太郎

日本が誇る不朽の妖怪コミックが、GW待望の実写映画化決定！ 公開前から、早くもそのキャスティングや最先端のCG技術が話題を呼んでいる。アニメファンを失望させない、“新感覚のゲゲゲワールド”に乞うご期待！

STAFF

監本木克英 原水木しげる 脚羽原大介 出ウエンツ瑛士／井上真央／田中麗奈／大泉洋／間寛平／室井滋（07 松竹）



ウエンツ鬼太郎が迫り来る
魔の手をなぎ倒し大暴れ!!

銀髪のイケメン鬼太郎がスクリーン狭しと飛び回る！

完全オリジナルストーリーで臨む初の実写映画が2007年GWに登場！ 長い歴史の中でも初の“銀髪”鬼太郎や、最高水準の特殊効果スタッフ陣など、公開は先ながら話題は尽きない。ちゃんちゃんこやリモコン下駄、髪の毛針などの必殺技が、想像を超えたリアルな描写でスクリーンによみがえる。ウエンツ瑛士のイケメン鬼太郎、大泉洋のねずみ男、田中麗奈のネコ娘など、華やかなキャスティングにも大注目！ 目玉おやじもフルCGで登場。

見どころ1

髪型は変わらないが、鬼太郎はその歴史上初の銀髪に。かつてないスタイリッシュな雰囲気に期待大！

見どころ2

鬼太郎の頼れる仲間たち、子泣き爺と砂かけ婆に間寛平と室井滋、ヒロイン的存在に井上真央と、豪華な出演者

見どころ3

国内はもとより、『少林サッカー』などの香港アクション映画のCG分野を支えるクリエイターたちが技を駆使！



こんなにピッタリなロケ地を、どうやって探したんだろう……と思えるくらいに似ていませんか？ アニメではさんざん見てきた「ゲゲゲの森の鬼太郎ハウス」が、清寂かつおどろおどろしい雰囲気で再現されています。よく見たら人魂飛んでるし。

その他の鬼太郎

Kitaro・others

1968年のテレビシリーズで初めて映像化された「ゲゲゲの鬼太郎」。現在まで約40年の歴史のなかでは漫画やアニメだけではなく、実写版のドラマ、映画、演劇、3Dアニメなど、さまざまに個性の光る鬼太郎が誕生してきた。そんな作品を一挙紹介!

オリジナルビデオ映画 妖怪奇伝ゲゲゲの鬼太郎 魔笛エロイムエッサイム

水木御大が生んだ 2大キャラが夢の競演!

『TV オバケてれもんじゃ』の後番組として企画された実写シリーズが「月曜ドラマランド」に移行。また同時期のアニメ第3シーズン開始を受け、オリジナルビデオという形に決着した。87年に発売されたが、現在は廃版だ。水木作品のなかでも人気の悪魔くんとの競演や、仮面ライダーシリーズなどを手がけたレインボー造型企画が担当した妖怪の造型など、見どころ満載。

見どころ1

悪魔くんとの競演は特筆すべき点。鬼太郎の奪われたちゃんちゃんこに悪魔くんが救われ、その悪魔くんが敵につかまった鬼太郎を救うという美しい構図。

見どころ2

特撮にはかかせない、レインボー造型企画の造型に加え、監督も宇宙刑事シリーズの小林義明氏が務める。東映の特撮チームが、出し惜しみなしの全力投球!



STORY

鬼太郎は親友・悪魔くんの「大好きな先生が妖怪に恋をして生気を抜かれ、ミイラ男になってしまった。今は廃墟にいるらしい。先生をいっしょに探してくれ!」との悲痛な叫びを受けて走り出した。下駄とちゃんちゃんこを奪われながらも、悪魔くんとの友情やファミリーの強力で妖怪たちに立ち向かう!

STAFF

監小林義明脚大原清秀出和田求由　田の中勇（声）　加瀬悦孝　うえだ峻　奥村公延　不破万作／西尾徳（声）／市川勇／余貴美子／吉田淳／汐路章／水木しげる（87 東映）

実写版 ドラマ〝ゲゲゲの鬼太郎〟



その後の“ゲゲゲ”要素を色濃く含んだ初実写化作品

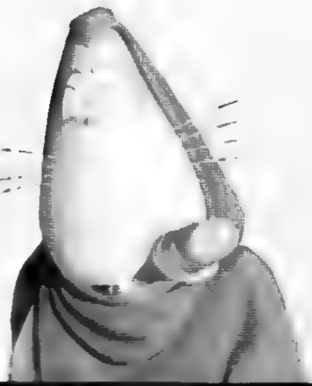
81～87年放送の、単発コメディドラマ枠「月曜ドラマランド」の作品。現在まで未ソフト化作品ではあるが、ラストのボスとしてのぬらりひょん、また人間で鬼太郎と同世代の女の子がヒロインとして登場するなど、その後の作品の要素を最初に盛り込んだものになっている。一反もめんに肩や足の“人間的”ラインが出ている点や、目玉おやじの独特の造型など、突っ込みどころ満載。当時この時間枠では驚がくの、SM や赤ちゃんプレイも衝撃的だ。

STORY

鬼太郎の元に女の子から届いた手紙は「最近、家で変なものを見る。お父さんの様子もおかしくて……」との SOS だった。女の子の家に現れたのは、吸血鬼エリート、あみきり、おっかむろ、そして影で操る女・ぬらりひょんだった。彼らの罠にはまり、砂にされてしまう鬼太郎だが……。

STAFF

原水木しげる脚山崎晴哉音馬飼野康二制フジテレビ、東映出六浦誠　竹中直人　夏樹陽子／石山律雄／木村有里／赤星昇一郎／佐渡稔／汐路章／うえだ峻／秦暎花／後根宣将／水木しげる　由利徹声田の中勇（85 東映）



ねずみ男
悩める三太郎に、恐怖が待っていると知りながらあえてすすめる、"ねずみ男っぷり"は健在。CGだと少々男前。

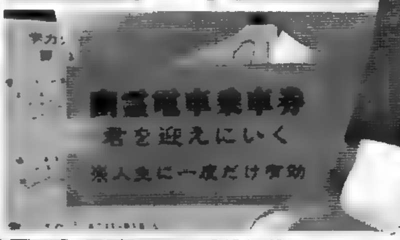


鬼太郎&目玉おやじ
助けを乞う三太郎に「次の停車は去年〜」と言う、冷徹な一面も。目玉おやじのお尻がキュート。

3Dアニメ 鬼太郎の幽霊電車



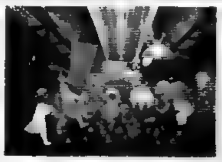




アニメの世界観はそのままにちょっと迫力ある霊界を表現

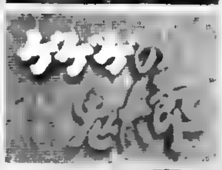
鬼太郎初の立体CGアニメーション。この作品のために完全オリジナルストーリーが用意された。主人公は鬼太郎ではなく、劇場版「おばけナイター」にも登場した三太郎。約13分と少々短めな作品ながら、テレビアニメのちょっとアナログ的な世界観をそのまま表現しているため、雰囲気が面白く、さらりと楽しめる。メインキャストは第4シーズンに同じ。

STORY
テストで0点を取ってしまった三太郎は、「昨日に戻ってテストをやり直したい」とぼやいていた。そこにねずみ男が現れ「願いを書いた手紙を鬼太郎に出せ」とたきつける。手紙を出した三太郎は、過去を旅する幽霊電車に乗るが、悪事を働く過去の自分を目にして改心していく。









STAFF
演細田守脚島田満3DCGデザイナー=村上大声松岡洋子／田の中勇／千葉繁 日高のり子 90 東映アニメ・ダイナモピクチャーズ

見どころ1
専用の偏光レンズ方式メガネをかけてスクリーンを観ると、妖怪たちの映像がとびだして見える大迫力。鬼太郎初の3D。

見どころ2
主役ではないが、鬼太郎は鬼太郎らしい正義感で三太郎を善導。大人が見てもうなずける道徳的ストーリー。

演劇 ゲゲゲのげ





いじめ問題に一石投じる劇団 3○○の代表作の1つ

100人収容ホールに350人もの観客を動員したという、劇団3○○の代表作。いじめられっ子マキオは、座長・渡辺えり子の実の弟をモチーフにしている。実際のいじめ体験をもとに、自分や弟を含めた声なき犠牲者たちの鎮魂劇となるよう願いが込められている。第27回岸田國士戯曲を受賞。

STORY
いじめられっ子のマキオは、ヒーローが現れるのを待っていた。と、その時カランコロンと下駄の音。あの鬼太郎がマキオを助けに来たのだ。いじめっ子たちは妖怪になっていて、それを鬼太郎が投げ飛ばす。マキオは、鬼太郎とともにマキオの創りだした魔境を駆け抜ける。

STAFF
原演渡辺えり子出菅野久夫／新谷一洋／中進／東銀之介／白石禎／前野修／稲垣広貴／藤堂貴也 小野正隆 聖あやみ もたいまさこ 光永吉江 村田ユチコ 竹内久美 渡辺えり子（82）

アニメがさらにおもしろくなる ゲゲゲの鬼太郎 原作 完全リスト

妖怪の章、ストーリーの章のコラム「原作との対比」で紹介した、コミック『ゲゲゲの鬼太郎』のリストです。紹介した単行本は比較的入手しやすいものを挙げており、単行本未収録作品はできるかぎり掲載誌を載せています。またこのリストには、コミック以外の小説や絵本なども掲載しています。

発表年	初出	タイトル	シリーズ	収録単行本
1959	妖奇伝①	幽霊一家	貸本	角川文庫『貸本まんが復刻版　墓場鬼太郎①』(2006)
1959	妖奇伝②	幽霊一家・墓場鬼太郎	貸本	角川文庫『貸本まんが復刻版　墓場鬼太郎①』(2006)
1959	墓場鬼太郎①	地獄の片道切符	貸本	角川文庫『貸本まんが復刻版　墓場鬼太郎①』(2006)
1959	墓場鬼太郎②	下宿屋	貸本	角川文庫『貸本まんが復刻版　墓場鬼太郎①』(2006)
1959	墓場鬼太郎③	あう時はいつも死人	貸本	角川文庫『貸本まんが復刻版　墓場鬼太郎①』(2006)
1960	三洋社刊	鬼太郎夜話①吸血鬼と猫娘	貸本	角川文庫『貸本まんが復刻版　墓場鬼太郎②』(2006)
1960	三洋社刊	鬼太郎夜話②地獄の散歩道	貸本	角川文庫『貸本まんが復刻版　墓場鬼太郎②』(2006)
1960	三洋社刊	鬼太郎夜話③水神様が町へやってきた	貸本	角川文庫『貸本まんが復刻版　墓場鬼太郎③』(2006)
1960	三洋社刊	鬼太郎夜話④顔の中の敵	貸本	角川文庫『貸本まんが復刻版　墓場鬼太郎③』(2006)
1962	兎月書房刊	怪奇一番勝負	貸本	角川文庫『貸本まんが復刻版　墓場鬼太郎④』(2006)
1962	兎月書房刊	霧の中のジョニー	貸本	角川文庫『貸本まんが復刻版　墓場鬼太郎④』(2006)
1964	兎月書房刊	おかしな奴	貸本	朝日ソノラマ『墓場鬼太郎①　<水木しげる貸本漫画傑作選>』(2001)
1964	佐藤プロ刊	ボクは新入生	貸本	朝日ソノラマ『墓場鬼太郎②　<水木しげる貸本漫画傑作選>』(2001)
1964	佐藤プロ刊	アホな男　怪奇オリンピック	貸本	朝日ソノラマ『墓場鬼太郎②　<水木しげる貸本漫画傑作選>』(2001)
1964	東考社刊	ないしょ話	貸本	朝日ソノラマ『墓場鬼太郎③　<水木しげる貸本漫画傑作選>』(2001)
1965/08/01	週刊少年マガジン	手		ちくま文庫『妖怪大戦争　ゲゲゲの鬼太郎③』(1994)
1965/10/10	週刊少年マガジン	地獄流し		ちくま文庫『妖怪大裁判　ゲゲゲの鬼太郎①』(1994)
1965/10/24~10/31	週刊少年マガジン	猫仙人		ちくま文庫『妖怪軍団　ゲゲゲの鬼太郎②』(1994)
1966/01/15	別冊少年マガジン	水虎		ちくま文庫『妖怪大戦争　ゲゲゲの鬼太郎③』(1994)
1966/03	月刊ガロ	鬼太郎の誕生(幽霊一家)		水木しげる黄金時代愛好者倶楽部『別冊水木伝説　鬼太郎外伝』(1989)
1966/04/03	週刊少年マガジン	吸血木		ちくま文庫『妖怪大戦争　ゲゲゲの鬼太郎③』(1994)
1966/04/15	別冊少年マガジン	ゆうれい電車		ちくま文庫『妖怪軍団　ゲゲゲの鬼太郎②』(1994)
1966/04/17~05/08	週刊少年マガジン	妖怪大戦争		ちくま文庫『妖怪大戦争　ゲゲゲの鬼太郎③』(1994)
1966/05/15~07/03	週刊少年マガジン	大海獣		ちくま文庫『妖怪大戦争　ゲゲゲの鬼太郎③』(1994)
1966/08/01	別冊少年マガジン	おばけナイター		ちくま文庫『妖怪大裁判　ゲゲゲの鬼太郎①』(1994)
1966/08/15	別冊少年マガジン	だるま		ちくま文庫『妖怪大裁判　ゲゲゲの鬼太郎①』(1994)
1966/10/09~10/16	週刊少年マガジン	妖怪城		ちくま文庫『妖怪大裁判　ゲゲゲの鬼太郎①』(1994)
1967/01/28	週刊少年マガジン	おどろおどろ		ちくま文庫『妖怪獣　ゲゲゲの鬼太郎④』(1994)
1967/04/01	別冊少年マガジン	鏡爺		ちくま文庫『妖怪軍団　ゲゲゲの鬼太郎②』(1994)
1967/04/01	別冊少年マガジン	夜叉		ちくま文庫『妖怪獣　ゲゲゲの鬼太郎④』(1994)
1967/05/07~06/25	週刊少年マガジン	吸血鬼エリート		ちくま文庫『妖怪大戦争　ゲゲゲの鬼太郎③』(1994)
1967/06~1969/04	月刊ガロ	鬼太郎夜話(ガロ版)		嶋中書店・アイランドコミックスPrimo『ゲゲゲの鬼太郎　鬼太郎夜話』(2004)
1967/07/02~09/03	週刊少年マガジン	妖怪獣		ちくま文庫『妖怪獣　ゲゲゲの鬼太郎④』(1994)
1967/09/01	別冊少年マガジン	猫娘とねずみ男		ちくま文庫『妖怪大裁判　ゲゲゲの鬼太郎①』(1994)
1967/09/10~09/24	週刊少年マガジン	見上げ入道		ちくま文庫『妖怪大裁判　ゲゲゲの鬼太郎①』(1994)
1967/10/01~10/08	週刊少年マガジン	ぬらりひょん		ちくま文庫『妖怪軍団　ゲゲゲの鬼太郎②』(1994)
1967/11/01	別冊少年マガジン	魔女人形	絵物語	講談社『ゲゲゲの鬼太郎解体新書』(1998)
1967/11/12	週刊少年マガジン	毛羽毛現		ちくま文庫『妖怪獣　ゲゲゲの鬼太郎④』(1994)
1967/11/19	週刊少年マガジン	峠の妖怪		ちくま文庫『妖怪獣　ゲゲゲの鬼太郎④』(1994)
1967/11/26	週刊少年マガジン	電気妖怪		ちくま文庫『妖怪獣　ゲゲゲの鬼太郎④』(1994)
1967/12/03	週刊少年マガジン	ダイヤモンド妖怪		ちくま文庫『妖怪獣　ゲゲゲの鬼太郎④』(1994)
1967/12/10	週刊少年マガジン	白山坊		ちくま文庫『妖怪獣　ゲゲゲの鬼太郎④』(1994)
1967/12/17	週刊少年マガジン	海座頭		ちくま文庫『妖怪獣　ゲゲゲの鬼太郎④』(1994)
1968/01/01	週刊少年マガジン	磯女		ちくま文庫『妖怪軍団　ゲゲゲの鬼太郎②』(1994)
1968/01/01	週刊少年マガジン	さら小僧		ちくま文庫『妖怪大裁判　ゲゲゲの鬼太郎①』(1994)
1968/01/01	別冊少年マガジン	笠地蔵		ちくま文庫『妖怪大統領　ゲゲゲの鬼太郎⑤』(1994)
1968/01/14	週刊少年マガジン	まくら返し		ちくま文庫『妖怪軍団　ゲゲゲの鬼太郎②』(1994)
1968/01/21	週刊少年マガジン	おりたたみ入道		ちくま文庫『妖怪大裁判　ゲゲゲの鬼太郎①』(1994)
1968/02/04	週刊少年マガジン	手の目		ちくま文庫『妖怪大統領　ゲゲゲの鬼太郎⑤』(1994)
1968/02/11~02/18	週刊少年マガジン	鏡合戦		ちくま文庫『妖怪獣　ゲゲゲの鬼太郎④』(1994)
1968/02/25~03/10	週刊少年マガジン	朝鮮魔法		ちくま文庫『妖怪獣　ゲゲゲの鬼太郎④』(1994)
1968/03/17	週刊少年マガジン	モウリョウ		ちくま文庫『妖怪大統領　ゲゲゲの鬼太郎⑤』(1994)
1968/03/24	週刊少年マガジン	コマ妖怪		ちくま文庫『妖怪大統領　ゲゲゲの鬼太郎⑤』(1994)
1968/03/31	週刊少年マガジン	妖花		ちくま文庫『妖怪軍団　ゲゲゲの鬼太郎②』(1994)
1968/04/07	週刊少年マガジン	さざえ鬼		ちくま文庫『妖怪大統領　ゲゲゲの鬼太郎⑤』(1994)
1968/04/14	週刊少年マガジン	悪魔ベリアル		ちくま文庫『妖怪大裁判　ゲゲゲの鬼太郎①』(1994)
1968/04/21~04/28	週刊少年マガジン	妖怪軍団		ちくま文庫『妖怪軍団　ゲゲゲの鬼太郎②』(1994)
1968/05	月刊ぼくら	じごくながしの巻	絵物語	かごめしゃ『「ぼくら」版ゲゲゲの鬼太郎<絵物語篇>　<水木しげる叢書別巻⑦>』(1993)
1968/05/05	週刊少年マガジン	人食い島		ちくま文庫『妖怪軍団　ゲゲゲの鬼太郎②』(1994)
1968/05/12	週刊少年マガジン	ばけ猫		ちくま文庫『妖怪大統領　ゲゲゲの鬼太郎⑤』(1994)
1968/05/19	週刊少年マガジン	のっぺらぼう		ちくま文庫『妖怪大統領　ゲゲゲの鬼太郎⑤』(1994)
1968/05/26~06/02	週刊少年マガジン	ひでり神		ちくま文庫『妖怪大統領　ゲゲゲの鬼太郎⑤』(1994)
1968/06	月刊ぼくら	妖怪バットの巻	絵物語	かごめしゃ『「ぼくら」版ゲゲゲの鬼太郎<絵物語篇>　<水木しげる叢書別巻⑦>』(1993)
1968/06/09	週刊少年マガジン	オベベ沼の妖怪		ちくま文庫『妖怪大裁判　ゲゲゲの鬼太郎①』(1994)
1968/06/16	週刊少年マガジン	雪ん子		ちくま文庫『妖怪大統領　ゲゲゲの鬼太郎⑤』(1994)
1968/06/23	週刊少年マガジン	姑獲鳥		ちくま文庫『妖怪大統領　ゲゲゲの鬼太郎⑤』(1994)

発表年	初出	タイトル	シリーズ	収録単行本
1968/06/30	週刊少年マガジン	げた合戦		ちくま文庫『妖怪大統領　ゲゲゲの鬼太郎⑤』(1994)
1968/07	月刊宝石	鬼太郎サイゴンへ行く	鬼太郎ベトナム戦記	文藝春秋『鬼太郎のベトナム戦記　<水木しげる特選怪異譚②>』(2000)
1968/07	月刊ぼくら	ゆうれい電車の巻	絵物語	かごめしゃ『「ぼくら」版ゲゲゲの鬼太郎<絵物語篇>　<水木しげる叢書別巻⑦>』(1993)
1968/07/07〜07/14	週刊少年マガジン	妖怪関ヶ原		ちくま文庫『妖怪大統領　ゲゲゲの鬼太郎⑤』(1994)
1968/07/21	週刊少年マガジン	穴ぐら入道		ちくま文庫『妖怪大統領　ゲゲゲの鬼太郎⑤』(1994)
1968/07/28	週刊少年マガジン	天狐		ちくま文庫『妖怪大統領　ゲゲゲの鬼太郎⑤』(1994)
1968/08	月刊宝石	危うし！鬼太郎	鬼太郎ベトナム戦記	文藝春秋『鬼太郎のベトナム戦記　<水木しげる特選怪異譚②>』(2000)
1968/08/04〜08/11	週刊少年マガジン	天邪鬼		ちくま文庫『妖怪大裁判　ゲゲゲの鬼太郎①』(1994)
1968/08/18〜09/01	週刊少年マガジン	血戦小笠原		ちくま文庫『妖怪大統領　ゲゲゲの鬼太郎⑤』(1994)
1968/09	月刊宝石	ゲバラ、ベトナムに現わる！！	鬼太郎ベトナム戦記	文藝春秋『鬼太郎のベトナム戦記　<水木しげる特選怪異譚②>』(2000)
1968/09	月刊ぼくら	こま妖怪の巻	絵物語	かごめしゃ『「ぼくら」版ゲゲゲの鬼太郎<絵物語篇>　<水木しげる叢書別巻⑦>』(1993)
1968/09/08	週刊少年マガジン	妖怪ラリー		ちくま文庫『妖怪大統領　ゲゲゲの鬼太郎⑤』(1994)
1968/09/15〜09/29	週刊少年マガジン	妖怪大統領		ちくま文庫『妖怪大統領　ゲゲゲの鬼太郎⑤』(1994)
1968/10	月刊宝石	ジャンヌ・ダルク現わる	鬼太郎ベトナム戦記	文藝春秋『鬼太郎のベトナム戦記　<水木しげる特選怪異譚②>』(2000)
1968/10	月刊ぼくら	西洋妖怪の巻	絵物語	かごめしゃ『「ぼくら」版ゲゲゲの鬼太郎<絵物語篇>　<水木しげる叢書別巻⑦>』(1993)
1968/10/06〜10/27	週刊少年マガジン	朧車		ちくま文庫『妖怪反物　ゲゲゲの鬼太郎⑥』(1994)
1968/11	月刊宝石	裁かれる日本人の爪あと	鬼太郎ベトナム戦記	文藝春秋『鬼太郎のベトナム戦記　<水木しげる特選怪異譚②>』(2000)
1968/11	月刊ぼくら	妖怪まくらがえしの巻	絵物語	かごめしゃ『「ぼくら」版ゲゲゲの鬼太郎<絵物語篇>　<水木しげる叢書別巻⑦>』(1993)
1968/11/01	別冊少年マガジン	おどろおどろ対吸血鬼		ちくま文庫『妖怪反物　ゲゲゲの鬼太郎⑥』(1994)
1968/11/03	週刊少年マガジン	後神		ちくま文庫『妖怪花　ゲゲゲの鬼太郎⑦』(1994)
1968/11/10〜11/24	週刊少年マガジン	陰摩羅鬼		ちくま文庫『妖怪反物　ゲゲゲの鬼太郎⑥』(1994)
1968/12	月刊宝石	血ぬられたサイゴンへの道	鬼太郎ベトナム戦記	文藝春秋『鬼太郎のベトナム戦記　<水木しげる特選怪異譚②>』(2000)
1968/12	月刊ぼくら	ダイヤモンド妖怪の巻	絵物語	かごめしゃ『「ぼくら」版ゲゲゲの鬼太郎<絵物語篇>　<水木しげる叢書別巻⑦>』(1993)
1968/12/01〜12/08	週刊少年マガジン	ほうこう		ちくま文庫『妖怪反物　ゲゲゲの鬼太郎⑥』(1994)
1968/12/15〜12/22	週刊少年マガジン	牛鬼		ちくま文庫『妖怪反物　ゲゲゲの鬼太郎⑥』(1994)
1968/12/29	週刊少年マガジン	雨ふり天狗		ちくま文庫『妖怪花　ゲゲゲの鬼太郎⑦』(1994)
1969/01	月刊ぼくら	モウリョウの巻	絵物語	かごめしゃ『「ぼくら」版ゲゲゲの鬼太郎<絵物語篇>　<水木しげる叢書別巻⑦>』(1993)
1969/01/01	別冊少年マガジン	ねこ屋のきょうだい		講談社ＫＣデラックス『ゲゲゲの鬼太郎　鬼太郎魔界編』(1997)
1969/01/05〜01/12	週刊少年マガジン	髪の毛大戦(髪様)		ちくま文庫『妖怪反物　ゲゲゲの鬼太郎⑥』(1994)
1969/01/26〜02/16	週刊少年マガジン	妖怪大裁判		ちくま文庫『妖怪大裁判　ゲゲゲの鬼太郎①』(1994)
1969/02	月刊ぼくら	水虎の巻	絵物語	かごめしゃ『「ぼくら」版ゲゲゲの鬼太郎<絵物語篇>　<水木しげる叢書別巻⑦>』(1993)
1969/02/23〜03/23	週刊少年マガジン	妖怪反物		ちくま文庫『妖怪反物　ゲゲゲの鬼太郎⑥』(1994)
1969/03	月刊ぼくら	妖怪手の目の巻	絵物語	かごめしゃ『「ぼくら」版ゲゲゲの鬼太郎<絵物語篇>　<水木しげる叢書別巻⑦>』(1993)
1969/04	月刊ぼくら	磯女の巻	絵物語	かごめしゃ『「ぼくら」版ゲゲゲの鬼太郎<絵物語篇>　<水木しげる叢書別巻⑦>』(1993)
1969/04/01	別冊少年マガジン	かまぼこ		ちくま文庫『妖怪反物　ゲゲゲの鬼太郎⑥』(1994)
1969/05/01	別冊少年マガジン	泥田坊		ちくま文庫『妖怪花　ゲゲゲの鬼太郎⑦』(1994)
1969/06/01	別冊少年マガジン	妖怪花(あしまがり)		ちくま文庫『妖怪花　ゲゲゲの鬼太郎⑦』(1994)
1969/07/01	別冊少年マガジン	土ころび		ちくま文庫『妖怪花　ゲゲゲの鬼太郎⑦』(1994)
1970/07/01	別冊少年マガジン	その後のゲゲゲの鬼太郎		ちくま文庫『妖怪花　ゲゲゲの鬼太郎⑦』(1994)
1971/09	小学一年生	みずどら		1971/09　小学一年生
1971/09	小学二年生	タイトルなし		
1971/09	幼稚園	タイトルなし		
1971/09	幼稚園	タイトルなし		
1971/09/26	週刊少年サンデー	釜なり		ちくま文庫『妖怪花　ゲゲゲの鬼太郎⑦』(1994)
1971/10	小学一年生	タイトルなし		
1971/10	小学二年生	ようかいかがみのまき		1971/10　小学二年生
1971/10	小学四年生	どろたぼうのまき	絵物語	1971/10　小学四年生
1971/10	幼稚園	さらこぞうのおはなし		1971/10　幼稚園
1971/10/03	週刊少年サンデー	ふくろさげ		ちくま文庫『妖怪花　ゲゲゲの鬼太郎⑦』(1994)
1971/10/10	週刊少年サンデー	逆もち殺し(火車)		ちくま文庫『妖怪花　ゲゲゲの鬼太郎⑦』(1994)
1971/10/17	週刊少年サンデー	傘化け		ちくま文庫『妖怪花　ゲゲゲの鬼太郎⑦』(1994)
1971/10/24	週刊少年サンデー	まぼろしの汽車		ちくま文庫『妖怪花　ゲゲゲの鬼太郎⑦』(1994)
1971/10/31	週刊少年サンデー	赤舌		ちくま文庫『妖怪花　ゲゲゲの鬼太郎⑦』(1994)
1971/11	小学一年生	タイトルなし		
1971/11	小学二年生	よう怪ほうこうのまき		1971/11　小学二年生
1971/11	小学三年生	地ごく流しのまき		1971/11　小学三年生
1971/11	小学四年生	南の国のよう怪のまき	絵物語	1971/11　小学四年生
1971/11	幼稚園	うみぼうずのおはなし		1971/11　幼稚園
1971/11/07	週刊少年サンデー	大首		ちくま文庫『妖怪花　ゲゲゲの鬼太郎⑦』(1994)
1971/11/14	週刊少年サンデー	死神		ちくま文庫『妖怪軍団　ゲゲゲの鬼太郎②』(1994)
1971/11/21	週刊少年サンデー	あかなめ		ちくま文庫『妖怪軍団　ゲゲゲの鬼太郎②』(1994)
1971/11/28〜12/05	週刊少年サンデー	ダイダラボッチ		ちくま文庫『妖怪軍団　ゲゲゲの鬼太郎②』(1994)
1971/12	小学一年生	いそ女のまき		1971/12　小学一年生
1971/12	小学二年生	毛う毛げんのまき		1971/12　小学二年生
1971/12	小学三年生	ようかい「釜なり」のまき		1971/12　小学二年生
1971/12	小学四年生	赤舌のまき	絵物語	1971/12　小学四年生
1971/12	幼稚園	みあげにゅうどうのおはなし		1971/12　幼稚園
1971/12/12	週刊少年サンデー	いやみ		ちくま文庫『妖怪花　ゲゲゲの鬼太郎⑦』(1994)
1971/12/19	週刊少年サンデー	目目連		ちくま文庫『妖怪花　ゲゲゲの鬼太郎⑦』(1994)
1971/12/26	週刊少年サンデー	悪魔ブエル		ちくま文庫『妖怪軍団　ゲゲゲの鬼太郎②』(1994)
1972/01	小学一年生	かさばけのまき		1972/01　小学一年生
1972/01	小学二年生	ダイヤモンドよう怪のまき		1972/01　小学二年生
1972/01	小学三年生	ようかい髪さまのまき		1972/01　小学三年生
1972/01	小学四年生	火車のまき	絵物語	1972/01　小学四年生

発表年	初出	タイトル	シリーズ	収録単行本
1972/01	幼稚園	こまおばけのおはなし		1972/01　幼稚園
新年増刊号	小学一年生	タイトルなし		
1972/02	小学一年生	おどろおどろのまき		1972/02　小学一年生
1972/02	小学二年生	タイトルなし		
1972/02	小学三年生	ようかい墓鬼のまき		1972/02　小学三年生
1972/02	小学四年生	びょうぶのぞきのまき	絵物語	1972/02　小学四年生
1972/02	幼稚園	きゅうけつきえりぃとのおはなし		1972/02　幼稚園
1972/03	小学一年生	あかなめのまき		1972/03　小学一年生
1972/03	小学二年生	タイトルなし		
1972/03	小学三年生	悪魔ベリアルのまき		1972/03　小学三年生
1972/03	小学四年生	ねこむすめあらわれるのまき	絵物語	1972/03　小学四年生
1972/03	幼稚園	おばけやしきやきゅう大会のおはなし		1972/03　幼稚園
1972/04	小学一年生	ダイダラボッチのまき		1972/04　小学一年生
1972/04	小学二年生	タイトルなし		
1972/04	小学四年生	よう怪だるまのまき	絵物語	1972/04　小学四年生
1972/04	幼稚園	うぶめのおはなし		1972/04　幼稚園
1972/05	小学一年生	ゆうれいでんしゃのまき		1972/05　小学一年生
1972/05	小学二年生	タイトルなし		
1972/05	小学四年生	ぬっぺらぼうのまき	絵物語	1972/05　小学四年生
1972/06	小学一年生	のびあがりたいじのまき		1972/07　小学一年生
1972/06	小学二年生	タイトルなし		
1972/06	小学校四年生	タイトルなし	絵物語	
1972/07	小学一年生	ようかいぬらりひょんのまき		1972/07　小学一年生
1972/07	小学二年生	タイトルなし		
1972/07	小学四年生	タイトルなし	絵物語	
1972/08	小学一年生	ようかいふくろさげのまき		1972/08　小学一年生
1972/08	小学二年生	タイトルなし		
1972/08	小学四年生	タイトルなし	絵物語	
1972/09	小学一年生	ねこせん人のまき		1972/09　小学一年生
1972/09	小学二年生	タイトルなし		
1972/09	小学四年生	魔女人形(いたずら魔女をやっつけろのまき)	絵物語	1972/09　小学四年生
1972/10	小学一年生	かみきりたいじのまき		1972/10　小学一年生
1972/10	小学二年生	タイトルなし		
1972/10	小学四年生	大首のまき	絵物語	1972/10　小学四年生
1972/11	小学一年生	きたろうひるねのまき		1972/11　小学一年生
1972/11	小学二年生	タイトルなし		1971/09　小学二年生
1973/08/01	いんなあとりっぷ	毒ネコの巻		ソフトガレージ『水木しげる珍撰集　大ボラ鬼太郎』(1999)
1973/09/01	いんなあとりっぷ	死の評論家の巻		ソフトガレージ『水木しげる珍撰集　大ボラ鬼太郎』(1999)
1973/10/01	いんなあとりっぷ	猫神教		ソフトガレージ『水木しげる珍撰集　大ボラ鬼太郎』(1999)
1974	学研	死神大戦記		ぱる出版『死神大戦記』(1993)
1976/01/26	少年アクション	獏	鬼太郎の世界お化け旅行	中央公論新社・Chukoコミックlite『ゲゲゲの鬼太郎　鬼太郎のお化け旅行』(2003)
1976/02/09	少年アクション	水精(ヴォジャノイ)	鬼太郎の世界お化け旅行	中央公論新社・Chukoコミックlite『ゲゲゲの鬼太郎　鬼太郎のお化け旅行』(2003)
1976/02/23	少年アクション	妖怪大パーティ	鬼太郎の世界お化け旅行	中央公論新社・Chukoコミックlite『ゲゲゲの鬼太郎　鬼太郎のお化け旅行』(2003)
1976/03/08	少年アクション	妖怪七人の侍	鬼太郎の世界お化け旅行	ちくま文庫『鬼太郎のお化け旅行』(1991)
1976/03/22	少年アクション	ドラキュラ親分	鬼太郎の世界お化け旅行	ちくま文庫『鬼太郎のお化け旅行』(1991)
1976/04/05	少年アクション	砂妖怪(エキセル)	鬼太郎の世界お化け旅行	中央公論新社・Chukoコミックlite『ゲゲゲの鬼太郎　鬼太郎のお化け旅行』(2003)
1976/04/19	少年アクション	魔女サーカス	鬼太郎の世界お化け旅行	中央公論新社・Chukoコミックlite『ゲゲゲの鬼太郎　鬼太郎のお化け旅行』(2003)
1976/05/03	少年アクション	吸血鬼(キーエフ)	鬼太郎の世界お化け旅行	中央公論新社・Chukoコミックlite『ゲゲゲの鬼太郎　鬼太郎のお化け旅行』(2003)
1976/05/17	少年アクション	蛇人ゴーゴン	鬼太郎の世界お化け旅行	ちくま文庫『鬼太郎のお化け旅行』(1991)
1976/05/31	少年アクション	狼男とゴーゴン	鬼太郎の世界お化け旅行	ちくま文庫『鬼太郎のお化け旅行』(1991)
1976/06/14	少年アクション	決闘コロセウム	鬼太郎の世界お化け旅行	ちくま文庫『鬼太郎のお化け旅行』(1991)
1976/06/28	少年アクション	ろう人形妖怪(カリーカ)	鬼太郎の世界お化け旅行	ちくま文庫『鬼太郎のお化け旅行』(1991)
1976/07	月刊少年ジャンプ	鬼太郎対悪魔くん(復活！悪魔くん)		文藝春秋『鬼太郎のベトナム戦記　<水木しげる特選怪異譚②>』(2000)
1976/07/12	少年アクション	ベルサイユの化け猫	鬼太郎の世界お化け旅行	中央公論新社・Chukoコミックlite『ゲゲゲの鬼太郎　鬼太郎のお化け旅行』(2003)
1976/07/26	少年アクション	霊魂爆弾	鬼太郎の世界お化け旅行	ちくま文庫『鬼太郎のお化け旅行』(1991)
1976/08/09	少年アクション	ベアード	鬼太郎の世界お化け旅行	中央公論新社・Chukoコミックlite『ゲゲゲの鬼太郎　鬼太郎のお化け旅行』(2003)
1976/08/23	少年アクション	ブード	鬼太郎の世界お化け旅行	中央公論新社・Chukoコミックlite『ゲゲゲの鬼太郎　鬼太郎のお化け旅行』(2003)
1977/07	小説マガジン	蓮華王国		文藝春秋『鬼太郎のベトナム戦記　<水木しげる特選怪異譚②>』(2000)
1977/07/21	週刊実話	貧乏劇画家	新ゲゲゲの鬼太郎	扶桑社文庫『その後のゲゲゲの鬼太郎①』(1995)
1977/07/28	週刊実話	幽霊家主	新ゲゲゲの鬼太郎	ちくま文庫『京極夏彦が選ぶ！　水木しげるの奇妙な劇画集』(2001)
1977/08/04	週刊実話	皮はぎ魔	新ゲゲゲの鬼太郎	扶桑社文庫『その後のゲゲゲの鬼太郎①』(1995)
1977/08/11	週刊実話	悪魔払い	新ゲゲゲの鬼太郎	扶桑社文庫『その後のゲゲゲの鬼太郎②』(1995)
1977/08/16～09/20	週刊漫画サンデー	UFOの秘密	鬼太郎挑戦シリーズ	角川文庫『鬼太郎の地獄めぐり　<水木しげるコレクションI>』(1995)
1977/08/18	週刊実話	妖虫	新ゲゲゲの鬼太郎	扶桑社文庫『その後のゲゲゲの鬼太郎②』(1995)
1977/08/25	週刊実話	川猿	新ゲゲゲの鬼太郎	扶桑社文庫『その後のゲゲゲの鬼太郎②』(1995)
1977/09/01	週刊実話	ダメな死神	新ゲゲゲの鬼太郎	扶桑社文庫『その後のゲゲゲの鬼太郎②』(1995)
1977/09/08	週刊実話	タコ人間	新ゲゲゲの鬼太郎	扶桑社文庫『その後のゲゲゲの鬼太郎②』(1995)
1977/09/15	週刊実話	招かざる客	新ゲゲゲの鬼太郎	扶桑社文庫『その後のゲゲゲの鬼太郎②』(1995)
1977/09/22	週刊実話	円盤じいさん	新ゲゲゲの鬼太郎	扶桑社文庫『その後のゲゲゲの鬼太郎③』(1995)
1977/09/27～10/03	週刊漫画サンデー	太古の秘密	鬼太郎挑戦シリーズ	講談社ＫＣスペシャル『新ゲゲゲの鬼太郎①』(1985)
1977/09/29	週刊実話	精霧丸	新ゲゲゲの鬼太郎	扶桑社文庫『その後のゲゲゲの鬼太郎③』(1995)
1977/10/06	週刊実話	立体テレビ	新ゲゲゲの鬼太郎	扶桑社文庫『その後のゲゲゲの鬼太郎③』(1995)
1977/10/20	週刊実話	ろくろ大合戦	新ゲゲゲの鬼太郎	扶桑社文庫『その後のゲゲゲの鬼太郎③』(1995)
1977/10/27	週刊実話	尻子玉	新ゲゲゲの鬼太郎	講談社ＫＣスペシャル『新ゲゲゲの鬼太郎③』(1986)

発表年	初出	タイトル	シリーズ	収録単行本
1977/11/03	週刊実話	チンポコ紛失	新ゲゲゲの鬼太郎	扶桑社文庫『その後のゲゲゲの鬼太郎③』(1995)
1977/11/10	週刊実話	羽衣	新ゲゲゲの鬼太郎	扶桑社文庫『その後のゲゲゲの鬼太郎③』(1995)
1977/11/17	週刊実話	浮気部長	新ゲゲゲの鬼太郎	扶桑社文庫『その後のゲゲゲの鬼太郎③』(1995)
1977/11/22〜12/13	週刊漫画サンデー	地上絵(ナスカ)の秘密	鬼太郎挑戦シリーズ	角川文庫『天界のゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションV>』(1995)
1977/11/24	週刊実話	猫娘	新ゲゲゲの鬼太郎	扶桑社文庫『その後のゲゲゲの鬼太郎①』(1995)
1977/12/01	週刊実話	肉ぶとん	新ゲゲゲの鬼太郎	扶桑社文庫『その後のゲゲゲの鬼太郎③』(1995)
1977/12/08	週刊実話	運命	新ゲゲゲの鬼太郎	扶桑社文庫『その後のゲゲゲの鬼太郎③』(1995)
1977/12/15	週刊実話	貧乏くじ	新ゲゲゲの鬼太郎	扶桑社文庫『その後のゲゲゲの鬼太郎③』(1995)
1977/12/22	週刊実話	キノコ	新ゲゲゲの鬼太郎	扶桑社文庫『その後のゲゲゲの鬼太郎③』(1995)
1978/01/05〜03/16	週刊実話	スポーツ狂時代・相撲の巻	新ゲゲゲの鬼太郎	扶桑社文庫『その後のゲゲゲの鬼太郎②』(1995)
1978/03/23〜06/22	週刊実話	スポーツ狂時代・野球の巻(野球狂の巻)	新ゲゲゲの鬼太郎	扶桑社文庫『その後のゲゲゲの鬼太郎①』(1995)
1978/06/29	週刊実話	UFO宇宙突撃隊	新ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『天界のゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションV>』(1995)
1978/07/06	週刊実話	タイムマシン	新ゲゲゲの鬼太郎	東京三世社・マイコミックス『SF新鬼太郎　<新世妖怪幻想綺譚集>』(1980)
1978/07/13	週刊実話	幽霊自動車	新ゲゲゲの鬼太郎	扶桑社文庫『その後のゲゲゲの鬼太郎③』(1995)
1978/07/20	週刊実話	ロケットハウス	新ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『天界のゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションV>』(1995)
1978/07/27	週刊実話	竹やぶの小人	新ゲゲゲの鬼太郎	中央公論社・Chukoコミック Lite『ゲゲゲの鬼太郎　エンバン実験』(2002)
1978/08/03	週刊実話	火星人現る	新ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『天界のゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションV>』(1995)
1978/08/10	週刊実話	エンバン実験	新ゲゲゲの鬼太郎	中央公論社・Chukoコミック Lite『ゲゲゲの鬼太郎　エンバン実験』(2002)
1978/08/17	週刊実話	不思議な家	新ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『天界のゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションV>』(1995)
1978/08/24	週刊実話	猫町切符	新ゲゲゲの鬼太郎	中央公論社・Chukoコミック Lite『ゲゲゲの鬼太郎　大首』(2003)
1978/08/31	週刊実話	宇宙人落下	新ゲゲゲの鬼太郎	中央公論社・Chukoコミック Lite『ゲゲゲの鬼太郎　エンバン実験』(2002)
1978/09/14	週刊実話	ムーン大王	新ゲゲゲの鬼太郎	東京三世社・マイコミックス『SF新鬼太郎　<新世妖怪幻想綺譚集>』(1980)
1978/09/21	週刊実話	狸ばやし	新ゲゲゲの鬼太郎	中央公論社・Chukoコミック Lite『ゲゲゲの鬼太郎　大首』(2003)
1978/09/28	週刊実話	メキシコの石	新ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『ねずみ男とゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションII>』(1995)
1978/10/05	週刊実話	かくれ蓑	新ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『ねずみ男とゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションII>』(1995)
1978/10/12	週刊実話	終末株式会社	新ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『ねずみ男とゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションII>』(1995)
1978/10/19	週刊実話	海坊主	新ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『雪姫ちゃんとゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションIII>』(1995)
1978/10/26	週刊実話	奪衣婆	新ゲゲゲの鬼太郎	中央公論社・Chukoコミック Lite『ゲゲゲの鬼太郎　悪魔ブエル』(2001)
1978/11/02	週刊実話	透明人間	新ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『ねずみ男とゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションII>』(1995)
1978/11/09	週刊実話	悪魔博士	新ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『ねずみ男とゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションII>』(1995)
1978/11/16	週刊実話	二人狸	新ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『ゲゲゲの森の鬼太郎　<水木しげるコレクションIV>』(1995)
1978/11/16	プレイコミック	妖怪ロッキード		文藝春秋『鬼太郎のベトナム戦記　<水木しげる特選怪異譚②>』(2000)
1978/11/23	週刊実話	わんたん妖怪	新ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『天界のゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションV>』(1995)
1978/11/30	週刊実話	影くい猫	新ゲゲゲの鬼太郎	どうぶつ出版『妖猫夜話　<水木しげる猫漫画短編集>』(1996)
1978/12/07	週刊実話	死人列車	新ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『鬼太郎の地獄めぐり　<水木しげるコレクションI>』(1995)
1978/12/14	週刊実話	つきもの	新ゲゲゲの鬼太郎	中央公論社・Chukoコミック Lite『ゲゲゲの鬼太郎　大首』(2003)
1980/04/09	週刊少年マガジン	海坊主先生		ちくま文庫『妖怪軍団　ゲゲゲの鬼太郎②』(1994)
1980/04/18	DONDON	完全車の巻	大ボラ鬼太郎	ソフトガレージ『水木しげる珍撰集　大ボラ鬼太郎』(1999)
1980/05/02	DONDON	未来テレビの巻	大ボラ鬼太郎	ソフトガレージ『水木しげる珍撰集　大ボラ鬼太郎』(1999)
1980/05/16	DONDON	〆切病の巻	大ボラ鬼太郎	ソフトガレージ『水木しげる珍撰集　大ボラ鬼太郎』(1999)
1980/05/30	DONDON	横取男の巻	大ボラ鬼太郎	ソフトガレージ『水木しげる珍撰集　大ボラ鬼太郎』(1999)
1980/06	ポプラ社	おどろおどろ	水木しげるのおばけ学校	ポプラ社『ゆうれい電車　<水木しげるのおばけ学校文庫(G-2)>』(1995)
1980/06	ポプラ社	おばけ野球チーム	水木しげるのおばけ学校	ポプラ社『おばけ野球チーム　<水木しげるのおばけ学校文庫(G-1)>』(1995)
1980/06	ポプラ社	ゆうれい電車	水木しげるのおばけ学校	ポプラ社『ゆうれい電車　<水木しげるのおばけ学校文庫(G-2)>』(1995)
1980/06	ポプラ社	妖怪学校	水木しげるのおばけ学校	ポプラ社『おばけ野球チーム　<水木しげるのおばけ学校文庫(G-1)>』(1995)
1980/06	ポプラ社	妖怪ラリー	水木しげるのおばけ学校	ポプラ社『ゆうれい電車　<水木しげるのおばけ学校文庫(G-2)>』(1995)
1980/06/27	DONDON	夢男の巻	大ボラ鬼太郎	ソフトガレージ『水木しげる珍撰集　大ボラ鬼太郎』(1999)
1980/08	月刊少年ポピー	雪姫ちゃん登場	雪姫ちゃんとゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『雪姫ちゃんとゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションIII>』(1995)
1980/08	ポプラ社	ブルートレインおばけ号	水木しげるのおばけ学校	ポプラ社『ブルートレインおばけ号　<水木しげるのおばけ学校文庫(G-3)>』(1995)
1980/09	月刊少年ポピー	ニセ鬼太郎	雪姫ちゃんとゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『雪姫ちゃんとゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションIII>』(1995)
1980/10	月刊少年ポピー	宇宙人レストラン	雪姫ちゃんとゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『雪姫ちゃんとゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションIII>』(1995)
1980/11	月刊少年ポピー	狐つき	雪姫ちゃんとゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『雪姫ちゃんとゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションIII>』(1995)
1980/12	月刊少年ポピー	ねらわれた雪姫ちゃん	雪姫ちゃんとゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『雪姫ちゃんとゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションIII>』(1995)
1980/12	ポプラ社	おばけ宇宙大戦争	水木しげるのおばけ学校	ポプラ社『おばけ宇宙大戦争　<水木しげるのおばけ学校文庫(G-5)>』(1995)
1980/12	ポプラ社	猫町キップ	水木しげるのおばけ学校	ポプラ社『おばけ宇宙大戦争　<水木しげるのおばけ学校文庫(G-5)>』(1995)
1981/01	月刊少年ポピー	妖怪いやみ	雪姫ちゃんとゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『雪姫ちゃんとゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションIII>』(1995)
1981/02	月刊少年ポピー	鬼妖怪	雪姫ちゃんとゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『雪姫ちゃんとゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションIII>』(1995)
1981/03	月刊少年ポピー	妖怪実力選手権試合	雪姫ちゃんとゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『雪姫ちゃんとゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションIII>』(1995)
1981/04	月刊少年ポピー	化けグモ	雪姫ちゃんとゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『雪姫ちゃんとゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションIII>』(1995)
1981/05	月刊少年ポピー	大ダコ	雪姫ちゃんとゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『雪姫ちゃんとゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションIII>』(1995)
1981/06	月刊少年ポピー	妖怪傘化け	雪姫ちゃんとゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『雪姫ちゃんとゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションIII>』(1995)
1981/06	ポプラ社	3年A組おばけ教室	水木しげるのおばけ学校	ポプラ社『3年A組おばけ教室　<水木しげるのおばけ学校文庫(G-4)>』(1995)
1981/06	ポプラ社	吸血鬼チャランポラン	水木しげるのおばけ学校	ポプラ社『吸血鬼チャランポラン　<水木しげるのおばけ学校文庫(G-6)>』(1995)
1982/07	月刊・丸	のらくろ大戦争		水木伝説『水木伝説I&II　鬼太郎誕生40周年記念』(1994)
1983/02	ポプラ社	妖怪大戦争	水木しげるのおばけ学校	ポプラ社『妖怪大戦争　<水木しげるのおばけ学校文庫(G-7)>』(1995)
1983/03	ポプラ社	おばけレストラン	水木しげるのおばけ学校	ポプラ社『おばけレストラン　<水木しげるのおばけ学校文庫(G-12)>』(1995)
1983/10	ポプラ社	おばけマイコンじゅく	水木しげるのおばけ学校	ポプラ社『おばけマイコンじゅく　<水木しげるのおばけ学校文庫(G-10)>』(1995)
1983/12	ポプラ社	ラジコン大海獣	水木しげるのおばけ学校	ポプラ社『ラジコン大海獣　<水木しげるのおばけ学校文庫(G-11)>』(1995)
1985	小学館「入門百科シリーズ鬼太郎の天国・地獄入門」	鬼太郎の地獄めぐり		角川文庫『鬼太郎の地獄めぐり　<水木しげるコレクションI>』(1995)
1985/10	月刊コミックボンボン	大妖怪がしゃどくろ復活の巻	最新版ゲゲゲの鬼太郎	講談社・ボンボンコミックス『最新版ゲゲゲの鬼太郎①』(1986)
1985/11	月刊コミックボンボン	妖怪　本所七ふしぎの巻	最新版ゲゲゲの鬼太郎	講談社・ボンボンコミックス『最新版ゲゲゲの鬼太郎①』(1986)
1985/12	月刊コミックボンボン	妖怪コンビ！ワイフとサガリの巻	最新版ゲゲゲの鬼太郎	講談社・ボンボンコミックス『最新版ゲゲゲの鬼太郎①』(1986)

発表年	初出	タイトル	シリーズ	収録単行本
1986/01	月刊コミックボンボン	電木妖怪さかばしらの巻	最新版ゲゲゲの鬼太郎	講談社・ボンボンコミックス『最新版ゲゲゲの鬼太郎①』(1986)
1986/02	月刊コミックボンボン	出現！妖怪総大将の巻	最新版ゲゲゲの鬼太郎	講談社・ボンボンコミックス『最新版ゲゲゲの鬼太郎①』(1986)
1986/03	月刊コミックボンボン	百鬼夜行軍団の登場！の巻	最新版ゲゲゲの鬼太郎	講談社・ボンボンコミックス『最新版ゲゲゲの鬼太郎②』(1986)
1986/04	月刊コミックボンボン	霊界大決戦！の巻	最新版ゲゲゲの鬼太郎	講談社・ボンボンコミックス『最新版ゲゲゲの鬼太郎②』(1986)
1986/05	月刊コミックボンボン	地獄の妖怪獣出現！の巻	最新版ゲゲゲの鬼太郎	講談社・ボンボンコミックス『最新版ゲゲゲの鬼太郎②』(1986)
1986/05/07	週刊少年マガジン	妖怪万年竹	新編ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『ゲゲゲの森の鬼太郎　<水木しげるコレクションⅣ>』(1995)
1986/05/14~05/21	週刊少年マガジン	妖怪危機一髪	新編ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『ゲゲゲの森の鬼太郎　<水木しげるコレクションⅣ>』(1995)
1986/05/28	週刊少年マガジン	妖怪ラーメン	新編ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『ゲゲゲの森の鬼太郎　<水木しげるコレクションⅣ>』(1995)
1986/06	月刊コミックボンボン	恐怖の地獄童子の巻	最新版ゲゲゲの鬼太郎	講談社・ボンボンコミックス『最新版ゲゲゲの鬼太郎②』(1986)
1986/06/04	週刊少年マガジン	ガマ妖怪	新編ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『雪姫ちゃんとゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションⅢ>』(1995)
1986/06/11	週刊少年マガジン	吹消婆	新編ゲゲゲの鬼太郎	中央公論社・Chukoコミック Lite『ゲゲゲの鬼太郎　エンバン実験』(2002)
1986/06/18	週刊少年マガジン	妖怪猫館	新編ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『ねずみ男とゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションⅡ>』(1995)
1986/06/25	週刊少年マガジン	妖怪大百足	新編ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『鬼太郎の地獄めぐり　<水木しげるコレクションⅠ>』(1995)
1986/07	月刊コミックボンボン	再生妖怪軍団の反撃！の巻	最新版ゲゲゲの鬼太郎	講談社・ボンボンコミックス『最新版ゲゲゲの鬼太郎②』(1986)
1986/07/02	週刊少年マガジン	月の妖怪・桂男	新編ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『ねずみ男とゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションⅡ>』(1995)
1986/07/09	週刊少年マガジン	死霊軍団	新編ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『鬼太郎の地獄めぐり　<水木しげるコレクションⅠ>』(1995)
1986/07/16~07/23	週刊少年マガジン	煙羅煙羅	新編ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『天界のゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションⅤ>』(1995)
1986/07/30	週刊少年マガジン	手長足長	新編ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『雪姫ちゃんとゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションⅢ>』(1995)
1986/08	月刊コミックボンボン	ぬらりひょん、最後の戦いの巻	最新版ゲゲゲの鬼太郎	講談社・ボンボンコミックス『最新版ゲゲゲの鬼太郎③』(1987)
1986/08/06	週刊少年マガジン	小豆連合軍	新編ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『ゲゲゲの森の鬼太郎　<水木しげるコレクションⅣ>』(1995)
1986/08/13	週刊少年マガジン	めんこ天狗	新編ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『ゲゲゲの森の鬼太郎　<水木しげるコレクションⅣ>』(1995)
1986/08/20	週刊少年マガジン	逆さ首	新編ゲゲゲの鬼太郎	中央公論社『愛蔵版　ゲゲゲの鬼太郎④』(1988)
1986/08/27	週刊少年マガジン	化けぞうり	新編ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『ゲゲゲの森の鬼太郎　<水木しげるコレクションⅣ>』(1995)
1986/09	月刊コミックボンボン	妖怪警察VS極悪妖怪しょうけらの巻	最新版ゲゲゲの鬼太郎	講談社・ボンボンコミックス『最新版ゲゲゲの鬼太郎③』(1987)
1986/09/03	週刊少年マガジン	串ざし入道	新編ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『ねずみ男とゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションⅡ>』(1995)
1986/09/10~09/17	週刊少年マガジン	吸血鬼ラ・セーヌ	新編ゲゲゲの鬼太郎	中央公論社『愛蔵版　ゲゲゲの鬼太郎⑤』(1989)
1986/09/24	週刊少年マガジン	豆腐小僧	新編ゲゲゲの鬼太郎	中央公論社『愛蔵版　ゲゲゲの鬼太郎⑤』(1989)
1986/10	月刊コミックボンボン	霊界ビデオの逆襲！の巻	最新版ゲゲゲの鬼太郎	講談社・ボンボンコミックス『最新版ゲゲゲの鬼太郎③』(1987)
1986/10/01	週刊少年マガジン	家獣	新編ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『ねずみ男とゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションⅡ>』(1995)
1986/10/08	週刊少年マガジン	麻桶毛	新編ゲゲゲの鬼太郎	中央公論社『愛蔵版　ゲゲゲの鬼太郎⑤』(1989)
1986/10/15	週刊少年マガジン	妖怪クリーニング	新編ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『天界のゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションⅤ>』(1995)
1986/10/22	週刊少年マガジン	石妖	新編ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『ねずみ男とゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションⅡ>』(1995)
1986/10/29	週刊少年マガジン	針女	新編ゲゲゲの鬼太郎	中央公論社『愛蔵版　ゲゲゲの鬼太郎⑤』(1989)
1986/11	月刊コミックボンボン	無限増殖妖怪、どくろの怪の巻	最新版ゲゲゲの鬼太郎	講談社・ボンボンコミックス『最新版ゲゲゲの鬼太郎③』(1987)
1986/11/05	週刊少年マガジン	魔女ロンロン	新編ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『ねずみ男とゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションⅡ>』(1995)
1986/11/12	週刊少年マガジン	竹切り狸	新編ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『ゲゲゲの森の鬼太郎　<水木しげるコレクションⅣ>』(1995)
1986/11/19	週刊少年マガジン	黒坊主	新編ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『ねずみ男とゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションⅡ>』(1995)
1986/11/26	週刊少年マガジン	土転び	新編ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『ゲゲゲの森の鬼太郎　<水木しげるコレクションⅣ>』(1995)
1986/12	月刊コミックボンボン	妖怪以津真天、悪魔の契約の巻	最新版ゲゲゲの鬼太郎	講談社・ボンボンコミックス『最新版ゲゲゲの鬼太郎③』(1987)
1986/12/03	週刊少年マガジン	地獄マラソン	新編ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『鬼太郎の地獄めぐり　<水木しげるコレクションⅠ>』(1995)
1986/12/10	週刊少年マガジン	魔猫	新編ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『ねずみ男とゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションⅡ>』(1995)
1987/01	月刊コミックボンボン	暴走！妖怪超特急の巻	最新版ゲゲゲの鬼太郎	講談社・ボンボンコミックス『最新版ゲゲゲの鬼太郎④』(1987)
1987/01/01	週刊少年マガジン	妖怪王将戦	新編ゲゲゲの鬼太郎	中央公論社『愛蔵版　ゲゲゲの鬼太郎⑤』(1989)
1987/01/02&08	週刊少年マガジン	ペナンガラン	新編ゲゲゲの鬼太郎	中央公論社『愛蔵版　ゲゲゲの鬼太郎⑤』(1989)
1987/01/10&15	週刊少年マガジン	木の子	新編ゲゲゲの鬼太郎	中央公論社『愛蔵版　ゲゲゲの鬼太郎⑤』(1989)
1987/01/29~02/04	週刊少年マガジン	こそこそ岩	新編ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『ねずみ男とゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションⅡ>』(1995)
1987/02	月刊コミックボンボン	恐怖の妖奇病の巻	最新版ゲゲゲの鬼太郎	講談社・ボンボンコミックス『最新版ゲゲゲの鬼太郎④』(1987)
1987/02/11	週刊少年マガジン	妖犬	新編ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『天界のゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションⅤ>』(1995)
1987/02/18	週刊少年マガジン	カニ妖怪	新編ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『雪姫ちゃんとゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションⅢ>』(1995)
1987/02/25	週刊少年マガジン	壺仙人	新編ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『天界のゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションⅤ>』(1995)
1987/03	月刊コミックボンボン	世紀の妖怪アイドル、幽子の巻	最新版ゲゲゲの鬼太郎	講談社・ボンボンコミックス『最新版ゲゲゲの鬼太郎④』(1987)
1987/03/04	週刊少年マガジン	手足の怪	新編ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『ねずみ男とゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションⅡ>』(1995)
1987/03/11	週刊少年マガジン	ぬけ首	新編ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『天界のゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションⅤ>』(1995)
1987/03/18	週刊少年マガジン	皿合戦	新編ゲゲゲの鬼太郎	中央公論社『愛蔵版　ゲゲゲの鬼太郎⑤』(1989)
1987/03/25	週刊少年マガジン	井守	新編ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『ゲゲゲの森の鬼太郎　<水木しげるコレクションⅣ>』(1995)
1987/04	月刊コミックボンボン	妖怪水ころがしの巻	最新版ゲゲゲの鬼太郎	講談社・ボンボンコミックス『最新版ゲゲゲの鬼太郎④』(1987)
1987/04/01	週刊少年マガジン	けらけら女	新編ゲゲゲの鬼太郎	中央公論社『愛蔵版　ゲゲゲの鬼太郎⑤』(1989)
1987/04/08	週刊少年マガジン	魔女ジニヤー	新編ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『ねずみ男とゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションⅡ>』(1995)
1987/04/15~04/22	週刊少年マガジン	鬼道衆	新編ゲゲゲの鬼太郎	角川文庫『雪姫ちゃんとゲゲゲの鬼太郎　<水木しげるコレクションⅢ>』(1995)
1987/05	月刊コミックボンボン	地獄の妖怪なべの巻	最新版ゲゲゲの鬼太郎	講談社・ボンボンコミックス『最新版ゲゲゲの鬼太郎④』(1987)
1987/06	月刊コミックボンボン	妖怪狩りツアーの巻	最新版ゲゲゲの鬼太郎	水木伝説『別冊水木伝説　鬼太郎外伝２』(1991)
1987/06	月刊少年マガジン	母を求めて地獄旅	鬼太郎地獄編	角川文庫『鬼太郎の地獄めぐり　<水木しげるコレクションⅠ>』(1995)
1987/07	月刊コミックボンボン	武器を奪われた鬼太郎の巻	最新版ゲゲゲの鬼太郎	水木伝説『別冊水木伝説　鬼太郎外伝２』(1991)
1987/07	月刊少年マガジン	血戦三途の川	鬼太郎地獄編	角川文庫『鬼太郎の地獄めぐり　<水木しげるコレクションⅠ>』(1995)
1987/07	ポプラ社	うみのぼうけん	ゲゲゲの鬼太郎おばけのくに	ポプラ社『うみのぼうけん　<ゲゲゲの鬼太郎おばけのくに⑧>』(1987)
1987/07	ポプラ社	ようかいえんそく	ゲゲゲの鬼太郎おばけのくに	ポプラ社『ようかいえんそく　<ゲゲゲの鬼太郎おばけのくに①>』(1987)
1987/08	月刊コミックボンボン	ぬらりひょん復活の巻	最新版ゲゲゲの鬼太郎	水木伝説『別冊水木伝説　鬼太郎外伝２』(1991)
1987/08	月刊少年マガジン	閻魔危うし！白骨軍団	鬼太郎地獄編	角川文庫『鬼太郎の地獄めぐり　<水木しげるコレクションⅠ>』(1995)
1987/08	ポプラ社	おばけむらたんけん	ゲゲゲの鬼太郎おばけのくに	ポプラ社『おばけむらたんけん　<ゲゲゲの鬼太郎おばけのくに②>』(1987)
1987/08/30	スーパーボンボン	幽霊大戦争		水木伝説『別冊水木伝説　鬼太郎外伝２』(1991)
1987/09	月刊コミックボンボン	最後の決戦の巻	最新版ゲゲゲの鬼太郎	単行本未収録
1987/09	月刊少年マガジン	最後の出会い	鬼太郎地獄編	角川文庫『鬼太郎の地獄めぐり　<水木しげるコレクションⅠ>』(1995)
1987/09	ポプラ社	ようかいてじなし	ゲゲゲの鬼太郎おばけのくに	ポプラ社『ようかいてじなし　<ゲゲゲの鬼太郎おばけのくに③>』(1987)
1987/10	ポプラ社	ようかいキャンディー	ゲゲゲの鬼太郎おばけのくに	ポプラ社『ようかいキャンデー　<ゲゲゲの鬼太郎おばけのくに④>』(1987)

発表年	初出	タイトル	シリーズ	収録単行本
1987/11	ポプラ社	ようかいたこがっせん	ゲゲゲの鬼太郎おばけのくに	ポプラ社『ようかいえんそく　<ゲゲゲの鬼太郎おばけのくに⑤>』(1987)
1987/12	ポプラ社	火のたま大がっせん	ゲゲゲの鬼太郎おばけのくに	ポプラ社『火のたま大がっせん　<ゲゲゲの鬼太郎おばけのくに⑥>』(1987)
1988/01	ポプラ社	トイレようかい	ゲゲゲの鬼太郎おばけのくに	ポプラ社『トイレようかい　<ゲゲゲの鬼太郎おばけのくに⑦>』(1987)
1990/11	月刊コミックボンボン	妖怪雷虎の襲撃の巻(雷虎の巻)	鬼太郎国盗り物語	ポプラ社『ミステリーサークルの謎をとけ　<水木しげるのおばけ学校文庫①>』(1996)
1990/12	月刊コミックボンボン	ミステリーサークルの謎をとけの巻(怪エンバンの巻)	鬼太郎国盗り物語	ポプラ社『ミステリーサークルの謎をとけ　<水木しげるのおばけ学校文庫①>』(1996)
1991/01	月刊コミックボンボン	魔人軍団奇襲の巻(妖怪大口の巻)	鬼太郎国盗り物語	ポプラ社『ミステリーサークルの謎をとけ　<水木しげるのおばけ学校文庫①>』(1996)
1991/02	月刊コミックボンボン	奇怪なもぐら人間の巻(おどろ砂の巻)	鬼太郎国盗り物語	ポプラ社『ミステリーサークルの謎をとけ　<水木しげるのおばけ学校文庫①>』(1996)
1991/03	月刊コミックボンボン	ドブねずみ、大王あらわるの巻(旧鼠王の巻・前編)	鬼太郎国盗り物語	ポプラ社『ミステリーサークルの謎をとけ　<水木しげるのおばけ学校文庫①>』(1996)
1991/04	月刊コミックボンボン	鬼太郎がねずみ男になるの巻(旧鼠王の巻・後編)	鬼太郎国盗り物語	ポプラ社『ミステリーサークルの謎をとけ　<水木しげるのおばけ学校文庫①>』(1996)
1991/05	月刊コミックボンボン	吸血花ラグレシアの巻(ラグレシアの巻)	鬼太郎国盗り物語	ポプラ社『謎の車ゴーストカーの正体は!?　<水木しげるのおばけ学校文庫②>』(1996)
1991/06	月刊コミックボンボン	妖怪金霊あらわるの巻(金霊の巻)	鬼太郎国盗り物語	ポプラ社『謎の車ゴーストカーの正体は!?　<水木しげるのおばけ学校文庫②>』(1996)
1991/07	月刊コミックボンボン	埴輪軍団登場の巻(決戦！箱根城の巻・前編)	鬼太郎国盗り物語	ポプラ社『謎の車ゴーストカーの正体は!?　<水木しげるのおばけ学校文庫②>』(1996)
1991/08	月刊コミックボンボン	妖怪城の大攻防戦の巻(決戦！箱根城の巻・後編)	鬼太郎国盗り物語	ポプラ社『謎の車ゴーストカーの正体は!?　<水木しげるのおばけ学校文庫②>』(1996)
1991/09	月刊コミックボンボン	おそろしい八百比丘尼の巻(八百比丘尼の巻)	鬼太郎国盗り物語	ポプラ社『謎の車ゴーストカーの正体は!?　<水木しげるのおばけ学校文庫②>』(1996)
1991/10	月刊コミックボンボン	謎の車ゴーストカーの正体は !? の巻(ゴーストカーの巻)	鬼太郎国盗り物語	ポプラ社『謎の車ゴーストカーの正体は!?　<水木しげるのおばけ学校文庫②>』(1996)
1991/11	月刊コミックボンボン	謎の怪物とロボット鬼太郎の巻(ムーの潜水艦の巻)	鬼太郎国盗り物語	ポプラ社『謎の怪物とロボット鬼太郎　<水木しげるのおばけ学校文庫③>』(1996)
1991/12	月刊コミックボンボン	寄生妖怪人面瘡の巻(人面瘡の巻)	鬼太郎国盗り物語	ポプラ社『謎の怪物とロボット鬼太郎　<水木しげるのおばけ学校文庫③>』(1996)
1992/01	月刊コミックボンボン	ガジュマル精あらわる !? の巻(ガジュマロの精の巻)	鬼太郎国盗り物語	ポプラ社『謎の怪物とロボット鬼太郎　<水木しげるのおばけ学校文庫③>』(1996)
1992/02/01	TVマガジン	浪小僧の巻		1992/02　テレビマガジン
1992/02	月刊コミックボンボン	化猫あらわるの巻(五徳猫の巻)	鬼太郎国盗り物語	ポプラ社『謎の怪物とロボット鬼太郎　<水木しげるのおばけ学校文庫③>』(1996)
1992/03/01	TVマガジン	ゲドガキのバケモンの巻		1992/03　テレビマガジン
1992/03	月刊コミックボンボン	西洋妖怪ゴルゴーンの巻(ゴルゴーンの巻)	鬼太郎国盗り物語	ポプラ社『謎の怪物とロボット鬼太郎　<水木しげるのおばけ学校文庫③>』(1996)
1992/04/01	TVマガジン	火星ちゃんの巻		1992/04　テレビマガジン
1992/05/01	TVマガジン	坊主狸の巻		1992/05　テレビマガジン
1992/05	月刊コミックボンボン	鬼太郎のカンヅメの巻(鬼太郎カンヅメの巻)	鬼太郎国盗り物語	ポプラ社『謎の怪物とロボット鬼太郎　<水木しげるのおばけ学校文庫③>』(1996)
1992/05	ポプラ社	悪魔リューとモグラ軍団の対決の巻	鬼太郎国盗り物語	ポプラ社『鬼太郎と妖怪大相撲　<水木しげるのおばけ学校文庫④>』(1996)
1992/05	ポプラ社	怒りくるう地下マンモスの巻	鬼太郎国盗り物語	ポプラ社『怒りくるう地下マンモス　<水木しげるのおばけ学校文庫⑤>』(1996)
1992/05	ポプラ社	奇怪万年グモ対天空船ゲゲゲ号の巻	鬼太郎国盗り物語	ポプラ社『怒りくるう地下マンモス　<水木しげるのおばけ学校文庫⑤>』(1996)
1992/05	ポプラ社	鬼太郎ムー帝国と対戦前夜の巻	鬼太郎国盗り物語	ポプラ社『怒りくるう地下マンモス　<水木しげるのおばけ学校文庫⑤>』(1996)
1992/05	ポプラ社	鬼太郎ムーの国への巻	鬼太郎国盗り物語	ポプラ社『鬼太郎と妖怪大相撲　<水木しげるのおばけ学校文庫④>』(1996)
1992/05	ポプラ社	古代法をつかう魔道師の巻	鬼太郎国盗り物語	ポプラ社『鬼太郎と妖怪大相撲　<水木しげるのおばけ学校文庫④>』(1996)
1992/05	ポプラ社	さらば鬼太郎の巻	鬼太郎国盗り物語	ポプラ社『怒りくるう地下マンモス　<水木しげるのおばけ学校文庫⑤>』(1996)
1992/05	ポプラ社	ふしぎな妖怪元興寺の巻	鬼太郎国盗り物語	ポプラ社『鬼太郎と妖怪大相撲　<水木しげるのおばけ学校文庫④>』(1996)
1992/05	ポプラ社	幽霊海賊船と妖力船ゲゲゲ号の対決の巻	鬼太郎国盗り物語	ポプラ社『怒りくるう地下マンモス　<水木しげるのおばけ学校文庫⑤>』(1996)
1992/05～06	ポプラ社	鬼太郎と妖怪大相撲の巻	鬼太郎国盗り物語	ポプラ社『鬼太郎と妖怪大相撲　<水木しげるのおばけ学校文庫④>』(1996)
1992/06/01	TVマガジン	かくればばあの巻		1992/06　テレビマガジン
1992/07/01	TVマガジン	大ぐもの巻		1992/07　テレビマガジン
1992/08/01	TVマガジン	あくま虫の巻		1992/08　テレビマガジン
1992/09/01	TVマガジン	ヤマンボの巻		1992/09　テレビマガジン
1992/10/01	TVマガジン	虎男の巻		1992/10　テレビマガジン
1992/11/01	TVマガジン	歯痛殿下の巻		1992/11　テレビマガジン
1992/12/01	TVマガジン	倉ぼっこの巻		1992/12　テレビマガジン
1993/01/01	TVマガジン	めし食いゆうれいの巻		1993/01　テレビマガジン
1993/02/01	TVマガジン	つらら女の巻		1993/02　テレビマガジン
1993/03/01	TVマガジン	なまず神の巻		1993/03　テレビマガジン
1993/04/01	TVマガジン	わらい地蔵の巻		1993/04　テレビマガジン
1993/05/01	TVマガジン	いわな坊主の巻		1993/05　テレビマガジン
1993/06/01	TVマガジン	化けちゃわんの巻		1993/06　テレビマガジン
1993/07/01	TVマガジン	ぼろぶとんの巻		1993/07　テレビマガジン
1993/08/01	TVマガジン	水じいさんの巻		1993/08　テレビマガジン
1993/09/01	TVマガジン	いちもくご先生の巻		1993/09　テレビマガジン
1993/10/01	TVマガジン	ねこおにの巻		1993/10　テレビマガジン
1993/11/01	TVマガジン	そんつるの巻		1993/11　テレビマガジン
1993/12/01	TVマガジン	そんぶおばけの巻		1993/12　テレビマガジン
1994/01/01	TVマガジン	どろんこ足の巻		1994/01　テレビマガジン
1994/02/01	TVマガジン	ノッカーの巻		1994/02　テレビマガジン
1994/03/01	TVマガジン	ばけがえるの巻		1994/03　テレビマガジン
1994/04/01	TVマガジン	はっぱ男の巻		1994/04　テレビマガジン
1994/05/01	TVマガジン	赤ぼうしの巻		1994/05　テレビマガジン
1994/06/01	TVマガジン	つばめ神の巻		1994/06　テレビマガジン
1994/07/01	TVマガジン	スプリガンの巻		1994/07　テレビマガジン
1994/08/01	TVマガジン	天子の巻		1994/08　テレビマガジン
1994/09/01	TVマガジン	ほうき神の巻		1994/09　テレビマガジン
1994/10/01	TVマガジン	こんにゃくゆうれいの巻		1994/10　テレビマガジン
1994/11/01	TVマガジン	土用ぼうずの巻		1994/11　テレビマガジン
1994/12/01	TVマガジン	ゆうれい金魚の巻		1994/12　テレビマガジン
1996/02	ビッグゴールド	鬼太郎霊団　阿倍奉連想		ちくま文庫『京極夏彦が選ぶ！　水木しげるの奇妙な劇画集』(2001)
1997/03/04～03/11	週刊漫画サンデー	セクハラ妖怪いやみ		ちくま文庫『京極夏彦が選ぶ！　水木しげるの奇妙な劇画集』(2001)



アニメ版 ゲゲゲの鬼太郎　完全読本

2006年12月26日　第1刷発行

『1週間』編集部　編

発行者／野間佐和子

発行所／株式会社　講談社

〒112-8001

東京都文京区音羽2-12-21

編集部／03-5395-3474

販売部／03-5395-3604

業務部／03-5395-3603

印刷所／図書印刷株式会社

製本所／株式会社国宝社

編集／田神健一、奥津圭介、中村亜津沙

装丁／荒川晃久(SPRAY)

協力／株式会社　ノックアウト、株式会社　ポニーキャニオン、株式会社　角川エンターテイメント、株式会社　81プロデュース、有限会社　グランパパプロダクション、株式会社　青二プロダクション、株式会社　オフィス野沢、東映アニメーション株式会社、東映株式会社、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、株式会社　ダイナモピクチャーズ、有限会社　ダンディライオン、有限会社　吉プロモーション、社団法人　日本映像ソフト協会、松竹株式会社、株式会社　水木プロダクション、「水木伝説」（順不同）

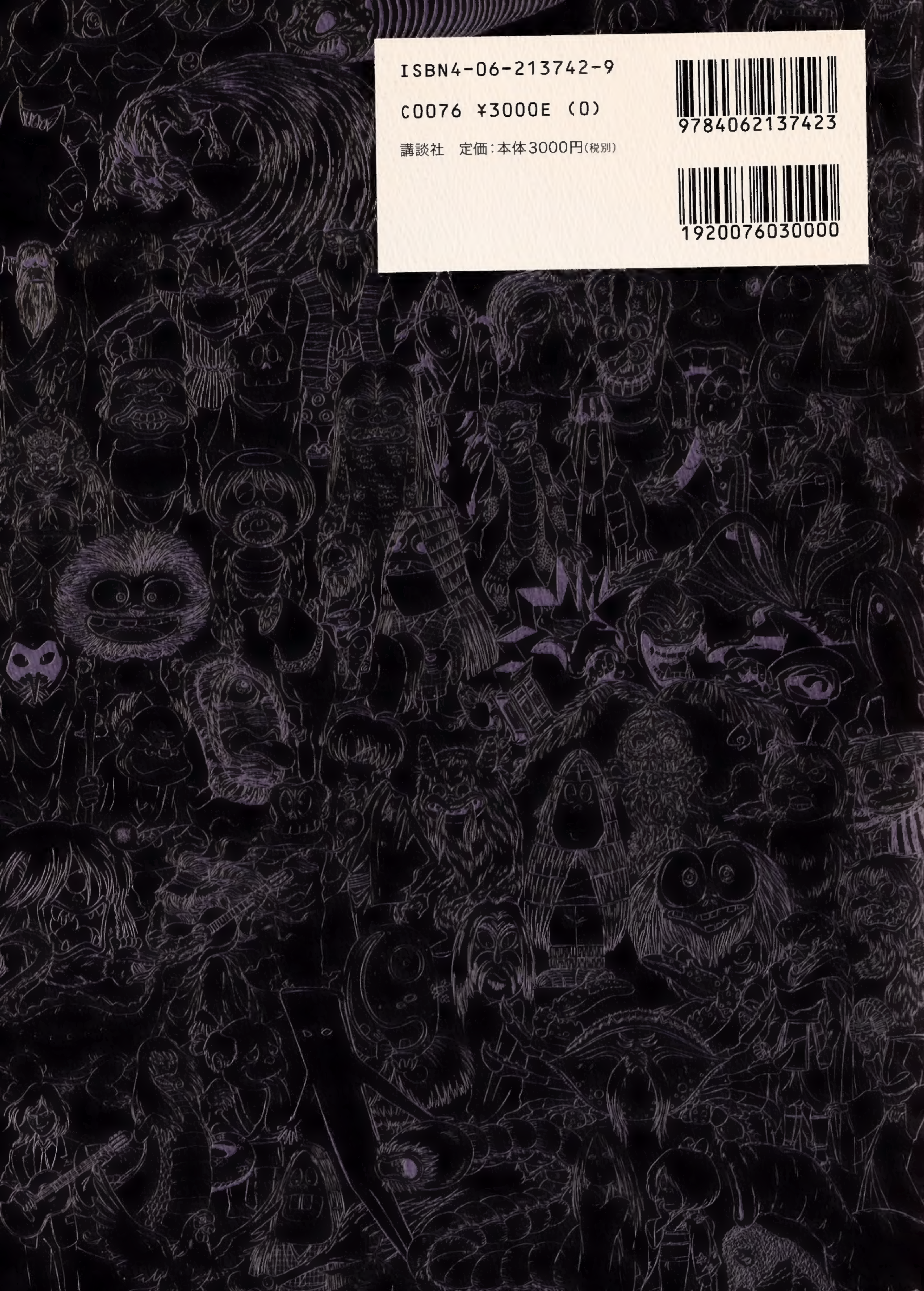
定価はカバーに表示してあります。
落丁本・乱丁本は、購入書店名を明記の上、
小社業務部宛にお送りください。
送料小社負担にてお取り替えいたします。
なお、この本のお問い合わせは『1週間』編集部あてにお願いいたします。

ISBN4-06-213742-9

参考文献

ゲゲゲの鬼太郎　謎全史　JTB、ねずみ男流　生き方のすすめ　オデッセウス出版、悪魔くん世紀末大戦／河童の三吉上下［貸本版］　以上チクマ秀版社、水木しげる猫漫画短編集 妖猫夜話　どうぶつ出版、水木しげるの妖怪の世界　ゲゲゲの鬼太郎妖怪占い　ぶんか社、日本妖怪大辞典／墓場鬼太郎①～④　貸本まんが復刻版／ホラーコミック傑作選　第2集　畏悦録～水木しげるの世界～／水木しげるコレクションI～V／鳥山石燕　画図百鬼夜行全画集／猫楠　南方熊楠の生涯／神秘家列伝　其ノ壱～四／KWAI怪／水木版　妖怪大戦争　以上角川書店、水木しげるロードの妖怪たち　境港市観光協会、テレビマガジン　デラックス69　決定版　ゲゲゲの鬼太郎　超百科／テレビマガジン　グレート百科91　ゲゲゲの鬼太郎　ひみつ大図鑑／テレビマガジン　デラックス74　決定版　ゲゲゲの鬼太郎　妖怪大事典／ゲゲゲの鬼太郎　誕生編／最新版ゲゲゲの鬼太郎①～④／水木しげる不思議な世界①～④／妖怪世界遺産　THE YOUKAI PLANET／総員玉砕せよ!／コミック昭和史（全8巻）／完全版マンガ　水木しげる伝（全3巻）／のんのんばあとオレ／生まれたときから「妖怪」だった／水木しげる幻想怪奇①～④／生まれたときから「妖怪」だった／ゲゲゲの鬼太郎　解体新書／【図説】日本妖怪大全　以上講談社、妖怪博士の朝食①、②／木槌の誘い／東西奇ッ怪紳士録／水木しげる世界の妖怪大百科／水木しげる妖怪大百科／水木しげる鬼太郎大百科／水木しげる妖怪大図解／水木しげる妖怪百物語／百鬼夜行絵巻　妖怪たちが騒ぎだす／鬼太郎と行く　日本ぐるうり妖怪めぐり　以上小学館、水木しげるの日本妖怪紀行　新潮社、復刻版妖奇伝　墓場鬼太郎　青林堂、本日の水木サン　思わず心がゆるむ名言366日　草思社、QJマンガ選書　水木しげる貸本モダンホラー　上下／QJマンガ選書　水木しげる貸本時代ロマン　上下／クイック・ジャパン Vol.15　以上太田出版、水木しげるのノストラダムスの大予言　辰巳出版、妖怪ワンダーランド（全8巻）／ゲゲゲの鬼太郎（全7巻）／吸血妖魅考／水木しげる妖怪まんが集8　鬼太郎夜話（全）／悪魔くん千年王国（全）／劇画　近藤勇　星をつかみそこねた男／京極夏彦が選ぶ!水木しげるの奇妙な劇画集／京極夏彦が選ぶ!水木しげる未収録短編集／水木しげるのラバウル戦記／幽霊艦長　以上筑摩書房、愛蔵版　ゲゲゲの鬼太郎　第4、5巻　中央公論社、悪魔くん（全）／水木しげる短編傑作集（全5巻）／日本奇人伝／水木しげる幻想と怪奇①～⑪／猫又／水木しげる貸本漫画傑作選　墓場鬼太郎①～④／ゲゲゲの鬼太郎　別巻①②　死神大戦記〈上下〉／水木しげる貸本漫画傑作選　悪魔くん（上、下）／その後のゲゲゲの鬼太郎①～③　以上朝日ソノラマ、水木しげる記念館　公式ガイドブック／大水木しげる展　以上朝日新聞社、水木しげる妖怪傑作選①～③／河童の三平（全3巻）　以上嶋中書店、マイコミックス　新世妖怪幻綺譚SF新鬼太郎　東京三世社、水木しげるの続・世界妖怪事典　東京堂出版、木霊論《こだまろん》　白水社、耳なし芳一／東海道　四谷怪談／悪魔くん（全3巻）　以上扶桑社、水木しげる特選怪異譚①～②　文藝春秋、ゲゲゲの鬼太郎妖怪百物語　宝島社





ISBN4-06-213742-9

C0076 ¥3000E (0)

講談社　定価：本体3000円(税別)

9784062137423

1920076030000